

天王・東紺屋谷戸遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その3）報告書

2013.12

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

天王・東紺屋谷戸遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2013.12

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



- ▲ 天王遺跡 B 区 21-22 住居 廊下状遺構をもつ住居
- ▼ 天王遺跡 B 区 3 井戸水源部 中位の石組み





- ▲ 底面に帯状の高まりをもつ天王遺跡C区2粘土採掘坑
- ▼ 天王遺跡C区46住居の陥没した床面



序

上武道路は埼玉県と群馬県を結ぶ高規格道路として計画され、これに伴う発掘調査が群馬県内では昭和49年に開始されました。埼玉県寄りの部分区間が順次開通し、平成24年度には前橋市上細井町までの区間が供用されています。また、平成25年8月には国道17号に合流する最終区間の発掘調査が終了いたしました。

このうち、当事業団では、前橋市上細井町天王遺跡、旧勢多郡富士見村東紺屋谷戸遺跡の、上武道路にかかる区域の発掘調査を、平成20年度に実施しました。

本遺跡では、縄文時代から中近世に至る遺構・遺物を発見しており、この中でも主要な遺構は、古墳時代から平安時代に属します。本遺跡付近では古くから湧水が豊富であり、水田耕作に利用されたことが推定される溜井や、「渡り廊下」のような二つの住居を連結する遺構、他に粘土採掘坑、一定の方向に並ぶ掘立柱建物、住居と重複する地震跡が見つかりました。出土遺物では土器に筆で字を書いた墨書土器や円面硯が出土したほか、比較的例の少ない「山形巡方」と呼ばれる帯飾りが特筆されます。隣接する上町・時沢西紺屋谷戸遺跡にも溜井や掘立柱建物が発見されており、本遺跡付近が水田経営に必須の水を確保する重要な区域であったと推定されます。これらの調査成果から、赤城山南麓における古代開発史の一面を明らかにできたと考えております。

この度、本報告書を刊行するにあたって、発掘調査の着手以来、多くの御指導・御協力をいただいた地元の皆様、国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会及び旧勢多郡富士見村教育委員会の関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、地域史解明の貴重な資料として本書が活用されることを願って序とします。

平成25年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 上原訓幸

例 言

- 1 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、天王・東紺屋谷戸遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書に掲載した天王・東紺屋谷戸(てんのう・ひがしこんやがいと)遺跡は、群馬県前橋市及び旧勢多郡富士見村の次の番地に所在する。

天王遺跡 前橋市上細井町712-1、713、714、715、716、717、718、719-1、739-1、740、741、742-1・2、743、744、745、746、747、749番地

東紺屋谷戸遺跡 前橋市富士見町時沢11、12、13、15-1、25-1・2、26番地

調査対象面積は天王遺跡12,303.02m²(遺跡略称JK66)、東紺屋谷戸遺跡2,370.28m²(遺跡略称JK67)、面積合計14,673.30m²である。

なお、平成21年5月5日付けの市町村合併により、旧勢多郡富士見村時沢は前橋市富士見町時沢になった。
- 3 事業主体 国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改定)
- 5 調査期間 平成20年度 調査期間 平成20年9月1日～平成21年3月31日
履行期間 平成20年4月1日～平成21年3月31日
- 6 調査体制は次のとおりである。

平成20年度 調査担当 関 晴彦(上席専門員) 並木勝洋(主任調査研究員)
中 隆之(専門員(主任)) 大塚智央(調査研究員)

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社 委託 地上測量 株式会社シン技術コンサル
空中写真撮影 技研測量設計株式会社
- 7 整理事業の体制・期間は次のとおりである。

平成24年度 整理期間 平成24年10月1日～平成25年3月31日
整理担当 関 晴彦(上席専門員)

平成25年度 整理期間 平成25年4月1日～平成25年6月30日
整理担当 関 晴彦(専門調査役)
- 8 本書作成の担当は次のとおりである。

編集 関 晴彦(専門調査役) デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)、佐藤元彦(補佐(総括))

執筆 第4章縄文時代遺物観察表 縄文土器 谷藤保彦(上席専門員) 石器・石製品 岩崎泰一(資料統括)
第4章古墳時代以降遺物観察表 徳江秀夫(資料統括) 金属製品 関 邦一(補佐(総括)) ほかは関
遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐(総括))

保存処理・樹種同定 関 邦一(補佐(総括))
- 9 石器・石製品の石材同定は、飯島静男氏(群馬地質研究会会員)にお願いした。成果は遺物観察表に掲載した。
- 10 人骨の鑑定は生物考古学研究所 檜崎修一郎氏に依頼し、第5章第3節に成果を掲載した。
- 11 墨書・刻書土器の判読は、群馬県教育委員会文化財保護課高島英之氏に依頼し、その結果は第6章第2節2の第46表に掲載した。
- 12 出土遺物及び発掘調査に係わる資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 13 発掘調査並びに整理事業にあたり、下記の諸機関、諸氏にご教示、ご協力をいただいた。記して御礼申し上げます。
(敬称略) 国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、旧富士見村教育委員会、前原 豊
檜崎修一郎、高島英之

凡 例

- 1 グリッドの設定、座標値の表記は国家座標第Ⅸ系(世界測地系)を用いた。図中の数値はX座標-Y座標の値を示し、グリッド標記を原則とする。
- 2 遺構断面図、等高線図に表記した数値は標高を示し、単位はmである。方位は座標北である。真北方向角は天王B区15住居の南隅柱穴P5で+0度26分38秒4821である。
- 3 挿図の縮尺及び掲載内容は以下のとおりである。

遺構 1/80、1/40を基本とし、挿図中に縮尺を示した。土層断面図の太線は、生活面(使用面)を表している。
平面図 住居外輪郭の◁▷は出入り口施設と見られ、◁▷は出入口の可能性ありを表している。

遺物 分布図の番号は掲載遺物を表し、遺物観察表・写真図版とも一致する。
接合関係は線で示した。
遺物の選択は遺構の時期を特定できるものを優先した。掲載は1/4を基本とし、小型品は1/2または1/1、大型品は1/8を基本とした。挿図中に縮尺を表記した。
石器に用いた縦位定規線は摩耗範囲を、斜位定規線は線条痕の方向を示す。礫石器は必要に応じ拓本を用いた。
縄文土器の断面にある●は繊維の含有を表す。

古墳～平安時代遺物の年代観は、当事業団神谷佳明、桜岡正信、徳江秀夫の協力を得た。
山形巡方・不明銅製品に関して当事業団大木紳一郎、桜岡正信、関 邦一の助言を得た。
菰編石については、当事業団岩崎泰一の協力を得た。
- 4 遺構図・遺物図とも4章末に一括掲載した。遺物観察表は図の直前に掲載し、遺構番号を優先して掲載している。
- 5 本書で使用した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版標準土色帖』(平成9年版)に準拠した。
- 6 本書で使用した地図は、下記のものを使用した。

第1図 上武道路と遺跡の位置 国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用。
第2図 上武道路8工区の遺跡 国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用。
第4図 旧地形図上の遺跡 明治18年『第一軍管地方迅速測図』に天王・東紺屋谷戸遺跡(上武道路)を加筆(網点は谷地形)。
第7図 近傍の遺跡分布 国土地理院1/25,000地形図「前橋」平成22年発行、「渋川」平成14年発行、「鼻毛石」平成14年発行、「大胡」平成22年発行を使用。
第8図 調査区の設定 国土交通省1/500用地図 平成19年に加筆。
第9図 上武道路調査測量グリッド設定図 国土地理院1/25,000地形図「前橋」「大胡」平成22年発行、「渋川」平成14年発行、「鼻毛石」昭和56年発行を使用。
- 7 テフラの呼称として、次の略語を使用する。

榛名二ツ岳火山灰FA	略称 Hr-FA	推定降下年代 6世紀初頭
榛名二ツ岳軽石FP	略称 Hr-FP	推定降下年代 6世紀後半
浅間A軽石	略称 As-A	1783年(天明3年)
浅間B軽石	略称 As-B	1108年(天仁元年)
浅間C軽石	略称 As-C	推定降下年代 4世紀初頭
- 8 住居の計測値等については「住居一覧表」に、土坑・ピットの計測値等については、各区の土坑・ピット一覧表にそれぞれ掲載した。

目 次

序・例言・凡例

第1章 調査に至る経過	1	第5章 自然科学分析	441
第1節 上武道路について	1	第1節 同定・鑑定の目的	441
第2節 上武道路と埋蔵文化財	3	第2節 出土炭化材の同定	441
第3節 調査に至る経過	4	第3節 東紺屋谷戸遺跡出土火葬人骨	442
第2章 立地と環境	5	第6章 総括	445
第1節 地理的環境	5	第1節 科学分析の成果	445
第2節 歴史的環境	9	第2節 遺物の特徴	445
第3章 調査の方法と経過	13	1 菰編石	445
第1節 調査の方法	13	2 墨書土器・刻書土器	448
第2節 基本土層	16	3 山形巡方	452
第3節 調査の経過	16	4 不明銅製品	454
第4章 検出された遺構と遺物	21	第3節 遺構の特徴	455
第1節 概要	21	1 廊下状遺構をもつ住居	455
1 各区の概要	21	2 溜井	455
2 時代別概要	24	3 粘土採掘坑	461
第2節 天王遺跡A区	25	4 掘立柱建物	467
第3節 天王遺跡B区	33	5 地震跡	469
第4節 天王遺跡C区	57	6 住居分布の変遷	474
第5節 東紺屋谷戸遺跡	109	報告書抄録	
第6節 遺構外出土の遺物	135	写真図版	
住居一覧	137	付図 天王・東紺屋谷戸遺跡全体図 1：400	
土坑・ピット一覧	140		
遺物観察表	154		
遺構図	204		
遺物図	385		

挿 図 目 次

第1図	上武道路と遺跡の位置 国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」 平成18年発行を縮小して使用	1	第43図	天王B区16・17住居	235
第2図	上武道路8工区の遺跡 国土地理院1/50,000地形図「前橋」 平成10年発行を使用	2	第44図	天王B区18住居	236
第3図	天王・東紺屋谷戸遺跡周辺の地質	5	第45図	天王B区19住居、20住居(1)	237
第4図	旧地形図上の遺跡 明治18年「迅速測図」に天王・東紺屋谷戸遺跡 (上武道路)を加筆(網点は谷地形)	6	第46図	天王B区20住居(2)	238
第5図	昭和21年(1946年)米軍による空中写真(コース158-A-5の一部を 拡大)	7	第47図	天王B区21・22住居(1)	239
第6図	天王・東紺屋谷戸遺跡周辺図	8	第48図	天王B区21・22住居(2)	240
第7図	近傍の遺跡分布 国土地理院1/25,000地形図「前橋」平成22年発 行、「渋川」平成14年発行、「鼻毛石」平成14年発行、「大胡」平成22 年発行を使用	9	第49図	天王B区21・22住居(3)	241
第8図	調査区の設定 国土交通省1/500丈量図 平成19年に加筆、 遺跡の座標値	14	第50図	天王B区23住居	242
第9図	上武道路調査測量グリッド設定図 国土地理院1/25,000地形図 「前橋」「大胡」平成22年発行、「渋川」平成14年発行、「鼻毛石」 昭和56年発行を使用	15	第51図	天王B区26・27住居、1 竪穴	243
第10図	基本土層図 天王B区南壁、東紺屋谷戸23住居・2粘土採掘坑・ 10粘土採掘坑	17	第52図	天王B区1 掘立柱建物(1)	244
第11図	天王A・B・C区、東紺屋谷戸遺跡の主な遺構の分布図	22	第53図	天王B区1 掘立柱建物(2)	245
第12図	天王A区全体図	204	第54図	天王B区1 井戸(溜井)(1)	246
第13図	天王A区1住居(1)	205	第55図	天王B区1 井戸(溜井)(2)	247
第14図	天王A区1住居(2)	206	第56図	天王B区1～3井戸および流路の位置、2井戸	248
第15図	天王A区2住居	207	第57図	天王B区3井戸(溜井)(1)、83土坑	249
第16図	天王A区3・4住居	208	第58図	天王B区3井戸(溜井)(2)、84・87土坑	250
第17図	天王A区5・6住居	209	第59図	天王B区3井戸(溜井)(3)	251
第18図	天王A区7・8住居	210	第60図	天王B区3井戸(溜井)(4)、84・87土坑	252
第19図	天王A区9住居	211	第61図	天王B区3井戸(溜井)(5)	253
第20図	天王A区1溝(溜井)	212	第62図	天王B区3溝	254
第21図	天王A区2溝、1～4土坑	213	第63図	天王B区土坑・ピット(1)	255
第22図	天王A区1・2道路	214	第64図	天王B区土坑・ピット(2)	256
第23図	天王A区旧河道	215	第65図	天王B区土坑・ピット(3)	257
第24図	天王A区旧地形確認トレンチ	216	第66図	天王B区土坑・ピット(4)	258
第25図	天王A区旧石器確認トレンチ1～4	217	第67図	天王B区土坑・ピット(5)	259
第26図	天王A区旧石器確認トレンチ5～7	218	第68図	天王B区土坑・ピット(6)	260
第27図	天王B区全体図	219	第69図	天王B区土坑・ピット(7)	261
第28図	天王B区北壁・南壁	220	第70図	天王B区土坑・ピット(8)	262
第29図	天王B区1・2・24住居、79土坑(1)	221	第71図	天王B区地形確認トレンチ(1)	263
第30図	天王B区1・2・24住居、79土坑(2)、3住居	222	第72図	天王B区地形確認トレンチ(2)	264
第31図	天王B区4住居	223	第73図	天王B区旧石器確認トレンチ(1)	265
第32図	天王B区5住居	224	第74図	天王B区旧石器確認トレンチ(2)	266
第33図	天王B区6住居	225	第75図	天王C区全体図	267
第34図	天王B区7住居	226	第76図	天王C区1住居	268
第35図	天王B区8住居	227	第77図	天王C区2住居	269
第36図	天王B区9住居	228	第78図	天王C区3住居	270
第37図	天王B区10住居	229	第79図	天王C区5住居	271
第38図	天王B区11住居	230	第80図	天王C区6住居(1)	272
第39図	天王B区12住居	231	第81図	天王C区6住居(2)	273
第40図	天王B区13住居	232	第82図	天王C区7住居	274
第41図	天王B区14住居	233	第83図	天王C区8住居(1)	275
第42図	天王B区15住居	234	第84図	天王C区8住居(2)	276
			第85図	天王C区9住居、10住居(1)	277
			第86図	天王C区10住居(2)	278
			第87図	天王C区11住居	279
			第88図	天王C区12・13住居	280
			第89図	天王C区14住居	281
			第90図	天王C区15住居	282
			第91図	天王C区16住居、17住居(1)	283
			第92図	天王C区17住居(2)	284
			第93図	天王C区18・20住居	285
			第94図	天王C区19住居(1)	286

第95図	天王C区19住居(2)	287	第149図	東紺屋全体図	341
第96図	天王C区26住居	288	第150図	東紺屋1住居、3掘立柱建物1住P1	342
第97図	天王C区27住居	289	第151図	東紺屋3住居	343
第98図	天王C区28住居	290	第152図	東紺屋4・5住居(1)	344
第99図	天王C区29住居	291	第153図	東紺屋4・5住居(2)	345
第100図	天王C区30住居	292	第154図	東紺屋6・8・9a・9b・9c・10・11・15住居土層断面(1)、 31A・B・C土坑	346
第101図	天王C区31住居、32住居(1)	293	第155図	東紺屋6・8・9a・9b・9c・10・11・15住居土層断面(2)、 9a住居	347
第102図	天王C区32住居(2)	294	第156図	東紺屋6住居	348
第103図	天王C区32住居(3)	295	第157図	東紺屋7住居、8住居(1)	349
第104図	天王C区33住居	296	第158図	東紺屋8住居(2)	350
第105図	天王C区34住居(1)	297	第159図	東紺屋9b住居	351
第106図	天王C区34住居(2)	298	第160図	東紺屋9c住居	352
第107図	天王C区35住居(1)	299	第161図	東紺屋10住居	353
第108図	天王C区35住居(2)	300	第162図	東紺屋11住居(1)	354
第109図	天王C区36住居	301	第163図	東紺屋11住居(2)、12住居(1)	355
第110図	天王C区37住居	302	第164図	東紺屋12住居(2)	356
第111図	天王C区38住居	303	第165図	東紺屋15住居	357
第112図	天王C区39・46住居(1)	304	第166図	東紺屋17住居、19住居(1)	358
第113図	天王C区39・46住居(2)	305	第167図	東紺屋19住居(2)	359
第114図	天王C区40住居	306	第168図	東紺屋23住居	360
第115図	天王C区41住居	307	第169図	東紺屋1掘立柱建物	361
第116図	天王C区42住居	308	第170図	東紺屋2掘立柱建物(1)	362
第117図	天王C区43・45住居	309	第171図	東紺屋2掘立柱建物(2)、3掘立柱建物	363
第118図	天王C区48住居・6粘土採掘坑(1)	310	第172図	東紺屋4掘立柱建物、5掘立柱建物(1)	364
第119図	天王C区48住居・6粘土採掘坑(2)、49住居	311	第173図	東紺屋5掘立柱建物(2)	365
第120図	天王C区1掘立柱建物、51P	312	第174図	東紺屋6掘立柱建物	366
第121図	天王C区2掘立柱建物、3掘立柱建物(1)、20土坑	313	第175図	東紺屋7掘立柱建物、8掘立柱建物(1)	367
第122図	天王C区3掘立柱建物(2)、253P	314	第176図	東紺屋8掘立柱建物(2)、9掘立柱建物	368
第123図	天王C区4掘立柱建物、5掘立柱建物(1)	315	第177図	東紺屋10掘立柱建物	369
第124図	天王C区5掘立柱建物(2)	316	第178図	東紺屋11掘立柱建物	370
第125図	天王C区6掘立柱建物(1)、353・354P	317	第179図	東紺屋12掘立柱建物、13掘立柱建物(1)	371
第126図	天王C区6掘立柱建物(2)、7掘立柱建物(1)、 350・554・555P	318	第180図	東紺屋13掘立柱建物(2)、1柵	372
第127図	天王C区7掘立柱建物(2)、350・554・555P	319	第181図	東紺屋1・2井戸、1火葬跡	373
第128図	天王C区8掘立柱建物	320	第182図	東紺屋1・2粘土採掘坑	374
第129図	天王C区9掘立柱建物(1)	321	第183図	東紺屋3～6粘土採掘坑	375
第130図	天王C区9掘立柱建物(2)、10掘立柱建物(1)	322	第184図	東紺屋7～9粘土採掘坑	376
第131図	天王C区10掘立柱建物(2)	323	第185図	東紺屋10粘土採掘坑	377
第132図	天王C区10掘立柱建物(3)、11掘立柱建物・1柵(1)	324	第186図	東紺屋11・12粘土採掘坑	378
第133図	天王C区11掘立柱建物・1柵(2)、2柵	325	第187図	東紺屋1溝、1道路	379
第134図	天王C区13掘立柱建物	326	第188図	東紺屋2・4～8・10～12・21土坑	380
第135図	天王C区1井戸(1)	327	第189図	東紺屋13～17・20・22・23土坑	381
第136図	天王C区1井戸(2)、2井戸	328	第190図	東紺屋24～30・32～36土坑	382
第137図	天王C区1・2粘土採掘坑	329	第191図	東紺屋112～130ピット	383
第138図	天王C区3・4粘土採掘坑	330	第192図	東紺屋131～140・189・192・193ピット	384
第139図	天王C区5・7粘土採掘坑	331	第193図	天王A区1・2・4～7住居出土遺物	385
第140図	天王C区1～7溝	332	第194図	天王A区7～9住居 B区1・2住居出土遺物	386
第141図	天王C区8～10・15・17溝	333	第195図	天王B区3～6住居出土遺物	387
第142図	天王C区11～14・16溝	334	第196図	天王B区7～9住居出土遺物	388
第143図	天王C区1～11土坑	335	第197図	天王B区9～13住居出土遺物	389
第144図	天王C区12～19・21～29土坑、4P	336	第198図	天王B区13～15住居出土遺物	390
第145図	天王C区30～36・38・40土坑	337	第199図	天王B区16・18～21住居出土遺物	391
第146図	天王C区ピット(43P-549P)	338	第200図	天王B区22・23住居出土遺物	392
第147図	天王C区1道路	339	第201図	天王B区23・27住居、1井戸出土遺物	393
第148図	天王C区・東紺屋谷戸遺跡 旧石器確認トレンチ	340			

第202図	天王B区1井戸出土遺物	394	第239図	東紺屋9・11・10・11住居出土遺物	431
第203図	天王B区1～3井戸出土遺物	395	第240図	東紺屋12・15住居出土遺物	432
第204図	天王B区3井戸出土遺物	396	第241図	東紺屋19・23住居、1・2・5・9掘立柱建物	433
第205図	天王B区3井戸出土遺物	397	第242図	東紺屋11・13掘立柱建物、1・2井戸、 1粘土採掘坑出土遺物	434
第206図	天王B区3井戸出土遺物	398	第243図	東紺屋2～4・6・9・10・12粘土採掘坑	435
第207図	天王B区3井戸、3・4溝、40土坑、 C区1住居出土遺物	399	第244図	東紺屋10・17・20・30・31A土坑、189ピット出土遺物、 東紺屋遺構外石器、天王遺構外石器	436
第208図	天王C区1～3・5住居出土遺物	400	第245図	天王遺構外石器・縄文土器	437
第209図	天王C区6住居出土遺物	401	第246図	天王遺構外縄文土器 東紺屋遺構外縄文土器、 天王A・B・C区遺構外出土遺物	438
第210図	天王C区6・7住居出土遺物	402	第247図	天王C区遺構外出土遺物	439
第211図	天王C区8・9住居出土遺物	403	第248図	天王C区遺構外出土遺物、東紺屋遺構外出土遺物、 天王遺構外金属	440
第212図	天王C区10・11住居出土遺物	404	第249図	東紺屋谷戸遺跡の1火葬跡	441
第213図	天王C区12～14住居出土遺物	405	第250図	東紺屋谷戸遺跡1火葬跡全景	442
第214図	天王C区14～17住居出土遺物	406	第251図	東紺屋谷戸遺跡1火葬跡平面図	442
第215図	天王C区17～19住居出土遺物	407	第252図	東紺屋谷戸遺跡1火葬跡出土人骨(右側頭骨)	443
第216図	天王C区19住居出土遺物	408	第253図	東紺屋谷戸遺跡1火葬跡出土人骨出土部位図	443
第217図	天王C区19住居出土遺物	409	第254図	菰編石長幅比と石材の数量グラフ	447
第218図	天王C区20・21・26・27住居出土遺物	410	第255図	墨書土器・刻書土器の出土地点	448
第219図	天王C区28～31住居出土遺物	411	第256図	スタンブ土器、刻書土器、墨書土器(1)	450
第220図	天王C区31・32住居出土遺物	412	第257図	墨書土器(2)	451
第221図	天王C区32～35住居出土遺物	413	第258図	墨書土器(3)	452
第222図	天王C区35・36住居出土遺物	414	第259図	山形巡方の出土状態	453
第223図	天王C区36～39住居出土遺物	415	第260図	不明銅製品の出土状態	454
第224図	天王C区39・40住居出土遺物	416	第261図	天王B区21-22住居 廊下状遺構	456
第225図	天王C区41～43・45・46住居出土遺物	417	第262図	廊下状遺構をもつ住居例	457
第226図	天王C区46住居出土遺物	418	第263図	天王遺跡の溜井	458
第227図	天王C区46住居出土遺物	419	第264図	近傍遺跡の溜井と水田	459
第228図	天王C区46・48・49住居、11掘立柱建物、 1・2井戸出土遺物	420	第265図	天王・東紺屋谷戸遺跡の粘土採掘坑	462
第229図	天王C区2粘土採掘坑出土遺物	421	第266図	近傍の遺跡の粘土採掘坑 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	463
第230図	天王C区3～6粘土採掘坑出土遺物	422	第267図	近傍の遺跡の粘土採掘坑 東田之口遺跡	464
第231図	天王C区6・7粘土採掘坑、1～3・5・8a溝出土遺物	423	第268図	大規模な粘土採掘坑	465
第232図	天王C区9a～9c・10a・11・12溝、12・19・21・22・28～30・ 33・36土坑、ピット出土遺物	424	第269図	掘立柱建物の方位	467
第233図	天王C区ピット出土遺物	425	第270図	掘立柱建物の位置	468
第234図	天王C区ピット出土遺物	426	第271図	天王遺跡の地震跡(1)	470
第235図	東紺屋1・3住居出土遺物	427	第272図	天王遺跡の地震跡(2)	471
第236図	東紺屋4～6住居出土遺物	428	第273図	天王遺跡の地震跡(3)	472
第237図	東紺屋7・8・9a～9c住居出土遺物	429	第274図	天王・東紺屋谷戸遺跡住居等分布の変遷	475
第238図	東紺屋9c・9・11住居出土遺物	430			

表 目 次

第1表	上武道路8工区調査遺跡一覧表	2	第25表	天王C区1 柵列計測表	325
第2表	近傍の遺跡一覧表	10	第26表	天王C区2 柵列計測表	325
第3表	天王・東紺屋出土遺構数量表	23	第27表	天王C区13掘立柱建物計測表	326
第4表	天王・東紺屋出土遺物数量表	24	第28表	天王C区粘土採掘坑計測表	331
第5表	天王・東紺屋住居一覧表	137	第29表	天王C区土坑計測表	337
第6表	天王B区土坑計測表	140	第30表	東紺屋1 掘立柱建物計測表	361
第7表	天王B区ピット計測表	141	第31表	東紺屋2 掘立柱建物計測表	363
第8表	天王C区ピット計測表	142	第32表	東紺屋3 掘立柱建物計測表	363
第9表	東紺屋土坑計測表	152	第33表	東紺屋4 掘立柱建物計測表	364
第10表	東紺屋ピット計測表	152	第34表	東紺屋5 掘立柱建物計測表	365
第11表	天王・東紺屋谷戸遺跡遺物観察表	154	第35表	東紺屋6 掘立柱建物計測表	366
第12表	天王B区1 掘立柱建物計測表	245	第36表	東紺屋7 掘立柱建物計測表	367
第13表	天王B区2 井戸周辺の土坑・ピット(北から時計廻り)	248	第37表	東紺屋8 掘立柱建物計測表	368
第14表	天王C区1 掘立柱建物計測表	312	第38表	東紺屋9 掘立柱建物計測表	368
第15表	天王C区2 掘立柱建物計測表	313	第39表	東紺屋10掘立柱建物計測表	369
第16表	天王C区3 掘立柱建物計測表	313	第40表	東紺屋11掘立柱建物計測表	370
第17表	天王C区4 掘立柱建物計測表	315	第41表	東紺屋12掘立柱建物計測表	371
第18表	天王C区5 掘立柱建物計測表	315	第42表	東紺屋13掘立柱建物計測表	372
第19表	天王C区6 掘立柱建物計測表	318	第43表	東紺屋1 柵列計測表	372
第20表	天王C区7 掘立柱建物計測表	319	第44表	東紺屋粘土採掘坑計測表	378
第21表	天王C区8 掘立柱建物計測表	320	第45表	天王・東紺屋谷戸遺跡 菰編石の計測値・石材の一覧表	445
第22表	天王C区9 掘立柱建物計測表	322	第46表	天王・東紺屋谷戸遺跡 墨書土器・刻書土器一覧表	449
第23表	天王C区10掘立柱建物計測表	322	第47表	天王・東紺屋谷戸遺跡 地震跡関連遺構	473
第24表	天王C区11掘立柱建物計測表	325	第48表	古代群馬の地震跡2	474

写 真 目 次

(天王遺跡は『天王』、東紺屋谷戸遺跡は『東紺屋』と略記する)

PL. 1	天王A区全景 北西から 天王A区全景 西から	A区5住居カマド周辺遺物出土状態 西から A区5住居カマド全景 西から A区5住居掘り方全景 西から A区6住居全景 西から A区6住居掘り方全景 西から	
PL. 2	天王A区全景 北から 天王A区全景 北西から	A区7・8住居全景 北から	
PL. 3	A区1住居全景 西から A区1住居カマド周辺遺物出土状態 西から A区1住居出土遺物 甕(A3) 西から A区1住居掘り方全景 西から A区1住居カマド掘り方全景 西から A区2住居全景 西から A区2住居カマド周辺遺物出土状態 西から A区2住居カマド全景 西から	A区7住居床面全景 北から	
PL. 4	A区2住居掘り方全景 西から A区2住居掘り方全景 地割れ 南から A区2住居北壁中央掘り方 地割れ 南から A区3住居全景 西から A区3住居掘り方全景 西から A区4住居全景 西から A区4住居カマド全景 西から A区4住居掘り方全景 西から	PL. 6	A区7住居カマド周辺遺物出土状態 東から A区7住居遺物出土状態 東から A区7住居カマド遺物出土状態 南から A区7住居全景 南から A区7住居カマド全景 南から A区7住居北東部遺物出土状態 東から A区7住居掘り方全景 南から A区8住居全景 西から
PL. 5	A区5住居全景 西から	PL. 7	A区8住居西壁出土遺物(A22) 西から A区8住居カマド全景 西から A区8住居掘り方全景 西から A区9住居全景 西から A区9住居カマド全景 西から A区9住居出土遺物 土師器甕(A27) 西から A区9住居北東部遺物出土状態 西から A区9住居床面全景 西から

- PL. 8 A区9住居カマド床面全景 西から
A区9住居掘り方全景 西から
A区9住居掘り方P5 西から
A区1溝東半部 南から
A区1溝東半部 東から
- PL. 9 A区1溝全景 北東から
- PL. 10 A区1溝南壁土層断面a-b 北から
A区1溝遺物出土状態 北から
A区2溝北半部全景 南から
A区2溝南半部全景 北から
A区2溝南端部 北から
- PL. 11 A区旧河道全景 西から
A区旧河道北半部 西から
A区旧河道土層断面d-e 北から
A区旧河道東壁土層断面b-c 西から
A区旧河道東壁土層断面b-c中央部 西から
A区1土坑遺物出土状態 北から
A区1土坑出土遺物 北から
A区1土坑全景 北から
- PL. 12 A区1道路、1土坑 西から
A区1道路全景 北から
A区2道路全景 北西から
A区旧石器確認1トレンチ土層断面 西から
A区旧石器確認2トレンチ土層断面 西から
A区旧石器確認3トレンチ土層断面 西から
A区旧石器確認4トレンチ土層断面 西から
A区旧石器確認5トレンチ土層断面 南から
- PL. 13 A区旧石器確認6トレンチ土層断面 南から
A区旧石器確認6トレンチ土層断面 西から
A区旧石器確認7トレンチ土層断面 西から
A区旧石器確認7トレンチ土層断面 南から
A区地形確認1トレンチ土層断面 北から
A区地形確認2トレンチ土層断面 南から
A区地形確認3トレンチ土層断面 南から
A区地形確認4トレンチ土層断面 西から
- PL. 14 天王B区全景 南西から
天王B区中央部全景 南西から
- PL. 15 天王B区中央部全景 北西から
天王B区全景 西から
- PL. 16 天王B区西端部全景 西から
天王B区東端部全景 北西から
- PL. 17 B区1・2・24住居遺物出土状態 西から
B区1住居遺物出土状態 西から
B区2・24住居遺物出土状態 北西から
B区1・2・24住居床面全景 西から
B区1住居カマド周辺遺物出土状態 西から
B区1住居カマド全景 西から
B区1住居カマド掘り方全景 西から
B区東端部、1・2・24住居 西から
- PL. 18 B区1・2・24住居掘り方全景 北西から
B区2住居掘り方全景 南から
B区3住居遺物出土状態 西から
B区3住居カマド全景 西から
B区3住居カマド出土遺物 羽釜(B12) 西から
B区3住居土層断面c-d 北から
- B区3住居床面全景 西から
B区3住居カマド周辺トレンチ 西から
- PL. 19 B区3住居掘り方土層断面a-b 西から
B区3住居掘り方全景 西から
B区4住居床面全景 西から
B区4住居カマド全景 西から
B区4住居掘り方全景 西から
B区5住居遺物出土状態 西から
B区5住居南西隅遺物出土状態 西から
B区5住居カマド土層断面g-h 西から
- PL. 20 B区5住居カマド出土遺物 須恵器盤(B21) 西から
B区5住居床面全景 西から
B区5住居掘り方全景 南から
B区6住居遺物出土状態 西から
B区6住居カマド全景 西から
B区6住居カマド 北から
B区6住居カマド周辺遺物出土状態 西から
B区6住居東壁遺物出土状態 西から
- PL. 21 B区6住居床面全景 西から
B区6住居掘り方全景 北から
B区7住居遺物出土状態 西から
B区7住居カマド周辺遺物出土状態 西から
B区7住居床面全景 西から
B区7住居P4粘土層断面q-r 東から
B区7住居南西部P4全景 東から
B区7住居P4土層断面q-r 東から
- PL. 22 B区7住居P4 北から
B区7住居P4土層断面q-r北半部 東から
B区7住居P4全景 南から
B区7住居南西部 北から
B区7住居P4掘り方土層断面南半部 東から
B区7住居P4掘り方全景 東から
B区7住居P4掘り方 西から
- PL. 23 B区7住居P4粘土出土状態 南から
B区7住居カマド掘り方全景 西から
B区7住居南西部噴砂 東から
B区7住居北西部噴砂 東から
B区7住居掘り方全景 西から
B区8住居床面全景 西から
B区8住居掘り方全景 西から
B区9住居遺物出土状態 西から
- PL. 24 B区9住居カマド遺物出土状態 西から
B区9住居南壁遺物出土状態 西から
B区9住居床面全景 西から
B区9住居掘り方全景 西から
B区10住居遺物出土状態 西から
B区10住居カマド遺物出土状態 西から
B区10住居北半部遺物出土状態 西から
B区10住居南西部遺物出土状態 西から
- PL. 25 B区10住居床面全景 西から
B区10住居南東部粘土 西から
B区10住居南半部粘土 南から
B区10住居粘土出土状態 西から
B区10住居土層断面m-n 南から
B区10住居P4・5全景 西から

- B区10・27住居掘り方全景 西から
 B区11住居遺物出土状態 西から
 PL.26 B区11住居カマド遺物出土状態 西から
 B区11住居北東部遺物出土状態 西から
 B区11・27住居南西部遺物出土状態 西から
 B区11住居床面全景 西から
 B区11・27住居掘り方全景 西から
 B区12住居遺物出土状態 西から
 B区12住居カマド遺物出土状態 西から
 B区12住居北東部遺物出土状態 西から
 PL.27 B区12住居南西部遺物出土状態 西から
 B区12住居カマド遺物出土状態 西から
 B区12住居P1遺物出土状態 西から
 B区12住居床面全景 西から
 B区12住居掘り方全景 西から
 B区13住居遺物出土状態 西から
 B区13住居カマド遺物出土状態 西から
 B区13住居床面全景 西から
 PL.28 B区13住居掘り方全景 西から
 B区14住居カマド全景 西から
 B区14住居床面全景 西から
 B区14住居掘り方全景 西から
 B区15住居遺物出土状態 西から
 B区15住居北東部遺物出土状態 西から
 B区15住居南西部遺物出土状態 西から
 B区15住居北西部遺物出土状態 西から
 PL.29 B区15住居カマド周辺遺物出土状態 西から
 B区15住居カマド全景 西から
 B区15住居掘り方全景 西から
 B区15住居カマド掘り方全景 西から
 B区16住居遺物出土状態 西から
 B区16住居出土遺物 土師器杯(B100) 西から
 B区16住居掘り方全景 西から
 B区17住居遺物出土状態 西から
 PL.30 B区17住居カマド全景 西から
 B区17住居床面全景 西から
 B区18住居遺物出土状態 西から
 B区18住居北東部遺物出土状態 西から
 B区18住居東半部遺物出土状態 西から
 B区18住居カマド全景 西から
 B区18住居床面全景 西から
 B区18住居掘り方全景 西から
 PL.31 B区19住居床面全景 西から
 B区19住居掘り方全景 西から
 B区20住居遺物出土状態 西から
 B区20住居カマド全景 西から
 B区20住居北東部遺物出土状態 西から
 B区20住居南東部遺物出土状態 西から
 B区20住居遺物出土状態
 B区20住居出土遺物 須恵器杯(B115) 西から
 PL.32 B区20住居床面全景 西から
 B区20住居掘り方全景 西から
 B区20・21・22住居全景 南西から
 B区21・22住居全景 南東から
 B区21・22住居連結部周辺全景 南西から
- B区21・22住居連結部周辺全景 南から
 B区21・22住居掘り方全景 南東から
 B区21・22住居連結部掘り方全景 北東から
 PL.33 B区21住居遺物出土状態 南東から
 B区21住居カマド全景 南東から
 B区22住居遺物出土状態 南東から
 B区22住居カマド全景 南東から
 B区22住居・連結部・耕作痕全景 南東から
 B区22住居北東部遺物出土状態 南から
 B区22住居・連結部周辺全景 南東から
 B区22住居出土遺物 円筒埴輪胴部(B137)
 PL.34 B区22住居出土遺物 円筒埴輪口縁部(B134)
 B区22住居掘り方全景 南東から
 B区22住居掘り方P8粘土 南から
 B区22住居カマド掘り方全景 南から
 B区23住居床面全景 西から
 B区23住居遺物出土状態 西から
 B区23住居西壁遺物出土状態 西から
 B区23住居カマド全景 西から
 PL.35 B区23住居出土遺物 須恵器杯(B141)
 B区23住居掘り方全景 西から
 B区23住居カマド掘り方全景 西から
 B区23住居掘り方北東部遺物出土状態 西から
 B区23住居掘り方P5遺物出土状態 西から
 B区23住居カマド掘り方土層断面m-n 南から
 B区26住居遺物出土状態 西から
 B区26住居床面全景 西から
 PL.36 B区1掘立柱建物周辺全景 南西から
 B区1掘立柱建物全景 南西から
 B区1井戸土層断面a-b西半部 南から
 B区1井戸土層断面a-b東半部 南から
 B区1井戸水源部下位 北東から
 PL.37 B区1井戸水源部下位 西から
 B区1井戸遺物出土状態 北東から
 B区1井戸流路部2遺物出土状態 北から
 B区1井戸流路部・2トレンチ 北から
 B区1井戸流路部遺物出土状態 北から
 B区1井戸流路部遺物出土状態
 B区1井戸流路部出土遺物 須恵器蓋(B192)
 PL.38 B区1井戸流路部1・2全景 北から
 B区1井戸流路部1・2全景 南から
 PL.39 B区1・3井戸流路部南壁周辺全景 南から
 B区2井戸周辺ピット・土坑全景 北東から
 B区2井戸周辺ピット・土坑全景 北から
 B区2井戸全景 東から
 B区2井戸全景 西から
 PL.40 B区3井戸・流路部全景 北から
 PL.41 B区3井戸調査風景1 北から
 B区3井戸調査風景2 北から
 B区3井戸調査風景3 北から
 B区3井戸調査風景4 南から
 B区3井戸調査風景5 北から
 B区西側谷・3井戸流路部1 西から
 B区西側谷・3井戸流路部2 北から

- B区西側谷・3井戸流路部3 北から
- PL.42 B区3井戸水源部地割れ1 南から
B区3井戸水源部地割れ2 南から
B区3井戸水源部地割れ3 南から
B区3井戸水源部地割れ4 南から
B区3井戸水源部地割れ5 北から
B区3井戸水源部地割れ6 北から
B区3井戸水源部地割れ7 北から
B区3井戸水源部地割れ8 北から
- PL.43 B区3井戸水源部東岸地割れ土層断面e-f 南から
B区3井戸水源部東岸地割れ土層断面c-d 南から
B区3井戸水源部全景 北から
B区3井戸水源部全景 東から
B区3井戸水源部土層断面k-1 南から
B区3井戸水源部上位土層断面k-1 南から
B区3井戸水源部上位石積全景 南から
- PL.44 B区3井戸水源部上位石積 南東から
B区3井戸水源部上位石積 東から
B区3井戸水源部上位石積 北から
B区3井戸水源部上位石積 西から
B区3井戸水源部上位石積 南から
B区3井戸水源部中位石積全景 南から
B区3井戸流路部全景 北から
B区3井戸流路部全景 南から
- PL.45 B区3井戸水源部中位石積 西から
B区3井戸水源部中位石積 東から
B区3井戸水源部中位石積 南から
B区3井戸北端部中位石積 西から
B区3井戸北端部中位石積 北から
B区3井戸水源部下位全景 南から
B区3井戸水源部下位全景 北から
B区3井戸北端部下位石積 南から
B区3井戸北端部下位石積 西から
B区3井戸北端部下位石積 北から
B区3井戸北端部下位石積 東から
B区3井戸水源部下位全景 北から
B区3井戸水源部下位全景 南から
B区3井戸水源部下位石積 西から
B区3井戸水源部下位石積 北から
B区3井戸北端部下位石積 南から
- PL.47 B区3井戸水源部掘り方全景 北から
B区3井戸水源部掘り方全景 南から
B区3井戸北半部全景 南から
B区3井戸流路部周辺全景1 北東から
B区3井戸流路部周辺全景2 北東から
- PL.48 B区3井戸1確認トレンチ土層断面2c-2d西半部 北から
B区3井戸1確認トレンチ土層断面2c-2d東半部 北から
B区3溝全景 西から
B区3溝全景 東から
B区12土坑全景 東から
B区4溝(1井戸流路部2)全景 北から
B区40土坑全景 東から
- PL.49 B区41土坑全景 南から
B区42土坑全景 東から
B区56土坑全景 東から
- B区83土坑(3井戸水源部) 東から
B区83土坑(3井戸水源部)遺物出土状態1
B区83土坑(3井戸水源部)遺物出土状態2
B区西端部道路跡(C区1道路)全景 北から
- PL.50 B区地形確認1トレンチ 西から
B区地形確認2トレンチ 西から
B区地形確認3トレンチ 南西から
B区地形確認4トレンチ 西から
B区地形確認5トレンチ 北西から
B区地形確認6トレンチ 南西から
B区地形確認8トレンチ 東から
B区地形確認9トレンチ 南西から
- PL.51 B区地形確認10トレンチ 南西から
B区旧石器1トレンチ全景 北から
B区旧石器2トレンチ土層断面a-b 北から
B区旧石器3トレンチ土層断面a-b 北から
B区旧石器4トレンチ土層断面a-b 北から
B区旧石器4トレンチ土層断面b-c 東から
B区旧石器4トレンチ遺物出土状態 北から
B区旧石器5トレンチ全景 北から
- PL.52 B区旧石器5トレンチ調査風景 南から
B区旧石器5トレンチ遺物出土状態 北から
B区旧石器5トレンチ遺物出土状態 南から
B区旧石器5トレンチ遺物出土状態 北から
B区旧石器5トレンチ遺物出土状態 東から
B区旧石器5トレンチ遺物出土状態 西から
B区旧石器6トレンチ全景 北から
B区旧石器6トレンチ土層断面a-b-c 北から
- PL.53 天王C区全景 東上空から
天王C区西半部全景 南東上空から
- PL.54 天王C区中央部全景 南上空から
天王C区中央部全景 南東上空から
- PL.55 天王C区東半部全景 南東上空から
C区1住居遺物出土状態 西から
C区1住居カマド遺物出土状態 西から
C区1住居南東部遺物出土状態 西から
C区1住居カマド全景 西から
- PL.56 C区1住居P8内出土遺物 須恵器杯(C6) 西から
C区1住居床面全景 西から
C区1住居掘り方全景 西から
C区2住居遺物出土状態 西から
C区2住居カマド全景 西から
C区2住居西側遺物出土状態 西から
C区2住居床面全景 西から
C区2住居南側土坑 西から
- PL.57 C区2住居南半部掘り方 西から
C区2住居掘り方全景 西から
C区2住居土層断面a-b 西から
C区2住居北半部掘り方 西から
C区3住居遺物出土状態 西から
C区3住居カマド全景 西から
C区3住居南西部地割れ 西から
C区3住居北東部遺物出土状態 西から
- PL.58 C区3住居カマド遺物出土状態 南から
C区3住居西半部遺物出土状態 南から

- C区3住居西半部土層断面a-b 南から
C区3住居南東部掘り方 西から
C区3住居掘り方全景 西から
C区3住居床面全景 地割れ 西から
C区5住居遺物出土状態 西から
C区5住居東壁遺物出土状態 西から
PL.59 C区5住居北半部遺物出土状態 西から
C区5住居南半部遺物出土状態 西から
C区5住居床面全景 西から
C区5住居カマド全景 西から
C区5住居掘り方全景 西から
C区6住居東半部遺物出土状態 南から
C区6住居カマド遺物出土状態1 西から
C区6住居東半部遺物出土状態 西から
PL.60 C区6住居中央土坑 南から
C区6住居中央土坑遺物出土状態 北から
C区6住居カマド遺物出土状態2 西から
C区6住居カマド遺物出土状態3 西から
C区6住居カマド遺物出土状態4 西から
C区6住居カマド全景 煙道 北東から
C区6住居カマド全景 西から
C区6住居カマド全景 南から
PL.61 C区6住居床面全景 西から
C区6住居東半部床面 南から
C区6住居カマド掘り方全景 西から
C区6住居中央部床面 西から
C区6住居西半部 北から
C区6住居土層断面2a-2b 南から
C区6住居土層断面w-x南半部 東から
C区6住居土層断面w-x中央土坑 東から
PL.62 C区6住居土層断面w-x中央部 東から
C区6住居土層断面w-x北半部 東から
C区6住居掘り方全景 西から
C区6住居カマド掘り方遺物出土状態 西から
C区6住居カマド掘り方ベルト 南から
C区6住居カマド掘り方全景 西から
C区7住居周辺(B区) 西から
C区7住居カマド全景 西から
PL.63 C区7住居遺物出土状態 西から
C区7住居出土遺物 須恵器蓋(C62) 西から
C区7住居床面全景 西から
C区7住居掘り方全景 西から
C区8住居遺物出土状態 西から
C区8住居カマド全景 西から
C区8住居北東部遺物出土状態 西から
C区8住居床面全景 西から
PL.64 C区8住居西半部掘り方 東から
C区8住居P9・19・21土層断面2g-2h 東から
C区8住居P19土層断面2g-2h 東から
C区8住居掘り方全景 西から
C区8住居カマド掘り方全景 西から
C区8住居南東部掘り方 西から
C区9住居遺物出土状態 西から
C区9住居カマド遺物出土状態 西から
PL.65 C区9住居南東部遺物出土状態 西から
C区9住居床面全景 西から
C区9住居カマド全景 西から
C区9住居掘り方全景 西から
C区9住居カマド掘り方全景 西から
C区10住居全景 西から
C区10住居カマド全景 西から
C区10住居北東部遺物出土状態 南西から
PL.66 C区10住居南壁遺物出土状態 西から
C区10住居P1遺物出土状態 北から
C区10住居西壁出土遺物 須恵器杯(C100) 西から
C区10住居北東部出土遺物 須恵器蓋(C98) 西から
C区10住居出入り口調査風景 南から
C区10住居出入り口土層断面i-j 東から
C区10住居周辺掘り方全景 北から
C区11住居全景 西から
PL.67 C区11住居カマド全景 西から
C区11住居北半分遺物出土状態 西から
C区11住居北半部遺物出土状態 北から
C区12住居床面全景 西から
C区13住居周辺床面全景 北から
C区13住居東壁周辺遺物出土状態 西から
C区14住居全景 西から
C区14住居カマド全景 西から
PL.68 C区14住居中央部遺物出土状態 西から
C区14住居P1遺物出土状態 西から
C区14住居P4遺物出土状態 西から
C区14住居P4出土遺物 紡錘車(C152) 西から
C区14住居遺物出土状態 西から
C区14住居東半部掘り方 北から
C区14住居カマド掘り方全景 西から
C区14住居P6遺物出土状態 北から
PL.69 C区15住居周辺床面全景 北から
C区15住居南壁中央遺物出土状態 北から
C区15住居南東部埋設土師器
C区15住居P8埋設土師器甕(C157)
C区15住居P7埋設土師器甕(C158)
C区15住居P11埋設土師器甕(C156)
C区15住居掘り方全景 北から
C区16住居全景 西から
PL.70 C区16住居北東部遺物出土状態 西から
C区16住居南西部遺物出土状態 西から
C区16住居カマド全景 西から
C区16住居掘り方全景 西から
C区16住居カマド掘り方全景 西から
C区17住居全景 西から
C区17住居南東部遺物出土状態 西から
C区17住居P7貯蔵穴遺物出土状態 西から
PL.71 C区17住居P7貯蔵穴出土遺物 須恵器壺(C175)他 南から
C区17住居P7下位遺物出土状態 北から
C区17住居掘り方全景 北から
C区18住居全景 南西から
C区18住居南東部埋設土師器甕
C区18住居南東部遺物出土状態 南から
C区19住居遺物出土状態 北から
C区19住居カマド遺物出土状態 北から

- PL.72 C区19住居遺物出土状態 1 北から
C区19住居遺物出土状態 2 北から
C区19住居遺物出土状態 3 北から
C区19住居遺物出土状態 4 北から
C区19住居遺物出土状態 5 北から
C区19住居遺物出土状態 6 北から
C区19住居遺物出土状態 7 北から
C区19住居遺物出土状態 8 北から
- PL.73 C区19住居P10遺物出土状態 東から
C区19住居P10出土遺物 1 山形巡方(C240) 東から
C区19住居P10出土遺物 2 山形巡方(C240) 南から
C区19住居P3遺物出土状態 北から
C区19住居床面全景 北から
C区19住居カマド全景 西から
C区19住居掘り方全景 北から
- PL.74 C区19住居カマド掘り方全景 北から
C区19住居P12出土遺物 磨石(C242) 北から
C区20住居全景 西から
C区20住居出土遺物 須恵器碗(C246) 西から
C区20住居掘り方全景 北西から
C区26住居全景 西から
C区26住居南東部遺物出土状態 西から
C区26住居遺物出土状態
- PL.75 C区26住居出土遺物 土師器杯(C253)
C区26住居出土遺物 土師器杯(C250)
C区26住居遺物出土状態
C区26住居掘り方全景 西から
C区26住居カマド掘り方全景 西から
C区27住居全景 西から
C区27住居カマド全景 西から
C区27住居北半部遺物出土状態 西から
- PL.76 C区27住居中央部遺物出土状態 地割れ 西から
C区27住居南東部遺物出土状態 北西から
C区27住居P1貯蔵穴遺物出土状態 西から
C区27住居P1貯蔵穴出土遺物 土師器杯(C265) 西から
C区27住居掘り方全景 西から
C区27住居カマド掘り方全景 西から
C区27住居南西部掘り方遺物出土状態 西から
C区28住居床面全景 西から
- PL.77 C区28住居カマド全景 西から
C区28住居カマド出土遺物 須恵器碗(C279) 西から
C区28住居掘り方全景 西から
C区28住居南東部掘り方 西から
C区28住居カマド掘り方全景 西から
C区29住居周辺床面全景 西から
C区29住居北半部遺物出土状態 西から
C区29住居出土遺物 須恵器蓋(C284) 西から
- PL.78 C区29住居遺物出土状態 西から
C区29住居掘り方全景 西から
C区30住居床面全景 南から
C区30住居カマド全景 南から
C区30住居P5貯蔵穴遺物出土状態 西から
C区30住居掘り方全景 西から
C区30住居カマド掘り方全景 西から
C区31・32住居床面全景 南西から
- PL.79 C区31住居遺物出土状態 北から
C区31住居カマド遺物出土状態 西から
C区31住居北西部遺物出土状態 西から
C区31住居貯蔵穴周辺土層 1
C区31住居貯蔵穴周辺土層 2
C区31住居貯蔵穴埋設土師器甕
C区31住居貯蔵穴土層断面 e-f 土師器甕(C318)
C区31住居カマド全景 西から
- PL.80 C区31住居カマド煙道部 西から
C区31住居カマド土層断面 a-b 南から
C区32住居Aカマド全景 西から
C区32住居Bカマド全景 西から
C区32住居南半部遺物出土状態 西から
C区32住居A・Bカマド全景 西から
C区32住居掘り方出土遺物 須恵器小型壺(C338) 西から
C区32住居貯蔵穴P3 西から
- PL.81 C区32住居貯蔵穴P4 西から
C区32住居掘り方全景 北西から
C区32住居A・Bカマド掘り方全景 西から
C区32住居南半部掘り方遺物出土状態 北西から
C区33住居全景 西から
C区33住居カマド全景 西から
C区33住居南半部遺物出土状態 西から
C区33住居カマド遺物出土状態 西から
- PL.82 C区33住居カマド煙道部 西から
C区33住居掘り方全景 西から
C区33住居カマド掘り方全景 西から
C区33住居東半部掘り方 西から
C区34住居全景 西から
C区34住居カマド全景 西から
C区34住居北東部遺物出土状態 西から
C区34住居南東部遺物出土状態 西から
- PL.83 C区34住居中央部 地割れ 北から
C区34住居P11出土遺物 須恵器杯(C353)
C区34住居カマド周辺遺物出土状態 西から
C区34住居カマド袖石 西から
C区34住居カマド支脚 西から
C区34住居掘り方全景 西から
C区34住居カマド掘り方 西から
C区34住居東半部掘り方 西から
- PL.84 C区35住居遺物出土状態 北から
C区35住居カマド全景 西から
C区35住居調査風景 西から
C区35住居北西部遺物出土状態 西から
C区35住居南西部遺物出土状態 西から
C区35住居カマド周辺遺物出土状態 西から
C区35住居床面全景 西から
C区35住居調査風景 地割れ・段差 北から
- PL.85 C区35住居南西部 地割れ・段差 南西から
C区35住居南東部 地割れ・段差 西から
C区35住居南西部 地割れ・段差 北から
C区35・36住居掘り方全景 北西から
C区35住居カマド掘り方全景 西から
C区35・36住居東半部掘り方 北から
C区35住居南東部掘り方遺物出土状態 北から

- PL.86 C区35住居南東部遺物出土状態 西から
C区36住居全景 北から
C区36住居カマド全景 西から
C区36住居北半部遺物出土状態 西から
C区36住居掘り方出土遺物 土師器甕(C394) 北から
C区35・36住居掘り方全景 北西から
C区36住居カマド掘り方全景 西から
C区36住居掘り方全景 北から
C区36住居掘り方P3遺物出土状態 西から
- PL.87 C区37住居全景 西から
C区37住居カマド全景 西から
C区37住居カマド遺物出土状態 西から
C区37住居北東部遺物出土状態 西から
C区37住居掘り方全景 西から
C区37住居南東部掘り方 西から
C区38住居全景 西から
C区38住居南西部遺物出土状態 西から
- PL.88 C区38住居北東部遺物出土状態 西から
C区38住居カマド全景 西から
C区38住居掘り方全景 西から
C区38住居カマド掘り方全景 西から
C区38住居中央部掘り方遺物出土状態 西から
C区38住居カマド周辺掘り方出土遺物 銅碗(C415)
C区39住居全景 西から
C区39住居カマド全景 西から
- PL.89 C区39住居遺物出土状態 北から
C区39住居南東部遺物出土状態 北から
C区39住居南壁出土遺物 須恵器蓋(C425) 西から
C区39住居埋設土師器甕 西から
C区39住居調査風景、土層断面 a-b 北半部
C区39住居埋設土師器甕
C区39・46住居掘り方全景 西から
C区40住居全景 西から
- PL.90 C区40住居カマド全景 西から
C区40住居遺物出土状態 南西から
C区40住居北東部遺物出土状態 西から
C区40住居南東部遺物出土状態 西から
C区40住居カマド周辺遺物出土状態 西から
C区40住居出土遺物 土師器杯(C432) 西から
C区40住居カマド煙道部出土遺物 土師器甕(C443) 西から
C区40住居掘り方全景 南から
- PL.91 C区40住居掘り方全景 西から
C区40住居カマド掘り方全景 西から
C区41住居全景 西から
C区41住居カマド全景 西から
C区41住居掘り方全景 西から
C区41住居カマド掘り方全景 西から
C区42・45住居遺物出土状態 西から
C区42住居カマド全景 西から
- PL.92 C区42住居全景 西から
C区42住居カマド出土遺物 土師器杯(C460) 西から
C区42住居南東部掘り方 西から
C区42住居掘り方全景 北から
C区43住居床面全景 西から
C区43住居カマド全景 西から
- C区43住居中央部P5粘土 西から
C区43住居掘り方全景 南から
- PL.93 C区43住居カマド掘り方全景 西から
C区45住居遺物出土状態 西から
C区45住居全景 西から
C区45住居掘り方全景 北から
C区46住居全景 西から
C区46住居カマド全景 西から
C区46住居南半部遺物出土状態 地割れ 西から
C区46住居南東部遺物出土状態 地割れ 北から
- PL.94 C区46住居遺物出土状態1
C区46住居遺物出土状態2
C区46住居遺物出土状態3 南から
C区46住居遺物出土状態4
C区46住居北東部遺物出土状態 西から
C区46住居南東部遺物出土状態 西から
C区46住居カマド周辺遺物出土状態 西から
C区46住居東壁中央部遺物出土状態 西から
- PL.95 C区46住居出土遺物 須恵器盤(C509)
C区46住居調査風景、土層断面 a-b
C区46住居土層断面 a-b 中央部
C区46住居土層断面 a-b 南部
C区46住居西壁
C区46住居土層断面 g-h 南東から
C区46住居掘り方全景 北から
C区46住居カマド掘り方全景 西から
- PL.96 C区48住居、6粘土採掘坑全景 南から
C区48住居、6粘土採掘坑東壁遺物出土状態 南から
C区48住居、6粘土採掘坑遺物出土状態
C区48住居出土遺物 土師器杯(C540)
C区48住居出土遺物 土師器小型壺(C542) 南から
C区48住居、6粘土採掘坑掘り方全景 南から
C区49住居全景 西から
C区49住居遺物出土状態 西から
- PL.97 C区49住居掘り方全景 西から
C区49住居掘り方出土遺物 土師器甕(C550) 北から
C区1 掘立柱建物全景 東から
C区2 掘立柱建物全景 北から
C区3～5 掘立柱建物全景 北から
C区6 掘立柱建物全景 南西から
C区7・8 掘立柱建物全景 北西から
C区9 掘立柱建物全景 南から
- PL.98 C区10掘立柱建物全景 北西から
C区11掘立柱建物、1 柵全景 南から
C区1 井戸石組1 回目 西から
C区1 井戸石組1 回目 北西から
C区1 井戸石組2 回目 北から
C区1 井戸石組3 回目 西から
C区1 井戸石組4 回目 北から
C区1 井戸石組6 回目 東から
- PL.99 C区1 井戸底面全景 北から
C区1 井戸底面遺物出土状態 南から
C区1 井戸底面遺物出土状態 北から
C区1 井戸掘り方石組全景 南から
C区1 井戸掘り方底面全景 北から

	C区1井戸掘り方底面 北から		1住居床面全景 西から
	C区2井戸全景 西から		1住居遺物出土状態 南から
	C区2井戸全景 東から		1住居貯蔵穴遺物出土状態 南から
PL.100	C区2井戸全景 西から		1住居北西部遺物出土状態 西から
	C区2井戸全景 北から	PL.109	1住居カマド煙道部土層断面c-d 南から
	C区1粘土採掘坑、2・3溝 北から		1住居カマド全景 西から
	C区1粘土採掘坑、2・3溝 西から		1住居掘り方全景 西から
	C区1粘土採掘坑、2・3溝 南西から		3住居床面全景 北から
	C区1粘土採掘坑全景 東から		3～5住居全景 南から
	C区2粘土採掘坑ベルト 東から		3住居南壁中央出土遺物 土師器杯(12)他 北から
	C区2粘土採掘坑ベルト 東から		3住居掘り方全景 西から
PL.101	C区2粘土採掘坑土層断面a-b 西から	PL.110	3・4住居全景 南から
	C区2粘土採掘坑全景 南西から		4住居床面全景 南から
	C区2粘土採掘坑遺物出土状態 北東から		4住居カマド全景 南西から
	C区2粘土採掘坑北半部遺物出土状態 西から		4・5住居土層断面a-b 5住居部分 西から
	C区2粘土採掘坑境界部 北東から		4住居カマド遺物出土状態 南から
	C区2粘土採掘坑境界部 西から		4住居出土遺物 土師器杯(32) 北から
	C区2粘土採掘坑南半部 南東から		4住居掘り方全景 西から
	C区2粘土採掘坑3コマオーバーハング 西から		5住居床面全景 西から
PL.102	C区3粘土採掘坑全景 東から	PL.111	5住居カマド全景 西から
	C区3粘土採掘坑1コマ 北から		5住居貯蔵穴遺物出土状態 東から
	C区3粘土採掘坑2コマ 北から		5住居掘り方全景 西から
	C区4粘土採掘坑全景 西から		6住居床面全景 西から
	C区4粘土採掘坑遺物出土状態 南から		6住居周辺床面 東から
	C区4粘土採掘坑1コマ遺物出土状態 南から		6住居出土遺物 須恵器壺(56) 北西から
	C区4粘土採掘坑2コマ遺物出土状態 南から		6住居周辺掘り方 南から
	C区4粘土採掘坑1コマ北壁出土遺物 須恵器椀(C621) 南から		6住居カマド全景 西から
PL.103	C区4粘土採掘坑出土遺物 南から	PL.112	6住居掘り方全景 南から
	C区4粘土採掘坑全景 南西から		7住居床面全景 西から
	C区5粘土採掘坑全景 南から		7住居カマド遺物出土状態 南から
	C区5粘土採掘坑2コマ小穴 西から		7住居カマド全景 西から
	C区6粘土採掘坑、48住居全景 北西から		7住居南西部遺物出土状態 東から
	C区6粘土採掘坑全景 南西から		7住居中央部遺物出土状態 南から
	C区6粘土採掘坑遺物出土状態 西から		7住居掘り方全景 西から
	C区6粘土採掘坑出土遺物 須恵器盤(C650)他 西から		7住居カマド掘り方全景 西から
PL.104	C区2溝遺物出土状態 北から	PL.113	8住居床面全景 西から
	C区3溝土層断面a-b 東から		8住居カマド1全景 西から
	C区8a溝遺物出土状態 北東から		8住居出土遺物 須恵器杯(81) 北西から
	C区8a溝中央部遺物出土状態 南東から		8住居カマド2全景 南から
	C区8a溝西端遺物出土状態 東から		8住居カマド1土層断面g-h 南から
	C区8a溝・29土坑遺物出土状態 北東から		8住居掘り方全景 西から
	C区11溝東部分(東紺屋11溝) 東から		8住居カマド2掘り方全景 西から
	C区11溝西部分出土遺物 墨書須恵器椀(C674)		9a住居周辺全景 西から
PL.105	C区16溝全景 東から	PL.114	9a・9b・9c住居周辺 北から
	C区21土坑遺物出土状態全景 西から		9a住居床面全景 北から
	C区21土坑遺物出土状態 西から		9a・9b・9c住居周辺 西から
	C区21土坑土層断面a-b 南から		9b住居カマド全景 西から
	C区29土坑遺物出土状態 北東から		9b住居床面全景 西から
	C区30土坑全景 北から		9b住居周辺掘り方全景 西から
	B・C区1道路南半部 北から		9b住居掘り方全景 北から
PL.106	東紺屋全景 東上空から		9b住居カマド掘り方全景 西から
	東紺屋東半部全景 北上空から	PL.115	9b住居土坑1土層断面c-d 東から
PL.107	東紺屋中央部全景 北上空から		9b住居土坑1全景 北から
	東紺屋西端部全景 北上空から		9c住居床面全景 西から
PL.108	東紺屋東端部全景 東上空から		9c住居カマド遺物出土状態 西から

- 9c住居南壁中央遺物出土状態 西から
9c住居出土遺物 須恵器蓋(90) 北西から
9c住居カマド土層断面 a-b 南から
9c住居カマド遺物出土状態 北西から
PL.116 9c住居周辺、31A~C土坑全景 北から
9c住居カマド全景 西から
9c住居カマド全景 北西から
9c住居周辺掘り方全景 北から
10住居周辺全景 西から
10住居周辺床面全景 西から
10住居床面全景、31A~C土坑 北から
10住居貯蔵穴、埋設土師器甕(120) 北西から
PL.117 10住居南壁遺物出土状態 北から
10住居出土遺物 土師器甕(122)
10住居出土遺物 土師器杯(119) 北から
10住居貯蔵穴土層断面 c-d、土師器甕(121) 西から
11住居床面全景 西から
11住居カマド全景 西から
11住居出土遺物 紡輪(132)
11住居出土遺物 銅製金具(133)
PL.118 11住居掘り方全景 南から
12住居床面全景 西から
12住居カマド遺物出土状態 詳細図1 西から
12住居カマド遺物出土状態 西から
12住居カマド遺物出土状態 詳細図4 西から
12住居カマド遺物出土状態 詳細図5 西から
12住居貯蔵穴遺物出土状態 西から
12住居カマド全景 西から
PL.119 12住居カマド掘り方全景・袖石 西から
12住居カマド掘り方土層断面 e-f 南から
12住居カマド左袖部出土遺物 土器内 西から
12住居掘り方全景 西から
15住居北東部遺物出土状態 西から
15住居出土遺物 土師器杯(147) 西から
15住居床面全景 西から
15住居カマド全景 西から
PL.120 15住居掘り方全景 西から
15住居カマド掘り方全景 西から
17住居床面全景 南西から
17住居土層断面 a-b 南から
17住居土層断面 a-b東部分 南から
17住居掘り方全景 西から
19住居床面全景 西から
19住居カマド調査状態1全景 西から
PL.121 19住居カマド調査状態2全景 南から
19住居カマド全景 西から
19住居出土遺物 土師器杯(158) 南から
19住居カマド構築石材 西から
19住居掘り方全景 西から
19住居カマド掘り方全景
19住居土坑1 南から
19住居土坑2 南から
PL.122 23住居遺物出土状態 南から
23住居南東部遺物出土状態 西から
23住居出土遺物 須恵器蓋(167)
23住居床面全景 西から
23住居掘り方全景 西から
23住居掘り方全景 南から
1掘立柱建物全景 東から
1掘立柱建物4P土層断面 g-h 北から
PL.123 1掘立柱建物5P土層断面 i-j 東から
1掘立柱建物6P土層断面 k-l 東から
1掘立柱建物7P土層断面 m-n 東から
2掘立柱建物全景 北東から
2掘立柱建物11P土層断面 a-b 北から
2掘立柱建物18P土層断面 o-p 南東から
2掘立柱建物21P土層断面 s-t 南東から
2掘立柱建物22P土層断面 u-v 南から
PL.124 3掘立柱建物全景 北から
4掘立柱建物全景 北東から
5掘立柱建物全景 西から
5掘立柱建物39P全景 南から
6掘立柱建物全景 西から
6掘立柱建物45P土層断面 g-h 北から
7~11掘立柱建物周辺全景 東から
7掘立柱建物全景 北東から
PL.125 8掘立柱建物全景 北西から
9掘立柱建物全景 西から
9掘立柱建物72P全景 東から
10掘立柱建物全景 北東から
11掘立柱建物全景 東から
11掘立柱建物84P 南から
12掘立柱建物全景 南西から
13掘立柱建物全景 東から
PL.126 1柵全景 北東から
1溝北側全景 北西から
1粘土採掘坑全景 南西から
1粘土採掘坑土層断面 c-d西半部 西から
2粘土採掘坑全景 南から
2粘土採掘坑全景 東から
2粘土採掘坑土層断面 a-b北半部 東から
3粘土採掘坑、12住居全景 南から
PL.127 3粘土採掘坑全景 西から
3粘土採掘坑2コマ遺物出土状態 西から
3粘土採掘坑遺物出土状態
4粘土採掘坑全景 東から
4粘土採掘坑全景 北西から
5粘土採掘坑全景 南から
6粘土採掘坑全景 東から
6粘土採掘坑土層断面 a-b 南から
PL.128 7粘土採掘坑全景 北東から
7粘土採掘坑全景 南東から
8粘土採掘坑全景 南東から
8粘土採掘坑全景 北から
9粘土採掘坑全景 西から
9粘土採掘坑北東部P1・2 北西から
10粘土採掘坑全景 南から
11粘土採掘坑全景 南西から
PL.129 11粘土採掘坑北壁土層断面 a-b 南から
1火葬跡 骨出土状態 東から

	1 火葬跡 石出土状態土層断面 a-b 東から		33土坑全景 西から
	1 火葬跡 石出土状態 南東から		34土坑全景 西から
	1 火葬跡掘り方全景 南東から		35土坑全景 西から
	1 火葬跡掘り方全景 南西から		36土坑全景 西から
	2 土坑土層断面 a-b 南から		131ピット全景 西から
	4 土坑全景 南から		189ピット全景 南から
PL.130	5 土坑全景 南から	PL.134	天王A区1・5～9住居出土遺物
	6 土坑全景 南から	PL.135	天王B区1・2・4～8住居出土遺物
	7 土坑全景 南から	PL.136	天王B区9～13住居出土遺物
	8 土坑全景 南から	PL.137	天王B区15・16・18・20～23住居出土遺物
	10土坑全景 南から	PL.138	天王B区1井戸出土遺物
	11土坑全景 南から	PL.139	天王B区3井戸出土遺物
	12土坑全景 南から	PL.140	天王B区3・4溝、40土坑 C区1～3・5・6住居出土遺物
	13土坑全景 南から	PL.141	天王C区6～8住居出土遺物
PL.131	14土坑全景 南から	PL.142	天王C区9～11・14住居出土遺物
	15土坑全景 南から	PL.143	天王C区15・17・18住居出土遺物
	16土坑全景 南から	PL.144	天王C区19住居出土遺物
	17土坑全景 南から	PL.145	天王C区26・27・29～31住居出土遺物
	20土坑全景 南から	PL.146	天王C区32・34住居出土遺物
	21土坑土坑土層断面 e-f 南から	PL.147	天王C区35～42住居出土遺物
	22土坑西半部 南から	PL.148	天王C区46・48・49住居出土遺物
	23土坑全景 南から	PL.149	天王C区11掘立柱建物、1井戸、2～4・6粘土採掘坑、3・8a・11・12溝出土遺物
PL.132	24土坑土層断面 a-b 西から	PL.150	天王C区36土坑、3・69・78・225・229ピット、1道路 東紺屋1・3～5住居出土遺物
	25土坑土層断面 a-b 南から	PL.151	東紺屋6～8・9c住居出土遺物
	26土坑全景 東から	PL.152	東紺屋9・11・10～12住居出土遺物
	27土坑全景 東から	PL.153	東紺屋12・15住居出土遺物
	28土坑全景 東から	PL.154	東紺屋17・19・23住居、11掘立柱建物、1井戸、10粘土採掘坑、30・31A土坑出土遺物
	29土坑全景 東から	PL.155	天王・東紺屋谷戸遺跡 遺構外出土遺物1
	30土坑全景 東から	PL.156	天王・東紺屋谷戸遺跡 遺構外出土遺物2
	31A土坑全景 西から		
PL.133	31B・C土坑全景 西から		
	32土坑全景 西から		

第1章 調査に至る経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待されている。平成10年には、前橋渋川バイパスを含めて地域高規格道路『熊谷渋川連絡道路』として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

上武道路の建設事業は、昭和45年度から着手され、平成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通を果たし、全線開通までの最終3.5km区間の発掘調査と工事が進められている。

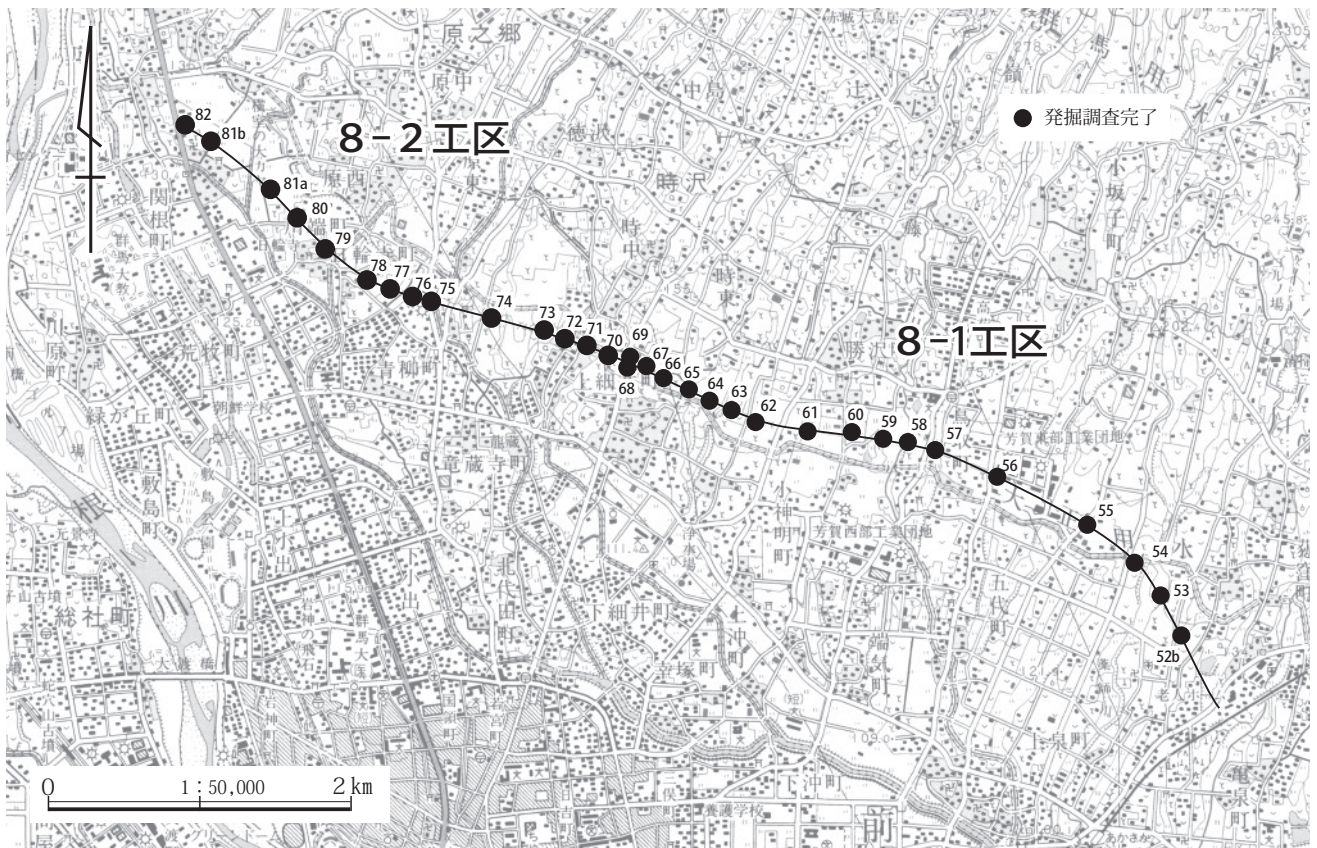


第1図 上武道路と遺跡の位置 国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用

第1章 調査に至る経過

第1表 上武道路8工区調査遺跡一覧表

JKNo	遺跡名	所在地	市町村遺跡番号	調査年度	報告書刊行年度
52b	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市 上泉町	00774	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市 上泉町	00775	平成18・19・20年度	平成23年度
54	上泉武田遺跡	前橋市 上泉町	00773	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留遺跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下遺跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年度	平成23年度
58	胴城遺跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田遺跡	前橋市 勝沢町		調査除外	—
60	堤遺跡	前橋市 勝沢町	00034	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市 小神明町	00778	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚遺跡	前橋市 小神明町・上細井町	00403	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口遺跡	前橋市 上細井町	00125	平成20年度	平成23年度
64	丑子遺跡	前橋市 上細井町	00134	平成20年度	平成24年度
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市 上細井町	00777	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東紺屋谷戸遺跡	前橋市 上細井町	00131	平成20・21年度	平成25年度
67		前橋市 富士見町	90094	平成20・21年度	
68	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	前橋市 上細井町	00798	平成21年度	平成24年度
69		前橋市 富士見町	90097	平成21年度	
70	王久保遺跡	前橋市 上細井町・富士見町	00794	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上遺跡	前橋市 上細井町	00128	平成24年度	平成26年度予定
72	上細井中島遺跡	前橋市 上細井町	00787	平成21・24年度	平成25年度予定
73	上細井蟬山遺跡	前橋市 上細井町	00786	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・柴遺跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24・25年度	平成26年度予定
75	引切塚遺跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年度	平成26年度予定
76	青柳宿上遺跡	前橋市 青柳町	00325	平成24年度	平成26年度予定
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	—
78	諏訪遺跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	—
79	川端根岸遺跡	前橋市 川端町	00807	平成24年度	
80	川端山下(道東)遺跡	前橋市 川端町	00808	平成24・25年度	
81a	関根細ヶ沢遺跡	前橋市 関根町	00802	平成24年度	平成26年度予定
81b	関根赤城遺跡	前橋市 関根町	00803	平成24年度	平成25年度予定
82	田口下田尻遺跡	前橋市 田口町	00804	平成23・25年度	



第2図 上武道路8工区の遺跡 国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地の多い地域である。群馬県は、昭和48年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができ、現在は③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編『地域をつなぐ 未来へつなぐ—上武道路埋蔵文化財22年の軌跡—』が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31箇所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8

–1工区、西が8–2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8–1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23年度からは8–2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8–1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8–2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が続々と明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では、縦穴住居280棟が検出された大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、JKを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区最終番号JK52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。JK52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJK52bをつけて7工区と区別している。また、JK59鳥取塚田遺跡は、水田遺構の存在が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした(第1表)。また、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が田口下田尻遺跡、関根細ケ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたこと、平成23年度に開始された田口下田尻遺跡を先行して82としたことから、関根細ケ沢遺跡は81a、関根赤城遺跡は81bとした。

第3節 調査に至る経過

上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。さらに同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査を実施するための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間の開始を3ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18年7月から東端の上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18年4月25・26日、同年5月17・18日、同年8月11日、同年12月5～7日、平成19年8月16～27日、同年12月10日～14日、平成21年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25～29日、平成22年12月6～20日、平成23年5月12日、

同年8月22日～24日、同年10月18日、の13回(23年度末現在)にわたって、8工区の試掘調査が実施された。

前橋市上細井町・旧富士見村時沢地内の試掘調査は、平成19年12月10日・12日・14日に群馬県教育委員会文化財保護課によって実施された。試掘調査は、延べ500mほどの調査対象区域に幅1mのトレンチ10カ所を設定して行われ、遺構検出面・遺構の有無・遺物出土の有無が確認された。その結果、

(1)トレンチ1・2・7～10では低地部を除き、縄文時代～平安時代の集落が確認された。

(2)トレンチ3～5では古墳時代～平安時代の集落が検出された。トレンチ6の低地部では、削平及び旧河道により、遺構は検出されなかった。

(3)トレンチ3より西から県道前橋赤城線までの区間は、隣接地を富士見村教育委員会が調査を行い、平安時代の集落を確認していることから、路線内においても集落が広がっていることが想定される。

と判定され、本調査が必要とされた。

天王・東紺屋谷戸遺跡はトレンチ3(古墳～平安時代の集落)、トレンチ4(奈良時代の集落)、トレンチ5(古墳・平安時代の集落)が設定された区域に相当し、調査対象区域となった。

この試掘調査結果を受け、本遺跡の調査は平成19年度末に国土交通省関東地方整備局長、群馬県教育委員会教育長、当事業団理事長の三者の協議を経て、平成20年4月1日付けで9月から着手することとなった。

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

本遺跡は上武道路用地内という制約もあって、幅約40m・長さ約240mの「トレンチ」状の調査である。

天王・東紺屋谷戸遺跡は赤城山の南麓端にあり、現代

の標高では142.400mから144.300mの間にある。第3図は『群馬県10万分の1地質図』（群馬県地質図作成委員会1999）（以下、地質分類の表記は当該地質図の分類に供い記述する。）の一部と、『国土地理院5万分の1地形図』の一部とを重ねたものである。天王・東紺屋谷戸遺跡周



第3図 天王・東紺屋谷戸遺跡周辺の地質

群馬県10万分の1地質図と国土地理院5万分の1地形図「前橋」の一部を加筆して重ねた。

A = 沖積
NI = 自然堤防堆積物 砂
Fo = 山麓堆積物 礫、砂及びローム

Ak3 = 赤城火山第3期噴出物 大胡・棚下・糸井火砕流堆積物 溶結凝灰岩、軽石及び火山灰
Ak2 = 赤城火山第2期噴出物 土石流・岩屑・なだれ堆積物 火山岩塊(巨礫)、火山礫及び火山灰

辺は、地質的には赤城火山の第四紀山麓堆積物Fo（礫・砂及びローム）が堆積する。扇状に広がるFoの末端は旧利根川により浸食され、広瀬川低地帯に至る崖端をなす。Foの東西は赤城火山第3期噴出物Ak 3で覆われ、西側末端には赤城火山第2期噴出物Ak 2（土石流・岩屑・なだれ堆積物-「流れ山」）が散在する。赤城南麓は、中小河川が下刻して谷地形を作り、その間に残された尾根筋が赤城山山頂部を中心にして放射状に残っている。遺跡近傍の中小河川は広瀬川低地帯に至って桃ノ木川に合流し、南東に向かう。上武道路の路線沿いに実施された旧石器調査では、層厚を異にしつつローム層が堆積している。

昭和40年代以前の地形で水田が営まれているのは、谷地形のなかのみで、尾根筋は山林または畠である。第4図は明治時代に測量された『第一軍管地方迅速測図』（1/2.5万）を1/2万に拡大し、道路・溜池・神社等を目安に、上武道路用地を重ねたものである。谷筋には網かけを加筆している。谷地形を上流にたどると、小規模な溜

池の存在に気付く。天王・東紺屋谷戸遺跡の調査区域を迅速測図に重ねると、東西端が無名の小河川に挟まれており、その中間の尾根筋に調査区域が位置していることが読み取れ、現地での微地形観察・推定と一致していることが解る。そして、谷筋に多量の出水があっても水害を受けない小高い土地に立地していると考えられ、古墳時代以降に集落が営まれたと推定される。

第5図は米軍による第二次大戦後の航空写真の一部である。記録によると昭和21年の撮影で、現地を特定するのが難しいが、概ね写真中に黒線で示した範囲が天王・東紺屋谷戸遺跡になると思われる。写真中、南側の白い帯は大正用水である。大正用水は大正7年12月に群馬県会で決議され、昭和18年着工、昭和27年竣工という（『勢多郡誌』1958）。空中写真撮影時は工事中と推定される。いまだ古い地形を残した状態の空中写真とみられ、調査区東側に無名の河川が南流している様子が読み取れる。当事業団の調査担当が現地入りした平成20年9月の時点では、調査対象区域全体に1.5mほどの高さの雑草（葎か）



第4図 旧地形図上の遺跡 明治18年『第一軍管地方迅速測図』に天王・東紺屋谷戸遺跡(上武道路)を加筆(網点は谷地形)

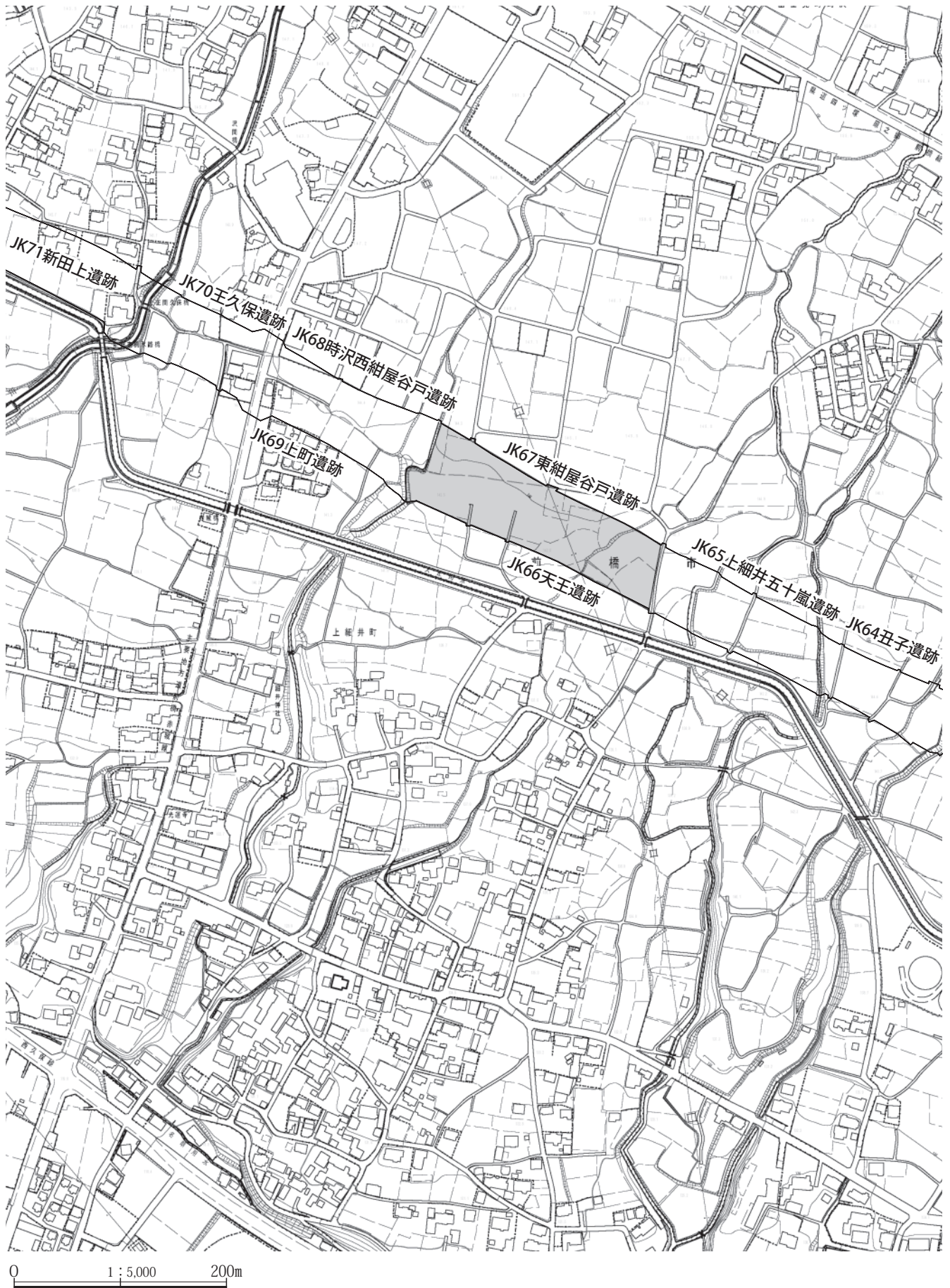
が茂り、草刈から着手せざるを得なかった。雑草・雑木を除去し、調査区全体を見渡せる状況になって、後にA区とB区との境界とした水路が南流していることが認められた。この水路は小規模で、東側の上細井五十嵐遺跡西寄りのC区-B区の境界とされた河川が、米軍写真や迅速測図で読み取れる天王遺跡東端部の谷筋と考えられる。上細井五十嵐遺跡C区は、天王A区との間に略南北走行の現道を挟んでおり、調査区域としては上細井五十嵐遺跡C区になるが、微地形的には天王A区の東側限界

になると推定される。

第6図は前橋市の1/2,500現形図を1/5,000に縮小し、上武道路の路線及び天王・東紺屋谷戸遺跡の調査区域を重ねたものである。この図と迅速測図・米軍空中写真とを比較してみると、米軍写真では大正用水が設置されたほか、道路が直線的になったり、住宅が増加しているなどの変化はあっても、天王・東紺屋谷戸遺跡全体としては、地形的に大きな変化がないと考えられる。



第5図 昭和21年(1946年)米軍による空中写真(コース158-A-5の一部を拡大)



第6図 天王・東紺屋谷戸遺跡周辺図

第2節 歴史的環境

天王・東紺屋谷戸遺跡の周辺では、近年の発掘調査によって明らかにされた縄文時代から中近世に至る時代の遺跡が多数あり、発掘調査報告書も多数刊行されている。遺跡分布調査が進展し、開発に伴う遺跡の有無確認調査には分布調査の成果が活用されている。

大正用水よりも概ね南側に位置する前橋市上細井町・小神明町・鳥取町・五代町では工業団地の造成等に伴う発掘調査が進み、この区域の古代以前の様子が着々と明らかになっている。また、大正用水以北では、鳥取町及びその北側の芳賀東部団地や芳賀北部団地の開発に伴い、面的な発掘調査が実施され、この地域の古代史を解明する資料が増加しつつある。

しかし、天王・東紺屋谷戸遺跡近傍では、上武道路用地を中心として発掘調査が進んでいるものの、上武道路を離れた区域では、発掘調査地点は散在的である。遺跡の分布調査が進んでいることから、近傍の遺跡の様子は次第に明らかになると期待する。

ここでは発掘調査によって成果が明らかにされた遺跡

で、比較的近い距離にあって本遺跡と密接な関係をもつと考えられる遺跡を取り上げ、本遺跡の内容を考える一助としたい。上武道路関連で本遺跡西側に位置する上町遺跡・時沢西紺屋谷戸遺跡と、東側に位置する上細井五十嵐遺跡・丑子遺跡の成果が貴重である。

旧石器時代

平成23年度末に『上武道路・旧石器時代遺跡群(3)』(2012, 当事業団)が刊行され、上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群・上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部団地遺跡(近傍遺跡16)・胴城遺跡(14)の6遺跡出土の旧石器について、報告されている。詳細はそちらに譲るが、「群馬編年」のⅠ期からⅣ期までの旧石器が出土し、環状ブロック群や礫群の存在が明らかにされた。そのほか、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡(35)では、群馬編年Ⅴ期に相当する細石器が350点以上出土し、「同様の時期の遺跡がこの周辺にさらに存在する可能性は高い」と予想されている。また、平成24年度の新田上遺跡(5)の調査で旧石器が発見されており、旧石器時代を考えるうえで、貴重な資料を追加した。



第7図 近傍の遺跡分布 国土地理院1/25,000地形図「前橋」平成22年発行、「渋川」平成14年発行、「鼻毛石」平成14年発行、「大胡」平成22年発行を使用

第2章 立地と環境

第2表 近傍の遺跡一覧表

●=遺構主体、○=遺構伴う、「飛鳥」は古墳に含まれる場合がある。

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生		古墳		飛鳥		奈良		中世	近世	備考(その他の遺構)	文献
			草	早	前	中	後	晩	中	後	住	墓	住	墓	住				
1	ひがしこんやがいと 東紺屋谷戸遺跡 (鉄塔用地)															○			
1	ひがしこんやがいと 東紺屋谷戸遺跡 (上武道路用地)				●					○		○	○	○					本書
2	てんのう 天王遺跡				●					○		○	○	○			○	溜井3基	本書
3	かみちよう 上町遺跡				●	●	●					○	○	○					GMB561集
3	ときざわにしこんやがいと 時沢西紺屋谷戸遺跡					●	●						○						GMB561集
4	おうくぼ 王久保遺跡				●	●	●					○	○	○				鍛冶遺構1	GMB557集
5	しんでんかみ 新田上遺跡	●			○	○	○		○	○			○	○			○	h24調査	年報32
6	かみほせいなかじま 上細井中島遺跡				●	○											○	h21・24調査	年報29・32
7	かみほせいせみやま 上細井蟬山遺跡				●	○	●	●		○	○	○	○				●		GMB560集
8	かみほせいいらし 上細井五十嵐遺跡					○	○							○	○	●		As-B下水田	GMB558集
9	うしご 丑子遺跡								○	○			○	○				As-C下住居	GMB558集
10	ひがしたのくち 東田之口遺跡		●		●	●	●			○				○	○			As-B下平地式住居,直弧文埴	GMB523集
11	こじんめいふじづか 小神明富士塚遺跡				●	●	●			○			○	○				中世屋敷跡	GMB524集
12	こじんめいかつさわさかい 小神明勝沢境遺跡					○	○			○				○	○			弥生後期2軒,古墳前期4軒	GMB524集
13	つづみ 堤遺跡		○	●	○	●	○							○	○			柄鏡形敷石住居,中世火葬跡	GMB568集
14	どうじょう 胴城遺跡	●			○	●	●			○	○			○	●			古墳1基,前期住居1,題目銭	GMB534集
15	とつりまつあいた 鳥取松合下遺跡									○				○				鉄斧,銅碗破片	GMB534集
16	はがとうぶだんち 芳賀東部団地遺跡	●			○	●	●			○		○	○					前橋市教委,上武道路	GMB551集ほか
17	かみひやくだやま 上百駄山遺跡		●	●	○	●							○	○	○			平安小鍛冶遺構,中近世掘立柱建物	
18	ときざわしもひやくだやま 時沢下百駄山遺跡					●								○				平安住居1,道路	
19	ときざわにしたかだ 時沢西高田遺跡													○				住居10棟以上	
20	おぶづか オブ塚古墳									○								全長35m前方後円墳,6c後半	
21	おぶづかにし オブ塚西古墳									○								長さ1.65mの堅穴系石槨	
22	みなみたのくち 南田之口遺跡				●	●	●			○							○	立石遺構	
23	くりやう 九料遺跡				●	●	○			○				○				硬玉大珠,張り出しピット	
24	にしだ 西田遺跡				○					○	○							関山式期3軒,和泉期4軒	
25	くらもと 倉本遺跡									○							○	弥生中期～後期住居2軒,縄文土器	
26	ゆのき 湯気遺跡		●		●					○	○			○					
27	だいみょうじん 大明神遺跡									○									
28	こじんめいたむかい 小神明谷向遺跡				●					●									Hr-FAが堆積する河川跡,井戸1
29	たにばね 谷端遺跡									○				○					
30	こじんめいのよりい とりで 小神明の寄居・砦															○		16世紀	
31	かみおきうえのやま 上沖上ノ山古墳										○								
32	はがせいぶだんち 芳賀西部団地遺跡				○	●	●			○						○	○	古墳31基(5c後半～6c初頭)	
33	はがほくぶだんち 芳賀北部団地遺跡				○	○				○			○	○	○				神功開宝,製鉄跡,勝沢城一部
34	かつさわじょう 勝沢城																		
35	とつりふくそうじ とつりふくそうじ 鳥取福蔵寺・鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	●																	
36	ごだいなかはら 五代中原Ⅰ～Ⅳ遺跡				○	○				○				○					4c代ベッド状遺構のある住居
37	ごだいやまかいどう 五代山街道Ⅰ遺跡				○	○				○				○					
38	ごだいやまほり 五代深堀Ⅱ遺跡					○				○				○					
39	ごだいやまみや 五代伊勢宮Ⅰ～Ⅳ遺跡				○	○				○	○			○	○				鍛冶工房跡8c後～9c前葉
40	ごだいやまはな たけはな 五代竹花・竹花Ⅱ遺跡				●	○	●			○				○	○				H7住=和同開珎2,神功開宝3,銅鈴2
41	はがきたくるわ 芳賀北曲輪遺跡				○	○							○						古墳6基7c中頃
42	てんだいしゅうぜんしやうじ 天台宗善勝寺															○			鉄鑄造阿彌陀如来坐像,仁治4年(1243年)銘

[文献]

- 1 『東紺屋谷戸遺跡』富士見村教育委員会, 1992
- 3 『平成12年度 村内遺跡』富士見村教育委員会, 2001
- 3 『上町・時沢西紺屋谷戸遺跡』群埋文561集, 2013
- 4 『王久保遺跡』群埋文557集, 2013
- 5 『年報』32, 群埋文, 2013
- 6 『年報』29・32, 群埋文, 2010・2013
- 7 『上細井蟬山遺跡』群埋文560集, 2013
- 8 『丑子遺跡・上細井五十嵐遺跡』群埋文558集, 2013
- 9 『丑子遺跡・上細井五十嵐遺跡』群埋文558集, 2013
- 10 『東田之口遺跡』群埋文523集, 2011
- 11 『小神明勝沢境遺跡・小神明富士塚遺跡』群埋文524集, 2012
- 12 『小神明勝沢境遺跡・小神明富士塚遺跡』群埋文524集, 2012
- 13 『年報』28, 群埋文, 2009
- 13 『堤遺跡』群埋文568集, 2013
- 14 『鳥取松合下遺跡・胴城遺跡』群埋文534集, 2012
- 15 『鳥取松合下遺跡・胴城遺跡』群埋文534集, 2012
- 16 『芳賀東部団地遺跡Ⅰ』前橋市教育委員会, 芳賀団地遺跡群第1巻, 1984
- 16 『芳賀東部団地遺跡Ⅱ』前橋市教育委員会, 芳賀団地遺跡群第2巻, 1988
- 16 『芳賀東部団地遺跡Ⅲ』前橋市教育委員会, 芳賀団地遺跡群第3巻, 1990
- 16 『芳賀東部団地遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 1998
- 16 『芳賀東部団地遺跡Ⅲ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2005
- 16 『芳賀東部団地遺跡-縄文時代以降編-』群埋文551集, 2013
- 17 『小暮地区遺跡群 上百駄山遺跡 寺間遺跡 孫田遺跡』富士見村教育委員会, 1995
- 18 『小暮地区遺跡群 上百駄山遺跡Ⅱ』富士見村教育委員会, 1996
- 19 『平成10年度 村内遺跡』富士見村教育委員会, 1999
- 20 『前橋市史 第1巻』前橋市史編さん委員会, 昭和46年(1971)
- 21 『前橋市史 第1巻』前橋市史編さん委員会, 昭和46年(1971)
- 22 『南田之口遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 1985
- 23 『小神明遺跡群Ⅱ, IV, V』前橋市教育委員会, 1984, 1986, 1987
- 24 『小神明遺跡群Ⅱ』前橋市教育委員会, 1984
- 25 『小神明遺跡群Ⅱ』前橋市教育委員会, 1984
- 26 『小神明遺跡群Ⅳ』前橋市教育委員会, 1986
- 27 『小神明遺跡群Ⅱ』前橋市教育委員会, 1984
- 28 『小神明遺跡群Ⅲ 谷向遺跡』前橋市教育委員会, 1984
- 29 『谷端遺跡発掘調査報告書』前橋市教育委員会, 平成2年度(1990)
- 30 『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会, 1989
- 31 『前橋市史 第1巻』前橋市史編さん委員会, 昭和46年(1971)
- 32 『芳賀西部団地遺跡』前橋市教育委員会, 芳賀団地遺跡群第4巻, 1991
- 33 『芳賀北部団地遺跡群』前橋市教育委員会, 芳賀団地遺跡群第5巻, 1994
- 34 『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会, 1989
- 35 『鳥取福蔵寺遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 1997
- 35 『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 1998
- 36 『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2002
- 36 『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2003
- 36 『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2004
- 37 『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2004
- 38 『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2002
- 39 『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2001
- 39 『五代伊勢宮Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2002
- 39 『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2002
- 39 『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2003
- 39 『五代伊勢宮遺跡(1)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2007
- 39 『五代伊勢宮遺跡(2)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2009
- 40 『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2001
- 40 『五代竹花Ⅱ遺跡・五代木福Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 2004
- 41 『芳賀北曲輪遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団, 1990
- 42 『増補前橋の文化財』前橋市教育委員会, 1999
- 42 『前橋市史 第1巻』前橋市史編さん委員会, 昭和46年(1971)

縄文時代

堤遺跡(13)で草創期の石器製作跡が調査され、その成果が明らかになったほか、草創期の土器片が東田之口遺跡(10)、上百駄山遺跡(17)、湯気遺跡(26)から出土し、早期の破片は上細井中島遺跡(6)、上細井蟬山遺跡(7)、小神明富士塚遺跡(11)、堤遺跡(13)、上百駄山遺跡から出土している。前期から住居の検出があり、近傍遺跡地図で14遺跡と増加する。

弥生時代

倉本遺跡(近傍遺跡25)で弥生中期の住居2軒、湯気遺跡(26)で後期の住居1軒、小神明勝沢境遺跡(12)で後期の住居2軒が検出されたほか、新田上遺跡(5)で中期の土坑4基を発見している。この時代の遺跡は、縄文時代に比較して発見例が少ない。

古墳時代

この時代以降、集落の発見例が多くなり、埋没した古墳も発見されている。昭和13年刊行の『上毛古墳綜覧』では、芳賀村の古墳は64基(前方後円墳4、円墳55、他5)が集計されている。近傍遺跡であげた胴城遺跡、芳賀東部団地、芳賀西部団地、芳賀北曲輪、西田、オブ塚古墳他の各遺跡検出古墳数は49基となり、これらを加えると100基を越える古墳が存在していたと推定されている。古墳時代の古い段階として五代中原Ⅱ遺跡・Ⅲ遺跡(36)の集落がある。芳賀東部団地遺跡(16)の南東区域にも前期のH420号住居他があり、いわゆる「石田川期」の集落がこの付近を中心に分布する。五代川東側の低地に、五代砂留遺跡群の45地区があり、ここにも「古墳時代前期中葉の集落の可能性が高い」住居群が発見されている。近傍の古い時期の古墳として、端気着帳遺跡(芳賀西部団地の南約500m)の方形周溝墓2基が弥生時代末～古墳時代初め(As-C 降下以前)、五代江戸屋敷遺跡(五代伊勢宮遺跡の南約100m)の方形周溝墓2基(周溝埋没土はAs-C 混土)が4世紀中頃とされる。

奈良・平安時代

近傍の遺跡では、やはり芳賀東部団地遺跡(16)が最大の軒数で413軒、次が芳賀北部団地遺跡(33)の237軒である。その他、近傍遺跡地図に掲載した遺跡の住居数を足し合わせると、一部に古墳時代を含むが千軒を超えている。芳賀東部団地遺跡(16)が、この付近の中心的・拠点集落であろう。

『和名類聚抄』によると、古代の赤城南麓地域は「勢多郡」に区分され(9郷とされる)、深田・田邑・芳賀・桂萱・真壁・深渠・時澤・藤澤の8郷が含まれる。それぞれの郷については現在の地名などから本遺跡周辺が芳賀郷、その西側に時澤郷、南に桂萱郷が想定されている。芳賀東部団地遺跡付近が芳賀郷の一部に含まれていた可能性はあるが、現在の芳賀地区は明治22年4月に嶺・小坂子・五代・鳥取・勝沢・端気・小神明の7ヵ村が合併して「南勢多郡芳賀村」として成立しており(『上野国郡誌 1 勢多郡(1)』群馬県文化事業振興会1977)、古代の「芳賀郷」の区域は未確定である。

中近世以降

堤遺跡(13)では中世の火葬跡4基が発見され、小神明富士塚遺跡(11)では中世屋敷跡が発見されている。天台宗善勝寺(42)の鉄鑄阿弥陀如来座像には「仁治4年」(1243年)銘が残り、国指定の重要文化財である。

戦国時代には比較的小規模な城址・砦が造られ、大胡氏の勢力圏に含まれていたとされる。五代伊勢宮遺跡の南方約1.3kmにある上泉城は、上泉伊勢守の居城という。

明治18年測量とされる「迅速測図」に、本遺跡の位置をプロットしたところ、東西両端に略南北流する谷地形があり、その中間の尾根筋に本遺跡がのっていることが判明した。谷筋を上流に追うと、溜池に至ることが多い。中世～近世に溜池を造成し、谷筋の水田を経営する給水施設の設営が進展したと考えられる。大正用水が完成するのは昭和27年である。

[参考文献]

『堤遺跡』群埋文568集,2013

『上毛古墳綜覧』群馬県,1938

『端気遺跡群』前橋市教育委員会,昭和57年,1983

前橋市史編さん室『前橋市史』第一巻,前橋市,1971

『勢多郡誌』1958

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

1 試掘調査

本遺跡周辺の試掘調査は平成19年12月に群馬県教育委員会文化財保護課によって実施された。幅約1mのトレンチ10カ所を設定して行われ、そのうち3・4・5トレンチが本遺跡の調査区域に相当し(第8図)、古墳時代～平安時代の集落が確認されたことから、本調査を実施することとなった。

2 調査区・グリッドの設定

天王・東紺屋谷戸遺跡は、東端の市道00-212号線と西端の無名の小河川(時沢西紺屋谷戸遺跡との境界をなす)に挟まれた東西約250m、幅約60mの区域である。市道00-212号線から約55m西側に南西流する小規模河川があり、この河川を境として東側をA区とした。B区は村道7023号線が北から接する地点(調査区域への出入口)を始点として南へ向かい、土地境界をカギの手に曲がり、市道05-005号線につながる線を西側の境界とした。C区はこの境界から西端までであるが、北西部に三角形を呈する東紺屋谷戸遺跡があり、その境界は土地境界であるとともに、市村境界である(第8図)。A区以西をB区C区の2つの調査区に分割したのは、調査進行に伴う残土置き場に苦慮したためである。

国土交通省による土地番号は天王遺跡が312～331、東紺屋谷戸遺跡が332～338である。そのうち天王A区は312～317、天王B区は318～324、天王C区は325～338(327除外)である。

グリッドは、8工区の起点である国家座標第IX系(世界測地系)X=45,000、Y=-63,000を基準に設定した。上武道路調査区域の統一仕様では、1km四方が地区、その中の100m四方を区とし、さらに区の南東隅を基点に5mごとにX軸が南から1～20、Y軸が東からA～Tをつけて小区画に細分した。この表記は遺構の位置を示したり、遺物の取上げ、遺物注記などの作業で使われている。本遺跡は6地区と7地区にまたがる区域であり、天王A区は主として6地区の40区と30区に、天王B区は7地区の31区に、天王C区は7地区の31区・32区に、東紺

屋谷戸遺跡は7地区31区・32区・42区に所属する(第9図)。

本遺跡も上武道路7工区までの仕様に従い、遺跡略称「JK」を使用した。天王遺跡はJK66、東紺屋谷戸遺跡はJK67である。

3 座標値

先述のように、本遺跡のX-Y座標は世界測地系の第IX系を利用し、グリッド設定の基準としている。後日、隣接地の発掘調査に利用する場合を考慮して、第8図(座標点A)に天王遺跡を代表するX-Y座標値を掲載した。遺構名称では、天王B区15住居南隅のP5中央の座標値である。この地点の緯度・経度は、北緯36度25分27秒、東経139度05分07秒である。測量上必要な詳細値は、表に示した。なお、ここに示した座標値は平成20年度当時の値である。平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(3.11東日本大震災を引き起こした地震)の後で列島が動いて座標値が変動したとの情報があり、この座標値は地震前の値であることを付記する。

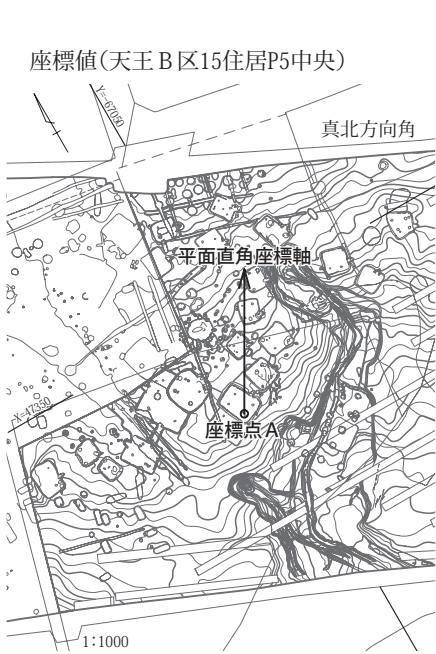
4 発掘調査の記録

現地調査では図面・写真及び調査所見を記録した。

図面は各遺構の平面図と断面図を作成した。平面図は電子平板によるデジタル測量を委託し、個別遺構は1/20の個別平面図の紙出力を作成した。断面図は平面図に対応する縮尺で発掘作業員が実測し、土層断面については調査担当者が注記を記入した。断面図は後日、デジタルトレースを委託した。

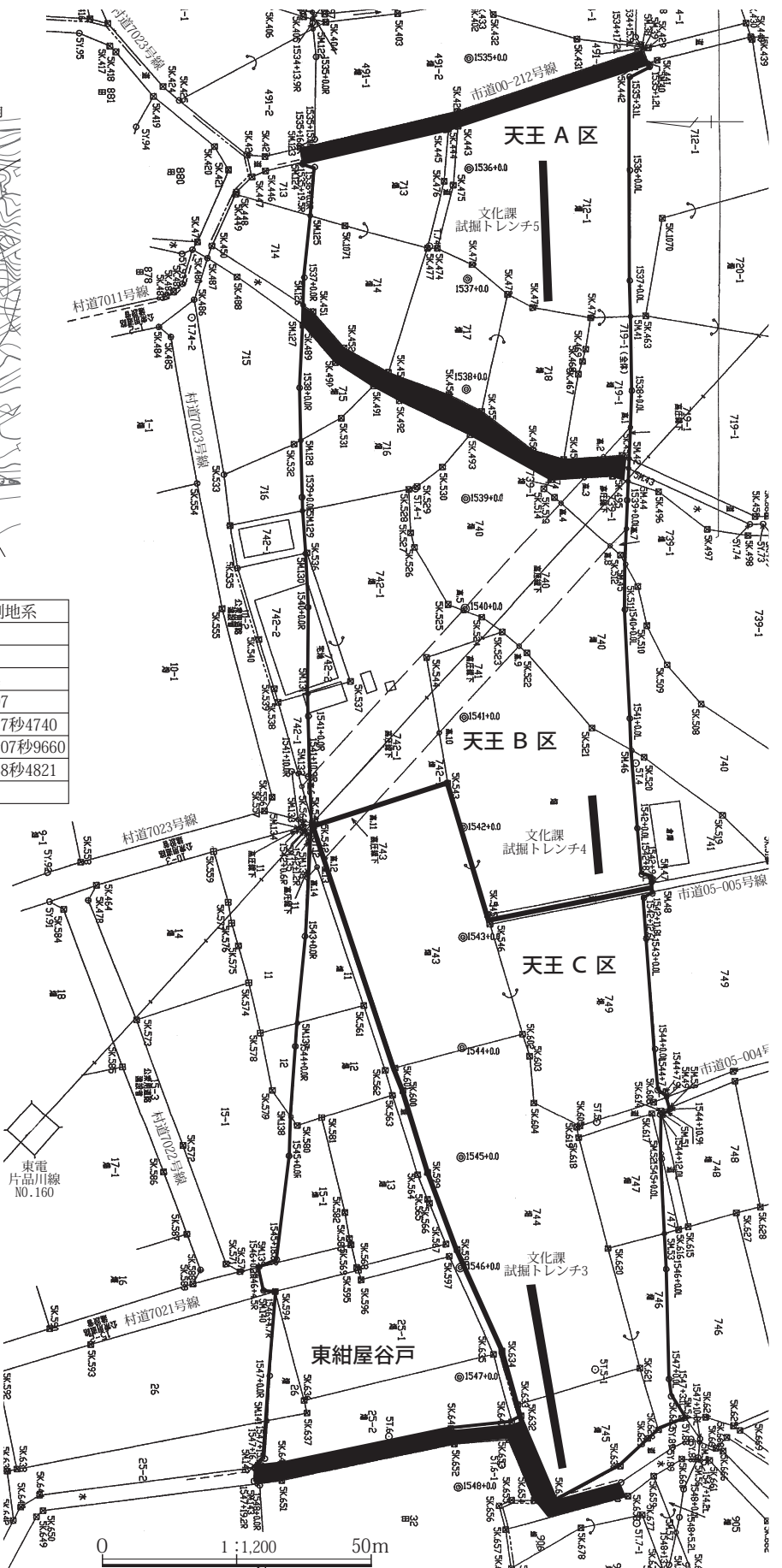
土層断面図の土層注記は調査担当者の観察に委ねたため、色名や硬さの記述について、不統一な部分が存在する。埋没土層には軽石粒を含む場合があるが、土層注記では確定できる場合を除き、「白色軽石」といった記述にとどめた。

遺構の記録写真は35mm版デジタルカメラ(800万画素)とモノクロフィルムを用いて撮影した。デジタル写真はRAWデータを記録したほか、JPG画像を同時記録し、後日の利用に備えた。モノクロフィルムは120タイプを利用し、6×7サイズで記録した。各区の全景写真は高所作業車から撮影した。

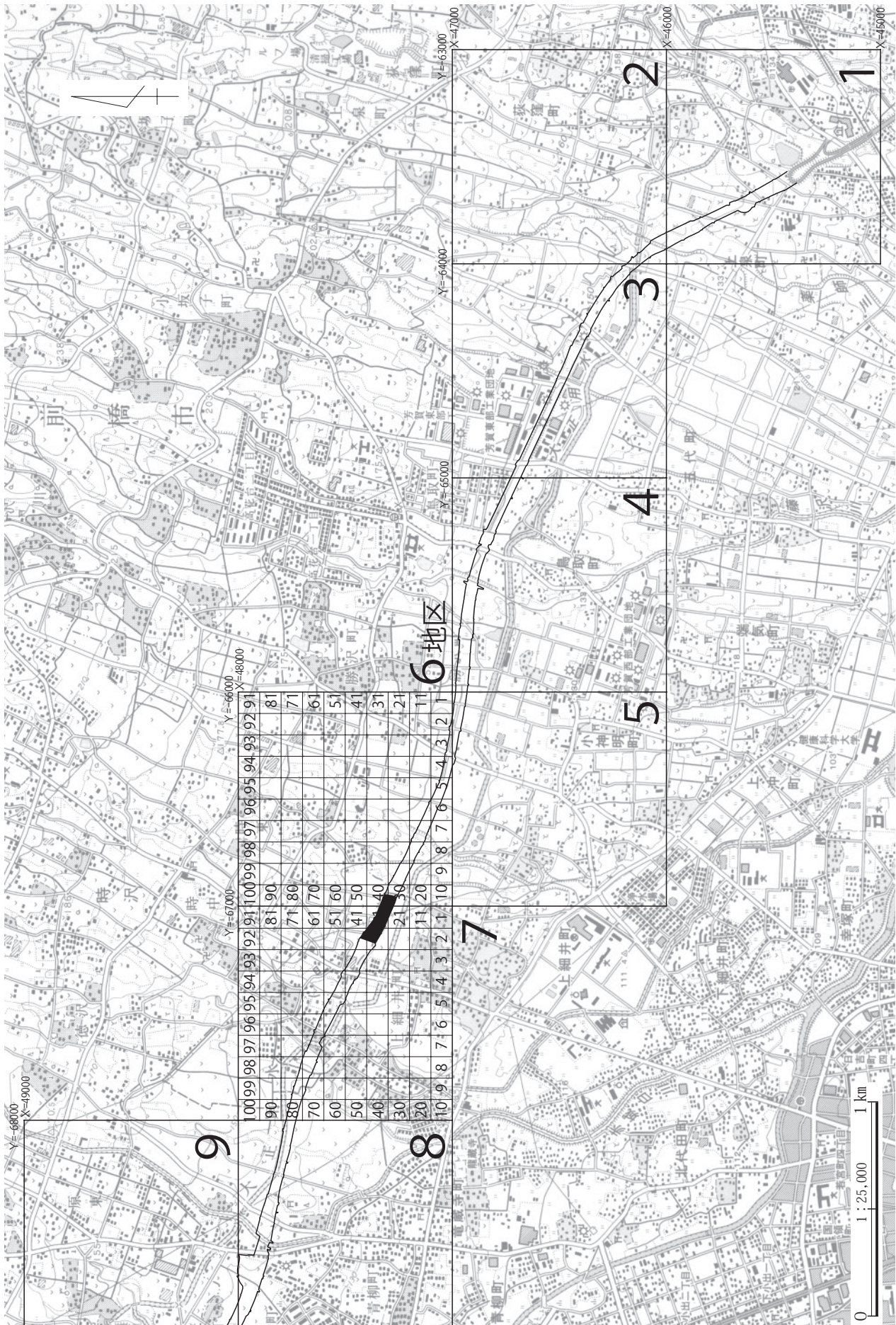


		日本測地系	世界測地系
座標点名		座標点A	
平面直角座標系		IX系	
座標値	X	46981.405	47336.504
	Y	-66762.599	-67054.097
緯度,経度	緯度	36度25分16秒1870	36度25分27秒4740
	経度	139度05分19秒4560	139度05分07秒9660
真北方向角		+0度26分31秒5410	+0度26分38秒4821
縮尺係数		0.999955	0.999955

(平成20年)



第8図 調査区の設定 国土交通省1/500用地図 平成19年に加筆,遺跡の座標値



第9図 上武道路調査測量グリッド設定図 国土地理院1/25,000地形図「前橋」「大胡」平成22年発行、「渋川」平成14年発行、「鼻毛石」昭和56年発行を使用

第2節 基本土層

天王・東紺屋谷戸遺跡では、表土(耕作土、新旧がある)の下位に白色軽石を含む褐色系の土が認められた。褐色系の土層は遺構を覆う場合と、遺構の埋没土の場合がある(表土下位にAs-Bテフラが認められる地点もあるが、ごく一部であった)。この層を除去すると黄褐色系のローム層が露出する。遺構確認面としては1面のみであった。

天王遺跡の代表としてB区南壁1・2の土層、東紺屋谷戸遺跡の代表として23住居北壁・2粘土採掘坑西壁・10粘土採掘坑北壁の土層を示す。土層採取地点は5カ所、第10図に●で示した。→は土層を見た向きである。

1 天王遺跡B区南壁1・2

B区は天王遺跡調査の第1着手地区である。B区南東部が浅い谷地形を示すことと、3井戸の流路下流がどのように延びているかの2つを確認するために、南壁沿いにトレンチを設定するとともに、南壁の土層を精査した。耕地整理による表土の下に、従来からの古い表土が一部に存在し、その下位にAs-B軽石を含む薄い層が認められた。As-B軽石直下の層は、水田であった可能性があるが、確認できなかった(第10図2層)。B区では3層直下が遺構確認面である。3層の下に暗褐色系で白色軽石を含む4層があり、主として奈良～平安時代の遺構の埋没土である。南壁は低地の土層であるため、4層下位に白色軽石を含む黒色系の土層7が堆積している。7の白色軽石はAs-Cと考えられる。

2 東紺屋谷戸遺跡23住居北壁

上位に耕地整理後の耕作土がのっており、その下位に以前の耕作土、さらにその下位に白色軽石を含む黒土が堆積する。白色軽石を含む耕作土の下面=ローム層が遺構確認面である。

3 東紺屋谷戸遺跡2粘土採掘坑西壁・10粘土採掘坑北壁

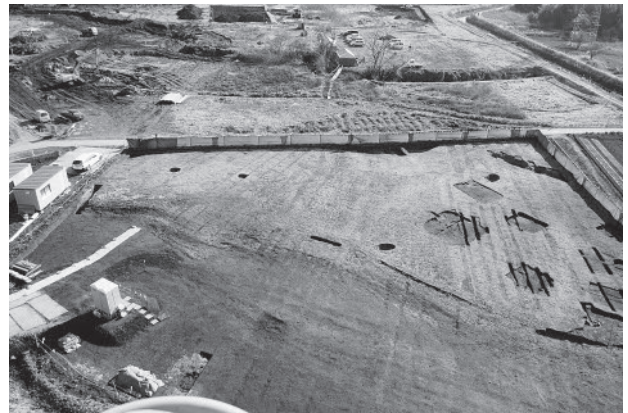
23住居西壁とほぼ同様で、ローム層上面が遺構確認面である。

第3節 調査の経過

以下、日誌から調査の経過を追う(天王遺跡はA B C区で表記し、東紺屋谷戸遺跡は東紺屋と表記する)。

9月 1日現地入り。準備を始める。12日表土掘削開始、試掘トレンチを確認。調査区の範囲を囲む環境整備を行う。17日表土掘削を続けながら遺構確認を始める。18日B区一部の住居の掘り下げを開始する。

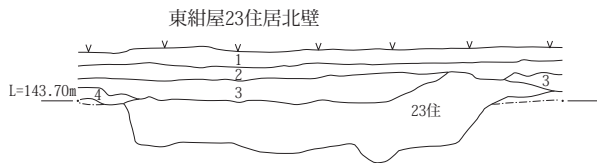
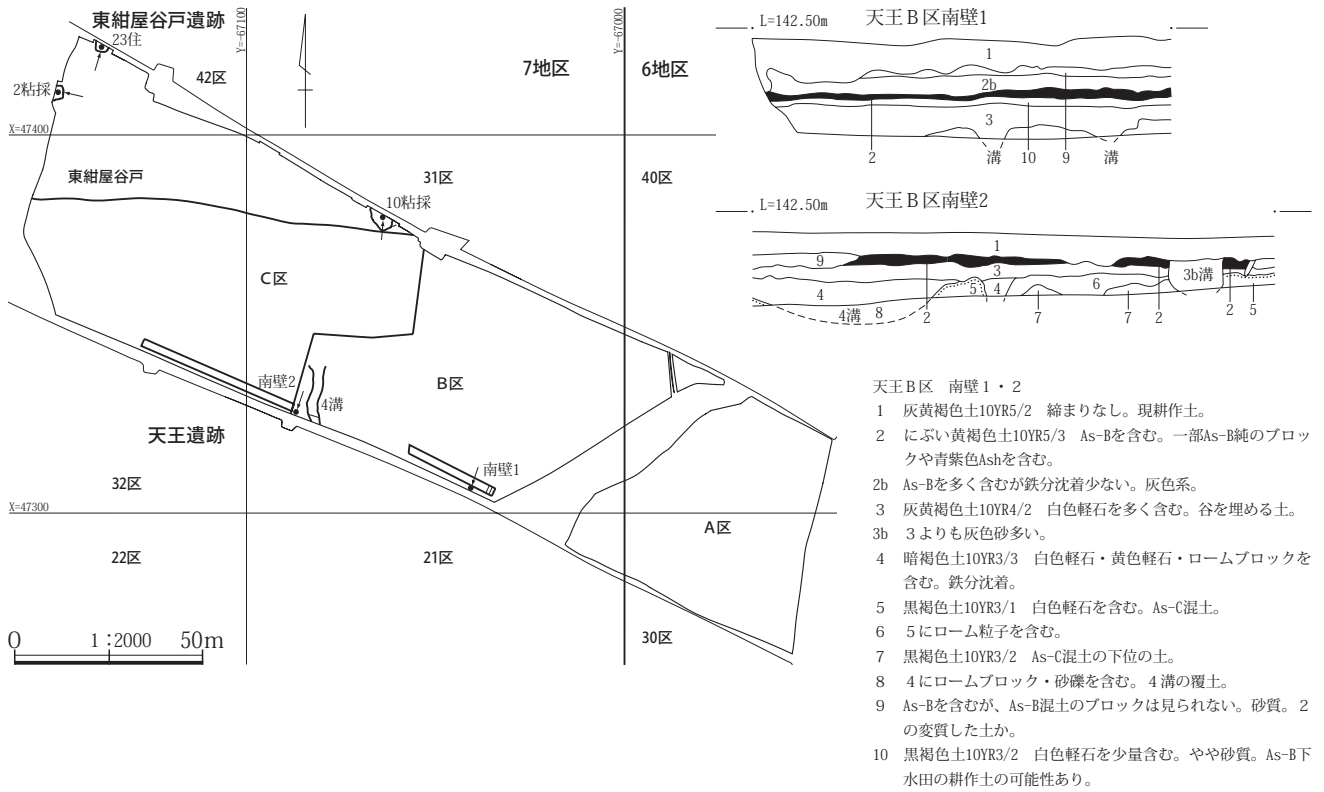
10月 7日B区の遺構の掘り下げ続行。C区・東紺屋の表土掘削を開始し、遺構確認を始める。8日雨対策として、低地部に土のうを積み、雨水が調査対象区域外に流失しないよう備える。10日B区の住居土層を分層し、実測・注記を進める。B区1・2・3住居の写真を撮影する。15日C区1～7住居の掘り下げを開始する。5住居土層の分層・実測・注記を進める。16日B区20住居の土層の分層・実測・注記を行う。C区1住居土層の分層を行う。17日B区東半部の全景写真を撮影する。C区6・8住居土層の分層を行う。5住居の遺物出土状態写真を撮影する。



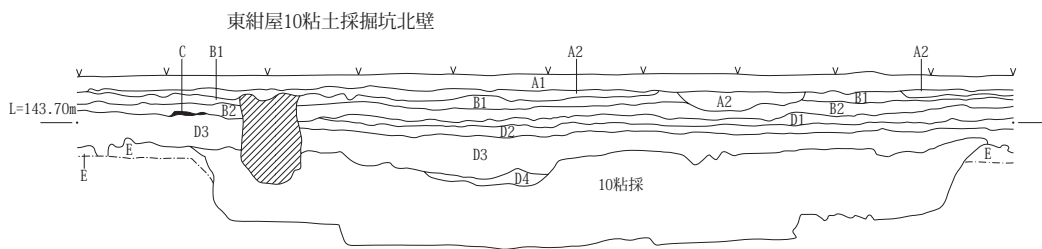
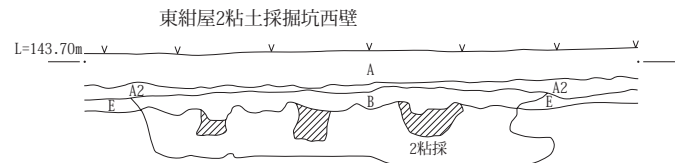
▲天王A区全景、写真上辺は上細井五十嵐遺跡



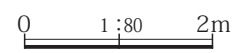
▲天王A区7・8住居の調査



- 東紺屋谷戸 23住
- 1 表土 現代耕作土。
 - 2 表土 旧耕作土。
 - 3 黒色土 白色軽石を少量含む。縮まりなし。
 - 4 黄褐色土 ローム層。



- 東紺屋谷戸 2・10粘採
- A1 表土 耕作土。
 - A2 表土 耕作土。
 - B1 褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。
 - B2 黒色土 B1に似る。白色軽石を含む。砂質。
 - C As-Bテフラ。砂層。
 - D1 黒色土 白色軽石を含む。B層よりも軽石多い。
 - D2 黒色土 D1に似るがやや明るい。褐色味あり。
 - D3 黒色土 白色軽石をD1・D2より多く含む。1～2cm大のロームブロックを少量含む。粘土採掘坑を最後に埋めた土。
 - D4 黒褐色土 D3と比べやや褐色。ロームブロックと黒色土ブロックを含む。
 - E 黄褐色土 ローム漸移層。



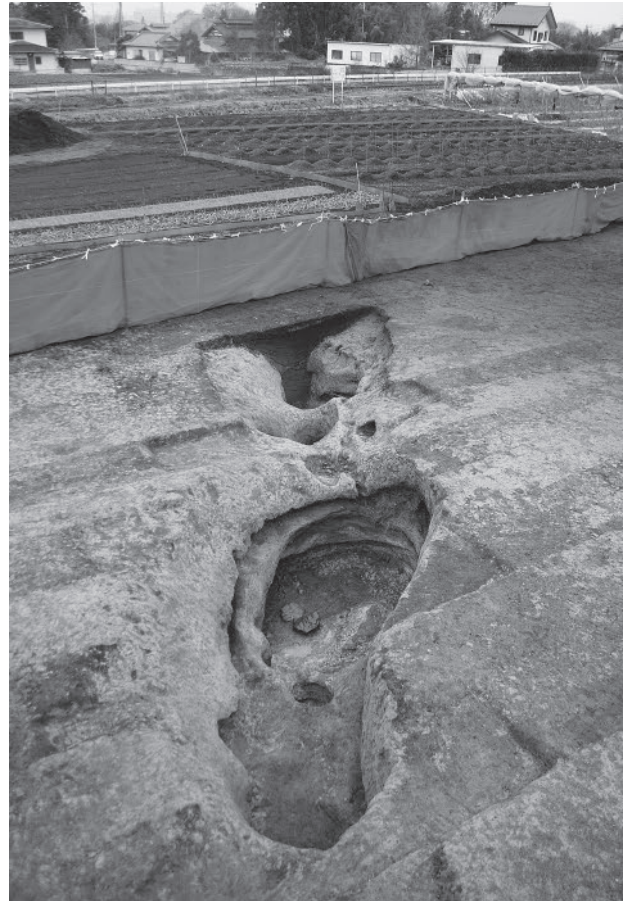
第10図 基本土層図 天王B区南壁、東紺屋谷戸23住居・2粘土採掘坑・10粘土採掘坑

第3章 調査の方法と経過

20日B区1～3住居の平面図測量を始める。C区1・2・6・7住居土層の分層・実測を進める。21日B区7・9・11・12住居の遺物出土状態写真を撮影する。22日B区1・2井戸の遺物出土状態写真を撮影する。C区1・8住居の遺物出土状態写真を撮影する。23日1・2確認トレンチの掘り下げを開始する。C区2・3・6住居の遺物出土状態写真を撮影する。27日B区22・23住居土層の分層・実測・注記を始める。C区7住居遺物出土状態写真を撮影する。29日C区7・8・9・10・18・19住居の床面写真を撮影する。C区2・5・7・8住居の床面写真を撮影する。30日B区3井戸の掘り下げを開始する。流路を検出する。31日B区3井戸流路の掘り下げ続行。

11月 4日B区6・7・8・9住居の掘り方調査を始める。C区3住居の掘り方調査を始める。5日B区21-22住居の遺物出土状態写真を撮影する。C区2・5・7住居の掘り方調査を始める。10日B区3井戸を掘り下げ、流路の遺物写真を撮影する。C区7・8住居の掘り方調査を始める。13日1井戸の掘り方全景写真を撮影する。C区5・7住居の掘り方全景写真を撮影する。14日B区2井戸の周辺を精査する。20日B区23住居床面を精査する。25日A区の調査区を囲い、表土掘削を開始する。B区旧石器確認トレンチを掘り下げる。C区3住居掘り方全景写真を撮影する。

12月 1日遺構確認に続けて住居の掘り下げを開始する。B区旧石器確認トレンチの掘り下げを続行。2日A区遺構確認を続ける。B区3井戸の遺物取上げを開始する。3日A区1・2・3住居の掘り下げを進める。B区21-22住居の掘り方全景写真を撮影する。4日A区1～6住居の掘り下げ続行。地形確認1・2トレンチの掘り下げを開始する。B区一部の埋め戻しを開始する。8日A区1～9住居土層の分層・実測・注記を開始する。B区3井戸掘り方を精査する。11日A区確認トレンチ土層の分層・実測・注記を進める。全景写真撮影の準備を開始する。B区3井戸確認トレンチ土層の分層・実測・注記を進める。埋め戻し続行。12日A区全景写真撮影。B区埋め戻し続行。事務所移転準備。15日A区8・9住居床面を精査する。C区全面表土掘削準備をする。17日A区旧石器確認トレンチを設定し、掘り下げを開始する。C区調査区域を杭で確認する。東紺屋調査区域を杭で確認する。18日A区溝・河道・道路等の写真を撮影する。



▲天王A区1溝 北から



▲天王B区住居の調査



▲天王B区1井戸流路 北から

B区C区防塵ネット張りを確認する。19日A区8住居床面を精査する。その他住居掘り方調査を進める。B区調査終了。C区調査区南辺の表土を掘削する。24日A区旧石器確認トレンチの写真を撮影する。B区事務所設置工事。C区表土掘削を続行する。25日A区旧石器確認トレンチ土層の分層・実測・注記を進める。調査終了。C区表土掘削続行。壁土層精査。周囲の環境を整備する。

平成21年1月 6日A区埋め戻し開始。C区表土掘削・遺構確認を進める。測量用杭打ちを始める。8日C区表土掘削・遺構確認を続行する。溝・攪乱の掘り下げを進める。9日降雪のため作業休止。14日東紺屋表土掘削を開始する。遺構確認を始める。16日C区9・27・28住居の掘り下げを開始する。東紺屋表土掘削・遺構確認を続行する。20日C区9・28住居土層の分層・実測・注記を進める。21日C区16・27・37住居掘り下げを進める。26日A区埋め戻し・整地終了。東紺屋表土掘削終了。遺構確認を進める。27日C区14住居・1井戸掘り下げを進める。土坑・ピット土層の分層・実測・注記続行。29日C区1井戸石組みの写真を撮影する。14・49住居土層の分層・実測・注記を行う。30日10住居掘り下げ開始。

2月 2日C区9・14・27住居の床面を精査する。5日C区1井戸石組みの3回目写真を撮影する。27・49住居の遺物出土状態写真を撮影する。6日C区9・10・11・14・29住居の遺物出土状態写真を撮影する。10日C区21・22・24住居の掘り下げを開始する。12日C区粘土採掘坑の存在を確認する。16日C区10～20住居の掘り方調査を進める。21～25住居(粘土採掘坑)の掘り下げを続行する。東紺屋第2班着任、調査開始。17日C区10～17住居掘り方調査を進める。1井戸掘り方底面の写真を撮影する。東紺屋1住居・2粘土採掘坑掘り下げ開始。18日東紺屋1住居全景写真を撮影し12・13住居の掘り下げを開始する。19日C区10～20・49住居掘り方全景写真を撮影する。2・3粘土採掘坑の全景写真を撮影する。東紺屋4住居カマド調査を進める。20日降雪。23日降雨。東紺屋3住居床面精査する。24日40・41住居土層の分層・実測・注記を進める。東紺屋12住居全形写真を撮影する。25日東紺屋3～5住居全景写真撮影。7住居床面精査を進める。26日東紺屋8住居遺物出土状態写真撮影。

3月 2日強風。C区30・33・42・45住居土層の分層・実測・注記を進める。31・32・34住居掘り下げ開始。東



▲天王B区2井戸周辺ピットの調査



▲天王C区6住居の調査



▲天王C区と東紺屋谷戸の境界 西から



▲天王C区西端の調査

第3章 調査の方法と経過

紺屋6住居・1井戸掘り下げを進める。3日C区30・31・33・42・45住居遺物出土状態写真を撮影する。26・40・41住居掘り方調査を進める。東紺屋15住居掘り下げ。5日C区34～36住居掘り下げ開始。38・39・46・47・48住居プラン確認作業を進める。東紺屋11・12住居掘り方全景写真を撮影する。6日降雨のため作業休止。10日C区38・39・46・47・48住居掘り下げ開始。東紺屋23住居掘り下げて全景写真撮影。1火葬跡掘り下げて全景写真撮影。12日C区42・45住居掘り下げ開始。東紺屋9・10住居掘り下げ開始。13日C区31・32・35・36住居掘り方調査を進める。6粘土採掘坑遺物全景写真撮影。東紺屋19住居カマドを精査する。9粘土採掘坑全景写真撮影。16日東紺屋1火葬跡全景写真撮影。17日東紺屋11住居掘り方全景写真撮影。18日C区・東紺屋全景写真を撮影する。C区1～11掘立柱全景写真撮影。19日C区34・38・39・46住居掘り方調査続行。48住居掘り方全景写真撮影。東紺屋9b・9c住居全景写真撮影。23日強風。24日C区38・39・46住居掘り方調査続行。東紺屋8～11掘立柱全景写真を撮影する。25日降雨。C区溝・土坑・ピット・攪乱の掘り下げ、土層の分層・実測・注記を進める。東紺屋19住居掘り方を精査する。26日東紺屋10住居掘り方を精査する。27日C区調査終了。撤収準備、埋め戻し準備。30日東紺屋34～36土坑全景写真を撮影する。調査終了。



▲東紺屋谷戸の調査



▲東紺屋谷戸12住居カマドの実測

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 概要

1 各区の概要 (第8・11図)

天王・東紺屋谷戸遺跡では東寄りから現地地形や道路等を境界として、天王A区B区C区、東紺屋谷戸の4区域の調査区を設定して調査を進めた(以下、天王遺跡ではA区B区C区と略記し、東紺屋谷戸遺跡は東紺屋と略記する)。A区とB区との境界は浅く小規模な無名の水路である。B区とC区との境界は、調査対象区域へ北から進入する道路(村道7023号線)を起点として、土地境界を逆L字形に曲がり、市道05-005号線に至る線である。C区と東紺屋との境界は市村境界線で、表土下に土管暗渠が敷設されていた。

A区

調査区東端に位置する。北東辺約25m、南西辺約70m、高さ約60mの台形を呈する。北西側にB区との境界とした無名の水路があり、北西寄りの区域は湧水の多い低地であった。低地では遺構を検出することができず、東寄りの区域で住居・溝等を検出した。西端部でロームの堆積が認められたことから、B区の微高地の東側末端がA区西端に存在したことが確認でき、本来の低地はA区西寄りの区域を南西に向かっていたと推定される。無名水路は耕地整理等により付け替えられた可能性が高い。

A区では9軒の住居を調査したが、いずれも古墳時代後期から奈良時代までに営まれたと推定される。1溝とした不整形の掘り込みは、下位に砂礫が堆積し、埋没土の上位にHr-FAとみられるテフラが下に凸のレンズ状に自然堆積していた。テフラ分析を実施していないが、芳賀東部団地遺跡で検出したものと同等の様子が認められた。このテフラがHr-FAだとすれば、1溝は古墳時代の所産の可能性が高い。1溝の内部は円形・不整形の掘り込みをもち、上流となるべき谷地形が見当たらず、北東端で行き止まりとなっていた。逆に、南西部は水路状になっており、調査時にも底面から湧水があったことから、

湧水を南側の水田へ給水する溜井と考えられる。

B区

A区の西側に隣接し、北東辺約85m、南西辺約60mの不整形の区域である。中央部に幅15mほどの浅い谷地形があり、南に向かって低くなる。略三角形の東北部が小高くなって、数軒の住居が存在した。この小高い地形は、A区西端のローム裾部につながるとみられる。西半部は微高地となり、B区内で26軒の住居を検出した。これらは概ね奈良～平安時代の所産と推定される。21住居と22住居は、約1m×2.5mの長方形を呈する掘り込みでつながっており、「廊下状」を呈する。

B区では井戸を3基検出したが、2井戸が汲上げ井戸であるのに対し、1・3井戸は南東へ向かって水を流し出す流路をもつ構造で、溜井と考えられる。3井戸の湧水点は略円形の土坑状を呈し、その南側に平坦な石を立てて据え、溢れた水が南東側へ落ち込む構造となっていた。南東側は石垣のように組み上げ、底面にも石を敷いていたと推定するが、調査時には崩壊していた。石組み付近から南側に4m×7mほどの平坦な池状施設があり、末端から流路がS字状に延びて、B区の南壁に向かっていった。1井戸の南東部も開口しており、1本の流路は3溝の流路と平行して南東流していた。残り1本は4溝と呼んだ流路で、やや西側に寄った位置で南へ向かって延びていた。1・3井戸とも、微高地の縁辺部に位置し、当時の人が湧水点を承知していたことを窺わせる。

C区

B区の西側につながる区域で、北辺の長さは約105mである。近現代とみられる耕作痕が多数ある上、ピット・土坑も多数認められ、掘立柱建物として組み合わせる柱穴がいくつか推定された。掘立柱建物は北から数十度またはこれに直交する方位をもつものと、北から十数度の方位をもつものの、2つがあった。数十度型は中央部から東寄りに多く、十数度型は西寄り組み合わせが可能だった。

C区で特徴的な遺構は、粘土採掘坑である。22-23-24住居が重複していると想定した遺構は、1)火処がなく、2)底面に凸状の帯区画があり、3)壁が抉れている、と

第4章 検出された遺構と遺物



第11図 天王A・B・C区、東紺屋谷戸遺跡の主な遺構の分布図

第3表 天王・東紺屋出土遺構数量表

	時代 遺構種	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世	不詳	小計	備考
A区	住居				7	1		1	9	
	堅穴								0	
	掘立柱建物								0	
	柵								0	
	井戸								0	
	溝				1			1	2	溜井1
	粘土採掘坑								0	
	土坑						4		4	近現代か
	ピット								0	
	道路						2		2	近代以降か
その他							1	1	旧河道1	
B区	住居					27			26	欠番1(25住は1住の一部か)
	堅穴					1			1	
	掘立柱建物					1			1	
	柵								0	
	井戸					3			3	溜井2
	溝					1	1	2	2	溜井1、欠番2(耕作痕)
	粘土採掘坑								0	
	土坑							86	85	欠番1
	ピット							78	78	
	道路						2		2	近現代か
その他								0		
C区	住居					49			42	欠番7
	堅穴								0	
	掘立柱建物					13			12	欠番1(柵)
	柵					2			2	
	井戸					1	1		2	
	溝							17	17	
	粘土採掘坑					7			7	
	土坑							37	36	欠番1
	ピット							597	596	欠番1
	道路						1		1	
その他								0		
東紺屋谷戸	住居					25			17	欠番8
	堅穴								0	
	掘立柱建物					13			13	
	柵					1			1	
	井戸					2			2	
	溝								0	
	粘土採掘坑					12			12	
	土坑							36	25	欠番11
	ピット							199	112	欠番87
	道路						1		1	近現代か
その他						1		1	火葬跡1	
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世	不詳	小計	備考
計	住居	0	0	0	7	85	0	1	93	
	堅穴	0	0	0	0	1	0	0	1	
	掘立柱建物	0	0	0	0	26	0	0	26	
	柵	0	0	0	0	3	0	0	3	
	井戸	0	0	0	0	4	1	2	7	
	溝	0	0	0	1	1	1	18	21	
	粘土採掘坑	0	0	0	0	19	0	0	19	
	土坑	0	0	0	0	0	4	148	152	
	ピット	0	0	0	0	0	0	787	787	
	道路	0	0	0	0	0	6	0	6	
その他	0	0	0	0	0	1	1	2		

第4章 検出された遺構と遺物

いう特徴が認められ、粘土採掘坑と推定した。粘土採掘坑は主としてC区中央部の北東-南西の方向に分布し、住居が分布しない帯状の区域を形成していた。

C区6住居はやや大き目の規模をもち、カマド付近に略南北走行の地割れが走り、硬い床面の中央部が陥没してモザイク状を呈していた。堆積土の下位は、北側から一気に土砂が流れ込んだ様相を示し、カマドに架けられた甕は、使用時に近い位置から出土した。46住居にも地割れと床面の陥没を示す状況が認められた。

東紺屋

天王C区の北側に接する区域で、C区と東紺屋とは市村境界で分けられる。南辺・北東辺は約105mで、北西辺約45mと併せて細長い三角形を呈する区域である。天王遺跡と比較すると、遺跡としては似た様相であるが、天王遺跡には溜井が存在して湧水点があること、「東紺屋谷戸遺跡」はすでに旧富士見村で命名されていたこと、調査時点で所属市村が異なることを勘案して、別遺跡とした。

東紺屋では奈良～平安時代の住居、粘土採掘坑、井戸、天王C区と似た方位をもつ掘立柱建物二種を検出した。また、1基のみであるが、火葬跡を確認した。掘立柱建物では、北から十数度の方位をもつ建物が西寄りにやや多く分布し、東寄りの建物はC区と同じく北から数十度の方位をもつ。9掘立柱と10掘立柱とは柱穴の一部が重複しており、10掘立柱→9掘立柱の順に新しいことが確認された。

第4表 天王・東紺屋出土遺物数量表
掲載遺物

	縄文			古墳～平安						中近世以降					時代不明	ガラス玉	金属製品
	土器	石器	剥片	土器・土製品	石製品	石製品写真のみ	金属製品	鉄滓	その他	土器・土製品	陶磁器	石製品	その他	銭貨			
天王A区	8	5	0	23	2	0	3	0	0	0	0	0	0				
天王B区	20	7	0	343	11	1	10	1	0	0	0	0	0				
天王C区	3	4	0	753	22	1	36	3	0	0	0	0	0				
東紺屋	2	2	0	226	11	2	1	0	0	0	0	0	0				
小計	33	18	0	1345	46	4	50	4	0	0	0	0	0	0	0	0	

非掲載遺物

	縄文			古墳～平安						中近世以降					時代不明	ガラス玉	金属製品
	土器	石器	剥片	土器・土製品	石製品	金属製品	鉄滓	その他	土器・土製品	陶磁器	石製品	その他	銭貨				
	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg	重さg				
天王A区	0:109.0	2:260.9	0:0.0	0:9,005	3:1706.6	0:0.0		0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0				
天王B区	0:500.0	10:844.4	0:0.0	0:165,392	2:325.9	0:0.0		0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0				
天王C区	0:24.0	5:855.0	0:0.0	0:237,916	4:1251.9	0:0.0		0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0				
東紺屋	0:18.0	7:744.2	0:0.0	0:57,115	0:0.0	0:0.0		0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0				
小計	0:651.0	24:2704.5	0:0.0	0:469,428	9:3284.4	0:0.0		0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0	0	0	
合計	33:651.0	42:2704.5	0:0.0	1345:469,428	55:3288.4	50:0.0	4:	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0:0.0	0	0	0	

2 時代別概要

各区を通して、以下時代別に概要を記す。

旧石器時代

天王ABC区及び東紺屋でトレンチを設定して、旧石器の有無を確認したが、B区で1点の剥片を発見したのみで、その他の区域では出土しなかった。

縄文時代

4区域とも、明確に縄文時代とみられる遺構はなく、数十点の縄文土器・石器が出土したのみである。縄文時代の遺物は、遺構外出土遺物、または遺構内出土であっても遺構所属時期と大幅に異なっていて、遺構の時代・時期とみなすことのできないものである。掲載遺物はすべて遺構外出土品としてまとめた。

弥生時代

この時代の遺物はなく、弥生時代と推定される遺構もなかった。

古墳時代

この時期では、A区1・2・4・5・7～9住居、A区1溝(溜井)が後期の所産と考えられる。前期と推定される遺構は検出しなかった。

飛鳥時代

古墳時代後期の一部に含まれる考え方もあり、一律にできないが、7世紀後半ころとみられる住居がいくつか存在する。天王B区の6・18・21・22住居、C区の6・

9・26・27・28・37・40・42・49住居、C区2粘土採掘坑、東紺屋9c・10・12・23住居である。

奈良～平安時代

B区・C区住居の大半は奈良～平安時代の所産と考えられる。また、大半の粘土採掘坑は奈良～平安時代の所産とみられる。掘立柱建物で北から数十度の方位をもつものは、この時期に所属すると考えられる。

中世

明確に中世とできる遺構は見当たらなかった。東紺屋1火葬跡は中世の所産の可能性が高い。北から十数度の方位をもつ掘立柱建物は、平安時代～中世の所産の可能性が高い。

近世以降

各区の土坑・ピットのほか、A区B区C区の道路、東紺屋1道路は、近世以降の所産とみられ、近現代に下る可能性がある。

以下、時代別の記述では古墳時代後期～飛鳥時代、飛鳥～奈良時代、奈良～平安時代などの境界時期を土器の年代観によって明確に区別できないこと、所属時期不明の溝・土坑・ピットが多数あること、時代別の地区全体図を作成すると煩雑になること等から、天王遺跡ABCの各区、東紺屋谷戸遺跡の4区域に分けて、検出された遺構と遺物を記載する。

第2節 天王遺跡A区

A区の概要（第12図、PL.1・2）

A区は調査工程の都合により、第二に着手した区域である。調査対象面積は3,035.95m²である。着手前の地形は、A区B区の境界としたA区西側を略南北に流れる水路を挟んで、A区側はB区よりも地表面が一段下がっていた。A区内を東に向けて緩やかに上り傾斜していることにより、A区の東側が台地であり、西側が低地であると想定し調査を開始した。遺構確認面の標高は、北東部で142.90m、南寄りの台地部で141.40mである。

A区では現代耕作痕が東西に伸びており、調査区域全面に広がっていた。東半分は台地であるらしく、現代耕作土を除去すると直下にローム層とみられる面が検出された。耕地整理により高まりが削平された可能性が高い。西半分は低地で水を多く含んだ土が堆積し、谷地形と推

定された。トレンチを4本設定して旧地形等を確認したが、As-B軽石下水田を検出することはできなかった。

台地部南側で住居を9軒検出し、出土遺物から古墳時代後期と推定したが、いずれの住居もしっかりした床面が全体的に検出されず、床下との区別に苦心した。地震跡の地割れが検出されたのは2・3・6・9住居である。

台地の南東部では、下位に砂礫が堆積し、埋没土最上層直下にHr-FAの堆積を持つ1溝を検出した。溝の北端部では直径約70cmの円形土坑が底面にあり、内壁がオーバーハングしていること、下部に砂礫層が堆積していることなどから湧水点と判断し、北端部の湧水点から中央部の大小の掘り込みを通り、南に流れ出す「溜井」と考えられる。埋没土最上層直下にHr-FAが自然堆積していることから、1溝は古墳時代の所産と推定される。

台地の北東部では連続的に並んだ拳大の石が検出された。ほぼ同じ深さで直線的に並ぶことから、近代以降の道路跡と推定した。

調査区中央部の東寄りでは、灰色の半円状の窪みが検出された。管玉(非掲載)が検出されたことから、当初古墳の周堀と想定したが、調査の結果、自然地形の旧河道と推定された。管玉は上流の古墳の遺物が混入したものであろう。

A区調査の最終段階で旧石器確認トレンチを7カ所設定して掘り下げ、北寄りのトレンチの表土下にAs-YP層を確認した。下位はシルト質で、石や礫が多く混在していた。石器剥片等の出土はなかった。

A区 1住居(第13・14・193図、PL.3・134)

検出位置 30区Q18～19グリッド付近で検出した。A区の中央部やや南寄りである。

重複関係 上位に耕作痕があり、これに伴うと推定される攪乱によって一部が破壊されていた他は、重複がない。覆土 黒褐色～褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ6～19cmで、東側がやや高い。東西5.10m、南北5.34mで南北がやや長い。各辺の長さは南辺4.57m、西辺4.67m、北辺4.21m、東辺4.82mである。各隅は丸味を帯びている。

床面 細かい凹凸があるが、概ね平坦である。住居中央部は踏み固められている。

第4章 検出された遺構と遺物

主柱穴 平面位置ではP1・P2・P3・P4・P5と考えられる。P4はやや浅い。各ピットの規模はP1:31×31・深さ27cm、P2:35×44・深さ69cm、P3:40×36・深さ62cm、P4:39×37・深さ42cm、P5:38×31以上・深さ78cmである。ピット間の距離はP5-P2:2.92m、P2-P3:2.58m、P3-P4:2.76m、P4-P5:2.61m、P4-P1:2.20m、P1-P2:2.60mである。

壁溝 東辺を除き、他の辺壁下からは検出した。幅16～22cm、深さ6～14cmである。

カマド 東辺中央やや南寄りに設置する。左袖部の粘土が一部遺存していたが、右袖部は遺存不良であった。壁の位置が燃烧部と考えられる。燃烧部から斜めに壁外に向かって煙道部が延びる。カマド土層断面の観察では、カマド構築粘土が最終燃烧部下位の掘り方に存在することから、作り替えの可能性が高い。

貯蔵穴 P7。床面下の南東隅で、不整形の二段に掘られた102×83・深さ68cmの掘り込みを検出した。貯蔵穴の可能性はある。

掘り方 凹凸が著しい。西半部は不整形に深く掘り込まれている。カマド前のP4付近、中央部、P3付近から土器小片が出土した。

その他 南辺中央部の床面壁際に、焼土が分布する。

遺物 中央部で土師器小型甕(A4)、土師器甕破片(A6)、丸い石が出土し、カマド前で底面を上にした状態で複数の孔をもつ土師器甕(A3)が出土した。南東隅付近の破片は床面から浮いた状態である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、古墳時代後期の7世紀前半と推定する。

A区 2住居(第15・193図、PL.3・4)

検出位置 30区N17グリッド付近で検出した。A区の中央部やや南寄りで、1住居との最短距離は4.5mである。

重複関係 上位に耕作痕があり、これに伴うと推定される攪乱によって一部が破壊されていた他は、重複がない。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ7～15cmで、東側がわずかに高い。東西4.88m、南北3.77mで東西に長い長方形プランをもつ。各辺の長さは南辺4.67m、西辺3.44m、北辺4.82m、東辺3.43mで、北辺よりも南辺がやや短い。

床面 細かい凹凸があるが、概ね平坦である。

主柱穴 不明。P2:34×33・深さ13cmで、浅い。

壁溝 南辺-西辺及び北東隅付近で認められた。北東隅の掘り込みは不整形である。幅20～35cm、底面幅5～8cm、深さ7～16cmである。

カマド 東辺中央やや南寄りに設置する。左右の袖基部が遺存しており、燃烧部は住居壁の内側にある。

貯蔵穴 南東隅のP1と考えられる。P1は全体に不整形で、浅い。P1:66×57・深さ15cmである。

掘り方 全面に凹凸が著しい。中央部を除く壁際に不整形の掘り込みがあり、それらの中に径20～35cmの小ピットが8個認められた。西半部で地割れが2本平行して走り、西側の地割れにかかって杯または甕の底部片が出土した。地割れは床面水準で痕跡があり、北辺の外に延びていたことから、地割れは住居よりも新しい。

その他 なし。

遺物 南東隅付近で30cm大・40cm大の大きめの石が出土した。北側の30cm大の石は焼けた痕跡があり、カマド構築材の一部だった可能性が高い。住居中央部やや北寄りで長さ13cmの細長い石が出土した。その他の土器はすべて小片である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、古墳時代後期の7世紀前半と推定する。

A区 3住居(第16図、PL.4)

検出位置 30区Q18～19グリッド付近で検出した。A区の中央部やや南寄りで、1住居との最短距離は5.0m、4住居との最短距離は5.9mである。

重複関係 上位に耕作痕があり、これに一部が破壊されていた他は、重複がない。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ5～13cmで、遺存不良である。東西3.24m、南北3.35mで南北にやや長い、略方形のプランをもつ。各辺の長さは南辺2.94m、西辺3.02m、北辺3.24m、東辺3.22mで、北辺よりも南辺がやや短い。各隅及び各辺の中間点を検出したが、炉・カマドとも確認できなかった。東辺中央部の壁際に、カマド痕跡らしき焼土混じりの土が認められた。耕作痕による破壊が著しい。

床面 概ね平坦である。

主柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド 不明。東辺中央部に焼土混じりの土が分布していた。

貯蔵穴 不明。

掘り方 遺存していた範囲で凹凸が著しい。南辺寄りで19×16・深さ13cmの小ピットを検出したのみである。

その他 南西隅の壁外に地割れが認められた。この地割れは北辺中央部の壁に断面を残しており、壁外につながって北に向かって延びていた。

遺物 土器小片が3個のみで、掲載可能な遺物がない。

時代・時期 出土土器小片でみる限り、古墳時代か。火処がなく、時期判定可能な出土遺物がないため、不明である。地割れとの前後関係は判定できなかった。

A区 4住居(第16・193図、PL. 4)

検出位置 30区O～P17グリッド付近で検出した。A区の中央部やや南寄り、1住居との最短距離は3.3m、2住居との最短距離は3.2mであり、3住居とは5.9m離れる。1～4住居の各辺は概ね平行しているように見える。

重複関係 上位に耕作痕があり、これに一部が破壊されていた他は、重複がない。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ22～36cmで、北側がやや深い。東西3.50m、南北3.31mで東西にやや長い長方形のプランをもつ。各辺の長さは南辺3.34m、西辺3.20m、北辺3.15m、東辺3.07mで、東辺が短い。北東隅は耕作痕により破壊されていたが、わずかに痕跡を残していた。

床面 概ね平坦で、カマド前付近が踏み固められていた。主柱穴 P2・P3・P4と考えられる。北東部の柱穴は耕作により破壊されたと思われる。

P2:35×37・深さ22cm、P3:36×38・深さ15cm、P4:37×42・深さ37cmである。ピット間の距離は、P2-P3:1.58m、P3-P4:1.55mである。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。大半を耕作により破壊されていたが、わずかに右袖基部と奥壁の一部が遺存し、右袖部前には焼土を含む土が分布していた。遺存してい

た範囲でみると、燃焼部は住居の壁に半分ほどかかると推定される。

貯蔵穴 南東隅のP1とみられ、二段に掘り込まれていた。P1:95×76・深さ61cmである。

掘り方 底面の凹凸が著しく、南西隅・北西隅・北東隅付近は不整形に掘り込まれていた。

その他 南辺中央部の壁に接して、略半円形の階段状遺構が認められた。壁外から落差20cmで内部に至り、斜めに下がりながら落差約5cmで床面になる。P2とP3との中間点に位置していることから、出入口施設と考えられる。遺物 階段状遺構の西脇から土師器杯片(A12)が、P4の中から土器片が出土したほか、西片寄りの床面から10cm大の石、P4付近からも10～15cm大の石2個が出土した。時代・時期 出土土器小片の特徴から、古墳時代後期の7世紀代と推定する。

A区 5住居(第17・193図、PL. 5・134)

検出位置 30区R～S18グリッド付近で検出した。A区の南寄りに位置し、6住居との最短距離は0.7m、北側の3住居との最短距離は3.5mである。

重複関係 上位に耕作痕があるほか、北西辺は2溝によって破壊されていた。

覆土 にぶい黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ3～25cmで、遺存の良い北側がやや高い。プラン確認の時点では、東隅・南隅をかりうじて確認したが、掘り方調査では北隅・西隅も検出した。掘り方調査での規模は、北東-南西4.32m、北西-南東4.21mで北東-南西がやや長い、ほぼ方形のプランになると考えられる。各辺の長さは南西辺3.55m、北西辺4.11m、北東辺4.06m、南東辺4.32mである。

床面 細かい凹凸があるが、検出した範囲では概ね平坦である。

主柱穴 不明。

壁溝 南東辺の西寄りと南西辺の南寄りで検出した。幅11～23・底面幅2～12・深さ4～9cmである。

カマド 北東辺中央やや南寄りに設置する。耕作痕によって袖部の大半を失っており、左袖部の一部が遺存していた。燃焼部は住居壁の内側にあり、奥壁の位置は住居壁のラインとほぼ一致する。カマドを破壊した耕作痕の

第4章 検出された遺構と遺物

南西側床面に30cm大の石2個と、50cm大の石1個が出土した。左右の袖石と焚き口天井部の石と考えられる。

貯蔵穴 床面水準では確認できなかったが、掘り方調査の段階で、東隅に不整形のP1を確認した。P1:61×68・深さ8cmである。耕作痕による破壊が及んでいると考えられる。

掘り方 全面に凹凸が著しい。壁際がやや深く掘り込まれ、中央部が盛り上がった状態で残る。カマド前は不整形に掘り込まれ、140×100・深さ7cm前後の皿状であった。

その他 カマド構築材とみられる石が3個並んで出土したことから、意図的なカマドの破壊の場合と、カマド作り直しのための仮り置きの場合、あるいは単純に上位の耕作痕による破壊の場合が想定できる。

遺物 カマド前で土器片が出土した。土師器甕(A13・A15)も含めて小片である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、古墳時代の7世紀代と推定する。

A区 6住居(第17・193図、PL.5・134)

検出位置 30区R17グリッド付近で検出した。A区の南寄りに位置し、5住居との最短距離は0.7m、東側の8住居との最短距離は2.2mである。7住居とは2.6m離れている。

重複関係 上位に耕作痕があるほか、地割れが北東-南西の方向に走る。掘り方調査では、地割れが底面に認められた。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ0~13cmで、西半部は壁の立上りがほとんど遺存していなかった。東隅・西隅は検出したが、南隅は確認できなかった。北隅は削平されたためか、丸味を帯びている。北東-南西3.16m、北西-南東2.98mで、北東-南西がやや長い、ほぼ方形のプランになると考えられる。各辺の長さは南西辺推定2.69m(検出0.96m)、北西辺2.72m、北東辺2.64m、南東辺3.06m(検出2.40m)である。

床面 細かい凹凸があるが、検出した範囲では概ね平坦である。

支柱穴 不明。

壁溝 南西辺の北半と北西辺の東半で検出した。幅13~18・底面幅4~9・深さ5~8cmである。南東辺の西寄りと南西辺の南寄りで検出した。幅11~23・底面幅2~12・深さ4~9cmである。

カマド 削平されたためか、位置不明である。北東辺中央部の細長い小ピットにみえる掘り込みは、壁溝の一部またはカマドの痕跡の可能性はある。

貯蔵穴 不明。

掘り方 壁際の凹凸が著しく、中央部は凹凸がごく少ない。埋没土・床面の水準では確認できなかったが、掘り方調査では、中央部の平坦部に地割れが認められ、北東-南西の方向に延びることが判明した。

その他 壁が浅く、西半部では壁溝の検出によって住居プランを確認した。住居の掘り込みが浅く、さらに耕作(または耕地整理)によって削平されたことにより、遺存不良になったと推定される。

遺物 住居中央部を貫く耕作痕から、金属製品(A16・A17)が2個体出土した。現代のものか、住居に属するものか、不明である。土器は小片2個のみで、掲載できるものがない。

時代・時期 出土した土器小片の特徴から、平安時代の所産と推定する。

A区 7住居(第18・193・194図、PL.5・6・134)

検出位置 30区Q~R16グリッド付近で検出した。A区の南寄りに位置し、6住居との最短距離は2.6m、東側の9住居との最短距離は3.4mである。

重複関係 上位に耕作痕があるほか、8住居と重複し、8住居→7住居の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ35~41cmで、比較的深く掘り込まれていた。各隅・各辺とも検出し、東西3.67m・南北2.79mの規模で、東西に長い長方形プランである。各辺の長さは南辺3.17m、西辺2.78m、北辺3.46m、東辺2.51mである。床面 カマド前付近の床面が周囲よりも1~3cmほど高くなり、そのほかの床面は概ね平坦である。

支柱穴 P1・P2・P3・P4の4本とみられるが、深さは20cm未満で浅い。P1:43×36・深さ13cm、P2:35×29・深さ8cm、P3:28×26・深さ10cm、P4:33×23・深さ16cm、柱穴

間の距離はP1-P2:2.19m、P2-P3:1.46m、P3-P4:1.86m、P4-P1:1.17mである。

壁溝 北辺を除き全周する。西辺の壁溝では、長さ40cm前後の掘り込みが3カ所認められた。幅17~27・底面幅7~13・深さ1~8cmである。

カマド 北辺中央東寄りに設置する。A区の住居で北辺にカマドを検出したのは、本住居のみである。燃烧部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁は住居壁ラインにほぼ一致し、左右の袖部が遺存していた。燃烧部から土師器甕破片(A19)が出土している。

貯蔵穴 北東隅のP5とみられる。西側の下端はカマド袖部下に向かって掘り込まれ、オーバーハング状である。P5:73×53・深さ24cmである。

掘り方 底面の凹凸が著しい。南西部を除き、不整形の掘り込みが連続する。南東隅付近で、上面が不整形、下位が略長方形の二段に掘り込まれたP6を検出した。床面のP1とは位置がずれるので、床下の掘り込みと考えられる。P6:100×79,44×37・深さ21cm。

その他 本住居の床面水準は、重複する8住居床面よりも深いため、全体の輪郭を検出できた。

遺物 カマド左袖部周辺から土師器杯(A18)、右袖前から土器片が出土した。また、P1付近で土器小片が出土した。10~15cm大の細長い石が、カマド前で4個出土し、南辺寄りからも2個出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、古墳時代後期の7世紀前半の所産と推定する。

A区 8住居(第18・194図、PL. 5~7・134)

検出位置 30区Q16~17グリッド付近で検出した。A区の南寄りに位置し、6住居との最短距離は2.2m、東側の9住居との最短距離は3.2mである。

重複関係 上位に耕作痕があるほか、7住居と重複し、8住居→7住居の順に新しい。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ24~32cmで、概ね30cm弱の深さである。東西3.43mの規模だが、南北の規模は7住居と耕作痕により失われて不明である。北辺は耕作痕の北側に検出されなかったことから、この耕作痕の範囲に納まると考えられる。北西隅がL字状に凹み、南西隅は鈍角に曲っている

状況から、単純な長方形または方形のプランではない。南辺0.89m、西辺1.80m以上、東辺2.63mを確認した。床面 カマド前で带状に高さ1~3cmの粘土が出土したほかは、概ね平坦である。

主柱穴 不明。

壁溝 南辺、西辺の一部、東辺で検出した。幅14~23・底面幅5~10・深さ5~8cmである。

カマド 東辺南寄りに設置するが、耕作痕により燃烧部を破壊されており、左右の袖部粘土の一部を検出したのみである。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面の凹凸が著しい。

その他 本住居の床面水準は、重複する7住居床面よりも浅く、掘り方調査でも南西隅を検出できなかった。

遺物 中央部の床面から15cm大の石2個が離れて出土し、西辺壁際から土師器杯(A22、7住居の壁外に位置する)が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、古墳時代後期の7世紀前半の所産と推定する。

A区 9住居(第19・194図、PL. 7・8・134)

検出位置 30区P15グリッド付近で検出した。A区の南端近くに位置し、7住居との最短距離は3.4m、北側の4住居との最短距離は5.2mである。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色~暗褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ29~45cmで、比較的深く掘り込まれていた。各隅・各辺とも検出し、東西3.10m・南北2.85mの規模で東西に長く、平行四辺形のようにやや歪んでいる。各辺の長さは南辺2.92m、西辺2.76m、北辺3.02m、東辺2.65mである。

床面 カマド前付近の床面は踏み固められていて、そのほかの床面は概ね平坦である。

主柱穴 P1・P2・P3・P4の4本とみられるが、P3のみ深さ32cmで、その他は20cm前後である。P1:35×37・深さ13cm、P2:27×34・深さ22cm、P3:25×32・深さ32cm、P4:38×40・深さ17cm、柱穴間の距離はP1-P2:1.64m、P2-P3:1.67m、P3-P4:1.64m、P4-P1:1.62mである。

壁溝 なし。

第4章 検出された遺構と遺物

カマド 東辺中央に設置する。対称軸が東西方向よりもやや北東-南西方向にずれているとみられる。左右の袖部は粘土で形成されており、燃焼部は住居壁ラインの内側にある。奥壁は住居壁ラインに近い。左袖部から土師器杯(A25)、土師器甕(A26)が出土した。

貯蔵穴 床面では検出できなかったが、掘り方調査で検出したP5の可能性が高い。規模はP5:54×53・深さ33cmである。

掘り方 カマド前を除き、底面の凹凸が著しい。北西隅は特に深く掘り込まれており、他の部分に比べて20cmほど低い。中央部西寄りでは南北走行の地割れを検出したが、床面・埋没土での状況は確認していないため、前後関係は不明である。

その他 住居の規模が、6住居と同じ程度に小さい。

遺物 P2とP3の間の床面から土師器甕(A27)、P3の東側で土師器杯(A24)、P4の東壁の間で土器片、石が出土した。カマド左袖部からは土師器杯(A25)、土師器甕(A26)が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、古墳時代後期の7世紀前半の所産と推定する。

A区 1溝=溜井(第20図、PL. 8～10)

検出位置 30区L～N14～15グリッド付近で検出した。A区の南東端近くに位置している。南側の調査区外に延びていたが、崩落の危険が想定されたため、限界までの調査は断念した。

重複関係 なし。

覆土 上位は黒褐色系の土、中位は黄褐色系の土、下位は川砂または小石で埋没する。下位の堆積は全体に水の流れた様子が看取できたが、人為的に埋めた形跡は認められなかった。最上位の1と2との間には(第20図a-b)、Hr-FAとみられる火山灰を多量に含む層が認められ、本遺構の時期を示唆する。

壁 土層断面を採取したa-bでは中位が細くて、下位が広がっているが、その他の横断面では、中位の地山に砂礫層が認められ、砂礫層が外へ広がって挟られた様な状態を示す。f-g・h-i・j-kの断面がその状態である。f-g断面の砂礫層(厚さ20cm前後)よりも上位はローム層のような灰黄褐色粘質土で、砂礫層よりも下位はシルト質の層である。湧水水準は調査時の高さである。

平面形状 全体の平面形状は中央部がくびれ、北東端に径約1mの円形の掘り込みがあり、西側に2×2.5mほどの楕円形を呈し、底面が平坦な部分がある。くびれ部は1.2mの高さがあり、南西側に幅0.3mほどの細長い水路状を呈する部分と、1.5×1.2mほどの掘り込み部の2つに分かれる。この掘り込みで10～30cm大の石5個が出土した。さらに南西側に向かうと、幅1.3mの溝状となり、断面採取地点で幅0.7mに狭くなる。

東端の円形掘り込みよりも北東側には、1溝の延長部分とみられる遺構は発見できず、行き止まりとなっていた。平面形が不整形の本溝は、これより上流に相当する部分がなく、自然な谷地形ではない。

以上のことから、本溝は北東端の円形土坑を主要湧水点とする「溜井」と考えられ、くびれ部は水量の調節機能をもち、南～南西部の水田に給水する水路が存在したと推定される。

遺物 土師器小片が1個出土したのみで、掲載可能な土器はない。

時代・時期 a-b断面で認められた火山灰がHr-FAとすると、6世紀初頭以前の溜井と推定する。

A区 2溝(第21図、PL.10)

検出位置 40区L5～30区S18グリッドの範囲で検出した。A区の西半部を占める低地に沿って断続的に北東-南西の走行をもち、北半部はとくに不整形である。

重複関係 耕作痕と重複し、2溝の方が新しい。また、南西部で5住居と重複し、5住居→2溝の順に新しい。覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。

平面形状 北半部は不整形で凹凸をもつが、南半部はほぼ直線的で溝状となる。A区東半部のやや高い区域(台地部)の西側縁辺部に沿っており、西半部の低地との境界をなすような走行を示す。幅30～183・底面幅11～82・深さ6～33cmである。北端底面の標高は142.51m、中央部の底面標高は142.10m、南端の底面標高は141.05mで、北から南へ向かって低くなり、台地部の南北傾斜と同じ傾向を示す。

遺物 土師器小片が1個出土した。

時代・時期 耕作痕を切っていることから、近世以降で現代に近い時期の所産と推定する。

A区 1土坑(第21図、PL.11・12)

検出位置 40区K 3～4グリッド付近で検出した。A区の北東部に位置する。

重複関係 なし。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。人為的に埋めた可能性がある。

平面形状 プラン確認時には不整形で、中央部は略楕円形を呈し、南北155×東西133cm・深さ67cmである。底面に30cm大・40cm大・50cm大の割れ口の尖った石3個が並べたような状態で出土した。用途不明である。

遺物 石3個のほか、10cm前後の丸石6個がほぼ同じ高さで出土したほか、土師器片・須恵器片が出土した。

時代・時期 他の遺構の埋没土を参考にすると、近代～現代に近い時期の所産と推定する。

A区 2土坑(第21図)

検出位置 40区L 2グリッド付近で検出した。

重複関係 耕作痕に切られている。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。

平面形状 略円形を呈し、南北119・東西106・深さ53cmの規模をもつ。用途不明である。

遺物 なし。

時代・時期 他の遺構の埋没土を参考にすると、近代～現代に近い時期の所産と推定する。

A区 3土坑(第21図)

検出位置 30区O 20グリッド付近で検出した。A区の中央部に位置する。

重複関係 なし。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。

平面形状 楕円形を呈し、南北201・東西121・深さ42cmの規模をもつ。用途不明である。

遺物 なし。

時代・時期 他の遺構の埋没土を参考にすると、近代～現代に近い時期の所産と推定する。

A区 4土坑(第21図)

検出位置 30区M16グリッド付近で検出した。A区の南東部に位置する。2住居との最短距離は2.4m、1溝との最短距離は4.6mである。

重複関係 耕作痕を切っている。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。人為的に埋めた可能性がある。

平面形状 略楕円形を呈し、長軸278・短軸157・深さ58cmの規模をもつ。

遺物 なし。

時代・時期 他の遺構の埋没土を参考にすると、近代～現代に近い時期の所産と推定する。

A区 1道路(第22図、PL.12)

検出位置 40区J 3～5グリッドの範囲で検出した。A区の調査区域北東端に位置する。

重複関係 なし。

覆土 最上位に現代の盛り土があり、その直下の灰黄褐色土の下面がもとの道路面と考えられる。路面を形成する土は多量の拳大の石を含む。

平面形状 南北走行する道路の西端の、南北縦断面を検出しているため、判りにくい断面になっている。長さ約8.8mを検出した。深さ0.5mほどまで小石を含む層が観察できることから、盛り土を施した上に石を広げ、数回の補修をしたと推定される。東側の簡易舗装路は調査区東端の現代道路であり、この道路の前身が1道路であったと考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 近代以降と考えられるが、時期を限定できない。

A区 2道路(第22図、PL.12)

検出位置 30区K 19～40区N 2グリッドの範囲で検出した。A区の調査区域中央部の東半部に位置する。

重複関係 地割れと重複し、地割れ→2道路の順に新しい。2道路の平行する溝底面で地割れを確認した。

平面形状 表土直下の耕作痕とほぼ同じ走行の2本の溝を検出した。溝の幅は12～108cmで、長さ約20mである。調査前まで耕作されていた畝への進入路(アゼ道)の側溝が溝状に遺存していたと推定される。溝間の幅は80～137cmである。

遺物 なし。

時代・時期 耕作痕と走行方向がほぼ同じことから、近代以降と考えられるが、時期を限定できない。表土直下

のローム層が削平されていたことを勘案すると、耕地整理が実施された時期を想定でき、昭和時代の所産である可能性が高い。

A区 旧河道(第23図、PL.11)

検出位置 30区K16～19グリッドの範囲で検出した。A区の調査区域東端の中央部に位置する。当初、円弧を描く落ち込みを示していたので、古墳の周堀と想定して調査を始めたが、土層の堆積状態や壁の状態を観察した結果、古墳周堀とは考えられないことが判明した。後日、東側の道路を隔てた上細井五十嵐遺跡の西端で浅い谷地形を検出し、本河道はその西端に位置していることが確認された。

重複関係 なし。

覆土 最上位に現代の盛り土があり、中位は黒褐色系で軽石を多く含む層、下位は灰黄褐色系で軽石が少ないか含まない層で埋没している。自然埋没と考えられる。下位に黒褐色系の土が2回堆積しており、流水が緩やかで有機質の堆積があったことを示している。

壁 急斜面-緩斜面-急斜面-底面の順に低くなり、中位に傾斜の緩い段をもつ。

平面形状 全体の平面形状は、半径20mほどの円の一部分をなす弧の形状を示す。検出範囲の底面標高は140.84m、上端は142.20m前後で、深さは1.36mほどとなる。

遺物 管玉1点(非掲載)が覆土から出土したほか、中位から10～20cm前後の石6個と、50cm大の石1個が出土した。石は自然に摩滅したとみられ、人為的加工痕は認められなかった。

時代・時期 古墳時代以降と考えられるが、時期を限定できない。

A区 旧地形確認トレンチ(第24図、PL.13)

A区は東半部で遺構が確認されたが、西半部では湧水があつて遺構を確認できなかったこと、東半部の表土直下が削平されて平坦化されている可能性が高いことなどから、いくつかのトレンチを設定して旧地形の把握を試みた。

A区 1トレンチ

位置 40区Q4グリッド付近に設定した。A区の調査区

の西端で、北寄りに位置する。この地点付近で地山らしきローム層が露出していたことから、トレンチを設定した。

結果 トレンチの東寄りで「島」状のシルト質の赤みを帯びた土の高まりがみられ、西寄りでは地山が東へ向かって落ち込んでいることが確認された。「島」よりも東側は浅い谷地形となり、東半部の斜面で再び地山が現れ、台地状となる。

A区 2トレンチ

位置 40区S2～3グリッド付近に設定した。A区の調査区の西端で、中央部に位置する。1トレンチと同じく、この地点付近で地山らしきローム層が円弧状に露出していたことから、トレンチを設定した。

結果 西寄りで、地山が東へ向かって落ち込んでいることが確認された。

A区 3トレンチ

位置 6地区30区T17～7地区21区C19グリッドの範囲で設定した。東側が3トレンチA、西側を3トレンチBとした。調査区の南西部で、南辺の調査区境界に沿った位置にある。

結果 堆積土に川砂を多く含み、水流のあったことを示す。断面中央部が皿状に深くなり、浅い谷地形のあったことを示している。As-B軽石下の水田は確認されなかった。3トレンチBから土師器片2個、須恵器片4個が出土した。

A区 4トレンチ

位置 40区K5～L6グリッド付近に設定した。A区北辺の調査区境界に沿った位置にある。

結果 東半の台地部と西半の低地部との境界を跨ぐように設定したところ、東側から西へ向かって低くなる地山断面を観察することができた。谷地形の上位はロームブロックや小石を含む土で盛り土され、A区が平坦化されたことを窺わせる。

所見 以上のトレンチ調査の結果から、A区東半部は北東-南西走行の尾根筋で、上位を削平して平坦化していることが判明した。その北半部に住居等が確認できないのは、北寄りの区域がより深く削平されたためと考えられる。住居が存在していたとしても、削り取られてしまった可能性が高い。

これに対して、A区西半部は浅い谷地形をもち、2トレンチ付近で東西約17mの谷幅を示し、B区東端の裾部がわずかに見られることが解った。この結果から推定すると、調査着手時にA区とB区の境界とした水路は、B区側の台地の東寄り裾部を掘り込んで、新たに付け直したと推定される。2トレンチよりも南西の範囲は、谷地形がより広く開いていた可能性が高い。

A区 旧石器確認トレンチ(第25・26図、PL.12・13)

A区でローム層とみられる堆積土があり、旧石器の存否を確認するトレンチを設定して掘り下げた。トレンチを7カ所設定し、位置は第25図の通りである。いずれも湧水が発生した時点で掘り下げを断念した。

上位にAs-YPの堆積が認められたのは1・2・3トレンチで、7トレンチでは土層3の下位で観察できた。As-YPの確認層位が一定しない。比較的上位の8層は、赤茶色の鉄分の沈着した層で、硬く締まっており、湧水があったとみられる。

いずれのトレンチからも、旧石器の剥片・ツールは出土しなかった。

第3節 天王遺跡B区

B区の概要 (第27図、PL.14~16)

B区は調査工程の都合により、第一に着手した区域である。調査対象面積は4,637.23m²である。着手前の地形は、A区B区の境界としたA区西側を略南北に流れる水路を挟んで、B区側はA区よりも地表面が一段上にあった。B区は北から南に向かって緩やかに低くなる地形で、東端部にローム層のみられる微高地が存在し、東寄りの区域は南に向かって低くなる。西寄りの高台に住居が集中していると想定して調査を開始した。遺構確認面の標高は、東端部で143.00m、西寄りの台地部で143.20m、南東部で141.40mである。B区の北寄りにも現代耕作痕が略東西・南北の走行で残っており、南寄りの低地区域では耕作痕はみられなかった。西半分はやや高い地形を示し、現代耕作土を除去するとローム層とみられる面が検出され、略方形～長方形の落ち込みが微高地全体に広がっていた。東半部から南東にかけての区域は着手時点でも湧水が多く、湧水の減少する時期を待つて調査を進めた。

微高地区域と東端部で住居を27軒検出し、出土遺物から奈良～平安時代と推定した。住居の床面は比較的しっかりとしており、大半の住居はカマドを設置していた。北寄りの区域で検出した住居のなかには、地割れが検出されたものもある。21住居と22住居の間には、約1m×2.5mの長方形を呈する掘り込みが認められ、当初新しい土坑と想定して掘り下げを開始した。しかし、2軒の住居と連続した土層断面を観察したところ、切合い関係が認定できなかったことと、21住居側の壁溝が長方形掘り込み部につながってゆくことが分かり、長方形掘り込みは2つの住居をつなぐ接続部＝「廊下」であることが判明した。

南寄りで検出した1井戸は、当初汲上げ井戸と想定して調査を進めたが、南東に向かう開口部のあることが判明し、3井戸の調査進行に伴って、「溜井」であることが解った。2井戸が周囲に大小の掘り込みをもつ汲上げ井戸であるのと異なって、3井戸は北端の83土坑を湧水点とし、その南側に石を積んだ施設をもち、南西～南東に折れ曲がる流路をもった溜井である。1井戸の流路の一つは南東に向かう3井戸流路と並行する。

第4章 検出された遺構と遺物

3井戸の南西へ向かう流路の中央部に、1掘立柱建物と1竪穴を検出した。1竪穴→1掘立柱建物の順に新しい。1掘立柱建物は、四隅の柱穴掘り方が約45度傾いた方位をもつ、独特の配置を示し、建替えの可能性もある。

地震跡は南東部の低地で噴砂痕が多くみられ、3井戸水源部の南岸と東岸で地割れが認められた。地震跡は3井戸の北西区域にある住居の埋没土や壁・床面などでも確認したが、11住居の床面水準では認識できず、掘り方調査で地割れのあることが判明した。

B区東寄りの低地の東側で、細い溝を伴う硬く締まった帯状の遺構が略南北の走行を示し、調査区北壁の土層観察により、近代～現代の道路跡であることが判った。同様に、21・22住居を接続する廊下の上に、南北走行の砂利が帯状に延びており、こちらも近代～現代の道路跡であった。

B区調査の最終段階で、南東部の低地に地形確認トレンチを11カ所設定して旧地形の把握を試みた。また、旧石器確認トレンチを6カ所設定して掘り下げて旧石器の存否を確認した。3カ所のトレンチで数十cm大の石が出土したが自然礫と考えられる。石器剥片等の出土はなかった。

B区 調査区北壁・南壁土層(第28図)

調査区の北壁と南壁の土層断面を記録した。南壁のa点から西へ30m分の土層は、1・3井戸の第55図(k-1断面)に掲載したので、ここでは割愛する。

北壁 e-f

e点から東へ1mの地点に深い掘り込みがあり、両側の表土を切り込んでいることが明瞭であった。表土1の幅20cm前後の落ち込みは、耕作痕の掘り込みである。4bとした土層は道路跡を形成する土で、乾燥しやすい性質をもち、この痕跡はB区東寄りの31A10から31E2グリッドまで、ほぼ直線的に(東へわずかに凸の状態)延びていた。5は道路の側溝とみられる凹みを埋める土層である。表土直下の2はAs-Bを含む土層で、南壁の土層2に似るが、As-B純層の堆積は見られなかった。

南壁 a-b-c, d-c

B区南東隅の地点をa点とし、西へ向かって12mの地点がb、西端の排水用に深掘りした地点をc点とした。

ここではd-c間の土層を掲載した。a点から西へ30m分(d点まで)の土層は、1・3井戸の流路が調査区南壁と交差する範囲であり、上記のように第55図k-1に掲載した。

東半部(a-b-d)は低地部に属し、西半部(d-c)はやや高い地形とみられる。東半部の低い水準で観察されたAs-Cを含む黒色系の土は、西半部では認められなかった。表土1が幅60cmほど落ち込むのは、現代の溝が埋没した跡とみられる。7は白色軽石・黄色軽石・ロームブロックを含む暗褐色系の土層で、奈良～平安時代の遺構の埋没土と考えられる。排水用深掘りの周辺にみられる土層7は、溝または住居の断面であった可能性がある。

B区 1住居(第29・30・194図、PL.17・18・135)

検出位置 40区S9グリッド付近で検出した。B区の東端に位置する。

重複関係 2住居・24住居・25住居・79土坑と重複し、24住居→2住居→1住居、2住居→79土坑の順に新しい。24住居は2住居の拡張であった可能性がある。25住居は1住居の一部であったと考えられ欠番とした。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ11～19cmで、比較的浅い。北側の調査区壁際に北辺があったと推定したが、住居プランを考えた場合、不自然な形状であることから、北辺は北壁の外側にあった可能性があり、北西隅は未検出であったと想定できる。東西2.65m、南北3.18m以上で、南北に長い長方形プランと推定する。各辺の長さは南辺2.35m、西辺2.62m以上、東辺3.30mである。

床面 カマド前付近の床面は踏み固められていて、そのほかの床面は概ね平坦である。

主柱穴 P2・P5・P6が候補になるが、P6を除き浅い。P1:48×31・深さ11cm、P2:29×24・深さ6cm、P3:20×14・深さ10cm、P4:29×26・深さ12cm、P5:25×22・深さ7cm、P6:27×25・深さ17cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。土器片・石が出土したが、カマドの構造は不明であった。不整形の掘り込みに焼土が遺存し、掘り込み前の40×80cmほどの範囲に炭化物が分布していた。

貯蔵穴 南西隅の略楕円形P7の可能性が高い。規模はP7:61×50・深さ37cmである。

掘り方 底面に凹凸があり、住居中央部に不整形の掘り込みがある。

その他 北東隅に40×15cmほどの段があり、床面との落差は8cmである。南西隅も幅15cmほどの段があり、床面との落差は5cm前後である。

遺物 カマドの焼土を囲むように須恵器羽釜破片(B2)が分布し、右脇から石が3個出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の10世紀前半の所産と推定する。

B区 2住居(第29・30・194図、PL.17・18・135)

検出位置 40区S8～9グリッド付近で検出した。B区の東端に位置する。

重複関係 1住居・24住居・79土坑と重複し、24住居→2住居→1住居、1住居、2住居→79土坑の順に新しい。24住居は2住居の拡張であった可能性がある。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ13～22cmで、比較的浅い。南東隅と南西隅の壁溝、西辺の壁溝、北西隅付近の壁溝を検出し、全体のプランを推定した。南辺2.69m、西辺2.22m以上、北辺1.26m以上、東辺2.75mを確認した。北西隅は1住居により破壊されて未検出である。東西2.92m、南北推定3.20mである。

床面 中央部は小さな凹凸をもつが、概ね平坦である。

支柱穴 不明。P1:19×18・深さ10cm、P2:72×61・深さ15cm、P3:35×33・深さ11cmが候補である。

壁溝 南西隅～西辺、北辺～北東隅～東辺で検出した。幅9～25・底面幅3～9・深さ1～7cmである。

カマド 東辺南寄りに炭化物・粘土・焼土の分布する範囲があり、おそらくこの付近にカマドが設置されていたと考えられる。79土坑により破壊された可能性が高い。

貯蔵穴 P2の可能性が高い。

掘り方 底面に凹凸があり、住居壁際がやや深く掘り込まれる。

その他 カマド付近が破壊され、詳細は不明。

遺物 P2から須恵器小片(B8)が出土したほか、須恵器片733g、土師器片167gが出土した。カマドの焼土を囲む

ように羽釜破片が分布し、右脇から石が3個出土した。
時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の10世紀の所産と推定する。

B区 3住居(第30・195図、PL.18・19)

検出位置 40区T8～31区A8付近で検出した。1・2住居の西側に位置する。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。

壁 高さ5～12cmで浅い。南西辺がやや短く、全体に歪んだ台形を呈する。東西1.82m、南北2.32mで、各辺の長さは南西辺1.45m、北西辺1.91m、北東辺1.83m、南東辺2.18mである。全体に規模が小さい。

床面 ほぼ平坦であるが、硬い床面ではない。

支柱穴 不明。大小のピットがある。東隅のP1がもっとも深く、住居よりも新しい可能性が残る。ピットの規模はP1:49×38・深さ30cm、P2:21×20・深さ9cm、P3:73×70・深さ16cm、P4:43×39・深さ10cmである。

壁溝 なし。

カマド 南隅で粘土ブロックと焼土ブロックが混じった範囲が認められ、隅にカマドを設置したと考えられる。燃焼部らしき範囲は浅い皿状に凹み、深さは5cm程度であった。左袖部とみられる範囲が存在した。奥壁相当部から羽釜の口縁部破片が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 南西辺沿いの底面が不整形に深く掘り込まれていた。その他の底面も凹凸があり、小さい穴がある。

その他 P3は床面検出の時点で、黄色の粘土がリング状に認められた。床面に設置する土坑の可能性が高い。

遺物 カマド奥壁相当の位置から須恵器羽釜破片(B12)が出土したほか、焼土・粘土混じりの南隅から小片が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の10世紀前半の所産と推定する。

B区 4住居(第31・195図、PL.19・135)

検出位置 31区E10グリッド付近で検出した。中央部北寄りに位置し、B区東寄りの低地(浅い谷地形)に望む東端の住居である。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。

壁 高さ32～47cmで他に比較して深い。西辺・北辺が長く北西隅が突出し、全体に著しく歪んだ台形を呈する。各辺の長さは南辺2.40m、西辺3.24m、北辺3.07m、東辺2.57mである。

床面 ほぼ平坦であるが、硬い床面ではない。

支柱穴 P2・P3・P4・P6と考えられるが、南西隅はP5の可能性が残る。各ピットの規模はP1:30×28・深さ7cm、P2:42×39・深さ8cm、P3:35×31・深さ9cm、P4:41×39・深さ17cm、P5:27×27・深さ11cm、P6:42×42・深さ10cm、P3-P2:180cm、P2-P6:131cm、P6-P4:151cm、P6-P5:134cm、P4-P3:145cm、P5-P3:186cmである。

壁溝 南辺東端(長さ60cm)、西辺南端(長さ85cm)、北辺東半部(長さ74cm、48cm)、北東隅で断続的に検出した。北西隅付近では検出していない。幅6～19・底面幅1～9・深さ2～10cmである。

カマド 東辺南端で住居壁よりも浅い外側に、略三角形を呈する凹みが認められ、焼土粒子を含む土で埋没していたことから、ここにカマドが設置されていたと考えられる。中から出土した25cm大の砥石(B15)は、カマド構築材の一部とみられる。袖部と考えられる粘土は見当たらなかった。

貯蔵穴 P1の可能性はあるが、定型的な位置ではなく、規模も小さい。

掘り方 底面の凹凸が著しい。カマド前・西辺寄りがやや深く掘り込まれていた。

その他 調査着手時は湧水が多く、掘り下げが困難であった。

遺物 南東隅の住居外から土器片が出土した。南辺沿いの住居埋没土からも須恵器片7個、土師器片9個が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の10世紀後半の所産と推定する。

B区 5住居(第32・195図、PL.19・20・135)

検出位置 31区G9グリッド付近で検出した。4住居の西側にあり、4住居との最短距離は4.9m、6住居との最短距離は1.1mである。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられ

る。

壁 高さ38～60cmで他に比較して深い。北東-南西が3.23m、北西-南東が3.22mで正方形を呈する。各辺の長さは南西辺2.77m、北西辺2.84m、北東辺2.92m、南東辺2.86mである。

床面 ほぼ平坦であるが、硬い床面ではない。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。左右の袖部に石があり、燃焼部には長さ50cmの細長い石が、カマド前には40cm大の石が出土した。大きめの石はカマド構築材の一部とみられ、50cm大の石は焚き口天井部の石と考えられる。

貯蔵穴 不明。

掘り方 中央部に1m大の掘り込みがみられ、これより北側で凹凸が著しい。地山が南に向かって下がっているためか、南寄りの掘り方底面はなだらかで、北寄りの底面は階段状の底面である。

その他 西隅に長さ115cm+51cmの段があり、壁外との落差は36cm、段と床面との落差は17cmである。南隅では10～15cm大の細長い石が17個まとまって出土し、この付近は床面よりも1～3cm高くなっていた。

遺物 南隅出土の細長い石は敷き詰めたような状態で出土し、その他南西辺沿いに2個、南寄り床面から2個、南東壁際から1個がそれぞれ出土した。カマド左袖脇の床面から土師器杯(B19)が床面から、カマド前の床面から須恵器盤(B21)が出土した。中央部の床面からも土師器杯(B20)が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 6住居(第33・195図、PL.20・21・135)

検出位置 31区G10グリッド付近で検出した。5住居の北西側にあり、5住居との最短距離は1.1m、7住居との最短距離は4.2mである。3井戸流路との距離は1m未満である。

重複関係 東辺に接するように耕作痕が延びており、6住居→耕作痕の順に新しい。カマド燃焼部は耕作痕よりも深い水準にあったため、燃焼部底面は遺存していた。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ32～57cmで、北辺がやや深い。南北3.62m、東西3.51mで略方形を呈する。各辺の長さは南辺3.29m、西辺3.25m、北辺3.20m、東辺3.04mである。

床面 細かい凹凸はあるがほぼ平坦で、カマド前～中央部南寄りの床面が硬く踏み固められていた。中央部につながって、北東寄りに丸く硬い面が認められた。

支柱穴 P1・P2が候補だが、いずれも浅い。ピットの規模はP1:30×30・深さ2cm、P2:23×24・深さ5cmである。

壁溝 南辺西半部から北西隅につながり、北辺中央部の両脇が途切れ、北東隅に続く。幅11～16・底面幅2～10・深さ2～18cmである。

カマド 東辺南寄りに設置する。カマド燃焼部に粘土が分布し、それぞれ左袖部・天井部・右袖部の粘土に相当すると考えられるが、基部の遺存とみられる。燃焼部底面の中央で長さ15cm大の細長い石が出土したが、この石は焼けていない。燃焼部左寄りの12cm大の石は焼けており、支脚に使われたと考えられる。

貯蔵穴 不明。

掘り方 中央西寄りに1.9×1.5m・深さ11cmほどの不整形の掘り込みがあり、カマド前にも不整形の掘り込みが認められた。北辺東寄りの壁際小ピットからカマド左脇にかけて、凹凸の少ない平坦な面が残されていた。

その他 南辺沿いに幅11～19cmの段があり、床面との落差は19～24cm、壁外との落差は10～13cmである。南辺の拡張か。また、北辺に向かって丸く突出した硬い面の壁際に小ピットが2つ並び、両者の芯芯距離は52cmである。両ピットの左右には壁溝がつながること、硬い面がカマド前につながることで、掘り方でも比較的平坦な面を有することなどから、小ピットの間には出入口があったと考えられる。

遺物 カマド左脇の壁際(床面から39cm)から土師器杯(B27)、南辺東寄りの壁際から土師器杯3個体(B26・B28・B30)が重なった状態で(床面から33cm)、中央部北寄りの床面から20cm上で土師器杯(B29)が、北西隅付近の床面から棒状の炭化物が、南西隅の床面から11cm上で細長い石がそれぞれ出土した。カマド内出土の土器片1は小片である。このほか埋没土から須恵器片8個、土師器片516g、埴輪片4個が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

B区 7住居(第34・196図、PL.21～23・135)

検出位置 31区H11～12グリッド付近で検出した。6住居の北西側にあり、6住居との最短距離は4.2m、8・9・10住居との最短距離はそれぞれ2.4m、3.6m、2.8mである。3井戸とはほとんど接している状態で、同時に存在するのは困難と考えられる。

重複関係 北東隅に2溝(耕作痕)がかかっており、7住居→2溝の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ32～46cmで、北辺がやや深い。南北4.83m、東西3.09mでやや歪んだ長方形を呈する。各辺の長さは南辺2.96m、西辺4.35m、北辺2.63m、東辺4.30mである。

床面 細かい凹凸はあるがほぼ平坦で、カマド前から北半部の床面が硬く踏み固められていた。南西部は軟らかく、周囲よりも2～7cmほど凹んでいたため、記録を取った後精査したところ、特殊な形状のP4を検出した。また、西辺沿いでは床面に噴砂がみられたが、埋没土では観察できなかった。

支柱穴 不明。南辺中央と北辺中央に半円形のピットを検出したが、北辺ピット深さ11cm、南辺ピット深さ6cmで浅い。

壁溝 西辺から東辺のカマド左脇まで巡る。幅28～47・底面幅3～12・深さ1～5cmである。

カマド 東辺南寄りに設置する。カマド燃焼部の半分ほどが壁外に突出し、左袖部の一部が遺存していた。燃焼部には灰層の上に焼土ブロックや炭化物を含む層が堆積していた。

貯蔵穴 南東隅の不整形ピットP1の可能性ある。P1:109×38・深さ18cmである。

掘り方 南東隅が不整形に深く掘り込まれ、その他の底面は凹凸が著しい。掘り方底面はやや硬く締まったローム層で、北西隅の底面はとくに凹凸が激しく、西辺に沿って噴砂が明瞭に認められた。

その他 P4は床面を精査して検出した掘り込みで、全体の形状は北側が丸味を帯び、南側は尖った状態で、中央部に幅3～7cmのリング状に青味のある粘土に囲まれた円形の掘り込みをもつ。ヒトの眼の形状に近い。南側の尖った部分の底面は、北側よりも3～9cm高い状態であった。中央の円形部の3層には青味のある粘土が底部か

ら上面まで貼り付けられ、その下にはこの粘土と褐色の粘土の混土が認められた。南側の尖った部分との間には、黄褐色土にロームブロックが混じる土があって、青味粘土との境界をなす。円形掘り込み側で幅12cm、尖った部分の南端で幅5cmの細長い帯状の土が円形南端から延びていた。用途不明の掘り込みであるが、洗面器状の断面をもつ掘り込みの壁に粘土を貼っていることから、

- a 水の浸入を防ぎ・何かを保存する施設、
- b 水を溜めて・何かを加工する施設、の2つの想定ができる。

遺物 カマド前の床面から浮いた状態で土師器甕片2個(B40・B41)が、西辺中央部の壁際から土師器杯片1個(B36)が出土した。またP1掘り込みの内部から須恵器杯(B38)・土師器甕小片2個(B42)が出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴とカマドの構造から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 8住居(第35・196図、PL.23・134)

検出位置 31区I13グリッド付近で検出した。7住居の北西側にあり、7住居との最短距離は2.4m、9・18住居との最短距離はそれぞれ1.5m、4.0mである。

重複関係 北隅に1溝(耕作痕)がかかっており、8住居→1溝の順に新しい。北西辺西寄りに26土坑が重複し、8住居→26土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ17～35cmで、北寄りがやや深い。北西-南東3.64m、北東-南西2.83mで、長方形を呈し、南東辺東寄りが突出する。北東辺沿いの壁溝は住居壁の40cmほど内側にあり、南東辺沿いの壁溝も25～40cmほど内側にあることから、住居の北東側を拡張し、南東部のP9設置に伴って南東辺西側寄りの壁を外側へ拡張気味に調整したと考えられる。各辺の長さは南西辺3.57m、北西辺2.53m、北東辺3.30m、南東辺2.73mである。

床面 細かい凹凸はあるがほぼ平坦で、カマド前から中央部にかけての床面が硬く踏み固められていた。中央部床面には不整形に焼土が分布していた。

支柱穴 大きさと位置関係でP1・P3・P5・P7が候補となるが、いずれも浅い。各ピットの規模はP1:22×21・深さ2cm、P3:32×23・深さ13cm、P5:26×19・深さ5cm、

P7:35×23・深さ7cmである。P2はP1-P3のラインに乗り、P4は中央部に位置する。P6はP5-P7のラインにかかる。P2:20×17・深さ1cm、P4:24×20・深さ2cm、P6:44×31・深さ4cmである。

壁溝 カマド～東隅を除き、壁際を巡る。幅9～47・底面幅4～14・深さ2～14cmで、南東辺沿いの溝は長さ44cmと46cmの細長い溝となる。

カマド 北東辺南寄りに設置する。壁際に粘土の塊があり、床面からやや浮いた状態であった。耕作により破壊され、粘土塊が動いた可能性が高い。粘土塊の下部には灰層が認められた。住居内の東壁沿い床面の55×45cmの略三角形の範囲に焼土が分布しており、燃烧部であったと推定される。奥壁は住居壁よりも15cmほど外に出ており、その外側は耕作痕により破壊されていた。

貯蔵穴 南東隅の不整形ピットP8とみられる。P8の規模は64×46・深さ22cmで、底面は略長方形を呈し、31×24cmの大きさである。南壁のP9は略楕円形を呈し、66×45・深さ11cmの規模をもつ。南東辺沿いの壁溝の延長線はP8とP9との中間を通り、東隅付近に至ることから、P9の設置に伴って南東辺が拡張されたと考えられる。

掘り方 全体に細かい凹凸があるが、とくに南西辺沿いは掘り込みが深く、凹凸が著しい。

その他 本住居は南北方向に長い長方形のプランで、7住居を一回り小さくしたような規模で、方位が近似する。

遺物 カマド燃烧部奥壁付近から土師器甕破片(B48)が、南東辺西寄りの壁際から須恵器碗(B46)が、住居中央部の床面やや上から土師器甕(B47)が、南西辺の壁溝中から須恵器杯小片(B45)が出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀後半の所産と推定する。

B区 9住居(第36・196・197図、PL.23・24・136)

検出位置 31区J12グリッド付近で検出した。8住居の南西側にあり、8住居との最短距離は1.5m、7・10・18住居との最短距離はそれぞれ3.6m、3.4m、1.9mである。

重複関係 北東隅に2溝(耕作痕)がかかっており、9住居→2溝の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ13~25cmで、北寄りがやや深い。東西3.34m、南北3.69mで南北にやや長い長方形を呈し、北東隅を2溝によって破壊されていた。各辺の長さは南辺3.61m、西辺3.24m、北辺2.61m(推定3.2m)、東辺3.24m(推定3.4m)である。

床面 東西断面では中央部がレンズ状にやや盛り上がり、南北断面では北側がやや高く南へ向かって低くなる。

支柱穴 検出できたピットではP1・P2・P3・P4が候補となるが、いずれも浅く、P1が内側に偏在しているため、柱穴を結ぶラインは住居プランに対して歪んでいる。各ピットの規模はP1:20×19・深さ3cm、P2:21×20・深さ3cm、P3:42×36・深さ5cm、P4:31×31・深さ3cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。燃烧部の半分ほどが住居壁の外にあり、南側の壁と奥壁が良く焼けていた。左右の袖部が一部遺存し、燃烧部から土器片が出土した。掘り方調査で、燃烧部底面に長さ65・幅12~19・深さ4cmの細長い溝を検出した。

貯蔵穴 南辺中央壁際の掘り込みと考えられる。掘り込みは東西65×南北65cmの不整形をているが、下端は42×25cmの楕円形である。深さは10cmで浅い。

掘り方 全体に凹凸があり、カマド前から南東隅にかけて深く掘り込まれ、各隅にも不整形の掘り込みがある。

その他 P2から貯蔵穴にかけて、黄褐色粘土が不整形に分布し、カマド寄りの部分には焼土の分布が認められた。

遺物 カマド左脇から須恵器杯(B55)が、貯蔵穴北端で須恵器杯(B53)が、P3の西側の床面から浮いた状態で須恵器杯(B54)が、西辺中央の壁際から土師器杯(B52)が出土した。土師器甕の小片も少数出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀後半の所産と推定する。

B区 10住居(第37・197図、PL.24・25・136)

検出位置 31区I11グリッド付近で検出した。9住居の南側にあり、9住居との最短距離は3.4m、7・11住居・3井戸流路との最短距離はそれぞれ3.6m、0.7m、0.3mである。

重複関係 27住居と重複し、27住居→10住居の順に新しい。11住居との最短距離は0.7mなので、同時存在は困難と推定する。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没し、覆土にはカマド構築に利用されていた黄白色粘土ブロックを含む。堆積状態では自然な埋没と考えられる。

壁 高さ13~31cmで、北寄りがやや深い。東西2.78m、南北3.18mで南北にやや長い長方形を呈し、やや歪んだプランで、各隅に丸味がある。各辺の長さは南辺2.38m、西辺2.69m、北辺2.57m、東辺2.53mである。

床面 硬い床面をもち、ほぼ平坦であるが、カマド前の床面に粘土を貼った掘り込みのためか浅く凹む。

支柱穴 検出できたピットではP1・P2・P3が候補となるが、南東に相当する柱穴は確認できなかった。P1は南寄りに最深部があり、北側~東側にかけて上端よりも下端の方が広がっていた。P2は二段に掘り込まれているが、最深部は上端の中心に近い。P3は不整形の掘り込みで、中から土器片13が出土した。P1とP2とを結ぶラインは北辺に対して平行ではない。各ピットの規模はP1:57×41・深さ27cm、P2:46×41・深さ38cm、P3:71×53・深さ48cmである。

壁溝 南西隅から北辺中央部まで断続的に巡る。幅10~21・底面幅2~6・深さ4~8cmである。

カマド 東辺南端に設置する。南東隅の径25cmほどのピットは、右袖部付近を破壊して床面近くまで達しており、本住居よりも新しい所産と考えられる。カマドの燃烧部の半分ほどは住居壁の外にあり、南北の壁と奥壁が良く焼けていた。左袖石が元の位置に遺存し、右袖石を欠く。左袖石の奥には30cm大の平らな石が倒れかけた状態で出土し、燃烧部奥の右寄りの位置からは支脚とみられる三角錐状の石が出土した。奥壁及び左袖石脇から黒色土器椀(B60)、須恵器椀(B63)が出土した。右袖部の脇から黄白色の粘土塊が帯状を呈して出土した。この粘土塊の上面は壁外よりも数cm低く、床面よりも5cm以上高い位置にあ。粘土塊は左袖石前に分布する粘土(一部焼土化していた)や、カマド前の粘土を貼ったP4の粘土と外観・質が同じであった。南東隅の粘土塊はカマド左袖部の崩壊したものと考えられる。

貯蔵穴 不明。定型的な南東隅では検出しなかった。後述のように、カマド前の黄白色粘土を掘り込みの壁に貼ったP4が、貯蔵穴であった可能性がある。

掘り方 床面を形成する土を除去したところ、底面は比較平坦な状態であった。確認のため、一部を掘り下げて

第4章 検出された遺構と遺物

みたが、地山のローム層に至る漸移的な土層であった。その他 カマド前の床面がやや低くなり、床面に75×95cmの範囲で不整形の掘り込みが認められ、P4と呼んだ。その縁辺には黄白色粘土が数cmの厚さで貼り付けられ、内部にもブロック状に分布していた。土器片の出土位置を記録して慎重に掘り下げたところ、底面まで黄白色粘土が貼り付けられ、中央部がやや盛り上がった浅い洗面器状の掘り込みと判明した。黄白色粘土の下位は、そのブロックを含む土であり、西側の不整形掘り込み(P5)を切っていたことから、P5→P4の順に新しい。P5の最上位には白色軽石を含む黒褐色土があり、内部中位にも黒褐色土が堆積していた。P4はP5を作り直し、粘土を貼った可能性がある。

遺物 カマド燃焼部から黒色土器椀(B60)、須恵器椀(B63)が、カマド前床面から須恵器甕破片(B66)が、P3内部から須恵器椀(B64)が、西壁南寄りの壁際から12cm大の細長い敲石(B67)が、P1と北壁の間の床面よりやや浮いた状態で土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の10世紀後半の所産と推定する。

B区 11住居(第38・197図、PL.25・26・136)

検出位置 31区J 10グリッド付近で検出した。10住居の南西側にあり、10住居との最短距離は0.7m、12・13住居・2井戸との最短距離はそれぞれ1.6m、1.0m、3.9mである。

重複関係 27住居・78土坑と重複し、27住居→11住居、11住居→78土坑の順に新しい。10住居との最短距離は0.7mなので、同時存在は困難と推定する。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没し、覆土にはカマド構築に利用されていた黄白色粘土ブロックを含む。堆積状態では自然な埋没と考えられる。

壁 高さ13～22cmで、北寄りやや深い。東西2.76m、南北3.25mで南北にやや長く、南辺が短いため台形を呈する。各辺の長さは南辺2.37m、西辺3.06m、北辺2.66m、東辺2.75mである。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面をもち、ほぼ平坦である。

支柱穴 P1・P3・P4・P5が候補となるが、P1を除き浅い。P1とP3とを結ぶラインは東辺に対して平行ではない。各

ピットの規模はP1:37×36・深さ23cm、P3:19×18・深さ3cm、P4:17×17・深さ5cm、P5:18×18・深さ5cmで、P1-P3:163cm、P3-P4:111cm、P4-P5:168cm、P5-P1:136cmである。南辺中央部にかかるピットは31×22・深さ13cmで、本住居のものか判定できなかった。

壁溝 南東隅から西辺中央部まで巡る。幅7～25・底面幅2～10・深さ6～10cmである。

カマド 東辺南端に設置する。カマドの燃焼部の半分ほどは住居壁の外にあり、左壁と奥壁が良く焼けていた。20cm大の石が3個カマド付近から出土し、カマド構築材の一部とみられる。燃焼部西側を囲むように黄白色粘土が帯状に分布し、南端は南東隅に続いていた。

貯蔵穴 定型的な南東隅では検出しなかった。後述のように、南辺沿いの黄白色粘土を掘り込みの壁に貼ったP2が、貯蔵穴であった可能性がある。

掘り方 底面の凹凸が著しい。西辺沿いに南北の走行で地割れが走り、この地割れは床面水準では認識できなかった。

その他 南辺沿いの床面に85×88cmの範囲で略円形の掘り込みが認められ、P2と呼んだ。底面に黄白色粘土を数cmの厚さで貼り付けており、床面を形成する土を掘り込んでいた。P2は貯蔵穴の可能性はある。

遺物 カマド左脇の床面からやや浮いた状態で金属製品鏃(B73)と土器が、西辺中央部の壁際から土器片が、P4西側の床面から20cm大の石(B71)が、北辺の中央の壁際から30cm大の石(B72)が、中央部の床面から20cm大の石がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の10世紀の所産と推定する。

B区 12住居(第39・197図、PL.26・27・136)

検出位置 31区I～J 9グリッド付近で検出した。11住居の南側にあり、11住居との最短距離は1.6m、13・14住居・3井戸流路との最短距離はそれぞれ0.5m、0.9m、2.6mである。

重複関係 45土坑・19P(カマドにかかるピット)と重複し、12住居→45土坑・19Pの順に新しい。13住居との最短距離は0.5m、14住居との最短距離は0.9mなので、三者の同時存在は困難と推定する。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。

堆積状態では自然な埋没と考えられる。

壁 高さ10～23cmで、北寄りがやや深い。東西3.84m、南北3.30mで東西にやや長く、北東隅がやや不整形であるが、概ね長方形を呈する。各辺の長さは南辺3.50m、西辺2.92m、北辺3.52m、東辺3.47mである。

床面 カマド前から南西部にかけて硬い床面をもち、ほぼ平坦である。

主柱穴 P1・P3・P5・P6が候補となるが、P3・P5・P6は浅く、P1・P2は貯蔵穴の可能性が高い。各ピットの規模はP1:38×43・深さ20cm、P2:64×67・深さ28cm、P3:15×16・深さ2cm、P5:18×17・深さ3cm、P6:23×26・深さ5cm、P3-P6:152cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。カマドの燃烧部の大半は住居壁の外にあり、住居の壁ライン及び左袖部付近・カマド前に焼土が分布していた。P1周辺には粘土が分布しており、構築材の一部が遺存していたとみられる。

貯蔵穴 南東隅のP1及び北西隅のP2と考えられる。両者が同時に使われていたかは不明である。P1を囲むように、カマド右袖部付近から南辺にかけて弧を描くように周囲より2～5cmの高まりの帯が認められた。

掘り方 底面に凹凸があり、とくに南辺寄りの凹凸が著しい。中央部に平坦な面が残っていた。

その他 なし。

遺物 カマド前からP1にかけて、甕破片が、P1内から土師器杯(B75)が、南辺壁際で土師器小型甕破片(B77)が、北辺西寄りの壁際から土師器杯(B76)がそれぞれ出土した。壁寄りの床面近くから10～15cm大の石5個が散在して出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 13住居(第40・197・198図、PL.27・28・136)

検出位置 31区J～K・9～10グリッド付近で検出した。11住居の南西側にあり、11住居との最短距離は1.0m、12・14住居・32井戸との最短距離はそれぞれ0.5m、1.4m、1.7mである。

重複関係 39・43土坑と重複し、いずれも土坑の方が新しい。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土及び黒褐色系

の土で埋没する。堆積状態では自然な埋没と考えられる。

壁 高さ21～33cmで、北寄りがやや深い。北西隅付近が0.5mほど突出し、その内側に壁溝を検出した。突出した北西隅と壁溝の間は平坦な面で住居中央部とほぼ同じ高さで、何らかの必要があって拡張した可能性がある。突出した北西隅を住居内部とすると、東西3.02m、南北3.18mで歪んだ台形を呈する。北辺の壁溝までを住居内部とすると、東西2.87m、南北2.82mで方形である。各辺の長さは南辺2.15m(壁溝まで2.07m)、西辺3.02m(壁溝まで2.42m)、北辺2.91m(壁溝まで2.63m)、東辺1.81mである(隅に設置したカマド袖部を含まない)。

床面 カマド前から北西部にかけて不整形の硬い床面をもち、ほぼ平坦である。

主柱穴 P1・P3・P5が候補となるがいずれも浅く、P5は不整形である。各ピットの規模はP1:20×21・深さ5cm、P2:29×40・深さ7cm、P3:23×24・深さ7cm、P4:20×16・深さ6cm、P5:14×23・深さ10cm、P1-P3:154cm、P3-P5:132cmである。

壁溝 南辺西寄り～東辺北寄りに巡る。幅11～20・底面幅3～10・深さ1～14cmである。

カマド 南東隅に設置する。対称軸の方位は住居の対角線方位よりもやや北向きに偏しており、東向きに近い。燃烧部は壁ラインの内側にあり、燃烧部の壁は黄白色粘土を貼り付け、表面はよく焼けて焼土化していた。左袖部の一部が遺存していた。奥壁に羽釜が伏せた状態(天地逆)で据えられ、その下位の左右から20cm大の石が出土した。石は羽釜を支えるような位置にある。燃烧部の西寄りで一端が割れた15cm大の焼けた石が出土し、支脚に使用したと考えられる。

貯蔵穴 掘り方調査で検出したP8またはP9の可能性が高い。

掘り方 底面に細かい凹凸があるが比較的平坦で、北西部のP3周辺に小穴が認められた。北東隅は半円状に掘り込まれるが、カマド左袖部まで壁から幅50cm・高さ10～13cmほどの平坦な面が存在する。南西隅に接続するP8・P9を検出した。P9の最上位は硬い黄白色粘土が覆っており、P8は二段に掘り込まれていた。土層の観察からP9→P8の順に新しいと認められた。ピットの規模はP8:64×60・深さ34cm、P9:81×81・深さ35cmである。

その他 床面で検出していないが、P8・P9は貯蔵穴の可

能性がある。

遺物 カマド燃焼部右から土器片が、カマド奥壁から須恵器羽釜(B80)が、P5付近から土師器羽釜片(B81)が、P7付近から土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の10世紀前半の所産と推定する。

B区 14住居(第41・198図、PL.28)

検出位置 31区J～K 8～9グリッド付近で検出した。13住居の南側にあり、13住居との最短距離は1.4m、12・15・20住居との最短距離はそれぞれ0.9m、0.5m、4.6mである。15住居のカマド煙道部とは0.5mの距離、12住居との距離は0.9mであり、いずれも同時存在は困難と推定する。

重複関係 45土坑と重複し、14住居→45土坑の順に新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没し、一部にカマド構築材とみられる粘土ブロックが混じる。堆積状態では自然な埋没と考えられる。

壁 高さ17～26cmで、北寄りがわずかに深い。東西3.44m、南北3.72mでやや長方形を呈する。各辺の長さは南辺3.15m、西辺3.47m、北辺3.00m、東辺3.36mである。

床面 床面は本来平坦であったと考えられるが、カマド前から中央部にかけて地割れが北東-南西の方向に走り、3～4段の段差(落差1～6cm)で南東側が落ち込み、床面がずれている。中央部からP2にかけての床面は硬く締まっており、本来の状態を保っている。南辺東寄りの壁溝が曲る地点の床面に、カマド粘土と同様の粘土が分布していた。

支柱穴 P1・P2・P4が候補となる。P1は二段に掘り込まれ、北寄りの底面はオーバーハング状態である。P2も二段に掘り込まれるが、北東-南西に長く不整形であり、P4は規模が小さい。P3は壁際にあり、貯蔵穴の可能性もある。各ピットの規模はP1:89×86・深さ40cm、P2:99×75・深さ25cm、P4:20×13以上・深さ4cm、P1-P2:127cm、P1-P4:178cmである。

壁溝 南辺東寄り、西辺中央～北辺に巡る。南東隅の壁溝は住居壁よりも内側に曲り、P3周辺の南西隅の両側には壁溝がない。北東隅からカマドまでの間も壁溝がない。幅17～29・底面幅2～13・深さ2～12cmである。

カマド 東辺南寄りに設置する。燃焼部の半分程度が壁ラインの外側にあり、燃焼部の壁は黄白色粘土を貼り付け、表面はよく焼けて焼土化し、左右袖部の基部は黄白色粘土で作っていた。燃焼部底面には灰層が認められた。貯蔵穴 南西隅のP3と考えられる。二段に掘り込まれ、規模はP3:58×54・深さ42cmである。

掘り方 底面に細かい凹凸があり、西辺沿いの底面は浅く凹んでいた。P2の南側は不整形に掘り込まれ、南東隅付近には径20・深さ9cmの小穴を検出した。北西隅にも小穴があり、20×16・深さ9cmである。北辺沿いは深く掘り込まれ、凹凸が著しい。地割れの様子が顕著に認められた。

その他 住居南東部の地割れは南辺の外から続き、12住居～11住居西辺に延びると考えられる。14住居が45土坑と重複する地点の住居壁に、斜めに落ち込む土層が観察され(第41図a-b)、住居埋没土の土層観察でも上位土層の落ち込みが認められる(第41図c-d)。また、硬く締まった床面が硬い面を保ったまま割れて落ち込んで状態も観察できることから、本住居は地割れ発生以前に営まれ、白色軽石を含む黒褐色土(土層1)でほぼ埋没したのちに地割れが発生したと考えられる。

遺物 遺物の出土は少なく、中央部で土器片が、P2北側の床面から土師器甕片(B83)がそれぞれ出土したほか、埋没土から須恵器片191g、土師器片1849gが出土した。時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 15住居(第42・198図、PL.28・29・137)

検出位置 31区K 8グリッド付近で検出した。14住居の西側にあり、14住居との最短距離は0.5m、13・14・20住居との最短距離はそれぞれ3.0m、0.5m、1.5mである。14住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 16住居と重複し、16住居→15住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。堆積状態では自然な埋没と考えられる。

壁 高さ29～48cmで、北寄りがやや深い。北東-南西4.11m、北西-南東5.38mで長方形を呈する。各辺の長さは南東辺3.47m、南西辺4.66m、北西辺3.61m、北東辺4.80mである。

床面 カマド前を中心に、西隅を除き不整形に硬く締まった床面が広がる。

支柱穴 P1・P2・P5・P6が候補となるが、いずれも浅い。各ピットの規模はP1:25×27・深さ7cm、P2:27×27・深さ5cm、P5:40×39・深さ6cm、P6:34×36・深さ5cm、P1-P2:155cm、P2-P5:279cm、P5-P6:178cm、P6-P1:280cm、P3:24×23・深さ4cm、P4:30×26・深さ4cmである。

壁溝 カマド前を除き全周する。北西辺沿いと北東辺沿いの壁溝は、住居壁下に壁溝の上端があり、南東辺・南西辺沿いの壁溝と異なっている。南東辺では長さ70cm前後の単独溝状を呈する部分があり、床面の硬化した範囲が両者の間で壁近くまで広がることと併せると、この付近に出入口が想定される。その他の壁溝では径15～25cmの小穴が散在する。幅11～34・底面幅1～13・深さ2～7cmである。

カマド 北東辺南寄りに設置する。燃烧部の2/3程度が壁ラインの内側にあり、燃烧部の壁は黄白色粘土を貼り付け、表面はよく焼けて焼土化していた。左右袖部～燃烧部には20～30cm大の石を芯にして粘土を貼り付け、燃烧部奥の左に偏して三角錐状のよく焼けた石が据えられ、支脚としていた。燃烧部壁の石は、6個のうち5個が割れた状態の石である。

貯蔵穴 掘り方調査で検出したP7またはP8の可能性はある。P7はカマド前の正面に位置し、略楕円形を呈し、やや大きい。P8は浅い掘り込みの中央を深く掘り込み、全体として不整形で、北西側の浅い水準から土師器杯片(B85)が出土した。規模はP7:120×98・深さ21cm、P8:70×55・深さ17cmである。

掘り方 底面の凹凸が著しい。南東辺中央壁下のピットは29×26・深さ11cmである。北西辺～北東辺沿いの壁下には、幅3～15cmの平坦な面が残り、壁溝の壁際と一致する。

その他 本住居のカマド奥壁は、東側の14住居まで0.5mしかなく、極めて近接している。

遺物 中央部での出土は少なく、壁近くの出土が多い。P6東側で焼けた石が、東隅付近で土師器甕(B97)が、南西辺沿いの壁際で土師器杯(B87)、須恵器杯(B93)が、北隅の床面から土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀

前半の所産と推定する。

B区 16住居(第43・199図、PL.29・137)

検出位置 31区L7～8グリッド付近で検出した。15住居の西側にあり、20住居との最短距離は2.0m、1井戸・21住居との最短距離はそれぞれ3.7m、2.8mである。

重複関係 15住居と重複し、16住居→15住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ5～14cmで、北寄りがやや深い。東隅を検出しているが、北東辺が東側に広がる可能性が残る。北西-南東4.87m、東隅付近での北東-南西3.35mで長方形を呈する。各辺の長さは南西辺4.76m、北西辺2.79m以上、北東辺0.51m以上、南西辺3.25mである。

床面 南東部を中心に、やや硬く締まった床面が広がる。

支柱穴 P6・P5・P4・P8が候補となるが、いずれも浅い。各ピットの規模はP6:38×35・深さ14cm、P5:59×46・深さ17m、P4:35×33・深さ9cm、P8:35×34・深さ16cm、P6-P5:271cm、P5-P4:131cm、P4-P8:270cm、P8-P6:153cm、P2:71×63・深さ45cm、P3:60×54・深さ15cm、P1:73×73・深さ17cm、P7:57×52・深さ23cmである。

壁溝 東隅と西隅付近で検出した。長さ85～100cmで、幅14～24・底面幅4～18・深さ5～14cmである。

カマド 北東辺に設置されていたと推定されるが、15住居によって破壊されていた。P1・P3・P4付近の床面がやや硬く遺存していたことから、この付近の北東辺に設置されていた可能性が高いが、詳細不明である。

貯蔵穴 P7・P1・P2の可能性はあるが、決定する材料に乏しい。

掘り方 底面の凹凸が著しく、床面深さの倍ほどの深さまで達していた。

その他 なし。

遺物 中央部東寄り土師器杯(B100)が、P1から土器片が、P4脇から金属製品角釘(B104)が、P6付近から土師器杯片(B101)が、いずれも床面からやや浮いた状態で出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 17住居(第43図、PL.29・30)

検出位置 31区O～P9グリッド付近で検出した。16住居の西側にあり、26住居との最短距離は0.4m、23住居・22住居との最短距離はそれぞれ2.5m、2.3mである。26住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 68土坑と接するが、重複関係は確認できなかった。

覆土 ロームブロックを含む灰黄褐色系・黒褐色系の土で埋没する。北から南へ向かって黒褐色系の土が流れ込んでおり、地山の傾斜に近いことから、自然な埋没と考えられるが、いずれも締まりのない土で埋没する。

壁 高さ32～50cmで、北東寄りやや深い。南北2.96m、東西2.90mで東西方向に潰れた方形を呈する。3つの隅は丸味を帯びる。カマド煙道部を除外した各辺の長さは南辺2.54m、西辺2.49m、北辺2.41m、東辺2.23mである。

床面 全体に硬く締まった面が検出できなかった。

支柱穴 P1・P2の規模はP1:61×53・深さ17cm、P2:58×54・深さ15cmである。東辺南端のピットは深さ11cm、南辺東端のピットは東側深さ26cm・西側18cmで、3個とも壁奥に向かって斜めに掘り込まれていた。

壁溝 なし。

カマド 南東隅に設置されていた。奥壁から煙道部にかけて、両側の壁が焼けており、焼部底面の一部も焼土化していたが、袖部を形成する粘土・石等は不明である。焼部周縁にある小穴は深さ3～4cmで、袖石を据えた痕跡の可能性がある。この小穴と煙道部とを通る対称軸は、ほぼ住居の対角線方向に延びる。

貯蔵穴 P1・P2の可能性はある。

掘り方 不明。

その他 南辺東寄りの壁際に、径35～40cmほどのピットが2つ並んで斜めに掘り込まれ、その上位の住居壁は南側に突出する。カマド左側のピットも斜めに掘り込まれており、カマドに関連する施設と思われるが、用途不明である。北辺中央部のP1寄りに、幅10cmほどの段があり、床面との落差は8cm、住居外との落差は34cmであった。出入口の可能性はある。

遺物 カマド焼部底面からやや浮いた状態で土器片が出土したほか、埋没土中から須恵器片12個、土師器片2個が出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴とカマドの状況

から、平安時代の所産と推定する。

B区 18住居(第44・199図、PL.30・137)

検出位置 31区K13グリッド(X=47363・Y=-67052付近)で検出した。9住居の北西側にあり、9住居との最短距離は1.9m、8住居・19住居・C区7住居との最短距離はそれぞれ4.0m、1.5m、0.2mである。C区7住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 耕作痕と重複し、18住居→耕作痕の順に新しい。耕作痕の走行は北西-南東とその直交方位である。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系・黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ17～32cmで、北寄りがやや深い。南北2.91m、東西3.37mで東西方向に長い長方形を呈する。南東隅は耕作痕により破壊され、検出されなかった。各辺の長さは南辺2.18m(推定3.2m)、西辺2.36m、北辺2.97m、東辺1.13m(推定2.7m)である。

床面 カマド前を中心として、硬く締まった面が広がっていた。

支柱穴 P1・P2が候補だが、東側の対応する位置に床面ではピットが検出できなかった。掘り方調査で、南東隅付近にP4を、南西隅付近にP3を検出した。P1は二段に掘り込まれていた。各ピットの規模はP1:72×53・深さ9cm、P2:28×26・深さ4cm、P4:23×21・深さ8cm、P3:31×35・深さ31cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部に設置されていた。焼部東半部が耕作痕により破壊されており、不整形な左右の袖部が遺存していた。カマド左袖脇の石は、カマド構築材の可能性はある。奥壁と煙道部は良く焼けて焼土化しており、焼部西半部底面では焼土と炭化物が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 北辺沿いが深く不整形に掘り込まれ、南に向かって階段状に浅くなる。全体に凹凸が著しい。

その他 南西隅付近の壁に50×20cmほどの半円形の掘り込みがみられ、壁外との落差は9cm、床面との落差は11cmである。出入口の可能性はあるが、内部に入って支柱穴候補P1に当たってしまい、出入りしやすい位置ではない。

遺物 北東隅付近から土器片が、P2北側から土師器杯

(B107)が、中央部南寄りから土師器杯(B105)が出土したが、いずれも床面から浮いた状態である。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

B区 19住居(第45図、PL.31)

検出位置 31区J～K14グリッド付近で検出した。18住居の北西側にあり、18住居との最短距離は1.5mである。重複関係 耕作痕・1溝(耕作痕)・24土坑と重複し、19住居→1溝(耕作痕)→耕作痕、24土坑→耕作痕の順に新しい。

覆土 削平が深く、断面図を作成できないほど浅い。

壁 高さ2～5cmで、南辺の一部とカマド痕跡を検出したのみである。検出した南辺は長さ2.18mほどであった。

床面 検出した範囲は掘り方に達していたと考えられる。

壁溝 不明。

カマド 東辺に設置されていたと推定する。黄白色粘土ブロックと焼土粒子の分布によって、カマド痕跡と推定したが、上位の削平により痕跡に止まる。

貯蔵穴 不明。

掘り方 掘り方に達していたとみられる。

その他 住居痕跡のみであり、詳細は不明である。

遺物 埋没土中から須恵器片20g、土師器片395g、埴輪片2個が出土した。

時代・時期 粘土を利用したカマド痕跡が存在すること、少ない出土土器の特徴から、奈良時代の8世紀前半と推定する。

B区 20住居(第45・46図、PL.31・32・137)

検出位置 31区L9グリッド付近で検出した。15住居の北西側にあり、15住居との最短距離は1.5m、13住居・14住居・16住居・2井戸・C区1住居との最短距離はそれぞれ4.0m、4.6m、2.0m、3.9m、1.9mである。

重複関係 21住居と重複し、21住居→20住居の順に新しい。カマド燃焼部から南東隅にかけて耕作痕が遺構を破壊し、北東隅の長方形土坑も住居より新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系・黒褐色系の土で埋没する。北東から土が流入し、自然な埋没と考えられる。

壁 高さ12～33cmで、北辺沿いがやや深い。南北5.09m、

東西4.92mで南北方向にわずかに長いが概ね方形を呈し、各辺の中央部がやや膨らみ、各隅に丸味がある。カマド燃焼部は耕作痕によって破壊されていた。各辺の長さは南辺4.63m、西辺4.01m、北辺4.35m、東辺3.78mである。

床面 カマド前から中央部にかけて、硬く締まった面が広がっていた。P2からP7にかけて、深さ2～3cmの段差が認められ。北西側が低い。

主柱穴 P1・P6・P7・8が候補だが、P2・P5も隣接しており、いずれも二段に掘り込まれていた。P9はその位置から貯蔵穴とみられる。各ピットの規模はP1:43×39・深さ45cm、P2:44×39・深さ34cm、P5:56×45・深さ21cm、P6:41×32・深さ49cm、P7:48×48・深さ43cm、P8:34×32・深さ53cm、P3:77×65・深さ25cm、P4:32×29・深さ30cm、P1-P6:210cm、P6-P7:215cm、P7-P8:208cm、P8-P1:215cm、P2-P5:198cm、P5-P7:255cm、P8-P2:251cmである。P2・P5は住居拡張後の主柱穴または追加の柱穴の可能性が高い。

壁溝 南東隅のP9と住居壁の間にも細い壁溝が認められ、全周して左袖部相当まで巡る。幅13～34・底面幅2～13・深さ3～12cmである。

カマド 東辺中央部に設置されていた。燃焼部奥壁から煙道部にかけて耕作痕により破壊されており、底面に焼土・灰が分布していたが、袖部は遺存していなかった。燃焼部の壁は良く焼けて焼土化していた。

貯蔵穴 南東隅の不整形の掘り込みP9とみられる。P9:140×103・深さ41cm。内部は二～三段に掘り込まれ、不整形な下端があって土師器杯(B112)が出土した。南東隅の上端から土師器甕破片(B117)が出土した。

掘り方 南辺の壁の内側20～30cmで、幅26～46・底面幅6～19・深さ2～9cmの溝を検出したほか、ほぼ同じ幅の内側に小穴や小溝が連続して掘り込まれていた。また、不整形のP10～P15と、略方形のP16を追加調査した。P16は古い時期の貯蔵穴の可能性が高い。各ピットの規模はP10:91×82・深さ9cm、P11:36×30・深さ57cm、P12:64×60・深さ4cm、P13:115×67・深さ18cm、P14:56×44・深さ10cm、P15:38×37・深さ8cm、P16:98×82・深さ12cmである。底面は全体に凹凸があり、壁際の凹凸がとくに著しい。

その他 床面検出のピット・壁溝と掘り方調査で検出し

た内部施設を比較すると、壁溝がひと回り外側へ広がっており、本住居はカマドの設置された東辺も含めて拡張された可能性が高い。

遺物 貯蔵穴から土師器杯(B112)・甕(B117)が、南辺中央部の壁際から須恵器杯(B114)が、北東隅の壁際から須恵器杯(B115)がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 21・22住居

(第47～49・199・200図、PL.32～34・137)

検出位置 31区M～N 8～10グリッド付近で検出した。22住居は17住居の南東にあり、17住居との最短距離は2.3m、26住居と最短距離は0.6mである。21住居は16住居の北西にあり、16住居との最短距離は2.8mである。21・22住居は後述のように、長さ2.3m・幅1mほどの長方形を呈する廊下状遺構(以下、「廊下部」と呼ぶ)で連結されており、同時に存在した期間があると考えられることから、26住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 21住居は20住居・C区1住居と重複し、21住居→20住居、21住居→C区1住居の順に新しい。また、廊下部付近を略南北に走行する道路跡は、22住居と廊下部の上位を破壊していた。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。22住居-廊下部-21住居の土層観察では、三者を埋める土が酷似していた。以下、21住居・廊下部・22住居の順に記述する。

[21住居]

壁 高さ10～43cmで、北寄りやや深い。北西-南東6.90m、北東-南西7.09mで東西方向にわずかに長いが概ね方形を呈する。東隅を20住居によって破壊されており、20住居の床面は21住居の床面よりも高い水準にあった。20住居西半部の床面は21住居床面の上に設営され、20住居東半部の掘り方調査では、21住居床面を破壊していた。各辺の長さは南東辺3.37m(推定6.55m)、南西辺6.51m、北西辺6.66m、北東辺2.66m(推定6.35m)である。

床面 壁際を除くほぼ全体に、硬く締まった面が広がっていた。カマド右脇の貯蔵穴上端周囲は、灰黄褐色～黄白色の粘土が取り巻き、数cm高さに盛り上がっていた。

支柱穴 P1・P2・P4が候補で、ピット配置と検出水準及び深さから20住居掘り方調査で検出したP11も21住居の支柱穴と考えられる。いずれも二段に掘り込まれていた。各ピットの規模はP1:53×41・深さ37cm、P2:63×57・深さ64cm、P4:59×39・深さ38cm、P11:47以上×47・深さ16cm、P3:30×25・深さ7cm、P1-P2:387cm、P2-P4:414cm、P4-P11:409cm、P2-P3:263cm、P3-P4:152cmである。

壁溝 東隅の周辺とカマド部分を除き全周する。北東辺南寄りから南東辺東寄りの範囲は、20住居掘り方が深かったためか、床面水準では壁溝は検出できなかった。カマド袖部の壁際両脇に小穴が検出され、深さは西側が14cm、東側が16cmである。南東辺から南西辺にかけて、壁溝内に小穴があり、廊下部との境界にも小穴が認められた。壁溝の幅10～25・底面幅2～13・深さ5～14cmである。

カマド 北西辺中央部に設置されていた。本遺跡では北側にカマドを設置する住居例は少ない。燃焼部奥の底面は角張っており、住居の壁ラインから手前が一段低くなり、カマド前から奥壁にかけて焼土ブロックと粘土ブロックが堆積していた。これを取り除くと、底面に灰層が数cm堆積していた。灰層底面と奥壁とのなす角度は120°で、直線的に立ち上がる。燃焼部中央の住居壁ライン付近の、左袖寄りの位置に略三角形の石が据えられ、支脚としていた。左右の袖部から奥壁にかけて地山とは異なる黄白色粘土が認められ、両袖部と角張った奥壁を形成していた。燃焼部の壁は良く焼けて焼土化していた。焼けた石がいくつか出土したが、大きさでは焚き口天井部とみられるものがなく、持ち去られた可能性が残るが、粘土で構築していたと考えられる。

貯蔵穴 カマド右脇の掘り込みと考えられ、上面は略方形を呈し、壁際に浅い平坦な面をもつ。壁は斜めの急角度で落ち込み、底面は不整形である。規模は96×91・深さ47cmである。壁側を除き、コの字状に粘土の帯が上端を取り巻く。中から完形の須恵器杯(B127)・蓋(B126)、土師器杯破片(B123)が出土した。

掘り方 北東辺沿いで幅50～70・深さ1～20cmの帯状の掘り込みを検出したほか、北東辺の壁溝延長部をわずかに検出した。22住居の東隅は、20住居P8東側に接するピット付近に推定でき、北東辺・南東辺の長さはこれを参

考にして推定した。南東辺沿いには不整形の掘り込みが連続し、西寄りでは灰白色の粘土をのせた掘り込みが認められた。西隅付近で検出したP5は二段に掘り込まれ、規模は70×41・深さ15cmである。廊下部の境界付近にあった小穴は連続した掘り込みとなり、南寄りの部分は壁溝状を呈する。廊下部の北側に3個の小穴を検出した。径30cm前後で、深さは16～24cmである。カマド前は住居壁の内側が不整形の掘り込みとなり、深は8～19cmの凹凸の多い底面であった。燃焼部奥側の底面も凹凸が著しい。

その他 検出できた範囲では、出入口が想定できない。
遺物 比較的遺物の出土が多い。貯蔵穴内から須恵器杯(B127)・蓋(B126)が、カマド右袖前から重ねた状態の土師器杯(B124・125)が、カマド左袖脇の壁際から細長い石8個が、貯蔵穴と壁の間から石5個がそれぞれ出土し、円筒埴輪片(B129)、縄文土器片も床面からやや浮いた状態で出土したほか、埋没土中から須恵器片8個、土師器片570g、円筒埴輪片10個が出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

[廊下部]

21住居の南西辺中央部やや南寄りと、22住居北東辺中央やや南寄りを結ぶ略長方形の廊下部を検出した。当初、上位に北西から延びる道路状遺構の延長部が想定されたことから両者にまたがる新しい(近世以降の)長方形土坑と推定し、長軸に沿った土層断面を設定して観察した。しかし、明確な切合い関係が認められなかったことから、両方の住居にかかわる遺構と考えざるを得ない状況となった。その後、廊下部南辺沿いの壁際で両方の住居につながる壁溝を確認したことにより、住居と一連の遺構であることが判明した。

北辺の長さは2.27m、南辺の長さは2.30mで、南北0.98～1.07mである。壁の高さは18～26cmでほぼ一定しており、壁溝の内側の幅は46～53cmである。ひとり人が通行できる程度の幅であるが、すれ違えないほどではない。

22住居-廊下部-21住居を通した土層断面(第47図c-d)でみると、22住居と廊下部の床面水準がほぼ同じで、21住居の床面はわずかに高い。22住居の床面は2枚あって掘り方が深く、下位床面は廊下部床面よりも一段

下がる。22住居上位床面の水準は廊下部床面水準に滑らかにつながる。埋没過程でみると、21住居と廊下部は床面を形成する土の直上に灰黄褐色系の土が薄く広がり、その上に22住居と同様の黒褐色系の土が堆積する。床面を形成する土は21住居・廊下部とも同じで、廊下部の壁溝は明瞭に21住居へ連続するが、廊下部北側の壁溝と22住居北東辺壁溝とは、つながり方が滑らかではない。以上のことから、21住居と廊下部は一体的に作られ、22住居の造成と時間差があった可能性がある。しかし、21住居と22住居が廊下部でつながり、同時に存在した時間があったことは確かであろう。

廊下部の外の南北の区域には、ピットの類が見当たらず、内部の東西両端近くに小穴が存在することから、21住居西側と22住居東側の屋根の葺き下ろしが廊下部にかかっていたか、簡単な覆屋を内部の小穴に立てた柱で支えたと推定する。廊下部の南北には壁状の施設が想定できるが、検出した遺構の範囲では、出入口施設は想定しにくい。

[22住居]

壁 高さ19～38cmで、北寄りがやや深い。北西-南東4.71m、北東-南西3.85mで南北方向に長い長方形を呈する。北東辺中央部の上位を道路跡に破壊されているが、概ね遺存良好である。カマド煙道部と思われた掘り込みは、より新しい(近世か)ピットであった。各辺の長さは南東辺3.68m、南西辺4.66m、北西辺3.71m、北東辺4.20mである。

床面 北西隅を除くほぼ全体に、硬く締まった面が広がっていた。

主柱穴 配置と深さからP6・P2・P9・P4が候補で、東隅はP10も候補となる。P9に柱が立つと廊下部の通行がしにくいかもしれない。P2とP4は二段に掘り込まれていた。各ピットの規模はP6:39×39・深さ18cm、P2:44×40・深さ39cm、P9:59×49・深さ4cm、P4:95×44・深さ18cm、P1:44×40・深さ25cm、P10:21×20・深さ15cm、P3:24×20・深さ12cm、P5:75×49・深さ15cm、P6-P2:199cm、P2-P9:125cm、P9-P4:251cm、P4-P6:271cm、P2-P10:155cm、P10-P4:274cmである。

壁溝 北西辺を除きほぼ全周する。南隅付近で約50cm途切れ、南東辺中央部ではP3の両側が途切れる。カマドを設置する北隅～西隅では、壁溝は検出しなかった。壁溝

の幅10～29・底面幅3～11・深さ2～8cmである。

カマド 北西辺中央部やや東寄りに設置されていた。連結する21住居と同じく、北側にカマドを設置する。燃烧部の半分が住居壁の外側にあり、左右の袖部は粘土で構築され、右袖には扁平な石が立てた状態で出土した。粘土は左右の袖部から燃烧部まで貼り付け、燃烧部の粘土は焼けて焼土化していた。カマド底面から浮いた状態で埴輪片(B135・136)が出土した。煙道部付近の2つの掘り込みは後世のもので、カマドを破壊していた。

貯蔵穴 掘り方調査で検出した北隅のP7、中央部検出のP8の可能性ある。P8は特異な掘り込みで、略円形に黄白色粘土が広がり、中央部が浅く凹む。粘土が厚さ数cmの板状に立ち上がって、内部の壁下が凹み、一度盛り上がって再び中央部が凹むという形状である。B区10住居の粘土を貼った掘り込みと、作り方に類似性がある。各ピットの規模はP7:45×43・深さ36cm、P8:153×130・深さ8cmである。

掘り方 北西辺沿いと北東辺沿いに平坦な面があり、カマド前は不整形の凹凸が著しい。北西辺の平坦面から5～13cm低い水準で、南西辺沿いに幅60cmの平坦な面が直線的に延びる。用途不明である。カマド底面も凹凸が著しい。

その他 南東辺中央部で検出したP3の両側は、P3を挟んで44cmの壁溝の途切れた部分であり、出入口施設が推定される。

遺物 P1の西側床面から円筒埴輪片(B134)が、P9とP4の間の床面から土師器甕片(B133)が、南西辺壁際近くから埴輪片(B137・138)がそれぞれ出土した。北西隅付近出土の埴輪片は床面から浮いた状態である。埋没土中から須恵器片5個、土師器片372g、円筒埴輪片837gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

B区 23住居(第50・200・201図、PL.34・35・137)

検出位置 31区Q9グリッド付近で検出した。17住居の西側にあり、17住居との最短距離は2.5m、C区6粘土採掘坑・C区48住居との最短距離はそれぞれ1.2m、0.8mである。

重複関係 なし。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ5～24cmで、15cm前後である。南北4.51m、東西3.29mで南北方向に長い長方形を呈し、北辺中央部がやや外側に膨らみ、南辺東寄りに幅20・長さ75・深さ3～8cmの細長い突出部がある。各辺の長さは南辺2.87m、西辺4.04m、北辺3.09m、東辺3.91mである。床面 カマド前から中央部にかけて、硬く締まった面が不整形に広がり、それと重なるような範囲に粘土が分布していた。粘土の分布はカマド燃烧部の外側にも広がっていた。北西隅に不整形の掘り込みがあり、主として西辺に沿っている。深さは6cm前後で浅い。

支柱穴 P3・P4が候補だが、対応する西側のピットは確認できなかった。各ピットの規模はP3:40×36・深さ7cm、P4:39×36・深さ50cm、P3-P4:251cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部南寄りに設置されていた。燃烧部の半分程度が住居壁の外側にあり、左右の袖部は遺存していなかった。右袖部の掘り方調査で割れた石が3個出土し、カマド構築材の一部と考えられる。燃烧部奥の壁粘土は焼けて焼土化していた。燃烧部から須恵器碗(B144)1個体分の破片が出土した。

貯蔵穴 P1またはP2と考えられるが、どちらも不整形で浅く、判定できない。規模はP1:54×52・深さ10cm、P2:73×50・深さ8cmである。P2の上位から須恵器杯(B141)が出土した。

掘り方 南西隅が大きく不整形に掘り込まれ、深さ5～14cmで凹凸が著しい。中央部と北東隅に略楕円形の掘り込みがあり、P5が深い。規模はP5:138×104・深さ44cm、P6:166×112・深さ16cm、P7:72×64・深さ23cm、P8:径35・深さ21cmである。南東隅のP9の周囲は平坦な面が南辺に沿って広がり、掘り方底面との落差は8cm、突出部との落差は11cm前後で、突出部からみると階段状を呈する。P9:21×19・深さ10cmである。また、南辺中央部に幅12・長さ63・落差22cmの細長い平坦面があり、階段状を呈する。

その他 南辺東端の突出部の埋没土を観察したところ、突出部付近では黒褐色土と黄褐色土が交互に重なり、住居内側では水流で動いたような堆積状態であった。突出部付近に出入口施設が想定される。

遺物 カマド燃焼部底面近くから須恵器椀(B144) 1個体が出土し、P5出土の須恵器杯は浮いた状態で出土した。中央部から北西隅にかけて須恵器杯片(B142・B143)が、P5・P6・P7から土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

B区 24住居(第29・30図、PL.17・18)

検出位置 40区T 8～9グリッド付近で検出した。B区の東端に位置する。

重複関係 1住居・2住居と重複し、24住居→2住居→1住居の順に新しい。24住居は2住居の拡張であった可能性がある。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。

壁 高さ6～16cmで浅い。南西隅と南辺を検出したが、1・2住居と重複しているため、全体のプランは不明である。西辺2.24m以上、南辺2.92mを検出した。

床面 検出範囲では概ね平坦である。

支柱穴 P1:37×29・深さ9cm、P2:78×63・深さ15cmで、規模が一律ではない。

壁溝 西辺で検出し、住居規模の根拠の一つとなった。幅17～22・底面幅6～8・深さ3～6cmである。

カマド 南東部のP1付近から土器片が出土したこと、P1東側の2住居床面付近に炭化物・焼土・粘土が分布することなどから、東辺南寄りにカマドが存在した可能性がある。

貯蔵穴 不明。

掘り方 細かい凹凸がある。

その他 南辺中央部に略長方形の掘り込みが認められた。東西71×南北32・深さ3cmである。2住居の西辺と24住居の西辺がほぼ平行すること、床面の高さがほぼ同じことなどから、本住居は2住居の拡張であった可能性がある。

遺物 床面から焼けた石が出土したほか、埋没土中から土師器片3個が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の所産と推定する。

B区 25住居

検出位置 40区S 9グリッド付近の壁で認定した。B区

の東端に位置する。

重複関係 1住居と重複し、調査時は1住居→25住居の順に新しいと推定した。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。

壁 1住居の項で記述したように、1住居のプランが不自然な形状であることから、1住居の北辺が調査区壁の北側にあったと想定し、北西隅は未検出だったとすれば、北壁土層のみで認定した25住居は1住居の一部であったと考えられる。ここでは、25住居は欠番とした。

B区 26住居(第51図、PL.35)

検出位置 31区O 8グリッド付近で検出した。17住居の南側にあり、17住居との最短距離は0.4m、22住居・23住居との最短距離はそれぞれ0.6m、4.5mである。17住・22住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 なし。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ31～40cmで、南隅付近がやや低い。北西-南東3.01m、北東-南西2.40mで南北方向に長い。北西辺に比べて南東辺が長く、全体として台形を呈する。各辺の長さは南東辺2.29m、南西辺2.53m、北西辺2.12m、北東辺2.53mである。

床面 全体に硬く締まった面がなく、壁際は斜めに立ち上がる形状である。壁際には小穴がいくつか並び、南西辺では4個検出した。北西辺東寄りでは壁際に長さ50・高さ7cm程の細長い中段があり、壁外との落差は31cmであった。ここにも2個の小穴(深さ3～4cm)があり、南東辺東寄りの小穴と位置が似ている。北東辺中央部の小穴は、壁に対して斜めに掘り込まれていた。東隅寄りの底面で、99×84・深さ7cmの略楕円形の浅い掘り込みが認められた。

支柱穴 不明。中央部のP2は深く、西寄りのP1は浅い。各ピットの規模は、P1:36×31・深さ14cm、P2:31×31・深さ37cmである。

壁溝 なし。

カマド なし。

貯蔵穴 東隅の浅い掘り込みの可能性がある。

掘り方 なし。底面はローム層に達しており、細かい凹凸が認められた。

第4章 検出された遺構と遺物

その他 カマド・炉がなく、住居跡らしくないが、竪穴状であることは間違いなく、現地での番号付けを引き継いだ。

遺物 東隅の浅い掘り込み付近からやや浮いた状態で土器片が2個出土したほか、埋没土中から須恵器片1個、土師器片1個が出土した。

時代・時期 遺構の特徴から、平安時代の所産と推定する。

B区 27住居(第51・201図、PL.26)

検出位置 31区I10グリッド付近で検出した。10住居-11住居-3井戸流路に挟まれた位置にあり、一部のプランを検出したのみである。

重複関係 10住居・11住居と重複し、いずれも27住居より新しい。3井戸流路も27住居南東部を切っており、本住居の方が古い。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。

壁 高さ4～12cmで浅く、北西隅と南辺・南東隅付近を確認したのみである。南北3.54mを計測できたが、東西方向の規模は不明である。西辺0.53m、北辺1.66m、南辺2.50mを検出した。全体のプランは不明である。壁の立上りが浅いため、確からしさが低い。

床面 全体に硬く締まった面がなく、掘り方に至っている可能性が高い。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド なし。

貯蔵穴 南東部の不整形掘り込みが痕跡か。不整形掘り込み:143×87・深さ13cmである。

掘り方 底面が掘り方と考えられる。

その他 カマド・炉がなく、北東隅・南西隅を欠く。詳細不明。

遺物 埋没土中から土師器片112gが出土した。

時代・時期 少ない出土遺物から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

B区 1竪穴(第51図)

検出位置 31区I6グリッド付近で検出した。3井戸流路を掘り下げた後に長方形の落ち込みが認められたことと、住居跡とするには内部施設がまったく不明であった

ため、1竪穴とした。3井戸流路の範囲確認時には、竪穴のプランは検出できなかった。ほかの住居群とは離れた位置にあり、B区のなかでも南寄りの低地に位置する。重複関係 1掘立柱建物の柱穴2個と重複し、64Pに南西辺を破壊されていることから、1竪穴→64P(1掘立柱建物)の順に新しい。

覆土 灰黄褐色系の土がわずかに残る。

壁 高さ数cmで浅く、わずかな凹みでプランを推定した。北東-南西3.96m、北西-南東3.38mで北東-南西に長い長方形とみられる。各辺の長さは南東辺3.63m、南西辺2.90m、北西辺3.71m、北東辺3.05mである。壁の立上りが浅いため、確からしさが低い。

床面 全体に硬く締まった面がなく、掘り方に至っている可能性が高い。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド なし。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面が掘り方と考えられる。

その他 カマド・炉がなく、詳細不明。

遺物 わずかな埋没土中から須恵器片1個、土師器片150gが出土した。

時代・時期 1掘立柱建物より古い。

B区 1掘立柱建物(第52・53図、PL.36)

検出位置 31区I～K6～7グリッド付近で検出した。B区の西側住居群の南寄り低地にあり、北西側柱穴列はやや高い位置に、南東側柱穴列は低い位置に並ぶ。3井戸流路の南西へ向かう流路を丁度跨ぐように柱穴が配列されていた。15住居との最短距離は5.1mである。

重複関係 南東側柱穴の一部は1竪穴と重複し、1竪穴よりも新しい。3井戸流路との前後関係は判然としないが、南東側の柱穴輪郭を確認できたのが流路埋没土を除去した後であったことから、本掘立柱建物の方が古い可能性が高い。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。一部に焼土ではない赤色粒子を含む。

柱穴 それぞれ単独の土坑またはピットと想定して北西側の掘り込みの輪郭を確認して番号を付けたが、3井戸流路の埋没土除去が進んで配置が明らかになり、全体と

して掘立柱建物になることが判明した。4間×2間の間取りで北東-南西に長く、67Pと58Pとを結ぶ長軸線の方位はN59°Eである。規模は長軸(北東-南西)約10m、短軸(北西-南東)約5mである。不整形の柱穴もあるが、74土坑・58P・61Pを除く他の9ピットは平面が略方形を呈し、直に近い立上りの壁をもつ。柱痕が明瞭に残る73土坑を基本とすると、74土坑・49P・58Pにも同様の柱痕があると考えられ、柱痕が底面に遺存していない柱穴は、掘り方の形状を示していると推定される。各隅の柱穴をみると、略方形を呈する掘り込みの辺が、対角線方向を向いており、ほかの側柱の辺の向きと異なるという特徴をもつ。

北隅の74土坑柱痕と73土坑柱痕を結ぶ線(芯芯)を延長すると、西隅の49P柱痕にギリギリ重なることが判った。同様に74土坑柱痕と58P柱痕を結ぶ線(芯芯)を延長すると、東隅の59Pに重なり、さらに南西に90°曲げて61P柱痕を通る線を延長すると、63P・64Pを通して66Pに重なることが判った。この直角関係の長軸線と北方位とのなす角度はN58°Eで、67P-58Pを結ぶ線の方位と殆ど同じである。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第12表にまとめた。

その他 61Pの南東側に60P・62Pが認められ、規模がほかの柱穴に近いことから、61Pの補助柱穴か、建替えされた可能性がある。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、49・50・58・64Pから須恵器片・土師器片が出土した。

時代・時期 1 竪穴→1 掘立柱建物→3 井戸流路の順に新しいとすると、奈良～平安時代の所産と推定する。

B区 1 井戸=溜井

(第54・55図201～203、PL.36～39・138)

検出位置 31区L6グリッド(X=47328・Y=-67058付近)で検出した。B区の南西部にあり、住居群とは離れた南寄りの低い区域にある。最も近い16住居との最短距離は3.7mである。単純な汲上げ井戸と想定して調査を開始したが、3井戸の調査が進むうちに、1井戸も南東へ向かって溝状の遺構が延びていることが判明し、「溜井」と判断した。

重複関係 周辺の住居との重複関係はなく、南東へ向かう流路が3井戸の流路と合流すると考えられる。

覆土 上位は白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没し、中位～下位は石を多く含む灰黄褐色系の砂質土で埋没する。石の出土状態からは規則性が読み取れなかった。
形状 以下、部分名称を次のように仮称する。水源部=湧水する楕円形の井戸状の部分で中央部に不整形の掘り込み(井筒状)をもつ、分流部=二股に分かれる流路が分岐する部分、流路部1=南東へ向かう水路、流路部2=4溝=南へ向かう水路、並流部=3井戸流路と並行流する部分。

水源部は北西-南東に長軸をもつ楕円形を呈し、長軸5.50m、短軸4.08m、深さ0.97mである。当初、単純な汲上げ井戸として着手したため、流路部の存在を認定できず、土層断面の設定が適切ではなかった。中央やや北寄りの底面が周囲よりも深い井筒状を呈する。範囲確認面から30～40cmほど急な角度で掘り下げて傾斜の緩い平坦な面になり、さらに中央部を井筒状に急角度で掘り下げていた。井筒部は0.55×0.40mほどの大きさである。出土した石には大小があり、人頭大の大きめの石と、拳大の小さめの石が認められた。井筒部の底面近くでは、拳大よりもさらに小さい石が多い。

楕円形の水源部南東のくびれた状態の位置から南へ約2mで、分流部となる。分流部から南東へ延びる水路を流路部1と仮称する。南へ直線的に延びる溝状遺構を当初4溝(流路)としたが、調査の進行に伴って一連の遺構と推定でき、流路部2と仮称する。流路部1は、幅0.4～0.8・深さ7～24cmの細流で、南東へ向かって約10mを検出した。分流部から南東へ約6mで3井戸流路と平行しており、調査区南壁の断面観察では、3井戸流路と並行するとみられる。流路部2は幅1.4m・深さ23～29cmほどの直線的な(わずかにS字状を呈する)溝で、分流部から約9mを検出した。幅は概ね一定である。分流部から二股に分岐し、2トレンチの南側約3mで再び合流する。2トレンチの南壁断面では、流路部2(=4溝)は流路部1の埋没土を切っており、流路部2の方が新しく開削されたと推定する。流路部2の底面に近い埋没土は川砂状で、水流が豊富にあったことを窺わせる。合流した南寄りの区域から大小の石が出土した。流路部2の底面は不思議なことに、分流部寄りの区域が141.3mほどの標高であるのに対し、南寄りの石を多く出土した区域では141.4mほどの逆勾配になっていた。

その他 水源部の中位以下から出土した石は、何らかの構造を持っていたと推定するが、乱積み状態で規則性が読み取れなかった。底面の崩壊を防止するため、敷き詰められた可能性もある。

遺物 分流部付近からの出土遺物が比較的多く、須恵器片1584g、土師器片7515gが出土した。概ね底面から浮いた状態であった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、1井戸は奈良～平安時代の8世紀後半～9世紀後半に存続し、4溝(流路)は8世紀後半以後の所産と推定する。

B区 2井戸(第56・203図、PL.39)

検出位置 31区K10グリッドで検出した。B区11住居の西側にあり、11住居との最短距離は3.9m、13住居・20住居・C区1住居との最短距離はそれぞれ1.7m、3.9m、3.5mである。

重複関係 周囲の住居との重複関係はなく、耕作痕と45Pが西端で接して検出された。耕作痕の方が新しい。北から時計廻りで11P・39P・38P・77土坑・81土坑・36P・80土坑が2井戸の縁にかかり、埋没土では重複関係を判定できなかった。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。下位の土は砂質土で、締まりがない。自然な埋没と推定する。

形状 東西3.45m、南北2.94mで東西方向にやや長く、底部は172×62cmの細長い掘り込みをもつ。細長い掘り込みの長軸線は、N83°Wである。底部の掘り込みが西寄りのせいか、西側の壁は急で東側の壁がやや緩い傾斜となる。素掘りの井戸で、石組等はなかった。

周辺のピット等 先述のとおり、2井戸の縁にかかる土坑・ピットが7個認められたほか、2井戸の周辺に限って土坑・ピットが密集して分布していた。周囲の概ね1mほどの範囲にあり、上端や底面が不整形または二段に掘り込まれていた土坑・ピットの計測値を第13表にまとめた。これらより外側にある掘り込みが、2井戸と無関係とはいえないが、覆屋等の施設を想定して取上げた。その他 2井戸の周囲を慎重に精査したが、湧水を流し出す施設は確認できなかった。2井戸は1井戸・3井戸が「溜井」であるのとは異なり、汲上げ井戸と考えられる。周辺の住居を営んだ人が、日常の水を汲上げて利用し

ていたと推定される。調査当時(平成20年)の安定した水位は141.190mである(2008年11月7日現在)。

遺物 須恵器片447g、土師器片358gのほか、灰釉陶器片1個が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、奈良時代の所産と推定する。

B区 3井戸=溜井

(第56～61・203～207図、PL.39～48・139)

検出位置 31区I11グリッド付近から南部で検出した。B区の中央部にあり、周囲を5・6・7・10・12住居に囲まれている。当初略円形を呈する83土坑として調査を開始したが、南側の黒褐色土で埋没した掘り込みを追究してゆく過程で多量の石が出土し、石の間に砂が詰まっていたことから、何らかの水流を伴う遺構と予想されたため、土層断面を残しながら掘り下げたところ、南側で幅5～6mほどの浅い溝状遺構を検出し、さらにその中に幅0.5～1.0mの細流を確認したこと、83土坑の南側で流水による川砂の堆積が認められたことなどから、「溜井」と推定した。

重複関係 27住居の南東隅と重複し、これを破壊していることから、27住居→3井戸(溜井)の順に新しい。27住居は10住居・11住居とも重複し、いずれも27住居の方が古い。10住居のカマドは3井戸の掘り込みに殆ど接しており、両者が同時に存在するのは困難と推定する。

覆土 上位は白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没し、中位～下位は石を多く含む黒褐色～灰黄褐色系の砂質土で埋没する。中位の石の出土状態からは規則性が読み取れなかった。

形状 以下、部分名称を次のように仮称する。水源部=湧水する83土坑を含む不整形の掘り込み部分で、内部の北寄りに長方形を呈する浅い凹みをもつ。H10グリッド(X=47340, Y=-67035)までを水源部とする。流路部=水源部から約8m南南東へ延び、110°ほど折れて南西へ向かう水路部分で、水源部南端からK5グリッド(X=47318, Y=-67054)付近までを流路部とする。並流部=1井戸の流路部1と並行して南東へ延びる部分。

水源部1～5は南北約南北約10m・東西約6mの不整形を呈し、北端に湧水する83土坑がある。掘り込みの深さは東岸で70cm前後だが、西岸では40～50cmである。掘

り込みの北寄りに南北約3.5m・東西3mほどの長方形を呈する深さ15cmほどの浅い凹みがあり、南東隅付近から南南東へ向かって幅0.5～1.0mの浅い溝が延びる。長方形の南西側には傾斜の緩やかな平坦面があり、南端の底面は著しい凹凸がある。南端部を囲むように、地割れが略東西に走り、地割れの西端は北西へ約1m延びる。東岸沿いにも地割れが走り、この地割れは北側の7住居につながる。水源部の上位と中位を分ける水準に、黒褐色の粒子の細かい粘質土が認められ、水を多く含む沼状の環境であったことを窺わせる。中位以下には大小の石が積み重なっていたが、規則性は読み取れなかった。これらの石を記録を取りながら慎重に除去したところ、底面近くに数cm～15cmの丸い石が敷き詰められていた。その北側には、平らな石が南北に据えられた状態と、同じく平らな石が東西に据えられた状態が認められた。石は割って加工した状態で、根元にも割った石が据えられていた。ほかの石が丸味をもった石であるのと対照的である。これらの割り石の周りには、数cm大の小石が敷き詰められ、根元を固めていた。2つの大きな石は逆L字状の配置であり、東西方向の石は83土坑の南側を塞ぐような配置であった。東西方向の石の南側では川砂がラミナ状に堆積し、湧水量が多かったと推定する。記録を取った後に石をすべて除去したところ、長方形の凹みの周辺には大小の浅い不整形ピットがあり、逆L字状に石を据えた地点の底面にも不整形の掘り込みが認められたことから、これらの大小のピットは石を据えた掘り方であったと推定される。このことと、埋没土中位以下の人頭大の石の出土を勘案すると、長方形凹みに石を数段の高さに組み上げ、底面には10cm前後の石を敷き詰めた石囲いのような施設が推定復元される。

流路部(第61・62図)は水源部に近い北寄りでは幅5mほどの浅い溝状を呈し、南西に向かって幅が広がり、南西端で幅約10mほどになる。その中に幅0.5～1.0mほどの細流があり、この細流は北西岸近くを流れる。流路部の中央付近で1掘立柱建物・1竪穴と重複し、流路部埋没土の除去後に1掘立柱建物の掘り方が確認できたことから、1竪穴→1掘立柱建物→3井戸流路の順に新しいと推定した。1掘立柱建物西端部付近が北側へ凸に低くなるのは、風倒木痕のためと考えられる。

並流部では、細流は南東へ折れ曲がって直線的に南東

へ向かい、調査区南壁に至る。南壁の堆積状況は1井戸の土層断面に示した(第55図k-1)。1井戸流路・3井戸流路ともほぼ同じ土層で埋没しており、使用を停止した時期に大差がなかったと考えられる。

その他 水源部の南西にある平坦面は、湧水のある程度溜めて温めるか、水を制御するための作業場であった可能性がある。また、水源部南端と東岸に大きな地割れが走り、周囲には噴砂痕が認められることから、弘仁9年(818年)地震を契機として湧水が停止または減少するとともに、水源部の石を積み上げた施設が崩壊して制御が困難となり、溜井としての機能が停止または停滞して次第に利用されなくなり、遅くとも平安時代の9世紀末には放棄されたという想定ができる。地震の前後に温泉や井戸の湧水量が激変する現象は、珍しいことではないからである。

遺物 水源部の中位以下の出土遺物が比較的多い。流路部・並流部から須恵器片16,764g、土師器片60,379gが、積み石の下から土師器片910gが、湧水部から土師器片93gが、西側・南側の流路から土師器片457gが、地点を特定できない土師器片728gと埴輪片1505gがそれぞれ出土した。凹み状態が後の時代まで続いていたとすれば、より新しい時期の遺物が流れ込んだ可能性も高い。時代・時期 出土遺物の特徴から、奈良～平安時代の8世紀～9世紀前半に存続したと推定する。

B区 3溝(第62・207図、PL.48・140)

B区で検出した溝は1～4溝まで番号を付けた。そのうち1・2溝は現代耕作痕であり、4溝は1井戸流路部2であったことから除外し、ここでは3溝のみを扱う。

検出位置 31区J12～N11グリッド付近で検出した。地区を分けた境界線の東側B区で3溝と呼んだため、C区では新名称を付けず、B区3溝のままとした。

重複関係 略南北走行を示す現代耕作痕3本によって切られており、東端の耕作痕はB区とC区の境界線に西接する。西端の耕作痕と重複した箇所では、下位にC区8住居が重なっており、C区8住居→B区3溝→耕作痕の順に新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。

形状 略東西に走行する溝で、B区で長さ6.5m、C区

で約12.5mを検出し、全長は19.1mで、東端と西端を結ぶ線のなす角度はN83°Eである。溝幅は東端付近で80cm、西端付近で27cm、全体では幅15～86・底面幅3～57・深さ5～18cmである。底面にB区側で7個、C区側で4個の不整形ピットが認められた。

その他 現代耕作痕は南北走行をもつもの(N10°E前後)と、これにほぼ直交するもの(N80°W)があり、B区3溝とは方位が異なることから、調査直前までの畝で行われた耕作痕ではないとみられる。しかし、C区9掘立柱建物付近からB区20-21住居の廊下部に延びる道路跡と概ね直交する角度にあり、中世以前には遡らない可能性が高い。

遺物 出土遺物は須恵器片159g、土師器片909gが出土した。

時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。

B区 土坑・ピット(第63～70・207図、PL.48・49・140)

B区で検出した土坑は1～87まで、ピットは1～78まで番号を付けた。土坑はいくつかの種類に分けられるが、ピットの分別は困難である。個別の土坑の検出位置や計測値、特記事項は第6表に、ピットは第7表に掲載した。

31K10グリッド付近で検出した土坑・ピットは、2井戸に関連した掘り込みと考えられ、2井戸の記述では井戸の縁の約1m以内を勘察したが、必ずしも限定できない。井戸の覆屋または使用に関連する施設にともなう掘り込みを想定できる。奈良～平安時代の所産と推定する。

1掘立柱建物の周辺では、組み合わせた略方形の柱穴以外にも形態の近似した掘り込みが認められた。南西隅から2mほど離れた65Pが建物の一部だったとすると、4間×2軒の建物は4間×3間になる可能性がある。65Pの位置に相当する南東側を注意深く精査したが、ピット・土坑は検出できなかった。掘り込みが浅いため、遺存していなかった可能性もある。そのほかの掘り込みは、建物の建替えに伴う掘り込みかもしれないが、明確な組み合わせができなかった。奈良～平安時代の所産と推定する。

41土坑は83土坑(3井戸湧水点)の後に掘り込まれた土坑で、中から焼土・炭化物が出土した特殊な様相の土

坑である。用途は不明である。この付近の30・31・32・33・40・42土坑は概ね同じ程度の大きさの円形を呈する土坑で、83土坑がその一つであることを勘察すると、確かな根拠をもたないが、湧水点を探った掘り込みの可能性はある。奈良～平安時代の所産と推定する。なお、40土坑から出土した黒色土器椀(B358)は、平安時代10世紀の所産と推定される。

11～29の土坑のうち、13～25土坑は概ね同じ大きさの円形を呈して並んでおり、深さは一定ではないものの、いずれも埋没土は新しい様相を示していた。同様の掘り込みは天王C区の北寄りの区域にも並んで検出されていることから、一連の遺構と考えられる。近隣の畝の例を参考にすると、果樹栽培の痕跡や植木栽培の痕跡などが想定でき、計測値第6表では「果樹穴か」と表記した。近代～現代の所産と推定する。

B区南西部では、住居群の南側で長方形ないし楕円形の57・58・59・61・62・64・65・67土坑を検出した。いずれも掘り込みは30cm程度までで(表土からは50～60cm)、埋没土は新しい様相を示したことから、いわゆる「芋穴」の類と考えられる。57土坑と64土坑の形態は酷似している。近代～現代の所産と推定する。

B区 南東部谷の地形確認トレンチ

(第71・72図、PL.50・51)

B区1～3住居と4・5住居との間、3井戸流路の南東部にある低地の旧地形を確認するトレンチを設定し、一部の土層断面を記録した。確認2トレンチのa-b間は、1井戸流路と3井戸流路の埋没状態を(第55図g-h)に掲載したので、ここでは割愛する。

確認1トレンチ 3井戸流路の東側に、地山の堆積がやや高い幅15mほどの範囲があり、さらに東側には道路跡の遺存する細い尾根筋が存在する。トレンチ内から須恵器片2130g、土師器片2870g、埴輪片15gが出土した。

確認2トレンチ 3井戸流路の東側に、やはり地山の堆積がやや高い幅7mほどの尾根があり、その東側は谷地形となる。尾根筋の東端付近の南壁で、遺存状態の良好な噴砂の断面を記録した。ここでは3の土層の中位に、水平方向に広がる噴砂が存在し、さらに上位に向かって吹き上げていた。下位の土層4が砂質土であり、噴砂

の根は4にあるように見える。トレンチ内から須恵器片970g、土師器片2549g、埴輪片77gが出土した。

確認3トレンチ 31C4グリッド付近に設定した短いトレンチで、黄褐色系の土に地割れが北東方向に走っていた。断面でみると、割れた後に上位の黒褐色系の土が落ち込んでいることが観察できた。

確認4トレンチ 5住居の南東部に設定したトレンチで、西端寄りに黒色土とロームブロックの混土が不整形に分布していた。風倒木痕と確認した。トレンチ内から土師器片19gが出土した。

確認5トレンチ 調査区南壁沿いに設定したトレンチで、南壁の下位の堆積状態を確認した。トレンチ内から土師器片4gが出土した。南壁の土層断面は、第28図に掲載した。

確認6トレンチ 北壁近くに設定したトレンチで、道路跡の西側低地の範囲を確認した。

確認7トレンチ 南東隅近くに設定したトレンチで、全体が低地であることを確認した。

確認8トレンチ 南東隅付近から南壁沿いに設定したトレンチで、3井戸流路の東岸立上りと交差することを確認し、東岸は南壁の断面に続くことを確認した。

確認9トレンチ 4トレンチと6トレンチの間に、黒色土とロームブロックの混土が不整形に分布していたために設定したトレンチで、この混土分布が風倒木痕であることを確認した。

確認10トレンチ 1トレンチと4トレンチの間に設定したトレンチで、両トレンチの間にみられる高まりが続くことを確認した。

確認11トレンチ 2トレンチと7トレンチの間に設定したトレンチで、南東部の噴砂の断面を確認し、舌状に延びる地山の高まりの先端部を確認した。

旧微地形の復元と自然現象として、いくつかの要素が上げられる。

浅い谷地形 4住居から南側の小高い範囲は、幅15mほどの尾根筋で、その東西に浅い谷地形が南からはいり、西側の谷地形は3井戸流路につながる。西側の谷地形は幅4mほどの狭さで、東側谷地形との合流部では幅2mほどに狭まる。西側の谷地形の南西部に、幅5～8mほどの小高い尾根筋があり、その北西部は3井戸流路によ

って削られている。東側の谷地形は、さらに北部へ延びる。

風倒木痕 風倒木痕は2住居の南側、4住居の周辺で検出し、これらはいずれも尾根筋の上にある。1掘立柱建物南西部の風倒木痕は、住居群の南東端にあり、低地を望む位置にある。

地震跡 3井戸の水源部の南側と東側で、地割れと噴砂を確認した。東岸の断面では、地山が割れて崩落し、流路の東岸に堆積している状態を観察できた。噴砂の観察では、割れた後に、下位に堆積する砂質土の層から砂が吹き上がったとみられる箇所が多い。これは14住居内部の様子と、その南側の地割れも同様の状態である。確認3トレンチでは、割れた後に、上位の黒褐色系の土が落ち込んでいた。

道路跡の位置 近代～現代の所産とみられる道路跡は、浅い谷地形の東側の尾根筋上と、21-22住居の間に認められた。21-22住居の間の道路跡は北側のC区に延びてC区1道路となる。住居の密集する範囲を通過しており、こちらも尾根筋にのっているとみられる。

B区 旧石器確認トレンチ(第73・74図、PL.51・52)

B区の北西部微高地範囲に、ローム層とみられる堆積が認められたので、旧石器確認トレンチを設定して掘り下げた。トレンチは南東部の低地を除き、住居群の調査が終了したのちに掘り下げた。各トレンチの土層は南壁から西壁を一連の図(a-b-c断面)として掲載してあるが、本来直角に曲った断面であり、接続部の土層が欠落しているトレンチも存在する。

旧石器確認1トレンチ 南西隅が31P9グリッドである。2と3の土層の間に、As-YPとみられるやや硬いブロックが認められた。最深部の6土層はシルト質で鉄分の沈着が多く、還元質のためか緑灰色を呈する。6土層は2トレンチ・4トレンチでもみられた。

旧石器確認2トレンチ 南西隅が31O7グリッドである。2と3の間に7土層が入る。

旧石器確認3トレンチ 北東隅が31M5グリッドである。とくに鉄分沈着が多い5'層が波打っており、水流のあったことを窺わせる。

旧石器確認4トレンチ 南西隅が31J8グリッドであ

第4章 検出された遺構と遺物

る。南西隅付近で出土した石の出土水準は、4土層の底面とほぼ同じ高さであった。石は水流で運ばれた自然石と推定する。

旧石器確認5トレンチ 拡張前の南東隅が31 I 5グリッドである。50～60cm大の石が複数出土したため、南半部の周囲を幅2mの範囲で拡張した。石は加工痕や焼けた痕跡もなく、4トレンチの石と同様に、自然石と推定する。約1m掘り下げた水準で湧水が多くなり、下位への掘り下げを断念した。

旧石器確認6トレンチ 北西隅が31 G 11グリッドである。東壁は風倒木痕にかかる。ここでも30～50cm大の石が出土した。石は自然石と推定する。

以上の確認調査の結果、旧石器の出土はなかった。

第4節 天王遺跡C区

C区の概要（第75図、PL.53～55）

C区は調査工程の都合により、A区B区に続いて着手した区域である。残土置き場に苦慮してB区の調査終了後、B区を埋め戻して残土置き場を確保した。調査対象面積は4,629.84m²である。B区とC区との境界は、調査区域への唯一の出入り口となった道路から南側へ向かい、調査前の土地境界に沿って屈曲した変則的な境界となった。着手前の地形はB区に似て、南へ向かって緩やかに低くなり、かつ西へ向かっても低くなる地形であった。ほぼ全体に住居が分布していると想定して調査を開始した。遺構確認面の標高は、東端部で143.20m、西寄りの谷地形近くで141.90m、南東部で141.50mである。

C区西半部では現代耕作痕が顕著に認められ、北寄りの区域では径1m前後の円形ピットが一定の間隔をおいて並ぶ状況がみられた。これらの円形ピットは果樹または植木栽培痕と推定された。

住居の分布をみると、大まかに西半部と東半部とに分けられ、両者の中間区域に粘土採掘坑が検出された。粘土採掘坑は当初、住居と想定して輪郭を確認した。しかし、2粘土採掘坑の調査で壁の下位が側方に抉れる状態が観察できたこと、壁の一部に粘土が認められたこと、硬い床面が認定できないこと、底面に水田のアゼのような高まりがあること、火処が見当たらないことなどから、住居ではなく粘土採掘坑であると考えられた。遺構確認時点での輪郭は住居の様子に似ていたことから誤認したが、本遺跡に略方形を呈する粘土採掘坑が存在することが判明して、その後の調査を比較的順調に進めることができた。粘土採掘坑の検出位置をみると、東西の住居群の間に並び、住居の載る微高地を北東-南西方向に分ける位置にある。ローム層の堆積前の古い地形が粘土を生成する要因になったと推定された。

調査区の西端は谷地形であり、ホタルの生息を保存する小河川が存在したため、西側への排土・排水がないよう慎重に調査を進めた。しかし、2回の台風来襲により、C区西半部が水没した場面もみられた。

東半部はやや高い地形であり、B区の住居群から続いていた。東半部では23軒の住居を検出し、出土遺物から奈良～平安時代と推定した。住居の床面は硬い床面をも

つものが多く、大半の住居はカマドを設置していた。東半部の住居のなかには、地割れが検出されたものがある。とくに39・46住居は硬い床面がモザイク状に割れ、さらに底面が陥没して斜めに傾いて崩壊した床面がみられた。

中央部で検出した1井戸は、掘り方の内側に略方形の掘り込みがあり、石を略方形に積み上げて石垣状にしたものであった。汲上げ井戸と考えられる。石垣の大半は崩壊し、中央部に落ち込んでいた。

掘立柱建物は東西の住居分布とほぼ同じ範囲に分布するが、中央の粘土採掘坑付近を避けていることが判明した。また、西半部の掘立柱建物の柱穴は土坑状に不整形で大き目のものが多いのに対し、東半部の掘立柱建物では、西側と比較して小ぶりの柱穴が多く、4間の規模をもつものも多い。9掘立柱建物の四隅の柱穴は、略方形を呈し、掘り方の辺が斜めに傾いた状態であった。これに似た柱穴はB区1掘立柱建物であるが、柱穴規模はB区1掘立柱建物の方が大きい。

B区21-22住居の間に延びる溝状の遺構は、道路跡と考えられたが、C区でこれにつながる不整形の溝状の遺構が検出され、C区1道路とした。1道路は40住居の中央部を大きく破壊し、北側へ延びていた。延長先は鉄塔南側の畠に入るアゼ道(馬入れ)に一致し、近代～現代の道路である可能性が高まった。ただし、底面に川砂がみられたことから、水路であった時期も想定される。

天王C区と東紺屋谷戸調査の最終段階で、旧石器確認トレンチを設定して、その存否を確認した。計18個のトレンチを設定して精査したが、石器剥片等の出土はなかった。

C区 1住居(第76・207・208図、PL.55・56・140)

検出位置 31区M11グリッド付近で検出した。B区20住居の北側にあり最短距離は2.0m、北側のC区8住居・9掘立柱建物・40住居との最短距離はそれぞれ1.6m、2.4m、6.0mである。

重複関係 B区21住居と重複し、B区21住居→C区1住居の順に新しい。また、北西隅に4土坑、南東隅に6土坑、東辺に10土坑が重複し、いずれも土坑の方が新しい。カマド左袖の一部は耕作痕によって破壊されていた。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。

自然な埋没と考えられる。

壁 高さ18~37cmで、北寄りがやや深い。東西4.31m、南北5.01mで南北に長い長方形を呈し、各辺の中央部が少し外側へ凸となる。各辺の長さは南辺3.82m、西辺4.16m(推定4.40m)、北辺3.27m(推定3.85m)、東辺4.28mである。

床面 硬い床面をもち、ほぼ平坦であるが、カマド前に131×110・深さ5cmの浅い掘り込みがあり、南辺に接してほぼ同様の大きさの浅い掘り込みがある。住居中央部では焼土混じりの土が不整形に広がり、踏み固められていた。

支柱穴 検出できたピットではP2・P4・P7・P9が候補となるが、これらを結ぶ線は潰れた四角形を呈する。西辺中央部のP18、北辺中央部のP3は比較的深く、補助的な柱穴の可能性がある。P8は規模が小さいが、中から須恵器杯ほかの土器が出土しており、貯蔵穴の可能性がある。各ピットの規模はP2:23×23・深さ5cm、P3:30×25・深さ17cm、P4:17×17・深さ5cm、P5:32×30・深さ4cm、P6:21×18・深さ4cm、P7:27×26・深さ3cm、P8:46×41・深さ28cm、P9:30×28・深さ9cm、P18:17×15・深さ30cmである。ピット間の距離は、P2-P4:152cm、P4-P7:229cm、P7-P9:149cm、P9-P2:196cmである。

壁溝 カマド前を除き、ほぼ全周する。P3の両端は途切れ、P10もこれに近い状態である。幅16~38・底面幅3~11・深さ2~9cmである。

カマド 東辺南寄りに設置するが、南東隅に近い位置にある。耕作痕が左袖の一部を破壊していた。燃焼部は住居の壁ラインにかかり、奥壁は10cmほどの段差となる。左右の遺存していた袖部の間は略楕円形の浅い掘り込み(深さ4cm)となり、ここより奥側に焼土が分布する。煙道部の内側は焼けて焼土化していた。

貯蔵穴 規模からP1とみられる。定型的な南東隅ではP8を検出し、中から土器が出土したことから、こちらも貯蔵穴の可能性がある。P1の規模は119×105・深さ33cmで、二段に掘り込まれていた。

掘り方 床面水準の記録を取った後、掘り下げたところ、約1m大の不整形掘り込みが輪郭を接するように分布していた(P10~P17)。これらの上面には床面を形成する土があって焼土ブロックを多く含み、掘り込みの内部は黒褐色土ブロックとロームブロックとの混土

であり、意図的に埋められたと推定される。各掘り込みの規模はP10:104×79・深さ18cm、P11:121×102・深さ21cm、P12:131×110・深さ13cm、P13:107×83・深さ8cm、P14:52×不明・深さ16cm、P15:133×84・深さ17cm、P16:107×101・深さ23cm、P17:137×119・深さ24cmである。掘り方の底面は凹凸が著しい状態であった。その他 カマド前の掘り方調査で、不整形の掘り込みが認められた。不整形な三角形を呈し、86×67・深さ12cmである。袖部の遺存が不良なことから、カマドを作りかえた可能性もある。

遺物 P8の中から須恵器杯(C6)が、P9を含む浅い掘り込みから土師器甕破片(C8)・杯破片(C4)が、西辺壁際の南寄りから須恵器杯(C5)が、カマド前の床面からやや浮いた状態で甕破片がそれぞれ出土した。カマド付近の土器片は小さく、やや浮いた状態のものが多い。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 2住居(第77・208図、PL.56・57・140)

検出位置 31区L15グリッド付近で検出した。C区の北東端付近にあり、3住居との最短距離は1.0mである。

重複関係 16溝、23土坑と重複しており、2住居→23土坑→16溝の順に新しい。北寄りの住居内を土管暗渠が略東西に延び、2住居→暗渠の順に新しい。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられるが、住居中央部に径1.5mほどの円形の落ち込みがあり、埋没土が凹んだ断面を示す。全体として地山の水平面をもっているが、中央部が円形に凹んだ形状である。

壁 高さ23~35cmで、北寄りがやや深い。東西2.92m、南北3.08m以上で、南北に長い長方形が推定される。南辺を検出していないが、16溝の範囲に納まると考えられる。東辺は段差が認められ、落差は10~24cmである。北辺の西半部は外側へ丸く凸状を呈する。各辺の長さは西辺2.30m以上、北辺2.87m、東辺2.90m以上である。

床面 中央部を除きほぼ平坦であるが、硬い床面が認められなかった。カマド前では灰層が遺存し、底面は判定可能であった。

支柱穴 床面水準ではカマド前でP1を検出したのみで、規模はP1:19×18・深さ7cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺に設置する。16溝中に南辺があれば、東辺の中央部に相当する。燃烧部は住居の壁ラインの外側にあり、東に向かって次第に高くなる。この傾斜は東辺外側の落差に対応している。カマド燃烧部の底面には灰層が薄く遺存していた。

貯蔵穴 掘り方調査では南東隅付近にP2・P3を検出し、規模からP2の可能性がある。

掘り方 土管暗渠の南側にサブトレンチを設定して掘り下げたところ、住居中央部に径1.5mほどの円形落ち込みが認められたほか、北辺沿いでは大小の掘り込み、西辺南寄りでは168×52・深さ11cmの細長い掘り込みを検出した。全体に凹凸が著しい。中央部の円形落ち込みの土層断面(第77図a-b)を観察すると、東西の両端に地山のローム層があり、その中間部が40～50cm落ち込んでいた。埋没土の堆積は、落ち込みに引き込まれるように中央部が凹む堆積状態であり、東側の壁際にはロームブロックも認められた。この土層の状態からみると、住居廃絶後の間もない時期に中央部が陥没したと考えられる。

その他 中央部に認められた円形落ち込みが、住居に伴う遺構だったとすると、極めて不便な使い勝手の良くない住居となる。住居を使わなくなってから、何らかの原因で陥没したと考え、東辺に段差があること、中央部落ち込みの埋没土の状態と整合性がある。

遺物 カマド前の床面から浮いた状態で土師器杯(C11)が、その近くから土師器甕片が出土した。砥石(C14)は流れ込みの可能性が高い。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 3住居(第78・208図、PL.57・58・140)

検出位置 31区L15グリッド付近で検出した。C区の北東端付近にあり、2住居との最短距離は1.0m、南側の5住居との最短距離は0.4mである。5住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 16溝、11土坑と重複しており、3住居→11土坑→16溝の順に新しい。後述のように、地割れによって硬い床面が割れ、床面直上の土が動いているので、3住居廃絶→地割れの順に新しい。地割れの走行は略南北方

向である。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられ、中央部の割れた範囲が、後に上位の土の重量によって凹んだように見える。

壁 高さ37～59cmで、北隅付近がやや深い。北西-南東3.82m、北東-南西4.33mで、北東-南西方向に長く南西辺が短いので、台形を呈する。西隅の検出を欠くが、各辺の長さは北東辺3.54m、南東辺4.14m、南西辺2.42m(推定2.65m)、北西辺2.22m(推定3.50m)である。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面が認められたが、中央部に地割れが走り、モザイク状に硬い床面が分布する。

支柱穴 床面水準では6個の小ピットを検出したが、いずれも浅い。各ピットの規模はP5:15×14・深さ9cm、P6:20×17・深さ10cm、P7:16×12・深さ4cm、P8:18×17・深さ9cm、P9:19×11・深さ5cm、P10:20×15・深さ2cmで、ピット間の距離はP5-P7:175cm、P6-P8:184cm、P7-P10:170cm、P5-P6:41cm、P7-P8:36cmである。

壁溝 南東辺沿いと北隅から北西辺沿いに認められた。幅21～27・底面幅5～10・深さ2～5cmである。

カマド 北東辺南寄りに設置する。燃烧部は住居壁ラインの内側にあり、左右の短い袖部が遺存していた。燃烧部底面には焼土ブロックが分布し、左右の袖部は細長い石を立てて、粘土を巻いていた。燃烧部からカマド前にかけて、土師器甕1個体分の破片が出土した。

貯蔵穴 カマド左袖脇の掘り込みとみられる。規模は45×40・深さ15cmで、下端の壁際は壁外側へ掘り込んでいた。

掘り方 カマド右脇に61×46・深さ11cmの略楕円形の掘り込みが認められ、この掘り込みは古い貯蔵穴の可能性はある。住居東寄りの掘り方底面に、径80～100cmほどの不整形の掘り込みを3個検出した。南西辺中央部寄りの掘り込みは、掘り方底面で検出した遺構で、直接3住居と関連しないものと考えられ、14土坑とした。

その他 南隅に階段状の遺構を確認した。地割れによって西半部が破壊されていたが、精査したところ、掘り残しの地山の土であることが判明した。住居外との落差は19cm、階段の先端部と床面との落差は17cmで、出入口施設と考えられる。

遺物 カマド燃烧部からカマド前で土師器甕(C17)が、

北東辺寄りの床面から須恵器甕(C18)が、中央部付近で小片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 4住居

5住居と6住居との間で不整形の落ち込みを検出し、4住居としたが、地割れによる土の堆積と判明したので、欠番とする。

検出位置 31区L13グリッド。

C区 5住居(第79・208図、PL.58・59・140)

検出位置 31区K14グリッド付近で検出した。C区の北東端付近にあり、C区3住居との最短距離は0.4m、C区6住居・7住居・B区18住居との最短距離はそれぞれ2.3m・1.5m・0.7mである。C区3住居・B区18住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 7土坑と接しているが、切り合い関係は判定できなかった。南西辺から北西辺にかけて地割れが走り、3住居では床面が割れていたが、本住居の床面では割れた状態を検出していない。南西辺の壁上位は割れたように凹凸が認められるが、床面に達していない。掘り方西隅の不整形掘り込みが地割れの痕跡だとすると、地割れ→住居建設の順に新しい可能性がある。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ10~15cmで、北寄りやや深い。北西-南東4.83m、北東-南西3.75mで、北西-南東方向に長い長方形を呈する。ただし、各辺の長さが異なり、北東辺4.49m、南東辺3.64m、南西辺4.76m、北西辺3.41mで、北西辺がもっとも短い。

床面 カマド前から中央部にかけて、硬い床面が平坦にひろがる。

支柱穴 配置と大きさから、P1・P3・P5・P7と考えられるが、いずれも浅い。P4は貯蔵穴とみられる。各ピットの規模はP1:33×30・深さ7cm、P2:41×36・深さ5cm、P3:31×30・深さ3cm、P5:35×30・深さ9cm、P6:35×30・深さ6cm、P7:32×28・深さ8cm、P8:27×26・深さ3cm、P9:36×29・深さ11cmで、各ピット間の距離はP1-P3:225cm、P3-P5:174cm、P5-P7:228cm、P7-P1:161cm、

P1-P2:98cm、P2-P3:133cmである。

壁溝 カマド前を除き、ほぼ全周する。南東辺西寄り、南西辺北寄り、北西辺中央部から北東辺にかけて、壁溝内に小穴が間隔不等で認められた。幅13~35・底面幅3~14・深さ2~12cmである。

カマド 北東辺南寄りに設置する。燃烧部は住居壁ラインの外側にあり、左袖部の石が遺存していた。燃烧部底面から土器片が出土した。

貯蔵穴 東隅のP4とみられる。二段に掘り込まれ、規模は59×52・深さ19cmで、北東片の壁に接する。

掘り方 南隅、南西辺中央部、西隅近くに不整形の掘り込みが認められた。掘り方底面は全体に凹凸が著しい。南西辺中央部の壁にかかる状態で、壁外に122cmの間隔で40cm大・深さ19cmと60cm大・深さ39cmの掘り込みを検出した。壁溝内小穴がこの付近になかったことから、ここに出入口施設があった可能性がある。西隅付近の不整形掘り込みの東辺は、住居外の地割れのラインを結ぶ線とほぼ一致していることから、地割れの痕跡の可能性がある。

その他 P6・P9は出入口施設にかかわる掘り込みの可能性がある。

遺物 カマド燃烧部から土器片2個が、中央部から須恵器甕片(C25)が、北東辺の壁際から土師器杯(C20)が、南西辺寄りの床面から細長い石が、金属製品は床面から浮いた状態でそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 6住居

(第80・81・209・210図、PL.59~62・140・141)

検出位置 31区M13グリッド(X=47363・Y=-67060)付近で検出した。C区の北東寄りにあり、8住居との最短距離は1.0m、3住居・5住居・7住居・40住居・41住居との最短距離はそれぞれ4.7m・2.3m・3.3m・1.8m・5.7mである。8住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 遺構との重複関係はない。後述のように、地割れによって硬い床面が割れ、カマド右袖部の石と燃烧部-左袖基部を略南北に通る地割れによって、カマド左袖部が北側かつ下方に動いており、床面が割れたまま埋

没しているの、再築利用や地震後の建設ではなく、6住居→地割れの順に新しい。

覆土 中位は白色軽石を含む黒褐色系の土で、上位は白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。中央部からカマド左脇を通る堆積状態、中央部から南東辺中央部を通る堆積状態は、ほかの住居と殆ど変わらない状態であった。しかし、北隅-南隅を結ぶ線で東半部を掘り下げたところ、住居中央部に不整形の落ち込み(中央土坑と仮称する)が認められ、埋没の初期に北隅の方向から土の流入のあったことが判明した(第81図w-x)。中央土坑の内部には、割れた硬い床面の一部が板状のまま、斜めに傾いて出土した。

壁 高さ23~57cmで、北東辺がやや深い。北東-南西6.29m、北西-南東5.91mで、北東-南西方向に長く北西辺が短いので、台形を呈する。各辺の長さは北東辺5.43m、南東辺6.06m、南西辺5.47m、北西辺5.39mである。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面が認められたが、中央部から東寄りにかけて地割れが南北に走り、硬い床面が帯状に割れて、階段状を呈する。また、中央土坑内部の東寄りと西寄りには、硬い床面の割れた破片が落ち込んでいた。

支柱穴 床面水準で4個の柱穴を検出し、しっかりした4本柱を立てていたと推定される。二~三段に掘り込まれており、掘り方と柱痕の状態を示していると考えられ、建替えも推定される。南西辺中央部に68×40・深さ9~19cmの略三角形の掘り込みがみられ(内部に小穴がある)、壁溝幅が狭くなっていること、P3東側の床面に黄褐色粘土が壁に向かって厚みを増すように出土したことから、出入り口施設と推定した。竪穴の周囲を精査したところ、P5~P10の小振りのピットを確認した。いずれも内部に小穴をもち、南西辺中央部の掘り込みと似た状態であった。支柱穴の規模はP1:二段・47×45・深さ44cm、P2:二段・50×47・深さ40cm、P3:三段・56×48・深さ49cm、P4:四段・63×62・深さ43cm、柱穴間の距離はP1-P4:335cm、P4-P3:300cm、P3-P2:323cm、P2-P1:309cmである。掘り方の形状は、一部に角を残していた。竪穴外のピットの規模はP5:二段・47×29・深さ21cm(小穴3個)、P6:二段・23×17・深さ11cm、P7:二段・22×20・深さ21cm、P8:二段・31×20・深さ10cm、P9:二段・

31×24・深さ14cm(小穴2個)、P10:二段・30×29・深さ19cmである。

壁溝 カマドと東隅を除き、ほぼ全周する。南隅に長さ40cmの途切れた箇所がある。幅25~52・底面幅8~20・深さ4~10cmである。

カマド 北東辺中央部南寄りに設置する。燃烧部は住居壁ラインの内側にあり、遺存状態は極めて良好で、左右の袖先端部に直方体形状の石(C49・C50)を縦に長く据え、袖部・焚き口天井部・煙道が遺存していた。外側の煙出し南側にある掘り鉢状の掘り込みは、後世のものである。左袖石(C50)に縦に割れた(意図的に割った可能性あり)土師器甕(C48)破片を2つ立て掛け、左袖石前の床面から、これらと同一個体の縦長の甕破片が出土し、焚き口底面からも甕破片が出土した。縦に割れた甕破片は少ないが、袖石に2個並んで出土している状態は、人為的な作業の結果ではないだろうか。また、割れて動いた左袖部に寄り掛かるようにほぼ完形の土師器甕(C43)が出土し、甕の底面は燃烧部灰層の直上に位置していた。完形の甕の背後(煙道側)には、伏せた状態(天地逆)の土師器甕(C47)が据えられており、これに並ぶ南側の位置に土師器杯(C29)が立てた状態(全体の1/3程度を埋めた状態)で出土した。伏せた甕と立てた杯の両者は、いずれも上端が擦れて摩滅しており、支脚として利用されたと考えられる。カマドを構築する粘土の内側は、よく焼けて焼土化しており、伏せた甕よりも奥側は空洞状態で内面も焼土化し、煙道へとつながっていた。寄り掛かった状態の完形土師器甕の周囲はカマド粘土と黒褐色土ブロックが混じった土で埋まり、甕の器表面近くの土は特に黒味を帯びていた。

貯蔵穴 定型的な場所は東隅の小穴が集中する位置だが、掘り込みが不明瞭である。中央土坑の位置、南東辺西端の半円状掘り込みの位置の3カ所が候補になる。東隅の床面は他の部分の床面と異なり、軟らかい状態であった。半円状掘り込みの規模は115×40・深さ10cmである。掘り方 北隅から西隅にかけて不定形の掘り込みがあり、南隅にも略長方形の掘り込みが認められた。底面の凹凸が著しく、地震による変形の結果も含むので、本来の状態とは限らない。カマド掘り方調査では、構築粘土を除去したところ、住居壁に縦に掘り込まれた状態の凹みがあり、燃烧部奥の底面は幅46・長さ57・深さ14cmの

舟底状であった。

その他 中央土坑は4本の主柱穴に囲まれた範囲にあり、南北走行の地割れが大きくかかわっていた。中央土坑にかかる土層断面w-x(住居北隅-南隅を通る断面)をみると、底面に住居床面の硬い板状の破片が認められ、北寄りの底面は硬化したローム層があり、その表面は細かい凹凸があった。住居北隅の壁直下にいわゆる三角堆積がみられ、同じく中央土坑北側に三角堆積があり、それらの上位に北側から斜めに土が流入していた。中央土坑底面に住居床面の破片があること、中央土坑の調査過程で斜めに傾いた床面破片が中央土坑の東寄り(カマド寄り)で出土したこと、水平に近い状態の床面破片が土坑西寄りの壁際から出土したこと、土坑の中央に硬いローム層が認められ壁際が軟らかいことなどから、中央土坑は地震に伴う「陥没穴」と考えられる。これと同様の穴が2住居でもみられるので、6住居が唯一の例ではない。

遺物 先述のカマド内出土土器(土師器甕C41・C43・C44・C47・C48、土師器杯C29)のほか、カマド左脇から土師器甕(C42)、土師器杯(C31・C32・C33)、石製品敲石(C51)が、南東辺壁際から土師器杯(C30)が、南西辺南寄りの壁際から石が、P2から須恵器蓋片(C37)が、中央土坑から土師器甕片(C46)がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 7住居(第82・210図、PL.62・63・141)

検出位置 31区K12グリッド付近で検出した。C区の北東端付近にあり、B区18住居との最短距離は0.2m、C区5住居・6住居・8住居との最短距離はそれぞれ1.5m・3.3m・2.0mである。B区18住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 カマドの煙道先端部がB区28土坑と接しているが、切り合い関係は判定できなかった。南西隅付近から北辺に耕作痕があり、切られている。

覆土 上位は白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で、下位は白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ34~44cmで、北寄りがやや深い。南北3.57m、東西3.17mで、南北に長い長方形を呈する。ただし、各辺の長さが異なり、南辺2.84m、西辺3.48m、北辺

3.04m、東辺3.33mで、南辺がもっとも短い。

床面 カマド前から中央部にかけて、硬い床面がひろがり、壁際は軟らかくなる。

主柱穴 配置と大きさから、P1・P3・P4と考えられるが、いずれも浅く、P2も候補となる。北西隅に相当する位置では、柱穴が検出されなかった。P8は貯蔵穴とみられる。各ピットの規模はP1:27×26・深さ7cm、P2:28×25・深さ8cm、P3:28×27・深さ4cm、P4:19×18・深さ6cm、P5:13×12・深さ7cm、P6:15×14・深さ4cm、P7:75×66・深さ30cmで、各ピット間の距離はP1-P3:136cm、P2-P3:104cm、P3-P4:121cmである。

壁溝 南辺中央部からカマド左脇の東辺中央部まで巡るが、西辺中央部で55cmの間と北東隅が途切れる。南辺中央部の壁溝は二段に掘り込まれ、単独の細長い溝に見える。幅27~38・底面幅3~11・深さ1~10cmである。

カマド 東辺中央部南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインにかかり、奥壁は壁ラインの外へでる。左右の袖石が遺存していた。焚き口底面から石が出土したほか、カマド左脇の床面から浮いた状態で細長い焼けた石が出土し、支脚として使われた可能性がある。

貯蔵穴 南東隅のP8とみられる。二段に掘り込まれ、規模は91×83・深さ34cmで、南東隅の壁との間にわずかな平坦面が残る。

掘り方 カマド前から左袖部にかけて不整形の掘り込みが認められ、南西隅と北東隅にも不整形の掘り込みがあって、これらの底面は凹凸が著しい。北東隅付近のみ、底面が平坦であった。

その他 本住居は床面が2枚あり、上位の床面水準ではP7の輪郭は不明瞭で、下位の床面で輪郭が判定できた。P7の底面は硬いローム層で、凹凸が著しい。西辺中央部の壁溝が途切れた部分か、南辺中央部の細長い壁溝の2カ所へ出入口が想定できる。

遺物 床面中央部の床面水準から須恵器蓋(C62)が、中央部北寄りの床面からやや浮いた状態で土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 8住居(第83・84・211図、PL.63・64・141)

検出位置 31区L12グリッド付近で検出した。C区の北

東端付近にあり、C区1住居との最短距離は1.07m、C区5住居・6住居・7住居・B区2井戸との最短距離はそれぞれ3.5m・1.0m・2.0m・5.0mである。C区6住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 南辺沿いに略東西方向にB区3溝が走行し、これに交差するように略南北方向に耕作痕が入り、8住居→B区3溝→耕作痕の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ16～33cmで、北寄りやや深い。南北5.40m、東西4.32mで、南北に長い長方形を呈する。南東隅から南辺にかけて、外側に凸になり丸味を帯びている。南東隅がはっきりしないのは、B区3溝の影響で変形した可能性がある。各辺の長さは南辺3.75m、西辺4.34m、北辺3.71m、東辺4.49mである。

床面 カマド前から中央部にかけて、硬い床面がひろがり、壁際は軟らかい。

支柱穴 P1・P2・P6・P7が候補となるがいずれも浅く、P6位置は南西にずれる。南辺中央部に124cmの間隔でP22とP23が並び、西辺中央部に56cmの間隔でP24とP25が、東辺のカマドの北側に79cmの間隔でP26とP27が並んで検出された。南辺と東辺のピットは40cm級の深さがあり、西辺のピットは14cm・23cmと浅い。各ピットの規模はP1:19×18・深さ2cm、P2:25×22・深さ3cm、P3:23×17・深さ7cm、P4:89×91・深さ8cm、P5:32×27・深さ4cm、P6:17×16・深さ12cm、P7:15×13・深さ3cm、P22:22×22・深さ48cm、P23:二段31×29・深さ41cm、P24:19×18・深さ14cm、P25:17×13・深さ23cm、P26:25×24・深さ40cm、P27:40×21・深さ42cmで、各ピット間の距離はP1-P2:182cm、P2-P6:291cm、P6-P7:205cm、P7-P1:190cmである。

壁溝 南東隅からカマド左脇まで、ほぼ全周する。P8と住居壁との間にも一部続き、狭い平坦面をもつ。幅13～31・底面幅1～11・深さ3～12cmである。

カマド 東辺中央部南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインにかかり、奥壁は壁ラインの外へでる。奥壁の底面は角張った形状をなす。左右の袖部は粘土の基部が遺存していたのみである。奥壁は焼けて焼土化し、燃焼部底面に灰が遺存していた。焚き口付近で出土した土器片は、床面から浮いた状態であった。

貯蔵穴 南東隅のP8とみられるが、B区3溝が重複する部分のため、変形されている可能性がある。外形は楕円形を呈し、内部は二段に掘り込まれ、西側に小穴3個がある。東寄り不整形の掘り込みである。規模は123×65・深さ39cmで、南東隅の壁との間にわずかな帯状の平坦面が残る。

掘り方 P13とP21の間を除き、ほぼ全体に不整形の掘り込みが認められ、凹凸が著しく、遺物も少量ながら出土した。ここではすべての掘り込みにピット番号を付けて掘り下げている。各ピットの規模はP9:不整形・105×103・深さ27cm、P10:不整形・底面が広い・47×47・深さ32cm、P11:不整形・99×70・深さ32cm、P12:略楕円形・167×80・深さ19cm (P11→P10→P12の順に新しい、土器片20出土)、P13:不整形・111×99・深さ35cm (P14→P13の順に新しい)、P14:不整形・103×不明・深さ26cm、P15:不整形・142×97・深さ22cm (P14→P15の順に新しい)、P16:略楕円形・178×96・深さ21cm (中から土器片17・18・21が出土)、P17:不整形・125×104・深さ33cm、P18:略円形・34×30・深さ13cm、P19:不整形・104×102・深さ22cm (周囲のピットより古い、土器片16出土)、P20:楕円形・40×33・深さ26cm (P14→P20の順に新しい)、P21:不整形・76×69・深さ27cmである。

その他 北辺中央部の東寄りに、弧を描く突出部があり、住居外からの段差は23cm、床面との段差は9cmである。また、西辺南端にも同様の突出部があり、住居外との段差は13cm、床面との段差は4cmである。出入口施設の可能性も残るが、住居壁と屋根の葺き降ろしとの間の収納施設ではないだろうか。掘り方で検出された13個の掘り込みを精査したところ、床面を形成する硬く締まった土層はこれらの掘り込みの上位にあり、掘り込み内には焼土を含む土が認められた。カマドを作り替えるときに住居掘り方の底面から粘土を採取した可能性があり、掘り込みには既存のカマドを解体したときの乾いた土を意図的に埋め込んだと考えられる。掘り込みの壁に粘土を貼った痕跡も検出した。カマド左脇の小ピットが並ぶ部分は想定しにくいだが、西辺中央部の小ピットが並ぶ部分か、南辺中央部の小ピットの並ぶ部分の2カ所に出入り口が想定できる。

遺物 カマド前の土師器甕片(C78)は床面から浮いた状態で、P6北側の須恵器壺(C74)は床面近くから、貯蔵穴

北側の土器片は床面から、土師器甕片(C79)は貯蔵穴P8の埋没土中から、西辺壁際の土師器杯(C67)は床面からそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 9住居(第85・211図、PL.64・65・142)

検出位置 32区I16グリッド付近で検出した。C区の西寄りです。東紺屋谷戸遺跡に近い北側にあり、27住居との最短距離は2.2m、10住居とは9.2m離れている。

重複関係 北辺沿いを略東西方向に1溝が走行し、9住居→1溝の順に新しい。

覆土 白色軽石を多く含むにぶい黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ7～27cmで、南寄りがやや深い。南北2.57m、東西3.24mで、東西に長い長方形を呈する。北西隅は丸味を帯びる。各辺の長さは南辺3.24m、西辺2.32m、北辺2.93m、東辺2.38mである。

床面 中央部を除いて硬い床面がひろがる。床面を精査したところ、中央部から北辺にかけて大きな不整形の落ち込みが認められ、この範囲には硬い床面が検出されなかった。南東隅付近は1/4円弧を描く幅15～25・高さ3～7cmの高まりがあり、この高まりの南東隅側にP1・P2が検出された。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部に設置する。燃烧部は住居壁ラインにかかり、奥壁は壁ラインの外へ出る。左袖部の残骸のような粘土が残っており、その先端の床面に20×23cm程の範囲で焼土が遺存していた。焼土北側から出土した長さ15cmほどの細長い石は、床面から7cm浮いて出土した。貯蔵穴 南東隅のP1とみられる。内部は三段に掘り込まれ、先述のように帯状の高まりの内側にある。P2も貯蔵穴の可能性がある。規模はP1:42×39・深さ14cm、P2:27×23・深さ15cmである。土師器杯(C84)と須恵器甕破片(C91)は、ほぼ床面水準から出土した。

掘り方 カマド焚き口付近を中心として、88×85・深さ38cmの不整形の掘り込みを検出した。南辺に接する中央部では、54×45・深さ16cmの不整形土坑が認められた。

その他 北東隅に略三角形の掘り残された段差を確認し

た。住居外からの落差は6cm、床面からの高さも6cmである。住居中央部に認められた不整形の落ち込み(中央土坑と仮称する)を精査したところ、その上面は周囲の硬い床面より軟らかく、中央部の略楕円形の掘り込みと北辺寄りにある2つの不整形掘り込みであることが判明した。底面から13cmほど浮いた土師器杯(C88)、底面から土師器杯(C86)、甕破片、細長い石が出土し、壁際から土師器甕(C89)が出土した。底面は比較的平坦だが溝状の凹みもあり、埋められた土坑の可能性が高いが、住居廃棄後に陥没した可能性も残る。

遺物 カマド周辺からの出土遺物はなく、南辺寄りと中央土坑の中から遺物が出土したほか、埋没土中から須恵器片4g、土師器片675gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 10住居(第85・86・212図、PL.65・66・142)

検出位置 32区G14グリッド付近で検出した。C区の西寄りです。10軒の住居が重なりあう区域にある。溝・ピット・耕作痕が多く、プラン確認に時間を要した。西側の2掘立柱建物を構成するピットとの最短距離は0.3mで、本住居西辺と平行な組み合わせ線をもち、屋根の一部を共有すれば同時存在は可能である。しかし、2掘立柱建物が同じ時期のものかどうかは判定できない。

重複関係 北半部を5溝が略東西に走行し、10住居→5溝の順に新しい。85P・86P・106P・20土坑は、いずれも10住居より新しい。住居間では、プランとカマドの遺存状態から、13住居→11住居→10住居の順に新しく、13住居→12住居→18住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と考えられる。

壁 高さ23～31cmで、北寄りがわずかに深い。南北5.78m、東西4.60mで、南北に長い略長方形を呈するが、南東隅が南へやや突出して南辺が歪みかつ短いため、全体として歪んだ台形となる。南西隅は耕作痕により破壊されていた。南辺は13住居と本住居にまたがる不明土坑により破壊され、本来の姿を失っているとみられる。各辺の長さは南辺3.28m(推定3.55m)、西辺4.24m(推定4.90m)、北辺4.22m、東辺5.56mである。

床面 北西部を除き、ほぼ全体に硬い床面を検出した。

西辺沿いの北半部で、長さ2.3m×幅0.5mほどの細長い高まりを検出した。壁外との落差は25cm、床面との落差は2～11cmである。この長方形段差の形状は、掘り方調査で検出した西辺沿いの壁溝の位置と一致することから、地山を意図的に削り残したと考えられる。

支柱穴 床面水準では検出できなかった。掘り方調査で候補となる掘り込みを検出したので、図中にマークした。
壁溝 床面水準では検出できなかった。掘り方調査で北西隅を中心とした壁溝を検出し、西辺・北辺の内側にあることが判明した。幅12～28・底面幅2～11・深さ1～16cmである。

カマド 東辺中央部に設置する。燃烧部は住居壁ラインにかかり、奥壁は壁ラインの外へ出る。左袖部に粘土が残っており、奥壁はよく焼けて焼土化し、燃烧部底面には灰が分布する。燃烧部の浮いた位置から土師器甕破片が出土した。

貯蔵穴 南辺沿いの中央部やや東寄りに検出したP1とみられる。内部は二段に掘り込まれ、須恵器杯(C99・C103・C104)、須恵器甕破片(C110)が出土した。規模はP1:95×64・深さ22cmである。

掘り方 100～170cm規模の不整形掘り込みが5カ所ほどあり、底面は凹凸が著しい。西辺から北辺へつながる壁溝の線を追求したところ、カマド前を通り南東隅-南西隅につながるひと回り小さな掘り込みが検出された。全体に50cmほど外側へ拡張されたと考えられる。

その他 中央部を南北に通る土層観察用のベルトを残して、その他の範囲を掘り下げた時点で、南辺中央部に上面が硬い2段の階段状遺構を検出した。さらに広げて精査を進めると、住居上端で幅41cm、長さ72cmの二段の階段状遺構となった。ベルトの西側は掘り下げにより失ってしまったが、南辺中央部に位置すること、上面が硬くなっていること、土を除去すると不整形の掘り込みが存在することなどから、この階段状遺構は出入り口施設の一部と考えられる。床面側にある円形のピットの規模は27×26・深さ34cmである。

遺物 カマド燃烧部上位から土師器甕の破片が、貯蔵穴内から主として須恵器破片が、西辺中央部の壁際で須恵器杯(C100)が、北東隅付近の床面から土師器杯(C94)と須恵器蓋(C98)がそれぞれ出土したほか、須恵器片560g、土師器片2407gが出土した。比較的須恵器の出

土が多い。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 11住居(第87・212図、PL.66・67・142)

検出位置 32区G14グリッド付近で検出した。C区の西寄りで10軒の住居が重なりあう区域にある。溝・ピット・耕作痕が多い。北辺寄りを3溝が略東西に走行し、カマド付近を5溝が走行する。

重複関係 北辺寄りでは3溝が略東西に走行し、11住居→3溝の順に新しい。またカマド付近を5溝が走行し、さらに84Pがカマド燃烧部にあり、11住居→84P→5溝の順に新しい。南西隅の78P、北東隅付近の93Pは、いずれも本住居より新しい。住居間では、プランとカマドの遺存状態から、13住居→11住居→10住居の順に新しく、13住居→12住居→18住居の順に新しい(出土遺物は混在している)。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土と暗褐色系の土で埋没する。北半部の攪乱が著しいので不確実だが、住居中央部に土を盛り上げた痕跡があり、人為的に埋められた可能性が残る。ただし、床面を形成する土は住居中央部で水平に近く遺存する。

壁 高さ13～31cmで、南寄りがわずかに深い。西辺寄りで南北5.62m、南辺寄りで東西3.66mで南北に長い。南西隅が突出しており、全体として台形となる。各辺の長さは南辺3.46m、西辺5.46m、北辺3.52m、東辺4.17mである。南東隅の土坑底面は東側の壁よりも奥に届き、北東隅の底面も外側に広がる。北辺が変形しているのは、3溝による破壊の影響と考えられる。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面を検出した。P3の南側にも硬い床面が広がり、南東部のP1・P2の上には硬い床面がないことから、これらのピットは意図的に設置されたと考えられる。

支柱穴 床面水準でも掘り方調査でも柱穴に相当する掘り込みは検出されなかった。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部に設置する。燃烧部は住居壁ラインにかかり、奥壁は壁ラインの外へ出る。左右の袖部粘土が残っていたが、燃烧部を84Pによって破壊され、遺存不良である。煙道部寄りに灰層が遺存していた。

第4章 検出された遺構と遺物

貯蔵穴 カマド右袖部脇のP1またはP2とみられるが、判定できなかった。P2の中から須恵器盤片(C115)が出土した。規模はP1:91×58・深さ36cm、P2:186×138・深さ17cmである。

掘り方 全体に凹凸が著しい。カマド前と西辺沿いに不整形の掘り込みが認められた。

その他 全体に遺存不良だが、中央部の硬い床面は残っていた。

遺物 P2の底面から浮いた状態で須恵器盤片(C115)が、北西寄りの床面から浮いた状態で土師器片と石が、南辺中央部の壁際から土師器大杯(C114)が出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀の所産と推定する。

C区 12住居(第88・213図、PL.67)

検出位置 32区F13グリッド付近で検出した。C区の西寄り10軒の住居が重なりあう区域にある。溝・ピット・耕作痕が多い。中央部を耕作痕が略南北に走行し、北西辺で11住居の南辺と平行する。

重複関係 中央部を耕作痕が走行するほか、80Pが重なり、12住居→80P→耕作痕の順に新しい。また、西隅に79P、北東隅付近に81P・111P、南寄りに112Pが重複し、いずれも本住居より新しい。住居間では、プランとカマドの遺存状態から、13住居→11住居→10住居の順に新しく、13住居→12住居→19住居の順に新しい。本住居の東隅を19住居が切っている。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土と暗褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。

壁 高さ13～29cmで、攪乱部を除くと21～29cmである。中央部で南西-北東3.97m、北西-南東3.90mでわずかな差であり、方形のプランである。各辺の長さは南西辺3.53m、北西辺3.70m、北東辺2.47m(推定3.60m)、南東辺1.13m(推定3.40m)である。

床面 住居壁の内側15～30cmの範囲で硬い床面を検出した。中央部南北走行の溝は、上位の耕作痕による破壊である。

支柱穴 不明。床面水準でも掘り方調査でも柱穴に相当する掘り込みは検出されなかった。

壁溝 なし。

カマド 焼土・炭化物の分布が認められず位置不明だ

が、東隅に重複する19住居によって破壊された可能性が高い。

貯蔵穴 不明。

掘り方 南西辺に13住居の一部と推定される不整形の掘り込みが認められた。その他の底面は、比較的平坦である。

その他 ピット・耕作痕による破壊が多く、カマドを遺存していないが、硬い床面が遺存していた。

遺物 埋没土中から須恵器片67g、土師器片306gが出土したが、土器小片のみあった。

時代・時期 わずかな出土土器片と遺構の重複関係から、奈良時代の8世紀の所産と推定する。

C区 13住居(第88・213図、PL.67)

検出位置 32区G13グリッド付近で検出した。C区の西寄り10軒の住居が重なりあう区域にある。周囲にピットが多い。東半部を11住居・13住居によって破壊されていた。

重複関係 住居内に77P・78P・79Pが重複し、西隅に76Pが重複する。いずれもピットが本住居より新しい。住居間では、プランとカマドの遺存状態から、13住居→11住居→10住居の順に新しく、13住居→12住居→19住居、15住居→13住居の順に新しい。本住居の南隅は15住居を切っている。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。

壁 高さ18～33cmで、概ね23～28cmである。中央部で北西-南東5.01m、北東-南西3.10m(推定3.80m-12住居掘り方検出)で、長方形のプランである。西隅は76Pによる破壊のためか、変形していた。各辺の長さは南西辺4.30m、北西辺2.17m(推定3.20m)、北東辺推定4.30m、南東辺2.33m(推定3.40m)である。

床面 硬い床面は検出できなかった。

支柱穴 不明。P1・P2・P3・P4は柱穴候補だが、形状・規模がそれぞれ異なり、配置も南に偏っている。各ピットの規模はP1:81×65・深さ23cm、P2:40×38・深さ15cm、P3:96×53・深さ23cm、P4:99×58・深さ30cmである。壁溝 南東辺西寄りから北西辺西寄りで検出した。幅19～28・底面幅4～8・深さ3～9cmである。

カマド 12住居の南西辺掘り方調査で、浅い掘り込みを

検出し、東隅と推定される掘り込みが認められたことから、北東辺中央部南寄りに設置されたと推定される。13住居によって破壊され、詳細は不明である。

貯蔵穴 不明。

掘り方 P5・P6のほか、中央部で小ピット、カマド左脇から北隅との間で1m大と1.5m大の不整形掘り込みを検出した。北西辺沿いの壁から20～50cm離れたところに波状の掘り込みが認められ、底面は著しい凹凸があった。遺物 12住居の南西辺付近でかつ13住居カマド前に相当する位置から、土器片が出土した。出土水準では13住居に属するが、12住居所属の可能性もある。ここでは13住居遺物としておく。

時代・時期 わずかな出土土器片と遺構の重複関係から、奈良時代の8世紀の所産と推定する。

C区 14住居(第89・213・214図、PL.67・68・142)

検出位置 32区F12グリッド付近で検出した。C区の西寄りで10軒の住居が重なりあう区域にある。周囲に耕作痕が多い。南半部を斜めに6溝が横切り、これより南側では硬い床面・住居プランとも確認できなかった。微地形が南下がりのため、近現代の耕作により削平されたと考えられる。

重複関係 北隅に107Pが重複し、14住居→107Pの順に新しい。東隅付近から略東西に走行する6溝によって本住居が切られ、同様に南北走行の耕作痕3本が北隅・カマド付近・東隅付近を破壊していた。東西走行6溝→南北走行耕作痕の順に新しい。住居間では、プランとカマドの遺存状態から、13住居→11住居→10住居の順に新しく、13住居→12住居→19住居、15住居→13住居・14住居の順に新しい。本住居の南西辺は15住居を切っている。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土が床面直上に堆積する。自然な埋没と推定するが、堆積土層が薄く、断定は困難である。

壁 高さ2～14cmで浅く、6溝以南の立上りは確定困難であった。中央部で北西-南東が推定5.30m、北東-南西4.36mで、長方形のプランと推定する。P4-P3を結ぶ線と北西辺との間隔を勘案すれば、南東辺はより南へ広がっていた可能性がある。各辺の長さは南西辺1.88m(推定5.20m)、北西辺3.94m、北東辺3.57m(推定5.10m)、南東辺推定4.40mである。

床面 6溝よりも北側で硬い床面を検出した。

主柱穴 P2・P3・P4が柱穴候補で、床面水準では東隅相当の柱穴を検出できなかった。掘り方南東辺に接する121×79cmの土坑状掘り込みの内部に、P5:33×30・深さ36cmのピットを検出し、配置・規模から、これが東隅相当の柱穴とみられる。各ピットの規模はP2:120×79・深さ52cm、P3:88×81・深さ54cm、P4:71×63・深さ46cmで、ピット間の距離はP4-P3:171cm、P3-P2:281cm、P2-P5:170cm、P5-P4:286cmである。

壁溝 南西辺の6溝以北からカマド左脇まで遺存していた。6溝以南は削平されたと考えられる。幅15～27・底面幅3～14・深さ3～14cmである。

カマド 北東辺中央部に設置する。燃烧部の2/3程度が住居壁ラインの外側にあり、奥壁には3個の焼けた石が据えられていた。燃烧部底面は焼土が溜まり、中から土器片が出土し、焚き口付近の床面に灰と焼土が分布していた。

貯蔵穴 P1は貯蔵穴とみられるが、その東側の掘り込みは50cmとP1よりも9cm深く、耕作痕に伴う可能性がある。P1は不整形で、規模は128×61・深さ39cmと41cmである。中から20～30cm大の石が出土し、一部に焼けた痕が残ることから、これらの石はカマド構築材の一部であったと推定される。

掘り方 P5のほか、カマド前の中央部で略円形の掘り込み、北隅付近で不整形の掘り込みを検出し、底面には細かい凹凸が認められた。南西辺沿いでいくつかの掘り込みを検出したが、これらは15住居の柱穴・貯蔵穴と考えられる。また、住居中央部に略長方形を呈する掘り込みがあり、硬い床面を形成する土の下位に焼土粒子を含む土が堆積し、底面には黄白色粘土が厚さ20cmほど認められた。15住居のカマドを破壊して作られた中央土坑(仮称)と考えられるが、用途・機能は不明である。

その他 貯蔵穴P1の位置を勘案して南東辺の位置を推定したが、P3・P4を結ぶ線と北西辺との距離を勘案して南東辺の位置を推定すると、長軸長さ(北西辺-南東辺)は5.8mに復元される。

遺物 カマド焚き口付近の床面から金属製品刀子(C149・C150)が、カマド前の床面から土師器甕(C145)の破片が、P4の覆土中でほぼ床面水準から金属製品紡錘車(C152、紡輪・軸付き)が完形で、P2から須恵器破片が、

中央部南寄りの床面からわずかに浮いた状態で灰釉陶器碗(C141)がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 15住居(第90・214図、PL.69・143)

検出位置 32区G12グリッド付近で検出した。C区の西寄りで10軒の住居が重なりあう区域にある。周囲にピット・耕作痕が多い。中央部を6溝が斜めに横切り、これと平行する耕作痕・攪乱が南隅及び北半部を走行する。北西辺には74P・87Pがかかり、西隅には攪乱が重なる。

重複関係 北西辺に87P・74Pが重複し、15住居→87P・74Pの順に新しい。6溝及びこれに平行する耕作痕・攪乱は、いずれも本住居を切っている。住居間では、プランとカマドの遺存状態から、13住居→11住居→10住居の順に新しく、13住居→12住居→18住居、15住居→13住居・14住居・16住居の順に新しい。本住居の北東辺は14住居に切られ、14住居の掘り方調査で柱穴・貯蔵穴を検出した。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定するが、南寄りでは耕作痕・攪乱によって堆積土が動いている可能性が高い。

壁 高さ19~30cmで、南寄りがやや浅いが、北寄りでは30cm前後が遺存していた。中央部で北西-南東が6.54m、北寄りで北東-南西5.59mで、長方形のプランとなる。北隅・南隅を欠くが、14住居の掘り方調査で確認した北東辺-東隅を付け加えると、各辺の長さは南西辺5.11m(推定5.60m)、北西辺4.87m(推定5.20m)、北東辺5.80m(推定6.20m)、南東辺4.90m(推定5.20m)である。

床面 14住居やピット・耕作痕で掘り込まれた部分を除き、硬い床面を検出した。床面水準ではP1・P3の掘り込みを検出した。P1は略楕円形を呈する土坑状で、P3は南寄り底面に7個の小穴があり、通常の掘り込みとは様相が異なる。規模はP1:195×137・深さ27cm、P3:123×96・深さ26cmである。

支柱穴 P2・P4が柱穴候補で、床面水準では東半部の柱穴を検出できなかった。14住居の掘り方調査でP6・P9を検出し、配置・規模がP2・P4に近いことから、これらの4本で支柱穴の組み合わせと考えられる。各ピットの規

模はP2:67×67・深さ78cm、P4:75×42・深さ78cm(以上床面の記録から起した)、P6:45×38・深さ69cm、P9:56×43・深さ51cmで、ピット間の距離はP2-P4:285cm、P4-P6:274cm、P6-P9:297cm、P9-P2:291cm(以上掘り方の記録から起した)である。

壁溝 なし。

カマド 北東辺中央部に設置されていたと推定されるが、14住居中央土坑により破壊されたとみられる。

貯蔵穴 掘り方調査で検出したP7を含む81×70・深さ11cmの掘り込みが貯蔵穴とみられるが、その東側にあるP11も候補になる。

掘り方 北東辺北寄りの壁沿いに幅20~25cm・高さ4~10cmの細長い帯状の高まりが認められ、この高まりはP10につながる。また、中央部に254×127・高さ3~17cmの不整形の高まりがあり、この高まりは支柱穴に囲まれた範囲に位置する。南西辺沿い・P1の西側にも不整形の掘り込みが認められた。底面の凹凸が著しい。ピットの規模はP5:131×116・深さ9cm、P10:59×53・深さ30cmである。

その他 14住居の掘り方調査をしたところ、15住居の範囲内に特殊な用途を思わせるP7・P8・P11を検出した。P7・P11では土師器甕(C156・C158)の体部下半をピットに埋め込み、P8では口縁部を欠く土師器甕(C157)の体部を据えていた。P7は貯蔵穴とみられる掘り込みの中であり、P8はこれに接するような位置にある。P11は単独の掘り込みである。「埋め甕」と呼ぶと縄文時代のものと誤認されるため、限定的に「埋設土師器」と呼んでおく。土師器甕の破片がすべて遺存していなかったため確実ではないが、飲用水や食料などを保管した施設(=本来の貯蔵穴)が想定できる。

遺物 埋設土師器のほか、南東辺の壁にかかって須恵器蓋(C154)が、P1の南側床面から細長い石3個がそれぞれ出土した。蓋(C154)は流れ込んだ可能性がある。

時代・時期 出土土器の特徴から、奈良時代の8世紀後半の所産と推定する。

C区 16住居(第91・214図、PL.69・70)

検出位置 32区G11グリッド付近で検出した。C区の西寄りで10軒の住居が重なりあう区域の南寄りにあり、周囲に耕作痕が多い。略東西に走行する4本の耕作痕によ

りほぼ全体が破壊されていた。

重複関係 耕作痕により大部分が破壊されていたが、北隅で15住居とわずかに重複し、15住居→16住居の順に新しい。カマドの北半部は耕作痕により破壊され、遺存していなかった。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土と灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。南寄りでは耕作痕・攪乱によって堆積土が動いている可能性が高い。

壁 高さ15～22cmで、概ね20cmほどが遺存していた。中央部で北西-南東が3.71m、北寄りで北東-南西3.37mで、各辺の長さが異なり、台形のプランとなる。西隅を除き、北・東・南の隅が遺存するが、全体に不整形である。各辺の長さは南西辺2.70m(推定3.00m)、北西辺2.85m(推定2.92m)、北東辺3.54m、南東辺3.03mである。

床面 カマド前から中央部にかけて、耕作痕の間に硬い床面を検出した。北隅付近は軟らかい床面であった。

支柱穴 不明。床面水準ではピットを確認できなかった。もともとなかったか、破壊されていたか、判定は困難である。

壁溝 なし。

カマド 北東辺中央部南寄りに設置されていた。耕作痕により北半部を破壊されていたが、燃焼部は住居の壁ラインにかかる程度とみられる。底面に焼土が分布していた。

貯蔵穴 不明。

掘り方 南西辺寄りはやや高く残っており、その中に8個の不整形掘り込みが認められた。カマド前付近にも不整形の掘り込みがあり、全体として細かい凹凸が著しい。その他 耕作痕による破壊がほぼ全体に及び、プランを追求するに止まる。

遺物 北隅の壁にかかる状態で埴輪片(C162)が、流れ込みか。南寄りの床面からやや浮いた状態で細長い石が、南隅付近の耕作痕底面から土器片がそれぞれ出土したほか、須恵器片2g、土師器片1719gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 17住居(第91・92・214・215図、PL.70・71・143)

検出位置 32区D14グリッド付近で検出した。C区の西寄りで10軒の住居が重なりあう区域の南寄りにあり、周

囲に耕作痕が多い。略南北に走行する4本の耕作痕によりほぼ全体が破壊されていた。

重複関係 耕作痕により大部分が破壊されていたが、北東辺で20住居と重複し、20住居→17住居の順に新しい。西隅では18住居と重複し、18住居→17住居の順に新しい。北寄りでも重複する140Pは17住居を切っている。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。北寄りでは床面を形成する土の判定が困難であった。

壁 高さ12～32cmで、北隅付近やや高く遺存していた。中央部で北西-南東が6.62m、北寄りで北東-南西5.32mで、北隅を除き失われていたが長方形のプランとみられる。各辺の長さは南西辺3.90m(推定6.40m)、北西辺4.13m(推定5.00m)、北東辺5.65m(推定6.10m)、南東辺2.90m(推定4.70m)である。

床面 カマド前から中央部北寄りにかけて、耕作痕の間に硬い床面を検出した。南隅付近は判定できなかった。bカマド前には焼土と灰混じりが散布し、中央部南寄りにも灰・焼土が分布する。

支柱穴 床面水準ではP3を確認したのみであったが、掘り方調査でいくつかの柱穴候補を検出した。床面水準では南東辺沿いにP6・P1・P2を検出し、これと相対する位置でP19・P22が確認された。P19-P3-P2は直線的に並ぶ。各ピットの規模はP1:43×37・深さ30cm、P2:66×56・深さ50cm、P3:52×48・深さ33cm、P4:78×75・深さ22cm、P5:53×38・深さ39cm、P6:43×34・深さ52cmで、P7は貯蔵穴とみられる。

壁溝 北西辺中央部に壁溝状の細長い溝を長さ2.25mにわたって検出した。通常の壁溝とは異なり、南西辺北寄りから出て、壁と略平行に走行し、途切れてしまう。幅26～36・底面幅6～19・深さ4～9cmである。

カマド カマド痕跡とみられるaカマドと、北東辺中央部に設置するbカマドを検出した。aカマドは30×29・深さ15cmの比較的小さな掘り込みで、南側壁に焼土が分布していた。bカマドは東側の20住居に延びる煙道部があり、燃焼部の大半を耕作痕によって破壊されていた。燃焼部は住居の壁ラインの外側にあつたとみられ、煙道部は長さ90cmが遺存していた。北東辺の壁際から焼土・灰混じりが分布し、その南西部床面にも灰・焼土が散布していた。袖部粘土は検出できなかった。bカマドはa

カマドの作り替えと考えられる。

貯蔵穴 東隅で検出したP7が貯蔵穴とみられる。なかから須恵器壺(C175)・土師器台付甕(C176)・土師器杯(C164・C168)が出土し、須恵器壺は口縁部を欠くが正立の状態であった。規模は47×45・深さ25cmである。

掘り方 多数の土坑状不整形掘り込みと、柱穴とみられる掘り込みを検出した。南東辺から南西辺沿いにかけて不整形の掘り込みが認められ、規模は1m前後・深さ6～14cmである。北隅付近を除き、全体として細かい凹凸がある。床面で検出したP3の規模・位置を勘案すると、P3を含めてP15・P16・P17が支柱穴とみられる。このほか、壁際に並ぶP6・P2・P35、P36・P37・P38・P39、P5・P19・P20・P21・P22・P23、P25・P26・P40・P31が補助的な柱穴と考えられる。また、P32-P12-P9-P10-P11はほぼ直線的に並ぶことから、南東辺に出入口施設が想定される。P27・P28・P29・P30はその規模と配置から、20住居の支柱穴と推定する。各ピットの規模はP15:61×50・深さ20cm、P16:47×42・深さ46cm、P17:33×26・深さ47cm、P35:46×35・深さ28cm、P36:50×40・深さ39cm、P37:29×25・深さ9cm、P38:49×38・深さ34cm、P39:55×38・深さ33cm、P19:37×29・深さ45cm、P20:41×32・深さ15cm、P21:39×30・深さ34cm、P22:19×16・深さ40cm、P23:38×26・深さ23cm、P24:39×39・深さ8cm、P25:32×31・深さ19cm、P26:37×25・深さ13cm、P40:59×36・深さ21cm、P31:43×37・深さ12cm、P32:50×47・深さ57cm、P12:51×42・深さ45cm、P33:58×54・深さ40cm、P10:56×55・深さ29cm、P11:59×53・深さ30cm、P27:53×43・深さ34cm、P28:50×45・深さ37cm、P29:34×32・深さ33cm、P30:48×44・深さ41cmである。ピット間の距離はP15-P16:233cm、P16-P3:202cm、P3-P17:229cm、P17-P15:163cm、P27-P28:301cm、P28-P29:220cm、P29-P30:327cm、P30-P27:237cmである。

その他 北西辺に沿って床面水準で略長方形(120×65cm)の高まりがあり、その東端は細くなって北西辺につながっていた。床面との落差は5cm、住居外との落差は39cmである。南西辺中央部では長さ140cm、幅10cm前後の平坦な面があり、床面との落差は5cm、住居外との落差は17cmであった。重複する18住居の範囲から勘案して、長方形の高まりは17住居に属する遺構である。

遺物 P7出土の遺物のほか、カマド燃焼部から土器片

が、南東辺沿い南寄りの壁際から土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 18住居(第93・215図、PL.71・143)

検出位置 32区E14グリッド付近で検出した。C区の西寄りでは10軒の住居が重なりあう区域の東寄りにあり、周囲に耕作痕が多い。略南北に走行する3本の耕作痕と3・5溝によりほぼ全体が破壊されていたうえ、東側を17住居、南隅を19住居により破壊されていた。

重複関係 耕作痕により大部分が破壊されていたが、北東辺で17住居と重複し、18住居→17住居の順に新しい。南隅では19住居と重複し、18住居→19住居の順に新しい。北寄りでは重複する133P及び3・5溝は18住居を切っている。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。19住居と一連の土層で重複関係を確認した。

壁 高さ10～18cmで、北隅付近やや高く遺存していた。中央部で北西-南東が5.12m、北東-南西推定3.60mで、北隅を除き東南西の隅が失われていたが、長方形のプランとみられる。各辺の長さは南西辺1.47m(推定5.10m)、北西辺3.09m(推定3.40m)、北東辺0.45m(推定4.40m)、南東辺1.22m(推定3.60m)である。

床面 南寄りでは耕作痕の間に硬い床面を検出した。重複する住居と溝・耕作痕のため、遺存不良である。

支柱穴 床面水準ではP1・P2を確認したのみであったが、掘り方調査でいくつかの柱穴候補を検出した。P1・P2は配置からみて、支柱穴の位置とは考えにくい。掘り方調査検出のP3・P4が、規模・配置とも支柱穴らしくみえる。各ピットの規模はP1:51×43・深さ51cm、P2:23×22・深さ21cm、P3:54×38・深さ33cm、P4:50×38・深さ40cm、ピット間の距離はP3-P4:166cmである。

壁溝 床面水準の北西辺中央部から西隅にかけて、一部を検出した。幅17～26・底面幅5～9・深さ1～4cmである。

カマド カマド痕跡とみられる掘り込みを北東辺の掘り方調査で検出した。17住居に破壊されていたため、東に凸状の凹みを検出したに止まる。

貯蔵穴 東隅近くで検出した土坑2が貯蔵穴候補である。規模は57×33以上・深さ16cmである。南東側に接するピットから土師器甕(C181)が出土した。

掘り方 南半部に不整形の掘り込みがあるほか、カマド前相当の位置にピットが認められた。

その他 南東部で出土した土師器甕は、埋設土師器の可能性はある。ただし、耕作によって動いていることも考えられる。

遺物 先述の土師器甕(C181)を除き小片のみで、須恵器片129g、土師器片402gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴と重複する住居から出土した土器を勘案して、奈良時代の8世紀後半の所産と推定する。

C区 19住居(第94・95・215～217図、PL.71～74・144)

検出位置 32区E13グリッド付近で検出した。C区の西寄りでは10軒の住居が重なりあう区域の南東寄りにあり、周囲にピット・耕作痕が多い。略南北に走行する5本の耕作痕によりほぼ全体が破壊されていたが、遺構・遺物とも比較的遺存状態は良好であった。

重複関係 耕作痕により破壊されていたが、西隅で12住居、北隅で18住居と重複し、いずれも本住居の方が新しい。南西辺にかかる190P・108P、及びこれに並ぶ109P・139Pは、いずれも本住居を切る新しい掘り込みである。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。18住居と一連の土層で重複関係を確認し、19住居では2枚の床面が認められた。

壁 高さ2～33cmで、西隅付近がやや高く遺存し、北隅は浅い。中央部で北西-南東が7.26m、北寄りでは北東-南西が5.62mで、北隅・東隅を欠くが、略長方形のプランとみられる。ただし、北西辺よりも南東辺がやや短い。各辺の長さは南西辺6.25m、北西辺5.13m(推定5.50m)、北東辺5.25m(推定6.60m)、南東辺3.64m(推定4.60m)である。

床面 カマド前から中央部北寄りにかけて、耕作痕の間に硬い床面を検出した。北隅と南隅を通る第95図c-dでは、2枚の硬い床面が認められた。P20の西側床面には焼土が分布していた。

支柱穴 床面水準でP3・P1・P4・P20を検出したほか、北西辺沿いでP21・P5・P22が並んで確認された。掘り

方調査では、南東辺沿いでP8・P9が検出され、その内側にやや小さめのP13・P14・P15などの小穴を検出した。各ピットの規模はP3:内部に35cm大の石・73×60・深さ57cm、P1:68×63・深さ39cm、P4:北側に掘り込みを伴う・66×55・深さ34cm、P20:44×37・深さ57cm、P21:46×30・深さ20cm、P5:53×41・深さ38cm、P22:24×22・深さ19cmで、ピット間の距離はP3-P1:237cm、P1-P4:264cm、P4-P20:252cm、P20-P3:262cm、P21-P5:41cm、P5-P22:76cm、P21-P22:116cmである。

壁溝 本住居の壁溝は変則的である。南東辺の壁沿いから南西辺につながり、北西辺の西半まではほぼ同じ程度の壁溝があり、北西辺西半で途切れる。この壁溝は幅14～36・底面幅2～14・深さ4～12cmである。西隅付近から北西辺沿いの内側50～70cmの範囲を直線的に北東辺に延びる溝が認められ、西寄りでは内部に小穴があり、東寄りでは2本に分かれる。幅10～48・底面幅1～22・深さ3～14cmである。北東辺北寄りの壁溝は幅16～24・底面幅2～3・深さ23～27cmで、失われた北隅を境として西側は不明となる。北西辺沿いにつながっていた可能性もある。これらの壁溝の形状から、本住居は拡張されたと考えられる。

カマド 北東辺中央部やや南寄りに設置する。燃烧部は住居壁のラインにかかるが概ね壁ラインの内側にある。底面には灰・焼土が分布していたが、袖部の遺存は不良であった。東隅に近い不整形掘り込み中から焼けた状態の割り石が10個ほど出土しており、カマド構築材の一部とみられる。燃烧部奥壁手前の左側から細長い石が出土し、奥壁からは土師器甕破片(C233・C236)が、焚き口付近の底面から灰釉陶器椀(C223)が出土した。

貯蔵穴 東隅で検出した不整形の掘り込みが貯蔵穴とみられる。上位に139Pがあるうえ、耕作痕にも攪拌されているため、遺物の位置は後世の攪乱によって動いている可能性が高いが、この付近にあったと推定しても良いだろう。なかから須恵器杯(C202)・椀(C215・C219)・耳皿(C193)、土師器甕破片(C231・C235)のほか、焼けた状態の石が出土した。規模は179×178・深さ32cmである。

掘り方 住居中央部を除き、大小の掘り込みが認められた。カマド付近では住居の壁ラインに沿う位置で8個の小穴が並び、北西辺沿い50cm内側の壁溝内は小穴の連続した状態になる。北西辺沿いの壁直下では、幅20～52・

第4章 検出された遺構と遺物

底面幅7～22・深さ5～14cmの壁溝が認められた。南東辺沿いの壁溝は、壁から20～39cm離れた状態になり、南西辺沿いでも36～50cm離れた状態となる。床面水準と比べ、全体としてひと回り小さな壁溝痕跡を検出したことになり、硬い床面を2枚確認したと併せて、住居を拡張した推定と一致する。南東辺の壁溝に重なり、P8・P9を検出したことや、この付近に小穴が多いことから、当初は南東辺に出入口があったと推定される。掘り方検出のP10の中から、石製品山形巡方(C240)が完形で出土した。各ピットの規模はP6:不整形158×137・深さ32cm、P7:不整形123×68・深さ16cm、P8:44×39・深さ38、P9:二段46×41・深さ44cm、P10:62×44・深さ17cm、P12:不整形・石2個出土130×109・深さ23cm、P13:二段38×32・深さ39cm、P14:36×35・深さ15cm、P15:方形27×25・深さ16cm、P16:36×36・深さ19cm、P17:二段64×56・深さ59cm、P18:二段75×55・深さ21cm、P19:52×44・深さ17cm、P23:27×26・深さ30cm、ピット間の距離はP8-P9:167cm、P17-P23:183cmである。

その他 北西辺中央部床面水準に47×45cmの歪んだ方形の高まりを検出し、壁の外には細長い凹みが認められ、壁外の凹みとの落差は5cmで、高まりと床面との落差は9cm、高まりと壁外との落差は18cm前後であった。位置と形状から、この高まりは出入口施設と考えられる。これに対して掘り方水準では南東辺中央部に出入口施設が推定されることや、床面を2枚検出したこと、壁溝が3辺で二重に認められたことを勘案すると、当初は南東辺に出入口のある住居だったが、拡張に伴って北西辺に出入口を替えたと推定する。

遺物 南東部の不整形掘り込みやカマドから土器・石が出土したほか、カマド前の床面から須恵器高台付皿(C194)・椀(C217)が、P2南側の床面からやや浮いた状態で須恵器椀(C214)が、掘り方検出のP10から石製品山形巡方(C240)がそれぞれ出土した。また、須恵器片3835g、土師器片7068g、灰釉陶器片73gが出土した。
時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 20住居(第93・218図、PL.74)

検出位置 32区D14グリッド付近で検出した。C区の西寄りでは10軒の住居が重なりあう区域の東寄りにあり、周

囲にピット・耕作痕が多い。略南北に走行する3本の耕作痕と17住居によりほぼ全体が破壊されていた。

重複関係 17住居により大部分が破壊されており、耕作痕の走行によりカマドも破壊されたとみられる。17住居のbカマドが中央部に重なり、全体像の調査は困難であった。

覆土 白色軽石を含む暗褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。西寄りの床面は17住居に破壊されていた。

壁 高さ5～15cmで、遺存不良であった。17住居寄りの西側で北西-南東が5.01m、北東-南西1.36m以上である。北西辺0.98m、北東辺4.53m、南東辺1.00mを検出したに止まる。

床面 遺存していた範囲では、比較的平坦である。

主柱穴 床面水準では不明。17住居の掘り方調査で、P27・P28・P29・P30を検出し、配置と規模を勘案すると本住居に所属するとみられる。ピットの規模等は17住居掘り方の項で記述した。

壁溝 北隅付近の掘り方調査でわずかに検出した。幅21～40・底面幅10～31・深さ1～6cmである。

カマド 掘り方調査で南東辺南寄りに略三角形の掘り込みを検出した。中央に小穴があり、両袖部相当の位置にも小穴があることから、カマド痕跡と推定される。耕作痕と141Pにより、大半を失っている。

貯蔵穴 東隅近くの掘り方調査で検出したP13と推定する。規模は112×72・深さ15cmである。

掘り方 北隅に不整形のピット2個があり、北東辺沿いにも不整形掘り込みが認められた。

その他 掘り方調査で検出した主柱穴が本住居所属とすると、本住居は北東-南西方向に長い長方形になる可能性がある。

遺物 北寄りの床面で出土した須恵器椀(C246)のほか、須恵器片31g、土師器片133gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴と重複する住居から出土した土器を勘案して、奈良時代の8世紀後半～平安時代9世紀の所産と推定する。

C区 26住居(第96・218図、PL.74・75・145)

検出位置 31区Q15グリッド付近で検出した。C区の東寄りでは東紺屋谷戸遺跡との境界に近い位置にあり、周囲

にピットが多い。南隅に12溝 a がかかるが、遺構の遺存状態は比較的良好であった。南東の41住居との最短距離は7.6m、43住居・3粘土採掘坑・5粘土採掘坑・10掘立柱建物との最短距離はそれぞれ9.8m・9.8m・2.9m・0.6mである。10掘立柱建物の長軸方位に近いが、同時存在は困難と推定する。

重複関係 南隅に12溝 a がかかり、26住居→12溝 a の順に新しい。このほか、362P・365P・367P・363P・366P・364Pが本住居にかかり、いずれもピットの方が新しい。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土と黄白色軽石を含む褐色系の土で埋没する。壁際から斜めに埋没土が流入している様子が分層した(第96図 a-b)にあるが、床面直上の土の内部にも斜め流入する粒子の様子が認められた。近接する2・3・5粘土採掘坑、東紺屋谷戸遺跡8粘土採掘坑の掘り出した土が周囲に積まれていて、それらが風雨等によって自然流入した可能性がある。この場合は、本住居の使用停止または廃棄後、埋没の少ない時点で周囲の粘土採掘坑が掘り込まれ、その「残土」が流入したことになり、26住居→周囲の粘土採掘坑の順に新しいと推定できる。

壁 高さ28~52cmで、北隅付近がやや高く遺存し、南西辺は浅い。中央部で北西-南東が5.85m、北東-南西が4.82mで、長方形のプランとみられる。東隅はや丸味を帯びる。各辺の長さは南西辺5.82m、北西辺4.53m、北東辺5.24m、南東辺4.43mである。

床面 壁際を除き、ほぼ全体に硬い床面を検出した。

支柱穴 床面水準でP1・P2・P3・P4を検出した。P1・P2とも不整形で、P3・P4は浅い。掘り方調査では東隅にP5、住居中央部でP6・P7が検出され、南隅にP8、北隅近くにP9を検出した。P5は貯蔵穴とみられる。各ピットの規模はP1:81×69・深さ19(掘り方42)cm、P2:99×58・深さ30(掘り方38)cm、P3:53×42・深さ12(掘り方22)cm、P4:39×34・深さ3(掘り方14)cmである。ピットの配置に難があるが、ピット間の距離はP4-P1:279cm、P1-P2:188cm、P2-P3:261cm、P3-P4:149cmである。

壁溝 カマド前を除き、全周する。幅25~36・底面幅8~14・深さ6~15cmである。

カマド 北東辺南寄りに設置する。燃焼部は住居壁のラインにかかり、左右の袖部粘土が遺存し、内面は良く焼けて焼土化していた。奥壁は急角度で立上り、底面には

焼土が分布していた。掘り方調査では、奥壁の粘土がはずれ、直に近い立上りとなる。左袖部外側の付け根付近から土師器杯(C253)が出土し、焚き口前の床面からやや浮いた状態で土師器杯(C250)が出土した。

貯蔵穴 東隅の掘り方調査で検出した不整形の掘り込みP5が貯蔵穴とみられる。二段に掘り込まれ、内部は略円形を呈する。規模は76×55・深さ18cmである。

掘り方 北西辺西寄り、南隅付近、南東辺中央部にそれぞれ不整形の高まりがあり、全体に細かい凹凸が著しい。P6は内面に粘土を貼った掘り込みで、B区検出の粘土貼り土坑に似る。各ピットの規模はP6:内面粘土貼り付け109×108・深さ5cm、P7:119×115・深さ11cm、P8:58×46・深さ9cm、P9:62×54・深さ14cmである。

その他 南西辺中央部にピットを2個検出した。両者とも不整形で、壁に掘り込まれており、出入り口施設の可能性がある。P10:27×19・深さ20(壁外から49)cm、P11:57×23・深さ13(壁外から40)cmで、P10-P11:101cmである。

遺物 カマド左袖脇から土師器杯(C253)、焚き口前から杯(C250)、東隅床面から細長い石、南東辺中央東寄りの壁溝から土師器杯(C252・C254)、同じ辺の西寄りから須恵器転用硯(C262)、南隅近くの床面から細長い石がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 27住居(第97・218図、PL.75・76・145)

検出位置 32区J17グリッド付近で検出した。C区の北西部にあり、北辺は東紺屋谷戸遺跡側にあるが、天王C区で番号を付した。略東西方向に走行するC区1溝・4溝と、これにほぼ平行する土管暗渠が本住居上位を破壊し、西辺にはC区2溝が斜めに重なる。最も近い住居は9住居で、最短距離は2.2mである。

重複関係 土管暗渠を含む東西走行の溝はすべて本住居を切っている。また、西辺と斜めに重なる2溝も本住居より新しい。南辺沿い及び北辺沿いに不整形の攪乱があって、いずれも本住居より新しく、南辺は攪乱で破壊されていた。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土で埋没する。北半部の土は暗渠などの攪乱により、動いている可能性

が高い。南半部では、硬い床面を形成する土が黒色土と黄色土の互層をなしていた。

壁 高さ19～26cmで、北辺と南辺の大半を欠くが、北西隅の壁と南西隅付近の壁溝を検出したことにより、概ね全体の規模が判明した。南寄りでは東西が4.19m、東寄りでは南北が5.20mで、長方形のプランと見られる。

床面 中央部で硬い床面を検出したが、地割れによる段差が生じていた。

支柱穴 床面水準でP1・P2を検出した。P1は貯蔵穴とみられる。P2は位置・規模とも柱穴にふさわしいが、これに対応するピットが床面水準では検出できなかった。ピットの規模はP2:68×60・深さ52cmである。

壁溝 西辺の南寄り、北辺の東寄りから北東隅付近で検出し、住居規模を計測する根拠となった。幅9～21・底面幅2～6・深さ2～5cmである。

カマド 東辺南寄りに設置する。燃焼部は住居壁のラインにかかるとみられるが、1溝により破壊されて底面に焼土混じりの土が分布する程度である。右袖部粘土の一部が遺存していた。

貯蔵穴 南東隅のP1が貯蔵穴とみられる。二段に掘り込まれ、上面は浅い皿状を呈し、中央部はシルト質の青灰色地山を略楕円形に深く掘り込んでいた。中から土師器杯(C265)が出土したほか、東壁際の高い位置で土師器杯(C266)が出土した。規模は101×94・深さ37cmである。

掘り方 掘り方調査でいくつかのピットと不整形掘り込み、壁沿いの段を検出した。中央部は床面水準で不整形の陥没した状態を示し、地震跡とみられる。北西側床面で略円形に粘土帯が認められた。掘り方調査では、この部分に109×82・深さ11cmの略楕円形を呈する浅い土坑1があり、これにつながるように土坑2が掘り込まれていた。土坑2は深く、南西隅の土坑3は浅い。土坑2:85×80・深さ57cm、土坑3:123×88・深さ7cmである。掘り方で検出したピットはP3～P8である。P2・P4・P7の配置と、土坑1北側の不整形掘り込み中の25cm大の石の位置が支柱穴配置にみえる。ただし、P4・P7とも浅く、規模が小さい。各ピットの規模はP3:38×36・深さ23cm、P4:28×24・深さ4cm、P5:略方形32×32・深さ26cm、P6:37×34・深さ23cm、P7:24×16・深さ3cm、P8:75×60・深さ14cmで、ピット間の距離はP2-P3:262cm、P3-石:168cm、石-P7:251cm、P7-P2:176cmある。東辺の北端、

南辺沿い、西辺沿いに幅16～40cmの帯状の高まりを検出した。掘り方底面との落差は7～12cmである。掘り方底面は南東隅付近で凹凸が著しい。

その他 西辺の壁際近くの床面で青灰色粘土の塊が出土した。地山を掘り下げたときにみられる土に酷似していた。

遺物 貯蔵穴付近出土土器のほか、南辺寄りの中央部床面で土器片が、北西隅付近の床面から細長い石が、中央部北寄りの土管暗渠付近床面から土師器杯(C267)が、掘り方の土坑3西端から細長い石がそれぞれ出土した(遺物が混在している)。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 28住居(第28・219図、PL.76・77)

検出位置 32区J12グリッド付近で検出した。C区の南西端にあり、周囲に略東西走行の耕作痕が多い。15住居との最短距離は5.6m、1掘立柱建物を構成する9Pとの最短距離は5.3m、2掘立柱建物の最短距離は7.7mである。重複関係 西隅で19土坑と重複し、28住居→19土坑の順に新しい。東半部に重なる耕作痕もすべて本住居を切っている。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。北半部の土は攪乱により動いている可能性が高く、わずかに床面と壁を残していた。自然な埋没と推定する。

壁 高さ15～28cmで、北西辺がやや低く、西隅は19土坑に破壊されて欠く。中央部で北西-南東が3.58m、北東-南西が2.91mで、略長方形のプランと見られ、南西辺中央部が少し外側に膨らむ。各辺の長さは南西辺3.16m(推定3.60m)、北西辺2.06m(推定2.70m)、北東辺3.03m、南東辺2.17mである。

床面 カマド前から南隅にかけて、不整形の範囲で硬い床面を検出した。西隅付近の西半部は攪乱のためか、軟らかい状態であった。

支柱穴 床面水準でP1・P2・P3を検出した。東隅に相当する柱穴を欠く。各ピットの規模はP1:44×41・深さ11cm、P2:42×37・深さ15cm、P3:41×37・深さ16cmで、ピット内部の小穴を無視したピット間の距離はP1-P2:134cm、P2-P3:134cmである。

壁溝 なし。

カマド 北東辺南寄りに設置する。燃焼部は住居壁のラインよりも外側にあるとみられるが、煙出しの先端部と左袖部を耕作痕により破壊されていた。右袖部をわずかに遺存する。底面は北西に向かって斜めに立上り、焼土ブロックを含む土が認められた。底面から15cmほど浮いた状態で、須恵器杯(C279)が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 カマド焚き口付近に浅い掘り込みがあるほか、中央部から東隅にかけて不整形の掘り込みが認められた。東隅に相当する位置の柱穴は検出できなかった。全体に底面の凹凸が著しい。

その他 南半部の床面は踏み固められていたが、北半部では床面水準でも凹凸があり、攪乱による影響が大きいと推定する。

遺物 カマド内出土須恵器杯(C279)のほか、掘り方調査の南西辺寄り底面で須恵器の小片が出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、飛鳥～奈良時代の所産と推定する。

C区 29住居(第99・219、PL.77・78・145)

検出位置 32区D16グリッド付近で検出した。C区の中央部北端にあり、周囲に東西・南北走行の耕作痕とピットが多い。17住居との最短距離は5.5mである。

重複関係 南東隅付近で195Pと重複し、29住居→195Pの順に新しい。南半部に重なる耕作痕もすべて本住居を切っている。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然な埋没と推定する。

壁 高さ3～23cmで、床面水準では北辺と東辺の北半のみ輪郭がはっきりしていた。中央部で南北が5.78m、南寄りで東西が4.29mで、略長方形のプランを示すが、北辺に比べて南辺が長く、全体として台形を呈する。各辺の長さは南辺2.03m(推定4.00m)、西辺0.97m(推定5.30m)、北辺2.82m(推定3.50m)、東辺4.41m(推定4.80m)である。

床面 カマド前から中央部にかけて、耕作痕範囲を除き、硬い床面を検出した。

支柱穴 床面水準では柱穴とみとめられる遺構は検出できなかった。

壁溝 床面水準では検出できなかった。

カマド 東辺中央部に設置する。燃焼部は住居壁のラインにかかる形状とみられるが、奥壁は耕作痕により破壊されていた。中から焼けた石が出土し、支脚の可能性はある。

貯蔵穴 床面水準では検出できなかった。該当する位置に耕作痕が入り、破壊されたと思われたが、掘り方調査でP13を検出し、中から土師器杯(C282)が出土した。掘り込みの上位を耕作によって削平されたが、下半部が遺存したとみられる。P13の規模は47×28・深さ8cmである。北側の連結する小穴も、その一部であった可能性がある。掘り方 掘り方調査でいくつかのピットを検出したが、配置・規模から柱穴とみられる遺構にはならなかった。P4・P5・P6・P7は深さからみて柱穴候補だが、配置が整然とはならない。P4-P11-P2-P7の組み合わせが考えられ、これにP14・P15を加えれば、小屋組みを支えられるかもしれない。P13は貯蔵穴とみられる。各区ピットの規模はP1:77×68・深さ16cm、P2:49×35・深さ24cm、P3:推定159×104・深さ28cm、P4:38×31・深さ34cm、P5:55×32・深さ37cm、P6:87×72・深さ31cm、P7:66×62・深さ36cm、P8:65×46・深さ16cm、P9:推定143×133・深さ24cm、P10:105×99・深さ34cm、P11:51×40・深さ17cm、P12:56×39・深さ16cm、P14:35×31・深さ8cm、P15:30×23・深さ7cmである。住居中央部のP9は「中央土坑」とみられ、P10は壁に白色粘土を貼った「粘土土坑」である。住居壁の内側20～50cmほど内側で壁溝とみられる溝を、東辺南半部を除き検出した。西辺・南辺は連続しないが、北西隅から北辺-東辺北半部は連続する。土層断面で床面が2枚認められたことと勘案すると、本住居は拡張されたと考えられる。

その他 掘り方調査で検出した壁溝を根拠にすると、東西3.78m、南北4.93mの規模となる。

遺物 P13出土土器(C282)のほか、中央部北寄りの床面から須恵器蓋(C284)・土師器甕破片が、カマド左袖部相当の位置から須恵器甕破片がそれぞれ出土した。埋没土中からは須恵器片504g、土師器片1286gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 30住居(第100・101・219図、PL.78・145)

検出位置 32区A11グリッド付近で検出した。C区の中

中央部にあり、掘立柱建物や粘土採掘坑に囲まれる位置にある。南東側にある31・32・33・34住居との最短距離は1.1m・3.0m・1.0m・2.7m、3粘土採掘坑・6掘立柱建物との最短距離は4.2m・1.2mである。31・33住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 耕作痕がカマド付近を通り、カマドを破壊している。南東辺で重なる38土坑、南西辺から北隅にかけて495・494・496・331・332・333の各ピットは、いずれも本住居より新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。壁直下にいわゆる三角堆積が認められ、床面直上に薄い粘質土が堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ21～45cmで、北西辺と北東辺がやや高い。中央部で北西-南東が6.08m、北東-南西が6.10mで、方形のプランとみられる。長軸は柱間の長い北西-南東方向で計測した。

床面 壁際を除き、ほぼ全面で硬い床面を検出した。壁溝際まで硬い床面がつながるのは、南東辺中央部と南西辺北寄り、及び北隅の3カ所で、南東辺または南西辺に出入口が想定される。

支柱穴 床面水準でP1・P2・P3・P4を検出した。いずれも二段に掘り込まれていた。P5は貯蔵穴とみられる。各ピットの規模はP1:54×48・深さ62cm、P2:48×43・深さ23cm、P3:72×64・深さ54cm、P4:65×64・深さ41cmで、ピット間の距離はP1-P2:249cm、P2-P3:352cm、P3-P4:259cm、P4-P1:273cmである。

壁溝 カマドから東隅を除き、ほぼ全周する。幅21～45・底面幅5～24・深さ9～18cmである。

カマド 北東辺南寄りに設置し、壁に対して直交しない方位をとる。燃焼部は住居壁ラインの内側にあり、左右の袖部は住居内に延びる。奥壁は煙道部と13cmの落差があり、煙道部は斜めに立ち上がる。内面は良く焼けて焼土化し、燃焼部には灰層が認められた。焚き口付近の凹みは4～5cmほどであるが、P1付近まで広がっていた。

貯蔵穴 東隅のP5が貯蔵穴と考えられる。二段に掘り込まれ、上面は略楕円形である。規模は150×110・深さ23cmである。底面近くから細長い石が並んで出土したほか、土師器杯(C288)が出土した。

掘り方 掘り方調査でいくつかのピットと不整形掘り込み、不整形高まりを検出した。カマド燃焼部の南側は中

段が認められ、壁外との落差は17cm前後、燃焼部との落差は7～10cmである。この中段の西側に掘り方底面よりも高いテラス状の不整形部分があり、掘り方底面との落差は4～10cmである。P7は床面水準のP2よりも内側に位置し、P1・P3・P4と組み合わせると、より方形に近い形状となる。P6は南東辺中央部に近い位置にあり、P8は出入口に想定した部分の住居内の不整形掘り込みである。P9・P10・P11は北東辺に並び、P9の底面は壁の下へ向かって掘り込まれていた。各ピットの規模はP6:39×33・深さ13cm、P7:42×36・深さ61cm、P8:94×57・深さ35cm、P9:77×41・深さ41cm、P10:37×30・深さ15cm、P11:33×29・深さ20cm、P12:63×41・深さ41cmで、P1-P7:249cm、P7-P3:289cm、P3-P4:258cm、P4-P1:276cmである。掘り方調査では、ほかに1m前後の楕円形または不整形の掘り込みを検出した。土坑5と土坑6は中央部にあり、連結状態である。土坑7は外形がきわめて不整形で西隅に位置する。土坑5と土坑6はP1・P7・P3・P4に囲まれた線の内側に位置する。各土坑の規模は土坑1:122×102・深さ23cm、土坑2:120×104・深さ19cm、土坑3:117×116・深さ14cm、土坑4:144×117・深さ10cm、土坑5:197×153・深さ17cm、土坑6:118×91・深さ9cm、土坑7:161×137・深さ8cmである。

その他 掘り方の形状を加味すると、南西辺に出入口施設があった可能性が高く、南西辺に掘り込む495・494・496の各ピットは本住居に属する可能性がある。

遺物 貯蔵穴付近出土土器のほか、カマド焚き口底面から細長い石が、南東辺中央部壁溝内から敲石(C296)が、南隅の壁溝から細長い石が、中央部の床面から細長い石がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 31住居(第101・219・220図、PL.78～80・145)

検出位置 31区S10グリッド付近で検出した。C区の中央部にあり、掘立柱建物や粘土採掘坑に囲まれる位置にある。30・33・34・38住居との最短距離は1.1m・3.8m・0.6m・3.4m、3粘土採掘坑・10掘立柱建物との最短距離は6.9m・6.6mである。30・34住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 耕作痕が西隅付近で重複し、31住居→耕作痕

の順に新しい。南隅では7粘土採掘坑(旧37土坑)と重複し、東側は32住居と重複する。7粘土採掘坑の埋没土を31住居埋没土が切り、31住居のカマドが32住居内に遺存していたことから、7粘土採掘坑・32住居→31住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。床面直上に薄い粘質土が堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ21～41cmで、北西辺がやや高い。中央部で北西-南東が5.67m、北東-南西が4.20mで、長方形のプランとなるが、短辺中央部がやや膨らむ。

床面 カマド前から南隅にかけて、硬い床面を検出した。西隅付近は下位の床面まで掘り下げてしまい、失ってしまった。

支柱穴 床面水準・掘り方調査とも、該当する配置を検出できなかった。

壁溝 なし。

カマド 北東辺南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの中央部にあり、袖部粘土の大半を失っていたが、右袖部に20cm大の石が残り、燃焼部奥の底面に石が据えてあった。底面の石は支脚として利用したと考えられる。南辺中央部の壁際から30cm大の焼けた割り石が出土し、カマド構築材の一部とみられる。煙道部奥から土師器甕破片(C317)が出土し、焚き口近くの焼土ブロック下から土師器杯2個体(C298・C299)が並んで出土した。

貯蔵穴 東隅の埋設土師器甕(C318)の掘り込みが貯蔵穴と考えられる。土器の周囲は焼土ブロックを多く含む土で充填し、その周囲は暗褐色系の土で埋没していた。土師器甕(C318)はほぼ全形が判明する。

掘り方 掘り方調査では大小の掘り込みを検出したが、柱穴に相当する規模と配置のピットは見当たらず、底面は著しい凹凸があった。

その他 住居の土層断面(第101図c-d)では、上下2枚の硬い床面が認められた。作り替えが推定されるが、規模の変更はなかったとみられる。

遺物 埋設土師器甕(C318)のほか、カマド焚き口付近の下位から土師器杯(C298・C299)が2点、貯蔵穴の掘り込みから石が、床面の南西片沿いから須恵器蓋(C304)が、北東辺近くの床面から細長い石がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀

後半の所産と推定する。

C区 32住居(第102・103・220・221図、PL.80・81・146)

検出位置 31区S11グリッド付近で検出した。C区の中央部にあり、掘立柱建物や粘土採掘坑に囲まれる位置にある。30・34・38住居との最短距離は3.0m・2.5m・3.0m、3粘土採掘坑・10掘立柱建物・6粘土採掘坑との最短距離は6.0m・2.3m・3.3mである。

重複関係 耕作痕がカマド付近を通り、カマド上位を破壊している。南西辺で31住居と重複し、31住居のカマドが遺存することから、32住居→31住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む褐色系の土と黒褐色系の土で埋没する。壁直下にいわゆる三角堆積が認められ、床面直上に薄い粘質土が堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ28～55cmで、北西辺と北東辺がやや高い。中央部で北西-南東が7.59m、北寄りで北東-南西が6.48mで、略長方形のプランとみられるが、南東辺は丸味をもつ。各辺の長さは南西辺1.03m(推定6.40m)、北西辺6.16m、北東辺7.17m、南東辺5.91m(推定6.10m)である。本遺跡検出の住居中で最大級の規模となる。

床面 より新しい31住居範囲を除外すると、ほぼ全体で硬い床面を検出した。南東辺沿いは貯蔵穴の東西が硬くない。

支柱穴 床面水準でP1・P2・P3・P4・P5を検出したが、P3・P4は貯蔵穴とみられる。西半部の該当する位置では柱穴を検出できなかった。P2を除き、二段に掘り込まれていた。各ピットの規模はP1:60×33・深さ16cm、P2:46×37・深さ43cm、P5:60×47・深さ30cmで、ピット間の距離はP2-P5:357cmである。

壁溝 南東辺西半部と北西辺中央～北東辺にかけて検出した。幅16～35・底面幅2～15・深さ3～9cmである。

カマド 北東辺南寄りに2基認められ、いずれも壁に対して直交しない方位をとる。ここでは南側をBカマド、北側をAカマドと呼ぶ。Aカマドは右袖部の一部が遺存し、先端部に土師器甕破片3個が出土した。燃焼部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁が斜めに立ち上がって煙道部に続く。内部の底面に灰と炭化物がみられた。Bカマドは右袖部がわずかに遺存し、土師器甕破片(C348)が粘土に被せたような状態で出土し、奥壁から煙道部は斜

めに立ち上がる。燃烧部及び焚き口に相当する範囲には焼土ブロックがわずかに分布するが、奥壁から煙道部にかけての範囲のみ、よく焼けた焼土が認められたことから、Bカマドは作り替えられた古い時期のカマドと考えられる。焚き口相当の床面から、土師器甕破片(C346)がまとまって出土した。

貯蔵穴 東隅のP3及びP4が貯蔵穴と考えられる。両者とも二段に掘り込まれ、内部に小穴がある。P3の壁側は突出し、内部は略楕円形である。P4はいわば「鶏卵」形を呈する。新旧関係は判定できなかった。規模はP3:115×111・深さ40cm、P4:85×70・深さ23cmである。

掘り方 掘り方調査でいくつかのピットと不整形掘り込みを検出した。31住居の掘り方調査と同時進行のため判然としないところもあるが、P3を除き床面水準で検出していないピットの規模等を記載する。掘り方調査のP3内部に深い掘り込みがあり、これに対応する位置の深い掘り込みはP10のみである。P6・P11はP1の東側にあり、上面は連結していた。P9はP5の東側にあり、深く掘り込まれていた。各ピットの規模はP6:62×39・深さ9cm、P7:40×32・深さ27cm、P8:55×45・深さ65cm、P9:80×36・深さ44cm、P10:93×86・深さ26cm、P3:102×85・深さ24cm、P11:28×23・深さ30cmで、P6-P7:301cm、P7-P10:400cm、P10-P3:310cm、P3-P6:454cm、P6-P9:293cmである。このほか、底面全体に不整形の掘り込みがあり、凹凸が著しい。掘り方からの遺物出土がやや多い。

その他 掘り方の南東辺中央部と北西辺中央部に、壁から内部に向かって周囲よりも小高くなった部分があり、出入り口施設の残骸の可能性がある。住居の土層断面(第103図g-h)で複数の床面が認められること、カマドが2カ所あること、床面ピットと掘り方ピットの位置が異なること、貯蔵穴らしい掘り込みが2個あることなどから、本住居は複数回の建替えをしたと考えられる。

遺物 カマド付近出土土器のほか、南東辺の壁際から甕口縁部(C343)と細長い石が13個、北東辺壁際から甕破片と石3個がそれぞれ出土した。掘り方調査では、南東辺の壁際近くから須恵器蓋(C331)・高台付杯(C336)、中央部から細長い石と土師器杯(C322)、北隅付近から細長い石、P6の西側から須恵器小型壺(C338)、北東辺の壁際から土師器杯(C328)がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀

前半の所産と推定する。

C区 33住居(第104・221図、PL.81・82)

検出位置 32区A9グリッド付近で検出した。C区の中央部の南寄りにあり、掘立柱建物や重複する住居群に囲まれる位置にある。30・31・35・36・38住居との最短距離は1.0m・3.8m・2.9m・6.4m・5.8m、5掘立柱建物・11掘立柱建物との最短距離は7.3m・4.6mである。30住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 西辺に292Pがかかり本住居を切っているほか、東辺で34住居と重複し、本住居のカマドが遺存することから、34住居→33住居→292Pの順に新しい。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土と灰黄褐色系の土で埋没する。床面直上に薄い粘質土が堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ17～30cmで、北辺沿いやや高い。中央部で南北が4.27m、東西が3.09mで、略長方形のプランとみられるが、北東隅がやや突出する。各辺の長さは西辺3.77m、北辺3.05m、東辺4.04m、南辺2.83mである。

床面 中央部で不整形の硬い床面を検出した。南東隅・北東隅付近はやや軟らかい状態であった。

支柱穴 床面水準ではP1を検出したのみである。規模はP1:42×34・深さ26cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。燃烧部は住居壁ラインに半分かかる位置にあり、粘土の左右袖部が一部遺存し、左袖部から石が出土した。焚き口付近に焼土が分布し、燃烧部は浅い凹みを呈する。燃烧部の左右の壁は良く焼けて焼土化していた。燃烧部奥の左右の壁に30cm大の角柱状の石が立てた状態で据えられ、その上に砂岩質の切石がつなぐように(焚き口天井石のように)据えられていた。立てた石と砂岩質石の間には黄白色粘土が詰められ、砂岩質の石は立石の形状に合わせて削られていた。砂岩質の石は焼けて脆くなっており、形状を記録してサンプルを採取した。この石のさらに奥には煙道が延び、その壁も良く焼けて焼土化していた。奥壁に立石と天井石を据えて「門」のように構築するカマドの形態は、本遺跡では類例がない。カマド内からは土器小片が出土したのみである。

貯蔵穴 床面水準では貯蔵穴とみられる掘り込みを検出

できなかった。掘り方調査で検出したP5、またはP2とP5とに挟まれた不整形の掘り込みが貯蔵穴の可能性がある。規模はP5:60×53・深さ25cmである。

掘り方 掘り方調査では、カマド前から中央部にかけて小ピットをいくつか検出したほか、南辺沿いと北辺沿いに掘り込みが認められた。P2・P3・P4はP1と組み合わせて支柱穴になる可能性があるが、P3・P4はP2に比較して大きめである。各ピットの大きさはP2:26×22・深さ40cm、P3:71×67・深さ33cm、P4:63×51・深さ42cm、P6:77×50・深さ9cmで、P1-P2:291cmである。北辺沿いの内側に細長い段を検出した。幅5～15cmで、掘り方底面との落差は14～29cm、壁外との落差は27～33cmである。段の用途は不明。

その他 掘り方調査の北東隅で、44×43cm・略方形の中段を検出した。掘り方底面との落差は5～13cm、壁外との落差は36～40cmである。北東隅がやや突出して変形していることと、中段をもつことから、出入口施設が北東隅にあった可能性がある。

遺物 カマド右袖部から須恵器碗(C352)、南西隅付近から黒色土器碗(C351)が出土した。

時代・時期 カマド内出土土器片のほか、南辺沿いの床面から30cm大の石、床面から浮いた状態で焼けた石が出土した。わずかな出土土器片の特徴から、平安時代の10世紀の所産と推定する。

C区 34住居(第105・106・221図、PL.82・83・146)

検出位置 31区T9グリッド付近で検出した。C区の中央部の南寄りにあり、掘立柱建物や重複する住居群に囲まれる位置にある。30・31・35・36・38・39住居との最短距離は2.9m・0.6m・2.4m・3.7m・1.4m・0.7m、11掘立柱建物との最短距離は1.2mである。31・38・39住居、11掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 北西辺に不明ピットがかかり本住居を切っているほか、西隅で33住居と重複し、33住居のカマドが遺存することから、34住居→33住居→不明ピットの順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土と灰黄褐色系の土で埋没する。床面直上に薄い粘質土が堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ6～34cmで、北隅付近がやや高い。南隅の両側

は数cmの高さで浅く、壁溝の位置でプランを勘案した。中央部で北西-南東が6.04m、北東-南西が5.91mで、略方形のプランとみられるが、北西辺が幅0.6m前後で外側に突出する部分があり、新しい不明土坑と33住居によって西隅が破壊されている。東隅は丸味を帯びる。さらに地震による地割れ・陥没により、南東辺中央部から北隅にかけの床面が割れているため、壁の高さは20cmほどが遺存していたと推定される。各辺の長さは南西辺2.88m(推定4.70m)、北西辺2.51m(推定5.80m)、北東辺5.31m、南東辺5.11mである。

床面 カマド前から南隅にかけての範囲、北隅付近で硬い床面を検出したが、住居中央部に地割れと陥没があり、床面を形成する土がモザイク状に割れて分布していた。中央部北寄りの陥没は99×88・深さ35～48cmの不整形を呈し、南寄りの陥没は地割れとなってカマド右袖部と貯蔵穴の間に延びていた。

支柱穴 床面水準ではP1・P2を検出したのみである。P1は貯蔵穴とみられる。規模はP2:56×54・深さ62cmである。

壁溝 南東辺沿いの貯蔵穴脇から南西辺中央部まで検出したが、南西辺北半部は33住居の掘り込みが深く、破壊されていた。南東辺東寄りの壁溝内には小穴4個が認められ、その西側の壁溝は長さ38cmのあいだ途切れていた。幅18～25・底面幅9～13・深さ4～10cmである。北東辺・北西辺では壁溝を検出していない。

カマド 北東辺中央部に設置する。燃焼部は住居壁ラインにかかり、奥壁の下端が壁ラインに一致する。略半円形に壁を掘り込み、粘土で壁を固め、両袖部の先端付近に30cm大の石を据えていた。奥壁近くの底面に砂岩質の石を五角柱(上位が細い)に加工した石を据え、その上に土師器甕の底部(底面は平ら)を上面にして被せた状態で出土した。支脚とみられる。燃焼部右寄りに土師器甕(C359、1個体分)が寄り掛かるような状態で出土し、右袖部の右脇の床面からも土師器甕(C360)が出土した。右袖部の南側に20cm大の割り石が焼けた状態で3個、左袖部脇に1個出土したことから、焚き口に石を据えたと考えられる。焚き口相当の範囲の床面に炭化物が分布していた。

貯蔵穴 東隅で検出したP1が貯蔵穴とみられる。二段に掘り込まれ、中から土器片が出土した。規模は111×94・深さ43cmである。

掘り方 掘り方調査では、カマド両脇から南西辺にかけてピットをいくつか検出したほか、南東辺沿いの東寄りに段が認められた。P5はP2の東寄りに掘り込まれたピットで、深い底面はP2とほぼ同じ位置にある。北東辺沿いのP10は壁際に掘り込まれ、底部の東寄りには壁下に入っている。P11の底部も上面より広がっていた。P9は大きめの掘り込みで、P14は壁にかかる状態で掘り込まれていた。P5(P2)と組み合う柱穴はP6・P7・P4と考えられる。P5・P7・P14は二段に掘り込まれていた。各ピットの規模はP3:45×45・深さ5cm、P4:55×53・深さ44cm、P5(P2):51×43・深さ46cm、P6:42×38・深さ42cm、P7:44×41・深さ22cm、P8:53×52・深さ58cm、P9:130×122・深さ23cm、P10:80×51・深さ10cm、P11:53×34・深さ51cm、P12:69×52・深さ41cm、P13:37×34・深さ38cm、P14:66×53・深さ49cm、ピット間の距離はP5-P6:313cm、P6-P7:271cm、P7-P4:317cm、P4-P5:261cmである。その他 掘り方調査で南東辺の東寄りに長さ約120・幅20cmほどの段が認められた。住居掘り方底面との落差は4～13cm、住居外との落差は18～19cmである。南西辺中央部に住居壁にかかるP14とその内側にP12・13を検出しており、南東辺の段と併せて2カ所に出入口施設の可能性がある。北東辺の段は幅がほぼ一定で、屋根の葺き下ろしを勘案すると、室内の収納場所と推定される。

南東辺から住居中央部～北隅の範囲で地割れ・陥没を床面水準で検出し、床面を形成する硬い土がモザイク状に割れていたこと、床面直上の薄い粘質土が割れて上位の土が割れ口に入っていることから、本住居は地震発生以前に営まれ、人が住まなくなって床面直上に薄い粘質土が堆積し、上位の埋没土が堆積する間に地震が発生したと考えられる。土層断面の床面は割れた状態を示していないが、床面直上の粘質土(第107図a-b)が割れて上位の土が入っている状態を記録していることを考慮した。

遺物 カマド付近～貯蔵穴出土土器のほか、北隅に近い床面から土師器甕(C361)がほぼ1個体分出土し、掘り方調査でP11内から須恵器杯(C353)が出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 35住居

(第107・108・221・222図、PL.84・85・147)

検出位置 32区A 8グリッド付近で検出した。C区の中央部の南端にあり、掘立柱建物や重複する住居群に囲まれる位置にある。33・34住居との最短距離は2.9m・2.4m、5掘立柱建物・11掘立柱建物との最短距離は7.3m・2.6mである。

重複関係 北西辺に40土坑がかかり、南西辺に34土坑がかかっていずれも本住居を切っているほか、東隅で36住居と重複し、住居プランの確認から35住居→36住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む暗褐色系の土とにぶい黄褐色系の土で埋没する。床面直上に薄い粘質土が堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ24～42cmで、北西辺は35cm前後、南西辺沿いは床面が落ち込んでいるためか40cmほど深くなる。南隅は調査区外にあり、東隅は36住居によって切られ、北西辺のみ全体をすることができた。中央部で北西-南東が6.81m、北東-南西も6.81mで同じだが、南東辺が長いと推定され、全体として台形になると考えられる。各辺の長さは南西辺3.61m(推定5.90m)、北西辺5.44m、北東辺4.94m(推定6.30m)、南東辺1.24m(推定6.50m)である。

床面 カマド前から北隅にかけての範囲で硬い床面を検出したが、南西辺沿いに地割れと不整形の陥没が認められた。堆積土層の観察では、部分的に第1～第4の床面が認められ、何度かの貼替えが行われていたと考えられる。南西辺沿いの陥没部では、第1床面が落ち込んでいる状態を観察できた。

主柱穴 床面水準ではP1・P2・P3を検出した。P4相当の位置に36住居北西辺が重なり、検出できなかった。各ピットとも二～三段に掘り込まれ、規模はP1:56×41・深さ42cm、P2:57×47・深さ36cm、P3:79×66・深さ46cm、ピット間の距離はP1-P2:328cm、P2-P3:307cmである。

壁溝 南東辺沿いの一部、南西辺沿いの一部、北西辺～北東辺沿いに検出した。カマド部分を除き、全周していたと推定する。幅15～52・底面幅7～26・深さ7～27cmである。

カマド 北東辺中央部南寄りに設置する。燃焼部の大半は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の下端が壁ラインに

一致する。カマドの対称軸方位は、住居壁に直交しない。右袖部に石を据えており、よく焼けていた。焼土のブロックと粒子がカマド前に分布していた。

貯蔵穴 床面水準では36住居が重複し、不明である。掘り方調査で東隅相当の位置から土師器甕等(C370・C376・C381～C383)がまとまって出土し、この付近に貯蔵穴があったと推定する。

掘り方 掘り方調査では、カマド前に小穴が4個並んで検出されたほか、P6・P7・P8・P9の柱穴を検出した。住居内には1m大の不整形の掘り込みがあり、全体に凹凸が著しい。P6・P8・P9は二段に掘り込まれていた。P6:62×61・深さ52cm、P7:46×41・深さ61cm、P8:60×56・深さ66cm、P9:53×47・深さ56cm、ピット間の距離はP6-P7:263cm、P7-P8:263cm、P8-P9:255cm、P9-P6:256cmである。

その他 南西辺沿いの床面が落ち込み、段差を生じていたが、土層断面を観察したところ、最終床面とみられる硬い面がモザイク状に割れて、落ち込み側の最上位に認められたことから、35住居は地震発生前に営まれたと考えられる。

遺物 カマド前の床面から土師器杯(C367)が略完形で、西隅の落ち込んだ床面から須恵器杯(C378)が伏せた状態で、北西辺の壁際から細長い石が、掘り方の東隅付近から土師器甕(C382)等がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 36住居(第109・222・223図、PL.86・147)

検出位置 31区T7グリッド付近で検出した。C区中央部の南端にあり、掘立柱建物や重複する住居群に囲まれる位置にある。33・34・39・46住居との最短距離は6.4m・3.7m・5.5m・5.1m、11掘立柱建物との最短距離は0.5mである。11掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 東隅に現代の土坑がかかり、西隅は35住居と重複し、住居プランの確認から35住居→36住居の順に新しい。掘り方底面は36住居が浅く、35住居が深い。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。壁際に「三角堆積」のあることから、自然埋没と推定する。35住居と重複する範囲は、床面を形成する土の下にロームブ

ロックを含む土で固めていた。

壁 高さ13～26cmで、北西辺がやや高い。南隅は調査区外にあり、東隅は新しい土坑によって切られ、北西辺のみ全体を検出できた。中央部で北西-南東が5.62m、北東-南西が4.37mで、略南北方向に長い長方形のプランとみられる。各辺の長さは南西辺3.13m(推定5.00m)、北西辺4.08m、北東辺4.21m(推定5.30m)、南東辺2.11m(推定3.90m)である。

床面 カマド前から北隅にかけての東半部で硬い床面を検出した。堆積土層の観察では、部分的に第1～第2の床面が認められたが、全体的には捉えられなかった。

主柱穴 床面水準ではP1・P2を検出したが、柱穴としては配置に難がある。掘り方調査でも同様で、P3は貯蔵穴の可能性が高い。各ピットの規模はP1:91×85・深さ41cm、P2:60×54・深さ43cmである。

壁溝 南東辺沿いで長さ約1m分、北隅～北東辺にかけての範囲で検出した。幅17～35・底面幅4～15・深さ2～7cmである。

カマド 北東辺中央部南寄りに設置する。燃焼部の大半は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の下端が壁ラインに一致する。カマド前の床面から焼けた石が出土し、構築材の一部とみられる。焚き口相当部まで床面に焼土が散布し、煙道部は粘土で固めていた。

貯蔵穴 床面水準では新しい土坑が重複し、不明である。掘り方調査の東隅相当の位置でP3を検出し、中から石と土器片が出土した。P3は二段に掘り込まれ、外形は不整形で、内部に小穴2個が認められた。P3:152×83・深さ32cmである。

掘り方 掘り方調査では、P4・P5・P6・P7を検出したほか、大小の不整形掘り込みを検出し、全体に凹凸が著しい。P7からは土師器杯(C388)が出土した。各ピットの規模はP4:40×34・深さ32cm、P5:48×43・深さ40cm、P6:97×66・深さ22cm、P7:77×55・深さ37cmである。

その他 南東辺沿いの不整形掘り込みは、壁に黄白色粘土を貼った床下の土坑である。

遺物 南西辺の壁近くの床面から細長い石が出土したほか、掘り方調査でP7から土師器杯(C388)が、P6の北側から土師器甕底部(C394)がそれぞれ出土した。埋没土中から須恵器片712g、土師器片3897gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀

前半の所産と推定する。

C区 37住居(第110・223図、PL.87・147)

検出位置 32区I11グリッド付近で検出した。C区の南西端近くにあり、耕作痕の間から検出した。西側の28住居との最短距離は4.6m、東側の16住居とは2.8m離れている。

重複関係 東西走行の耕作痕に上位を切られており、カマド燃焼部が辛うじて遺存していた。南隅は調査区外にあり、西隅は耕作痕と土坑によって変形していた。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土にぶい黄褐色系の土で埋没する。西隅の床面下土坑により土層が変形しているが、壁際に「三角堆積」のあることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ31~44cmで、北西辺がやや高い。南隅は調査区外にあり、西隅は床面下土坑と耕作痕のためか変形して突出する。全体として台形を呈する。中央部で北西-南東が3.71m、北東-南西が2.74mで、西隅の突出を無視すれば略南北方向に長い長方形のプランとなる。各辺の長さは南西辺3.08m(推定3.90m)、北西辺2.59m、北東辺3.19m、南東辺1.64m(推定2.50m)である。

床面 西隅の床面下土坑の上位を除き、硬い床面を検出した。掘り込みが深いためか、東側の床面自体はしっかりしていたが、西隅付近は硬い面がなかった。土坑の底面は比較的平坦である。

壁溝 南東辺沿いとカマド左脇の壁際で検出した。北隅付近、南西辺沿いでは検出しなかった。幅16~26・底面幅3~10・深さ5~10cmである。

カマド 北東辺中央部南寄りに設置する。燃焼部の大半は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の下端が概ね壁ラインに一致する。両袖部は耕作痕によって破壊されていたが、燃焼部底面に焼土が散布していた。燃焼部にかかる土器片は床面出土だが、カマド前の遺物は床面から浮いた状態で出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 掘り方調査では、カマド前から南東辺沿いに不整形の掘り込みが認められ、中央部にも不整形の浅い掘り込みがある。西隅は不整形の1.6×1.8m大の掘り込みで、底面は比較的平坦な状態であった。深さは約40cmである。

その他 住居中央部の浅い凹みと西隅の床面下土坑は、地震による陥没の可能性がある。

遺物 カマド燃焼部付近から出土した土師器杯(C401・C402)のほか、南隅近くの壁際から細長い石が、床面から浮いた状態で中央からいくつかの破片が出土した。埋没土中から須恵器片17g、土師器片981gが出土した。
時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 38住居(第111・223図、PL.87・88・147)

検出位置 31区S9グリッド付近で検出した。C区の中央部の南端にあり、重複する住居群に囲まれる位置にある。31・32・33・34・36住居との最短距離は3.4m・3.0m・5.8m・1.4m・7.9m、11掘立柱建物との最短距離は3.1mである。34住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 北東隅に516Pがかかり、本住居よりも新しい。東側の6粘土採掘坑(以下、「粘採」と略称する)と重複し、カマド煙道部が6粘採中に延びて遺存していることから、6粘採→38住居の順に新しい。また、39・46住居とも重複し、46住居内に39住居カマドが遺存し、38住居の全形が確認できたことから、46住居→39住居→38住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。床面直上と壁際に同じ土が薄く堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ25~37cmで、概ね30cm前後である。当初この付近の遺構確認時には輪郭が不鮮明で、焼土が3カ所と焼土のない不整形の掘り込みがみられ、住居プランの検出と重複関係の把握に時間を要したが、38住居の全形を検出したことから、他の遺構のプラン確認も進捗した。38住居は中央部で略南北4.12m、略東西3.56mで、南北に長い、西辺が東辺に比較して短く、全体として台形になると考えられる。各辺の長さは西辺3.43m、北辺2.80m、東辺4.21m、南辺3.19mである。

床面 カマド前から中央部の範囲で硬い床面を検出した。西辺沿いはやや軟らかい状態であった。カマド燃焼部付近の掘り込みが15cmであるのに対し、それにつながる南へ延びる落ち込みは幅44×長さ58・深さ7cmと浅く、46住居から北側へ続く地割れの影響で深い部分の凹みが

反映している可能性がある。堆積土層第111図a-bの観察では、2枚の床面が認められた。

支柱穴 床面水準ではP1・P2を検出したが、深さ・配置とも柱穴とするには難がある。39住居P1は38住居の硬い床面下から検出したので39住居所属としたが、本住居所属の可能性が残る。規模はP1:86×48・深さ20cm、P2:61×55・深さ4cm、39住居P1:45×42・深さ4cmである。

壁溝 南東辺沿いで検出したのみである。幅11～14・底面幅3～7・深さ5～8cmである。

カマド 東辺中央部やや南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の下端が壁ラインに一致する。平面長方形の煙道部が東へ延びて、6粘土採掘坑の覆土の上に作られていた。右袖部の付け根付近がわずかに遺存していたほか、壁寄りに焼土が認められた。P2の上で出土した石は床面から浮いた状態であったが、カマド構築材の一部と考えられる。

貯蔵穴 掘り方調査では不整形の掘り込みをいくつか検出したが、定型的な位置では浅く不整形な掘り込みであり、確定できない。

掘り方 掘り方調査では、燃焼部底面が深く掘り込まれていたほか、中央部で2つの円が重なったような形状の土坑(中央土坑)が認められ、埋没土中から土師器杯(C405)・須恵器蓋(C406)・須恵器椀(C409)が出土した。規模は中央土坑:204×160・深さ40cmである。

その他 39・46住居では床面に地割れが入り、硬い床面がモザイク状に割れて斜めに傾き、陥没した状態で検出したのに対し、38住居は39住居の北辺を切り、かつ床面・カマドに影響が認められなかった。唯一、38住居カマド燃焼部の南側に延びる浅い凹みは「陥没」状態を示すが、埋没後に地下の地割れの影響を受け、上位の土圧で凹んだと推定されることから、38住居は地震後に営まれた住居と考えられる。以上のことから、46住居→39住居→地割れ→38住居の順に新しいとみられる。北西隅に略三角形を呈する中段が認められた。中段と床面との落差は7cm、中段と住居外との落差は22cmで、出入口の可能性はある。

遺物 カマド前から出土した金属製品銅椀破片(C415)のほか、南辺中央部の壁際床面から土器片が、掘り方調査で中央土坑内から須恵器蓋(C406)・椀(C409)、土師器杯(C405)がそれぞれ出土した。埋没土中から須恵器片

517g、土師器片2889gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 39住居

(第112・113・223・224図、PL.88・89・147)

検出位置 31区S8グリッド付近で検出した。C区の中央部の南端付近にあり、重複する住居群に囲まれる位置にある。33・34・36住居との最短距離は5.3m・0.7m・5.5m、11掘立柱建物との最短距離は0.7mである。34住居・11掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 北辺に38住居がかかり、南東側には46住居が位置する。46住居内に39住居カマドが遺存し、38住居の全形が確認できたことから、46住居→39住居→38住居の順に新しい。北西辺は39土坑が切っている。

覆土 白色軽石を含む暗褐色系の土で埋没する。地割れのために堆積状態が乱れており、陥没した部分の上位に、上に凸の土層がみられ、自然埋没と断定できない。

壁 東辺～南辺では高さ23～31cmで、概ね30cm前後である。西辺から北にかけて、地震による地割れと陥没が認められ、壁外との落差は40～64cmになる。北辺の大半は38住居によって破壊され、西辺～南西隅は陥没・移動により変形しており、南辺-南東隅を検出したが北東隅を欠く。西寄りで南北4.07m、南寄りで東西推定3.55mで、南北に長い台形と推定されるが、変形しているため不確実である。各辺の長さは南辺2.96m(推定3.20m)、西辺推定3.80m、北辺推定3.30m、東辺2.22m(推定3.00m)である。

床面 カマド前から南西寄りにかけて硬い床面を検出した。この範囲は平坦であるが、中央部から西辺・北西部にかけて床面が陥没しており、不整形の落ち込み内部から割れた状態の硬い床面がモザイク状を呈して検出された。硬い面を保ったまま落ち込んでいたり、曲ったうえに斜めに傾いた状態などが認められた。もっとも東寄りで東に凸形状の硬い床面は、割れたカマド前の床面の凹部の形状に似ており、両者は30cm前後離れている。落差は落ち込んだ床面(床面破片)の東端で4cm、西端で14cmである。北西寄りの床面破片はカマド前床面との落差が約50cmである。これらのことから、本住居の中央部は略西方向へ向かって最小30cm移動しつつ、15cm以上落ち込

んだと推定される。また、掘り残した46住居との境界部及び、本住居南東隅床面からカマド右袖部にかけて、幅1cm前後の細い黄白色土が筋状に走っており、噴砂と考えられる。

支柱穴 床面水準では柱穴とみられる掘り込みは検出できなかった。38住居内で検出した39住居P1は、38住居の硬い床面下から検出したので39住居所属としたが、38住居所属の可能性が残る。規模は39住居P1:45×42・深さ4cmである。

壁溝 床面水準・掘り方調査とも検出していない。

カマド 東辺の推定中央部に設置する。燃烧部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の下端が概ね壁ラインに一致する。カマドよりも北側の東辺はカマド南側の辺のラインと一致しないのは、地震による変形の可能性がある。燃烧部は数cmの浅い凹みであり、内部に焼土粒子が認められた。右袖部の基部がわずかに遺存していたが、左袖はみられなかった。掘り方調査では、陥没した西寄りの床面破片の下から割れた状態の石が出土しており、カマドの構築材であったと考えられる。

貯蔵穴 掘り方調査では不整形の掘り込みをいくつか検出したが、定型的な位置では検出していない。

掘り方 掘り方調査では、北辺中央部相当が大きく落ち込み、38住居掘り方底面との落差は47cmである。西辺寄りの陥没範囲も深く落ち込み、不整形の掘り込みを呈する。最深部は西側の壁外に対して落差88cmとなり、中から細長い石や割れた状態の石が出土した。

その他 38住居の項で先述したように、39・46住居では床面に地割れが入り、硬い床面がモザイク状に割れて斜めに傾き、陥没した状態で検出したのに対し、38住居は39住居の北辺を切り、かつ床面・カマドに影響が認められなかったことから、46住居→39住居→地割れ→38住居の順に新しいとみられる。地割れの発生時期を補強する現象として、39住居のカマド右袖部から南東隅の壁外にかけて、噴砂とみられる砂脈がある。噴砂は39住居の埋没土及び住居壁外に延びていることから、39住居が埋没したのちに地震が発生したと考えられる。C区15住居と同様に、南東隅付近の床面に南側口縁部が露出し、頸部以下を床下に埋めた「埋設土師器」が出土した。土師器甕は正立の状態でも口縁部のみが硬い床面よりも上位にあり、頸部以下はほぼ垂直に床面下に埋設されていた。明

確に掘り方を伴い、甕の肩部～頸部にかけての周囲は黄白色土を主とする粘土で充填していた。これに対して、10cmカマド寄りでも出土した甕は、底面が床面水準にあり、外面に煤が付着して赤く焼けており、カマドに架けられていたと推定される。

遺物 南東隅付近の土師器小型台付甕(C428)のほか、南辺西寄りの壁際から須恵器蓋(C425、擬宝珠形摘みあり)が、西寄りの陥没範囲から石が出土した。埋没土中から須恵器片1337g、土師器片6065g、灰釉陶器37gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 40住居(第114・224図、PL.89～91・147)

検出位置 31区N12グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。

1・6・8・42・43住居との最短距離は5.7m・1.8m・5.1m・3.5m・2.3m、10掘立柱建物との最短距離は6.5mである。

重複関係 北西辺に41住居が接している状態で、前後関係は判定できなかった。また、中央部を1道路(浅い溝状)が通り、本住居を破壊していた。この1道路は南側のB区で2本の溝状となり、B区21-22住居の接続部「廊下」の上位を破壊していた。南西辺中央部に地割れが南北方向でかかり、住居中央部東寄りの陥没をもたらした可能性があり、全体形状を歪めている。40住居→地割れの順に新しい。南隅付近の1m大のピットは9掘立柱建物の一部で、住居の壁と重複して40住居→9掘立柱建物ピットの順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。土層断面を採取した位置がカマド寄りのため、全体の傾向を示しているとは限らないが、硬い床面の直上に薄い粘質土が堆積し、自然埋没と推定する。

壁 西半部では掘り方調査で西隅・南隅を検出したため、住居プランは掘り方調査をもとに推定し、東半部では床面水準で推定する。北隅～東隅では高さ38～48cmで、西隅～南隅付近は5～33cmである。北隅では当初、長方形土坑が重複していると推定して前後関係を把握するため、ベルトを設定して土層を観察したが、土坑の立上りや住居北東辺の立上りを確認することができず、一

連の遺構と暫定的に想定した。その後調査の進行に伴って、北東辺沿いの壁溝が北隅の長方形部分に沿って作られていることが判明し、北隅付近が1.5×0.8mの長方形に突出することが確定した。この部分を「長方形張出し部」と仮称する。また南東辺中央部が略半円形に住居外に向かって突出することを床面水準で想定できたが、掘り方調査を進めたところ、ここには半円形の二段に掘り込まれた突出部のあることが判明した。この部分を「半円形張出し部」と仮称する。全体のプランは張出し部を除外して、住居中央部で北東-南西が5.93m、住居東寄りで北西-南東が5.53mで、長方形のプランと考えられるが、南西辺がやや短い。各辺の長さは南西辺5.07m、北西辺6.57m(長方形張出し部含む)、北東辺5.67m、南東辺5.45mである。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面を検出した。南東辺寄りの範囲が壁際近くまで硬化していた。この範囲は平坦であるが、中央部の1道路東側が斜めに凹んでおり(P1~P2の範囲)、1道路の影響と陥没の可能性の2つが考えられる。地割れと西隅の間では、やや硬い床面を検出し、壁との間に壁溝が認められた。地割れは掘り方第114図で示したよりも幅が広く、記録写真で見ると30cm前後の幅で落ち込んでいたと考えられる。北西辺西寄りの壁溝が略三角形を呈するのは、地割れによる軟らかい土を掘り下げてしまったためと推定される。

支柱穴 床面水準ではP1・P2・P3を検出したが、配置に難がある。P3は貯蔵穴と考えられる。掘り方調査で検出したP4~P7が柱穴と推定される。P7の柱位置を推定しにくいので、南寄りとしておく。各ピットの規模はP1:47×43・深さ25cm、P2:65×55・深さ29cm、P4:47×41・深さ36cm、P5:52×36・深さ29cm、P6:31×28・深さ10cm、P7:111×66・深さ7cm、P8:55×38・深さ20cm、P9:46×40・深さ31cm、P10:35×30・深さ8cm、ピット間の距離はP4-P5:305cm、P5-P6:315cm、P6-P7:308cm、P7-P4:284cmである。

壁溝 東隅から北西辺にかけての範囲と、南西辺沿いで検出した。北西辺の西半部では地割れによって変形している。幅22~62・底面幅5~42・深さ2~9cmである。カマド 北東辺の中央部南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの内側にあるが、奥壁の下端は壁ラインの外にある。燃焼部には厚く灰層が堆積しており、左右の袖

部粘土が遺存していた。奥壁上位に土師器甕体部の破片が外面を上にして並べてあり、直下に焼土・灰の混じった土が瘤状に認められた。燃焼部中央やや左寄りに小型の壺が伏せた状態で出土し、その下には細長い焼けた石が存在した。石は支脚として利用され、壺は高さを調整したと考えられる。焼土は袖部よりも住居中央側まで散布していた。掘り方調査では、奥壁下に30×25・深さ21cmの不整形の掘り込みがあった。カマド左袖脇から細長い石・土師器甕破片(C441)、右袖部脇の壁直下に土師器杯(C432)・甕破片(C442)が出土した。

貯蔵穴 東隅のP3とみられる。二段に掘り込まれ、中から細長い石10が出土した。規模は84×71・深さ23cmである。

掘り方 掘り方調査では、P4~P10を検出したほか、住居中央部で不整形の掘り込みを検出した。底面は凹凸が著しい。

その他 本住居の北隅で、北西辺の延長線上に長方形張出し部を検出した。この範囲での遺物の出土はなく、用途・機能は不明である。南西辺中央部の掘り方で検出した半円形張出し部は住居外からみて二段になり、一段目と住居外との落差は7~20cm、二段目と掘り方底面との落差は10~15cmである。南東辺中央部にあることと階段状を呈すること、硬い床面が壁際近くまで広がることから、この張出し部は出入口施設と考えられる。

遺物 カマド内出土土器のほか、南東隅付近から土師器甕(C442)・杯(C432)が、カマド左脇から土師器甕破片(C441)が、北寄りの床面から土器片が出土した。埋没土中から須恵器片1097g、土師器片1525g、埴輪片10gが出土した(遺物は混在している)。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 41住居(第115・225図、PL.91・147)

検出位置 31区O13グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。6・26・42住居との最短距離は5.7m・7.6m・6.1m、9・10掘立柱建物及び5粘土採掘坑との最短距離は3.5m・2.8m・3.3mである。

重複関係 南東辺に40住居が、南西辺に43住居が接している状態で、いずれも前後関係は判定できなかった。カ

マド煙道先端部に1道路がわずかにかかり、1道路が煙道を破壊していた。

北西辺中央部に12a溝が重複し、12a溝→41住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土と黒褐色系の土で埋没する。床面直上に薄い堆積が認められ、壁際に三角堆積がみられるので、自然堆積と推定する。

壁 高さ13~62cmで、西半部がやや高い。全体のプランは住居中央部で北西-南東が6.11m、北東-南西が5.24mで、長方形のプランと考えられる。各辺の長さは南西辺5.34m、北西辺4.83m、北東辺5.53m、南東辺4.68mである。

床面 北隅から北東辺沿い、南隅、西隅を除き、ほぼ全体で硬い床面を検出した。

支柱穴 床面水準ではP1・P4・P5・P6を検出したが、南側のP5・P6では深さに難がある。P3は中央土坑か。掘り方調査で検出したP9~P12も柱穴と推定される。P13は貯蔵穴とみられ、中央部の長径170cm大の不整形掘り込みは中央土坑と考えられる。各ピットの規模はP1:61×50・深さ20cm、P2:38×27・深さ7cm、P3:101×74・深さ22cm、P4:59×46・深さ12cm、P5:43×40・深さ4cm、P6:70×56・深さ7cm、P7:38×36・深さ5cm、P8:31×28・深さ5cm、掘り方P9:56×31・深さ15cm、P10:63×46・深さ25cm、P11:46×29・深さ53cm、P12:36×30・深さ39cm、ピット間の距離はP1-P4:257cm、P4-P5:302cm、P5-P6:226cm、P6-P1:252cm、P9-P10:265cm、P10-P11:277cm、P11-P12:283cm、P12-P9:271cmである。

壁溝 カマド前を除き、全周する。比較的均一な底面幅をもつ。幅16~39・底面幅7~16・深さ2~11cmである。カマド 北東辺の中央部南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の上端が壁ラインに一致する。燃焼部には焼土を含む層が厚く堆積しており、左右の袖部粘土が遺存し、左袖部は石を芯にしていた。燃焼部の内側は焼けて焼土化していた。燃焼部奥の左寄りに三角錐状の石が据えられ、良く焼けていた。石は支脚としたものと考えられる。燃焼部手前の床面から浮いた状態で土器片と細長い石が出土した。

貯蔵穴 掘り方調査で検出した東隅のP13とみられる。不整形の掘り込みで、床面水準では検出できなかった。規模は82×64・深さ6cmである。

掘り方 掘り方調査では、P9~P13を検出したほか、住居中央部で不整形の掘り込みを検出した。中央部の不整形掘り込みは、底面に黄白色粘土を貼った粘土貼り土坑であった。東隅から南隅-西隅にかけて略L字状に壁と平行して溝状の掘り込みが認められ、その底面は凹凸が著しい。中央部は粘土貼り土坑の周囲がやや平坦な状態であった。

その他 本住居の南東辺中央部から東隅にかけて、40住居が接する状態にあり、プラン確認の段階では41住居→40住居の順に新しいと想定したが、40住居の変形が判明したため、その逆の前後関係も考えられる。

遺物 カマド内出土土器のほか、P4の南側床面から板状の炭化物が、P3の中から細長い石が、西隅付近の壁溝内から細長い石がそれぞれ出土した。埋没土中から須恵器片2308g、土師器片1905g、埴輪片26gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 42住居(第116・225図、PL.91・92・147)

検出位置 31区P10グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。40・41・43住居との最短距離は3.5m・6.1m・4.6m、B区17・23住居との最短距離は3.7m・3.5mである。

重複関係 西隅に攪乱があり、45住居との前後関係は確認できなかった。南隅には2井戸、南東辺東寄りに略方形の436Pが重複し、2井戸・436Pとも本住居を切っている。したがって、436Pを含む9掘立柱建物は、本住居より新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。壁際に三角堆積がみられるので、自然堆積と推定する。

壁 高さ30~50cmで、東半部がやや高い。全体のプランは住居中央部で北西-南東が3.19m、北東-南西が5.48mで、縦横比が1:1.7の極端な長方形のプランとなる。2井戸により南隅を、現代の攪乱により西隅を欠く。各辺の長さは南西辺1.64m(推定2.90m)、北西辺3.77m(推定5.10m)、北東辺2.17m、南東辺5.04m(推定5.40m)である。

床面 カマド左脇を除き、ほぼ全体で硬い床面を検出した。硬化面は数cmの高さ違いが認められ、長辺からほぼ直角方向にわずかに高い面がある。床面高さの波打つよ

うな変化が何に起因するのかわかりません。

主柱穴 床面水準では柱穴を検出できなかった。掘り方調査でP1・P2・P3を検出したが、配置に難がある。各ピットの規模はP1:47×39・深さ13cm、P2:58×39・深さ9cm、P3:50×42・深さ87cmである。中央部の小孔3個はいずれも20cm前後の大きさである。

壁溝 南東辺沿い・北西辺沿いに検出し、南西辺中央部とカマド左脇にも短い壁溝が認められた。幅23～38・底面幅3～13・深さ4～7cmである。

カマド 北東辺の南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の上端が壁ラインに一致する。燃焼部の壁はよく焼けて焼土化しており、左右の袖部が遺存していた。焚き口付近に杯破片が散布し、燃焼部中央には土師器杯(C460)が口縁部を上にした状態で出土した。

貯蔵穴 床面水準・掘り方調査でも、定型的な位置では検出していない。

掘り方 カマド前・西半部で不整形の掘り込みが認められ、中央部の不整形掘り込みの周囲のみ平坦であった。中央部不整形掘り込みは102×41・深さ11cmの規模があり、貯蔵穴の可能性はある。掘り方底面は全体に凹凸が著しい。

その他 南隅は後世の2井戸によって破壊されていたが、その内側には略三角形を呈する中段が認められ、床面との落差は2～5cm、住居壁外との落差は30～34cmであった。出入口の可能性はある。本住居は極端に細長い形状であるが、内部施設・出土遺物とも他の住居と大きな違いがない。

遺物 カマド付近出土土器のほか、南東辺中央部の壁直下から敲石(C462)のほか、細長い石7個が、北隅付近からも石がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 43住居(第117・225図、PL.92・93)

検出位置 31区P12グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。40・42・45・32住居との最短距離は2.3m・4.6m・3.9m・8.8m、9掘立柱建物・5粘土採掘坑との最短距離は3.2m・3.3mである。41住居とは接しており、同時

存在は困難と推定する。

重複関係 北西隅に10掘立柱建物の南東隅ピットが重複し、本住居の隅を切っている。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土と灰黄褐色系の土で埋没する。壁際に三角堆積がみられることと、床面直上に薄い粘質土が認められることから、自然堆積と推定する。

壁 高さ20～28cmで、東半部がわずかに高い。全体のプランは住居中央部で南北が3.36m、東西が3.54mで長方形のプランであるが、北東-南西方向にやや潰れた平行四辺形を呈する。10掘立柱建物のピットにより北西隅を欠く。各辺の長さは西辺2.54m(推定3.01m)、北辺3.07m(推定3.41m)、東辺3.23m、南辺3.26mである。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面を検出した。

主柱穴 床面水準でP1・P2を検出したが、P2は貯蔵穴とみられる。P1は二段に掘り込まれた比較的小さなピットで、柱穴としては配置に難がある。P1:42×24・深さ17cmである。

壁溝 南辺西寄りから短い溝が西辺沿いに断続的に続き、カマド左脇まで検出した。幅16～28・底面幅3～7・深さ1～9cmである。

カマド 東辺の中央部やや南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインにかかり、奥壁の左右が角張っている。奥壁下端は住居壁ラインの外に位置する。燃焼部の壁はよく焼けて焼土化していたが、左右の袖部は検出できなかった。燃焼部には灰が厚く堆積し、焼土ブロックを含む土の中から土師器甕片(C464)が出土した。

貯蔵穴 床面水準で検出したP2とみられる。P2の規模は54×45・深さ23cmである。

掘り方 中央部でP5を検出したほか、P5と南辺の間でP3・P4を、南西隅近くでP6を、北西隅付近でP7・P8・P9をそれぞれ検出した。P5は粘土を底面に貼っていた。P3・P4・P8・P9は規模が小さく、P6は不整形である。掘り方底面は全体に細かい凹凸が著しい。P3:24×23・深さ16cm、P4:17×16・深さ2cm、P5:106×98・深さ15cm、P6:78×65・深さ14cm、P7:42×40・深さ18cm、P8:26×21・深さ12cm、P9:21×19・深さ10cmである。

その他 南辺中央部で住居外に向かって凸の半円形掘り込みを検出した。掘り込みの底面と住居外との落差は

第4章 検出された遺構と遺物

5cm、床面との落差は20cmである。この掘り込みと掘り方調査で検出したP3・P4の配置を勘案すると、南辺に出入口施設があったと考えられる。

遺物 本住居の出土遺物はカマド内出土土器のほか、埋没土中から須恵器片101g、土師器片378g、埴輪片43gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半後半～9世紀の所産と推定する。

C区 45住居(第117・225図、PL.93)

検出位置 31区Q10グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。32・43・B区23住居との最短距離は4.3m・3.9m・3.8m、9掘立柱建物との最短距離は2.7mである。42住居とは接した状態に近く、同時存在は困難と推定する。重複関係 東辺のカマドと東隅付近が現代の攪乱によって破壊されており、この攪乱は同時に42住居の西隅を破壊しているため、45住居と42住居との前後関係は確認できなかった。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土で埋没する。堆積状態をみる限り自然堆積と推定するが、埋没土が薄いため、不確実である。

壁 高さ5～15cmで、全体に遺存不良である。全体のプランは住居中央部で北東-南西が2.92m、北西-南東が2.64mで長方形のプランである。各辺の長さは南西辺2.41m、北西辺2.91m、北東辺0.97m(推定2.20m)、南東辺2.24m(推定2.70m)である。

床面 北隅を除き、ほぼ全体で硬い床面を検出した。

支柱穴 床面水準ではP1を検出したが、柱穴とは想定しにくい。P1:82×70・深さ5cmである。

壁溝 なし。

カマド 北東辺の中央部やや南寄りに設置したと推定される。北東辺沿いに焼土・炭化物が分布し、攪乱の北壁に焼土が認められたことから、この付近がカマドと考えられる。燃烧部相当が凹み、周囲を細い帯状の高まりが囲み、中には焼土・炭化物が入っていた。

貯蔵穴 掘り方調査で検出したP2の可能性はある。P2の規模は96×79・深さ24cmである。

掘り方 北隅で検出したP2のほか、中央部でP3を、南隅でP4を検出した。中央のP3は壁に粘土を貼る掘り込みで

ある。カマド左袖部の痕跡が認められた。掘り方底面は全体に細かい凹凸が著しい。P3:129×121・深さ17cm、P4:72×61・深さ4cmである。

その他 全体に規模が小さく、内部施設の少ない住居である。

遺物 北隅付近で土器片が出土したほか、埋没土中から須恵器片9g、土師器片73gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良～平安時代の所産と推定する。

C区 46住居

(第112・1113・225～228図、PL.93～95・148)

検出位置 31区R8グリッド付近で検出した。C区の中央部の南端付近にあり、重複する住居群に囲まれる位置にある。36・48住居との最短距離は5.1m・0.5m、11掘立柱建物の南東隅柱穴が本住居にかかる。48住居・11掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 北辺に38住居がかかり、北西側は39住居が位置する。46住居内に39住居カマドが遺存し、38住居の全形が確認できたことから、46住居→39住居→38住居の順に新しい。

覆土 最上位に焼土粒子を多く含む黒褐色系の土があり、その下位は白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土と暗褐色系の土で埋没する。壁際に三角堆積の土があり、硬く締まる床面の直上に薄い粘質土が認められることから、自然堆積と推定する。中位の堆積土には縞状の筋が観察された。

壁 東半部では高さ39～64cmで、概ね50cm前後である。住居中央部を地震による地割れが略南北に走り、これを境として西側の硬い床面が南西隅方向に向かって落ち込んでいる。西半部の壁が南西に向かって広がるように移動し、床面は陥没状態である。南西隅の膨らみと掘り方調査の結果を勘案すると、南北方向にやや長い台形を呈する。東辺に比べて西辺が長く推定された。床面の記録から西辺・北辺を推定復元し、掘り方調査記録に重ねたところ、P1・P2・P5・P6を結ぶ線とほぼ平行することが判り、復元した規模は概ね妥当と考えられる。この復元線を併用して本住居の規模を推定すると、東寄りで南北5.45m、中央部で東西推定5.36m(実長5.93m、南西に向かって膨らんでいる)となり、東辺の短い台形

プランが復元される。各辺の長さは南辺1.65m(推定4.80m)、西辺推定5.30m、北辺0.95m(推定4.40m)、東辺4.34m(推定4.80m)である。

床面 東辺から約2mの範囲で、硬く締まった平坦な床面を検出したが、地割れを境としてその西側は曲って凹んだり、割れて床面破片となっていた。中央部から2mほどは上に凹んだ状態に曲って連続し、その南西端は床面が千切れて床面破片となり、39住居南辺沿いでは、斜めに曲って西側に落ち込む状態の床面であった。中央部東側の床面と、地割れを挟んだ西側の床面との落差は15cmほどであり、西端のもっとも低い位置にある床面との落差は52cmである。地割れの上幅は20～58cmあり、30cm前後である。これらのことから、本住居の中央部は略南西方向へ向かって最小20cm移動しつつ、15cm以上落ち込んだと推定される。

支柱穴 床面水準では柱穴とみられる掘り込みは検出できなかった。掘り方調査でP1～P13を検出し、そのうち柱穴とみられる規模と配置をもつものはP1～P6である。P4は略方形を呈し、P5はとくに深い。P7は東壁に向かって掘り込まれオーバーハング状態であり、P9とともに貯蔵穴の可能性が高い。各ピットの規模はP1:47×41・深さ49cm、P2:33×28・深さ31cm、P3:34×32・深さ38cm、P4:33×32・深さ22cm、P5:75×54・深さ106cm、P6:36×31・深さ10cm、P8:72×53・深さ4cm、ピット間の距離はP1-P2:270cm、P2-P3:236cm、P3-P4:247cm、P4-P1:244cm、P2-P5:320cm、P5-P6:296cm、P6-P1:305cmである。

壁溝 床面水準・掘り方調査とも検出していない。

カマド 東辺の中央部やや南寄りに設置する。燃烧部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の下端が概ね壁ラインに一致する。左右の袖部の芯に石を据えて粘土で固めており、右袖石は立てた状態で出土した。燃烧部奥壁は急角度で35cmほど立上り、略三角形を呈して煙道につながる形状を示す。燃烧部内から土師器甕の破片が出土し、カマド前・カマド左脇のP7からも土器が出土した。カマド前出土の土器は、床面から浮いた状態であった。

貯蔵穴 床面水準で検出したカマド左脇の不整形掘り込みP7と、南東隅の掘り方調査で検出したP9が貯蔵穴になると考えられる。P7では東壁に向かって掘り込まれ、土師器杯(C482)・甕(C533・C524)が出土し、南東隅の床面

水準からは土師器杯(C476)と石(C537)が、P9からは甕(C528)が出土した。P7:72×29・深さ23cm、P9:68×59・深さ26cmである。

掘り方 掘り方調査では、先述のピットのほか、南辺沿いで略長方形のP10、不整形に連続するP11・P12・P13の掘り込みを検出した。P10は長さ270cm以上あり、P12内からは土器・石が出土した。全体に西半部が低くなるように傾いた状態であり、床面の割れと同時に陥没した状態を示す。

その他 38・39住居の項で先述したように、39・46住居では床面に地割れが入り、硬い床面がモザイク状に割れて斜めに傾き、陥没した状態で検出したのに対し、38住居は39住居の北辺を切り、かつ床面・カマドに影響が認められなかったことから、46住居→39住居→地割れ→38住居の順に新しいとみられる。掘り方調査では2組(P1・P2・P3・P4・とP1・P2・P5・P6)の柱穴を検出し、床面水準P7と掘り方調査P9の2つの貯蔵穴とみられる遺構を検出しており、住居の堆積土層で2枚の硬い床面を観察したと符合すると考えられる。

遺物 カマド前の床面から浮いた状態で土師器杯(C489・C490)が、掘り方調査の中央部P12から土師器甕(C525)のほか細長い石が出土した。埋没土中から須恵器片2488g、土師器片17729g、埴輪片253gが出土した。破片数が多い。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 48住居(第118・119・228図、PL.96・148)

検出位置 31区Q8グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。39・46・B区23住居との最短距離は2.1m・0.5m・0.8mである。46住居・B区23住居とは近接しており、同時存在は困難と推定する。

重複関係 遺構の形状確認の段階では、南側で略長方形の輪郭、北側で丸味のある隅を3つ検出したため、南側を48住居、北側を47住居とした。しかし、調査の進行に伴って北側は粘土採掘坑と判明したため、47住居は6粘土採掘坑と名称変更した。48住居北半部は6粘土採掘坑(以下、「6粘採」と略称する)によって床面を失っており、48住→6粘採の順に新しい。また、6粘採の南西辺には

38住居のカマド煙道部が載っていることを確認できたことから、6粘採→38住居の順に新しい。遺構確認の段階では西側の6粘採と48住居範囲の接する部分で526Pの輪郭を検出し、526Pが両者を切っていた。6粘採の北西辺に長方形の攪乱があり、6粘採東隅にも耕作痕が入り、これらはすべて6粘採を切っていた。

覆土 上位は白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するが、中位以下にロームブロックと黄白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色系の土が堆積していることから、6粘採の粘土採掘に伴う残土が48住居に排出されたと考えられる。6粘採の最上位の埋没土と48住居の最上位の埋没土はほぼ同じ土であり、両者の違いは6粘採の最上位層の中位に、黒色土ブロックが下に凸の状態でも帯状に堆積し、その南端が立ち上がるような状態を示していることである。第118図 a-b 土層断面図の北端付近には黒色土ブロックとロームブロックの混じった塊が認められ、水平方向に粘土採掘を進めた結果、上位のローム層がオーバーハング状態で残り、それが落盤したと推定される。これに似た状態は、c-d 断面でも認められた。c-d 断面の最上面は38住居のカマド煙道部の底面で、断面の上層には軟らかいロームブロックを含む黒褐色土(=6粘採の最上層)、下層には30×50cmの大きなロームブロックが認められ、この大ブロックは落盤したローム層の一部と考えられる。e-f 断面は比較的浅い水準で黄白色粘土を確認したため、カマド構築粘土の一部と想定して断面を記録したものである。しかし、焼土・炭化物等の混入がなく、中間に灰オリーブ色のシルト質土があることから、粘土採掘に伴って最下層から掘り上げた残土を採掘坑の外へ排出したものと推定される。a-b 断面の48住居範囲では、硬い床面が断続している状態が観察され、地割れによってモザイク状の床面破片になっていると想定して調査を進めたところ、南寄りでは硬い床面が変形しつつ連続している部分と、北寄りで床面破片になっている範囲のあることが判明した。

壁 壁際での高さ35~41cmで、床面が陥没して変形しており、P1に近い範囲では数cm~10cmほど低くなっていた。南西辺3.84m・北東辺3.35mが遺存していたが、変形しているため不正確である。北西辺は6粘採に破壊されて失っていたが南東辺は2.51mで、北西-南東に長い長方形だったと推定される。P1付近では北東-南西が3.21m、

北西-南東が3.41m以上である。

床面 P1周辺は陥没・変形していたが、硬い床面を検出した。北西寄りでは床面破片が3個認められた。床面の陥没と変形は、西側0.5mに隣接する46住居の床面に似た状態であり、同一の地震による変形と考えられる。a-b 土層断面では硬い床面の一部が6粘採側にも落ち込んでおり、地震発生時に床面の上に6粘採の残土が載った状態で移動したと推定する。

主柱穴 床面水準ではP1・P2を検出したが、P2は浅く小規模で柱穴とは考えにくい。P3は掘り方調査で検出した二段に掘り込まれたピットで、北端部を6粘採で破壊されていた。48住居が長方形プランならば2本主柱も想定されることから、6粘採底面で検出したP4は柱穴の候補となる。各ピットの規模はP1:二段62×53・深さ37cm、P2:28×24・深さ9cm、P3:96以上×82・深さ26cm、P4:34×29・深さ22cmである。

壁溝 なし。

カマド 不明。

貯蔵穴 P3が候補である。

掘り方 南隅から南西辺にかけて、幅10~20cmの細い段があり、壁外との落差は36cm前後、床面との落差は5~14cmである。この段は幅がほぼ一定であることから、陥没の結果というよりも、本来の遺構であったと考えられる。

その他 重複する遺構の前後関係を推定すると、先述のように48住居→6粘採→38住居の順に新しいと考えられる。これに地震発生タイミングを加えると、どの時期に地震が発生したか、近隣の38・39・46住居も含めて想定すると次のようになる。39・46住居はいずれも38住居の方が新しく、38住居は地震の後に営まれていたと判定された。

38住居と6粘採との関係では、38住居のカマド煙道部が6粘採の内側に延び、6粘採→38住居の順に新しい。6粘採と48住居との関係では、遺構の輪郭を確認した段階で48住居→6粘採の順に新しいと推定し、重複関係を48住居→6粘採→38住居の順に新しいと整理した。

もしも6粘採→48住居の順に新しいならば、粘土採掘坑がローム層下位の深くまで掘り下げて粘土を採るといった性格から、48住居の床面は6粘採の範囲のなかに広がっていなければならない、地震発生時に陥没・変形した48

住居床面がその遺構範囲に検出できるはずである。つまり、48住居が地震の影響を受けていることから、6粘採の範囲内に48住居床面破片が広く検出できるはずであるが検出していない。もう一つの傍証は、6粘採の底面近くでみられるシルト質土が48住居の床面上位に載っていることで、48住居床面ができた後に下層のシルト質土が掘り上げられたことを示している。これらの観察と判定は、6粘採→48住居の順に新しいという前後関係と矛盾し、48住居→6粘採の順に新しいと考えられる。

次に、地震発生のタイミングを推定すると、48住居の床面が陥没・変形していることから、48住居廃絶後に地震が発生したことは確実である。第118図 a-b 土層断面でみると、6粘採の範囲のなかに48住居床面破片がいくつか認められ、48住居の範囲では床面直上に黄白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色系の土層7が載り、7土層は6粘採の範囲に広がっている。黄白色粘土は6粘採で採掘される粘土であり、床面上にこれを含む土層が堆積しているのは、48住居床面が露出に近い段階で6粘採が掘り下げられ、6粘採の残土が隣接する48住居に置かれたと推定される。6粘採の底面直上の土層4は黄白色粘土ブロックのほかに黒色土ブロックと緑色を帯びたにぶい黄橙色土ブロックが混じり、採掘粘土近くの土に当時の表土の一部が混じっていることを示している。この土層4の上位にある土層2には、48住居の床面破片とみられるものが混在しており、床面破片が生じるのは地震の後であることから、6粘採の採掘作業が終了して6粘採が1/3ほど埋没した時点で地震が発生し、隣接する48住居の床面が割れてその一部が6粘採側に流入し、その後自然埋没したと推定される。すなわち、48住居廃絶(床面露出に近い)→6粘採採掘→6粘採1/3埋没→地震発生の順に新しいと考えられる。

遺物 P1の中から土師器小型壺(C542)が、南隅近くの壁際から土師器杯破片(C540)が、6粘採に近い部分の西側と東側から細長い石が1個ずつそれぞれ出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 49住居(第119・228図、PL.96・97・148)

検出位置 32区H10グリッド付近で検出した。C区の南西寄りにあり、深く掘り込まれた東西走行の耕作痕の間

で検出した。大半は南側の調査区外にあり、遺構の詳細は不明である。16・37住居との最短距離は0.8m・2.6mである。16住居とは近接しており、同時存在は困難と推定する。

重複関係 なし。西側に長方形の土坑が存在したと想定したが、49住居の一部であった可能性が高い。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没する。自然堆積と推定するが、埋没土が薄いため、不確実である。

壁 高さ20~26cmで、北東辺と北西辺の一部を検出したとみられるが、北東辺の西寄り部分は耕作痕により破壊され、北東辺の延長部が不明確になった可能性がある。検出した辺の長さは北東辺2.04m(推定延長4.50m)、北西辺1.10m(推定延長1.60m)で、その他の辺は調査区外にある。

床面 北東辺中央部の略三角形の突出部前に、硬い床面をわずかに検出した。

主柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド 北東辺中央部の略三角形の突出部前をカマド左袖部の遺存とすれば、北東辺に設置したと推定される。耕作痕により大半を破壊されたと考えられる。土師器杯(C546・C547)が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 カマド推定位置で不整形の掘り込みを検出したほか、北東辺東寄り沿いに平坦な面が認められた。調査区内で可能な限り拡張したところ、南端で埋設土師器とみられる土師器甕(C550)が正立の状態出土した。

その他 調査区域内で4.5×1.0mほどの略三角形範囲を検出したのみで、かつ耕作痕による破壊が著しいため、遺構内容の大半は不明であった。南東端の耕作痕の壁が焼土化していたことから、こちらにカマドを設置していた可能性が残る。

遺物 南端で出土した埋設土師器甕(C550)のほか、カマド推定位置から土師器杯(C546・C547)が、北東辺の床面水準から土器片がそれぞれ出土した。埋没土中から須恵器片43g、土師器片393gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

C区 1 掘立柱建物(第120図、PL.97)

検出位置 32区K14グリッド付近で検出した。C区西端近くにあり、周囲の住居群とはやや離れている。

重複関係 北西隅の13Pは2溝と重複し、13P→2溝の順に新しい。2溝は近世～現代の耕作痕と平行した方位をとることから近世以降の溝と推定され、1掘立柱建物は近世以前の所産と考えられる。

覆土 白色軽石を多く含む灰褐色系の土で埋没するものが多い。一部に焼土ではない赤色粒子を含む。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、2間×3間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として1掘立柱建物とした。北西-南東に長く、13Pと9Pとを結ぶ長軸線の方位はN28°Wである。規模は長軸約5m、短軸約4mである。側柱のみで、内部には柱穴はない。不整形の柱穴もあるが、概ね二段に掘り込まれ、内部に複数の小穴をもつものが半数ほど存在し、断面観察では柱痕とみられるものもあった。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第14表にまとめた。

その他 1m前後の掘り込み輪郭の内部に同じ大きさの小穴や、ひと回り小さい小穴を持つことから、何回かの建替えを行なった可能性が高い。

遺物 11Pから土師器杯(C698)、51Pから須恵器杯(C700)が出土した。

時代・時期 2溝との関係から、近世以前の所産と推定する。

C区 2 掘立柱建物(第121図、PL.97)

検出位置 32区I14グリッド付近で検出した。C区南西部にあり、10住居の西側にある。1掘立柱建物との最短距離は3.8mである。

重複関係 北隅相当のピットは5溝によって破壊されていた可能性が高い。20土坑内部の北側のピットを2掘立柱建物の東隅と推定した。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、2間×3間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として2掘立柱建物とした。北東-南西に長く、32Pと20土坑とを結ぶ長軸線の方位はN62°Eである。規模は長軸5m弱、短軸約4mである。北隅相当のピットは未検出

で、南東辺32Pと37Pとの間では、該当する位置にピットを検出できなかった。28Pと37Pとの間に63Pがあり、東に庇をもつ建物を想定可能である。40～50cm大の掘り込みをもつものが多い。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第15表にまとめた。

その他 1掘立柱建物の長軸方位とほぼ直交する長軸方位をもつことから、時期に近い可能性がある。

遺物 なし。

時代・時期 5溝が北隅のピットを破壊していたとすると、近世以前の所産と推定する。

C区 3 掘立柱建物(第122図、PL.97)

検出位置 32区D9～10グリッド付近で検出した。C区中央部の南端付近にあり、周囲には多数のピットがある。

重複関係 5掘立柱建物と重複するが、ピットの切合い関係がないため、前後関係は判定できなかった。3掘立柱建物・5掘立柱建物の長軸方位はわずかな違いである。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没するものが多い。一部に柱痕とみられる埋没土が残る。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、2間×3間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として3掘立柱建物とした。北西-南東に長く、277Pと205Pとを結ぶ長軸線の方位はN36°Wである。規模は長軸6.5m前後、短軸約4.7mである。南東辺中央のピットは253Pによって破壊された可能性が高く、3掘立柱建物と同時存在しないとみられる。北西辺中央の201Pの脇に小ピットが近接した状態で検出され、同様の小ピット276Pが検出された。各ピットは二～三段に掘り込まれていた。建物内部に柱穴が存在せず、側柱のみで構成する。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第16表にまとめた。

その他 周辺では多数のピットを検出したが、組み合わせが可能なものは、少なかった。

遺物 201Pから須恵器盤(C718)、209Pから須恵器蓋(C719)が出土した。

時代・時期 北西辺は8溝・9溝と平行しており、同じ時期の所産の可能性が高い。

C区 4 掘立柱建物(第123図、PL.97)

検出位置 32区D8～9グリッド付近で検出した。C区

中央部の南端付近にあり、周囲には多数のピットがある。南西側は調査区外であるため、詳細は不明である。

重複関係 3掘立柱建物と近接し、4掘立柱建物との最短距離は0.2mであり、同時存在は困難と推定する。5掘立柱建物の長軸方位と本建物の北東辺はほぼ平行する。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。一部に柱痕とみられる埋没土が残る。

柱穴 北東辺の延長線上につながるピットがないことから、本建物は北東-南西に長軸をもつ建物と推定されるが、調査区南端にあるため、全体の形状は確認できなかった。2間×2間以上の規模をもつと考えられる。217Pと219Pとを結ぶ線の方位はN47°Eである。規模は長軸3.14m以上、短軸4.85mである。各ピットは方形～長方形を呈しているようにみられる。ピット5個のうち3個は二段に掘り込まれていた。検出した範囲では、建物内部に柱穴が存在せず、側柱のみで構成する。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第17表にまとめた。その他 周辺では多数のピットを検出したが、組み合わせが可能なものは少なかった。

遺物 なし。

時代・時期 北東辺は5掘立柱建物とほぼ平行しており、5掘立柱建物が8溝・9溝に平行していることから、同じ時期の所産の可能性はある。

C区 5掘立柱建物(第124図、PL.97)

検出位置 32区C9～10グリッド付近で検出した。C区中央部の南端付近にあり、周囲には多数のピットがある。重複関係 3掘立柱建物と重複するが、ピットの切り合い関係がないため、前後関係は判定できなかった。3掘立柱建物・5掘立柱建物の長軸方位はわずかな違いである。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、2間×3間ないし2間×4間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として5掘立柱建物とした。北西-南東に長く、278Pと203Pとを結ぶ長軸線の方位はN41°Wである。規模は長軸8.9m前後、短軸約4.7mである。北東辺にピットが5個並び4間のようにもみえるが、南西辺

では4個しか検出できないため、ここでは2間×3間とした。変則的な様相は357P-197Pを結ぶ梁行が斜めに傾き、358Pが比較的規模が大きいため、253P内から割れた石20cm大の石1個、30cm大の石1個が出土したことから、253Pは建物の内部施設であった可能性を示す。253P:177×143・深さ30cmである。ピットの約半数は二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第18表にまとめた。

その他 周辺では大小のピットを検出したが、組み合わせが可能なものは少なかった。

遺物 358P内から土師器杯(C745)、253Pから須恵器椀(C728)、281Pから土師器杯(C731)が出土した。

時代・時期 北西辺は8溝・9溝とほぼ平行しており、同じ時期の所産の可能性はある。

C区 6掘立柱建物(第125図、PL.97)

検出位置 32区C11～B12グリッド付近で検出した。C区中央部の南寄りにあり、周囲には多数のピットがある。重複関係 東隅の327Pが10溝aと重複し、10溝a→327Pの順に新しい。従って本建物は10溝aよりも新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土または灰黄褐色系の土で埋没する。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、2間×3間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として6掘立柱建物とした。北東-南西に長く、261Pと325Pとを結ぶ長軸線の方位はN48°Eである。規模は長軸7.7m前後、短軸約4.3mである。北東辺中央の325Pは353P・354Pと一連の掘り込みになり、本建物の一部になる可能性がある。353P:55×43・深さ40cm、354P:86×41・深さ75cmである。ピットの八割は二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第19表にまとめた。

その他 柱穴列の内部にもいくつかのピットが認められるが、柱通りには並ばないため、側柱のみで構成するとみられる。内部の掘り込みが本建物に伴う確証は得られなかった。

遺物 323Pから土師器杯(C740)が出土した。

時代・時期 北西辺は8溝・9溝とほぼ平行し、3・5掘立柱建物と長軸がほぼ直交することから、同じ時期の所産の可能性はある。

C区 7 掘立柱建物(第126・127図、PL.97)

検出位置 31区T12～32A13グリッド付近で検出した。C区のほぼ中央部にあり、3粘土採掘坑を囲むような柱穴配置である。

重複関係 約2mほど南東側にずれる8掘立柱建物と重複するが、前後関係は判定できなかった。9溝b・10溝a・3粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と重複し、3粘採→10溝aの順に新しい。また、南西辺の334Pが10溝aと重複し、334P→10溝aの順に新しいので、本建物は10溝aよりも古い。北西辺の314・315・336Pは9溝bと重複し、いずれも9溝bが新しいため、本建物は9溝bよりも古い。3粘採と本建物との前後関係は、判定できなかった。北東辺にあるべき349Pと314Pの間に相当するピットは、3粘採の輪郭検出時に見落とした可能性が高い。3粘採の調査時に3粘採P1と3粘採P2を検出した。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土またはにぶい黄褐色系の土で埋没する。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、2間×3間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として7掘立柱建物とした。北西-南東に長く、502Pと315Pとを結ぶ長軸線の方位はN33°Wである。規模は長軸7.5～7.8m、短軸約5mである。南隅の501Pは555Pと重なり、501Pの方が新しい。555P内部の小穴-334P内部の南東寄り小穴-336P内部の南東寄り小穴は直線に載ることから、建替えられた可能性が高い。いずれのピットも二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第20表にまとめた。

その他 本建物の内部に3粘採の輪郭が平行した状態で殆ど納まっているが、時期差があると推定される。3粘採は当初、その輪郭から25住居と呼んでいた遺構で、調査を優先的に進めたため、ピット列の存在を見落としたとみられる。3粘採を掘り下げたところ、底面でP1・P2を検出し、本建物は側柱のみで構成される掘立柱建物と判定できた。

遺物 336Pから土師器杯(C742)が出土した。

時代・時期 北西辺は9溝bとほぼ平行しているが、9溝b・10溝aとも本建物よりも新しい。時期は近世以前の所産とみられる。

C区 8 掘立柱建物(第128図、PL.97)

検出位置 31区T12～32A13グリッド付近で検出した。C区のほぼ中央部にあり、3粘土採掘坑を囲むような柱穴配置である。

重複関係 約2mほど北西側にずれる7掘立柱建物と重複するが、前後関係は判定できなかった。10溝a・3粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と重複し、3粘採→10溝aの順に新しい。また、南西辺の499Pが10溝aと重複し、499P→10溝aの順に新しいので、本建物は10溝aよりも古い。3粘採と本建物との前後関係は、判定できなかった。北東辺・北西辺にあるべきピット列は、3粘採の輪郭検出時に見落とした可能性が高い。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、南東辺-南西辺が2間×3間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として8掘立柱建物とした。351Pと354Pとを結ぶ線を延長すると、南西辺の柱列を結ぶ線と平行にならず、北側が開いてしまう。北西-南東に長く、503Pと316Pとを結ぶ長軸線の方位はN41°Wである。規模は長軸6.8m、短軸約3.6mである。検出したピットの7割は二～三段に掘り込まれ、352P・500P・499P・316Pの4個の上端は略方形を呈する。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第21表にまとめた。

その他 本建物は7掘立柱建物とほぼ同じ方位をもち、規模はひと回り小さくなる。同時に存在できないので、どちらかからの建替えた建物の可能性が高い。

遺物 なし。

時代・時期 7掘立柱建物の建替えならば、近世以前の所産とみられる。

C区 9 掘立柱建物(第129・130図、PL.97)

検出位置 31区N12～P11グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、周囲を住居群に囲まれる位置にある。東隅の491Pの南東側に4土坑があり、これと492Pを結ぶ線は本建物の長軸に平行するが、492Pの南西側の柱穴が検出できなかったため、ここでは4間×2間の建物としておく。

重複関係 南西側で42住居、北東側で40住居・1道路と重複するが、436Pと438Pとの中のピット、北隅相当のピットは検出できなかった。比較的掘り込みが深いため、

遺存していても良いと推定されるが、検出不可能であった。住居覆土に注目して、ピットの輪郭を見逃した可能性がある。1道路は40住居と9掘立柱のピットに重複し、いずれも1道路が新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、南東辺-北西辺-南西辺が4間×2間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として9掘立柱建物とした。北東-南西に長く、436Pと491Pとを結ぶ長軸線の方位はN60°Eである。規模は長軸10.2m、短軸約4.8mである。検出したピットの多くは二段に掘り込まれ、40住ピットを除く掘り込みは方形～長方形を呈する。東隅491P、南隅436P、西隅438Pの3個は長軸線に対して45°前後に傾いて掘り込まれていた。これに似た配置を示す建物はB区1掘立柱建物(4間×2間)である。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第22表にまとめた。

その他 558P・559Pは1道路の覆土を除去して検出したので、明らかに本建物の方が古い。40住居・42住居との前後関係は、重複する位置のピットが破壊されていた可能性も残るが、判定できなかった。

遺物 なし。

時代・時期 1道路よりも古いことから、本建物は近世以前の所産とみられる。

C区 10掘立柱建物(第131・132図、PL.98)

検出位置 31区Q12～S13グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、周囲を住居群に囲まれる位置にある。北東辺の北から3つ目のピットを検出していない。また、東隅のピットは43住居P7に相当し、住居西隅が突出していることから、本建物の東隅ピットとした。

重複関係 東隅のピットは43住居と重複し、43住居→10掘立柱建物の順に新しい。北東辺では5粘土採掘坑(以下「粘採」と略称する)と571Pが重複し、5粘採→10掘立柱建物の順に新しい。北東辺の5粘採と重複する位置の571Pと477Pとの間に相当するピットは、5粘採の輪郭検出に注目したため、見逃した可能性が高い。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けた

が、北西辺-南西辺が3間×4間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として10掘立柱建物とした。北西-南東に長く、43住居P7と461Pとを結ぶ長軸線の方位はN36°Wである。規模は長軸9.5m、短軸約6.5mである。449Pと464Pとを結ぶ桁行にもピットが検出され、どのような構造の建物か、想定しにくい。検出したピットの約半数は二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第23表にまとめた。

その他 側柱の内側にも柱通りに並ぶピットが検出され、柱通りから外れるピットは476P・448P・470P・471Pである。これらは建物内部の施設にかかわる掘り込みの可能性もある。また、南西辺の468Pは桁行が通り、527Pは梁行が通り、北東辺の477P・461Pは内部に小穴をもつことなどから、建替えられた可能性が考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 43住居・5粘採より新しく、長軸方位が7・8掘立柱建物に近いことなどから、平安時代以降の所産と推定される。

C区 11掘立柱建物(第132・133・228図、PL.98・149)

検出位置 31区S7～T8グリッド付近で検出した。C区の南端付近にあり、周囲を住居群に囲まれる位置にある。東辺のピットを検出していない。また、建物内部に柱穴をもつ総柱建物と推定される。西側に36住居が近接し、北側にも34住居が近接するため、これらの住居との同時存在は困難である。

重複関係 東辺・北東隅の柱穴は39・46住居と重複するとみられるが、住居の輪郭・重複関係に注目したため、見逃した可能性がある。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、西辺-南辺が3間×2間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として11掘立柱建物とした。略南北に長く、539Pと521Pを結ぶ長軸線の方位はN15°Wである。規模は長軸5.5m、短軸約4.0mである。538Pと520Pとを結ぶ桁行にもピットが検出され、総柱の建物が推定される。北辺は西辺に対して90°よりも狭く、斜めに結ばれる。検出したピットの規模はやや小さ目である。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第24表にまとめた。

第4章 検出された遺構と遺物

その他 1～10掘立柱建物と比較して、本建物は総柱建物が推定されること、柱穴の規模が小ぶりであること、西側に似た規模の柱穴列をなす1柵があることなどから、39・46住居よりも古い可能性がある。

遺物 埋没土中から灰釉陶器壺(C551)が出土した。

時代・時期 39・46住居よりも古い場合は、奈良時代以前に遡る可能性がある。

C区 13掘立柱建物(第134図)

検出位置 32区F11～G11グリッド付近で検出した。C区の南西部付近にあり、14住居の南側・16住居の東側にある。調査時には判定できず、図上で認定した。したがって北西辺・北東辺の柱穴は不明で、2間×2間の建物を推定した。中央部の161Pが本建物の一部ならば、総柱建物と考えられるが、ここでは参考としておきたい。略東西走行の現代耕作痕による破壊があり、詳細は不明である。

重複関係 現代耕作痕の方が新しく、114Pは破壊されていた。

覆土 白色軽石を多く含む灰黄褐色系の土で埋没するものが多い。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、整理段階で北西辺-南西辺が2間×2間の組み合わせで並ぶことが判り、全体として13掘立柱建物とした。北東-南西に長く、164Pと116Pとを結ぶ長軸線の方位はN68°Eである。規模は長軸5.3m、短軸約4.7mである。検出したピットの規模は1掘立柱建物の柱穴に近い。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第27表にまとめた。

その他 中央部に161Pを検出しているが深さ11cmと浅く、他の柱穴の深さとは異なる。北隅相当の位置に14住居のP1があるが、これと114P・164Pを結ぶと不整形になってしまう。

遺物 なし。

時代・時期 1掘立柱建物を参考にすれば、近世以前の所産か。

C区 1柵(第132・133図、PL.98)

検出位置 31区T7～T8グリッド付近で検出した。C区の南端付近にあり、周囲を住居群に囲まれる位置にあ

る。これらの柱穴列に直交する柱穴を検出できなかったため、ここでは柵としておく。西側に36住居が近接し、東側には11掘立柱建物がある。

重複関係 11掘立柱建物とは柱穴列の方位がやや異なるが、重複した状況を検出できなかった。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、直線的な列をなして並ぶことが判り、全体として1柵とした。北西-南東に柱穴が並び、545Pと542Pとを結ぶ軸線の方位はN27°Wである。検出したピットの規模はやや小さく、東側の11掘立柱建物の規模に近い。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第25表にまとめた。

その他 柱穴列の走行をみると、西側に隣接する36住居北東辺と平行しており、同時存在の可能性はある。

遺物 なし。

時代・時期 36住居と同時存在ならば、奈良時代に遡る可能性がある。

C区 2柵(第133図)

検出位置 31区Q10グリッド付近で検出した。C区の南東部にあり、B区の柱穴とつながる。調査時に12掘立柱建物としたが、対応する柱穴が発見できなかったため、ここでは2柵と改称する。

重複関係 42・45住居のある北東部に広がる可能性があるが、確認できなかった。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。

柱穴 それぞれ単独のピットと想定して番号を付けたが、直線的な列をなして並ぶことが判り、調査時は12掘立柱建物とした。周辺を精査したが、対応する柱穴を発見できず、柵にとどまる。北西-南東に柱穴が並び、561Pと483Pとを結ぶ軸線の方位はN35°Wである。検出したピットの規模は東側にある9掘立柱建物に近く、いずれも二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第26表にまとめた。

その他 柱穴列の走行をみると、北西2.7mにある10掘立柱建物の南西辺と平行しており、これと関連ある柵になる可能性がある。

遺物 なし。

時代・時期 不明。

C区 1井戸(第135・136・228図、PL.98・99・149)

検出位置 32区C13～14グリッド付近で検出した。C区のほぼ中央部にあり、西側住居群と東側住居群との中間域に位置し、4粘土採掘坑の北側にある。4粘土採掘坑との最短距離は1.4mである。

重複関係 北から略南北走行の耕作痕が入り、西側で17住居と重複する。これらは17住居→1井戸→耕作痕の順に新しい。5溝の東端は接している状態で、前後関係は判定できなかった。

覆土 上位は白色軽石を多く含むにぶい黄褐色系の土で埋没し、中位～下位は石を多く含み、暗褐色系の土で埋没する。積み上げた石の崩落とともに、自然に埋没したと推定する。略方形の中央部掘り込みの壁際の石は、不整形の石を石垣状に積み上げている様子を観察できた。

形状 以下、部分名称を次のように仮称する。一段目＝最外周の掘り込みの縁辺で、やや緩い傾きの外周から急角度で掘り込まれる。外部と一段目底部との段差は60～80cmほどである。平坦面＝一段目の掘り込み底部から二段目の掘り込みまでの間の内側に緩やかに低くなる平坦面で、幅20～50cmの広さがある。多くの石はここで検出され、積み上げた状態が内側にみられた。二段目＝平坦面の内部に認められた掘り込みで、平坦面の土とは明らかに埋没土の色調・硬さが異なっていた。三段目＝二段目の内部に、四隅が突出するような形状の略方形の掘り込みがあり、北側に位置する突出部をA点とすると(第135図1)、時計回りにBCDの各突出部を検出した。ABDの各点では、わずかな範囲で中段がみられた。底面＝南北に細長い底面で、湧水範囲とみられる。

一段目の外周は南東部がやや丸みを帯び、その他の外周は外側に突の略方形を呈する。外周は北東-南西がやや長く306cm、北西-南東が287cmである。長軸の方位はN58°Eである。

平坦部は北側で狭く、南側でやや広い。平坦部の外周＝一段目底部と二段目上端との落差は4～6cmで、ほぼ水平に近い。

二段目の内側に三段目があり、ABCDの突出部がある。A-Cの突出部を通る線はほぼ南北に近く、N4°Eである。A-C:145cm、B-D:148cmでほぼ同じだが、突出部の中間は内側に湾曲する。南側のC点のみ中段がない。

底面は北側が広く、南側が細くなる形状で、北側が最も低く、南側が少し高い。北側で外部との落差145cm、南側で111cmである。底面北側の標高は141.03mで、B区2井戸の安定水位141.190mに近い。

平坦面から三段目にかけて大小の石が積み上げられ、石垣状を呈していた。最上位の石は規則性がみられなかったが、下位に掘り下げてゆくにしたがって、略方形の石組が認められた。一部は安全確保のため、掘り下げ中に除去したが、石の分布状態を記録したのが第135図2/9～9/9である。石垣の内側は必ずしも平坦面を呈していないため、中央部に落ち込んだ石を除去しながら精査した。経過を記録した写真の方が、形状をよく表している。その他 精査中の石組の状況を観察すると、石組は略方形に組み上げ、上位の石が内部に落ち込んだ状態を検出したと考えられる。

遺物 平坦面から須恵器甕破片(C560)、三段目の内側から須恵器杯(C556)・灰釉陶器碗(C559)が出土したほか、埋没土中から須恵器片661g、土師器片932gが出土した。時代・時期 出土遺物の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 2井戸(第136・228図、PL.99・100)

検出位置 31区P10グリッド付近で検出した。C区の南東部にあり、B区の区域にあるが、C区調査時に検出したので、C区に含めた。42住居の南隅にかかる。

重複関係 42住居と重複し、42住居→2井戸の順に新しい。

覆土 南側のB区で検出した近世以降の土坑(61～63土坑)と同様に、黒褐色系の土で埋没し、締まりのない状態であった。石が乱れている状況から、人為的に埋められた可能性がある。

形状 北西-南東に長い略楕円形を呈し、長軸130cm、短軸113cm、長軸の方位はN45°Wである。中位で20～30cm大の石9個が壁に近い位置から出土した。底面の長軸は101cm、短軸は91cmである。ほぼ直に近い掘り込みで、壁外からの深さは104～107cmであった。底面の標高は141.14m前後で、B区の2井戸とほぼ同じであることから、井戸とした。

その他 壁際から出土した石は割れ石で、本来積み上げていたとみられるが、調査時には組み合っていない。

遺物 埋没土中から須恵器甕片(C562)が出土した。

時代・時期 石を除き出土遺物がなく、埋没土からみて近世以降の所産と推定する。

C区 1 粘土採掘坑(第137図、PL.100)

検出位置 32区K～L15～16グリッド付近で検出した。C区の西端にあり、1掘立柱建物の北側に位置する。1掘立柱建物との最短距離は2.1m、27住居との最短距離は3.1mである。

重複関係 略南北走行の2溝、略東西走行の3溝と重複し、3溝に切られている。当初、3溝の一部と想定して調査を進めたが、輪郭が不整形であること、底面の凹凸が著しいこと、底面近くの壁がオーバーハングして挟られていることなど、3溝の形状と大幅に異なる様相をもち、挟られた部分を精査したところ、粘質土であることから、1粘土採掘坑(以下「1粘採」と略記する)とした。

覆土 溝の一部として調査を進めたため、西端の断面記録(第137図i-j)が残るのみである。通常の溝が次第に埋没する過程とは異なる様相を示し、粘土の採掘終了に伴い、排出土で埋めた可能性がある。白色軽石を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土で埋没する。粘土の採掘深さ以外のロームと、当時の表土とがブロック状に混じっていた。壁 壁際での深さは48～72cmで、一部では95cmほどになる。東西のどちらから掘り下げたか不明であるが、不整形な土坑形状の連続で、東半部のみ略方形の土坑状を呈する。いずれも粘土を採掘できる深さまで掘り下げ、水平方向に粘土を追った結果、壁の下が挟られた状態になったと推定される。東半部の略方形部は約2m×2m、西半部では幅約1.5mで長さ5.5mほどを検出した。

底面 1粘土採掘坑では青灰色粘土を採掘したとみられ、挟られた部分にその一部が残っていた。底面は著しい凹凸があるが、1～1.5mほどの範囲でまとまりがあり、一人の作業者の手の届く範囲が区画であったと考えられる。面積は東半部3.32㎡、西半部4.20㎡である。

その他 本遺跡の粘土採掘坑認識のきっかけとなった遺構で、この後住居に似た形状の落ち込みを粘土採掘坑と捉えることが可能となった(第28表)。

遺物 須恵器片112g、土師器片7gが出土した。

時代・時期 重複する溝との前後関係から、近世以前の所産と推定する。他の粘土採掘坑の状況と勘案すれば、

平安時代まで遡る可能性が高い。

C区 2 粘土採掘坑(第137・229図、PL.100・101・149)

検出位置 32区A14～B13グリッド付近で検出した。C区のほぼ中央部にあり、掘立柱建物が並ぶ付近にある。遺構の輪郭を確認する段階では、3軒の住居が重複していると想定し、22・23・24住居と呼んだが、その後2軒相当と判明したため、22・24住居と呼んで調査を進めた。調査の進捗に伴って他の住居とは異なる様相を示し、最終的に全体を2粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の4粘採・3粘採・1井戸との最短距離は2.7m・2.8m・3.5mである。

重複関係 北部で耕作痕と重複し、2粘採の方が古い。火処が見当たらず、柱穴は不明、遺物がほとんど出土しない、壁の裾部が挟られていることなどから、本遺構は住居ではなく、2粘土採掘坑とした。

覆土 白色軽石・ロームブロックを含む灰黄褐色系と黒褐色系の土で埋没する。北東-南西方向に設置した土層断面(第137図2粘採a-b)では、南西側の採掘坑が新しく、南西端では堆積土層に筋が認められた。南半部ではレンズ状堆積を示すことから、自然埋没と推定されるが、北半部は人為的に埋めた可能性がある。また、所々にローム大ブロックが存在した。オーバーハングしていた上位のローム層が落盤したと推定される。

規模 北東-南西の長軸方向の中央を結ぶ長さは877cmで、北半部の中央で北西-南東を結ぶ短軸の長さは351cm、南半部の中央で北西-南東を結ぶ短軸の長さは422cmである(いずれも上端計測)。長軸方位はN42°Eである。

壁 壁際での深さは北半部で73～93cm、南半部で75～105cmで、壁の挟られた部分の標高は北半部で141.85m前後、南半部で141.65m前後とな。採掘した黄白色粘土層の厚さは15～20cm、粘土層は北半部から南半部へ向かって低くなると推定される。

底面 2粘土採掘坑では黄白色粘土を採掘したとみられ、挟られた部分にその一部が残っていた。底面は著しい凹凸があるが、北半部と南半部の境界に高さ5～28cmの帯状の高まりがあり、さらに北半部中央には幅12～25・高さ3～10cmの帯状の高まり、南半部には幅5～30・高さ3～13cmの高まりが認められた。南半部の高ま

りは中央部で途切れる。これらの高まりは粘土採掘の区画と考えられ、北半部と南半部の境界は採掘坑境界で、南北の採掘坑内の区画は作業用のコマ割りと推定される。このコマ割り推定が正しいとすれば、北から1～4コマが想定でき、それぞれのコマの面積は1コマ=7.32m²、2コマ=4.82m²、3コマ=7.98m²、4コマ=7.80m²である。1コマ・2コマでは底面に小石が露出し、石を除外して粘土を採取したと推定される。

その他 北半部の北寄りで2個、南半部中央に2個、南西隅に1個の10cm前後の掘り込みが認められた。北半部の掘り込みは壁に向かっていることから、粘土採掘のための試し掘りの可能性がある。また、南半部の掘り込みは採掘坑への出入口に伴う施設であった可能性がある。調査時には、何も置かないと出入りが困難であった。

遺物 南半部の南東辺壁のオーバーハング下から略完形の須恵器蓋(C585)が、北西辺壁のオーバーハング下から土師器杯片(C564)が出土したほか、埋没土中から須恵器片2626g、土師器片5878g、灰釉陶器5gが出土した。
時代・時期 出土土器の特徴から、飛鳥～奈良時代の7世紀後半～8世紀前半の所産と推定する。

C区 3粘土採掘坑(第138・230図、PL.102・149)

検出位置 31区T13グリッド付近で検出した。C区のほぼ中央部にあり、掘立柱建物が並ぶ付近にある。遺構の輪郭を確認する段階では、1軒の住居と想定し、25住居と呼んだが、調査の進捗に伴って掘り込み中央部に水田のアゼのような高まりを検出し、2粘土採掘坑と同様の状況となったことから、掘り込み全体を3粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の2粘採との最短距離は2.8mである。

重複関係 掘り込みの輪郭確認時には略長方形を呈し、火処が見当たらないことを除き、住居の確認面に酷似していた。南隅付近で10溝aと、南西辺で335Pと、北東辺で348Pとそれぞれ重複し、いずれも本粘採の方が古い。北東寄りの1コマから底面で検出した2個の柱穴P1・P2は、7掘立柱建物の一部であるが、7掘立柱建物との前後関係は判定できなかった。住居状遺構に注目して、見逃した可能性がある。

覆土 白色軽石・ロームブロックを含む黒褐色系の土で埋没する。底面には硬いロームブロックと汚れたローム

が混じる土が堆積し、直上の壁際には黒褐色土が堆積することから、自然埋没と推定する。

規模 北東-南西の長軸方向の中央を結ぶ長さは571cmで、中央の高まり付近を通る短軸方向の長さは481cmである(いずれも上端計測)。長軸の方位はN57°Eである。各辺の長さは、南東辺5.10m、南西辺4.06m、北西辺5.02m、北東辺4.55mである。

壁 壁際での深さは37～61cmで、緩い角度で掘り込まれた後、急角度でさらに掘り下げていた。下半部の粘土を採掘したと推定されるが、掘り下げが浅かったためか壁は抉れていない。北西側に位置する2粘採に比較して、粘土採掘の深さが異なると考えられる。

底面 掘り込み中央部に高さ25～28cm(中央部は高さ17cm)の帯状の高まりがあり、北東部と南西部を分けるコマ境界と考えられる。北東部を1コマ、南西部を2コマとすると、1コマ=8.21m²、2コマ=8.85m²である。2コマの北西寄りでは並んだ3個の小穴を検出した。深さは3～8cmである。

その他 2・3・4粘採はいずれも長軸方位が近く、一連の遺構であった可能性がある。2粘採に比べ、浅い深さで粘土を採掘できたと思われるが、粘土層が薄かったため、連続的な拡張を止めたと想定される。

遺物 埋没土中から須恵器片1423g、土師器片1160gが出土した。

時代・時期 出土遺物が少ないので不明だが、10溝aにより切られていることから、平安時代以前と推定する。

C区 4粘土採掘坑(第138・230図、PL.102・103・149)

検出位置 32区C12～13グリッド付近で検出した。C区のほぼ中央部にあり、掘立柱建物が並ぶ付近にある。遺構の輪郭を確認する段階では、1軒の住居と想定し、21住居と呼んだが、調査の進捗に伴って掘り込み中央部に水田のアゼのような高まりを検出し、2粘土採掘坑と同様の状況となったことから、掘り込み全体を4粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の2粘採・1井戸との最短距離は2.7m・1.4mである。

重複関係 掘り込みの輪郭確認時には略楕円形を呈し、焼土粒子を含む土で埋没していたが火処が見当たらないことを除き、小判形住居の輪郭確認面に酷似していた。南西辺付近で8溝aと、南東辺で323Pと、北西辺で36土

坑とそれぞれ重複し、4粘採→8溝a・323Pの順に新しい。36土坑との前後関係は判定できなかった。

覆土 上位は白色軽石・焼土粒子を含む灰黄褐色系の土で埋没し、下位は黒褐色系の土で埋没する。底面近くでは硬いロームブロックを含む土が5～13cmの厚さで広がる。下位に黒褐色系の土が堆積することから、中位までは排出土で人為的に埋められ、後に自然堆積した可能性がある。

規模 北東-南西の長軸方向の中央を結ぶ長さは436cmで、中央の高まり付近を通る短軸方向の長さは318cmである(いずれも上端計測)。長軸の方位はN48°Eである。各辺の長さは、隅に丸みがあるため、計測しなかった。

壁 壁際での深さは南西側で29～39cm、北東側では23～28cm、北東端はとくに深く掘り込まれ70cm前後となる。北東端の壁は挟られており、壁はオーバーハンクしていた。

底面 掘り込み中央部に高さ3～8cmの帯状の高まりがあり、北東部と南西部を分けるコマ境界と考えられる。北東部を1コマ、南西部を2コマとすると、1コマ=6.30m²、2コマ=4.78m²である。中央部を分けるコマ境界は北西辺と南東辺東半部に高さを保ってつながり、幅10～70cmの中段を形成する。

その他 本採掘坑の北東端はとくに深く、かつ北東側の壁奥まで掘り込まれ、粘土が採掘されていた。必要または良好な粘土がここに集中していたと考えられる。

2・3・4粘採は近接していることから、3粘採で粘土分布の東側限界を知り、4粘採で良質な粘土が北東側につながることを知り、2粘採で大きく採掘したという採掘工程が想定される。竪穴住居の分布と粘採の分布とを勘案すると、2・3粘採付近には竪穴住居がないことから、この付近の北東-南西の方向に粘土化しやすい地形的原因があると推定される。北東側の東紺屋谷戸遺跡東部にある11粘採も、天王C区2粘採の北東側延長線上に位置することが、このことを示しているように思える。

遺物 南西部の2コマ出土遺物は、8溝aの遺物が混在した可能性があるが、北東部の1コマ出土遺物は4粘採に属する遺物と考えられる。北西辺北半部の壁際に須恵器皿(C616)・椀(C621)が、コマ境界に近いところで底面から浮いた状態で金属製品鎌(C248)がそれぞれ出土した。埋没土中から須恵器片2036g、土師器片4314g、埴

輪片23g、灰釉陶器片20gが出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 5粘土採掘坑(第139・230図、PL.103)

検出位置 31区Q～R13グリッド付近で検出した。C区の中央部やや東寄りにあり、掘立柱建物が並ぶ付近にある。遺構の輪郭を確認する段階では、1軒の住居と想定し、44住居と呼んだが、調査の進捗に伴って掘り込み中央部に高まりを検出し、2・4粘土採掘坑と同様の状況となったことから、掘り込み全体を5粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の41住居・43住居・26住居との最短距離は3.3m・3.3m・2.9mである。

重複関係 掘り込みの輪郭確認時には隅丸の長方形を呈し、火処が見当たらないことを除き、小判形住居の輪郭確認面に酷似していた。北辺の中央部で10掘立柱建物の571Pと重複し、5粘採→10掘立柱建物の順に新しい。

覆土 上位は白色軽石を含む暗褐色系の土で埋没し、底面よりやや上に黄白色粘土ブロックを含む黒褐色系の土が堆積する。壁近くの土層は壁際に厚く、中央部に向かって薄くなること、上位はレンズ状堆積を示すことから、自然堆積と推定する。

規模 略東西の長軸方向の中央を結ぶ長さは450cmで、中央の高まり付近を通る短軸方向の長さは297cmである(いずれも上端計測)。中央部がややくびれ、長軸の方位はN81°Wである。各辺の長さは、隅に丸みがあるため、計測しなかった。

壁 壁際での深さは東側で72～85cm、西側では72～88cmである。

北辺と南辺の東寄りの壁は挟られており、壁はオーバーハンクしていた。

底面 掘り込み中央部に高さ14～24cmの頂部が尖った高まりがあり、東半部と西半部を分けるコマ境界と考えられる。東半部を1コマ、西半部を2コマとすると、1コマ=5.26m²、2コマ=5.69m²である。中央部分けるコマ境界は高低に違いはあっても南北の辺に高さを保ってつながる。1コマの底面には深さ3cmの小穴が、2コマでは深さ4～11cmの不整形の小穴が認められた。下位に粘土があるかどうか、確認した穴の可能性はある。

その他 5粘採の形状は4粘採に形状・規模とも似てい

るが、長軸の方位がほぼ東西で異なっている。埋没土に含まれていた黄白色粘土を採掘したと考えられ、2・3・4粘採と一連の遺構と推定される。

遺物 埋没土中から須恵器片621g、土師器片541gが出土した。

時代・時期 2～4粘採と一連の遺構ならば、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

C区 6粘土採掘坑

(第118・119・230・231図、PL.103・149)

検出位置 31区R9グリッド付近で検出した。C区の東寄りにあり、いくつかの住居群に囲まれる位置にある。32・39・45・B区23住居との最短距離は3.3m・2.5m・4.8m・1.2mである。46住居・B区23住居とは近接しており、同時存在は困難と推定する。

重複関係 遺構の形状確認の段階では47住居としたが、調査の進行に伴って粘土採掘坑と判明したため、6粘土採掘坑(以下、「6粘採」と略称する)とした。38・48住居・526Pと重複し、48住居→6粘採→38住居、6粘採→526Pの順に新しい(前後関係の判定に関する詳細は48住居の項参照)。

覆土 上位は白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没し、中位に48住居の床面破片らしきものを含む層、下位に黄白色粘土ブロック・黒色土ブロック・緑色を帯びたにぶい黄橙色土ブロックの混じった土で埋没する(埋没土の詳細は48住居の項参照)。地震の影響が想定されるが、土層堆積の観察から(第118図a-b)自然埋没と推定する。

規模 中央部付近で北西-南東4.50m、北東-南西5.17mで、不整形ながら北東-南西に長い。東隅の掘り込みはとくに不整形である。

壁 壁際での高さ23～114cmで、重複する48住居側は低い。北半部では1m前後である。底面まで掘り下げた状態では、南東辺にカマド掘り方がある住居の掘り方に似た形状であるが、北隅・西隅・東隅付近の壁はオーバーハング状態で、採掘坑する粘土を水平方向に追った結果、壁の下が抉られた状態になったと推定される。

底面 中央部は特に深く、不整形に凹んでいた。北東辺沿いの壁下は幅40～50cmの帯状の平坦面があり、その直上にある黄白色粘土を採掘したと推定される。底面の面積は18.77m²である。全体に平坦面にならないのは、採

掘する粘土の生成状態に依存した結果とみられる。東隅付近の底面から須恵器脚付き盤(C650)の口縁部に土師器杯(C641伏せた状態・C637正立状態)が並んで出土し、中央部付近からは須恵器杯(C649)が横倒し状態で、西隅近くの底面からは土師器杯(C643)が伏せた状態で出土した。

その他 地震発生のタイミングと併せた前後関係は、48住居→6粘採→地震→38住居である(詳細は48住居の項参照)。

遺物 前述の土器のほか、須恵器脚付き盤(C650)の近くから細長い石が、土師器杯(C643)の脇から細長い石が、48住居所属とみられるP4の上位から20cm大の石がそれぞれ出土した。埋没土中から須恵器片8g、土師器片1822gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

C区 7粘土採掘坑(第139・231図)

検出位置 31区S～T10グリッド付近で検出した。C区の中央部やや南寄りにあり、周囲を住居群に囲まれた区域にある。遺構の輪郭を確認する段階では土坑と想定し、37土坑と呼んだが、調査の進捗に伴って壁の下位が抉れていたため、7粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。

重複関係 遺構確認の段階で31住居の覆土が本粘採を切っていたことから、7粘採→31住居の順に新しい。34住居とは接している状態で、前後関係は判定できなかった。

覆土 上位は白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没し、下位は白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。上位層がレンズ状堆積を示すことから、自然堆積と推定する。

規模 不整形な五角形を呈し、南北の長軸方向の長さは221cmで、東西の最大幅は200cmである(いずれも上端計測)。長軸の方位はN1°Eで、各辺の長さは隅に丸みがあるため、計測しなかった。

壁 壁際での深さは31住居との重複部を除き、59～62cmである。北側の壁の裾部がとくに深く抉られていた。

底面 中央部がやや窪んでいるが、ほぼ平坦である。底面の面積は3.40m²である。

その他 7粘採は他の粘採に比較してやや規模が小さく、採掘量は少なかったとみられる。2・3・4粘採と

は異なり、採掘する粘土がもともと少なかった可能性が高い。

遺物 埋没土中から須恵器片48g、土師器片304gが出土した。

時代・時期 31住居との切り合い関係から、平安時代以前(7世紀後半か)の所産と推定する。

C区 溝(第140~142・231・232図、PL.104・105・149)

C区で検出した溝は1~17溝まで番号を付けた。いくつかの溝は耕作痕と平行・直交する方位をとり、前橋市上細井町と旧富士見村との土地境界線と平行する方位である。

C区 1溝・4溝・16溝(第140・142・231図、PL.105)

検出位置 32区L16~31L15グリッド付近で検出した。西半部では北端が4溝である。東半部では1溝=16溝であり、東端部はB-C区境界とした調査区北外の南北道路南端(調査区出入り口)に至る。

重複関係 略南北走行を示す現代耕作痕多数によって切られており、東半部では現代市村境界の土管暗渠と平行する。西端付近では2溝とほぼ直交し、さらに西側調査区外へ延びる。2溝→1溝、1道路→16溝=1溝の順に新しい。また、重複するすべての住居よりも新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。堆積状態では自然埋没か人為的な埋没か判定できなかった。

形状・規模 略東西に走行する溝で、長さ104.8m分あり、東端と西端を結ぶ線のなす角度はN84°Wである。溝幅は東端付近で53cm、西端付近で37cm、深さ20~43cmである。底面標高をみると東端付近で142.94m、西端付近で141.89mとなり、概ね東から西へ向かって低くなる。16溝の北側約2mの位置を、ほぼ同じ走行の土管暗渠が東西に伸び、調査時はこの暗渠を境界として南側を天王遺跡、北側を東紺屋谷戸遺跡とした。前後関係は判定できなかったが、4溝・1溝・16溝は何度か設定された市村境界であったと考えられる。耕作痕がこれらの溝・暗渠と平行・直交することは、土地境界(字境界)を示していると推定される。

遺物 出土遺物は土師器杯片(C657)のみで、1溝からは須恵器片539g・土師器片580g・埴輪片78gが、4溝か

らは須恵器片146g・土師器片800gが、16溝からは須恵器片196g・土師器片168gが出土した。

時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。土管暗渠は昭和時代以前であろう。

C区 2溝(第140・231図、PL.104)

検出位置 32区K17~L14グリッド付近で検出した。C区の西端部で略南北に走行する溝で、北半部がやや幅広である。

重複関係 中央部付近で1粘土採掘坑と重複し、1粘土採掘坑→2溝の順に新しい。3溝と直交する状態であり、調査時は3溝覆土が新しいと認められた。したがって、2溝→3溝の順に新しいとみられる。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定する。

形状・規模 略南北に走行する溝で、長さ16.40mを検出した。北端中央部と南端中央部とを結ぶ線の方位はN16°Eである。溝幅は北端付近で86cm、南端付近で152cm、深さ7~33cmである。底面標高をみると北端付近で141.84m、南端付近で141.65mとなり、概ね北から南へ向かって低くなる。東側に6m離れた南北走行の直線的な耕作痕とほぼ平行しており、この付近の耕地の西端を示す区画溝の可能性はある。

遺物 北半部の溝中から土師器杯(C658)・須恵器盤(C659)と石2個が出土したほか、埋没土中から須恵器片473g、土師器片247gが出土した。

時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。

C区 3溝(第140・231図、PL.104・149)

検出位置 32区F14~K16グリッド付近で検出した。C区の西半部で略東西に走行する溝で、西端は1粘土採掘坑の上にある。

重複関係 西端部で1粘土採掘坑・2溝と重複し、1粘土採掘坑→2溝→3溝の順に新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。自然埋没と推定するが、後世の耕作によって埋め戻された可能性がある。

形状・規模 略東西に走行する溝だが、北側にわずかに

凸状に曲がり、東端で5溝に接して終端となる。長さ33.12mを検出した。内側は二段に掘り込まれた部分もあり、数回の掘り替えがあった可能性がある。方位は計測しにくい、中央の直線的な部分でN75°Wである。溝幅は西端付近で55cm、中央部付近で146cm、東端付近で104cm、深さ12～29cmである。底面標高をみると西端付近で141.98m、東端付近で142.11mとなり、概ね東から西へ向かって低くなる。南側に1.5mほど離れた東西走行の直線的な5溝とほぼ平行しており、2溝と併せてこの付近の耕地の境界を示す区画溝の可能性はある。

遺物 土師器杯(C660)・須恵器碗(C661)・砥石(C662)と埋没土中から須恵器片193g、土師器片158gが出土した。時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。

C区 5溝(第140・231図)

検出位置 32区C14～J15グリッド付近で検出した。C区の西半部で略東西に走行する溝で、西端は南北走行の耕作痕上にある。

重複関係 略南北走行の耕作痕と重複し、概ね南北走行耕作痕の方が新しいが、一部判定できなかったものもある。5溝と重複する10・111・17・19住居は、すべて5溝より古い。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。自然埋没と推定するが、後世の耕作によって埋め戻された可能性がある。

形状・規模 略東西に走行する溝で、長さ34.80mを検出した。西半部は断続的だが、浅い部分の壁を失ったと推定される。方位は東半部の直線的な部分でN82°Wである。溝幅は西端付近で99cm、中央部付近で86cm、東端付近で99cm、深さ1～7cmである。底面標高をみると西端付近で142.13m、東端付近で142.30mとなり、概ね東から西へ向かって低くなる。水の流れる溝というよりも、やや幅の広い耕作痕と考えられる。

遺物 須恵器碗か(C663)と埋没土中から須恵器片31g、土師器片164gが出土した。

時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。

C区 6溝(第140図)

検出位置 32区E12～K13グリッド付近で検出した。C区の西半部で略東西に走行する溝である。

重複関係 略南北走行の耕作痕と重複し、南北走行耕作痕の方が新しい。6溝と重複する14・15住居は、いずれも6溝より古い。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。自然埋没と推定するが、後世の耕作によって埋め戻された可能性がある。

形状・規模 略東西に走行する溝で、長さ32.52mを検出した。中央部は細いが、東端部は幅広となる。両端の中央部を結ぶ線の方位はN75°Wである。溝幅は西端付近で65cm、中央部付近で33cm、東端付近で113cm、深さ22～33cmである。底面標高をみると西端付近で141.67m、東端付近で141.85mとなり、概ね東から西へ向かって低くなる。5溝と同様に、水の流れる溝というよりも、やや幅の広い耕作痕と考えられる。

遺物 埋没土中から須恵器片175g、土師器片140gが出土した。

時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。

C区 7溝(第140図)

検出位置 32区H12～K13グリッド付近で検出した。C区の西半部で略東西に走行する溝である。

重複関係 略南北走行の耕作痕と重複し、南北走行耕作痕の方が概ね新しい。

覆土 灰黄褐色系の土で埋没する。自然埋没と推定するが、後世の耕作によって埋め戻された可能性がある。

形状・規模 略東西に走行する溝で、長さ14.96mを検出した。西端付近で略南北走行の耕作痕と直交し、南北走行耕作痕の方が新しい。両端の中央部を結ぶ線の方位はN76°Wである。溝幅は西端付近で45cm、中央部付近で58cm、東端付近で53cm、深さ3～9cmである。底面標高をみると西端付近で141.67m、東端付近で141.95mとなり、概ね東から西へ向かって低くなる。5溝と同様に、水の流れる溝ではなく、7溝と同様の方位を示す耕作痕が7溝以南に並行して検出されたことから、耕作痕と考えられる。南側の耕作痕に比較して、7溝は浅く掘り込まれていた。

遺物 なし。

時代・時期 埋没土の様相、走行方位などから、近世以降の所産と推定するが、時期を限定できない。

C区 8溝(第141・231図、PL.104・149)

検出位置 31区T14～32E11グリッド付近で検出した。C区の中央部で北東-南西方向に断続的に走行する溝である。南西部を8溝a、中央部を8溝b、北東部を8溝cとした。中央部の8溝b部分は2粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と重なっていた。

重複関係 南西部の8溝aは4粘採と重複し、4粘採→8溝aの順に新しい。同様に中央部は2粘採と重複し、2粘採→8溝bの順に新しい。したがって8溝は2粘採・4粘採よりも新しい。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定する。

形状・規模 断続的であるが、両端の距離は30.72mである。途切れるのは、掘り込みの深さが浅い部分が存在することによる。両端を結ぶ線の方位はN57°Eである。溝幅は8溝aの中央部で92cm、8溝cの南西端で100cm、深さ15～21cmである。底面標高をみると南西端付近で141.85m、北東端付近で142.54mとなり、概ね北東から南西へ向かって低くなる。南東側に約3m離れたほぼ同じ方位の走行をもつ9溝があり、さらに9溝の南東側に約4m離れた10溝がある。これらはほぼ平行していることから、一連の遺構と考えられる。

遺物 南西部の8溝aから土師器甕片(C667)・須恵器杯(C664)が出土したほか、埋没土中から須恵器片436g、土師器片622gが出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、平安時代の9世紀後半の所産と推定する。

C区 9溝(第141・232図)

検出位置 31区S14～32E10グリッド付近で検出した。C区の中央部で北東-南西方向に断続的に走行する溝である。南西部を9溝a、中央部を9溝b、北東部を9溝cとした。9溝aと9溝bとの間に細く曲がった溝が認められたが、形状・規模が9溝と異なるため、17溝とした。重複関係 9溝bは7掘立柱建物の柱穴と重複し、9溝bの方が新しい。9溝aの南西端は耕作痕と重複し、耕

作痕の方が新しい。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定する。

形状・規模 断続的であるが、両端の距離は33.04mである。途切れるのは、掘り込みの深さが浅い部分が存在することによる。両端を結ぶ線の方位はN57°Eである。溝幅は9溝aの中央部で133cm、9溝bの南側中央部で109cm、9溝cの中央部で138cm、深さ8～32cmである。底面標高をみると南西端付近で141.82m、北東端付近で142.39mとなり、概ね北東から南西へ向かって低くなる。南東側に約4m離れたほぼ同じ方位の走行をもつ10溝があり、9溝の北西側約3m離れた8溝がある。これらはほぼ平行していることから、一連の遺構と考えられる。

遺物 南西部の9溝aから須恵器甕片(C670)が出土し、9溝bから土師器台付甕片(C671)、9溝cからは須恵器杯片(C672)が出土したほか、埋没土中から須恵器片295g、土師器片415gが出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、平安時代の所産と推定する。

C区 10溝(第141・232図)

検出位置 31区T13～32B11グリッド付近で検出した。C区の中央部で北東-南西方向に走行する溝である。ほかの断片が発見できる可能性があったため、10溝aとした。

重複関係 10溝aの南西部で6掘立柱建物の柱穴と重複し、10溝a→6掘立柱建物の順に新しい。また、北東部で7掘立柱建物の柱穴及び3粘採と重複し、3粘採・7掘立柱→10溝aの順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定するが、浅いため不確実である。

形状・規模 全長11.64mを検出した。両端を結ぶ線の方位はN58°Eである。溝幅は10溝aの南西端付近で60cm、中央部で161cm、北東部端付近で154cm、深さ7～23cmである。底面標高をみると南西端付近で141.80m、北東端付近で142.28mとなり、概ね北東から南西へ向かって低くなる。北西側に約4m離れたほぼ同じ方位の走行をもつ9溝があり、9溝の北西側約3m離れた8溝がある。これらはほぼ平行していることから、一連の遺構と考えられる。ほぼ同じ方位の走行を持つことから、道

路側溝の可能性がある。

遺物 10溝 a から須恵器椀(C673)と、埋没土中から須恵器片232 g、土師器片292 gが出土した。

時代・時期 8・9溝と一連の遺構とすると、平安時代の所産となる。

C区 11溝(第142・232図、PL.104・149)

検出位置 32区C18～L17グリッド付近で検出した。当初、C区の北端で検出し、東紺屋谷戸遺跡との境界とした土管暗渠の南側で認定したが、西半部では暗渠の北側に延び、東半部では同じ形状のまま東紺屋谷戸遺跡区域へ延びていた。当初の認定を勘案して、天王遺跡C区11溝とした。

重複関係 土管暗渠と交差し、暗渠の方が新しい。東半部では略南北走行の耕作痕と重複し、耕作痕が新しい。東紺屋谷戸36土坑と重複し、36土坑→11溝の順に新しい。東紺屋谷戸の10掘立柱建物の82Pと接した状態で終端となる。

覆土 As-B 軽石を含む暗褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定するが、浅いため不確実である。

形状・規模 西半部で14.0m、東半部で13.8mを検出した。土管暗渠と交差する区間では、溝の形状が不明確であった。西半部の両端を結ぶ線の方位はN84°W、東半部の両端を結ぶ線の方位はN76°Eである。溝幅は西半部の中央部付近で46cm、東端部で53cm、東半部の西端部で35cm、中央部で35cm、東端部で43cmと、概ね一定である。深さは3～24cmで、東半部の西寄りやや深い。底面標高をみると西端付近で142.25m、東端付近で143.01mとなり、概ね東から西へ向かって低くなる。埋没土にAs-Bを含み砂質であること、幅が概ね一定であることから、同じ溝と推定した。

遺物 須恵器椀(C674)と、埋没土中から須恵器片50 g、土師器片140 gが出土した。

時代・時期 埋没土にAs-B 軽石を含むことから、平安時代末から中世の所産と推定する。掲載した墨書須恵器椀(C674)は9世紀後半の所産と推定する。

C区 12溝(第142・232図、PL.149)

検出位置 31区P13～T15グリッドで検出した。C区の中央部の北寄りにあり、不整形な形状である。南東側を

12溝 a、北西側を12溝 bとした。

重複関係 12溝 a は南東端で41住居とつながり、途切れる。遺構確認時点では12溝 a →41住居の順に新しい。12溝 b は北西端で不整形の攪乱によって破壊される。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土にぶい黄褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、浅いため不確実である。

形状・規模 12溝 a は北側に凸の状態に曲がり、12溝 b は南西側に凸の状態に湾曲する。溝の上端は北側に凹凸が著しい。12溝 a は直線にして12.32m、12溝 b は8.64mを検出した。両端を結ぶ線の方位は12溝 a :N70°W、12溝 b :N52°Wである。溝幅は12溝 a が21～83cm、12溝 b が27～59cm、深さ4～10cmである。底面標高をみると12溝 a の南東端が142.43m、北西端が142.66m、12溝 b の南東端が142.65m、北西端が142.81mで、概ね北西から南東に向かって低くなる。用途不明の溝である。

遺物 12溝 a から土師器杯(C676)、須恵器壺片(C677)と金属製品角釘(C678)が出土したほか、12溝 a 埋没土中から土師器片9 gが、12溝 b 埋没土中から須恵器片84 g・土師器片135 gが出土した。

時代・時期 41住居に切られていることから、奈良時代以降の所産と推定する。掲載した墨書土器(C676)は9世紀前半の所産と推定するが、溝の時代を示すものとは断定できない。

C区 13溝(第142図)

検出位置 31区P～Q14グリッド付近で検出した。C区東部の北寄りにあり、南側に凸の状態に湾曲する。

重複関係 西端を593Pで、東端を378Pで切られる。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、後世の耕作によって埋没した可能性がある。

形状・規模 13溝は南側に凸の状態に曲がり、直線にして2.68mを検出した。両端を結ぶ線の方位はN82°Eである。溝幅は19～31cm、深さ7～8cmである。底面標高をみると西端が142.66m、東端が142.71mでほとんど変化がない。弧状をなす溝は15・17溝があり、幅もほぼ同様であるので、何らかの区画を示す可能性がある。

遺物 埋没土中から須恵器片27 g、土師器片1 gが出土した。

時代・時期 新しい378Pに切られていることから、近世以前の所産と推定する。

C区 14溝(第142図)

検出位置 31区R～S14グリッド付近で検出した。C区東部の北寄りにあり、12溝の南側にある。

重複関係 西端を589Pで切られる。

覆土 黄白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、不確実である。

形状・規模 14溝は不整形で全体に上端の凹凸が著しい。長さ4.08mを検出した。東西両端を結ぶ線の方位はN85°Wである。溝幅は28～49cm、深さ1～6cmである。底面標高をみると西端が142.52m、東端が142.60mでほとんど変化がない。不整形の状況が12溝aに類似している。

遺物 埋没土中から須恵器片39g、土師器片76gが出土した。

時代・時期 新しい589Pに切られていることから、近世以前の所産と推定する。

C区 15溝(第141図)

検出位置 32区B8～10グリッド付近で検出した。C区の中央部の南寄りにあり、北西に湾曲する溝である。

重複関係 北西端で33土坑と重複し、15溝→33土坑の順に新しい。

覆土 白色軽石を含むにぶい黄褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定するが、浅いため不確実である。

形状・規模 弓なりに湾曲するが、直線距離にして全長10.88mを検出した。両端を結ぶ線の方位はN29°Eである。溝幅は南西端付近で30cm、中央部で31cm、北東部端付近で38cmとほぼ一定で、深さ12～28cmである。底面標高をみると南西端付近で141.45m、北東部端付近で141.50mとなり、ほとんど変化がない。何らかの区画を表す遺構と推定する。これに似た形状の溝は、北側12mにある17溝である。

遺物 埋没土中から須恵器片23g、土師器片34gが出土した。

時代・時期 33土坑に切られていることから、近世以前と推定する。

C区 17溝(第142図)

検出位置 32区C11～12グリッド付近で検出した。C区の中央部の9溝aと9溝bに挟まれた位置にあり、北西に湾曲する溝である。

重複関係 南西端で265Pと重複し、17溝→265Pの順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定するが、浅いため不確実である。

形状・規模 弓なりに湾曲するが、直線距離にして全長4.24mを検出した。両端を結ぶ線の方位はN48°Eである。溝幅は南西端付近で37cm、中央部で33cm、北東部端付近で25cmとほぼ一定で、深さ5～10cmである。底面標高をみると南西端付近で141.92m、北東部端付近で142.02mとなり、ほとんど変化がない。何らかの区画を表す遺構と推定する。これに似た形状の溝は、南側12mにある15溝である。

遺物 なし。

時代・時期 265Pに切られていることから、近世以前と推定する。

C区 土坑(第143～145・232図、PL.105・150)

C区では1～40までの土坑を検出したが、そのうち20土坑は2掘立柱建物の柱穴となり、37土坑は7粘土採掘坑の項で記述した。

概ね50cmを超える大きさの掘り込みを土坑としたが、厳密な区別ではない。土坑の一部には粘土採掘坑の可能性のあるもの、組み合わせ不明の掘立柱建物の柱穴とみられるもの、果樹または植木栽培痕とみられるものを含む。以下、特徴ある土坑のみ記述する。

21土坑は底面から土器片3個(C681～683)が出土した。土器は8世紀後半の所産とみられる。用途不明である。

37土坑は調査時点で粘土採掘坑と認定したが、30土坑と11土坑は壁裾が抉れた状態であり、粘土採掘坑の可能性はある。

29土坑は全体として略楕円形を呈する掘り込みで、13個の石が集中して出土したほか、土器片1個(C687)が出土しており、平安時代に遡る可能性がある。用途不明である。

30土坑出土の土器片3個(C688～690)は9世紀後半の所産と推定する。

個別の土坑の検出位置や計測値、特記事項は、第29表に掲載した。

C区 ピット(第146・233・234図、PL.150)

C区で検出したピットは1～598まで番号を付けた。また、個別のピットの検出位置や計測値、特記事項は、第8表にまとめた。それらのうち9割以上のピットは、近代以降の耕作に伴う掘り込みで、埋没土に締まりがなく、上位の耕作土と同様の土であった。

ここでは代表的なピットを取り上げて掲載し(第146図)、その他のピットは割愛する。遺物を出土したピットは優先的に掲載した。

31N14グリッドで検出した427Pは、径120cmほどの円形を呈し、深さ18cmである。この種の円形ピットはB区の北辺寄りでも認められたが、C区はほぼ全域にわたって検出された。とくに北辺沿いの区域では等間隔に近い距離で規則性をもって並ぶこと、深さが比較的浅いこと、大きさが1m前後で揃っていることなどから、果樹または植木の栽培痕と推定した。調査実施時の近接した畝でも植木栽培をしている畝があり、現代のこの付近では植木の栽培が営まれたと推定される。

56Pは32J16グリッドで検出された径87・深さ39cmの掘り込みで、中から土師器杯の破片が出土した。奈良時代の所産と推定する。

68Pは32G～H13グリッドで検出されたピットで、径112・深さ20cmの略円形のピットである。中から須恵器杯1個(C702)が出土した。平安時代の所産と推定する。

73Pは32H13グリッドで検出したピットで、径106・深さ14cmの略円形を呈する。中から須恵器杯の破片(C706)が出土し、奈良～平安の所産と推定される。

190Pは32F13グリッドで検出したピットで、径136×97・深さ57cmの不整形のピットである。中から土師器杯破片(C717)と石1個が出土した。奈良時代の所産と推定する。

225Pは32B14グリッドで検出したピットで、径61×50・深さ27cmの略円形を呈する。底面から石2個(C722他)が出土した。中から土師器破片も出土し、平安時代の所産と推定する。

231Pは32A1415グリッドで検出したピットで、南北

94・東西72・深さ34cmの不整形ピットである。中から須恵器杯(C725)の破片が出土し、平安時代の所産と推定する。

238Pは32B15グリッドで検出した大き目のピットで、145×121・深さ59cmの略楕円形を呈する。中から須恵器甕(C727)の破片が出土し、平安時代の所産と推定する。

253Pは32C9グリッドで検出したピットで、長方形に近く、177×147・深さ32cmである。中から20～30cm大の石2個と須恵器碗か(C728)が出土した。5掘立柱建物の内部にあり、建物と関連する施設であった可能性がある。時期不明である。

254Pは32D9グリッドで検出したピットで、70×61・深さ54cmの略円形を底とする。確認時に土師器杯の破片が出土した。5掘立柱建物の内部に位置し、建物と関連するピットの可能性がある。奈良時代の所産と推定する。

このほか、1掘立柱建物と2掘立柱建物の南側に組み合わせできないピット群がある。また、6掘立柱建物の北東側、30住居の南西側にも、不整形なピットがあり、単純に現代の耕作痕とできないピットであるが、いずれも用途不明である。

C区 1道路(第147・234図、PL.105)

検出位置 31O15～N7グリッドで検出した。C区の東寄りの北端からB区の21-22住居廊下部まで延びる一連の不整形な溝状掘り込みである。

重複関係 C区40・41住居、9掘立柱建物、B区21-22住居よりも新しい。北半部の373P・374P・425P・426Pはほぼ同じ規模で一列に並び、1道路はこれらのピットよりも古い。

覆土 白色軽石を含む暗褐色系の土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定する。下位に砂や石が認められたことから、溝であった時期もあったとみられる。土層断面(第147図a-b)を記録した場所は40住居と重複しており、道路覆土の下位に40住居覆土を確認した。

形状・規模 天王C区と東紺屋谷戸遺跡との境界とした土管暗渠から南南東方向に直線的に延び、長さ42.2m分を検出した。北端では幅7.2m、南端では幅1.8mである。底面の形状がC区40住居を境にして異なり、40住居以北では幅一杯の不整形な溝状を呈するのに対し、40住居以南では、幅40～50cmの細い2～3本の直線的な溝状を呈

する。調査の都合でB区とC区とは同時調査ができなかったが、記録図を接合すると、一連の遺構であることが分かった。北端部付近では、上端5.2mほどの主要部のほかに、西側に隣接して幅1.7mほどの溝状の遺構があり、これも一連の遺構と推定される。両者の間には細長い三角形の高まり(高さ6~14cm)が存在する。北端主要部と南端の溝中間部とを結ぶ線の方位はN9°Wである。底面の標高は北端部で142.88m、南端部で141.99mとなり、落差は1m弱となる。溝の時期があったことも推定されるが、北端部を調査区外に延長すると、鉄塔南側の畠境界(馬入れ)に一致することから、後に道路として利用されたと推定される。

遺物 重複する遺構からの流入とみられる須恵器片338g、土師器片207gが出土したほか、埋没土から出土した須恵器片5,562g、土師器片3,315g、埴輪片71gがある。金属製品鏝(C753)が出土した。

時代・時期 373P・374P(植木または果樹栽培痕か)などに切られ、40住居を破壊していることから、奈良時代以後で近代までの間の所産と推定する。

天王C区・東紺屋谷戸 旧石器確認トレンチ(第148図)

トレンチ設定位置 天王C区では31Q15・31R12・31R10・32A15・32A12・32D15・32D12・32D10・32G15・32H12・32J15のグリッドに、2m×4mの大ききで計11カ所設定して旧石器の有無の確認調査を行った。東紺屋谷戸では32A18・32D20・32D18・32G20・32G18・32J20・32J18のグリッドに、2m×4mの大ききで計7カ所設定して旧石器の有無の確認調査を行った。各トレンチでは3~5層の堆積が地点により一定ではなかったため、比較的堆積状況の良好な3つのトレンチで南壁-西壁の土層を記録した。

堆積土層 上位の1~4層では板鼻黄色軽石(As-YP)と大窪沢降下軽石(As-OKP)が認められた。天王C区の東半部では、湧水が著しく、6層上面まで掘り下げることができなかった。

所見 各トレンチでは可能な限り6層上面付近まで掘り下げたが、遺構・遺物とも検出されなかった。

第5節 東紺屋谷戸遺跡

東紺屋谷戸遺跡の概要 (第149図、PL.106～108)

東紺屋谷戸遺跡(以下「東紺屋」と略記する)は調査工程の都合により、天王C区とほぼ並行して調査を実施した区域で、第2班が合流して調査を進めた。調査対象面積は2,370.28m²である。天王遺跡と東紺屋谷戸遺跡との境界は、調査当時の前橋市と勢多郡富士見村との行政界であり、調査前の地表では土地の境界杭で認識できたが、そのほかの目立った境界は認められなかった。表土を掘削して遺構確認面に至ると、この境界線上に土管が埋設されており、多少の蛇行が認められたものの、ほぼ行政界の杭の下に位置していた。東紺屋は天王C区北側に接する略三角形の区画である。

着手前の地形は南へ向かって緩やかに低くなり、かつ西端部は無名小河川の崖である。ほぼ全体に住居が分布していると想定して調査を開始した。遺構確認面の標高は、北西端部で143.70m、南西端で142.20m、南東部で143.10mである。

東紺屋北西部では、略東西走行の現代耕作痕が顕著に認められ、中央部では略南北走行の耕作痕があった。畠の土地境界ごとに走行方位が違っていた。

北西寄りの区域では、土坑・ピットが多く認められ、それらの一部は組み合わせにより掘立柱建物と推定された。中央部から南東部にかけての区域では、ピットが並んだ状態で検出されて、組み合わせは比較的容易に推定された。また、円形ピットの一部は果樹または植木栽培痕とみられる。

住居の分布をみると、大まかに西半部と東半部とに分けられ、両者の中間区域に掘立柱建物が近接して検出された。

北西部では住居が密集して検出され、輪郭の確認や前後関係の把握に時間を要した。15住居の床面近くから割れた状態の長い石が出土し、焼けた状態であったことから、カマド焚口の天井石と推定された。その他の住居も奈良～平安時代の住居と考えられる。

粘土採掘坑は当初、住居と想定して輪郭を確認した。しかし、天王C区の調査例が参考となり、不整形や不整形の輪郭は粘土採掘坑とすることができた。粘土採掘坑の検出位置をみると、西側では重複する住居群の縁辺

にあり、中央部では掘立柱建物群の外側、東側では住居・掘立柱建物の縁辺に位置する。遺構確認面の等高線分布でみると、中央部の東西にある、南に開く古い谷地形に分布するように見える。9粘土採掘坑の南東部には階段状を呈する掘り込みが認められ、出入口施設と考えられる。

中央部やや東寄りで1火葬跡を検出した。1道路の西側に位置する。土器等の遺物が出土しなかったので確実ではないが、中世の所産と考えられる。出土人骨は小破片のみである(第181・250～253図)。

中央部で検出した1・2井戸は、西側の古い谷地形にあり、北側の小高い地形の南側に位置しており、湧水点を承知した掘削と推定される。いずれも素掘りの井戸であった。

掘立柱建物は東西の住居分布とほぼ同じ範囲に分布するが、中央部では住居が分布しない区域に設置されていた。また、掘立柱建物の長軸方位に注目すると、北から数10°傾いた2・10掘立柱建物と、北から10°前後傾いた1・5・9掘立柱建物の二方向に大きく分かれることが判明した。

中央部やや東寄りで1道路を検出した。遺構確認面の等高線でみると、尾根筋を略南北に走行しており、その方位は土管の走行とほぼ直角に交差する。近現代の道路と推定される。

東紺屋 1住居(第150・235図、PL.108・109・150)

検出位置 32区J～K19～20グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸南西部にあり、天王C区27住居との最短距離は5.9m、東側の1粘土採掘坑・3粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)との最短距離はそれぞれ11.4m、4.9mである。隣接する3掘立柱建物とは重複したようにみえる。重複関係 住居に注目して見逃したか、使用面P1と掘り方南東隅の掘り込みが柱穴の可能性もある。北東部に風倒木痕が重複する。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。壁際が三角堆積を示し、上位はレンズ状に堆積するので、自然な埋没と推定する。

壁 高さ16～31cmで、北辺がやや深い。東西3.44m、南北4.59mで南北に長い長方形を呈し、南辺がやや長い。各辺の長さは南辺3.43m、西辺3.95m、北辺3.04m、東

辺4.11mである。

床面 比較的締まった床面をもち、ほぼ平坦である。壁際は軟らかい。

支柱穴 検出できたピットはP1のみで、二段に掘り込まれる。3掘立柱建物の柱穴の可能性ある。南東隅の掘り込みは貯蔵穴とみられる。P1:37×33・深さ42cmである。

壁溝 カマド前を除き、ほぼ全周する。幅15～23・底面幅3～9・深さ3～9cmである。

カマド 東辺中央部やや南寄りに設置する。燃烧部は住居の壁ラインよりもやや外にあり、奥壁は3cmほどの段差となる。左右の袖部の大半を失っており、基部を残すのみであった。袖部の間は略楕円形の1～6cmの掘り込みとなる。煙道部の内側は焼けて焼土化し、長さ約40cmのトンネル状を呈し、煙出しは径30cmほどの掘り込みで、周囲の壁は良く焼けて焼土化していた。

貯蔵穴 南東隅の略楕円形の掘り込みとみられ、二段に掘り込まれていた。中から土師器杯片(3)が出土した。規模は127×98・深さ36cmである。

掘り方 中央部から西辺にかけて90～120cm大の掘り込みが3個されたほか、北東隅にも不整形の径約120cmの掘り込みが認められた。深さ13～40cmで、いずれも底面中央部が凸を呈する。

その他 カマド袖部の遺存が不良であるにもかかわらず、煙道部は良く残っている。

遺物 カマド前から土師器甕片(8)が、P1付近から土師器杯片(6)、須恵器甕片(10)が、南辺の壁際から須恵器転用硯(11)が、西辺の壁際から細長い石が、北西隅近くから須恵器(4)・土師器杯(5)がそれぞれ出土した。いずれも床面からやや浮いた状態であった。また、カマド煙道部掘り方から土器片が、南辺寄りの掘り方から土器片土師器杯片(2)がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の所産と推定する。

東紺屋 3住居(第151・235図、PL.109・110・150)

検出位置 42区I 4グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、4住居との最短距離は0.3m、5住居・北側の23住居との最短距離は3.2m・3.5mである。4住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 5掘立柱建物の北西隅相当の34P及び41Pは、

本住居の埋没後に掘り込まれており、3住居→5掘立柱建物の順に新しい。本住居中央部を略東西に耕作痕が破壊していた。

覆土 白色軽石を多く含む黒色系の土で埋没する。上位はレンズ状に堆積するので、自然な埋没と推定する。

壁 高さ37～60cmで、北辺が深い。耕作痕により北東隅から北辺の東半部と南東隅を欠く。東西3.58m、南北4.76mで南北に長い、全体として不整形である。各辺の長さは南辺2.91m(推定2.90m)、西辺4.25m、北辺0.80m(推定2.50m)、東辺2.83m(推定4.40m)である。

床面 カマド前から南寄りにかけて、硬く締まった床面を検出した。南壁寄りの床面に、上面97×82・下端128×112cm・高さ1～7cmの不整形を呈する高まりを検出した。

支柱穴 東辺にかかる34Pと41Pは5掘立柱建物に所属し、本住居の内部で検出した掘り込みは南東隅付近の貯蔵穴とみられるもののみである。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部に設置する。燃烧部は住居の壁ラインよりも内側にあり、奥壁が壁ラインから外へ出る。右袖部は耕作痕により破壊されていたが、左袖部の一部は遺存していた。左袖部は約60cmほど遺存し、よく焼けていた。燃烧部には灰と焼土が認められた。住居外の煙道部の延びる位置に焼土が分布した。

貯蔵穴 南東隅の不整形の掘り込みとみられ、二段に掘り込まれていた。規模は104×91・深さ27cmである。

掘り方 ほぼ全体に径1m前後の不整形の掘り込みが認められた。底面の凹凸が著しい。

その他 南辺近くの上に凸の部分は、出入口施設の可能性がある。

遺物 カマド焚口付近から土器片が、南辺の壁際から土師器杯(12)が、南西隅に近い範囲から細長い石・土器片土師器甕片(28)・須恵器甕片(30)が、中央部北寄りから土師器杯(21・22)がそれぞれ出土した。いずれも床面からやや浮いた状態であった。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 4住居(第152・153・236図、PL.110・150)

検出位置 42区H～I 3グリッド付近で検出した。東紺

屋谷戸北西部にあり、3住居との最短距離は0.3m、10住居・9 a住居との最短距離は2.1m・3.2mである。3住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 5掘立柱建物の南西隅相当の40Pは、本住居の埋没後に掘り込まれており、4住居→5掘立柱建物の順に新しい。本住居中央部を略東西に耕作痕が破壊していた。同時に着手した5住居との前後関係は、両者の境目に耕作痕が入っていたほかに、偶然境界線相当の位置に上位から不明土坑が入って土層が乱されていたため、判定できなかった。5住居北辺は耕作痕底面の中央部付近に立ち上がりが認められることから、耕作痕の北側には広がらないと推定する。床面は5住居の方が深い。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。4住居はレンズ状に堆積するので自然な埋没と推定するが、5住居はウネリがあり、とくに南端付近はダンゴ状や不整形の土層など乱れがみられ、埋められた可能性がある。

壁 高さ17～32cmで、北辺がやや深い。耕作痕と土坑・5住居との切り合いにより南西隅から南辺の大半を欠く。カマド北側の位置で東西2.78m、南北3.12m(推定3.40m)で南北に長い長方形を呈する。各辺の長さは南辺0.60m(推定2.60m)、西辺2.32m(推定3.20m)、北辺2.53m、東辺2.94mである。

床面 カマド前から中央部のP1まで、概ね東半部で硬く締まった床面を検出した。

支柱穴 不明。東辺にかかる40Pは5掘立柱建物に所属し、本住居の内部で検出した掘り込みは南東隅付近の貯蔵穴とみられるものと、P1のみである。規模はP1:64×48・深さ21cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部やや南寄りに設置する。燃焼部は住居の壁にかかり、左袖石の東端が住居の壁ラインとなる。右袖石相当の位置では37×24・深さ3cmの浅い小穴を検出し、右袖石の抜き跡と考えられる。カマドの中軸線は北辺と平行にならず、やや傾いている。左袖石は焼けた痕跡を残し、焚口底面から土師器甕の内面を上にした破片(40)、燃焼部奥から土師器杯(33)が完形で出土した。

貯蔵穴 南東隅の不整形の掘り込みとみられ、二段に掘り込まれていた。規模は88×58・深さ16cmである。

掘り方 中央部やや西寄りで93×83・深さ34cmの掘り込

みを検出した。この掘り込みの底面は下端35×20・上端径7・高さ4cmの円錐台状に盛り上がっていた。中央部の底面は凹凸が著しい。南西隅付近の掘り込みから略完形の土器が、カマド左脇の底面から土器片8個と半円形の石9個が出土した。

その他 第152図a-bの不明土坑底面の土は、4住居床面を形成する土であった可能性がある。

遺物 カマド付近から土師器甕片(40・41)・杯(33)が、南辺寄りの床面から土師器杯(32)がそれぞれ出土したほか、掘り方からも土器片が出土した。埋没土中からは須恵器片327g、土師器片815gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 5住居

(第152・153・236図、PL.110・111・150)

検出位置 42区H～I・2～3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、3住居との最短距離は3.2m、10住居・9 a住居・11住居・12住居との最短距離は1.2m・3.6m・4.0m・2.8mである。10住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 同時に着手した4住居との前後関係は、両者の境目に耕作痕が入っていたほかに、偶然境界線相当の位置に上位から不明土坑が入って土層が乱されていたため、判定できなかった。5住居北辺は耕作痕底面の中央部付近に立ち上がりが認められることから、耕作痕の北側には広がらないと推定する。床面は5住居の方が深い。
覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。5住居の南端付近はダンゴ状や不整形の土層など乱れがみられ、埋められた可能性がある。

壁 高さ28～51cmで、北辺・東辺がやや深い。耕作痕と土坑・4住居との切り合いにより北東隅から北辺の東半部を欠く。カマド北側の位置で東西4.04m、南北3.96m(推定4.50m)で南北に長い、南辺が1.5～2mの長さで突出しているため、不整形となる。各辺の長さは南辺3.32m(推定3.50m)、西辺2.82m(推定3.20m)、北辺1.45m(推定3.80m)、東辺2.94m(推定3.20m)である。

床面 カマド前から中央部・東辺沿いの掘り込みまで、東半部の一部で硬く締まった床面を検出した。東辺に接

して東西3.3m、南北2.9mほどの略方形の範囲が、深さ6～16cmに掘り込まれていた。この範囲は壁際とは別の土で覆われていた。

支柱穴 南辺の突出部の東西に不整形の掘り込みが認められ、東側では不整形の掘り込み中に小穴2個(深さ20・23cm)が、西側でも小穴2個(北側ピットの深さ49cm)を検出した。南西隅付近の小穴は39×28・深さ9cmと浅い。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部南寄りに設置する。燃烧部は住居の壁にかかる。左右の袖部は薄い粘土板状を呈し、大半を欠いていた。燃烧部の規模は78×54・深さ7cmである。カマドの中軸線は北辺と平行にならず、やや傾いている。

貯蔵穴 北東隅の略楕円形の掘り込みとみられ、二段に掘り込まれていた。規模は76×68・深さ44cmで、底面から長さ15cm以下の石6個がまとまって出土した。

掘り方 中央部やや北寄りで略楕円形を呈する153×122・深さ40cmの土坑1を検出した。この底面は青灰色粘土に達していたことから、粘土を採掘した可能性がある。

その他 南辺中央部は外に突出しており、その両側にピットが認められたこと、内側の低い床面の硬化面がカマド前から延びていたこと、掘り方調査では底面が著しい凹凸を呈し、略楕円形に掘り込まれていたことなどから、出入口施設であった可能性が高い。

遺物 貯蔵穴内から石のほか土器片が、P1付近から土器片がそれぞれ出土し、埋没土からは須恵器片117g、土師器片1269gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 6住居

(第154～156・236図、PL.111・112・151)

検出位置 42区F～G・3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、5掘立柱建物との最短距離は2.9m、7住居・9b住居との最短距離は1.7m・0.2mである。9b住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 同時に着手した8・9a・9b・9c住居との前後関係は、埋没土の状況から9c住居→6住居→8住居の順に新しい。8住居の掘り込みが浅かったためか、

6住居のカマド痕跡が遺存していた。9a・9b住居との直接的な前後関係は不明である。

覆土 白色軽石を多く含む黒褐色系の土で埋没する。床面直上の土層と壁際の土層堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ28～45cmで、北辺がやや深い。耕作痕と8住居との切り合いにより、カマドから南東隅にかけて破壊されていた。カマド北側の位置で東西3.79m、南北4.15mで南北にやや長い。各辺の長さは南辺2.51m(推定3.03m)、西辺3.70m、北辺3.06m、東辺1.22m(推定3.47m)である。

床面 カマド前から各辺の壁際近くまで、硬く締まった床面を検出した。

支柱穴 不明。東辺のカマド両脇に、不整形の掘り込みが2個認められた。各ピットの規模はP1:47×35・深さ12cm、P2:29×25・深さ15cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部やや南寄りに設置する。燃烧部は住居の壁推定線の内側にあると推定される。カマド前に58×46cmの範囲で焼土が散布していた。左袖部の基部がわずかに遺存していたが、右袖部は不整形で不明である。貯蔵穴 掘り方調査で南東隅に120×91・深さ11cmの菱形を呈する浅い掘り込みが認められ、貯蔵穴の可能性はある。

掘り方 南西隅を除き、底面に著しい凹凸が認められた。その他 西辺沿いに壁外から16～35cmの中段があり、出入り口の可能性がある。

遺物 北辺西寄りの壁際から須恵器壺(56)が床面からやや浮いた状態で出土したほか、埋没土から須恵器片711g、土師器片2748gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 7住居(第157・237図、PL.112・151)

検出位置 42区F～G・4グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、13掘立柱建物の内側にある。5掘立柱建物との最短距離は3.9m、3住居・6住居との最短距離は8.4m・1.7mである。13掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 耕作痕が略東西に3本走り、中央の耕作痕は

本住居のカマドを破壊していた。また、カマド付近に25土坑が重複し、カマドを破壊していた。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。耕作痕の壁を利用した土層なので不確実だが、壁際で斜めに堆積していることから、自然埋没と推定する。

壁 高さ14~20cmで、北辺がやや深い。調査区壁に一部がかかると、北東辺・北辺を欠き、耕作痕により南辺も欠く。したがって住居の全体像は不確実である。南北推定3.60m、東西2.80m(推定2.90m)で南北に長い長方形と推定される。各辺の長さは南辺推定2.30m、西辺3.02m(推定3.40m)、北辺推定2.40m、東辺1.69m(推定3.20m)である。

床面 カマド前から西辺の壁際まで、住居南半部で硬く締まった床面を検出した。南東隅付近には灰・炭化物が分布していた。

支柱穴 不明。掘り方調査でP1~P3を検出したが、いずれも不正形で浅い。各ピットの規模はP1:25×20・深さ12cm、P2:30以上×16・深さ13cm、P3:29×25・深さ8cmである。

壁溝 なし。

カマド 東辺の耕作痕断面で確認した。燃烧部は住居の壁外に出る位置にある。周辺の遺存する床面に炭化物が分布していたことから、この付近にカマドが存在したと考えられる。大半は耕作痕により破壊されていたが、土器片がいくつか残っていた。

貯蔵穴 掘り方調査で南東隅の位置に83×54・深さ30cmの不整形掘り込みを検出した。二段に掘り込まれ、南寄りの深い小穴から土器11個が出土した。

掘り方 中央部やや南西寄りで略楕円形の外側に不整形掘り込みを伴う土坑1を検出した。中央部は略楕円形を呈し、103×88・深さ33cmで、底面に深さ5~8cmの小穴が3個認められた。

その他 25土坑と耕作痕による破壊が著しく、南辺・北東隅を欠いており、詳細は不明である。

遺物 貯蔵穴内から土師器杯(61)が出土したほか、カマド右脇の床面から略完形の土師器杯(60)が、南西隅付近から土師器杯(62)が、中央部から土師器杯(65)のほか石と細長い石がそれぞれ出土した。埋没土からは須恵器片62g、土師器片908gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代

の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 8住居

(第154・155・157・158・237図、PL.113・151)

検出位置 42区F 2~3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、本住居の南西側に住居が重複して発見されている。7住居との最短距離は3.7m、9c住居・11住居との最短距離は1.0m・1.6mである。6住居を介して9c住居→6住居→8住居の前後関係があり、9c住居との同時存在はない。11住居との同時存在も困難と推定する。

重複関係 北東隅に6住居が、南辺に15住居がそれぞれ重複し、いずれも8住居の方が新しい。

覆土 白色軽石・ロームブロックを含む黒色系の土で埋没する。埋没土は薄い、壁際の堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ8~15cmで、北辺・東辺がやや深い。北辺は壁溝の外側に高さ12cm前後の壁が認められた。テラス状の中段を持っていた可能性がある。住居中央部で東西3.72m、南北4.92mで南北に長い(壁溝で計測)、西辺よりも東辺が長い、台形を呈する。各辺の長さは南辺3.16m、西辺4.03m、北辺3.11m、東辺4.89mである。

床面 カマド前から中央部・南辺寄りで硬く締まった床面を検出した。

支柱穴 不明。掘り方調査でP1~P6を検出したが、P1を除いて柱穴とはなりにくい。P5・P6はカマド2に関連するピットと推定する。各ピットの規模はP1:30×25・深さ49cm、P2:41×29・深さ12cm、P3:31×29・深さ13cm、P4:26×23・深さ9cm、P5:25×16・深さ15cm、P6:30×21・深さ12cmである。

壁溝 カマド1の両側から南辺西寄りを除き、ほぼ全周する。幅12~25・底面幅2~12・深さ3~10cmである。

カマド 遺存状態から、カマド2→カマド1に作り替えたと推定される。カマド1は東辺南寄りに設置する。耕作痕により上位を破壊されていたが、深い部分は遺存していた。燃烧部は2/3ほどが住居の壁ラインの外にある。左袖部は基部の粘土が遺存し、右袖部には石が立てた状態で遺存していた。深さ4~5cmの燃烧部底面には灰が分布し、奥壁近くでは焼土が分布し、両側の壁はよく焼けて焼土化していた。燃烧部から焚口にかけて、割れた

状態の石が6個出土したことから、袖部の構築材であったとみられる。カマド奥壁近くの石はやや左側に位置し、焼けた状態で据えられており、支脚として利用されたと考えられる。カマドの中軸線は南辺・北辺と平行にならず、住居短軸線とも平行しない。

貯蔵穴 不明。定型的な位置では検出していない。

掘り方 中央部の掘り方調査で土坑1・土坑2を検出した。土坑1は隅丸の方形を呈し、126×119・深さ55cmで二段に掘り込まれ、東側に不整形で一段浅い突出部を伴う。土坑2は83×74・深さ64cmの規模で、南側を除く三方に不整形の掘り込みがある。東辺沿いは比較的平坦な面をもち、北辺東寄りでは、床面水準で検出した中段が幅15～40cmのテラス状となった。

その他 南辺の中央部から南東隅にかけての範囲は壁溝がなく、硬い床面が南側へ突出することから、南辺に出入り口が設置された可能性がある。

遺物 カマド1燃焼部から須恵器蓋(77)が、カマド2の前から須恵器蓋(78)が、南辺沿いの床面からやや浮いた状態で土師器杯(75)・須恵器杯(81)が、北西隅付近から割れた石が、北東隅付近から割れた石がそれぞれ出土した。埋没土中からは須恵器片809g、土師器片3076gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、平安時代の9世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 9a住居(第154・155・237図、PL.113・114)

検出位置 42区G～H・2～3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、住居が7軒重複する。4住居との最短距離は3.2m、6住居との最短距離は0.2mである。

重複関係 6住居を介して10住居→9c住居→9b住居→9a住居→6住居→8住居、及び9a・b・c住居→11住居・15住居→8住居の前後関係がある。

覆土 ロームブロックを含む黒色系の土で埋没する。埋没土は薄い、堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ2～19cmで、ごく浅い。9b住居の輪郭とほぼ重なる状態であり、9b住居の作り替えの可能性がある。東辺・南東隅が不確実である。推定中央部で南北4.66m、東西3.24mで長方形を呈する。各辺の長さは南辺2.10m(推定3.10m)、西辺4.50m、北辺2.37m、東辺

推定4.40mである。

床面 北西隅を除く範囲で硬い床面を検出したが、東半部では曖昧になる。カマド推定範囲の西側に灰が分布していた。

柱穴 不明。

壁溝 南辺西寄りから北辺に連続する。幅8～16・底面幅2～9・深さ6～16cmである。

カマド 東辺南寄りと推定するが、カマド本体は不検出である。

貯蔵穴 不明。定型的な位置では検出していない。

掘り方 下位に9b住居があり、掘り方の詳細は不明である。

その他 9a住居は全体像が不明である。

遺物 南辺壁際から土器片が出土した。9a・9b・9c住居を合わせて、須恵器片509g、土師器片2701gが出土した。

時代・時期 9b・9cよりも新しく、8住居よりも古いことから、奈良時代の8世紀の所産と推定する。

東紺屋 9b住居

(第154・155・159・237図、PL.114・115)

検出位置 42区G～H・2～3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、住居が7軒重複する。4住居との最短距離は3.2m、6住居との最短距離は0.2mである。

重複関係 6住居を介して10住居→9c住居→9b住居→9a住居→6住居→8住居、及び9a・b・c住居→11住居・15住居→8住居の前後関係がある。

覆土 ロームブロックを含む黒系の土で埋没する。9a住居の床面を作るために、9b住居床面を形成する土の上に上乗せされた可能性がある。

壁 高さ19～27cmで、西辺・北辺がやや高い。9a住居の輪郭とほぼ重なる状態であり、9a住居の作り替えの可能性がある。南東隅を欠くが、ほぼ全体の形状は分かる。推定中央部で南北4.69m、東西3.27mで長方形を呈する。各辺の長さは南辺2.12m(推定2.90m)、西辺4.48m、北辺2.94m、東辺4.53m(推定4.70m)である。

床面 南辺中央部と北東隅付近で硬い床面を検出した。カマド前から東辺南端付近には粘土が散布し、北西隅・南半部には焼土・灰が分布していた。

柱穴 掘り方調査で50×28以上・深さ13cmのP1を検出したが、やや浅い。

壁溝 南辺西寄りから北辺に連続する。幅6～19・底面幅3～9・深さ1～12cmである。

カマド 東辺中央部やや南寄りに設置する。左右の袖部を粘土で構築し、燃烧部は住居壁ラインの内側にある。奥壁は急角度で二段に立ち上がる。煙道につながる部分には灰層が認められた。カマド前に広がる粘土は、構築材とした粘土が広がったと考えられる。散布する焼土は、湿気止めとして意図的に撒かれた可能性がある。

貯蔵穴 不明。9c住居北辺の中央土坑に可能性がある。掘り方 北西隅に接して147×133・深さ43cmの略楕円形を呈する土坑1を検出した。東辺から南辺にかけては二段に掘り込まれ、底面には凹凸がある。住居の底面は凹凸が著しい。

その他 9b住居は9a住居の輪郭とほぼ重なっており、何らかの原因によって9b住居を埋め、9a住居を造成したと考えられる。

遺物 カマド右袖部から土師器甕(88)が、北西隅付近から土器片がそれぞれ出土した。

時代・時期 9c住居よりも新しく、8住居よりも古いことから、奈良時代の8世紀の所産と推定する。

東紺屋 9c住居

(第154・155・160・237・238図、PL.115・116・151)

検出位置 42区G・2～3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、住居が7軒重複する。4住居との最短距離は4.6m、8住居・15住居との最短距離は1.0m・1.7mである。8住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 6住居を介して10住居→9c住居→9b住居→9a住居→6住居→8住居、及び9a・b・c住居→11住居・15住居→8住居の前後関係がある。31A・B・C土坑は9c住居より新しい。

覆土 ロームブロックを含む黒色系の土で埋没する。9b住居よりも深く掘り下げられており、南東側へずれていることから、カマドの遺存が良好であった。

壁 高さ18～68cmであるが、重複のない東辺では65cm前後であり、本来の高さは70cm以上あったと推定される。

9a・9b住居の輪郭とはズレがあり、前後関係も認定

できたので、9c住居は9a・9b住居よりも古い存在である。西辺北寄りには31A・B・C土坑で破壊されていたが、その他の範囲は遺存し、ほぼ全体の形状が判明した。中央部で南北4.54m、東西3.51mで長方形を呈する。各辺の長さは南辺3.63m、西辺4.08m、北辺3.09m、東辺4.34mである。カマド左側の壁際は壁溝が2本並行し、その分突出して外形に段が生じていた。

床面 カマド前から南辺沿いの南半部、北西隅にかけて硬い床面を検出した。

柱穴 床面水準でP1～P4を検出したが、位置関係に難がある。各ピットの規模はP1:40×33・深さ14cm、P2:38×35・深さ27cm、P3:47×32・深さ19cm、P4:43×41・深さ9cmである。

壁溝 南辺西寄りから北辺に連続し、東辺のカマド左袖部近くでは二重となって壁が突出する。幅17～28・底面幅5～10・深さ1～10cmである。

カマド 東辺中央部南寄りに設置する。左右の袖先端部に石を据えて粘土で固め、燃烧部は住居壁ラインの内側にある。奥壁は急角度で立ち上がり、煙道天井部が遺存し、煙り出しの孔につながっていた。燃烧部中央から焼けた石が出土し、支脚として使われたと考えられる。燃烧部内から土師器甕(92)が、左袖部脇から土師器甕(91)が出土したほか、土器片が比較的多く出土した。

貯蔵穴 南東隅に設置する。やや不整形だが、定型的な位置から検出した。規模は53×48・深さ25cmである。

掘り方 南辺沿い、北半部に不整形な掘り込みが認められた。底面は凹凸が著しい。

その他 南西隅付近に向けて、舌状に硬化面が広がることから、この付近に出入口施設が想定できる。北辺中央部にかかって147×75・深さ33cmの略楕円形を呈する不明土坑を検出した。土坑の北側は二段に掘り込まれ、さらに内部には小穴2個と南寄りに50cm大の略方形の掘り込みが認められた。この不明土坑は9c住居の北壁沿い壁溝を破壊していることから、9c住居よりも新しい。規模と壁の向きを勘案すると、この不明土坑は9b住居の貯蔵穴の可能性もある。

遺物 前述のカマド付近出土土器のほか、南西隅から須恵器蓋(90)が、南辺中央部の床面から壁にかけて細長い石8個がそれぞれ出土した。

時代・時期 9a・9b住居より古く、10住居よりも新

しいこと、出土遺物の特徴等から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

東紺屋 10住居

(第154・155・161・239図、PL.116・117・152)

検出位置 42区H2グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、住居が7軒重複する。4住居との最短距離は2.1m、5住居・11住居・12住居との最短距離は1.2m・1.5m・1.9mである。5住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 6住居を介して10住居→9c住居→9b住居→9a住居→6住居→8住居、及び9a・b・c住居→11住居・15住居→8住居の前後関係がある。31A・B・C土坑は9c住居より新しく、10住居の東辺も破壊している。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。9b住居よりも深く掘り下げられており、掘り方は9c住居とほぼ同じ深さに及ぶが、カマドは9b住居によって破壊されていた。

壁 高さ26~31cmで、南北3.00m、カマド南側で東西2.64mの略方形を呈する。東辺は31A・B・C土坑と9b住居によって破壊され、カマド痕跡の灰・焼土等の分布を確認したのみである。各辺の長さは南辺2.37m、西辺2.75m、北辺2.27m(推定2.40m)、東辺0.53m(推定2.60m)である。

床面 カマド前から中央部にかけて硬い床面を検出した。

柱穴 不明。掘り方調査で小穴を多数検出したが、柱穴と想定できるものがなかった。

壁溝 なし。

カマド 東辺中央部南寄りに設置したとみられる。深さ数cmの略方形の掘り込みが東側に方形を呈して認められ、内部に灰・炭化物・焼土が散布していた。その他のカマド関連施設は確認できなかった。

貯蔵穴 南東隅に設置する。やや不整形だが、定型的な位置から検出した。規模は33×24・深さ21cmで、中から土師器甕(121)・杯(118)が出土し、東側の床面から土師器甕(120)が、西側から25cm大の石が出土した。

掘り方 中央部北寄りです98×88・深さ35cmの略方形を呈する掘り込みが認められたほか、小穴多数を検出した。

その他 他の住居に比較して規模が小さい。

遺物 前述の貯蔵穴付近出土土器のほか、中央部北寄りで土師器甕(122)が、南寄りで土師器杯(117)が、南辺西寄りの壁際から細長い石2個がそれぞれ出土した。埋没土中からは須恵器片35g、土師器片755gが出土した。

時代・時期 9c住居より古いことと出土遺物の特徴等から(遺物は混在している)、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

東紺屋 11住居

(第154・155・162・163・239図、PL.117・118・152)

検出位置 42区G~H・1~2グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、住居が7軒重複する。5住居との最短距離は4.0m、10住居・12住居・15住居との最短距離は1.5m・0.3m・1.7mである。12住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 6住居を介して10住居→9c住居→9b住居→9a住居→6住居→8住居、及び9a・b・c住居→11住居・15住居→8住居の前後関係がある。

覆土 ロームブロック・焼土・白色軽石を少量含む暗褐色系の土で埋没する。9c住居とほぼ同じ深さに掘り下げられており、北辺がわずかに9c住居にかかる。

壁 高さ10~37cmで、南北6.77m、カマド北側で東西5.52mの長方形を呈するが、北辺に比べて南辺が短いため、全体として台形となる。北辺東半部は9c住居と重複し、本住居の方が新しい。各辺の長さは南辺4.81m、西辺5.97m、北辺5.51m、東辺6.36mである。東紺屋谷戸遺跡で検出した住居のなかで最大の規模をもつ。

床面 カマド前から西辺にかけて硬い床面を検出した。南辺沿い・北辺沿いでは、硬い床面にならない。

主柱穴 P1~P4と考えられる。住居南辺と同じく、P2-P3の距離がやや短い。各ピットの規模はP1:三段81×74・深さ88cm、P2:二段113×101・深さ51cm、P3:三段83×73・深さ61cm、P4:二段66×57・深さ42cm、P1-P2:392cm、P2-P3:242cm、P3-P4:355cm、P4-P1:287cmである。P5はP2-P3のP2寄りにあり、規模は105×92・深さ33cmとやや浅い。いずれも二~三段に掘り込まれ、内部に小穴がある。

壁溝 南東隅を除き、ほぼ全周する。カマド南側から南辺東半部にかけて壁溝がなく、内側に貯蔵穴が検出され

た。幅41～54・底面幅8～29・深さ3～14cmで全体に幅が広いが、北辺の東半部のみは内側に細い壁溝がある。また、西辺から北辺の壁溝内には小穴と短い溝が認められた。

カマド 東辺中央部南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの内側にあり、奥壁の位置が壁ラインに一致する。左右の袖部粘土が遺存し、上位の内側は良く焼けて焼土化していた。中から土師器甕破片(129)、須恵器蓋(126)が出土した。

貯蔵穴 南東隅に設置する。略楕円形で定型的な位置から検出した。規模は112×78・深さ18cmで、内部に小穴が認められた。南西側の床面から須恵器杯(128)が出土し、北側からは15～20cm大の石が出土した。

掘り方 P2の北側で柱穴とみられるP6を検出した。規模は41×33・深さ53cmで、P1-P6:326cm、P6-P3:266cm、P3-P4:353cm、P4-P1:288cmである。また、西辺寄りの中央部で略楕円形を呈する土坑1を検出した。最上位は床面を形成する土で、内部は黒褐色土にロームブロックが混じる土で埋没していた。このほか、中央部には径1～1.5mほどの浅い掘り込みが認められ、掘り方底面は著しい凹凸をもつ。

その他 天王C区の住居を含めて、周囲の住居のなかでは規模がもっとも大きい。

遺物 前述のカマド出土土器、貯蔵穴付近出土土器のほか、カマド北側の壁寄りから不明銅製品(133)、カマド前から石製品紡輪(132)がそれぞれ出土した。埋没土中からは須恵器片875g、土師器片3831gが出土したほか、9住居と分離できない須恵器片96g、土師器片2369gが出土した。

時代・時期 9c住居より新しいこと、出土遺物の特徴等から、奈良時代の8世紀後半の所産と推定する。

東紺屋 12住居

(第163・164・240図、PL.118・119・152・153)

検出位置 42区H～I 1グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、本住居の北東側に住居が重複して発見されている。5住居との最短距離は2.8m、10住居・11住居との最短距離は1.9m・0.3mである。11住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 南西隅に3粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記

する)が重複し、12住居→3粘採の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。壁際の堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ26～41cmで、北辺・東辺がやや深い。住居中央部で東西3.80m、南北4.73mで南北に長い長方形を呈する。各辺の長さは南辺3.27m(推定3.60m)、西辺2.31m(推定4.40m)、北辺3.73m、東辺4.71mである。

床面 カマド前から中央部で硬く締まった床面を検出した。北辺沿い・南西隅付近では硬い床面を検出できなかった。

支柱穴 不明。掘り方調査で小穴を多数検出したが、想定される位置で柱穴とみられる掘り込みは検出できなかった。

壁溝 南辺沿い～西辺沿い・東辺のカマド北側沿いで検出した。北辺では検出していない。幅13～29・底面幅3～9・深さ1～9cmである。

カマド 東辺南寄りに設置する。燃焼部の1/2ほどが住居の壁ラインの外にある。左右の袖部粘土の一部が遺存し、カマド前の床面には灰が分布していた。左袖部先端には土師器甕を伏せた状態で設置し、中には石を据えていた。また、燃焼部中央に焼けた状態の石が据えられていた。支脚として利用されたと考えられる。奥壁は斜めに立ち上がる。燃焼部から土器片が多く出土したほか、左袖部にかかるように土師器甕破片が1～2個体分並んで出土し、焚き口天井部を甕で形成したとみられる。カマド前にも土器片が散布していた。カマドの中軸線は南辺・北辺と平行にならず、住居短軸線とも平行しない。

貯蔵穴 南東隅の掘り込みと考えられる。この掘り込みの西側は緩い斜面となって南辺の壁際の底面につながり、独立した掘り込みとはならない。規模は92×81・深さ9cmである。

掘り方 中央部やや北寄りで不整形の土坑1を検出した。規模は2.5×1.8m・深さ47cmである。北東隅付近を除き、底面に小穴を多く検出した。

その他 壁溝の一部は浅い小穴が連続したような状態であった。

遺物 カマド燃焼部からカマド前にかけて土器片多数が、南東隅の貯蔵穴とみられる掘り込みから完形の土師器杯(134・135)と礫石器敲石(145)が、北西隅に近い床面から完形の土師器杯(136)がそれぞれ出土した。埋没

土中からは須恵器片222g、土師器片1178gが出土した。
時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

東紺屋 15住居(第165・240図、PL.119・120・153)

検出位置 42区F 1～2グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西部にあり、本住居の西側に住居が重複して発見されている。9c住居との最短距離は1.7m、11住居との最短距離は1.7mである。本住居は重複して検出された住居群の東端に位置する。

重複関係 6住居・8住居と重複し、6住居→8住居、15住居→8住居の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。壁際の堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ25～38cmで、8住居と重複する北辺では9～16cm、東辺では30～38cmが遺存する。住居中央部で東西3.62m、南北5.44mで南北に長い長方形を呈するが、南辺がやや短いため、全体として台形となる。各辺の長さは南辺2.87m、西辺4.89m、北辺3.37m、東辺5.04mである。

床面 カマド前から中央部及び北寄りにかけて硬く締まった床面を検出し、南西隅から北辺沿いの底面は、硬い床面から1～3cm低くなっていた。硬い床面は西辺中央部につながる。カマド前の床面には焼土が散布し、中央部寄りには炭化物・焼土が分布していた。炭化物は南東隅付近にも広がる。中央部で土坑1・2を検出した。2つの土坑は接する状態にあり、北側の土坑1は不整形、土坑2は三段に掘り込まれていた。規模は土坑1:103×82・深さ17cm、土坑2:93×72・深さ33cmである。

支柱穴 不明。掘り方調査で南西隅付近、西辺際北寄り、北東隅付近に不整形の掘り込みを検出したが、想定される位置で柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

壁溝 なし。

カマド 東辺南寄りに設置する。左袖部では20×17・深さ13cmの小穴を検出し、袖石の掘り方と考えられる。右袖部では石が出土し、袖部の構築材とみられる。両袖部を結ぶ線は住居の壁ラインに一致し、燃焼部は住居の壁外になる。左袖部の北寄りで35cm大の石と、70cm大の石(割れて2個として検出)が出土し、カマド焚口天井部を形成する袖石(151)と推定される。奥壁は12cmの段差を

形成し、煙出しにつながる。カマドの中軸線は北辺と平行にならず、住居短軸線とも平行しない。

貯蔵穴 南東隅の掘り込みの可能性があるが、規模が186×122cmと大きいにもかかわらず、深さは7cmと浅く、不確実である。

掘り方 土坑1・2の東側に接して土坑3を、南辺東寄りで土坑4を検出した。土坑3の中から土器片が出土し、土坑4の内部には3個の小穴が掘り込まれていた。規模は土坑3:128×113・深さ30cm、土坑4:132×121・深さ36cmである。土坑4が貯蔵穴であった可能性がある。そのほか、南西隅付近、北西隅寄りの壁際、北東隅付近で不整形の掘り込みを検出した。底面の凹凸が著しい。

その他 硬い床面が西辺中央部につながることから、西辺に出入口が想定できる。

遺物 カマド燃焼部から土器片が、カマド左脇の壁際から略完形の土師器杯(147)が、北寄りの底面から須恵器杯(148)・椀(149)の土器及び3個の石が、カマド左袖部の北側から焼けた状態の石と2つに割れたかまど石(152)がそれぞれ出土した。かまど石(152)は表面が削られた加工痕がある。埋没土中からは須恵器片424g、土師器片2962gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀後半～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 17住居(第166・241図、PL.120・154)

検出位置 31区S～T 19～20グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸中央部北端にあり、周囲の住居とはやや離れた位置にある。北側用地外に推定される住居群の一部と考えられる。南側の19住居・9粘土採掘坑との最短距離は11.2m・8.5m、西側の15住居との最短距離は28.2mである。

重複関係 調査区内では、上位に近現代の耕作痕が走る。
覆土 白色軽石を含む褐色系の土で埋没する。壁際の堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ29～39cmで、南隅を含む略三角形範囲を検出したのみである。大半は調査区外に存在する。約40cmほど北側に拡張したが、軟弱な島の耕作土があつて崩落の危険があつたため、用地限界までの拡張は断念した。全体の形状は長方形と推定されるが、南東辺2.16m、南西辺4.82mを検出したにとどまる。

床面 南東辺沿いから中央部かけて、硬い床面を検出した。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド 硬い床面の広がりから、南東辺に設置したと推定されるが、調査区内では検出できなかった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面は不整形の掘り込みが認められ、凹凸が著しい。南西辺西寄りでは、壁沿いに十数cmの高さの段差があった。

その他 南東隅に段差があり、住居外から27cmの深さに幅13cmほどの平坦面が存在した。

遺物 調査区壁際の硬い床面から15cm大の石が2個、南東辺の住居壁沿いから細長い石がそれぞれ出土したほか、須恵器片3個・土師器片675gが出土した。

時代・時期 わずかな出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 19住居

(第166・167・241図、PL.120・121・154)

検出位置 31区S16～17グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸中央部南端にあり、天王C区の調査区と接する位置にある。17住居との最短距離は11.2m、7粘土採掘坑・8粘土採掘坑との最短距離は5.3m・3.2mである。

重複関係 9粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記する)と北西隅付近で重複するが、ほとんど接した状態であり、前後関係は判定できなかった。2掘立柱建物の西隅に相当する11Pは、19住居の壁を切っていることから、19住居→2掘立柱建物の順に新しい。南辺を近現代の前橋市-旧富士見村境界である土管理設溝が切っている。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。壁際の堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ13～42cmで、西辺が30cm前後、北辺は40cm前後である。住居中央部で東西4.42m、南北5.31mで南北に長い長方形を呈する。西辺は外側にやや凸の形状である。各辺の長さは南辺3.93m、西辺5.42m、北辺3.84m、東辺5.11mである。

床面 カマド前から中央部及び南辺西寄りにかけて硬く締まった床面を検出した。カマド前から東辺沿いに粘土が分布し、カマド焚口前には炭化物が認められた。

支柱穴 不明。床面水準で検出したのはP1・P2であるが、位置・深さとも柱穴らしくない。P1は粘土分布範囲の北側にあり、不整形で浅い掘り込みである。P2は住居中央部やや南寄りにあり、硬い床面に囲まれていた。P3は西辺中央部の壁にかかり、三段に掘り込まれており、住居外の確認面から深く掘り込まれていた。規模はP1:77×50・深さ6cm、P2:40×37・深さ12cm、P3:69×57・深さ69cmである。

壁溝 南東隅～南辺を除き、西辺沿い-北辺沿い-カマド北側で検出した、幅20～48・底面幅3～25・深さ2～9cmである。壁溝内には間隔不揃いで小穴が掘り込まれていた。

カマド 東辺南寄りに設置する。左右の袖部に石を据え、さらに燃焼部内側壁に沿って石を数段に積み上げていた。中央部両壁の最下段は扁平な石を壁に沿うように設置していた。奥壁の石も垂直方向に長くなるように細長い石を据えていた。これらの石の内側は良く焼けて、火熱を受けた痕跡が認められた。燃焼部中央部出土の石は、底面から十数cm浮いており、奥壁から落ちたものと考えられ、支脚ではない。燃焼部は住居壁ラインから外側へ突出しており、左右の袖部が住居壁ラインにほぼ一致する。両袖石の間から割れた状態の細長い石が出土し、焚口天井部の石と考えられる。また、土師器甕破片が燃焼部右壁近くと左袖部内側から出土した。カマド内及び付近から出土した土器は破片が多く、完形に近いものは殆どないことから、隙間に充填または調整された可能性がある。カマド焚口の北側に分布する粘土は、石の隙間や周囲を覆った粘土が流失したと推定される。

貯蔵穴 南東隅の不整形掘り込みと考えられる。壁際から掘り込まれ、規模は110×68・深さ23cmである。

掘り方 住居中央部で土坑2、北西寄りで土坑1を検出した。両者とも掘り込み面からいったん開口部が狭くなり、底面は外側に広がるような形状で、規模も近い。P4はカマド前にあり、略長方形を呈するが、浅い掘り込みである。規模は土坑1:上面103×93・中位80×61・底面88×65・深さ62cm、土坑2:上面97×96・中位83×70・底面97×90・深さ60cm、P4:96×75・深さ11cmである。このほか、北東隅・北西隅・南西隅・中央部に不整形の掘り込みが認められ、底面の凹凸が著しい。

その他 西辺中央にかかるP3は住居の柱穴であった可能

第4章 検出された遺構と遺物

性があるが、この1本では支えきれないと推定される。出入口施設の可能性も残る。

遺物 カマド燃焼部から土器片が出土したほか、左袖部脇の壁際から5個の石が、カマド焚口付近から土器片が、貯蔵穴とP2の中間から土師器杯(158)がそれぞれ出土した。埋没土からは須恵器片507g、土師器片1465gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 23住居(第168・241図、PL.122・154)

検出位置 42区H5グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸北西端にあり、重複する住居群の北側に位置する。3住居との最短距離は3.5m、7住居・5掘立柱建物との最短距離は6.3m・3.3mである。

重複関係 住居覆土の上から近現代耕作痕が切り込まれていた。

覆土 白色軽石を含む褐色系の土で埋没する。壁際の堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 高さ19～46cmで、検出範囲では40cm前後である。南半部のみ調査であるため、全体形状は不明であるが、東西3.30m、南北2.07m以上で、南北に長い長方形と推定される。各辺の長さは南辺2.78m、西辺2.50m以上、東辺1.10m以上である。

床面 カマド前から各辺の壁の内側約50cmの範囲で、硬く締まった床面を検出した。カマド焚口前には焼土が認められた。

支柱穴 不明。床面水準では柱穴とみられる掘り込みを検出していない。

壁溝 なし。

カマド 東辺に設置する。右袖部のみ検出した。調査区壁が燃焼部にかかり、カマドの一部を調査したが、北側は現代の畝で土砂崩壊の危険が想定されたため、用地限界までの拡張を断念した。カマド焚口付近で土師器甕破片(171)が出土した。

貯蔵穴 南東隅の略円形の掘り込みと考えられる。三段に掘り込まれ、規模は50×50・深さ23cmである。中から土師器杯(165)が出土し、南側の壁との間から甕口縁部を上にして埋められた状態の土師器甕(173)と、略完形の土師器杯(163・166)が出土した。

掘り方 カマド前相当の位置で、略円形の土坑1を検出した。規模は76×80・深さ23cmである。このほか、南辺沿い・西辺沿いで不整形の掘り込みを検出し、底面の凹凸が著しい。

その他 住居の規模は比較的小さいが、出土土器は貯蔵穴周辺に集中している。

遺物 カマド焚口付近・貯蔵穴から甕破片・杯が出土したほか、西辺の北寄り壁際から須恵器蓋(167)が出土した。埋没土からは須恵器片6g、土師器片1373gが出土した。

時代・時期 出土土器片の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。

東紺屋 1掘立柱建物(第169・241図、PL.122・123)

検出位置 31区S18グリッドで検出した。東紺屋谷戸の中央部やや東寄りにあり、周辺には掘立柱建物がある。17住居との最短距離は5.1m、19住居・2掘立柱建物との最短距離は2.1m・2.5mである。

重複関係 南西隅の1Pは9粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と重複し、9粘採→1Pの順に新しい。9粘採は平安時代の所産と推定されることから、1掘立柱建物は平安時代以降の所産と考えられる。

覆土 白色軽石を多く含む黒色系の土で埋没するものが多い。柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できたものがある。

柱穴 単独のピットとして番号を付けたが、2間×2間の建物となった。柱間を計測したところ、東西方向がやや長く、東西に棟をもつ建物と考えられる。2Pと6Pとを結ぶ長軸線の方位はN84°Eである。規模は東西・南北とも4m前後である。側柱のみで、内部には柱穴はない。不整形の柱穴もあるが、概ね二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第30表にまとめた。

その他 8P・9Pは他のピットに比較して規模がやや小さく、かつ配置は7Pと10Pとの中間に相当する。東西棟だとすると、南側の出入口の建物が推定される。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、4P・6Pから土師器杯(175・176)が出土した。

時代・時期 9粘採との関係から、平安時代以降の所産と推定する。

東紺屋 2 掘立柱建物(第170・171・241図、PL.123)

検出位置 31区Q～R 16～18グリッドで検出した。東紺屋谷戸の東寄りにあり、周辺には掘立柱建物がある。1掘立柱建物との最短距離は2.5m、天王C区26住居との最短距離は4.2mである。

重複関係 西隅の11Pは19住居と重複し、19住居→2掘立柱建物の順に新しい。南東辺の20P・21Pは8粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と重複し、8粘採→2掘立柱建物の順に新しい。東隅付近は12掘立柱建物の95Pと重複し、95P→17Pの順に新しい。したがって、12掘立柱建物→2掘立柱建物の順に新しいと推定される。7粘採は2掘立柱建物の東半部に納まり、重複関係が判定できなかった。

覆土 白色軽石を多く含む黒色系の土で埋没するものが多い。柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できたものがある。

柱穴 単独のピットとして番号を付けたが、2間×4間の北東-南西に長い建物と考えられる。23Pと16Pとを結ぶ長軸線の方位はN52°Eである。規模は北東-南西9m弱、北西-南東約4mである。側柱のみで、内部に柱穴はない。柱穴の中央と考えられる位置の深さは、概ね40cm以上あり、しっかりと掘られていた。略楕円形を呈する掘り込みが多く、二～三段に掘り込まれていた。12P・13P・14P・17Pは2個のピットが接して並んでおり、他のピットも底面に複数の小穴をもつものがあることから、建て替えられた可能性が高い。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第31表にまとめた。

その他 7粘採は本建物東半部中央に納まり、粘土採掘坑にかかわる建物のように見えるが、同時存在が推定できないので、ここでは偶然の結果としておきたい。東紺屋谷戸の中では本建物と12掘立柱建物が似た方位をもち、1掘立柱建物とは方位が大きく異なっている。しかし、天王C区の掘立柱建物を含めて考えると、ほぼ同じ方位の建物(6・9掘立柱建物)や直交する方位の建物(7・8・10掘立柱建物)があり、天王C区建物と密接な関係があると考えられる。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、17Pから土師器杯(177)が出土した。

時代・時期 19住居・8粘採との関係から、奈良時代以降の所産と推定する。方位を根拠とすると、奈良～平安

時代の遺構と考えられる。

東紺屋 3 掘立柱建物(第171・172図、PL.124)

検出位置 42区I～J 18～19グリッドで検出した。東紺屋谷戸の南西部にあり、遺構の比較的少ない区域である。1粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)との最短距離は7.9m、3粘採との最短距離は3.3mである。

重複関係 1住居と重複しているが、着手時点では前後関係を確認できなかった。1住居→3掘立柱建物の順に新しいと推定されるが、不確実である。

覆土 白色軽石を多く含む黒色系の土で埋没するものが多い。柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できたものがある。

柱穴 1住居の東側に略コの字状にピットが並んで検出され、24P～29Pが掘立柱建物の柱穴と考えられ、2間×2間の南北に長い建物が推定された。図上で1住居の記録と重ねたところ、1住居のP1及び掘り方調査で検出した南東隅のピットが、3掘立柱建物を構成する柱穴の一部と推定されたため、24Pが北側にやや突出していること以外は、2間×2間・南北に長い建物として不都合ないと考えられる。24Pと28Pとを結ぶ長軸線の方位はN15°Wである。規模は南北約4.5m、東西約3.5mである。側柱のみで、内部に柱穴はない。25Pと28Pが浅いが、その他の柱穴は確認面から40～50cmの深さがあり、しっかりと掘り込まれていた。柱穴の上面は略楕円形を呈するものが多い、住居外の柱穴はすべて二段に掘り込まれていた。また、住居外の柱穴は柱痕とみられる土が判別できた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第32表にまとめた。

その他 西半部の掘立柱建物は、北から十数度振れた程度の方位をもち、2掘立柱建物の長軸方位とは異なっている。

遺物 なし。

時代・時期 1住居との前後関係が判然としないので不確定だが、方位を根拠とすると、平安時代以降の所産と考えられる。

東紺屋 4 掘立柱建物(第172図、PL.124)

検出位置 42区J 4～5グリッドで検出した。東紺屋谷戸の北西部にあり、重複する住居群の西側にある。3住

居との最短距離は1.2m、23住居・2粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)との最短距離は5.1m・2.1mである。西側は無名の沢が略南北に流れて浅い谷地形となっており、土砂崩落の危険があったため、用地限界までの調査は断念した。

重複関係 近現代の耕作痕と重複し、北端の30Pは北側を耕作痕によって破壊されていた。

覆土 白色軽石を多く含む黒色系の土で埋没するものが多い。柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できたものがある。掘り下げ前の柱痕の径は21～27cmである。

柱穴 3住居の西側に逆L字状にピットが並んで検出され、30P～33Pが掘立柱建物の柱穴と考えられる。西側は調査区の西端であり、北側も調査区の北端である。北側延長線上にピットを検出していないことから、南北2間と推定されるが、東西の規模は不明である。近くの掘立柱建物の規模から推定すれば、東西も2間か。30Pと32Pとを結ぶ長軸線の方位はN1°Eである。規模は南北約5.5m、東西2.5m以上である。30P-32Pを結ぶ線と、32P-33Pとを結ぶ線は直角にならず、97°の鈍角をなす。検出した4本の柱穴は、いずれも確認面から30～40cmほどの深さがあり、木の根跡ではない。柱穴の上面は円形～楕円形を呈し、二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第33表にまとめた。

その他 本建物の長軸線方位は略南北に近く、西半部の掘立柱建物と似た方位である。

遺物 土師器・須恵器の破片が2個出土したほか、小片がある。

時代・時期 出土遺物の特徴からみると、平安時代と推定されるが、方位を根拠とすると、平安時代～中世の所産と考えられる。

東紺屋 5 掘立柱建物(第172・173・241図、PL.124)

検出位置 42区H～I 3～5グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の北西部にあり、重複する住居群の北側にある。6住居との最短距離は2.9m、7住居・23住居との最短距離は3.9m・3.3mである。

重複関係 3住居・4住居と重複し、いずれも5掘立柱建物が新しい。北西隅の34Pは3住居のカマドの一部を

破壊していた。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没するものが多い。35P～38Pでは、柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は23～32cmである。

柱穴 各隅の柱穴と、それらの中間の柱穴が検出でき、2間×2間の建物と考えられる。計測値では、南北方向の柱間がやや長く、南北に棟をもつ建物と推定される。37Pと41Pとを結ぶ長軸線の方位はN78°Eである。規模は南北約4.6m、東西約4.3mである。検出した柱穴はいずれも確認面から50～100cmほどの深さがあり、80cm前後のものが多い。二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第34表にまとめた。

その他 南辺で119P・120P、建物内部に114P～118Pを検出したが、本建物に伴うか不明である。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、34P・37Pから土師器杯(178)・須恵器杯(179)が出土したほか、土師器片276gがある。

時代・時期 出土遺物の特徴からみると、平安時代と推定されるが、方位を根拠とすると、平安時代～中世の所産と考えられる。

東紺屋 6 掘立柱建物(第174図、PL.124)

検出位置 32区F 20～42 F 1グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の北西寄りにあり、重複する住居群の南側にある。11住居とほぼ接しており、15住居・1井戸・5粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)との最短距離は0.6m・2.6m・1.9mである。11住居・15住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 北西隅で11住居と近接する以外は、重複がない。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。すべてのピットで柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は15～24cmである。

柱穴 3間×3間の建物であった可能性も残るが、南辺に並ぶ柱穴の規模がその他に比較してやや小さく、深さも浅いことから、2間×3間の建物に南面庇が付いた建物と考えられる。51Pと46Pとを結ぶ長軸線の方位はN82

°Eである。規模は南北約4.5m、東西約3.3mで、庇の奥行は約1.5mである。庇を含めると、東西約4.6mとなる。検出した柱穴はいずれも二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第35表にまとめた。

その他 43Pと50Pで、柱痕とみられる埋没土に重複が認められた。建て替えて埋没土が弧状を呈すると考えるよりも、柱の補強のために添え木をした痕跡と推定したい。遺物 須恵器片2個が出土したほか、土師器片278gが出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴からみると、平安時代と推定されるが、方位を根拠とすると、平安時代～中世の所産と考えられる。

東紺屋 7 掘立柱建物(第175図、PL.124)

検出位置 32区C～D17～18グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部南端にあり、周囲に8～11掘立柱建物、2井戸、4粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記する)がある。8掘立柱建物との最短距離は0.2m、10・11掘立柱建物とは2.4m・4.7m離れ、4粘採との最短距離は5.8mである。P56と2井戸とはほぼ接している。8掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 天王Cの11溝が本建物の56Pと重複し、56P→C区11溝の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。56P～60Pの柱穴では、柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は14～20cmである。

柱穴 2間×2間の建物と考えられるが、後述のように2間×4間の可能性も残る。58Pと60Pとを結ぶ長軸線の方位はN30°Wである。規模は北西-南東が約4.4m、北東-南西が約3.3mである。北辺に並ぶ柱穴は二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第36表にまとめた。

その他 58Pと56Pとを結ぶ線を西側延長すると、176Pに至る。56Pと176Pとの中間に位置する柱穴が未検出だが、この並び方が偶然でないとすれば、2間×4間の規模となって、東紺屋谷戸2掘立柱建物と似た建物となる。58Pと176Pとの距離は736cmで、方位はN59°Eである。ここでは、可能性の高い2間×2間としておく。

遺物 なし。

時代・時期 方位を根拠とすると、平安時代の所産と考えられる。

東紺屋 8 掘立柱建物(第175・176図、PL.124)

検出位置 32区C18～19グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部南寄りにあり、周囲に7・9～11掘立柱建物、2井戸、4粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記する)がある。7掘立柱建物との最短距離は0.2m、9・11掘立柱建物とは0.3m・2.9m離れ、4粘採との最短距離は4.1mである。7・9掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 10掘立柱建物を構成する柱穴を結ぶ線と交差することから、重複関係にあるが、8掘立柱建物のP63と10掘立柱建物の83Pとの間にわずかな距離があるため、直接の切り合い関係は判定できなかった。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。すべての柱穴で柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は21～27cmである。

柱穴 1間×1間の建物と考えられる。柱間は北西-南東がやや長く、この方向に棟をもつ長方形の建物と推定される。62Pと63Pとを結ぶ長軸線の方位は、N30°Wである。規模は北西-南東が約3.2m、北東-南西が約2.6mである。すべての柱穴は二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第37表にまとめた。

その他 重複関係と最短距離を勘案すると、7・9・10掘立柱建物は8掘立柱建物との同時存在は困難である。遺物 なし。

時代・時期 方位を根拠とすると、平安時代の所産と考えられる。

東紺屋 9 掘立柱建物(第176・241図、PL.124・125)

検出位置 32区C19～20グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部にあり、周囲に7・8・10・11掘立柱建物、2井戸、4粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記する)がある。8掘立柱建物との最短距離は0.3m、2井戸・4粘採との最短距離は6.0・5.7mである。8掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 9掘立柱建物を構成する柱穴72Pと、10掘立柱建物を構成する柱穴76Pとが重複し、76P→72Pの順に新しい。したがって、9掘立柱建物が新しい。11土坑とも重複し、9掘立柱建物→11土坑の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。71P・72P・73Pの柱穴で柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は14～26cmである。

柱穴 2間×2間の建物と考えられる。柱間は東西がやや長く、この方向に棟をもつ長方形の建物と推定される。66Pと70Pとを結ぶ長軸線の方位は、N88°Wである。規模は南北が約3.6m、東西が約4.0mである。71Pは補助的な柱の掘り込みと考えられる。73Pを除くと、四隅の柱穴の規模が大きく、すべての柱穴は二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第38表にまとめた。

その他 72Pと76Pとの前後関係により、略南北の柱通りをもつ掘立柱建物(傾きは十数度)は、30～45°の傾きをもつ建物よりも新しいと推定された。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、68P・73Pから須恵器杯(180・181)が出土したほか、土師器片93gが出土した。

時代・時期 方位を根拠とすると、平安時代～中世の所産と考えられる。

東紺屋 10掘立柱建物(第177図、PL.124・125)

検出位置 32区B～C18～19グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部にあり、周囲に7・8・9・11掘立柱建物、2井戸、6粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記する)、12・14土坑がある。11掘立柱建物との最短距離は0.2m、6粘採・12土坑・14土坑との最短距離は4.3・1.0m・2.1mである。11掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 9掘立柱建物を構成する柱穴72Pと、10掘立柱建物を構成する柱穴76Pとが重複し、76P→72Pの順に新しい。したがって、9掘立柱建物が新しい。8掘立柱建物とも重複するが、柱穴の切り合いがなく、前後関係は判定できなかった。しかし、8掘立柱建物とは、柱穴を結ぶ線が交差するため、同時に存在することは困難である。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。76Pを除く柱穴で、柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は23～29cmである。

柱穴 2間×3間の建物と考えられる。柱間は北西-南東がやや長く、北東-南西が短い、北東-南西が3間のため、この方向に棟をもつ長方形の建物と推定される。83Pと78Pとを結ぶ長軸線の方位は、N40°Eである。規模は北東-南西が約5.4m、北西-南東が約4.0mである。各辺の中間にある柱穴はやや小振りで、四隅の柱穴の規模が大きい。10本の柱穴のうち、7本が二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第39表にまとめた。

その他 72Pと76Pとの前後関係により、略南北の柱通りをもつ掘立柱建物(傾きは十数度)は、30～45°の傾きをもつ建物よりも新しいと推定された。

遺物 土師器片1個が出土した。

時代・時期 方位を根拠とすると、平安時代の所産と考えられる。

東紺屋 11掘立柱建物

(第178・242図、PL.124・125・154)

検出位置 32区A～B18グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部にあり、周囲に7・8・9・10掘立柱建物、2井戸、6粘土採掘坑(以下、「粘採」と略記する)、12・14土坑がある。7・10掘立柱建物との最短距離は4.7m・0.2m、6粘採・12土坑・14土坑との最短距離は8.2m・2.7m・1.8mである。10掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 北東辺とほぼ平行して1溝が北北西-南南東に走行し、南東隅の88Pが1溝を切り、1溝→11掘立柱建物の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。84P・85P・91Pを除く柱穴で、柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は14～29cmである。

柱穴 1間×1間の建物と考えられる。柱間は略南北がやや長く、略東西が短い。南北に棟をもつ略方形の建物と推定される。86Pと88Pとを結ぶ長軸線の方位は、N17°Wである。規模は略南北が約3.4m、略東西が約3.2m

である。東辺・南辺・西辺の間にある柱穴はやや小振り、四隅の柱穴の規模が大きい。9本の柱穴のうち、5本が二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第40表にまとめた。

その他 北西隅の84Pと85Pは比較的規模が大きい、南西隅の90Pは掘り方が細長い形状で浅い。その中間に等間隔で小規模の91P・92Pが並ぶという異質な柱穴の並び方を示し、特殊な用途の建物であった可能性がある。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、85Pから土師器杯(182)、須恵器蓋(183)・杯(184)・甕(185)が出土したほか、土師器片200gが出土した。

時代・時期 出土土器の特徴と方位を勘案すると、平安時代～中世の所産と考えられる。

東紺屋 12掘立柱建物(第179図、PL.125)

検出位置 31区P～Q17～18グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東部にあり、周囲に8粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)、1柵がある。8粘採との最短距離は1.3m、1柵との最短距離は3.1mである。

重複関係 北西部で2掘立柱建物と重複し、95Pが17Pに切られていることから12掘立柱建物→2掘立柱建物の順に新しい。東隅の99Pは11粘採の覆土中に掘り込まれていたことから99Pが新しく、従って11粘採→12掘立柱建物の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没するものが多い。98Pを除く柱穴で、柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は14～22cmである。

柱穴 北西辺の柱穴の並び方をみると、2間×4間の建物と考えられる。96Pは95Pと97Pとの中央に位置しないが、96Pの深さからみて、柱穴の一つと考えられる。99Pと100Pの間には該当する柱穴が見当たらないが、見逃した可能性がある。柱間は南西辺がやや長く、北西辺が短い。北東-南西に棟をもつ長方形の建物と推定される。93Pと97Pとを結ぶ長軸線の方位は、N57°Eである。規模は北東-南西が約5.3m、北西-南東が南西辺で約3.4mであるが、北東辺は約2.8mで短い。9本の柱穴のうち、6本が二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第41表にまとめた。

その他 本建物は2掘立柱建物と方位が似ており、北西

部で検出した掘立柱建物とは長軸方位が異なっている。2掘立柱建物と同じく、天王C区で検出した掘立柱建物の方位に近い。また、この付近の重複関係を整理すると、11粘採→12掘立柱建物→2掘立柱建物、8粘採・19住居→2掘立柱建物の順に新しい。

遺物 須恵器片4個のほか、土師器片204gが出土した。時代・時期 出土土器の特徴と方位を勘案すると、平安時代の所産と考えられる。

東紺屋 13掘立柱建物(第179・180・242図、PL.125)

検出位置 42区F～G4グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の北西部にあり、周囲に重複する住居群がある。5掘立柱建物との最短距離は2.6m、6住居との最短距離は1.0mである。6住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 本建物を構成する柱穴の内側に7住居が入っていた。調査区壁際の25土坑は7住居のカマドを破壊し、25土坑の平面確認時点で柱痕らしき埋没土が認識できているので、7住居→25土坑→13掘立柱建物の順に新しいと推定される。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。107Pを除く柱穴と25土坑覆土で、柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は24～27cmである。

柱穴 調査区内で確認できるのは、2間×2間分であるが、南北方向の長さがさらに伸びる可能性が残る。西側にある5掘立柱建物と方位が似ており、同様の規模になる可能性が高い。104Pと102Pとを結ぶ線の方位はN7°Wであり、104Pと107Pとを結ぶ線の方位はN80°Wである。両者のなす角度は106°で、直角よりも開いている。規模は西辺が約3.4m、南辺が約4.2mである。南西隅の104P・105Pの底面には小穴があり、柱痕はこれらの中央部に相当する位置にある。柱穴はいずれも二～三段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第42表にまとめた。

その他 本建物は4・5・6掘立柱建物と方位が似ており、東端部で検出した2・12掘立柱建物とは柱通りの方位が異なっている。

遺物 本掘立柱建物を構成する柱穴のうち、105Pから土師器杯(186)が出土したほか、須恵器片1個、土師器片

89gが出土した。

時代・時期 方位を根拠とすると、平安時代～中世の所産と考えられる。

東紺屋 1 柵(第180図、PL.125)

検出位置 31区O～P16グリッドで検出した。東紺屋谷戸の東端部にあり、周囲に2・12掘立柱建物、8粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)・10～12粘採がある。12掘立柱建物との最短距離は3.1m、8粘採・10～12粘採との最短距離は2.7m・5.0m・1.8m・1.8mである。

重複関係 本柵を構成する柱穴110Pは、天王C区へつながらる1道路の埋没土を除去したのちに確認されているので、1柵→1道路の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。4本の柱穴で柱痕と考えられる埋没土が、ピットを埋めている土と区別できた。掘り下げ前の柱痕の径は16～27cmである。

柱穴 天王C区との間には、旧富士見村と前橋市との境界線が走り、土管暗渠が敷設されていることから、南側には良好な組み合わせの柱穴を検出できなかった。耕作や工事によって破壊された可能性がある。ここでは、柵とした。3間分4本の柱穴を確認し、108Pと111Pとを結ぶ線の方位は、N66°Eである。角度はややずれるが、2・12掘立柱建物の方位に近く、1掘立柱建物とは大きく異なる。規模は長さ約7.5mである。柱穴はいずれも二段に掘り込まれていた。個別の柱穴の規模や柱穴間の距離等の計測値は、第43表にまとめた。

その他 南側の天王C区1道路のなかにも、いくつかの柱穴が認められたが、良好な組み合わせは得られなかった。

遺物 なし。

時代・時期 方位を根拠とすると、平安時代の所産と考えられる。

東紺屋 1 井戸(第181・242図、PL.154)

検出位置 32区E～F19グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸中央部やや西寄りにあり、北側に重複する住居群、東側に掘立柱建物群がある。4粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と5粘採との中間に位置する。近隣の6掘立柱建物・1粘採・4粘採・5粘採との最短距離

は2.6m・8.0m・0.9m・2.4mである。確認面の標高は142.90mである。

重複関係 なし。

覆土 最上位に白色軽石を含む黒褐色系があり、中位～下位は壁際に流入した土と、井戸底面に至る幅60～70cmの垂直方向に堆積する層が認められた。井筒が遺存した状態で中位まで埋没し、さらに周囲から土が流入して自然に埋没したと推定する。

形状 掘り込み面は略東西に長軸をもつ楕円形を呈し、長軸長さ2.17m、短軸長さ1.89mで、長軸の方位はN84°Wである。断面は大きくV字状に開き、壁上位の一部が抉られていた。また、下位の壁の一部は外側に湾曲し、湾曲部の上端付近が湧水点であった。湧水点の標高は142.04mで、現代の渇水期(2009年3月2日時点)に確認された高さである。底面は略長方形を呈し、下端の長軸長さは0.68m、短軸長さは0.54mで、長軸方位はN18°Wである。最深部の標高は141.36mで、確認面からの深さは1.52mである。

その他 中位～下位の垂直方向に堆積する土は、井筒状の枠が遺存した状態で堆積した可能性があり、底面の形状からみて、長方形に組まれたものであった可能性が高い。

遺物 少量ながら須恵器片116g、土師器片140gが出土した。

時代・時期 埋没土から、奈良時代～近世の所産と推定され、出土遺物から8世紀に遡る可能性がある。

東紺屋 2 井戸(第181・242図)

検出位置 32区D18グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸中央部の南寄りにあり、北東側に掘立柱建物群がある。7掘立柱建物・8掘立柱建物・4粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)との最短距離は0m・2.5m・5.8mである。確認面の標高は142.90mである。

重複関係 天王C区11溝とは接した状態、7掘立柱建物の56Pとも接した状態であった。

覆土 確認面から70cmほどは白色軽石を含む黒色土で埋没する。底面直上には黒褐色系の砂質土が堆積し、全体として周囲から土が流入して自然に埋没したと推定する。

形状 掘り込み面は南端が突出した略楕円形を呈し、長

軸長さ2.32m、短軸長さ1.81mで、長軸の方位はN11°Eである。断面は大きくV字状に開き、壁中位の一部は外側に湾曲し、ここより下位の壁は直に近くなる。底面も略楕円形を呈し、下端の長軸長さは0.58m、短軸長さは0.46mで、長軸方位はN18°Wである。最深部の標高は141.70mで、確認面からの深さは1.17mである。底面から30cmほど浮いた状態で、56×40・厚さ20cmの扁平な石が出土した。

その他 壁の中位-傾斜変換点-でP1・P2・P3を検出した。P3はやや大き目で、壁外に向かって掘り込まれており、3個のピットで上屋を支えていた可能性がある。各ピットの規模はP1:23×12・確認面からの深さ90cm、P2:32×22・確認面からの深さ98cm、P3:38×37・確認面からの深さ91cmである。

遺物 前述の石のほか、少量ながら須恵器片54g、土師器片123gが出土した。

時代・時期 埋没土から、平安時代～近世の所産と推定され、出土遺物から9世紀後半に遡る可能性がある。

東紺屋 1 粘土採掘坑(第182・242図、PL.126)

検出位置 32区G～H18グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の西寄りの南端にある。確認面の標高は142.70mである。遺構の輪郭を確認する段階では、不整形な住居とみられたが、調査の進捗に伴って他の住居とは異なる様相を示し、最終的に粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と判明し、1粘土採掘坑とした。近隣の3掘立柱建物・4粘採・5粘採・6土坑・7土坑・1井戸との最短距離は7.9m・9.9m・5.0m・4.8m・2.3m・8.0mである。北側1mには風倒木痕が2カ所認められた。

重複関係 なし。

覆土 上位は白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。中位に黒褐色系の土が堆積し、底面直上には粘性の強い黄褐色系の土が5cm前後の厚さで堆積する。埋没初期に壁から流れ落ちたロームの再堆積の可能性が高い。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 隅に丸みのある台形を呈する。北西辺が長く、南東辺は短くて丸みが強い。中央部の北西-南東方向は4.40m、北東-南西方向は4.61mである。北東-南西を結ぶ長軸の方位はN62°Eである。各辺の長さは南東辺

2.36m、南西辺4.04m、北西辺3.98m、北東辺3.94mである。

壁 壁際での深さは西隅～東隅で60cm前後、東隅から西隅の間は壁際に不整形な平坦面があるためか、40～50cmである。壁の抉れた部分の標高は143.25～143.40m付近で、この高さにあった粘土を採掘したと考えられる。粘土層の厚さは15cm前後である。

底面 本採掘坑では、底面に著しい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。西隅から東隅にかけて、幅12～58cm・高さ3～9cmの帯状の高まりが壁に沿って巡り、壁との間には幅12～65cm・深さ3～10cmの溝状の掘り込みが巡っていた。高まりの平面形状は凹凸があり、溝状掘り込みとの間も凹凸がある。壁際の高まりが何のために設けた高まりなのか不明だが、一つの推測として、壁の粘土を採掘するための足場であった可能性を考えたい。高まりに囲まれた中央部底面の面積は6.77m²、壁沿いの溝状掘り込みの面積は北西辺沿いで1.54m²、南東辺沿いで0.79m²である。このほか、北隅にP1、南西辺の壁沿いにP2、南東辺の壁沿いにP3・P4を検出した。各ピットの規模はP1:80×71・深さ10cm、P2:40×28・深さ49cm、P3:33×19・深さ11cm、P4:29×21・深さ10cmである。

その他 P3・P4は規模が小さく、壁際にあること、南東辺沿いの高まりが他の部分に比べて80cmと幅が広いことから、出入口施設の可能性がある。

遺物 中央部北寄りの底面から須恵器甕(199)が突き刺さった状態で出土したほか、須恵器片252g、土師器片206gが出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、奈良時代の所産と推定され、8世紀と推定する。

東紺屋 2 粘土採掘坑(第182・243図、PL.126)

検出位置 42区J～K 2～3グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の西端の北寄りにある。確認面の標高は143.20mである。遺構の輪郭を確認する段階では、2住居と呼んだが、調査の進捗に伴って住居とは異なる様相を示し、最終的に粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と判明し、2粘土採掘坑とした。近隣の5住居・4掘立柱建物との最短距離は5.0m・2.1mであり、3粘採とは10.1m離れている。

重複関係 略東西に走行する耕作痕に切られ、南辺の調査区壁際は耕作痕によって変形していた。

覆土 上位はロームブロックを含む褐色系の土で埋没する。底面直上はロームブロックを含む黒褐色・黒色系の土で埋没する。抉られた壁のオーバーハングした部分にも黒褐色系の土が堆積する。全体の堆積の様相から、自然埋没と推定する。

規模 西側は調査区の壁であり、崩壊の危険があったため、拡張を断念した。東西の大きさは不明だが、南北3.54m・東西2.49m以上である。東西長さが不明なので、南北軸で示すと、その方位はN1°Wである。各辺の長さは東辺3.27m、南辺2.54m・北辺1.37mを検出した。

壁 壁際での深さは南東隅から北辺で52～62cm、南辺では38～41cmである。壁の抉れた部分の標高は142.70～142.90m付近で、この高さにあった粘土を採掘したと考えられる。粘土層の厚さは約20cmである。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。北東隅から南東隅にかけて、幅12～23・高さ10～15cmの帯状の高まりが壁に沿って立ち、壁との間には幅19～33cm・深さ4～21cmの溝状の掘り込みが認められた。帯状高まりと壁との間は大きく抉られた状態で、この部分から粘土を採掘したと考えられる。北辺にかかる底面は半円形に一段深く掘り下げられ、北側の壁を大きく抉った状態であった。ここも集中して粘土を採掘した痕跡とみられる。北側の半円形部底面の面積は1.00m²、東辺壁沿いの溝状掘り込みの面積は1.11m²である。

その他 北壁を抉る半円形掘り込みの底面標高は142.60m、南辺の底面標高は142.80m前後である。粘土を採掘できる厚さ約20cmの層は、北に向かって3.5mで高さ0.2mの勾配で堆積していたと推定される。

遺物 埋没土中から(203～207)と、須恵器片1362g、土師器片449gが出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、奈良時代の8世紀前半の所産と推定する。

東紺屋 3粘土採掘坑(第183・243図、PL.126・127)

検出位置 32区I20～42区I1グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の西寄りの住居群の西端に位置する。確認面の標高は142.80～142.90mである。遺構の輪郭を確

認する段階では、不整形な長方形の住居とみられたが、調査の進捗に伴って他の住居とは異なる様相を示し、最終的に粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と判明し、3粘土採掘坑とした。近隣の3掘立柱建物・1粘採・2粘採・6土坑・8土坑・1住居との最短距離は3.3m・9.4m・10.1m・3.1m・1.8m・4.9mである。南東部に風倒木痕があり、これを切って掘り込まれていた。

重複関係 北東隅付近で12住居と重複し、12住居→3粘採の順に新しい。

覆土 上位は白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。中位に黒褐色系の土が堆積し、底面直上には砂質の黄褐色系の土が10～15cm前後の厚さで堆積する。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 全体の形状は略長方形を呈する住居に似るが火処はなく、住居特有の床面も認められなかった。南北に長く、中央部で南北4.51m、東西3.88mである。長軸方位はN6°Wである。各辺の長さは南辺3.21m、西辺4.03m、北辺3.77m、東辺4.36mである。

壁 一段掘り下げたのち、さらに掘り下げているため、壁の断面は直線的ではない。西辺では、壁の中段に幅10～15cmの平坦な面があり、その東側はさらに深く掘り下げていた。壁際での深さは42～58cmで、概ね50cm前後である。一段目の標高は142.49m、底面の標高は142.31mで、この間に存在した粘土を採掘したと考えられる。粘土層の厚さは15～18cmである。

底面 本採掘坑では、底面に凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。北辺中央部と南辺中央部とを結ぶ線の上に、幅7～33・高さ13～20cmの帯状の高まりがあり、その両側が深く掘り下げられていた。帯状の高まりは水田跡のアゼ状を呈しているが、掘り残された地山のローム層であり、幅は広狭あって一定ではない。高まりと壁との間の面積は、西側の1コマ=4.99m²、東側2コマ=5.56m²である。このほか、南辺中央部壁際にP1・P2、東側2コマの底面に浅く掘り込まれたP3～P6と、西側1コマ底面のP7・P8が認められた。いずれも不整形である。各ピットの規模はP1:70×61・深さ19cm、P2:二段・33×31・深さ39cm、P3:50×49・深さ14cm、P4:47×30・深さ10cm、P5:67×31・深さ7cm、P6:281×98・深さ6cm、P7:159×60・深さ5cm、P8:81×80・深さ5cmである。

その他 北辺中央部に4土坑が確認されており、南辺中央のP2と対称の位置にある。3粘採の一部である可能性がある。4土坑の規模は、59×45・深さ49cmで、二段に掘り込まれていた。

遺物 東側2コマの北寄りでは底面から浮いた状態で10～15cm大の石が4個、南寄りでは土器片が5個それぞれ出土し、1コマの南寄りからは土器片2個が出土した。そのほか須恵器の小片が759g、土師器片998gが出土し、比較的遺物の多い粘採であった。

時代・時期 出土土器の特徴から(混在している)、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 4粘土採掘坑(第183・243図、PL.127)

検出位置 32区E18～19グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部やや西寄りの掘立柱建物に北側・東側を囲われている。確認面の標高は142.80～142.90mである。遺構の輪郭を確認する段階では、不整形な住居とみられたが、調査の進捗に伴って他の住居とは異なる様相を示し、最終的に粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と判明し、4粘土採掘坑とした。近隣の6・7・8・9掘立柱建物との最短距離は4.0m・5.8m・4.1m・5.7m、1粘採・5粘採・1井戸・2井戸との最短距離は9.9m・5.5m・0.9m・3.7mである。

重複関係 南西部は現代ゴミ穴によって大きく破壊されていた。

覆土 白色軽石を含む暗褐色系の土で埋没する。一部の底面直上に黄白色粘土ブロックが認められ、本粘採で採掘した粘土の一部と考えられる。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 南西部を大きく破壊されているので、全体の形状は不確定である。現状で南北5.24m、東西2.77mが遺存していた。南西隅を推定復元すると南東辺が短い略台形とみられ、南西辺0.98m(推定3.30m)、北西辺0.68m(推定3.90m)、北東辺3.75m、南東辺3.58mである。北東-南西の長軸は4.59m、北西-南東は4.18mで、長軸方位はN34°Eである。火処はなく、住居特有の床面も認められなかった。

壁 北隅付近の壁はオーバーハングしており、壁外へ約20cmほど広げている。壁際での深さは36～56cmで、概

ね50cm前後ある。底面が壁外に抉られており、底面に堆積する粘土を採掘したと考えられる。底面の標高は142.25m～142.42mで、厚さ約15cmの粘土層を掘ったとみられる。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。全体に不整形な浅い掘り込みとなり、平面土坑状を呈する。このほか、南隅付近にP1、北隅近くにP2を検出した。各ピットの規模はP1:36×36・深さ18cm、P2:50×31・深さ14cmである。底面にコマ割りの高まりはなく、検出できた底面積は11.54m²である。

その他 ほかの粘採とは異なり、底面にコマを区切る帯状の高まりが認められなかった。

遺物 埋没土中から(211～214)と、須恵器の小片が483g、土師器の小片が377g出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、平安時代の9世紀の所産と推定する。

東紺屋 5粘土採掘坑(第183図、PL.127)

検出位置 32区F19グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部やや西寄りの掘立柱建物に北側・東側を囲われている。4粘土採掘坑の北西部に位置する。確認面の標高は142.90mである。土坑状の掘り込みで、底面が壁外に広がったフラスコ状を呈することから、粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)と判明し、5粘土採掘坑とした。近隣の6掘立柱建物・1粘採・4粘採・1井戸・6土坑との最短距離は1.9m・5.0m・5.5m・2.4m・7.2mである。

重複関係 なし。

覆土 白色軽石を含む褐色系の土で埋没する。底面直上には砂質の褐色土が堆積し、ロームブロックを多く含んだ締まりのない土が堆積する。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 全体の形状は略楕円形を呈し、南側は直線的である。南北に長く、中央部で南北1.64m、東西1.38mと小規模である。長軸方位はN6°Eである。

壁 断面はフラスコ状を呈し、底面近くは壁外へ向かって広がっている。壁際での深さは54～63cmで、概ね60cm前後ある。底面の標高は142.32m、壁を広げ始める標高

は142.45mで、この間に存在した粘土を採掘したと考えられる。粘土層の厚さは15cm前後である。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。壁裾が外側へ抉られており、粘土を採掘した痕跡と考えられる。底面積は1.95m²である。

その他 図記録にはないが、写真記録では中央部に径15cmほどの浅い穴が2個認められた。

遺物 なし。

時代・時期 出土遺物がなく、重複関係もないことから確実ではないが、他の粘採と同様の掘削状態を示すことから、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 6粘土採掘坑(第183・243図、PL.127)

検出位置 32区B20グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部北寄りの攪乱にかかっていた。確認面の標高は142.40mである。半円形の掘り込みで、調査の進捗に伴って底面近くの壁が外側に抉られていることが判明し、6粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の9・10掘立柱建物との最短距離は2.5m・4.3m、12・20土坑との最短距離は3.8m・2.7mである。

重複関係 北半部は現代ゴミ穴によって破壊されていた。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。埋没土は西側から流入してきたことが判明した。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 北半部を攪乱によって破壊されているので、全体の形状は不明であるが、略円形を呈すると思われる。現状で東西1.97m、南北1.17mが遺存していた。直径2m前後か。

壁 ほぼすべての壁で、底面近くが壁外へ向かって抉られており、断面は潰れたフラスコ状を呈する。壁際での深さは61～72cmで、概ね65cm前後ある。底面の標高は142.70m前後だが、壁の抉られた範囲の標高は142.80～143.05mの間であり、厚さ約25cmの粘土層を採掘したと推定される。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。底面南側の壁際は数cmの深さの不整形掘り込みが認められた。粘土を採掘した痕か。

遺構確認面は半円形を呈し、西側にオーバーハングした上端が崩落したようにみえる部分がある。このほか、底面中央部に二段に掘り込まれた不整形のP1がある。P1の規模は41×35・深さ13cmである。調査した範囲では、底面にコマ割りの高まりはなく、検出できた底面積は2.69m²である。

その他 北半部は攪乱により破壊され、調査できなかった。

遺物 底面近くから土師器甕片(214)が、西側の壁際から土器片が出土したほか、須恵器片80g・土師器片198gが出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 7粘土採掘坑(第184図、PL.127・128)

検出位置 31区Q17グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東半部にあり、2掘立柱建物の内部に位置する。確認面の標高は143.30mである。略長方形の掘り込みで、壁は斜めで二段に掘り下げられ、7粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の19住居・12掘立柱建物・8粘採との最短距離は5.3m・0.4m・1.0mである。12掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 なし。2掘立柱建物の内部に納まり、直接的な前後関係は判定できなかった。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 北東-南西方向に長いが、北東辺が南西辺より長く、やや歪んだ長方形である。中央部で北東-南西の長軸が2.84m、北西-南東の短軸が1.92mである。

壁 斜めに掘り込まれ、一部は二段になる。壁際での深さは38～51cmである。底面の標高は142.80m前後である。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。南西辺沿い・南東辺沿いに深さ10cmほどの不整形の掘り込みが認められ、この深さの粘土を採掘したと考えられる。底面の形状がほかの粘採と良く似ていたため、粘土採掘坑とした。底面にコマ割りの高まりはなく、検出できた底面積は3.00m²である。

その他 2掘立柱建物の内部に納まっており、2掘立柱建物に伴う遺構の可能性を残す。

遺物 遺物は出土しなかった。

時代・時期 ほかの粘採の時期から類推して、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 8粘土採掘坑(第184図、PL.128)

検出位置 31区Q～R16～17グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東半部にあり、2掘立柱建物の東南辺に接する位置にある。確認面の標高は143.10mである。方形の掘り込みで、壁は斜めで上位の壁の傾斜が緩い。底面の状況から8粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の19住居・12掘立柱建物・7粘採・11粘採・1柵との最短距離は3.2m・1.3m・1.0m・2.8m・2.7mである。

重複関係 2掘立柱建物南東辺の20P・21Pが8粘採の北西辺を切っており、8粘採→2掘立柱建物の順に新しい。南隅は近現代の前橋市-富士見村境界である土管によって破壊されていた。

覆土 白色軽石を含む黒褐色系の土で埋没する。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態とみられ、自然埋没と推定する。

規模 北東-南西方向がわずかに長い、ほぼ方形を呈する。西隅は丸みを帯びる。中央部で北東-南西が3.74m、北西-南東が3.69mである。

壁 7粘採と同様に斜めに掘り込まれ、上位の傾斜が緩く、下位の傾斜が急になって、傾斜変換点が認められた。壁際での深さは55～64cmで、底面の標高は中央部で142.56m前後である。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。中央部から南半部にかけて、径18～51・深さ4～13cmの小穴が多数認められた。南東辺沿いでは数cmの深さで壁に沿って不整形の掘り込みがあり、これら小穴と掘り込みから粘土を採掘したと考えられる。底面の凹凸状況がほかの粘採とよく似ていたため、粘土採掘坑とした。底面にコマ割りの高まりはなく、検出できた底面積は8.36m²である。

その他 本粘採の長軸方位は7粘採とほとんど同じであり、壁の状態も似ていることから、同じ時期に採掘された可能性がある。

遺物 遺物は出土しなかった。

時代・時期 ほかの粘採の時期から類推して、奈良～平

安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 9粘土採掘坑(第184・243図、PL.128)

検出位置 31区S～T17～18グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東半部にあり、1掘立柱建物の南西隅に接する位置にある。確認面の標高は143.30mである。略楕円形を呈する掘り込みで、北半部の壁の下位は深く抉られていた。底面と壁の状況から9粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の2掘立柱建物との最短距離は4.0mである。

重複関係 1掘立柱建物南西隅の1Pが9粘採の北東部を切っており、9粘採→1掘立柱建物の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態であり、自然埋没と推定する。

規模 掘り込み面は南北にやや長い楕円形を呈する。南北3.64m、東西3.23mである。

壁 東西の壁の下位が大きく抉られ、この高さの粘土を採掘したと考えられる。壁際での深さは82～111cmで、底面の標高は中央部で142.36mである。

底面 本採掘坑では、底面に細かい凹凸があり、硬い黄褐色を呈する土であった。中央部付近での標高は142.35m前後で、東西の壁の下位は大きく抉られ、標高142.14m～142.70mの間に粘土が存在したと推定される。粘土層の厚さは、この地点で50cmほどとなる。底面の中央部寄りにP1・P4のピットが、壁際にP2・P3・P5が認められた。P2・P3・P5は粘土を採掘したときの掘り込みと考えられるが、P1・P4は別の用途があったかもしれない。各ピットの規模は、P1:57×33・深さ3cm、P2:179×67・深さ14cm、P3:113×102・深さ9cm、P4:36×25・深さ7cm、P5:88×80・深さ13cmである。P1に対応する南東側の壁に、三段にわたって階段が掘られていた。P1は出入口施設に関連する掘り込みの可能性はある。底面の凹凸状況と壁の抉られた状態から、粘土採掘坑とした。底面にコマ割りの高まりはなく、検出できた底面積は8.16m²である。

その他 南東部の階段状に掘り込まれた段差の底面は、奥行き10～15cmほどで、人の足の大きさからみると、つま先から土踏まずまでの長さに近い。ほんの足掛かり程度の大きさであるが、昇降には十分な大きさであろう。

ここに出入口施設が想定でき、この付近の壁が抉られていないことと符合する。

遺物 埋没土中から(215～217)と、須恵器片342g、土師器片458gが出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 10粘土採掘坑(第185・243図、PL.128・154)

検出位置 31区M～N16～17グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東端部にある。確認面の標高は143.20mである。方形または長方形を呈する掘り込みで、北半部は調査区外にある。不整形な底面と壁の状況から9粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の1柵・12粘採・天王C区2住居・C区3住居との最短距離は5.0m・2.8m・0.7m・4.8mである。C区2住居との同時存在は困難と推定する。

重複関係 南東側に風倒木痕があり、これを切って本粘採が掘り込まれていた。

覆土 白色軽石を含む褐色系の土で埋没する。全体の堆積の様相は周辺から土が流入して埋没した状態であり、自然埋没と推定する。本粘採を覆う黒色土の上位に、As-Bテフラが認められた(第185図c-d)。

規模 掘り込み面は竪穴住居のような方形または長方形を呈する。北半部が調査区外にあるため、全体の規模は不明だが、南西辺が6.42m、北西辺0.47m、南東辺は4.64mを検出した。規模はやや大きい。南西辺と平行な線の方位はN30°Wである。

壁 南西辺中央部の壁下位が少し抉られているが、その他の検出した壁は抉られていない。壁際での深さは48～85cmで、平均的には60cm前後の深さである。底面の標高は西寄りで142.38m、東紺屋谷戸寄りで142.36mである。

底面 本採掘坑では、中央部に北東-南西方向の幅13～29・高さ9～12cmの水田アゼ状の高まりがあり、これを境界として西側の1コマと東側の2コマとに分けられる。1コマの底面は比較的平坦だが、2コマの底面には不整形の掘り込みや小穴が認められ、凹凸がある。コマごとの検出した面積は1コマ4.46m²、2コマ5.55m²である。東半部の小穴はいずれも深さ3～5cmであるが、南隅から南東辺にかけて分布する小穴は、出入口施設に関連する遺構の可能性はある。

その他 南隅から南東辺にかけての壁沿いと、西隅沿いの壁直下にはやや平坦な帯状の高まりがあり、北壁の土層断面でみると、帯状高まりの直上に黒色土ブロックを含むロームブロックが堆積していた。粘土を採掘した際の、不良品を置いていた可能性がある。また、底面の小穴は、より下位に粘土が存在するかどうか、試し掘りした痕跡だった可能性が考えられる。

遺物 1コマの底面から浮いた状態で土師器杯(219・221)・甕(227)が、中央部の不整形掘り込み付近から須恵器壺(225)が、2コマの中央部から北壁にかけて3個の石がそれぞれ出土した。このほか、須恵器片が156g、土師器片が1669g出土した。

時代・時期 出土土器の特徴から、飛鳥時代の7世紀後半の所産と推定する。本粘採の北壁の土層では、遺構覆土の上位にAs-Bテフラと考えられる堆積層が認められ、遺構の所属時期が平安時代末以前であることが確認できた。

東紺屋 11粘土採掘坑(第186図、PL.128)

検出位置 31区O～P16～17グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東端部にある。確認面の標高は143.10～143.30mである。長方形と台形を連結したような形状を呈する掘り込みで、北隅は調査区外にある。底面と壁の状況から11粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の1柵・7粘採・8粘採・10粘採との最短距離は1.8m・4.1m・2.8m・6.1mである。12掘立柱建物との同時存在は困難と推定する。

重複関係 西側に12掘立柱建物があり、12掘立柱建物の東隅99Pは本粘採を掘り込んで作られていた。したがって、11粘採→12掘立柱建物の順に新しい。

覆土 白色軽石を含む黒色系の土で埋没する。底面直上にロームブロックを含む褐色土が堆積していた。全体の堆積の様相から自然埋没と推定する。

規模 掘り込み面は北東側が長方形、南西側が台形を呈し、中央部に括れ部分があって幅が狭い。北東側の短軸の長さは中央部で3.01m、括れ部は2.31m、南東側の短軸長さは中央部で2.49mである。長軸の長さはやや南東寄りで7.33m、方位はN55°Eである。北隅は調査区外にあり、検出できなかった。

壁 北東側1コマの南東壁は、傾斜変換点があり、内側

が急斜面になっていた。また、北西辺では平坦な面があり、底面より30cmほど高くなっていた。南西側2コマの南西端は略三角形を呈した斜面があり、壁の崩壊した痕跡とみられる。底面の標高は北東側で142.75m、南西側で142.68mである。

底面 括れ部は幅25～57cm、高さは壁外より低く、北東側底面からは2～9cm高く、南東側底面からは6～21cm高くなっていた。北東側1コマの面積は7.03m²、南西側2コマの面積は5.60m²である。底面には細かい凹凸があり、北東側がやや高い。括れ部の中央部にP1、1コマの底面にP2・P3、2コマの底面にP4・P5が掘り込まれていた。P1は括れ部の中央に位置しているとともに、1コマ・2コマの間にも相当する位置にあり、意図的に配置された掘り込みと考えられるが、用途は不明である。また、P2～P5は直線的に並んでおり、柱穴である確証はないが、P2とP4とを芯芯で結ぶとP3の南西側を通り、P2とP5とを芯芯で結ぶとP3の北東側中心を通る。各ピットの規模はP1:139×116・深さ36cm、P2:93×60・深さ22cm、P3:71×50・深さ14cm、P4:58×58・深さ12cm、P5:25×23・深さ10cmである。

その他 直線的に並ぶP2～P4の配置から、上屋が存在した可能性がある。

遺物 なし。

時代・時期 12掘立柱建物より古いことから、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定する。

東紺屋 12粘土採掘坑(第186・243図)

検出位置 31区N～O16グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の東端部にある。確認面の標高は143.10mである。略楕円形を呈する掘り込みで、周囲にやや大き目のピットがある。底面と壁の状況から12粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とした。近隣の1柵・10粘採・11粘採との最短距離は1.8m・2.8m・4.6mである。

重複関係 なし。

覆土 ロームブロックを含む褐色系の土で埋没する。壁の抉られた部分の上位の土が崩落したような形跡が認められた。全体の堆積の様相から自然埋没と推定する。

規模 掘り込み面は南北に長軸をもつ楕円形を呈し、長軸1.74m、短軸1.19mで、長軸方位はN23°Wである。

壁 東側の壁の中位は大きく抉られ、西側の壁は一部の

みが抉られていた。抉られた部分の標高は東壁で142.40～142.59mの間、西壁で142.39～142.60mの間であり、その間の厚さ約20cmの粘土を採掘したとみられる。底面の標高は142.26m前後である。

底面 細かい凹凸があり、中央部に不整形の高まりが認められた。高まりと壁際との落差は3～12cmである。採掘のための足場とした跡か。底面の面積は1.43m²である。

その他 南側に略三角形の平坦な面があり、壁外との段差は47cm、底面との段差は25cmであった。この部分のみ壁の挟りがないことから、出入口であった可能性がある。
遺物 埋没土中から土師器杯(231)が出土した。

時代・時期 ほかの粘採とほぼ同じ時代とすれば、奈良～平安時代の8～9世紀の所産と推定するが、わずかな出土土器から飛鳥時代に遡る可能性がある。

東紺屋 1溝(第187図、PL.126)

検出位置 32区A17～20グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部で北北西-南南東に走行する溝である。
重複関係 略南北走行の耕作痕と重複し、12土坑も同じ位置で重複する。1溝→12土坑→耕作痕の順に新しい。
覆土 白色軽石を含む暗褐色系の土で埋没する。自然埋没と推定する。

形状・規模 北北西-南南東に走行する溝で、長さ15.62mを検出した。耕作痕によって破壊された範囲をふくめると、18.86mとなる。方位は北側でN3°E、南側でN17°Wで、わずかにS字状に蛇行する。溝幅は北端付近で30cm、中央部付近で48～55cm、南端付近で43cm、深さ5～10cmである。底面標高をみると北端付近で143.46m、中央部で143.23m、南端付近で143.02mとなり、概ね北から南へ向かって低くなる。水が流れた様子を看取できなかったが、埋没土はやや砂質であった。
遺物 須恵器片26g、土師器片58gが出土した。

時代・時期 12土坑より古いこと、直線的な耕作痕ではないこと、出土遺物の特徴などから、平安時代～中世の所産と推定する。

東紺屋 1火葬跡(第181図、PL.129)

検出位置 32区A19グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸の中央部にある。確認面の標高は143.40～143.50mで

ある。細長い掘り込みの長辺に突出部が付け加えられた形状で、突出部は斜めに長方形掘り込みに向かって低くなる。掘り込み内から骨片と炭化物が出土したことから、当初火葬墓と考えたが、頭骨や腰・腕・脚の大きい破片がなく、火葬した場所であるが埋葬した場所ではないと考えられ、1火葬跡とした。近隣の12土坑・11掘立柱建物・17住居・9粘土採掘坑との最短距離は2.7m・3.0m・7.3m・8.0mである。

重複関係 なし。

覆土 炭化物を含む褐色系・黒色系の土で埋没する。炭化物・灰がほかの遺構に比べて極端に多く、上位では骨の小片を含んでいた。とくに中央の石1南側の1層の上部には、よく焼けた焼土が厚さ2mmほど堆積し、その焼土付近から人骨破片が集中して出土した。また、2層と1層との境界付近に人骨破片が少量出土したが、中～下部には含まれていなかった。

規模 掘り方は北東-南西方向に長軸をもち、長軸長さは2.72m(下端2.59m)、短軸長さは南寄りで0.76m(下端0.54m)・北寄りで0.70m(下端0.55m)である。長軸方位はN27°Eである。底面で検出した大き目の石の中間の位置に突出部が位置する。北側の石2と掘り方下端との距離は34cm、北側の石と南側の石1との距離は52cm、石1と掘り方南西端の下端との距離は91cmである。石の大きさは石1:64×41cm、石2:51×37cmで、炭化物が付着していたほか、焼けた痕跡が認められた。

壁 直に近く掘り込まれており、突出部のみ内側に向かって低くなる。深さは9～20cmで、遺構確認面ではわずかに石の一部が確認された。

底面 掘り方底面は2.6×0.5mほどの大きさで、凹凸が著しい。

その他 人が全身を伸ばした状態で火葬されたとすると、どちらが頭位なのか正確な判定は困難だが、石の配置から北東部に頭位があったと推定する。

遺物 最上位からは人骨の小片が出土し、両端から炭化物が多く出土した。炭化物の一部は、もとの形状を保ったままのものがあつた。なお、出土した人骨は、自然科学的鑑定を依頼し、その結果を第5章に掲載した。

時代・時期 1火葬跡からは時代・時期を推定する遺物の出土がないが、他遺跡の例を参考にすると、中世の所産と推定される。

東紺屋 土坑(第188～190・244図、PL.129～133・154)

東紺屋谷戸では1～36までの土坑を検出した。概ね50cmを超える大きさの掘り込みを土坑としたが、厳密な区別ではない。土坑の一部には粘土採掘坑の可能性のあるもの、組み合わせ不明の掘立柱建物の柱穴とみられるもの、果樹または植木栽培痕とみられるものを含む。以下、特徴ある土坑のみ記述する。

いくつかの土坑は埋没土から須恵器・土師器の破片が出土した。必ずしも古い時代に所属するとは限らないが、平安時代まで遡る可能性がある。須恵器・土師器の破片を出土した土坑は2・4・6・7・8・10・13・20・21・23・27・28・29・30・31A・31C・33・36の各土坑である。10土坑出土の土器(232)は8世紀代、20土坑出土土器(234)は9世紀代、30土坑出土土器(235・236)は9世紀代とみられる。

12土坑は略円形の土坑で、粘土採掘坑の可能性がある。

13～17・23土坑は東紺屋谷戸の中央部南寄りに集中し、近接して掘り込まれていた。前後関係があり、一連の遺構と推定されるが、時期が不明である。

24～36土坑は浅く、底面に小穴のある土坑が多いことから、植木栽培痕の可能性が高いが、そのうち25土坑は13掘立柱建物の柱穴とした。

11・32・33土坑は長方形を呈し、そのうち32・33土坑は一部を耕作痕によって破壊されていたことから、中世以前に遡る可能性がある。用途は不明である。

個別の土坑の検出位置や計測値、特記事項は、第9表に掲載した。

東紺屋 ピット(第191・192・244図、PL.133)

東紺屋谷戸では1～199までのピットを検出した。概ね50cm未満の掘り込みをピットとしたが、厳密な区別ではない。ピットの一部には粘土採掘坑の可能性のあるもの、組み合わせ不明の掘立柱建物の柱穴とみられるもの、果樹または植木栽培痕とみられるものを含む。以下、特徴あるピットのみ記述する。

いくつかのピットは埋没土から須恵器(189ピット238)・土師器の破片が出土した。必ずしも古い時代に所属するとは限らないが、平安時代まで遡る可能性がある。須恵器・土師器の破片を出土したピットは114・118・119・121・122・129・131・133・138・139・140・141・

142・144・147・149・153・164・186・187・189・190・191の各ピットである。

114～120Pは5掘立柱建物の内部にあり、5掘立柱建物の一部とした。

189Pの壁は、中位が抉られており、粘土採掘坑の可能性が高い。

192P・193Pは規模がほぼ同じで、底面に小穴があり、柱穴とみられるが、組み合わせる柱穴が見当たらない。

個別のピットの検出位置や計測値、特記事項は、第10表に掲載した。

東紺屋 1道路(第187図)

検出位置 31区T20～32区A17グリッド付近で検出した。東紺屋谷戸中央部で略南北に走行する道路である。31-32区にまたがっている。

重複関係 なし。

覆土 白色軽石を含む灰黄褐色系の土で埋没し、道路を形成する土はロームブロックを含むにぶい黄褐色系の土である。上位に耕作土が存在することから、廃絶された道路の可能性があり、人為的に埋められたとみられる。北端付近では東西端に浅いくぼみがあり、道路脇に側溝が存在した可能性がある。南寄りでは両脇のくぼみを確認できなかった。

形状・規模 北端付近では幅1.96m(窪み含む)あり、中央部で幅1.34～0.88m、南端では幅0.76mの低い盛り上がった形状で、長さ15.84mを検出した。高まりの上位には小石が混じり、狭い農道であったとみられる。

長軸方位はN11°Eである。東側0.2～0.5mに位置する耕作痕の方位はN14°E、東側2.5～3.0mに位置する耕作痕の方位はN13°Eであり、三者はほぼ平行する方位にあることから、耕作痕と同じ時期に使用された道路と考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 耕作痕とほぼ同じ方位をとることから、近現代の所産と推定する。

第6節 遺構外出土の遺物

天王・東紺屋谷戸遺跡では、縄文時代に属するとみられる遺構はなく、出土した遺物はすべて奈良～平安時代以降の遺構から出土したものであり、ここでは出土遺物の概要を記す。なお、天王遺跡はA・B・Cの各区、東紺屋谷戸遺跡は東紺屋と略記する。

1 縄文土器(第245・246図、PL.156)

東紺屋から2点、A区から12点、B区から20点、C区から3点を掲載した。天王17は前期有尾式の深鉢で、唯一全体の形状が示せる個体である。42～47は加曾利E3式、40は諸磯b式、41は諸磯式である。東紺屋3は諸磯b式、4は諸磯式の所産とみられる。

各個体の詳細は、観察表に記した。

2 縄文時代の石器

東紺屋から2点、A区から5点、B区から7点、C区から4点を掲載した。

東紺屋1は有茎尖頭器で、黒色頁岩製である。先端部を欠くが、長さ6.0cmが遺存する。2は打製石斧の未成品である。A区1・2は石鏃である。3は黒色頁岩製の縦型石匙である。14は黒色頁岩製の石核で、細石刃様の小形剥片を剥離している。B区16は多孔石、B区15は輝緑岩製のスタンプ形石器である。

次頁の表は天王遺跡の石材の組成表、天王遺跡の剥片類の集計表、東紺屋の剥片類の集計表、天王遺跡の器種と石材の相関表である。

各個体の詳細は、観察表に記した。

3 古墳～平安時代の遺物

第246図48・49はA区出土の遺物で、48は土錘である。50～57はB区出土の土器である。50～53には墨書が認められた。58～70はC区出土の土器で、58～60には墨書がある。67は擬宝珠形の摘みをもち口縁部にカエリをもつ須恵器蓋、69は口縁部にカエリをもちボタン形の摘みをもつ須恵器蓋である。第247図71～101及び第248図102～106はC区出土の土器・土製品で、72～74・81には墨書がある。106はフィゴ羽口の破片である。

第4章 検出された遺構と遺物

第248図5～7は東紺屋出土の遺物である。6は4面を使用した砥石、7は凹石である。107～118は天王遺跡出土の出土金属製品である。釘とみられるものが多い。

各個体の詳細は、観察表に記した。

天王遺跡 石材組成表

	黒色頁岩 (g)		頁岩 (g)		珪質頁岩 (g)		黒色安山岩 (g)		チャート (g)		玉髄 (g)		細粒輝石安山岩 (g)		ホルンフェルス (g)		合計 (g)	
A区	4	64.7							1	56.9			2	27.1	2	38.8	9	157.7
B区	44	1594.5			4	137.8	1	18.6	1	12.8			3	60.2	5	120.7	58	1881.9
C区	29	1101.5	1	195.6					1	17.5	1	4.6	3	134.8	3	35.2	38	1492
合計	77	2760.7	1	195.6	4	137.8	1	18.6	3	87.2	1	4.6	8	222.1	10	194.7	105	3831.3

天王遺跡 剥片集計表

区	遺構名	石材	出土点数	総重量
A	包含層	黒色頁岩	4	64.7
A	包含層	細粒輝石安山岩	2	27.1
A	包含層	チャート	1	56.9
A	包含層	ホルンフェルス	2	38.8

B	包含層	黒色頁岩	44	1594.5
B	包含層	珪質頁岩	4	137.8
B	包含層	細粒輝石安山岩	3	60.2
B	包含層	ホルンフェルス	5	120.7
B	包含層	チャート	1	12.8
B	包含層	黒色安山岩	1	18.6

C	包含層	黒色頁岩	29	1101.5
C	包含層	玉髄	1	4.6
C	包含層	頁岩	1	195.6
C	包含層	ホルンフェルス	3	35.2
C	包含層	チャート	1	17.5
C	包含層	細粒輝石安山岩	3	134.8

東紺屋谷戸遺跡 剥片集計表

遺構名	石材	出土点数	総数量
5住居	黒色頁岩	1	57.4
7住居	黒色頁岩	1	102.3
5土坑	黒色頁岩	1	39.1
9粘土採掘坑	ホルンフェルス	1	29.2
11粘土採掘坑	黒色頁岩	1	116.9
11掘立柱建物85P	黒色頁岩	1	8.1
表採	黒色頁岩	3	94.1
表土	黒色安山岩	1	1.6
合計		10	448.7

天王遺跡 器種石材相関表

石材/器種	打製石斧	石鏃	石匙	削器	加工痕ある剥片	石核	スタンプ形石器	敲石	多孔石	総計
黒色頁岩	8		1	3	11	4				27
黒色安山岩		1								1
ホルンフェルス	1				2					3
黒曜石		1								1
粗粒輝石安山岩									1	1
細粒輝石安山岩	1									1
変質安山岩	1							1		2
輝緑岩							1			1
変質蛇紋岩	1									1
総計	12	2	1	3	13	4	1	1	1	38

第5表 天王・東紺屋谷戸住居一覽表

区番号	時代・時期	およその年代推定	平面形	規模m	面積m ²		壁高	長軸方位	壁溝		主柱穴	カマド			貯蔵穴			備考		
					計算面積	検出面積			幅cm	深さcm		位置	対称軸方位	構築材	支脚	位置	平面形		大きさcm	深さcm
A 1	古墳後期	7世紀前半	略方形	5.34 × 5.10	27.23	23.10	6 ~ 19	N20° W	16 ~ 22	6 ~ 14	P2P3P4P5	N69° E	粘土	不明	南東隅か(掘り方検出)	(不整形)	(102 × 83)	(68)	南辺壁際に粘土分布	
A 2	古墳後期	7世紀前半	長方形	4.88 × 3.77	18.39	15.00	7 ~ 15	N78° E	20 ~ 35	7 ~ 16	不明	N81° E	粘土 + 石?	不明	南東隅	不整形	66 × 57	15	西半部に地削れ	
A 3	-	不明	略方形	3.24 × 3.35	10.85	9.20	5 ~ 13	N18° W	なし		不明			不明					南西隅に地削れ	
A 4	古墳後期	7世紀	長方形	3.50 × 3.31	11.58	10.18	22 ~ 36	N75° E	なし		P2P3P4	(N76° E)	粘土	不明	南東隅	不整形	95 × 76	61	南辺中央に階段状遺構	
A 5	古墳後期	7世紀	方形	4.32 × 4.21	18.18	7.96	3 ~ 25	N53° E	11 ~ 23	4 ~ 9	不明	(N45° E)	粘土 + 石	不明	東隅	不整形	61 × 68	8	5住居→2溝	
A 6	平安	不明	略方形	3.16 × 2.98	9.41	14.54	0 ~ 13	N53° E	13 ~ 18	5 ~ 8	不明			不明						
A 7	古墳後期	7世紀前半	長方形	3.67 × 2.79	10.23	7.15	35 ~ 41	N63° E	17 ~ 27	1 ~ 8	P1P2P3P4	N25° W	粘土	不明	北東隅	略楕円形	73 × 53	24	8住居→7住居	
A 8	古墳後期	7世紀前半	台形?	3.43 × 3.3以上	-	6.32	24 ~ 32	-	14 ~ 23	5 ~ 8	不明	-	粘土	不明	不明	-	-	-	8住居→7住居	
A 9	古墳後期	7世紀前半	長方形	3.10 × 2.85	8.83	6.68	29 ~ 45	N84° E	なし		P1P2P3P4	N72° E	粘土	不明	南東隅	不整形	54 × 53	33	地削れ	
B 1	平安	10世紀前半	長方形か	2.65 × 3.18以上	8.41	11 ~ 19	N37° E	なし	なし		不明	不明	粘土	不明	南西隅	略楕円形	61 × 50	37	24住→2住→1住	
B 2	平安	10世紀	長方形か	2.92 × 推定3.2	7.61	13 ~ 22	N40° E	9 ~ 25	1 ~ 7		不明	不明	粘土	不明	不明				2住→1住	
B 3	平安	10世紀後半	台形	2.32 × 1.82	4.22	7.12	5 ~ 12	N30° E	なし		不明	推定N42° W	粘土	不明	不明				粘土を貼るビット	
B 4	平安	10世紀後半	台形	3.40 × 3.24	11.01	8.56	32 ~ 47	N15° E	6 ~ 19	2 ~ 10	P2P3P4P6	N64° W	粘土 + 石か	不明	不明				歪み著しい	
B 5	奈良	8世紀前半	方形	3.23 × 3.22	10.40	7.56	38 ~ 60	N60° E	なし		不明	N60° E	粘土 + 石	不明	不明				南隅に細長い石密集	
B 6	飛鳥か	7世紀後半	方形	3.62 × 3.51	12.70	8.63	32 ~ 57	N15° E	11 ~ 16	2 ~ 18	P1P2か	N80° W	粘土	石	不明				北辺東寄りに出入口か	
B 7	奈良	8世紀前半	長方形	4.83 × 3.09	14.92	10.11	32 ~ 46	N19° W	28 ~ 47	1 ~ 5	不明	N75° E	粘土	不明	不明				特殊ビットP4	
B 8	奈良	8世紀後半	長方形	3.64 × 2.83	10.30	7.33	17 ~ 35	N35° W	9 ~ 47	2 ~ 14	P1P3P5P7か	推定N55° E	粘土	不明	P8	不整形	64 × 46	22	P9も貯蔵穴か	
B 9	奈良	8世紀後半	長方形	3.69 × 3.34	12.32	10.43	13 ~ 25	N6° W	なし		P1P2P3P4か	N89° E	粘土	不明	南辺中央壁際	不整形	65 × 65	10	P2周りに粘土分布	
B 10	平安	10世紀後半	長方形	3.18 × 2.78	8.84	6.42	13 ~ 31	N4° E	10 ~ 21	4 ~ 8	P1P2P3か	N77° W	粘土 + 石	石	P4か				P4壁に黄白色粘土	
B 11	平安	10世紀か	台形	2.76 × 3.25	8.97	6.80	13 ~ 22	N19° E	7 ~ 25	6 ~ 10	P1P3P4P5か	N74° W	粘土 + 石	不明	P2か				P2底面に黄白色粘土	
B 12	奈良	8世紀前半	長方形	3.84 × 3.30	12.67	10.31	10 ~ 23	N78° E	なし		P3P6か	N82° E	粘土	不明	P1P2P2か	P1楕円形	43 × 38	20	P2.64 × 67・深さ28cm	
B 13	平安	10世紀前半	台形または方形	3.02 × 3.18 (2.87 × 2.82)	9.60 (8.09)	7.27	21 ~ 33	N16° W	11 ~ 20	1 ~ 14	P1P3P5か	N90° E	粘土 + 石 + 土器	石か	P8P9か	P9不整形	81 × 81	35	P8-64 × 60・深さ34cm	
B 14	奈良	8世紀前半	長方形	3.44 × 3.72	12.79	9.89	17 ~ 26	N14° W	17 ~ 29	2 ~ 12	P1P2P4か	N79° E	粘土	不明	P3か				P7.120 × 98・深さ21cm	
B 15	奈良	8世紀前半	長方形	4.11 × 5.38	22.11	15.67	29 ~ 48	N23° W	11 ~ 34	2 ~ 7	P1P2P5P6	N68° E	粘土 + 石	石	P8か	不整形	70 × 55	17	16住居→15住居(新)	
B 16	奈良	8世紀前半	長方形	4.87 × 3.35	16.31	12.82	5 ~ 14	N24° W	14 ~ 24	5 ~ 14	P6P5P4P8か	不明	不明	不明	不明				硬い床面なし	
B 17	平安か	7世紀後半	方形	2.96 × 2.90	8.58	5.85	32 ~ 50	N0°	なし		不明	N65° W	不明	不明	不明					
B 18	飛鳥か	7世紀後半	長方形	2.91 × 3.37	9.80	7.64	17 ~ 32	N83° W	なし		P1P2か	N84° W	粘土 + 石?	不明	不明					
B 19	奈良	8世紀前半	不明	南辺2.18	-	6.88	2 ~ 5	不明	不明		不明	不明	粘土	不明	不明				南辺の一部とカマド痕跡のみ	
B 20	奈良	8世紀前半	方形	5.09 × 4.92	25.04	19.32	12 ~ 33	N20° W	13 ~ 34	3 ~ 12	P1P6P7P8	N76° E	粘土か	不明	P9	不整形	140 × 103	41	拡張あり	
B 21	飛鳥か	7世紀後半	略方形	6.90 × 7.09	48.92	10 ~ 43	N39° E	10 ~ 25	5 ~ 14	P1P2P4	N33° W	粘土	石	カマド石脇	略方形	96 × 91	47	22住-廊下-21住		
B 22	飛鳥か	7世紀後半	長方形	4.71 × 3.85	18.13	56.02	19 ~ 38	N34° W	10 ~ 29	2 ~ 8	P6P2P9P4-P10	N35° W	粘土 + 石	不明	P7か	略円形	45 × 43	36	22住-廊下-21住	
B 23	平安	9世紀前半	長方形	4.51 × 3.29	14.83	12.39	5 ~ 24	N3° W	なし		P3P4	N90° E	粘土 + 石	不明	P1か	不整形	54 × 52	10		
B 24	平安	不明	不明	西辺2.24以上	-	9.63	6 ~ 16	-	17 ~ 22	3 ~ 6	不明	不明	不明	不明	不明				2住居の拡張か	
B 25	久番																			
B 26	平安	不明	台形	3.01 × 2.40	7.22	4.59	31 ~ 40	N21° W	なし		P2か	なし	不明	不明					火処なし	
B 27	奈良か	8世紀前半	方形か	南北3.54	-	13.73	4 ~ 12	-	なし		不明	なし	不明	南東隅か					火処なし	
C 1	奈良	8世紀前半	長方形	4.31 × 5.01	21.59	11.78	18 ~ 37	N17° W	16 ~ 38	2 ~ 9	P2P4P7P9か	N87° E	粘土	不明	北東隅か	不整形	119 × 105	33	掘り方に1m大の掘り込み	
C 2	奈良	8世紀前半	長方形か	2.92 × 3.08以上	8.99以上	8.17	23 ~ 35	N8° E	なし		不明	不明	粘土	不明	不明					中央部に陥没
C 3	奈良	8世紀前半	台形	3.82 × 4.33	16.54	11.39	37 ~ 59	N66° E	21 ~ 27	2 ~ 5	P5P7P10か	N68° E	粘土 + 石	不明	カマド左脇	不整形	45 × 40	15	床面削れている	

第4章 検出された遺構と遺物

区番号	時代・時期	およその年代推定	平面形	規模m	面積m ²		壁高cm	長軸方位	壁溝		主柱穴	カマド			貯蔵穴			備考		
					計算面積	検出面積			幅cm	深さcm		位置	対称軸方位	構築材	支脚	位置	平面形		大きさcm	深さcm
C 4	欠番	8世紀前半	長方形	4.83 × 3.75	18.11	13.48	10 ~ 15	N20° W	13 ~ 35	2 ~ 12	P1P3P5P7	北東辺南寄り	北東辺中央部	粘土 + 石	不明	東隅	橢円形	59 × 52	19	南西辺に出入り口か
C 5	奈良	7世紀後半	台形	6.29 × 5.91	37.17	26.64	23 ~ 57	N60° E	25 ~ 52	4 ~ 10	P1P2P3P4	北東辺南寄り	北東辺中央部	粘土 + 石	礎と杯	南	半円状	115 × 40	10	カマド遺存良好、中央に階段、床面削れている
C 6	飛鳥か	8世紀前半	長方形	3.57 × 3.17	11.31	7.94	34 ~ 44	N9° W	27 ~ 38	1 ~ 10	P1P3P4	東辺中央部南寄り	東辺中央部南寄り	粘土 + 石	石か	南東隅	不整形	91 × 83	34	中央部床下に土坑
C 7	奈良	9世紀前半	長方形	5.40 × 4.32	23.32	15.24	16 ~ 33	N10° W	13 ~ 31	3 ~ 12	P1P2P6P7	東辺中央部南寄り	東辺中央部南寄り	粘土	不明	南東隅	楕円形	123 × 65	39	掘り方にピット13個
C 8	飛鳥か	7世紀後半	長方形	2.57 × 3.24	8.32	7.01	7 ~ 27	N87° W	なし	なし	不明	東辺中央部	東辺中央部	粘土か	不明	南東隅	楕円形	42 × 39	14	中央部に大きめの土坑
C 9	平安	9世紀前半	略長方形	5.78 × 4.60	26.58	20.27	23 ~ 31	N19° W	12 ~ 28	1 ~ 16	不明	東辺中央部	東辺中央部	粘土か	不明	やや東	不整形	95 × 64	22	南辺中央部に出入口施設
C 10	飛鳥か	7世紀後半	台形	5.62 × 3.66	20.56	14.86	13 ~ 31	N17° W	なし	なし	不明	東辺中央部	東辺中央部	粘土	不明	P2	不整形	186 × 138	17	北半部に竊乱入る
C 11	奈良	8世紀後半	方形	3.97 × 3.90	15.48	11.23	13 ~ 29	N59° E	19 ~ 28	3 ~ 9	不明	北東辺中央部南寄り	北東辺中央部南寄り	不明	不明	不明				東隅付近にカマドか
C 12	奈良	8世紀後半	長方形か	5.01 × 推定3.80	推定19.03	13.17	18 ~ 33	N42° W	15 ~ 27	3 ~ 14	P2P3P4P5	北東辺中央部	北東辺中央部	粘土 + 石	不明	東隅	不整形	128 × 61	41	12住居床下にカマド痕跡
C 13	奈良	9世紀後半	長方形	4.36 × 推定5.30	推定23.10	18.96	2 ~ 14	N19° W	15 ~ 27	3 ~ 14	P2P3P4P5	北東辺中央部	北東辺中央部	粘土 + 石	不明	東隅	不整形	128 × 61	41	南隅を欠く
C 14	奈良	8世紀後半	長方形	6.54 × 5.59	36.55	32.49	19 ~ 30	N22° W	なし	なし	P2P6P9	北東辺中央部	北東辺中央部	不明	不明	東隅付近	不整形	81 × 70	11	北隅・南隅を欠く
C 15	奈良	9世紀後半	台形	3.71 × 3.37	12.50	9.76	15 ~ 22	N28° W	なし	なし	不明	北東辺中央部南寄り	北東辺中央部南寄り	粘土	不明	不明				耕作痕による破壊著しい
C 16	奈良	9世紀後半	長方形	6.62 × 5.32	35.21	29.22	12 ~ 32	N29° W	なし	なし	P3P15P16P17	北東辺中央部	北東辺中央部	粘土か	不明	東隅	楕円形	47 × 45	25	壁際に柱穴
C 17	奈良	8世紀前半	台形	5.12 × 推定3.60	推定18.43	17.62	10 ~ 18	N21° W	17 ~ 26	1 ~ 4	P3P4	北東辺中央部	北東辺中央部	不明	不明	東隅	方形か	57 × 33以上	16	18住→17住・19住
C 18	奈良	9世紀後半	長方形	7.26 × 5.62	40.80	29.63	2 ~ 33	N24° W	14 ~ 36	4 ~ 12	P3P1P4P20	北東辺中央部	北東辺中央部	粘土 + 石	不明	東隅	不整形	179 × 178	32	3辺拡張
C 19	奈良	8世紀後半	長方形	4.53 × 不明	-	5.63	5 ~ 15	計測不可	21 ~ 40	1 ~ 6	P2P28P29P30	北東辺南寄り	北東辺南寄り	不明	不明	東隅	不整形	112 × 72	15	20住居→17住居
C 20	奈良	8世紀後半	長方形	5.85 × 4.82	28.19	21.26	28 ~ 52	N34° W	25 ~ 36	6 ~ 15	P1P2P3P4	北東辺南寄り	北東辺南寄り	粘土	不明	東隅	不整形	76 × 55	18	掘り方で粘土貼り土坑
C 21	奈良	7世紀後半	長方形	5.20 × 4.19	21.78	9.71	19 ~ 26	N6° W	9 ~ 21	2 ~ 5	P2P4P7	東辺南寄り	東辺南寄り	粘土か	不明	南東隅	楕円形	101 × 94	37	床面に地割れ
C 22	奈良	7世紀後半	略長方形	3.58 × 2.91	10.41	18.53	15 ~ 28	N20° W	なし	なし	P1P2P3	北東辺南寄り	北東辺南寄り	粘土	不明	なし				西隅を欠く
C 23	奈良	9世紀前半	台形	5.78 × 4.29	24.79	20.97	3 ~ 23	N15° W	掘り方 8 ~ 26	2 ~ 9	不明	東辺中央	東辺中央	粘土	不明	なし				掘り方中央部に粘土土坑
C 24	奈良	8世紀前半	方形	6.10 × 6.08	37.08	25.22	21 ~ 45	N24° W	21 ~ 45	9 ~ 18	P1P2P3P4	北東辺南寄り	北東辺南寄り	粘土 + 石	不明	東隅	楕円形	150 × 110	23	37土坑→31住居
C 25	奈良	8世紀後半	長方形	5.67 × 4.20	23.81	19.31	21 ~ 41	N25° W	なし	なし	不明	北東辺南寄り	北東辺南寄り	粘土 + 石	不明	東隅	不整形	95 × 86	21	建替えあり
C 26	奈良	8世紀後半	略長方形	7.59 × 6.48	49.18	42.00	28 ~ 55	N24° W	16 ~ 35	3 ~ 9	P2P5	北東辺南寄り	北東辺南寄り	粘土	不明	東隅	不整形	P3:115 × 111, P4:85 × 70		
C 27	奈良	10世紀	略長方形	4.27 × 3.09	13.19	11.20	17 ~ 30	N9° E	なし	なし	P1P2	東辺南寄り	東辺南寄り	粘土 + 石	不明	南東隅	P5 略円形	60 × 53	25	カマド奥壁に石の門
C 28	奈良	9世紀前半	略方形	6.04 × 5.91	35.69	25.07	6 ~ 34	N23° W	18 ~ 25	4 ~ 10	P4P5P6P7	北東辺中央	北東辺中央	粘土 + 石	加工 砂岩	東隅	楕円形	111 × 94	43	34住居→地震跡
C 29	奈良	8世紀前半	台形	6.81 × 6.81	46.37	26.91	24 ~ 42	N30° W	15 ~ 52	7 ~ 27	P1P2P3及び P6P7P8P9	北東辺中央部南寄り	北東辺中央部南寄り	粘土 + 石	不明	東隅か				35住居→地震跡, 35住→36住
C 30	奈良	8世紀後半	長方形	5.62 × 4.37	24.55	17.23	13 ~ 26	N25° W	17 ~ 35	2 ~ 7	不明	北東辺中央部南寄り	北東辺中央部南寄り	粘土 + 石	不明	東隅か				35住→36住
C 31	奈良	7世紀後半	台形	3.71 × 2.74	10.16	7.95	31 ~ 44	N28° W	16 ~ 26	5 ~ 10	不明	北東辺中央部南寄り	北東辺中央部南寄り	粘土	不明	不明				中央部陥没か
C 32	奈良	9世紀後半	台形	4.12 × 3.56	14.67	11.23	25 ~ 37	N10° W	11 ~ 14	5 ~ 8	不明	東辺中央部	東辺中央部	粘土 + 石	不明	不明				46住→39住→地割れ
C 33	奈良	9世紀後半	台形	4.07 × 推定3.55	14.44	9.12	23 ~ 31	推定N7° W	なし	なし	不明	東辺推定中央	東辺推定中央	粘土 + 石	不明	不明				46住→39住→地割れ

区	番号	時代・時期	およその年代推定	平面形	規模m	面積(m ²)		壁高cm	長軸方位	幅cm	壁溝		主柱穴	位置	カマド		支脚位置	貯蔵穴		備考			
						計算面積	検出面積				深さcm	深さcm			平面形	大きさcm		平面形	大きさcm				
C	40	飛鳥	7世紀後半	長方形	5.93 × 5.53	32.79	22.36	38 ~ 48	N62° E	22 ~ 62	2 ~ 9	P4P5P6P7	北東辺中央部 南寄り	石 + 土器	東隅	N74° E	粘土	東隅	不整形	84 × 71	40住→地割れ, 40住→道路跡		
C	41	奈良	8世紀前半	長方形	6.11 × 5.24	32.01	23.97	13 ~ 62	N35° W	16 ~ 39	2 ~ 11	P1P4P5P6	北東辺中央部 南寄り	粘土 + 石	東隅	N63° E	粘土 + 石	東隅	不整形	82 × 64	12溝a→41住か		
C	42	飛鳥か	7世紀後半	長方形	5.48 × 3.19	17.48	12.59	30 ~ 50	N69° E	23 ~ 38	4 ~ 7	不明	北東辺南寄り	粘土	不明	N63° E	粘土	不明	略楕円形	54 × 45	極端な長方形		
C	43	奈良	8世紀前半	長方形	3.54 × 3.36	11.89	9.25	20 ~ 28	N15° W	16 ~ 28	1 ~ 9	不明	東辺中央部や 南寄り	粘土	不明	N76° E	粘土	不明	南東隅	不明	床下粘土貼中央土坑あり		
C	44	奈良	→5粘土採掘坑		2.92 × 2.64	7.70	4.65	5 ~ 15	N64° E	なし		不明	北東辺中央部 南寄り	粘土か	計測不可						床下粘土貼中央土坑あり		
C	45	奈良	不明	長方形	5.45 × 推定5.36	推定 29.21	17.28	39 ~ 64	推定N16° W	なし		P1P2P3P4P5P6	東辺中央部や 南寄り	粘土 + 石	不明	N78° E	粘土 + 石	不明	P7・P9	不整形・ 不整形	72 × 29, 68 × 59	46住→39住→地割れ →38住	
C	47	奈良	→6粘土採掘坑		3.21 × 3.41以上	9.22	35 ~ 41	計測不可		なし		P1P4か	不明		不明							48住→6粘採→地割れ・ 陥没→38住	
C	48	奈良	8世紀前半	長方形か	2.04以上 × 1.10 以上	4.68	20 ~ 26	計測不可		なし		不明	北東辺か	不明	計測不可								埋設土師器あり
C	49	飛鳥か	7世紀後半	長方形か	3.44 × 4.59	15.78	11.30	16 ~ 31	N8° E	15 ~ 23	3 ~ 9	不明	東辺中央部や 南寄り	粘土か	不明	N80° W	粘土か	不明	南東隅	略楕円形	127 × 98	煙道遺存良好	
東	1	奈良	8世紀	長方形	4.76 × 3.58	17.04	12.00	37 ~ 60	N4° W	なし		不明	東辺中央部	粘土	不明	N85° W	粘土	不明	南東隅	不整形	104 × 91	南辺出入口か	
東	2	奈良	→2粘土採掘坑		推定3.40 × 2.78	9.45	6.20	17 ~ 32	N13° W	なし		不明	東辺中央部や 南寄り	粘土 + 石か	不明	N86° W	粘土 + 石か	不明	南東隅か	不整形	88 × 58		
東	3	奈良	8世紀前半	長方形	推定4.50 × 4.04	18.18	12.30	28 ~ 51	N3° W	なし		不明	東辺中央部南 寄り	粘土か	不明	N77° W	粘土か	不明	北東隅	略楕円形	76 × 68	南辺突出部	
東	4	奈良	8世紀前半	長方形	3.79 × 4.15	15.72	10.66	28 ~ 45	N8° E	なし		不明	東辺中央部や 南寄り	粘土か	不明	N82° W	粘土か	不明	南東隅か			西辺に中段	
東	5	奈良	8世紀後半	長方形か	推定3.60 × 2.90	10.44	5.83	14 ~ 20	推定N1° W	なし		不明	東辺	不明	-					不整形	83 × 54	北東隅は調査区外	
東	6	奈良	8世紀後半	長方形	4.92 × 3.72	18.30	14.45	8 ~ 15	N12° W	12 ~ 25	3 ~ 10	不明	東辺南寄り	粘土 + 石	不明	N80° W	粘土 + 石	不明	不明				北辺にテラス, 掘り方 調査で土坑2基, 15住 居→8住居
東	7	平安	9世紀前半	台形	4.66 × 3.24	15.09	13.95	2 ~ 19	N5° W	8 ~ 16	6 ~ 16	不明	不明	不明								9b住居の作り替えか 坑1	
東	8	奈良	8世紀	長方形	4.69 × 3.27	15.33	12.84	19 ~ 27	N2° W	6 ~ 19	1 ~ 12	不明	東辺中央部や 南寄り	粘土	不明	N87° W	粘土	不明	不明			北西隅掘り方調査で土 坑1	
東	9	奈良	8世紀後半	長方形	4.54 × 3.51	15.93	12.00	18 ~ 68	N19° W	17 ~ 28	1 ~ 10	不明	東辺南寄り	粘土 + 石	不明	N69° E	粘土 + 石	不明	南東隅	不整形	53 × 48	南西隅に出入口か	
東	10	飛鳥	7世紀後半	長方形	3.00 × 2.64	7.92	6.46	26 ~ 31	N9° W	なし		不明	東辺南寄り	不明	-					不整形	33 × 24		
東	11	奈良	8世紀後半	台形	6.77 × 5.52	37.37	26.19	10 ~ 37	N12° W	41 ~ 54	3 ~ 14	P1P2P3P4	東辺中央部南 寄り	粘土	不明	N75° E	粘土	不明	南東隅	略楕円形	112 × 78	9 abc → 11住居	
東	12	飛鳥か	7世紀後半	長方形	3.80 × 4.73	17.97	14.80	26 ~ 41	N12° W	13 ~ 29	1 ~ 9	不明	東辺南寄り	粘土 + 土器	不明	N86° E	粘土 + 土器	不明	南東隅	不整形	92 × 81	12住居→3粘採	
東	13	欠番																					
東	14	欠番																					
東	15	奈良	8世紀後半	台形	5.44 × 3.62	19.69	16.24	25 ~ 38	N6° W	なし		不明	東辺南寄り	粘土 + 石	不明	N82° E	粘土 + 石	不明	南東隅か	不整形	186 × 122	15住居→8住居	
東	16	欠番																					
東	17	奈良	8世紀前半	長方形か	不明	-	5.14	29 ~ 39	-	なし		不明	南東辺か	-								三角形形状, 大半は調査 区外	
東	18	欠番																					
東	19	奈良	8世紀前半	長方形	5.31 × 4.42	23.47	17.58	13 ~ 42	N2° E	20 ~ 48	2 ~ 9	不明	東辺南寄り	石 + 粘土	不明	N88° W	石 + 粘土	不明	南東隅	不整形	110 × 68	石組カマド	
東	20	欠番																					
東	21	欠番																					
東	22	欠番																					
東	23	飛鳥か	7世紀後半	長方形か	3.30 × 2.07 以上	-	5.62	19 ~ 46	計測不可	なし		不明	東辺	粘土か	計測不可					略円形	50 × 50	南半部のみ調査	

第4章 検出された遺構と遺物

第6表 B区土坑計測値表(第63~67・69・70図)

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
1	土坑	40 R 8	略方形	76×72・21			二段
2	土坑	40 S 8	円形	59×57・22			
3	土坑	40 S 8	略楕円形	91×52・35			二段
4	土坑	40 S 7	不整形	142×100・22			底部に小穴3
5	土坑	40 S 6	略楕円形	117×51・24			
6	土坑	40 S 7	略円形	83×78・6			
7	土坑	40 T 7	略楕円形	129×92・33			東寄りに小穴
8	土坑	40 S 6	略楕円形	69×48・13			
9	土坑	40 T 6	半掘	110×-・27			底部に小穴2
10	土坑	31 A 5	不整形	110×71・27			底部に小穴2
11	土坑	31 E 12	円形	127×122・49		須3g, 土7g	果樹穴か
12	土坑	31 G 11	不整形	177×84・22			凹み石
13	土坑	31 H 13	略円形	113×94・12			底部に小穴3, 果樹穴か
14	土坑	31 H 13	不整形	126×112・22			底部に小穴4, 果樹穴か, 15土坑・耕作痕と重複
15	土坑	31 H 13	略円形	108×92・12			果樹穴か, 14土坑・耕作痕と重複
16	土坑	31 I 13	略円形	133×128・16		土30g	果樹穴か
17	土坑	31 I 14	不整形	152×106・22			果樹穴か
18	土坑	31 I 13	半掘	120×69・16			耕作痕により西半破壊, 果樹穴か
19	土坑	31 I 14	略円形	121×117・22			果樹穴か
20	土坑	31 I 14	略円形	109×102・13			果樹穴か
21	土坑	31 J 14	略円形	110×101・13			果樹穴か
22	土坑	31 J 14	略円形	99×96・10			果樹穴か
23	土坑	31 J 14	不整形	146×122・30			果樹穴か
24	土坑	31 J 14	略円形	109×101・13		土13g	果樹穴か, 耕作痕と重複
25	土坑	31 J 13	略円形	128×124・34		須10g, 土3g	果樹穴か, 耕作痕と重複
26	土坑	31 I 13	不整形	107×83・16			8住居→25土坑, 果樹穴か
27	土坑	31 J 13	半円形	108×79・16			27土坑→耕作痕, 果樹穴か, 2溝と重複
28	土坑	31 K 12	不整形	131×100・12		縄文3g	
29	土坑	31 K 12	不整形	86×85・14			
30	土坑	31 J 11	楕円形	84×78・23			
31	土坑	31 I 11	不整形	80×71・15			
32	土坑	31 I 11	楕円形	100×85・18			
33	土坑	31 I 11	略円形	89×87・16			41・83土坑と重複
34	土坑	31 K 11	不整形	137×132・42		須5g, 土25g	
35	土坑	31 K 11	不整形	210×129・52		須25g, 土35g	73Pと重複
36	土坑	31 J 11	略楕円形	66×53・59		須13g, 土8g	
37	土坑	31 K 10	長方形	160×93・30		土36g	2井戸周辺
38	土坑	31 K 10	略楕円形	58×46・24		土15g	2井戸周辺
39	土坑	31 K 10	不整形	88×61・41			13住居→39土坑
40	土坑	31 I 11	不整形	103×95・38		土33g	3井戸西側
41	土坑	31 I 11	略円形	123×114・17		須256g, 土267g	83土坑(3井戸湧水点)→41土坑→33土坑
42	土坑	31 H 11	略円形	80×78・22		須5g, 土200g	7住居→42土坑, 3井戸東側
43	土坑	31 J 9	不整形	107×103・26			13住居→43土坑
44	土坑	31 J 9	不整形	93×86・14		土62g	
45	土坑	31 J 9	不整形	149×83・16			12住居・14住居→45土坑
46	土坑	31 H 10	不整形	48×45・23		土4g	6住居→46土坑
47	土坑	31 J 11	楕円形	75×57・51			
48	土坑	31 K 10	不整形	70×57・58			2井戸周辺
49	土坑	31 K 10	不整形	58×52・37			2井戸周辺
50	土坑	31 K 10	略楕円形	60×38・54			2井戸周辺
51	土坑	31 K 10	不整形	71×50・51		須7g, 土3g	2井戸周辺
52	土坑	31 J 10	楕円形	57×42・38		土18g	2井戸周辺
53	土坑	31 K 9	不整形	60×46・38			2井戸周辺
54	土坑	31 J 9	不整形	52×32・23			
55	土坑	31 I 8	円形	45×43・28			
56	土坑	31 N 7	円形	87×80・29			石1個, 底面に小穴1
57	土坑	31 O 6	不整形	157×87・29			芋穴か
58	土坑	31 O 6	楕円形	222×84・15			芋穴か
59	土坑	31 O 7	略長方形	197×108・21			芋穴か
60	土坑	31 P 7	不整形	78×73・7			
61	土坑	31 P 7	長方形	151×93・29		土19g	芋穴か
62	土坑	31 P 7	長方形	207×85・34		須13g, 土8g	芋穴か
63	土坑	31 P 8	略円形	93×87・16		須13g	
64	土坑	31 P 8	不整形	181×88・33		土55g	芋穴か, 57土坑に似る
65	土坑	31 Q 8	略長方形	129×104・18		土11g	芋穴か, 底面に小穴1
66	土坑	31 P 7	略円形	72×68・13			
67	土坑	31 P 7	略長方形	181×103・28		須2g, 土31g	芋穴か

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
68	土坑	31 O 9	楕円形	81 × 71・70			二段
69	土坑	31 P 9	楕円形	65 × 49・44			二段
70	土坑	31 P 10	略方形	67 × 66・74		須6g, 土63g	芋穴か, 二段
71	土坑	31 K 8	略円形	60 × 51・15			
72	土坑	31 J 7	略方形		—	—	1掘立柱建物
73	土坑	31 I 7	略方形		—	—	1掘立柱建物
74	土坑	31 I 8	不整形		—	—	1掘立柱建物
75	土坑	31 M 9	略円形	90 × 88・8		土40g	21住居→75土坑
76	土坑	31 K 10	不整形	52 × 43・69			37土坑→76土坑, 2井戸周辺
77	土坑	31 K 10	不整形	60 × 54・15	—	—	2井戸土坑
78	土坑	31 J 10	不整形	62 × 45・40			11住居と接する
79	土坑	40 S 8	不整形	236 × 92・27			2住居と重複, 第29・30図に掲載
80	土坑	31 K 10	不整形	151 × 50・64	—	—	2井戸土坑
81	土坑	31 K 10	不整形	97 × 58・29	—	土18g	2井戸土坑
82	土坑	31 N・O 9	楕円形	67 × 50・24			
83	土坑	31 I 11	略円形	148 × -・63	—	—	3井戸湧水点土坑, 33・41土坑と重複, 第57図
84	土坑	31 H 9	不整形	122 × 67・22	—	須39g, 土349g 埴輪60g	3井戸流路, 第58・60図に掲載
85	土坑	31 K 11	略円形	108 × 101・27			底面に小穴4, 果樹穴か
86	土坑	31 L 10	不整形	84 × 53・60		土3g	86土坑→耕作痕, 2井戸土坑
87	土坑	31 G 8	不整形	74 × 65・7		土5g	3井戸流路→87土坑, 第58・60図に掲載
88	土坑						
89	土坑						
90	土坑						
91	土坑						
92	土坑						
93	土坑						
94	土坑					須69g	
95	土坑						
96	土坑						
97	土坑					土2g	

第7表 B区ピット計測値表 (第63・64・67~70図)

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
1	ピット	40 R 8	略円形	46 × 41・13			
2	ピット	40 R 8	略楕円形	21 × 40・30			
3	ピット	40 T 6	略円形	40 × 37・19			二段
4	ピット	40 T 6	略円形	46 × 41・27			5Pと重複
5	ピット	40 T 6	略円形	- × 42・15			4Pと重複
6	ピット	31 J 11	略円形	50 × 46・32			
7	ピット	31 J 11	略円形	46 × 45・46			
8	ピット	31 I 12	略方形	45 × 44・38			
9	ピット	31 I 12	不整形	43 × 40・42		土20g	
10	ピット	31 J 11	不整形	40 × 34・21			
11	ピット	31 K 11	不整形	66 × 58・15			2井戸ピット
12	ピット	31 K 10	略円形	31 × 27・22			2井戸ピット
13	ピット	31 K 10	略円形	43 × 38・25			2井戸周辺
14	ピット	31 K 11	不整形	47 × 42・39		土9g	2井戸周辺
15	ピット	31 J 11	不整形	36 × 35・20			
16	ピット	31 J 11	不整形	33 × 30・21			
17	ピット	31 H 12	不整形	42 × 41・38		土11g	
18	ピット	31 H 13	略楕円形	49 × 48・22			
19	ピット	31 I 9	不整形	37 × 27・19			12住居→19P
20	ピット	31 H 10	略楕円形	51 × 36・19			6住居と接する
21	ピット	31 H 10	不整形	33 × 31・30			6住居→21P
22	ピット	31 K 10	不整形	34 × 30・36		土11g	22P→37土坑
23	ピット	31 H 10	略円形	33 × 33・13		土9g	
24	ピット	31 I 9	略楕円形	44 × 37・27			
25	ピット	31 I 9	不整形	42 × 37・25			
26	ピット	31 K 9	不整形	37 × 32・17			
27	ピット	31 J 10	不整形	40 × 40・46			
28	ピット	31 K 10	略円形	39 × 37・24			
29	ピット	31 K 9	不整形	37 × 35・22			
30	ピット	31 O 6	不整形	43 × 39・44			
31	ピット	31 O 6	略楕円形	53 × 40・29			

第4章 検出された遺構と遺物

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
32	ピット	31 J 8	不整形	34 × 30・31			
33	ピット	31 O 9	略円形	40 × 39・23			17 住居に接する
34	ピット	31 O 9	不整形	36 × 33・10			
35	ピット	31 O 9	不整形	37 × 36・26			二段
36	ピット	31 K 10	不整形	37 × 36・21	—	—	2 井戸ピット
37	ピット	31 K 10	不整形	58 × 37・32			2 井戸ピット, 72P と重複
38	ピット	31 K 10	不整形	60 × 43・33	—	—	2 井戸ピット
39	ピット	31 K 10	不整形	47 × 43・49	—	—	2 井戸ピット
40	ピット	31 K 11	略円形	35 × 32・37			41P と重複, 2 井戸ピット
41	ピット	31 K 11	不整形	34 × 31・43			2 井戸ピット, 40P と重複
42	ピット	31 K 11	不整形	43 × 30・7			2 井戸ピット
43	ピット	31 K 11	略円形	45 × 42・34		土 21g	2 井戸ピット
44	ピット	31 K 11	不整形	45 × 39・30			2 井戸ピット
45	ピット	31 L 10	不整形	125 × 109・21			2 井戸に接する
46	ピット	31 L 10	略楕円形	67 × 55・16			2 井戸ピット
47	ピット	31 N 7	不整形	25 × 23・32			
48	ピット	31 K 8	不整形	50 × 49・22			
49	ピット	31 K 7	略方形		—	須 33g, 土 119g	1 掘立柱建物
50	ピット	31 J 7	略方形		—	須 74g, 土 47g	1 掘立柱建物
51	ピット	31 J 7	不整形	95 × 79・12		土 12g	3 井戸流路→51P
52	ピット	31 J 6	略方形	70 × 68・16		土 33g	3 井戸流路→52P 53P と重複
53	ピット	31 J 6	不整形	80 × 72・10		須 14g, 土 17g	3 井戸流路→53P 52P と重複
54	ピット	31 I 7	不整形	88 × 76・8			3 井戸流路→54P
55	ピット	31 I 7	不整形	57 × 49・23			3 井戸流路→55P
56	ピット	31 I 7	不整形	72 × 64・10			3 井戸流路→56P
57	ピット	31 I 7	長方形	58 × 48・12			3 井戸流路→57P
58	ピット	31 I 7	不整形		—	土 16g	1 掘立柱建物
59	ピット	31 I 7	不整形		—	—	1 掘立柱建物
60	ピット	31 I 6	不整形	97 × 73・13			1 掘立柱建物の一部か, 61・62P と重複
61	ピット	31 I 6	不整形		—	—	1 掘立柱建物
62	ピット	31 I 6	長方形か	74 × 63・10			1 掘立柱建物の一部か, 60P と重複
63	ピット	31 I 6	略方形		—	—	1 掘立柱建物
64	ピット	31 J 6	略方形		—	須 12g	1 掘立柱建物
65	ピット	31 J 5	不整形	110 × 84・17			
66	ピット	31 J 6	略方形		—	—	1 掘立柱建物
67	ピット	31 J 6	不整形		—	—	1 掘立柱建物
68	ピット	31 E 11	略円形	38 × 35・27			
69	ピット	31 E 11	略円形	36 × 32・16			
70	ピット	31 K 10	不整形	40 × 34・26			2 井戸ピット
71	ピット	31 K 10	不整形	27 × 25・16			2 井戸周辺
72	ピット	31 K 10	不整形	50 × -・12			2 井戸ピット, 37P と重複
73	ピット	31 K 11	不整形	42 × 34・26			2 井戸周辺, 35 土坑と重複
74	ピット	31 K 10	略円形	38 × 35・34			2 井戸周辺
75	ピット	31 K 10	不整形	62 × 60・46		須 32g, 土 5g	2 井戸周辺
76	ピット	31 H 7	不整形	29 × 27・15			3 井戸流路東岸
77	ピット	31 N 9	不整形	26 × 24・37			
78	ピット	31 O 9	略円形	31 × 28・62			とくに深い

第8表 C区ピット計測値表(第146図)

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
1	ピット	31 L 14	円形	34 × 32・15			3 住, 14 土坑と重複
2	ピット	31 M 11	円形	38 × 36・21			B区3 溝と重複
3	ピット	31 M 11	楕円形	31 × 26・57			B区3 溝と重複
4	ピット	31 L 10	不整形	33 × 29・32			B区2 井戸関連ピット 12 土坑と重複
5	ピット	31 L 10	略方形	25 × 21・15			
6	ピット	32 J 14	楕円形	65 × 54・30			1 掘立7P
7	ピット					土 14g	1 掘立柱建物
8	ピット					須 24g, 土 72g	1 掘立柱建物
9	ピット					須 39g, 土 52g	1 掘立柱建物
10	ピット	32 K 14	円形	61 × 56・36			
11	ピット					須 40g, 土 82g	1 掘立柱建物
12	ピット					須 68g, 土 151g	1 掘立柱建物
13	ピット						1 掘立柱建物
14	ピット	32 K 15	楕円形	75 × 56・36		須 9g, 土 30g	1 掘立 15P と重複
15	ピット					須 14g, 土 48g	1 掘立柱建物
16	ピット	32 K 15	楕円形	71 × 59・39		須 24g, 土 27g	

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
17	ピット	32 J 15	円形	47 × 45・33			
18	ピット	32 L 16	円形	58 × 55・7		須 38g, 土 41g	
19	ピット	32 K 16	円形	64 × 58・38		土 57g	
20	ピット	32 K 16	楕円形	42 × 36・32		土 1g	
21	ピット	32 K 16	円形	58 × 53・43		土 92g	
22	ピット	32 H 13	楕円形	35 × 29・57			17 土坑と重複
23	ピット	32 J 14	円形	47 × 44・49			
24	ピット					土 4g	2 掘立柱建物
25	ピット					土 39g	2 掘立柱建物
26	ピット	32 I 14	不整形	91 × 71・70		須 12g, 土 22g	2 掘立と重複
27	ピット	32 I 14	不整形	120 × 69・25			2 掘立と重複
28	ピット					土 13g	2 掘立柱建物
29	ピット	32 H・I 14	不整形	85 × 75・50		須 2g, 土 31g	
30	ピット	32 I 14	楕円形	39 × 34・5			2 掘立と重複
31	ピット	32 I 14	楕円形	(42) × 33・11			15 土坑と重複
32	ピット					土 9g	2 掘立柱建物
33	ピット						2 掘立柱建物
34	ピット	32 I 14	円形	49 × 48・28			2 掘立と重複
35	ピット	32 I 13・14	楕円形	38 × 29・14			2 掘立と重複
36	ピット	32 I 13・14	不整形	83 × 68・22		須 9g	2 掘立と重複
37	ピット					土 9g	2 掘立柱建物
38	ピット	32 H 13	略方形	61 × 57・32		須 2g, 土 37g	18 土坑、耕作痕と重複
39	ピット	32 H 13	楕円形	68 × 58・30		土 20g	
40	ピット	32 H・I 13	略方形	79 × 77・27			
41	ピット	32 I 13	円形	53 × 52・35		土 8g	
42	ピット	32 I 13	楕円形	67 × 48・44		土 3g	
43	ピット	32 I 13	略方形	71 × 63・27		土 5g	
44	ピット	32 I 13	楕円形	56 × 36・44			
45	ピット	32 I 13・14、J 13	円形	46 × 44・21			
46	ピット	32 I・J 13	楕円形	52 × 43・15			47P と重複
47	ピット	32 I・J 13	楕円形	51 × 44・40			46P と重複
48	ピット	32 J 13	楕円形	67 × 55・37			
49	ピット	32 J 13	楕円形	51 × 43・40		土 5g	
50	ピット	32 J 14	楕円形	92 × 76・38			
51	ピット					須 17g, 土 249g	1 掘立柱建物, 第120図に掲載
52	ピット					土 5g	1 掘立柱建物
53	ピット						1 掘立柱建物
54	ピット					須 7g, 土 58g	1 掘立柱建物
55	ピット					土 127g	1 掘立柱建物
56	ピット	32 J 16	楕円形	87 × 71・39		土 66g	
57	ピット	32 J 16	不整形	78 × 71・41		土 75g	
58	ピット	32 H 16	略長方形	101 × 80・47			245P と重複
59	ピット	32 I 16	円形	44 × 42・21			
60	ピット	32 H・I 16	不整形	80 × 74・47		須 1g, 土 30g	
61	ピット	32 H 14	楕円形	61 × 48・39		須 5g, 土 9g	2 掘立と重複
62	ピット						2 掘立柱建物
63	ピット					土 5g	2 掘立柱建物
64	ピット	32 H 14	楕円形	58 × 47・33			2 掘立と重複
65	ピット	32 J 13	楕円形	28 × 24・16			
66	ピット	32 H 13	不整形	71 × 55・36		土 5g	17 土坑と重複
67	ピット	32 I 12	円形	50 × 49・27		土 17g	
68	ピット	32 G・H 13	円形	112 × 102・20		須 42g, 土 39g	69P
69	ピット	32 H 13	不整形	118 × 90・19			68P と重複
70	ピット	32 H 14	不整形	69 × 61・47		土 13g	138P、耕作痕と重複
71	ピット	32 H 13	不整形	59 × 52・20		土 93g	17 土坑と重複
72	ピット	32 H 13	円形	61 × 56・19			
73	ピット	32 G・H 13	円形	106 × 103・14		須 15g, 土 21g	
74	ピット	32 G・H 12・13	不整形	140 × 124・71		須 38g, 土 118g	15 住と重複
75	ピット	32 G 13	不整形	67 × 65・64		土 44g	
76	ピット	32 G 13・14	楕円形	100 × 87・27		土 60g	13 住と重複
77	ピット	32 G 13	円形	109 × 107・11		土 24g	13 住と重複
78	ピット	32 G 14	円形	108 × 106・12			11・13 住と重複
79	ピット	32 F・G 13・14	不整形	111 × 106・14		土 21g	12・13 住と重複
80	ピット	32 F 13・14	不整形	105 × 99・10		土 21g	12 住と重複
81	ピット	32 F 14	不整形	56 × 48・39			12 住と重複
82	ピット	32 F 14	不整形	69 × 39・33		土 18g	5 溝と重複
83	ピット	32 F 14	楕円形	54 × 49・31		土 8g	5 溝と重複
84	ピット	32 F 14	不整形	64 × 59・31		須 31g, 土 393g	11 住、5 溝と重複

第4章 検出された遺構と遺物

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
85	ピット	32 G 14	円形	85 × 79・42		須 4g, 土 14g	10 住と重複
86	ピット	32 G・H 14	円形	105 × 97・8		須 43g, 土 69g	10 住と重複
87	ピット	32 G 13	不整形	137 × 112・43		土 45g	15 住と重複
88	ピット	32 H 15	円形	102 × 92・24			
89	ピット	32 G・H 15・16	楕円形	108 × 93・23		須 3g	
90	ピット	32 H 15・16	円形	72 × 66・26		須 3g	
91	ピット	32 H 15	不整形	93 × 86・42		須 6g, 土 43g	
92	ピット	32 G 15	円形	56 × 53・58		土 12g	
93	ピット	32 G 15	楕円形	42 × 36・27		須 9g	11 住、94P と重複
94	ピット	32 G 15	楕円形	(68) × 56・50			93・243P と重複
95	ピット	32 G 15	楕円形	50 × 43・43		須 44g, 土 10g	
96	ピット	32 G 15・16	不整形	59 × 50・53		土 34g	
97	ピット	32 G 16	不整形	89 × 58・51		土 8g	
98	ピット	32 F 16	円形	122 × 115・49		須 6g, 土 15g	
99	ピット	32 F 16	円形	50 × 48・34			
100	ピット	32 F 15・16	楕円形	67 × 51・40		須 1g, 土 8g	
101	ピット	32 F 15	円形	54 × 52・60		土 3g	
102	ピット	32 K・L 16	楕円形	37 × 31・33			
103	ピット	32 H 13・14	楕円形	102 × 76・38			攪乱と重複
104	ピット	32 J 13	円形	44 × 43・25			
105	ピット	32 H 15	不整形	54 × 42・17			3 溝と重複
106	ピット	32 H 14・15	円形	90 × 90・12		土 19g	10 住と重複
107	ピット	32 E 13	円形	105 × 98・17		須 14g, 土 105g, 埴輪 24g	14 住と重複
108	ピット	32 F 13	不整形	119 × 108・25		須 14g, 土 26g	19 住、109P と重複
109	ピット	3.2E+14	不整形	110 × 99・15		須 18g, 土 81g	19 住、耕作痕と重複
110	ピット	32 G・H 15	楕円形	62 × 53・16			
111	ピット	32 F 14	楕円形	107 × 83・14		土 12g	12 住、191P と重複
112	ピット	32 F 13・14	長円形	141 × 104・26			12・19 住と重複
113	ピット	32 H 12	円形	109 × 107・12		須 11g, 土 11g	耕作痕と重複
114	ピット	32 G 11	不整形	92 × 76・48		土 25g	13 掘立柱建物 15 住、攪乱と重複
115	ピット	32 G 11	長円形	133 × 102・44		須 3g, 土 98g	13 掘立柱建物 耕作痕と重複
116	ピット	32 F・G 10・11	不整形	165 × 141・57		須 16g, 土 209g	13 掘立柱建物 耕作痕と重複
117	ピット	32 F 10・11	不整形	169 × 117・35		須 3g	
118	ピット	32 F 10	不整形	47 × 42・35			耕作痕と重複
119	ピット	32 E 17	略方形	68 × 57・30		須 11g, 土 7g	
120	ピット	32 E 16	不整形	102 × 74・27			耕作痕と重複
121	ピット	32 E 16	略方形	49 × 42・54			
122	ピット	32 E 15	円形	113 × 106・45			123P
123	ピット	32 E 15	円形	32 × 27・21			122P
124	ピット	32 D 16	半円形	114 × 70・21		土 5g	29 住、耕作痕
125	ピット	32 D・E 15	円形	102 × 95・30			耕作痕と重複
126	ピット	32 D・E 15	楕円形	107 × 92・27			耕作痕と重複
127	ピット	32 D 15・16	円形	106 × 101・13			耕作痕と重複
128	ピット	32 D 15・16	不整形	104 × 96・21		須 3g	耕作痕と重複
129	ピット	32 D 15	円形	102 × 95・28		須 8g, 土 19g	
130	ピット	32 E 13	半円形	99 × 46・11			19 住、耕作痕と重複
131	ピット	32 D・E 13	不整形	92 × 79・19			
132	ピット	32 H 14	不整形	75 × 66・73			2 掘立、耕作痕、攪乱と重複
133	ピット	32 E 15	半円形	98 × 28・19		須 1g, 土 16g	19 住、耕作痕と重複
134	ピット	32 E 16	楕円形	68 × 48・36		須 2g, 土 9g	耕作痕と重複
135	ピット	32 E 16	楕円形	47 × 42・53			
136	ピット	32 I 13	円形	32 × 27・29			
137	ピット	32 K 16	不整形	58 × 47・16			21 土坑と重複
138	ピット	32 H 14	略方形	76 × 70・44		須 6g, 土 24g	2 掘立、70P と重複
139	ピット	32 E 12・13	円形	118 × 113・29		須 12g, 土 26g	18 住、耕作痕と重複
140	ピット	32 D 14	円形	100 × 97・35		須 20g, 土 61g	17 住と重複
141	ピット	32 C 14	不整形	113 × 92・13			耕作痕と重複
142	ピット	32 C 14・15	円形	50 × 47・58			
143	ピット	32 C・D 15	不整形	109 × 103・17			耕作痕と重複
144	ピット	32 C 15	円形	112 × 105・20			耕作痕と重複
145	ピット	32 C 15	円形	107 × 96・24			146P、耕作痕と重複
146	ピット	32 C 15	円形	106 × 101・43			145P、耕作痕と重複
147	ピット	32 C 15	円形	35 × 33・31			耕作痕と重複
148	ピット	32 C 15・16	円形	100 × 98・18		須 15g, 土 17g	耕作痕と重複
149	ピット	32 C 15	不整形	59 × 37・53		土 2g	耕作痕と重複
150	ピット	32 C 15	楕円形	101 × 93・13			耕作痕と重複
151	ピット	32 C 15	不整形	106 × 100・21		須 1g, 土 7g	耕作痕と重複

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
152	ピット	32 C 15	略方形	51 × 46・57			耕作痕と重複
153	ピット	32 C 16	楕円形	91 × 68・11		土 58g	
154	ピット	32 B・C 15	不整形	133 × 80・28			305P、耕作痕と重複
155	ピット	32 D 13	不整形	98 × 92・27		須 17g, 土 14g	耕作痕と重複
156	ピット	32 H 17	楕円形	36 × 28・11			25 土坑と重複
157	ピット	32 H 17	不整形	105 × 45・46			25 土坑、1 溝と重複
158	ピット	32 G 17	不整形	89 × 82・56		須 55g, 土 17g	1・4 溝と重複
159	ピット	32 E 17	楕円形	55 × 49・15		土 63g	4 溝と重複
160	ピット	32 E 16	円形	115 × 114・25		須 6g, 土 9g	
161	ピット	32 F 11	略方形	126 × 109・11		須 5g, 土 10g	13 掘立柱建物 耕作痕と重複
162	ピット	32 F 12	不整形	82 × 63・23		須 27g, 土 14g	6 溝と重複
163	ピット	32 F 12	不整形	72 × 58・51			6 溝、耕作痕と重複
164	ピット	32 E・F 11	略方形	125 × 122・25			13 掘立柱建物 29 土坑、194P と重複
165	ピット	32 E 11	楕円形	89 × 81・33			29 土坑と重複
166	ピット	32 E 10	不整形	116 × 99・25		須 15g, 土 8g	
167	ピット	32 E 10	不整形	102 × 87・13		土 14g	耕作痕と重複
168	ピット	32 E 10	楕円形	47 × 40・24			
169	ピット	32 E 9	楕円形	62 × 53・27			
170	ピット	32 E 9	方形	72 × 64・41			
171	ピット	32 E 9	楕円形	37 × 35・33			
172	ピット	32 E 9	円形	55 × 53・64		須 24g, 土 12g	
173	ピット	32 E 9	不整形	75 × 72・28			
174	ピット	32 E 9	略円形	91 × 88・27			
175	ピット	32 E 9	不整形	63 × 56・57		須 8g, 土 35g	
176	ピット	32 E 9	円形	47 × 44・62		土 12g	
177	ピット	32 D・E 9	楕円形	68 × 47・21			
178	ピット	32 E 9	楕円形	36 × 30・23			
179	ピット	32 E 9	楕円形	95 × 67・63			
180	ピット	32 D・E 9	略方形	45 × 37・50			
181	ピット	32 E 9	不整形	59 × 52・77			
182	ピット						4 掘立柱建物
183	ピット	32 D・E 9	略方形	77 × 73・80		土 21g	
184	ピット	32 D 9	略方形	38 × 37・23			
185	ピット	32 D 9	不整形	38 × 35・28			
186	ピット	32 D 9	円形	37 × 33・22			
187	ピット						4 掘立柱建物
188	ピット	32 D 9	楕円形	54 × 38・22			
189	ピット	32 D・E 9・10	不整形	101 × 91・93		須 6g, 土 44g	
190	ピット	32 F 13	不整形	136 × 97・57		須 5g, 土 55g	108P、耕作痕と重複
191	ピット	32 F 14	略長方形	103 × 82・19		土 5g	12 住、111P と重複
192	ピット	32 F 10	不整形	53 × 42・39		土 13g	耕作痕と重複
193	ピット	32 F 11	略長方形	169 × 106・51		須 6g, 土 89g	13 掘立柱建物 耕作痕と重複
194	ピット	32 F 11	不整形	(108) × 95・45		須 56g, 土 89g	164P、耕作痕と重複
195	ピット	32 D 16	不整形	91 × 71・39			29 住、耕作痕と重複
196	ピット					須 15g, 土 16g	3 掘立柱建物
197	ピット					土 92g	5 掘立柱建物
198	ピット					須 2g, 土 24g	3 掘立柱建物
199	ピット					須 39g, 土 7g	5 掘立柱建物
200	ピット	32 D 10	楕円形	39 × 34・75		土 7g	
201	ピット					須 33g, 土 80g	3 掘立柱建物
202	ピット						3 掘立柱建物
203	ピット						5 掘立柱建物
204	ピット						5 掘立柱建物
205	ピット						3 掘立柱建物
206	ピット	32 C 10・11	略方形	118 × 110・19		須 17g, 土 110g	5 掘立 357P、341P と重複
207	ピット					須 1g	3 掘立柱建物
208	ピット	32 D 10	略方形	60 × 56・37			
209	ピット					土 71g	3 掘立柱建物
210	ピット	32 D 9	楕円形	51 × 43・37		土 11g	
211	ピット	32 C・D 9	不整形	159 × 90・72		須 16g, 土 17g	3 掘立と重複
212	ピット					土 35g	3 掘立柱建物
213	ピット						4 掘立柱建物
214	ピット	32 D 8	不整形	122 × 84・87		土 9g	
215	ピット	32 C・D 9	不整形	87 × 73・72		土 60g	
216	ピット	32 C 8・9	不整形	111 × 81・67		土 50g	251・359P と重複
217	ピット						4 掘立柱建物
218	ピット	32 D 8	略方形	64 × 57・45		須 4g, 土 6g	
219	ピット						4 掘立柱建物

第4章 検出された遺構と遺物

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
220	ピット	32 C 8	楕円形	84 × 67・52		土 24g	
221	ピット	32 B 14	不整形	101 × 87・22		土 12g	
222	ピット	32 B 14	不整形	138 × 108・61		土 15g	225P、耕作痕と重複
223	ピット	32 B 14	円形	51 × 49・46		土 34g	耕作痕と重複
224	ピット	32 B 14・15	不整形	97 × 93・26		土 24gg	耕作痕と重複
225	ピット	32 B 14	楕円形	61 × 50・27		須 3g, 土 54g	222P と重複
226	ピット	32 B 14・15	円形	97 × 95・17		土 26g	耕作痕と重複
227	ピット	32 B 14	不整形	71 × 57・26			
228	ピット	32 B 15	略方形	127 × 88・32		土 6g	耕作痕と重複
229	ピット	32 A・B 15	不整形	68 × 67・50		須 24g, 土 16g	574P、耕作痕と重複
230	ピット	32 A・B 14	略方形	102 × 93・17		土 3g	
231	ピット	32 A 14・15、B 14	不整形	94 × 72・34		須 24g, 土 148g	230・574P と重複
232	ピット	32 A・B 15	円形	103 × 98・33		須 9, 土 13g	
233	ピット	32 A 15	半円形	94 × 59・11		須 62g	耕作痕と重複
234	ピット	32 B 15	円形	98 × 88・13			
235	ピット	32 B 15・16	円形	106 × 102・24			
236	ピット	32 B 15	楕円形	40 × 33・13		須 2g, 土 10g	
237	ピット	32 B 15	円形	32 × 32・19		土 6g	
238	ピット	32 B 15	不整形	145 × 121・59		須 18g, 土 287g	
239	ピット	32 B 15	円形	50 × 49・37		須 1g, 土 17g	355・356P と重複
240	ピット	32 B・C 14・15	楕円形	127 × 99・41		土 6g	耕作痕と重複
241	ピット	32 D 15	円形	117 × 112・29		土 9g	耕作痕と重複
242	ピット	32 D 15	半円形	88 × 55・8			耕作痕と重複
243	ピット	32 G 15	略方形	46 × 44・30			94P と重複
244	ピット	32 G 15	略方形	81 × 67・56		須 10g, 土 26g	
245	ピット	32 H 16	円形	47 × 43・47			58P と重複
246	ピット	32 H 16	円形	45 × 43・34		土 15g	
247	ピット	32 C 8	方形	97 × 82・92		須 59g, 土 54g	
248	ピット	32 C 8	不整形	105 × 70・17		土 3g	
249	ピット	32 C 8・9	不整形	90 × 69・14		須 1g, 土 13g	
250	ピット	32 C 9	不整形	131 × 73・40		須 19g, 土 72g	497P と重複
251	ピット	32 C 9	不整形	97 × 56・37		土 10g	216P と重複
252	ピット					須 28g, 土 11g	5 掘立柱建物
253	ピット					須 18g, 土 262g	3・5 掘立柱建物
254	ピット					土 22g	5 掘立柱建物
255	ピット					土 51g	3 掘立柱建物
256	ピット					須 6g, 土 17g	5 掘立柱建物
257	ピット	32 H 16	円形	75 × 73・12			
258	ピット	32 F 16	不整形	91 × 79・42		須 2g, 土 8g	
259	ピット	32 F 16	円形	58 × 52・48			
260 a	ピット	32 C 10・11	略長方形	65 × 46・50			260bP と重複
260 b	ピット	32C11	楕円形	52 × 39・28			260aP と重複
261	ピット					土 28g	6 掘立柱建物
262	ピット	32 C 11	楕円形	45 × 42・15			
263	ピット					土 23g	6 掘立柱建物
264	ピット	32 C・D 11	楕円形	36 × 28・15			
265	ピット	32 C 11	不整形	81 × 52・29		須 12g, 土 63g	17 溝と重複
266	ピット					土 30g	6 掘立柱建物
267	ピット	32 C 11	円形	54 × 50・16		須 1g, 土 18g	
268	ピット	32 B 11	楕円形	61 × 50・19		土 125g	6 掘立、31 土坑と重複
269	ピット	32 C 10・11	略方形	71 × 67・24		須 5g, 土 2g	
270	ピット					土 53g	6 掘立柱建物
271	ピット	32 C 10	略方形	50 × 43・16		土 5g	
272	ピット					須 1g, 土 46g	5 掘立柱建物
273	ピット	32 C 10	楕円形	48 × 42・24			
274	ピット	32 C 9・10	不整形	116 × 78・61		須 23g, 土 37g	
275	ピット	32 C・D 10	略長方形	55 × 40・34			
276	ピット						3 掘立柱建物
277	ピット					須 5g, 土 20g	3 掘立柱建物
278	ピット					土 11g	5 掘立柱建物
279	ピット	32 C 9	不整形	92 × 90・53		須 20g, 土 83g, 灰釉 4g	
280	ピット						5 掘立柱建物
281	ピット					須 17g, 土 130g	5 掘立柱建物
282	ピット	32 C 9	楕円形	55 × 45・65		須 15g, 土 24g	360P と重複
283	ピット	32 B 9・10	略方形	101 × 95・17		土 1g	
284	ピット	32 B 10	楕円形	45 × 38・22			

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
285	ピット	32 B 10	略方形	25 × 23・16			
286	ピット	32 B 10	円形	39 × 35・25			
287	ピット	32 B 10・11	略方形	36 × 34・16			
288	ピット					須 10g, 土 27g	6 掘立柱建物
289	ピット	32 B 10	楕円形	34 × 32・18			
290	ピット	32 B 11	不整形	133 × 125・62		須 50g, 土 128g	
291	ピット	32 A・B 9	楕円形	124 × 89・38		土 15g	346P と重複
292	ピット	32 A 9	略方形	75 × 64・57		須 144g, 土 111g	33 住と重複
293	ピット	32 A 9	楕円形	98 × 77・71			
294	ピット	32 A 9	不整形	88 × 83・59		土 17g	347・578P と重複
295	ピット	32 B 8	略長方形	114 × 77・27		土 26g	
296	ピット	32 B 8	楕円形	128 × 82・15			
297	ピット	32 B 8	略長方形	60 × 47・48			
298	ピット	32 B 8	楕円形	70 × 63・10			
299	ピット	32 A 12	円形	85 × 77・35		須 17g, 土 15g	
300	ピット	31 T 15	略方形	80 × 77・39		土 8g	
301	ピット	31 T 15	円形	104 × 93・35			
302	ピット	31 T 15	略方形	79 × 72・39			
303	ピット	31 T 15	長円形	130 × 92・13			
304	ピット	31 T 13・14, 32 A 13・14	楕円形	85 × 76・41			313P と重複
305	ピット	32 C 15	不整形	90 × 63・49			154P、耕作痕と重複
306	ピット	31S14・15	楕円形	71 × 61・44		土 2g	
307	ピット	31 T 14	楕円形	58 × 48・28			
308	ピット	31 T 14	不整形	34 × 32・23			
309	ピット	32 H 12	楕円形	127 × 84・24		土 13g	攪乱と重複
310	ピット	32 C 15	円形	37 × 32・13			
311	ピット	32 B 15、C 15・16	楕円形	108 × (97)・28			耕作痕と重複
312	ピット	31 T 14	不整形	96 × 71・38			8C 溝と重複
313	ピット	31 T 13・14	楕円形	83 × 63・63			304P と重複
314	ピット					土 64g	7 掘立柱建物
315	ピット						7 掘立柱建物
316	ピット						8 掘立柱建物
317	ピット					土 8g	7 掘立柱建物
318	ピット	32 A 12・13	楕円形	73 × 45・28			319P と重複
319	ピット	32 A 12	円形	32 × 29・19			318P と重複
320	ピット	32 A 12	楕円形	50 × 32・39			
321	ピット	32 A 12	不整形	92 × 82・48		土 42g	
322	ピット	32 B 12	不整形	71 × 68・34		土 27g	6 掘立、323P と重複
323	ピット					須 15g, 土 96g	6 掘立柱建物
324	ピット	32 B 12	不整形	139 × 118・22			
325	ピット						6 掘立柱建物
326	ピット	32 A・B 12	不整形	112 × 91・92		土 16g	
327	ピット					土 21g	6 掘立柱建物
328	ピット	32 B 11	略方形	73 × 65・24			
329	ピット					土 25g	6 掘立柱建物
330	ピット	32 A 11	不整形	131 × 108・70		須 2g, 土 23g	30 住、331P と重複
331	ピット	32 A 11	不明	55 × 45・11		須 7g, 土 8g	30 住、330P と重複
332	ピット	32 A 11・12	不整形	138 × 131・24		須 6g, 土 14g	
333	ピット	31 T 11・12、32 A 11	円形	145 × 133・29		土 4g	30 住と重複
334	ピット						7 掘立柱建物
335	ピット	31 T 12、32 A 12	楕円形	46 × 40・17		須 75g, 土 42g	3 粘土採掘坑と重複
336	ピット					土 59g	7 掘立柱建物
337	ピット	31 T 14	不整形	41 × 31・14		土 40g	
338	ピット	32 B 13	円形	28 × 27・18			
339	ピット	32 B 12	楕円形	36 × 32・23			
340	ピット	32 C 12	不整形	66 × 60・53			
341	ピット	32 C 11	不整形	57 × 46・13			206P と重複
342	ピット	32 C 9・10	円形	38 × 37・22			
343	ピット	32 C 10	楕円形	52 × 42・25		土 36g	5 掘立 272P と重複
344	ピット						5 掘立柱建物
345	ピット	32 A・B 10	略方形	43 × 38・18			
346	ピット	32 A 9	不整形	91 × 57・66		土 13g	291P と重複
347	ピット	32 A 9	不整形	97 × (66)・95			294P と重複
348	ピット	31 S 13	不整形	131 × 121・32		須 89g, 土 198g	3 粘土採掘坑
349	ピット						7 掘立柱建物
350	ピット					土 24g	7 掘立柱建物
351	ピット					土 6g	8 掘立柱建物
352	ピット						8 掘立柱建物

第4章 検出された遺構と遺物

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
353	ピット						6 掘立柱建物
354	ピット						6 掘立柱建物
355	ピット	32 B 15	円形	60 × 60・15		土 16g	239・356P と重複
356	ピット	32 B 15	不整形	72 × 59・37		土 13g	239・355P と重複
357	ピット						5 掘立柱建物
358	ピット					土 27g	5 掘立柱建物
359	ピット	32 C・D 8・9	略方形	81 × 69・60		須 5g, 土 25g	216P と重複
360	ピット	32 B・C 9	略長方形	144 × 107・75			282P と重複
361	ピット	32 A・B 12	不整形	87 × 66・47		土 20g	
362	ピット	31 R 15	円形	135 × 129・20		須 17g, 土 31g	26 住と重複
363	ピット	31 Q 14・15	楕円形	146 × 137・17		須 3g, 土 21g	26 住と重複
364	ピット	31 R 14	円形	47 × 45・15			26 住、12a 溝と重複
365	ピット	31 Q 15	円形	124 × 123・12		須 3g, 土 53g	26 住と重複
366	ピット	31 Q・R 14	円形	105 × 103・13		須 8g	26 住と重複
367	ピット	31 Q 15	楕円形	81 × 74・4			26 住と重複
368	ピット	31 Q 14	円形	129 × 125・16		土 1g	
369	ピット	31 Q 15	円形	123 × 119・11		土 5g	
370	ピット	31 P・Q 15	円形	118 × 109・12			
371	ピット	31 P 15	楕円形	122 × 83・73			
372	ピット	31 P 15	不整形	128 × 123・13		土 17g	
373	ピット	31 O・P 14・15	不整形	167 × 142・12		土 7g	389・576P、道路跡と重複
374	ピット	31 O 14・15	略方形	138 × 133・22			道路跡と重複
375	ピット	31 O 14	不整形	94 × 81・29		土 46g	道路跡と重複
376	ピット	31 O 14	円形	104 × 97・10		須 18g	道路跡と重複
377	ピット	31 P 14	楕円形	112 × 100・16		須 3g	
378	ピット	31 P 14	楕円形	112 × 102・10			13 溝と重複
379	ピット	31 P 14	楕円形	124 × 108・10			392P と重複
380	ピット	31 P 14	円形	101 × 94・10			
381	ピット	31 P 14	楕円形	103 × 80・6			
382	ピット	31 O 14	楕円形	117 × 113・8			459P、道路跡と重複
383	ピット	31 O 14	略方形	71 × 62・67			
384	ピット	31 O 14	略長方形	62 × 44・24		須 14g	道路跡と重複
385	ピット	31 O 14	略方形	88 × 74・51			
386	ピット	31 O 14	楕円形	36 × 31・40			
387	ピット	31 O 14	円形	34 × 33・36			
388	ピット	31 O 14	略長方形	96 × 64・37			
389	ピット	31 O・P 14	略方形	78 × 74・80			
390	ピット	31 P 15	不整形	34 × 29・13			
391	ピット	31 P 15	円形	41 × 39・37			
392	ピット	31 P・Q 14	楕円形	46 × 37・39			379P と重複
393	ピット	31 Q 14・15	楕円形	43 × 31・31			
394	ピット	31 Q 14	楕円形	89 × 44・38			
395	ピット	31 P 14	円形	42 × 40・29			
396	ピット	31 P・Q 13・14	円形	58 × 54・35			
397	ピット	31 P・Q 13	略方形	40 × 39・56			
398	ピット	31 P 14	略方形	43 × 39・32			
399	ピット	31 Q 13	楕円形	53 × 45・40		須 21g	
400	ピット	31 Q 13	不整形	72 × 43・43		土 16g	
401	ピット	32 B・C 12	不整形	67 × 55・26		須 2g, 土 12g	
402	ピット	32 B 12	楕円形	52 × 46・23			
403	ピット	32 B 12	略方形	66 × 63・24			
404	ピット	32 B 13	不整形	89 × 75・58			
405	ピット	32 B 13	楕円形	78 × 59・56		須 14g, 土 65g	
406	ピット	32 B 13	不整形	107 × 76・69		須 2g, 土 43g	
407	ピット	32 B 13・14	略方形	50 × 46・31		土 3g	
408	ピット	32 B 12	不整形	96 × 52・71		須 4g, 土 9g	
409	ピット	32 C 13	不整形	62 × 48・47		須 7g	
410	ピット	32 C 11	不整形	75 × 52・35		須 14g	
411	ピット	32 C 11	楕円形	69 × 58・35		土 13g	
412	ピット	32 B 12	楕円形	80 × 62・27			414P と重複
413	ピット	32 B 13	不整形	94 × 78・71		須 10g, 土 81g	
414	ピット	32 B 12	楕円形	38 × 29・10			412P と重複
415	ピット					須 34g, 土 20g	6 掘立柱建物
416	ピット	32 B 13	略方形	70 × 69・78		須 5g, 土 60g	417P と重複
417	ピット	32 B 13	不整形	46 × 37・42			416P と重複
418	ピット	32 C 13	円形	51 × 48・57			
419	ピット	32 A 10	不整形	55 × 49・22			33 土坑と重複

土坑・ピット一覧表

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
420	ピット	32 B 13	円形	27 × 24・12			
421	ピット	31 P 13	略方形	74 × 69・29			41 住と重複
422	ピット	31 P 13	楕円形	51 × 44・42		土 13g	41 住と重複
423	ピット	31 P 12	不整形	40 × 39・36		土 6g	
424	ピット	31 P 13	不整形	56 × 52・30		須 18g, 土 21g	
425	ピット	31 N・O 14・15	円形	144 × 139・23			579P と重複
426	ピット	31 N 14・15	円形	135 × 130・24		須 39g, 土 58g	
427	ピット	31 N 14	円形	122 × 119・18		土 5g	
428	ピット	31 N 14	円形	49 × 46・59			
429	ピット	31 N 14	不整形	71 × 60・64			430P と重複
430	ピット	31 N 14・15	不整形	88 × 67・24		須 5g, 土 48g	429P と重複
431	ピット	31 N 12	不整形	76 × 64・33		土 61g	40 住と重複
432	ピット	31 N 12	不整形	61 × 46・49			40 住、9 掘立と重複
433	ピット						9 掘立柱建物
434	ピット	31 O 11	不整形	75 × 57・36		須 17g, 土 52g	
435	ピット						9 掘立柱建物
436	ピット						9 掘立柱建物
437	ピット	31 O・P 10	円形	77 × 75・67			
438	ピット						9 掘立柱建物
439	ピット					須 1g, 土 7g	9 掘立柱建物
440	ピット	31 S 12	不整形	99 × 63・19			
441	ピット	31 O 11	楕円形	30 × 22・25			
442	ピット	31 O 11	略方形	29 × 26・14			
443	ピット	31 T 10	略方形	58 × 47・33			
444	ピット	31 P 11・12	不整形	47 × 43・33			
445	ピット	31 P 11	円形	46 × 45・32			
446	ピット	31 P・Q 11・12	楕円形	111 × 76・45		須 5g, 土 12g	
447	ピット						10 掘立柱建物
448	ピット	31 Q 12	不整形	116 × 113・38			
449	ピット					土 9g	10 掘立柱建物
450	ピット	31 Q 11	不整形	122 × 102・32		土 18g	
451	ピット	31 Q 15	不整形	74 × 38・43			
452	ピット	31 Q 15	略方形	73 × 61・47			
453	ピット	31 Q 15	不整形	79 × 60・53			
454	ピット	31 Q 15	楕円形	44 × 39・25			
455	ピット	31 P 15	略方形	62 × 58・81			
456	ピット	31 Q 14	楕円形	26 × 23・22			
457	ピット	31 P 14	略長方形	42 × 27・37			
458	ピット	31 P 14	不整形	34 × 31・35			
459	ピット	31 O 14	不整形	57 × 48・31			382P と重複
460	ピット	31 Q 15	楕円形	50 × 44・43			
461	ピット					土 9g	10 掘立柱建物
462	ピット	31 R 14	略方形	48 × 45・30			
463	ピット						10 掘立柱建物
464	ピット						
465	ピット						10 掘立柱建物
466	ピット						10 掘立柱建物
467	ピット						10 掘立柱建物
468	ピット						10 掘立柱建物
469	ピット	31 R 13	不整形	96 × 67・83			
470	ピット	31 R 12	円形	72 × 64・13		土 6g	
471	ピット	31 R 12・13	円形	41 × 40・24		土 1g	
472	ピット	31 R 12	不整形	67 × 61・86			473P と重複
473	ピット	31 R 12	不整形	76 × 52・78		須 38g	472・527P と重複
474	ピット						10 掘立柱建物
475	ピット	31 Q・R 12	不整形	88 × 67・36		土 45g	
476	ピット	31 Q 12	楕円形	44 × 35・62		土 10g	
477	ピット					須 24g, 土 3g	10 掘立柱建物
478	ピット	31 Q 13	楕円形	50 × 44・29			
479	ピット	31 Q 13	略円形	32 × 29・32			
480	ピット	31 Q 12	不整形	48 × 45・18			
481	ピット	31 P・Q 12	略方形	37 × 32・44		土 2g	
482	ピット	31 P 11	楕円形	45 × 37・23			
483	ピット						2 柵
484	ピット						10 掘立柱建物
485	ピット	31 R 11	不整形	80 × 59・27			
486	ピット	31 R 11	不整形	38 × 17・8		土 24g	513P と重複

第4章 検出された遺構と遺物

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
487	ピット	31 R 12	長円形	79 × 71・28			10 掘立柱建物
488	ピット	31 S 14	不整形	59 × 51・70			14 溝と重複
489	ピット	31 S 14	略方形	42 × 40・12			
490	ピット	31 T 15	楕円形	92 × 84・55		土 4g	12b 溝と重複
491	ピット						9 掘立柱建物
492	ピット	31 N 10・11	円形	88 × 83・81		土 4g	
493	ピット	31 Q 13	楕円形	29 × 25・19			
494	ピット	32 A 10	楕円形	34 × 28・18			30 住と重複
495	ピット	32 A 10	不整形	77 × 62・59		須 8g, 土 23g	30 住と重複
496	ピット	32 A・B 11	不整形	90 × 87・56		須 10g, 土 5g	30 住と重複
497	ピット	32 C 9	楕円形	66 × 56・22		須 13g	250・498P と重複
498	ピット	32 C 9	不整形	123 × 77・44		須 9g, 土 6g	5 掘立 252P、497P と重複
499	ピット						8 掘立柱建物
500	ピット						8 掘立柱建物
501	ピット					土 33g	7 掘立柱建物
502	ピット					土 31g	7 掘立柱建物
503	ピット						8 掘立柱建物
504	ピット						8 掘立柱建物
505	ピット	31 S 12	楕円形	50 × 43・18			7・8 掘立と重複
506	ピット	32 B 11	楕円形	82 × 69・21			6 掘立と重複
507	ピット	32 B 11	不整形	69 × 63・34			
508	ピット	32 B 11	楕円形	51 × 46・20			
509	ピット	32 B 11	不整形	114 × 69・58			510P と重複
510	ピット	32 B 11	略方形	53 × 45・25		土 16g	509P と重複
511	ピット	32 A・B 10	略長方形	91 × (58)・52		須 6g, 土 27g	547P と重複
512	ピット	32 B 10	円形	48 × 43・38		土 12g	547P と重複
513	ピット	31 R 11	不整形	106 × 76・21			486P と重複
514	ピット	31 R 10	楕円形	70 × 62・48		土 51g	
515	ピット	31 R 9・10	不整形	89 × 87・47		須 2g, 土 277g	
516	ピット	31 R・S 9	楕円形	74 × 44・50		土 36g	38 住と重複
517	ピット	31 R 10	円形	113 × 105・48		須 9g, 土 22g	
518	ピット	31 R・S 10	楕円形	68 × 55・40		土 53g	
519	ピット	31 S 10	楕円形	133 × 103・19		土 80g	
520	ピット						11 掘立柱建物
521	ピット						11 掘立柱建物
522	ピット					土 11g	11 掘立柱建物
523	ピット					土 30g	11 掘立柱建物
524	ピット	31 S・T 6	不整形	46 × 43・62		土 4g	
525	ピット	31 S 6	不整形	76 × 71・39		土 17g	
526	ピット	31 R 8・9	楕円形	87 × 58・58		須 14g, 土 105g	46・48 住と重複
527	ピット	31 R 12	不整形	45 × 15・18			473P と重複
528	ピット	31 Q 15・16	楕円形	49 × 45・43			16 溝と重複
529	ピット	31 P 15	略方形	59 × 55・68			16 溝と重複
530	ピット	31 P 15	楕円形	37 × 32・49			
531	ピット	31 P 15	略方形	52 × 48・27			
532	ピット	31 P 14	楕円形	32 × 28・29			
533	ピット	31 S 15	円形	61 × 58・76			
534	ピット	31 R 13	不整形	39 × 31・20			5 粘土探掘坑と重複
535	ピット	31 P 11	楕円形	36 × 31・32			
536	ピット						11 掘立柱建物
537	ピット					埴 67g	11 掘立柱建物
538	ピット						11 掘立柱建物
539	ピット						11 掘立柱建物
540	ピット					土 6g	11 掘立柱建物
541	ピット	31 T 8	楕円形	33 × 30・20			
542	ピット						1 柵
543	ピット						1 柵
544	ピット						1 柵
545	ピット						1 柵
546	ピット	31 T 7	不整形	38 × 32・30			36 住と重複
547	ピット	32 B 10	不整形	86 × 68・46			511・512P と重複
548	ピット	32 C 16	不整形	100 × 69・54			1 溝と重複
549	ピット	32 C 16	略方形	108 × 98・50			4 溝と重複
550	ピット	32 B 16	不整形	117 × 85・36			551P と重複
551	ピット	32 B 16	不整形	46 × 39・53			550P と重複
552	ピット	31 Q 15	不整形	42 × 34・17			
553	ピット	欠番					464P と重複

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
554	ピット						7 掘立柱建物
555	ピット					土 18g	7 掘立柱建物
556	ピット	32 B 10	楕円形	47 × 34 ・ 19			
557	ピット	32 B 11	楕円形	38 × 29 ・ 20			
558	ピット					須 35g	9 掘立柱建物
559	ピット					土 7g	9 掘立柱建物
560	ピット	31 P ・ Q 10	不整形	70 × 54 ・ 47			12 掘立 561P と重複
561	ピット					土 13g	2 柵
562	ピット	31 Q 10	円形	37 × 35 ・ 37			2 柵
563	ピット					土 7g	12 掘立柱建物
564	ピット	31 Q 10	略方形	34 × 31 ・ 28			
565	ピット	31 Q 15 ・ 16	略方形	41 × 40 ・ 23			
566	ピット	31 P 16	略方形	84 × 54 ・ 77			
567	ピット	31 P 16	半掘	66 × 48 ・ 28			
568	ピット	31 P 15	楕円形	42 × 38 ・ 41			16 溝と重複
569	ピット	31 O 15	不整形	80 × 62 ・ 30			
570	ピット	31 O 15	略方形	56 × 52 ・ 64			
571	ピット						10 掘立柱建物
572	ピット	31 Q 15 ・ 16	楕円形	31 × 24 ・ 5			
573	ピット	31 Q 16	円形	30 × 27 ・ 13			
574	ピット	32 A ・ B 14 ・ 15	不整形	(83) × 68 ・ 33			229 ・ 231P と重複
575	ピット	31 O 15	不整形	58 × 51 ・ 57			
576	ピット	31 P 15	不整形	77 × 68 ・ 23			373P、道路跡と重複
577	ピット	31 O 14	不整形	72 × 64 ・ 56			道路跡と重複
578	ピット	32 A 9	不整形	51 × 28 ・ 58			294P と重複
579	ピット	31 N 15	楕円形	51 × 37 ・ 43			425P と重複
580	ピット	31 N 14	楕円形	38 × 33 ・ 43			
581	ピット	31 T 15 ・ 16	楕円形	63 × 54 ・ 31			
582	ピット	31 S ・ T 15	楕円形	45 × 35 ・ 42			
583	ピット	31 S 15	不整形	41 × 33 ・ 23			
584	ピット	31 S 15	略方形	80 × 73 ・ 50			12b 溝と重複
585	ピット	31 S 14	略方形	27 × 25 ・ 19			
586	ピット	31 S 14	不整形	30 × 26 ・ 12			
587	ピット	31 S 15	略方形	36 × 33 ・ 9			
588	ピット	31 S 14	楕円形	33 × 24 ・ 14			
589	ピット	31 S 13	円形	40 × 39 ・ 18			
590	ピット	31 S 13	楕円形	62 × 50 ・ 14			
591	ピット	31 R 13 ・ 14	楕円形	40 × 32 ・ 22			
592	ピット	31 Q ・ R 13	不整形	52 × 50 ・ 44			
593	ピット	31 Q 14	楕円形	66 × 37 ・ 57			13 溝と重複

第4章 検出された遺構と遺物

第9表 東紺屋谷戸土坑計測値表（第188～190図）

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須 = 須恵器 土 = 土師器	備考
1	土坑	欠番					5 掘立柱建物 41P に変更
2	土坑	42 H・I 1	楕円形	73 × 64・33		土 31g	12 住居と重複
3	土坑	欠番					5 掘立柱建物 34P に変更
4	土坑	42 I 1	楕円形	58 × 48・50		土 40g	3 粘土採掘坑より新
5	土坑	42 F 2・3	円形	109 × 101・12			8 住居と重複
6	土坑	32 H 19	楕円形	152 × 131・26		須 57g, 土 6g	
7	土坑	32 F・G 17・18	楕円形	93 × 83・86		須 46g, 土 17g	
8	土坑	42 I 1	楕円形	90 × 77・38		須 11g, 土 48g	
9	土坑	欠番					5 掘立柱建物 39P に変更
10	土坑	32 E 20	楕円形	83 × 67・38		土 27g	
11	土坑	32 C 19・20	略長方形	185 × 121・32			9 掘立柱建物と重複
12	土坑	32 A・B 19	不整形	253 × 238・51			1 溝・21 土坑と重複、粘土採掘坑か
13	土坑	32 B・C 17	不整形	83 × 46・63		土 12g	22 土坑と重複
14	土坑	32 B・C 17	円形	117 × 114・24			耕作痕と重複
15	土坑	32 C 17	不整形	111 × 58・70			16 土坑と重複
16	土坑	32 C 17	不整形	162 × 130・68			7 掘立柱建物・15 土坑・59P と重複
17	土坑	32 C 17	不整形	143 × 110・79			23 土坑と重複
18	土坑	欠番					11 掘立柱建物 85P に変更
19	土坑	欠番					11 掘立柱建物 84P に変更
20	土坑	32 E 20	不整形	93 × 93・23		土 72g	
21	土坑	32 B 19	楕円形	179 × 101・64		須 97g, 土 6g	12 土坑と重複
22	土坑	32 B・C 17	不整形	133 × 117・57			13 土坑と重複
23	土坑	32 C 17	不整形	203 × 148・75		須 23g	17 土坑と重複
24	土坑	42 H 2・3	不整形	105 × 93・26			10 住居と重複
25	土坑	42 F 4	半掘	105 × 61・56			耕作痕と重複, 13 掘立柱建物
26	土坑	42 J 2	楕円形	79 × 71・20			耕作痕と重複
27	土坑	32 K 19	楕円形	133 × 103・30		土 6g	
28	土坑	42 D 1・2	楕円形	143 × 125・68		土 25g	耕作痕と重複
29	土坑	42 D 1	不整形	139 × 91・63		須 83g, 土 126g	耕作痕と重複
30	土坑	42 C 1	楕円形	78 × 67・61		須 40g, 土 24g	
31 A	土坑	42 G・H 2・3	不整形	158 × 141・42		須 45g, 土 37g	9 住居・31b 土坑と重複
31 B	土坑	42 G 2	楕円形	95 × 78・36			9 住居、31a・31c 土坑と重複
31 C	土坑	42 G・H 2	楕円形	69 × 53・31		須 17g, 土 34g	9 住居・31b 土坑と重複
32	土坑	42 G・H 3	略長方形	133 × 56・29			耕作痕と重複
33	土坑	42 I・J 3	略長方形	137 × 71・42		須 38g, 土 14g	耕作痕と重複
34	土坑	31 R 19	楕円形	112 × 88・27			
35	土坑	31 Q 18	略長方形	121 × 85・40			
36	土坑	32 D 17	楕円形	96 × 74・64		須 54g, 土 23g	11 溝と重複

第10表 東紺屋谷戸ピット計測値表（第191・192図）

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須 = 須恵器 土 = 土師器	備考
112	ピット	42 I 5	楕円形	31 × 27・33			
113	ピット	42 H・I 4・5	楕円形	66 × 49・54			
114	ピット	42 H 4	略円形	34 × 32・33		土 15g	5 掘立柱建物
115	ピット	42 H 4	略円形	35 × 34・34			5 掘立柱建物
116	ピット	42 H 4	不整形	83 × 71・41			5 掘立柱建物
117	ピット	42 H 4	楕円形	47 × 37・20			5 掘立柱建物
118	ピット	42 H 4	略方形	32 × 29・26		土 11g	5 掘立柱建物
119	ピット	42 H 3	略方形	67 × 58・40		土 23g	5 掘立柱建物
120	ピット	42 H 3	不整形	69 × 63・45			5 掘立柱建物
121	ピット	42 H 5	略円形	72 × 一・52		土 6g	
122	ピット	42 G 4	略方形	37 × 27・26		土 12g	123P と重複
123	ピット	42 G 4	不整形	41 × 35・47			122P と重複
124	ピット	42 G 4	楕円形	35 × 29・42			
125	ピット	42 G 4	不整形	73 × 68・35			
126	ピット	42 G 4	不整形	54 × 47・70			
127	ピット	42 G 4	略円形	33 × 31・42			
128	ピット	42 G 3・4	略方形	66 × 63・48			13 掘立柱建物と重複
129	ピット	42 F 4	不整形	51 × 45・44		土 3g	
130	ピット	42 F 4	不整形	51 × 49・58			
131	ピット	42 F 3	楕円形	93 × 81・75		須 23g, 土 15g	
132	ピット	42 I 2	不整形	46 × 43・64			5 住居と重複

土坑・ピット一覧表

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深 cm	遺物登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
133	ピット	42 I 2	不整形	51 × 38・102		須 11g, 土 9g	5 住居と重複
134	ピット	42 J 3	不整形	41 × 36・37			
135	ピット	42 J 2	楕円形	40 × 31・21			
136	ピット	42 J 2	不整形	33 × 28・38			
137	ピット	42 J 1	円形	48 × 45・34			
138	ピット	42 I 1	略方形	43 × 41・61		土 10g	
139	ピット	42 I 1	略円形	48 × 45・62		土 9g	
140	ピット	42 I 1	略方形	46 × 43・49		土 6g	
141	ピット	42 I 1	不整形	47 × 45・62		須 11g, 土 11g	
142	ピット	42 K 1	不整形	46 × 43・37		土 5g	
143	ピット	32 I 20	楕円形	56 × 45・33			
144	ピット	32 I 20	不整形	42 × 34・20		須 16g, 土 10g	
145	ピット	32 H 20	略方形	52 × 48・31			耕作痕と重複
146	ピット	32 H 20	長円形	41 × 36・18			3 粘採と重複
147	ピット	42 E・F 2	楕円形	45 × 36・26		土 24g	
148	ピット	42 E 2	略方形	37 × 35・45			
149	ピット	42 E 2	楕円形	47 × 43・39		土 139g	
150	ピット	42 E 1	不整形	32 × 30・38			
151	ピット	42 C 1	略円形	28 × 26・12			
152	ピット	32 I 19	楕円形	38 × 32・19			
153	ピット	32 I 19	略円形	26 × 24・19		須 3g, 土 2g	
154	ピット	32 I 19	楕円形	33 × 29・22			
155	ピット	32 H 20	不整形	37 × 27・16			耕作痕と重複
156	ピット	32 F 19・20	不整形	33 × 27・33			
157	ピット	32 E 19	楕円形	28 × 25・25			
158	ピット	31 R 16・17	不整形	132 × 73・27			2 掘立柱建物と重複
159	ピット	31 R 18	楕円形	46 × 36・19			
160	ピット	32 F 20	略方形	25 × 22・26			
161	ピット	32 E 20	不整形	30 × 26・22			
162	ピット	31 T 18	楕円形	42 × 38・36			
163	ピット	32 E 20	楕円形	29 × 25・23			
164	ピット	32 G 17	略方形	31 × 28・30		須 1g	
165	ピット	32 G 18	楕円形	29 × 25・24			
166	ピット	32 G 18	不整形	54 × 48・20			167P と重複
167	ピット	32 G 18	楕円形	47 × 38・9			166P と重複
168	ピット	32 F 17・18	略円形	32 × 30・26			
169	ピット	32 E・F 20	楕円形	21 × 19・21			
170	ピット	31 R 19	不整形	28 × 21・32			
171	ピット	32 D 18	不整形	30 × 27・32			
172	ピット	32 B 18	不整形	49 × 39・29			
173	ピット	32 B 18	長円形	33 × 22・24			
174	ピット	32 B 17	円形	26 × 25・20			
175	ピット	42 B 1	楕円形	40 × 36・21			
176	ピット	32 D 17	略方形	60 × 52・18			7 掘立柱建物
177	ピット	32 A・B 18	楕円形	25 × 22・22			
178	ピット	32 B 17	略方形	22 × 20・28			179P と重複
179	ピット	32 B 17	不整形	38 × 27・23			178P と重複
180	ピット	32 B 17	円形	33 × 32・35			
181	ピット	32 B 17	楕円形	35 × 23・25			
182	ピット	32 B 17	略方形	37 × 35・22			
183	ピット	32 B 17	楕円形	38 × 29・32			
184	ピット	32 B 17	長円形	34 × 25・22			
185	ピット	32 A 19・20	不整形	72 × 55・55			
186	ピット	32 A 19	不整形	46 × 35・24		須 24g	187P と重複
187	ピット	32 A 19	不整形	57 × 55・30		土 6g	186P と重複
188	ピット	31S18	楕円形	29 × 26・20			
189	ピット	31 O 16	楕円形	71 × 53・52			須恵器杯 (238)、粘土採掘坑か
190	ピット	32 A 18・19	不整形	34 × 28・26		土 5g	
191	ピット	32 A 19	楕円形	25 × 20・21		土 1g	
192	ピット	31 P 16	略方形	62 × 54・68			
193	ピット	31 P 16	略方形	66 × 55・59			
194	ピット	31 O 16	略方形	49 × 46・22			1 道路・1 柵と重複
195	ピット	31 O 16	不整形	60 × 53・23			1 道路と重複
196	ピット	31 O 16	不整形	70 × 54・52			1 道路と重複
197	ピット	31 O 16	楕円形	39 × 33・15			1 道路と重複
198	ピット	31 O 16	不整形	75 × 60・18			1 道路と重複
199	ピット	31 N・O 16	半掘	81 × --・37			1 道路と重複

第4章 検出された遺構と遺物

第11表 遺物観察表

天王A区1住居

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
A1	第193図 PL.ー	土師器 杯	北部埋没土 口縁～底部片	口	12.8		精選・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面やや磨滅	
A2	第193図 PL.ー	土師器 杯	+15、東部 口縁～底部片	口	10.8		精選・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面磨滅	
A3	第193図 PL.134	土師器 甌	-9 完形	口 底	16.7 6.5	高 9.5	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部外面は斜めのへら削り、内面は撫で。 内面に使用により変色した部分あり。底部の穿孔8ヶ所。	外面炭素吸着・ 黒班状	
A4	第193図 PL.134	土師器 小型甕	+1、西部埋没土 底部一部欠	口	10.2		粉っぽい細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り、内面は撫で。	胴部から底部 に炭素吸着・ 黒班状	
A5	第193図 PL.134	土師器 甕	-1、東部埋没土 口縁～胴部1/3	口	22.5		粗砂粒・細砂粒/ 良好/灰黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面はへら撫 で。	外面は被熱に よる変質・変 色	
A6	第193図 PL.ー	土師器 甕	-3、耕作痕 口縁～胴部	口	19.8		粗砂粒・細砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜縦のへら削り、内面は斜め のへら撫で。		
A7	第193図 PL.134	土師器 甕	-9、東部埋没土 胴部～底部3/4	口 底	3.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	胴部外面は斜縦のへら削り、内面はへら撫で・へら削り。 底部外面に木葉痕。	胴部外面の一 部に炭素吸着	
A8	第193図 PL.134	礫石器 敲石	+8 完形	長 幅	13.1 6.4	厚 重	3.4 416.8	ひん岩	背面側中央・右側縁に敲打痕が残る。	扁平楕円礫

天王A区2住居

A9	第193図 PL.ー	土師器 杯	+3、西部埋没土 1/3	口	13.0	高	4.9	細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で、内 面の口唇部直下に沈線が廻る。外面の稜の部分に工具痕。	
A10	第193図 PL.ー	土師器 杯	-3、東部埋没土 1/3	口	13.0	高	4.9	細砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。内 面の口唇部直下に弱い沈線が廻る。	内面やや磨滅

天王A区4住居

A11	第193図 PL.ー	土師器 杯	西部埋没土 口縁～底部片	口	10.5			精選/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面やや磨滅
A12	第193図 PL.ー	土師器 杯か	+11 口縁～底部片	口	12.3			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部外面はへら削り。	

天王A区5住居

A13	第193図 PL.ー	土師器 甕	+7 口縁～胴部片	口	17.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦へら削り、内面は横撫で。	外面に輪積み 痕
A14	第193図 PL.134	土師器 甕	-3、東部埋没土 胴部～底部1/2	口 底	5.0			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	胴部外面は数回に分けて縦のへら削り、内面は下位は縦、 これより上位は横の撫で。	胴部外面下位 やや炭素吸着 ・内面下位は 黒褐色の付着 物
A15	第193図 PL.134	土師器 甕	0、東部埋没土 口縁～胴部1/3	口	21.6			結晶片岩の小礫・ 粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦に長い単位のへら削り、下 位に撫での部分を残す。内面は下位が縦の撫で、これより 上位は横のへら撫で。	胴部外面下半 炭素吸着黒色 外面の処々に 輪積み痕

天王A区6住居

A16	第193図 PL.134	金属製品 角釘	+4 上半部	長 幅	4.4 0.5	厚 重	0.5 2.4		断面ほぼ正方形の角釘で、先は破損後錆に4覆われる。頭 部は薄く幅広に造り45°に折り曲げている。	
A17	第193図 PL.134	金属製品 不詳	0 下半部	長 幅	4.6 0.9	厚 重	0.6 4.3		断面四角形の鉄製品で。先端はやや細くどがるが劣化によ り形状は不明瞭。他の端部は薄く広げ斜めに曲げられ角釘 に似た形状だが詳細不明。	

天王A区7住居

A18	第193図 PL.134	土師器 杯	0、カマド 口縁部一部欠	口	10.9	高	3.7	精選・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面磨滅
A19	第193図 PL.ー	土師器 甕	カマド0 口縁～胴部	口	21.8			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のへら削り、内面は斜横の へら撫で。	器面磨滅
A20	第194図 PL.134	礫石器 敲石	+1 完形	長 幅	16.7 5.6	厚 重	4.3 551.8	変質安山岩	小口部両端に敲打・摩耗痕がある。下端側小口部には敲打 により衝撃剥離痕が生じている。	棒状礫

天王A区8住居

A21	第194図 PL.ー	土師器 杯	カマド埋没土 口縁～底部片	口	12.6			精選・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部外面炭素 吸着・器面磨 滅
A22	第194図 PL.134	土師器 杯	+4 1/2	口	12.8	高	4.5	赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	底部外面炭素 吸着・黒班状
A23	第194図 PL.ー	須恵器 甕	西部埋没土 胴部片					細砂粒・赤色粘 土粒/還元焰/にぶ い黄褐	外面は平行叩き痕。内面同心円状当て具痕が残る。	

天王A区9住居

A24	第194図 PL.ー	土師器 杯	0、西部埋没土 1/4	口	13.0	高	4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面磨耗
A25	第194図 PL.ー	土師器 杯	0 1/4	口	12.0	高	5.1	細砂粒・白色軽石 /良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面に煤付 着
A26	第194図 PL.ー	土師器 甕	+1 胴部～底部1/2	口 底	5.8			粗砂粒・細砂粒/ 良好/明黄褐	胴部外面は縦のへら削り、内面はへら撫で。底部外面に木 葉痕。	内外面とも炭 素吸着・煤か

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
A27	第194図 PL.134	土師器 甕	0、南部埋没土 口縁～胴部	口	17.3		粗砂粒・細砂粒・ 軽石粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面最上位に横のヘラ撫で、以下縦 のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	胴部外面下位 に煤付着	
天王B区1住居										
B1	第194図 PL.ー	土師器 甕	カマド-2 口縁～胴部片	口	17.0		粗砂粒・細砂粒・ 白色軽石/やや軟 質/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上位は回転を伴う撫で、下位に ヘラ削り、内面は撫で。	器肉全体に厚 い	
B2	第194図 PL.ー	須恵器 羽釜	カマド+4 口縁～体部1/3	口	20.6		粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	鑄は薄い。ロクロ整形。口縁部は横撫で。体部上位は撫で、 中位以下はヘラ削り。内面は幅広い撫で。	外面に輪積み 痕を残す。被 熱を受け変 質・変色	
B3	第194図 PL.135	礫石器 敲石	+1 完形	長 幅	7.9 6.2	厚 重	4.4 298.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、小口部上端に敲打痕がある。	楕円礫
B4	第194図 PL.135	金属製品 角釘	埋没土 破片	長 幅	8.25 1.9	厚 重	1.7 27.1		断面ほぼ正方形の角釘で先ぶで急に細くなり尖る。頭部は 急に幅広になるが錆化が著しく詳細な形状は不明。	
B5	第194図 PL.135	金属製品 不詳	カマド埋没土 破片	長 幅	2.65 0.65	厚 重	0.5 0.8		断面四角形の鉄製品で錆で膨れる。一端はやや細くとがる が劣化により形状は不明瞭他の端は劣化破損する。	
天王B区2住居										
B6	第194図 PL.ー	土師器 杯	0 口縁～体部片	口	10.7			細砂粒・白色軽石/ 良好/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。内外面とも横撫で。	器肉厚い
B7	第194図 PL.ー	須恵器 杯	+3 底部のみ	底	6.6			粗砂粒・細砂粒/ 還元焰不良/オ リーブ黒	ロクロ整形(右回転)。底部は回転切り離し後、無調整。内 面は撫で。	内外面とも炭 素吸着・脆弱
B8	第194図 PL.ー	須恵器 不明	+6 破片	口	18.0			粗砂粒・細砂粒・ 白色軽石/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。口縁部は横撫で。体部外面はヘラ削り、内面 は撫で。直立気味の口縁部から外方に突出した鑄状の受け をへて丸底の底部に移行している。	被熱のためか 脆弱
B9	第194図 PL.ー	須恵器 羽釜	埋没土 口縁～胴部	口	23.4			粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。口縁部は横撫で。体部外面は斜めと横のヘラ 削り、内面は撫で。	内外面の一部 炭素吸着
B10	第194図 PL.135	石製品 石製品	+3 完形	長 幅	24.6 20.8	厚 重	9.2 4554.0	粗粒輝石安山岩	背面上端側に径5cmの孔を穿つ。孔内面は摩耗して平滑化 している。	扁平礫
B11	第194図 PL.135	石製品 石製品	-1 完形?	長 幅	10.7 8.1	厚 重	7.8 270.1	二ヶ岳軽石	二分した河床礫の片側を平坦に整形する。整形面の工具痕 は不明瞭だが、幅広のノミ状工具によるものか。	楕円礫
天王B区3住居										
B12	第195図 PL.ー	須恵器 羽釜	カマド+4 口縁～鑄片	口	23.0			細砂粒・白色鈹物 粒/酸化焰/橙	ロクロ整形。口縁部は横撫で。	
天王B区4住居										
B13	第195図 PL.ー	黒色土器 椀	北西埋没土 底部片	底	6.0	台	6.7	細砂粒/やや不良/ にぶい黄褐	口縁部は撫で。内面は棒状工具による磨き。高台部は横撫 で、足の長い付け高台。	内面吸炭・黒 色処理
B14	第195図 PL.ー	須恵器 羽釜	埋没土 口縁～鑄片	口	21.6			粗砂粒・細砂粒・ 白色軽石/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。口縁部は横撫で。体部外面は鑄直下に横撫で、 その下位には斜めのヘラ削り。内面はヘラ撫で。	被熱を受け脆 弱・炭素吸着
B15	第195図 PL.135	石製品 砥石	+3 完形	長 幅	20.5 12.8	厚 重	7.7 2481.0	粗粒輝石安山岩	背面側に著しい摩耗痕が広がり、砥石と捉えた。砥面には 敲打痕があり、後出的である。被熱して煤ける。	礫砥石
天王B区5住居										
B16	第195図 PL.ー	土師器 杯	南東埋没土 1/4	口	10.0	高	2.7	細砂少量/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部外面は磨 滅
B17	第195図 PL.ー	土師器 杯	南東埋没土 1/2	口	12.4	高	3.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	
B18	第195図 PL.ー	土師器 杯	東部埋没土 口縁～底部片	口	12.8			細砂微量・黒色土 粒/良好/にぶい橙	模倣杯。口縁部から弱い稜をへて底部に移行する。口縁部 は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	水漉し粘土
B19	第195図 PL.135	土師器 杯	+1 口縁部一部欠	口	10.4	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。内面に十字印の線刻。	
B20	第195図 PL.135	土師器 杯	0 1/2	口	17.8	高	3.4	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、単位は不明。内 面は撫で。	内外面とも磨 滅
B21	第195図 PL.135	須恵器 盤	カマド+2 口縁部1/2欠	口 底	21.6 18.6	高	4.5	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰やや 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	器形の歪み顕 著・器面磨滅
B22	第195図 PL.ー	土師器 甕	南東埋没土 口縁～胴部1/3	口	20.4			細砂粒・黒色鈹物 粒/にぶい橙	口唇部は丸みをおびる、口縁部は横撫で。胴部外面は斜め ヘラ削り、内面はヘラ撫で。	器面やや磨滅
B23	第195図 PL.ー	土師器 甕	南東埋没土 口縁～胴部	口	20.6			粗砂粒・細砂粒・ 黒色鈹物粒/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面上位は斜横のヘラ削り、以下は 斜めヘラ削り、内面はヘラ撫で。	器面磨滅
B24	第195図 PL.135	礫石器 敲石	+2 完形	長 幅	14.5 7.6	厚 重	3.8 628.3	粗粒輝石安山岩	小口部両端・右側縁に敲打痕。右側縁エッジは激しく敲打 され、衝撃剝離痕が生じている。	扁平礫
天王B区6住居										
B25	第195図 PL.135	土師器 杯	+1 完形	口	10.0	高	3.0	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残し、指頭圧痕も見られる。内面は撫で。	
B26	第195図 PL.ー	土師器 杯	+30、南東埋没 土 2/3	口	11.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面やや磨滅
B27	第195図 PL.135	土師器 杯	+38 口縁部一部欠	口	10.2	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面やや磨滅

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	底			
B28	第195図 PL.135	土師器 杯	+30 完形	口	10.6	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。
B29	第195図 PL.—	土師器 杯	+19 1/4	口	21.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。
B30	第195図 PL.135	土師器 杯	+30 完形	口	12.4	高	4.8	細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。
B31	第195図 PL.135	土師器 杯	+1、西部埋没土 口縁部一部欠	口	12.1	高	4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。
B32	第195図 PL.—	須恵器 杯	+17 体部～底部片	底	8.0			白色鈹物粒/酸化 焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部を切り離し後、周縁部を回転ヘ ラ削りか。体部下位にも回転ヘラ削り。
B33	第195図 PL.135	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部1/2	口	21.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。中位にわずかな稜が見られる。胴部外面 は斜横のヘラ削り。内面は撫で。

天王B区7住居

B34	第196図 PL.—	土師器 杯	南東埋没土 口縁～底部1/4	口	12.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。
B35	第196図 PL.—	土師器 杯	南東・南西 1/4	口	12.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、単位は不明。内 面は撫で。
B36	第196図 PL.135	土師器 杯	+13、南西 1/3	口	13.0			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、撫での部分をわ ずかに残す。内面は撫で。口縁部内面に十字印の刻書。
B37	第196図 PL.—	土師器 杯	南西埋没土 口縁～底部片	口	15.0	高	3.2	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。
B38	第196図 PL.—	須恵器 椀か皿か	0 1/6	口 底	17.0 10.6	高 台	3.3 10.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。体部下半は回転ヘラ削りか。高台部 は付け高台。
B39	第196図 PL.—	須恵器 盤	南西埋没土 口縁部片	口	24.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。体部は回転ヘラ削り。
B40	第196図 PL.—	土師器 甕	+10 口縁～胴部片	口	9.4			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。
B41	第196図 PL.—	土師器 甕	+10 胴下位～底部 1/3	口 底	5.0			細砂粒/良好/橙	胴部外面は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。底部はヘラ削 り。
B42	第196図 PL.135	土師器 甕	+10、貯蔵穴 口縁～胴部1/3	口	22.4			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横斜・斜めのヘラ削り、内面 はヘラ撫で。
B43	第196図 PL.—	須恵器 甕	北東埋没土 胴部下位片					白色鈹物粒/還元 焰/灰白	叩き整形。外面は平行叩き痕。内面は青海波状の当て具痕。 内外面とも自然釉付着

天王B区8住居

B44	第196図 PL.—	土師器 杯	カマド0 口縁～底部片	口	12.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面 は撫で。
B45	第196図 PL.135	須恵器 杯	+14、南東埋没 土 1/2	口 底	13.4 8.4	高	3.6	細砂粒・白色鈹物 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘ ラ削り。
B46	第196図 PL.—	須恵器 椀	+3 1/2	口 底	10.4 6.0	高	4.3	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。
B47	第196図 PL.—	土師器 甕	+9、南東 頸部～胴部1/3					粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で、一部に指頭圧痕。胴部外面は横、斜めの ヘラ削り、内面はヘラ撫で。
B48	第196図 PL.135	土師器 甕	カマド+5、南東 口縁～胴部	口	20.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面最上位は横、上位は斜横、中位 以下は斜縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。
B49	第196図 PL.135	金属製品 刀子	北西埋没土 2/3	長 幅	9.2 1.3	厚 重	0.7 9.0		刃部が細く長い刀子で棟・刃ともに明瞭な関を持つ。茎は 関より0.5cm程で破損し錆で覆われる。刃中ほどで破損す るが破片は接合する、刃先はやや横に曲がりながら細くと がる。

天王B区9住居

B50	第196図 PL.136	土師器 杯	+9、南東 1/4	口 底	12.0 9.8	高	2.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面 は撫で。口縁部から体部外面に墨書、縦に3本の線。
B51	第196図 PL.136	土師器 杯	+9、南西 1/3	口	12.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面 は撫で。口縁部内面に墨書「〇」を並列。
B52	第196図 PL.136	土師器 杯	+8、北西 口～体部一部欠	口	12.6	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。
B53	第196図 PL.136	須恵器 杯	+3 口縁部一部欠	口 底	12.2 7.6	高	3.8	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周辺部を手持ち ヘラ削り。体部下半はヘラ削り。口縁部外面の対置する2ヶ 所の位置に墨書、縦に3本の線。
B54	第196図 PL.136	須恵器 杯	+5、北西 口縁～底部1/2	口 底	12.8 7.6	高	3.9	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周辺部と体部最 下位に回転ヘラ削り。口縁部外面の2ヶ所に墨書。
B55	第196図 PL.136	須恵器 杯	+7 3/4	口 底	13.0 8.7	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。
B56	第196図 PL.136	須恵器 椀	+3 底部のみ	底	8.9	台	9.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。
B57	第197図 PL.136	土師器 甕	+3、南東 口縁～頸部1/2	口	18.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り、内面はヘラ 撫で。

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
B58	第197図 PL. -	須恵器 甕	南西埋没土 胴部片				黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	叩き整形。外面は平行叩き目の上に横のカキ目。内面は当て具痕。		
天王B区10住居										
B59	第197図 PL.136	黒色土器 椀か	0、北西埋没土 1/2	口	14.1		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。内面黒色処理。棒状工具による磨き、充填。	内面に付着物・鉄分を多く含んだ土砂か	
B60	第197図 PL. -	黒色土器 椀	カマド+13 底部のみ	底	6.9	台	6.9	白色鈹物粒/酸化 焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内面黒色処理・棒状工具による磨きを充填
B61	第197図 PL. -	須恵器 杯	カマド埋没土 口縁～体部1/3	口	9.1			細砂粒/酸化焰/黒 褐	ロクロ整形(右回転か)。	被熱のためか内外面とも炭素吸着・脆弱
B62	第197図 PL. -	須恵器 杯	カマド埋没土 底部のみ	底	4.5	台	4.4	粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	底部外面炭素吸着黒色
B63	第197図 PL.136	須恵器 椀	カマド+5 1/2	口 底	13.7 7.1	高 台	5.4 7.6	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰・軟質/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	被熱のため脆弱になっている
B64	第197図 PL. -	須恵器 椀	+4 底部のみ	底	6.7	台	6.8	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形(右回転)。高台は付け高台。	
B65	第197図 PL. -	須恵器 羽釜	カマド埋没土 口縁部片	口	18.1			白色鈹物粒/酸化 焰/黒褐	ロクロ整形(右回転)。胴部の一部に手持ちヘラ削り。	
B66	第197図 PL. -	須恵器 甕	中央+3 口縁部片	口	17.4			白色鈹物粒/還元 焰・軟質/にぶい黄 橙	ロクロ整形。	
B67	第197図 PL.136	礫石器 敲石	+9 1/2	長 幅	(8.0) (5.7)	厚 重	(4.8) 309.5	変質安山岩	上端側小口部が敲打され、平坦面が形成されている。中央より下半を欠損する。被熱してヒビ割れる。	棒状礫
天王B区11住居										
B68	第197図 PL. -	須恵器 杯	南西埋没土 口縁～底部片	口 底	10.4 5.0	高	3.9	細砂粒・赤色粘土 粒/酸化焰/にぶい 橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
B69	第197図 PL. -	須恵器 不明	北西埋没土 胴部～底部片	底	8.0			細砂粒/還元焰・軟 質/にぶい黄褐	外面は平行叩き目痕。内面は撫で。	
B70	第197図 PL. -	土師器 羽釜	カマド、10住 胴部下位～底部 片	底	6.8			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	胴部外面は斜めのヘラ削り、最下位は横。内面は横の撫で。	被熱・炭素吸着
B71	第197図 PL.136	礫石器 砥石か	-1 完形	長 幅	18.6 11.2	厚 重	8.1 1823.8	粗粒輝石安山岩	背面側中央付近が窪み強く摩耗強いことから、礫砥石として捉えた。小口部上端・右側面が敲打されている。	礫砥石か?
B72	第197図 PL.136	礫 礫	+2 完形	長 幅	23.3 23.3	厚 重	8.9 7575.0	かこう岩	背面側中央付近が弱く摩耗して光沢を帯びているように見える。台石的なものであろうが、詳細は不明。	楕円礫
B73	第197図 PL.136	金属製品 鍬	+4 下半部	長 幅	5.4 0.7	厚 重	0.15 2.8		鉄鍬破片、先端は破損し不明、茎との境には棘を有し糸は急に細くなり破損する。	
天王B区12住居										
B74	第197図 PL. -	土師器 杯	南西掘り方 口縁～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面磨滅
B75	第197図 PL. -	土師器 杯	P1 +2 口縁～底部片	口	14.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B76	第197図 PL.136	土師器 杯	+18 1/2	口	14.7	高	4.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で、内面に十字の線刻。	内外面とも炭素吸着
B77	第197図 PL. -	土師器 小型甕	+5 1/3	口	14.6	高	15.8	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上位は横の、中位は縦の、下位は横のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	外面やや炭素吸着
天王B区13住居										
B78	第197図 PL. -	土師器 杯	P8掘り方 1/5	口	15.8			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面の一部に炭素吸着
B79	第197図 PL.136	土製品 円盤	南西埋没土 完形	長 幅	6.0 5.2	厚 み	1.0	粗砂粒/還元焰/に ぶい赤褐	甕の胴部破片を二次利用か。割れ口を細かく再調整。外面は格子状の叩き目痕。内面は青海波状の当て具痕。	
B80	第198図 PL.136	須恵器 羽釜	カマド+15 口縁～胴部片	口	23.0			粗砂粒・白色鈹物 粒/酸化焰/にぶい 黄橙	口縁部は横撫で。胴部上位は横の撫で、中位以下は縦の削り、内面は横撫で。	内面に黒褐色の付着物
B81	第198図 PL. -	土師器 羽釜	+2 口縁～胴部片 1/5	口	28.0			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部下に鏝を貼付後、周縁部に横撫で。口縁部横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は横の撫で。	被熱のため変色・変質。外面上半部に炭素吸着
天王B区14住居										
B82	第198図 PL. -	須恵器 蓋	北西・南東 口縁～天井部片	口	12.7			精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
B83	第198図 PL. -	土師器 甕	+3 口縁部片	口	25.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
天王B区15住居										
B84	第198図 PL.137	土師器 杯	カマド+6 1/4	口	11.7			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で、内面に十字印の細い線刻。	内面炭素吸着
B85	第198図 PL.137	土師器 杯	掘り方 0 1/2	口	14.0	高	3.9	細砂粒/良好/橙	口唇部は内側を向く。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面は使用の為に磨耗

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
B86	第198図 PL.ー	土師器 杯	南東埋没土 1/4	口	14.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	
B87	第198図 PL.ー	土師器 杯	+12 1/2	口	12.6		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	口唇部磨耗・ 外面煤付着
B88	第198図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B89	第198図 PL.ー	土師器 杯	北東埋没土 1/2	口	13.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、単位は不明。間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面とも磨 滅
B90	第198図 PL.ー	土師器 杯	北東埋没土 1/5	口	13.8		細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部に放射状、底部に螺旋状の磨ぎ。	
B91	第198図 PL.137	土師器 杯	南東・北西 1/2	口 底	14.8 12.0	高 2.8	細砂粒/良好/橙	口縁部の下位に沈線が廻り、弱い稜をなした後に底部に移行する。口縁部は横撫で。底部は丁寧な手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面やや変色
B92	第198図 PL.ー	須恵器 蓋	北西埋没土 口縁部片	口	17.8		細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	
B93	第198図 PL.ー	須恵器 杯	+12、北西 1/2	口 底	12.3 9.0	高 2.8	黒色鈹物粒/還元 焰やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	
B94	第198図 PL.ー	土師器 台付甕	北西埋没土 台部片	底	12.0		細砂粒/良好/黄褐	外面は横撫での上に縦のヘラ削りが重なる。内面は横撫で。	
B95	第198図 PL.ー	土師器 甕	P7・南東 口縁部片	口	13.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。ヘラ状工具痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
B96	第198図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	21.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。ヘラ状工具痕を残す。胴部外面はヘラ削り、内面は撫で。	
B97	第198図 PL.137	土師器 甕	+1、P8、南東 口縁～胴下部 3/4	口	20.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は中位から上位に縦のヘラ削り、内面は横の撫で。	胴部外面中位 に煤付着・内 面に炭素吸着
B98	第198図 PL.137	埴輪 円筒	北西埋没土 胴部～底部1/2	底	12.0		粗砂粒・黒色鈹物 粒・軽石/良好/橙	外面は縦のハケ後、断面台形の突帯を貼付、周辺に横の撫で。内面は縦の撫で。	器面磨滅・炭 素吸着
B99	第198図 PL.137	金属製品 不詳	+24 破片	長 幅	5.5 7.6	厚 重 2.4 104.0		全体に砂粒を巻き込み錆化が進み脆弱で全体形状は不明だが錆・亀裂の状況から鑄造鉄製品の破片と考えられる。	
天王B区16住居									
B100	第199図 PL.ー	土師器 杯	+2 1/3	口 底	13.0 12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B101	第199図 PL.ー	土師器 杯	+6 1/3	口 底	13.8 11.8	高 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面とも磨 滅
B102	第199図 PL.ー	須恵器 杯	掘り方埋没土 口縁部片	口	19.5		細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	
B103	第199図 PL.ー	土師器 甕	+6、北東 口縁部片	口	21.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。	内面炭素吸 着。
B104	第199図 PL.137	金属製品 角釘	+8 破片	長 幅	3.8 0.8	厚 重 0.8 4.4		断面ほぼ正方形でくの字に曲がり頭側は劣化破損、先側は徐々に細くとなるが先端は劣化破損する。	
天王B区18住居									
B105	第199図 PL.ー	土師器 杯	+8 1/4	口	10.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B106	第199図 PL.ー	土師器 杯	北東埋没土 1/4	口	14.0		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	
B107	第199図 PL.137	土師器 杯	+7、北東 1/2	口	12.0	高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面やや磨滅
B108	第199図 PL.ー	須恵器 盤	北西埋没土 口縁～底部1/5	口	27.0		細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転を伴うヘラ削り。	
B109	第199図 PL.ー	須恵器 瓶	0 口縁部片	口	18.0		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。	器面に自然釉 付着
天王B区19住居									
B110	第199図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	11.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B111	第199図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	12.7		黒色鈹物粒少量/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。天井部の一部に回転ヘラ削り。	
天王B区20住居									
B112	第199図 PL.ー	土師器 杯	0 1/4	口	12.4	高 2.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器高低い
B113	第199図 PL.ー	土師器 杯	カマド埋没土 1/2	口	12.2	高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗
B114	第199図 PL.ー	須恵器 杯	0 1/3	口 底	14.3 8.8	高 3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り後、回転ヘラ削り。	
B115	第199図 PL.137	須恵器 杯	0 1/2	口 底	13.8 10.0	高 3.2	細砂粒・白色鈹物 粒少量/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り後、周縁部に回転ヘラ削りか。	
B116	第199図 PL.ー	土師器 甕	+9、南西 口縁～胴部片	口	22.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横ヘラ削り、内面はヘラ撫で。	口縁部外面に 輪積み痕
B117	第199図 PL.ー	土師器 甕	貯蔵穴+11 口縁～胴部	口	21.9		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、一部に指頭圧痕・輪積み痕を残す。胴部外面上位は斜横、中位は斜縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	内外面炭素吸 着
B118	第199図 PL.ー	埴輪 円筒	0、南東埋没土 胴部片				粗砂粒・軽石/や や不良還元気味/ にぶい黄橙	半円状の透孔の一部残存。外面縦ハケ後、断面台形の突帯を貼付、周縁部に横撫で、内面は斜横のハケ目。	

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	高 度	厚 重				
B119	第199図 PL.137	金属製品 不詳	+4	4.9 4.8	0.5 19.2			薄い円形の鉄製品で紡錘車紡輪に似るが、断面は緩やかに弧を描き中央部の小孔には銅錆が見られるが軸様の形状は示さない。		
天王B区21住居										
B120	第199図 PL.—	土師器 杯	+6 1/4	口	10.7		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。		
B121	第199図 PL.—	土師器 杯	+1 4/5	口	10.2	高	3.4	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B122	第199図 PL.—	土師器 杯	+3 1/4	口	13.7			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B123	第199図 PL.—	土師器 杯	貯蔵穴0 1/3	口	16.9			粗砂粒・細砂粒・ 輝石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨減
B124	第199図 PL.137	土師器 杯	+3 4/5	口	10.4	高	3.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口唇部は内側を向く。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面は使用による磨耗
B125	第199図 PL.137	土師器 杯	+3、カマド 完形	口	11.8	高	4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面は炭素吸炭の為に変色
B126	第199図 PL.137	須恵器 蓋	貯蔵穴+5 完形	口	10.6	高 摘み	3.1 1.9	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/褐灰	宝珠状の摘み、中心からずれて貼付。ロクロ整形(右回転)天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	
B127	第199図 PL.137	須恵器 杯	貯蔵穴+4 完形	口	9.8	高	3.9	白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。	
B128	第199図 PL.—	土師器 甕	0 口縁～胴部片	口	17.4			粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	内外面被熱のため変色・変質
B129	第199図 PL.—	埴輪 円筒	+17、20住北西 口縁～胴部片					粗砂粒・白色鈹物 粒/やや不良/橙	口縁部は短く立ち上がる。外面は縦ハケ(10本/2cm)後、断面台形の突帯貼付、その後周辺を横撫で。内面は口縁部に斜めハケ、胴部に撫で。内面に1条の線刻。	
天王B区22住居										
B130	第200図 PL.—	土師器 杯	カマド埋没土 口縁～底部片	口	16.6			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は器面の乾燥が進行した後に手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面に炭素吸着
B131	第200図 PL.137	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.5 7.5	高	3.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
B132	第200図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.4 6.6	高	3.6	細砂粒・白色鈹物 粒・赤色粘土粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。底部外面は切り離し後、棒状工具があたっている。	
B133	第200図 PL.—	土師器 甕	+3 口縁～胴部片	口	20.5			粗砂粒・白色軽石・ 雲母/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	外面に被熱を受ける
B134	第200図 PL.—	埴輪 円筒	+3 口縁～胴部上位 1/3					粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/赤褐	外面は縦刷毛(14本/2cm)後、突帯貼付、周辺を横撫で。口縁部先端にも横撫で。内面は縦刷毛。	
B135	第200図 PL.—	埴輪 円筒	カマド+8 胴部片					粗砂粒・白色軽石 粒/良好/橙	外面は縦ハケ(9本/2cm)後、断面M字形の突帯貼付、その後周辺を横撫で。内面は縦・斜め縦ハケ。	
B136	第200図 PL.—	埴輪 円筒	カマド+3 胴部片					粗砂粒・結晶片岩・ 白色鈹物粒/良好/ 赤褐	外面は縦ハケ(9本/2cm)後、断面三角形の突帯貼付、その後周辺を横撫で。内面は縦ハケ、撫で。円形の透孔の一部が残存。小径であることから形象埴輪の基部の可能性あり。	
B137	第200図 PL.137	埴輪 円筒	+5、北西 胴部～底部1/3	底	11.4	孔	5.8	粗砂粒・チャート・長 石・軽石/良好/橙	突帯2条残存。断面形状は土幅の広い台形。胴部に円形の透かしを一对配す。外面は縦のハケ、内面は基底部に撫で。胴部以上に縦のハケを施す。	
B138	第200図 PL.—	埴輪 円筒・朝顔	+7、P1 +8 口縁部片					粗砂粒・結晶片岩・ 白色鈹物粒/良好/ 赤褐	外面は口唇部に横撫で。口縁部の上位が横ハケ(9本/2cm)、これより下位は縦ハケ。内面は横および斜め横ハケメ。	
天王B区23住居										
B139	第200図 PL.—	土師器 杯	北西埋没土 口縁1/5	口	14.7			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B140	第200図 PL.—	土師器 杯	南西埋没土 1/5	口	17.8			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B141	第200図 PL.137	須恵器 杯	P2 +11 口縁部一部欠	口 底	12.1 7.0	高	3.1	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面自然釉厚く堆積
B142	第200図 PL.137	須恵器 杯	+10、北西・南西 2/3	口 底	12.6 6.6	高	3.3	細砂粒・赤色粘土 粒/酸化焰やや軟 質/にぶい黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
B143	第200図 PL.137	須恵器 杯	+11、北西 完形	口 底	12.7 10.0	高	3.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	内面磨耗
B144	第200図 PL.137	須恵器 椀	カマド+2 2/3	口 底	16.8 8.0	高 台	6.9 7.1	粗砂粒・細砂粒・ 白色鈹物粒・赤色 粘土粒/還元焰・軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内面磨耗
B145	第200図 PL.—	須恵器 台付盤	北寄り+4 脚部片	脚	12.6	孔	0.6	白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰 白	残存部上端に小円孔、4単位か。ロクロ整形(右回転)か。	
B146	第200図 PL.—	土師器 甕	カマド・南西 口縁部片	口	21.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。中位には指頭圧痕、撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	内面炭素吸着・被熱

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
B147	第200図 PL. —	土師器 甕	+9、P2 AC574z+18 口縁部片	口	23.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。内面の口唇部直下に沈線状の凹線が巡る。胴部外面は縦、斜横のへら削り、内面は横のへら撫で。	外面炭素吸着	
B148	第200図 PL. —	須恵器 甕	掘り方南西+14 口縁部片	口	27.4		粗砂粒・細砂粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。		
B149	第201図 PL. —	須恵器 甕	P5 +36 口縁部片				白色鋳物粒/還元 焰/灰	口縁部外面に5本1単位の波状文を1段配す。	内外面とも自然 釉付着	
B150	第201図 PL. —	須恵器 甕	中央+5 破片				白色鋳物粒/還元 焰/灰	叩き整形。外面は撫で調整。内面は撫での上に当て具痕。		
B151	第201図 PL.137	金属製品 鎌	西部埋没土 1/2	長 幅	9.5 14.4	厚 重	0.9 74.4	柄装着部は右端約半分を斜めに浅く折り曲げる。刃は柄装着部から8cm程で破損しわずかに錆に覆われる。		
天王B区27住居										
B152	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	13.7			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	小破片の為口 径・器高変わる 可能性
B153	第201図 PL. —	須恵器 蓋	埋没土 口縁～体部片	口	13.7			黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	
天王B区1井戸										
B154	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 1/4	口	11.2			細砂粒/良好/黄褐	口縁部は横撫で。体部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。底部は手持ちへら削り、内面は撫で。口縁部の内面に墨書・縦に3本の線。	
B155	第201図 PL.138	土師器 杯	+14 1/2	口 底	11.6 7.8	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で、型肌を残す。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面磨耗
B156	第201図 PL.138	土師器 杯	+19 1/2	口 底	12.6 10.0	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
B157	第201図 PL. —	土師器 杯	西流路-15 1/3	口	11.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B158	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	11.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。型肌の痕跡も見られる。内面は撫で。型肌の痕跡は口縁部横撫での下にも残る。	
B159	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	12.1			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。型肌の痕跡も見られる。内面は撫で。	
B160	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	10.1			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。型肌の痕跡も見られる。内面は撫で。	口唇部の一部 に炭素吸着
B161	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 1/4	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。型肌の痕跡も見られる。内面は撫で。	
B162	第201図 PL.138	土師器 杯	+15 3/4	口 底	12.0 9.0	高	3.5	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。底部内外面に墨書「」。	口縁部外面の 一部に炭素吸 着
B163	第201図 PL.138	土師器 杯	+12 一部欠	口	12.5	高	3.7	細砂粒・輝石・雲 母/良好/橙	口縁部と体部の間に弱い稜を有する。口縁部は横撫で。体部は上位に撫で部分を残す、下位はへら削り。底部はへら削り。内面は撫で。	
B164	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 2/3	口 底	12.1 8.2	高	3.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器形の歪み著 しい
B165	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 1/2	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りと考えられる、間に撫での部分を残す。	内外面とも磨 滅
B166	第201図 PL. —	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.7			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面に炭素 吸着
B167	第201図 PL.138	土師器 杯	+13 2/3	口 底	13.2 8.8	高	4.1	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。体部へら削り。底部もへら削り。内面は撫で後、口縁部に放射状、底面に二重の螺旋状の暗文を施す。底部外面に墨書「」。	
B168	第201図 PL. —	土師器 杯	西流路+5 1/4	口	11.9			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面とも磨 滅
B169	第201図 PL. —	土師器 杯	+35 1/2	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。型肌の痕跡も見られる。内面は撫で。	底部内面凹凸 著しい
B170	第201図 PL.138	土師器 杯	+4 3/4	口 底	12.2 10.5	高	3.0	細砂粒・黒色鋳物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面磨滅・鉄 分付着
B171	第201図 PL. —	土師器 杯	+40 1/4	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	器形は歪んでおり口唇部までの高さが著しく異なる。口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B172	第201図 PL.138	土師器 杯	+14 2/3	口 底	11.5 9.8	高	3.4	細砂粒・白色鋳物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。底部内面に墨書「干」。	
B173	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。底部内面に墨書・判読不能。	口縁部外面に 炭素吸着
B174	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部片					細砂粒/良好/にぶ い橙	底部外面は手持ちへら削り。内面は撫で。底部内面に墨書、判読不明。	
B175	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片					細砂粒/良好/橙	底部外面は手持ちへら削り。丸底の底部外面に墨書、判読不明。	
B176	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片					細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部外面は手持ちへら削り。底部外面に墨書、判読不明。	
B177	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部片					細砂粒/良好/橙	底部外面は手持ちへら削り。内面は撫で。底部外面に墨書、判読不明。	
B178	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片					細砂粒/良好/明赤 褐	底部外面は手持ちへら削り。底部内外面に墨書、ともに判読不明。	

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
B179	第201図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/に ぶい赤褐	底部外面に墨書、判読不明。		
B180	第201図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/に ぶい橙	底部内面に墨書、判読不明。		
B181	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/に ぶい赤褐	底部外面は手持ちへら削り。底部内面に墨書、判読不明。		
B182	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/に ぶい赤褐	底部外面は手持ちへら削り。底部内面に墨書、判読不明。		
B183	第201図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/橙	底部外面は手持ちへら削り。底部内面に墨書、判読不明。		
B184	第202図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/に ぶい橙	底部外面は手持ちへら削り。底部内外面に墨書、ともに判 読不明。		
B185	第202図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	底部外面は手持ちへら削り。底部外面に墨書、判読不明。		
B186	第202図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/に ぶい橙	底部外面は手持ちへら削り。底部内面に墨書、判読不明。		
B187	第202図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/に ぶい橙	底部外面は手持ちへら削り。底部外面に墨書、判読不明。		
B188	第202図 PL.138	土師器 杯	埋没土 底部小片				細砂粒/良好/に ぶい橙	底部外面は手持ちへら削り。底部内面に墨書、判読不明。		
B189	第202図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/に ぶい橙	底部内外面に墨書、いずれも判読不明。		
B190	第202図 PL.138	土師器 鉢	+11 口縁・体部一部 欠	口	19.7	高	8.9	粗砂粒・白色軽石/ 良好/橙	口縁部は横撫で。体部は幅広のへら削り。底部は手持ちへ ら削り。内面は撫で。	器面全体磨 減、特に口縁 部内面剥離・ 磨減
B191	第202図 PL.138	黒色土器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.4 6.0	高	4.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内 面全面に棒状工具による磨き。外面の体部から底部にかけ て墨書「千」。	内面は炭素吸 着、黒色処理
B192	第202図 PL.ー	須恵器 蓋	+20 1/4	口	14.8	高 摘み	2.9 2.6	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面に回転へら削り。	摘み上縁部磨 減・内面磨耗
B193	第202図 PL.138	須恵器 杯	西流路-10 3/4	口 底	12.4 7.2	高	3.5	細砂粒・白色鈹物 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。口縁 部外面に「十」の墨書・底部内面にも墨書あるか。	内面磨耗
B194	第202図 PL.138	須恵器 杯	東流路 0 3/4	口 底	12.7 6.2	高	3.7	細砂粒・白色鈹物 粒多量/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	器面やや磨減 ・磨耗。口唇 部と底部周縁 は磨減顕著
B195	第202図 PL.138	須恵器 杯	西流路+5 2/3	口 底	11.7 6.9	高	3.9	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は糸切り後、無調整。	内外面磨耗
B196	第202図 PL.138	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.0 6.3	高	3.5	細砂粒・赤黒色粘 土粒多量/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内面やや磨耗
B197	第202図 PL.138	須恵器 杯	+6 3/4	口 底	12.8 8.0	高	3.5	細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転へら削り。	内面磨耗・黒 色の炭化物付 着・外面にも 炭素吸着
B198	第202図 PL.138	須恵器 杯	+4 完形	口 底	12.3 8.0	高	3.9	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部を手持 ちへら削り。	内外面とも磨 耗・口唇部内 面に煤付着
B199	第202図 PL.138	須恵器 杯	西流路+8 1/2	口 底	13.2 7.8	高	3.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転 へら削り。	内外面とも炭 素吸着
B200	第202図 PL.138	須恵器 杯	+3 3/4	口 底	12.7 7.5	高	4.0	粗砂粒・細砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整か。	内外面とも炭 素吸着・内面 磨耗・外面磨 減
B201	第202図 PL.138	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.4 6.3	高	3.3	小礫・粗砂粒・白 色鈹物粒多量/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。	内面磨耗
B202	第202図 PL.138	須恵器 杯	+28 3/4	口 底	13.4 6.5	高	4.1	白色鈹物粒・赤色 粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。底部は回転糸切り後、無調整。	
B203	第202図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.8 6.0	高	3.7	粗砂粒・細砂粒・ 白色鈹物粒/還元 焰/灰褐	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
B204	第202図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.4 7.2	高	4.4	細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。切り離 し粗雑。	内面磨耗顕著 ・外面磨減・剥 離
B205	第202図 PL.138	須恵器 杯	西流路埋没土 3/4	口 底	11.7 7.9	高	3.3	白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に粗雑 な回転へら削り。	内面磨耗
B206	第202図 PL.ー	須恵器 杯	東流路埋没土 1/3	口 底	12.4 6.0	高	3.5	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰やや軟 質/暗灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部内外面 に炭素吸着・ 黒色味
B207	第202図 PL.ー	須恵器 杯	西流路 0 1/3	口 底	12.2 6.4	高	3.1	粗砂粒・細砂粒・ 白色黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へ ら削り。	内面磨耗

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
B208	第202図 PL.138	須恵器 杯	埋没土 底1/2	底	6.2		小礫・粗砂粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。底部内外面に墨書・判読不明。	
B209	第202図 PL.—	須恵器 杯	東流路+4 1/4	口 底	11.4 6.0	高 3.5	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
B210	第202図 PL.—	須恵器 杯	+13 1/2	口 底	12.0 7.0	高 4.1	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
B211	第202図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.0 7.0	高 3.5	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部下に撫で。底部回転糸切り後、無調整。	器面磨耗
B212	第202図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部1/3	口 底	12.2 7.0	高 3.2	小礫・粗砂粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整と考えられる。	
B213	第202図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	14.8		細砂粒・白色鈹物 粒・海綿骨針/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
B214	第202図 PL.138	須恵器 椀	埋没土 1/3	口 底	16.0 8.9	高 6.7 9.2	夾雑物ほとんど無 く精選/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は高い。底部回転糸切り後の付け高台。	内面磨耗
B215	第202図 PL.138	須恵器 椀	西流路 0 1/3	底	8.4	台 8.4	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。口縁部外面に刻書。	
B216	第202図 PL.138	須恵器 椀	東流路+6 2/3	口 底	15.9 8.7	高 7.9 9.2	夾雑物少量精選/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	貼付は粗雑
B217	第202図 PL.—	須恵器 椀	埋没土 口縁～体部片	口	14.8		夾雑物無く精選/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
B218	第203図 PL.—	須恵器 椀	埋没土 口縁～体部片	口	15.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。	器面磨耗
B219	第203図 PL.—	須恵器 長頸瓶	+11 肩部片				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形。沈線区画内に櫛状工具による刺突文が充填される。	
B220	第203図 PL.—	須恵器 壺	埋没土 体部～底部	底	5.6	台 5.6	夾雑物少量精選/ 還元焰焼き締め/ 褐灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	内面に自然釉 付着
B221	第203図 PL.138	須恵器 壺G	+8 1/2	底	5.2		白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	自然釉かかる
B222	第203図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁～胴1/6	口	22.2		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ撫で、内面はヘラ撫で。	内面黒色味
B223	第203図 PL.—	須恵器 甕	+10 胴部片				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状当て具痕。	内面やや磨耗
B224	第203図 PL.138	礫石器 戴石	東流路+2 完形	長 幅	13.5 6.0	厚 5.1 659.1	粗粒輝石安山岩	上下両端の小口部が激しく敲打され、平坦面が形成されている。	棒状礫
天王B区2井戸									
B225	第203図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	15.0	台 14.4	細砂粒/還元焰軟 質/浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	器面磨滅
B226	第203図 PL.—	須恵器か 瓶か	埋没土 部位不明	口	2.8		細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形。外面は撫で。	形状・部位・ 時期いずれも 不明
天王B区3井戸									
B227	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 口縁～底部片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。内面に墨書、判読不明。	
B228	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 口縁～底部片	口	11.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。外面に墨書「〇」。	
B229	第203図 PL.139	土師器 杯	流路+1 2/3	口	12.0	高 3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B230	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	13.8		細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。底部外面に墨書判読不明。	
B231	第203図 PL.—	土師器 杯	流路+7 1/4	口	12.6		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B232	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 2/3	口	13.5	高 4.0	細砂粒・輝石・雲 母/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り、間に撫での部分を残すと考えられる。内面は撫で。	器面磨滅
B233	第203図 PL.139	土師器 杯	0 2/3	口	12.0	高 3.5	細砂粒・輝石・雲 母/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。内面に十字印の線刻。	外面磨滅
B234	第203図 PL.139	土師器 杯	流路+2 口縁部一部欠	口	12.5	高 3.7	細砂粒・輝石・雲 母/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面使用によ る磨耗か
B235	第203図 PL.—	土師器 杯	流路埋没土 1/2	口	13.8	高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。底部中央に成形時の補修痕、粘土小塊を指頭で押さえ撫でた痕跡有り。	
B236	第203図 PL.139	土師器 杯	流路+9 1/2	口	13.9		細砂粒・輝石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B237	第203図 PL.139	土師器 杯	流路 0 4/5	口	13.2	高 3.5	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B238	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 1/2	口	13.0		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器面やや磨滅
B239	第203図 PL.139	土師器 杯	流路+4 4/5	口	13.2	高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B240	第203図 PL.139	土師器 杯	流路+6 4/5	口	12.3	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面やや磨滅
B241	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 2/3	口	12.3	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面ともに 炭素吸着

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
B242	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	12.2	高	2.8	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	外面炭素吸着 ・黒班状・内面 磨滅顕著
B243	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	12.6			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に型肌を残す 撫で部分がある。内面は撫で。	
B244	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口	13.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	内外面ともや や磨滅
B245	第203図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	13.0	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。底 部内面に布目痕。製作時に開いた孔を補修する際につけら れたものと考えられる。	
B246	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口	12.6			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	内面磨滅顕著
B247	第203図 PL. —	土師器 杯	流路+6 1/3	口	13.8	高	3.6	細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。	内面磨滅顕著
B248	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	13.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、一部これに撫で を重ねる。間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
B249	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	14.2			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B250	第203図 PL. —	土師器 杯	流路 0 1/4	口	13.4			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/灰黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。型肌の痕跡を一部残す。内面は撫で。	内面やや磨耗
B251	第203図 PL. —	土師器 杯	+20 1/3	口	12.8	高	2.7	細砂粒・雲母/良好 /にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。内面に線刻「サ」。	
B252	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	12.6	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に型肌を残す 撫での部分が見られる。内面は撫で。口唇部直下に沈線状 の細線が巡る。	
B253	第203図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口	12.3	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	内外面の一部 に炭素吸着
B254	第204図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/4	口	12.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	内面磨滅
B255	第204図 PL. —	土師器 杯	流路+37 1/3	口 底	12.3 9.6			細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。指頭圧痕を残す。底部は手 持ちヘラ削り。内面は撫で。底部外面に墨書・判読不明。	
B256	第204図 PL. —	土師器 杯	流路+30 1/3	口	12.8	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面とも磨 滅
B257	第204図 PL. —	土師器 杯	流路+11 1/3	口	12.8	高	2.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に型肌を残す 撫での部分が見られる。内面は撫で。	
B258	第204図 PL.139	土師器 杯	0 底部のみ					細砂粒/良好/明赤 褐	底部外面ヘラ削り、内面は撫で。内面に布目痕。	
B259	第204図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 口縁～底部片	口 底	18.0 11.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部は横のヘラ削り、底部ヘラ削り。内 面撫での上に口縁部は放射状・底部は螺旋状の磨き・暗文。	
B260	第204図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 口縁部一部欠	口	13.6	高	3.3	細砂粒・白色軽石・ 黒色鈹物粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内 面は撫でと考えられる。	内外面ともに 磨滅
B261	第204図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	器形の歪み著 しい
B262	第204図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口	16.7			細砂粒/良好/橙	口唇部の起伏大きい。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ 削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部の内外 面とも炭素吸 着
B263	第204図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口 底	14.5 10.0	高	3.9	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面磨滅顕著 ・底部外面に 炭素吸着・黒 班状
B264	第204図 PL. —	土師器 杯	流路埋没土 1/3	口	13.3			細砂粒/良好/橙	口縁部外面にはヘラ削りか、内面は横撫で。内面に縦方向 の暗文。	器面磨滅
B265	第204図 PL.139	土師器 杯	流路埋没土 口縁部片					細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。口縁部外面に墨書・判読不明。	
B266	第204図 PL. —	黒色土器 杯	流路埋没土 1/4	口 底	16.5 9.4			粗砂粒・赤色粘土 粒少量/酸化橙/橙	口縁部外面は撫での上に横の棒状工具による磨き。体部は 横のヘラ削り、底部はヘラ撫でか。口縁部内面は横の棒状 工具による磨き。底部にも磨き。	内面黒色処理 ・外面の一部 にも炭素吸着
B267	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 1/4	口	9.9	高	2.7	灰白色粘土粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ切り後、回転 ヘラ削り。	
B268	第204図 PL.139	須恵器 蓋	流路 0 口縁部一部欠	口	12.9	高 摘み	4.3 5.7	細砂粒少量・精選 /還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転か)。短頸壺に伴う肩部に鐮状突帯を 廻らす。口唇部には外方に靴先状に突出。	外面に自然釉 厚く付着
B269	第204図 PL.139	須恵器 蓋	流路+4 口縁部欠			摘み	4.7	赤黒色粘土粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。口縁部は天井部を経て垂直に延びる。 天井部外面は回転ヘラ削り後、外縁寄りを撫で調整。	天井部内面は 磨耗顕著・二 次利用してい るか
B270	第204図 PL.139	須恵器 蓋	流路埋没土 3/4	口	13.9	高 摘み	3.1 4.1	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰不良/に ぶい黄褐	ロクロ整形(右回転)。リング状の蓋を取り付け後、横撫で。 天井部中位は回転を伴うヘラ削り。	内面の磨耗著 しい
B271	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 口縁～天井部 1/4	口	12.7			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨耗
B272	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 1/4	口	13.8			細砂粒/還元焰軟 質/灰白	器形著しく歪む。	

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高さ	口径			
B273	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 1/3	口	15.5	高 3.2 3.3	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨耗
B274	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 1/4	口	17.1	高 3.5 3.6	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部頂部を回転糸切り後、摘みを貼付。外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
B275	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 1/3	口	18.8	高 3.5 3.9	白色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	内面端部寄りに自然釉付着
B276	第204図 PL. 139	須恵器 蓋	流路埋没土 3/4	口	17.8	高 2.8 2.7	細砂粒・石英・長 石類/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転を伴うヘラ削り。	
B277	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 口縁～天井部 1/4	口	18.7		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りと端部に回転ヘラ削り。	
B278	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 口縁～天井部 1/4	口	16.8		粗砂粒・細砂粒・ 黒色鋳物粒/還元 焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに撫でに近い回転ヘラ削り。	炭素吸着・変色
B279	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路埋没土 口縁～天井部 1/4	口	16.8		細砂粒・黒色鋳物 粒発泡/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の広い範囲に回転ヘラ削り。	外面自然釉厚く付着
B280	第204図 PL. —	須恵器 蓋	流路-5 口縁～天井部 1/4	口	17.8		細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。	外面一面砂粒大の窯材・自然釉厚く付着
B281	第204図 PL. —	須恵器 杯	西流路埋没土 1/4	口 底	12.4 6.0	高 3.2	細砂粒・白色鋳物 粒・赤色粘土粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	内面磨耗
B282	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口 底	12.7 7.4	高 3.7	粗砂粒・細砂粒/還 元焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面とも磨耗・外面炭素吸着・黒色に変色
B283	第204図 PL. 139	須恵器 杯	流路+4 3/4	口 底	12.5 8.4	高 3.1	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	外面に自然釉厚く堆積
B284	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口 底	13.6 8.4	高 3.3	粗砂粒・細砂粒・黒 色鋳物粒/還元焰/ 褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、手持ちヘラ削り。	内面磨耗
B285	第204図 PL. 139	須恵器 杯	流路埋没土 口縁部3/4欠	口 底	13.0 7.7	高 3.9	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	内外面磨耗。
B286	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口 底	13.1 8.8	高 3.4	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下端にも回転ヘラ削り。	内外面とも磨耗顕著
B287	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/3	口 底	11.8 7.6	高 3.5	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
B288	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 2/3	口 底	13.0 8.4	高 3.2	白色鋳物粒・黒色 鋳物粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部はヘラ削り後、回転ヘラ削り。体部下端にも回転ヘラ削り。	外面に自然釉付着
B289	第204図 PL. 139	須恵器 杯	流路埋没土 2/3	口 底	12.2 8.7	高 2.6	細砂粒・黒色鋳物 粒多量発泡/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	外面に自然釉付着
B290	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 2/3	口 底	13.3 7.6	高 3.6	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に手持ちヘラ削り。	内面磨耗・内外面に自然釉付着
B291	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口 底	13.0 9.4	高 2.9	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。	内面磨耗・内外面に自然釉付着
B292	第204図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口 底	12.6 8.2	高 3.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部回転ヘラ削り。	内外面とも磨耗・自然釉付着
B293	第205図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口 底	13.5 9.2	高 3.5	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。体部下端にも回転ヘラ削り。	外面に火襷・内外面とも磨耗
B294	第205図 PL. —	須恵器 杯	流路+6 2/3	口 底	13.0 7.9	高 3.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	内面やや磨耗
B295	第205図 PL. 139	須恵器 杯	流路埋没土 口・底部一部欠	口 底	14.4 9.6	高 3.3	細砂粒・黒色鋳物 粒・白色鋳物粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑なヘラおこし、ヘラ撫で。底部外面に十字印の刻書。	
B296	第205図 PL. 139	須恵器 杯	0 3/4	口 底	14.4 8.2	高 4.1	細砂粒/還元焰や や軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り後、無調整。	
B297	第205図 PL. —	須恵器 杯	流路埋没土 1/3	口	12.3		細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。体部下端にも回転ヘラ削り。	
B298	第205図 PL. 139	須恵器 杯	流路埋没土 完形	口 底	12.2 8.4	高 3.5	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	内面磨耗
B299	第205図 PL. —	須恵器 杯	流路+6 1/2	口 底	13.4 8.6	高 4.1	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰やや軟 質/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。体部下端も回転ヘラ削り。	内面磨耗

No.	挿図 PL.No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	底径			
B300	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口底 7.4	高 4.2	底径 7.4	細砂粒/還元焰や や軟質/黒	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下端にも回転ヘラ削り。体部外面下半に線刻「十」。	内外面とも磨耗・炭素吸着。黒色
B301	第205図 PL.139	須恵器 杯	流路+19 3/4	口底 8.0	高 4.1	底径 8.0	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ切り後、周縁部に回転ヘラ削りか。	内外面とも磨耗
B302	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口底 7.4	高 4.2	底径 7.4	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。	内外面磨耗
B303	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/4	口底 7.0	高 3.6	底径 7.0	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。	内外面とも磨耗顕著
B304	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 2/3	口底 5.8	高 4.1	底径 5.8	白色鋳物粒少量精 選/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
B305	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/4	口底 6.6	高 3.8	底径 6.6	細砂粒/還元焰/灰 褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
B306	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 3/4	口底 8.6	高 3.8	底径 8.6	細砂粒・白色鋳物 粒・黒色鋳物粒少 量/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部ヘラ切り後、手持ちヘラ削りか。	底部外面に自然釉
B307	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/4	口底 9.4	高 3.6	底径 9.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	外面に自然釉 付着
B308	第205図 PL.139	須恵器 杯	流路埋没土 3/4	口底 7.8	高 4.1	底径 7.8	細砂粒/還元焰や や軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削りか、回転ヘラ削りで調整を加える。	内面磨耗
B309	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口底 9.3	高 3.8	底径 9.3	黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。	内外面に自然 釉付着
B310	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/3	口底 13.0	高 3.1	底径 13.0	小礫・粗砂粒多量 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器内薄く軽量
B311	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口底 9.1	高 3.1	底径 9.1	黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ切り後、周縁部に回転ヘラ削りか。	内面磨耗・外 面に自然釉厚 く付着
B312	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/2	口底 6.0	高 3.3	底径 6.0	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切りと考えられる。	
B313	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路埋没土 1/3	底 8.8	高 3.3	底径 8.8	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰軟質/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	内面磨耗
B314	第205図 PL.ー	須恵器 杯	流路+7 体部～底部片	底 7.0	高 3.1	底径 7.0	細砂粒・白色鋳物 粒・海綿骨針/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。外面はヘラ状工具による細線1条。	内面磨耗
B315	第205図 PL.139	須恵器 コップ型杯	流路埋没土 口縁～底部1/4	口底 6.3	高 8.2	底径 6.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。体部外面は回転ヘラ削り。底部も回転ヘラ削り。	
B316	第205図 PL.139	須恵器 椀	流路+30 2/3	口底 7.7	高 4.6	底径 7.7	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部を回転ヘラ削り後の付け高台。	内面磨耗顕著 ・内外面の一 部に自然釉付 着
B317	第205図 PL.139	須恵器 椀	流路+25 3/4	口底 7.0	高 5.4	底径 7.0	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部を回転ヘラ削り後の付け高台。	底部内面磨耗
B318	第205図 PL.ー	須恵器 椀	流路+33 1/2	口底 6.7	高 5.4	底径 6.7	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰軟質/灰 白	ロクロ整形(右回転)。高台部は回転糸切り後の付け高台。	外面炭素吸着 ・内面磨耗
B319	第205図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 1/4	口底 9.5	高 4.9	底径 9.5	白色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部ヘラ切り後の付け高台。底面の仕上げは粗雑。	
B320	第205図 PL.ー	須恵器 椀	流路埋没土 1/2	口底 9.4	高 3.8	底径 9.4	白色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部を回転ヘラ削り後の付け高台。	内面磨耗顕著
B321	第206図 PL.ー	須恵器 椀	流路埋没土 口縁部欠1/2	底 9.6	高 9.0	底径 9.6	粗砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	内面磨耗顕著
B322	第206図 PL.ー	須恵器 椀	流路+13 底部のみ	底 8.6	高 8.9	底径 8.6	白色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。高台部は底部を回転糸切り後の付け高台。身と高台部には異なる胎土が使用されている。高台部には白色鋳物粒の混入が少ない胎土。	
B323	第206図 PL.ー	須恵器 椀	流路埋没土 1/4	口底 10.9	高 7.8	底径 10.9	細砂粒少量・精選 /還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の足の長い付け高台。内面に重ね焼きの痕跡。	
B324	第206図 PL.ー	須恵器 盤	流路+10 底部1/2	皿 12.0	高 10.2	底径 12.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(左回転か)。底部は回転を伴う撫で。高台部は付け高台。体部下位には回転ヘラ削り。	内面磨耗顕著
B325	第206図 PL.139	土師器 小型埴	流路埋没土 完形	口底 5.4	高 5.4	底径 5.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は上半部撫で、型肌を残す。下半部はヘラ削り後、撫で。最下位に手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
B326	第206図 PL.139	須恵器 器種不明	流路埋没土 口縁～体部	口底 20.8	高 5.4	底径 20.8	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。体部外面に回転ヘラ削り。	口縁部外面変 色部分有り
B327	第206図 PL.139	須恵器 高杯	流路+24 脚部3/4	底 11.8	高 5.4	底径 11.8	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。上半部には撫で調整。	
B328	第206図 PL.139	須恵器 長頸壺	流路+9 頸部～体部	口底 16.5	高 5.4	底径 16.5	細砂粒・白色鋳物 粒・黒色鋳物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。肩部は回転ヘラ削りか。体部には撫で、内面は肩部に口縁部接合時の強い指撫で。体部に指頭圧痕を残す。	口縁部内面、 肩部外面に自 然釉
B329	第206図 PL.ー	須恵器 横瓶	流路埋没土 口縁部片	口底 16.5	高 5.4	底径 16.5	白色鋳物粒/還元 焰軟質/浅黄橙	ロクロ整形(右回転か)。口縁部横撫で。	B330と同一か
B330	第206図 PL.ー	須恵器 横瓶	流路+12 頸部～肩部片	口底 16.5	高 5.4	底径 16.5	白色鋳物粒/還元 焰軟質/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。胴部は叩き整形。外面は平行叩き痕。内面は同心円状の当て具痕。	B329と同一か

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
B331	第206図 PL. —	須恵器 横瓶	流路埋没土 頸～胴部片				白色鈹物粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	紐づくり叩き整形。頸部は内外面とも横撫で。胴部は平行叩き痕を撫で消している、内面は同心円状の当て具痕を残す。		
B332	第206図 PL. —	須恵器 壺	西流路埋没土 肩部片				粗砂粒・細砂粒・ 黒色粘土粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。肩部はカキ目状の撫で。胴部外面は回転を伴うヘラ削り。		
B333	第206図 PL.139	須恵器 壺	西流路埋没土 口縁～体部	口	9.6		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。体部に回転ヘラ削り。	器形著しく歪む。肩部に自然釉	
B334	第206図 PL. —	須恵器 小型壺	流路埋没土 口縁～体部上位 片	口	9.5		精選・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。口縁部は短く直立気味に立ち上がる。		
B335	第206図 PL.139	土師器 台付甕	+5 台部			台	9.9 細砂粒/良好/橙	基部寄りと裾端部に横撫で、その間に撫での部分を残す。		
B336	第206図 PL. —	土師器 小型甕	流路+13 口縁～胴部下半	口	12.0		細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部は斜めのヘラ削り。	内外面とも磨滅	
B337	第206図 PL. —	土師器 甕	流路埋没土 口縁～胴部上位 片	口	21.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。		
B338	第206図 PL. —	土師器 甕	流路埋没土 口縁部1/3	口	23.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。		
B339	第206図 PL. —	土師器 甕	流路埋没土 口縁～胴部上位 片	口	22.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。		
B340	第206図 PL. —	埴輪 円筒	流路埋没土 基底部				粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	基底部下半の破片である。外面には縦ハケ(5本/1cm)を施す。ヘラ状工具押圧による底部調整が見られる。内面は撫で後、縦ハケを重ねる。底面寄りに切り込みの一部が見られることから馬の脚部の可能性もあるか。底面に細かい棒状品による圧痕が残る。		
B341	第206図 PL. —	埴輪 円筒	流路埋没土 基底部				粗砂粒・チャート/良 好/明赤褐	基底部下半の破片である。外面には縦ハケ(6本/1cm)を施す。ヘラ状工具押圧による底部調整が見られる。内面は下端に粘土板成形時の製作台の板目が見られ、その上に撫で、縦ハケを重ねられている。底面に細かい棒状品による圧痕が残る。	一部に炭素吸着	
B342	第206図 PL. —	須恵器 甕	流路0 口縁～頸部片				白色鈹物粒/還元 焰軟質/灰	口唇部欠損。ロクロ整形。		
B343	第206図 PL. —	須恵器 甕	流路+6、道路 口縁～肩部1/3				細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	口縁部は横撫で。胴部は叩き整形。外面は平行叩き痕。内面は同心円状の当て具痕。外面中位に巡る突帯を挟んで上下に7条1単位の間隔で波状文が1段ずつ見られる。		
B344	第207図 PL. —	須恵器 甕	流路埋没土 口縁部片				細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形。	内外面ともに自然釉付着	
B345	第207図 PL.139	石製品 紡輪	東流路埋没土 1/4	孔径 径	0.9 (3.5)	厚 重	1.8 22.9	砥沢石	整形痕が残らないほど全面が研磨されている。稜は新鮮で未使用の状態に近い。裏面側に四分割線を刻む。被熱して破損したものと見られる。	台形状
B346	第207図 PL.139	礫石器 敲石	東流路埋没土 完形	長 幅	17.2 7.5	厚 重	4.4 928.8	粗粒輝石安山岩	小口部両端に著しい敲打痕が残る。	扁平礫
B347	第207図 PL.139	金属製品 刀子	+10 1/2	長 幅	12.0 2.2	厚 重	2.2 31.4		刃先部分を欠く刀子で、茎部は長く柄と見られる広葉樹材が錆化し表面に残る。硬い錆に覆われるものの間は明瞭である、刃先は関から3cm程で劣化破損する。	
B348	第207図 PL.139	金属製品 不詳	+23 1/2	長 幅	11.0 2.1	厚 重	1.5 20.0		錆化が著しく、内部は空洞化し本来形状不明。	
B349	第207図 PL.139	金属製品 刀子	+5 1/3	長 幅	6.1 1.1	厚 重	0.7 5.1		断面三角形で細長い刀子破片茎側途中で劣化破損し全体形状は不明。	
天王B区3溝										
B350	第207図 PL. —	土師器 不明	埋没土 破片				細砂粒/良好/にぶ い赤褐	中実の棒状品。器面は丁寧な撫で。	小口部分に炭素吸着	
B351	第207図 PL. —	須恵器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	13.8		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。		
B352	第207図 PL. —	須恵器 椀	埋没土 底部片	底	7.2	台	6.4	細砂粒/還元焰/オ リーブ黒	高台部は付け高台。	器面炭素吸着 ・黒色味・磨滅
B353	第207図 PL. —	灰釉陶器 椀	埋没土 底部片	底	6.4	台	5.6	精選/還元焰/灰白	ロクロ整形。高台部は低く崩れた三日月高台状。底部は回転ヘラ削り後の付け高台。	底部内面に重 ね焼き痕
B354	第207図 PL.140	礫石器 磨石	埋没土 完形	長 幅	6.5 6.4	厚 重	2.7 182.0	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗して、光沢を帯びる。	扁平楕円礫
天王B区4溝										
B355	第207図 PL.140	須恵器 椀	+8 2/3	口 底	15.3 7.6	高 台	6.8 7.8	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内面磨耗
B356	第207図 PL. —	須恵器 長頸壺	+6 破片				白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/オ リーブ灰	ロクロ整形(回転方向不明)。頸部の接合に指押さえ。	内外面に自然 釉付着	
B357	第207図 PL. —	土師器 甕	+5 口縁～胴部片	口	19.6		細砂粒/良好/黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面最上位は横、以下は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。		

天王 B区40土坑

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	7.2	台 8.0			
B358	第207図 PL.140	黒色土器 椀	埋没土 2/3	底	7.2	台 8.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で。体部外面の上半に撫で、下半にヘラ削り。 口縁部外面と内面全面に炭素吸着、黒色処理、棒状工具による磨きを重ねる。高台部は底部撫で後の付け高台。	

天王 C区1住居

C1	第207図 PL.140	土師器 杯	北西埋没土 破片				細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。底部外面に墨書・判読不明。	
C2	第207図 PL.—	土師器 杯	南西埋没土 口縁～底部片	口	12.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C3	第207図 PL.—	土師器 杯	中央+3 口縁～底部片	口	14.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C4	第207図 PL.—	土師器 杯	南壁寄り+1 口縁～底部片	口	10.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面の一部に 炭素吸着
C5	第207図 PL.—	須恵器 杯	西壁+4、南西 1/3	口 底	13.8 8.4	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	底部外面磨滅
C6	第207図 PL.140	須恵器 杯	+10 完形	口 底	12.9 8.0	高 3.3	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。体部最下位にも回転ヘラ削り。	器形歪み平面 楕円形・内面 磨耗顕著
C7	第207図 PL.—	土師器 甕	カマド掘り方 口縁部片	口	19.7		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	
C8	第208図 PL.140	土師器 甕	+2 口縁～胴部1/3	口	21.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横撫で。胴部外面最上位は横、以下は斜縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	外面炭素吸着
C9	第208図 PL.—	土師器 甕	カマド+1、南東 胴部～底部片	底	5.2		細砂粒/良好/赤褐	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は横の撫で。	胴部外面下半 に煤付着・一 部に粘土付着

天王 C区2住居

C10	第208図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C11	第208図 PL.140	土師器 杯	+11 口縁部一部欠	口 底	14.1	高 5.3	細砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面磨滅
C12	第208図 PL.—	土師器 甕	南東埋没土 口縁～頸部片	口	20.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。頸部にヘラの当たった後を残す。	内外面とも磨 滅
C13	第208図 PL.—	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				粗砂粒・細砂粒・ 白色鋳物粒/還元 焰/暗灰	3本1単位の波状文を3段配す。ロクロ整形。	器形歪む
C14	第208図 PL.140	石製品 砥石?	+1 1/2	長 幅	(10.0) 7.7	厚 重 3.3 413.2	変質安山岩	表裏面とも摩耗して光沢面が生じている。弱い縦線条痕がわずかにある。	扁平礫

天王 C区3住居

C15	第208図 PL.—	土師器 杯	北東・南西 1/4	口	19.8	高 3.5	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面撫で	内面磨滅
C16	第208図 PL.—	土師器 杯	北東・南西 口縁～底部1/4	口	16.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。輪済痕を残す。底部は手持ちヘラ削り。単位不明瞭。内面撫で。	外面の一部に 炭素吸着
C17	第208図 PL.140	土師器 甕	+1、南東 口縁～胴部2/3	口	22.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。頸部に工具痕。胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	口縁部、胴部 上位内外面に 煤付着
C18	第208図 PL.—	須恵器 甕	0、カマド周辺 胴部片				粗砂粒・細砂粒・ 白色鋳物粒/還元 焰/灰	外面は平行叩き痕。内面は同心円状・当て具痕明瞭。	

天王 C区5住居

C19	第208図 PL.—	土師器 杯	カマド掘り方 口縁部片	口	12.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	外面磨滅
C20	第208図 PL.140	土師器 杯	東壁+2、南東 口縁一部欠	口	11.5	高 2.9	細砂粒・黒色鋳物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面磨滅・器 肉やや厚い
C21	第208図 PL.—	土師器 杯	南西+7 口縁～底部1/4	口	15.5		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面撫で。	口縁部外面黒 色の付着物
C22	第208図 PL.—	須恵器 蓋	北東掘り方 口縁～体部片	口	17.6		細砂粒/還元焰・軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。	外面炭素吸着
C23	第208図 PL.—	須恵器 杯	南西埋没土 底部片	底	7.0		細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切り後、無調整。	
C24	第208図 PL.—	土師器 甕	+30、カマド 口縁部片	口	22.5		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。ヘラの当たった痕跡を残す。胴部は横のヘラ削り。	
C25	第208図 PL.—	須恵器 甕	中央+4 胴部片				細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	外面は平行叩き痕。内面は同心円状当て具痕に撫でを重ねる。	
C26	第208図 PL.140	金属製品 刀子	北西隅+5 破片	長 幅	4.2 1.2	厚 重 0.4 2.7		薄く幅の狭い刀子刃部破片で、先端は細くなり端部破損する。莖側は刃部で劣化破損するため不明。	

天王 C区6住居

C27	第209図 PL.—	土師器 杯	カマド埋没土 1/4	口	12.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面撫で。	内面磨耗
C28	第209図 PL.—	土師器 杯	南東+16 1/4	口	12.4	高 3.5	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	
C29	第209図 PL.140	土師器 杯	カマド-4 2/3	口	13.1	高 4.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C30	第209図 PL.140	土師器 杯	南壁-1 1/2	口	11.6	高 3.7	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は最下位を手持ちヘラ削り。大半の部分に撫でを施すが、型肌部分を明瞭。内面は撫で。	器面炭素吸着

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
C31	第209図 PL.140	土師器 杯	東壁カマド+5 1/2	口	10.3	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。底部内面に傷状の線刻あり。	内面磨耗
C32	第209図 PL.140	土師器 杯	カマド前-1 口縁一部欠	口	11.8	高	4.0	細砂粒・黒色鉾物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨減
C33	第209図 PL.—	土師器 杯	東壁際 0 1/4	口	10.2	高	2.9	細細粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面撫で。底部内面に十字印の刻書。	
C34	第209図 PL.—	土師器 杯	北西埋没土 口縁～底部1/4	口	11.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	
C35	第209図 PL.—	土師器 杯	北西埋没土 口縁～底部1/4	口	21.3			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、撫で。内面は撫で。	
C36	第209図 PL.—	須恵器 蓋	カマド埋没土 口縁～体部片	口	11.8			粗砂粒・細砂粒・ 白色鉾物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(左回転)。天井部は回転ヘラ削り。	
C37	第209図 PL.—	須恵器 蓋	-4 口縁～体部片	口	11.0			細砂粒・黒色鉾物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面に回転ヘラ削り。	
C38	第209図 PL.—	須恵器 蓋	南東埋没土 口縁～天井部片	口	15.8			細砂粒・白色鉾物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	
C39	第209図 PL.—	須恵器 杯	南東埋没土 口縁～体部片	口	10.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	
C40	第209図 PL.—	須恵器 脚付盤	北西埋没土 口縁～体部片	口 底	26.6 25.8			精選・夾雑物少量/ 還元焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。外面撫で。内面はカキ目。	脚台部が付くと考えられる
C41	第209図 PL.—	土師器 甕	カマド0 口縁～胴部片	口	16.0			粗砂粒・白色軽石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横の撫で。	被熱のため変色・変質
C42	第209図 PL.—	土師器 甕	カマド+2 胴下位～底部	口 底	0 4.8	0 0	0 0	粗砂粒・白色軽石/ 良好/橙	胴部外面は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。底部外面はヘラ撫で。	
C43	第209図 PL.140	土師器 甕	カマド+1 胴部一部欠	口 底	22.3 4.5	高	34.7	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。頸部に工具痕。胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面広範囲に炭素吸着・一部に煤付着
C44	第209図 PL.—	土師器 甕	カマド0・埋没土 胴部～底部片	口 底	5.8			粗砂粒・細細粒/ 良好/明赤褐	胴部外面は縦・斜横のヘラ削り、内面はヘラ撫で。輪積み痕を残す。底部外面はヘラ削り。	
C45	第209図 PL.—	土師器 甕	中央土坑+1 口縁～胴部片	口	23.6			粗砂粒・細細粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜縦・斜めのヘラ削り、内面は斜横のヘラ撫で。	器面炭素吸着
C46	第209図 PL.—	土師器 甕	中央土坑-2 口縁～胴部片	口	22.0			細細粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横、斜縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	器面炭素吸着
C47	第209図 PL.140	土師器 甕	カマド-10 胴下～底部一部欠	口 底	22.0 4.9	高	30.2	粗砂粒・細細粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、最下位は斜のヘラ削り。内面は斜横のヘラ撫で。底部はヘラ削り。	外面の一部炭素吸着・内面胴部上位変色
C48	第209図 PL.141	土師器 甕	カマド+1、掘り 方 胴～底部一部欠	口 底	21.1 6.1	高	33.4	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は長い単位で縦のヘラ削り、最下位は斜横のヘラ削り。内面は撫でが施されるが輪積み痕を残す。底部はヘラ撫で。	外面全体やや炭素吸着
C49	第210図 PL.141	石製品 カマド袖石	0 完形	長 幅	33.6 19.8	厚 重	11.4 8250.0	角閃石安山岩	各面とも平ノミ状工具により面取り整形する。カマド構造物とされたもので、被熱して赤化する。表裏面とも四隅に礫面が残る。	楕円礫
C50	第210図 PL.141	石製品 カマド袖石	0 完形	長 幅	29.7 17.7	厚 重	10.5 7000.0	角閃石安山岩	各面とも平ノミ状工具により面取り整形する。カマド構造物とされたもので、被熱して赤化する。表裏面とも四隅に礫面が残る。	楕円礫
C51	第210図 PL.141	礫石器 敲石	+12 完形	長 幅	12.1 6.3	厚 重	2.3 284.0	細粒輝石安山岩	右側縁に敲打痕が残る。	扁平礫
C52	第210図 PL.141	石製品 不明	-1 不明	長 幅	17.4 (8.4)	厚 重	(11.1) 933.0	角閃石安山岩	裏面側整形は破損して不明だが、各面とも面取り整形されている。左辺側下端の整形は抉り込んでいるように見えるが、整形後の形状は不明。左辺側破損面は新鮮で、裏面側破損より後出する。	不明
C53	第210図 PL.141	金属製品 不詳	埋没土 破片	長 幅	5.5 1.2	厚 重	0.5 8.6		幅1cm程の断面長方形の板状鉄製品で、一端はやや薄くなり劣化破損するが刃部等の形状は見られない。他の端部は四角だが破損後の錆化と見られる。	

天王C区7住居

C54	第210図 PL.—	土師器 杯	P7掘り方 口縁～底部片	口	9.6	高	3.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	外面炭素吸着 ・黒班状
C55	第210図 PL.—	土師器 杯	南西・北西 口縁～底部片	口	11.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	
C56	第210図 PL.—	土師器 杯	北西埋没土 1/2	口	10.5	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、単位は不明。間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内外面とも磨 減
C57	第210図 PL.—	土師器 杯	南東埋没土 口縁～底部片	口	12.7			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	内面やや磨減
C58	第210図 PL.—	土師器 杯	北西埋没土 口縁～底部片	口	14.3			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	外面炭素吸着 ・内外面とも やや磨減
C59	第210図 PL.—	土師器 杯	P7・カマド 口縁～底部片	口	15.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C60	第210図 PL.—	土師器 杯	+1、南西 口縁～底部片	口	17.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
C61	第210図 PL.141	須恵器 蓋	南東埋没土 1/2	口	18.2	高 摘み 4.6	2.4 4.6	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は広範囲に回転ヘラ削り。内面磨耗・外面炭素吸着	
C62	第210図 PL.141	須恵器 蓋	-2、北西 1/2	口	20.0	高	4.1	粗砂粒・細砂粒・ 白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。天井部内面に指頭圧痕。	
C63	第210図 PL.—	土師器 甕	南東埋没土 口縁～胴部片	口	21.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横・斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
天王C区8住居										
C64	第211図 PL.141	土師器 杯	P8・18埋没土 2/3	口	12.5	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器面煤付着
C65	第211図 PL.—	土師器 杯	掘り方-14 口縁部片	口	14.0			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C66	第211図 PL.—	土師器 杯	P12埋没土 口縁1/4	口	14.0			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C67	第211図 PL.—	土師器 杯	-1 口縁部片	口	15.2			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面に炭素付着
C68	第211図 PL.—	土師器 杯	北東埋没土 口縁部片	口	14.4			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C69	第211図 PL.—	土師器 杯	南東埋没土 口縁部片	口	15.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部外面に煤付着
C70	第211図 PL.141	須恵器 蓋	P19 +3 1/3	口	13.2			細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部上位は回転を伴うヘラ削り。	
C71	第211図 PL.141	須恵器 蓋	北西埋没土 1/2	口	13.8	高 摘み	2.1 2.5	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/明褐灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨耗
C72	第211図 PL.—	須恵器 杯	P1 +11 体部～底部	底	7.0			細砂粒・黒色粘土 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
C73	第211図 PL.—	須恵器 杯	P11・12、北西 1/4	口 底	13.4 8.0	高	4.0	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施したものと考えられる。	器形の歪み著しい
C74	第211図 PL.141	須恵器 壺	南西+1 口縁～頸部3/4	口	8.8			粗砂粒・黒色粘土 粒/還元焰やや軟 質/灰	ロクロ整形。頸部内面には指頭圧痕。	
C75	第211図 PL.—	土師器 甕	北東埋没土 口縁～胴部片	口	17.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
C76	第211図 PL.141	土師器 甕	P8埋没土 口縁～肩部2/3	口	19.1			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は撫で。	外面に煤付着・器面やや磨滅
C77	第211図 PL.141	土師器 甕	掘り方+5 口縁～胴部1/2	口	20.8			粗砂粒・細砂粒・ 赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横撫で。輪積み痕を残す。胴部外面は斜・斜縦のヘラ削り、内面は撫でと考えられる。	内面磨滅
C78	第211図 PL.—	土師器 甕	カマド前+15 口縁～胴部片	口	19.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
C79	第211図 PL.141	土師器 甕	P8 -2、南東 胴部～底部	底	4.6			細砂粒/良好/明赤 褐	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。上位・最下位に粘土付着。	胴部の約1/2に煤付着、全体が変色
C80	第211図 PL.—	土師器 甕	P8埋没土 胴部～底部片	底	5.4			粗砂粒・細砂粒/ 良好/黒褐	胴部外面はヘラ削り、内面下位接合部分にヘラ削り。他はヘラ撫で。	外面煤付着
C81	第211図 PL.—	土師器 甕	P8埋没土 胴部～底部	底	4.0			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	器面は磨滅し、胴部外面はヘラ削り、内面はヘラ撫でであるが、整形の単位は不明。	
C82	第211図 PL.141	金属製品 刀子	西壁+5 2/3	長 幅	8.1 1.4	厚 重	0.5 6.9		棟・刃側ともに明瞭な開を持つ刀子で、関から1cm余りで破損・錆化する。刃は細く徐々に幅を減じ先端はとがる。	
C83	第211図 PL.141	金属製品 刀子	P8埋没土 1/2	長 幅	5.8 1.2	厚 重	0.8 5.0		刀子刃部と見られる破片。刃は幅せまで細長く先端で急に幅を減じ尖る。刃は途中で破損・錆化する。	
天王C区9住居										
C84	第211図 PL.142	土師器 杯	南壁+4 3/4	口	10.6	高	3.4	細砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。底内面に傷状の線刻あり。	器面磨耗
C85	第211図 PL.142	土師器 杯	中央土坑+10 2/3	口	10.9	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面磨耗
C86	第211図 PL.—	土師器 杯	中央土坑 0 1/2	口	10.0	高	2.9	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部外面に炭素吸着
C87	第211図 PL.—	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.7			粗砂粒・黒色鈹物 粒・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	器面やや磨滅
C88	第211図 PL.142	土師器 杯	中央土坑+10 2/3	口	12.0	高	3.6	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。内面に旧事と考えられる傷多数あり。	器面磨滅。
C89	第211図 PL.—	土師器 甕	+17 口縁～胴部片	口	23.2			細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	器面やや炭素吸着
C90	第211図 PL.—	土師器 甕	南東隅+1 口縁～胴部片	口	20.0			粗砂粒・細砂粒・ 軽石赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。胴部は小径になる可能性あり。	被熱のため脆弱
C91	第211図 PL.—	須恵器 甕	南寄り 0 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	器肉薄い。外面は平行叩き痕、内面は同心円状当て具痕が残る。	

第4章 検出された遺構と遺物

天王C区10住居

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
C92	第212図 PL.—	土師器 杯	東埋没土 口縁~底部片	口	14.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、内面に撫で後、棒状工具による暗文。		
C93	第212図 PL.—	土師器 杯	P1 +14 1/2	口	11.2	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内部に黒褐色の付着物、外面炭素吸着	
C94	第212図 PL.142	土師器 杯	北東隅+1、東部 口縁部一部欠	口	12.6	高 3.5	細砂粒/良好/明赤褐	器形は歪み平面楕円形を呈する。口縁部の横撫では強く、体部との境に弱い稜を作る。体部は撫で、底部はへら削り。内面は撫で。	内面磨耗	
C95	第212図 PL.142	土師器 杯	南壁 0、東部 3/4	口	11.4	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。		
C96	第212図 PL.142	土師器 杯	+3、東部 3/4	口	13.0	高 3.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面磨耗、器面炭素	
C97	第212図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	18.9		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	内面に自然袖付着	
C98	第212図 PL.142	須恵器 蓋	北東隅+1 口縁部一部欠	口	16.0	高 4.4 摘み 2.8	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は中心寄りに回転へら削り。	内面やや磨耗	
C99	第212図 PL.142	須恵器 杯	南東隅-6、東部 口縁部一部欠	口 底	12.5 7.2	高 3.7	細砂粒・赤黒色粘 土粒少量/還元焰/ 浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面やや磨減 ・内面磨耗	
C100	第212図 PL.142	須恵器 杯	西壁際+1 完形	口 底	13.0 7.0	高 3.8	粗砂粒・細砂粒・ 赤黒色粘土粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	内外面とも磨 耗	
C101	第212図 PL.142	須恵器 杯	カマド埋没土 3/5	口 底	12.4 7.4	高 3.4	細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗	
C102	第212図 PL.—	須恵器 杯	西部埋没土 1/4	口 底	12.9 7.4	高 3.5	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰・やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	内面磨耗	
C103	第212図 PL.—	須恵器 杯	南東隅-11 1/2	口 底	12.2 7.2	高 3.4	細砂粒・白色鈹物 粒・赤色粘土粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。		
C104	第212図 PL.142	須恵器 杯	南壁際+15 口縁部一部欠	口 底	12.2 6.4	高 3.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転へら削り後、周縁部に回転へら削り。	自然袖付着	
C105	第212図 PL.—	須恵器 杯	P10掘り方 口縁部片	口	14.1		細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形(右回転)。	内面磨耗	
C106	第212図 PL.—	須恵器 杯	北西隅+6 1/3	口 底	13.1 8.0	高 2.8	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	内面磨耗・棒 状に炭素吸着	
C107	第212図 PL.142	須恵器 椀	P10、東部埋没土 1/2	口 底	15.0 7.2	高 7.3 7.2	粗砂粒・白色鈹物 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰・軟質/にぶ い黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。		
C108	第212図 PL.—	須恵器 高台杯	カマド周辺埋没 土 底部1/4	底	13.0	台 13.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転へら削り後の付け高台。体部最下位にも回転へら削り。		
C109	第212図 PL.—	土師器 甕	カマド0、東壁部 口縁~胴部1/4	口	21.8		細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のへら削り、内面は撫で。		
C110	第212図 PL.—	須恵器 甕	南壁際+6 破片				細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰焼き締 め/灰	外面は平行叩き目痕、内面は同心円状当て具痕を残す。		
C111	第212図 PL.142	石製品 砥石?	表土 破片	長 幅	(4.7) (4.2)	厚 重	(0.5) 11.0	珪質粘板岩	上面に横位切断痕、表裏面とも剥落して当初の状態は不明だが、石材からみて仕上げ砥が想定。背面側は剥落後に再使用され摩耗する。上面に横位切断痕。	切り砥石
C112	第212図 PL.142	礫石器 敲石	0 完形	長 幅	9.8 6.2	厚 重	4.2 282.4	粗粒輝石安山岩	左側縁・背面側礫稜部に著しい敲打痕があるほか、背面側左辺に工具痕が残る。	楕円礫
C113	第212図 PL.142	金属製品 角釘	東部埋没土 破片	長 幅	4.7 0.8	厚 重	0.7 4.5		断面ほぼ正方形の角釘破片、先に向かい徐々に細くなり尖る。頭側は劣化破損し不明。	

天王C区11住居

C114	第212図 PL.142	土師器 大杯	南壁-6 1/2	口	18.0	高 5.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面磨減
C115	第212図 PL.—	須恵器 盤	南東隅+14 口縁~底部片	口 底	27.7 25.0	高 2.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。底部の周縁部に回転へら削り。	
C116	第212図 PL.—	土師器 甕	P3、南西埋没土 口縁部片	口	20.4		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	器肉全体に厚い。口縁部は横撫で。胴部外面は強いへら削り、内面は撫で。	被熱のため変 質
C117	第212図 PL.—	須恵器 甕	西部埋没土 口縁部片				粗砂粒・細砂粒・ 白色鈹物粒/還元 焰焼き締め/灰	ロクロ整形。6本1単位の波状文を2段配す。	

天王C区12住居

C118	第213図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁~底部片	口	12.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器面やや炭素 吸着	
C119	第213図 PL.—	須恵器 蓋	P2埋没土 摘みのみ			摘 み	4.8	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰軟質/灰 白	ロクロ整形。	
C120	第213図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	9.0		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形。底部は回転へら削り。		

天王C区13住居

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	底			
C121	第213図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器面磨滅
C122	第213図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は撫でを施すが型肌部分を残す。内面は撫で。	
C123	第213図 PL.ー	土師器 杯	東部埋没土 口縁～底部片	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。間に撫での部分を残す。型肌部分も残る。内面は撫で。	
C124	第213図 PL.ー	須恵器 皿	攪乱 口縁部片	口	13.5		細砂粒/還元焰軟 質/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	
C125	第213図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.0 8.0	高 3.3	細砂粒・黒色粘土 粒/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	
C126	第213図 PL.ー	須恵器 杯	攪乱 口縁～体部片	口	13.0		細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰軟質/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。	器面磨滅

天王C区14住居

C127	第213図 PL.ー	土師器 杯	東部掘り方 口縁部片	口	13.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器面やや磨滅
C128	第213図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	12.9		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	
C129	第213図 PL.ー	土師器 杯	東部掘り方 口縁部片	口	12.7		細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、器面に型肌の痕跡。底部はヘラ削り、内面は撫で。	口縁部歪む
C130	第213図 PL.ー	須恵器 蓋	東部掘り方 口縁～体部1/4	口	10.7		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	外面に自然釉
C131	第213図 PL.ー	須恵器 杯	掘り方、15住 口縁～底部片	口 底	13.2 6.0	高 4.1	細砂粒・海綿骨針/ 還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部の周縁部に回転ヘラ削り。	
C132	第213図 PL.ー	須恵器 杯	カマド埋没土 口縁～底部片	口 底	13.6 6.0	高 4.0	細砂粒・雲母/酸化 焰・軟質/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転か)。底部の切り離し状況不明。	
C133	第213図 PL.ー	須恵器 杯	P1埋没土 口縁～体部片	口	12.8		粗砂粒・細砂粒/酸 化焰・軟質/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転か)。	
C134	第213図 PL.ー	須恵器 杯	カマド+5 口縁～体部1/3	口	14.8		粗砂粒・細砂粒・ 黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
C135	第213図 PL.142	須恵器 杯	カマド+5、P1 口縁部一部欠	口 底	13.3 5.7	高 4.5	細砂粒・黒色鈹物 粒・白色鈹物粒/ 還元焰やや軟質/ 褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器形の歪み顕著・内面磨耗
C136	第213図 PL.ー	須恵器 椀	東壁-1、掘り方 1/4	口 底	15.1 6.4	高 台 5.6 5.9	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰・軟質/ 灰白	器形大きく歪む。ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	内外面とも磨滅
C137	第213図 PL.ー	須恵器 椀	P1、東部埋没土 底部	底	7.8	台 7.0	細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰・軟質/ 灰黄褐	ロクロ整形(回転方向不明)。高台部は付け高台。	内外面とも磨滅
C138	第213図 PL.ー	須恵器 椀	カマド-2 掘り方 1/2	口 底	15.6 6.8	高 台 5.0 6.6	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・軟質 /灰	ロクロ整形(右回転)。高台部の底部は撫で。調整後の付け高台。貼付は粗雑。	内面磨耗
C139	第213図 PL.ー	須恵器 椀	P1・2埋没土 口縁～底部片	口 底	13.8 5.6		細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内外面ともやや磨滅・高台は剥離
C140	第213図 PL.ー	灰釉陶器 皿	埋没土 口縁部1/4	口	15.6		精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。口唇部は外側に短く折れる。	外面に釉
C141	第213図 PL.ー	灰釉陶器 椀	中央+1 1/4	口 底	16.8 7.2	高 台 5.0 6.6	精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。体部外面に回転ヘラ削り。高台部は断面低い三日月型。	内外面に施釉
C142	第213図 PL.ー	土師器 小型甕	東部埋没土 口縁部片	口	11.5		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は撫で。	器面やや磨滅
C143	第213図 PL.ー	土師器 小型甕	P7、カマド埋没土 口縁～胴部片	口	14.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は強い横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	器面炭素吸着変色
C144	第213図 PL.ー	土師器 甕	P7、中央-25 口縁～胴部1/4	口	18.0		細砂粒少量/良好/ にぶい橙	口縁部外面は横撫で、指頭圧痕残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	外面に煤付着
C145	第213図 PL.142	土師器 甕	中央-1 口縁～胴部1/2	口	19.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上位は横、中位以下は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	
C146	第213図 PL.142	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(3.1) 4.3	厚 重 1.3 28.4	砥沢石	四面使用。右側面は浅く溝状に研ぎ減り、左側面には使用前の折断面が残る。上下両端を欠損。	切り砥石
C147	第213図 PL.142	礫石器 砥石	+28 破片	長 幅	(15.8) (11.6)	厚 重 (8.6) 2087.4	粗粒輝石安山岩	背面側礫面の周辺が強く摩耗することから、砥石として認定した。廃棄後に被熱破損したものか。	楕円礫
C148	第213図 PL.142	金属製品 不詳	カマド埋没土 破片	長 幅	6.6 0.7	厚 重 0.6 3.5		厚さ1.5cm程の不定形な鉄製品の破片で、破損状況等から鑄造鉄製品と見られる、全体に厚く錆におおわれ本来形状は不明。	
C149	第213図 PL.142	金属製品 刀子	+3 1/2	長 幅	6.9 1.4	厚 重 0.8 9.51		刀子刃部と見られる破片。刃は幅せまで細長く先端で急に幅を減じ尖る。刃は途中で劣化破損する。	
C150	第213図 PL.142	金属製品 刀子	+3 1/2	長 幅	6.5 1.6	厚 重 0.9 12.53		刀子茎から刃部破片、棟側には明瞭な関を有する。茎表面に錆化した木質が付着するが材質等は不明、茎は1.5cmほどで劣化破損する。	

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	高 さ	厚 重			
C151	第213図 PL.142	金属製品 不詳	+25 1/3	長 幅	5.3 1.0	厚 重	0.5 4.1	厚さ1cm程の不定形な鉄製品の破片で、破損状況等から鑄造鉄製品と見られる、一辺に斜めに面取り構造が見られるが全体形状は不明。	
C152	第214図 PL.142	金属製品 紡錘車	P4 +31 完形	長 幅	30.4 6.1	厚 重	5.4 54.72	ほぼ完形の紡錘車で直径6cmの円形の鉄製紡輪を貫通する形で鉄製棒軸が通る。紡輪は棒軸に対して45度ほどの角度をとるがこれは埋没・錆化による変形と考えられる。紡輪の一端は鍵の手状に膨らむが錆化が著しく本来の形状は不明である、また一方の端はやや細くなり端部で劣化破損する。	

天王C区15住居

C153	第214図 PL.―	土師器 杯	P2埋没土 1/4	口	14.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面磨滅
C154	第214図 PL.143	須恵器 蓋	南壁+9、表土 口縁部1/4欠	口	13.8	高 摘 み	4.5 4.3	細砂粒少量、粉っぽい/還元焰軟質/灰白	天井部中央に環状の摘みが付く。天井部は水平方向に鏝状突帯を廻らす。肩部から直角気味に内折して延び、口唇部をやや靴先状に突出させている。ロクロ回転(左回転)。	壺の蓋
C155	第214図 PL.―	須恵器 杯	+6 1/4	口 底	11.7 8.9	高	3.4	細細粒・精選/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部はヘラ切り離し後、撫で。	
C156	第214図 PL.―	土師器 甕	P11埋設土師器 胴部～底部片	底	8.4			細砂粒/良好/橙	胴部外面はヘラ削りと考えられる。内面にはヘラの当たった痕跡を残す。	器面磨滅・底部に炭素吸着・黒班状
C157	第214図 PL.143	土師器 甕	P8埋設土師器 胴部～底部	底	6.0			細砂粒/良好/橙	胴部外面は斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	胴部下位から底部内外面炭素吸着・黒班状
C158	第214図 PL.143	土師器 甕	P7埋設土師器 3/4	口 底	20.6 4.7	高	31.8	粗砂粒・細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は最上位に横のヘラ削り、以下は数回に分けて斜縦のヘラ削り、中位ではその上に撫でを重ねる。内面はヘラ撫で、下位と中位の接合部分にはヘラ削り。	胴部外面ほぼ全面に煤付着削り。

天王C区16住居

C159	第214図 PL.―	土師器 杯	西部埋没土 口縁部片	口	9.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。	器面磨滅
C160	第214図 PL.―	黒色土器 椀	埋没土 高台部片	底	6.6	台	7.0	細砂粒・赤色粘土粒/酸化焰/橙	ロクロ整形。高台部は付高台。底部内面は黒色処理、磨き。	
C161	第214図 PL.―	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	20.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、一部に撫での部分を残す。胴部外面は横ヘラ削り、内面は撫で。	
C162	第214図 PL.―	埴輪 円筒	+8 胴部片					粗砂粒/良好/明赤褐	外面は縦ハケ(10本/2cm)後、断面三角形の突帯貼付、その後周辺を横撫で。内面を縦撫で。半円形の透孔を有すると考えられる。	

天王C区17住居

C163	第214図 PL.―	土師器 杯	P10掘り方 1/4	口	13.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部上半部は撫で、下半部は手持ちヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫での上に棒状工具による暗文。	
C164	第214図 PL.143	土師器 杯	P7 +4 底部一部欠	口	12.3	高	3.2	細砂粒・黒色鈹物粒・白色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面磨滅
C165	第214図 PL.143	土師器 杯	aカマド前+2 3/4	口	11.9	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面やや磨滅
C166	第214図 PL.―	土師器 杯	東部掘り方 2/3	口	12.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C167	第215図 PL.143	土師器 杯	東部掘り方 2/3	口	12.2	高	3.2	細砂粒・白色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C168	第215図 PL.143	土師器 杯	P7 +12 3/4	口	11.8	高	3.4	細砂粒・白色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。外面に型肌の痕跡あり。	内面磨耗
C169	第215図 PL.―	須恵器 蓋	埋没土 口縁～体部片	口	17.8			細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	外面に自然釉厚く付着
C170	第215図 PL.143	須恵器 蓋	埋没土、表土 口縁～天井部 1/2	口	16.2			細砂粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	器面著しく歪む・内面に自然釉
C171	第215図 PL.―	須恵器 杯	P15掘り方 口縁～底部片	口 底	11.0 6.0	高	3.5	細砂粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
C172	第215図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	12.0 8.0	高	3.3	細砂粒・白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切りと考えられる。	
C173	第215図 PL.―	須恵器 盤か	P10掘り方 体部片	底	12.2			細砂粒・白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。高台部は底部回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。その後付け高台。	内面磨耗
C174	第215図 PL.―	須恵器 瓶	埋没土 口縁～頸部1/3	口	11.4			細砂粒・白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。頸部内面に指頭圧痕。	
C175	第215図 PL.143	須恵器 壺	P7 +2 口縁部欠損	底	14.0			粗砂粒・白色鈹物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形。胴部外面上半は撫で状のヘラ削り、最下位にヘラ削り。底部は撫で。口縁部を欠損するが、頸部の割れ口を二次的に調整。胴部下位に直径2cmほどの焼成壺の穿孔あり。	
C176	第215図 PL.143	土師器 台付甕	P7 +4、aカマド 口縁～体部1/2	口	14.2			粗砂粒・細細粒・軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面上位は斜横の、中位以下は斜縦のヘラ削り。台部は接合部分から剥落。	胴部外面煤付着
C177	第215図 PL.―	土師器 甕	東部掘り方 胴下部～底部 1/2	底	5.0			細砂粒/良好/橙	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。底部はヘラ削り。	
C178	第215図 PL.143	金属製品 不詳	P6埋没土 破片	長 幅	6.4 3.0	厚 重	2.2 47.4		砂粒を巻き込み錆化した鉄製品で劣化が著しく本来形状不明。錆・亀裂の状況から鑄造鉄製品の破片と見られる。	

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	高	厚 重				
C179	第215図 PL.143	金属製品 不詳	埋没土 破片	長 幅	5.0 4.3	厚 重	2.0 65.0		厚さ1cm程の不定形な鉄製品破片で一部に直線的で斜めに面取りされた形状が残るがそれ以外の外周は破損している。錆・亀裂の状況から鑄造鉄製品の破片と見られる。	
天王C区18住居										
C180	第215図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	9.2 6.2	高	3.2	細砂粒/良好/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、手持ちへら削り。体部下位にもへら削り。	
C181	第215図 PL.143	土師器 甕	埋設土師器 口縁～胴部3/4	口	22.4			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面上位は斜横、中位以下は斜縦のへら削り、内面は横のへら撫で。	胴部外面中位から下位に煤付着・内面下半は使用によると考えられる変色
C182	第215図 PL.143	金属製品 不詳	掘り方埋没土 破片	長 幅	6.7 6.0	厚 重	6.0 5.0		断面長方形の角棒状の鉄製品で、中央で緩やかに折れ曲がり錆化前の変形と見られるほか特別な形態は見られない。両端は劣化後の破損し全体形状は不明。	
天王C区19住居										
C183	第215図 PL.144	土師器 杯	東部埋没土 1/2	口	11.5	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面やや磨滅 口縁部と底部の一部に炭素吸着
C184	第215図 PL.144	土師器 杯	南東-11、南部 3/4	口	11.7	高	4.0	粗砂粒・軽石・石 英/良好/赤褐	口縁部は横撫で。体部撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
C185	第215図 PL.144	土師器 杯	カマド周辺+2 3/4	口	12.0	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部の先端のみ横撫で、以下体部までは撫で。型肌を残す。内面は撫で。	器面やや磨耗
C186	第215図 PL.—	土師器 杯	P3埋没土 1/2	口	11.8	高	2.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。体部撫で。底部外面は型肌をそのまま残す。内面は撫で。	口縁部～体部 内外面に煤付着。全体に炭素吸着
C187	第215図 PL.—	土師器 杯	P6埋没土 口縁～底部片	口 底	12.4 7.3	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はへら削り。内面は撫で。	
C188	第215図 PL.144	土師器 杯	南部埋没土 3/4	口 底	12.4 8.5	高	3.6	粗砂粒・細砂粒・ 石英/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、指頭圧痕を残す。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	口縁部内面に 油分を含み光沢のある煤付着
C189	第215図 PL.—	土師器 杯	東部埋没土 口縁～底部1/4	口	12.9	高	2.8	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はへら削り。内面は撫で。	器面やや炭素 吸着
C190	第215図 PL.—	土師器 杯	P6埋没土 口縁～体部1/4	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部外面には 炭素吸着・器 面磨滅
C191	第215図 PL.—	土師器 杯	南壁+6 口縁～体部1/4	口	12.8			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、型肌の痕跡を残す。底部はへら削り。内面は撫で。	
C192	第215図 PL.—	土師器 杯	P6埋没土 口縁～体部片	口	19.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、型肌の痕跡残す。内面は撫で。	法量小さくなる 可能性大
C193	第216図 PL.144	須恵器 耳皿	南東壁+1 4/5	底	5.8	高 台	3.4 5.8	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰・軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。口縁部分の対向する2カ所を内側に強く折り曲げている。高台は回転糸切り後の付け高台。	器面全体が磨 滅
C194	第216図 PL.144	須恵器 高台付皿	カマド周辺+2 口縁部1/2欠	口 底	13.0 6.7	高 台	3.2 6.0	小礫・粗砂粒/酸 化焰・軟質/浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	内外面とも磨 滅
C195	第216図 PL.144	須恵器 杯	P6 -1、埋没土 2/3	口 底	12.8 5.4	高	3.8	粗砂粒・細砂粒・ 赤色粘土粒/還元 焰・やや軟質/灰オ リーブ	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	内外面炭素吸 着・内面磨耗
C196	第216図 PL.144	須恵器 杯	南部埋没土 3/4	口 底	13.1 5.4	高	4.0	細砂粒・白色軽石 粒/還元焰・やや軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	器面磨耗
C197	第216図 PL.—	須恵器 杯	東・西部埋没土 口縁～底部	口 底	13.0 4.5	高	3.5	細砂粒・白色鋳物 粒/酸化焰軟質/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	器面磨滅・器 高増し、底径 大きくなるか
C198	第216図 PL.144	須恵器 杯	南壁-1 口縁部一部欠	口 底	12.6 5.7	高	4.6	粗砂粒・細砂粒・ 雲母・結晶片岩か /還元焰・軟質/に ぶい黄橙	底部卜径。ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	内面の一部に 炭素吸着
C199	第216図 PL.144	須恵器 杯	南寄り+13 3/4	口 底	12.3 5.6	高	3.9	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
C200	第216図 PL.—	須恵器 杯	P6 -3 口縁～体部	口	13.3			粗砂粒・細砂粒・ 白色鋳物粒/還元 焰軟質/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転か)。	器面磨滅
C201	第216図 PL.—	須恵器 杯	南東隅+19 1/2	口 底	13.1 6.2	高	3.8	細砂粒・赤色粘土 粒/酸化焰/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。内面に十字印の刻書。	器面磨耗
C202	第216図 PL.144	須恵器 杯	南東壁-5 口縁部一部欠	口 底	13.2 6.4	高	4.0	小礫・粗砂粒・細 砂粒・白色鋳物粒 /還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(左回転)。底部は糸切り後、無調整。	器面磨滅・底 部外面炭素吸 着
C203	第216図 PL.—	須恵器 杯	東部埋没土 1/3	口 底	12.0 5.8	高	3.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内面磨耗

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	台			
C204	第216図 PL.ー	須恵器 杯	東部埋没土 1/3	口底 11.6 5.8	高 3.8		細砂粒/還元焰軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	器面磨耗・磨滅
C205	第216図 PL.ー	須恵器 杯	カマド・南埋没土 1/3	口底 12.6 6.1	高 3.9		細砂粒・黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
C206	第216図 PL.ー	須恵器 杯	+4、P6、東部 1/3	口底 12.9 5.4	高 3.8		細砂粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形。底部は回転糸切り後、無調整と考えられる。	器面磨滅・一部に炭素吸着
C207	第216図 PL.ー	須恵器 杯	カマド埋没土 1/2	口底 12.6 5.6	高 4.1		細砂粒・赤色粘土粒/酸化焰軟質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	器面磨耗・一部に炭素吸着
C208	第216図 PL.ー	須恵器 杯	P6 -2 体部～底部	底 6.5			細砂粒・赤色粘土粒/還元焰軟質/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。口縁部内面に旧時の削痕多数。	器面炭素吸着・内面磨耗
C209	第216図 PL.ー	須恵器 杯	南部埋没土 底部	底 5.4			粗砂粒・細砂粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	器面磨滅
C210	第216図 PL.ー	須恵器 椀	P6 +3、南部 1/2	口底 15.1 7.1	高台 4.5 6.6		細砂粒/還元焰軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は回転糸切り後の付け高台。高台部剥離も使用か。	器面磨滅
C211	第216図 PL.ー	須恵器 椀	南部埋没土 1/5	口底 14.1 6.5	高台 3.4 6.0		細砂粒・雲母/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。高台部は回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅
C212	第216図 PL.144	須恵器 椀	南東隅+7 3/4	口底 15.4 7.2	高台 6.2 6.9		小礫・粗砂粒/還元焰・軟質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	内外面とも炭素吸着・黒色を呈する
C213	第216図 PL.ー	須恵器 椀	西部埋没土 口縁～高台部片	口底 15.4 7.4	高台 5.2 6.7		粗砂粒・細砂粒・結晶片岩・還元焰・軟質/にぶい黄褐	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部切り離し後の付け高台。	器面磨滅
C214	第216図 PL.144	須恵器 椀	西壁寄り 0 2/3	口底 14.1 6.9	高台 5.0 6.5		粗砂粒・細砂粒/還元焰・軟質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台は低く、底部回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅
C215	第216図 PL.144	須恵器 椀	P6 0、埋没土 2/3	口底 15.4 7.4	高台 6.2 7.4		細砂粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は低く、底部回転糸切り後の付け高台。	器面炭素吸着・磨滅
C216	第216図 PL.144	須恵器 椀	掘り方埋没土 1/2	口底 14.3 7.0	高台 4.8 6.5		小礫・粗砂粒・黒色粘土粒/還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	外面磨滅
C217	第216図 PL.ー	須恵器 椀	カマド周辺 0 底部	底 7.4	台 7.1		細砂粒・赤色粘土粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。高台部は回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅・一部に炭素吸着
C218	第216図 PL.144	須恵器 椀	南東壁-5、南部 口縁部一部欠	口底 14.0 6.9	高台 5.9 6.8		細砂粒・赤色粘土粒/還元焰・軟質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。外面のロクロ目はほとんど見られない。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	器面炭素吸着・磨滅
C219	第216図 PL.144	須恵器 椀	P6 0 2/3	口底 13.9 7.2	高台 5.0 6.7		粗砂粒・赤色粘土粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	器面炭素吸着・磨滅
C220	第216図 PL.ー	灰釉 皿	P6埋没土 口縁部片	口 13.6			精選/還元焰/灰白	口唇部は短く外側に折れる。ロクロ整形(右回転)。体部外面の一部は回転ヘラ削り。	釉は漬け掛けか
C221	第216図 PL.ー	灰釉 椀	南部埋没土 口縁部片	口 14.2			白色鈹物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。内面に施釉顕著。	
C222	第216図 PL.ー	灰釉 椀	南・西部埋没土 口縁部片	口 14.8			白色鈹物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。内面に施釉。	
C223	第216図 PL.ー	灰釉 椀	カマド+5 底部1/2	底 7.0	台 6.8		精選・白色鈹物粒少量/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。体部下位に回転を伴うヘラ削り。高台部は断面三日月型の付け高台。	釉は体部外面の上半と内面全面に見られる
C224	第216図 PL.ー	灰釉 椀	P6・南部埋没土 口縁～体部片	口 19.8			精選/還元焰/灰白	口唇部は短く外側に折れる。ロクロ整形(右回転か)。体部外面に回転ヘラ削り。	内外面に施釉。漬け掛けか
C225	第216図 PL.ー	灰釉 壺	西部埋没土 口縁部片	口 12.9			白色鈹物粒/還元焰やや不良/灰白	口唇部は外側に平坦面を有し先端尖る。ロクロ整形(右回転か)。	内外面に施釉
C226	第217図 PL.ー	土師器 台付甕	P6・南部埋没土 台部1/2	底 8.7			細砂粒・精選/良好/にぶい橙	内外面とも横撫で。	器面炭素吸着
C227	第217図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口 19.6			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で、一部に撫での部分を残す。胴部外面は横のヘラ削り。	
C228	第217図 PL.ー	土師器 甕	カマド周辺 0 口縁～胴部片	口 16.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
C229	第217図 PL.ー	土師器 甕	P6埋没土 口縁～胴部片	口 12.8			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部の歪み顕著。口縁部はヘラ撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は横・斜横のヘラ削り。	内外面煤付着
C230	第217図 PL.ー	土師器 甕	南部埋没土 口縁～胴部片	口 19.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、中位に撫での部分を残し、輪積み痕、指頭圧痕が見られる。胴部外面に横のヘラ削り、内面は撫で。	
C231	第217図 PL.ー	土師器 甕	南東隅+7 口縁部～胴部片	口 18.0			粗砂粒・白色鈹物粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、撫での部分を残し、輪積み痕、指頭圧痕を残す。胴部外面に斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	内外面煤吸着
C232	第217図 PL.ー	土師器 甕	カマド埋没土 口縁～胴部片	口 19.0			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、輪積み痕が見られる。胴部外面上位は横、中位は縦のヘラ削り。	外面炭素吸着
C233	第217図 PL.144	土師器 甕	カマド+6 口縁～胴部1/2	口 18.4			粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ撫で、内面はヘラ撫で。	器面やや磨滅

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
C234	第217図 PL. —	土師器 甕	カマド-1、埋没土 口縁~胴部2/3	口	21.3		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、下半には指頭圧痕、輪積み痕を残す。胴部外面は斜横、縦のヘラ削り。内面は刷毛状工具による撫で。		
C235	第217図 PL.144	土師器 甕	南壁+3、東部 口縁~胴部	口	19.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は上半が横、斜横、下半が斜縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	胴部外面の一部に粘土付着	
C236	第217図 PL. —	土師器 甕	カマド-1、南部 口縁~胴部1/4	口	19.0		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は上半部に横撫で、下半部には撫で、指頭圧痕を残す。胴部は上半部が横の、下半部が縦のヘラ削り。内面は横の撫で。	外面やや磨滅横の撫で。	
C237	第217図 PL. —	須恵器 甕	+11、南部、攪乱 口縁部片	口	28.3		細砂粒・白色鈹物粒・黒色粘土粒/還元焰/灰	紐づくり。ロクロ整形(右回転)。横撫で。		
C238	第217図 PL. —	須恵器 甕	南壁寄り-3 破片				細砂粒/還元焰/灰白	外面は弱い平行叩き痕。内面は同心円状当て具痕。		
C239	第217図 PL. —	須恵器 甕	壁溝 破片				細砂粒・白色鈹物粒/還元焰軟質/灰黄褐	外面は撫でか、内面は撫で。		
C240	第217図 PL.144	石製品 山形巡方	掘り方埋没土 完形	長幅	4.3 4.2	厚重	0.8 30.8	蛇紋岩	裏面側を除いた各面を丁寧に水磨き研磨。背面側中央は著しく光沢を帯びる。この部分を顕微鏡観察したところ周辺部には線条痕が残り、研磨の精粗であることが判明した。裏面側の孔。	
C241	第217図 PL.144	礫石器 敲石	-2 完形	長幅	13.2 8.4	厚重	4.0 633.5	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕が残る。	扁平礫
C242	第217図 PL.144	礫石器 磨石	+10 完形	長幅	15.2 11.5	厚重	3.5 802.7	粗粒輝石安山岩	背面側に部分的な摩耗痕が広がるほか、両側縁を激しく敲打する。	扁平礫
C243	第217図 PL.144	金属製品 不詳	P6埋没土 破片	長幅	3.8 2.1	厚重	1.5 16.4		不定型な錆の塊で、錆化が著しく本来形状は不明。	
C244	第217図 PL.144	金属製品 刀子	P3 -7 1/3	長幅	7.8 1.6	厚重	10.7 16.2		断面狭三角形の刀子破片で茎側端部はやや曲がるように破損し錆で覆われる。刃は細長く先は劣化後破損している。	
天王C区20住居										
C245	第218図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁~体部1/4	口	12.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C246	第218図 PL. —	須恵器 椀	+1 1/2	口底	12.6 8.4	高台	4.4 8.0	細砂粒・白色鈹物粒・赤色粘土粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部を回転ヘラ削り後の付け高台。	内面磨耗
天王C区26住居										
C250	第218図 PL.145	土師器 杯	カマド前+7 2/3	口	11.2	底	3.8	細砂粒少量・黒色鈹物粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。	
C251	第218図 PL.145	土師器 杯	南東壁+14 3/4	口	10.8	底	3.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は撫で、底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗
C252	第218図 PL.145	土師器 杯	南壁+1 3/4	口	11.2	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。	
C253	第218図 PL.145	土師器 杯	カマド左袖 0 3/4	口	10.5	高	3.7	細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。	器面は炭素吸着・磨滅
C254	第218図 PL.145	土師器 杯	南壁+9、埋没土 3/4	口	12.7	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面やや磨滅
C255	第218図 PL. —	土師器 杯	カマド埋没土 口縁部片	口	17.1			細砂粒・黒色鈹物粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	外面に煤付着・器面磨滅
C256	第218図 PL. —	土師器 杯	カマド+1 1/3	口	19.0			細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面とも一部に炭素吸着・内面は煤か
C257	第218図 PL. —	須恵器 蓋	カマド埋没土 口縁~天井部片	口	13.8			細砂粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部に回転ヘラ削り。	
C258	第218図 PL. —	土師器 甕	埋没土 口縁~頸部片	口	18.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	被熱のため変色
C259	第218図 PL. —	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.4			細砂粒・黒色鈹物粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。	
C260	第218図 PL. —	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	21.1			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。	外面磨滅
C261	第218図 PL. —	須恵器 甕	埋没土 破片					細砂粒・白色鈹物粒/還元焰/灰	外面は平行叩き痕。内面は同心円状当て具痕が残る。	
C262	第218図 PL.145	須恵器 転用硯	南壁+3 底部	底	10.8	台	10.7	細砂粒・白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	内外面とも炭素吸着・底部外面を利用した転用硯
天王C区27住居										
C263	第218図 PL. —	土師器 杯	東部埋没土 1/2	口	12.0	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C264	第218図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁~底部片	口	11.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	
C265	第218図 PL.145	土師器 杯	P1 +4、南壁際 +9 完形	口	11.0	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。内面は撫で。	外面は磨滅
C266	第218図 PL.145	土師器 杯	P1 +6 3/4	口	10.4	高	3.1	細砂粒・黒色鈹物粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	内面磨耗・器面炭素吸着のため変色

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C267	第218図 PL.145	土師器 杯	+2 1/2	口	12.7		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。	器面磨滅
C268	第218図 PL.—	土師器 杯	カマド周辺+1 1/4	口	19.8	高 4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面とも磨滅
C269	第218図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部	口	18.8		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部に回転ヘラ削り。	
C270	第218図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～胴部片	口	14.8		細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰軟質/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。	
C271	第218図 PL.—	須恵器 杯	東部埋没土 口縁～底部片	口 底	14.4 9.8		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部に回転ヘラ削り。	
C272	第218図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.2 7.2	高 3.4	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	器面磨耗
C273	第218図 PL.—	須恵器 椀	埋没土 高台部片	底	6.4	台 5.6	細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅
C274	第219図 PL.—	土師器 甕	+5、東・西部 口縁～胴部片	口	23.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で後、胴部外面に縦のヘラ削り、内面は横の撫で。	外面炭素吸着、 煤か。被熱の ため変質や や脆弱
C275	第219図 PL.—	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	内外面とも横撫で。	
C276	第219図 PL.—	須恵器 甕	埋没土 胴部片				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	外面は一部に平行叩き目、撫で、ヘラ削りの部分も見られる。	内面は撫で
C277	第219図 PL.145	金属製品 鏝	埋没土 1/3	長 幅	6.2 0.9	厚 重 0.9 6.9		断面ほぼ正方形で中央付近で段を有し細くなり茎状となる。両端とも劣化後破損し全体形状は不明であるが鉄鏝の破片と見られる。	

天王C区28住居

C278	第219図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.2		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。内面に棒状工具による斜め横の磨き。	
C279	第219図 PL.—	須恵器 杯	カマド+10 底部				細砂粒・白色粘土 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。高台部は回転糸切り後の付け高台、剥離している。	

天王C区29住居

C280	第219図 PL.—	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁～底部片	口	11.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	
C281	第219図 PL.—	土師器 杯	カマド埋没土 口縁～底部片	口	11.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	外面炭素吸着
C282	第219図 PL.145	土師器 杯	南東隅-20 口縁一部欠	口 底	11.8 9.0	高 3.3	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁の一部に 炭素付着
C283	第219図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	19.0		細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	
C284	第219図 PL.—	須恵器 蓋	中央-1 口縁～天井部 3/4	口	16.6		小礫・細砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面中心寄りに回転ヘラ削り。	
C285	第219図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.4 6.8	高 3.3	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は回転糸切り後、無調整。	
C286	第219図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	6.6		細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	底部は回転糸切り後、無調整。	
C287	第219図 PL.—	須恵器 長頸壺	埋没土 破片				細砂粒・精選/還 元焰/褐灰	ロクロ整形(左回転か)。外部の一部にヘラ削り。	肩部に自然釉

天王C区30住居

C288	第219図 PL.145	土師器 杯	P5 +5 3/4	口	13.0	高 3.7	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。内面に多数の傷状の削痕。	
C289	第219図 PL.—	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁部1/4	口	13.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁の一部に 炭素吸着
C290	第219図 PL.145	土師器 杯	カマド埋没土 口・底部一部欠	口	12.2		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面やや磨耗
C291	第219図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	13.7		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C292	第219図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	11.8	高 摘 み 2.4 4.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	
C293	第219図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	15.0 10.2	高 3.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	器面磨耗
C294	第219図 PL.—	須恵器 コップ形土 器	カマド埋没土 破片	口	10.0		細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転か)。	
C295	第219図 PL.—	須恵器 鉢	埋没土 口縁～体部片	口	16.2		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転か)。体部外面下位はヘラ削りか。	
C296	第219図 PL.145	礫石 戴石	-2 完形	長 幅	12.7 5.4	厚 重 5.3 498.6	粗粒輝石安山岩	小口部両端が著しく敲打され、潰れている。	棒状礫

天王C区31住居

C297	第219図 PL.—	土師器 杯	カマド+3・埋没 土 1/2	口	12.1	高 4.0	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる、間に型肌を撫でた部分を残す。内面は撫で。底部内面中央に織物の痕跡か。	内外面共に炭 素吸着
------	---------------	----------	----------------------	---	------	-------	----------------------------	---	---------------

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	3.1				
C298	第219図 PL.145	土師器 杯	カマド0 3/4	口	12.2	高	3.1	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。体部から底部の型肌が部分的に残る。内面は撫で。	
C299	第219図 PL.145	土師器 杯	カマド0 3/4	口	11.7	高	3.2	細砂粒少量/良好/ にぶい赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫でを施すが、型肌を残す。底部は手持ちへら削り。	内面は磨耗・ 器面炭素吸着
C300	第219図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 1/2	口	12.3			細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りと考えられる、間に型肌を撫でた部分を残す。内面は撫で。	器面磨滅
C301	第219図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	17.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りか。	器面磨滅
C302	第219図 PL.―	土師器 鉢	中央+3 口縁～底部片	口 底	18.4 12.4	高	9.0	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は横のへら削り。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面ともや や磨滅
C303	第219図 PL.145	須恵器 蓋	掘り方+35 口縁部一部欠	口	12.6 0	高 摘み	3.2 2.6	小礫・粗砂粒・黒 色鈹物粒/還元焰/ 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りにへら削り、摘みはボタン状。端部はくの字に屈曲。	
C304	第219図 PL.145	須恵器 蓋	西壁寄り+3 口縁部一部欠	口	15.0 0	高 摘み	3.3 4.5	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転へら削り。	内面磨耗
C305	第219図 PL.―	須恵器 蓋	掘り方埋没土 口縁～体部片	口	16.4			白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転へら削り。	
C306	第219図 PL.―	須恵器 杯	カマド掘り方 1/2	口 底	10.4 6.0	高	4.1	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	
C307	第219図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	7.6			細砂粒・白色鈹物 粒・海綿骨針/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺をへら削り。	内面磨耗
C308	第219図 PL.―	須恵器 杯	掘り方埋没土 2/3	口 底	12.8 7.8	高	3.6	細砂粒・白色鈹物 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	自然釉付着
C309	第220図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	6.6			細砂粒・白色軽石 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰・焼き締め/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	器面やや磨耗
C310	第220図 PL.145	須恵器 杯	南壁+9、埋没土 3/4	口 底	12.3 7.0	高	3.6	細砂粒・粗砂粒・ 黒色鈹物粒/還元 焰・硬質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	内面磨耗
C311	第220図 PL.145	須恵器 杯	南西寄り+9 3/4	口 底	12.6 7.6	高	3.5	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周辺に回転へら削り。	内面磨耗・器 面炭素吸着
C312	第220図 PL.―	須恵器 椀	埋没土 体部～高台部片	底	11.8	台	11.2	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転へら削り後の付け高台。	
C313	第220図 PL.―	須恵器 椀	埋没土 体部～高台部片	底	9.0	台	9.2	細砂粒少量/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転へら削り後の付け高台。	
C314	第220図 PL.―	須恵器 盤	掘り方埋没土 口縁～底部片	口 底	17.8 12.0			細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰・軟質/ 灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	器面磨滅
C315	第220図 PL.―	須恵器 壺	掘り方埋没土 口縁部片	口	14.8			細砂粒・白色軽石 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	
C316	第220図 PL.―	土師器 甕	カマド+10、掘 り方 口縁部片	口	20.9			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で、外面に輪積み痕を残す。胴部外面は横のへら削り。	
C317	第220図 PL.145	土師器 甕	カマド+18 口縁～胴部1/4	口	20.4			粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面最上位は横、以下斜横・斜縦のへら削り。内面はへら撫で。	
C318	第220図 PL.145	土師器 甕	P1埋没土師器 口縁～底部3/4	口 底	21.5 4.3			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は斜め横・斜縦のへら削り。内面は横のへら撫で。	胴部外面全体 に煤付着・内 面変色
C319	第220図 PL.―	土師器 甕	掘り方埋没土 底部	底	4.2			細砂粒/良好/灰黄 褐	外面は斜めのへら削り。内面はへら撫で。	外面炭素吸着 、黒色。
C320	第220図 PL.145	金属製品 角釘	北西隅 0 1/4	長 幅	5.9 1.6	厚 重	1.4 6.9		断面ほぼ正方形で先端に向け徐々に細くなり尖る。頭は劣化後破損しており不明。	
天王C区32住居										
C321	第220図 PL.146	土師器 杯	P3 -15、東部 2/3	口	10.8	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。旧事と考えられる削痕あり。	内面磨耗
C322	第220図 PL.146	土師器 杯	掘り方中央+2 口縁部一部欠	口	5.9	高	4.1	細砂粒・雲母/良 好/明黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。内面に多数の傷状の削痕。	底部外面に炭 素吸着、黒斑 状
C323	第220図 PL.―	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.4	高	3.7	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面炭素吸 着・磨滅
C324	第220図 PL.146	土師器 杯	東部掘り方 3/4	口	11.5	高	3.2	細砂粒少量/良好/ 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。底部内面に十字印の刻書。	
C325	第220図 PL.―	土師器 杯	南東隅+10 1/3	口	11.0	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。底部内面に十字印の線刻。	
C326	第220図 PL.146	土師器 杯	P5 +4、埋没土 完形	口	13.8	高	4.6	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面磨滅
C327	第220図 PL.―	土師器 杯	南東隅-1 1/4	口	15.8			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面磨滅
C328	第220図 PL.―	土師器 杯	東壁 0 口縁部片	口	12.2			細砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
C329	第220図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	11.6	高 摘み 2.7 1.4	白色鋇物粒少量/ 還元焰・焼き締め/ 灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。		
C330	第220図 PL.ー	須恵器 蓋	掘り方埋没土 1/4	口	12.6		細砂粒少量・黒色 鋇物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面に回転ヘラ削り。		
C331	第220図 PL.ー	須恵器 蓋	掘り方+8 1/4	口	18.8	高 摘み 3.1 4.8	細砂粒少量・白色 鋇物粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中位に回転ヘラ削り。	内面磨耗	
C332	第220図 PL.ー	須恵器 蓋	掘り方埋没土 1/3	口	11.8		白色鋇物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面に回転ヘラ削り。		
C333	第220図 PL.ー	須恵器 杯	Bカマド前+2 底部片	底	7.2		細砂粒少量・白色 鋇物粒/還元焰・軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ切りと考えられるが 磨滅著しい。		
C334	第220図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	16.8		細砂粒・白色鋇物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。		
C335	第220図 PL.ー	須恵器 杯	掘り方埋没土 口縁～底部片	口	17.8		細砂粒/酸化焰・軟 質/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は貼付されていたか。		
C336	第220図 PL.ー	須恵器 高台杯	掘り方-6 底部片	底	13.6	台 13.8	細砂粒・黒色鋇物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転か)。高台は底部切り離し後、回転ヘラ 削りを加えた後の付け高台。		
C337	第220図 PL.ー	須恵器 高杯	埋没土 裾部片			台 8.8	細砂粒・白色鋇物 粒/還元焰・焼き締 め/灰	ロクロ整形(右回転)。		
C338	第220図 PL.146	須恵器 小型壺	掘り方中央 0 頸部～底部片				白色鋇物粒/還元 焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。胴部下半から底部は手持ちヘラ削り、 整形全体に粗雑。		
C339	第220図 PL.ー	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	口	11.8		白色鋇物粒・黒色 鋇物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	内面磨耗	
C340	第220図 PL.ー	須恵器 壺か	埋没土 口縁部片	口	10.6		細砂粒・黒色鋇物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。内面に自然釉。		
C341	第220図 PL.ー	土師器 小型甕	掘り方埋没土 口縁～胴部片	口	8.0		細砂粒・黒色鋇物 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。		
C342	第220図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～頸部片	口	18.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面はヘラ撫 で。		
C343	第220図 PL.ー	土師器 甕	-1、A・Bカマド 口縁部～胴部	口	22.2		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めヘラ削り。	内面炭素吸着 ・胴部内面は 磨滅	
C344	第220図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁部1/4	口	21.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。工具痕顕著。	器面磨滅	
C345	第220図 PL.146	土師器 甕	Aカマド+6 口縁～胴部片	口	18.0		粗砂粒・灰色軽石 /良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は縦のヘラ削り 、内面は斜横の撫で。	被熱のため炭 素吸着・脆弱 になっている	
C346	第221図 PL.146	土師器 甕	Bカマド前-1 口縁～胴部2/3	口	23.1		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は数回に分けて斜縦のヘラ削り、 内面はヘラ撫で。	外面は縦方向 に1/2ほど変 色	
C347	第221図 PL.ー	土師器 甕	Aカマド+1・埋 没土 口縁～胴部片	口	20.2		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。その後、胴部外面に縦のヘラ削り、内面 はヘラ撫で。	器面炭素吸着 、被熱のため 変質	
C348	第221図 PL.ー	土師器 甕	Bカマド-7、P3 胴部～底部片	底	5.2		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は撫でと考えられる。	外面炭素吸着 、内面磨滅	
C349	第221図 PL.146	礫石器 敲石	+32 完形	長 幅	16.8 6.2	厚 重	4.8 773.8	変質安山岩	小口部両端を敲打するほか、上端側小口部に近い背面側礫 面を敲打する。	棒状礫
C350	第221図 PL.146	金属製品 不詳	埋没土 破片	長 幅	3.1 1.3	厚 重	0.65 2.2		劣化が著しく全体を砂粒を巻き込んだ錆に覆われており詳 細は不明。	
天王C区33住居										
C351	第221図 PL.ー	黒色土器 椀	南西隅+6 底部	底	5.8	台	6.4	細砂粒・白色鋇物 粒/還元焰/灰褐	ロクロ整形。高台部は付け高台。底部内面は棒状工具による 磨き。	底部内面吸着
C352	第221図 PL.ー	須恵器 椀	カマド0、埋没土 底部	底	5.5	台	5.3	細砂粒・白色鋇物 粒/還元焰軟質/ にぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。	器面炭素吸着
天王C区34住居										
C353	第221図 PL.146	須恵器 杯	掘り方P11 +12 口縁部一部欠	口 底	11.7 5.7	高	3.3	細砂粒・白色鋇物 粒/良好/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
C354	第221図 PL.146	須恵器 杯	P1埋没土 口縁部一部欠	口 底	11.5 5.5	高	3.9	細砂粒・黒色鋇物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
C355	第221図 PL.ー	須恵器 杯	カマド+11 1/4	口 底	12.9 6.0	高	3.9	小礫・粗砂粒/還 元焰・軟質/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面剥離
C356	第221図 PL.ー	須恵器 杯	カマド埋没土 1/4	口 底	12.9 7.8	高	3.4	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・軟質 /にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部を回転ヘ ラ削り。	外面炭素吸着 ・黒色・内外面 とも磨滅
C357	第221図 PL.ー	須恵器 杯か	P1埋没土 口縁部片	口	11.9			細砂粒・黒色鋇物 粒少量/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	
C358	第221図 PL.ー	須恵器 直口壺	掘り方P7 +3 口縁～胴部片	口	8.9			細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。外面は削りに近い横撫で。	
C359	第221図 PL.146	土師器 甕	カマド+11 口縁～胴部3/4	口	20.4			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面上位は斜横、それ以下は斜めの ヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	外面上半部炭 素吸着

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C360	第221図 PL.146	土師器 甕	カマド+5 口縁～胴部2/3	口	20.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面最上位は横、上位は斜横、中位は縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	外面やや炭素 吸着、変色
C361	第221図 PL.146	土師器 甕	北東+6 2/3	口 底	20.2 4.4	高 26.9	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面最上位は横、以下は斜縦のヘラ削り、内面はヘラ撫で。底部は撫で。	外面は全面に 煤付着
C362	第221図 PL.―	土師器 甕	カマド埋没土 口縁～胴部1/2	口	19.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	内外面とも磨 滅
C363	第221図 PL.146	石製品 カマド支脚	-2 完形	長 幅	19.0 9.5	厚 重 9.9 1456.6	未固結凝灰岩	工具により面取り整形して形状を整える。支脚上半部は被熱して赤化する。	不明
C364	第221図 PL.146	金属製品 不詳	掘り方埋没土 破片	長 幅	7.0 2.8	厚 重 0.9 17.6		断面薄い三角形で、外形は研ぎ減りの様に弧を描くように幅を減ずる。両端とも錆に覆われており柄装着部等は確認できないが鎌の破片の可能性はある。	

天王C区35住居

C365	第222図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口	12.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C366	第222図 PL.―	土師器 杯	P1埋没土 1/2	口	12.0	高 3.4	細砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部外面炭素 吸着
C367	第222図 PL.147	土師器 杯	カマド前+2 完形	口	12.4	高 3.6	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。	器面磨滅顕著
C368	第222図 PL.―	土師器 杯	中央-1、埋没土 口縁～底部1/2	口	13.8	高 4.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C369	第222図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/3	口	13.8		細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面は撫で。	器面磨滅
C370	第222図 PL.147	土師器 杯	掘り方東部+7 3/4	口	14.4	高 4.5	細砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。内面に十字印の線刻。	
C371	第222図 PL.147	土師器 杯	東部埋没土 1/2	口	11.4	高 3.4	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面は撫で。	
C372	第222図 PL.―	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	15.0		黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心から広い範囲に回転ヘラ削り。	
C373	第222図 PL.―	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	13.0	高 摘 み 2.7 4.9	小礫・粗砂粒/還 元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	外面剥離・磨 滅・内面反り 部分磨耗
C374	第222図 PL.―	須恵器 蓋	掘り方南寄り+4 1/4	口	21.2	高 摘 み 3.2 7.0	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面はカキ目状の搾痕の上に弱く撫で状の回転ヘラ削りを重ねる。	内面磨耗
C375	第222図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 1/5	口	10.7		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。体部最下位と底部は手持ちヘラ削り。	
C376	第222図 PL.―	須恵器 杯	掘り方東部+20 1/2	口 底	11.2 8.8	高 3.1	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。体部下位にも回転ヘラ削り。	外面に自然釉 付着
C377	第222図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	14.5 10.0	口 3.6	細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、回転ヘラ削り。	内面やや磨滅
C378	第222図 PL.147	須恵器 杯	西隅+12 口縁部2/3欠	口 底	14.5 9.6	高 台 3.6 9.1	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	内面磨耗
C379	第222図 PL.―	土師器 小型壺	埋没土 口縁～胴部片	口	7.8		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横撫で。胴部外面はヘラ削り、内面は撫でと考えられる。	外面に付着物 ・器面磨滅
C380	第222図 PL.―	土師器 台付甕	埋没土 台部1/2	底	11.6		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐	台部外面は縦のヘラ削り、裾部は横撫で。台部内面は撫で。	被熱のため変 質・変色
C381	第222図 PL.―	土師器 甕	掘り方東部+23 底部	底	5.4		粗砂粒・軽石/良 好/明赤褐	胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。底部外面はヘラ削り。	被熱のため変 質・変色
C382	第222図 PL.147	土師器 甕	掘り方東部-2 2/3	口	25.4	高 32.1	粗砂粒・細砂粒・ 白色鈹物粒/良好/ 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜のヘラ削り、内面はヘラ撫で。下位に粘土付着。	胴部外面最下 位から底部に 炭素吸着・黒 班・内面も変 色
C383	第222図 PL.―	土師器 甕	掘り方東部+1 胴部～底部片	底	6.8		細砂粒/良好/橙	胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は横・斜め横の撫で。	底部外面炭素 吸着、黒班状
C384	第222図 PL.―	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰やや軟 質/灰	ロクロ整形。内外面とも横撫で。	
C385	第222図 PL.―	須恵器 甕	東壁+16 口縁～肩部片				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	口縁部はロクロ整形。横撫で。胴部は叩き整形。外面は平行叩き痕、内面は同心円状の当て具痕。	口縁部の欠損 は旧事か
C386	第222図 PL.147	須恵器 転用硯	掘り方南隅+22 1/4	長 短	12.2 8.6	厚 み 2.1	細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰軟 質/灰白	蓋を転用して硯として使用している。内面を磨面とし割れ口、摘み頂部を削り平滑に仕上げている。蓋はロクロ整形(右回転)、天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	

天王C区36住居

C387	第222図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C388	第222図 PL.―	土師器 杯	掘り方カマド前 +6 1/4	口	13.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面磨耗
C389	第222図 PL.―	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面磨耗
C390	第222図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	炭素吸着・器 面磨滅

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C391	第222図 PL.一	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁～体部	口	18.0		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内 面は撫で。	器面磨滅
C392	第222図 PL.一	須恵器 蓋	P1埋没土 口縁～天井部片	口	18.0		細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	外面に自然釉 付着
C393	第222図 PL.一	須恵器 杯	埋没土 2/3	口 底	13.4 8.4	高 3.9	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面とも磨 耗
C394	第223図 PL.一	土師器 甕	掘り方中央+1 胴部～底部	底	10.1		粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は撫で。底部内外面に生 じた亀裂に粘土を補修した痕跡が見られる。	
C395	第223図 PL.一	土師器 甕	掘り方埋没土 口縁～胴部片	口	22.0		細砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り、内面は横の ヘラ撫で。	外面炭素吸着
C396	第223図 PL.147	金属製品 刀子	埋没土 1/4	長 幅	6.7 1.4	厚 重 0.8 8.1		棟に明瞭な閃を有する刀子で茎に対し刃は著しく短く研ぎ 減りと見られる。	
C397	第223図 PL.147	金属製品 不詳	埋没土 破片	長 幅	3.7 1.0	厚 重 0.8 3.8		断面長方形の鉄製品で、一端はやや曲がりながら幅を減じ 尖る、他の端部は破損し錆に覆われているため詳細は不明。	

天王C区37住居

C398	第223図 PL.一	土師器 杯	カマド周辺+29 1/4	口	11.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
C399	第223図 PL.一	土師器 杯	埋没土 口縁～体部	口	11.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面に炭素吸 着・黒班状・ 内面磨耗
C400	第223図 PL.一	土師器 杯	東部埋没土 1/4	口	13.0	高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内面磨耗
C401	第223図 PL.147	土師器 杯	カマド前 0 口縁部一部欠	口	12.2	高 3.9	細砂粒多数/良好/ にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面炭素吸 炭・磨滅・剥 離
C402	第223図 PL.一	土師器 杯	カマド前 0 3/4	口	10.2	高 3.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	底部外面やや 磨耗
C403	第223図 PL.一	土師器 甕	中央+25 口縁部片	口	18.2		細砂粒・赤色粘土 粒・軽石/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は撫で。	被熱のため変 色、変質、外 面炭素吸着
C404	第223図 PL.147	土師器 甕	中央-1、埋没土 口縁～胴部2/3	口	20.5		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面最上位は斜め、以下は縦のヘラ 削り、内面はヘラ撫で。	胴部外面の一 部に炭素吸着

天王C区38住居

C405	第223図 PL.147	土師器 杯	掘り方中央+8 3/4	口 底	12.0 8.0	高 3.3	細砂粒少量/良好/ 橙	口縁部は横撫で。体部撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面 は撫で。	
C406	第223図 PL.147	須恵器 蓋	掘り方中央+7 2/3	口	18.2	高 摘 み 4.1 3.3	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	外面の端部・ 内面の縁部寄 りの1/2の器 面炭素吸着・ 黒色
C407	第223図 PL.一	須恵器 杯	掘り方埋没土 底部1/2	底	5.8		粗砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
C408	第223図 PL.147	須恵器 杯	掘り方埋没土 3/4	口 底	13.6 6.4	高 3.9	粗砂粒・細砂粒・ 赤色粘土粒/還元 焰軟質/オリーブ 黒	ロクロ整形(右回転)。底部は糸切り後、無調整。	外面を中心に 炭素吸着・器 面磨滅
C409	第223図 PL.一	須恵器 碗	掘り方中央+8 底部	底	7.1	台 7.5	粗砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台。	内面磨耗
C410	第223図 PL.一	須恵器 壺	カマド埋没土 口縁部片	口	8.9		細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。	
C411	第223図 PL.一	土師器 甕	埋没土 口縁部1/4	口	19.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は撫で。	外面炭素吸着
C412	第223図 PL.一	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で、下半には指頭圧痕を残す。胴部外面は横 のヘラ削り、内面は横の撫で。	
C413	第223図 PL.一	土師器 甕	埋没土 口縁部1/2	口	20.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、外面の一部に輪積み痕を残す。胴部外面 は横のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	内面に黒褐色 の付着
C414	第223図 PL.一	須恵器 甕	P2 -2 口縁部片				白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。外面に5条1単位の波状文を3段配す。	内面に自然釉 厚く付着
C415	第223図 PL.147	金属製品 銅碗	-12 破片	長 幅	5.4 1.9	厚 重 0.3 6.48		銅碗口縁部の破片で錆び化が著しい。劣化・変形が著しく 口縁形状から直径を推定することはできない。口縁部では 3mmほどの厚さを持つが、口縁から2cm程では厚さは0.5 mm程となり非常に薄い造りである。	

天王C区39住居

C416	第223図 PL.一	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。	
C417	第223図 PL.一	土師器 杯	埋没土 1/4	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。	
C418	第223図 PL.一	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口	11.7		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。内面に2条の平行する線状の傷、線刻か。	内外面やや炭 素吸着
C419	第223図 PL.147	土師器 杯	埋没土 3/4	口	11.8	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。	器面炭素吸着

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C420	第223図 PL.ー	土師器 杯	カマド周辺埋没土 口縁～底部片	口	15.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	
C421	第224図 PL.ー	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁～底部片	口	19.4		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。内面に十 字印の線刻。	
C422	第224図 PL.ー	土師器 杯	掘り方埋没土 1/2	口	13.6	高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りか。	内外面とも磨 滅・外面の一 部に炭素吸着
C423	第224図 PL.ー	土師器 杯	カマド周辺埋没土 口縁～底部1/3	口	13.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部外面やや 磨滅
C424	第224図 PL.ー	須恵器 蓋	カマド周辺埋没土 口縁～天井部片	口	9.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面にカキ目状の擦痕を残す。	
C425	第224図 PL.ー	須恵器 蓋	南壁 0 1/4	口	10.0	高 摘み 3.6 2.5	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は広い範囲に回転ヘラ削 り。	
C426	第224図 PL.ー	須恵器 杯	南東隅-2 底部1/2	底	6.2		細砂粒・赤色粘土 粒/酸化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部を回転ヘ ラ削り。	
C427	第224図 PL.ー	須恵器 高台杯	カマド周辺埋没土 底部1/4	底	13.0	台 13.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。体部最下位にも回転ヘラ削り。	
C428	第224図 PL.147	土師器 小型台付甕	南東隅-2 胴一部・台部欠	口	13.1		細砂粒/良好/明赤 褐	被熱の為、器面剥離・磨滅。脆弱になっている。	
C429	第224図 PL.ー	土師器 甕	掘り方埋没土 胴部～底部片	底	7.0		細砂粒/良好/黒褐	胴部外面は斜縦のヘラ削り、最下位は横のヘラ削り。内面 は斜縦・横のヘラ撫で。底部はヘラ削り。	外面煤付着
C430	第224図 PL.ー	土師器 甕	P1 -3 口縁～胴部1/3	口	22.2		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面上位は斜め、中位以下は斜縦の ヘラ削り、内面は横のヘラ撫で、接合部分ヘラ削り、ヘラ 撫で。	外面炭素吸着
C431	第224図 PL.ー	須恵器 甕	掘り方埋没土 口縁部片	口	19.9		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。現状の口唇部は口縁部の割れ口を研磨し、二 次的に作られたものと考えられる。	

天王C区40住居

C432	第224図 PL.147	土師器 杯	南東隅-2 完形	口	10.5	高 3.4	細砂粒・雲母/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	器面炭素吸着
C433	第224図 PL.147	土師器 杯	カマド+1 口縁一部欠	口	13.4	高 4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。型肌の痕跡を残す。内面は撫で。口唇部 の一部小さな片口状をなす。	内面にタール 状の煤付着
C434	第224図 PL.ー	土師器 杯	カマド周辺+4 口縁～底部片	口	14.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。型 肌の痕跡を残す。	器面磨滅
C435	第224図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/4	口	17.6	高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削りと考えられる。内面は撫 で。	内面磨耗
C436	第224図 PL.147	土師器 杯	カマド+1 3/4	口	13.6	高 4.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内 面は撫で。	器面は磨滅
C437	第224図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	10.4 5.0	高 4.0	粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
C438	第224図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 底部1/2	底	6.1		細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰・軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面やや磨 滅・一部に油 分の多い煤付 着
C439	第224図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 底部1/2	底	6.8	台 7.0	細砂粒/酸化焰軟 質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部ヘラ削り後の付け高 台。	器面磨滅
C440	第224図 PL.ー	須恵器 壺	埋没土、41住 胴部1/2				小礫・粗砂粒多量/ 還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。肩部、胴部に沈線がめぐる。	
C441	第224図 PL.147	土師器 甕	+2、カマド埋没 土 口縁～胴部1/2	口	22.0		粗砂粒・粗砂粒・ 白色鈹物粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘ ラ撫で。	
C442	第224図 PL.ー	土師器 甕	南東-2、掘り方 口縁～胴部1/4	口	20.2		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。頸部に工具痕。胴部外面は縦のヘラ削り、 内面は横のヘラ撫で。	胴部内面の中 位に粘土貼付 痕。器面に入 った亀裂の補 修痕か
C443	第224図 PL.ー	土師器 甕	カマド+12 口縁～胴部片	口	23.1		粗砂粒・軽石粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で後、胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横の ヘラ撫で。	内面の一部変 色
C444	第224図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				白色鈹物粒/還元 焰/灰	口唇部は欠損。ロクロ整形。8本1単位の波状文を1段配する。	
C445	第224図 PL.ー	須恵器 甕	南東隅+4 口縁部片				精選/還元焰/灰白	ロクロ整形。内外面とも横撫で。	内外面とも自 然釉厚く付着
C446	第224図 PL.147	須恵器 円面硯	埋没土 破片	口	10.6		白色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。硯面の周囲に堤がめぐるが、先端は 欠損している。脚部には長方形と考えられる透孔の一部が 残存する。	

天王C区41住居

C447	第225図 PL.ー	土師器 杯	東部埋没土 1/4	口	9.8	高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。内面に十字印の線刻か。	外面やや磨滅
C448	第225図 PL.ー	土師器 杯	カマド右袖 0 口縁～底部1/4	口	10.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫でと考 えられる。	内外面磨滅
C449	第225図 PL.ー	土師器 杯	西隅 0 1/4	口	13.6		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面磨滅
C450	第225図 PL.147	須恵器 蓋	埋没土 口縁一部・摘み欠	口	9.4		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
C451	第225図 PL.147	須恵器 杯	埋没土 1/3	口底 6.0	高 5.0		細砂粒・赤黒色粘土粒/還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面ともやや磨滅
C452	第225図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 底部	底 6.6			小礫・粗砂粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面磨滅・磨耗
C453	第225図 PL.―	須恵器 盤	埋没土 台部片		台 17.6		細砂粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
C454	第225図 PL.―	須恵器 盤	埋没土 台部片		台 19.2		細砂粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。盤本体との接合部分にはカキ目状の捺痕が認められる。	31008と同一個体か
C455	第225図 PL.―	須恵器 盤	埋没土 口縁～底部片	口底 14.7	高台 14.6	3.0	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。体部外面にも回転ヘラ削り。内面は横撫でと撫で。	
C456	第225図 PL.―	須恵器 鉢	埋没土、2粘採 口縁～体部片	口 19.6			白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。内面口唇部に細い沈線の凹み。	
C457	第225図 PL.―	土師器 甕	西隅 0、埋没土 口縁～胴部1/4	口 22.0			粗砂粒・黒色鈹物粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はヘラ削りを施したと考えられる。	器面被熱のため変質、磨滅
天王C区42住居									
C458	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 12.6			細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	
C459	第225図 PL.147	土師器 杯	カマド3、埋没土 3/4	口 11.7	高 3.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を幅広く残す。底部内面に旧事の削痕。	外面炭素吸着、黒班状
C460	第225図 PL.147	土師器 杯	カマド+3 口縁部一部欠	口 13.0	高 4.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。内面に旧事と考えられる削痕多数あり。	
C461	第225図 PL.147	土師器 杯	0、6粘採 2/3	口 15.3			細砂粒・黒色鈹物粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面磨滅・器形の歪み著しい
C462	第225図 PL.147	礫石器 敲石	+3 完形	長幅 6.2	厚重 4.9 607.6		粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕が残る。	棒状礫
天王C区43住居									
C463	第225図 PL.―	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口 22.4			細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横撫で。胴部は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	外面炭素吸着・変色
C464	第225図 PL.―	土師器 甕	カマド-3・埋没土 頸部～胴部1/3				粗砂粒/良好/暗赤褐	胴部外面上位は斜め、中位以下は斜縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で、下位の接合部分には横のヘラ削り。	外面煤付着変色、内面黒色、一部に付着物
天王C区45住居									
C465	第225図 PL.―	土師器 台付甕	掘り方埋没土 台部片	底 13.9			細砂粒/良好/にぶい黄橙	裾部は横撫で。	
天王C区46住居									
C466	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口 11.4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C467	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口 11.1			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C468	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 11.8			細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。内面に十字の線刻。	外面の一部に炭素吸着
C469	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口 10.0			細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間にわずかに撫での部分を残す。内面は撫で。	
C470	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口 12.0			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。型肌の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り、間に広く撫での部分を残す。内面は撫で。	
C471	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 1/3	口 10.6	底 2.9		細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面やや磨滅
C472	第225図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 2/3	口 12.0	高 3.3		細砂粒・雲母/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨滅
C473	第225図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁～底部1/2	口 10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。	内外面とも磨滅顕著
C474	第225図 PL.148	土師器 杯	埋没土 3/4	口 12.0	高 3.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面に十字印の線刻。	器面磨滅
C475	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口 13.0			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C476	第225図 PL.148	土師器 杯	南東隅+5 3/4	口 12.2	高 3.2		細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面磨滅
C477	第225図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 1/2	口 11.6	高 3.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面ともやや炭素吸着、やや磨滅
C478	第225図 PL.―	土師器 杯	埋没土 1/4	口 10.0	底 2.5		細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面やや磨滅
C479	第226図 PL.―	土師器 杯	埋没土 2/3	口 11.2	高 3.5		細砂粒・白色鈹物粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨滅
C480	第226図 PL.―	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口 13.0			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。型肌の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り、間に広く撫での部分を残す。内面は撫で。	外面磨滅
C481	第226図 PL.―	土師器 杯	カマド埋没土 2/3	口 10.8	高 3.3		細砂粒・雲母/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	内面磨滅
C482	第226図 PL.148	土師器 杯	カマド周辺-2 3/4	口 11.1	高 3.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削りと考えられる、間に撫での部分を残す。型肌の痕跡を残す。内面は撫で。	底部内面に削痕

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
C483	第226図 PL.148	土師器 杯	掘り方カマド前 +9 口縁部一部欠	口	11.0	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	
C484	第226図 PL.148	土師器 杯	カマド埋没土 1/2	口	12.4	高	4.0	細砂粒・雲母/良好 /にぶい赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。	内面磨耗・内 外面とも炭素 吸着
C485	第226図 PL.—	土師器 杯	埋没土 3/4	口	13.1	高	4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面やや磨滅
C486	第226図 PL.—	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口	13.4	高	4.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C487	第226図 PL.148	土師器 杯	埋没土 2/3	口	13.7	高	4.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。口縁部の一部は歪みが著しい。	内面磨耗・器 面炭素吸着
C488	第226図 PL.—	土師器 杯	埋没土 1/4	口	15.7	高	4.5	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部内面に油 煙付着・内面 磨耗・外面や や磨滅
C489	第226図 PL.148	土師器 杯	カマド周辺+20 4/5	口	18.3	高	4.5	細砂粒・白色鋳物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面炭素吸着、変色。内 面磨耗、平滑。一部に黒色の 付着物
C490	第226図 PL.148	土師器 杯	中央+32 2/3	口	18.8	高	3.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗、平 滑。一部に黒色の付着物、 煤か
C491	第226図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/4	口	17.6			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C492	第226図 PL.—	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁～底部1/4	口	20.0			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面炭素吸着 ・内外面とも 磨耗
C493	第226図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	19.1			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗
C494	第226図 PL.—	土師器 杯	埋没土、39住 口縁～体部片	口	18.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面の一部 に炭素吸着
C495	第226図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	22.8			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面の一部 に炭素吸着
C496	第226図 PL.—	須恵器 蓋	掘り方埋没土 口縁～摘み部片	口	12.2	高 摘み	3.4 1.8	白色鋳物粒/還元 焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部はほぼ全面に回転ヘラ削り。	内面やや磨耗
C497	第226図 PL.—	須恵器 蓋	掘り方埋没土 口縁～天井部片	口	12.1			粗砂粒・黒色粘土 粒多量/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部は全面に回転ヘラ削り。	
C498	第226図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	11.1			細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	
C499	第226図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	18.5			黒色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部は中心寄りと端部寄りに回転 ヘラ削り。中位に手持ちヘラ削りの部分もあり。	内面やや磨耗
C500	第226図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	20.2			粗砂粒・多量/還元 焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに弱い回転ヘ ラ削り。	
C501	第226図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.8 9.2	高	3.3	赤黒色粘土粒/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部手持ちヘラ削り。	内面磨耗
C502	第226図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口	10.7			黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。	
C503	第226図 PL.—	須恵器 杯	カマド埋没土 口縁～底部片	口 底	11.3 6.4	高	4.0	黒色鋳物粒発泡/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部手持ちヘラ削り。体部下位には 横の撫で。	
C504	第226図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口	10.4	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ切り後、周縁部に回 転ヘラ削り。	
C505	第226図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口	9.7	高	3.6	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、周縁部に回転ヘ ラ削り。	外面磨耗
C506	第226図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口	12.8			黒色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。形状はやや歪んでいる。底部は手持 ちヘラ削り。	
C507	第226図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/3	口	10.0	高	4.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。	
C508	第226図 PL.—	須恵器 杯	掘り方埋没土 1/3	口 底	10.8 6.0	高	4.3	白色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ切り後、撫で。	
C509	第226図 PL.—	須恵器 盤	掘り方+7、2粘 採 2/3	口 底	16.1 10.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。体部下位にも回転ヘラ削り。	高台部は大平 が剥落・内面 やや磨耗
C510	第226図 PL.—	須恵器 盤	掘り方埋没土 1/3	口 底	14.9 11.4	高 台	3.8 11.4	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。体部に手持ちと考えられるヘラ削り。底部内面は丁 寧な撫で。	底部内面磨耗
C511	第226図 PL.—	須恵器 盤	埋没土 底部片	底	12.9	台	13.5	黒色鋳物粒少量/ 還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(左回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。体部下位にも回転ヘラ削り。	底部内面磨 耗・磨滅
C512	第226図 PL.—	須恵器 盤	掘り方埋没土 口縁～底部片	口	24.4			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部手持ちヘラ削りを重ねる。	

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
C513	第226図 PL.ー	須恵器 盤	掘り方埋没土 口縁～底部片	口	22.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。内面は撫で。		
C514	第226図 PL.ー	須恵器 盤	カマド埋没土 口縁～底部片	口	24.4		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(左回転)。底部回転ヘラ削り。内面は撫で。		
C515	第226図 PL.148	須恵器 盤	掘り方+3 2/3	口	25.4		白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。体部外面下半には、回転ヘラ削り。 内面は口縁部寄りにカキ目が施され、この上に撫でが重ね られる。脚台部は体部ヘラ削り後、取り付けられている。		
C516	第226図 PL.148	須恵器 盤	カマド・掘り方 台部1/3	口	14.6		長石粒・・夾雑物 少なく精選/還元 焰/灰白	ロクロ整形(左回転)か。		
C517	第226図 PL.ー	須恵器 瓶か	掘り方埋没土 口縁部片	口	10.3		白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	内面に自然釉 厚く付着	
C518	第226図 PL.148	須恵器 壺	南壁-20、埋没 土 口縁～胴部	口	14.8		細砂粒/還元焰・軟 質/にぶい黄橙	胴部外面は平行叩き痕。肩部はこれに回転を伴うカキ目を 重ねる。胴部内面は中位以下に撫で。		
C519	第227図 PL.ー	土師器 台付甕	埋没土 台部1/4			台 10.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面は横撫で後、縦のヘラ削り、内面は横撫で。	外面残存上位 は剥離・変色	
C520	第227図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 胴下部～底部	底	5.5		細砂粒/良好/赤褐	胴部外面は横のヘラ削り、内面は撫で。底部はヘラ削り。		
C521	第227図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部上位 片	口	17.7		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部を横撫で、胴部外面に斜のヘラ削り、内面は横のヘ ラ撫で。	内外面とも炭 素吸着特に内 面は黒色	
C522	第227図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部上位 片	口	22.5		細砂粒/良好/橙	口縁部を横撫で、胴部外面に斜横のヘラ削り、内面は横の ヘラ撫で。	内外面の一部 に炭素吸着	
C523	第227図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	13.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部内面は斜横のヘラ撫で。	外面は全て剥 離・内面炭素 吸着	
C524	第227図 PL.ー	土師器 甕	カマド周辺+2 口縁～胴部上位 片	口	20.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部を2回に分けてヘラ撫で。胴部外面に斜横のヘラ削 り、内面は横のヘラ撫で。	内外面ともや や磨滅	
C525	第227図 PL.ー	土師器 甕	掘り方中央-1 口縁～胴部上位 片	口	20.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘ ラ撫で。		
C526	第227図 PL.ー	土師器 甕	カマド+9、埋没 土 胴下部～底部片	底	5.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は丁寧なヘラ撫で。底部 はヘラ削り。	外面被熱のた め変色	
C527	第227図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部上位 片	口	19.8		細砂粒・軽石・赤 色粘土粒/良好/橙	口縁部を横撫で後、胴部外面に縦のヘラ削り、内面は横の 撫で。	被熱のため変 色・変質	
C528	第227図 PL.ー	土師器 甕	掘り方南東隅+10 口縁～胴部上位 片	口	24.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部を2回に分けてヘラ撫で。胴部外面に斜横のヘラ削 り、内面は横のヘラ撫で。	被熱のためや や変色	
C529	第227図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部上位 片	口	23.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部内面は撫で。	外面は被熱の ため剥離磨滅	
C530	第227図 PL.ー	土師器 甕	掘り方中央+6 口縁～胴部上位 片	口	23.2		粗砂粒・軽石・赤 色粘土粒/良好/橙	口縁部を横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面に縦のヘラ削 り、内面は横のヘラ撫で。	被熱のため変 色・変質	
C531	第227図 PL.ー	土師器 甕	カマド+1 口縁～胴部中位 1/5	口	24.8		粗砂粒・細砂粒・ 軽石/良好/にぶい 黄橙	口縁部を横撫で後、胴部外面を縦のヘラ削り、内面は斜め と横のヘラ撫で。	口唇部・胴部 の一部に炭素 吸着・黒色	
C532	第227図 PL.148	土師器 甕	カマド-4、掘り 方 口縁～胴部1/4	口	24.0		粗砂粒・灰色軽石・ 赤色粘土粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦に長い単位のヘラ削り、内 面は横の撫で。	内外面の一部 に炭素吸着	
C533	第227図 PL.148	土師器 甕	+10、掘り方 口縁～胴部	口	23.3		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横・斜横のヘラ削り、内面は 撫でと思われる。	器面磨滅	
C534	第227図 PL.ー	須恵器 台付甕	掘り方中央-3 台部	底	10.0		黒色鈹物粒/還元 焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部はハの字状に外反する付け高 台。	底部内面に煤 付着	
C535	第227図 PL.ー	須恵器 甕	掘り方埋没土 口縁部片	口	16.0		白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。横撫で。		
C536	第227図 PL.ー	須恵器 甕	掘り方埋没土 破片				白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰	叩き整形。外面は擬似格子目状の叩き痕。一部に横のカキ 目。内面は同心円状の当て具痕。		
C537	第227図 PL.148	礫石器 敲石	0 1/2	長 幅	9.8 7.5	厚 重	4.2 419.4	溶結凝灰岩	上端側小口部に激しい敲打痕がある。中央付近より下端側 を欠損する。	棒状礫
C538	第228図 PL.148	石製品 カマド袖石	-2 不明	長 幅	(39.0) 21.6	厚 重	13.8 8750.0	角閃石安山岩	平ノミ状工具により柱状に面取り整形したのち、右辺側を L字状に削り込んでカマド構造材としたもの。被熱して煤 ける。	不明
天王C区48住居										
C539	第228図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.4		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面磨滅	
C540	第228図 PL.148	土師器 杯	西壁+4 口縁部一部欠	口	14.4	高	4.8	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面磨滅
C541	第228図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	12.8 8.6	高	3.4	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部手持ちヘラ削りか。	内外面とも炭 素吸着

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
C542	第228図 PL. —	土師器 小型壺	P1 +14、6粘採 口縁～胴部上位 1/2	口	10.8			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り、内面は斜横の 撫で。一部水分の多い状態で器面を調整。	外面煤付着
C543	第228図 PL. —	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	20.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のへら削り、内面は横のへ ら撫で。	内外面ともや や磨滅
C544	第228図 PL. 148	礫石器 敲石	掘り方埋没土 完形	長 幅	15.3 6.6	厚 重	4.8 674.7g	粗粒輝石安山岩	小口部両端、及び背面側中央・長軸上に敲打痕が残る。	棒状礫
天王C区49住居										
C545	第228図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
C546	第228図 PL. 148	土師器 杯	北壁+12 口縁部一部欠	口	10.7	高	3.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	器面磨滅
C547	第228図 PL. 148	土師器 杯	北壁+7、埋没土 口縁～底一部欠	口	15.4	高	6.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面磨耗顕 著・器面炭素 吸着
C548	第228図 PL. 148	須恵器 蓋	埋没土 1/2	口	10.8			細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部は回転へら削り。	
C549	第228図 PL. —	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	14.3 8.0	高	4.0	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転 へら削り。	内面やや磨耗
C550	第228図 PL. 148	土師器 甕	南隅+1 口縁部のみ	口	21.6			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのへら削り、工具痕明瞭 に残る。内面は強い調子のへら撫で。	炭素吸着・変 色
天王C区11掘立柱建物										
C551	第228図 PL. 149	灰釉陶器 壺	85P埋没土 1/3	口 底	8.6 5.8	高	6.8	精選・白色鈹物粒・ 黒色鈹物粒少量/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。	外面に釉が薄 くかかる
天王C区1井戸										
C552	第228図 PL. 149	土師器 杯	埋没土 底部片					細砂粒/良好/明赤 褐	平底の底部片。外面手持ちへら削り。内面は撫で。内面に 墨書、判読不明。	
C553	第228図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	12.0 8.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。型肌痕跡を残す。底部は 手持ちへら削り。内面は撫で。	
C554	第228図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.0 9.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内 面は撫で。	
C555	第228図 PL. —	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	12.8 7.0	高	3.4	白色鈹物粒・赤黒 色粘土粒/還元焰/ にぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内外面とも炭 素吸着・変色
C556	第228図 PL. 149	須恵器 杯	+8 3/4	口 底	12.6 5.5	高	4.2	細砂粒・黒色粘土 粒/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面磨滅・内 面磨耗
C557	第228図 PL. 149	須恵器 杯	南部埋没土 1/2	口 底	12.8 5.7	高	4.2	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰軟質/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部糸切り後、無調整。内面は撫で。	器面の歪み著 しい・器面炭 素吸着・黒色 味
C558	第228図 PL. —	須恵器 杯	埋没土、4粘採 1/3	口 底	14.0 6.0	高	3.7	細砂粒/酸化焰か/ 明黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内外面とも磨 滅
C559	第228図 PL. 149	灰釉陶器 椀	+14、埋没土 1/2	口 底	18.8 8.4	高 台	6.0 8.2	精選/普通還元焰 普通/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転へら削り後の付け 高台。高台は三日月高台。口縁部の内外面に施釉。内面は 見込み部まで刷毛塗り。	
C560	第228図 PL. —	須恵器 甕	+17 口縁部片					細砂粒・赤黒色粘 土粒少量/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。	
C561	第228図 PL. 149	金属製品 刀子	南部埋没土 1/3	長 幅	7.4 1.2	厚 重	1.1 11.2		刀子の茎破片で表面に錆化した広葉樹材の柄の一部が残 る。刃側は茎途中で劣化破損するため不明。	
天王C区2井戸										
C562	第228図 PL. —	須恵器 甕	埋没土 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	叩き整形。外面は平行叩き痕。内面は青海波文の当て具痕。	天地不明
天王C区2粘土採掘坑										
C563	第229図 PL. —	土師器 杯	埋没土 1/2	口	9.6	高	2.8	細砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分 を残す。	内外面の一部 に炭素吸着
C564	第229図 PL. —	土師器 杯	+25 1/4	口	10.0	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面磨耗
C565	第229図 PL. —	土師器 杯	埋没土 1/2	口	10.0	高	3.1	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分 を残す。	
C566	第229図 PL. 149	土師器 杯	埋没土 1/3	口	10.4	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分 を幅広く残す。	内面磨耗
C567	第229図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。内 面に3本の細線、線刻か。	外面に炭素吸 着・黒斑状。 内面磨耗
C568	第229図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	10.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りと考えられる。内 面は撫で。	外面磨滅
C569	第229図 PL. 149	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.3	高	3.8	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	器面やや磨滅
C570	第229図 PL. 149	土師器 杯	埋没土 3/4	口	13.0	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗・器 面に煤付着
C571	第229図 PL. —	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/4	口	11.6			精選/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りと考えられる。内 面は撫で。	外面磨滅

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	3.6				
C572	第229図 PL.149	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口	11.4	高	3.6	細砂粒・黒色鋳物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削りと思われる。内面は強いタッチの撫で。	器面磨滅
C573	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分を残す。	内面磨耗・内 外面とも炭素 吸着
C574	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.9			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
C575	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/4	口	11.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内面磨耗・外 面に炭素吸着 ・黒斑状
C576	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/4	口	12.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面ともや や磨滅
C577	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分を残す。	内面磨耗
C578	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/4	口	15.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	外面やや磨滅
C579	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	15.0			精選/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。間に撫での部分を残す。	内外面ともや や磨滅
C580	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 1/4	口	13.1	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫でと考 えられる。	内外面とも磨 滅
C581	第229図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	14.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	内外面ともや や磨滅
C582	第229図 PL.—	土師器 高杯	埋没土 杯部片	口	15.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部はへら削り。内面は撫で。	
C583	第229図 PL.—	須恵器 皿	埋没土 1/4	口	18.7			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。体部外面に回転へら削り。	一部に自然釉
C584	第229図 PL.149	須恵器 蓋	埋没土 完形	口	11.0	高 摘み	3.8 2.2	粗砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転へら削 り。	器面の歪み著 しい
C585	第229図 PL.149	須恵器 蓋	+13 摘み部欠	口	11.0			粗砂粒・細砂粒・ 白色鋳物粒/還元 焰/灰	摘み欠落。ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに 回転へら削り。	
C586	第229図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 1/2	口	13.3	高 摘み	2.3 1.7	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面に弱いへら撫で状の調整。	器形著しく歪 む
C587	第229図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	18.8	高	3.0	細砂粒・白色鋳物 粒・黒色鋳物粒/ 還元焰・やや軟質/ 灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りにはカキ状の へら撫で。端部には回転へら削り。	
C588	第229図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	11.2			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転へら削 り。	
C589	第229図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	18.2			細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。天井部外面に撫で状の回転へら削 り。	
C590	第229図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁～体部片	口	17.8			細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰・やや軟 質/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	
C591	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	13.4 6.6	高	3.3	細砂粒・黒色鋳物 粒・白色鋳物粒/ 還元焰焼き締め/ 灰白	ロクロ整形(左回転か)。底部回転へらおこし後、手持ちへ ら削り。	
C592	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	10.8 6.4	高	3.7	細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰やや軟 質/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部はへら削り。	
C593	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 2/3	口	12.8	高	3.9	細砂粒・石英・長 石/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら切り。	
C594	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	16.2 10.6	高	4.0	細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、手持ちへら削り。	外面磨耗
C595	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 2/3	口 底	13.8 6.6	高	4.0	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰軟質/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	器面磨耗・炭 素吸着
C596	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	12.6 8.4	高	3.5	細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
C597	第229図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	10.4 6.6	高 台	5.0 6.6	細砂粒・石英・長 石類/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台は付け高台。	
C598	第229図 PL.—	須恵器 盤	埋没土 1/4	口	22.3			細砂粒少量精選/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部外面回転へら削り。	
C599	第229図 PL.149	須恵器 脚付盤	埋没土 盤部2/3	口	24.1			粗砂粒・細砂粒・ 黒色粘土粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。脚部が付くと考えられるが、剥離し ている。体部外面は回転へら削り。	内面磨耗
C600	第229図 PL.—	須恵器 高杯	埋没土 脚部片			台	13.0	細砂粒少量・精選 /還元焰・焼き締め /灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	
C601	第229図 PL.—	須恵器 壺	埋没土 高台部片			台	13.4	細砂粒少量・精選 /還元焰・軟質/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C602	第229図 PL.149	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部1/2	口	21.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削りと考えられる、内面は横のヘラ撫で。	器面磨滅、被熱の為変質
C603	第229図 PL.一	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
C604	第229図 PL.一	土師器 甕	埋没土 口縁1/4	口	13.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	内外面ともやや炭素吸着
C605	第229図 PL.一	土師器 小型甕	埋没土 口縁～胴部片	口	11.0		細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	内外面ともやや炭素吸着
C606	第229図 PL.一	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒・白色鈹物 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰・やや軟質/ 灰	ロクロ整形。内外面とも横撫で。	
C607	第229図 PL.一	須恵器 甕	埋没土 胴部片				細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰・焼き締め/ 灰	外面は平行叩き目痕に撫でを重ねる、内面当て具痕に撫で。	

天王C区3粘土採掘坑

C608	第230図 PL.149	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/明赤 褐	平底の底部片。外面手持ちヘラ削り。内面は撫で。内面に墨書、判読不明。	
C609	第230図 PL.一	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	13.5		細砂粒少量/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
C610	第230図 PL.一	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	底	17.2		細砂粒少量/還元 焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。接合部分で本体から剥落。	
C611	第230図 PL.一	須恵器 壺	南部埋没土 口縁部片	口	11.7		細砂粒少量・白色 鈹物粒/還元焰・焼 締/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。	

天王C区4粘土採掘坑

C612	第230図 PL.一	土師器 杯	西部埋没土 口縁～底部片	口 底	13.0 9.2		細砂粒・赤色粘土 粒少量/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部は撫で、指頭圧痕の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。		
C613	第230図 PL.一	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	12.2 8.1		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、指頭圧痕の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。		
C614	第230図 PL.一	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	11.8 9.1		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、指頭圧痕の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。		
C615	第230図 PL.一	黒色土器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部最上位は横撫で。以下は横の手持ちヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。内面は底部に一定方向に棒状工具による磨き。口縁部にも横の磨きを充填する。	内面黒色処理	
C616	第230図 PL.149	須恵器 皿	0 3/4	口 底	13.4 6.7	高 台	3.0 5.8	粗砂粒・赤黒色粘 土粒・雲母/還元 焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅
C617	第230図 PL.一	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	12.2 4.6	高	4.3	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰・軟質/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整、底部の切り離し粗雑。	器面炭素吸着
C618	第230図 PL.149	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	13.4 6.0	高	3.6	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰・軟質/ 黒	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	器面炭素吸着 ・黒色味・磨耗
C619	第230図 PL.149	須恵器 杯	埋没土 破片					細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面に墨書、判読不明。	内外面の一部 に炭素吸着
C620	第230図 PL.149	須恵器 杯	埋没土 体部～底部片	底	7.0			細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。口縁部内面に墨書、判読不明。	
C621	第230図 PL.149	須恵器 椀	+22 3/4	口 底	13.9 6.4	高 台	5.4 6.4	小礫・粗砂粒・黒 色粘土粒/還元焰・ 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
C622	第230図 PL.一	須恵器 椀	埋没土 1/3	口 底	14.6 7.2	高 台	4.9 5.4	細砂粒少量/酸化 焰・軟質/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。底部外面中央に工具痕。	
C623	第230図 PL.一	須恵器 椀	埋没土 1/3	底	7.0	台	5.9	細砂粒・白色軽石 /還元焰・やや軟質/ 灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
C624	第230図 PL.一	須恵器 椀	西部埋没土 口縁～体部片	口 底	15.2 6.2	0	0	細砂粒/還元焰・軟 質/褐灰	ロクロ整形(右回転か)。	内面磨耗・器 面炭素吸着
C625	第230図 PL.一	須恵器 椀	埋没土 口縁～体部片	口	16.0			細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰・軟質/ 灰黄褐	ロクロ整形(右回転か)。	器面磨滅・炭 素吸着
C626	第230図 PL.一	須恵器 椀	埋没土 体部～底部	底	7.0	台	6.4	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰・軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅
C627	第230図 PL.一	須恵器 椀	+15 体部～底部	底	6.9	台	5.8	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰・軟質/ 灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台、高台の貼り付けは粗雑。	器面の一部に 炭素吸着
C628	第230図 PL.一	須恵器 椀	+10 底部2/3	底	6.6	台	6.3	細砂粒・雲母/還 元焰・軟質/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	器面磨滅
C629	第230図 PL.一	須恵器 椀	埋没土 口縁～体部片	口	16.8			細砂粒少量・白色 鈹物粒/還元焰・軟 質/褐灰	ロクロ整形(右回転)。	器面炭素吸着 、口・底は小 さくなる可能 性有り

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C630	第230図 PL.ー	土師器 台付甕	埋没土 台部片	底	10.0			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面とも横撫でと撫で、外面下位には指頭圧痕をわずかに残す。	
C631	第230図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	18.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
C632	第230図 PL.ー	須恵器 甕	P2埋没土 口縁部片					細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形。内外面とも撫で。	
C248	第230図 PL.149	金属製品 鎌	+19 破片	長 幅	2.6-10.2 3.8	厚 重	0.9 34.1		薄板状の鉄製品破片で2片は直接接合しないが形状・劣化状況等から同一個体と見寄れる。柄装着部の折り曲げ等は見られないが、断面は狭三角形で鎌の破片と考えられる。	
天王C区5粘土採掘坑										
C633	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.4			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗
C634	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C635	第230図 PL.ー	須恵器 壺	埋没土 胴部片					細砂粒少量/還元 焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面はカキ目、内面は撫で。	
C636	第230図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	16.9			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部は横のヘラ削り。内面はヘラ撫で。	
天王C区6粘土採掘坑										
C637	第230図 PL.149	土師器 杯	+5 完形	口	9.9	高	3.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。	器面の一部に 粘土付着
C638	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/2	口	10.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	
C639	第230図 PL.ー	土師器 杯	-34 口縁～底部1/2	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C640	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片 1/4	口	13.0			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗
C641	第230図 PL.149	土師器 杯	+6 口縁部一部欠	口	10.0	高	3.3	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。口縁の欠損は旧事か。	器面磨滅
C642	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片 1/2	口	10.8			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	底部外面の一部に炭素吸着・黒班状
C643	第230図 PL.149	土師器 杯	-1 完形	口	10.0	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面炭素吸着・外面磨滅
C644	第230図 PL.149	土師器 杯	埋没土 3/4	口	10.3	高	3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗・器 面炭素吸着し 変色
C645	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片 1/3	口	10.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗
C646	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部1/4	口	10.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面とも磨 滅
C647	第230図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 2/3	口	14.0	高	4.2	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗
C648	第230図 PL.149	須恵器 蓋	埋没土 1/2	口	8.8 0	高 摘み	2.1 1.2	細砂粒/還元焰や 軟質/灰	ロクロ整形(左回転)。天井部外面に手持ちヘラ削り後、端部に撫で。	
C649	第230図 PL.149	須恵器 杯	+32 口縁部一部欠	口 底	10.2 7.3	高	3.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。調整が粗雑で粘土小塊が器面に付着。	
C650	第230図 PL.149	須恵器 脚付き盤	+2 脚部、口縁一部 欠	口	29.1			細砂粒/還元焰や 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部外面は外縁奇りに回転ヘラ削り。脚部内面には指頭圧痕が見られる。	
C651	第231図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	20.0			細砂粒・白色軽石 /良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜めのヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
C652	第231図 PL.ー	埴輪 円筒・朝顔	埋没土 口縁部片					粗砂粒・結晶片岩・ チャート・白色軽 石粒/良好/橙	外面は縦ハケ(10本/2cm)後、突帯貼付、その後周辺を横撫で。内面は斜めハケと撫で。	
C653	第231図 PL.149	礫石器 敲石	埋没土 完形	長 幅	15.4 4.8	厚 重	3.7 442.9	細粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕がある。	棒状礫
天王C区7粘土採掘坑										
C654	第231図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	10.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C655	第231図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	12.8			細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	内面の磨耗顕 著
C656	第231図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土、表土 胴部片					白色鈹物粒/還元 焰・焼締/灰	外面は平行叩き痕。内面同心円状当て具痕が残る。	
天王C区1溝										
C657	第231図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	16.1			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面の一部に 炭素吸着
天王C区2溝										
C658	第231図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	15.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。	
C659	第231図 PL.ー	須恵器 盤	埋没土 底部片	底	10.0			粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。底部周縁部は手持ちヘラ削り。	

天王C区3溝

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
C660	第231図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
C661	第231図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 底部	底	6.8	台	6.5	細砂粒/還元焰軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内外面炭素吸着・黒色
C662	第231図 PL.149	石製品 砥石	埋没土 1/4	長幅	12.2	厚	4.8	粗粒輝石安山岩	背面側破損部が研磨され、砥石として再利用されている。裏面側が浅く窪んでおり、石皿を転用したのか。	石皿

天王C区5溝

C663	第231図 PL.ー	須恵器 溝か	埋没土 破片	口	13.6			細砂粒/酸化焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	内外面とも磨滅
------	---------------	-----------	-----------	---	------	--	--	------------	----------------	---------

天王C区8溝

C664	第231図 PL.149	須恵器 杯	+9 2/3	口底	13.6	高	3.7	細砂粒・灰褐色粘土粒/還元焰軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り、周縁部に回転へら削りか。	器面磨滅・外面に炭素吸着
C665	第231図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 破片	口	12.7			細砂粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	内外面炭素吸着
C666	第231図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 破片	口	12.3			赤黒色粘土粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	内外面とも磨滅
C667	第231図 PL.ー	土師器 甕	+5 口縁～胴部片	口	16.7			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部を横撫で、胴部外面は横のへら削り。	
C668	第231図 PL.ー	須恵器 甕	+6 破片	底	9.8			白色鈹物粒/還元焰/灰	胴部外面は撫で。最下位に横のへら削り。内面撫で。	底部外面はへら削り、撫で
C669	第231図 PL.ー	陶磁器 碗	埋没土 破片	底	6.2	台	5.9	ー/ー/灰	内面から高台脇に鉛釉。	江戸時代

天王C区9a溝

C670	第232図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片					白色鈹物粒/還元焰軟質/灰	ロクロ整形。横撫で。	
------	---------------	----------	-------------	--	--	--	--	---------------	------------	--

天王C区9b溝

C671	第232図 PL.ー	土師器 台付甕	埋没土 脚部片	底	10.4			細砂粒/良好/橙	外面上半部は横撫で。下半部に撫で。内面上半部に斜縦の撫で。裾部に横撫で。	
------	---------------	------------	------------	---	------	--	--	----------	--------------------------------------	--

天王C区9c溝

C672	第232図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 体部下位～底部片	底	5.2			細砂粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。底部は粗雑な回転糸切り後、無調整。体部最下位に糸切り痕を残す。	
------	---------------	----------	-----------------	---	-----	--	--	--------------	---	--

天王C区10a溝

C673	第232図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 口縁～高台部片	口底	10.3	高台	3.7	5.7	細砂粒/還元焰・軟質/褐灰	ロクロ整形(右回転)。高台は付け高台。	内外面とも炭素吸着・黒色
------	---------------	----------	----------------	----	------	----	-----	-----	---------------	---------------------	--------------

天王C区11溝

C674	第232図 PL.149	須恵器 椀	+2 完形	口底	14.6	高台	5.5	6.1	粗砂粒・細砂粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付け高台、取り付け粗雑で変形。端部旧事欠損。口縁部内面見込み部に墨書、則天文字の「」。	器面磨滅・磨耗・一部に炭素吸着
C675	第232図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口	27.7	0	0	0	細砂粒・黒色鈹物粒少量/還元焰/灰	ロクロ整形。内外面とも横撫で。	内面に自然釉付着

天王C区12溝

C676	第232図 PL.149	土師器 杯	0、埋没土 一部欠損	口底	12.1	高	3.8	0	0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横撫で。体部に撫でを加えるが、輪積み痕・型肌 of 痕跡を残す。外面に墨書、判読不明。	内面磨耗。
C677	第232図 PL.ー	須恵器 壺か	+1 底部片	底	11.6					黒色鈹物粒少量/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。体部最下位に回転へら削り。高台部はハの字状に強く外反する付け高台。	内面磨耗
C678	第232図 PL.149	金属製品 角釘	+24 1/2	長幅	4.2	厚	0.7	3.2			断面0.4cm角のほぼ正方形で先端部はわずかに劣化後破損する。頭部分は四方に広がるが折り返し等は見られない。	

天王C区12土坑

C679	第232図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.7					細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
------	---------------	----------	---------------	---	------	--	--	--	--	--------------	--------------------------------------	--

天王C区19土坑

C680	第232図 PL.ー	陶磁器 灯火受皿	埋没土 破片	口底	9.7	高	1.85			ー/ー/灰白	内面から口縁部外面に錆釉。残存部には無いが、受け部に「U」字状の切り込みが入ると推定される。	江戸時代
------	---------------	-------------	-----------	----	-----	---	------	--	--	--------	--	------

天王C区21土坑

C681	第232図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.7					細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C682	第232図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8					細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちへら削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
C683	第232図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/5	口底	13.9	高	3.4			白色砂粒/還元焰・やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。器形歪んでいる。底部回転糸切り後、周縁部を手持ちへら削り。	

天王C区22土坑

C684	第232図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口	18.8					白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形。横撫で。	
------	---------------	----------	-------------	---	------	--	--	--	--	-------------	------------	--

天王C区28土坑

C685	第232図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口底	10.7					細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちへら削り。内面は撫で。	
C686	第232図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	18.4					白色鈹物粒/還元焰/暗青灰	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転へら削り。	

天王C区29土坑

C687	第232図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 底部1/2	底	6.8					細砂粒・赤色粘土粒/酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。高台部は剥離。	底部内外面炭素吸着・黒色
------	---------------	----------	--------------	---	-----	--	--	--	--	------------------	--------------------------------------	--------------

第4章 検出された遺構と遺物

天王C区30土坑

No.	挿図 PL.No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C688	第232図 PL.ー	黒色土器 杯	埋没土 口縁部片				赤色鈹物粒/良好/ 灰黄褐	外面は撫で、内面は黒色処理。横に棒状工具による磨きを 充填。	器形歪んでいる
C689	第232図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	18.7		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。下半には型肌の痕跡を残す。胴部外面は 横のヘラ削り。内面は横の撫で。	
C690	第232図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				白色鈹物粒/還元 焰・軟質/灰オリ ーブ	ロクロ整形。内外面とも横撫で。先端の形状は大きく歪ん でいると考えられる。	

天王C区33土坑

C691	第232図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/2	底	6.3		黒色鈹物粒/還元 焰/やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗	
C692	第232図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 1/2	底	7.0	台	6.9	細砂粒/還元焰・軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は低い。底部回転糸切り後の 付け高台。高台部の大半が剥離。	内外面とも炭 素吸着黒色

天王C区36土坑

C693	第232図 PL.ー	須恵器 椀か	埋没土 破片				細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面に墨書、判読不明。		
C694	第232図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 口縁～体部片	口	14.6			細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)か。口縁部内面に墨書「千」か。	
C695	第232図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 底部	底	7.8	台	6.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。	
C696	第232図 PL.150	土師器 甕	埋没土 1/2	口	18.4			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面上位は斜横の、中位以下は縦の ヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	外面広範囲に 煤付着・内 面使用により 変色の部分あ り

天王C区ピット

C697	第233図 PL.150	金属製品 角釘	3P埋没土 破片	長 幅	4.4 0.9	厚 重	0.9 7.5		断面正方形の角釘で錆化が著しい、先部分は丸みを帯びた 形で終わるが厚く錆に覆われ破損後の劣化したとみられ る。頭部はやや広がり緩やかに曲がるが折り返し等は見ら れない。	
C698	第233図 PL.ー	土師器 杯	11P埋没土 口縁～底部片	口	11.1	高	2.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を幅広く残す。内面に撫で。	1 掘立
C699	第233図 PL.ー	須恵器 杯	44P埋没土 破片	口	14.0			細砂粒・黒色粘土 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。	
C700	第233図 PL.ー	須恵器 杯	51P埋没土 体部～底部片	底	6.0			細砂粒/還元焰・や や軟質/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。底部は回転ヘラ切り後、周縁 部に回転ヘラ削りを加えているか。	1 掘立
C701	第233図 PL.ー	土師器 杯	57P埋没土 口縁～底部片	口	10.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C702	第233図 PL.ー	須恵器 杯	68P埋没土 体部～底部片	底	6.0			細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)か。底部は回転糸切り後、無調整。	
C703	第233図 PL.ー	須恵器 甕	68P埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
C704	第233図 PL.150	須恵器 椀	69P埋没土 口縁部一部欠	口 底	14.8 7.0	高 台	5.6 6.4	小礫・粗砂粒・赤 色粘土粒/還元焰/ 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は回転糸切り後の付け高台と 考えられる。	器面磨滅
C705	第233図 PL.ー	須恵器 杯	71P埋没土 口縁部片	口	12.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)か。	内面磨耗
C706	第233図 PL.ー	須恵器 杯	73P埋没土 体部～底部1/2	底	6.0			細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	底部は回転糸切り後、無調整。	
C707	第233図 PL.150	土師器 杯	78P埋没土 1/2	口	11.7			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C708	第233図 PL.ー	土師器 甕	84P埋没土 口縁～胴部	口	18.8			粗砂粒・細砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は縦のヘラ削 り。内面は横の撫で。	炭素吸着・被 熱のため脆弱
C709	第233図 PL.ー	須恵器 椀	86P埋没土 1/4	底	7.4	台	7.0	粗砂粒・細砂粒/還 元焰焼成不良/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。	
C710	第233図 PL.ー	土師器 杯	92P埋没土 口縁～底部片	口	13.4			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
C711	第233図 PL.ー	須恵器 甕	125P埋没土 口縁部片					細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
C712	第233図 PL.ー	土師器 杯	128P埋没土 口縁～底部片	口 底	12.4 8.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。	口唇部の一部 に炭素吸着
C713	第233図 PL.ー	須恵器 杯	154P埋没土 体部～底部	底	7.0			細砂粒/還元焰/オ リーブ黒	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内外面炭素吸 着・黒色
C714	第233図 PL.ー	須恵器 甕か	160P埋没土 胴部片					ー/ー/暗赤灰	壺か甕の胴部片。	常滑陶器甕か 中世
C715	第233図 PL.ー	須恵器 杯	162P埋没土 1/4	口 底	12.6 8.0	高	3.6	粗砂粒・細砂粒・赤 色鈹物粒/還元焰 軟質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。口縁部下端は回転を伴うヘラ削り。 底部は回転糸切り後、周縁部に回転を伴うヘラ削り。	
C716	第233図 PL.ー	須恵器 椀	166P埋没土 体部～底部片	底	7.2	台	7.2	細砂粒/還元焰や や軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。	内外面とも炭 素吸着
C717	第233図 PL.ー	土師器 杯	190P埋没土 口縁～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。輪積み痕を残す。底部は手 持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面は放射状 に細い線刻

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
C718	第233図 PL.一	須恵器 盤	201P埋没土 脚部片				細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。	3 掘立	
C719	第233図 PL.一	須恵器 蓋	209P埋没土 破片	口	13.6		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。	3 掘立	
C720	第233図 PL.一	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。		
C721	第233図 PL.一	須恵器 杯	埋没土 破片	口	13.4		粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転か)。	内面黒色処 理・横磨き単 位不明	
C722	第233図 PL.150	礫石器 敲石	225P埋没土	長 幅	12.7 10.8	厚 重	5.1 822.0	粗粒輝石安山岩	背面側中央・右側縁に敲打痕があるほか、背面側右辺に平 ノミ状工具による整形痕がある。	扁平礫
C723	第233図 PL.一	須恵器 甕	埋没土 破片(部位不明)				細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	外面に弱い叩き痕、撫で。内面は撫で。		
C724	第233図 PL.150	金属製品 鎌	229P埋没土 1/2	長 幅	12 4.5	厚 重	0.1 73.5		柄装着部は右端の約半分を斜めに70°ほどの角度で曲げ る。柄装着部から11cm程で破損し錆に覆われている。	
C725	第233図 PL.一	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	13.0 7.0	高	3.3	細砂粒/還元焰や や軟質/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	器面磨耗・口 縁部先端に炭 素吸着
C726	第234図 PL.一	須恵器 杯	238P埋没土 底部片	底	8.0			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は回転ヘラ削り。	
C727	第234図 PL.一	須恵器 甕	238P埋没土 破片					細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰焼き締 め/灰	ロクロ整形。胴部との接合部分で剥離。外面に7本1単位の 波状文が廻る、内面は撫で。	
C728	第234図 PL.一	須恵器 椀	253P埋没土 破片	口	14.8			細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。	3・5 掘立
C729	第234図 PL.一	須恵器 蓋	271P埋没土 口縁～天井部片	口	13.6			細砂粒/還元焰/灰 白	摘み部分不明。端部は内側に小さな反りを有する。ロクロ 整形(右回転)。天井部外面は摘み寄りに回転ヘラ削り。	
C730	第234図 PL.一	須恵器 杯	279P埋没土 体部～高台部片	底	10.6			細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。高台は削り出し高台。	
C731	第234図 PL.一	土師器 杯	281P埋没土 口縁～底部片	口 0	15.6 0	0 0	0 0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	一部に炭素吸 着。5 掘立
C732	第234図 PL.一	須恵器 椀	282P埋没土 体部～高台部片	底	6.8	台	7.2	精選・黒色鈹物粒 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。高台部は付け高台。	
C733	第234図 PL.一	黒色土器 椀	283P埋没土 台部	底	5.4	台	6.4	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	高台部は付け高台。内面は黒色処理。棒状工具による磨き を充填。	器面は被熱の 為かやや脆弱
C734	第234図 PL.一	須恵器 杯	290P埋没土 体部～底部片	底	7.2			細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。	
C735	第234図 PL.一	土師器 杯	291P埋没土 口縁～底部片	口	12.5			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C736	第234図 PL.一	須恵器 壺	292P埋没土 肩部片					細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰やや軟 質/褐灰	ロクロ整形(右回転か)。外面は撫で。外部に2条の沈線が 廻る。	
C737	第234図 PL.一	土師器 甕	305P埋没土 底部(脚)	幅	5.6	高	6.4	粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	本体から斜めに延びる。ヘラ削り後、縦に撫でている。外 面下端に2ヶ所、短い刻み目が見られる。	下端の狭い範 囲に炭素吸着
C738	第234図 PL.一	須恵器 蓋	321P埋没土 口縁～天井部片	口	11.6			細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰焼き締 め/灰	端部内面に反りがつく。ロクロ整形(左回転か)。天井部外 面に回転ヘラ削り。	
C739	第234図 PL.一	土師器 杯	323P埋没土 口縁～底部片	口	13.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	内面やや剥 離。6 掘立
C740	第234図 PL.一	土師器 杯	323P埋没土 口縁～底部1/4	口	14.8			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面ともや や剥離。6 掘 立
C741	第234図 PL.一	土師器 杯	335P埋没土 口縁～体部1/4	口	13.4			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面炭素吸着 ・黒色
C742	第234図 PL.一	土師器 杯	336P埋没土 口縁1/4	口	16.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りか。内面は撫で。	外面磨滅。 7 掘立
C743	第234図 PL.一	土師器 杯	343P埋没土 口縁～底部片	口	15.4			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りか。内面は撫で。	外面磨滅
C744	第234図 PL.一	須恵器 杯	348P埋没土 体部～底部片	底	5.0			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内面と底部外 面の周縁部磨 耗・外面炭素 吸着
C745	第234図 PL.一	土師器 杯	358P +30 2/3	口	10.8	高	3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分 を残す。内面は撫で。底部外面に十字印の線刻。	5 掘立
C746	第234図 PL.一	土師器 杯	416P埋没土 口縁～底部片	口	14.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
C747	第234図 PL.一	土師器 杯	495P埋没土 口縁～底部片	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分 を広く残す。内面は撫で。	
C748	第234図 PL.一	須恵器 蓋	495P埋没土 口縁～天井部 1/3	口	12.2			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	外面に自然釉 付着
C749	第234図 PL.一	土師器 杯	516P埋没土 口縁～底部片	口	12.3			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。	内外面とも磨 滅
C750	第234図 PL.一	土師器 杯	517P埋没土 口縁～底部片	口	11.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面ともや や磨滅

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
C751	第234図 PL.ー	土師器 杯	526P埋没土 口縁～底部片	口	12.7		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
C752	第234図 PL.ー	須恵器 甕	547P埋没土 口縁部片				赤黒色粘土粒/還元 焰・軟質/灰	ロクロ整形。	
C753	第234図 PL.150	金属製品 鑿	1 道路 破片	長 幅	29.0 3.5	厚 重	2.4 297.0	断面長方形の鉄製品で、一端は徐々に細くなり端部は丸く なる、他の端部はやや広がるが錆化により形状は不明瞭 であるが、全体形状から鑿と考えられる。	

東紺屋1住居

1	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.5			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
2	第235図 PL.ー	土師器 杯	+3 口縁～底部片	口	12.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。底部のヘラ削り単位不明。	外面磨滅
3	第235図 PL.ー	土師器 杯	貯蔵穴+7 1/3	口	12.3			細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面ともや や炭素吸着変 色
4	第235図 PL.150	須恵器 杯	+11 1/2	口 底	12.4 7.5	高	4.1	黒色粘土粒/還元 焰/褐灰	ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転糸切り無調整。	内面磨耗・火 傷
5	第235図 PL.150	土師器 杯	+8 1/2	口	12.3			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面に黒色の 付着物
6	第235図 PL.150	土師器 杯	+1 3/4	口 底	12.6 8.8	高	3.7	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面はヘラ削り。底部は手持ちヘラ 削り。内面は棒状工具により口縁部に放射状・底面に螺旋 状に暗文を施す。	
7	第235図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.6 8.2	高	3.8	細砂粒・白色鉍物 粒・黒色鉍物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
8	第235図 PL.ー	土師器 甕	-2 口縁～胴部片	口	19.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。中位に輪脊痕残す。胴部外面は横のヘラ 削り、内面は横のヘラ撫で。	
9	第235図 PL.ー	須恵器 甕	+14 口縁部片	口	23.8			白色鉍物粒・黒色 鉍物粒/還元焰焼 き締め/灰	ロクロ整形。	自然釉付着
10	第235図 PL.ー	須恵器 甕	+12 口縁部片	口	22.1			黒色鉍物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形。	
11	第235図 PL.ー	須恵器 転用硯	+5 底部のみ	底	12.5	台	12.6	細砂粒/還元焰/灰	高台付杯の転用硯。体部を打ち欠き底部外面を使用面とし ている。整形はロクロ整形(左回転)。高台部は底部回転ヘ ラ削り後の付け高台。	

東紺屋3住居

12	第235図 PL.150	土師器 杯	+2 口縁部一部欠	口	11.8	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に狭い撫での 部分を残す。内面は撫で。	底部外面に炭 素吸着
13	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.5			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	底部外面に炭 素吸着による 黒班
14	第235図 PL.150	土師器 杯	埋没土 2/3	口	14.0	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は棒状工具により放射状に暗文を施 す。	
15	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.5	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。型づくりの痕跡顕著。内面は撫で。工具の圧痕見 られる。	
16	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.0	高	3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
17	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	15.6	高	3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は他よりやや強く外反する。口縁部は横撫で。底部 は手持ちヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。内面 は撫で。	内面磨耗
18	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/4	口	17.0	高	3.3	細砂粒・白色軽石 /良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	
19	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.8	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部外面磨滅
20	第235図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	17.8	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗
21	第235図 PL.ー	土師器 杯	+22 口縁～底部片	口	17.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	底部外面磨滅
22	第235図 PL.ー	土師器 杯	+11 1/2	口	16.2	高	4.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内 面は撫で。	底部外面磨滅
23	第235図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 破片	口	16.8			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	器面炭素吸着
24	第235図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	18.8			細砂粒・黒色鉍物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。天井部外面の中心寄りにはヘ ラ削りが施されていると考えられる。	外面は自然釉 厚く付着・内面 かえりの外面 に重ね焼き痕
25	第235図 PL.ー	須恵器 杯	+11 口縁～底部片	口 底	9.8 4.9	高	3.0	白色鉍物粒/還元 焰/暗灰	ロクロ整形(右回転か)。底部はヘラ削り回転を伴うか。	
26	第235図 PL.ー	須恵器 瓶	埋没土 肩部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。体部外面に回転ヘラ削り。	
27	第235図 PL.ー	土師器 小型甕	埋没土 1/3	口	8.3			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は横の手持ちヘラ削り。内面は横の 撫で。	内外面とも磨 滅

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
28	第235図 PL.ー	土師器 甕	+15 口縁～胴部片	口	13.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面はヘラ撫 で。		
29	第235図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	20.0		細砂粒・白色軽石 /良好/にぶい黄橙	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。口縁部は横撫で。 胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。		
30	第235図 PL.ー	須恵器 甕	+22 口縁部片				白色鈹物粒/還元 焰・軟質/灰	ロクロ整形。3条の沈線をはさみ上下に波状文を配する。	口唇部磨耗	
31	第235図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 破片				黒色鈹物粒/還元 焰/灰	紐づくり。外面は平行叩き痕、内面は同心円状当て具痕が 残る。		
東紺屋4住居										
32	第236図 PL.150	土師器 杯	+2 4/5	口	14.3	高	3.6	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
33	第236図 PL.150	土師器 杯	+3 完形	口	12.2	高	3.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部外面炭素 吸着
34	第236図 PL.150	土師器 杯	土坑1 +1 口縁部一部欠	口	11.6	高	3.6	細砂粒・輝石・雲 母/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。	
35	第236図 PL.150	土師器 杯	掘り方+1 1/2	口	12.4	高	3.3	細砂粒・輝石・雲 母/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨滅
36	第236図 PL.150	土師器 杯	カマド、1P 3/4	口	12.4	高	3.3	細砂粒・輝石・雲 母/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	器面やや磨滅
37	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	13.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	
38	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.2	高	3.1	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	底部外面磨滅
39	第236図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	12.2			細砂粒・赤黒色鈹 物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	外面に自然釉 付着
40	第236図 PL.150	土師器 甕	0 胴部～底部1/3	底	7.2			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	胴部外面は斜めヘラ削り、内面上半部は横、下半部は斜め のヘラ撫で。胴部外面上位に粘土付着。	器面炭素吸着
41	第236図 PL.ー	土師器 甕	+2 口縁～胴部片	口	19.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り。内面は横の ヘラ撫で。	内外面とも煤 付着
42	第236図 PL.150	礫石器 敲石	+8 完形	長 幅	(9.9) 9.4	厚 重	3.4 493.2	ひん岩	背面側中央・右側縁に敲打痕が残る。	扁平楕円礫
東紺屋5住居										
43	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.6	高	4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 はわずか。内面は撫で。	
44	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	13.7			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
45	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	21.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。型肌を痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削 り。内面は撫で。	
46	第236図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 体部～底部1/4	底	12.0	台	10.4	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付 け高台。	高台部端面磨 耗顕著
47	第236図 PL.150	須恵器 盤	埋没土 1/3	口	26.6			細砂粒・石英・長 石類/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。口唇部の先端部に凹線が巡る。口縁 部から底部への移行部分と底部中央寄りに回転ヘラ削り。 底面内面はカキ目の上に撫でを重ねている。	
48	第236図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	20.0			細砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部内面は横のヘラ撫で。	胴部外面剥離・ 器面炭素吸着
東紺屋6住居										
49	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。内面に線刻「井」の字状。	
50	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/4	口	11.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、ヘラ削りの単位 不明。内面は撫で。	外面磨滅
51	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.1	高	2.9	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。外面の撫での部分は指頭圧痕を残す。	外面の一部に 炭素吸着
52	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内面やや磨滅
53	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	13.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面やや磨滅
54	第236図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	17.9	高	3.9	細砂粒/良好/灰黄 褐	口唇部外側は肥厚。口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削 り。内面は撫で。	内外面とも炭 素吸着黒色・ 内面磨耗
55	第236図 PL.151	須恵器 蓋	P2埋没土 1/2	口	16.8	高 摘 み	3.1 6.8	細砂粒/還元焰や 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	
56	第236図 PL.151	須恵器 壺	+8、15住掘り方 肩～胴下位1/3					細砂粒・黒色鈹物 粒・白色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。肩部外面に沈線2条。体部下半は回 転ヘラ削り。	肩部周辺に自 然釉
57	第236図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土、15住 口縁下位～胴部 上位片					白色鈹物粒/還元 焰・焼成不良/灰	紐づくり成形。口縁部から頸部は内外面とも横撫で。胴部 外面は平行叩き痕、内面は当て具痕を残す。	
58	第236図 PL.151	礫石器 敲石	+24	長 幅	12.5 6.0	厚 重	3.9 404.6	粗粒輝石安山岩		
東紺屋7住居										
59	第237図 PL.151	土師器 杯	+2 2/3	口	11.4	高	3.9	細砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	器面の一部に 煤付着
60	第237図 PL.151	土師器 杯	+2 口縁部一部欠	口	12.8	高	4.3	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	3.5				
61	第237図 PL.151	土師器 杯	+3 口縁部一部欠	口	12.0	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面磨滅・外面の一部に炭素吸着
62	第237図 PL.151	土師器 杯	+6 1/2	口	11.0	高	3.3	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	底部外面にやや炭素吸着
63	第237図 PL.—	土師器 杯	貯蔵穴埋没土 口縁～底部片	口	12.0			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に残された撫で部分に指頭圧痕が重なる。内面は撫で。	
64	第237図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	14.8			細砂粒・白色軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	口縁部外面に炭素吸着
65	第237図 PL.—	土師器 杯	+4 1/4	口	15.0	高	4.2	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面に十字印の線刻あり。	口縁部内外面に煤付着・内面磨耗
66	第237図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	14.8			黒色鈹物粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転か)。	器面に炭素吸着
67	第237図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	13.6			細砂粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。	
68	第237図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	8.4			細砂粒・海綿骨針/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。	
69	第237図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	22.0			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。外面に輪積み痕を残す。	
東紺屋8住居										
70	第237図 PL.—	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.2			細砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部外面はヘラ削り、間に撫での部分をわずかに残す。	外面磨滅
71	第237図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.4			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、型肌の痕跡を残す。底部は撫でに近いヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗
72	第237図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8			細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗
73	第237図 PL.—	土師器 杯	埋没土 1/2	口	10.8	高	3.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。体部は撫で、型肌の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	口縁部外面に炭素吸着
74	第237図 PL.151	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	12.0 9.3	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で、型肌の痕跡を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
75	第237図 PL.151	土師器 杯	+5 1/2	口底	12.1 7.6	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から体部にかけて幅広く横撫で。体部下半は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
76	第237図 PL.151	土師器 杯	埋没土 1/3	口	10.8	高	3.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。底部内面に墨書「千」。	外面やや炭素吸着
77	第237図 PL.151	須恵器 蓋	カマド-2 口縁部一部欠	口	17.2	高 摘み	4.0 3.2	粗砂粒・細砂粒多量/還元焰やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部を回転糸切り後、摘みを貼付。天井部中央寄りに回転ヘラ削り。	天井部に焼成後の穿孔1孔あり
78	第237図 PL.151	須恵器 杯	+7 完形	口底	12.5 8.1	高	3.5	細砂粒・赤色粘土粒/酸化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に撫でか。	器面磨滅
79	第237図 PL.151	須恵器 杯	カマド+3 1/2	口底	12.9 7.0	高	3.5	細砂粒・白色鈹物粒・黒色鈹物粒/還元焰軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。整形は粗雑で粘土塊付着。底部は回転糸切り後、無調整。	外面口縁部上半と内面に炭素吸着・内面磨耗
80	第237図 PL.151	須恵器 杯	0 口縁部一部欠	口底	13.0 6.3	高	3.3	小礫・粗砂粒/還元焰やや軟質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は糸切り後、無調整。	器面の一部に炭素吸着
81	第237図 PL.151	須恵器 杯	+4 3/4	口底	11.4 5.7	高	4.2	細砂粒・白色鈹物粒/還元焰/オリブ黒	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	器面炭素吸着
82	第237図 PL.151	須恵器 椀	0 1/2	口底	11.6 5.8	高台	5.0 6.0	粗砂粒・細砂粒多量/還元焰/灰	回転整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。	
83	第237図 PL.—	土師器 甕	掘り方埋没土 口縁～胴部片	口	20.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面はヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
84	第237図 PL.—	土師器 甕	掘り方埋没土 口縁～胴部片	口	13.0			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は撫で。	口縁部外面磨滅
85	第237図 PL.—	土師器 甕	掘り方埋没土 口縁～胴部1/3	口	18.8			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
86	第237図 PL.—	土師器 甕	掘り方埋没土 胴部下位～底部片					粗砂粒/還元焰/灰	紐づくり成形。胴部外面は斜縦のヘラ撫で、横撫で、内面は当て具痕の上に横の撫でを重ねる。底部ヘラ削り。	
東紺屋9a住居										
87	第237図 PL.—	須恵器 杯	+9 底部片	底	8.0			細砂粒・赤色粘土粒/酸化焰軟質/橙	底部は回転糸切り後、無調整。	
東紺屋9b住居										
88	第237図 PL.—	土師器 甕	+3、カマド 口縁～胴部1/3	口	20.4			細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	
東紺屋9c住居										
89	第237図 PL.151	土師器 杯	埋没土 完形	口	10.7	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面やや磨滅
90	第237図 PL.151	須恵器 蓋	+3 摘み部欠・口縁～体部2/3	口	17.2			細砂粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部は回転ヘラ削り。	内面磨滅・外面に自然釉厚く付着
91	第238図 PL.151	土師器 甕	カマド0 胴部一部欠	口底	21.8 5.1	高	34.6	粗砂粒・細砂粒・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は4回に分けて斜縦のヘラ削り、底部近くは斜横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	被熱のため変色

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	19.8 4.4	高 32.8			
92	第238図 PL.151	土師器 甕	+1 2/3	口 底	19.8 4.4	高 32.8	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は数回に分けてヘラ削り、底部 近くは横の削り、内面は横のヘラ撫で。接合部分はヘラ削り。	外面磨滅
93	第238図 PL.—	須恵器 甕	+2 口縁部片				小礫・粗砂粒/還元 焰/灰	ロクロ整形、外面に波状文3段を配する。	
94	第238図 PL.151	礫石器 敲石	+10	長 幅	11.7 5.4	厚 重 3.7 417.9	粗粒輝石安山岩		
東紺屋9・11住居									
95	第238図 PL.152	土師器 杯	埋没土 1/2	口	13.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。型肌を痕跡を残す。底部は 手持ちヘラ削り。内面は撫で。底部外面に墨書「中」か。	外面の一部炭 素吸着
96	第238図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。外面の撫で部分は型肌状。	
97	第238図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	14.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	外面磨滅
98	第238図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
99	第238図 PL.—	土師器 杯	埋没土 2/3	口	13.0	高 3.1	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
100	第238図 PL.—	土師器 杯	埋没土 1/2	口	13.4	高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	内外面とも炭 素吸着のため 変色
101	第238図 PL.152	土師器 杯	埋没土 3/4	口	15.5	高 4.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨滅・外 面の一部に炭 素吸着
102	第238図 PL.—	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	13.8		細砂粒/還元焰・や や軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	
103	第238図 PL.152	須恵器 蓋	埋没土 1/3	口	17.8		小礫・粗砂粒・海綿 骨針/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	
104	第238図 PL.152	須恵器 杯	埋没土、11住 1/2	口 底	13.3 7.9	高 3.6	細砂粒・海綿骨針/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転 ヘラ削り。	内面磨滅
105	第238図 PL.152	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.3 6.0	高 3.6	細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
106	第238図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	7.0		細砂粒・海綿骨針/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転 ヘラ削り。	内面やや磨滅
107	第238図 PL.—	須恵器 杯	埋没土 底部2/3	底	8.0		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部はヘラ削り後、回転ヘラ削り。 体部下端にも回転ヘラ削り。	
108	第238図 PL.—	須恵器 椀	埋没土 1/3	口 底	18.4 11.0	高 5.5	粗砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。	
109	第238図 PL.—	須恵器 高杯	埋没土 脚部				細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。外面に2条の沈線が廻る。	
110	第238図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	9.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横の撫 で。	内外面とも被 熱のため変質 ・変色
111	第238図 PL.152	土師器 甕	埋没土 1/3	口	13.2		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は上半が横、下半が斜縦のヘラ 削り、内面は撫で。	外面炭素吸 着、内面黒色 の付着物
112	第238図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	23.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で指頭圧痕。胴部は横ヘラ削り、内面はヘラ 撫で。	口縁部外面に 輪積み痕を残 す
113	第239図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	19.6		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。胴部は横のヘラ削り、内面は横のヘラ撫 で。	外面に輪積 み痕を残す
114	第239図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	22.0		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。胴部は斜めのヘラ削り、内面はヘラ撫 で。	内外面とも炭 素吸着のため か変色
115	第239図 PL.—	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	21.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横のヘ ラ撫で。	口縁部外面に 輪積み痕を残 す
東紺屋10住居									
116	第239図 PL.—	土師器 杯	埋没土 口縁～体部1/2	口	10.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り、間に撫での部分を残す。 内面は撫で。	
117	第239図 PL.—	土師器 杯	+4 1/4	口	12.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り、間に撫での部分を残す。 内面は撫で。	
118	第239図 PL.152	土師器 杯	貯蔵穴 0 口縁部一部欠	口	14.4	高 3.8	粗砂粒・細砂粒・海 綿骨針/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、一部に指頭圧痕。 内面は撫で、内面に十字印の線刻。	内面磨滅
119	第239図 PL.152	土師器 杯	+4 3/4	口	14.2	高 3.3	粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。	外面炭素吸着
120	第239図 PL.152	土師器 甕	0 口縁～胴部	口	22.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面はヘラ撫 で。	口縁部外面に 輪積み痕
121	第239図 PL.152	土師器 甕	貯蔵穴 0 口縁～胴部	口	21.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横撫で。胴部外面は最上位が横の削り、以下は斜縦 のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	胴部外面に粘 土付着
122	第239図 PL.152	土師器 甕	-3 口縁～胴部	口	25.1		粗砂粒・細砂粒・ 軽石/良好/にぶ い黄橙	口縁部横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横の撫 で。	被熱のため変 質・変色
東紺屋11住居									
123	第239図 PL.152	土師器 杯	貯蔵穴+26 完形	口	12.3	高 3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で、型肌や指頭圧痕を残す。 底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面に黒色の 付着物・器面 やや磨滅

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
124	第239図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.4	高	3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り、間に撫での部分を残す。 内面は撫で。	
125	第239図 PL.ー	土師器 杯	2P 0	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り、間に撫での部分を残す。 内面は撫で。	外面に粘土粒 多く付着、炭 素吸着も。
126	第239図 PL.152	須恵器 蓋	カマド+7 口縁部1/2欠	口	14.6	高 摘み	3.4 3.2	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	内面磨耗
127	第239図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	13.0 8.2	高	4.1	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は粗雑な回転ヘラ切り。	
128	第239図 PL.152	須恵器 杯	+19 口縁部一部欠	口 底	12.4 7.0	高	3.6	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺部に粗雑 な回転ヘラ削り。	外面自然釉付 着・内面磨耗
129	第239図 PL.ー	土師器 甕	カマド+7 口縁～胴部1/3	口	22.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。胴部外面は横のヘラ削り、内面は横の撫 で。	外面に黒褐色 の付着物少量
130	第239図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口	19.4			白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。内外面横撫で。	内面に自然釉 付着
131	第239図 PL.152	石製品 紡輪	埋没土 2/5	径 厚	(4.0) (1.3)	重	12.3	滑石	上面側は軸孔を中心に浅く窪み、通常形態とは異なる。全 体的に破損が著しく、「凹部」が転用を意図したものか詳細 は不明。	薄型
132	第239図 PL.152	石製品 紡輪	0 完形	径 厚	4.1 1.6	重	42.8	蛇紋岩	全体的に激しく摩耗して、弱い線条痕のみ残る。上面側破 損部はエッジが摩耗し、破損後も使用したことは明らかで ある。孔は両側穿孔され、軸孔径は7mm強を測る。	厚型
133	第239図 PL.152	金属製品 不明銅製品	+4 破片	長 幅	3.9 3.2	厚 重	0.1 3.0		厚さ1mmほどの銅製の金具で、破損部を除き外周部は面取 りされて左橋近くに留金具が残る。蛇尾の裏面に似た形状 を示すが、上側面途中から斜めに広がる破損すること、右 下角に直角に3mmほどの切り込みが入る特徴をもつが破損 部分が多く詳細は不明である。	

東紺屋12住居

134	第240図 PL.152	土師器 杯	貯蔵穴 0 完形	口	11.4	高	3.8	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は上位にヘ ラ描き、以下は撫で。	
135	第240図 PL.152	土師器 杯	貯蔵穴+3 完形	口	11.3	高	3.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間にヘラ撫での 部分を残す。内面は撫で。	外面磨滅
136	第240図 PL.152	土師器 杯	+5 完形	口	11.5	高	3.5	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内 面は撫で。	
137	第240図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～体部片	口	13.8			細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。体部外面に回転ヘラ削りを施すか。	
138	第240図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	22.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、輪積み痕、ヘラの当たった痕跡を残す。 胴部外面は横のヘラ削り。内面は横の撫で。	外面炭素吸着
139	第240図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部1/4	口	23.0			粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面最上位は横、以下は縦のヘラ削 り、内面はヘラ撫で。	胴部外面は炭 素吸着
140	第240図 PL.152	土師器 甕	カマド0 口縁～胴部	口	19.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面に斜めのヘラ削り、内面は横の 撫で。	器面磨滅
141	第240図 PL.ー	土師器 甕	貯蔵穴+4 胴部～底部1/3	底	5.2			細砂粒・白色軽石 /良好/にぶい黄橙	胴部外面は斜めヘラ削り、内面はヘラ撫で。底部はヘラ調 整。	外面炭素吸 着・被熱のた め変色
142	第240図 PL.153	土師器 甕	カマド+1 完形	口 底	22.9 4.5	高	39.9	粗砂粒・細砂粒・ 軽石/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は数回に分けて縦のヘラ削り、 内面は横のヘラ撫で。	外面炭素吸 着・被熱のた め変色
143	第240図 PL.153	土師器 甕	カマド0 口・胴部一部欠	口 底	21.7 3.6	高	34.0	粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横撫で。胴部外面は数回に分けて縦のヘラ削り、 内面は横のヘラ撫で。	口縁部外面に 煤付着。胴部 下位に黒色の 付着物
144	第240図 PL.153	土師器 甕	カマド-1 底部のみ欠	口	23.5			細砂粒・粗砂粒・ 雲母/良好/にぶい 橙	口縁部は横撫で。胴部外面は数回に分けて縦のヘラ削り、 内面は横のヘラ撫で。	口縁部外面、 胴部外面の一 部に煤付着
145	第240図 PL.153	礫石器 敲石	+6 完形	長 幅	14.0 8.1	厚 重	3.5 631.2	変質安山岩	右辺エッジに著しい敲打痕がある。このほか表裏面に光沢 面があり、摩耗痕と捉えるべきか。	

東紺屋15住居

146	第240図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 を残す。内面は撫で。	
147	第240図 PL.153	土師器 杯	+9 口縁一部欠	口 底	11.8 9.8	高	3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。 内面は撫で。	
148	第240図 PL.153	須恵器 杯	+4 3/4	口 底	12.5 6.3	高	3.5 0	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
149	第240図 PL.153	須恵器 椀	+5 口縁部一部欠	口 底	11.0 6.6	高 台	5.5 6.5	粗砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り後の付け 高台。	器面にやや炭 素吸着
150	第240図 PL.ー	土師器 甕	+15 口縁～胴部片	口	18.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で、指押さえ。胴部外面は横ヘラ削り、内面 はヘラ撫で。	内面炭素吸着 著しい
151	第一図 PL.153	石製品 カマド袖石	カマド右袖-5	長 幅	30.2 20.3	厚 重	10.8 8900.0	粗粒輝石安山岩	大型礫を分割、整形する。各整形面には横位のノミ状の工 具痕が残る。出土状況からみて、下端側破損部は天井石を 載せるため、意図的に打ち欠いたものだろう。	
152	第一図 PL.153	石製品 カマド石	+5	長 幅	67.0 26.2	厚 重	21.5 2000.0	粗粒輝石安山岩	大型礫を分割整形して、舟形状に形状を整える。背面側整 形は丁寧で、平坦面を意識した整形が明らかである。両端 は片側が礫面のカーブを利用、残る片側を磨き整形する。 中央部で破損しているが、本来的にはカマド天井石として 機能したものだだろう。	

東紺屋17住居

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
153	第241図 PL.ー	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口	10.8	高 3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部外面はヘラ削りと考えられる。内面は撫で。	器面磨滅
154	第241図 PL.154	土師器 杯	埋没土 4/5	口	15.8	高 4.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面やや磨滅
155	第241図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/4	口	15.6	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面磨滅・内 面磨耗
156	第241図 PL.ー	土師器 杯	掘り方埋没土 口縁～底部片	口	16.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残すと考えられる。内面は撫で。	器面磨滅
157	第241図 PL.ー	土師器 杯	掘り方埋没土 1/4	口	16.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	

東紺屋19住居

158	第241図 PL.154	土師器 杯	掘り方 0 完形	口	9.5	高 2.9	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗・底 部外面炭素吸 着・黒班状
159	第241図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.6		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部外面は撫で。底部は手持ちヘラ削り。	外面炭素吸着 ・磨滅
160	第241図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.0 9.2	高 3.5	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。底部は回転ヘラ切り後、周縁部に回転ヘラ削り。体部下部にも回転ヘラ削り。	内面磨耗
161	第241図 PL.154	土師器 甕	カマド+10 口縁～胴部1/2	口	21.3		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄褐	口縁部は横撫で。胴部外面上半は横のヘラ削り、下半は縦のヘラ削り、内面は撫で。	胴部外面に煤 付着
162	第241図 PL.154	礫石器 凹石	-5 完形	長 幅	12.4 9.8	厚 重 5.0 640.2	粗粒輝石安山岩	背面側に径2cmの孔を穿つ。全体的に礫面が荒れ、詳細は不明瞭。	楕円礫

東紺屋23住居

163	第241図 PL.154	土師器 杯	+6 3/4	口	11.5	高 3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	内面磨耗
164	第241図 PL.154	土師器 杯	埋没土、掘り方 3/4	口	11.6	高 4.0	細砂粒・雲母/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。底部のヘラ削りの単位は不明。	内外面とも炭 素吸着、変色 。外面磨滅。
165	第241図 PL.154	土師器 杯	+5 3/4	口	11.7	高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	外面やや炭素 吸着・内外面 ともやや磨滅
166	第241図 PL.154	土師器 杯	+4 3/4	口	15.7	高 5.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。底部ヘラ削りの単位は不明。	内外面とも磨 滅
167	第241図 PL.ー	須恵器 蓋	+6、カマド 1/4	口	17.6	高 3.1	細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は回転ヘラ削り。	
168	第241図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部端部は欠損。	外面自然釉厚 く付着・窯材 付着
169	第241図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	22.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で、輪積み痕を残す。胴部外面はヘラ削り。	
170	第241図 PL.ー	土師器 甕	掘り方+5 胴部～底部片	底	4.6		細砂粒/良好/橙	胴部外面は斜縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	胴部外面、煤 付着
171	第241図 PL.154	土師器 甕	カマド+6 口縁～胴部1/3	口	20.8		粗砂粒・細砂粒・ 軽石/良好/にぶい 赤褐	口縁部は横撫で。胴部外面は縦のヘラ削り、内面は横のヘラ撫で。	被熱のため変 色
172	第241図 PL.ー	土師器 甕	土坑1 +5 口縁～胴部片	口	19.7		細砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横撫で、外面に輪積み痕を残す。胴部外面はヘラ削り、内面はヘラ撫で。	
173	第241図 PL.154	土師器 甕	0、カマド削減穴 口縁～胴部	口	23.4		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は斜横のヘラ削り、内面はヘラ撫で。	外面の一部に 炭素吸着
174	第241図 PL.154	石製品 砥石	+1 完形	長 幅	9.9 6.8	厚 重 4.6 369.0	粗粒輝石安山岩	背面側の左上が刃物で削ぎ取られたように、平坦面が形成されている。上端側・左辺に刃ならし傷が明瞭に残る。	楕円礫

東紺屋1 掘立柱建物

175	第241図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	器面磨滅
176	第241図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	13.0		細砂粒少量/良好/ 明赤褐	口縁部は横撫で。底部との間に撫での部分を残す。内面は撫で。	

東紺屋2 掘立柱建物

177	第241図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	12.8		細砂粒少量/良好/ 橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。上位に撫での部分を残す。内面は撫で。	器形もっと深 みを増す可能 性あり
-----	---------------	----------	---------------	---	------	--	----------------	---------------------------------------	-------------------------

東紺屋5 掘立柱建物

178	第241図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.0		細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りか。	器面磨滅
179	第241図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 体部～底部片	底	8.0		細砂粒・白色鈹物 粒・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部はヘラ削り。	

東紺屋9 掘立柱建物

180	第241図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	12.8		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)か。	外面にわずかに 自然釉
181	第241図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	12.9		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	外面磨滅

東紺屋11 掘立柱建物

182	第242図 PL.154	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。底部内面に墨書「千」、外面にも「千」か「十」。	
-----	-----------------	----------	------------	--	--	--	----------	--	--

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
183	第242図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁～体部部片	口	14.6		細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰やや軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。		
184	第242図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	13.8		細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。		
185	第242図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				粗砂粒・細砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。		
東紺屋13掘立柱建物										
186	第242図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	18.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は丁寧な撫で。	断面の一部に炭素吸着	
東紺屋1井戸										
187	第242図 PL.154	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/にぶ い橙	底部はヘラ削り。内面は撫で。底部内面に墨書「千」、外面にも「千」。		
188	第242図 PL.154	土師器 杯	埋没土 体部一部欠	口 底	13.3 9.4	高 4.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。体部下半はヘラ削り、上半に撫での部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。底部外面に墨書「千」か、内面にも墨書が一部残存、判読不明。	器面磨滅・	
189	第242図 PL.154	土師器 杯	埋没土 口縁～底部2/3	口 底	12.4 9.9	高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。体部に型肌の痕跡を残す。		
190	第242図 PL.154	土師器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.6 9.5	高 3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内面磨耗	
191	第242図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁～天井部片	口	13.8		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨耗	
192	第242図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 胴部片				粗砂粒・細砂粒/酸 化焰/にぶい黄橙	叩き整形。外面横撫でか。内面は青海波状の当て具痕の上に横に撫で。		
東紺屋2井戸										
193	第242図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	11.8 9.0		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面は撫で。	小破片	
194	第242図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.0		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。内面は撫で。	小破片	
東紺屋1粘土採掘坑										
195	第242図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	9.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。		
196	第242図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 天井部片			摘 み	4.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨耗
197	第242図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	14.7		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。		
198	第242図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土、9・11住 胴部片				細砂粒・黒色鈹物 粒少量/還元焰/灰	叩き整形。外面は平行叩き痕、内面は青海波文状の当て具痕。外面に自然釉付着。		
199	第242図 PL.ー	須恵器 甕	-3 頸部～胴部片				白色鈹物粒/還元 焰やや軟質/灰	叩き整形。口縁部は横撫で。胴部外面は平行叩き痕、内面は横の撫で。		
200	第242図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土、表土 胴部片				黒色鈹物粒/還元 焰/灰	叩き整形。外面平行叩き痕、内面は青海波状と同心円状と2種類の当て具痕を残す。		
201	第242図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土、2粘採 胴部片				細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰/灰	叩き整形。外面平行叩き痕、内面は同心円状の当て具痕。		
202	第242図 PL.ー	須恵器 転用硯	埋没土 底部片	底	14.1	台	13.0	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	転用硯。高台は杯の底部内面を磨面として使用している。ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。体部下位にも回転ヘラ削り。	高台部端部・ 底部外面も磨 耗
東紺屋2粘土採掘坑										
203	第243図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	16.8	高	3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、単位は不明。内面は撫で。底部内面に「十」字の線刻。	外面磨滅
204	第243図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	14.7			赤黒色粘土粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。天井部の外面は横撫でか。	
205	第243図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	9.0			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	
206	第243図 PL.ー	須恵器 壺	埋没土 頸部～胴部片					細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰白	叩き整形。残存。上半部は横の撫で。下半部外面は平行叩き目、内面は同心円状の当て具痕。	
207	第243図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁～胴部片	口	16.7			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横撫で。下半に型肌の痕跡を残す。胴部外面は斜横のヘラ削り。内面は横のヘラ撫で。	
東紺屋3粘土採掘坑										
208	第243図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	13.6			細砂粒/還元焰・軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部の一部にヘラ削り。	
209	第243図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁～底部片	口 底	13.2 7.9	高	3.3	細砂粒/還元焰・軟 質/灰	ロクロ整形(左回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面と口縁部 内面に炭素吸 着
210	第243図 PL.ー	須恵器 杯か	埋没土 底部片	底	8.1			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部はヘラ切り後、周縁部にヘラ削りか。	外面に自然釉 付着
東紺屋4粘土採掘坑										
211	第243図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片	口	11.8			細砂粒/良好/黄褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分を残す。内面は撫で。	
212	第243図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	17.8			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。	小破片・内面 炭素吸着
213	第243図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片					小礫・粗砂粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。外面に波状文3段を配する。	93と同一個体

東紺屋6粘土採掘坑

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
214	第243図 PL.ー	土師器 甕	+5 口縁部片	口	19.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。	

東紺屋9粘土採掘坑

215	第243図 PL.ー	土師器 杯か	埋没土 底部片	底	10.1		細砂粒・白色鈹物 粒/還元焰・軟質/ にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は周縁部に回転ヘラ削り。体部 下位にもヘラ削りか。	
216	第243図 PL.ー	須恵器 蓋	埋没土 口縁~天井1/3	口	15.8		粗砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削 り。	
217	第243図 PL.ー	須恵器 椀	埋没土 底部1/2	底	6.6	台 6.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付 け高台。	

東紺屋10粘土採掘坑

218	第243図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	10.8	高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面炭素吸着 ・黒斑状。内 外面とも磨滅
219	第243図 PL.154	土師器 杯	+46 1/2	口	10.4	高 3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間に撫での部分 をわずかに残す。内面は撫で。	内面磨耗
220	第243図 PL.154	土師器 杯	埋没土 2/3	口	9.8	高 3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部はヘラ削り。間に撫での部分を残す。	内面磨滅
221	第243図 PL.154	土師器 杯	+65 2/3	口	17.0	高 6.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面は変色著 しい
222	第243図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	10.6	高 3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	外面わずかに 炭素吸着
223	第243図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 1/3	口	9.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り、間にわずかに撫 での部分を残す。	外面炭素吸着
224	第243図 PL.154	須恵器 高杯	埋没土 1/3	口	12.1		黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。杯底部外面はカキ目を充填。口縁部 との間を画す稜近くは弱いヘラ削りを重ねる。	
225	第243図 PL.154	須恵器 壺	中央+41 口縁~頸部2/3	口	9.2		白色鈹物粒・黒色 鈹物粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形(右回転)。	器面に自然釉 厚くかかる
226	第243図 PL.ー	土師器 甕	埋没土 口縁~胴部片	口	23.6		細砂粒・白色軽石 /良好/橙	口縁部は横撫で。胴部外面は横ヘラ削り。	
227	第243図 PL.ー	土師器 甕	+2 口縁~胴部片	口	27.4		細砂粒・輝石・雲 母・赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横撫で。胴部外面は縦ヘラ削り。	器面被熱によ り変色・内面 炭素吸着
228	第243図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口	21.0		黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形。内外面とも横撫で。	内外面に自然 釉付着
229	第243図 PL.ー	須恵器 甕	埋没土 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。内外面とも横撫で。	内外面とも自 然釉厚く付着
230	第243図 PL.ー	埴輪 円筒	埋没土 破片				粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	基底部破片。外面は縦刷毛(12本/2cm)。この上にヘラ状 工具押印による底部調整。内面撫で。斜縦刷毛。	

東紺屋12粘土採掘坑

231	第243図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	17.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
-----	---------------	----------	-------------	---	------	--	------------------	---------------------------	--

東紺屋10土坑

232	第244図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁~底部片	口	11.8		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
-----	---------------	----------	---------------	---	------	--	----------------	---------------------------	--

東紺屋17土坑

233	第244図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	6.1		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。体部はヘラ削り。底部は回転糸切り 後、周縁部にヘラ削り。	
-----	---------------	----------	------------	---	-----	--	----------------	--	--

東紺屋20土坑

234	第244図 PL.ー	土師器 杯	埋没土 口縁~底部片	口 底	13.0 8.8	高 3.8	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横撫で。体部は丁寧なヘラ削り、又はヘラ撫で。 底部はヘラ削り。内面はヘラ磨きに近いヘラ撫で。	器肉厚い
-----	---------------	----------	---------------	--------	-------------	-------	------------------	---	------

東紺屋30土坑

235	第244図 PL.154	土師器 杯	埋没土 口縁部1/2	口 0	11.3 0	0 0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内 面は撫で。	
236	第244図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	12.8 8.2	高 4.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り。	

東紺屋31A土坑

237	第244図 PL.154	礫石器 敲石	+1 完形	長 幅	10.1 4.5	厚 重 3.0 218.4	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕が残る。	棒状礫
-----	-----------------	-----------	----------	--------	-------------	------------------------	---------	---------------	-----

東紺屋ビット(189P)

238	第244図 PL.ー	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	12.5		細砂粒/還元焰・軟 質/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転か)。	
-----	---------------	----------	-------------	---	------	--	----------------------	--------------	--

東紺屋遺構外出土石器

遺外 石1	第244図 PL.155	剥片石器 有茎尖頭器	表土 先端・ 基部欠損	長 幅	(6.0) 3.5	厚 重 1.2 6.4	黒色頁岩	幅広剥片を縦位に使い、周辺加工して器形を整える。茎は 左辺側が直線的に体部に移行しているが、右辺側は明瞭な 「返し部」が付く。加工は丁寧だが、部分的に階段状剥離と なる。草創期。	
遺外 石2	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	表土 1/2	長 幅	(7.3) 3.5	厚 重 1.5 55.0	黒色頁岩	未製品。エッジはシャープで器体中央付近で破損したもの と見られる。	短冊型

天王遺構外出土石器

遺外 石1	第244図 PL.155	剥片石器 石鏃	A区一括 完形	長 幅	(2.2) 1.7	厚 重 0.5 1.2	黒曜石	完成状態。先端左辺に衝撃剥離痕がある。押圧剥離が全面 を覆う。	凹基無茎鏃
----------	-----------------	------------	------------	--------	--------------	----------------------	-----	------------------------------------	-------

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
遺外石2	第244図 PL.155	剥片石器 石鏃	A区一括 完形	長幅 1.6	2.5 厚重 1.3	0.4	黒色安山岩	完成状態。背面側を厚く剥離、裏面側を薄く平坦剥離して器体を作成する。	凹基無茎鏃
遺外石3	第244図 PL.155	剥片石器 石匙	B区一括 完形	長幅 3.0	8.7 厚重 25.9	1.0	黒色頁岩	上端側に摘み部を作成、右辺側を表裏面から粗く加工して形状を整える。左辺エッジに小剥離痕が連続する。	縦型
遺外石4	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	B区10住 完形	長幅 6.8	12.0 厚重 165.5	2.1	黒色頁岩	未製品？刃部等にガジリがあり、詳細は不明。エッジはシャープで摩耗痕等は見られない。	分銅型
遺外石5	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	C区一括 1/2	長幅 4.0	(7.0) 厚重 39.7	1.3	黒色頁岩	未製品？裏面側に礫面を大きく残り、周辺加工して石器の形状を作成する。エッジはシャープで、新鮮である。	短冊型
遺外石6	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	C区1道路 完形	長幅 4.9	10.6 厚重 71.4	1.4	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。捲縛痕等は確認できない。	短冊型
遺外石7	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	A区1住0 完形	長幅 4.5	11.3 厚重 81.1	1.7	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗あり。これに対し、両側縁ともエッジはシャープで、捲縛痕は見られない。	短冊型
遺外石8	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	C区2溝 2/3	長幅 4.0	(7.9) 厚重 74.2	1.7	黒色頁岩	完成状態？欠損して刃部摩耗等は不明。側縁は潰れ、やや摩耗しているように見える。	短冊型
遺外石9	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	B区一括 略完形	長幅 9.7	11.5 厚重 71.6	1.5	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。小形だが、細身の着柄部に幅広の体部が付く。	
遺外石10	第244図 PL.155	剥片石器 打製石斧	B区2トレ 頭部欠損	長幅 5.3	(9.6) 厚重 123.9	1.9	変質安山岩	未製品。加工段階で側縁が破損したため、これ以後の加工を断念したもののか。	短冊型か
遺外石11	第245図 PL.155	剥片石器 打製石斧	C区18住 頭部欠損	長幅 4.4	(9.5) 厚重 74.1	1.3	変質蛇紋岩	完成状態？石材が粗く刃部摩耗は不明瞭。	短冊型
遺外石12	第245図 PL.155	剥片石器 打製石斧	A区一括 頭部欠損	長幅 5.9	(9.2) 厚重 93.1	(2.0)	細粒輝石安山岩	完成状態。両側縁側の刃部が弱く摩耗する。上半部の欠損面には鉄分が付着、破損は廃棄されたのちのことか。	
遺外石13	第245図 PL.155	剥片石器 打製石斧	B区2トレ 1/3	長幅 5.6	(7.1) 厚重 50.9	1.2	ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗あり。器体中央より上半を大きく欠損する。	短冊型
遺外石14	第245図 PL.155	剥片石器 石核	A区5住 完形	長幅 2.7	2.6 厚重 22.8	2.0	黒色頁岩	両側面で小形剥片を剥離したのち、打面エッジの石核調整を行う。最終剥離は石核正面にあり、細石刃様の小形剥片1を剥離しているのみである。細石核とすべきものか。	
遺外石15	第245図 PL.155	礫石器 スタンプ形 石器	B区3井戸流路 完形	長幅 5.5	11.0 厚重 360.5	3.7	輝緑岩	分割面周辺の体部には小剥離痕が生じており、これにより器種認定したものである。分割面は強く反り、これを修正する加工はなく、認定が妥当が疑問も残る。	
遺外石16	第245図 PL.155	礫石器 多孔石	B区5住+4 完形	長幅 16.0	20.1 厚重 3692.0	9.4	粗粒輝石安山岩	背面側中央に径1.5cmの孔を穿つ。	楕円礫

天王遺構外出土縄文土器

遺外縄17	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区8住 口縁部片				繊維	4単位の緩い波状口縁で、半サイ竹管具による数条の平行沈線を口縁に巡らせ、以下の口縁部文様に同様の平行沈線で菱状の文様を描き、口縁部文様下の乱れ部に平行沈線を巡らせて文様帯を企画する。胴部はやや膨らみ、Lの縄文を浅く施す。器高：11.2cm	有尾式
遺外縄18	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区2トレ 口縁部片				繊維	波状口縁の口縁下に平行沈線を数段巡らせ、口縁部文様に平行沈線で菱状等の文様を描く。	有尾式
遺外縄19	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区8住 胴部片				繊維	007と同一個体。口縁部文様に爪形連続刺突をもつ平行沈線で菱状等の文様を描き、口縁部下の乱れ部に同様の平行沈線を巡らせて文様帯を区画する。	有尾式
遺外縄20	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区8住 胴部片				繊維	006と同一個体。口縁部文様に爪形連続刺突をもつ平行沈線で菱状等の文様を描き、口縁部下の乱れ部に同様の平行沈線を巡らせて文様帯を区画する。	有尾式
遺外縄21	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区8住 底部片				繊維	胴部下端に爪形連像刺突をもつ平行沈線を数段巡らせた、平底の底部。	有尾式
遺外縄22	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 胴部片				繊維、細礫	23と同一個体。胴部に平行沈線を数段巡らせ、その間に2列の刺突列を巡らせる。	有尾式・黒浜式
遺外縄23	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区25土坑 胴部片				繊維、細礫	22と同一個体。胴部に平行沈線を数段巡らせ、その間に2列の刺突列を巡らせる。	有尾式・黒浜式
遺外縄24	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 口縁部片				繊維	平口縁の口縁下に爪形刺突をもつ細い平行沈線を2段巡らせ、以下にLRの縄文を施す。	黒浜式
遺外縄25	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 胴部片				繊維、粗砂	内反ぎみの口縁部に縦位・横位・斜位に細い平行沈線で米字文を描き、交差部に円形文を描く。	黒浜式
遺外縄26	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区3井戸流路 胴部片				繊維、粗砂	RLの縄文を施し、括れ部にコンパス文を巡らせる。	黒浜式
遺外縄27	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 胴部片				繊維、粗砂	28と同一個体。括れ部にコンパス文を巡らせ、以下の胴部にRLの縄文を施す。	黒浜式
遺外縄28	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区3井戸流路 胴部片				繊維、粗砂	27と同一個体。括れ部にコンパス文を巡らせ、以下の胴部にRLの縄文を施す。	黒浜式
遺外縄29	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 口縁部片				繊維	平口縁の口縁下にLの縄文を施す。	有尾式・黒浜式
遺外縄30	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区4トレ 口縁部片				繊維、粗砂	平口縁の口縁下にRの縄文を施す。	有尾式・黒浜式
遺外縄31	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区2トレ 口縁部片				繊維	平口縁の口縁下が無文となる。	有尾式・黒浜式
遺外縄32	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区一括 胴部片				繊維	胴部に0段多条のLRと0段多条のRLによる羽状縄文を施す。	有尾式
遺外縄33	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区3井戸流路 胴部片				繊維	LRとRLによる羽状縄文を施し、括れ部にコンパス文を巡らせる。	黒浜式
遺外縄34	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区一括 胴部片				繊維	胴部にRの縄文を施す。	有尾式

遺物観察表

No.	挿 図 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
遺外 縄35	第245図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 胴部片				繊維、粗砂	胴部にLRの縄文を施す。	有尾式・黒浜式
遺外 縄36	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区3井戸流路 胴部片				繊維、粗砂	胴部にRLの附加条(rの1本附加)の縄文を施す。	有尾式・黒浜式
遺外 縄37	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区8住 胴部片				繊維	胴部に太いRLの縄文を施す。	有尾式・黒浜式
遺外 縄38	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	C区1道路 底部片				繊維	胴部下端にLRとRLによる羽状縄文を施した、平底の底部。	有尾式・黒浜式
遺外 縄39	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	A区8住 底部片				繊維、細礫	胴部下端にLRの縄文を施した、平底の底部。	有尾式・黒浜式
遺外 縄40	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	C区37住 胴部片				粗砂	胴部に平行沈線を数段巡らせ、地文にRLの縄文を施す。	諸磯b式
遺外 縄41	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	C区9住 胴部片				粗砂	胴部にRLの縄文を縦位に施す。	諸磯式
遺外 縄42	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区21住 口縁部片				粗砂	内反する口縁の口縁部に沈線で楕円形の文様を描き、文様内にRLの縄文を施す。	加曾利E3式
遺外 縄43	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区一括 口縁部片				粗砂	内反する波状口縁の口縁下に沈線を巡らせ、以下の胴部に沈線で波状となる曲線的な文様を描き、地文にLRの縄文を横位・縦位に施す。	加曾利E3式
遺外 縄44	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区21住 胴部片				粗砂	胴部に沈線で懸垂文を垂下させ、懸垂文間にLRの縄文を縦位に施す。	加曾利E3式
遺外 縄45	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区2トレ 胴部片				粗砂	胴部に沈線で懸垂文を垂下させ、懸垂文間にLRの縄文を縦位に施す。	加曾利E3式
遺外 縄46	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区5トレ 胴部片				粗砂	胴部に沈線で懸垂文を垂下させ、懸垂文間にLRの縄文を縦位に施す。	加曾利E3式
遺外 縄47	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	B区3井戸流路 胴部片				粗砂	胴部にLRの縄文を縦位に施す。	加曾利E3式
東紺屋遺構外出土縄文土器									
遺外 縄3	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	表採 胴部片				粗砂・細礫	胴部に爪形刺突をもつ平行沈線と、平行沈線間に刺突をもつ。	諸磯b式
遺外 縄4	第246図 PL.156	縄文土器 深鉢	3粘採No.9 胴部片				細砂	胴部にRLの縄文を施す。	諸磯式
天王A区遺構外出土遺物									
遺外 48	第246図 PL.156	土製品 土鉢	埋没土 端部欠損	長巾	4.0 1.5	厚み 1.5 0.4	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	器面は指先で調整が加えられており、指紋が残されている。小口の両端はヘラで切られている。穿孔は焼成前である。	重さ7.71g
遺外 49	第246図 PL.―	埴輪 円筒	埋没土 胴部破片				細砂粒・粗砂 粒・白色鈹物粒・ チャート/良好/に ぶい赤褐	外面は縦ハケ(10本/2cm)後、断面台形の突帯を貼付、その周辺を横撫で。内面は撫で後、一部に斜め横ハケ。	
天王B区遺構外出土遺物									
遺外 50	第246図 PL.156	土師器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/良好/にぶ い橙	底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。底部外面に墨書、判読不明。	
遺外 51	第246図 PL.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片				細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。外面に墨書、判読不明。	
遺外 52	第246図 PL.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片				細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部はヘラ削り。内面に墨書、判読不明。	
遺外 53	第246図 PL.156	土師器 杯	埋没土 口縁～底部片				細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。口縁部内面に墨書、判読不明。	外面炭素吸着
天王 遺外 54	第246図 PL.156	須恵器 杯	埋没土 2/3	口 底	13.2 8.8	高 3.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。体部下半にヘラ削り。底部は回転ヘラ削り。口縁部外面に墨書「」。	
遺外 55	第246図 PL.―	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.6 7.4	高 3.9	細砂粒・赤色粘土 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面磨耗
遺外 56	第246図 PL.156	須恵器 椀	埋没土 1/4	口 底	15.0 6.6	高 4.6	精選・黒色鈹物粒 /還元焰やや軟質/ 灰	ロクロ整形(右回転)。体部は回転ヘラ削り。高台部は幅広の蛇の目高台。内面全体に釉、外面の一部にも釉が見られる。	
遺外 57	第246図 PL.―	須恵器 長頸壺	埋没土 破片				白色鈹物粒/還元 焰/暗灰	ロクロ整形(右回転)。中位に弱い稜を有する。	
天王C区遺構外出土遺物									
遺外 58	第246図 PL.156	土師器 杯	表土 底部片				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	平底の底部片。内外面に墨書、ともに判読不明。	
遺外 59	第246図 PL.156	土師器 杯	表土 破片				粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	平底の底部破片。外面は手持ちヘラ削り。内面は撫で。外面に墨書、判読不明。	
遺外 60	第246図 PL.156	土師器 杯	表土 破片				細砂粒/良好/明赤 褐	平底の底部小破片。外面は手持ちヘラ削り。内面は撫で。内面に墨書、判読不明。	
遺外 61	第246図 PL.―	土師器 杯	表土 1/2	口	10.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	底部外面に炭 素吸着・黒班状
遺外 62	第246図 PL.―	土師器 杯	攪乱 1/2	口	12.6		細砂粒・雲母/良好 /橙	口縁部は横撫で。体部は撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	
遺外 63	第246図 PL.―	土師器 杯	表土 口縁～底部片	口	10.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。間に撫での部分をわずかに残す。内面は撫で。	外面の一部に 炭素吸着
遺外 64	第246図 PL.―	土師器 杯	表土 1/2	口	12.9	高 3.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面は撫で。	底部外面磨滅

第4章 検出された遺構と遺物

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
遺外 65	第246図 PL.156	土師器 杯	表土 3/4	口	14.4	高 5.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	器面やや磨滅
遺外 66	第246図 PL.—	土師器 杯	表土 口縁部1/4	口	16.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横撫で。底部は手持ちヘラ削り。内面は撫で。	内外面とも磨滅
遺外 67	第246図 PL.—	須恵器 蓋	表土 摘み～口縁部片	口	9.8	高 2.7 摘み 1.6	黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部には回転を伴うヘラ削り。口縁部、内面に反りが付く。天井部中央には宝珠状の摘み。	
遺外 68	第246図 PL.—	須恵器 蓋	表土 口縁～天井部片	口	13.8		精選・黒色鋳物粒 少量/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	内面磨耗・外面全面に厚く自然釉
遺外 69	第246図 PL.—	須恵器 蓋	表土 1/4	口	15.6	高 3.3 摘み 2.0	白色鋳物粒/還元 焰/灰	天井部にボタン状の摘み。端部内面に小さな反りが付く。ロクロ整形(右回転か)。天井部中ほどに回転を伴うヘラ削り(左回転)。摘み貼付後、周縁を撫で。	
遺外 70	第246図 PL.—	須恵器 蓋	表土 口縁～天井部片	口	17.6		細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面中心寄りに回転ヘラ削り。	外面に自然釉 付着
遺外 71	第247図 PL.—	須恵器 皿	埋没土 1/3	口 底	13.3 7.5	高 2.8 台 6.8	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・軟質 /浅黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は回転糸切り後の付け高台。回転ヘラ削り。	器面磨滅顕著
遺外 72	第247図 PL.156	須恵器 杯	南部表土 口縁部片	口	12.9		細砂粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面に墨書、判読不明。	
遺外 73	第247図 PL.156	須恵器 杯	表土 破片				細砂粒/還元焰・軟 質/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。内面に墨書、判読不明。	
遺外 74	第247図 PL.156	須恵器 杯	表土 体部～底部	底	5.5		粗砂粒・細砂粒・ 雲母/還元焰軟質/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。底部内面に墨書「西」。口縁部外面も墨書、判読困難「西」か。	器面磨耗
遺外 75	第247図 PL.—	須恵器 杯	表土 体部～底部片	底	6.2		黒色鋳物粒/還元 焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	内面の磨耗顕 著
遺外 76	第247図 PL.—	須恵器 杯	攪乱 1/3	口 底	12.3 7.2	高 3.3	細砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・軟質 /灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。体部下端にも回転ヘラ削り。	
遺外 77	第247図 PL.—	須恵器 杯	表土 1/3	口 底	12.2 7.0	高 3.6	黒色鋳物粒・白色 軽石/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転を伴うヘラ削り。口縁部最下位にも回転を伴うヘラ削り。	器面磨耗
遺外 78	第247図 PL.156	須恵器 杯	表土 4/5	口 底	12.2 7.3	高 3.9	細砂粒・黒色鋳物 粒・白色鋳物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、器面の大半に回転ヘラ削り。	器面磨耗
遺外 79	第247図 PL.—	須恵器 高台付杯	表土 1/4	口 底	18.8 14.8	高 4.9 台 14.4	黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。口縁部最下位にヘラ削り。底部は切り離し後、回転を伴うヘラ削り。高台貼付後、周辺を撫で調整。	器面磨耗
遺外 80	第247図 PL.—	須恵器 椀	表土 体部～底部片	底	6.6	台 6.2	黒色鋳物粒・赤色 粘土粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台は貼付後、周縁部に撫で。	内外面割れ口 とも磨滅
遺外 81	第247図 PL.156	須恵器 椀	表土 破片	口	14.1		細砂粒/還元焰・軟 質/浅黄橙	ロクロ整形(右回転)。外面に墨書、判読不明。	
遺外 82	第247図 PL.—	須恵器 盤	表土 口縁～底部片	口 底	25.6 13.0	高 4.5	細砂粒・黒色鋳物 粒・白色鋳物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部下位から底部に回転を伴うヘラ削り。	
遺外 83	第247図 PL.—	須恵器 不明	埋没土 破片	底	6.6		細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	内面磨耗顕著
遺外 84	第247図 PL.—	灰釉陶器 か 段皿	表土 1/4	口 底	13.2 7.3	高 2.5 台 7.0	精選/還元焰/灰	口唇部は外側に強く折れる。ロクロ整形(右回転)。高台部は底部へラ調整後の付け高台。口縁部内外面に施釉。	器面磨滅・内 面磨耗
遺外 85	第247図 PL.—	灰釉陶器 椀	埋没土 高台部片	底	8.8	台 8.4	精選/還元焰普通/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。体部に回転ヘラ削り。高台部は底部へラ調整後の付け高台。断面三日月型。内面に重ね焼き痕。	
遺外 86	第247図 PL.—	灰釉陶器 椀	表土 体部～底部片	底	7.5	台 7.0	精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。体部に回転ヘラ削り。高台部は低い断面三日月型の付け高台。内外面釉・漬け掛け。	内面磨耗・重 ね焼き痕
遺外 87	第247図 PL.—	灰釉陶器 椀	表土 口縁～体部片	口	18.5		精選/還元焰/灰白	口唇部は外方に小さく折れる。ロクロ整形(右回転か)。体部外面に回転ヘラ削り。内外面に施釉。	
遺外 88	第247図 PL.—	灰釉陶器 壺	表土 口縁部片	口	12.9		精選/還元焰やや 不良/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。内外面に厚く施釉。	C区19住出土 と類似
遺外 89	第247図 PL.—	灰釉陶器 壺	表土 口縁部片	口	10.8		精選/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。内面に厚く施釉。	
遺外 90	第247図 PL.—	須恵器 壺	攪乱 底部片	底	7.6	台 7.8	精選・黒色鋳物粒 /還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。胴部外面は回転ヘラ削り。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	内外面に自然 釉厚く付着
遺外 91	第247図 PL.—	須恵器 壺	表土 破片				細砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。肩部に沈線が廻り、その上に櫛状工具による刺突文が並ぶ。	外面に自然釉 付着
遺外 92	第247図 PL.—	須恵器 壺	埋没土 胴下位～底部	底	11.2		粗砂粒・細砂粒・ 白色鋳物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。胴部外面は回転ヘラ削り。高台は付け高台。	内面に自然釉 付着
遺外 93	第247図 PL.—	須恵器 壺	埋没土 胴下部～底部片	底	17.0		小礫・白色鋳物粒/ 還元焰/灰白	叩き整形。外面は平行叩き痕、内面は青海波の当て具痕の上に撫で。	底面磨耗
遺外 94	第247図 PL.—	須恵器 壺	表土 胴部下位～底	底	12.0		細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。胴部外面撫で。最下位に横のヘラ削り。	
遺外 95	第247図 PL.—	須恵器 壺	埋没土 破片				細砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。外面に櫛状工具による刺突文が4段配されている。	残存上位に二 次調整を施し ている

遺物観察表

No.	挿図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
遺外 96	第247図 PL.一	須恵器 壺	表土 体下位～底部片	底	10.7	台	11.9	細砂粒・白色鋇物 粒・黒色鋇物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。高台は回転糸切り、回転ヘラ削り 後の付け高台か。	外面に自然釉 付着
遺外 97	第247図 PL.一	須恵器 壺	表土 体下位～底部片	底	10.7	台	11.9	細砂粒・白色鋇物 粒・黒色鋇物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。高台は回転糸切り、回転ヘラ削り 後の付け高台か。	外面に自然釉 付着
遺外 98	第247図 PL.一	須恵器 甗	表土 口縁部片					白色鋇物粒/還元 焰/黒	ロクロ整形(右回転か)。口縁部は外方に肥厚し断面三角形 をなす。割れ口3辺の内の2辺は磨かれ平滑に調整されて おり破片を二次利用したことが考えられる。	
遺外 99	第247図 PL.一	須恵器 甗	表土 胴部～底部片					白色鋇物粒・黒色 鋇物粒少量/還元 焰/灰白	外面の底部近くは手持ちヘラ削り、内面にはロクロ目を良く 残す。	
遺外 100	第247図 PL.一	須恵器 甗	埋没土 口縁部片					白色鋇物粒・黒色 鋇物粒/還元焰や や軟質/灰	紐づくり、ロクロ整形、内外面とも横撫で。	
遺外 101	第247図 PL.一	須恵器 甗	表土 頸部～胴部片					粗砂粒・石英粒/ 還元焰・焼締/灰	ロクロ整形(右回転)。胴部外面に平行叩き痕、内面は撫で。	
遺外 102	第248図 PL.一	須恵器 甗	表土 口縁～肩部片	口	23.8			白色鋇物粒/還元 焰/灰	叩き整形。口縁部は横撫で。胴部内面には当て具痕の上に 撫でを重ねる。	口縁部内面、 胴部外面に自然 釉厚く付着
遺外 103	第248図 PL.一	須恵器 甗	東部表土 口縁部片					白色鋇物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。口縁部中位に沈線が巡り肥厚。外面 に4本1単位のハケ目状工具による波状文が廻る。	
遺外 104	第248図 PL.156	須恵器 円面硯	表土 破片	口	11.4			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。硯面の周囲に堤が巡るが、先端は 欠損する。脚部に長方形の透孔が配されていたと考えられ る。	C446と同一か る。
遺外 105	第248図 PL.一	埴輪 円筒	表土 基部片					粗砂粒・結晶片岩・ 白色鋇物粒/良好/ にぶい赤褐	外面は縦ハケ(10本/2cm)、内面基部成形時の粘土板の木 目痕の上に縦ヘラ状工具痕。外面に底部調整(ヘラ状工具 による押圧)が見られる。	
遺外 106	第248図 PL.一	土製品 羽口	南東部表土 破片					粗砂粒・スサ/酸 化焰/灰白	直径に大きな変化はない。	被熱を受け変 色・変質・一 部に炭素吸着

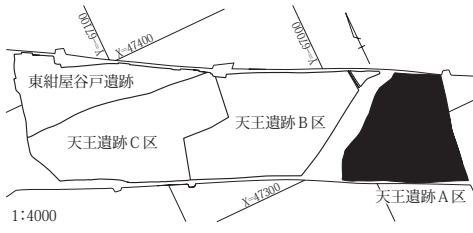
東紺屋遺構外出土遺物

遺外 5	第248図 PL.156	須恵器 甗	埋没土 破片					細砂粒/還元焰/灰	外面叩き目痕、内面は同心円状の当て具痕。外面に枳形の 押印。	
遺外 6	第248図 PL.156	石製品 砥石	表土 1/2	長 幅	(6.3) 3.2	厚 重	2.5 71.0	砥沢石	四面使用。良く使い込んで砥面は研ぎ減り、形状は糸巻状 に近い。	切り砥石
遺外 7	第248図 PL.156	礫石器 凹石	表土 完形	長 幅	12.6 9.6	厚 重	5.6 840.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも中央付近に径3cm程の孔を穿つ。孔内面は丁寧 に整形されている。	楕円礫

天王遺構外出土金属

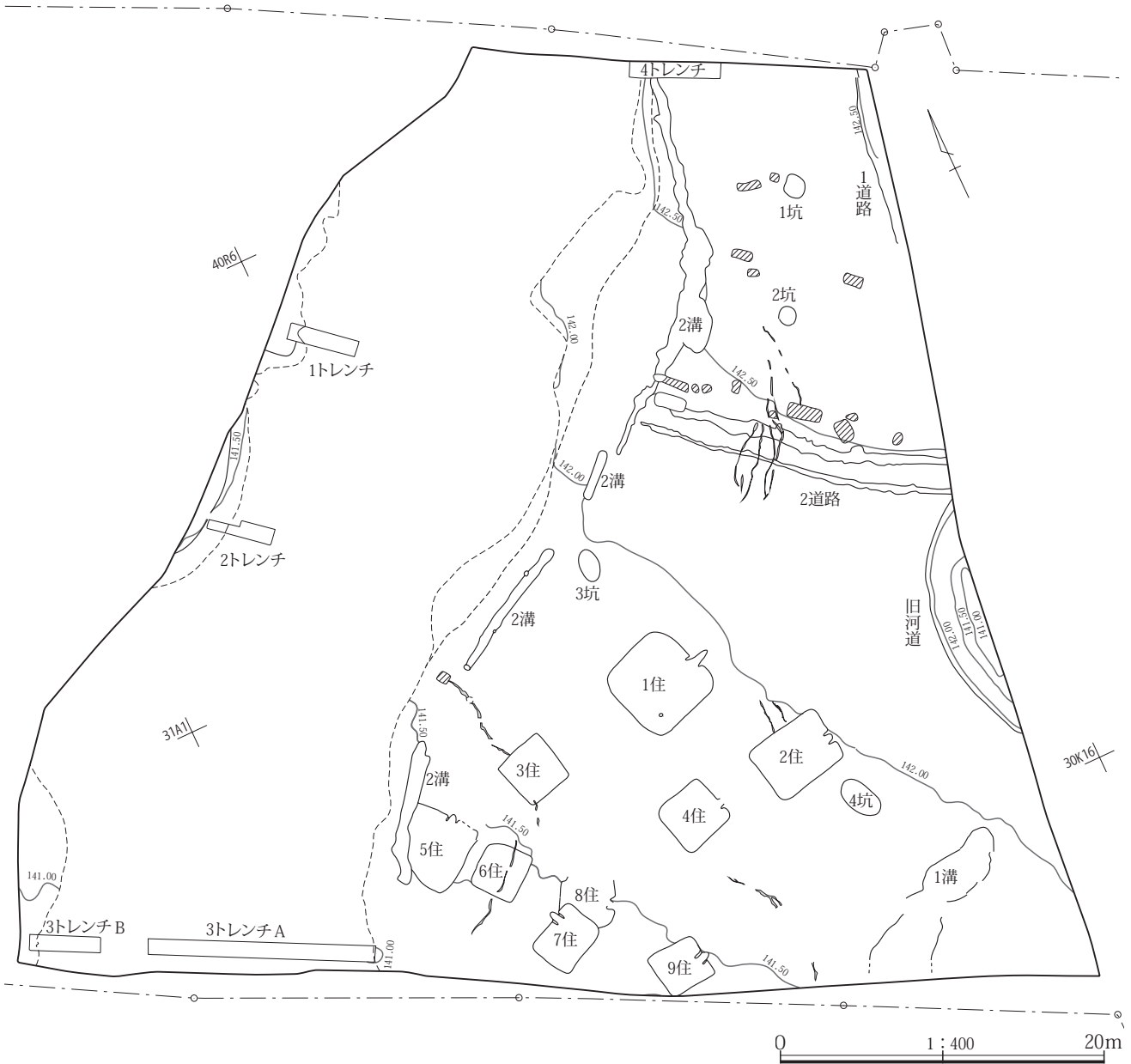
遺外 107	第248図 PL.156	金属製品 鎌	表土 1/4	長 幅	8.1 4.7	厚 重	0.9 49.0		柄装着部は右端半分ほどを直角に折り曲げた鎌で、柄装着 部から6cm程で劣化後破損している。	
遺外 108	第248図 PL.156	金属製品 薄板状鉄製 品	攪乱 破片	長 幅	3.2 2.0	厚 重	0.4 4.8		幅2cm厚さ0.2cm程の長方形の薄板状鉄製品で一短辺は劣 化後破損する。	
遺外 109	第248図 PL.156	金属製品 刀子	表土 1/2	長 幅	6.0 1.2	厚 重	0.4 5.04		棟に関を有する刀子で、茎は緩やかに折れ曲がり劣化前の 破損と考えられる。刃は関から緩やかに幅を狭め研ぎ減り とみられる。	
遺外 110	第248図 PL.156	金属製品 不詳	表土 破片	長 幅	3.3 3.4	厚 重	0.6 10.6		直角の角を有する薄板状鉄製品で、他の部分は劣化後破損 しており全体形状は不明。	
遺外 111	第248図 PL.156	金属製品 不詳	攪乱 破片	長 幅	3.8 1.1	厚 重	0.8 4.8		断面長方形の厚板状の鉄製品で一端では薄くなるが、刃や 茎等の特別な形状は確認できない。	
遺外 112	第248図 PL.156	金属製品 不詳	表土 破片	長 幅	3.1 3.0	厚 重	0.7 11.4		厚さ0.4cm程の板状の鉄製品で周囲は破損しさらに錆化が 著しく本来形状・名称等は不明。	
遺外 113	第248図 PL.156	金属製品 不詳	攪乱 破片	長 幅	4.2 1.8	厚 重	0.7 6.3		断面狭三角形で三日月形の鉄製品、錆化が著しく本来形状 等は不明。	
遺外 114	第248図 PL.156	金属製品 不詳	攪乱 破片	長 幅	5.7 1.9	厚 重	0.6 8.1		薄板状の鉄製品で劣化が著しく本来形状は不明。	
遺外 115	第248図 PL.156	金属製品 角釘	表土 1/3	長 幅	5.4 0.9	厚 重	0.7 5.0		断面ほぼ正方形で先端部で急に細くなり尖る。頭部分は劣 化後破損し、頭部形状・全長は不明。	
遺外 116	第248図 PL.156	金属製品 不詳	埋没土 1/4	長 幅	3.8 0.8	厚 重	0.6 4.9		断面正方形の角棒状鉄製品で、両端とも不規則な形で錆に 覆われており、破損後劣化したと見られる。	
遺外 117	第248図 PL.156	金属製品 角釘	表土 1/3	長 幅	4.9 0.9	厚 重	0.8 5.6		断面長方形の角釘で先端部は破損し錆に覆われる。頭は薄 く広げて短く折り返している。	
遺外 118	第248図 PL.156	金属製品 角釘	表土 3/4	長 幅	7.7 1.1	厚 重	1.1 18.6		断面ほぼ正方形の角釘で先端部1cmほどで緩やかに直角に 曲がる。頭はやや広がるが折り曲げ等はなく四角である。	

第4章 検出された遺構と遺物

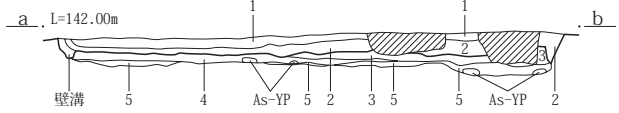
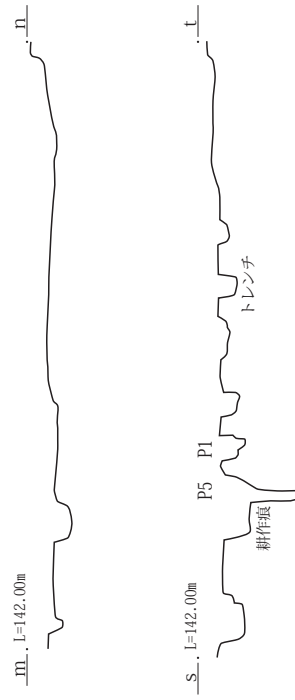
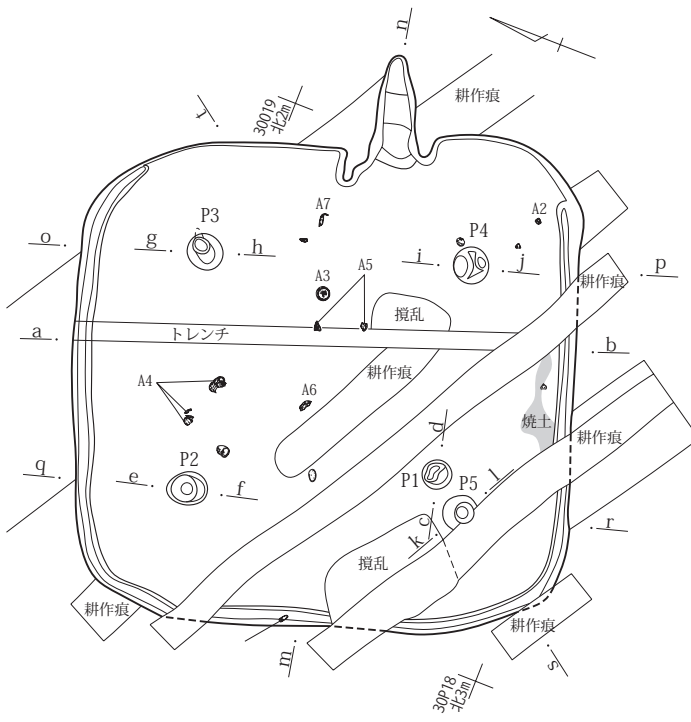


A区遺構集計

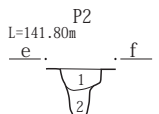
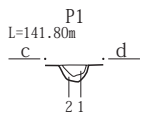
	1面	小計
住居	9	9
掘立柱建物	0	0
溝	1・2 うち溜井1	2
土坑	1~4	4
ピット	0	0
道路	1・2	2
その他	河道1	河道1



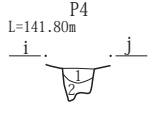
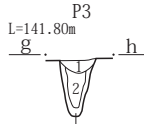
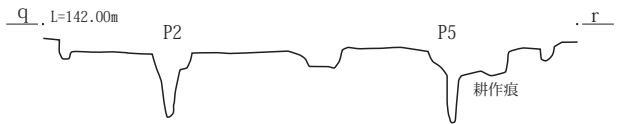
第12図 天王A区全体図



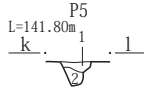
- a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・ロームブロック・赤色土を含む。
 - 2 褐灰色土10YR4/1 白色軽石粒を多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。2の下面が床面。
 - 3 暗褐色土10YR3/3 ローム粒子・ロームブロック・白色軽石粒を含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・ローム粒子・As-YPを含む。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR5/4 As-YP・ロームブロックを含む。4よりAs-YP多い。



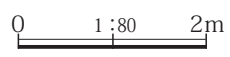
- P1 c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・黄色粒を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
- P2 e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックの混土。ローム粒子を含む。
 - 2 1より締りなし。ロームブロックを含む。



- P3 g-h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量、白色軽石粒・ローム粒子を含む。
 - 2 1よりロームブロック多い。白色軽石を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・ローム粒子を含む。
- P4 i-j
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石粒・赤色土を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。

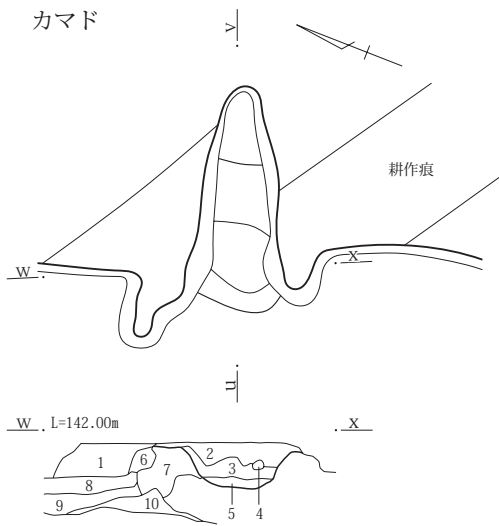


- P5 k-l
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。



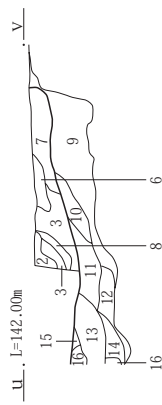
第13図 天王A区1住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物



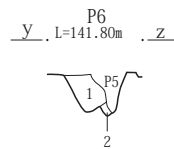
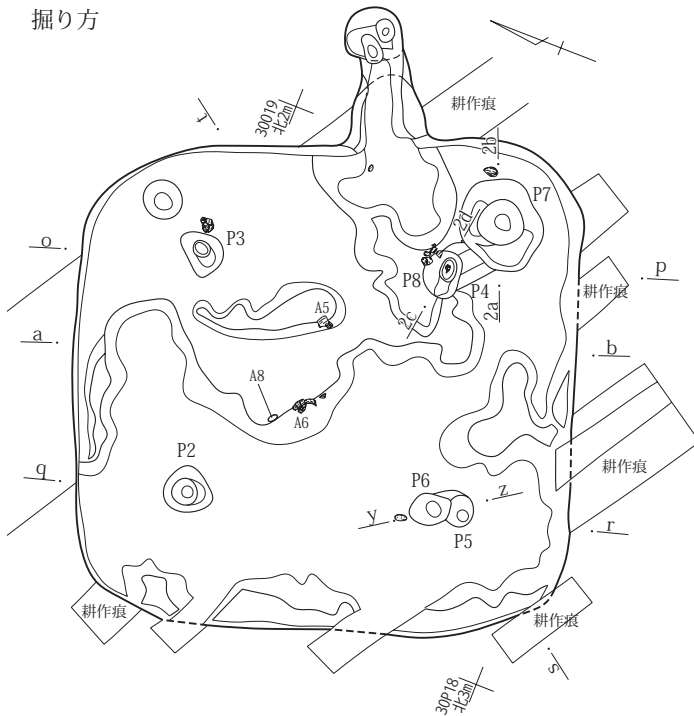
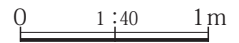
カマド w-x

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子・焼土・白色軽石粒を含む。住居覆土の一部。
- 2 1よりローム粒子多い。カマド粘土を含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR6/4 カマド構築粘土。白色軽石粒を含む。粘質。天井部崩落か。
- 4 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土多く、ローム粒子を含む。全体がブロック状。
- 5 4+カマド粘土。白色軽石を含む。
- 6 カマド構築粘土ブロック
- 7 にぶい黄褐色土10YR6/4 カマド構築粘土。白色軽石粒を含む。
- 8 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石粒を含む。
- 9 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・焼土粒・粘土粒を含む。
- 10 7+As-YP。軽石の粒が大きい。



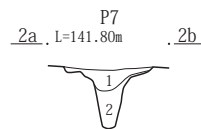
カマド u-v

- 2 ローム粒子多い。カマド粘土を含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR6/4 カマド構築粘土。白色軽石粒を含む。粘質。天井部崩落か。
- 6 灰黄褐色土10YR5/2 ローム粒子・白色軽石粒を含む。
- 7 灰黄褐色土10YR4/2 焼土を多く、ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 8 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・白色軽石粒を少量含む。
- 9 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・焼土粒を含む。
- 10 灰黄褐色土10YR6/2 カマド構築粘土の一部。
- 11 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土ブロック・粘土粒・ローム粒子・炭化物を含む。
- 12 にぶい黄褐色土10YR5/3 11より焼土少ない。
- 13 灰黄褐色土10YR4/2 カマド粘土。焼土・ローム粒子・白色軽石粒を含む。
- 14 黒褐色土10YR3/2 カマド粘土。焼土・ロームブロックを含む。
- 15 灰黄褐色土10YR4/2 13より粘土・焼土少ない。
- 16 カマド構築粘土ブロック。



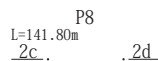
P6 y-z

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック混土。白色軽石粒を含む。
- 2 1層にローム粒子を含む。



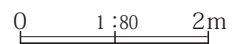
P7 2a-2b

- 1 黒褐10YR3/2 ローム粒子・焼土を含む。サラサラ。
- 2 黒褐10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。



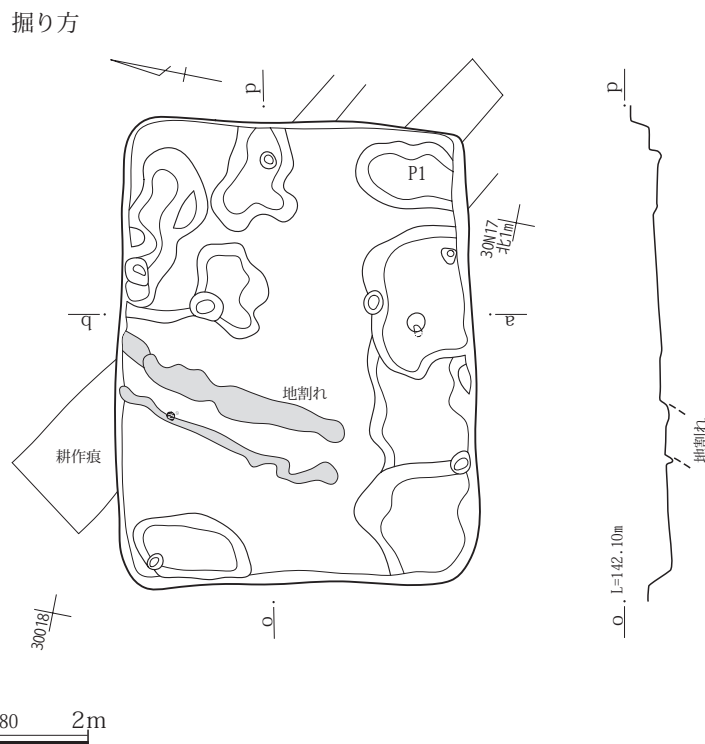
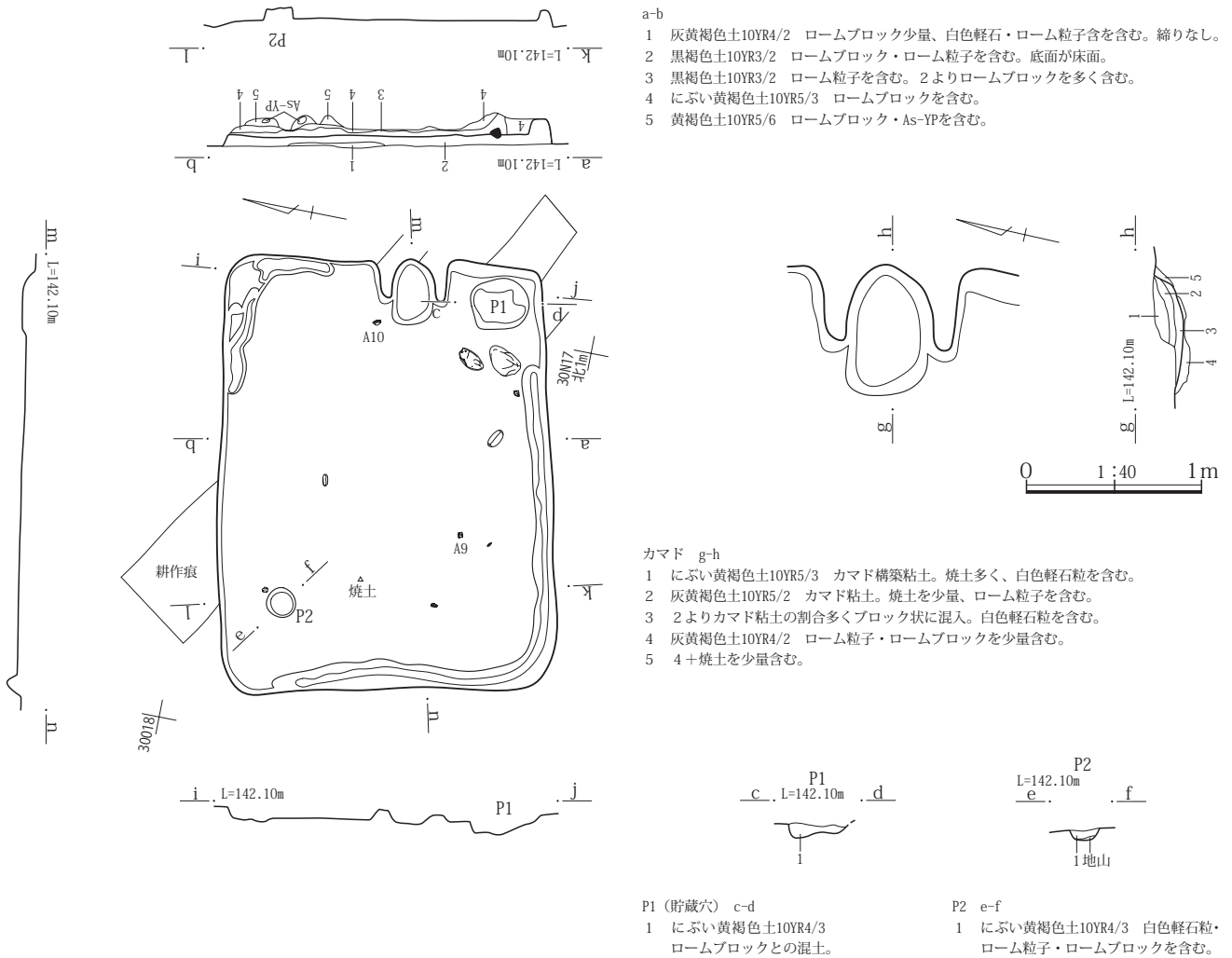
P8 2c-2d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。サラサラ。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック混土。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 2層よりロームブロックの割合多い。



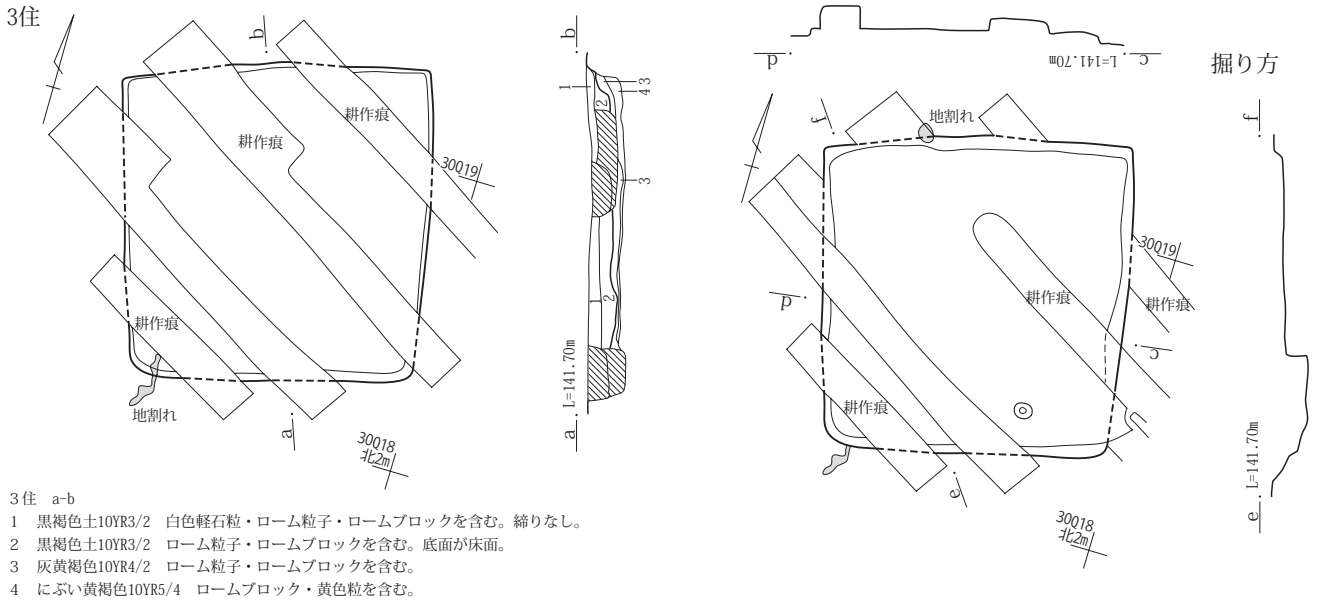
第14図 天王A区1住居(2)

遺構図(天王A区)

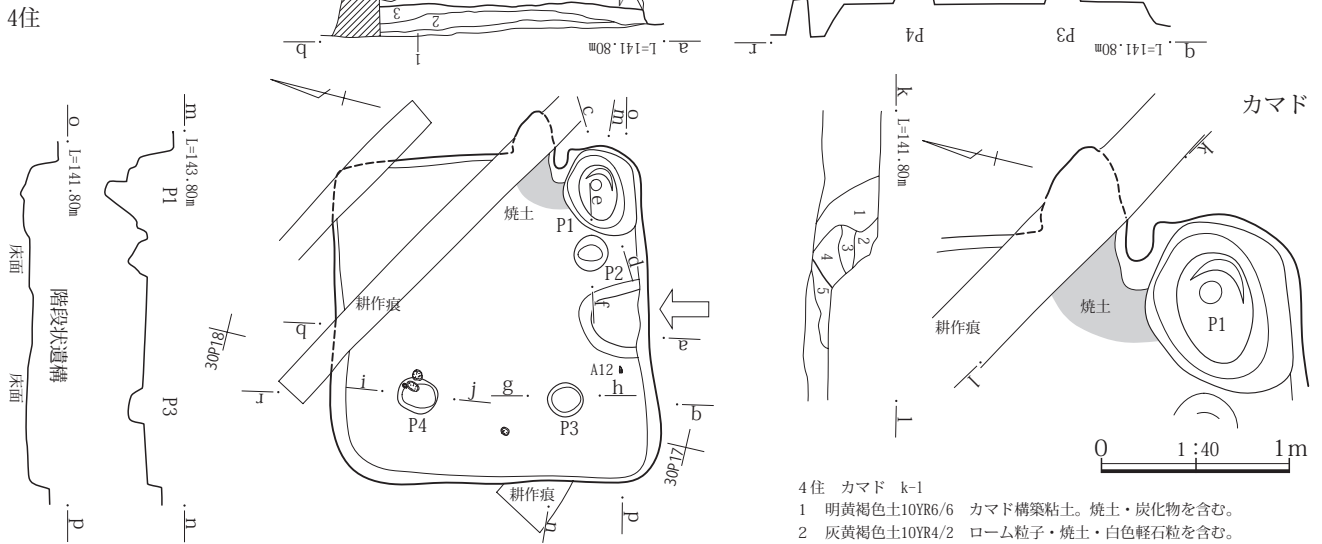


第15図 天王A区2住居

第4章 検出された遺構と遺物

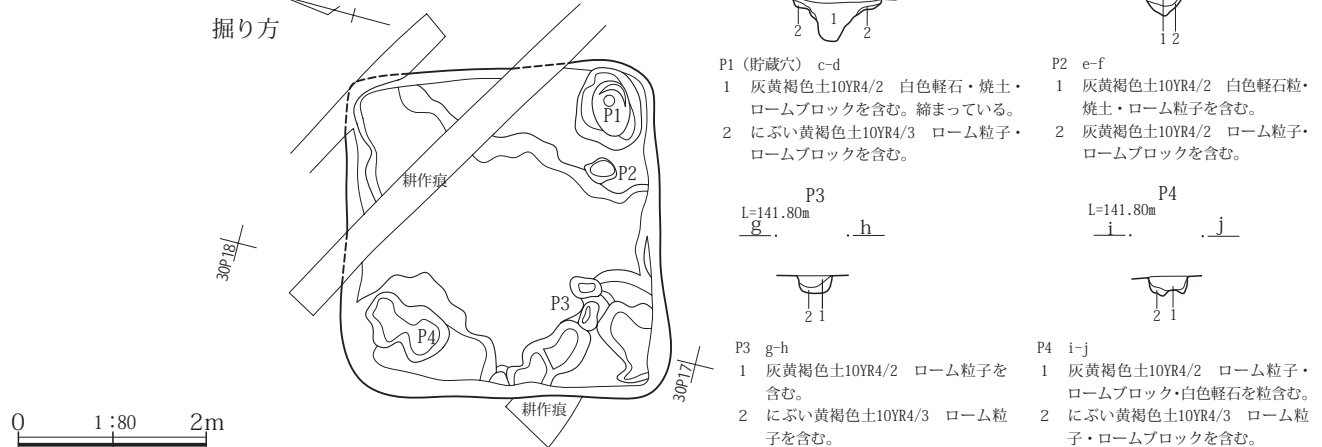


- 3住 a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・ローム粒子・ロームブロックを含む。締りなし。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。底面が床面。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR5/4 ロームブロック・黄色粒を含む。



- 4住 a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・黄色粒を含む。締りなし。
 - 2 1より白色軽石粒を多く含む。赤色土を含む。
 - 3 暗褐色土10YR3/3 白色軽石多く含む。ローム粒子・赤色土・黄色粒を含む。底面が床面。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ローム粒子・赤色土を含む。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。

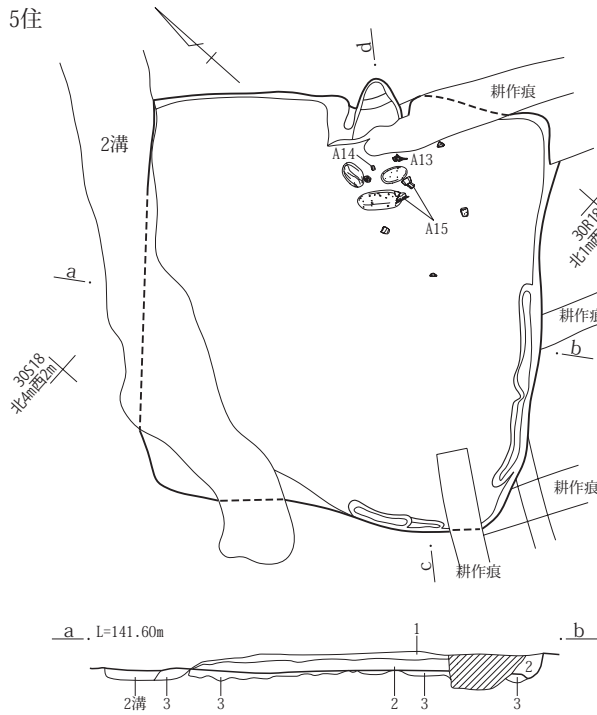
- 4住 カマド k-1
- 1 明黄褐色土10YR6/6 カマド構築粘土。焼土・炭化物を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・焼土・白色軽石粒を含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR5/2 カマド粘土。焼土・炭化物を含む。
 - 4 2より炭化物・焼土を多く含む。5との境界が最終使用面とみられる。
 - 5 1とほぼ同じ。焼土を多く含む。カマドの左袖基部と推定。



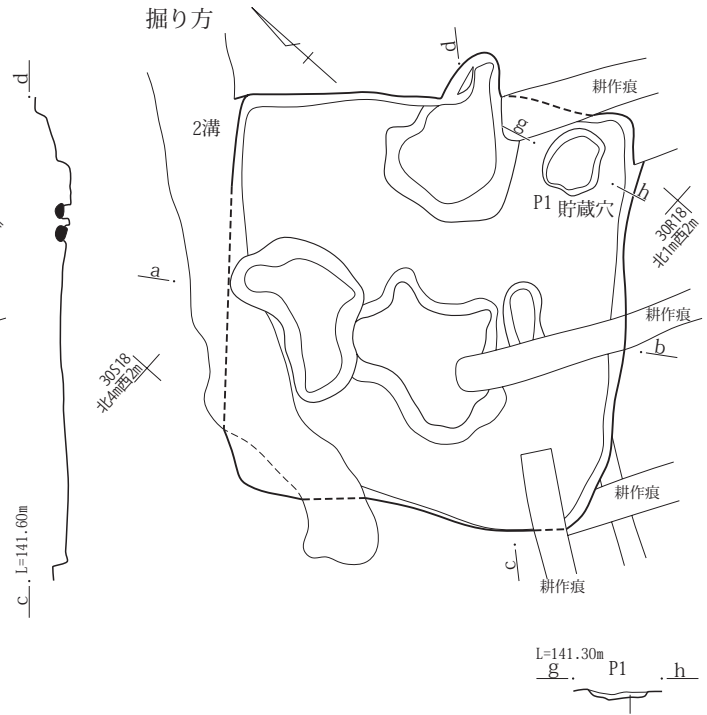
- P1 (貯蔵穴) c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・ロームブロックを含む。締まっている。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- P2 e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・焼土・ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- P3 g-h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。
- P4 i-j
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロック・白色軽石を粒含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。

第16図 天王A区3・4住居

5住



掘り方



5住 P1 g-h

1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・白色軽石粒・黄色粒子を含む。

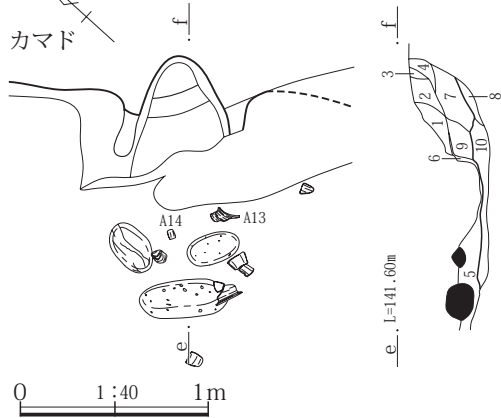
a-b

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
- 2 1よりローム粒子の割合多い。ロームブロックの塊が大きい。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。床面を形成する土。

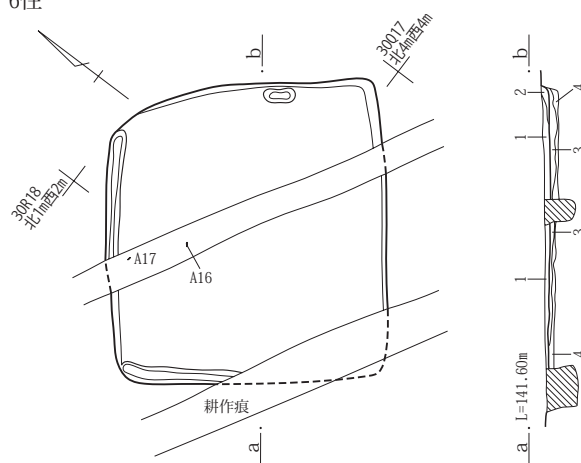
カマド e-f

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 カマド粘土の一部。白色軽石粒を含む。焼土を多く含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 カマド構築土の一部。粘質。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。カマド粘土の一部。焼土を含む。
- 6 にぶい黄褐色土5/3 ローム粒子・焼土・炭化物を含む。カマド粘土の一部。
- 7 2とほぼ同じ。焼土・白色軽石を含む。
- 8 7に似る。As-YP含む。
- 9 灰黄褐色土10YR4/2 カマド粘土。焼土・ローム粒子を含む。
- 10 黒褐色土10YR3/2 カマド粘土・ローム粒子・ロームブロックを含む。

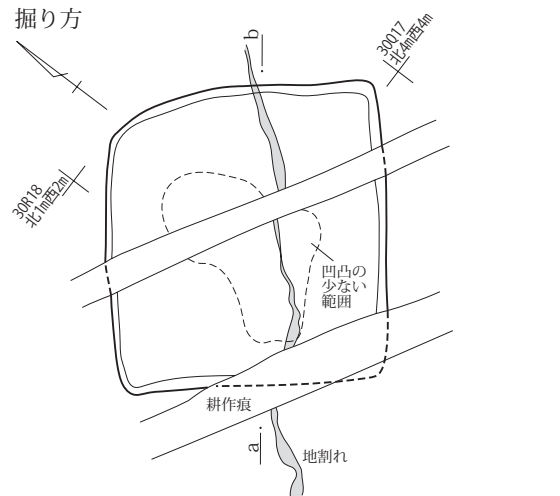
カマド



6住



掘り方

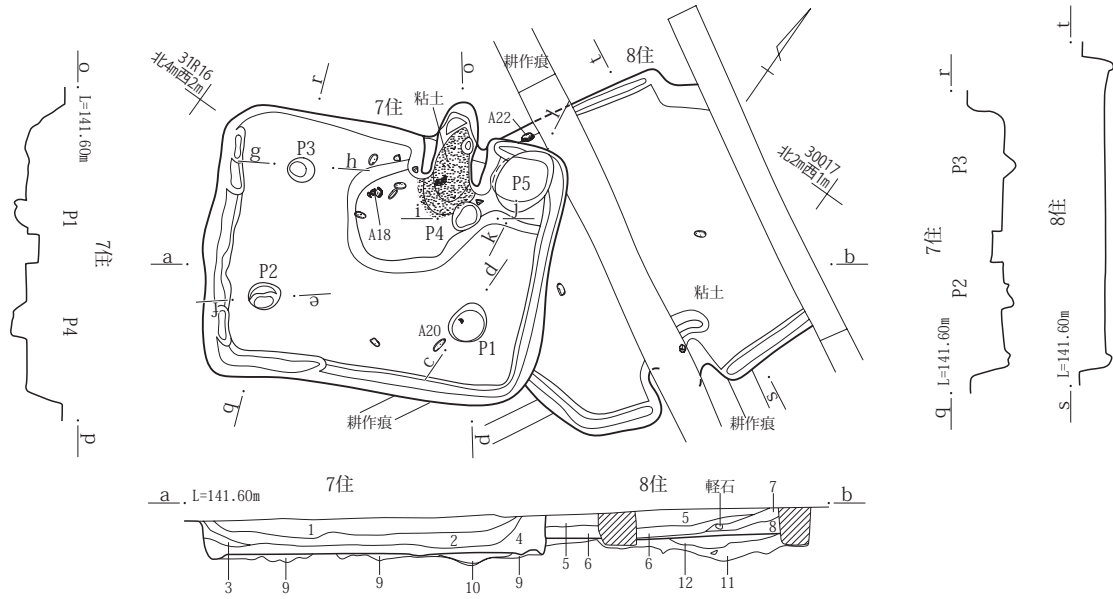


6住 a-b

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石粒を含む。締りなし。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締りなし。
- 3 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロック・白色軽石粒を含む。床面を形成する土。
- 4 にぶい黄褐色土10YR6/3 ローム粒子・白色粒子を含む。

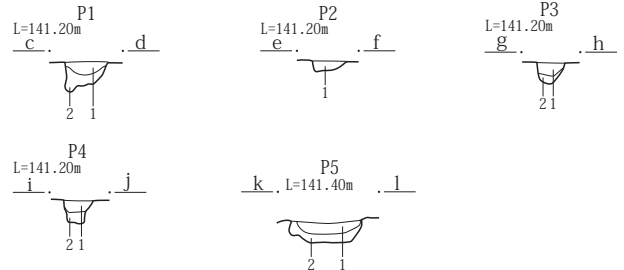
第17図 天王A区5・6住居

第4章 検出された遺構と遺物



7・8住 a-b

- 1 暗褐色土10YR3/3 白色軽石を多く、黄色粒子・赤色土を含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子・ロームブロック・焼土を含む。
- 3 2よりローム粒子の割合多い。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロック・焼土を含む。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・黄色粒・ローム粒子・赤色粒を含む。
- 6 5よりロームブロックが大きい。焼土を含む。
- 7 灰黄褐色土10YR6/2 焼土混じりのカマド粘土。白色軽石・炭化物を含む。
- 8 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 9 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。床面を形成する土。
- 10 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・焼土粒を含む。
- 11 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子を含む。
- 12 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロック・黄色粒を含む。



7住 P1 c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 赤色土・ロームブロックを含む。

7住 P2 e-f

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 赤色土・白色軽石粒・ローム粒子を含む。

7住 P3 g-h

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。

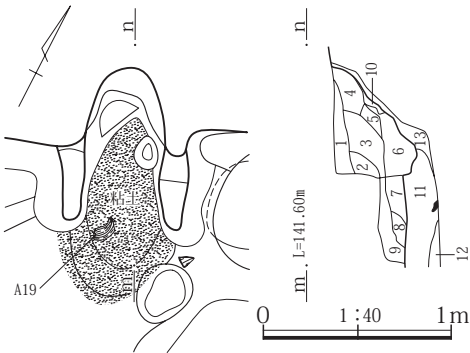
7住 P4 i-j

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 赤色土・白色軽石粒・ローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石・赤色土を含む。

7住 P5 k-l

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・焼土粒・ローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・As-YPを含む。

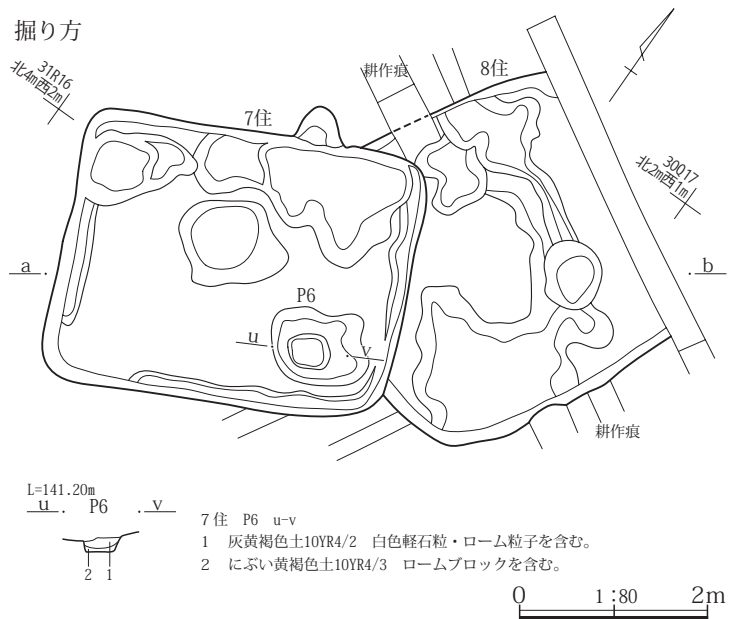
7住カマド



7住 カマド m-n

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ローム粒子・焼土・炭化物を含む。カマド構築粘土の一部。
- 2 暗褐色土10YR3/3 ローム粒子・焼土粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR6/3 焼土を多量含む。カマド構築粘土の一部。粘質。
- 4 1より焼土少ない。粘土ブロック混じる。ローム粒子を多く含む。
- 5 2とほぼ同じ。炭化物を少量含む。
- 6 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。
- 7 6に焼土を多量に含む。
- 8 6に焼土・黄色粒を含む。
- 9 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒・粘土・ローム粒子を含む。
- 10 6とほぼ同じ。粘土粒混じり。
- 11 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・焼土・白色軽石粒を含む。
- 12 にぶい黄褐色土10YR5/4 ロームブロック・As-YPブロックを含む。
- 13 12にローム粒子を含む。

掘り方

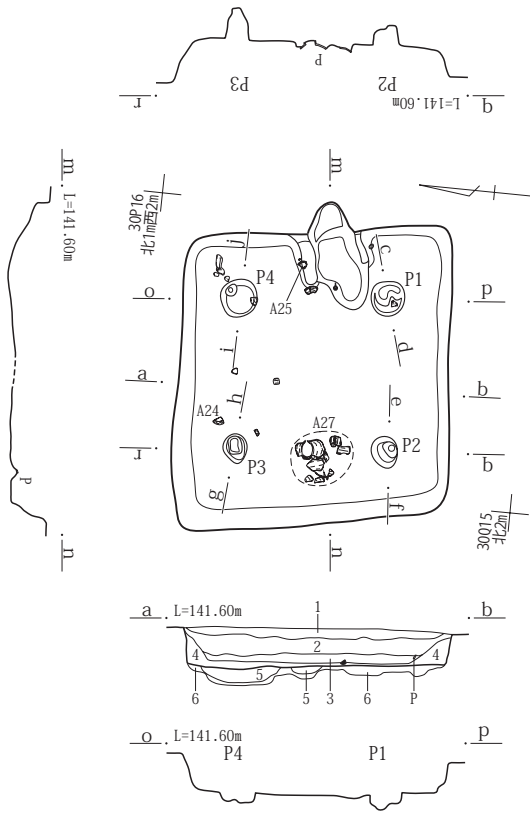


L=141.20m

7住 P6 u-v

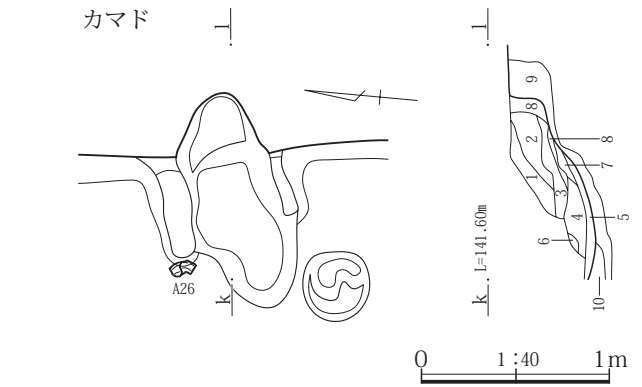
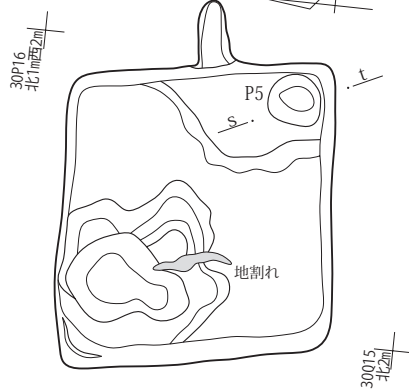
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。

第18図 天王A区7・8住居

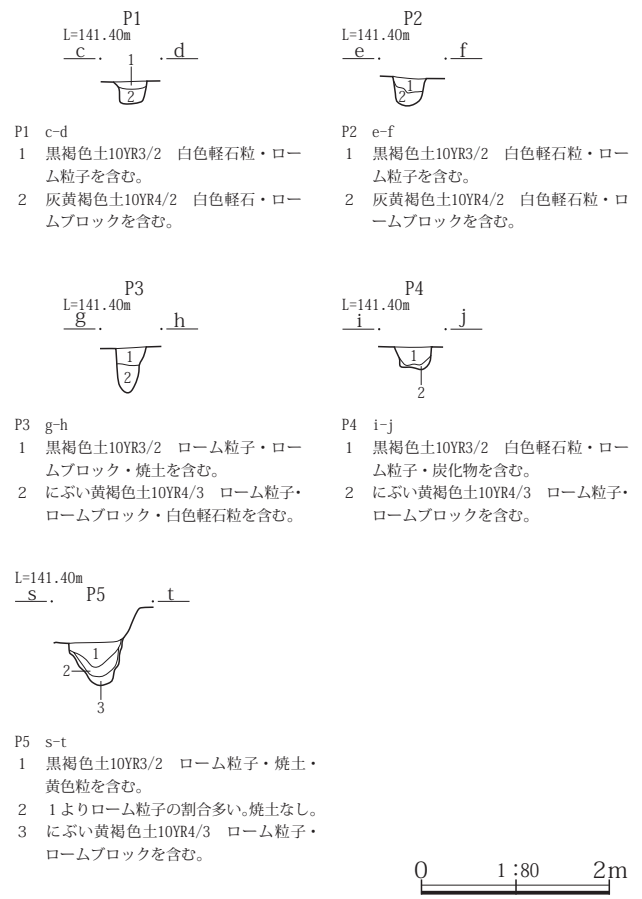


- a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締りなし。
 - 2 1より白色軽石を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 3 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 4 3よりローム粒子の割合多い。底面が床面。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・白色軽石粒・ローム粒子を含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロック・白色軽石粒を含む。

掘り方

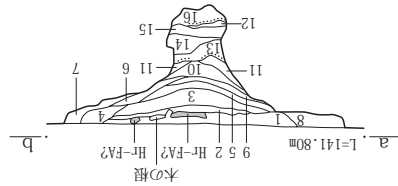
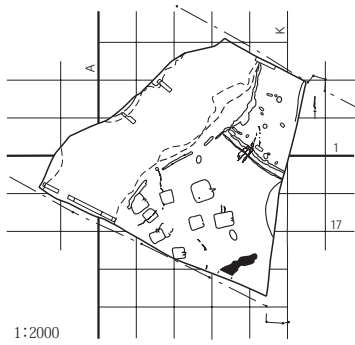


- カマド k-l
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・焼土・ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・焼土粒を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・カマド粘土・焼土混じりの粘土を含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 カマド構築粘土の一部。焼土を含む。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・粘土・焼土粒を含む。
 - 6 灰黄褐色土10YR4/2 焼土・粘土を含む。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 焼土を多く含む。
 - 8 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・焼土粒・白色軽石粒を含む。
 - 9 黒褐色土10YR3/2 焼土・ローム粒子・白色軽石粒を含む。
 - 10 9よりローム粒子の割合が多い。



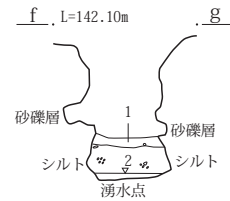
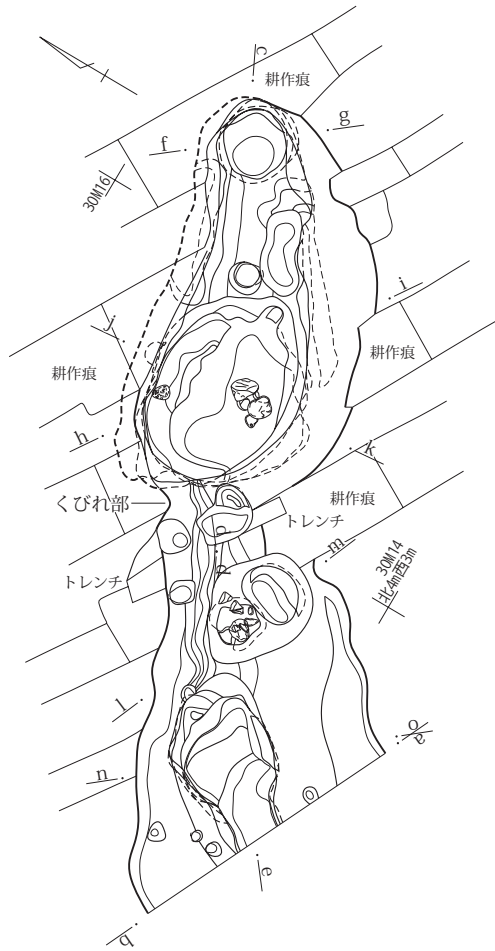
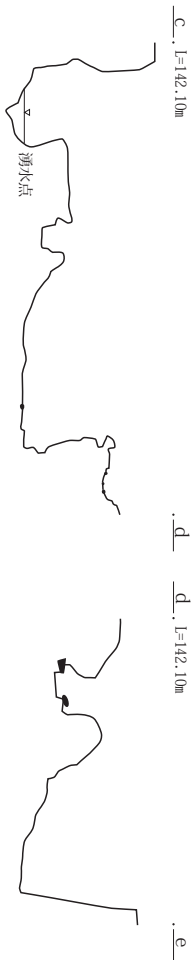
- P1 c-d
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
- P2 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ロームブロックを含む。
- P3 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロック・焼土を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロック・白色軽石粒を含む。
- P4 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・ローム粒子・炭化物を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- P5 s-t
- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・焼土・黄色粒を含む。
 - 2 1よりローム粒子の割合多い。焼土なし。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。

第4章 検出された遺構と遺物



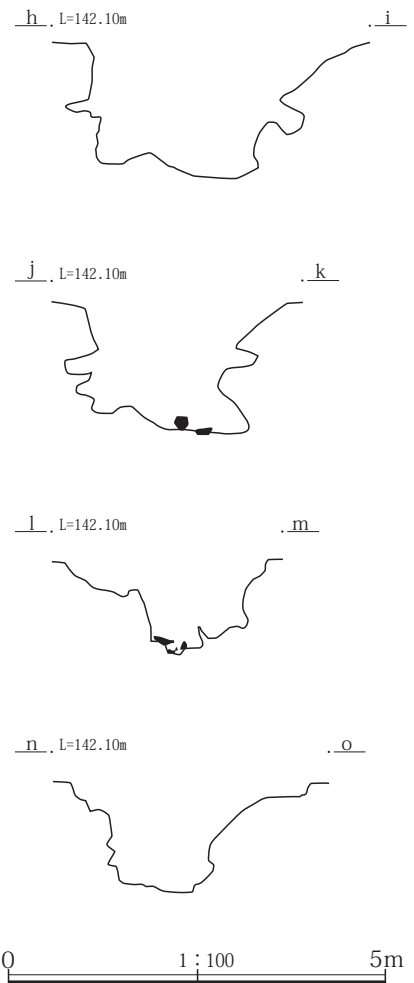
a-b

- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。ロームブロック混土。
- 2 黒褐色土10YR3/1 ローム粒子を含む。締りなし。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。黒色土が少し混じる。
- 4 3とほぼ同じだが、黒色土の混じりが多い。白色軽石を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を多量含む。
- 6 5とほぼ同じだが、白色軽石粒を含む。
- 7 灰黄褐色土10YR5/2 ローム粒子・白色軽石粒を含む。
- 8 1とほぼ同じだが、ロームブロックが大きい。
- 9 5とほぼ同じ。白色軽石粒を含む。
- 10 灰黄褐色土10YR5/2 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土10YR6/4 ローム粒子・黄色粒・白色軽石を含む。
- 12 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子を含む。
- 13 11の直下は1~2cmほどの小石。その下は川砂。
- 14 0.5~1cmほどの小石が隙間なく堆積。
- 15 数ミリの川砂。中に小石が少し混じる。
- 16 12直下は1cmほどの小石があるが、ほとんど川砂。

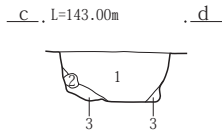
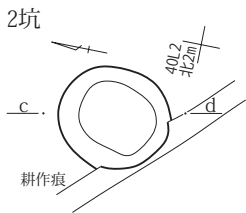
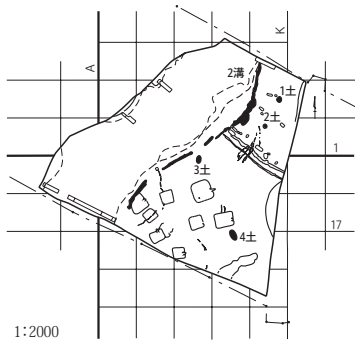


f-g

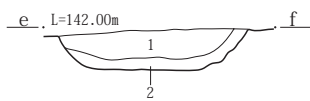
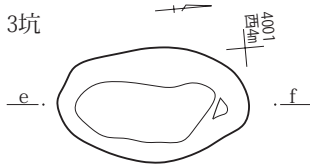
- 1 明黄褐色土10YR6/6 ローム粒子・赤色土粒・微細砂粒を含む。
- 2 数mmから1cm大の小石と砂混じり。立ち上がりはシルト。



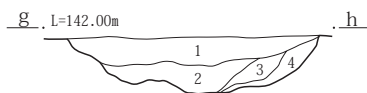
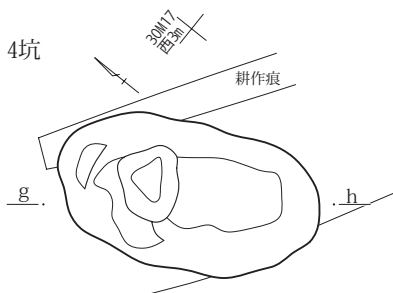
第20図 天王A区1溝(溜井)



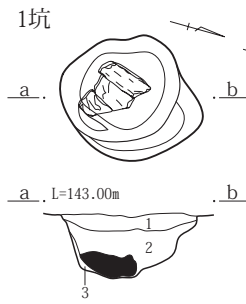
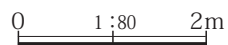
2坑 c-d
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を多く含む。縮まっている。
 2 にぶい黄褐色土10YR6/3 砂質。黄白色軽石を含む。鉄分沈着多い。ブロック状。
 3 1に似るがローム粒子なし。縮まっている。



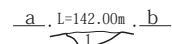
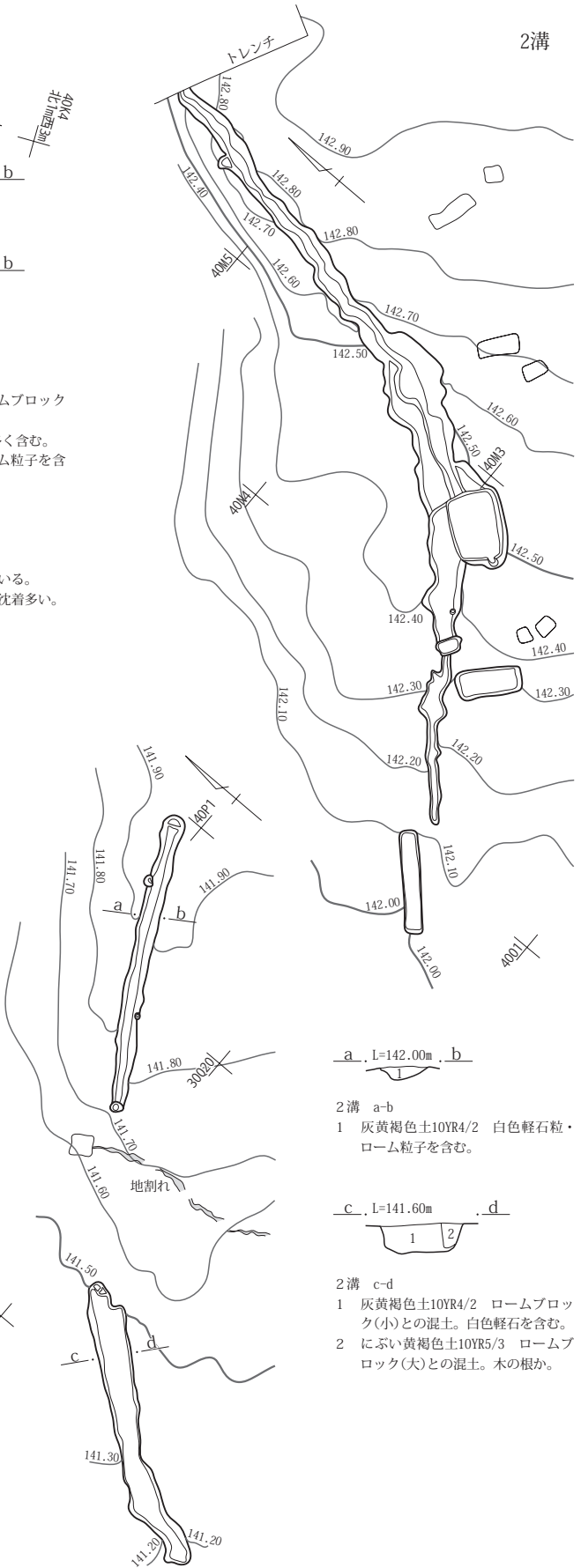
3坑 e-f
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
 2 明黄褐色土10YR6/6 汚れたローム。



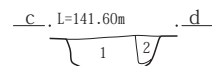
4坑 g-h
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを斑点状、黄白色軽石を含む。縮りなし。
 2 1に似るが黄白色軽石なし。
 3 1に似るが、硬く縮まっている。
 4 1にロームブロックを多く含む。縮りなし。



1坑 a-b
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少し含む。
 2 1に5~10cm大の小石を多く含む。
 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮りなし。



2溝 a-b
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。

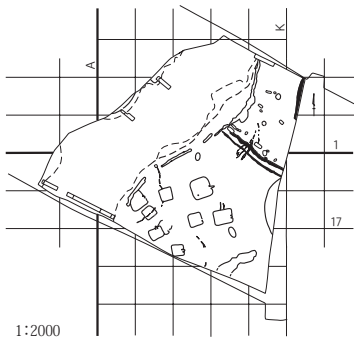


2溝 c-d
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック(小)との混土。白色軽石を含む。
 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロック(大)との混土。木の根か。

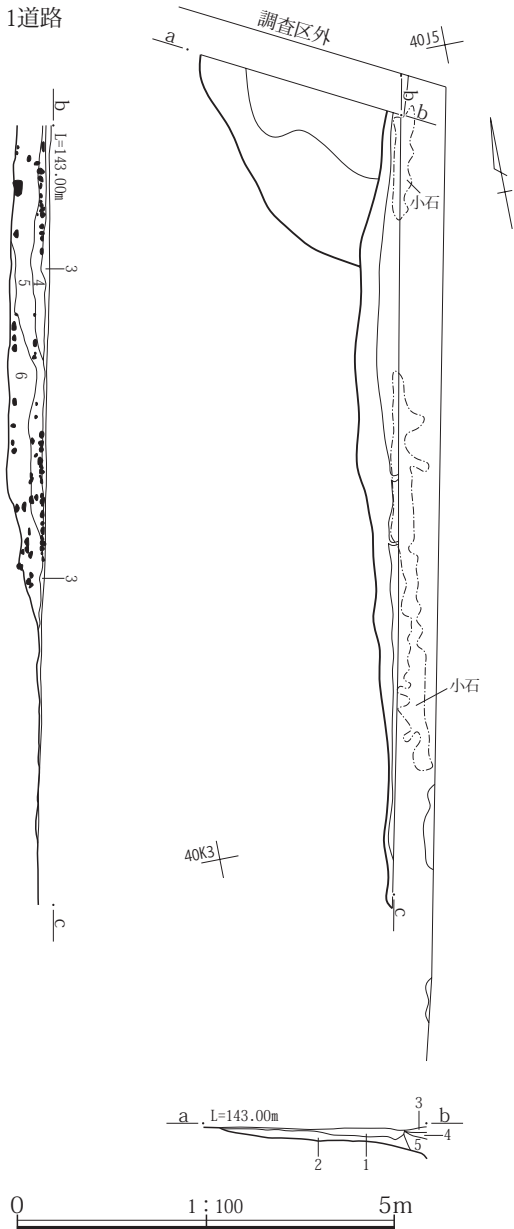


第21図 天王A区2溝、1~4土坑

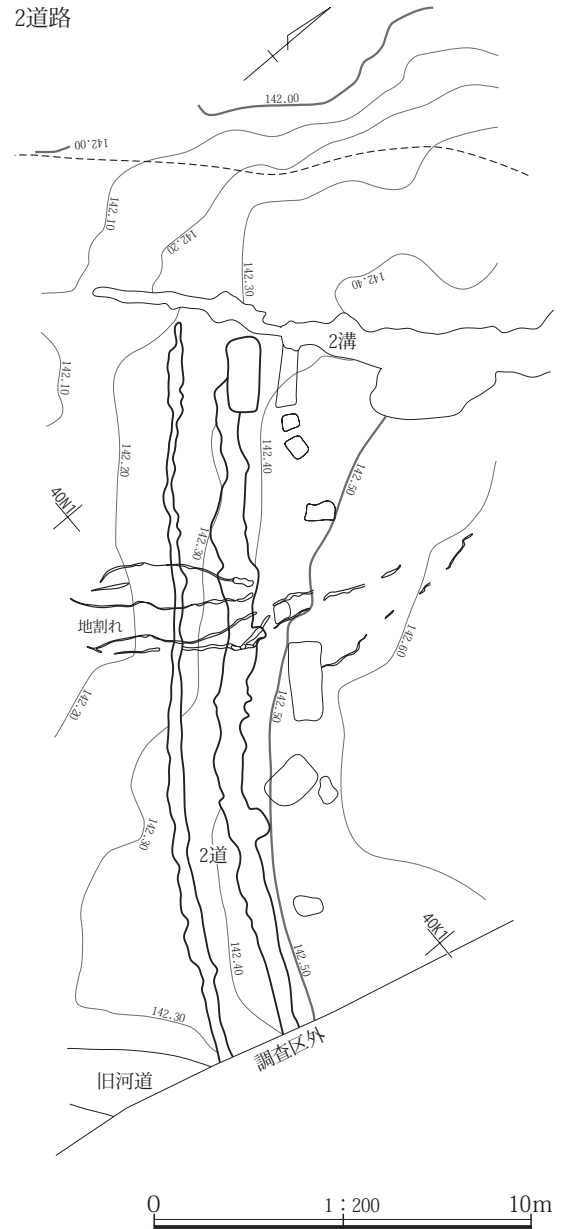
第4章 検出された遺構と遺物



1道路



2道路

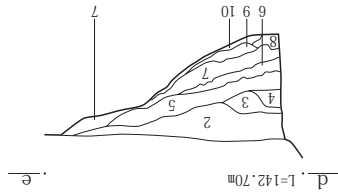
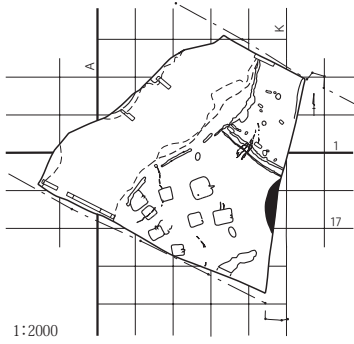


1道路 a-b-c

- 1 緑灰色土10G6/1 硬く締まっている。現代の盛り土。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロック混土。ローム層への漸移層。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 締まりなし。
- 4 3よりも明るく、ローム粒子・拳大の石を多く含む。もとの道路面を形成する土。
- 5 3に拳大の石を多く含む。締りなし。
- 6 5より黄色味あり。黄褐色粒を含む。締りなし。

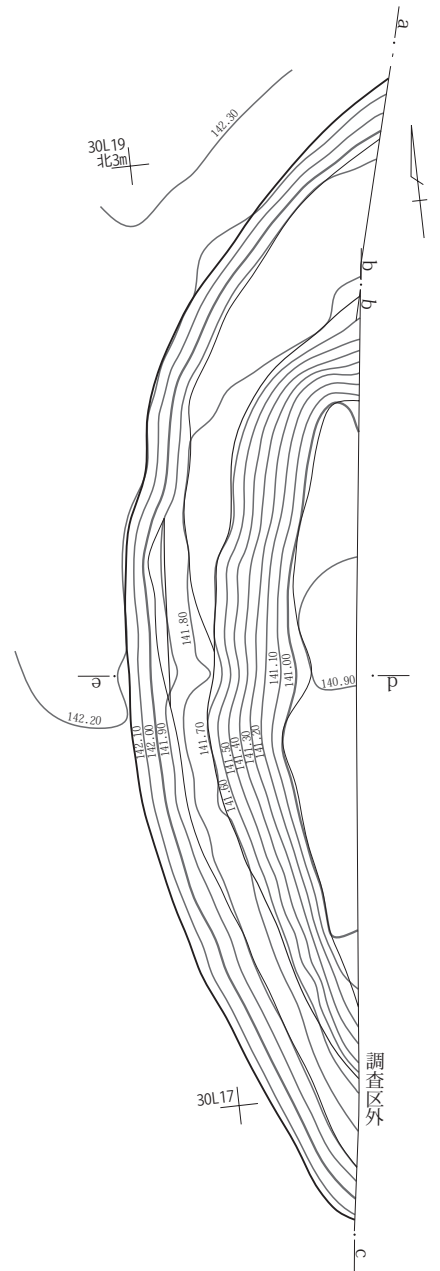
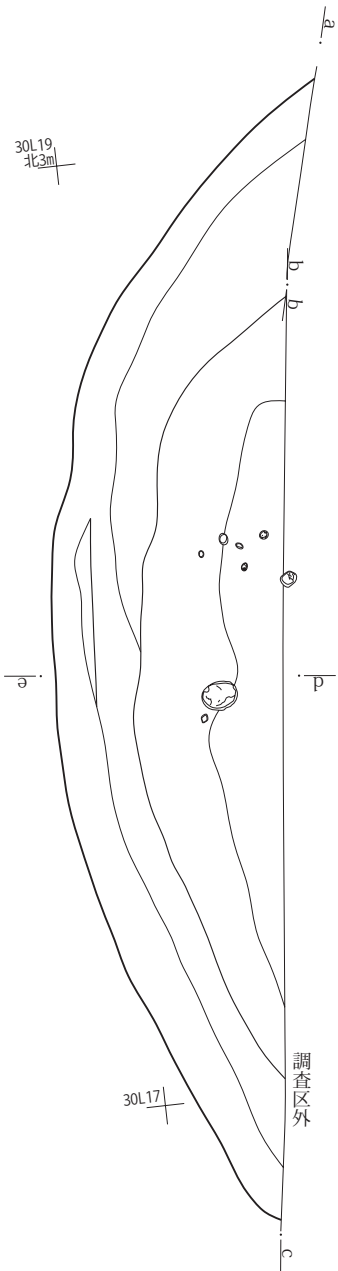
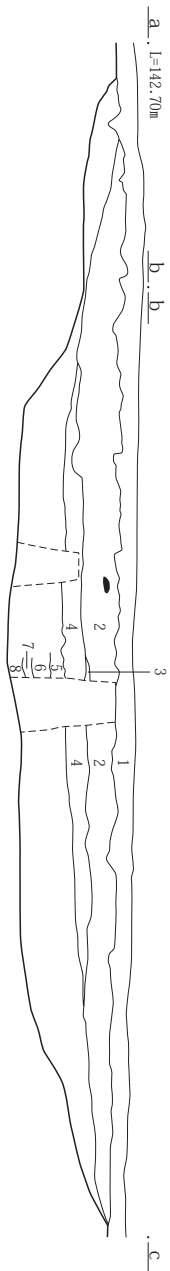
第22図 天王A区1・2道路

遺構図(天王A区)

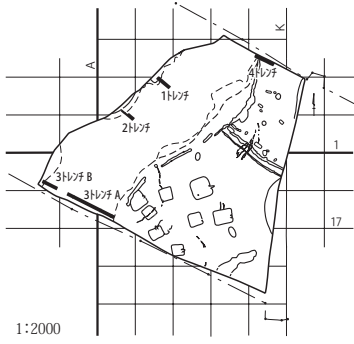


a-b-c,d-e

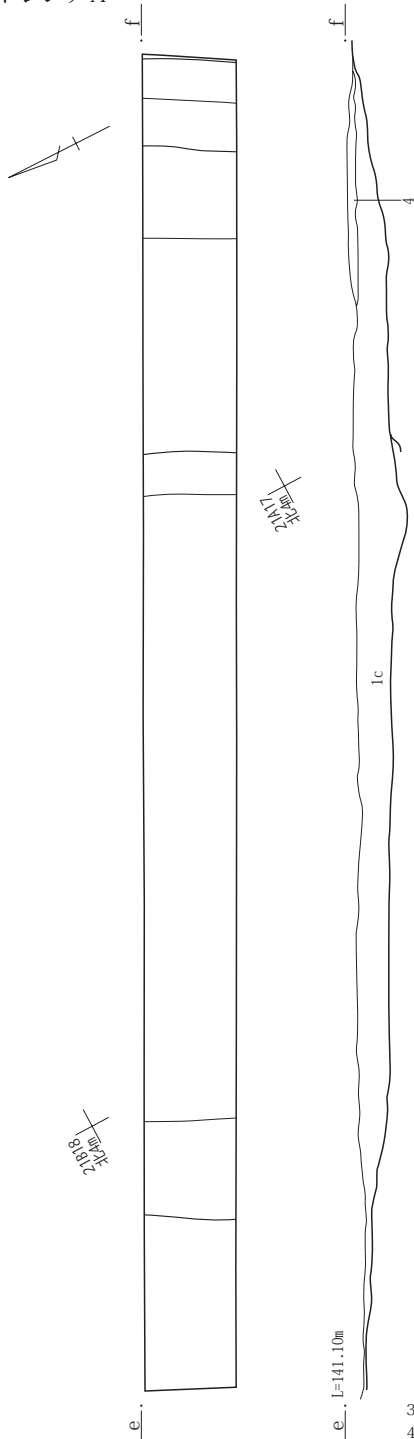
- 1 現代盛り土
- 2 褐灰色土10YR4/1 白色軽石・黄色軽石・黄色粒を含む。軽石を多く含む層。
- 3 黒褐色土10YR3/1 白色軽石粒・黄色粒5mm程を含む。軽石を多く含む層。
- 4 2より軽石の大きさが小さい。混ざり具合が少ない。軽石を多く含む層。
- 5 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・黄色粒を含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 黄色軽石・白色軽石径5mm程を含む。
- 7 黒褐10YR3/2 ローム粒子を含む。
- 8 鉄分混じりのシルト。
- 9 灰黄褐色土10YR5/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
- 10 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子を含む。
- * 6~10 軽石が少ない、または含まない層。



第23図 天王A区旧河道



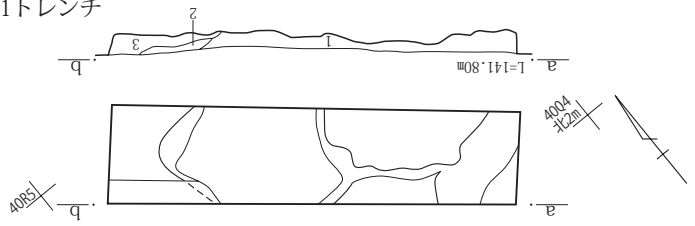
3トレンチA



3トレンチA e-f

4 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックなし。耕作土。1bに似るが縮りなし。

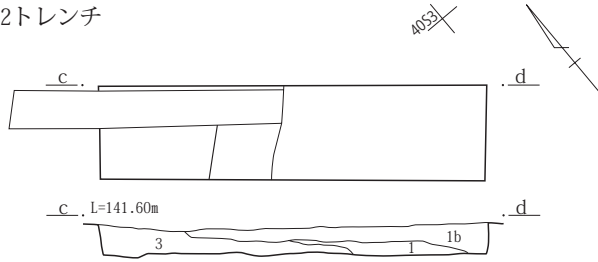
1トレンチ



1～3トレンチ a-b,c-d,e-f,g-h

- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。一部に10cm大のロームブロックを含む。縮りなし。低地を人工的に埋めた土。
- 2 灰白色土10YR8/2 シルト質。地山の風化土か。
- 3 明黄褐色土10YR7/6 シルト質。再堆積ロームか。軟らかい。

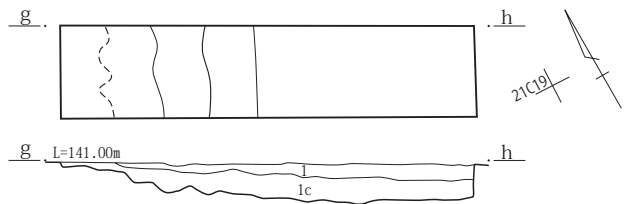
2トレンチ



2トレンチ c-d

1b 1に似るがロームブロックをほとんど含まない。現耕作土の一部か。

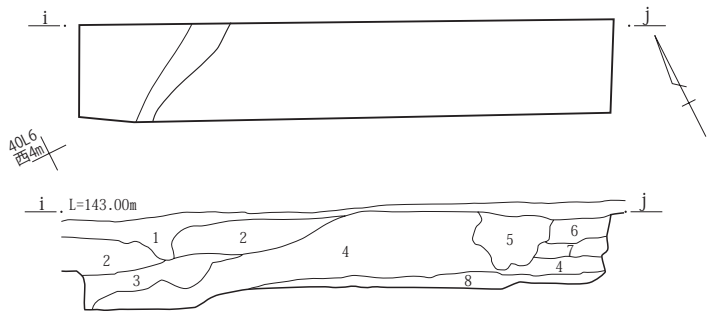
3トレンチB



3トレンチB g-h

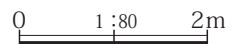
1c 1に似るが、ロームブロック少ない。川砂を多く含む。

4トレンチ

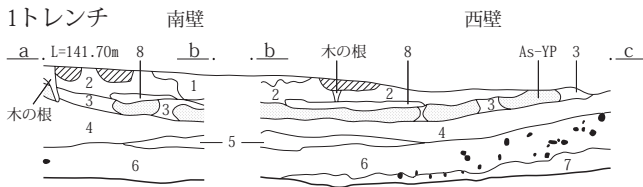
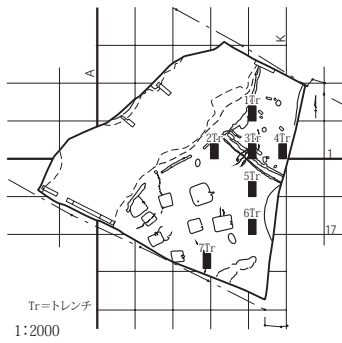


4トレンチ i-j

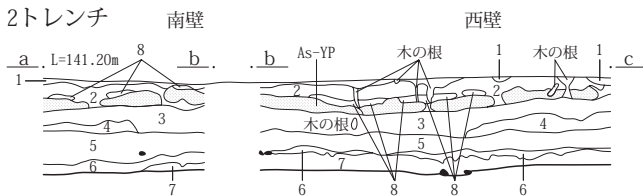
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 縮りなし。現耕作土。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 小石を少量、ローム粒子を含む。縮まっている。客土か。
- 3 2に5cm大の小石・ロームブロックを含む。縮りなし。
- 4 明黄褐色土10YR7/6 砂質。中位に灰色砂の硬い層を挟む。黄褐色土の硬いブロックあり。
- 5 にぶい黄褐色土10YR5/4 砂質土。5～10cm大の石を多く含む。
- 6 5に似る。石少ない。
- 7 5に似る。
- 8 緑灰色土10G6/1 シルト質。硬い。水分を多く含む。還元色か。



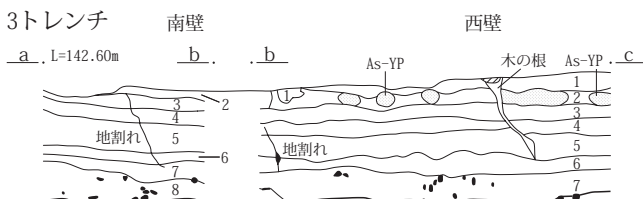
第24図 天王A区旧地形確認トレンチ



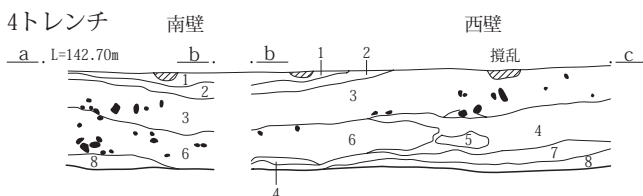
- 1トレンチ a-b-c
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR6/3 白色軽石・黄色軽石を含む。締まっている。
 - 3 明黄褐色土10YR7/6 As-YPブロック混在。白色軽石を含む。締まっている。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR7/4 粘質。白色・黄色軽石を含む。
 - 5 4よりやや暗い色。1~3cmの石が集まっている。
 - 6 4とほぼ同じ色相。10cmほどの石が堆積。粘質。
 - 7 上位から1cmは黒い層。その下2~5cmは赤茶色の層。シルト質。
 - 8 赤茶色土 灰色粒子が混じる。硬く締まる。



- 2トレンチ a-b-c
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締りなし。
 - 2 明黄褐色土10YR7/6 As-YPブロック混在。白色軽石・黄色粒を含む。締まっている。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR7/4 粘質。白色軽石を含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR7/4 1~5cm程の石を多く含む。3よりやや暗い色。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR7/4 3より粘質度が高い。シルト質。白色軽石を多く含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR7/4 5より軽石は少ないが粒子は大きい。赤茶色の部分が多い。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR7/4 上位から1cm程は黒い層。その下2~5cm程は赤茶色の層。シルト質。
 - 8 鉄分が沈着しており、赤い層が斑に入る。硬く締まる。



- 3トレンチ a-b-c
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
 - 2 明黄褐色土10YR7/6 As-YPブロック混在。白色軽石・黄色粒を含む。締まっている。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR7/4 白色軽石を含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR7/4 1~5cmほどの石を多く含む。3より暗い色調。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR7/4 3とほぼ同じ。軽石の粒が大きい。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR7/4 5に灰色粒子を含む。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR7/4 5より赤茶色の部分が多い。5~10cmほどの石がまばらに混じる。
 - 8 にぶい黄褐色土10YR7/4 5~10cmの石が密集。砂層。灰色粒子を含む。



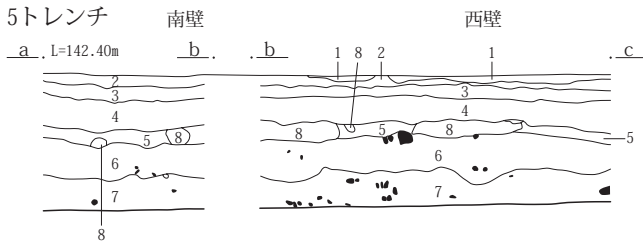
- 4トレンチ a-b-c
- 1 にぶい黄褐色土10YR6/3 白色軽石を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 黄色・白色軽石を含む。灰色砂が混じる。締まっている。
 - 3 2とほぼ同じだが10~15cmほどの石が底部に混じる。上部・中部は5cmほどの石がまばらに入る。
 - 4 褐灰色土10YR5/1 赤茶色粒子を含む。
 - 5 川砂。3mmほどの黄色粒を含む。水流跡。
 - 6 川砂。5~10cmほどの石がびっしりと堆積する。水流跡。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR7/4 黄色軽石を含む。粘質。
 - 8 上部は赤茶色層だが、すぐにシルト質になる。



第25図 天王A区旧石器確認トレンチ1~4

第4章 検出された遺構と遺物

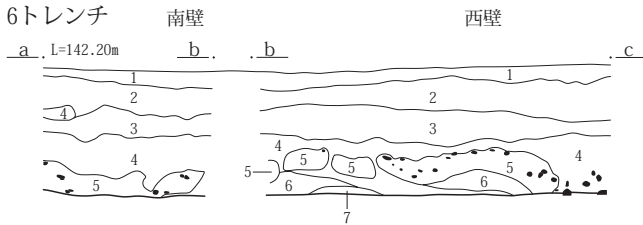
5トレンチ



5トレンチ a-b-c

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/3 黄色軽石を含む。
- 3 2~3cmの石がびっしりと堆積。
- 4 にぶい黄褐色土10YR6/4 大粒の黄色軽石・小粒の白色軽石を含む。1cmほどの石をまばらに含む。
- 5 4とほぼ同じ。
- 6 4とほぼ同じだが3~5cmの石がまばらに混じる。大きいものは10cm程。
- 7 5~10cmの礫層。川砂や赤茶色シルト等混在。水流跡。
- 8 灰色砂が混在。縮まっている。

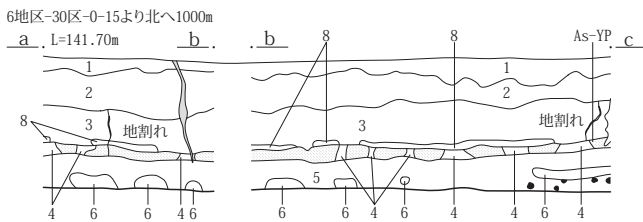
6トレンチ



6トレンチ a-b-c

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 白色・黄色軽石を含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR7/4 黄色軽石を多量、白色軽石を少量含む。
- 4 3より粘質。灰色粒子が加わる。粒子が細かい。水で攪拌された跡。
- 5 上部は5~10cmの石。下部は川砂。赤茶粒を含む。水流跡。
- 6 灰色粒・黄色粒が重なる水流跡。
- 7 4より灰色粒子が暗い。

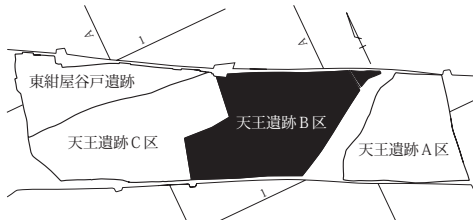
7トレンチ



7トレンチ a-b-c

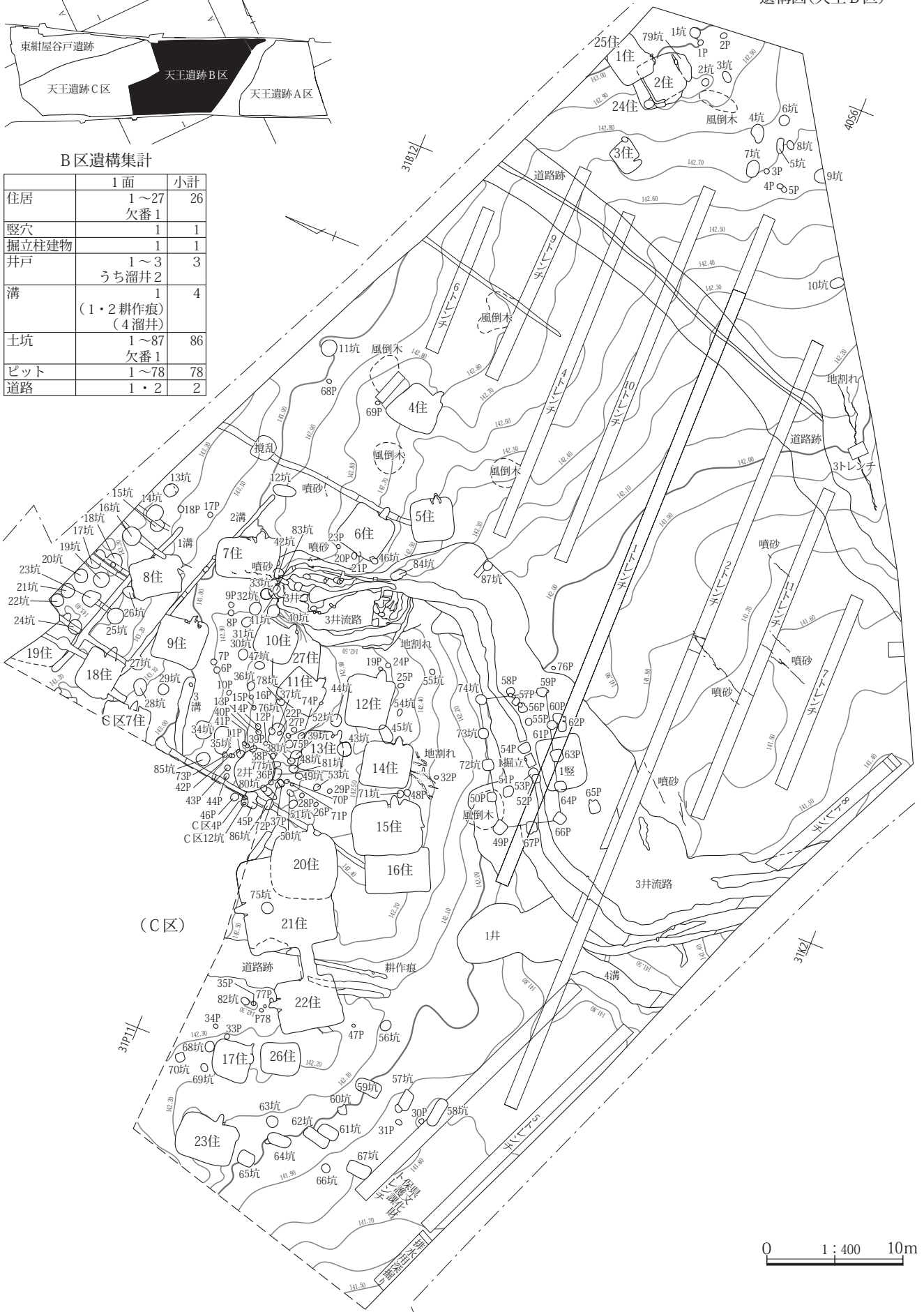
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒を含む。縮まりなし。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石(大粒)を含む。漸移層。
- 3 にぶい黄褐色土10YR6/3 白色・黄色軽石を含む。縮まっている。
- 4 明黄褐色土10YR7/6 As-YPブロック混在。白色軽石を含む。縮まっている。
- 5 にぶい黄褐色土10YR7/4 粘質。白色・黄色軽石を含む。
- 6 1~3cmの石が集まっている。5よりやや暗い色相。
- 8 赤茶色粒子が沈着。灰色粒子を含む。硬く締まる。

第26図 天王A区旧石器確認トレンチ5~7



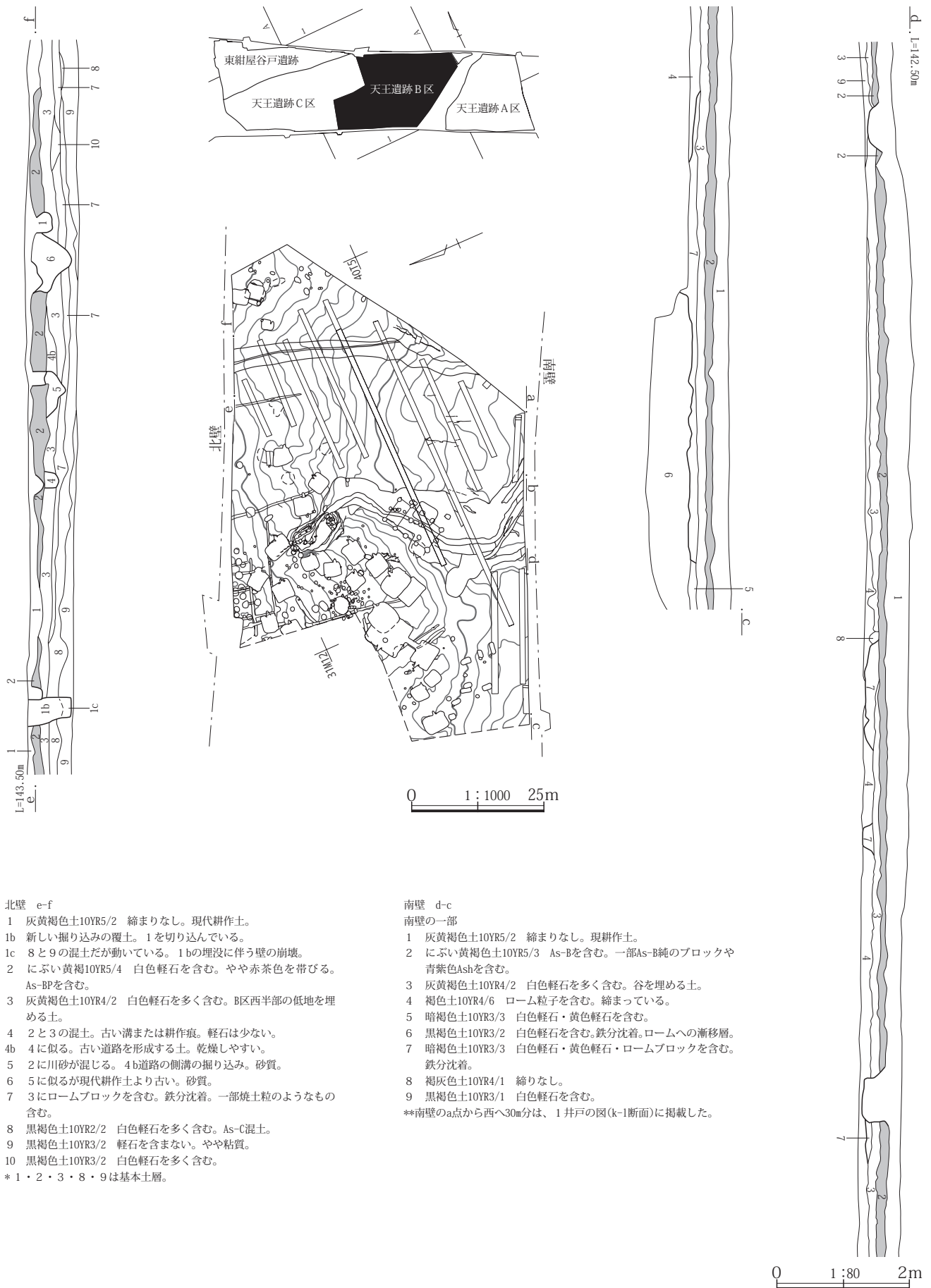
B区遺構集計

	1面	小計
住居	1~27 欠番1	26
竪穴	1	1
掘立柱建物	1	1
井戸	1~3 うち溜井2	3
溝	1 (1・2耕作痕) (4溜井)	4
土坑	1~87 欠番1	86
ピット	1~78	78
道路	1・2	2



第27図 天王B区全体図

第4章 検出された遺構と遺物



北壁 e-f

- 1 灰黄褐色土10YR5/2 縮まりなし。現代耕作土。
- 1b 新しい掘り込みの覆土。1を切り込んでいる。
- 1c 8と9の混土だが動いている。1bの埋没に伴う壁の崩壊。
- 2 にぶい黄褐10YR5/4 白色軽石を含む。やや赤茶色を帯びる。As-BPを含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く含む。B区西半部の低地を埋める土。
- 4 2と3の混土。古い溝または耕作痕。軽石は少ない。
- 4b 4に似る。古い道路を形成する土。乾燥しやすい。
- 5 2に川砂が混じる。4b道路の側溝の掘り込み。砂質。
- 6 5に似るか現代耕作土より古い。砂質。
- 7 3にロームブロックを含む。鉄分沈着。一部焼土粒のようなものを含む。
- 8 黒褐色土10YR2/2 白色軽石を多く含む。As-C混土。
- 9 黒褐色土10YR3/2 軽石を含まない。やや粘質。
- 10 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。

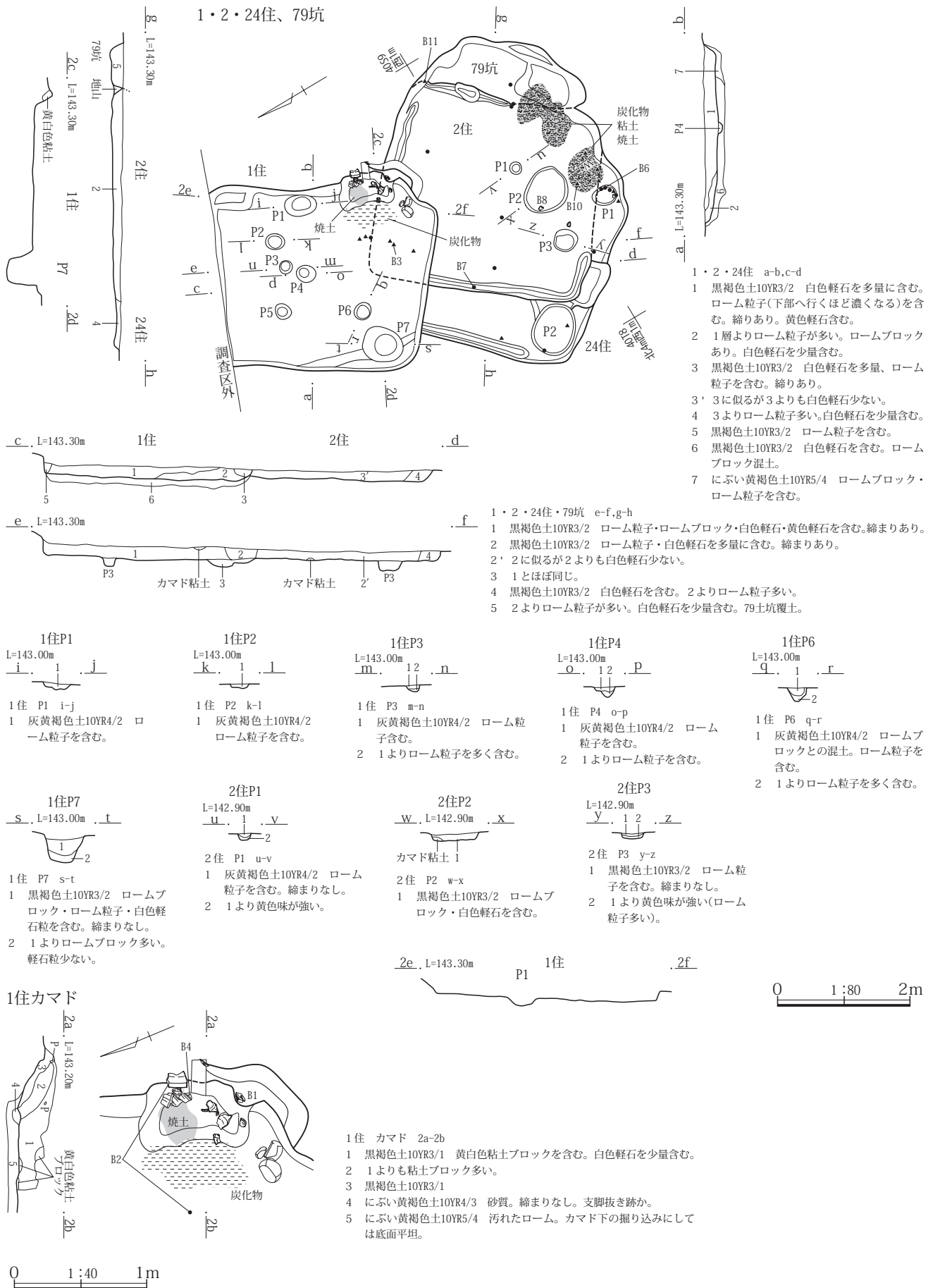
* 1・2・3・8・9は基本土層。

南壁 d-c

- 南壁の一部
- 1 灰黄褐色土10YR5/2 縮まりなし。現耕作土。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 As-Bを含む。一部As-B純のブロックや青紫色Ashを含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く含む。谷を埋める土。
- 4 褐色土10YR4/6 ローム粒子を含む。縮まっている。
- 5 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・黄色軽石を含む。
- 6 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。鉄分沈着。ロームへの漸移層。
- 7 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・黄色軽石・ロームブロックを含む。鉄分沈着。
- 8 褐灰色土10YR4/1 縮りなし。
- 9 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。

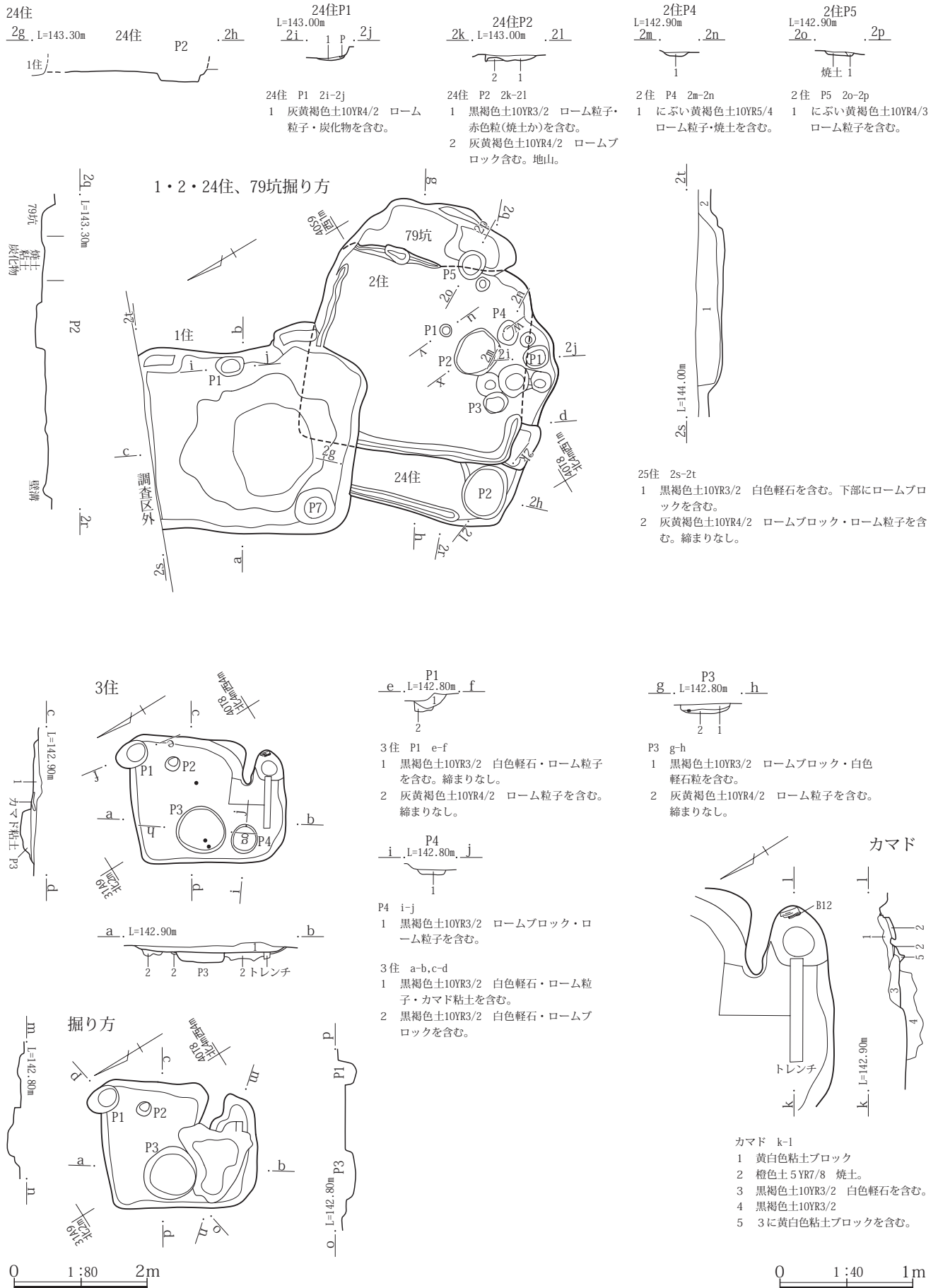
**南壁のa点から西へ30m分は、1井戸の図(k-1断面)に掲載した。

第28図 天王B区北壁・南壁

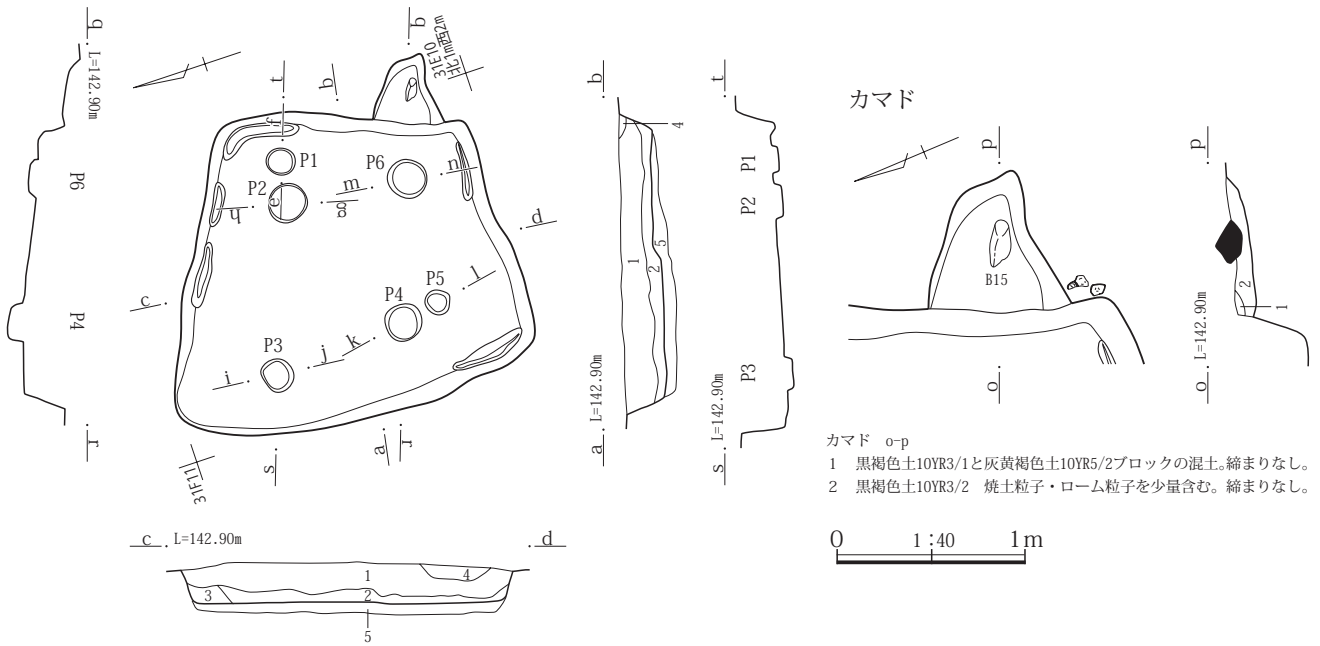


第29図 天王B区1・2・24住居、79土坑(1)

第4章 検出された遺構と遺物

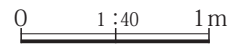


第30図 天王B区1・2・24住居、79土坑(2)、3住居

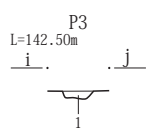


カマド

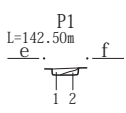
- カマド o-p
 1 黒褐色土10YR3/1と灰黄褐色土10YR5/2ブロックの混土。締まりなし。
 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・ローム粒子を少量含む。締まりなし。



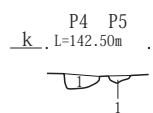
- a-b, c-d
 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・白色軽石・赤色土を含む。締まっている。
 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子・ロームブロックを含む。
 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒を含む。ローム粒子を少量含む。締まっている。
 4 黒褐色土10YR2/2 白色軽石・カマド粘土が混じる。攪乱の土。
 5 灰黄褐色土10YR4/2+ロームブロック・ローム粒子・炭化物粒子・黄橙色粒子を含む。



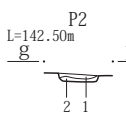
- P3 i-j
 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。水分多い。



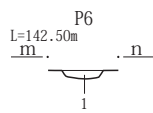
- P1 e-f
 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石粒を含む。水分多い。
 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。水分多い。



- P4・5 k-l
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。水分含む。

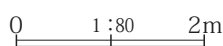
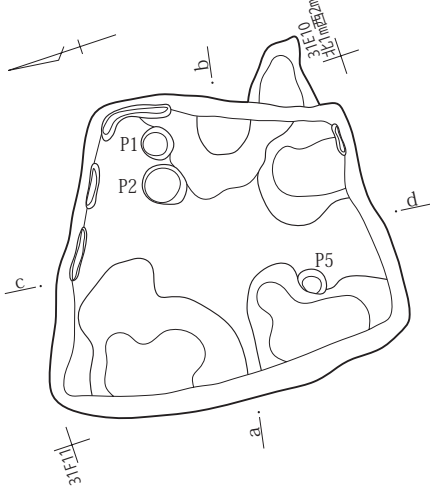


- P2 g-h
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。水分多い。
 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。水分多い。



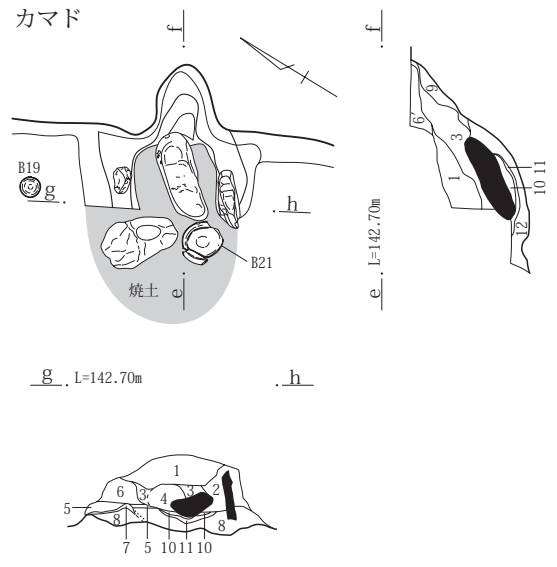
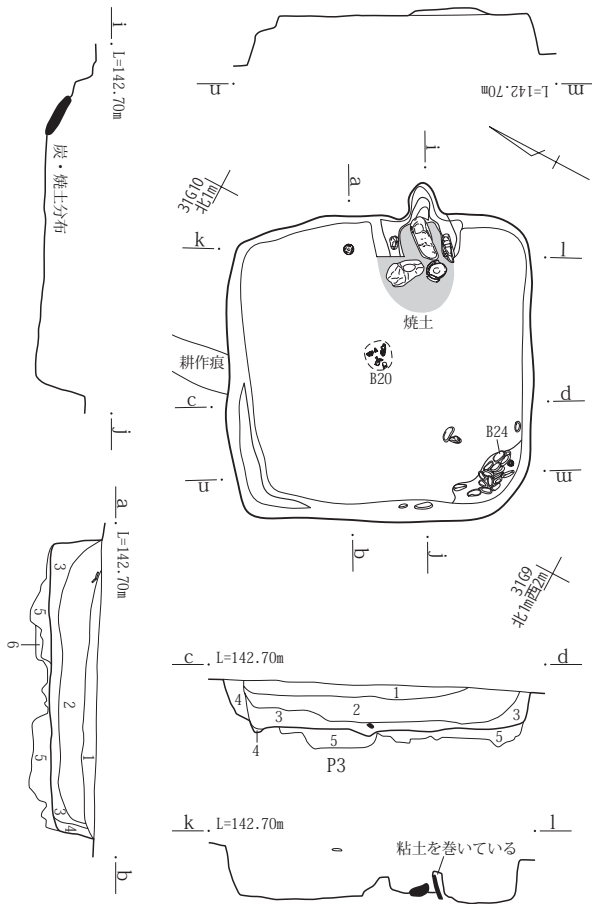
- P6 m-n
 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。水分多い。

掘り方



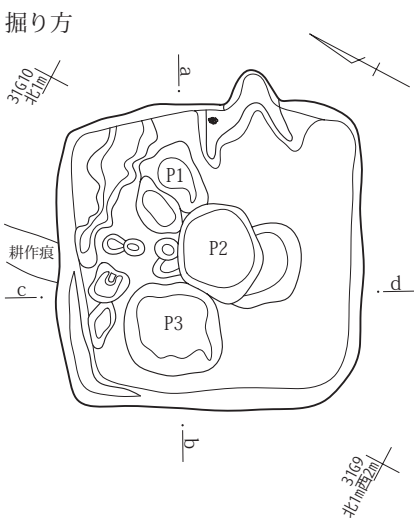
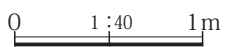
第31図 天王B区4住居

第4章 検出された遺構と遺物



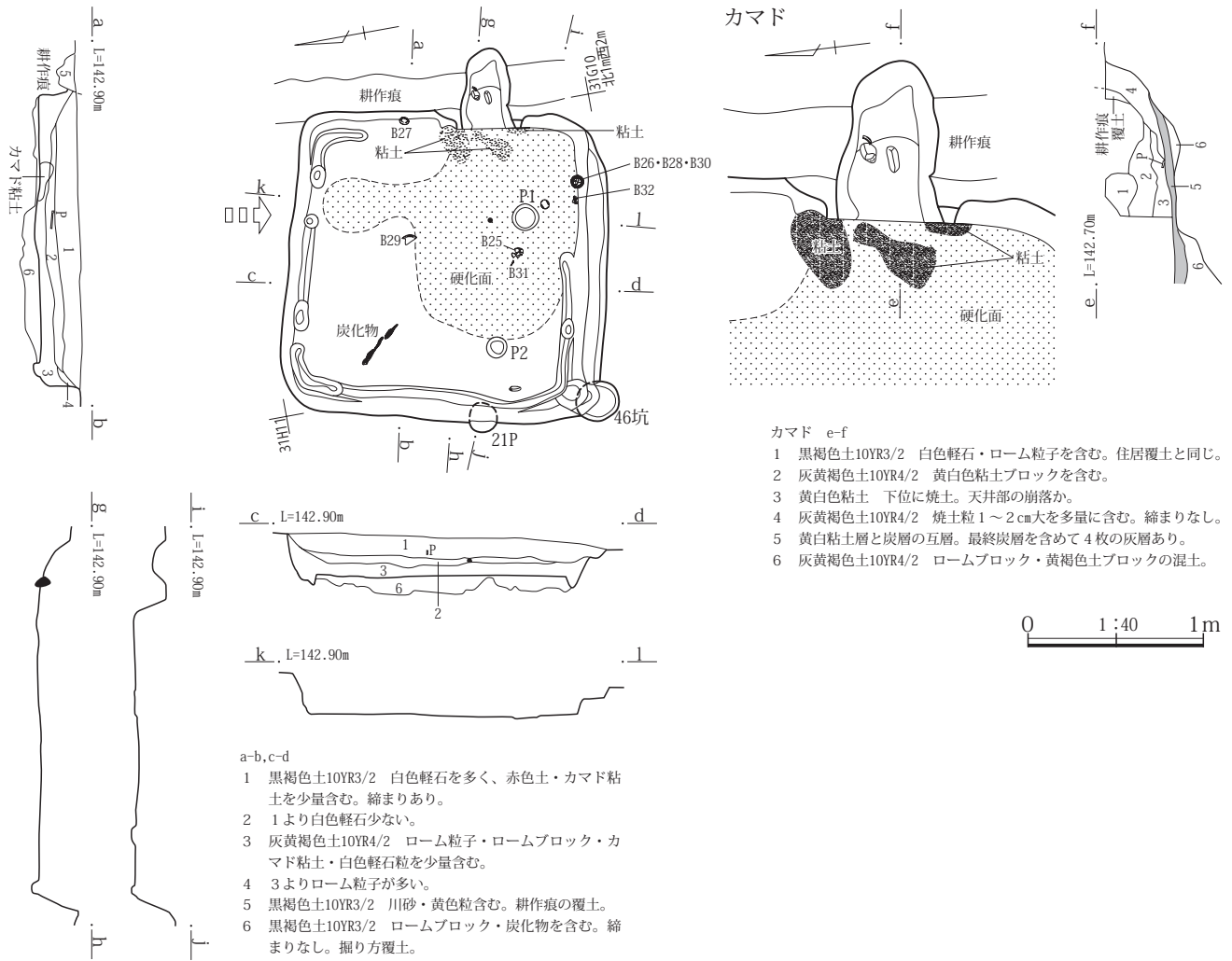
- カマド e-f,g-h
- 1 黒褐色土10YR3/1 カマド粘土ブロック・白色軽石を含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・粘土ブロックを含む。
 - 3 黒色土10YR2/1 締まりなし。左袖石の倒れた後に埋没した土か。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2ブロック 砂質。締まりなし。
 - 5 砂と粘土ブロックの混土。
 - 6 黒褐色土10YR3/2 粘土ブロックを多量、ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 6' 6層に似る。焼土ブロック多い。煙道崩落か。
 - 7 黄白色粘土と焼土粒子の混土。
 - 8 黒褐色土10YR3/2 白色粒子・焼土粒子を含む。締まりなし。カマド前掘り込みの埋没土。
 - 9 焼土ブロック・黒色土ブロックの混土。
 - 10 にぶい黄褐色土10YR5/3 石の下にたまった締まりのない土。
 - 11 灰層。
 - 12 (黒褐色土10YR3/1+白色軽石)ブロックと灰黄褐色土10YR4/2粘土ブロックの混土。

- a-b,c-d
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多量、ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 2 1より白色軽石の割合少ない。灰褐色土混じる。赤色粒を含む。
 - 3 1層よりローム粒子の割合多い。白色軽石を少量含む。灰褐色土混じる。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土。ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 5 黒褐色土10YR3/1 ロームブロック・灰黄褐色土10YR4/2ブロックを含む。締まりなし。
 - 6 灰黄褐色土10YR4/2 粘質土。ローム粒子を含む。

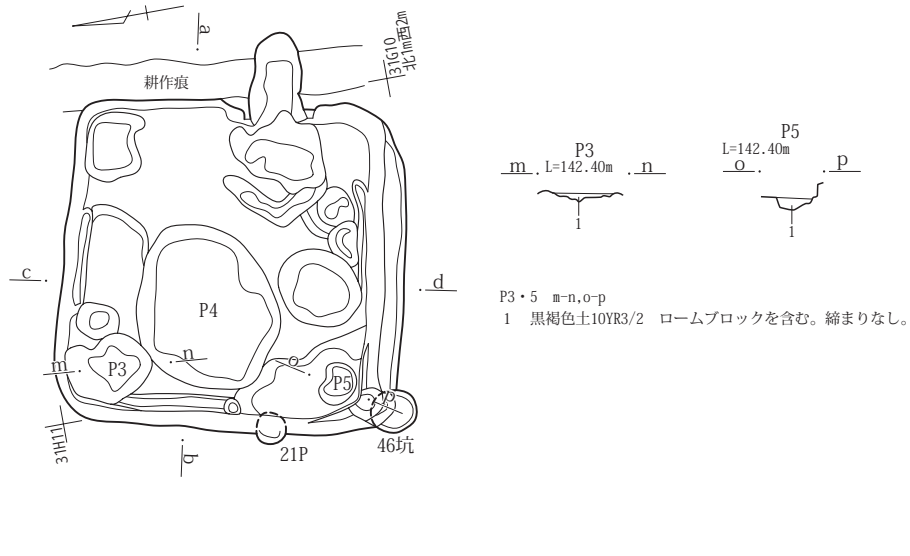


第32図 天王B区5住居

遺構図(天王B区)

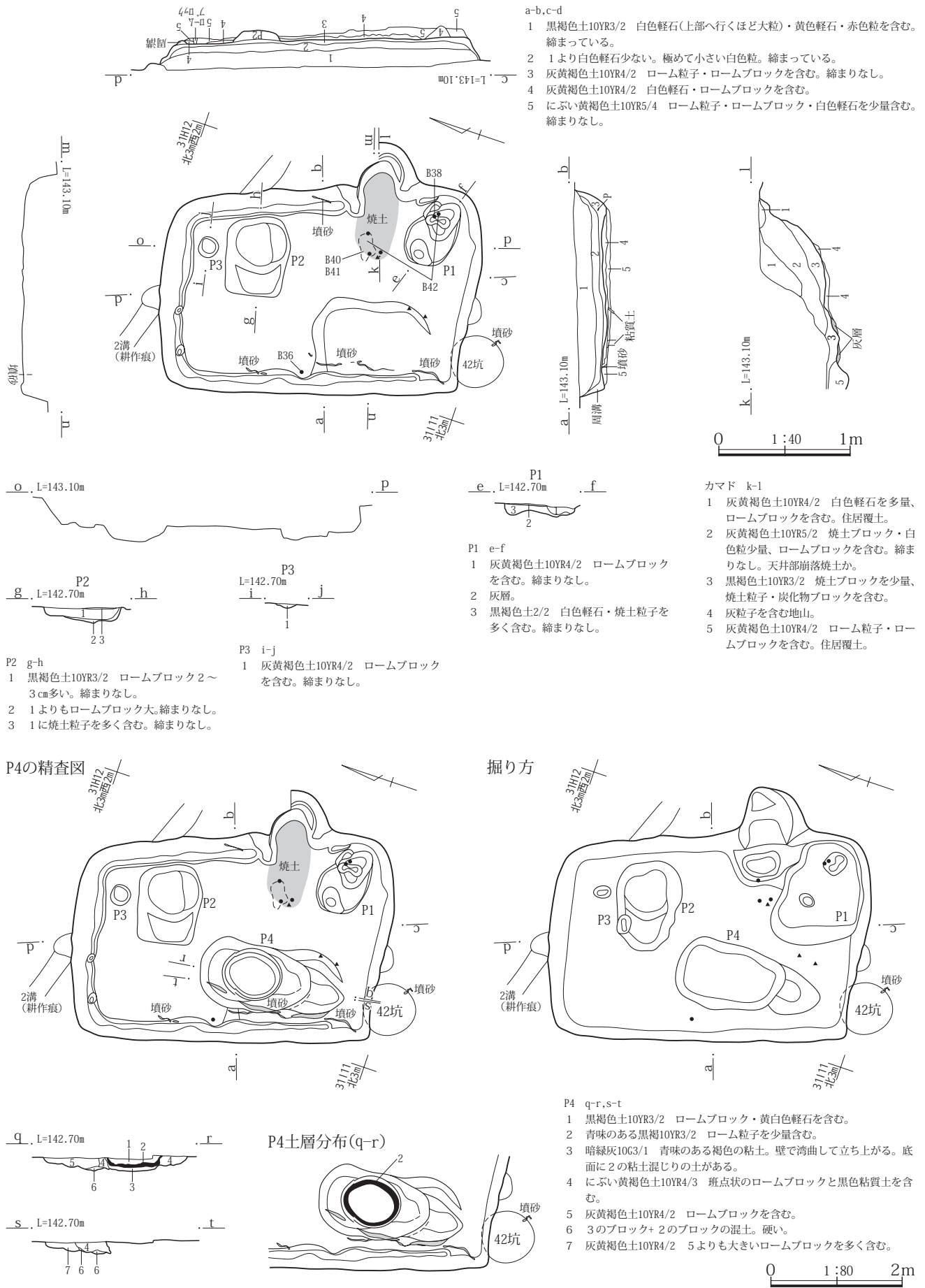


掘り方



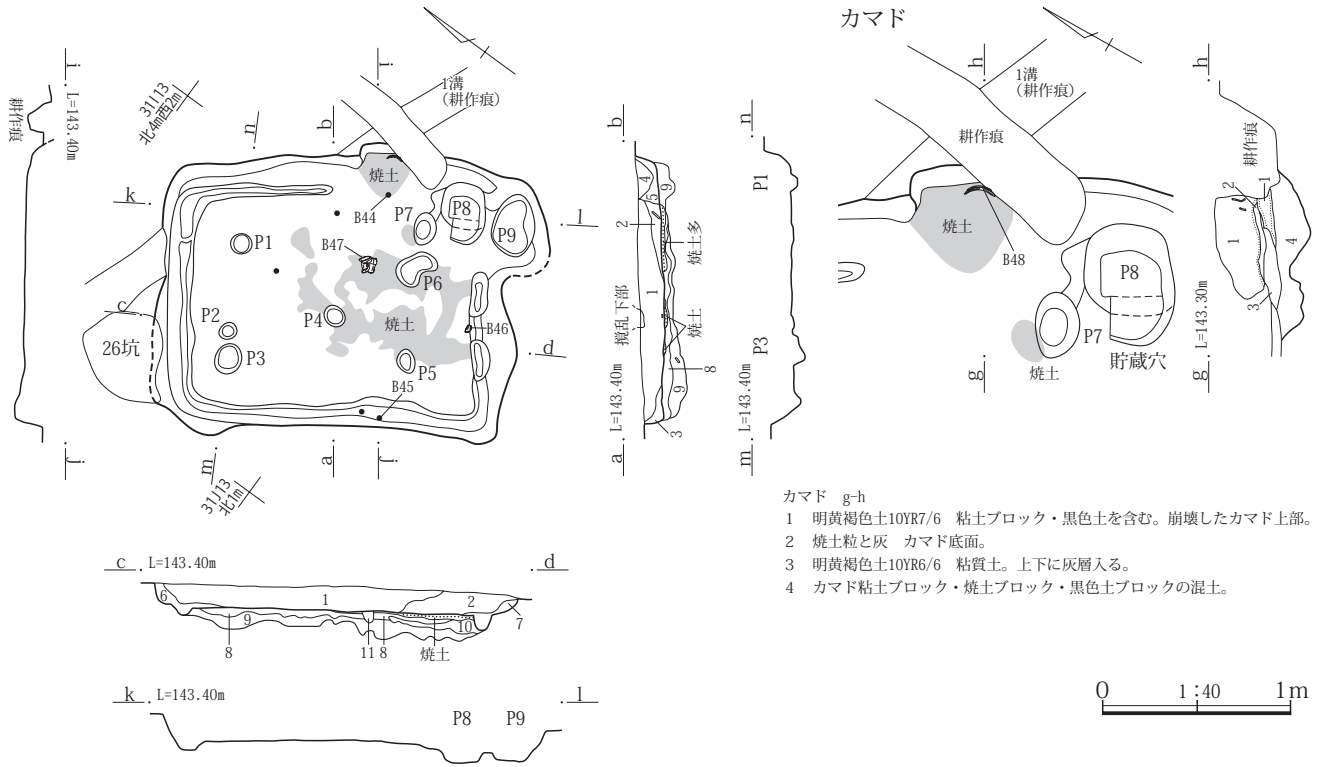
第33図 天王B区6住居

第4章 検出された遺構と遺物



第34図 天王B区7住居

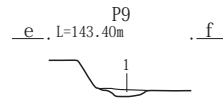
遺構図(天王B区)



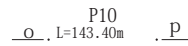
- カマド g-h
- 1 明黄褐色土10YR7/6 粘土ブロック・黒色土を含む。崩壊したカマド上部。
 - 2 焼土粒と灰 カマド底面。
 - 3 明黄褐色土10YR6/6 粘質土。上下に灰層入る。
 - 4 カマド粘土ブロック・焼土ブロック・黒色土ブロックの混土。

a-b, c-d

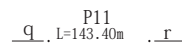
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・焼土粒を含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・カマド粘土・焼土粒を多く含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 縮まりなし。1溝の覆土。
- 5 3とほぼ同じ。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 7 6に焼土粒を含む。
- 8 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 9 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロック・白色軽石粒を含む。
- 10 8よりロームブロックの割合少ない。白色軽石の粒大きい。
- 11 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。



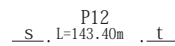
- P9 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。



- P10 o-p
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒を含む。縮まりなし。

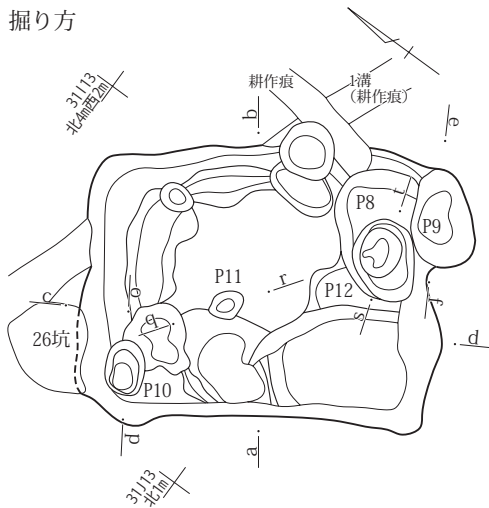


- P11 q-r
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土。ローム粒子・白色軽石粒を含む。



- P12 s-t
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 ロームブロック・白色軽石粒を含む。

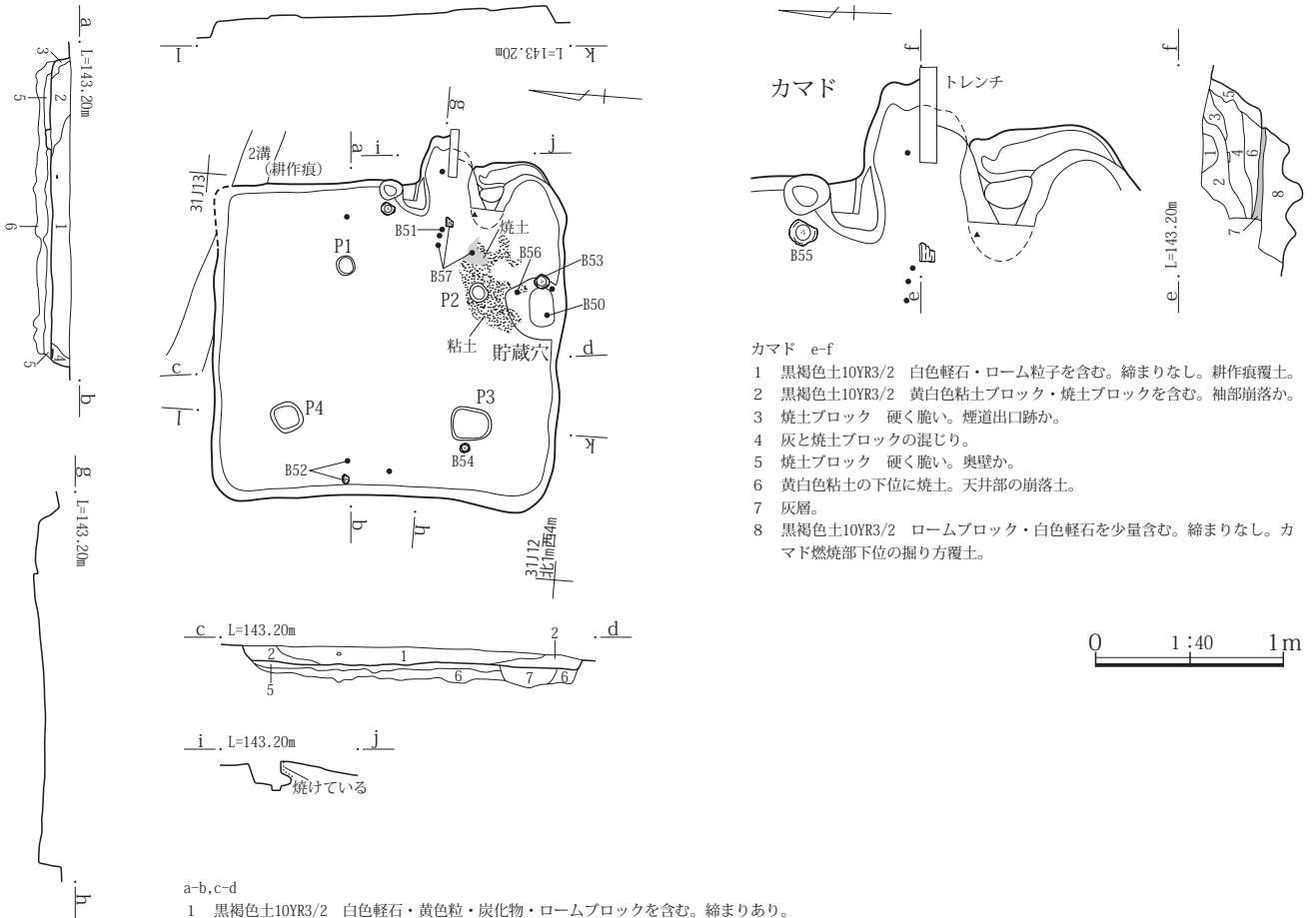
掘り方



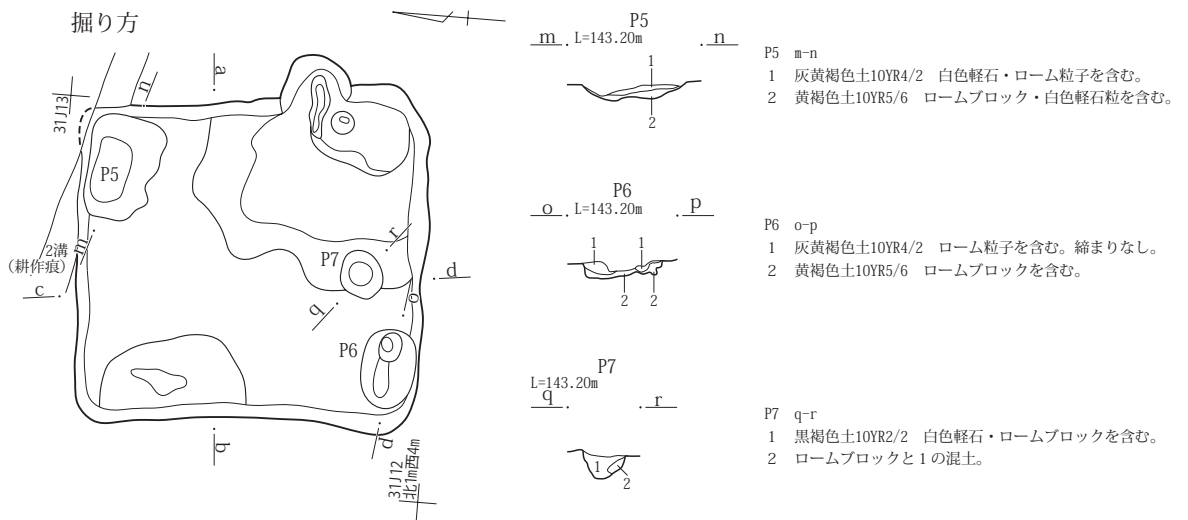
0 1:80 2m

第35図 天王B区8住居

第4章 検出された遺構と遺物

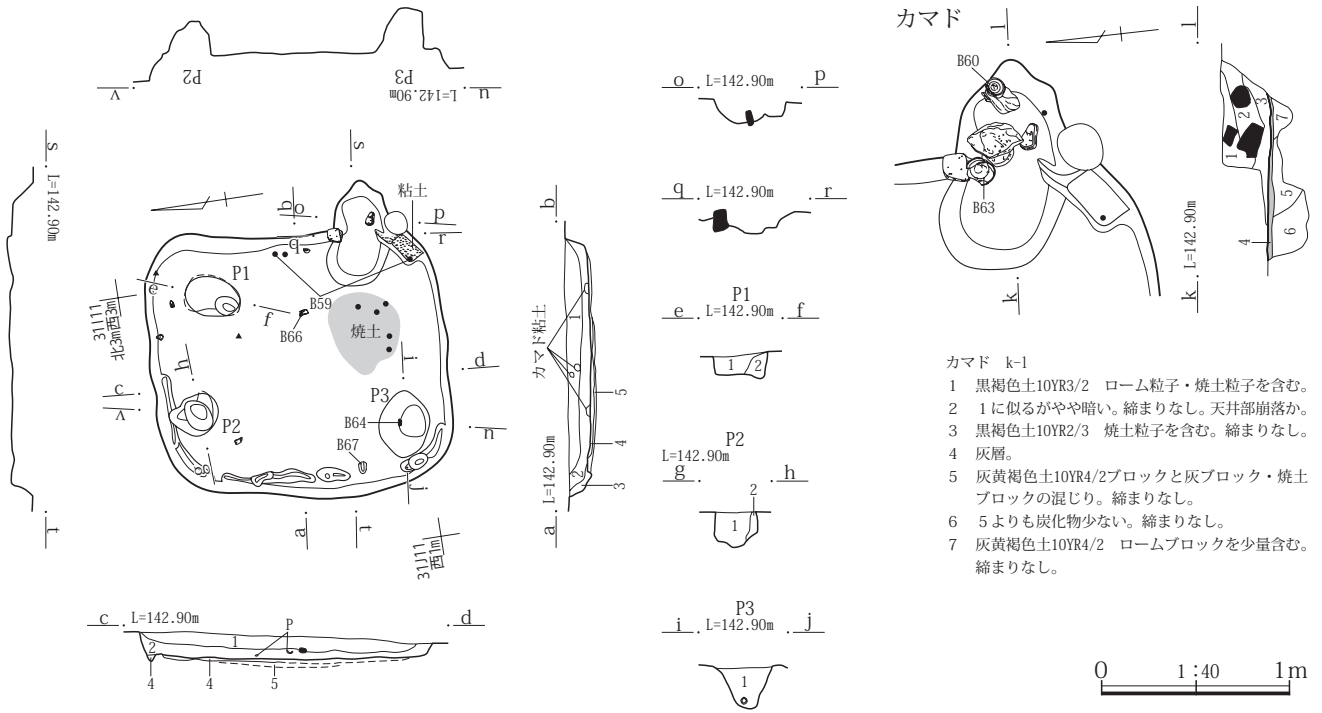


- a-b,c-d
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・黄色粒・炭化物・ロームブロックを含む。締まりあり。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石(1より大粒)を多量、ロームブロック・ローム粒子(底部)を含む。締まりあり。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 4 3とほぼ同じ。ローム粒子を少量含む。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ロームブロックを含む。床面を形成する土。締まりあり。
 - 6 黄褐色土10YR5/6 白色軽石粒・ロームブロックを含む。
 - 7 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石(大粒)・ロームブロックを含む。



第36図 天王B区9住居

遺構図(天王B区)



カマド k-l

- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 2 1に似るがやや暗い。締まりなし。天井部崩落か。
- 3 黒褐色土10YR2/3 焼土粒子を含む。締まりなし。
- 4 灰層。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2ブロックと灰ブロック・焼土ブロックの混じり。締まりなし。
- 6 5よりも炭化物少ない。締まりなし。
- 7 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量含む。締まりなし。

a-b, c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒を多量に含む。黄色粒・カマド粘土・焼土を含む。
- 2 1より白色軽石少なくカマド粘土多い。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 4 (黒褐色土10YR3/2+白色軽石)ブロックとロームブロックの混土。床面を形成する土。硬く締まる。
- 5 黒褐色土10YR3/2 灰黄褐色土10YR4/2ブロック(斑点状径2~3cm)を含む。地山の土。ローム層への漸移層。

P1 e-f

- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 2 1よりローム粒子を多く含む。締まりなし。

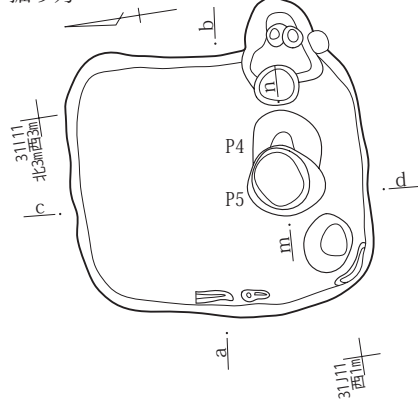
P2 g-h

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。

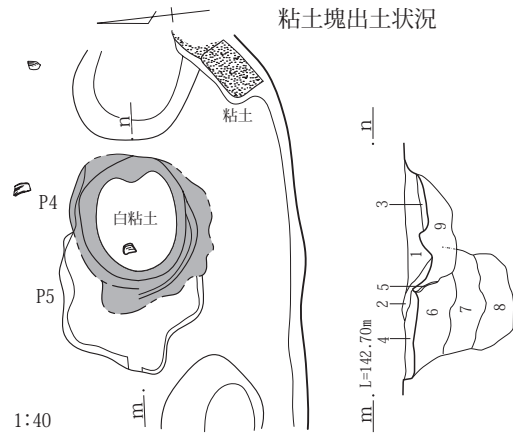
P3 i-j

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒(上部)・ローム粒子を含む。

掘り方



粘土塊出土状況

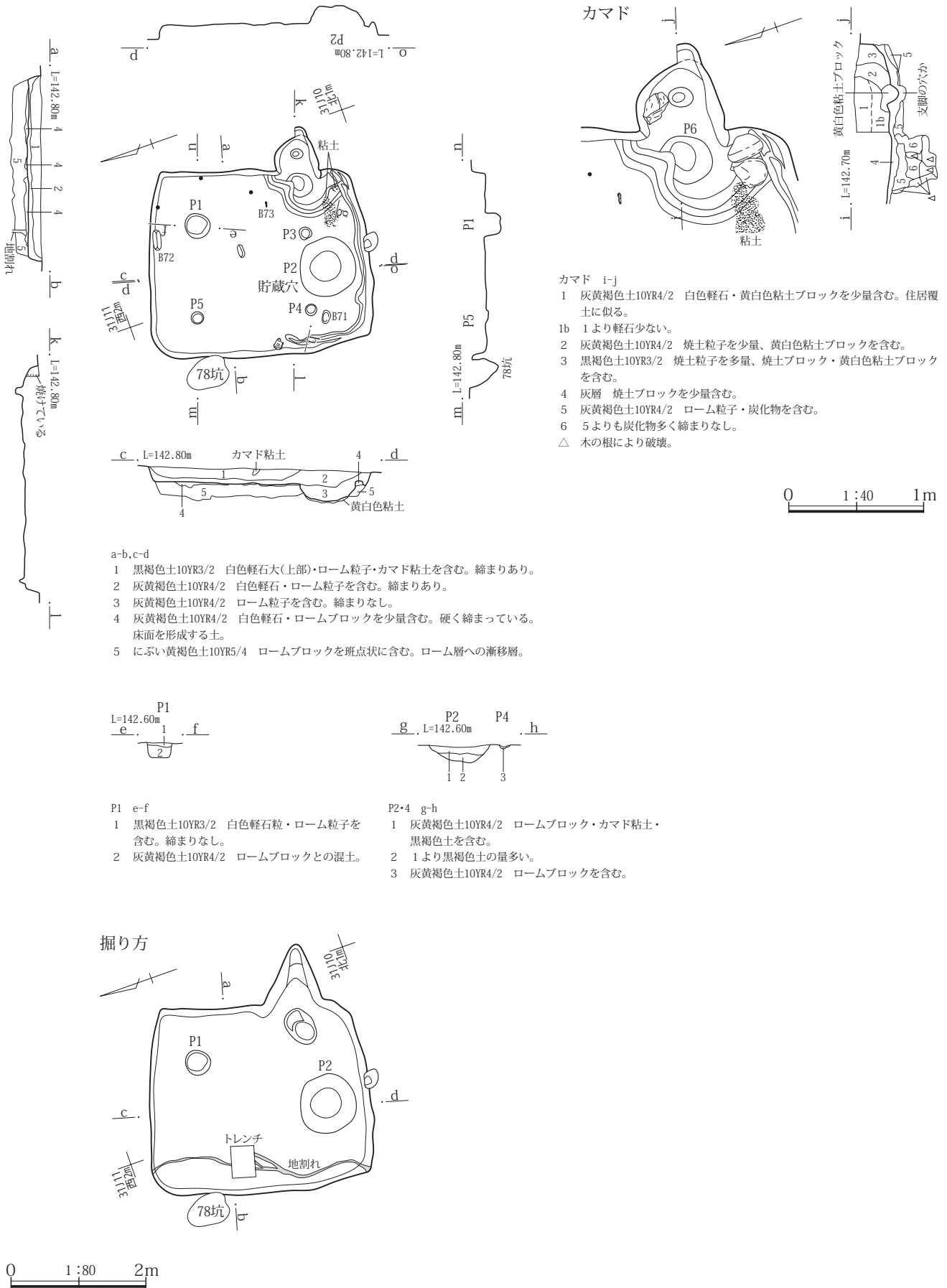


P4-5 m-n

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子・炭化物・黄白色粘土ブロックを含む。
- 2 黄白色粘土 1のブロックを含む。締まっている。
- 3 2に似る。
- 4 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
- 5 黒色土。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量含む。ローム粒子含む。締まりなし。
- 7 黒褐色土10YR3/2 締まりなし。
- 8 6に似るがより軟らかい。締まりなし。
- 9 灰黄褐色土10YR4/2ブロックと黄白色粘土ブロックの混土。

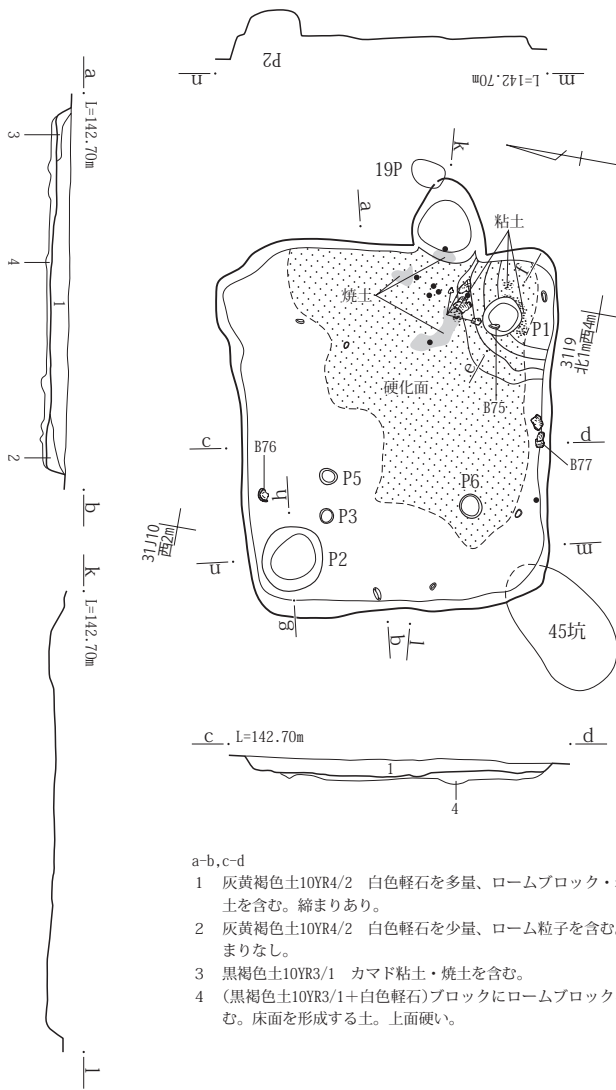
第37図 天王B区10住居

第4章 検出された遺構と遺物

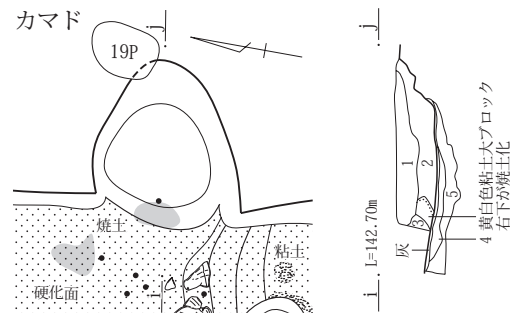


第38図 天王B区11住居

遺構図(天王B区)

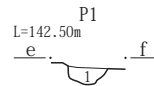
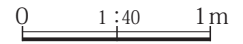


- a-b, c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多量、ロームブロック・赤土を含む。縮まりあり。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。縮まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/1 カマド粘土・焼土を含む。
 - 4 (黒褐色土10YR3/1+白色軽石)ブロックにロームブロックを含む。床面を形成する土。上面硬い。

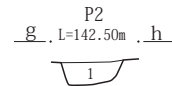


カマド i-j

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・黄白色粘土ブロック(天井部崩落)を含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。住居覆土に似る。
- 4 2に似る。
- 5 黒褐色土10YR3/1 白色軽石・焼土粒子を少量含む。

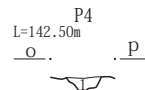
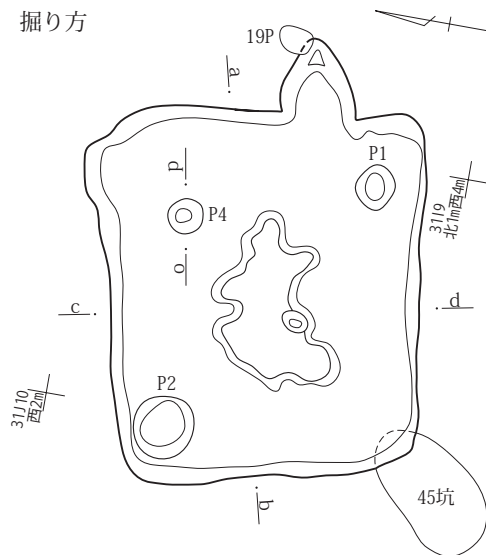


- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。縮まりなし。

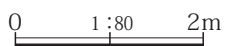


- P2 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。白色軽石含む。

掘り方

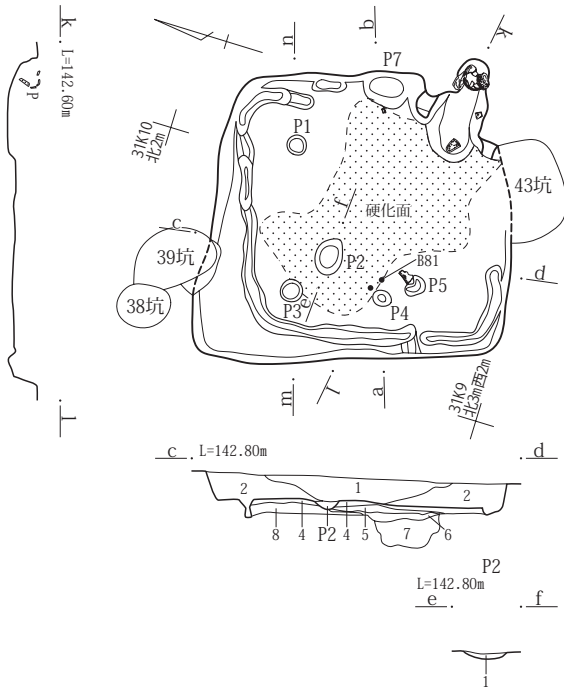


- P4 o-p
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 黒色土ブロック・ロームブロックを含む。縮まりなし。砂質。



第39図 天王B区12住居

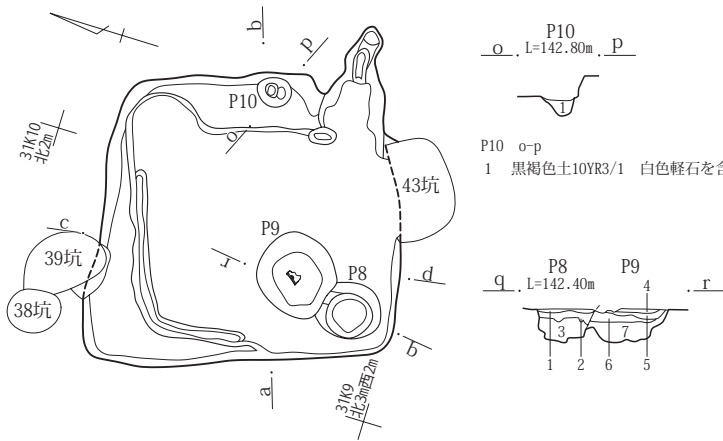
第4章 検出された遺構と遺物



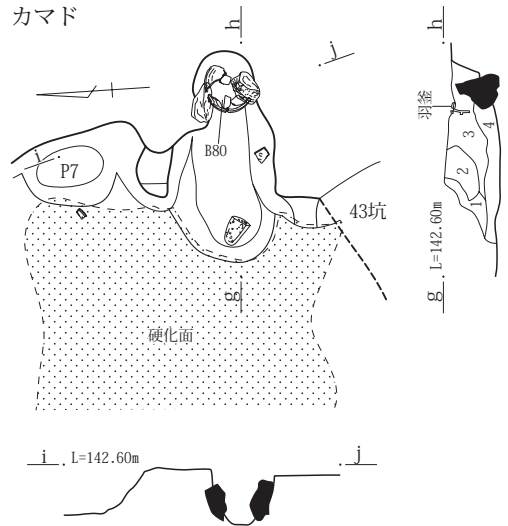
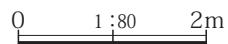
- a-b, c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土(ロームの割合高)。白色軽石を多量、ローム粒子を含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。カマド粘土・白色軽石(1層より小粒)・黄色粒を含む。
 - 3 黒褐色土10YR3/1 黄色粒・ローム粒子を含む。
 - 4 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混じり。最終床面を形成する土。硬い。
 - 5 床下の土。硬いが4より軟らかい。
 - 6 ロームブロックと灰黄褐色土10YR4/2の混じり。下位床面を形成する土。硬い。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 黄白軽石・ロームブロックを含む。縮まりなし。
 - 8 5に似る。

- P2 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子含む。縮まりなし。

掘り方

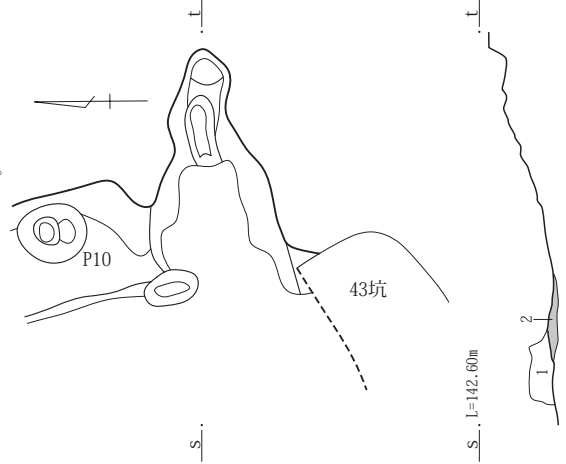


- P8・9 q-r
- 1 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。
 - 2 1にロームブロック・黒色土ブロックが混じる。硬い。
 - 3 黒褐色土10YR3/1ブロック・ロームブロック・灰黄褐色土10YR4/2ブロックの混土。縮まりなし。
 - 4 黄白色粘土。硬い。
 - 5 2に似る。硬い。
 - 6 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。一部黄白色粘土の大ブロックあり。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 灰黄褐色土10YR4/2ブロックを含む。

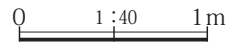


- カマド g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。住居覆土。
 - 2 黄白色粘土ブロック カマド材崩落か。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒子・黄白色粘土ブロックを多量に含む。縮まりなし。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 焼土ブロックを多量に含む。縮まりなし。下位に灰層あり。

カマド掘り方

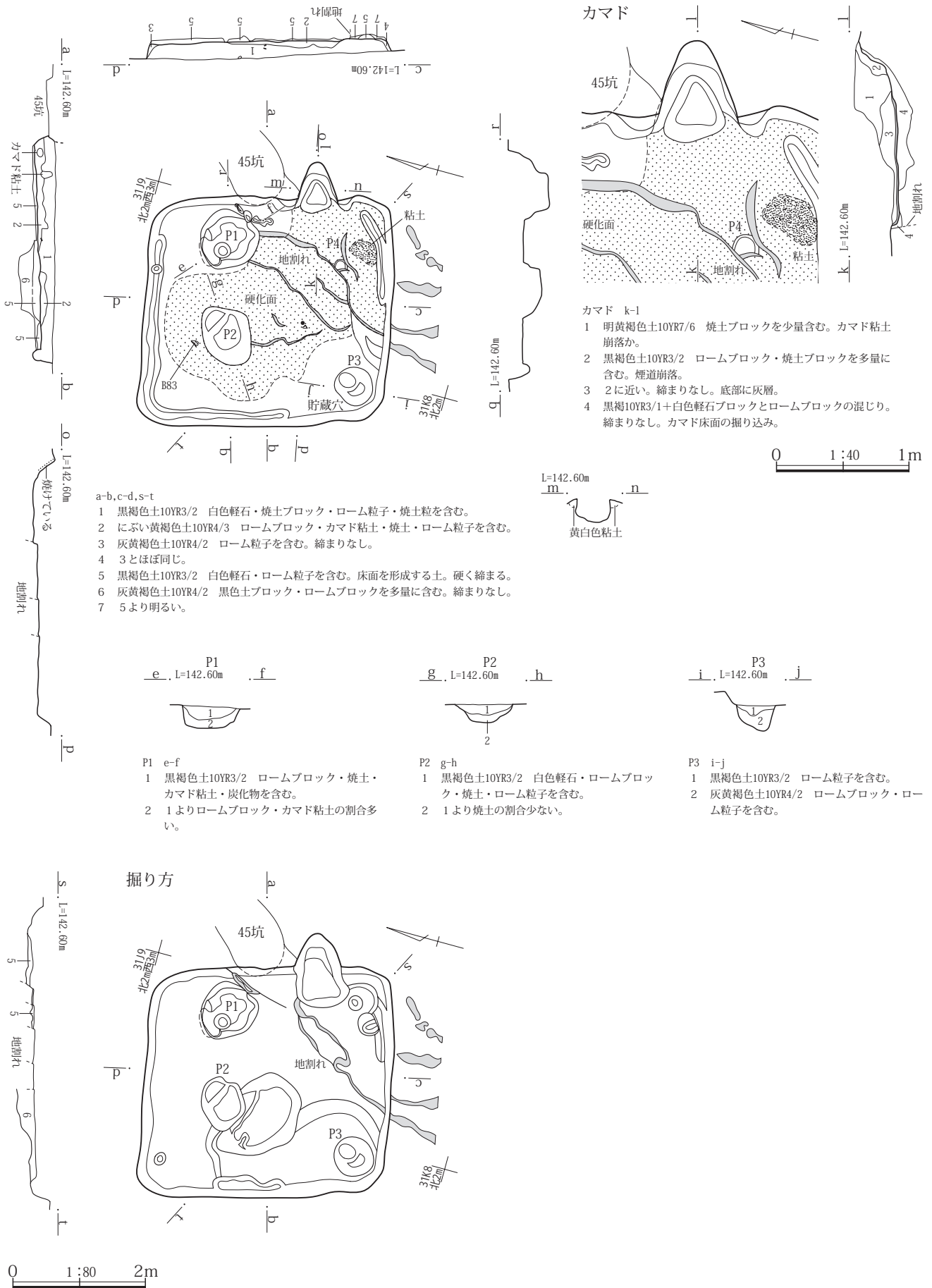


- カマド s-t
- 1 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・ロームブロック・焼土ブロックの混じり。カマド材破片の混土。
 - 2 灰層。



第40図 天王B区13住居

遺構図(天王B区)

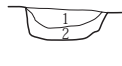


- カマド k-1
- 1 明黄褐色土10YR7/6 焼土ブロックを少量含む。カマド粘土崩落か。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・焼土ブロックを多量に含む。煙道崩落。
 - 3 2に近い。締まりなし。底部に灰層。
 - 4 黒褐10YR3/1+白色軽石ブロックとロームブロックの混じり。締まりなし。カマド床面の掘り込み。

a-b, c-d, s-t

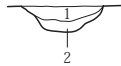
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・カマド粘土・焼土・ローム粒子を含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 4 3とほぼ同じ。
- 5 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。床面を形成する土。硬く締まる。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 黒色土ブロック・ロームブロックを多量に含む。締まりなし。
- 7 5より明るい。

P1 e, L=142.60m . f



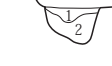
- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・焼土・カマド粘土・炭化物を含む。
 - 2 1よりロームブロック・カマド粘土の割合多い。

P2 g, L=142.60m . h



- P2 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・焼土・ローム粒子を含む。
 - 2 1より焼土の割合少ない。

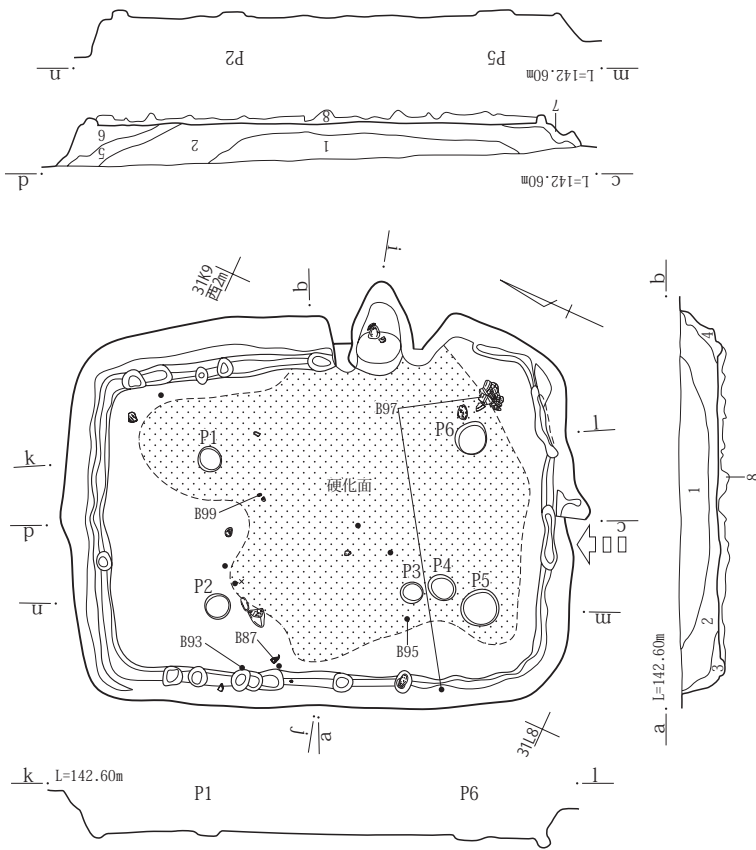
P3 i, L=142.60m . j



- P3 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。

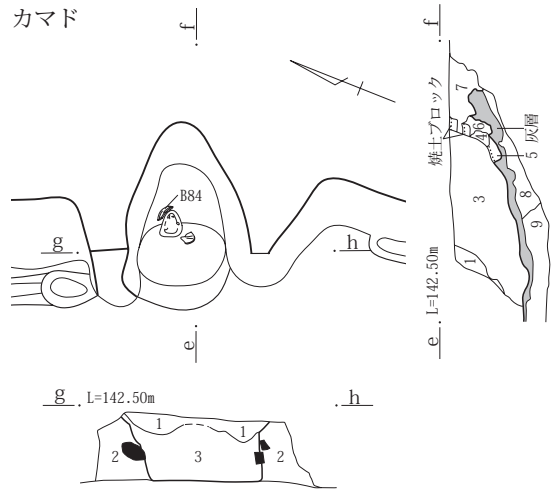
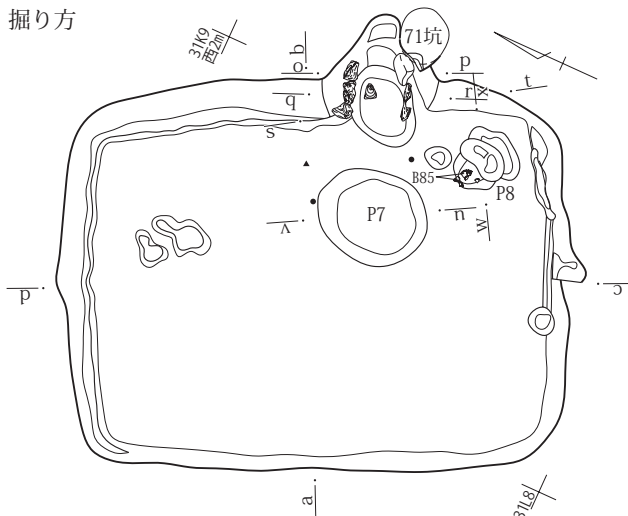
第41図 天王B区14住居

第4章 検出された遺構と遺物



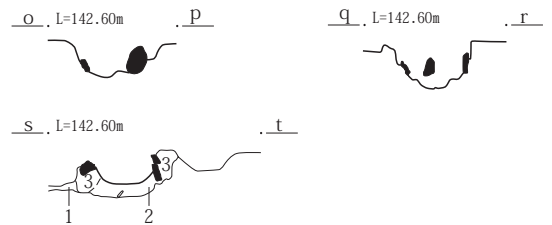
- a-b, c-d
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多量に含む。炭化物・ロームブロック・焼土・粘土粒を含む。
 - 2 1よりやや濃い色(白色軽石・ロームブロックを少量含む)。炭化物を多量に含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 4 3とほぼ同じ。ロームブロック大。
 - 5 2よりロームブロックの割合高くブロック大きい。
 - 6 2とほぼ同じ。
 - 7 3とほぼ同じ。ローム粒子の密度濃い。
 - 8 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混じり。

掘り方



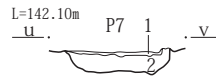
カマド e-f, g-h

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・ローム粒子を含む。
- 2 明黄褐色土10YR6/6 カマド粘土。
- 3 明黄褐色土10YR6/6 カマド構築粘土・灰黄褐色土10YR4/2・白色軽石・焼土を含む。崩落土。
- 4 黒褐色土10YR3/2 カマド粘土ブロック多く、焼土粒子を含む。
- 5 黒褐色土10YR3/2と焼土ブロックの混じり
- 6 黒褐色土10YR3/1 白色軽石・焼土粒を含む。締まりなし。
- 7 明黄褐色土10YR6/6と焼土ブロックの混じり。煙道か。
- 8 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・焼土粒子を含む。
- 9 8に似るがロームブロック多い。



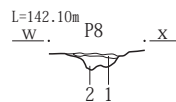
s-t

- 1 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。
- 2 黒褐色土10YR3/1 白色軽石・焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色粒子・焼土粒子・炭化物を含む。カマド石に巻いた構築粘土。



P7 u-v

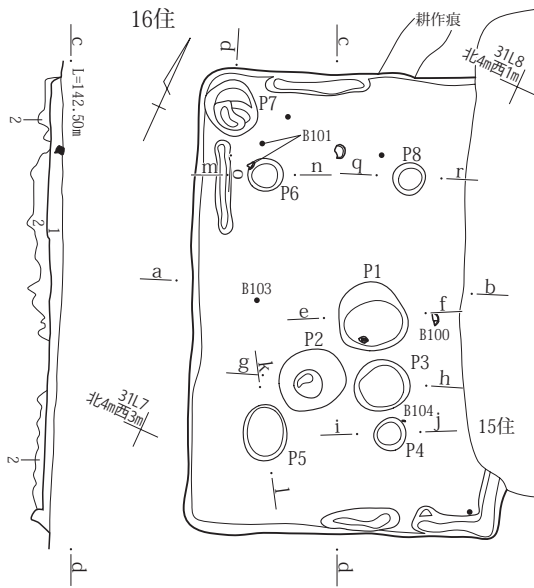
- 1 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。床面を形成する土。硬い。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/4 黄白粘土ブロック・黒色土ブロックを含む。締まりなし。



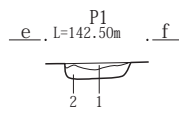
P8 w-x

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/4 黄白粘土ブロック・黒色土ブロックを含む。締まりなし。

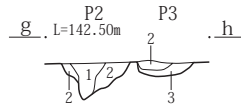
第42図 天王B区15住居



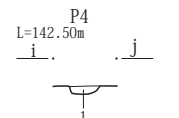
- 16住 a-b, c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロック粒子を多量に含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロック・灰黄褐色土10YR4/2ブロックの混じり。掘り方覆土。



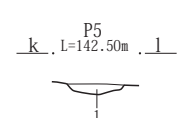
- 16住 P1 e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・黄色粒を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子を含む。



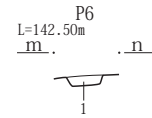
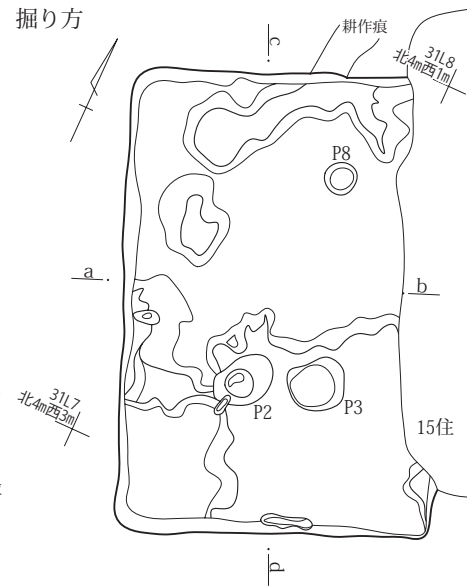
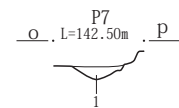
- 16住 P2・3 g-h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石粒・ローム粒子を含む。
 - 3 2より白色軽石粒が少ない。ローム粒子を多量に含む。



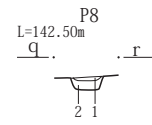
- 16住 P4 i-j
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締まりなし。



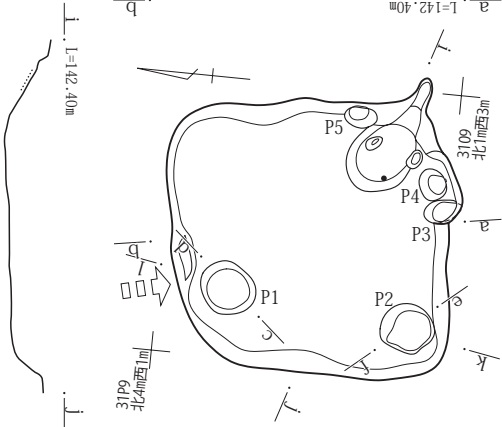
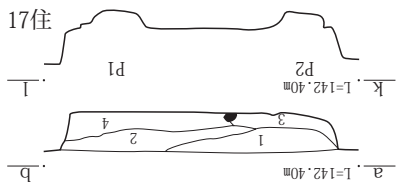
- 16住 P5・7 k-l, o-p
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒・ローム粒子を含む。



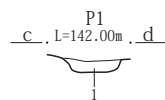
- 16住 P6 m-n
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。



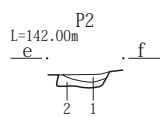
- 16住 P8 q-r
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。



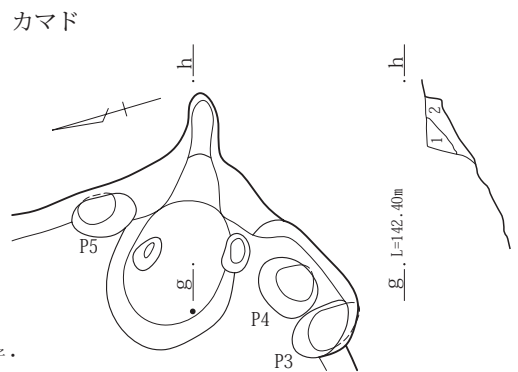
- 17住 a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を多量、白色軽石を少量含む。軟らかい。締まりなし。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・白色軽石を少量含む。締まりなし。
 - 3 2よりもロームブロック多い。締まりなし。
 - 4 1に似るがロームブロック少ない。締まりなし。



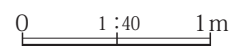
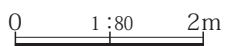
- 17住 P1 c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。



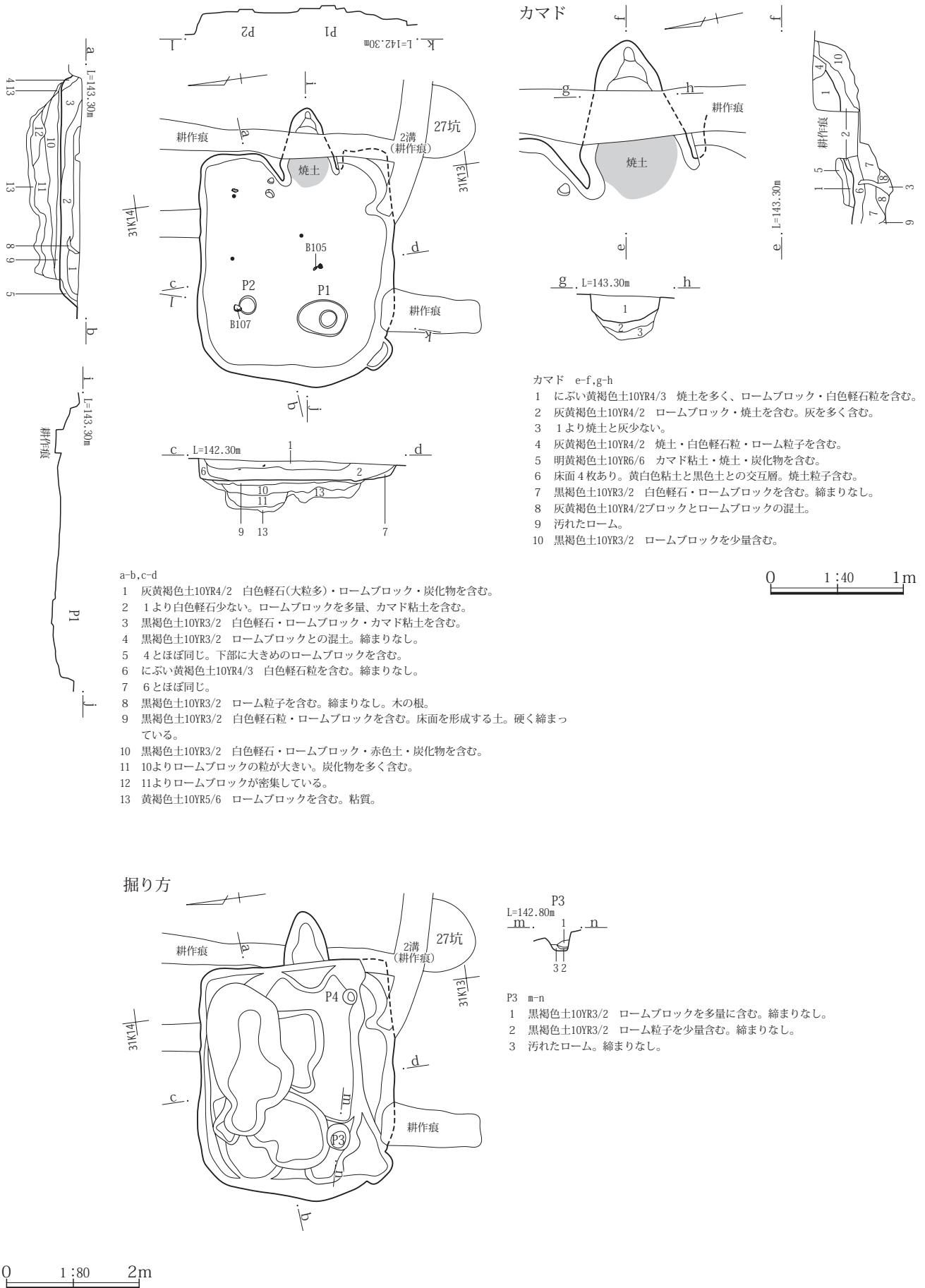
- 17住 P2 e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を多量、白色軽石粒を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。



- 17住 カマド g-h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土ブロックを多量に含む。
 - 2 1にロームブロックを含む。締まりなし。煙道底面か。

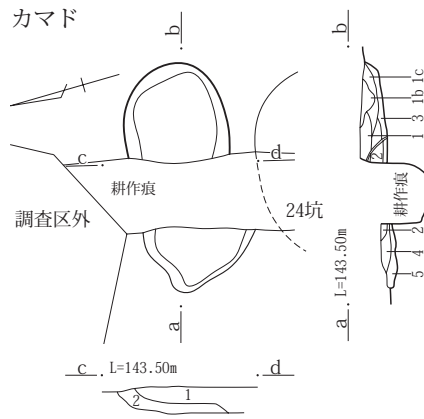
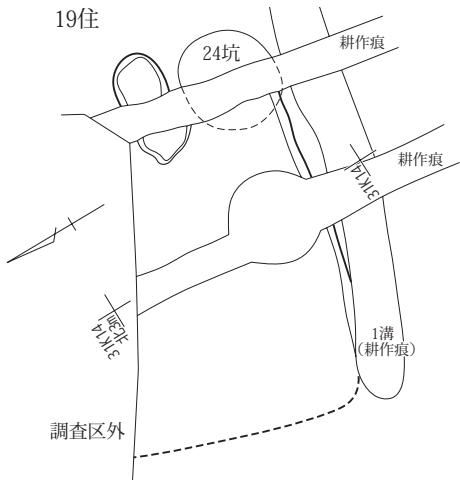


第43図 天王B区16・17住居

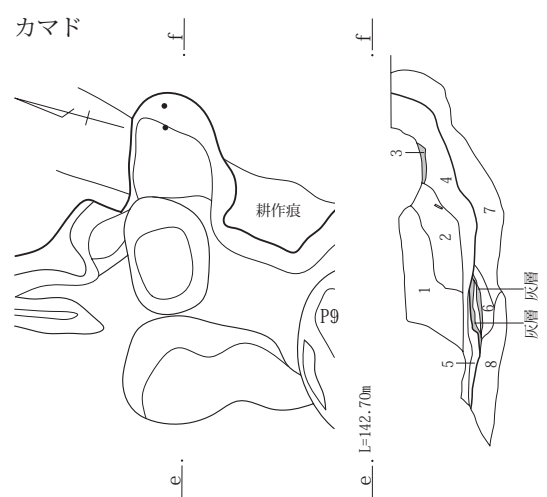
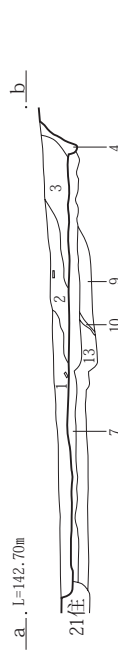
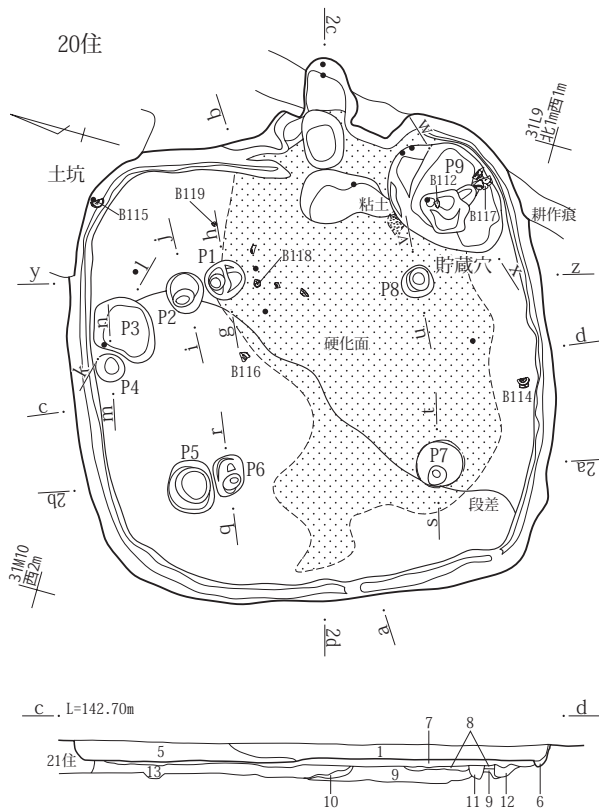


第44図 天王B区18住居

遺構図(天王B区)

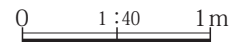
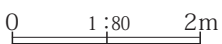


- 19住 カマド a-b, c-d
- 1 黄白色粘土ブロックと黒褐色土10YR3/2ブロックの混土。
 - 1b 1よりも黄白色粘土少ない。
 - 1c 黄白色粘土含まない。
 - 2 黒褐色土10YR3/1 焼土粒子・灰を含む。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 縮まりなし。カマド下の土。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 5 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。



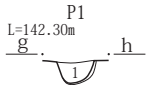
- 20住 カマド e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を多量、焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
 - 3 黒色土10YR2/1 灰層。煙道底面か。
 - 4 明黄褐色土10YR7/6 焼土ブロックを多く含む。
 - 5 4に似る。
 - 6 黄白色粘土ブロック・焼土ブロック・灰ブロックの混じり。上位と中位に灰層あり。縮まりなし。
 - 7 6に似るが灰層なし。
 - 8 黒褐10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混じり。圧縮されて水平につぶれる。上面は硬いが下位はやや軟。

- 20住 a-b, c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を多量に含む。ロームブロック・焼土を含む。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 ロームブロック・白色軽石粒・黒褐色土ブロックを含む。焼土を多量に含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロック・焼土・黒褐色土ブロックを含む。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。縮まりなし。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロック・赤色土粒を含む。
 - 6 4とほぼ同じ
 - 7 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。床面を形成する土。硬い。この層が3枚以上ある。
 - 8 7に似るが、やや軟らかい。床下の土。
 - 9 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多量、白色軽石を含む。
 - 10 灰黄褐色土10YR5/2 粘質土。ロームブロックを含む。21住居の立上りか。
 - 11 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。縮まりなし。床下のピットか。
 - 12 11に似る。床下のピットか。
 - 13 9に似るがやや暗い。



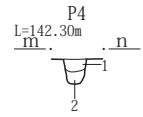
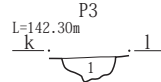
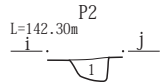
第45図 天王B区19住居、20住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物

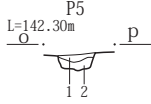


P1 3 g-h, i-j, k-l

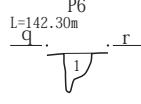
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。



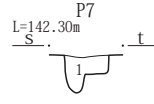
P4 m-n
1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。
2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。



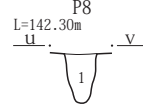
P5 o-p
1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
2 1よりローム粒子多い。



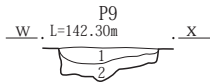
P6 q-r
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。



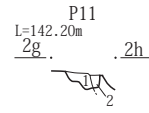
P7 s-t
1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。



P8 u-v
1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。



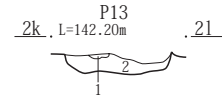
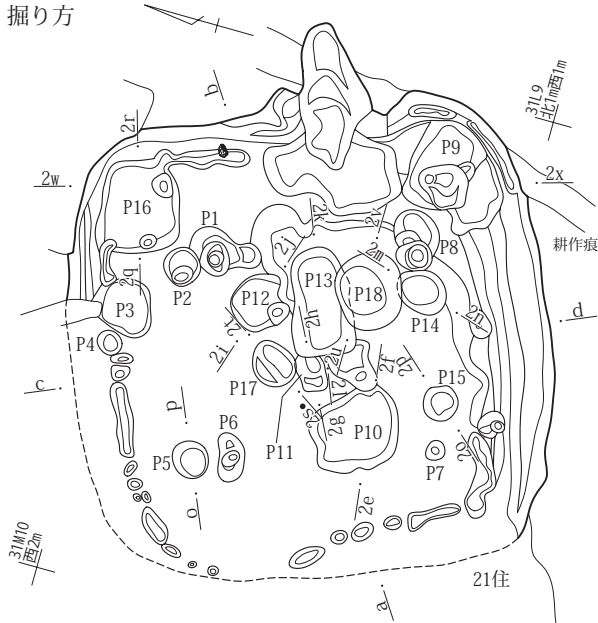
P9 w-x
1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・焼土・灰・炭化物を含む。
2 黄褐色土10YR5/6 ロームブロック・焼土・灰を含む。



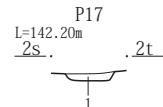
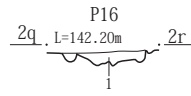
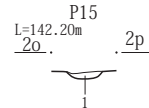
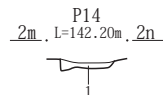
P10~12・14・15 2e-2f, 2g-2h, 2i-2j, 2m-2n, 2o-2p

1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を多く含む。締まりなし。
2 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混じり。P13の掘り方覆土か。

掘り方

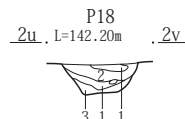


P13 2k-2l
1 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘質土。
2 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混じり。締まりなし。



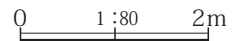
P16・17 2q-2r, 2s-2t

1 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混じり。

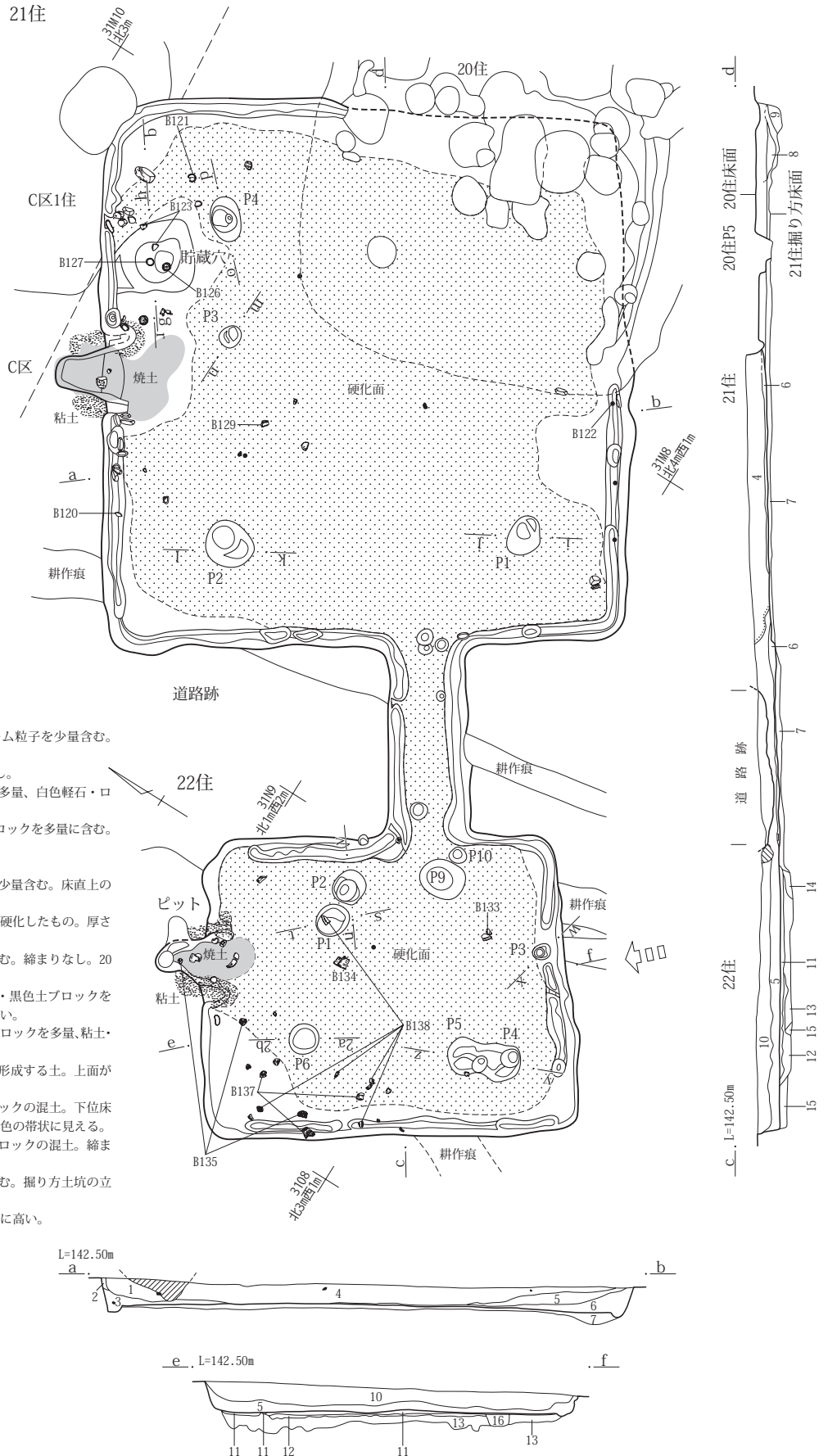


P18 2u-2v

1 灰白色土10YR8/2 粘質土。
2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・黒色土ブロック・焼土ブロックの混じり。
3 2に似るがロームブロック少ない。



第46図 天王B区20住居(2)

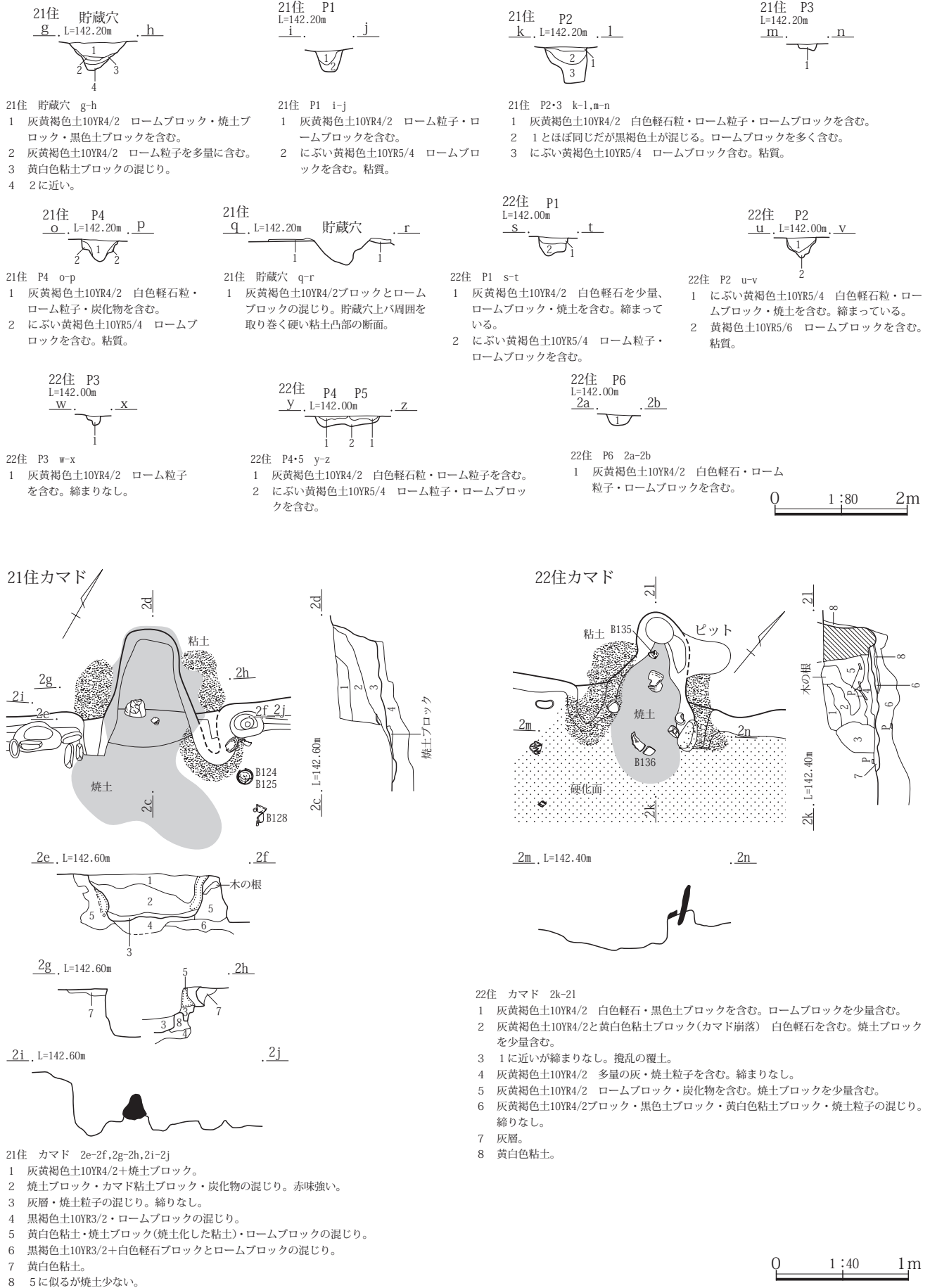


21・22住 a-b,c,d,e-f

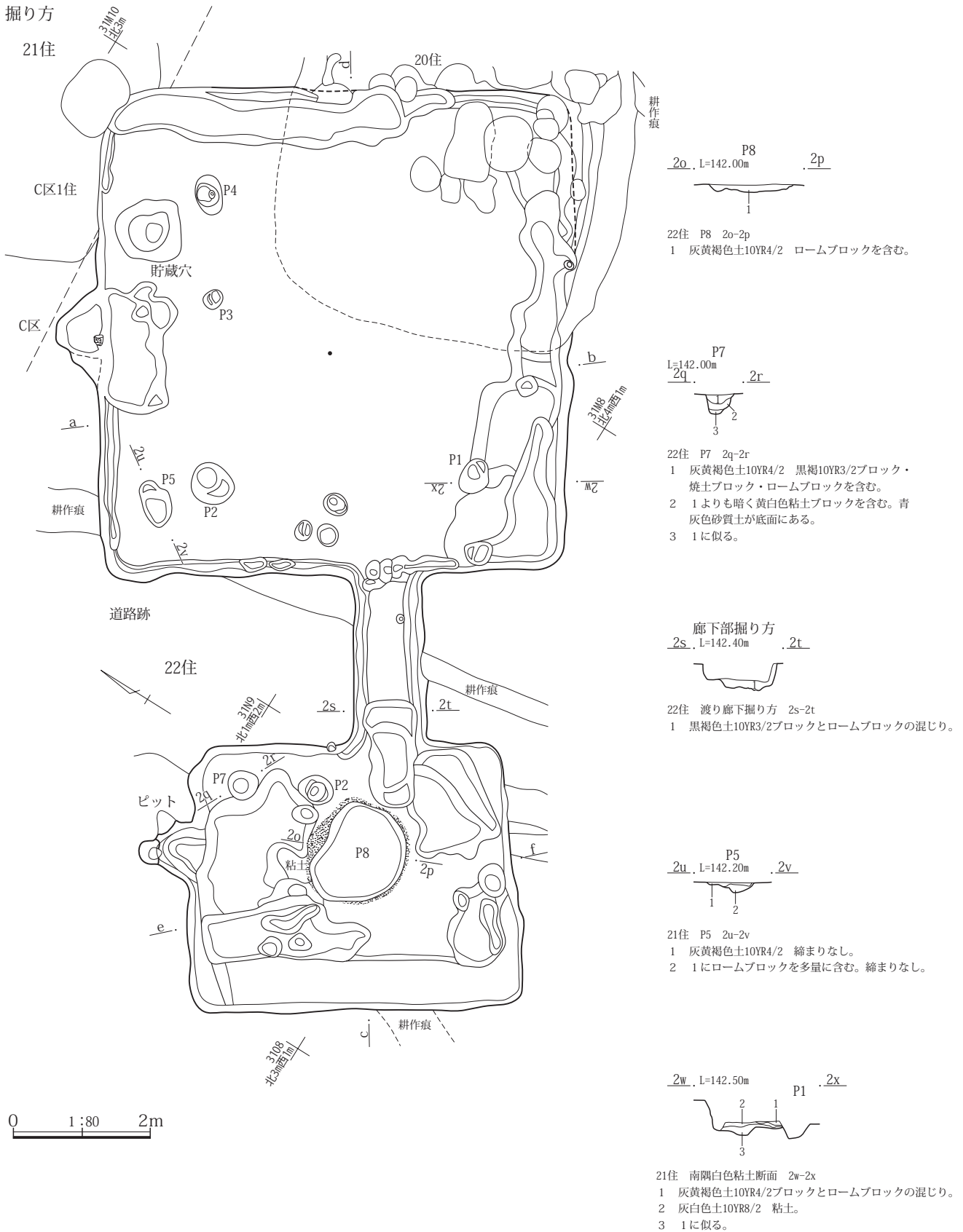
- 1 黒色土10YR2/1 白色軽石を多量、ローム粒子を少量含む。縮まっている。
- 2 黒褐色土10YR3/2 軽石なし。縮まりなし。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多量、白色軽石・ローム粒子を含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを多量に含む。縮まっている。
- 5 1に似るがロームブロックを含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量含む。床直上の土。
- 7 床面を形成する土。ほとんどローム面が硬化したもので。厚さ5cm程度の汚れ。
- 8 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。縮まりなし。20住居床下の土らしい。
- 9 緑灰色土 7.5GY6/1に近い 白色軽石・黒色土ブロックを含む。やや粘質。21住居掘り方の土らしい。
- 10 灰黄褐色土10YR5/2 白色軽石・ロームブロックを多量、粘土・焼土(中央部)・黒色土ブロック含む。
- 11 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。床面を形成する土。上面が硬く締まる。上位厚さ0.5cmは特に硬い。
- 12 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混土。下位床面を形成する土。硬く締まっている。黄色の帯状に見える。
- 13 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。縮まりなし。掘り方覆土。
- 14 黒褐色土10YR3/1 ロームブロックを含む。掘り方土坑の立ち上がりか。
- 15 汚れたローム 南西辺に沿ってベッド上に高い。
- 16 掘り方土坑の土。

第47図 天王B区21・22住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物

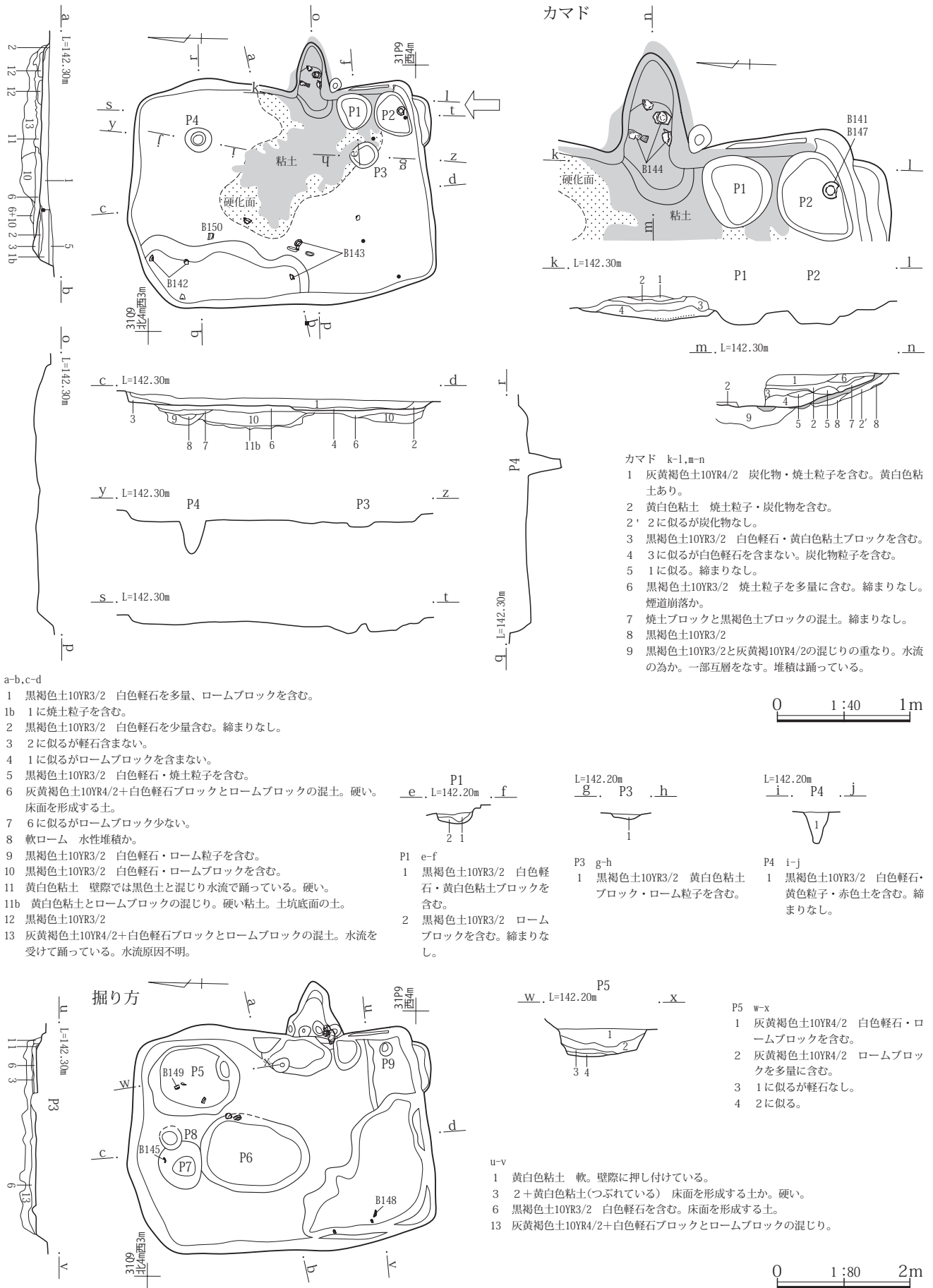


第48図 天王B区21・22住居(2)

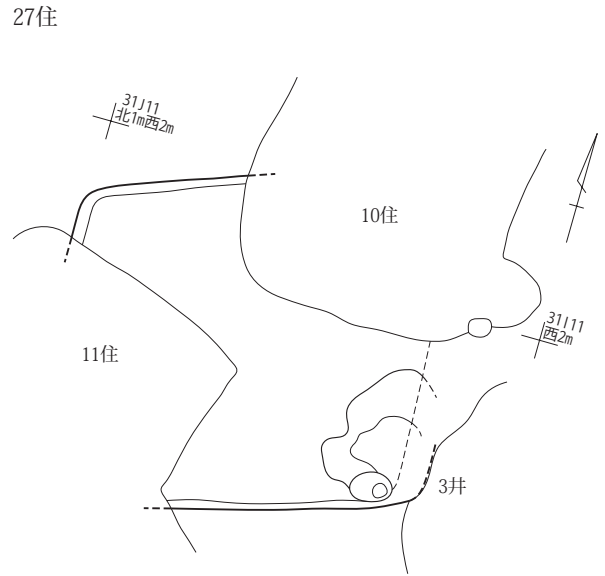
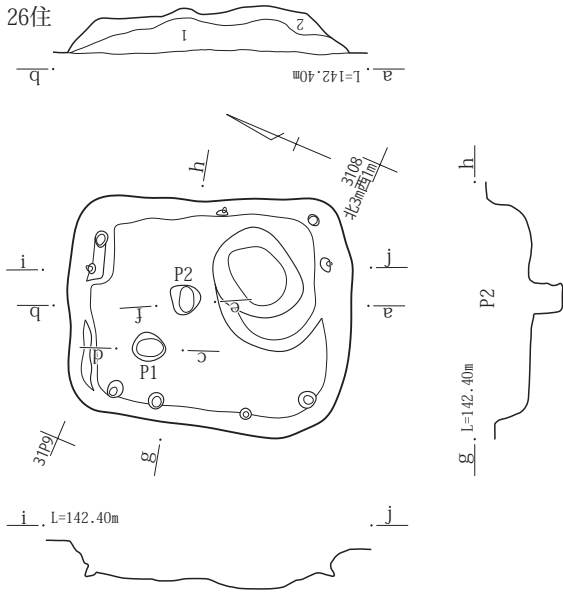


第49図 天王B区21・22住居(3)

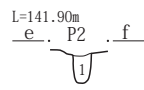
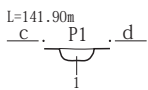
第4章 検出された遺構と遺物



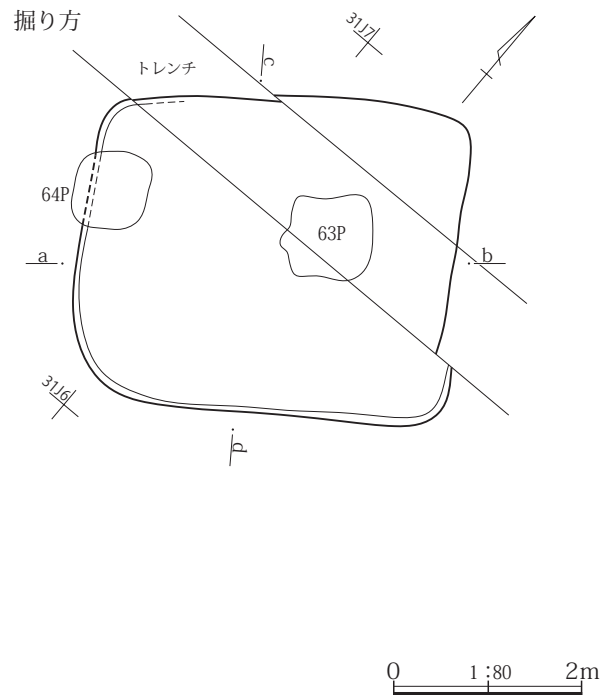
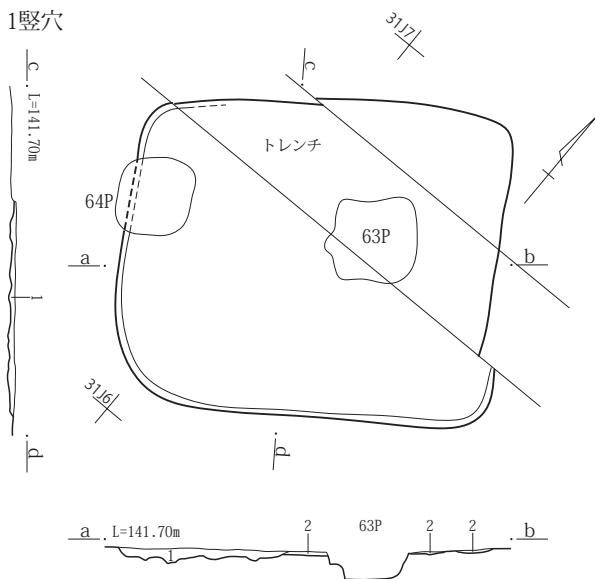
第50図 天王B区23住居



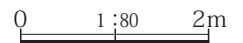
- 26住 a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを多量、白色軽石を含む。締まりなし。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く含む。締まりなし。



- 26住 P1 c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを多く含む。
- 26住 P2 e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く含む。

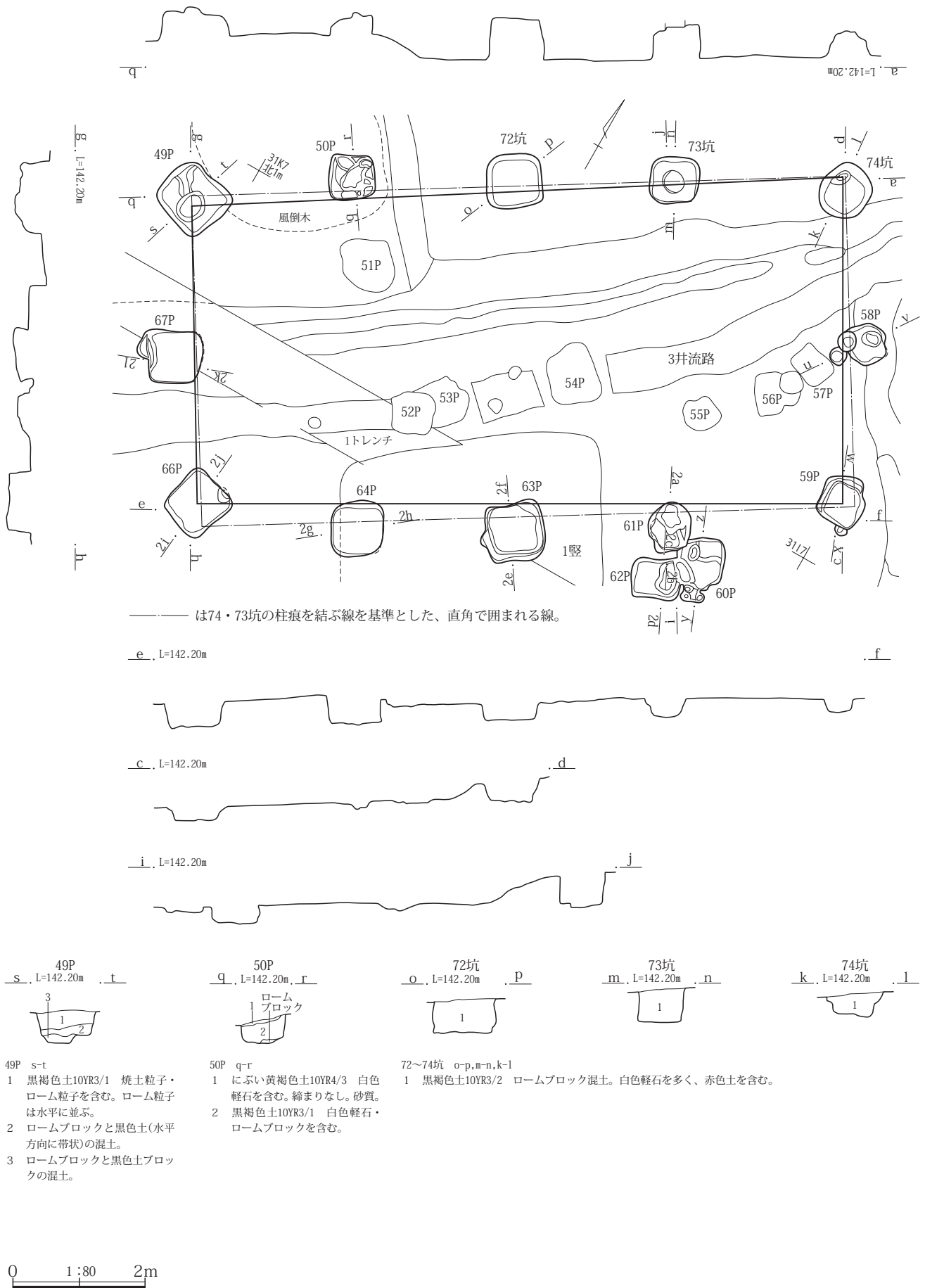


- 1 竪穴 a-b, c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。



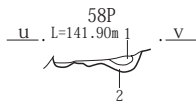
第51図 天王B区26・27住居、1 竪穴

第4章 検出された遺構と遺物

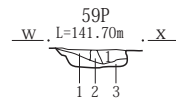


第52図 天王B区1 掘立柱建物(1)

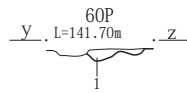
遺構図(天王B区)



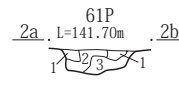
- 58P u-v
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。ロームなし。
 2 1層の土にロームブロック混じり。



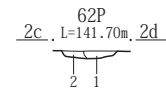
- 59P w-x
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 2 1に黒色土ブロックを含む。締まりなし。
 3 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。締まりなし。



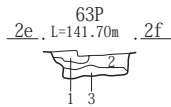
- 60P y-z
 1 灰黄褐色土10YR4/29とロームブロックの混じり。



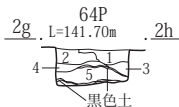
- 61P 2a-2b
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ロームブロックを少量含む。締まりなし。
 3 黒褐色土10YR3/1ブロックとロームブロックの混じり。水流か。



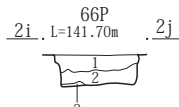
- 62P 2c-2d
 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量含む。
 2 1よりもロームブロック多い。



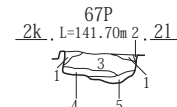
- 63P 2e-2f
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。
 2 黒褐色土10YR2/2 ロームブロックを含む。
 3 ロームブロックと黒色土(水平の帯状)が水平に交互に堆積。



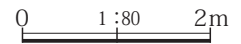
- 64P 2g-2h
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
 2 オリーブ黒色土10Y3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 3 2よりもロームブロック多い。締まりなし。
 4 ロームブロックと黒色土が帯状に堆積。縮まっている。
 5 4との間に黒色土が帯状にあり。4に似る。縮まっている。水平方向に黒色土が堆積。



- 66P 2i-2j
 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 2 灰黄褐色土10YR4/2+白色軽石とロームブロック多量の混じり。締まりなし。
 3 黒褐色土10YR2/2 軽石なし。締まりなし。



- 67P 2k-2l
 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
 2 灰黄褐色土10YR4/2 黄色軽石・ロームブロックを含む。粘質。
 3 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。
 4 黒褐色土10YR3/1 黄白色軽石を含む。締まりなし。
 5 3にロームブロック・ローム粒子を多く含む。締まりなし。

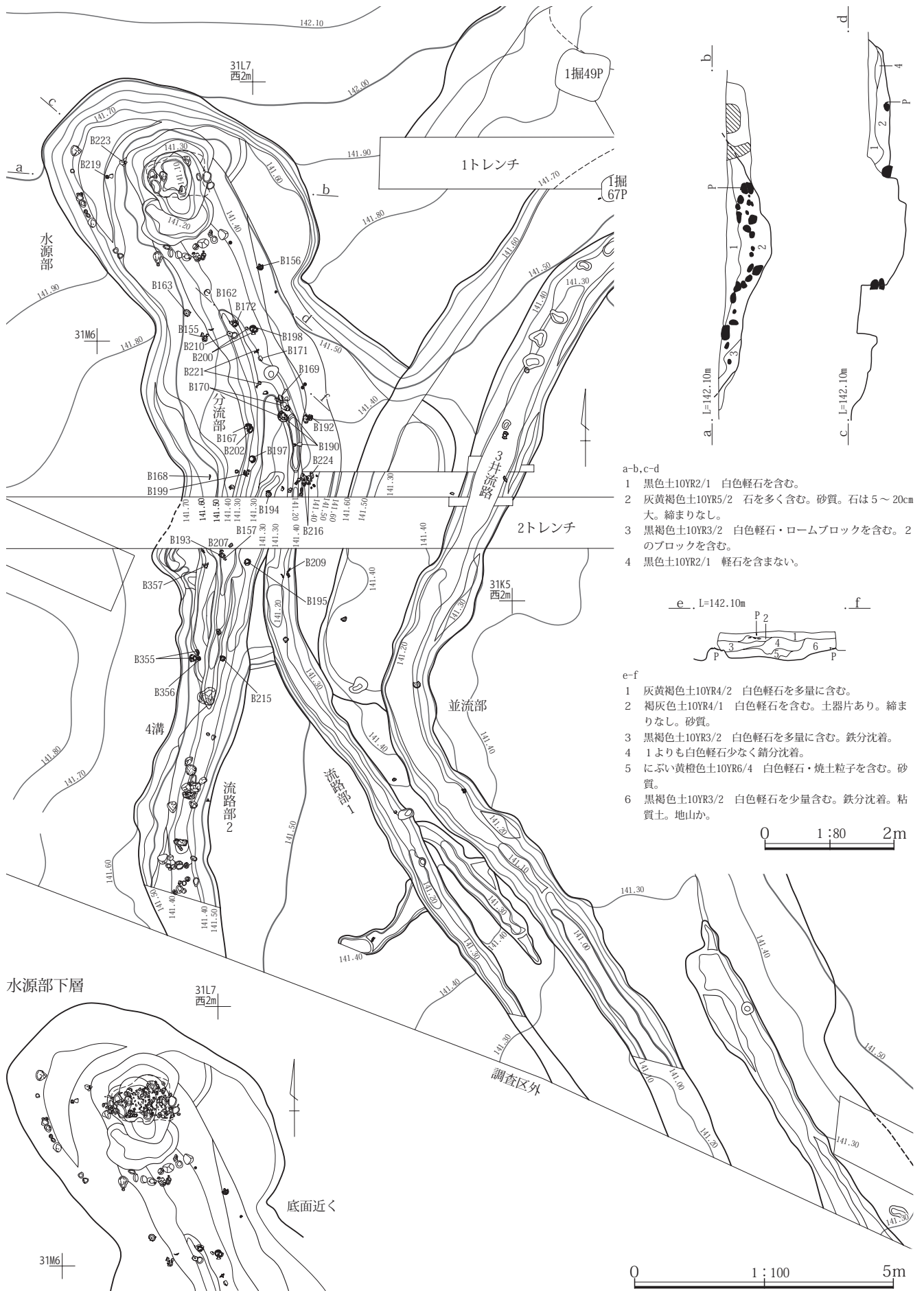


第12表 天王B区1掘立柱建物計測表

平面形	長方形	規模		長軸方位(67P-58P) N59° E			面積m ²	48.51
		桁行cm	梁行cm	番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径		
74土-49P:984	74土-59P:493	74土-73土:254	74土-58P:249	74土坑	94×83	柱痕30×17	39	柱痕
67P-58P:1015	73土-61P:504	73土-72土:241	58P-59P:245	73土坑	74×69	柱痕34×31	52	柱痕
66P-59P:973	72土-63P:523	72土-50P:241	49P-67P:227	72土坑	83×81	69×66	68	
	50P-64P:533	50P-49P:250	67P-66P:225	50P	69×65	61×60	34	
	49P-66P:449	66P-64P:244		49P	99×88	柱痕50×40	52	柱痕
		64P-63P:236		67P	81×78	69×74	21	
		63P-61P:236		66P	84×77	76×71	32	
		61P-59P:260		64P	84×78	69×75	35	
				63P	88×85	68×67	26	二段
				61P	73×65	35×22	26	二段
			59P	77×68	53×47	20	二段	
			58P	75×64	柱痕31×28	12	柱痕	
			60P	79×73	72×61	9		
			62P	75×58	67×47	10		

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

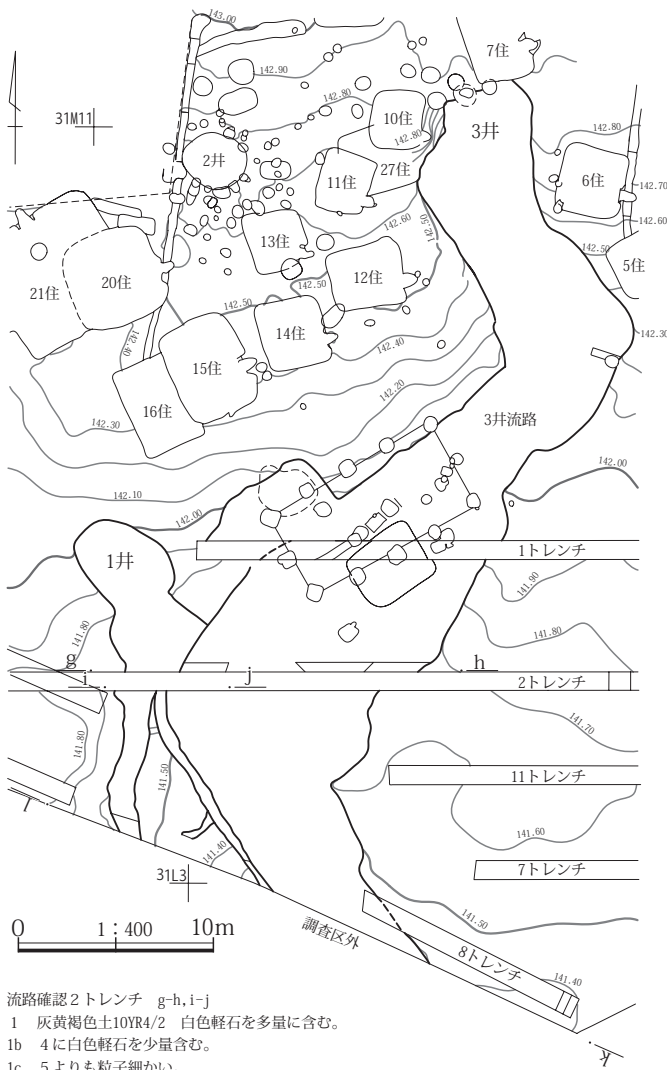
第53図 天王B区1掘立柱建物(2)



- a-b, c-d
- 1 黒色土10YR2/1 白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR5/2 石を多く含む。砂質。石は5~20cm大。締まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2のブロックを含む。
 - 4 黒色土10YR2/1 軽石を含まない。

- e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多量に含む。
 - 2 褐灰色土10YR4/1 白色軽石を含む。土器片あり。締まりなし。砂質。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多量に含む。鉄分沈着。
 - 4 1よりも白色軽石少なく錆分沈着。
 - 5 灰黄褐色土10YR6/4 白色軽石・焼土粒子を含む。砂質。
 - 6 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。鉄分沈着。粘質土。地山か。

第54図 天王B区1井戸(溜井)(1)

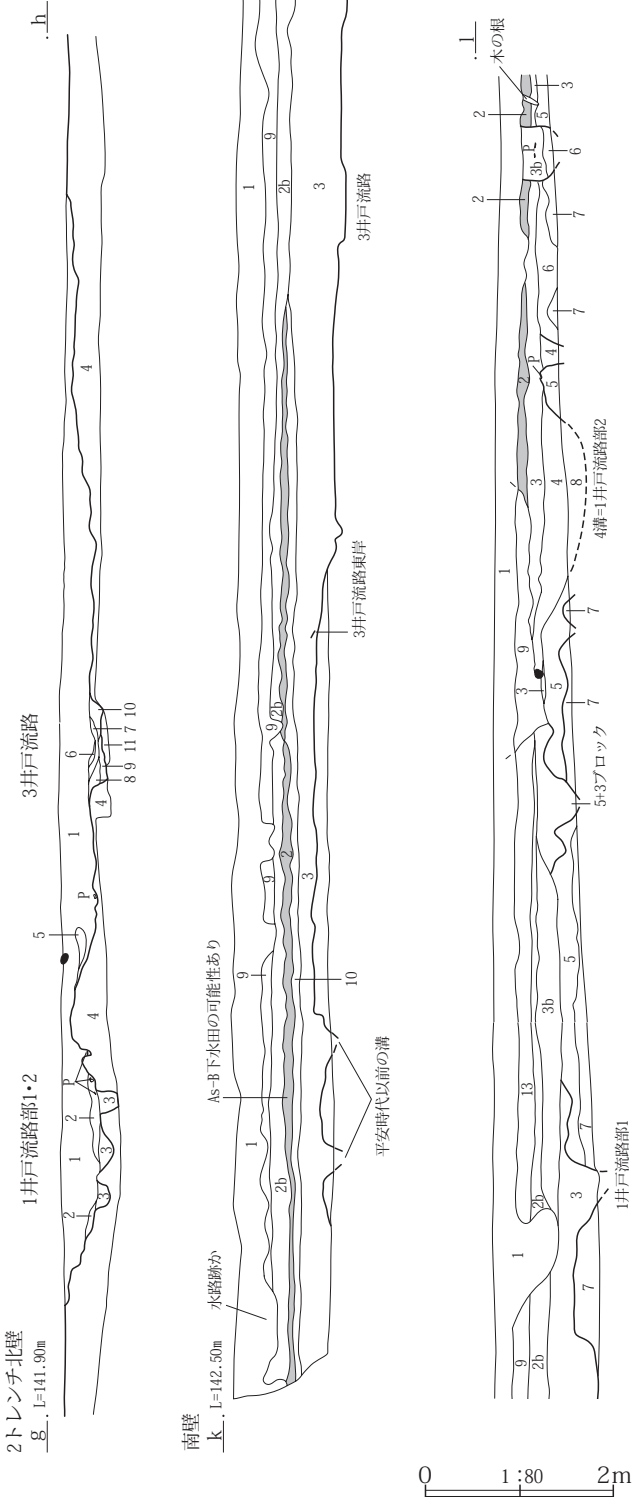
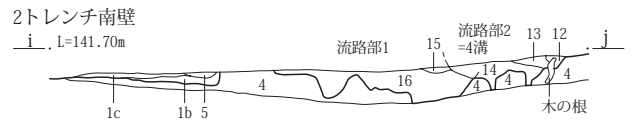


流路確認2トレンチ g-h, i-j

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多量に含む。
- 1b 4に白色軽石を少量含む。
- 1c 5よりも粒子細かい。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 白色軽石・炭化物・土器片を含む。締まりなし。砂質。
- 3 2に似るか鉄分沈着。地山の黒褐粘質土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土10YR2/2 鉄分沈着。粘質。地山。
- 5 2に似るか明黄色の砂ブロックを含む。溝底面の土。流水あり。立ち上がり不明。
- 6 2に似る。砂質。
- 7 褐灰色土10YR4/1 4のブロックを含む。
- 8 黒褐色土10YR2/2 白色軽石を少量含む。
- 9 灰黄褐色土10YR4/2 黄色軽石・白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。粒子は5~10mm大の大きさ。
- 10 8に似るか鉄分沈着。
- 11 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。
- 12 にぶい黄褐色土10YR5/3 3~15mm大の小石と砂の層。砂利層。
- 13 灰黄褐色土10YR5/2 川砂を含む。砂質だが12・14より粒子細かい。
- 14 12に似るか鉄分沈着多い。砂利層。北への延長部不明。
- 15 13に似る。下の溝の覆土。
- 16 灰黄褐色土10YR5/2 白色軽石・黒褐粘質土ブロックを含む。1・2・3の混じり。

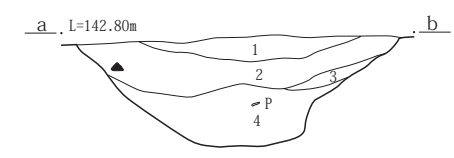
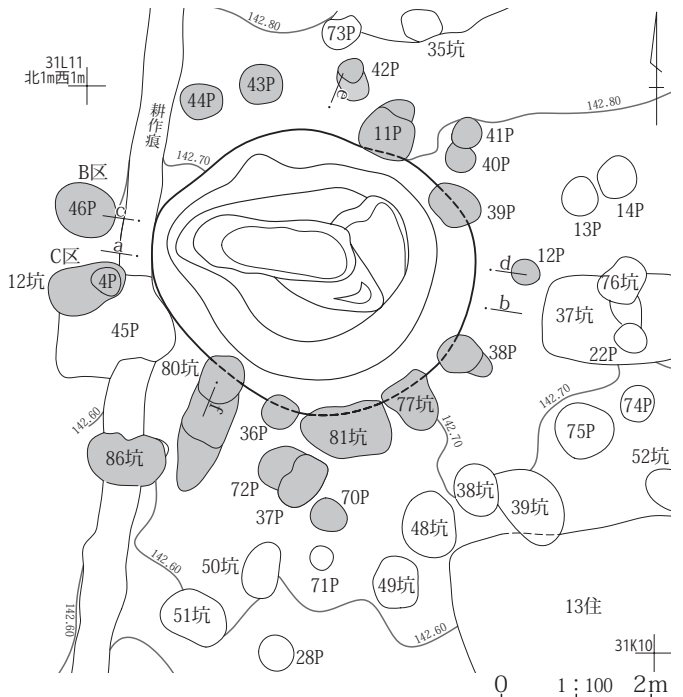
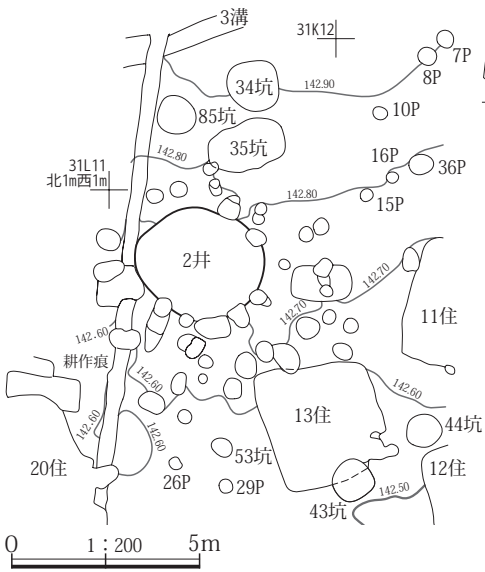
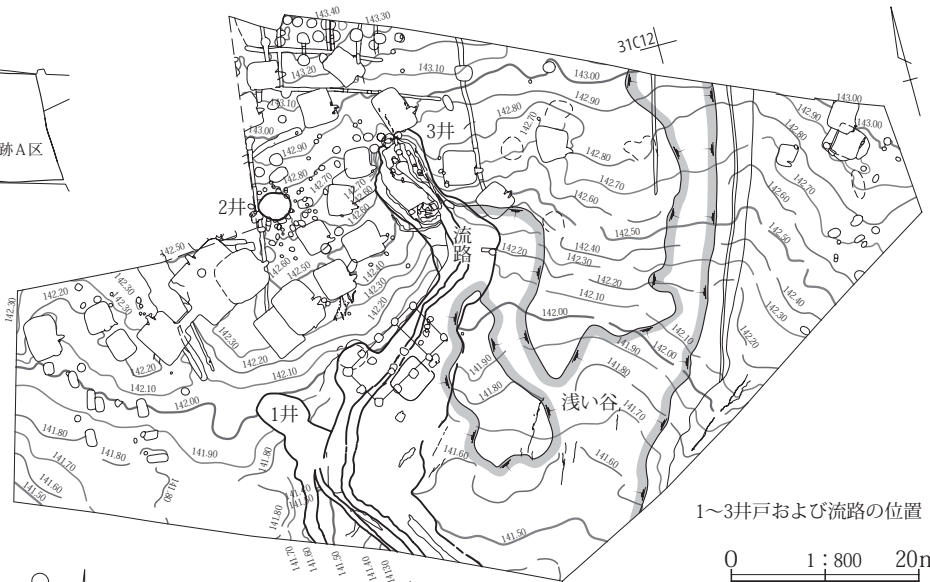
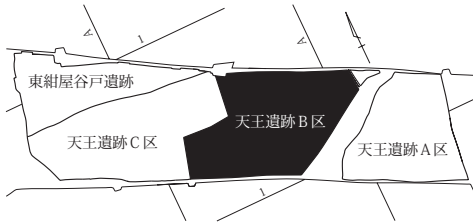
B区南壁の一部 k-1

- 1 灰黄褐色土10YR5/2 締まりなし。現耕作土。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 As-Bを含む。一部As-B純のブロックや青紫色Ashを含む。
- 2b As-Bを多く含むが鉄分沈着少ない。灰色系。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く含む。谷を埋める土。
- 3b 3よりも灰色砂多い。
- 4 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・黄色軽石・ロームブロックを含む。鉄分沈着。
- 5 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。As-C混土
- 6 5にローム粒子を含む。
- 7 黒褐色土10YR3/2 As-C混土の下位の土。
- 8 4にロームブロック・砂礫を含む。4溝の覆土。
- 9 As-Bを含むが、As-B混土のブロックは見られない。砂質。2の変質した土か。
- 10 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。やや砂質。As-B下水田の耕作土の可能性あり。

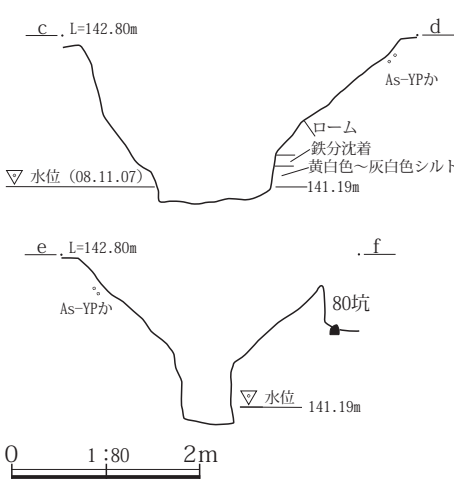


第55図 天王B区1井戸(溜井)(2)

第4章 検出された遺構と遺物



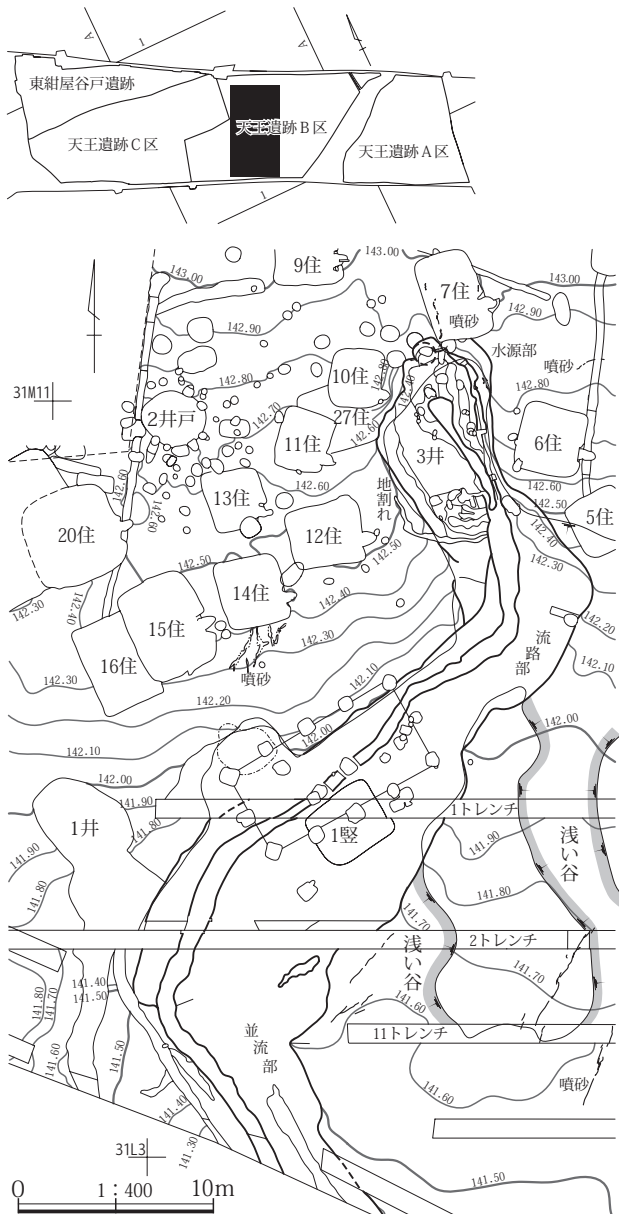
- 2井 a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多量、ローム粒子を含む。硬い。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色粒子を含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。砂質。締まりなし。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを少量含む。砂質。締まりなし。



第13表 天王B区2井戸周辺の土坑・ピット(北から時計廻り)

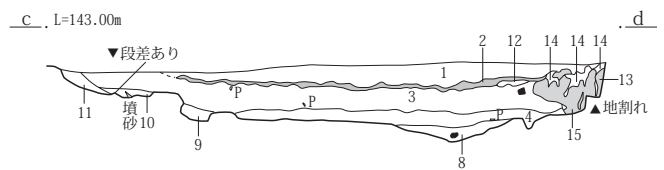
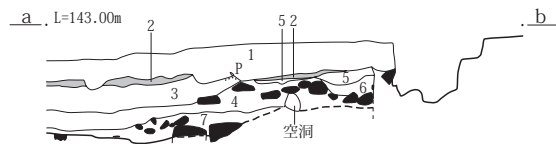
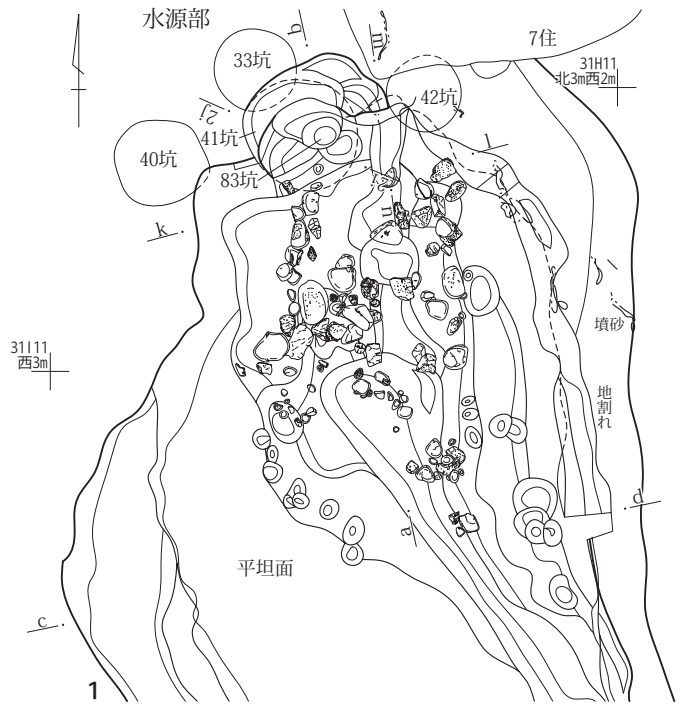
番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深cm	遺物登録	破片 土=土師器	備考
11	ピット	31K11	不整形	66×58・15		-	
39	ピット	31K10	不整形	47×43・49		-	二段
38	ピット	31K10	不整形	60×43・33		-	
77	土坑	31K10	不整形	60×54・15		-	
81	土坑	31K10	不整形	97×58・29		土18g	底面に小穴
36	ピット	31K10	不整形	37×36・21		-	
80	土坑	31K10	不整形	151×50・64		-	掘り込み3連、2井戸側最深
42	ピット	31K11	不整形	43×30・7		-	穴2個
40	ピット	31K11	略円形	35×32・37		-	二段,41Pとつながる
41	ピット	31K11	不整形	34×31・43		-	二段,40Pとつながる
12	ピット	31K10	略円形	31×27・22		-	底面楕円形
70	ピット	31K10	不整形	40×34・26		-	底面不整形
37	ピット	31K10	不整形	58×37・32		-	二段,72Pとつながる
72	ピット	31K10	不整形	50×33以上・12		-	37Pより浅い
86	土坑	31L10	不整形	84×53・60		土3g	底面不整形
C区4	ピット	31L10	不整形	84×40・80		-	2個連接
C区12	土坑	31L10	不整形	84×40・80	C679	-	
46	ピット	31L10	略楕円形	67×55・16		-	
44	ピット	31K11	略方形	45×39・30		-	やや離れている
43	ピット	31K11	略円形	45×42・34		-	やや離れている

第56図 天王B区1～3井戸および流路の位置、2井戸

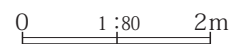


- k-l, m-n
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
 - 2 黄白色の砂。
 - 2b 1+2。
 - 3 上位に灰黄褐色土10YR4/2、下位に2。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
 - 5 2bに近い。1と2がブロック状に混じる。炭化物粒を含む。地割れの落ち込みか。
 - 6 黒色土ブロック。地割れの落ち込みか。

- 83坑 2i-2j
- 1 黒褐色土10YR3/2 焼土・ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。ロームブロック混じる。焼土粒子を含む。

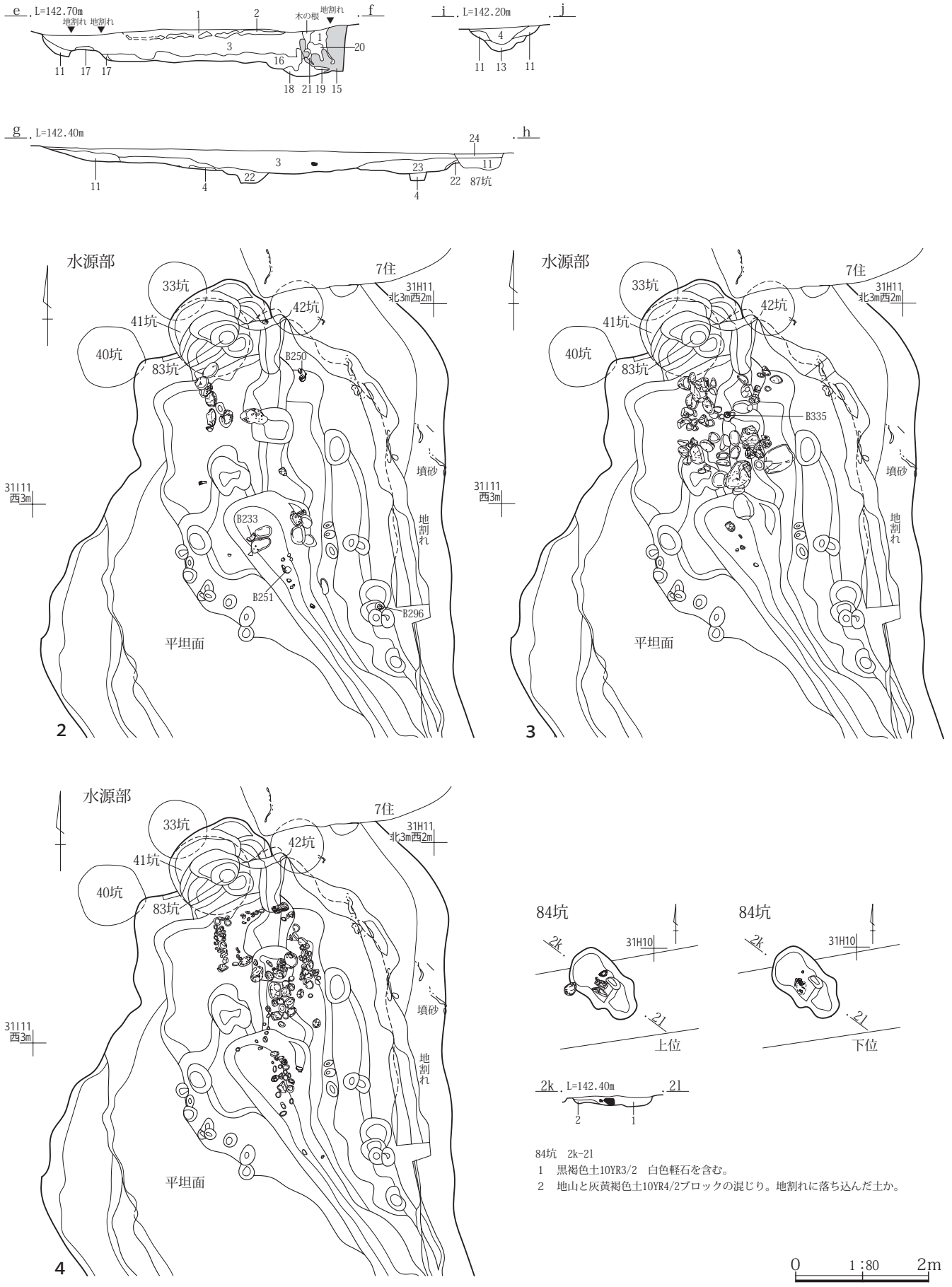


- 3井 a-b, c-d, e-f, g-h, i-j
- 1 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を多量に含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。粘質。
 - 3 1よりも砂質。
 - 4 黒褐色土10YR3/1 炭化物・焼土粒子を含む。砂質。縮まりなし。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR5/3 砂質。黄白色軽石を含む。縮まりなし。縮状に黒色土含む。
 - 6 5との間に厚さ5mm程の黄色粘質土あり。黒色土とにぶい黄褐色土10YR5/3砂質土の交互層。
 - 7 灰黄褐色土10YR5/2 砂質。縮まりなし。土器片含む。5~10cm大の石多い。
 - 8 4に近いが7の砂層と異なる。
 - 9 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。
 - 10 3に似るが白色軽石少ない。縮まりなし。
 - 11 にぶい黄褐色土10YR5/4 砂質。汚れた地山。
 - 12 4に似る。
 - 13 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。
 - 14 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混土。
 - 15 明黄褐色土10YR6/6ブロック 地山のブロック。地割れで剥げ落ちた地山。
 - 16 褐色土10YR3/1 4に近い。ロームブロック・白色軽石・炭化物・焼土粒子を含む。砂質。縮まりなし。
 - 17 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。縮まりなし。
 - 18 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。19との境に黄白色シルトが混じる。
 - 19 黒色土10YR2/1 縮まりなし。
 - 20 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。地割れに落ち込んだ土。縮まりなし。
 - 21 20に似るが水流痕あり。踊っている。縮まりなし。
 - 22 3よりも軽石少ない。
 - 23 にぶい黄褐色土10YR5/4 13に近い。白色軽石を含む。砂質。汚れた地山。
 - 24 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。3よりも暗い。87土坑上位の埋没土。

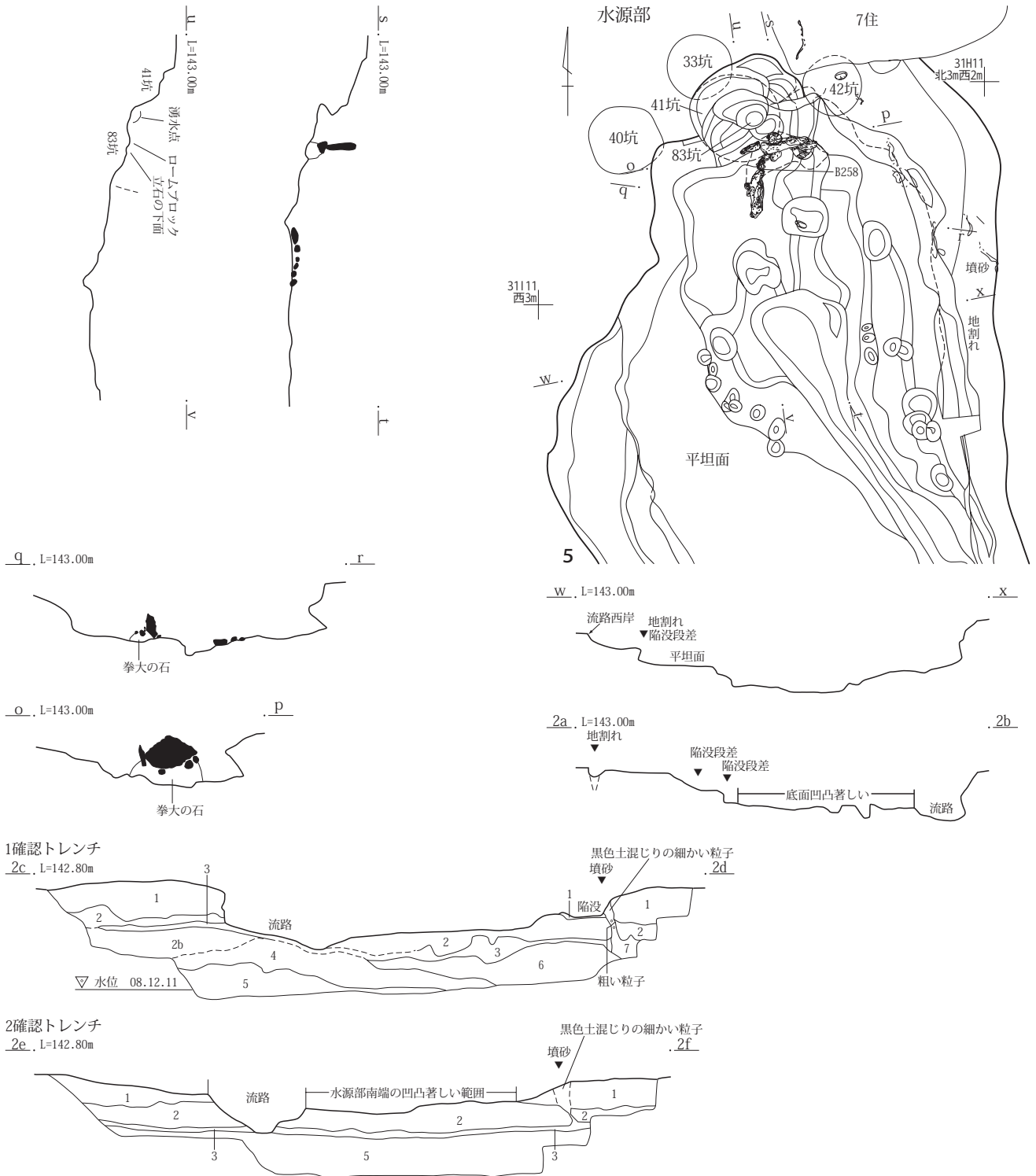


第57図 天王B区3井戸(溜井)(1)、83土坑

第4章 検出された遺構と遺物



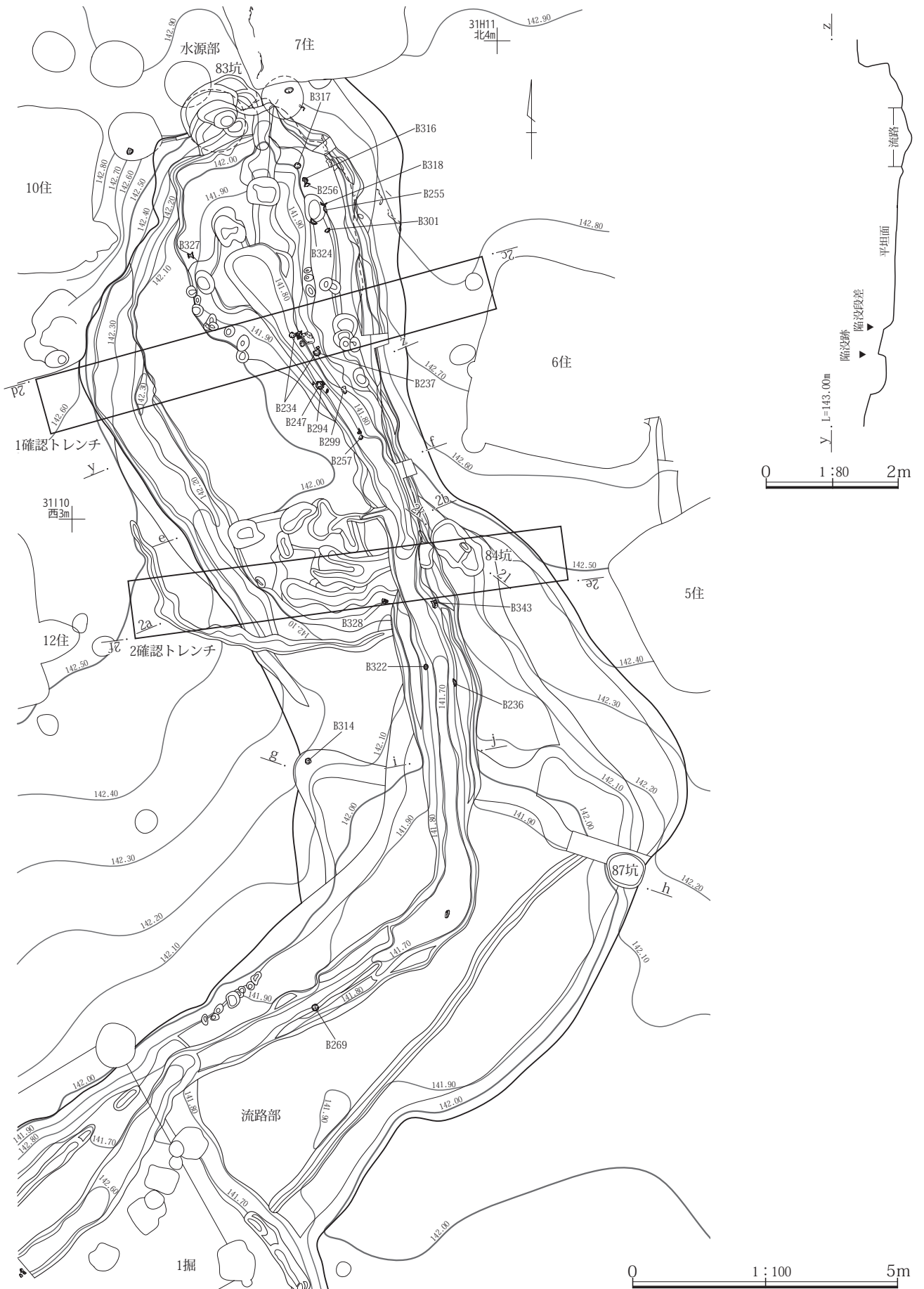
第58図 天王B区3井戸(溜井)(2)、84・87土坑



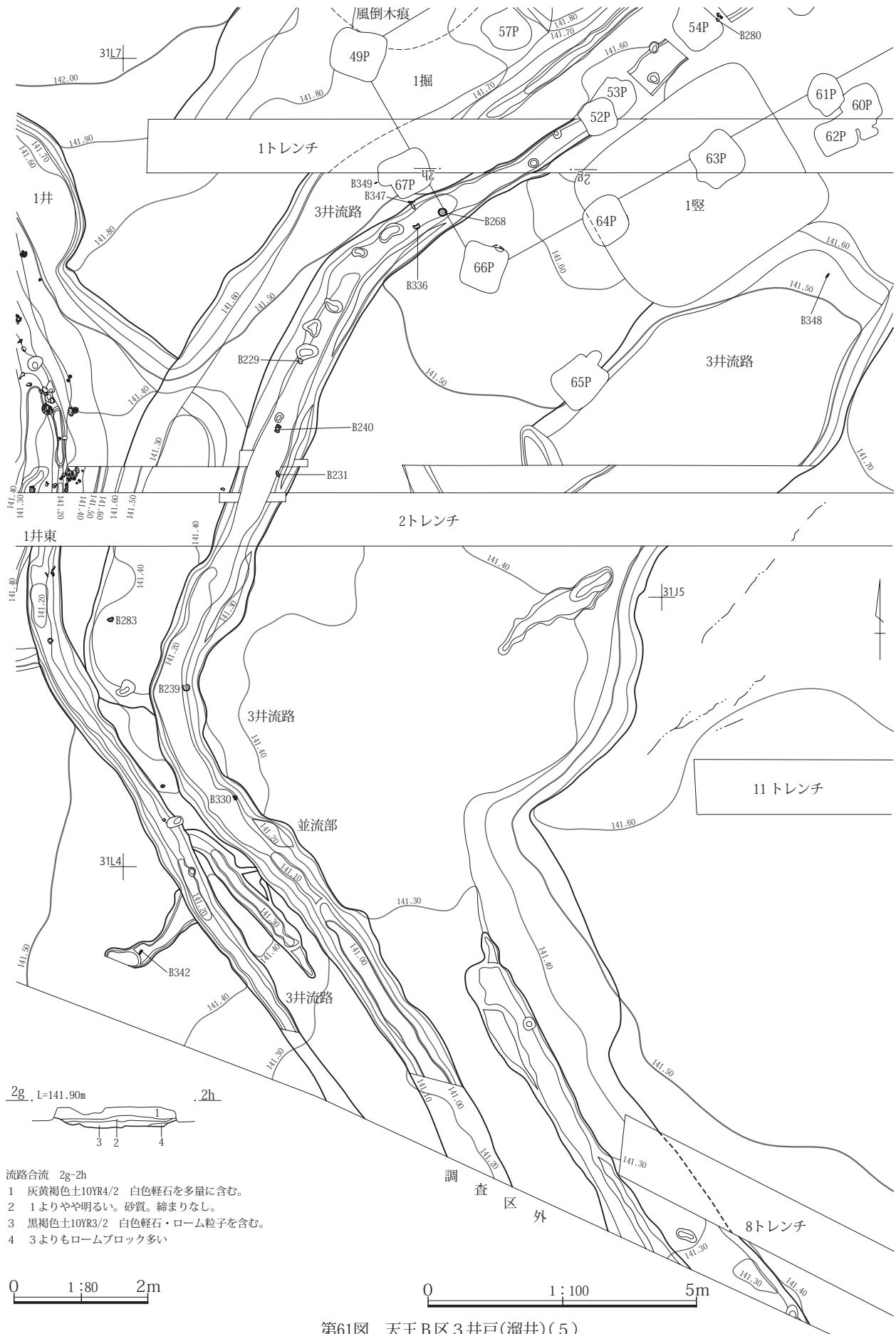
- 1・2 確認トレンチ 2c-2d, 2e-2f
- 1 黒褐色土10YR3/2 灰黄褐10YR4/2ブロックを斑点状に含む。地山の土。
 - 2 明黄褐色土10YR7/6 白色軽石を含む。一部に硬いブロックを含む。
 - 2b 2に似るが黄褐色強い。
 - 3 浅黄橙色土10YR8/4～灰白色土10YR8/1 変色あり。水で洗われたような砂質の土。1～3mm大の粒子の集合。
 - 4 灰白色土5Y8/2 青味あり。3～5cm大の小石を含む。鉄分沈着あり。シルト質。
 - 5 浅黄橙色土10YR8/4 3～5cm大の小石を含む。一部に硬いブロックを含む。鉄分沈着あり。
 - 6 黄橙色土10YR8/6 3～5cm大の小石を含む。一部に硬いブロックを含む。鉄分沈着特に多い。3の15cm大ブロックを含む。
 - 7 3に近い。3のブロックと黄白色砂質土の混じり。噴砂痕。

第59図 天王B区3井戸(溜井)(3)

第4章 検出された遺構と遺物



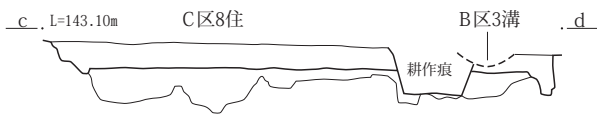
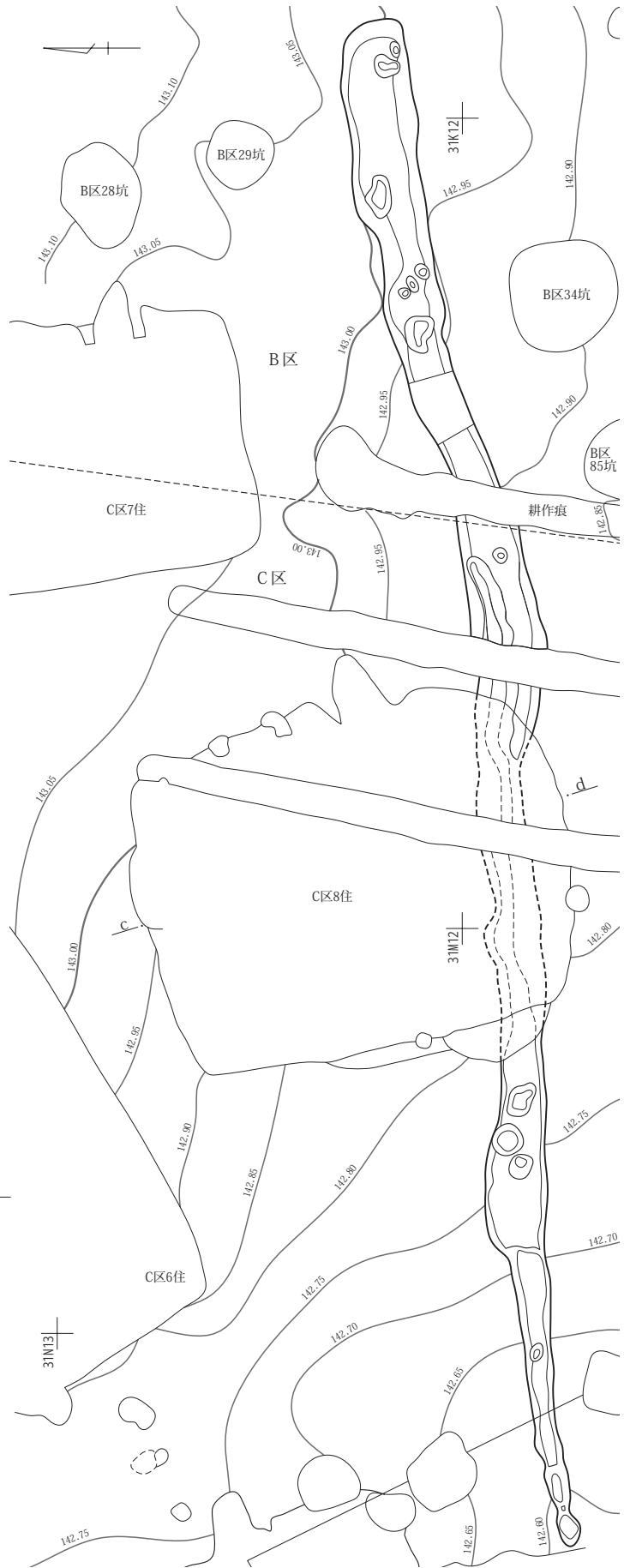
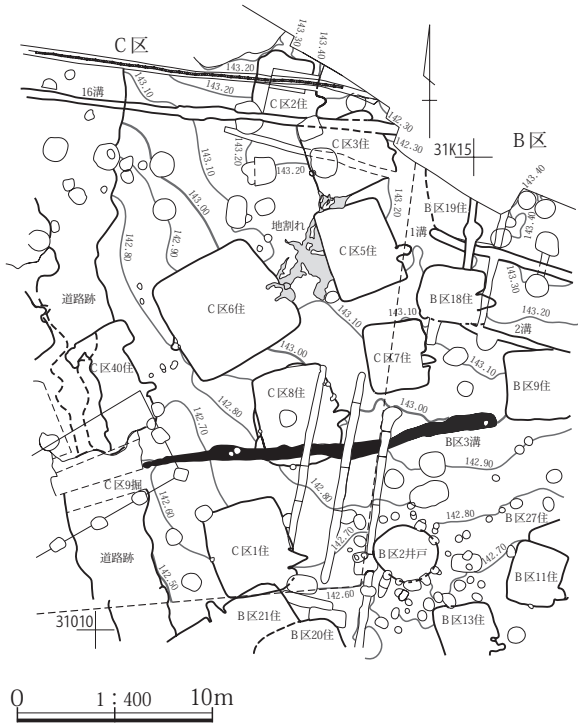
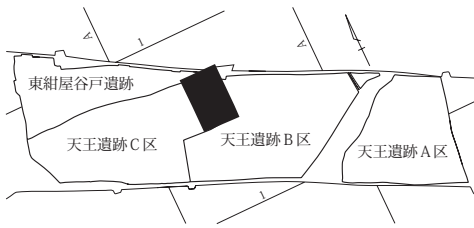
第60図 天王B区3井戸(溜井)(4)、84・87土坑



- 流路合流 2g-2h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多量に含む。
 - 2 1よりやや明るい。砂質。縮まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
 - 4 3よりもロームブロック多い

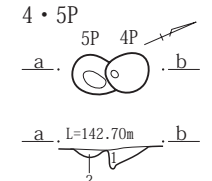
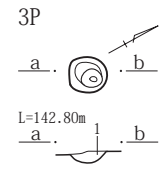
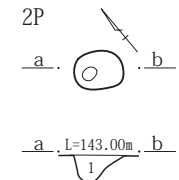
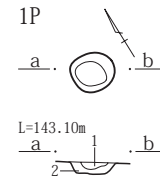
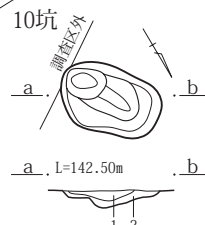
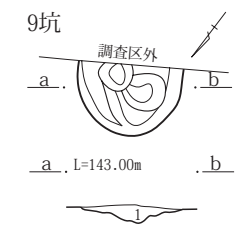
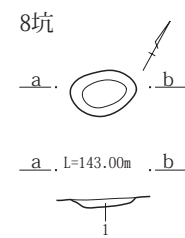
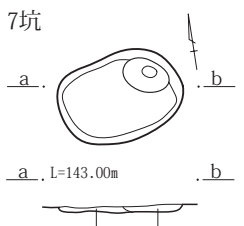
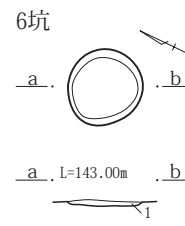
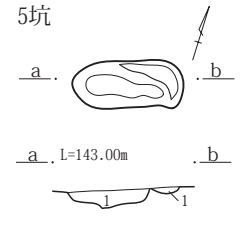
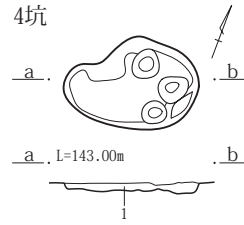
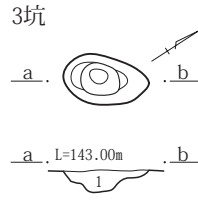
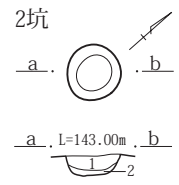
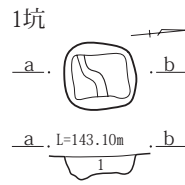
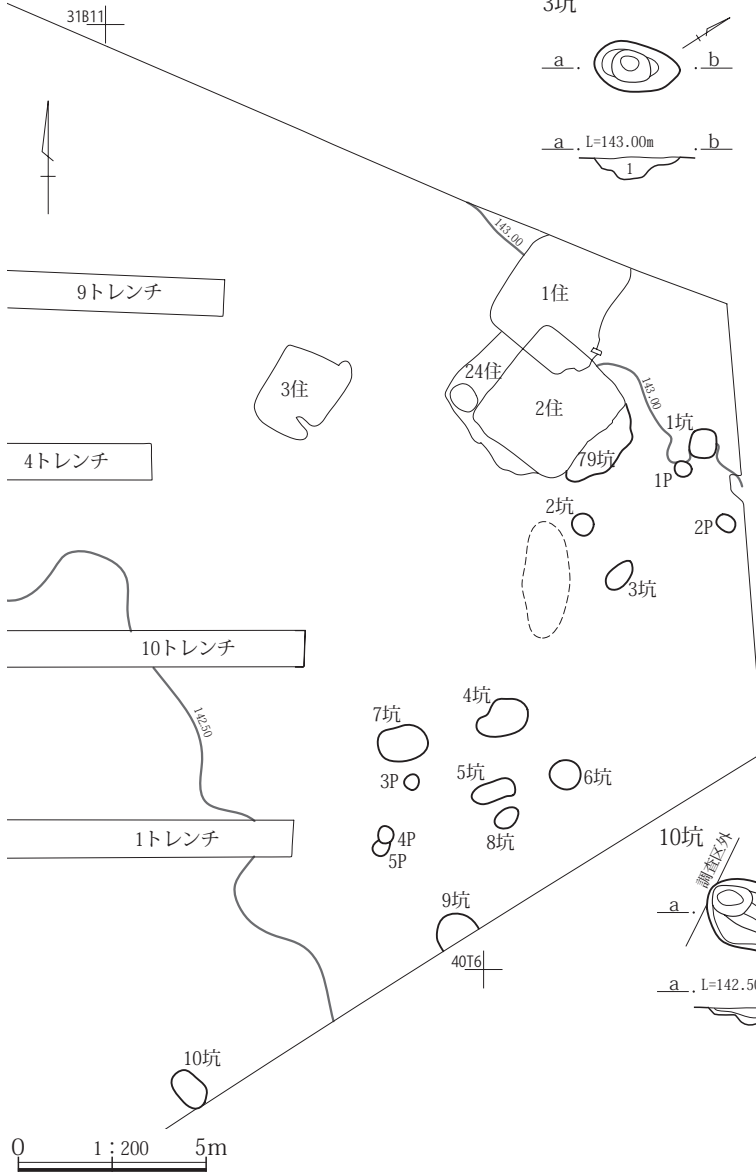
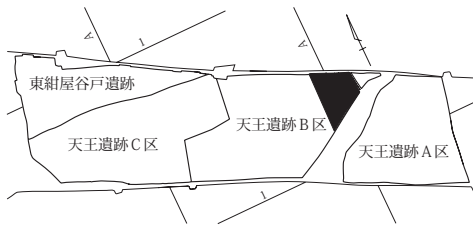
第61図 天王B区3井戸(溜井)(5)

第4章 検出された遺構と遺物



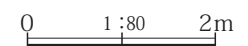
第62図 天王B区3溝

遺構図(天王B区)

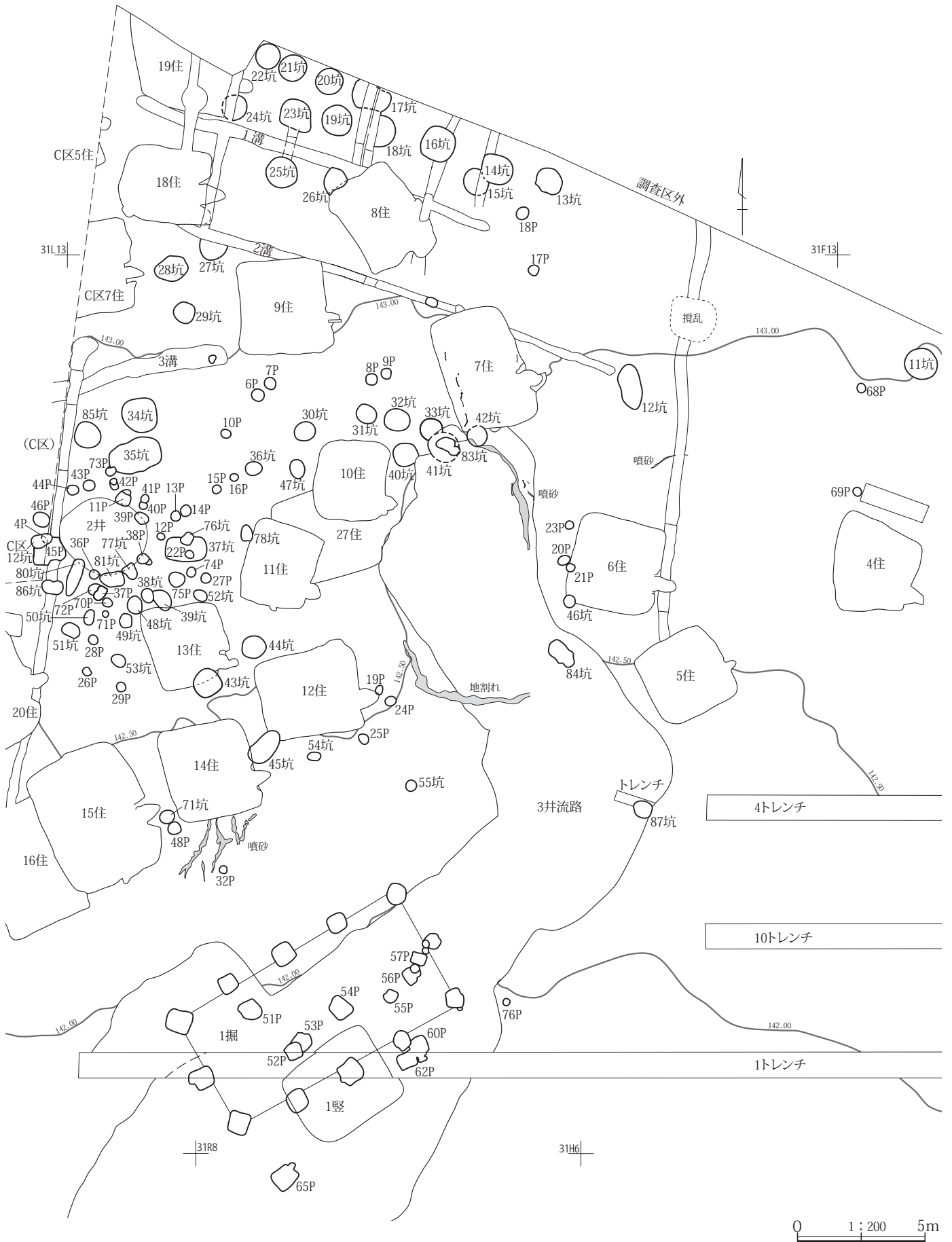


- 1坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。
 - 2坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。ローム粒子を含む。締まりなし。
2 にぶい黄褐色土10YR5/4 地山。
 - 3坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームとの混土。締まりなし。
 - 4・5・9坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 6坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量含む。締まりなし。
 - 7坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
2 1にロームブロックを含む。
 - 8坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。白色軽石を含む。締まりなし。
 - 10坑 1 黒褐色土10YR3/1 軽石との混土。下部に軽石層あり。締まりなし。
2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。
- 79坑は2住(第29図)の図を参照。

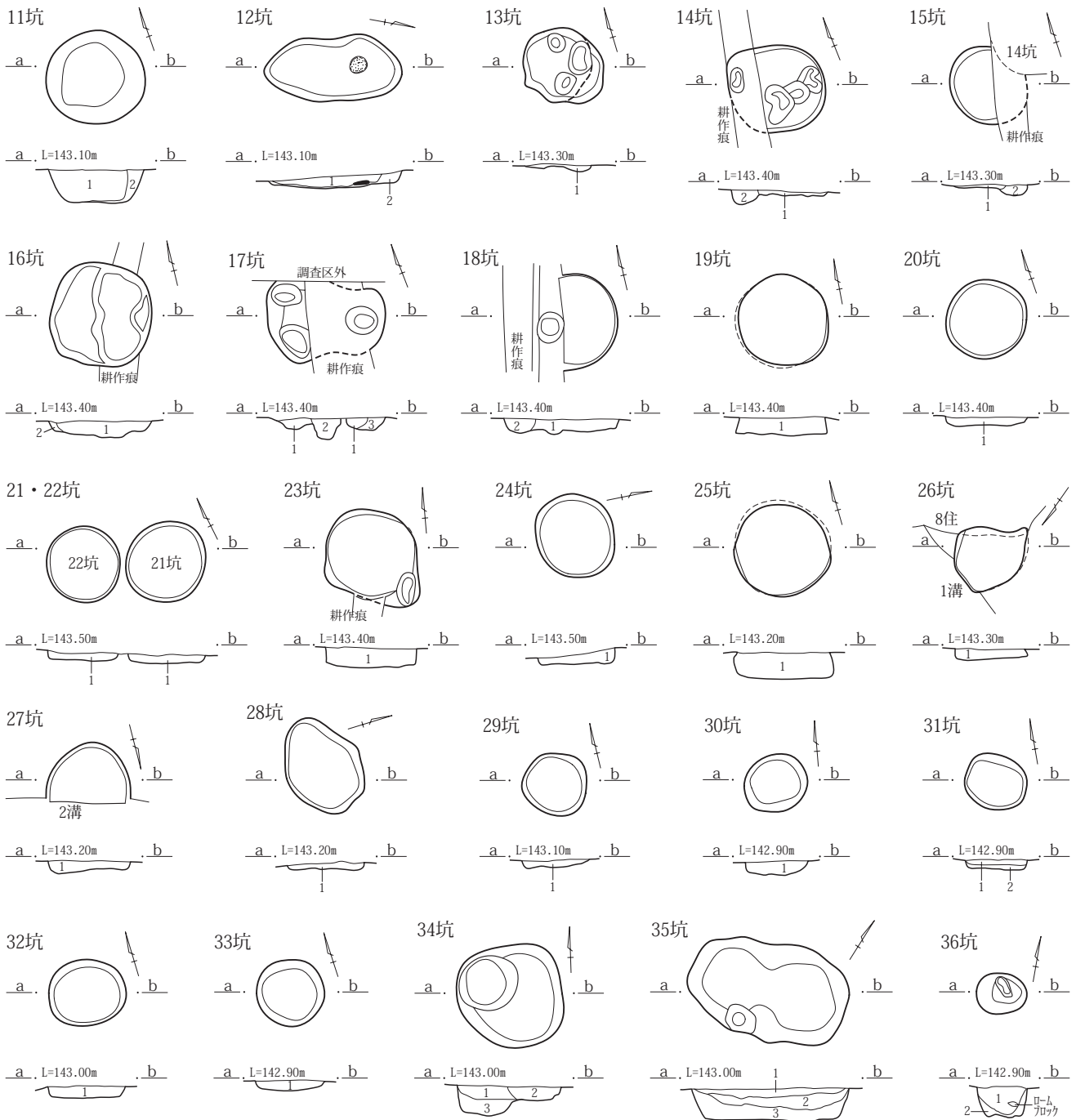
- 1P 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
2 にぶい黄褐色土10YR5/4ローム粒子を含む。地山か。
- 2P 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。
- 3P 1 黒褐色土10YR3/2 下位にロームブロックを含む。ローム粒子・軽石を含む。締まりなし。
- 4・5P 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
2 1よりローム粒子の量多い。



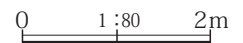
第63図 天王B区土坑・ピット(1)



第64図 天王B区土坑・ピット(2)

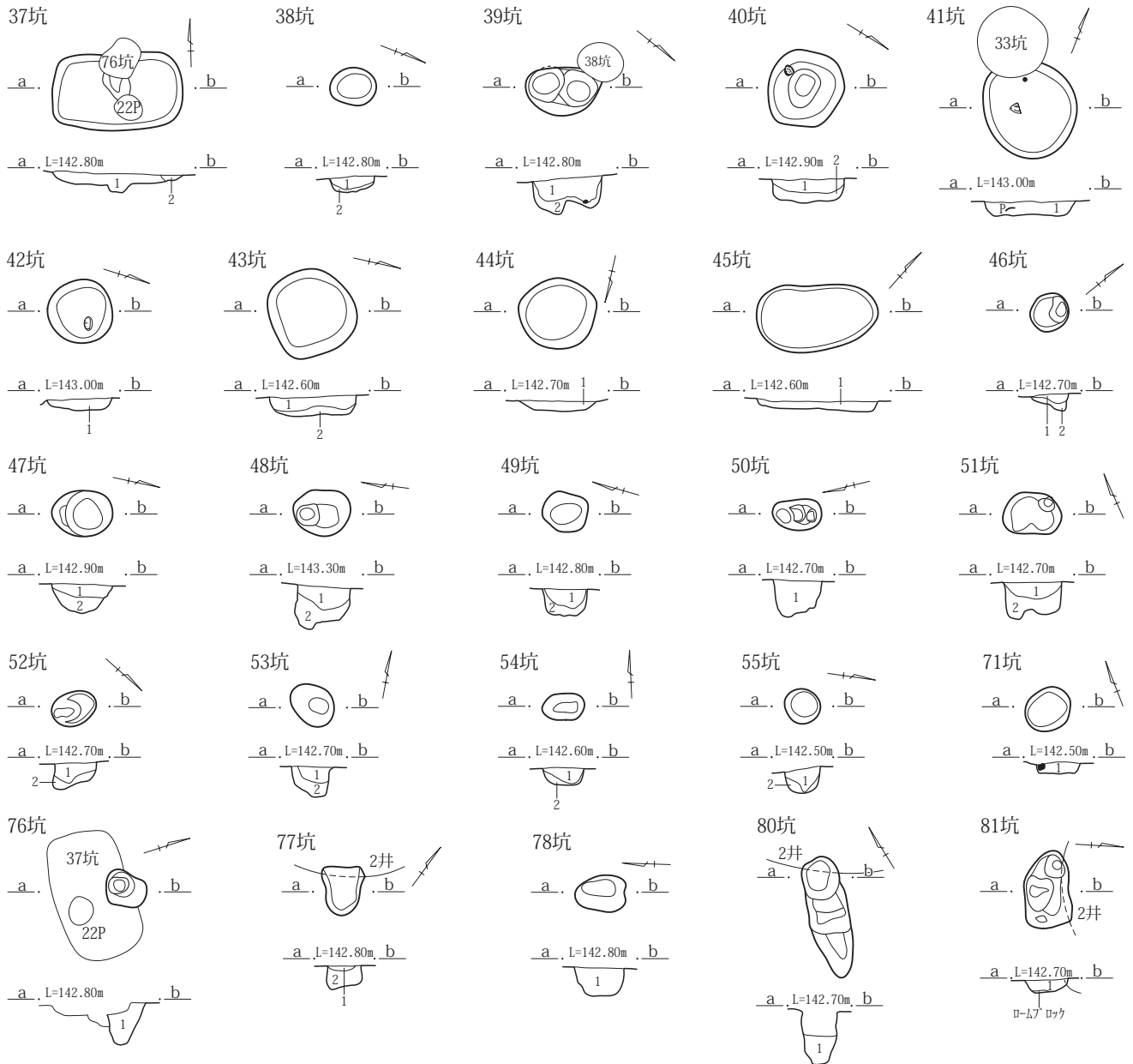


11坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。2 1よりローム粒子を多量含む。12坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・白色軽石を含む。締まりなし。2 1よりローム粒子を多量に含む。白色軽石を少量含む。13坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。14坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。2 1よりローム粒子を多く含む。耕作痕の覆土。15坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。2 1よりローム粒子を多く含む。14坑の2の続き。16坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。2 1よりロームブロックの割合多い。耕作痕の覆土。17坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。2 1よりロームブロックの割合多い。耕作痕の覆土。3 1よりローム粒子を多く含む。18坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックの割合多い。17坑の2の続き。19坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。20坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。21・22坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。ローム粒子を含む。締まりなし。23坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。ローム粒子を含む。24坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・白色軽石を含む。25坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。26坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。締まりなし。27坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。28坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。29坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。30坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。底部にロームブロックあり。31坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色粒子を含む。締まりなし。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。32坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。33坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。34坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。ロームブロックを含む。2 1とほぼ同じ。ロームブロックの割合少ない。3 黒褐色土10YR3/2 上位にロームブロックを含む。ローム粒子を含む。35坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1より白色軽石少ない。ロームブロックを多く含む。3 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・ローム粒子・赤色粒を含む。36坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。



第65図 天王B区土坑・ピット(3)

第4章 検出された遺構と遺物

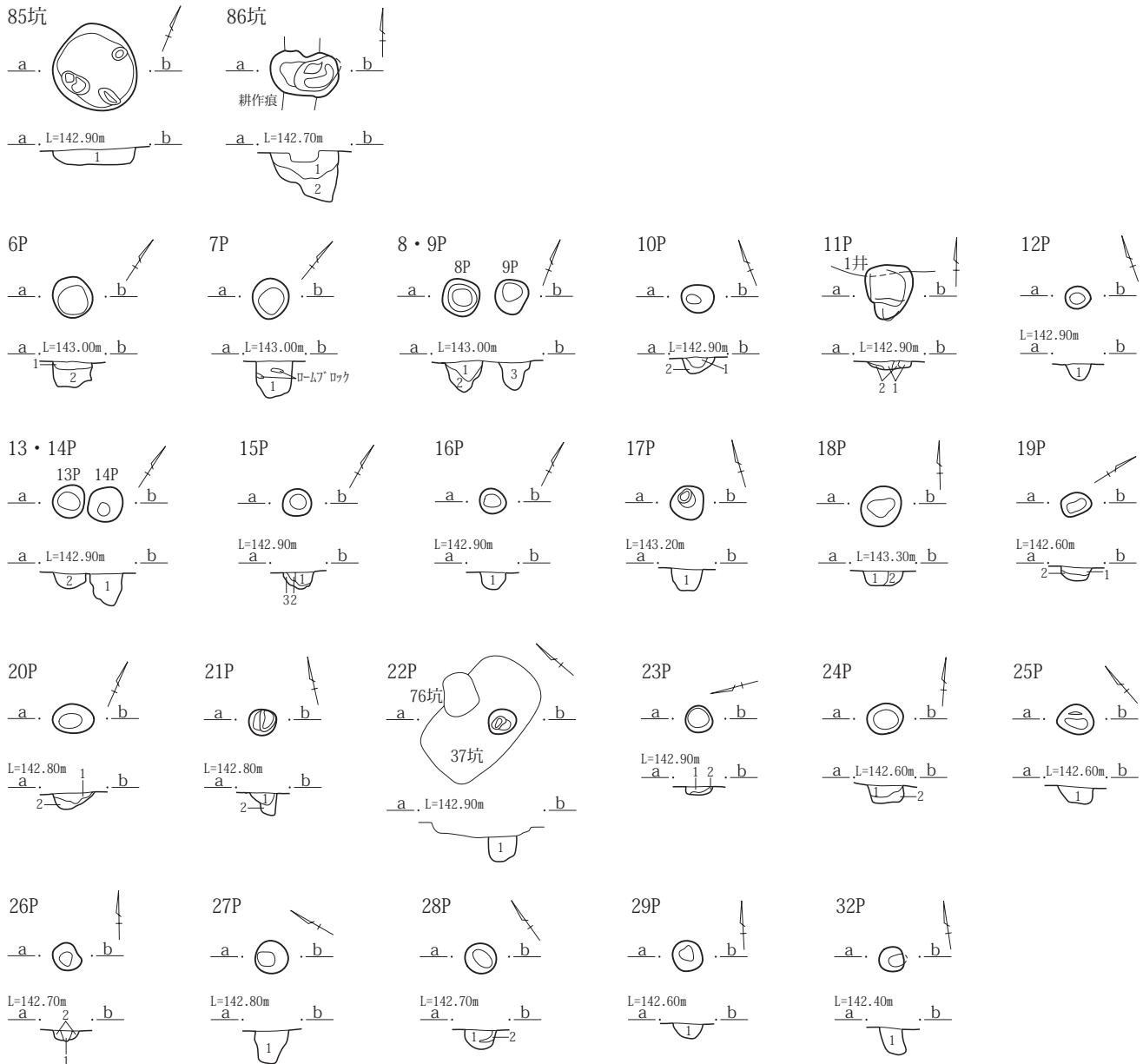


37坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・ローム粒子・赤色粒を含む。2 1に近いが白色軽石を含まない。38坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・赤色粒を含む。2 1にローム粒子を含む。締まりなし。39坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤色粒を含む。2 1にローム粒子・白色軽石を少量含む。締まりなし。40坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1より白色軽石が少ない。ローム粒子を多く含む。41坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。ロームブロックを含む。下位にローム粒子を含む。42坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・赤色粒を含む。締まりなし。43坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・炭化物を含む。2 1より炭化物多い。カマド粘土か。44坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。45坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。46坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤色粒を含む。2 1より白色軽石少ない。47坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・黄色粒・赤色粒を含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子を多く含む。48坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土を含む。ロームブロック混じる。2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。49坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・ロームブロック・ローム粒子を含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子を多く含む。50坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・ロームブロックを含む。下位にローム粒子を含む。51坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く含む。ローム粒子・焼土・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックを多く含む。白色軽石少ない。52坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土を含む。2 にぶい黄褐色土10YR4/3ロームブロックを含む。53坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロック・赤色粒を含む。2 1より白色軽石少ない。54坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。ロームブロックが混じる。締まりなし。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。55坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・粘土・ローム粒子・赤色粒を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。上位に白色軽石を含む。締まりなし。72坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。白色軽石を多く含む。赤色粒を含む。73坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。白色軽石を多く含む。赤色粒を含む。74坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。75坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・ローム粒子を含む。76坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。底部にロームブロックを含む。77坑 1 黒褐色土10YR3/2白色軽石・ロームブロック・赤色粒を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。78坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石・赤色粒を含む。80坑 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。上位に白色軽石、下位にローム粒子を含む。81坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。

*72・73・74坑の図は第52図に掲載した。*79坑は第30図に掲載した。

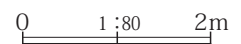
0 1:80 2m

第66図 天王B区土坑・ピット(4)



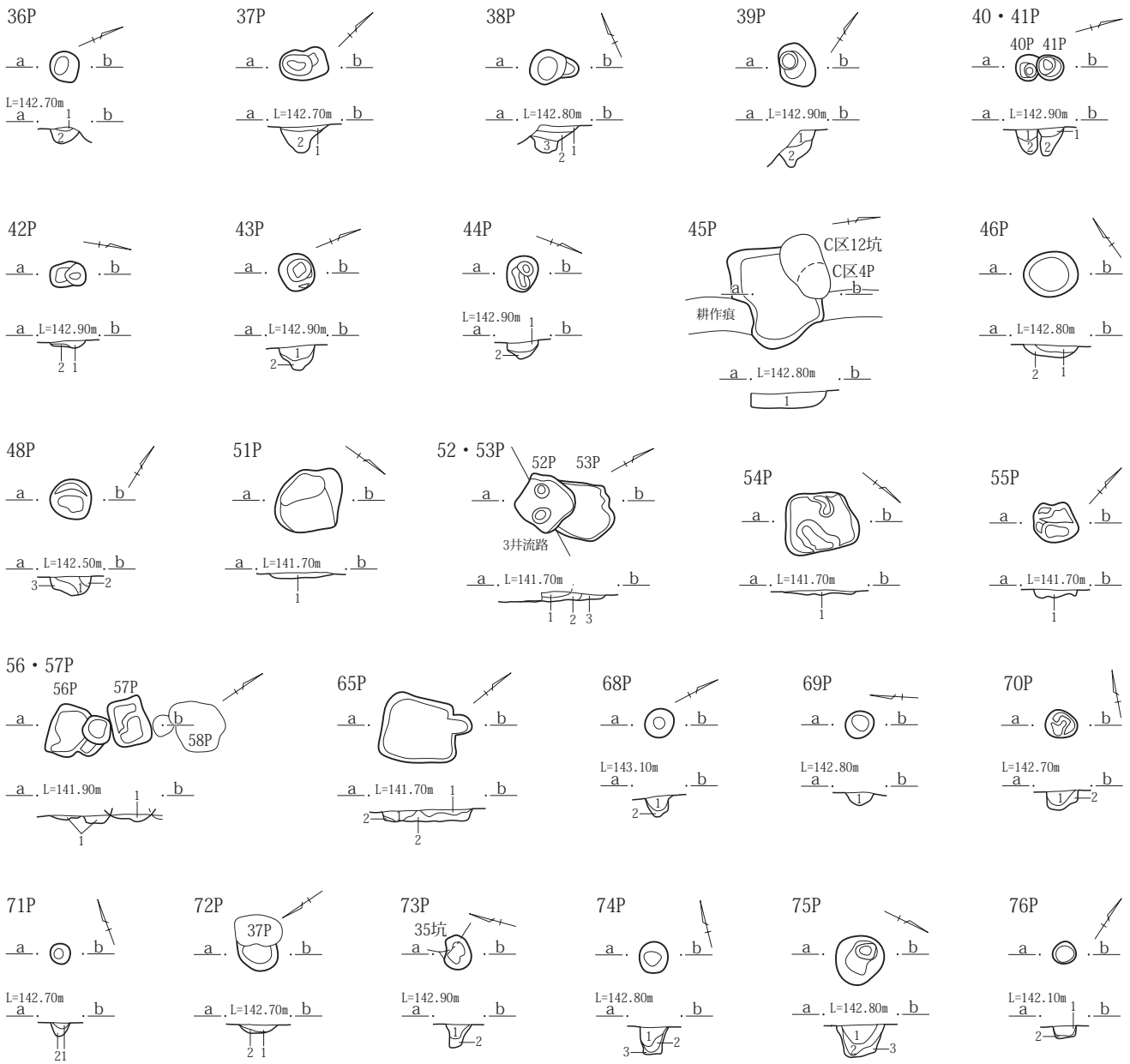
85坑 1 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ロームブロックを含む。縮まっている。
 86坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。ローム粒子・赤色粒を含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子を多く含む。
 *83・84・87坑は第57・58図に掲載した。

6P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子を含む。7P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。下位にローム粒子を含む。8・9P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子を多く含む。3 2とほぼ同じ。縮まりなし。10P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。11P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。12P 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。上位に白色軽石を含む。13・14P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。ローム粒子を少量含む。2 1とほぼ同じ。ローム粒子を多く含む。白色軽石少ない。15P 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。2 1に白色軽石を含む。3 1よりロームブロックの割合多い。16P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤色粒を含む。17P 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石を含む。18P 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。2 1よりローム粒子少ない。白色軽石を含む。19P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。焼土・ローム粒子を含む。2 1よりローム粒子の割合多い。白色軽石なし。20P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。ロームブロックを含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。21P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。22P 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。縮まりなし。23P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 1よりローム粒子の割合多い。縮まりなし。24P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土を少量含む。ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1よりローム粒子の割合多い。縮まりなし。25P 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。26P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。27P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。28P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。29P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。32P 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックとの混土。白色軽石・ローム粒子を含む。



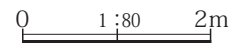
第67図 天王B区土坑・ピット(5)

第4章 検出された遺構と遺物



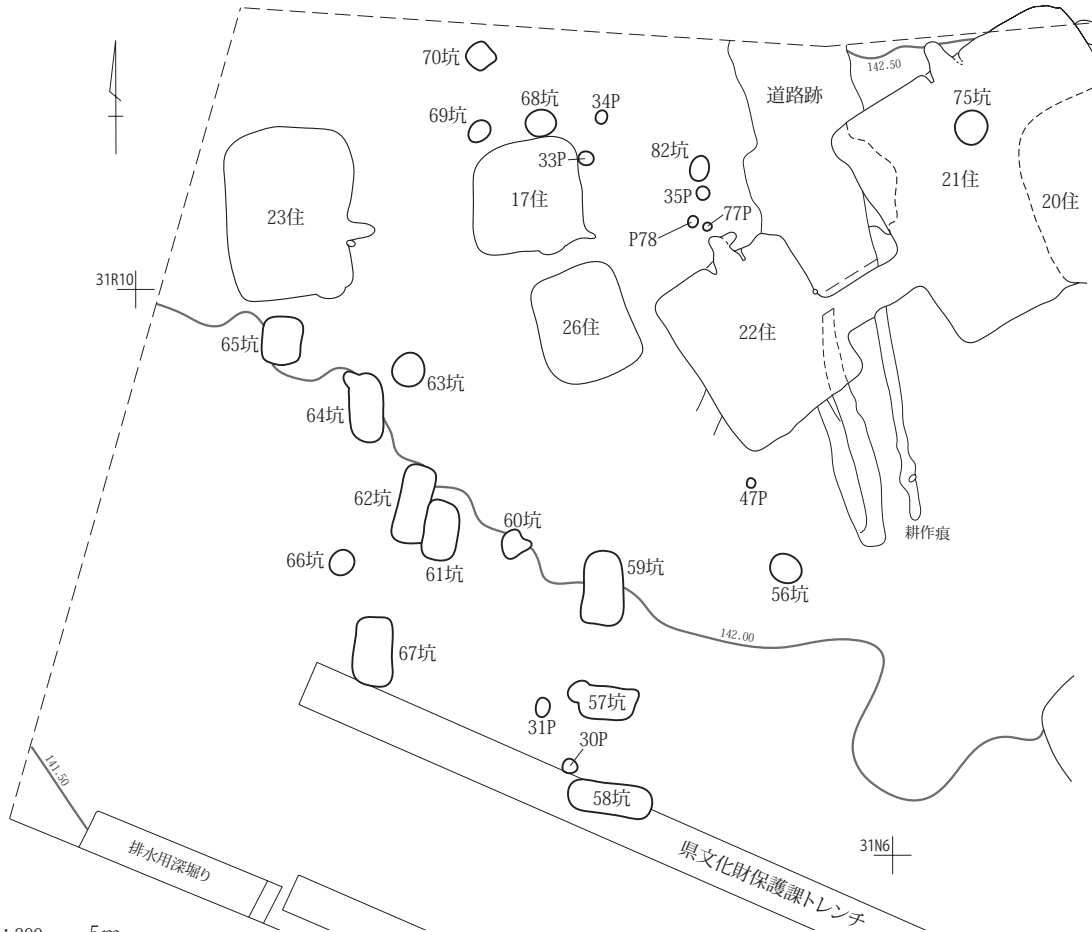
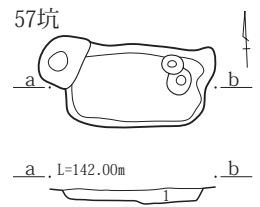
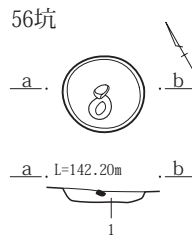
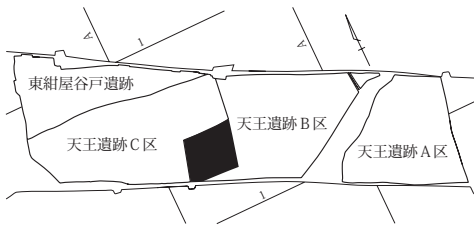
36P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 1よりローム粒子の割合多い。締まりなし。37P 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・赤色粒を含む。2 1よりロームブロックの割合多い。締まりなし。38P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・炭化物・焼土を含む。2 1に近いが炭化物を含まない。ロームブロックを含む。3 1よりローム粒子の割合多い。締まりなし。39P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロック・赤色粒を含む。2 1より白色軽石・ローム粒子が少ない。40・41P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子を多く含む。42P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロック・ローム粒子を多く含む。締まりなし。43P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロック・焼土を含む。2 1よりロームブロック・ローム粒子を多く含む。締まりなし。44P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 1よりローム粒子の割合多い。締まりなし。45P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。46P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1よりローム粒子を多く含む。ロームブロックを含む。48P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土・ロームブロックを含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。3 2に焼土を含む。51P 1 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。締まりなし。52・53P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 1よりもローム粒子が多い。3 2よりも明るい。54P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。55P 1 ロームブロックと灰黄褐色土10YR4/2+白色軽石ブロックの混じり。56・57P 1 灰黄褐色土10YR4/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混じり。65P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。締まっている。2 灰黄褐色土10YR4/2 黄色軽石を含む。鉄分多い。粘質土。68P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。黄色粒を含む。2 1より白色軽石少ない。締まりなし。69P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。締まりなし。70P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。71P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤色粒を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。72P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。73P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。74P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤色粒を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。3 2にロームブロックを含む。75P 1 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・赤色粒を含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。76P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。

*49・50・59・61・62・63・64・66・67Pは第52・53図に掲載した。

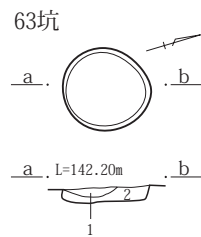
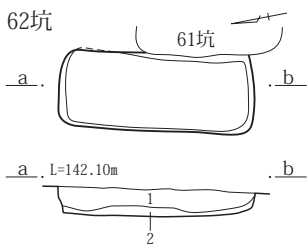
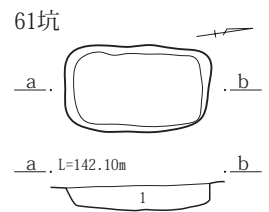
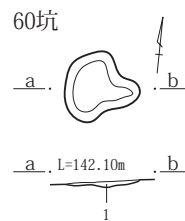
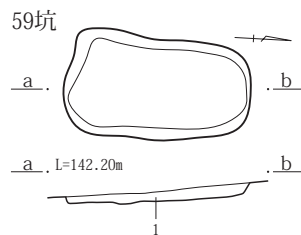
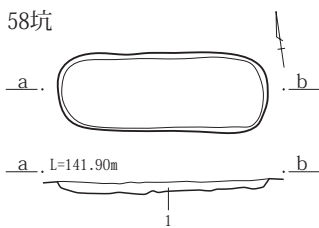


第68図 天王B区土坑・ピット(6)

遺構図(天王B区)



0 1:200 5m

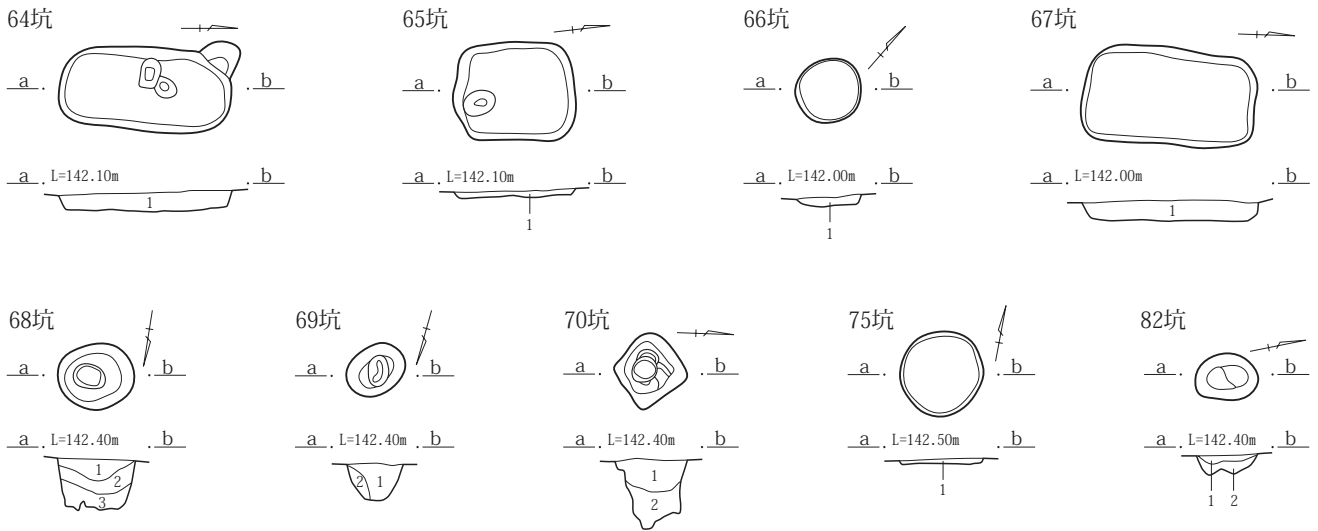


- 56坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を少量含む。締まりなし。
- 57坑 1 黒褐色土10YR3/1+白色軽石を少量含む。締まりなし。
- 58・60坑 1 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を含む。締まりなし。
- 59坑 1 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を少量含む。締まりなし。
- 61坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・2~3cm大のロームブロックを含む。締まりなし。
- 62坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。締まりなし。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量含む。締まりなし。
- 63坑 1 褐灰色土10YR4/1 砂質。締まりなし。上位に川砂または軽石を含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量含む。締まりなし。

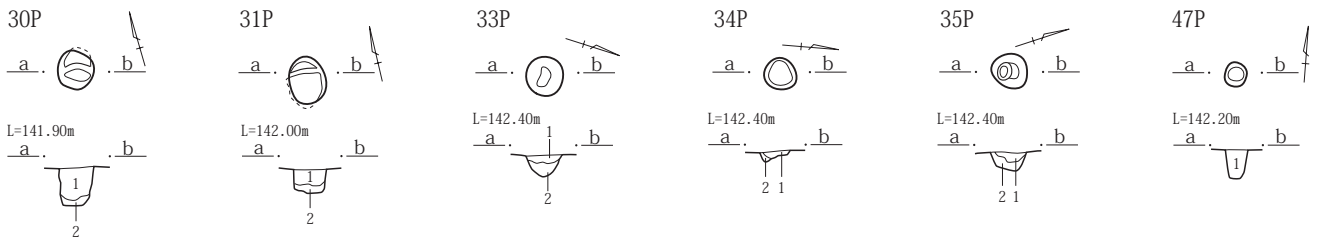
0 1:80 2m

第69図 天王B区土坑・ピット(7)

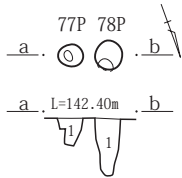
第4章 検出された遺構と遺物



- 64坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。縮まりなし。
 65坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。縮まりなし。
 66坑 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。
 67坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。縮まりなし。
 68坑 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。
 2 1に似るが軽石を含まない。縮まりなし。
 3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く含む。縮まりなし。
 69坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・白色軽石を含む。縮まりなし。
 2 にぶい黄褐色土10YR7/4+灰黄褐色10YR4/2のブロックが混じる。
 70坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。ロームブロックを多く含む。
 2 1に似るが白色軽石を含まない。縮まりなし。
 75坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・ローム粒子含む。
 82坑 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 2 1よりロームブロック・ローム粒子が多い。



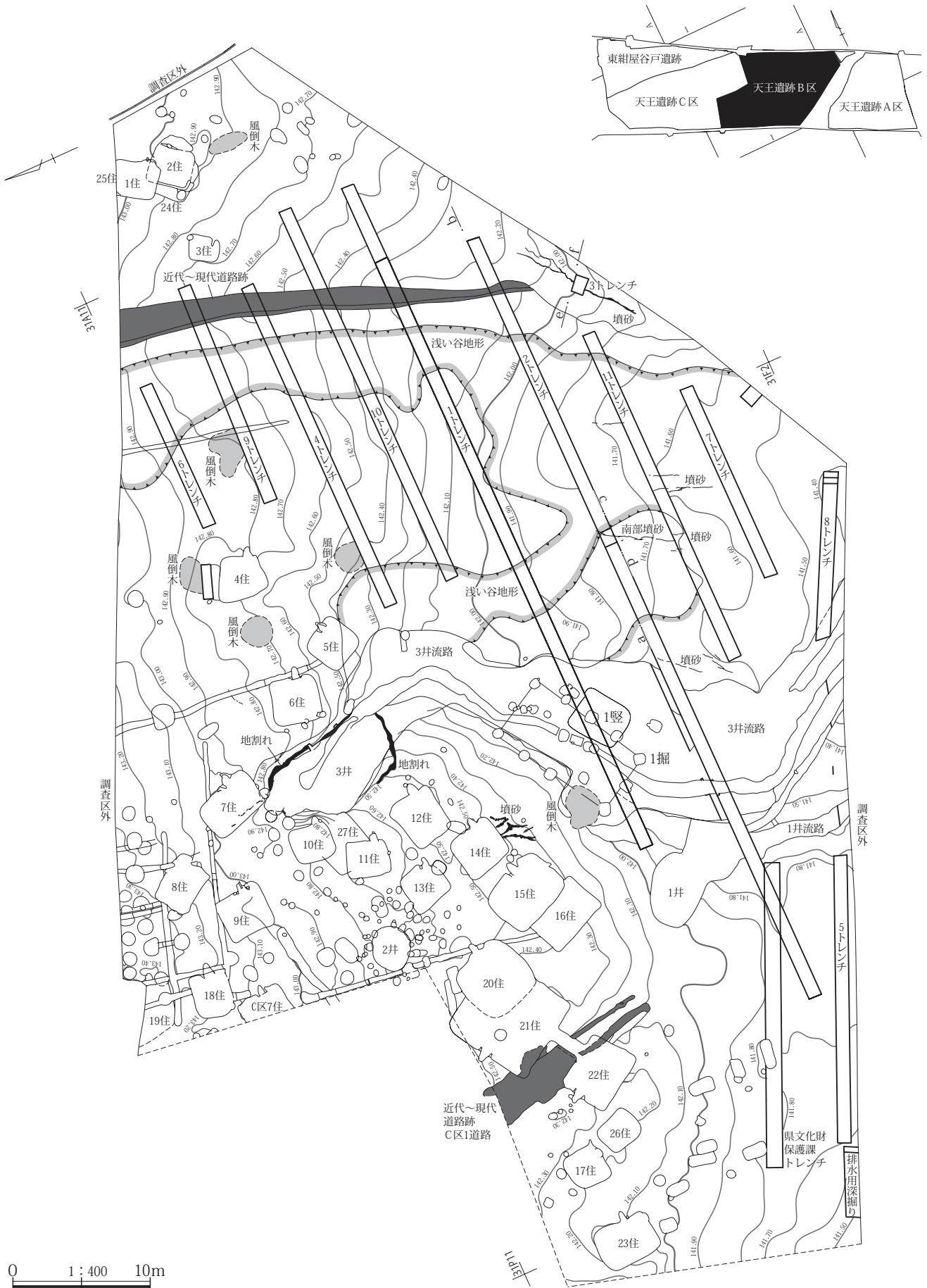
77・78P



- 30P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
 31P 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
 33P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 2 1よりローム粒子・ロームブロックを多く含む。
 34P 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。
 2 1よりローム粒子の密度高い。縮まりなし。
 35P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
 47P 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 77・78P 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。縮まりなし。



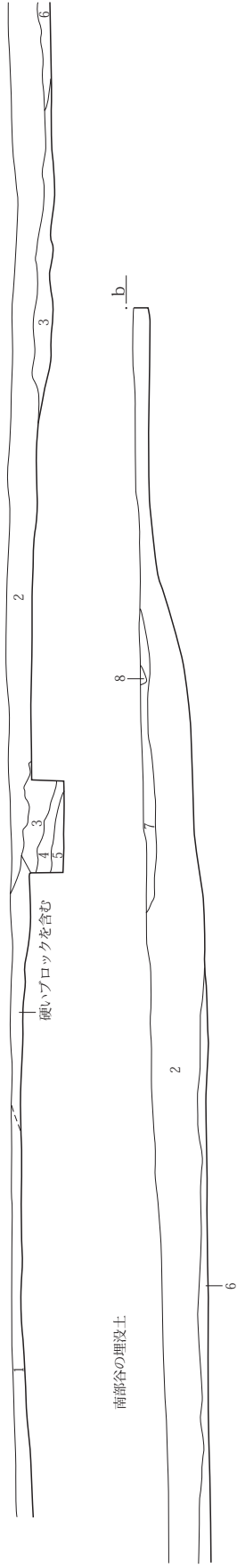
第70図 天王B区土坑・ピット(8)



第71図 天王B区地形確認トレンチ(1)

南東部の2確認トレンチ

a. L=142.30m



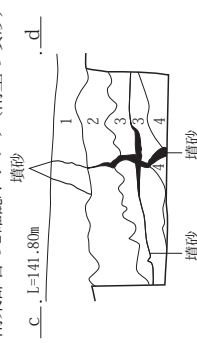
0 1:80 2m

a-b

- 1 黒褐色土10YR2/2 鉄分沈着。粘質。地山。
- 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。
- 3 灰黄褐色土10YR5/2 砂質。にぶい黄褐色土10YR7/4の硬いブロックを含む。
- 4 にぶい黄褐色土10YR6/4 やや赤味あり。シルト質。
- 5 明黄褐色土10YR6/6 ローム再堆積。
- 6 褐色土10YR4/4 白色軽石を含む。灰色粘土含む。鉄分沈着多量。粘質。
- 7 黒褐色土10YR3/1 白色軽石を多く含む。軽石とくに多い。乾燥が早い。道路跡。
- 8 川砂で埋没した溝。北壁から続く溝の底部。

南東部の2確認トレンチ(南壁の填砂)

c. L=141.80m



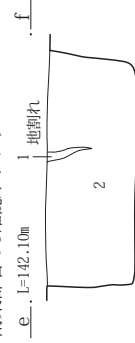
0 1:40 1m

c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 砂質。にぶい黄褐色土10YR4/3+軽石の硬いブロックを含む。鉄分沈着。
- 3 にぶい黄褐色土10YR5/3 シルト質。やや赤味(紫味)あり。中位で噴砂が水平に広がるが上方にも噴き上がる。
- 4 明黄褐色土10YR7/6 再堆積ロームか。砂質。噴砂発源らしい。

南東部の3確認トレンチ

e. L=142.10m

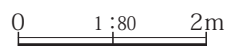
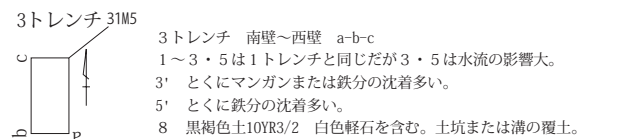
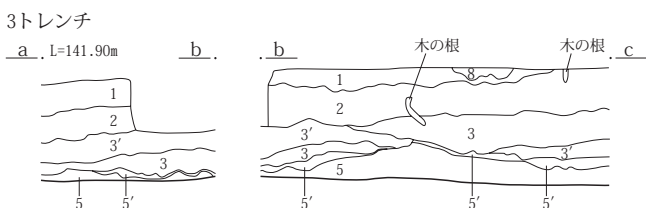
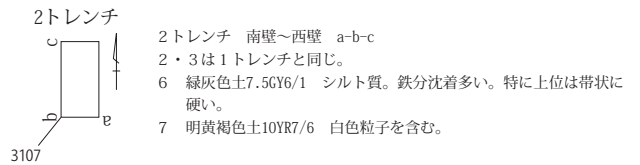
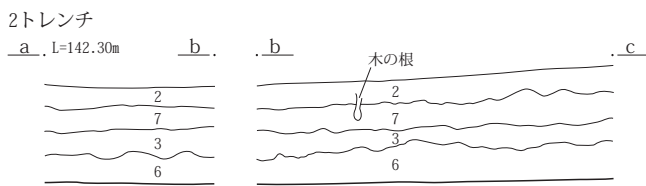
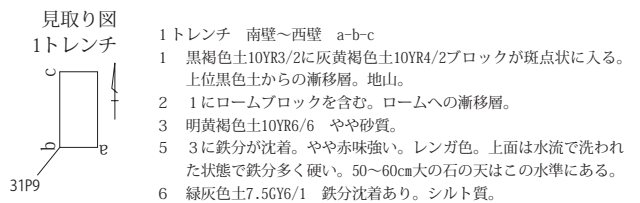
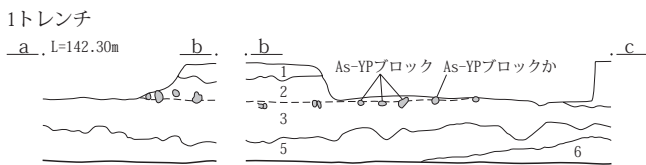
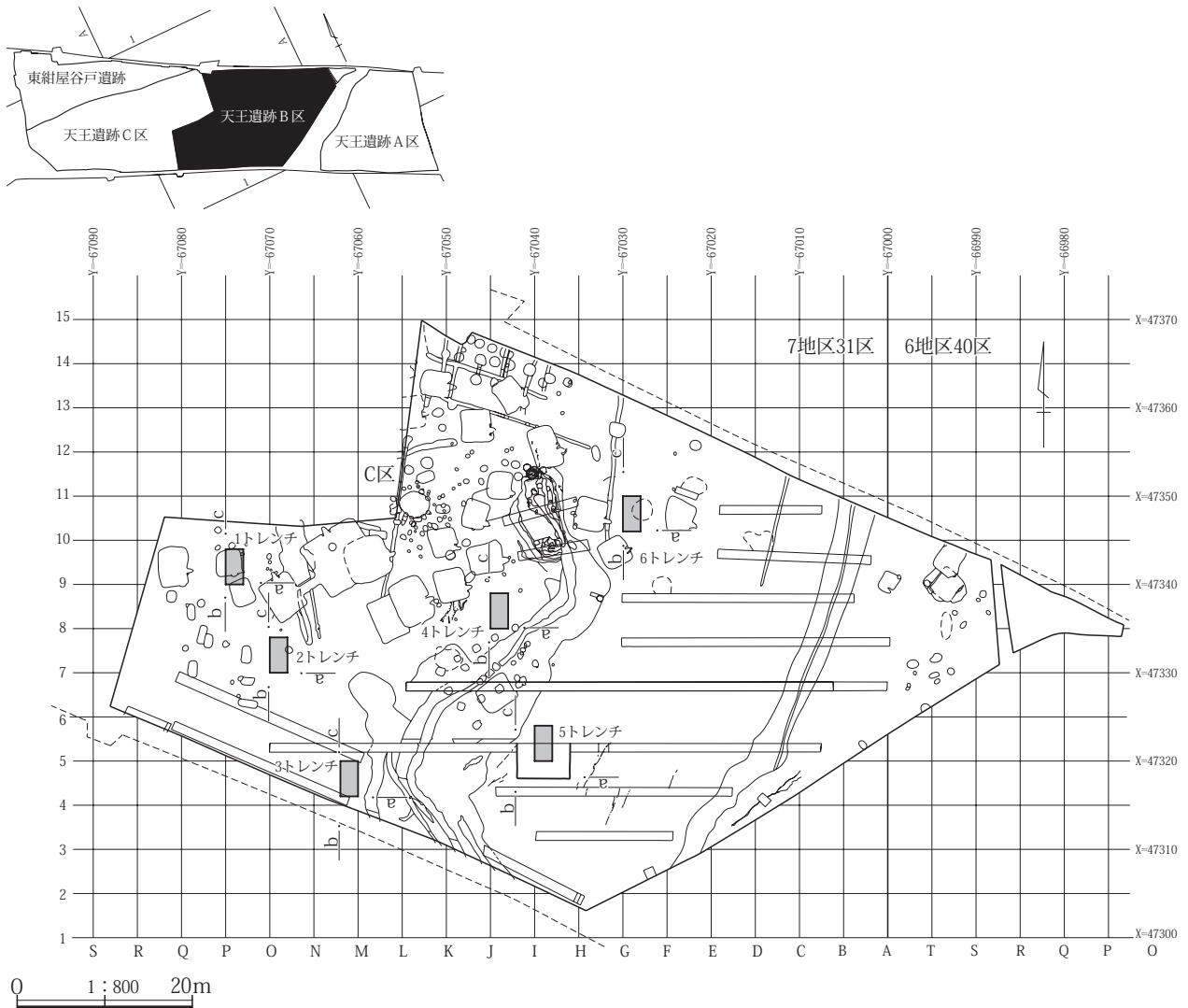


0 1:40 1m

e-f

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。地割れに上位から土が入った。
- 2 黄褐色土10YR5/6 白色軽石・ローム粒子含む。漸移層。

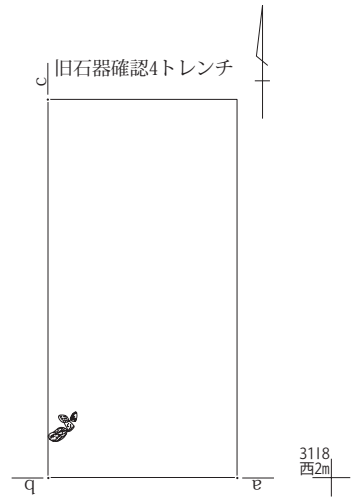
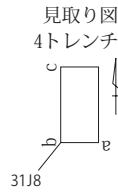
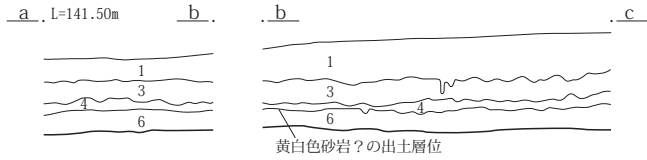
第72図 天王B区地形確認トレンチ(2)



第73図 天王B区旧石器確認トレンチ(1)

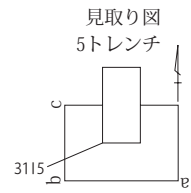
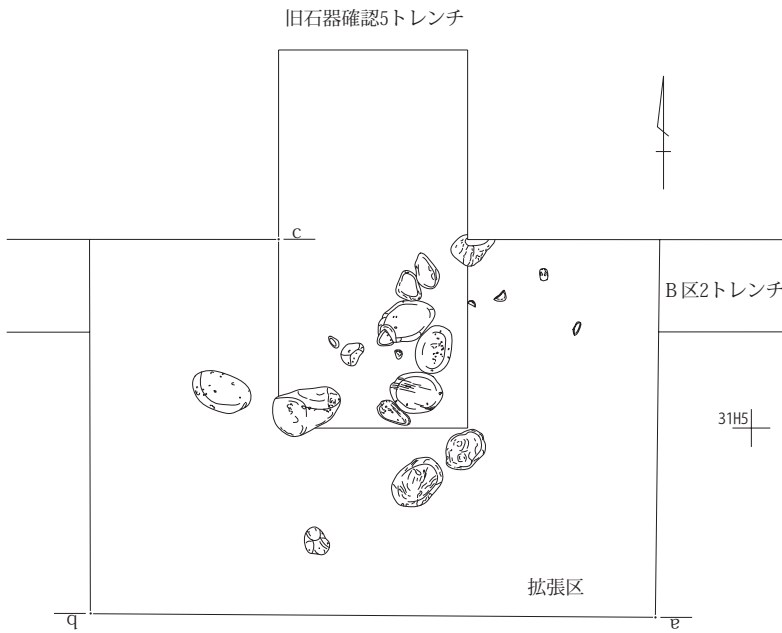
第4章 検出された遺構と遺物

4トレンチ

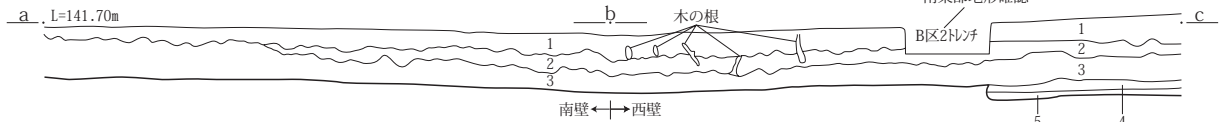


4トレンチ 西壁～南壁 a-b-c

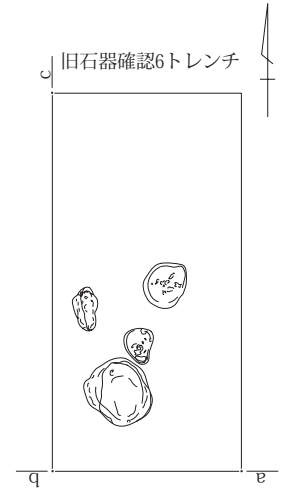
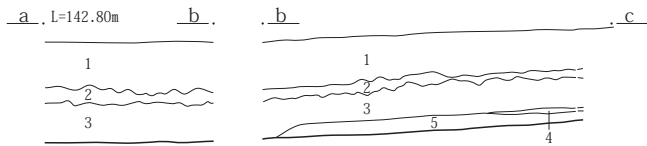
- 1 黒褐色土10YR3/2に灰黄褐色土10YR4/2ブロックが斑点状に入る。上位黒色土からの漸移層。地山。
- 3 明黄褐色土10YR6/6 やや砂質。
- 4 白色の粘土。一部のみ。
- 6 緑灰色土7.5CY6/1 鉄分沈着あり。シルト質。



5トレンチ

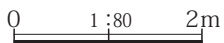


6トレンチ

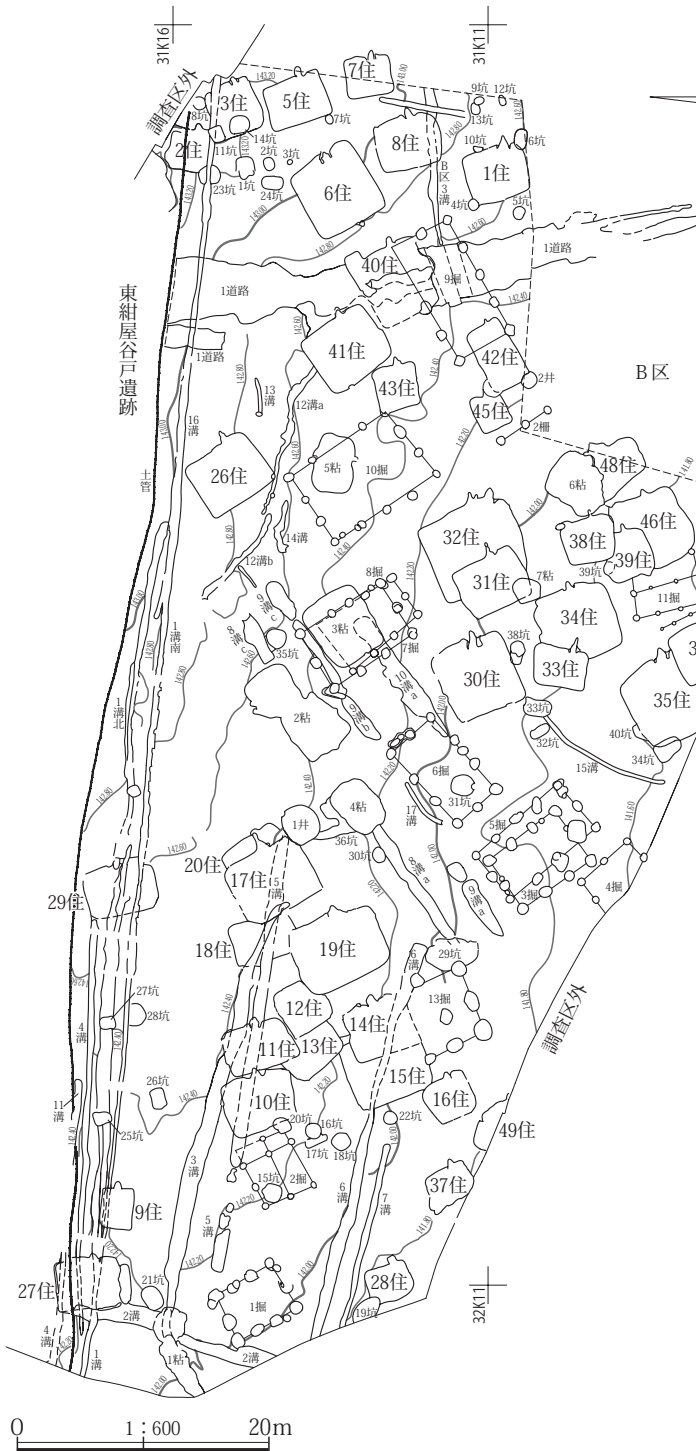
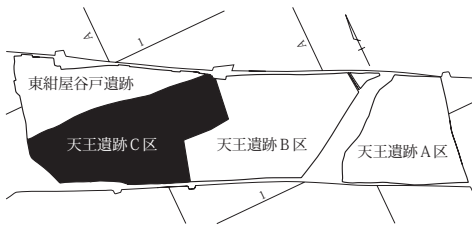


5・6トレンチ 南壁～西壁 a-b-c

- 1・3・4は4トレンチと同じ。
- 2 1にロームブロックを含む。ロームへの漸移層。
- 5 3に鉄分が沈着。やや赤味強い。レンガ色。上面は水流で洗われた状態で鉄分多く硬い。50～60cm大の石の天はこの水準にある



第74図 天王B区旧石器確認トレンチ(2)



C区遺構集計

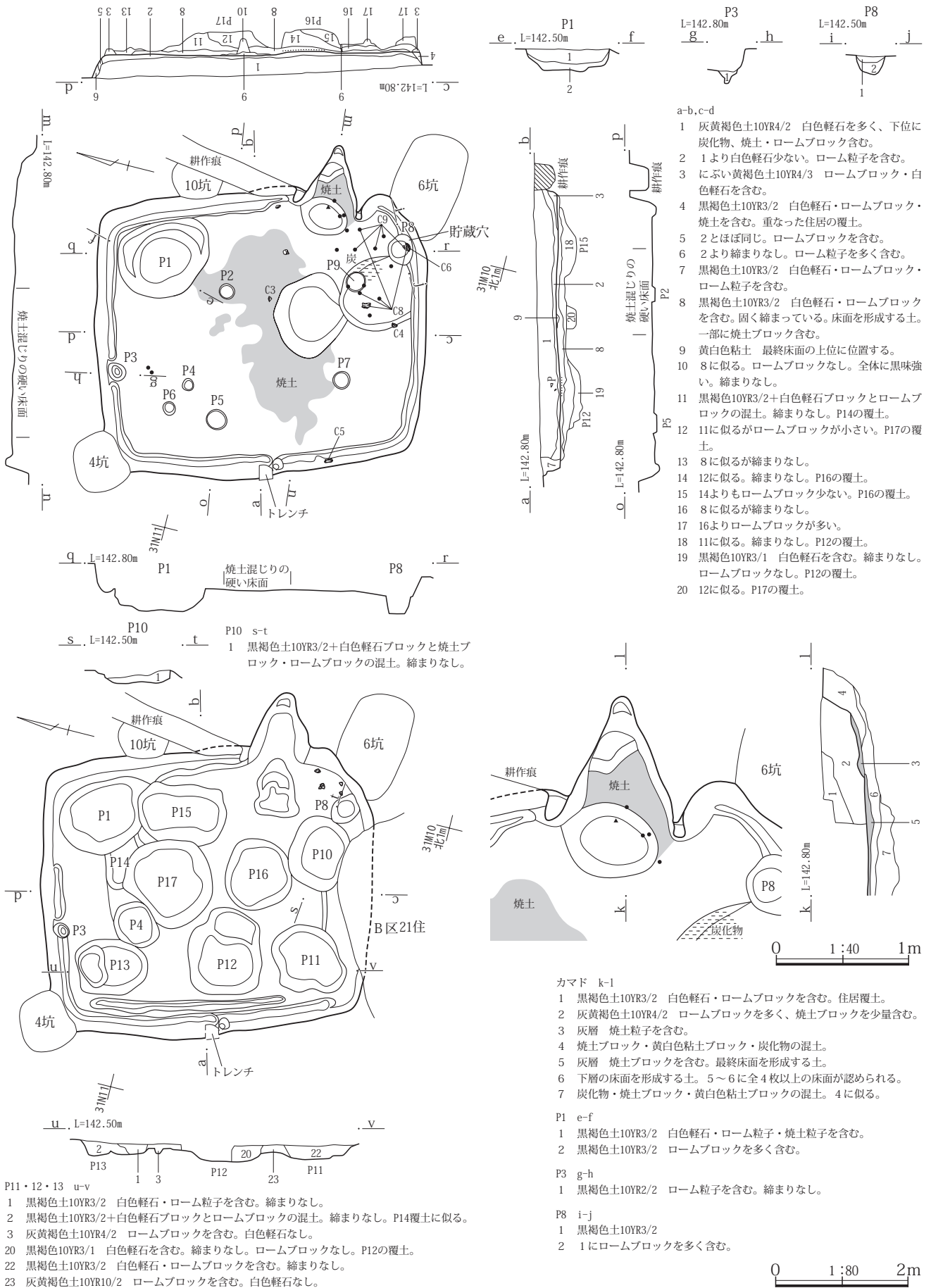
	1面	小計
住居	1~49 欠番7	42
竪穴	0	0
掘立柱建物	1~13 欠番1	12
柵	1・2	2
井戸	1・2	2
溝	1~17	17
粘土採掘坑	1~7	7
土坑	1~40 欠番1 他2	37
ピット	1~598 欠番1	597
道路	1	1
その他	0	0

21~25, 44, 47住 = 粘土採掘坑
20坑 = 2掘立柱, 37坑 = 7粘採



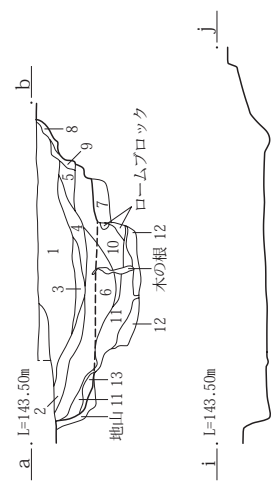
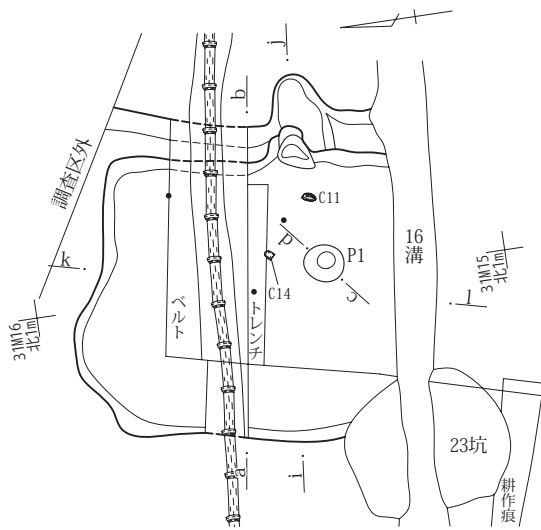
第75図 天王C区全体図

第4章 検出された遺構と遺物

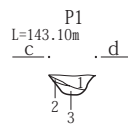
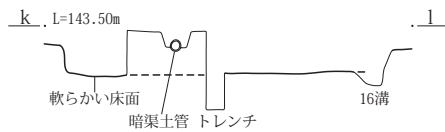


第76図 天王C区1住居

遺構図(天王C区)

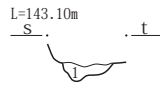
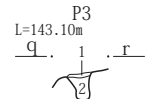
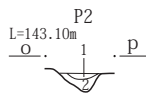
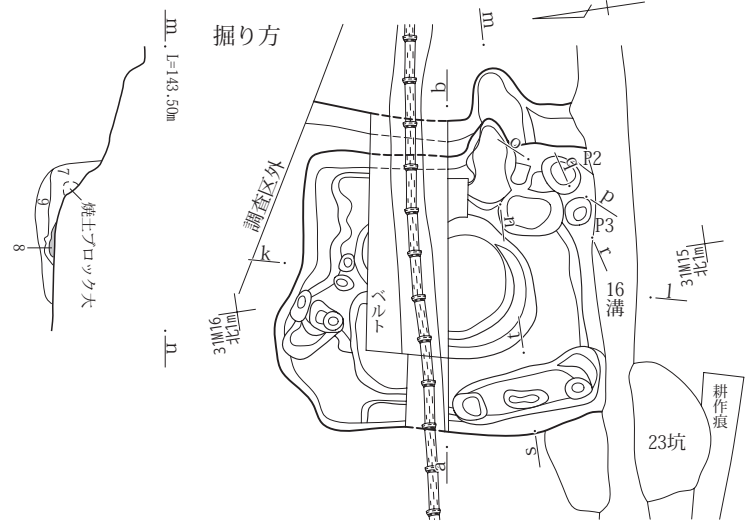
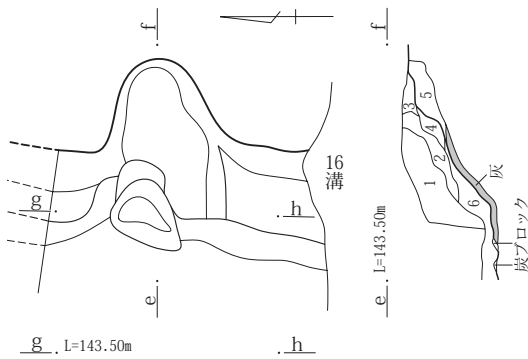


- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 3 2よりロームブロック・ローム粒子を多く含む。
 - 4 2とほぼ同じ。
 - 5 2よりロームブロック多い。焼土を含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を少量、ロームブロックを多く、焼土を含む。
 - 7 黄褐色土10YR5/6 ロームブロック・As-YPを含む。粘質。地山。
 - 8 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 9 8に白色軽石を含む。
 - 10 黒褐色土10YR3/2とロームブロックの混土。締まりなし。
 - 11 黒褐色土10YR3/2 灰黄褐色土10YR4/2ブロックを含む。全体に黒色。
 - 12 10に似る。
 - 13 にぶい黄褐色土10YR4/3 3cm大のロームブロック・ローム粒子を含む。



- P1 c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR6/4 白色軽石を含む。締まりなし。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石を含む。締まりなし。

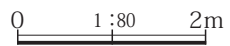
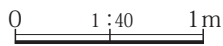
カマド



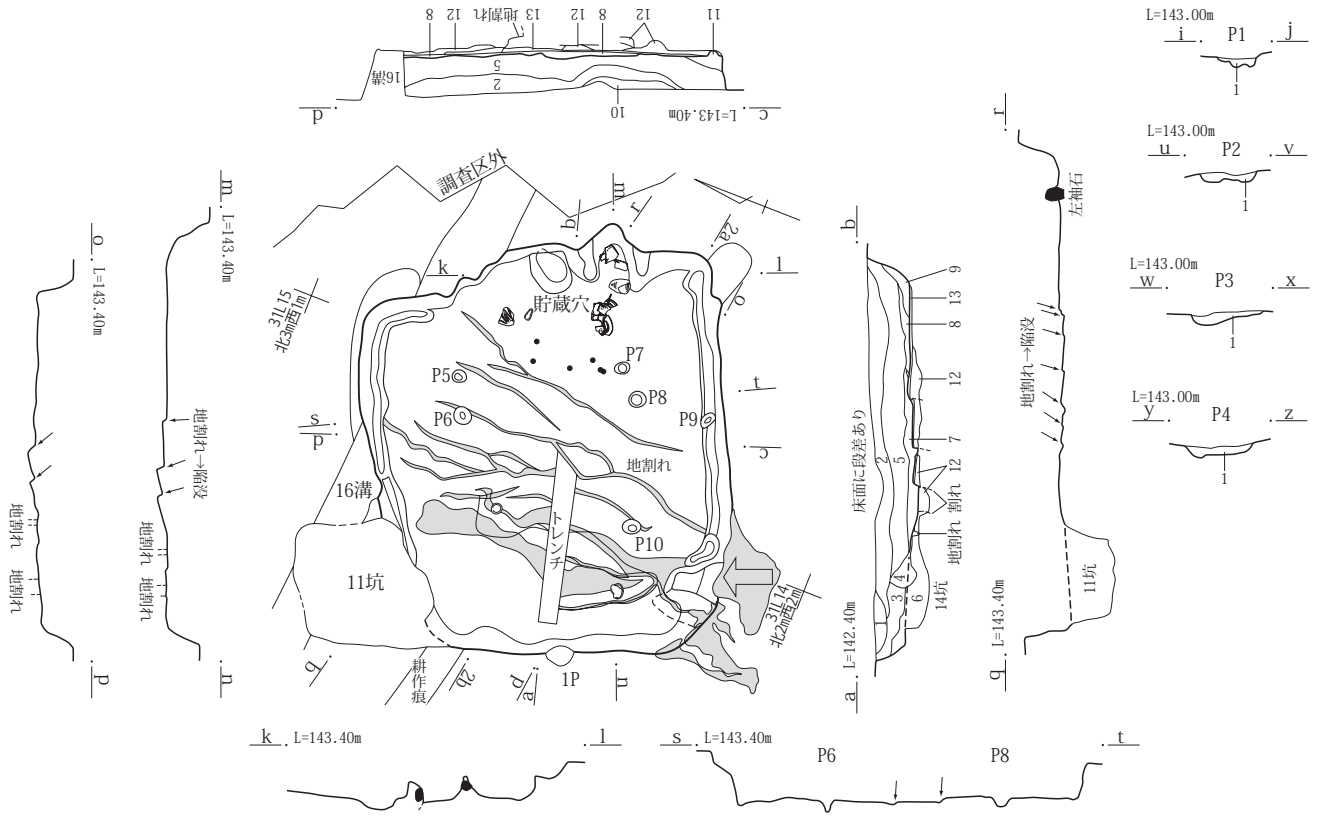
- カマド e-f,g-h,m-n
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 2 ロームブロックと焼土ブロックの混土。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 4 灰層に焼土粒子を含む。
 - 5 地山。
 - 6 焼土ブロック・炭化物・灰黄褐色土10YR4/2ブロックの混土。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 焼土ブロックを多く含む。締まりなし。
 - 8 灰層。
 - 9 灰にカマド粘土・焼土粒子を含む。締まりなし。

- P2 o-p
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 1~3cm大のロームブロックを含む。
- P3 q-r
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 1~3cm大のロームブロックを含む。

- 掘り方土坑 s-t
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 硬いロームブロックを含む。締まりなし。



第77図 天王C区2住居



a-b, c-d, 2a-2b

- 1 黒褐色土10YR2/2 白色軽石を多く含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。締まっている。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。やや軟らかい。
- 4 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを少量含む。
- 5 4に似るが白色軽石を多く含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。締まりなし。3に比べローム少ない。
- 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 8 7に似るがやや軟らかい。床直上の土。
- 9 黒褐色土10YR2/2 ローム粒子を含む。
- 10 2に似るがローム粒子を多く含む。
- 11 灰黄褐色土10YR4/2 黒色土ブロックを含む。締まりなし。
- 12 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。床下の土。
- 13 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。硬く締まる。床面を形成する土。

P1 i-j

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、焼土粒子・炭化物を含む。カマド灰の掻き出ししか。

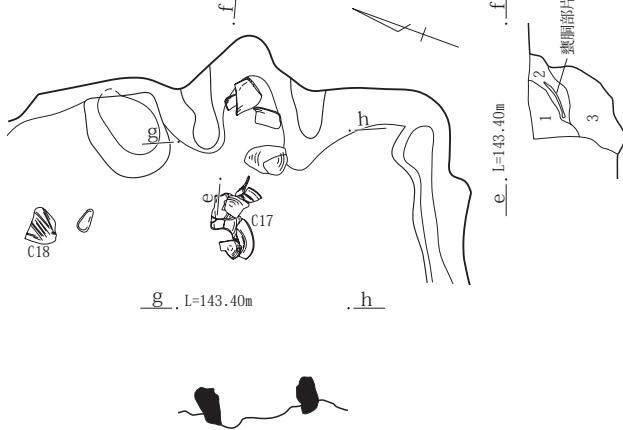
P2 u-v

- 1 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。

P3・4 w-x, y-z

- 1 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。

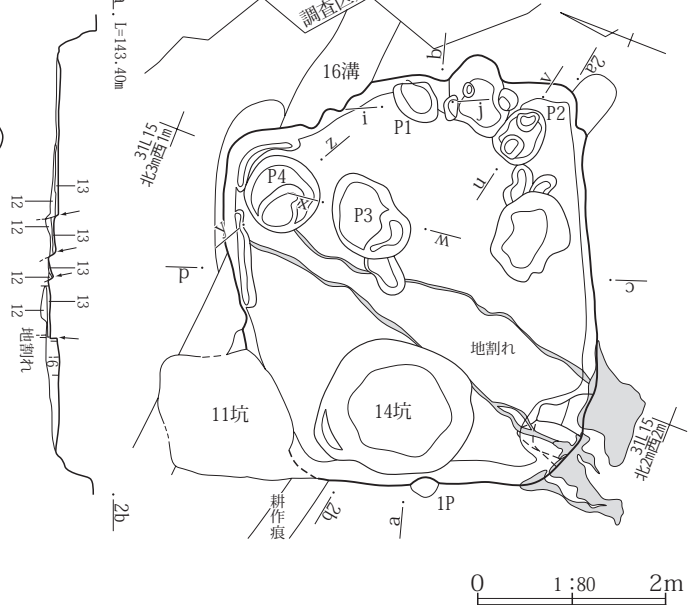
カマド



カマド e-f

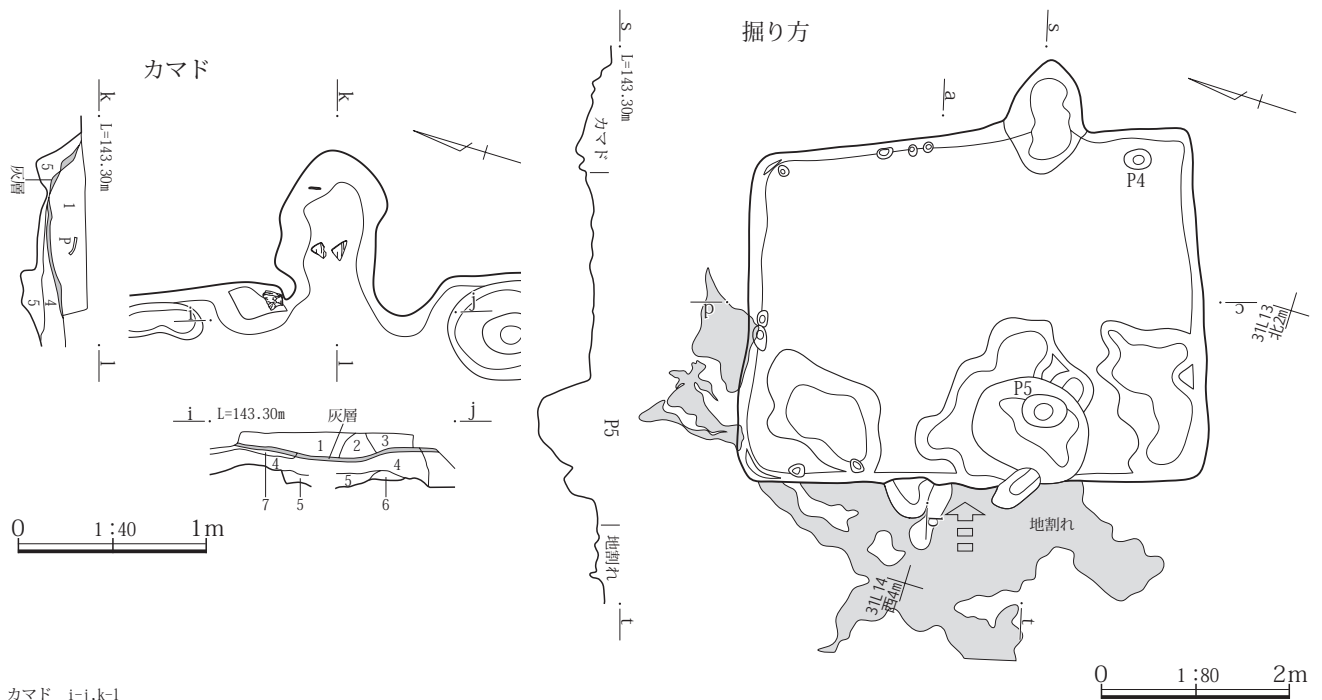
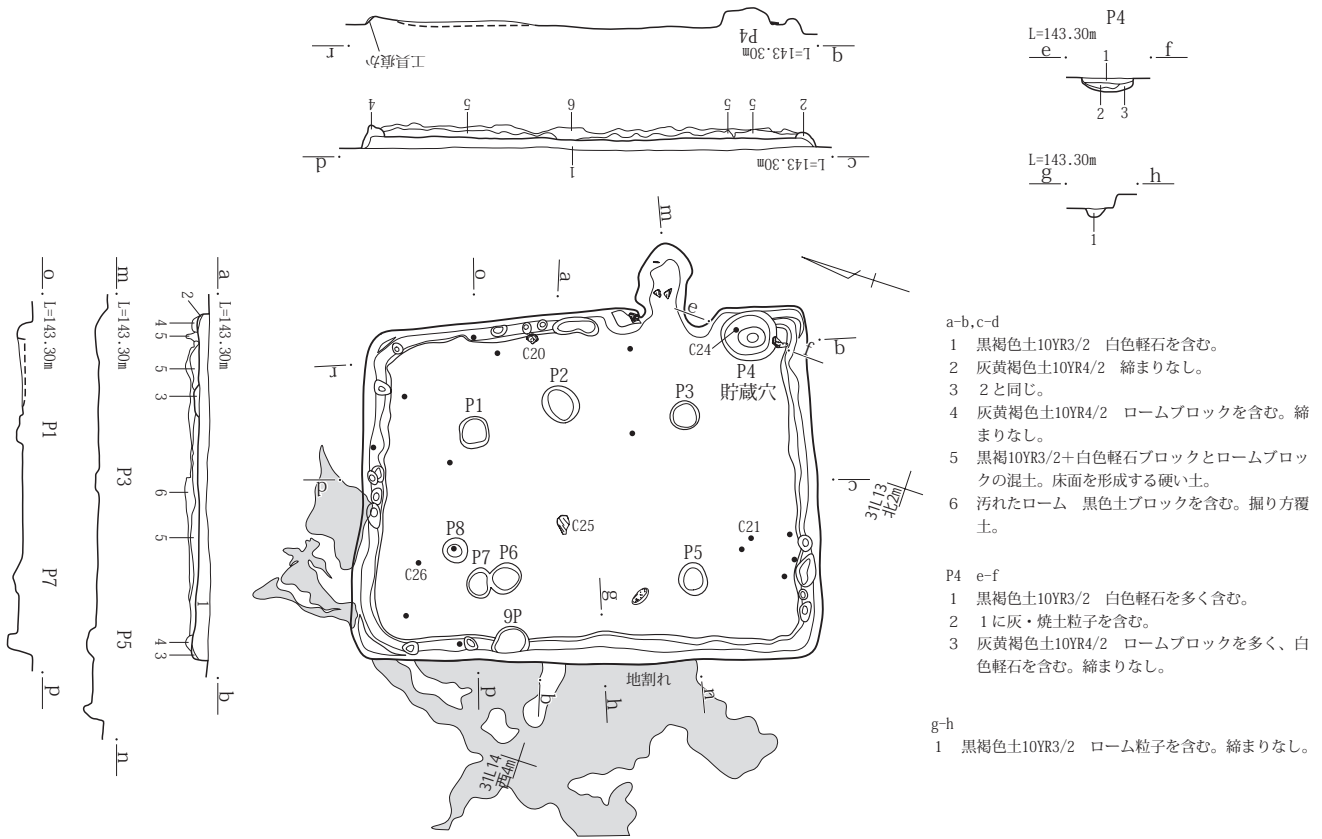
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を多く含む。住居覆土に近い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。締まりなし。
- 3 明黄褐色粘土10YR7/6ブロック・焼土ブロック・黒色土ブロックの混土。天井崩落か。

掘り方



第78図 天王C区3住居

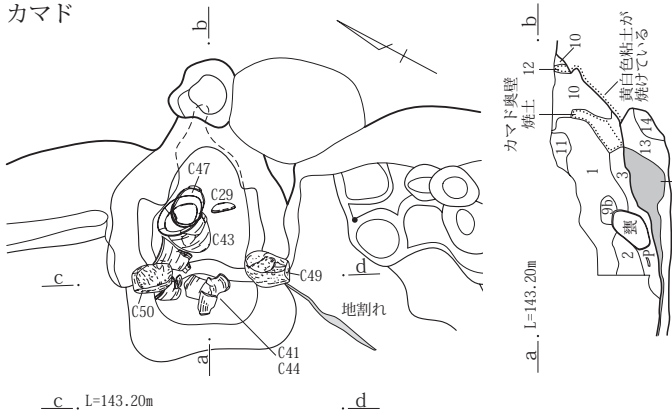
遺構図(天王C区)



第79図 天王C区5住居

第4章 検出された遺構と遺物

カマド



カマド a-b,c-d

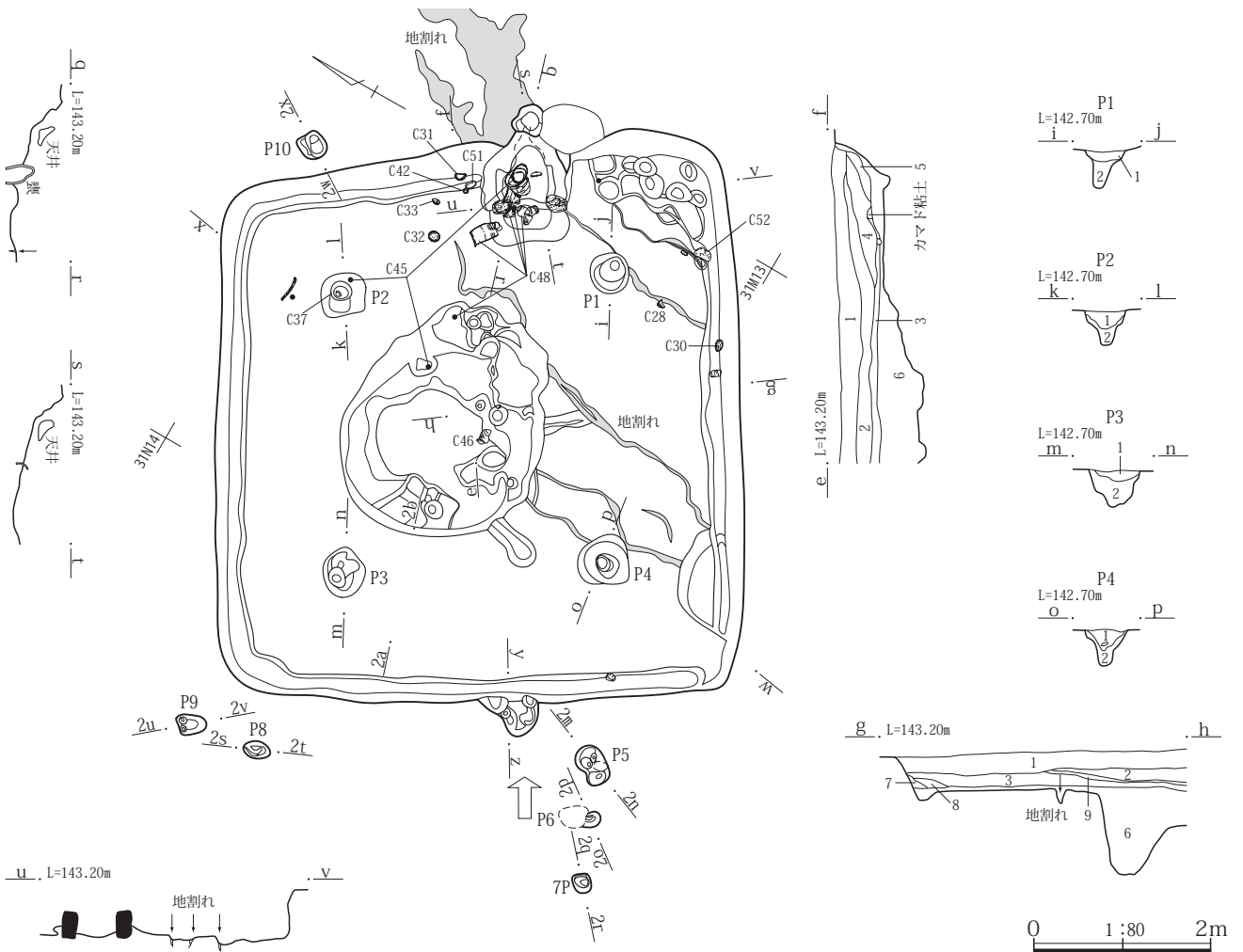
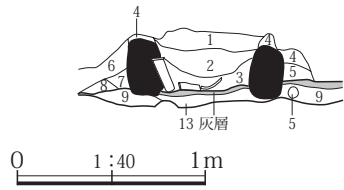
- 1 にぶい黄褐色土10YR7/4 焼土粒子を多く、黒色土ブロックを少量含む。やや赤味あり。
- 2 1に黒色土ブロックを多く含む。
- 3 1よりも更に焼土粒を多く含む。
- 4 明黄褐色土10YR7/6 黄色粘土・カマド構築粘土。崩落か。
- 5 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 6 1に似る。左袖の崩落か。
- 7 4に似る。左袖石の根固め粘土か。
- 8 5に焼土粒子を含む。
- 9 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。床下の土。
- 9b 灰黄褐色土10YR4/2 黄色軽石を含む。縮まりなし。ブロック状。
- 10 8に似る。煙道か。
- 11 10に似るがカマド粘土ブロックを含む。天井部。
- 12 黄白色粘土 煙道壁に貼っているか。
- 13 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・ロームブロックを含む。縮まりなし。
- 14 灰黄褐10YR4/2 縮まりなし。

e-f,g-h

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 大粒の白色軽石を多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 1よりローム粒子を多く含む。
- 3 1より白色軽石が少ない。ロームブロックを多く、カマド粘土を含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 細かい白色軽石・ローム粒子・ロームブロック・炭化物を含む。
- 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。縮まりなし。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。
- 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。縮まりなし。
- 8 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。縮まりなし。
- 9 褐灰色土10YR4/1 白色軽石を含む。砂質。

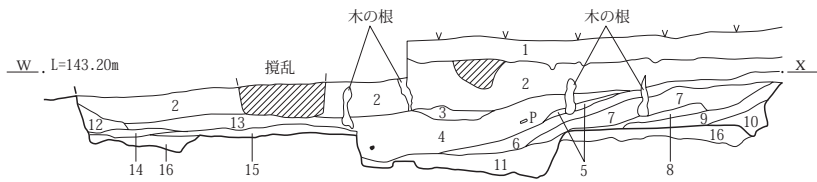
P1~4 i-j,k-l,m-n,o-p

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。縮まりなし。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・灰色粘土ブロックを含む。縮まりなし。



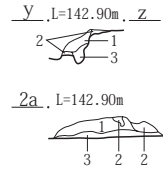
第80図 天王C区6住居(1)

遺構図(天王C区)



W-x

- 1 褐灰色土10YR4/1 締めなし。現代耕作土。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。締まっている。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 炭化物・焼土粒子を含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。締まっている。
- 5 黒褐色土10YR3/2 灰を多く含む。締めなし。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を多く、黒色土ブロック・白色軽石を含む。全体に黄色味を帯びている。
- 7 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・白色軽石・黒色土ブロックを含む。
- 8 黒褐色土10YR3/2 2~5cm大のロームブロックを多く含む。
- 9 7よりも黒色土ブロックを多く含む。
- 10 黒褐色土10YR2/2 ローム粒子を含む。締めなし。
- 11 7に似るが黒色土ブロック多い。締めなし。
- 12 黒褐色土10YR2/2 白色軽石を含む。ロームブロックを少量含む。締めなし。
- 13 4に似るがロームブロックやや大きい。
- 14 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締めなし。
- 15 黄白色粘土 硬い床面を形成する。
- 16 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。床下の土。

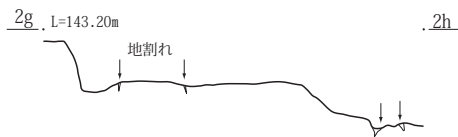
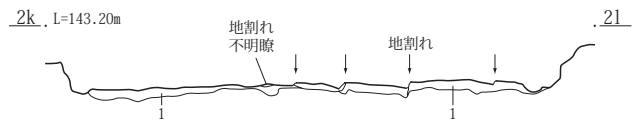
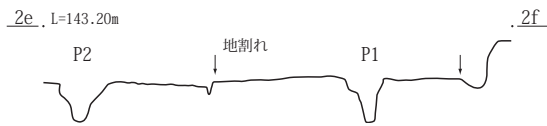
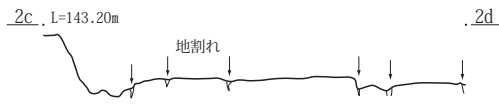


出入口 y-z

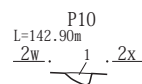
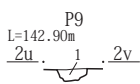
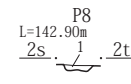
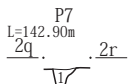
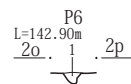
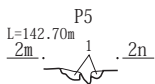
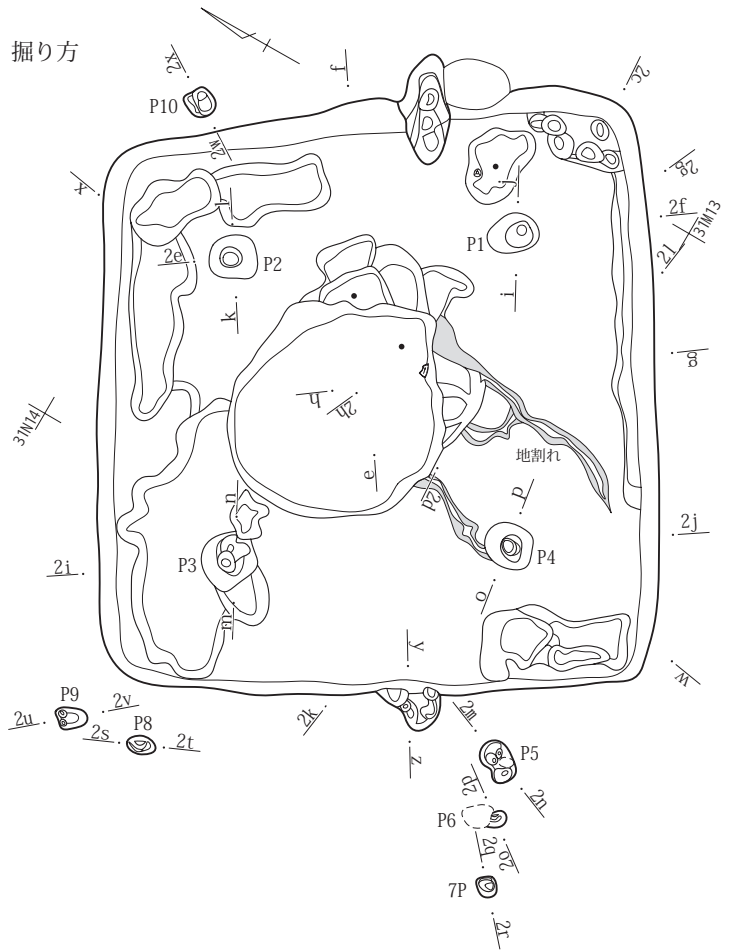
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。住居覆土と同じ。締まっている。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を少量含む。締めなし。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量含む。締めなし。壁溝覆土。

埋没土粘土断面 2a-2b

- 1 明黄褐色土10YR7/6 床面から浮いている。上面は中央部に向かって低くなる。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石を含む。締まっている。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒子・白色粒子・ロームブロックを含む。締まっている。

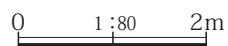


掘り方



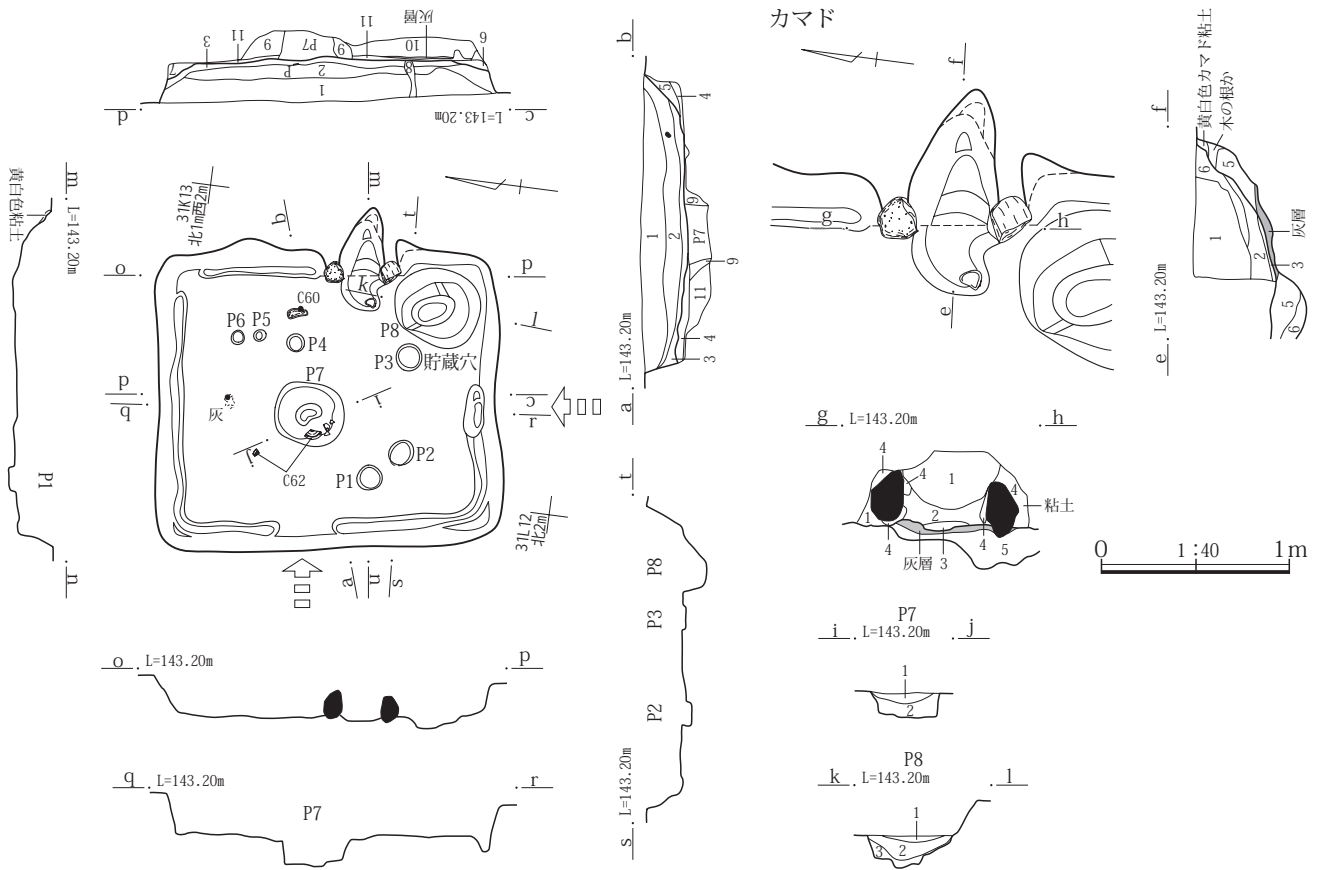
P5~10 2m-2n, 2o-2p, 2q-2r, 2s-2t, 2u-2v, 2w-2x

- 1 暗褐色土10YR3/3 白色軽石を含む。



第81図 天王C区6住居(2)

第4章 検出された遺構と遺物



a-b, c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、ロームブロック・焼土を含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・焼土・炭化物・ローム粒子を含む。
- 3 2より白色軽石少ない。
- 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。床下の土。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。
- 6 5とほぼ同じ。白色軽石を含む。
- 7 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 8 黒褐色土10YR3/2 木の根。
- 9 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。土坑の土より締まっている。
- 10 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・黒色土ブロックを少量含む。締まりなし。
- 11 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・焼土ブロックを含む。最下位に灰層。下の床面か。硬く締まっている。床面を形成する層。

カマド e-f, g-h

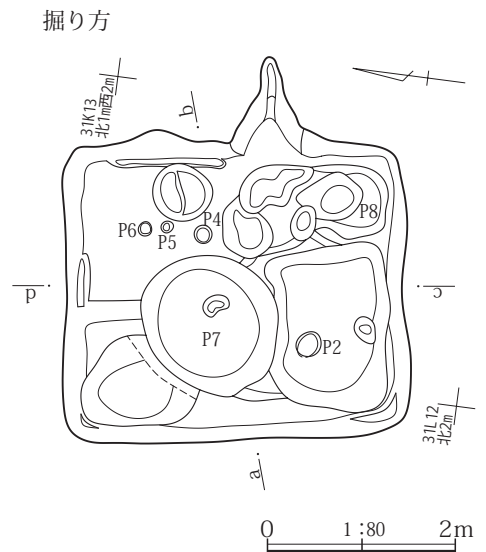
- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。
- 2 1にロームブロックを多く含む。焼土粒子を含む。
- 3 焼土ブロックと灰の混土。
- 4 にぶい黄褐色土10YR7/4~明黄褐色土7/6 カマド構築粘土。
- 5 ロームブロックと黒色土ブロックの混土。カマド前掘方の土。
- 6 5に焼土ブロックが混じる。

P7 i-j

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。

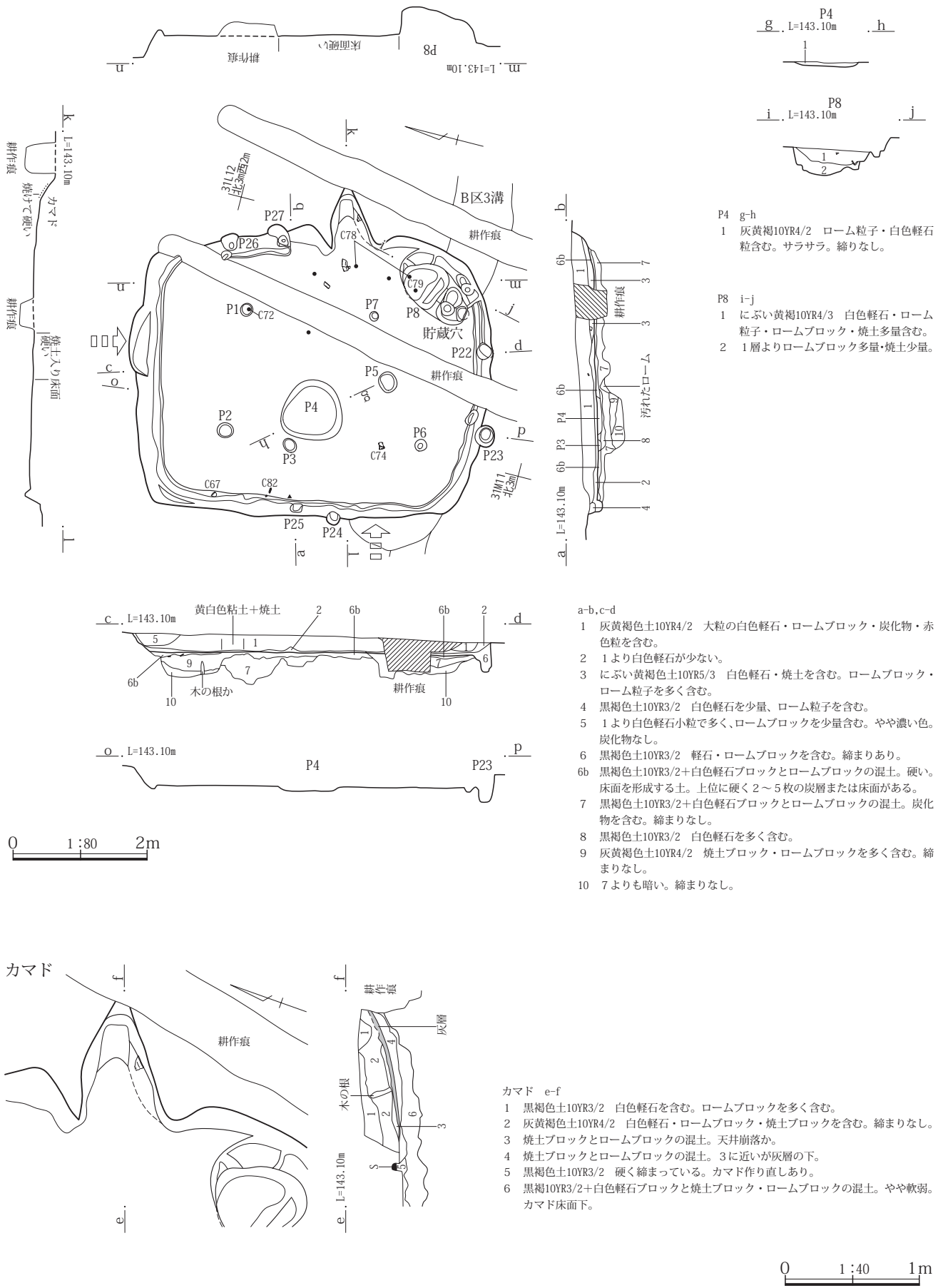
P8 k-l

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロック・焼土を含む。
- 3 2よりロームブロックを多く含む。



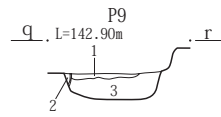
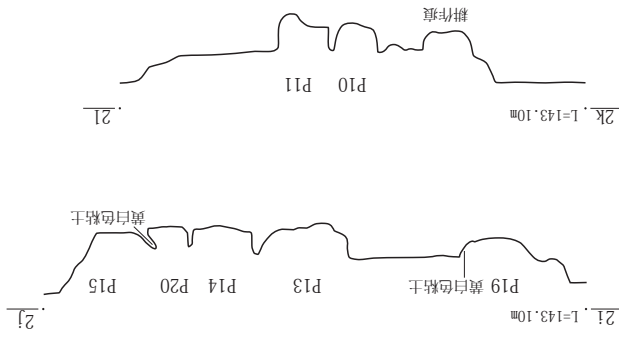
第82図 天王C区7住居

遺構図(天王C区)

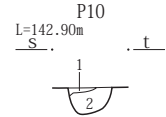


第83図 天王C区8住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物

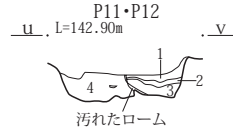
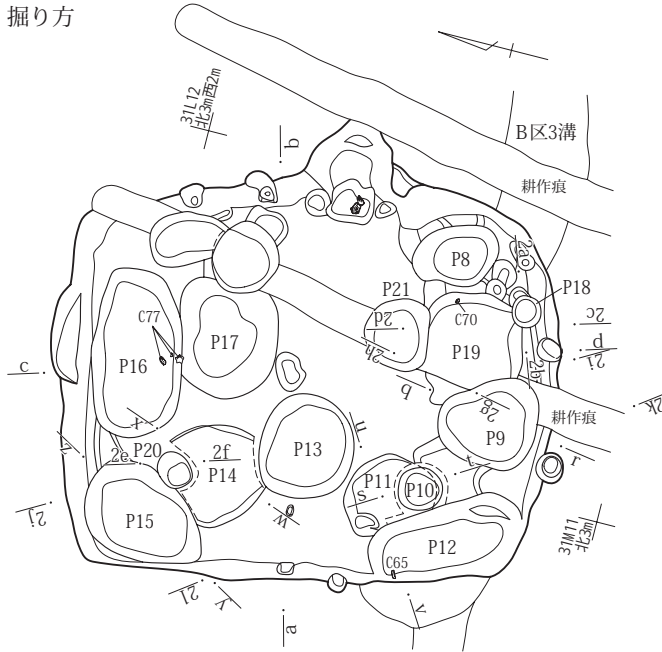


- P9 q-r
- 1 床面を形成する土。住居土層6bに相当。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、焼土ブロックを少量含む。締まりなし。

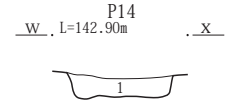


- P10 s-t
- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを多く、焼土ブロックを少量含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ロームブロックを多く含む。

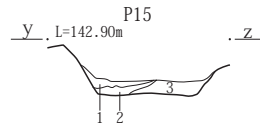
掘り方



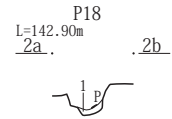
- P11・12 u-v
- 1 灰黄褐色土10YR4/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。
 - 2 焼土ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。
 - 4 3に似る。



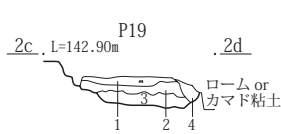
- P14 w-x
- 1 灰黄褐色土10YR4/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。



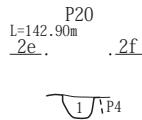
- P15 y-z
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、焼土ブロックを少量含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロック・焼土ブロックの混土。住居掘方9に近い。締まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。



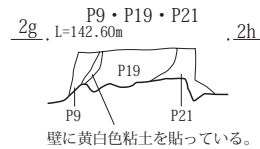
- P18 2a-2b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土ブロックを多く含む。全体に赤味。



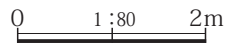
- P19 2c-2d
- 1 床面を形成する土。住居土層6b相当。下から灰層→灰層→硬い床→硬い床→硬い床の5枚以上あり。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。締まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。ロームブロックを多く含む。
 - 4 2に似る。上位にロームまたは粘土。焼土粒を多く含む。



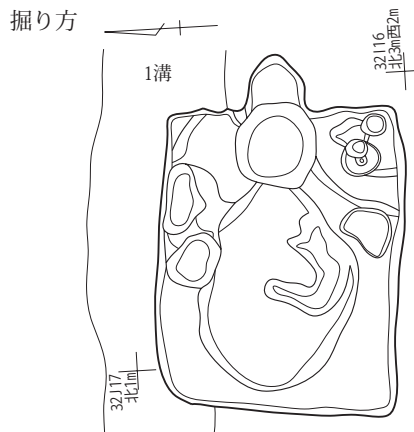
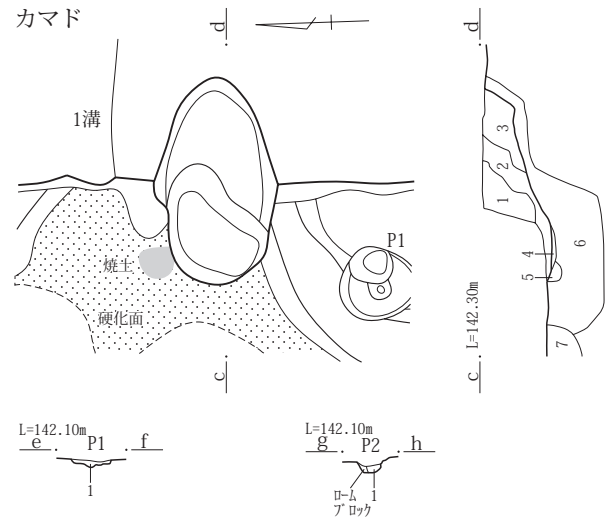
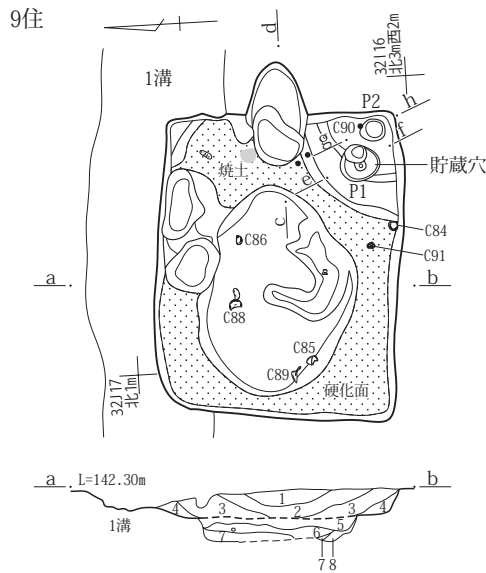
- P20 2e-2f
- 1 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。



1:40



第84図 天王C区8住居(2)

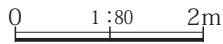


- 9住 a-b
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を多く、焼土・粘土粒・ローム粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、焼土を少量、ローム粒子を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石(粒が大きめ)・ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。
 - 5 黒褐色土10YR3/2 白色軽石(1cm以下)・焼土粒・2cm大のロームブロックを含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックが混じる。黒色土ブロックを含む。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR6/4 ロームブロックを含む。粘質。
 - 8 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。

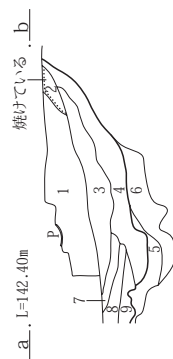
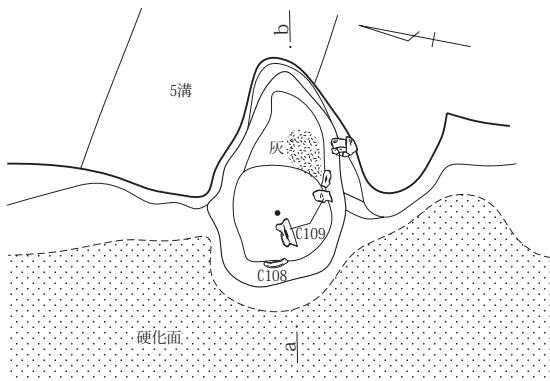
- カマド c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・カマド粘土を含む。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 白色軽石を少量含む。カマド粘土か。下位に焼土を多く含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 焼土を多く含む。白色軽石・焼土混じり粘土を含む。
 - 4 褐灰色土10YR4/1 灰に焼土が混じる。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。焼土を少量含む。
 - 6 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色軽石を少量、ロームブロックを多く含む。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石(1cm以下)・焼土粒・2cm大のロームブロックを含む。

- P1 e-f
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒・ロームブロックを少量含む。

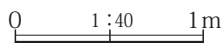
- P2 g-h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・焼土粒を含む。



10住カマド

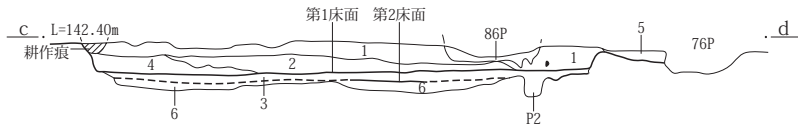
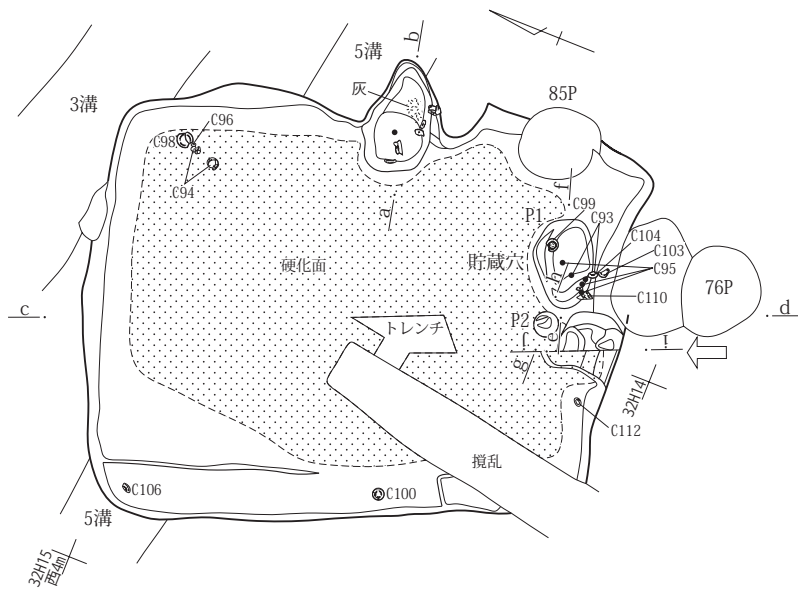


- 10住 カマド a-b
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒子・白色軽石を含む。
 - 2 1に焼土を含む。上位は良く焼けている。煙道下部か。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土・灰が混じる。白色軽石を含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR6/3 焼土粒を全体に含む。
 - 5 4に炭化物・灰が入る。カマド底面。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土を少量、ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・カマド粘土を含む。
 - 8 7に焼土粒・粘土粒を含む。
 - 9 にぶい黄褐色土10YR4/3 下位に白色軽石粒を含む。炭化物・ロームブロックを含む。

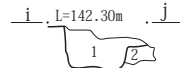
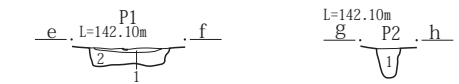
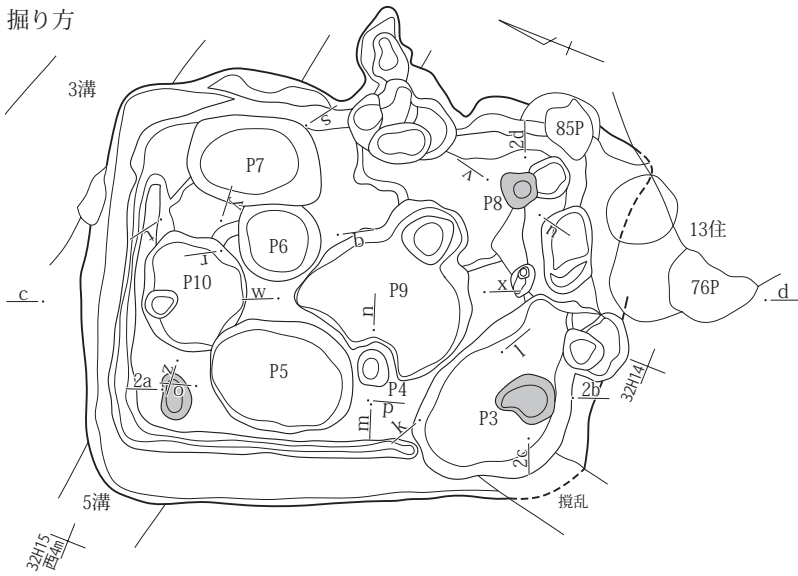


第85図 天王C区9住居、10住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物



掘り方

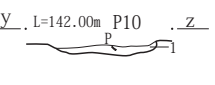
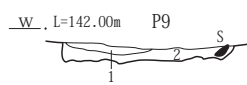
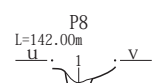
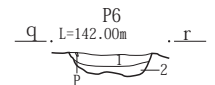
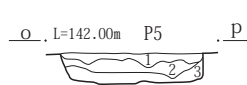
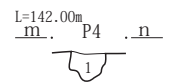
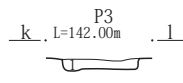


- c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子・炭化物を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土粒子を多く、炭化物を含む。
 - 3 2に似るが焼土粒子を含まない。底面は第2床面。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石・ロームブロックを含む。縮まりなし。
 - 5 土坑の覆土。1に似るが炭化物を含まない。
 - 6 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。床下の土。上面は第2床面。

- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 焼土・白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 焼土・炭化物・ロームブロックを含む。

- P2 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。

- 出入口 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。上位は水平互層に見えるが不明瞭。人為的に積み上げた出入口階段。
 - 2 1に焼土粒・ロームブロックを多く含む。



- P3 k-l
- 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。

- P4 m-n
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。

- P5 o-p
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。焼土粒を少量含む。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 粘土・焼土を多く、白色軽石・炭化物を含む。粘質。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘土ブロック・焼土・炭化物を含む。

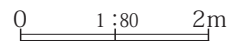
- P6 q-r
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石粒(1cm以下)・焼土粒を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石少量、ローム粒子・ロームブロックを含む。

- P7 s-t
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・焼土・ロームブロックを含む。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 粘土・焼土を多く、炭化物を含む。粘質。

- P8 u-v
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石を少量含む。

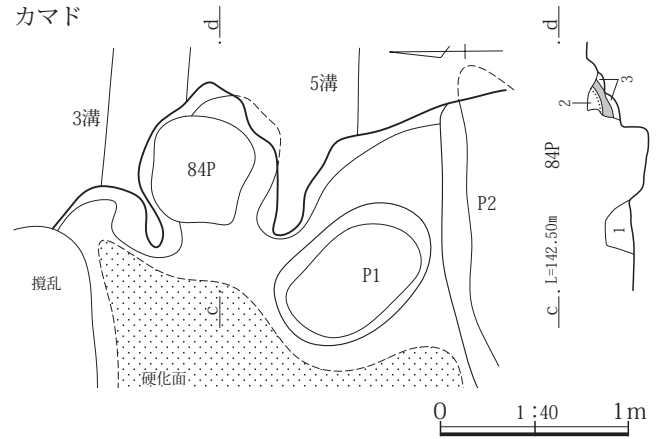
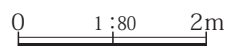
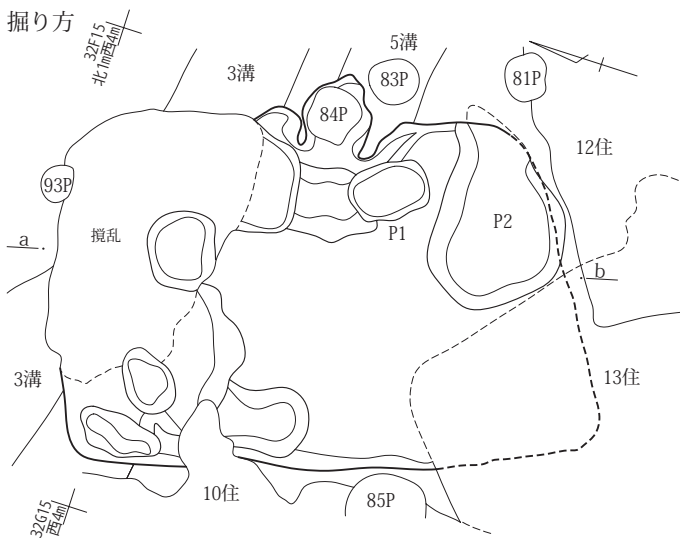
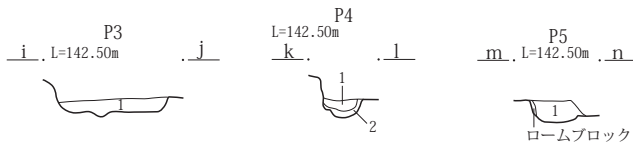
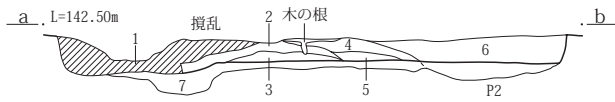
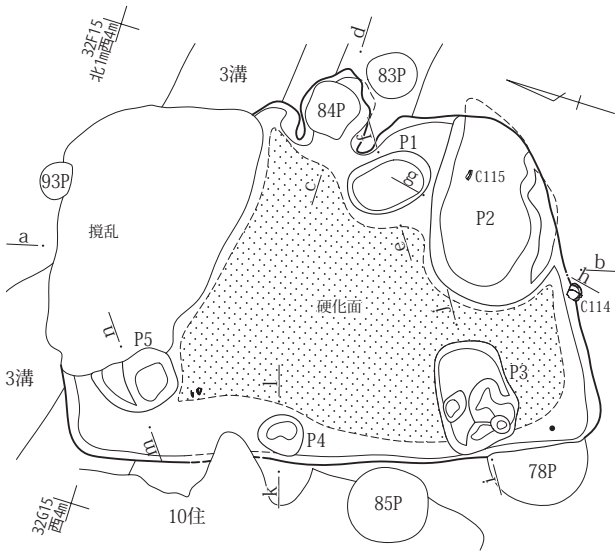
- P9 w-x
- 1 ロームブロックと黒色土ブロックの混土。黒色土を多く含む。
 - 2 ロームブロックと黒色土ブロックの混土。

- P10 y-z
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒子・炭化物を含む。土器片あり。



第86図 天王C区10住居(2)

遺構図(天王C区)



a-b

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。白色軽石を多く含む。攪乱。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・白色軽石を含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを多く含む。
- 4 にぶい黄褐色土10YR7/4 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックを少量含む。ロームブロック状で硬い。
- 5 3に似る。
- 6 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。床面を形成する土で上面が硬い。

カマド c-d

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。住居覆土に近い。
- 2 焼土に黄白色粘土ブロックを含む。煙道天井崩落か。
- 3 灰と焼土が混じる。上位は純灰層。

P1 e-f

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 2~3cm大のロームブロックを含む。焼土粒子を多く含む。
- 3 2にカマド粘土を含む。

P2 g-h

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子・1cm大のロームブロックを含む。

P3 i-j

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子・1cm大のロームブロック・ローム粒子・粘土粒を含む。

P4 k-l

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・白色軽石・1cm大の粘土・褐色粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。

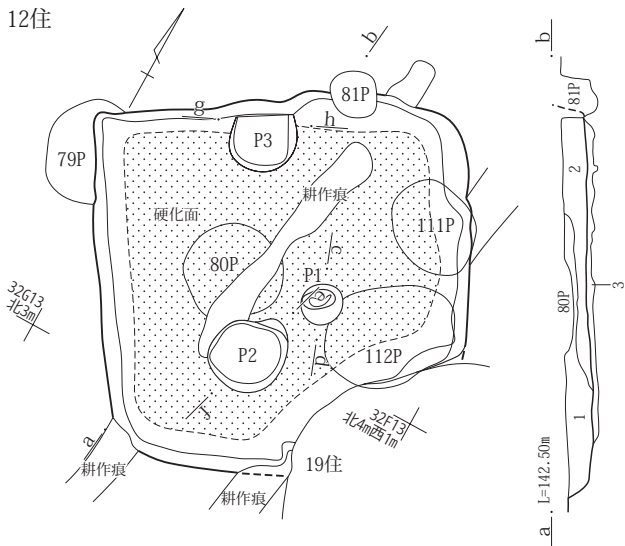
P5 m-n

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックが混じる。白色軽石・炭化物を含む。

第87図 天王C区11住居

第4章 検出された遺構と遺物

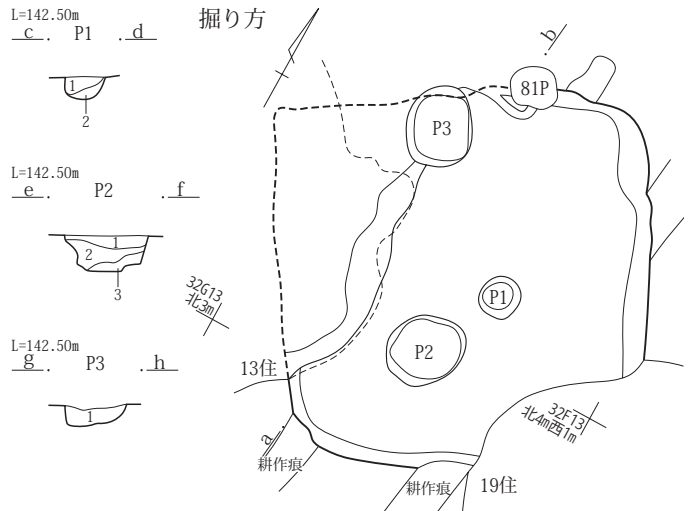
12住



12住 a-b

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ロームブロック・黒色土ブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。上面硬い。床面を形成する土。

L=142.50m 掘り方



P1 c-d

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 2 1に似るがロームブロックなし。軽石を少量含む。

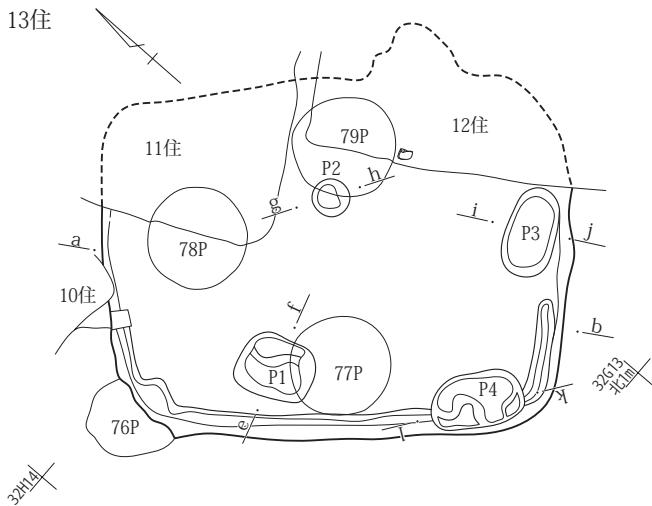
P2 e-f

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 2 1に似るが軽石・ロームブロックを少量含む。
- 3 黄白色粘土ブロックとにぶい黄褐色土10YR4/3ブロックの混土。

P3 g-h

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色粒子・ロームブロックを少量含む。

13住



a, L=142.40m

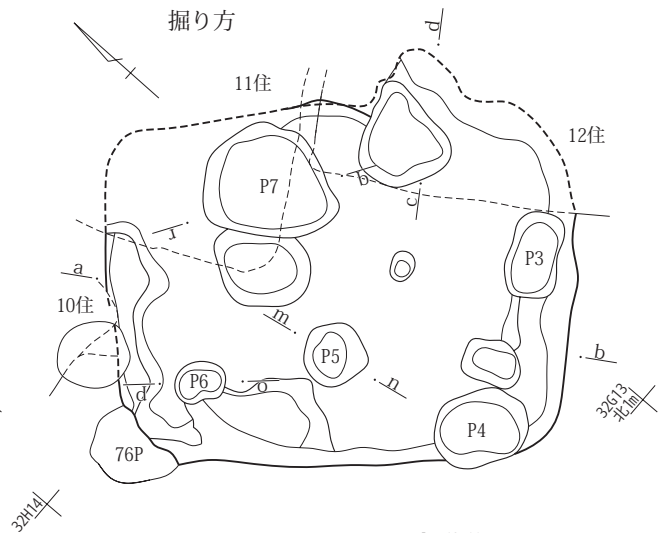
L=142.10m P1 .f

L=142.10m P3 .j

L=142.10m P2 .g .h

L=142.10m P4 .k .l

掘り方



L=142.00m P5 .n

L=142.00m P6 .p

L=142.00m P7 .r

カマド c-d

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。

P1~4 e-f, g-h, i-j, k-l

- 1 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石を含む。
- 2 1にロームブロックを含む。

P5~6 m-n, o-p

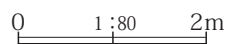
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
- 2 青灰色粘土ブロック ロームブロックを含む。

P7 q-r

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む。

13住 a-b

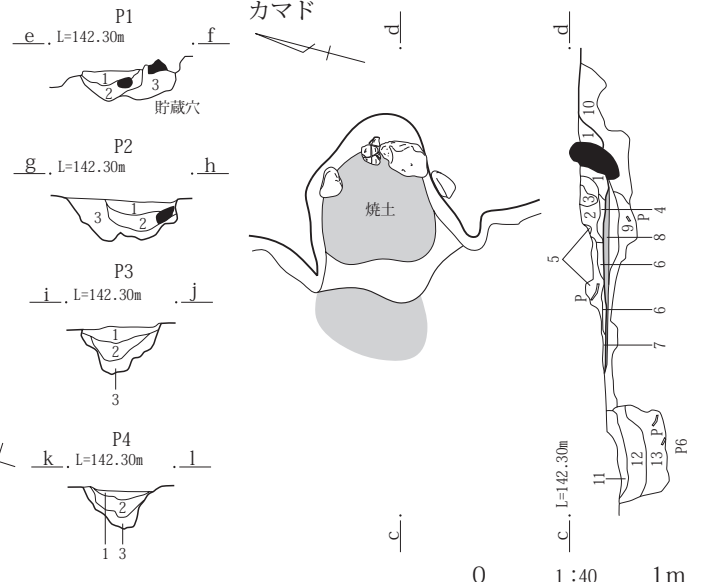
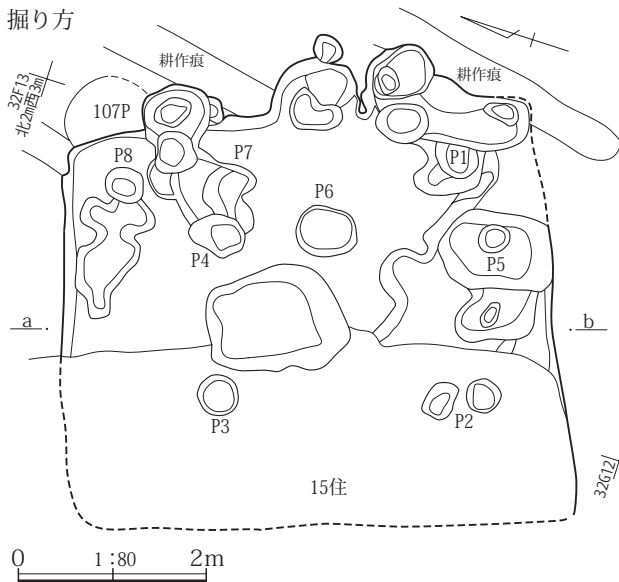
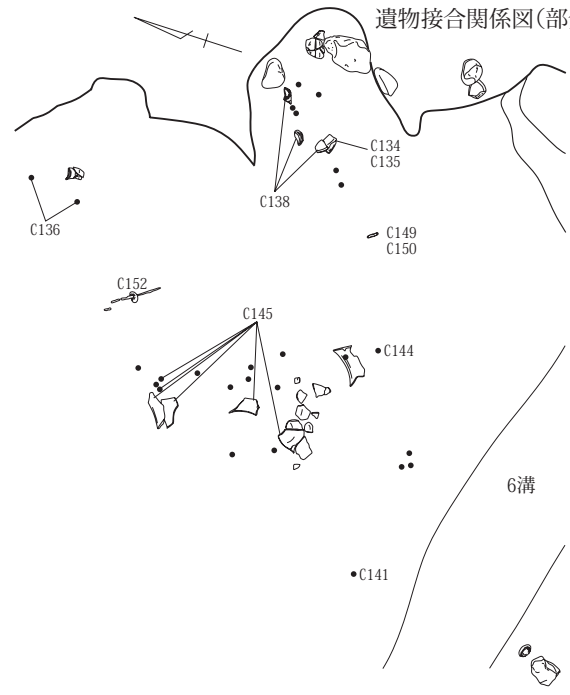
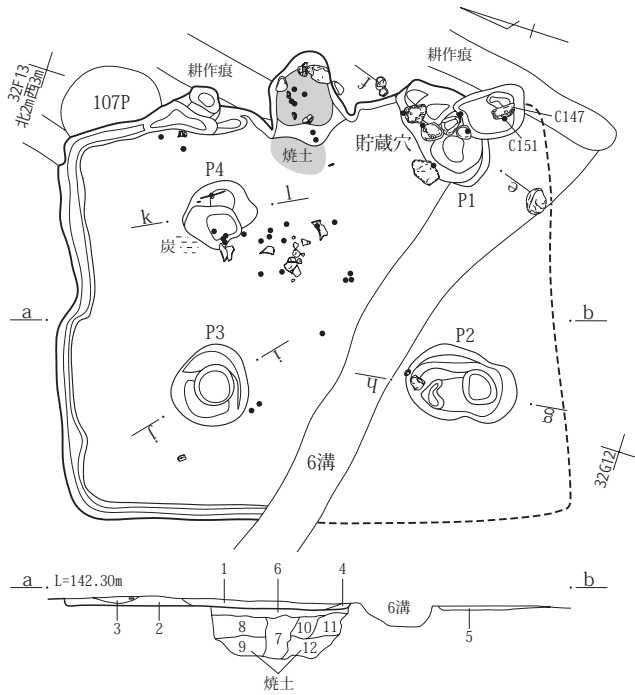
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。ロームブロックを少量含む。
- 2 1よりも灰色が強く軽石を含まない。床直上の土。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。締まりなし。
- 4 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。上面硬い。床面を形成する土。



第88図 天王C区12・13住居

遺構図(天王C区)

遺物接合関係図(部分)

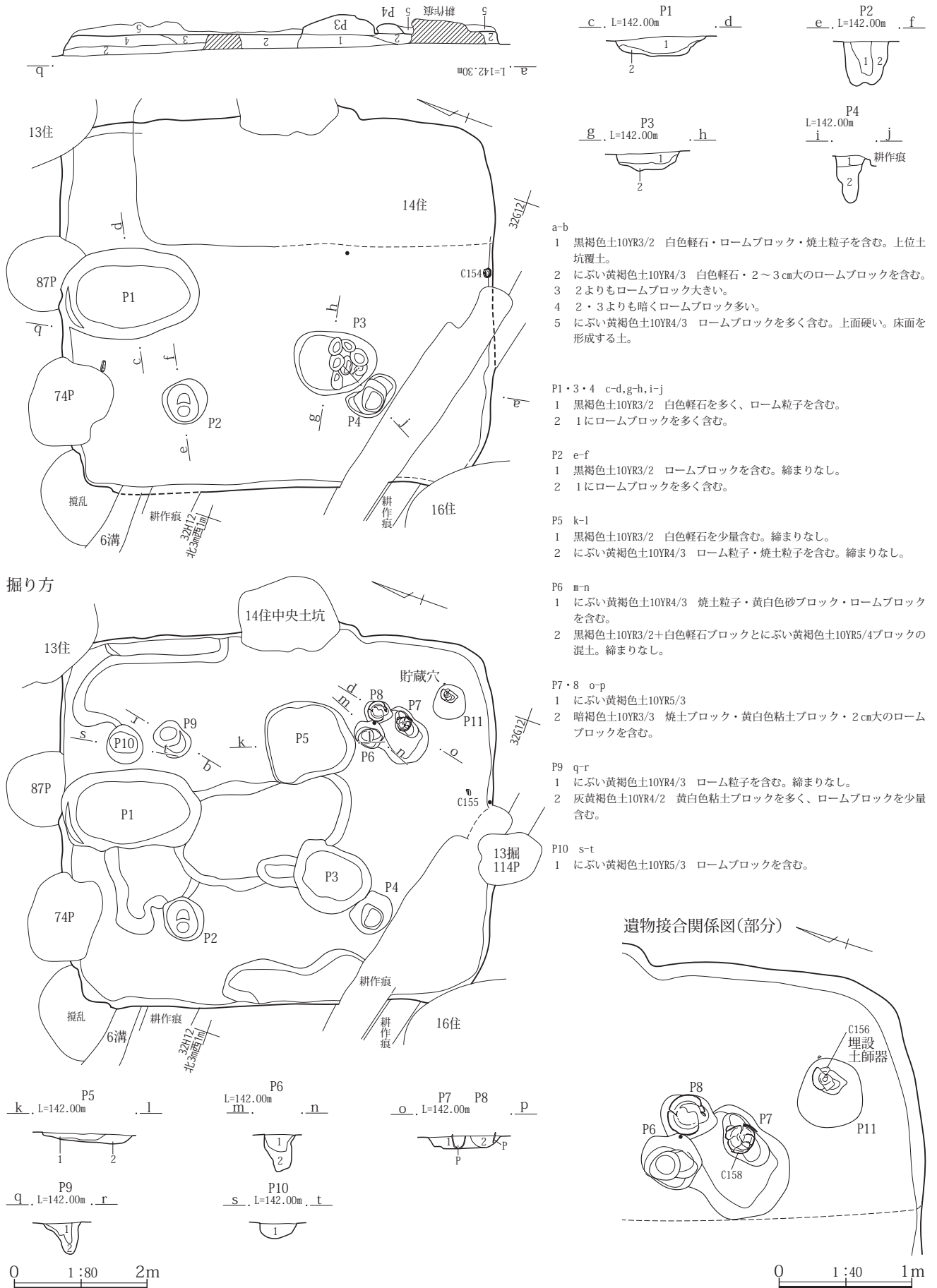


- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒を含む。ロームブロック・粘土を少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR5/4 白色軽石・焼土粒を含む。ローム粒子を多く含む。
 - 3 1とほぼ同じだが焼土粒なし。
 - 4 2とほぼ同じだが軽石粒が大きい。
 - 5 灰黄褐色土10YR5/2 白色軽石を含む。
 - 6 つぶれたロームブロックと黒色土ブロックの混土。硬い上面は14住の床面。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。ロームブロックを少量含む。14住居床下の掘り込み。
 - 8 黒褐色土10YR3/2ブロック・焼土粒・黄白色粘土の混土。
 - 9 黄白色粘土・黒色土ブロックの混土。焼土を少し含む。
 - 10 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒を含む。
 - 11 10よりも焼土粒を多く含む。
 - 12 9に似るが黄白色粘土少ない。
- P1 e-f
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 白色軽石・ロームブロック・カマド粘土を含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒・ロームブロック・ローム粒を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR6/4 ロームブロックを含む。
- P2 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石粒・焼土粒を含む。
 - 2 1より焼土粒を多く含む。ロームブロックを含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。

- カマド c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土・カマド粘土ブロックを含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR6/3 焼土混じりカマド粘土・白色軽石を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR7/4 カマド粘土・焼土を含む。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土を含む。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒・ローム粒子・白色軽石を含む。
 - 6 5よりローム粒子多い。ロームブロック小を含む。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 焼土を含む。
 - 8 灰層 焼土粒を含む。ローム粒子を少量含む。
 - 9 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・灰・焼土粒を含む。
 - 10 褐色土10YR3/3 白色軽石を少量含む。
 - 11 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 - 12 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。硬い。
 - 13 にぶい黄褐色土10YR5/4 炭化物を多く、焼土粒・ロームブロック・土器片を含む。
- P3 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒を含む。
 - 2 1より白色軽石少ない。焼土粒・ロームブロックを含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・焼土粒・ロームブロックを含む。
- P4 k-l
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒を含む。
 - 2 1より軽石・焼土少ない。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR6/4 ロームブロックを含む。

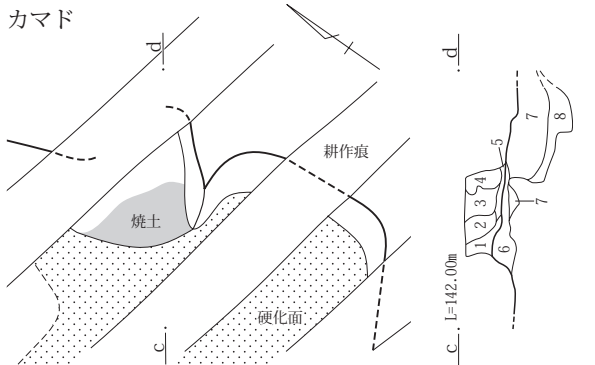
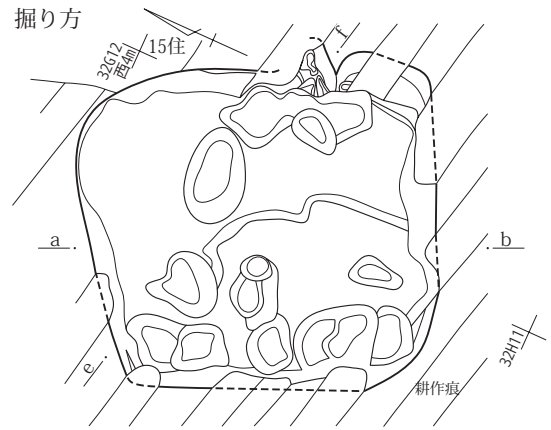
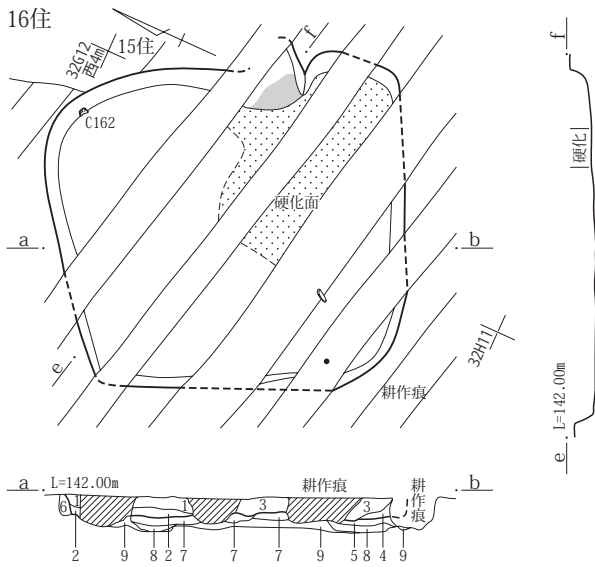
第89図 天王C区14住居

第4章 検出された遺構と遺物



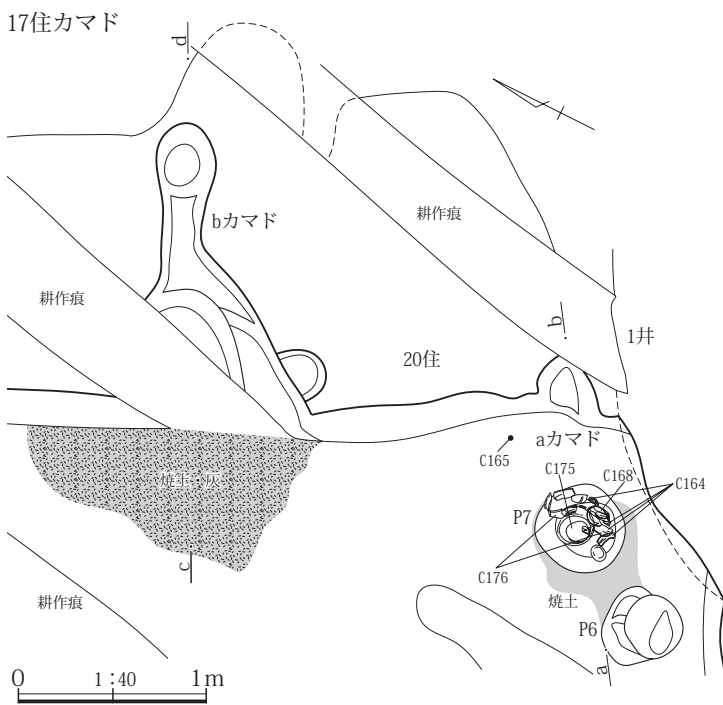
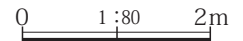
- a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロック・焼土粒子を含む。上位土坑覆土。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・2~3cm大のロームブロックを含む。
 - 3 2よりもロームブロック大きい。
 - 4 2・3よりも暗くロームブロック多い。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを多く含む。上面硬い。床面を形成する土。
- P1・3・4 c-d,g-h,i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。
 - 2 1にロームブロックを多く含む。
- P2 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。締まりなし。
 - 2 1にロームブロックを多く含む。
- P5 k-l
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量含む。締まりなし。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・焼土粒子を含む。締まりなし。
- P6 m-n
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子・黄白色砂ブロック・ロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとにぶい黄褐色土10YR5/4ブロックの混土。締まりなし。
- P7・8 o-p
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3
 - 2 暗褐色土10YR3/3 焼土ブロック・黄白色粘土ブロック・2cm大のロームブロックを含む。
- P9 q-r
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色粘土ブロックを多く、ロームブロックを少量含む。
- P10 s-t
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。

第90図 天王C区15住居



- a-b
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・黄色粒を含む。
 - 2 1より白色軽石少ない。下部に1~3cmのロームブロックを含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・赤色土・ロームブロック・粘土粒を含む。
 - 4 3に似るが白色軽石を含まない。やや濃い色相。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR6/3 ローム粒子・ロームブロック含む。掘り方覆土。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR6/3 ローム粒子を含む。地山か。
 - 7 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・黒褐色土ブロックを含む。
 - 8 にぶい黄褐色土10YR6/3 ローム粒子・白色軽石を含む。黒褐色粒子を多く含む。
 - 9 にぶい黄褐色土10YR6/3 ローム粒子・白色軽石を含む。

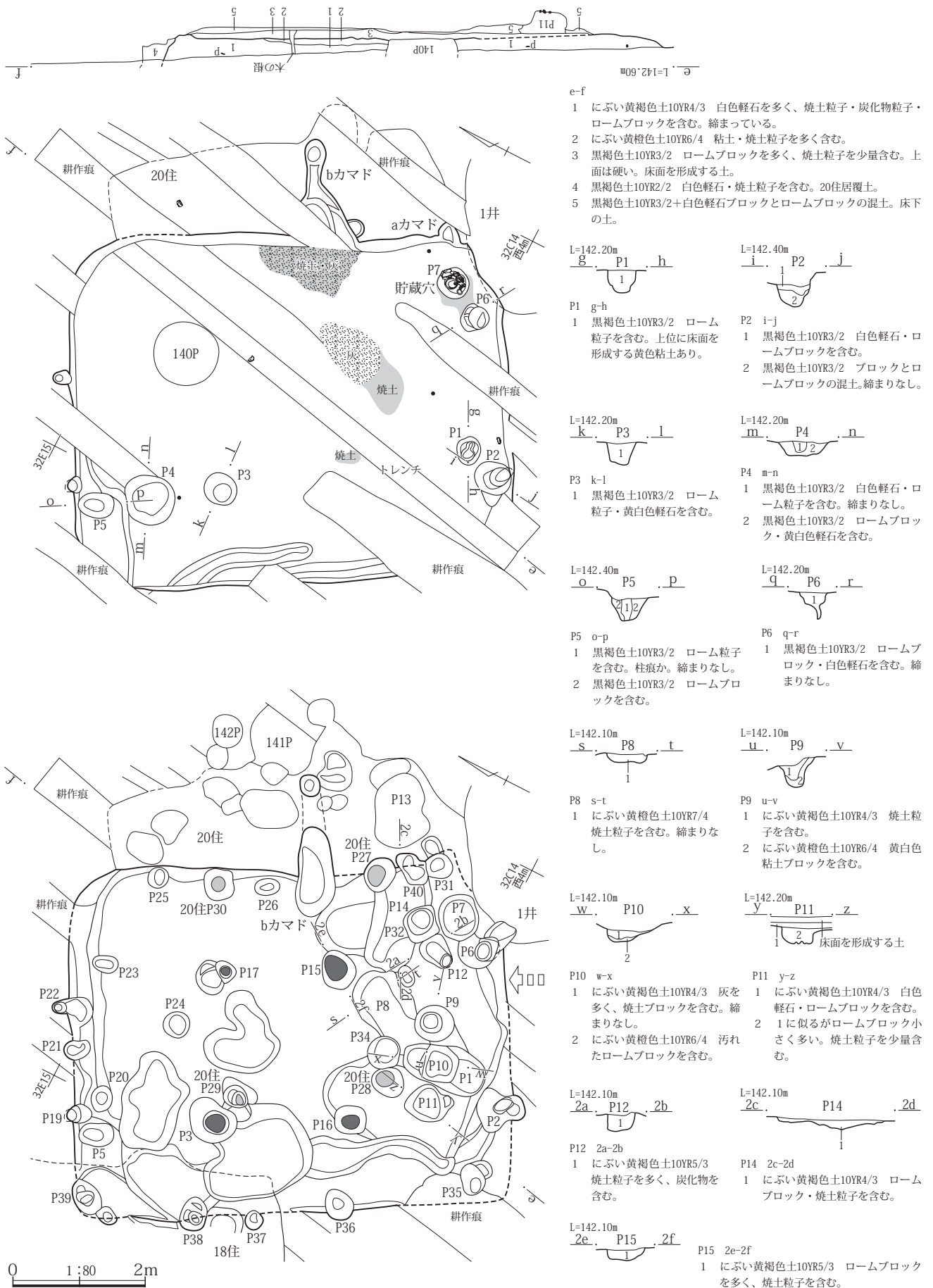
- カマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石粒・焼土を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土・カマド粘土粒を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR6/3 白色軽石を含む。カマド粘土を多く含む。
 - 4 2とほぼ同じだが焼土が少ない。
 - 5 2とほぼ同じだが焼土が多い。
 - 6 灰黄褐色土10YR4/2 カマド粘土・灰・焼土・炭化物を含む。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR5/4 白色軽石・粘土・ロームブロックが混じる。
 - 8 7よりロームブロックの割合多い。2cm大の黒褐色土ブロックを含む。
(7・8は耕作痕の埋没土)



- 17住 aカマド a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土ブロック・黄色粘土ブロックを含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・炭化物粒子・ロームブロックを含む。

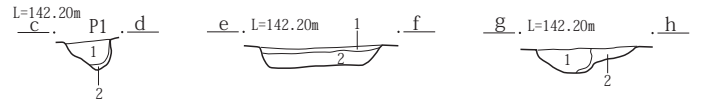
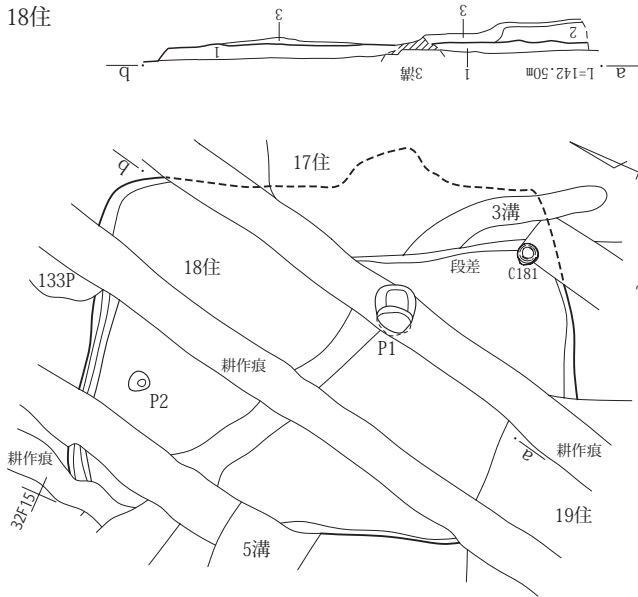
- bカマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR6/4 粘土・焼土粒子・炭化物を含む。底面に灰あり。
 - 2 多量の焼土ブロックと灰ブロックの混土。締まりなし。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
 - 4 1に似るが焼土ブロック大きい。
 - 5 1に似る。
 - 6 ロームブロック。下部に灰層含む。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロック・炭化物を含む。焼土粒子を多く含む。
 - 8 黒褐色土10YR3/2ブロック ロームブロックを含む。

第91図 天王C区16住居、17住居(1)

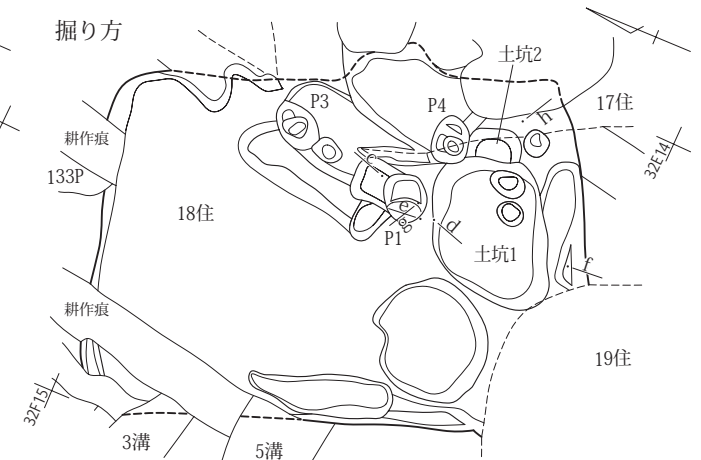


第92図 天王C区17住居(2)

18住



掘り方



18住 a-b

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。締まっている。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子を含む。ロームブロックを多く含む。上面は硬い。床下の土。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2ブロックと潰れたロームブロックの混土。

P1 c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
- 2 黄白色粘土 壁に貼っている。

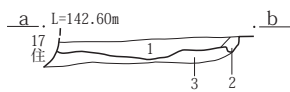
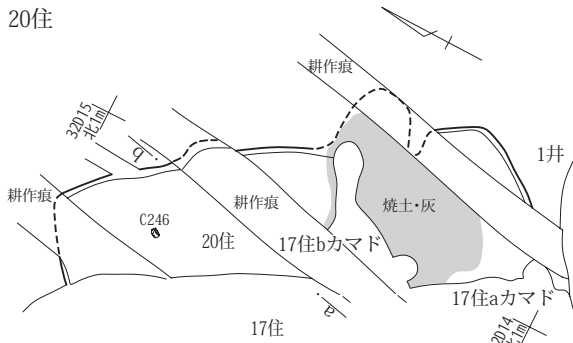
土坑1(粘土土坑) e-f

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒子を多く含む。
- 2 明青灰5BG粘土ブロックと2.5GY粘土の混土。粘土土坑底面。

土坑2 g-h

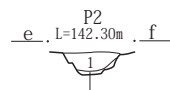
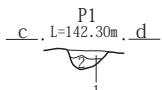
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。締まりなし。
- 2 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混土。

20住



20住 a-b

- 1 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
- 3 褐色土10YR4/4 ロームブロックを多く、白色軽石を少量含む。上面は硬く締まっている。床面を形成する土。

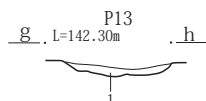


P1 c-d

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
- 2 1に似るがローム粒子を多く含む。

P2 e-f

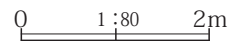
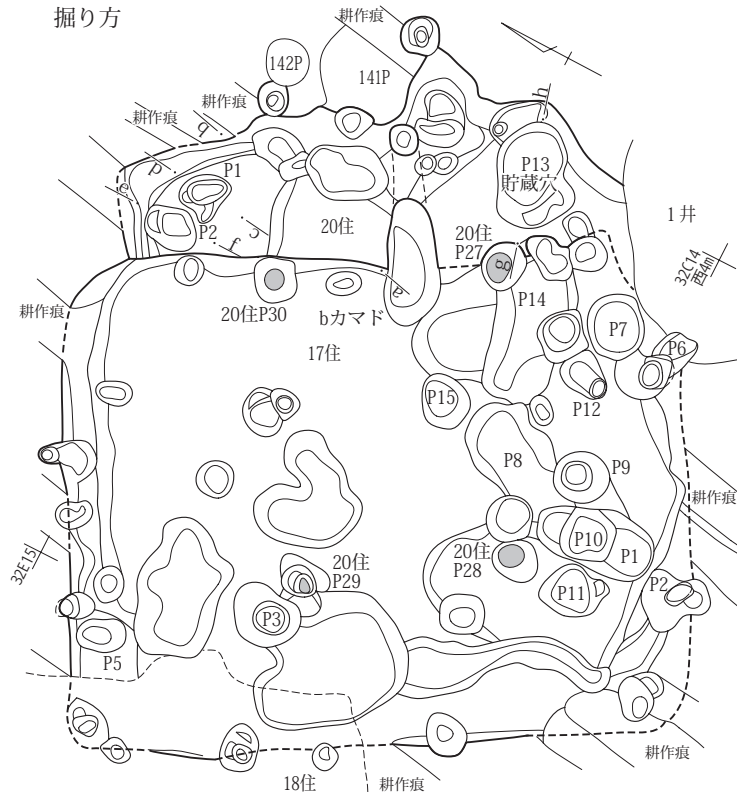
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2ブロックと黄白色粘土ブロックの混土。



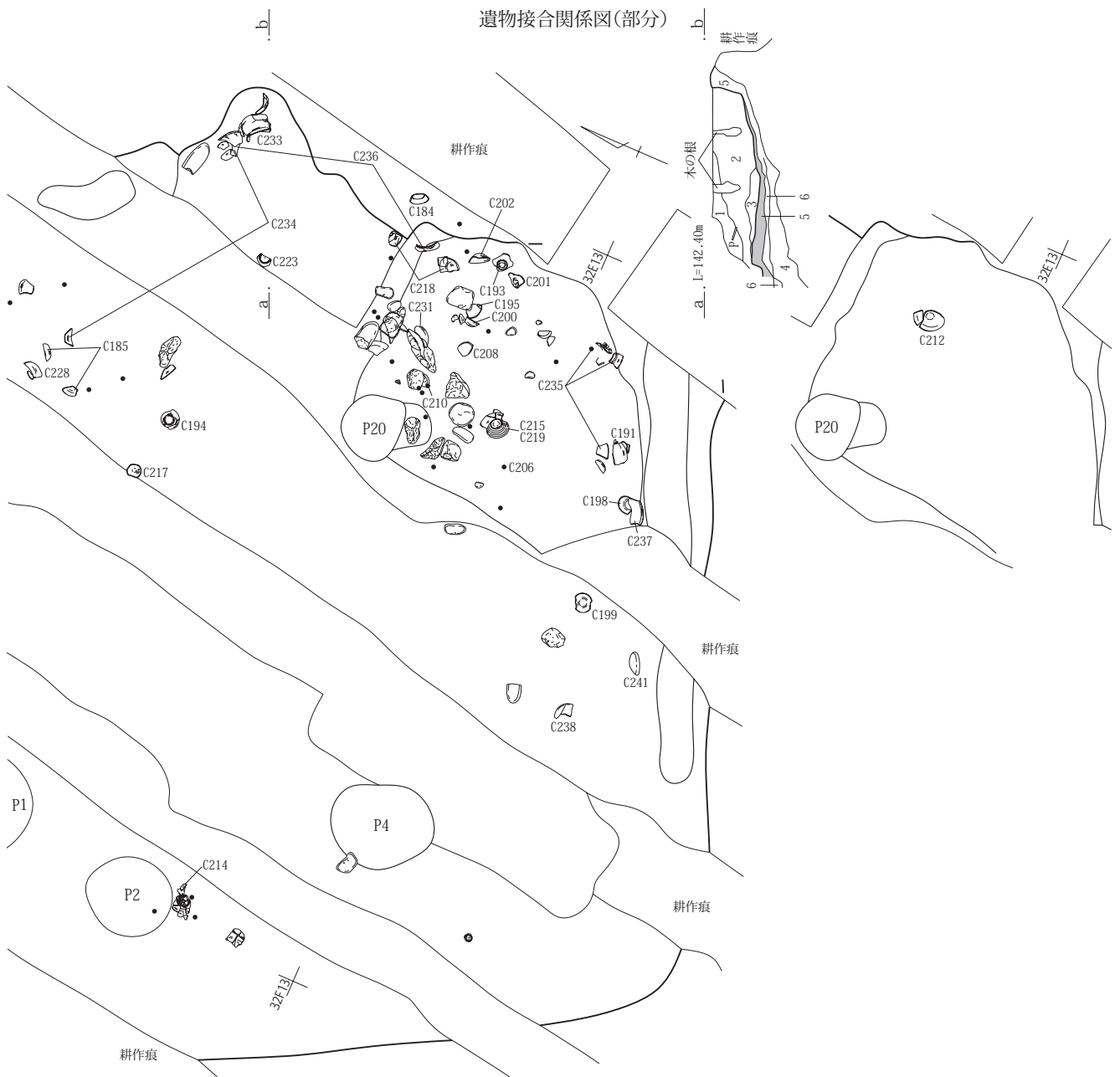
P13 g-h

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土粒子を含む。

掘り方

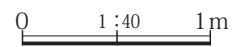


第93図 天王C区18・20住居

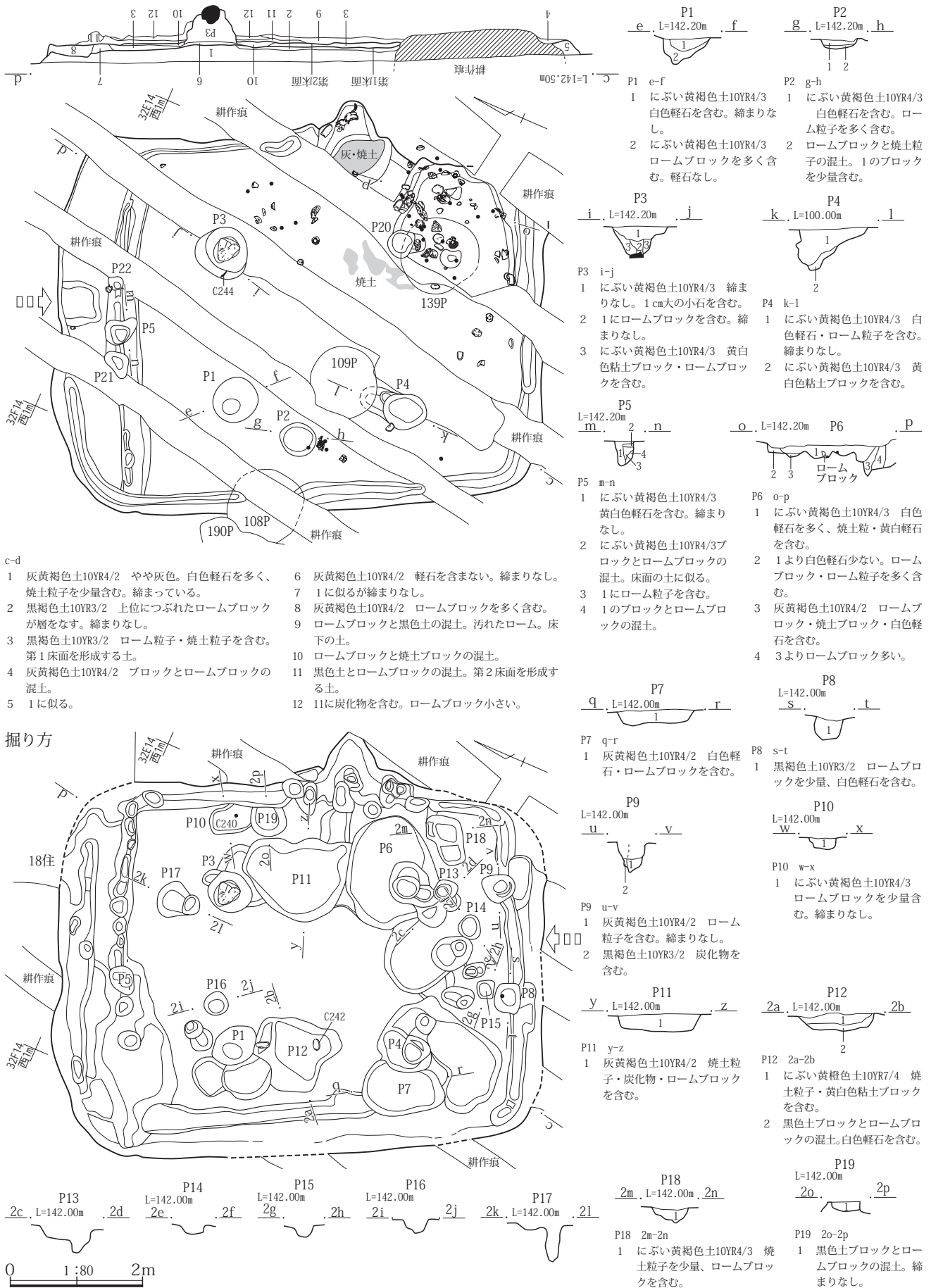


カマド a-b

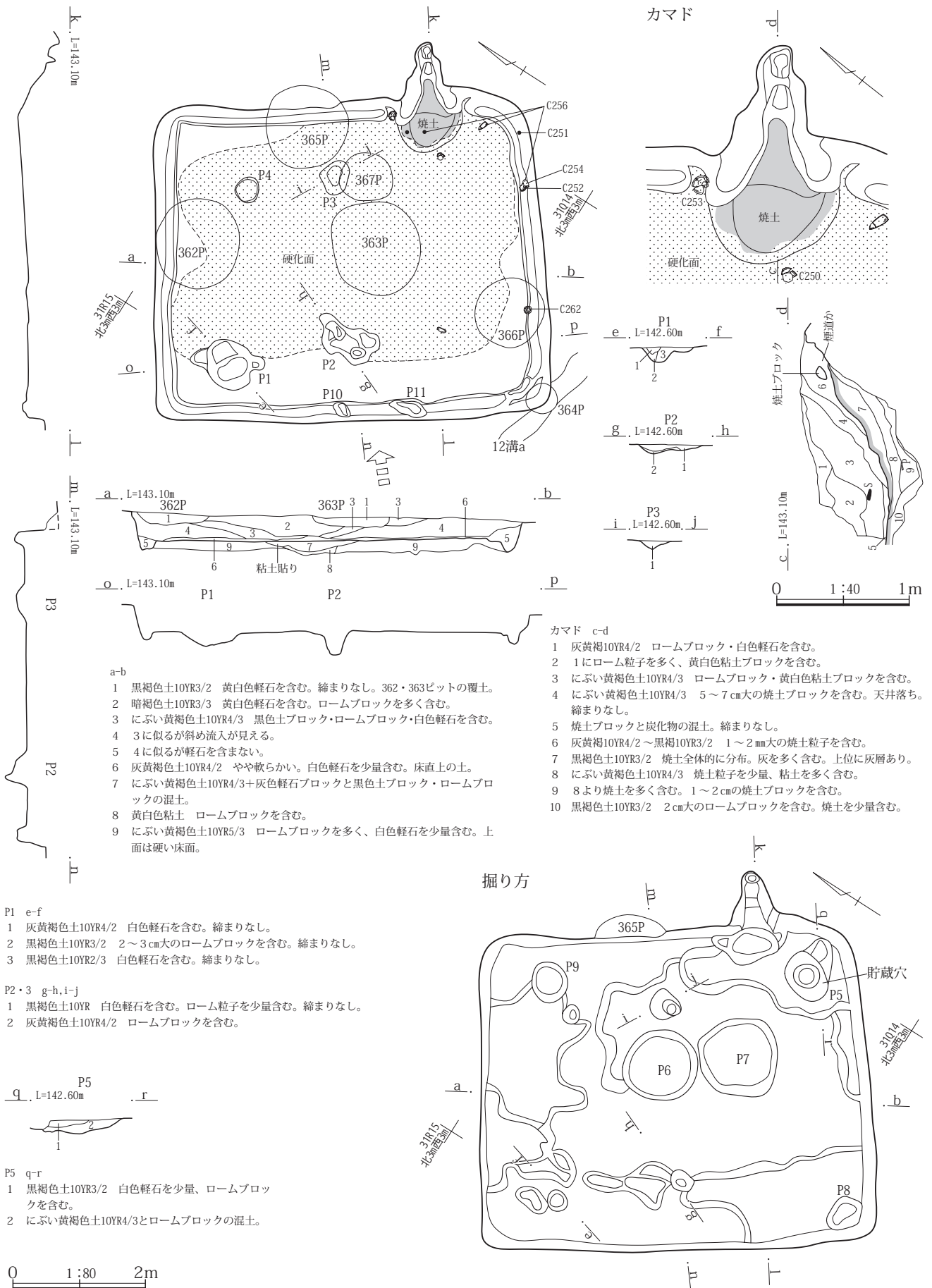
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
- 2 黄白色粘土 焼土粒子を含む。カマド粘土の崩落。
- 3 焼土ブロック 灰・ローム粒子を含む。
- 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子・炭化物を含む。
- 5 灰層
- 6 灰と潰れたロームの互層。下層カマド痕跡。第2床面のカマドを埋めて拡張したのち、第1床面のカマドを作った。



第94図 天王C区19住居(1)

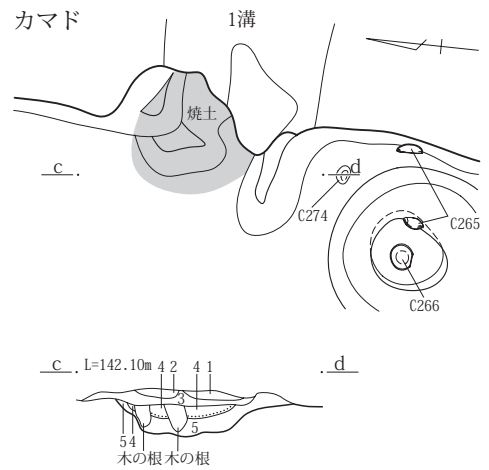
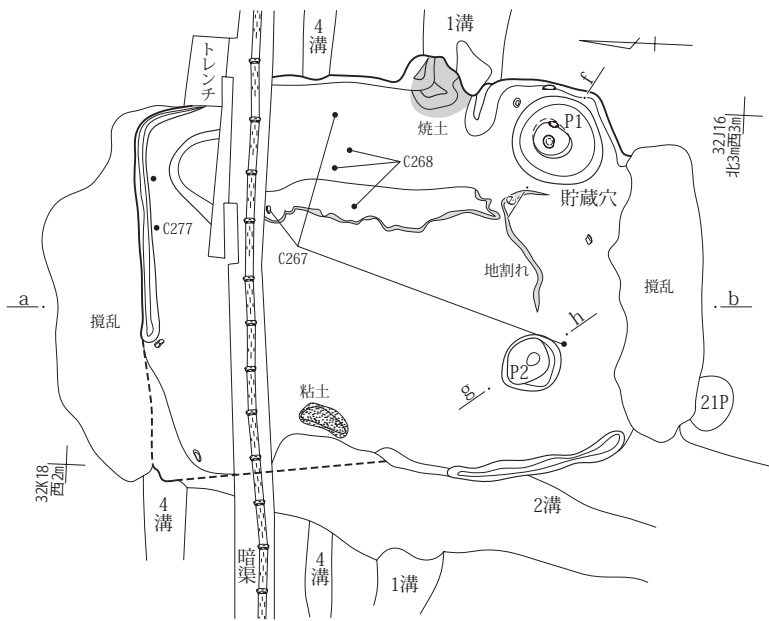


第95図 天王C区19住居(2)

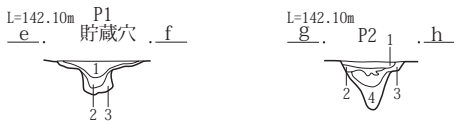
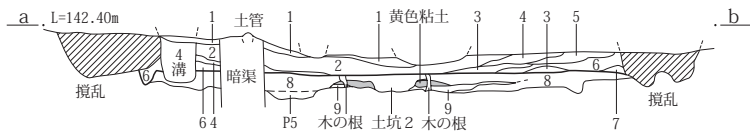


第96図 天王C区26住居

遺構図(天王C区)

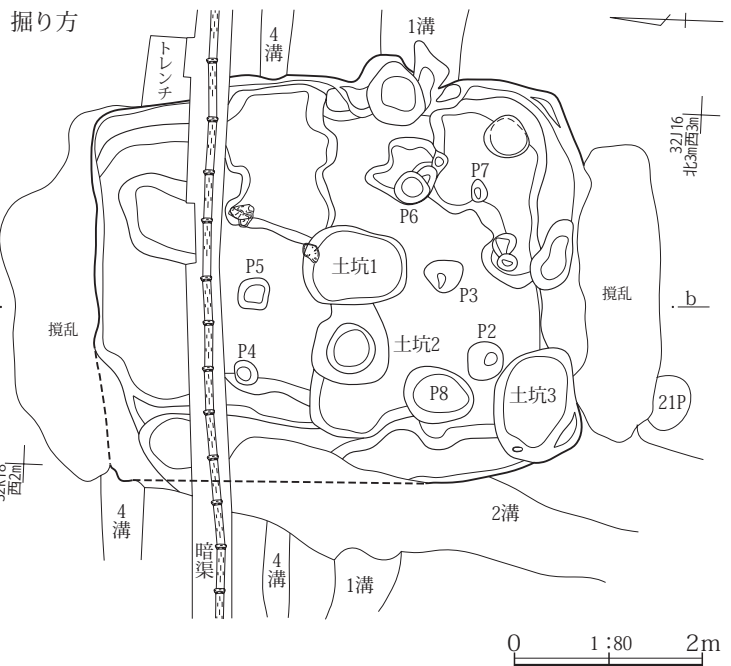


- カマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・1cm大の粘土ブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子を少量、3cm大のカマド粘土ブロックを含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR6/4 焼土・カマド粘土を含む。
 - 4 炭化物・焼土粒・暗色粘土ブロックの混土。縞状。殆ど炭化物・焼土粒。底面は灰層。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 砂質。焼土粒・炭化物を含む。締まりなし。



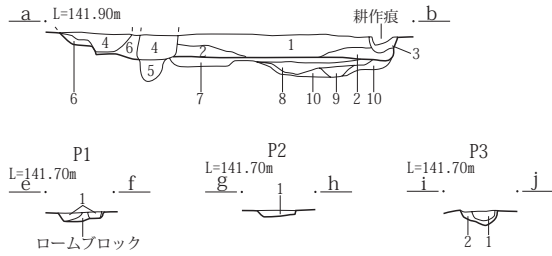
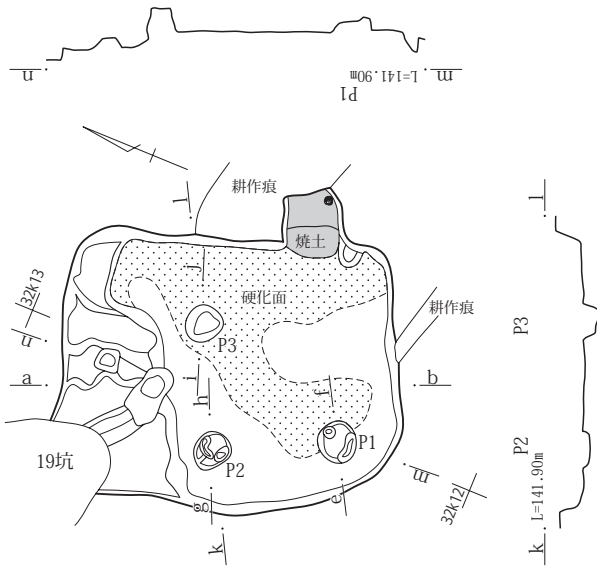
- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒・ロームブロックを含む。
 - 2 1に似るが軽石を含まない。上部に粘土。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 1~2cm大のロームブロックが混じる。
- P2 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・粘土ブロックを含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR7/2 カマド粘土・焼土が混じる。青灰色シルト・白色軽石を含む。
 - 3 1より粘土を多く含む。白色軽石を多く含む。
 - 4 褐灰色土10YR4/1 白色軽石・青灰色シルトを含む。

- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロック小を含む。締まりなし。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。
 - 3 褐灰色土10YR6/1 粘質土。
 - 4 2よりロームブロックの割合が多い。粘土粒を含む。
 - 5 2とほぼ同じ。粘土粒を少量含む。
 - 6 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。ロームブロックを少量含む。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 8 黒色土と黄色土の互層。4~5枚あり。床面を形成する土。
 - 9 黒色土 白色軽石を含む。



第97図 天王C区27住居

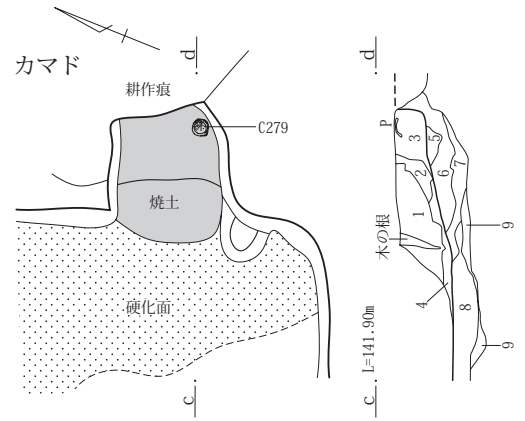
第4章 検出された遺構と遺物



- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、焼土粒子を少量、1~3cm大のロームブロックを含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・焼土粒を少量、ローム粒子・ロームブロック(1より少ない)を含む。
 - 3 2とほぼ同じだが軽石少ない。攪乱の覆土。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・5cm大のロームブロックを含む。攪乱の覆土。
 - 5 4よりロームブロックの割合多い。攪乱の覆土。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR6/4 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 7 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。床面を形成する土。上面は硬く締まっている。
 - 8 7にロームブロック・白色軽石を含む。
 - 9 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。
 - 10 9よりロームブロックが大きい。白色軽石・黄色粒子を含む。

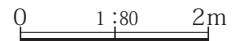
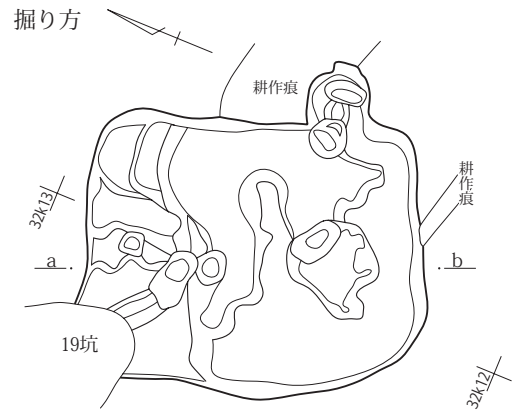
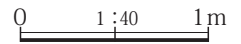
- P1・2 e-f, g-h
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。

- P3 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 1cm大のロームブロックを含む。締まりなし。
 - 2 1よりロームブロック大きい。



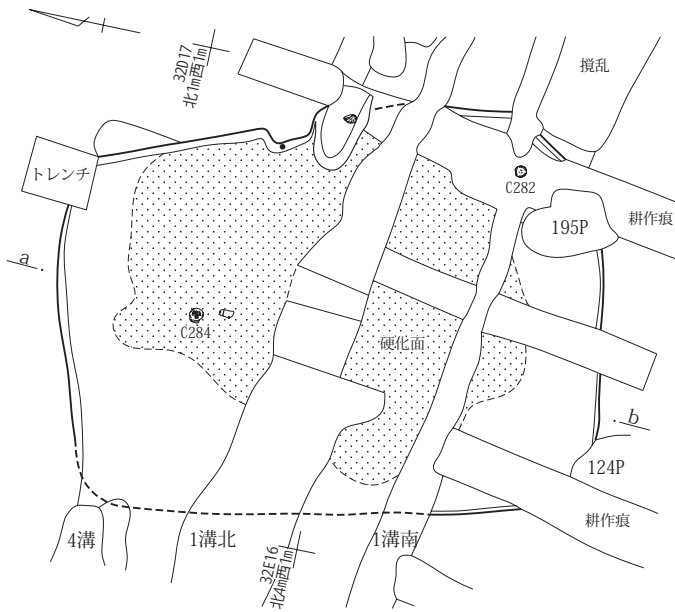
カマド c-d

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・1cm大のロームブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 カマド粘土・焼土粒子・1cm大のロームブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1~3cm大の焼土ブロック・カマド粘土を含む。
- 4 3より焼土の割合が多く白色軽石は少ない。
- 5 にぶい黄褐色土10YR5/4 焼土ブロック・粘土を含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 焼土・灰を含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土を少量、1cm大のロームブロックを含む。
- 8 7に白色軽石を含む。1~3cm大の黒褐色土ブロックを多く含む。
- 9 にぶい黄褐色土10YR6/3 ロームブロックを含む。

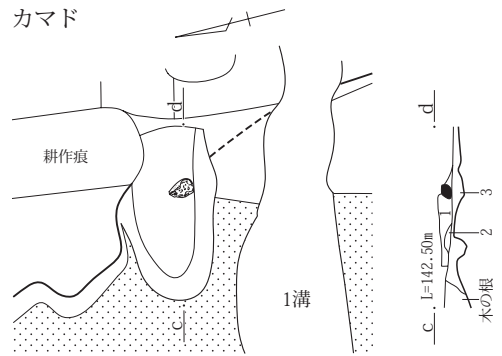


第98図 天王C区28住居

遺構図(天王C区)

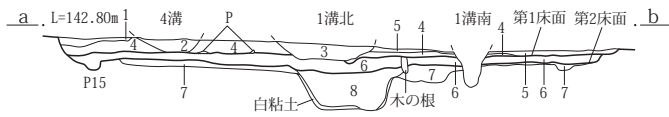
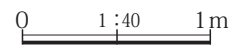


カマド



カマド c-d

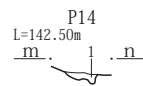
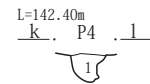
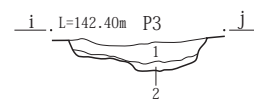
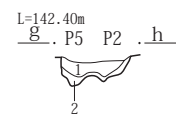
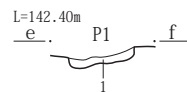
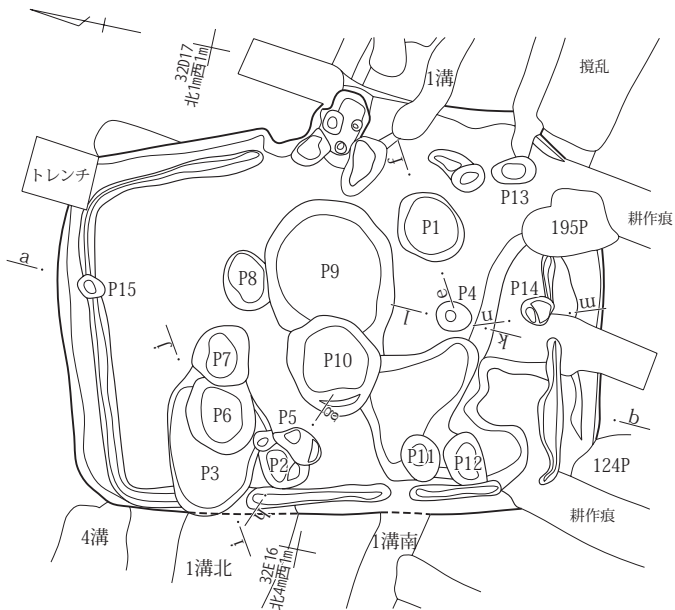
- 1 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 灰と焼土粒子の混土。
- 3 黄色粘土 焼土粒子・炭化物を含む。



a-b

- 1 褐灰色土10YR4/1 耕作土の一部。縮まりなし。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子を含む。4溝覆土。
- 3 褐灰色土10YR4/1 ローム粒子を含む。1溝北の覆土。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・白色軽石を含む。縮まっている。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。ロームブロックを含まない。
- 6 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・汚れたロームブロックを含む。第1床面を形成する土。上面硬い。
- 7 6に似るがロームブロックが大きめ。第2床面を形成する土。上面硬い。
- 8 6に似るがロームブロックが踊っている。水性堆積か。壁周囲に白粘土を貼る。

掘り方



P1 e-f

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒子を多く含む。縮まりなし。

P2・5 g-h

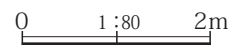
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・潰れたロームブロックを含む。縮まりなし。
- 2 ロームブロックと黄白色粘土の混土。

P3 i-j

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。縮まりなし。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒子・黄白色粘土粒子を含む。

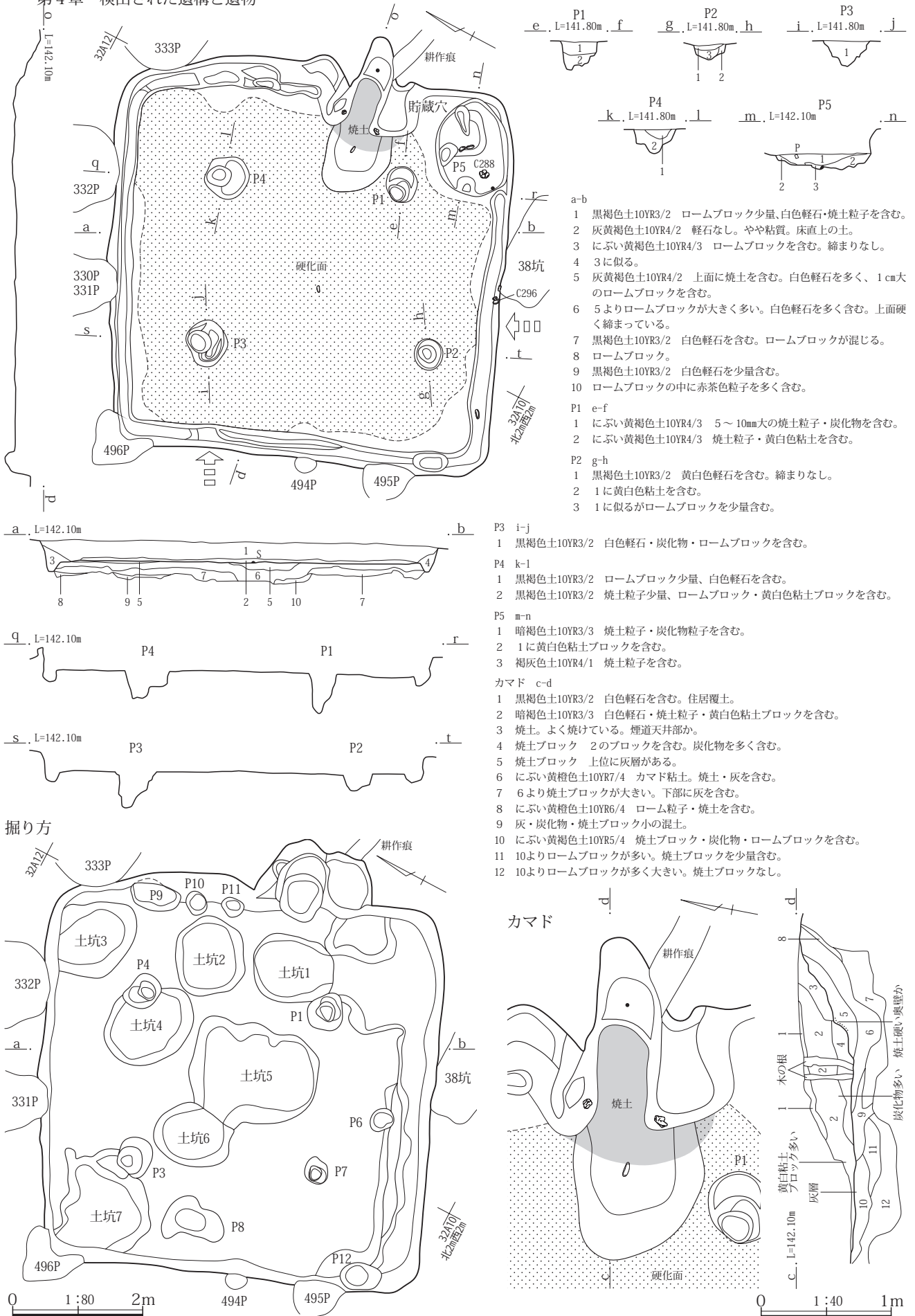
P4・14 k-l, m-n

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4ブロックと白色粘土ブロックの混土。縮まりなし。

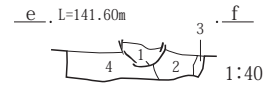
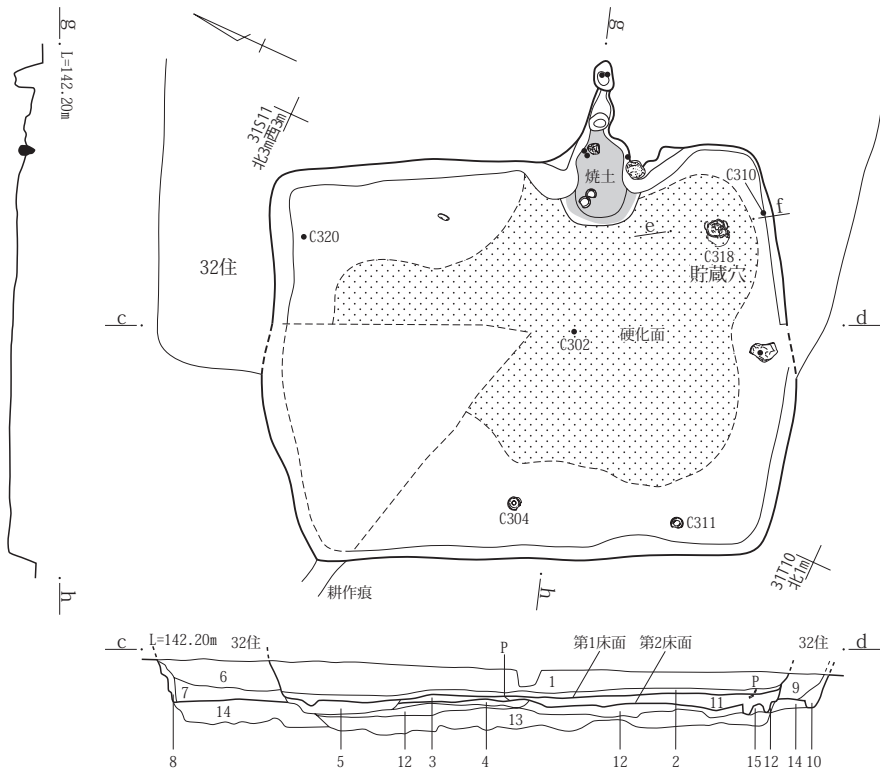


第99図 天王C区29住居

第4章 検出された遺構と遺物



第100図 天王C区30住居



- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、焼土粒子を含む。締まりなし。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土ブロックを多く含む。締まりなし。
 - 3 黄白色粘土。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 2~3cm大のロームブロックを多く、焼土粒子・炭化物を含む。

31住 c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
- 2 1に潰れたロームブロックを含む。床直上の土。軟らかい。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 潰れた黄白色粘土を含む。炭化物を少量含む。上面は硬い床面を形成する。
- 4 3に似る。上面硬い。第2床面を形成する土。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2ブロックと黄白色粘土ブロックの混土。第1床面下を埋めた土。
- 11 3と同じ。灰褐色系の土。
- 12 4に似る。灰色味あり。
- 13 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。12よりも灰色味強い。
- 15 黄白色粘土と焼土ブロックの混土。

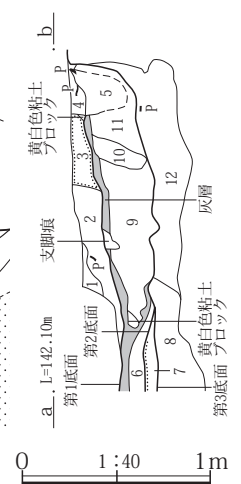
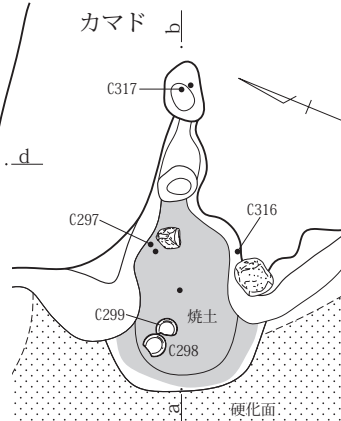
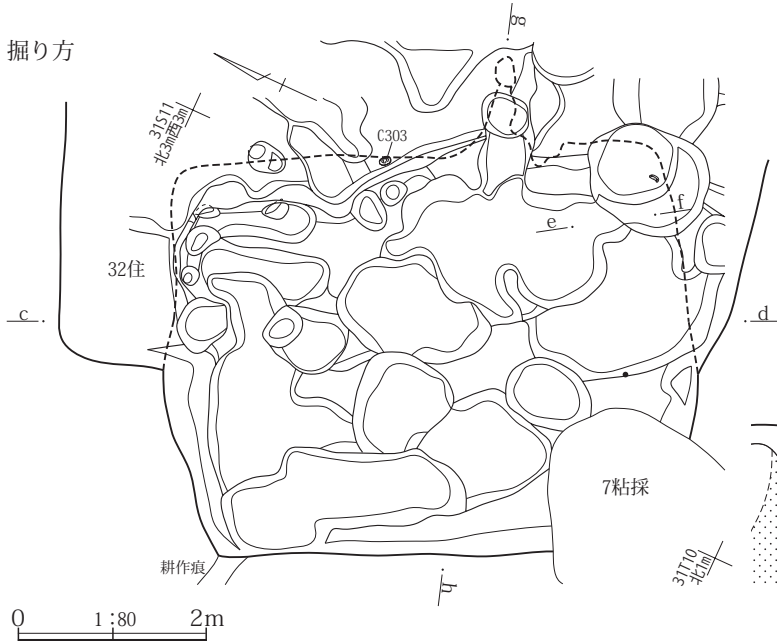
32住 c-d

- 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石を含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を少量、炭化物を含む。
- 8 ロームブロックとにぶい黄褐色土10YR4/3の混土。白色軽石なし。
- 9 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を含む。
- 10 9に似るが軽石を含まない。軟らかい。
- 14 32住居床下の土。31住居よりもロームブロックが小さい。

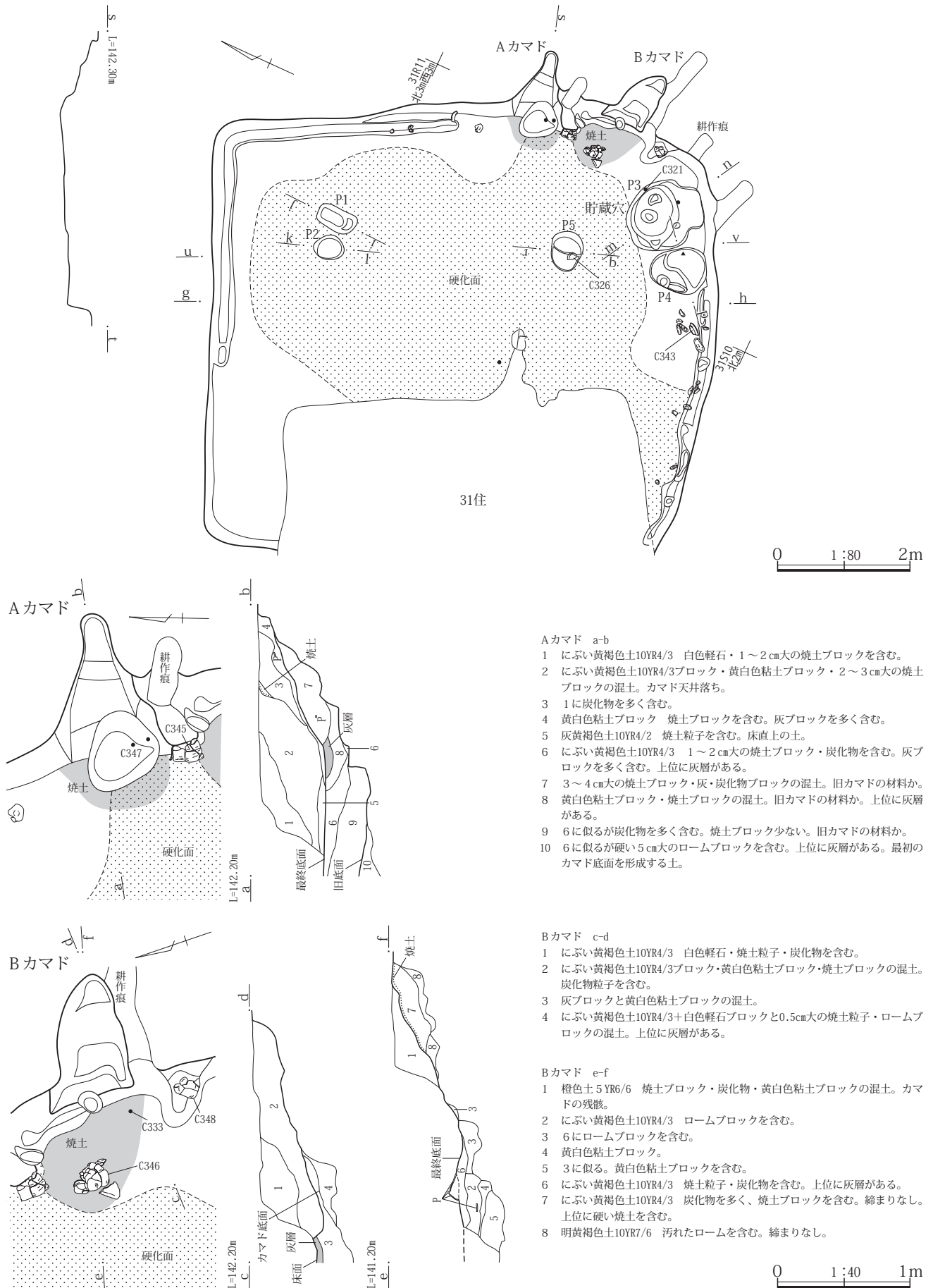
カマド a-b

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
- 2 黄白粘土ブロック・焼土ブロック・灰の混土。3回目カマドの残骸か。
- 3 硬く焼けた焼土。
- 4 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 焼土粒子を含む。
- 6 最上位に灰層、直下につぶれた焼土層がある。下位は黒褐色土10YR3/2・白色軽石を含む。
- 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。6に似る。最上位につぶれた焼土層がある。第2床面を形成する土。
- 8 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを多く含む。上面硬い。第3床面を形成する土。
- 9 黄白色粘土ブロック・焼土ブロック・ロームブロックの混土。第2回目カマドの残骸。
- 10 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・灰・炭化物粒子を含む。
- 11 灰層と焼土層の互層。第1回目カマドの奥壁崩れか。
- 12 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。8よりもロームが少ない。32住居覆土の一部か。

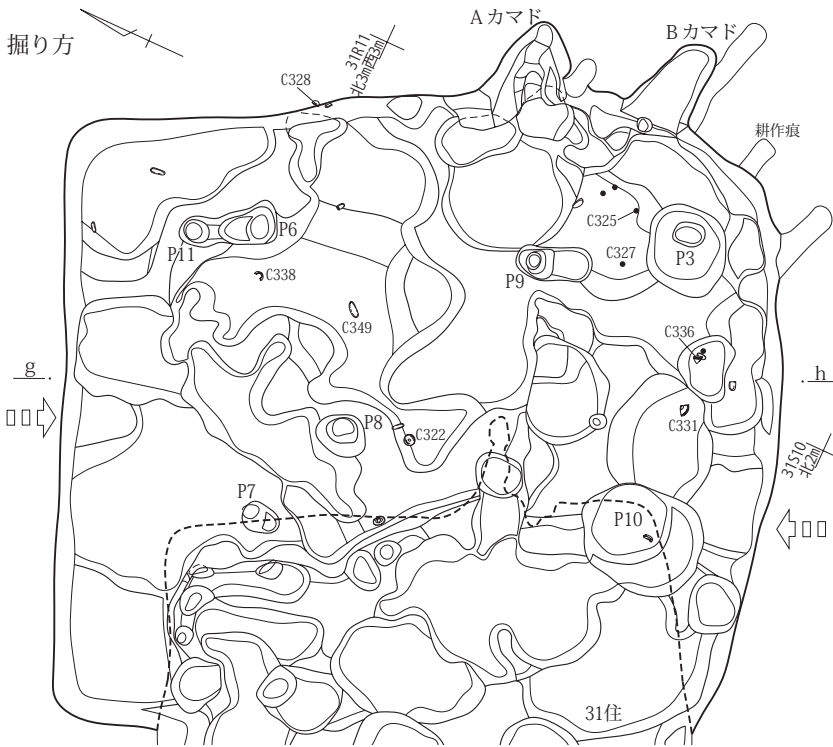
掘り方



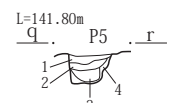
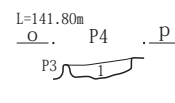
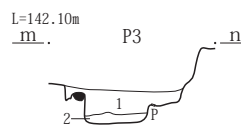
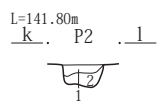
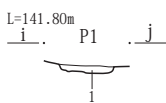
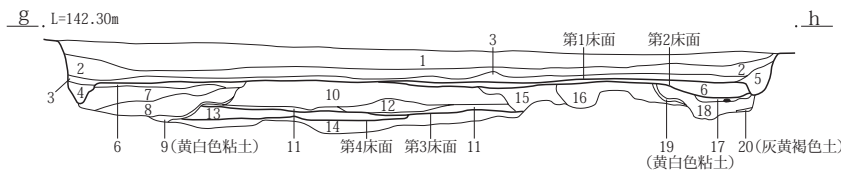
第101図 天王C区31住居、32住居(1)



第102図 天王C区32住居(2)



- g-h
- 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロックを少量、白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子を少量、白色軽石・ロームブロック・炭化物を含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子を少量、白色軽石を含む。軟らかい。床直上の土。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。軟らかい。壁溝の覆土。
 - 5 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。下半部は軽石なし。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 潰れたローム。焼土粒子を少量含む。床下の土。上面硬い。第1床面を形成する土。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・1~2cm大の焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
 - 8 7に似るが焼土ブロックを含まない。
 - 9 黄白色粘土。
 - 10 暗褐色土10YR3/3 3~5cm大のロームブロックを多く、白色軽石を含む。
 - 11 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。第3床面直上の土。
 - 12 10に多量の1~2cm大の焼土ブロックを含む。第2床面下の土。
 - 13 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く、4~6cm大の黄白色粘土ブロックを含む。硬く締まっている。第3床面を形成する土。
 - 14 黒褐色土10YR3/2ブロック・4~6cm大の黄白色粘土ブロック・ロームブロックの混土。上位に硬い潰れた黄白色粘土がある。第4床面を形成する土。
 - 15 にぶい黄褐色土10YR5/4 炭化物粒子・焼土粒子を含む。第2床面下の土。
 - 16 にぶい黄褐色土10YR4/3+白色軽石ブロックとロームブロック・焼土粒子・As-YPブロックの混土。第2床面を形成する土。
 - 17 黄白色粘土。
 - 18 6に1~2cm大の焼土粒子を多く含む。
 - 19 黄白色粘土。
 - 20 灰黄褐色土10YR5/2 粘土。黄白色粘土の変色か。
- * 7~9・17~20は粘土貼り土坑か。



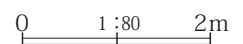
P1 i-j
1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・黄白色粘土ブロックを含む。

P2 k-l
1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
2 1のブロックとロームブロックの混土。

P3 m-n
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土ブロック・ロームブロックを含む。
2 赤褐色土5YR4/6 多量の焼土粒・にぶい黄褐色土10YR4/3の混土。

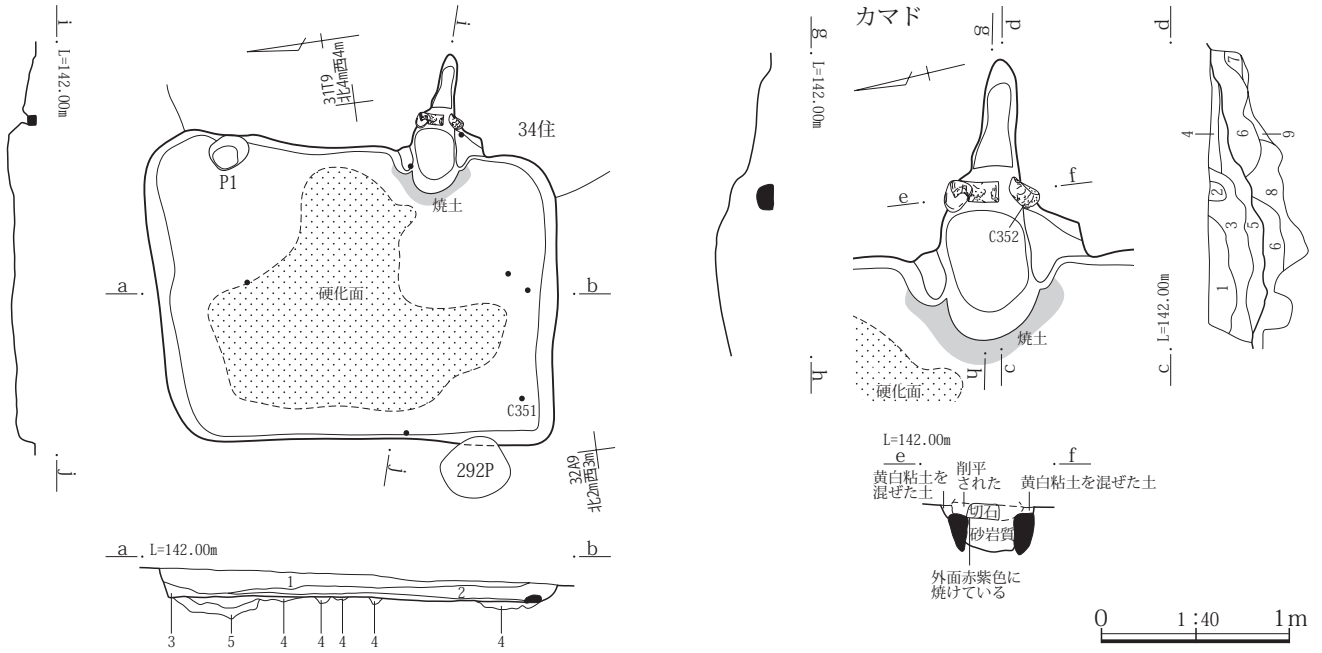
P4 o-p
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 1~2cm大の焼土ブロック・炭化物・ローム粒子を含む。

P5 q-r
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子を含む。
2 1に硬いロームブロックを含む。
3 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子を少量、ロームブロックを含む。
4 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子・ロームブロックを含む。



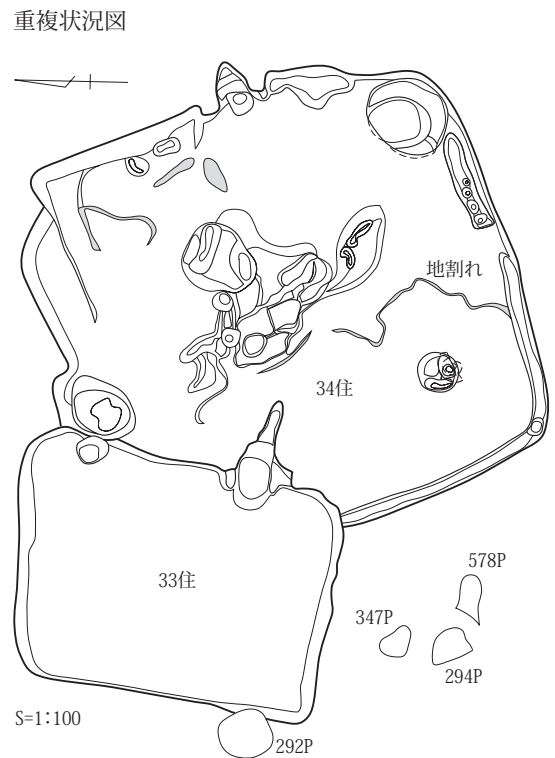
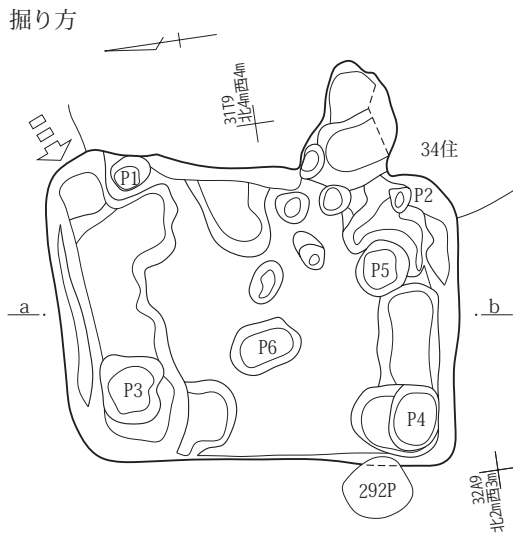
第103図 天王C区32住居(3)

第4章 検出された遺構と遺物



- a-b
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 1~2cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 炭化物を含む。床面直上の土。軟らかい。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックとの混土。

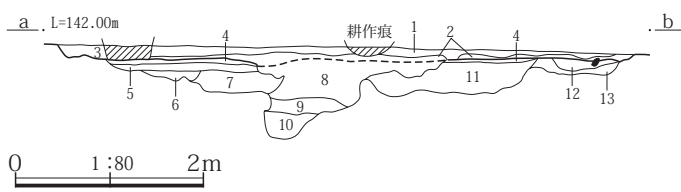
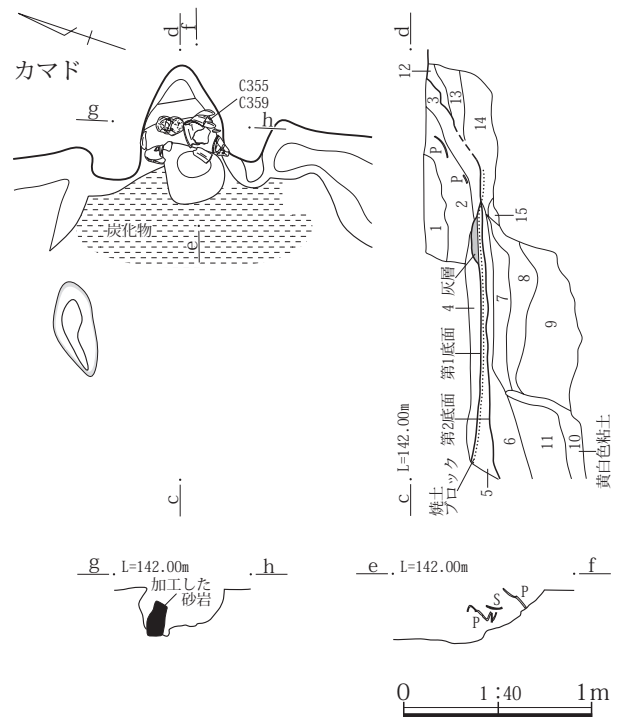
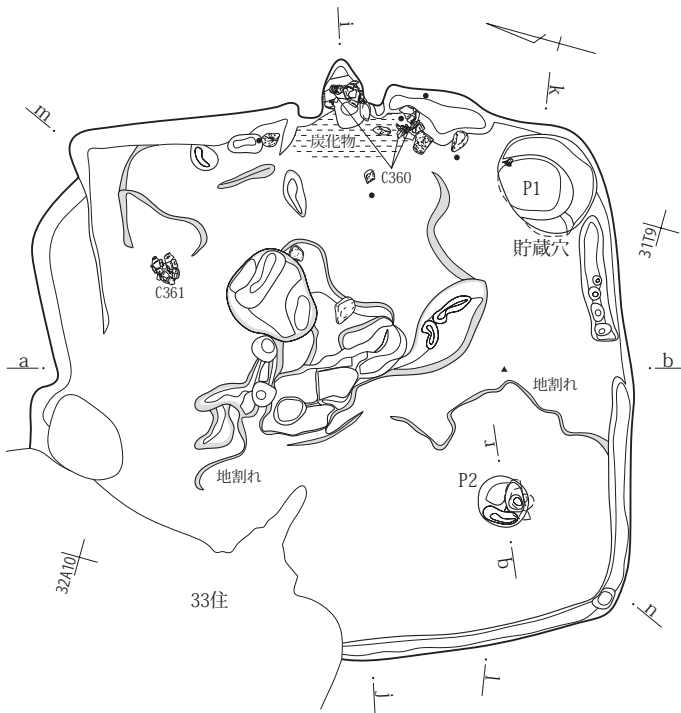
- カマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を含む。
 - 2 明黄褐色土10YR7/6 砂岩か。外面焼けている。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石を少量含む。
 - 4 1に焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
 - 5 焼土ブロック・黄白色粘土ブロック・黒色土ブロックの混土。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を少量、焼土粒子・黄白色粘土粒を含む。上位に灰層がある。
 - 7 6に似るが焼土粒子を含まない。
 - 8 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。
 - 9 8よりロームブロックが小さい。ローム粒子を多く含む。締まりなし。



0 1:80 2m

第104図 天王C区33住居

遺構図(天王C区)



- a-b
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・0.5～1cm大の焼土粒子を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒・潰れたロームブロックを含む。床面直上の土。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。締まりなし。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・潰れた焼土ブロックを含む。床面を形成する土。上面は硬く締まる。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土粒子を含む。
 - 7 6に炭化物を含む。焼土粒子を多く含む。
 - 8 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 9 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。
 - 10 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
 - 11 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 12 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
 - 13 汚れたロームブロック 黒色土ブロックを含む。締まりなし。

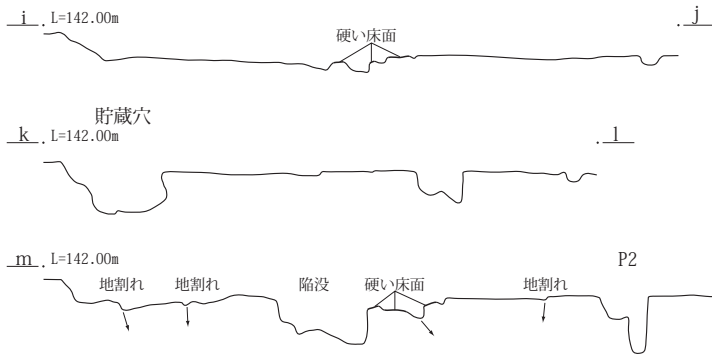
- カマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 炭化物を少量、焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
 - 3 焼土ブロック・灰ブロック・黄白色粘土ブロックの混土。
 - 4 暗褐色土10YR3/5 5mm大の焼土粒・黄白色軽石を含む。軟らかい。床面直上の土と同じ。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 潰れたロームブロック・焼土ブロックを含む。床面を形成する土。上面は硬い。最終床面
 - 6 黄白粘土ブロック・多量の焼土ブロック・にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックの混土。第2床面を形成する土。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色粒子・黄白色粘土ブロック・ロームブロックを含む。焼土粒子を少量含む。
 - 8 7に黄白色粘土ブロックを多く含む。ロームブロック少ない。
 - 9 灰黄褐色土10YR4/2ブロック・多量のロームブロックを含む。焼土ブロックを少量含む。
 - 10 灰黄色粘土・黄白色粘土。粘土貼り土坑の壁。
 - 11 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロック・ロームブロックを含む。1cm大の焼土ブロックを多く含む。
 - 12 焼土・灰の混土。締まりなし。
 - 13 黄白色粘土 ロームブロック・焼土粒子を含む。
 - 14 硬い焼土ブロックと灰の混土。
 - 15 汚れたロームブロック。



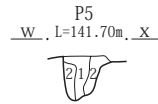
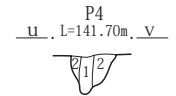
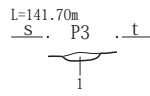
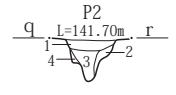
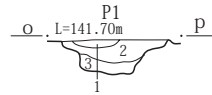
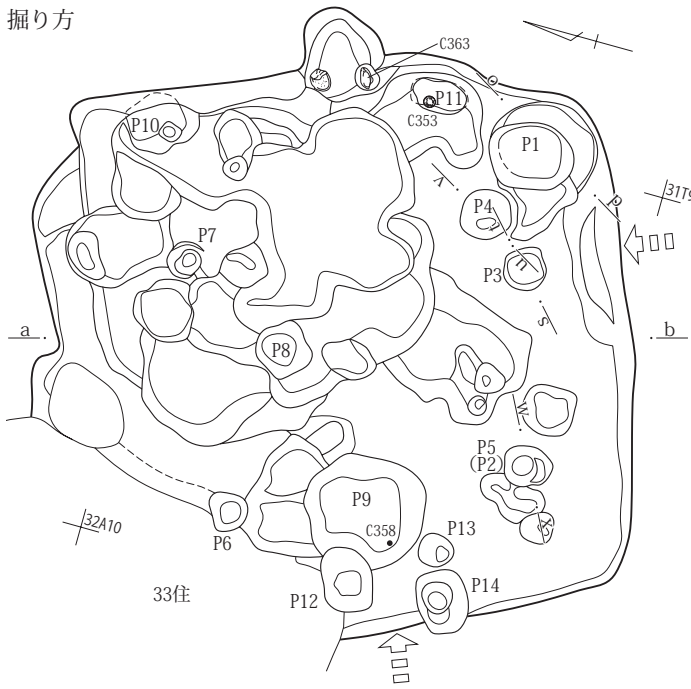
▲カマド付近の遺物出土状態

第105図 天王C区34住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物



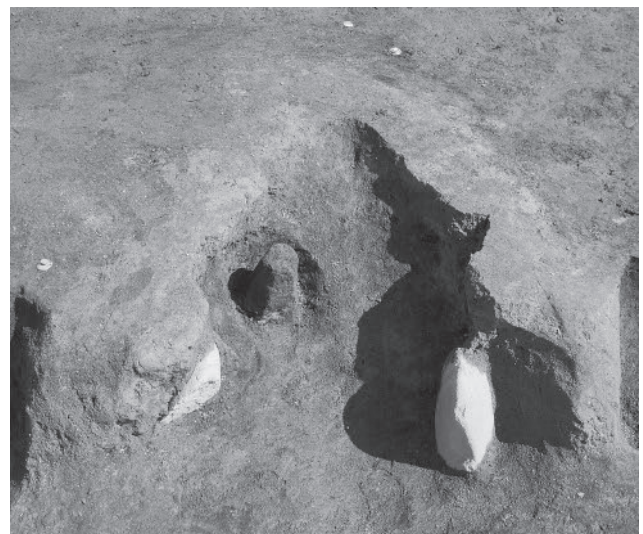
掘り方



- P1 o-p
 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
 3 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・1+焼土ブロックの混土。縮まりなし。
- P2 q-r
 1 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石を含む。
 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。
 3 1のブロックと多量の黄白色粘土ブロックの混土。縮まりなし。
 4 1に似る。
- P3 s-t
 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。
- P4 u-v
 1 暗褐色土10YR3/3 ローム粒子を含む。
 2 1に多量の黄白色粘土ブロックを含む。
- P5 w-x
 1 黒褐色土10YR3/2 黄白色粘土を少量、白色軽石を含む。縮まりなし。
 2 1と黄白色粘土ブロックの混土。硬く縮まっている。

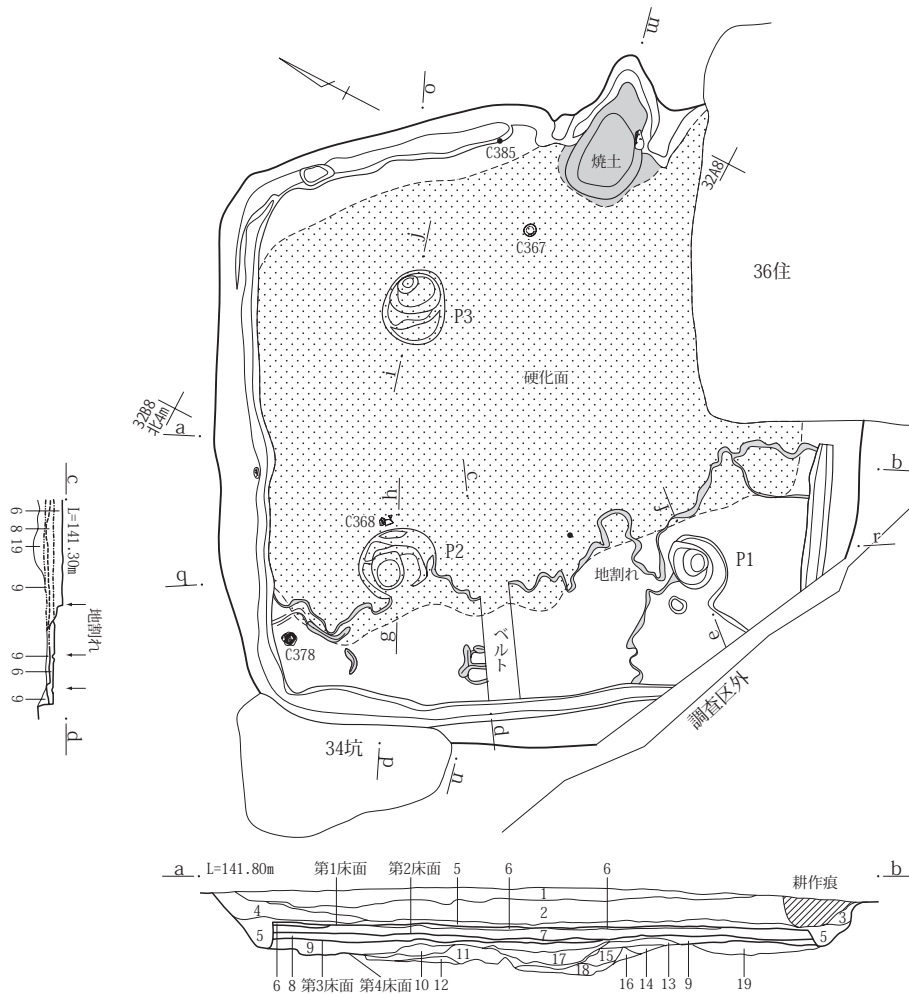


▲カマド支脚に被せられた土器底面



▲加工されたカマド支脚出土状態

第106図 天王C区34住居(2)

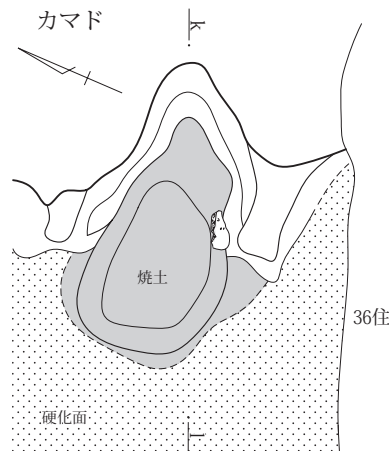
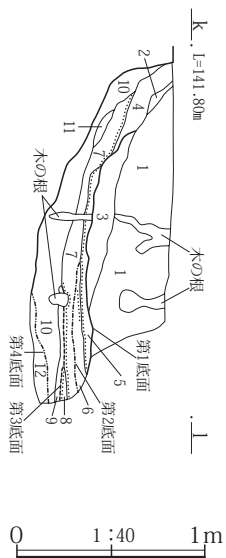
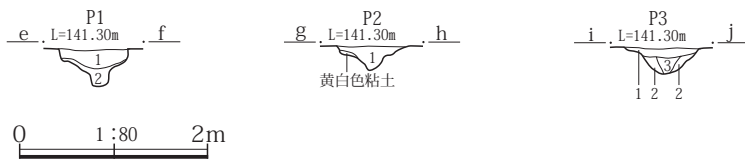


a-b, c-d

- 1 暗褐色土10YR3/3 焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を多く、白色軽石を含む。やや軟らかい。
- 3 1に似るが軟らかい。締まりなし。
- 4 1に似る。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。締まりなし。床面直上の土。
- 6 黄白色粘土に多量の焼土を含む。第1床面を形成する土。硬く締まっている。
- 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。第1床面下の土。
- 8 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・黄白色粘土・焼土を含む。第2床面を形成する土。上位は粘土+焼土の硬い床面。6に似る。
- 9 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土ブロック・焼土粒子を含む。上面に灰層0.5cmあり。硬く締まる。第3床面を形成する土。
- 10 にぶい黄褐色土10YR4/3 多量の焼土粒・黄白色粘土ブロックを含む。粘土貼り土坑内の土。炭化物を少量含む。
- 11 10よりも黄白色粘土・炭化物を多く含む。粘土貼り土坑底面。
- 12 黄白色粘土に焼土粒子を少量含む。粘土貼り土坑底面。
- 13 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロック・黄白色粘土ブロック・黄色土ブロックの混土。黒色土を少量含む。
- 14 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。
- 15 13に炭化物・灰が混じる。
- 16 黄白色粘土。
- 17 14に似る。
- 18 13に似るが黒色土を含まない。
- 19 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土ブロック・ロームブロックを含む。第4床面を形成する土。住居新築時の床面らしく、その後の改修で破壊著しい。

P1~3 e-f, g-h, i-j

- 1 暗褐色土10YR3/3 黄白色軽石を含む。
- 2 1に黄白色粘土ブロックを含む。
- 3 1に1~2cm大の焼土ブロックを含む。



カマド k-l

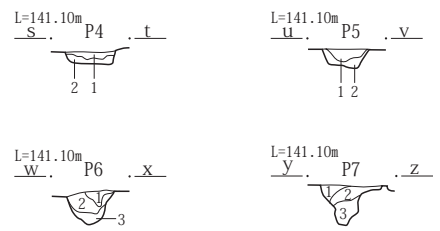
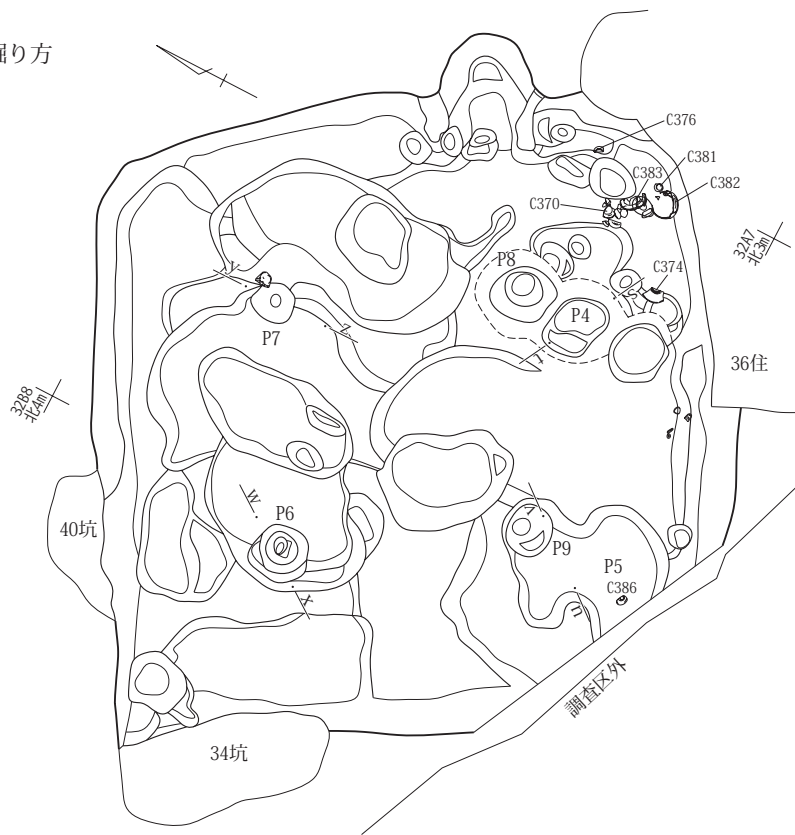
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘質土。焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
- 2 焼土 よく焼けている。煙出し天井部か。
- 3 1に似るが焼土ブロックを多く含む。
- 4 にぶい黄褐色土10YR5/3ブロック・焼土ブロック・炭化物の混土。やや軟らかい。
- 5 黄白色粘土 焼土粒子を多く含む。全体に赤味あり。上面に灰層あり。
- 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。灰を多く含む。
- 7 黄白色粘土に焼土・灰を多く含む。上面硬く締まる。第2底面を形成する土。
- 8 灰と粘土の混土。
- 9 黄白色粘土と焼土の混土。上面硬く締まる。第3底面を形成する土。
- 10 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土・灰ブロックを多く、黄白色粘土ブロックを含む。
- 11 焼土ブロック。
- 12 黒褐色土10YR2/2+白色軽石ブロックにロームブロックを含む。第4底面を形成する土。構築時のカマド底面下の土。

第107図 天王C区35住居(1)

第4章 検出された遺構と遺物

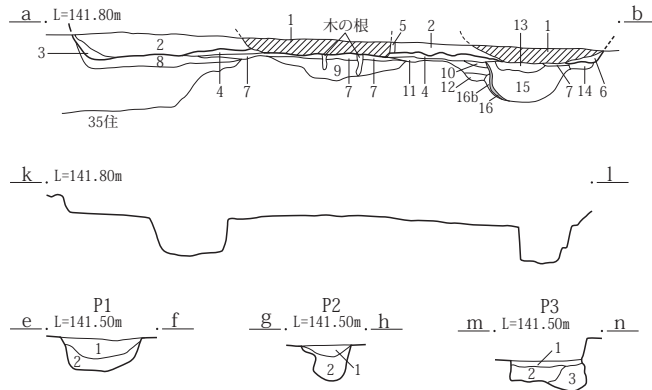
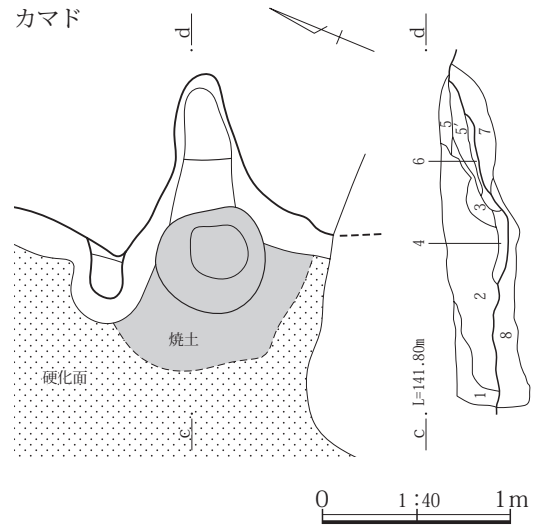
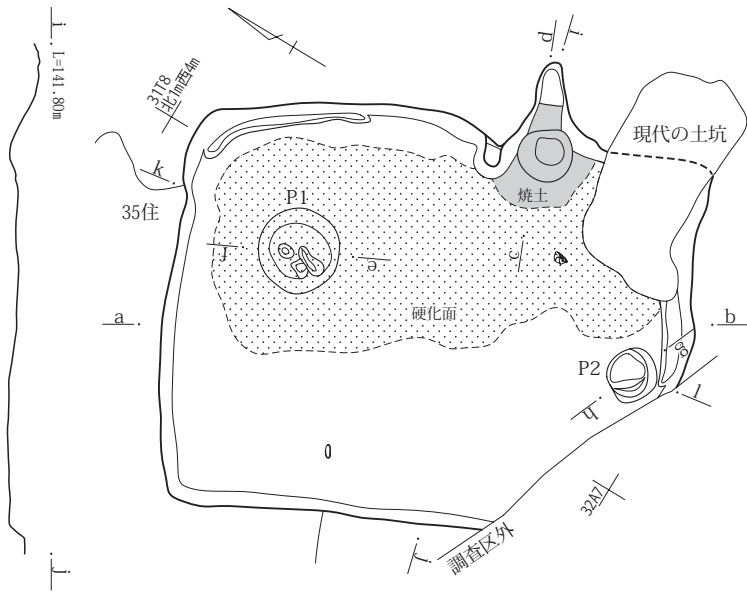


掘り方



- P4 s-t
- 1 黒褐色土10YR3/2 黄白色粘土ブロック・焼土粒子を含む。縮状の灰層あり。
 - 2 黄白色粘土 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックを含む。
- P5 u-v
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子・ロームブロックを少量、白色粒子・黄白色粘土ブロックを含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 1のブロックを含む。
- P6 w-x
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色粘土ブロックを少量含む。
 - 2 1のブロック・ロームブロックに黄白色粘土ブロックを多く含む。
 - 3 2に似る。2との間に灰層あり。
- P7 y-z
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土ブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色粘土ブロック・焼土粒子を含む。
 - 3 2よりも黄白色粘土ブロック少ない。縮まりなし。

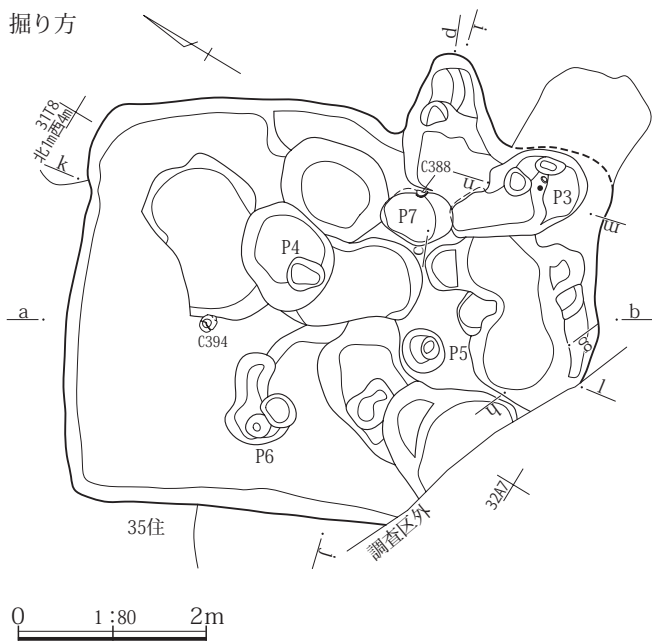
第108図 天王C区35住居(2)



- a-b
- 1 黒褐色土10YR2/2 白色軽石を含む。耕作痕の土。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子を少量含む。軟らかい。
 - 4 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックと潰れたロームブロックの混土。上面硬い。上位の床面を形成する土。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。硬く締まった土。
 - 6 2に似るが軟らかい。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。上面硬く締まっている。下位の床面を形成する土。
 - 8 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 9 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。
 - 10 灰黄褐色土10YR5/2 白色軽石を含む。
 - 11 黒褐色土10YR3/2 0.5cm大の焼土粒子を含む。
 - 12 10にローム粒子を含む。
 - 13 黄白色粘土と焼土ブロックの混土。
 - 14 ロームブロック。
 - 15 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土ブロックを含む。締まりなし。
 - 16 黄白色粘土 粘土粘り土坑の壁。
 - 16b 16にロームブロックを含む。

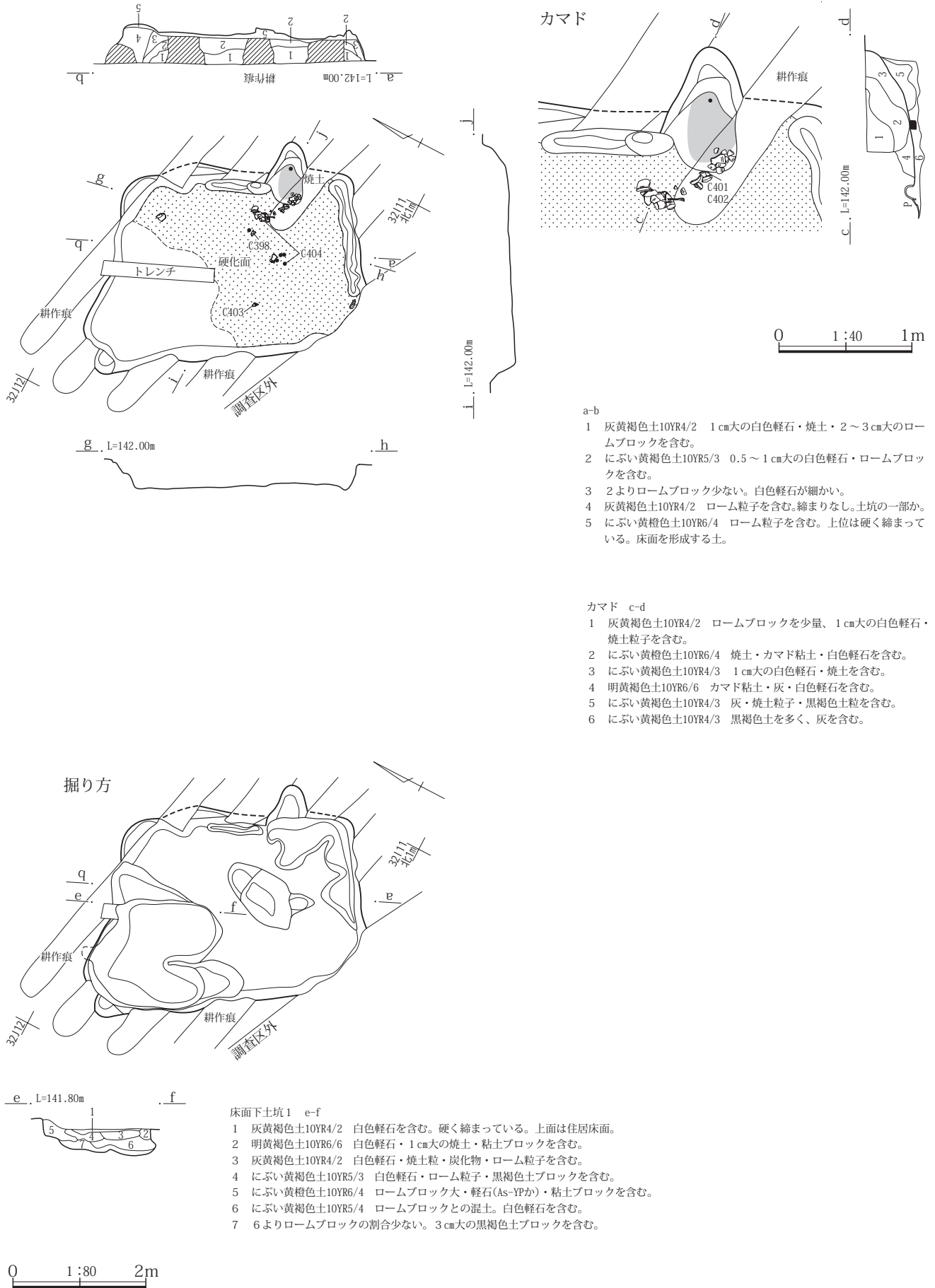
- カマド c-d
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 2 ロームブロック・黄白色粘土ブロック・焼土ブロック(少量)の混土。カマドの天井部か。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土ブロック・炭化物を含む。
 - 4 灰層 1~2cm大の焼土。
 - 5 焼土ブロック・灰ブロック・ロームブロックの混土。軟らかい。
 - 5' 5に近い。
 - 6 黄白色粘土 補修か。
 - 7 5に似る。
 - 8 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・ロームブロック・焼土粒の混土。

- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2 焼土粒・ローム粒子・白色軽石を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3とロームブロックの混土。
- P2 g-h
- 1 黒褐色土10YR3/2 焼土粒・ローム粒子含む。
 - 2 1にロームブロック・焼土を多く含む。
- P3 m-n
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 2 1にロームブロックを多く含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土ブロック・焼土ブロックを含む。

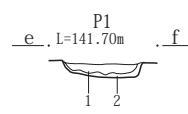
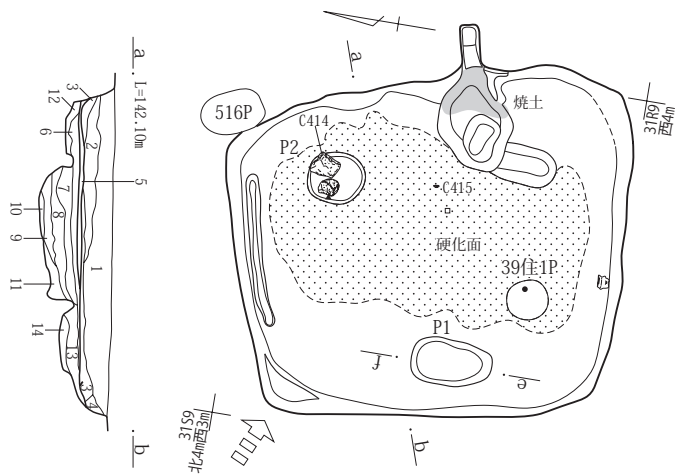
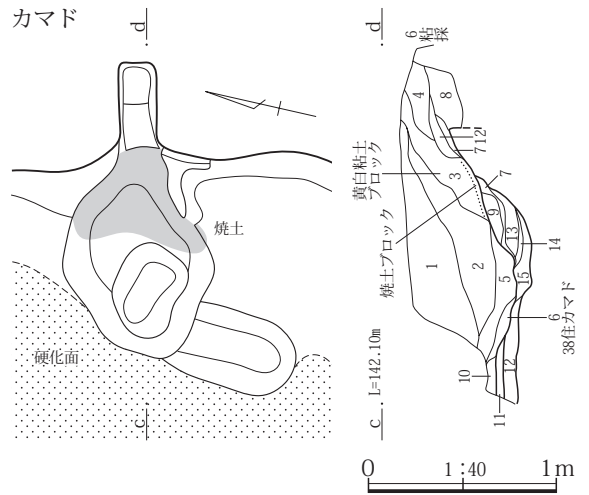
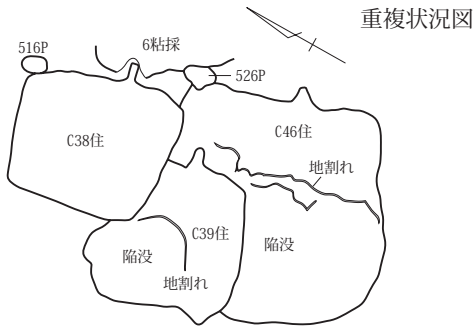


第109図 天王C区36住居

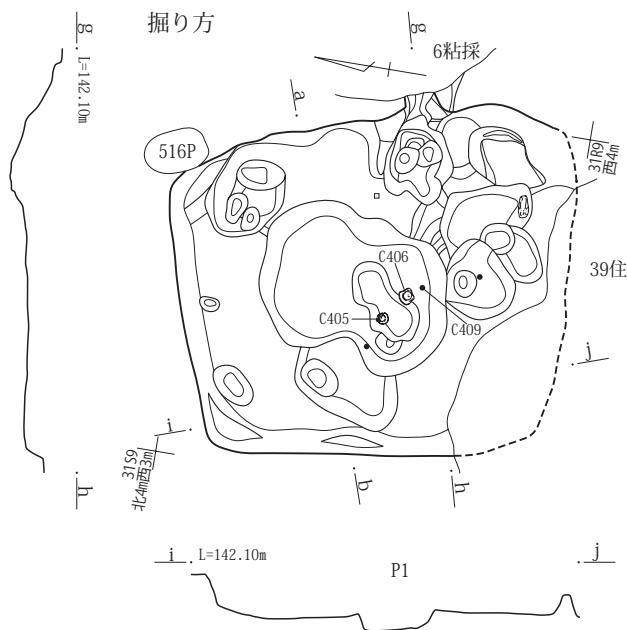
第4章 検出された遺構と遺物



第110図 天王C区37住居

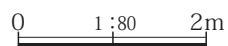


- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子・1cm大のロームブロックを含む。
 - 2 1よりロームブロック大きい。黒褐色土ブロックを多く、白色軽石を少量含む。
 - 3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・1cm大のロームブロックを含む。
 - 4 1とほぼ同じ。軽石・焼土を含まない。締まりなし。
 - 5 黒褐色土10YR3/2+白色軽石と潰れたロームブロックの混土。上面は硬く締まる。第1床面を形成する土。
 - 6 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。上面は硬く締まる。第2床面を形成する土。
 - 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。
 - 8 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物を含む。
 - 9 8に多量のロームブロックを含む。
 - 10 暗褐色土10YR3/3 ロームブロックを含む。
 - 11 暗褐色土10YR3/3 焼土粒子・白色軽石を含む。
 - 12 9に似る。黄白色粘土ブロックを含む。
 - 13 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石を含む。砂質。締まりなし。
 - 14 13に似るが白色軽石を含まない。



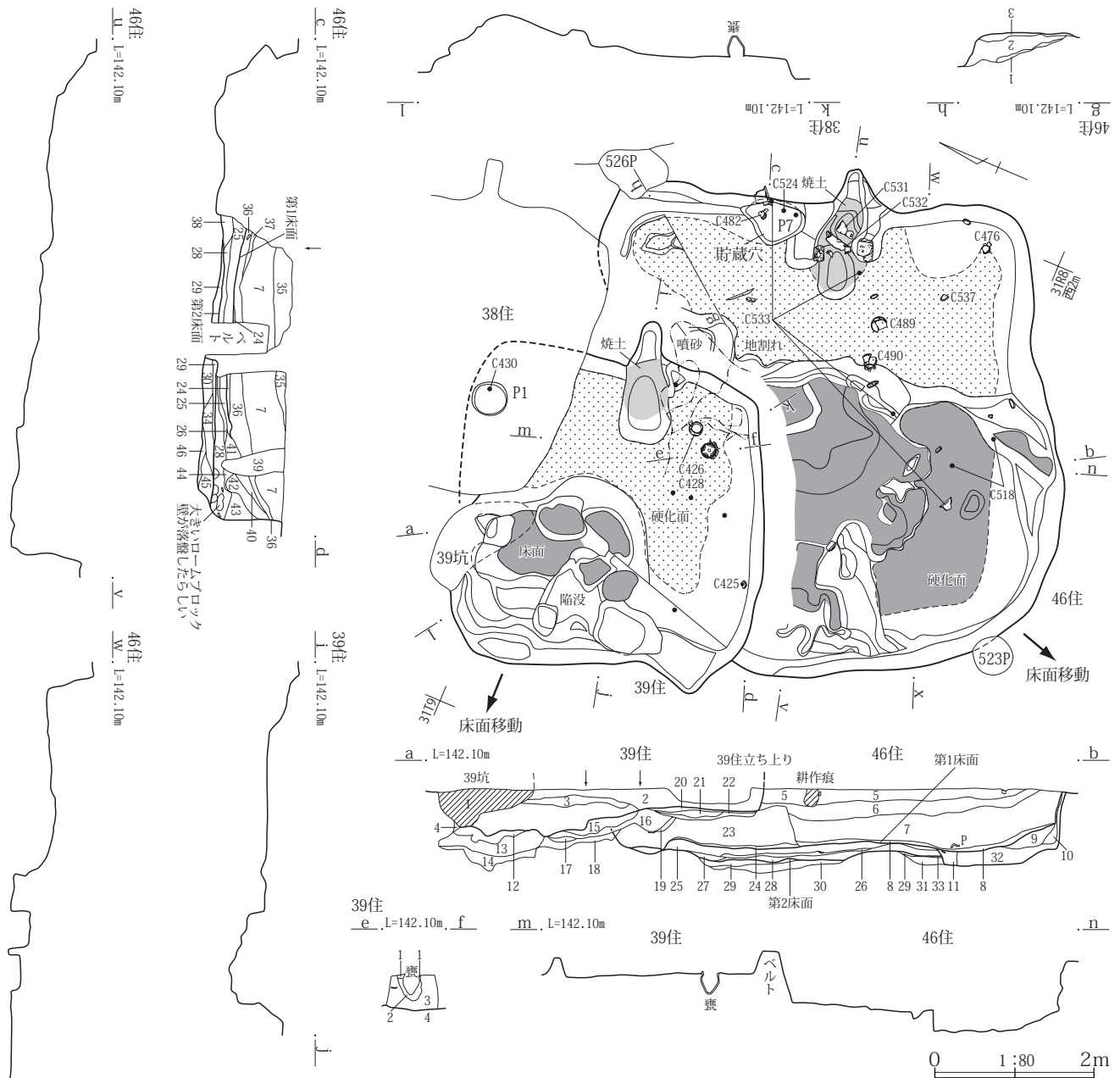
- カマド c-d
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色粘土ブロック・焼土粒子を含む。
 - 2 1にロームブロックを含む。黄白色粘土ブロック少ない。
 - 3 黄白粘土ブロック 下に焼土ブロックを含む。天井部崩落か。
 - 4 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・焼土ブロック・黄白色粘土ブロックの混土。
 - 5 2よりも焼土ブロックを多く含む。
 - 6 灰黄褐色土10YR5/2 黄白色粘土・焼土粒子を含む。
 - 7 黄白色粘土 上位は焼土粒子を含む。
 - 8 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。6粘採取土。
 - 9 灰層 下に焼土ブロック・黄白色粘土ブロック・炭化物を含む。
 - 10 黄白粘土ブロック 焼土ブロックを含む。上面は灰層。
 - 11 黒褐色土10YR3/2 灰を含む。上面は灰層。灰層直下は硬い床面。
 - 12 黄白色粘土と黒色土の互層。上面は硬く締まる床面。
 - 13 黒色土ブロックとロームブロックの混土。
 - 14 黄白色粘土 新築時の床面か。
 - 15 13に似る。

- P1 e-f
- 1 暗褐色土10YR3/3 焼土粒子を少量、1cm大の黄白色粘土を含む。
 - 2 暗褐色土10YR3/3ブロックとロームブロックの混土。軟らかい。



第111図 天王C区38住居

第4章 検出された遺構と遺物



39・46住 a-b, c-d

1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。締まりなし。39坑覆土。2 暗褐色土10YR3/3 白色粒子・焼土粒子を含む。3 黄褐色土10YR7/4 白色軽石を含む。黄白色粘土の変色か。4 黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土粒子を含む。5 黒褐色土10YR3/1 0.5~1cm大の焼土粒子を多く、灰・炭化物ブロックを含む。6 黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。締まりなし。7 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・白色軽石を含む。締まりなし。一部縞状の堆積を示す。8 褐灰色土10YR4/1 1~3cm大のロームブロックを含む。粘質。床面直上の土。9 黒褐色土10YR3/2 7層に似る。10 ロームブロックと9のブロックの混土。11 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。ピットの覆土。12 黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・焼土粒子を含む。4に似るがロームブロックが大きい。上面硬い。陥没した第1床面か。13 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・焼土粒子・黄白色粘土ブロックを含む。14 13に似るが黄白色粘土ブロックが大きい。15 13に似る。39住第1床面を形成する土。16 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。17 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量含む。粘質。18 灰黄褐色土10YR5/2 粘質土。黄白色粘土の混土。19 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。20 暗褐色土10YR3/3 焼土ブロック・ローム粒子を含む。上面硬い。39住第1床面を形成する土。21 20に似る。22 黄白色粘土 白色軽石を含む。第2床面を形成する土。23 黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石・黒色土ブロックを含む。縞状の堆積あり。24 灰黄褐色土10YR5/2 粘質。床面直上の土。25 灰黄褐色土10YR5/2 粘質土と黄白色粘土ブロックの混土。46住第1床面を形成する土。第1床面は粘土の流れ込みの可能性あり。26 灰黄褐色土10YR6/2 粘質。27 25に焼土粒子が混じる。28 黒褐色土10YR3/2 焼土粒子・炭化物粒子を多く含む。29 黄褐色粘土・ロームブロック・黒色土ブロックの混土。第2床面を形成する土。30 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。31 30に似る。32 28に似る。33 黄褐色土10YR5/4 砂質。34 黄褐色土10YR4/3 砂質。黒色土ブロックを含む。締まりなし。床下の土か。35 黄褐色土10YR5/3 ロームブロック・灰ブロックを含む。焼土粒子を多く含む。36 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・1cm大の焼土を含む。37 7に黄白色粘土ブロックを含む。38 灰黄褐色土10YR5/2 粘質。39 7よりも暗い。ロームブロック多く白色軽石が少ない。上位からの掘り込み。40 黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ローム粒子を含む。41 40にロームブロックを含む。42 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとローム粒子の混土。43 汚れたロームと黒色土が縞状を呈する。44 43に似る。45 汚れたロームブロック As-YPブロックを含む。46 黒色土。

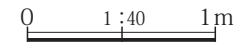
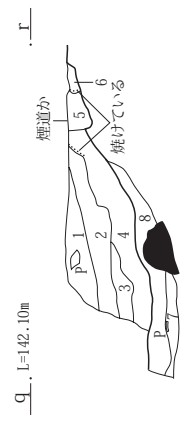
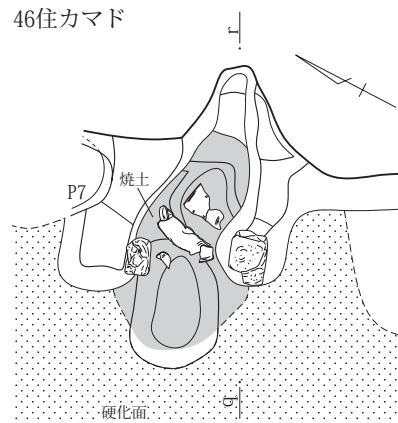
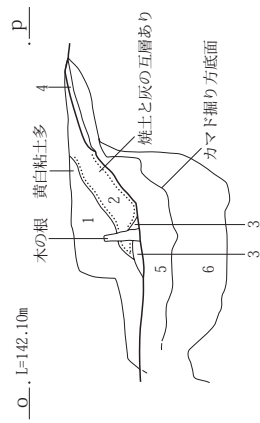
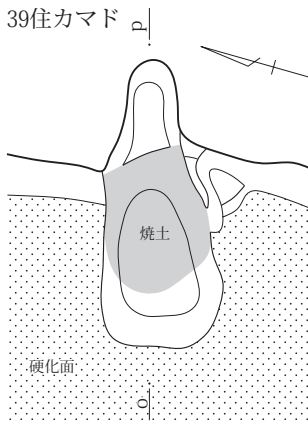
39住 埋設土師器 e-f

- 1 黄白色粘土 黒褐色土10YR2/2ブロックを含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 焼土粒子・白色軽石を含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 4 灰黄褐色粘土 46住床面の土。

46住 北東隅 g-h

- 1 黄褐色土10YR6/3 粘土・黒褐色土ブロック+白色軽石ブロックを含む。
- 2 黄白色粘土ブロック・黒色土・白色軽石の混土。1の潰れた粘土を含む。斜めに縞状を呈する。6粘探からの投げ込みの可能性あり。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色粘土ブロック・ロームブロックの混土。粘質。

第112図 天王C区39・46住居(1)



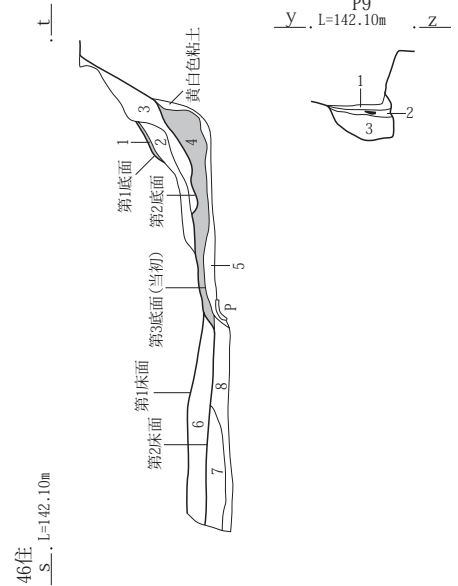
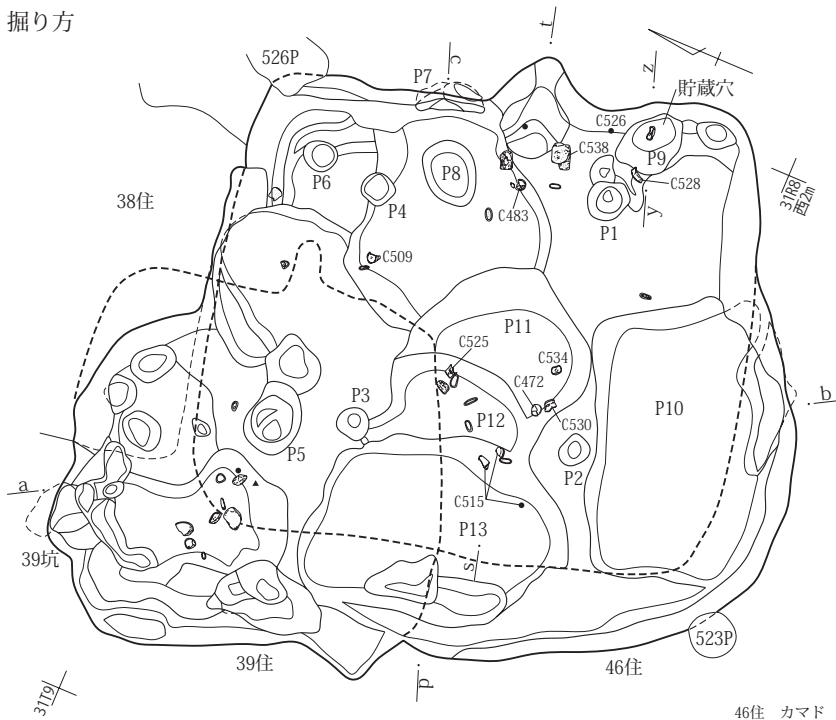
39住 カマド o-p

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・黄白色粘土ブロックを含む。
- 2 焼土ブロックと灰ブロックの混土。
- 3 灰層。
- 4 黄白色粘土。
- 5 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・0.5~1cm大の焼土粒子を含む。煙道部潰れか。
- 6 黒褐10YR3/2+白色軽石ブロック・ロームブロックの混土。縞状。46住覆土。

46住 カマド q-r

- 1 黒褐色土10YR3/1 0.5cm大の焼土粒子を多く含む。締まりなし。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 黄白色粘土ブロックを少量、焼土粒子・白色軽石を含む。
- 3 1に似る。
- 4 2よりも黄白色粘土を多く含む。天井崩落か。
- 5 1に似る。
- 6 黄白色粘土 焼土ブロックを少量含む。
- 7 焼土ブロック・黄白色粘土ブロック・ロームブロックの混土。
- 8 灰層。

掘り方



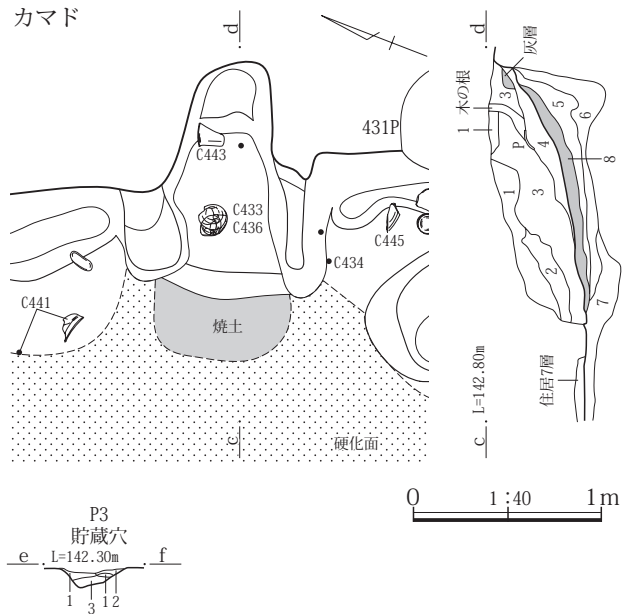
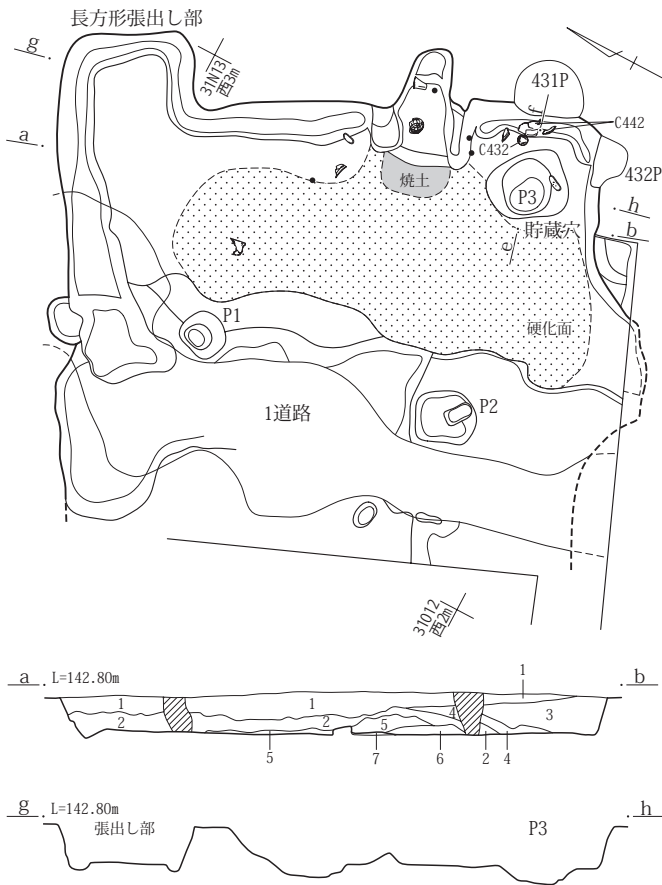
46住 カマド s-t

- 1 灰層。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土ブロック・灰ブロックを含む。
- 3 焼土ブロックと灰の混土。
- 4 灰層。焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
- 5 黄白色粘土。
- 6 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・黄白色粘土ブロック・ロームブロック・焼土粒子の混土。
- 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土・焼土粒子の混土。
- 8 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。

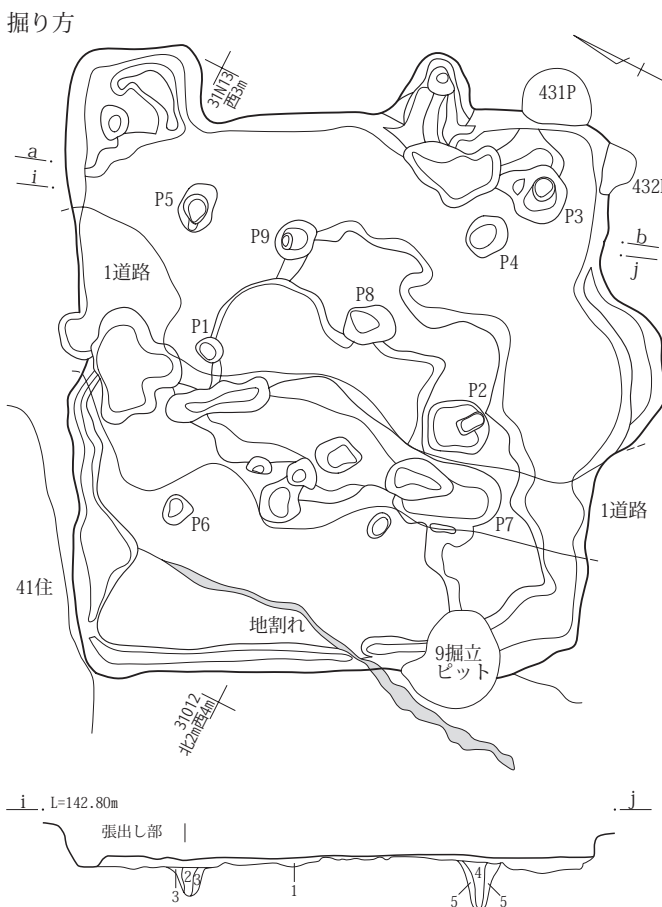
46住 カマド左貯蔵穴P9 y-z

- 1 黒褐色土10YR3/2 1cm大焼土ブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
- 2 黄白色粘土 焼土ブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロック・ロームブロックの混土。締まりなし。

第4章 検出された遺構と遺物



- 40住 a-b
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。締まりなし。道路跡の埋没土。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 3 褐色土10YR4/4 白色軽石・ロームブロックを含む。やや赤茶色を帯びる。
 - 4 3よりもロームブロックを多く含む。
 - 5 暗褐色土10YR3/3 黄白色粘土ブロック・焼土ブロック・白色軽石・カマド粘土を含む。床面直上の土と同じ。締まりなし。
 - 6 黄白色粘土 ロームブロックを少量、焼土ブロックを含む。カマド粘土の流れ出し。
 - 7 黒色土ブロックとロームブロックの混土。硬い床面を形成する土。

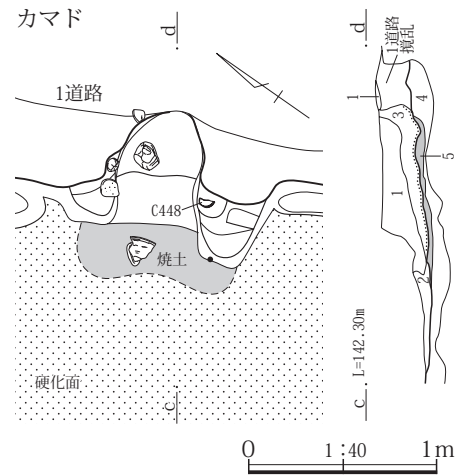
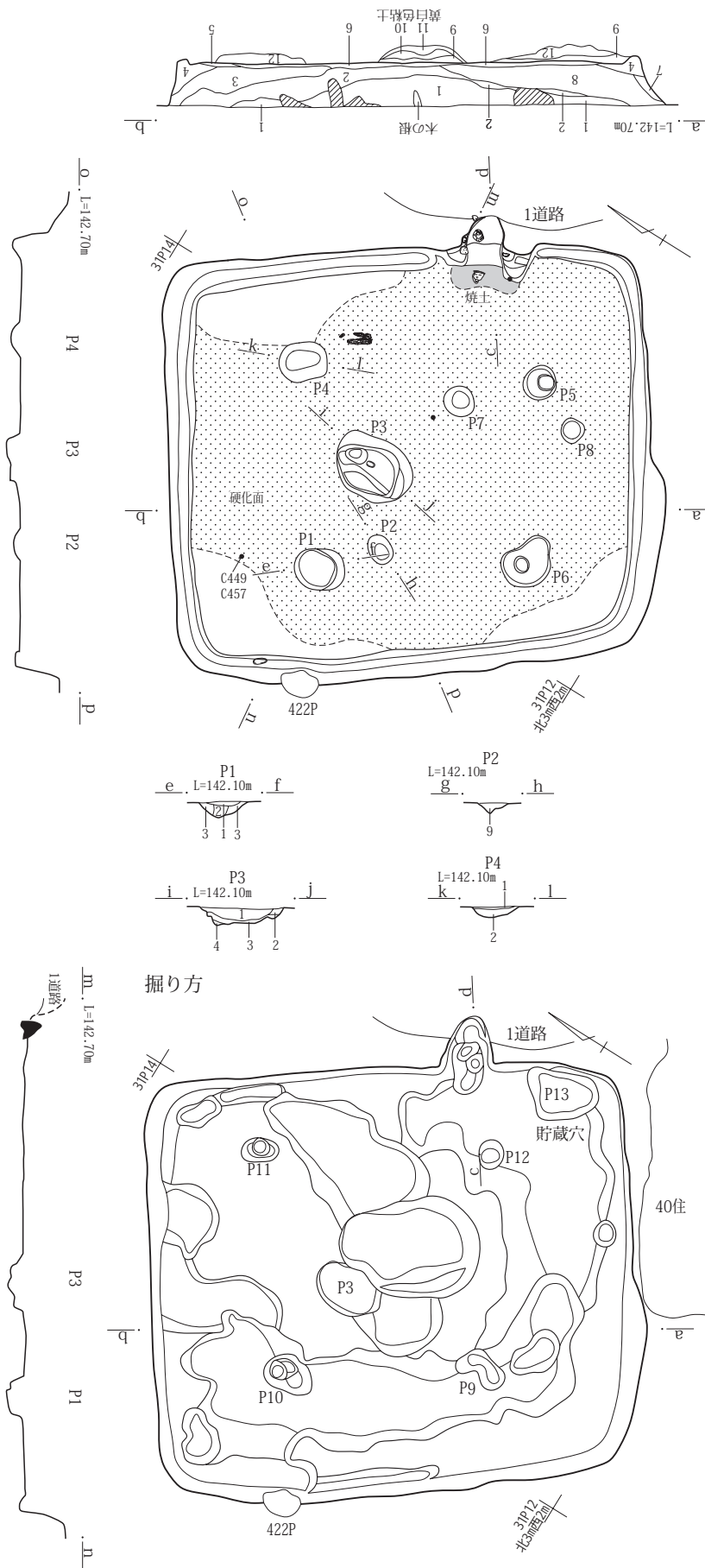


- カマド c-d
- 1 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックと暗褐色土10YR3/3+白色軽石ブロックの混土。道路跡覆土か。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土ブロック・粘土粒子を含む。締まりなし。
 - 3 黄白色粘土ブロックと焼土ブロックの混土。天井落ちか。
 - 4 焼土と灰ブロックの混土。締まりなし。
 - 5 焼土ブロックと灰ブロックの混土。締まりなし。天井落ちか。
 - 6 黄白色粘土ブロック 焼土ブロックを含む。カマド底面の土か。
 - 7 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・ロームブロック・灰・焼土ブロックの混土。カマド底面の掘り込み。
 - 8 灰層。

- P3 貯蔵穴 e-f
- 1 にぶい黄褐色土10YR7/4 砂質。締まりなし。
 - 2 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックに1が混じる。
 - 3 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・焼土粒子を含む。

- i-j
- 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。硬い床面を形成する土。
 - 2 1に似る。
 - 3 灰黄褐色土10YR5/2 粘質土。ロームブロックを含む。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。
 - 5 4に似るが硬く締まっている。

第114図 天王C区40住居



- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・黄白色軽石を含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 黒色土ブロック・ロームブロックを含む。
 - 4 暗褐色土10YR3/3 ロームブロックを含む。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・炭化物を含む。
 - 6 5よりも炭化物を多く含む。ロームブロックの混土。
 - 7 4よりも赤色味少ない。
 - 8 1に似るがロームブロック少ない。やや灰色味あり。
 - 9 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・黄白色粘土ブロックを含む。上面硬く締まっている。床面を形成する土。
 - 10 暗褐色土10YR3/3ブロック・1~2cm大の焼土ブロック・灰ブロックの混土。全体に赤味を帯びる。
 - 11 黄白色粘土。
 - 12 黒色土ブロックとロームブロックの混土。

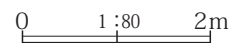
- カマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄白色粘土ブロックを含む。1道路覆土。
 - 2 黄白色粘土。
 - 3 黄白色粘土 焼土ブロックを含む。天井落ちか。
 - 4 黄白色粘土ブロック・焼土ブロック・黒色土ブロックの混土。締まりなし。
 - 5 灰層。

- P1 e-f
- 1 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混土。
 - 2 灰黄褐色土10YR5/2ブロック・黄白色粘土ブロックの混土。柱痕か。
 - 3 1に似るが黄白色粘土ブロックを含む。

- P2 g-h
- 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロックを含む。

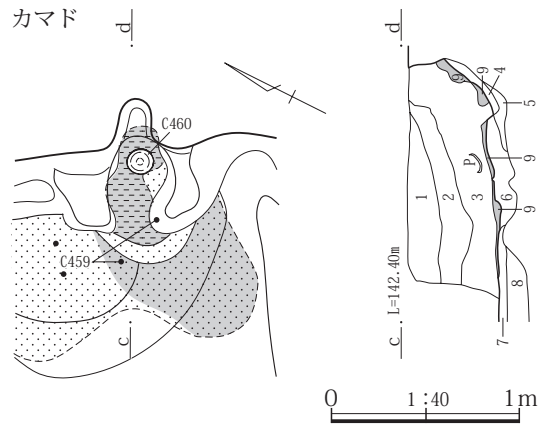
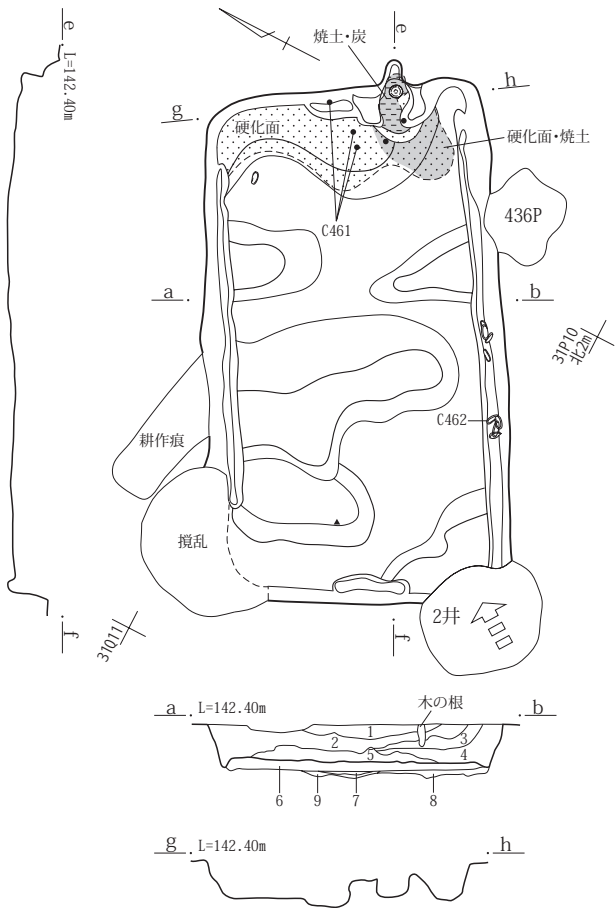
- P3 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 2 ロームブロック・焼土ブロックの混土。
 - 3 黄白色粘土ブロック 黒色土ブロックを少量含む。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。締まりなし。

- P4 k-l
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 2~3cm大のロームブロックを含む。締まりなし。
 - 2 灰黄褐色土10YR5/2 2~3cm大のロームブロックを含む。締まりなし。



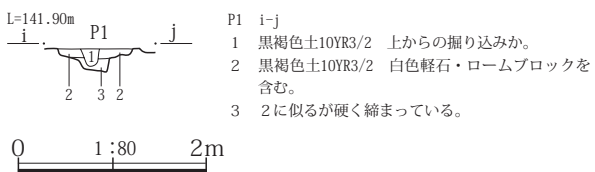
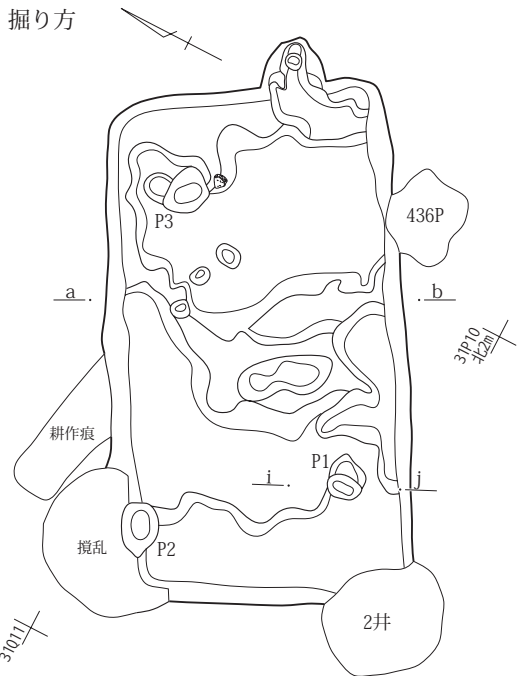
第115図 天王C区41住居

第4章 検出された遺構と遺物



- a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
 - 3 1に似る。
 - 4 2に似る。
 - 5 灰黄褐色土10YR4/2 2~3cm大のロームブロックを含む。
 - 6 5に黒色土ブロック・黄白粘土ブロックを含む。潰れている。床面を形成する土。上面硬い。
 - 7 黄白色粘土ブロックとロームブロックの混土。
 - 8 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。
 - 9 黄白色粘土。

- カマド c-d
- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石を含む。ロームブロックを多く含む。
 - 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 3 黄白色粘土ブロック 焼土粒子を含む。天井落ちか。
 - 4 黄白色粘土ブロックとロームブロックの混土。奥壁に粘土を貼る。40住に似る。
 - 5 4に黒色土ブロックを含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロック・黒色土ブロック・ロームブロックの混土。
 - 7 黄白色粘土ブロック・ロームブロックの混土。床面を形成する土。硬く締まっている。
 - 8 6に似る。住居床下の土。
 - 9 灰層。



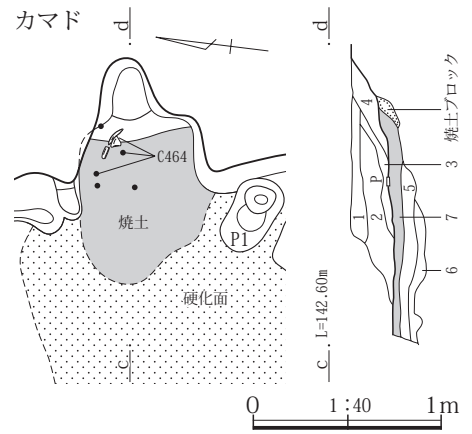
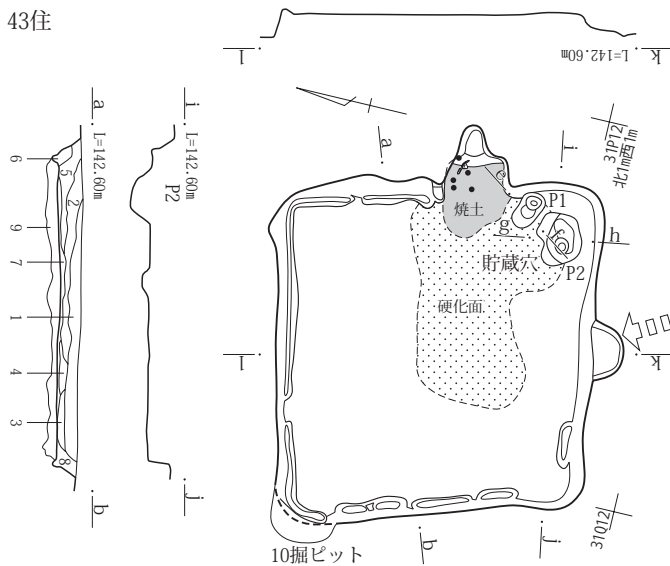
- P1 i-j
- 1 黒褐色土10YR3/2 上からの掘り込みか。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 3 2に似るが硬く締まっている。



▲南東辺壁際菰編石出土状態

第116図 天王C区42住居

43住



カマド c-d

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR5/3 焼土粒子を少量含む。締まりなし。
- 4 焼土ブロック・3のブロックに炭化物を多く含む。天井落ちか。
- 5 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックにロームブロックを少量含む。床下の土。
- 6 ロームブロックに黒色土ブロックを少し含む。汚れたローム。床下の土。
- 7 灰層。

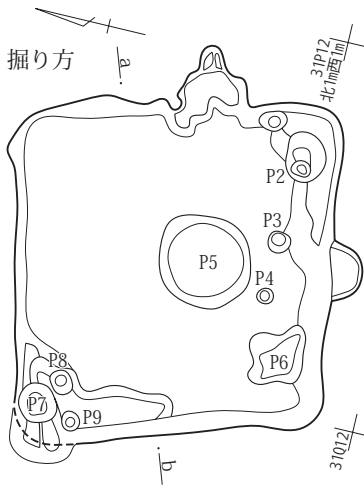
P1 e-f

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 2~3cm大の焼土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。締まりなし。

P2 g-h

- 1 黒褐色土10YR3/2 締まりなし。
- 2 灰に焼土粒子を含む。純灰に近い。締まりなし。

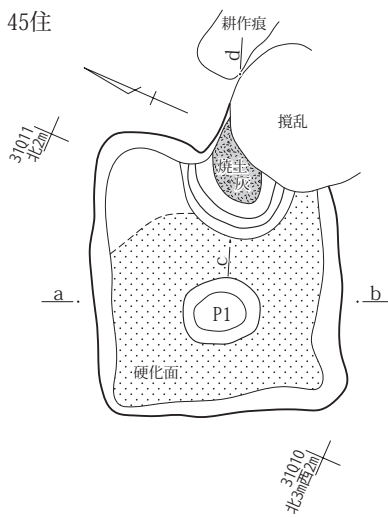
掘り方



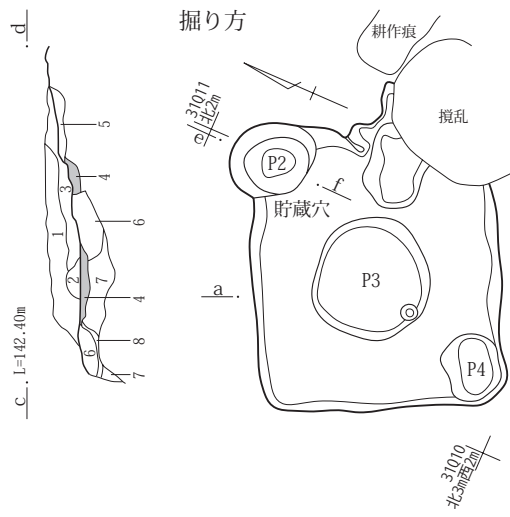
43住 a-b

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。
- 3 1に似るがローム粒子を含まない。
- 4 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石を含む。
- 5 3に似る。
- 6 暗褐色土10YR3/3 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 7 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。粘質。締まりなし。床面直上の土。
- 8 6に似る。
- 9 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・灰黄褐色土10YR4/2ブロック・ロームブロックの混土。上面硬い。床面を形成する土。

45住



掘り方



45住 a-b

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを少量含む。
- 2 1に潰れた黒色土ブロックを含む。床面を形成する土。
- 3 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ロームブロックを含む。締まりなし。
- 4 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。

カマド c-d

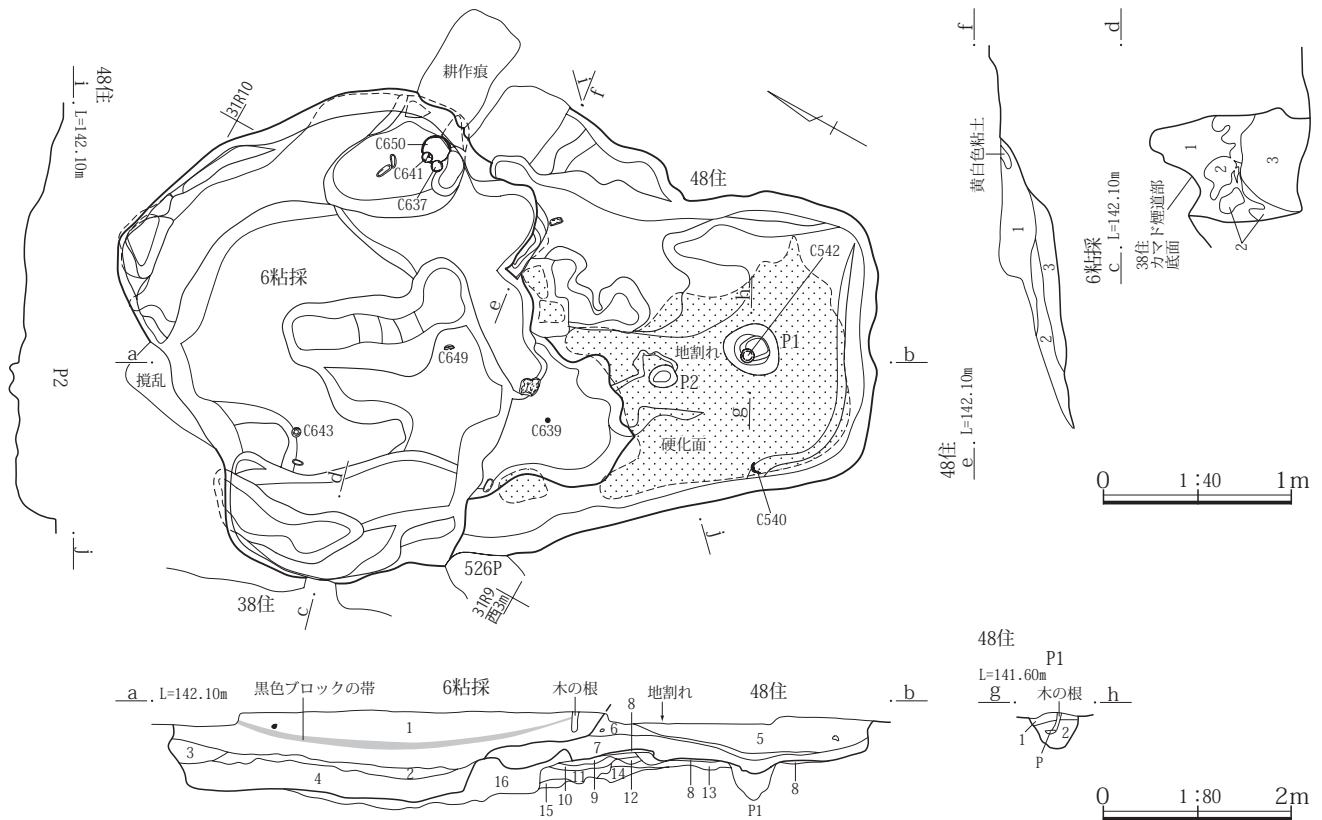
- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
- 2 1に黄白色粘土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土10YR3/3 2~3cm大の焼土ブロック・灰ブロックの混土。締まりなし。
- 4 灰層。
- 5 3に似るが焼土を含まない。
- 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子・ロームブロックを含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 8 黄白色粘土。

P2 e-f

- 1 暗褐色土10YR3/3
- 2 1に黄白色粘土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。やや軟らかい。
- 4 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混土。硬く締まっている。

第117図 天王C区43・45住居

第4章 検出された遺構と遺物



48住・6粘採 a-b

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。中位に黒色土ブロックが帯状に入る。
- 2 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロック・ロームブロック・黄白色粘土ブロックの混土。48住床面の破片が入る。
- 3 1に黒色土ブロック・ロームブロックを含む。軟らかい。締まりなし。
- 4 黄白色粘土ブロック・白色軽石入り黒色土ブロック・ロームブロック・にぶい黄橙10YR7/3 (やや緑色)ブロックの混土。
- 5 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。
- 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石を含む。
- 7 6にロームブロック・黄白色粘土ブロックを含む。
- 8 黄白色粘土。潰れている。48住床面を形成する土。上面硬い。
- 9 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 10 9のブロック・にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックの混土。9に比べやや明るく茶色味あり。
- 11 9に黄白色粘土ブロックを含む。
- 12 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。上面に潰れた黄白色粘土。第2床面か。
- 13 灰黄褐色土10YR5/2 ロームブロックを含む。粘質。
- 14 汚れたロームブロックに黄白色粘土ブロックを少量含む。
- 15 灰黄褐色土10YR4/2 黄白色粘土ブロック・黒色土ブロック・ロームブロックの混土。
- 16 7に近い。11に似たブロック混入。

6粘採 c-d

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。6粘採上位の覆土。
- 2 軟らかいロームブロック。
- 3 ローム大ブロック。As-YPブロックを含む。落盤した地山ローム。

6粘採 e-f

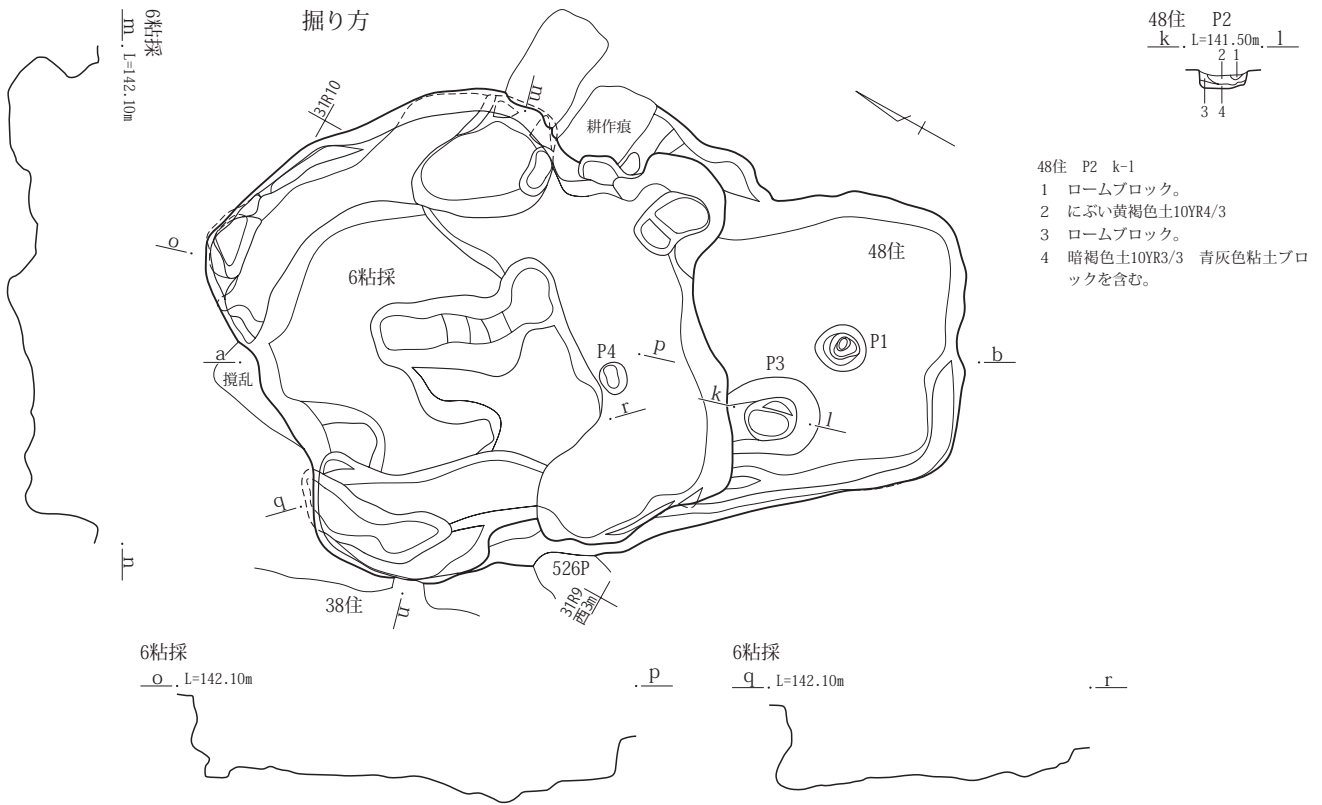
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・黄白色粘土を含む。
- 2 灰オリブ色土5Y5/2 シルト質。
- 3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。

48住 P1 g-h

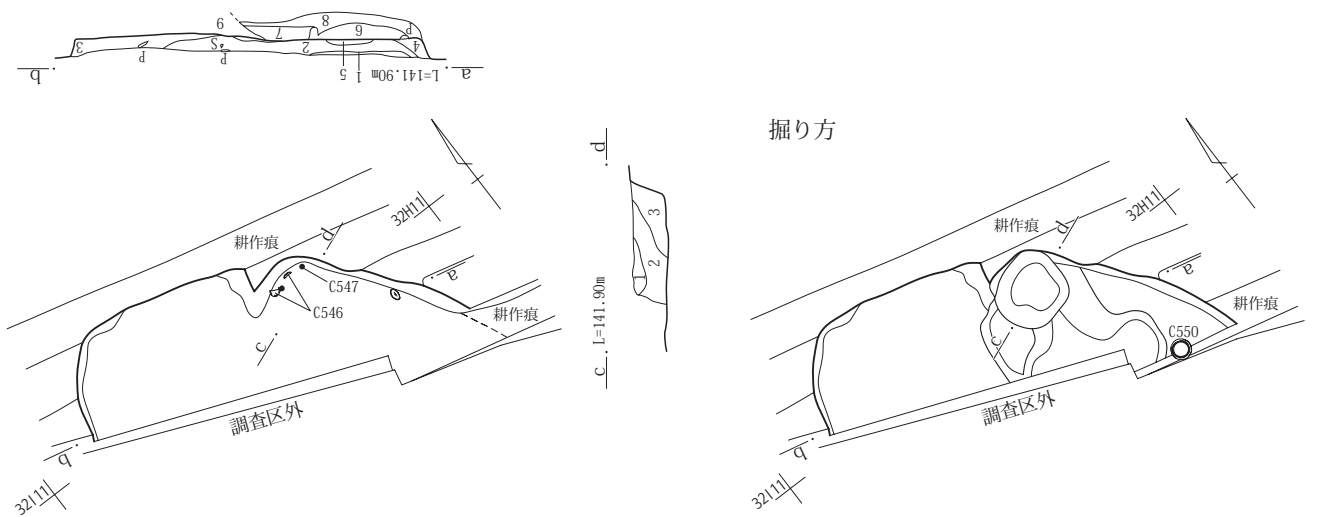
- 1 灰黄褐色土10YR5/2 粘土。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。締まりなし。

第118図 天王C区48住居・6粘土採掘坑(1)

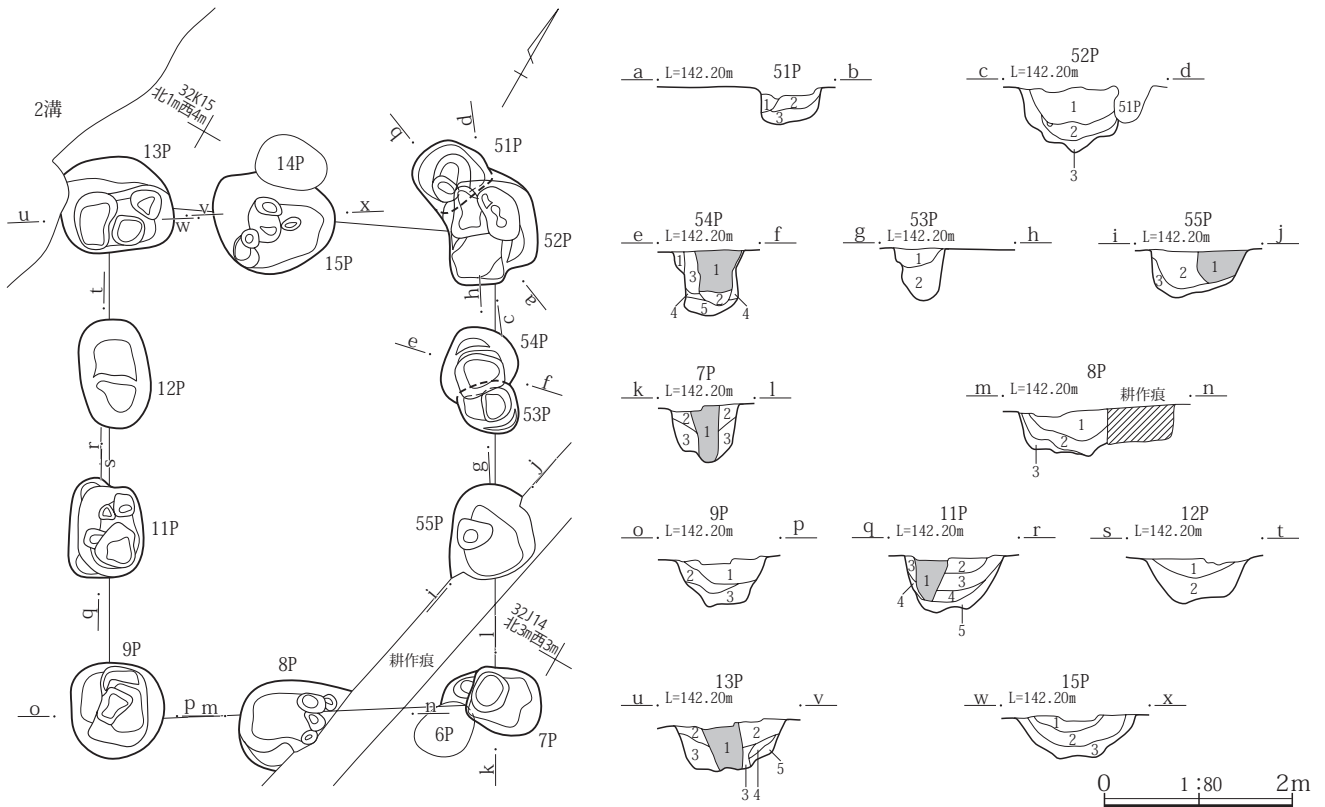
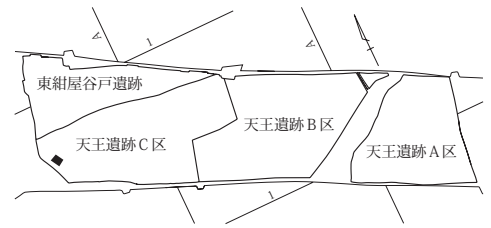
遺構図(天王C区)



49住



第119図 天王C区48住居・6粘土採掘坑(2)、49住居



51P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 1~2cm大のロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック大を含む。 52P c-d 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 2cm大のロームブロック混土。白色軽石を含む。2 1よりロームブロックが大きい。3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・ローム粒子を含む。締まりなし。 54P e-f 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック混土。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・1cm大のロームブロックを含む。3 2よりロームブロックが大きい。4 にぶい黄褐色土10YR6/4 ロームブロックを多く含む。5 4にシルト質土を含む。 53P g-h 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く含む。2 1よりロームブロックの数は少ないが大きい。 55P i-j 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。2 1とほぼ同じだが軽石が少ない。3 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・2cm大のロームブロックを含む。 7P k-l 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・2~3cm大のロームブロックを含む。2 1より軽石・ロームブロック共に少ない。ローム粒子を多く含む。締まりなし。3 1とほぼ同じ。軽石が少ない。 8P m-n 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・2cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが少ない。黒褐色土10YR3/2に近い。3 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。 9P o-p 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1~2cm大のロームブロック・赤色粒を含む。2 1より白色軽石を多く含む。ロームブロック少ないが大きい。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締まりなし。 11P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石が上位に集中する。1cm大のロームブロックが下位に集中する。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。2~3cm大のロームブロックを含む。3 2より白色軽石が少ない。3cm大のロームブロックを含む。4 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・3~5cm大のロームブロック・ローム粒子を含む。締まりなし。5 4よりロームブロックの割合が多い。 12P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤色土・2~3cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きく多い。 13P u-v 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・赤色粒を含む。下位に3cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックの割合が多い。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。締まりなし。4 ロームブロックの混土。5 3より軽石の粒が大きい。ローム粒子が少ない。 15P w-x 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・赤色粒・1cm大のロームブロックを含む。2 1より軽石の粒が大きく多い。赤色粒・1~2cm大のロームブロックを含む。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを多く含む。

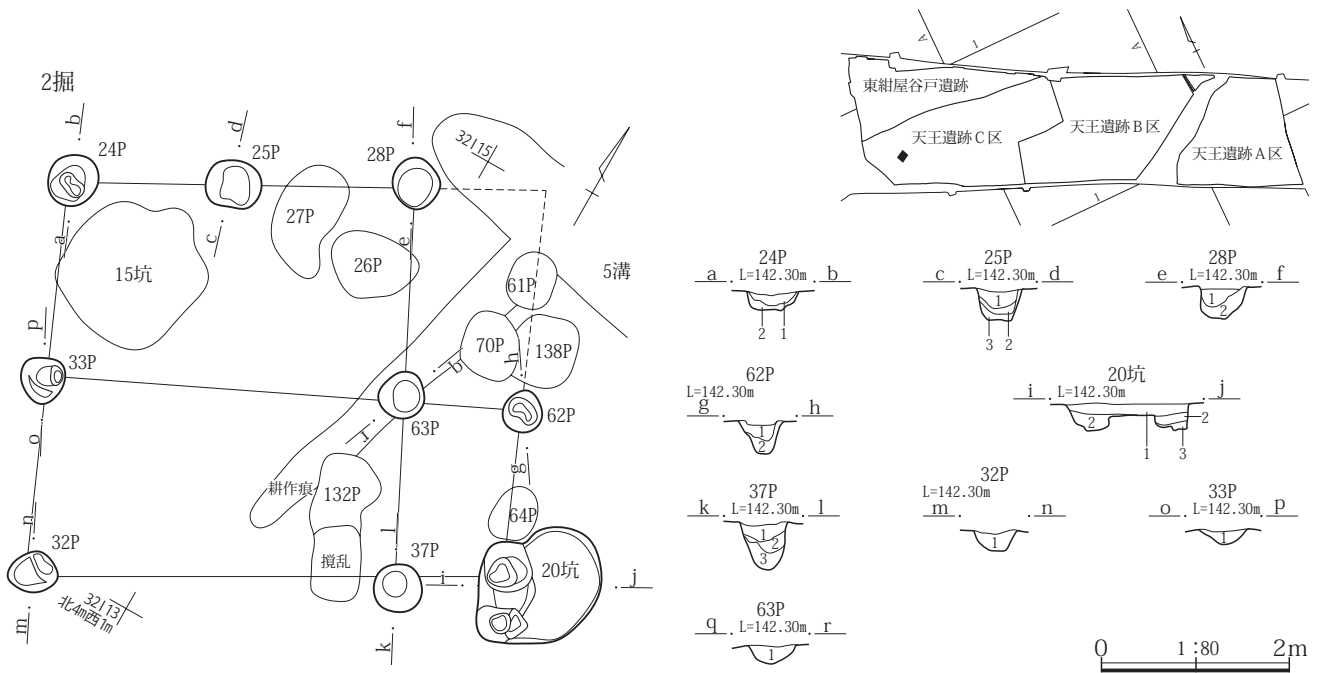
第14表 天王C区1掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		3間×2間		長軸方位(9P-13P)		N28°W	面積m ²	20.32
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	規模		深さcm	備考				
					上端cm長径×短径	下端cm長径×短径						
13P-9P:508	13P-52P:392	13P-12P:179	13P-15P:150	9P	101×99	24×20	60					
				11P	100×79	28×28	70					
15P-8P:501	12P-54P:384	12P-11P:165	15P-52P:242	12P	106×74	41×31	57					
				13P	118×100	27×22	58					
52P-7P:503	11P-55P:374	11P- 9P:166	9P- 8P:208	15P	129×108	15×8	51					
				52P	110×97	25×11	72					
				54P	86×73	35×29	67					
				55P	100×85	15×13	60					
				7P	76×71	33×24	59					
	9P- 7P:400	52P-54P:167	8P- 7P:192	8P	90以上×96	16×12	54					
		54P-55P:173										
		55P- 7P:165										

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第120図 天王C区1掘立柱建物、51P

遺構図(天王C区)



- 24P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 25P c-d 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。3 2よりロームブロックを多く、白色軽石を含む。
- 28P e-f 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・黄色粒子を含む。締まりなし。2 1に2cm大のロームブロックを含む。
- 62P g-h 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・2cm大のロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・白色軽石を含む。
- 20坑 i-j 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・2cm大のロームブロックを含む。2 1より白色軽石が少ない。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子を含む。地山。
- 37P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を下位に多く、ローム粒子を含む。2 1より白色軽石が少なくローム粒子を多く含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 32P m-n 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤色粒子を含む。
- 33P o-p 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 63P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。

第15表 天王C区2掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		3間×2間		長軸方位(32P-20土坑)		N62° E		面積m ²	19.66
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	規模		深さcm	備考					
					上端cm長径×短径	下端cm長径×短径							
32P-20坑:488	32P-24P:403	32P- 37P:373	32P-33P:201	32P	50×43	26×12	36						
				33P- 62P:495	37P-20坑:115	33P-24P:202	37P	53×53	26×26	51			
				20土坑	33P- 63P:371	37P-63P:200	20土坑	53×50	20×18	43			
				33P	63P- 62P:125	63P-28P:221	33P	49×48	12×8	17			
				63P	24P- 25P:173	20坑-62P:174	63P	50×47	33×28	20			
				62P	25P- 28P:190		62P	43×42	22×10	37			
				24P			24P	56×52	22×9	24			
				25P			25P	59×50	40×31	33			
				28P	52×49	40×35	35						

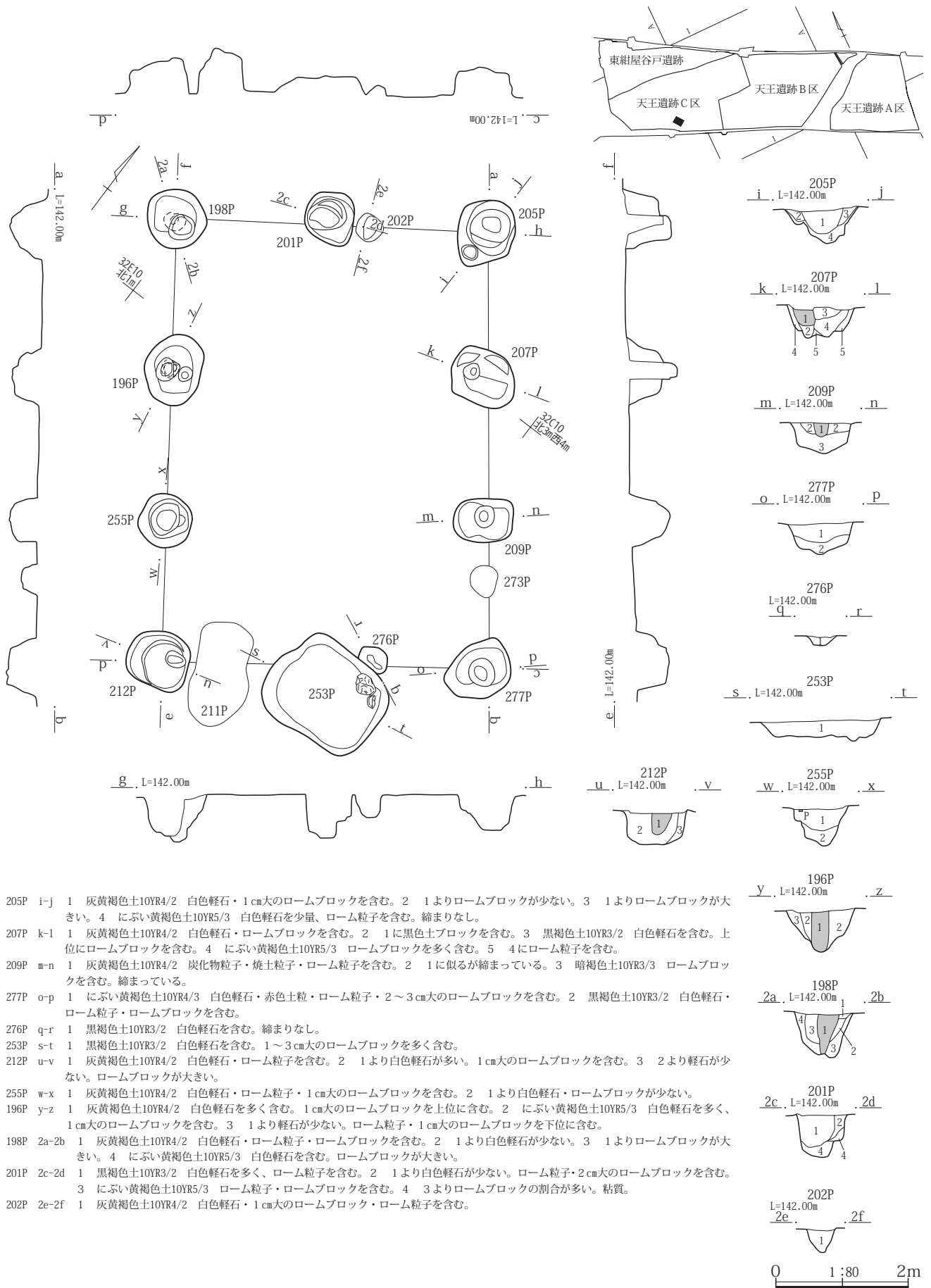
- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第16表 天王C区3掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		3間×2間		長軸方位(277P-205P)		N36° W		面積m ²	31.65
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	規模		深さcm	備考					
					上端cm長径×短径	下端cm長径×短径							
277P-205P:675	277P-212P:463	277P-209P:237	205P-201P:252	277P	102×82	24×17	47	二段					
				209P	90×66	16×13	44	二段					
276P-202P:654	209P-255P:481	209P-207P:218	201P-198P:217	207P	101×81	11×8	52	二段					
				205P	110×86	28×23	53	三段					
212P-198P:651	205P-198P:469	212P-255P:211		276P	44×38	28×9	16						
				202P	41×39	36×19	32						
				201P	78×74	41×25	61	三段					
				212P	93×85	23×11	54	三段					
				255P	80×77	32×27	53	三段					
				196P	107×85	22×15	75	二段					
				198P	92×86	27×27	70	二段					

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

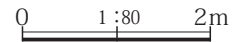
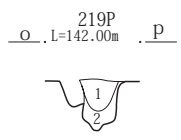
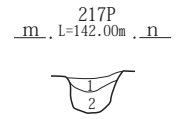
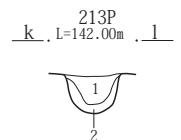
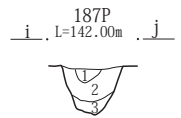
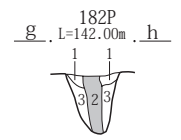
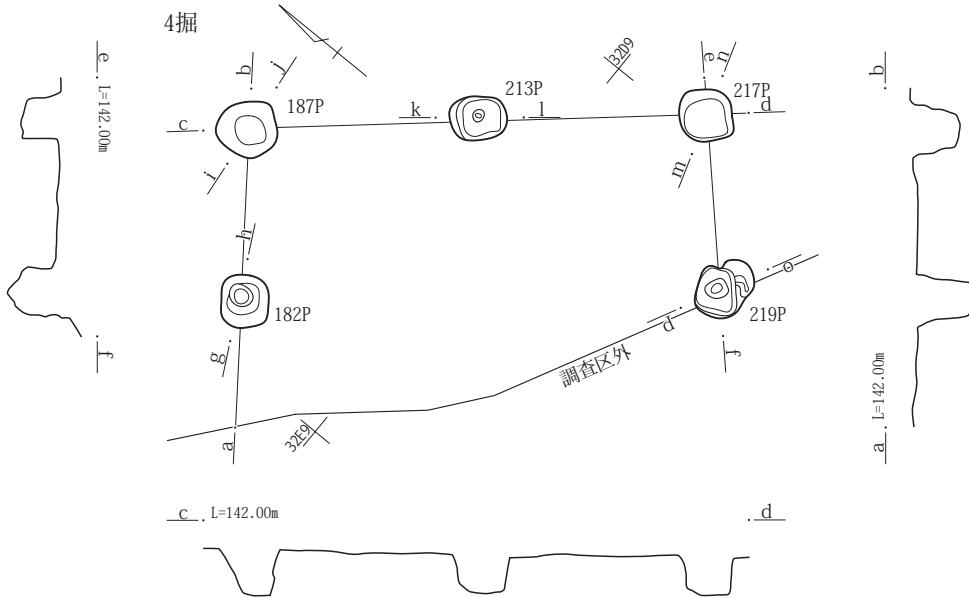
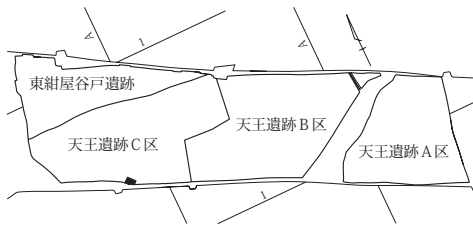
第121図 天王C区2掘立柱建物、3掘立柱建物(1)、20土坑



- 205P i-j 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが少ない。3 1よりロームブロックが大きい。4 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。締めりなし。
- 207P k-l 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1に黒色土ブロックを含む。3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。上位にロームブロックを含む。4 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く含む。5 4にローム粒子を含む。
- 209P m-n 1 灰黄褐色土10YR4/2 炭化物粒子・焼土粒子・ローム粒子を含む。2 1に似るが締まっている。3 暗褐色土10YR3/3 ロームブロックを含む。締めっている。
- 277P o-p 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・赤色土粒・ローム粒子・2~3cm大のロームブロックを含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 276P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。締めりなし。
- 253P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。1~3cm大のロームブロックを多く含む。
- 212P u-v 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 1より白色軽石が多い。1cm大のロームブロックを含む。3 2より軽石が少ない。ロームブロックが大きい。
- 255P w-x 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・1cm大のロームブロックを含む。2 1より白色軽石・ロームブロックが少ない。
- 196P y-z 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く含む。1cm大のロームブロックを上位に含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石を多く、1cm大のロームブロックを含む。3 1より軽石が少ない。ローム粒子・1cm大のロームブロックを下位に含む。
- 198P 2a-2b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1より白色軽石が少ない。3 1よりロームブロックが大きい。4 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石を含む。ロームブロックが大きい。
- 201P 2c-2d 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。2 1より白色軽石が少ない。ローム粒子・2cm大のロームブロックを含む。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。4 3よりロームブロックの割合が多い。粘質。
- 202P 2e-2f 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1cm大のロームブロック・ローム粒子を含む。

第122図 天王C区3掘立柱建物(2)、253P

遺構図(天王C区)



- 182P g-h 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、赤褐色粒子・ローム粒子を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。柱痕か。
3 2より白色軽石を多く含む。黒褐色土ブロックを含む。
- 187P i-j 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。締まりなし。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。3 2に1cm大のロームブロックを含む。
- 213P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を上位に含む。ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。
- 217P m-n 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。2 1より白色軽石が少ない。
- 219P o-p 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・灰黄褐色土ブロックを含む。2 1とほぼ同じだが白色軽石が少ない。

第17表 天王C区4掘立柱建物計測表

平面形		規模		長軸方位(219P-217P) N47°E			面積m ² 15.22以上	
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径		
	217P-187P:485	217P-219P:180	217P-213P:243	217P	56×55	43×40	42	略方形
	219P-182P:503	187P-182P:177	213P-187P:242	219P	53×45	12×9	65	二段
				213P	60×47	6×4	39	二段
				187P	63×63	31×30	49	
				182P	56×50	16×15	65	二段

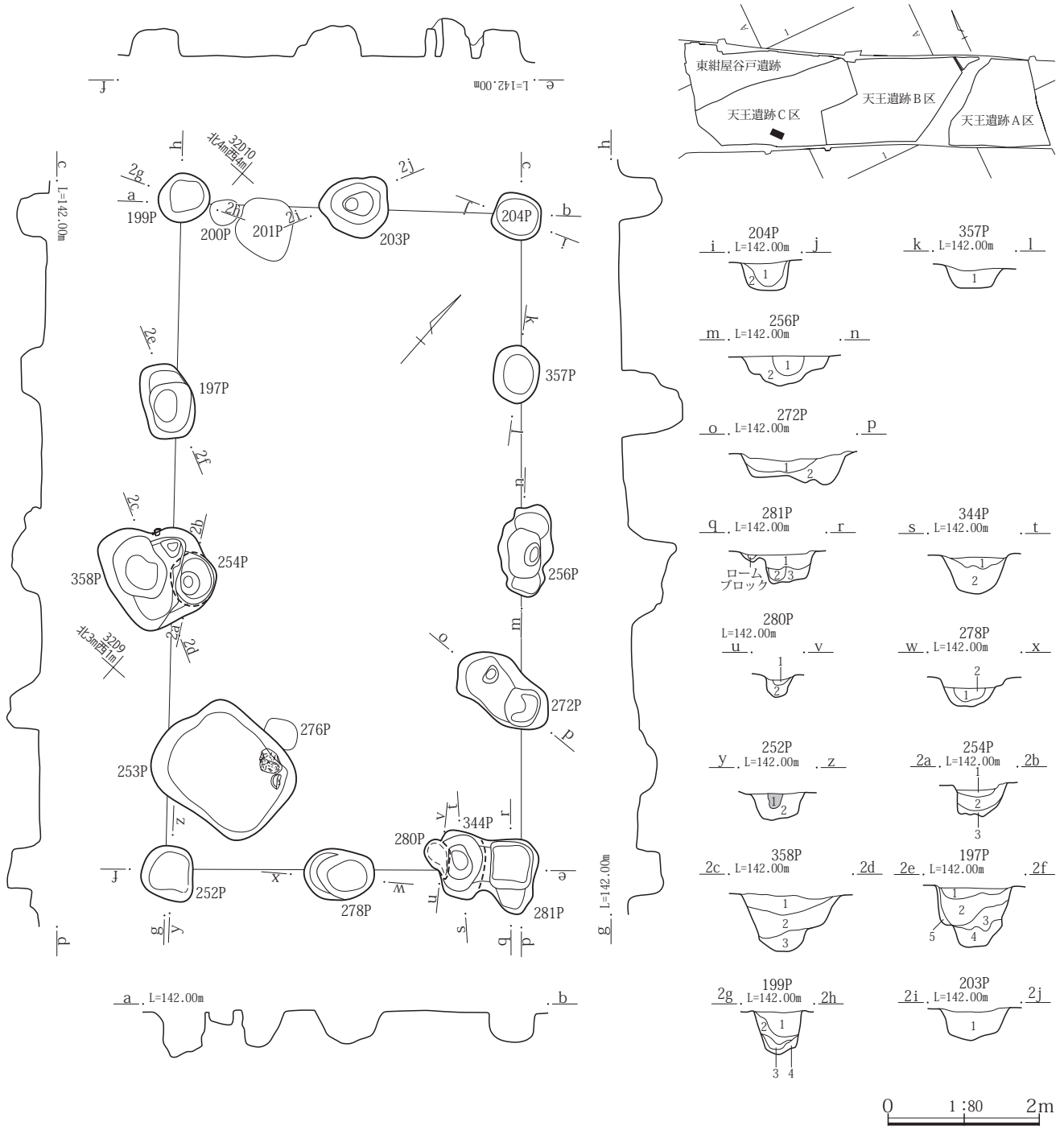
- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第18表 天王C区5掘立柱建物計測表

平面形		規模		長軸方位(278P-203P) N41°W			面積m ² 37.48	
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径		
281P-204P:852	281P-252P:448	281P-272P:204	281P-278P:215	281P	98×62	47×45	40	二段,底面方形
278P-203P:886	256P-358P:475	272P-256P:206	278P-252P:234	272P	137×74	36×14	42	二段
252P-199P:891	357P-197P:467	256P-357P:240	204P-203P:221	256P	121×72	20×9	42	二段
	204P-199P:440	357P-204P:207	203P-199P:219	357P	77×60	51×39	27	略楕円形
		252P-358P:428		204P	62×60	54×47	37	略方形
		358P-197P:187		278P	92×66	50×39	36	
		197P-199P:278		203P	91×78	16×16	35	二段
				252P	70×70	50×48	36	
				358P	141×130	13×10	64	二段
				197P	99×67	42×30	82	二段
				199P	69×62	44×40	56	

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

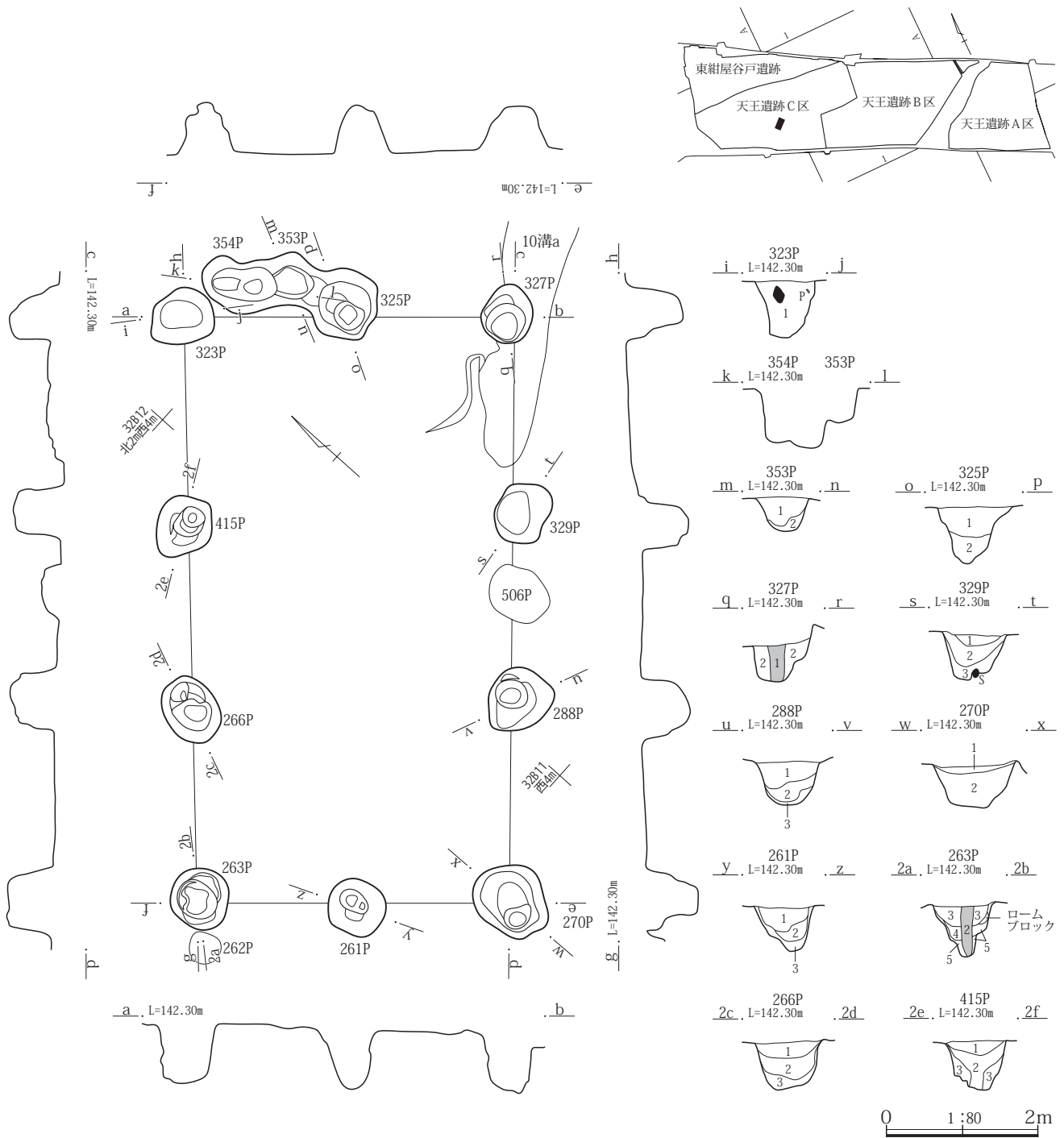
第123図 天王C区4掘立柱建物、5掘立柱建物(1)



- 204P i-j 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、1cm大のロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 黒褐色土ブロック・ロームブロックを含む。
- 357P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。
- 256P m-n 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。2 1にロームブロックを含む。
- 272P o-p 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、2~3cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが小さく少ない。ローム粒子を含む。締まりなし。
- 281P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。2 1より白色軽石が少ない。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックとの混土。
- 344P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックとの混土。
- 280P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。
- 278P w-x 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 252P y-z 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1より白色軽石大きく多い。
- 254P 2a-2b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1より白色軽石を多く含む。1cm大のロームブロックを含む。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。
- 358P 2c-2d 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きく多い。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックとの混土。
- 197P 2e-2f 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを多く含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を上位に含む。ローム粒子を含む。締まりなし。4 上位はにぶい黄褐色土10YR6/4 ローム粒子を含む。下位はにぶい黄褐色土10YR4/3ローム粒子を含む。5 2よりロームブロックが大きい。ローム粒子を含む。締まりなし。
- 199P 2g-2h 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。2 1より白色軽石少ない。ローム粒子・2cm大のロームブロックを含む。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。4 3よりロームブロックの割合多い。粘質。
- 203P 2i-2j 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 黒褐色土ブロック・白色軽石・ロームブロックを含む。

第124図 天王C区5掘立柱建物(2)

遺構図(天王C区)



- 323P i-j 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を多く、白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。
- 353P m-n 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きい。
- 325P o-p 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、1~2cm大のロームブロックを含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。
- 327P q-r 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。2 1より軽石が大きく、ロームブロックを多く含む。
- 329P s-t 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を少量、1~2cm大のロームブロックを含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ロームブロックを少量含む。3 2よりロームブロックを多く含む。
- 288P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1~3cm大のロームブロックを多く含む。2 1より白色軽石が少なく、ロームブロックが大きい。3 1よりロームブロック大きく多い。
- 270P w-x 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤褐色土粒子・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に2~3cm大のロームブロックを含む。白色軽石が少ない。
- 261P y-z 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に赤色土粒子を含む。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 262・263P 2a-2b 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・2cm大のロームブロックを含む。3 2より軽石を多く、赤色土粒子を含む。4 2とほぼ同じだがロームブロックを含まない。5 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 266P 2c-2d 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、1~2cm大のロームブロックを含む。2 黒褐色土10YR3/2 上位に白色軽石を含む。ロームブロックを含む。3 2に似るが軽石を含まない。ロームブロックを多く含む。
- 415P 2e-2f 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1に2~3cm大のロームブロックを含む。3 2よりロームブロックの割合多い。

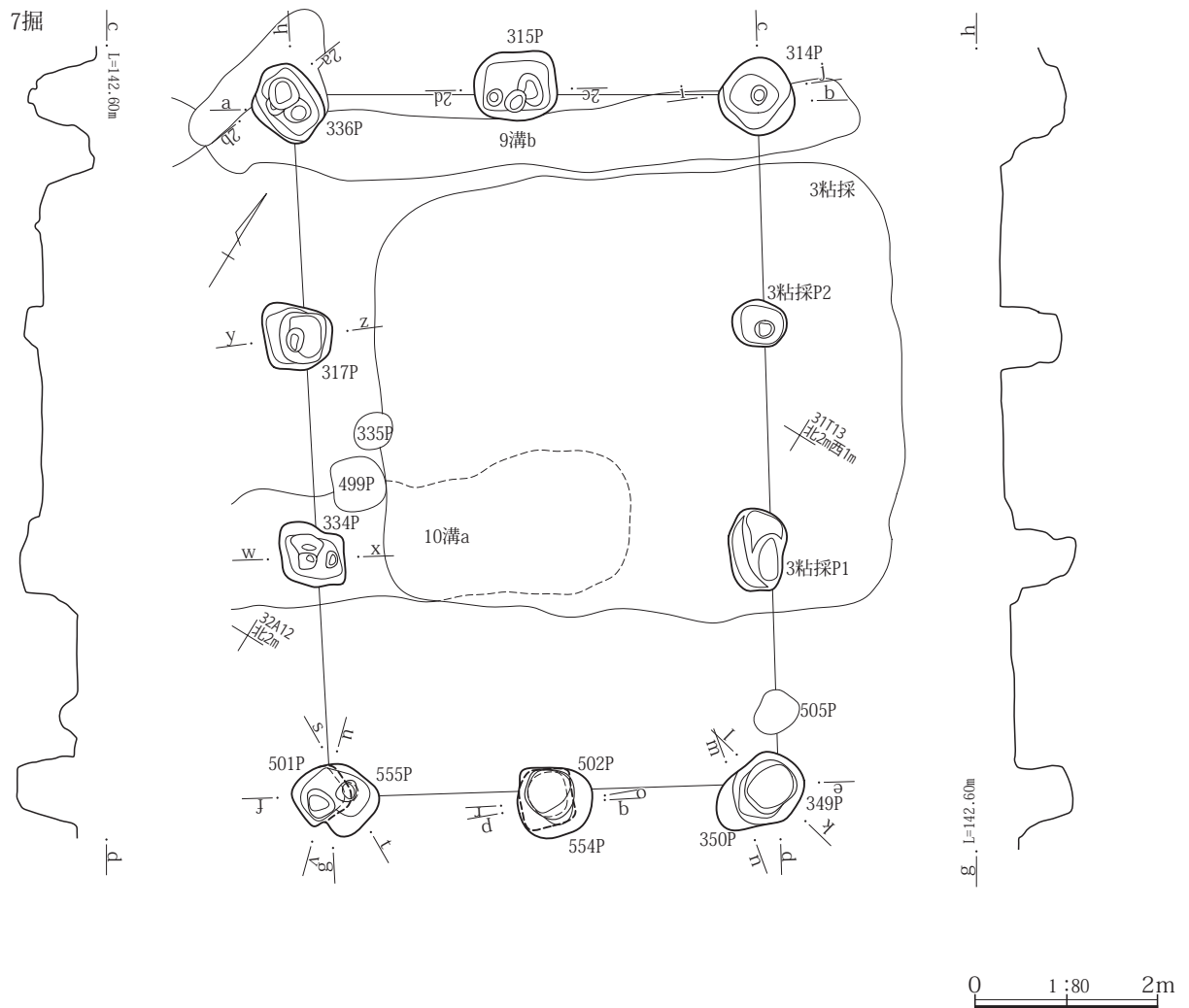
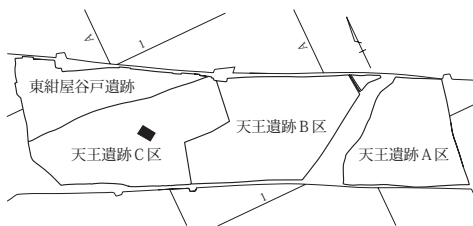
第125図 天王C区6掘立柱建物(1)、353・354P

第4章 検出された遺構と遺物

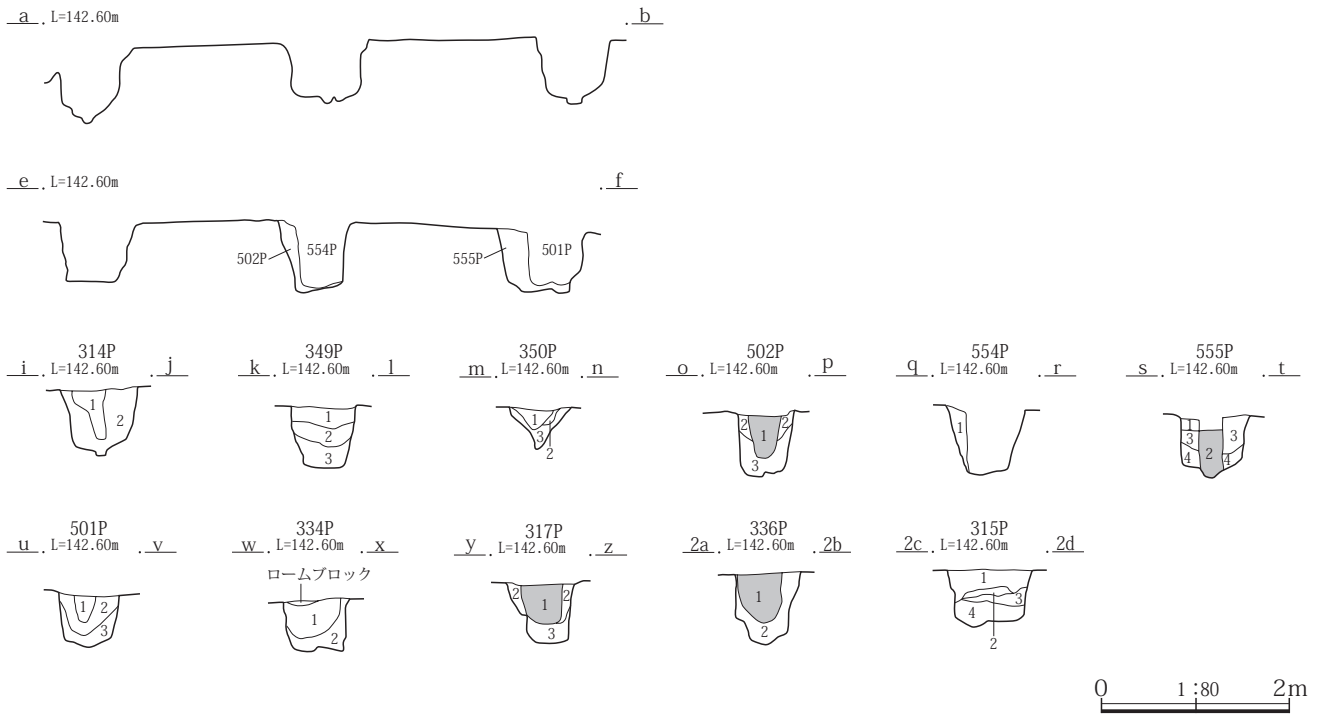
第19表 天王C区6掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		3間×2間		長軸方位(261P-325P)			N 48° E	面積m ²	32.91
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	規模			深さcm	備考				
					上端cm長径×短径	下端cm長径×短径	深さcm						
270P-327P:780	270P-263P:422	270P-288P:293	270P-261P:219	270P	100×91	22×19	64	二段					
261P-325P:771	288P-266P:414	288P-329P:241	261P-263P:203	288P	91×77	28×20	60	二段					
263P-323P:773	329P-415P:424	329P-327P:247	327P-325P:209	329P	86×65	57×42	60						
	327P-323P:429	263P-266P:248	325P-323P:221	327P	78×65	35×33	55	二段					
		266P-415P:257		261P	76×70	15×13	61	二段					
		415P-323P:268		325P	77×76	20×20	76	二段,底面方形					
				263P	78×76	33×28	69	二段					
				266P	89×69	30×20	59	二段					
				415P	86×75	12×10	70	三段					
				323P	81×74	54×36	76						

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測



第126図 天王C区6掘立柱建物(2)、7掘立柱建物(1)、350・554・555P



- 314P i-j 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。2 1にロームブロックを含む。
- 349P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが少ない。白色軽石を多く含む。3 1よりロームブロックが少ないが大きい。軽石を少量含む。
- 350P m-n 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックとの混土。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。3 2に1~2cm大のロームブロックを含む。
- 502P o-p 1 灰黄褐色土10YR4/2 上位にロームブロックを含む。ローム粒子を含む。2 黒褐色土10YR3/2 1cm大のロームブロックを多く含む。3 2よりロームブロックが少ないが大きい。
- 554P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。締まっている。
- 555P s-t 1 にぶい黄褐色土10YR4/3ブロックと黄白色粘土ブロック・ロームブロックの混土。2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロック・白色軽石を含む。3 黒褐色土10YR3/2 1cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。締まっている。4 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。締まっている。
- 501P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックの割合多い。白色軽石を多く含む。3 2よりロームブロックが大きい。
- 334P w-x 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を多く、ロームブロックを含む。2 黒褐色土10YR3/2 黄色粒子を多く、白色軽石・ロームブロックを含む。
- 317P y-z 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きく軽石が少ない。3 下位はほとんどロームブロック。
- 336P 2a-2b 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を多く、1cm大のロームブロックを含む。2 1より軽石が少なく、ロームブロックが多い。
- 315P 2c-2d 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを多く含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く含む。3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。4 2よりロームブロックの割合が少ない。

第20表 天王C区7掘立柱建物計測表

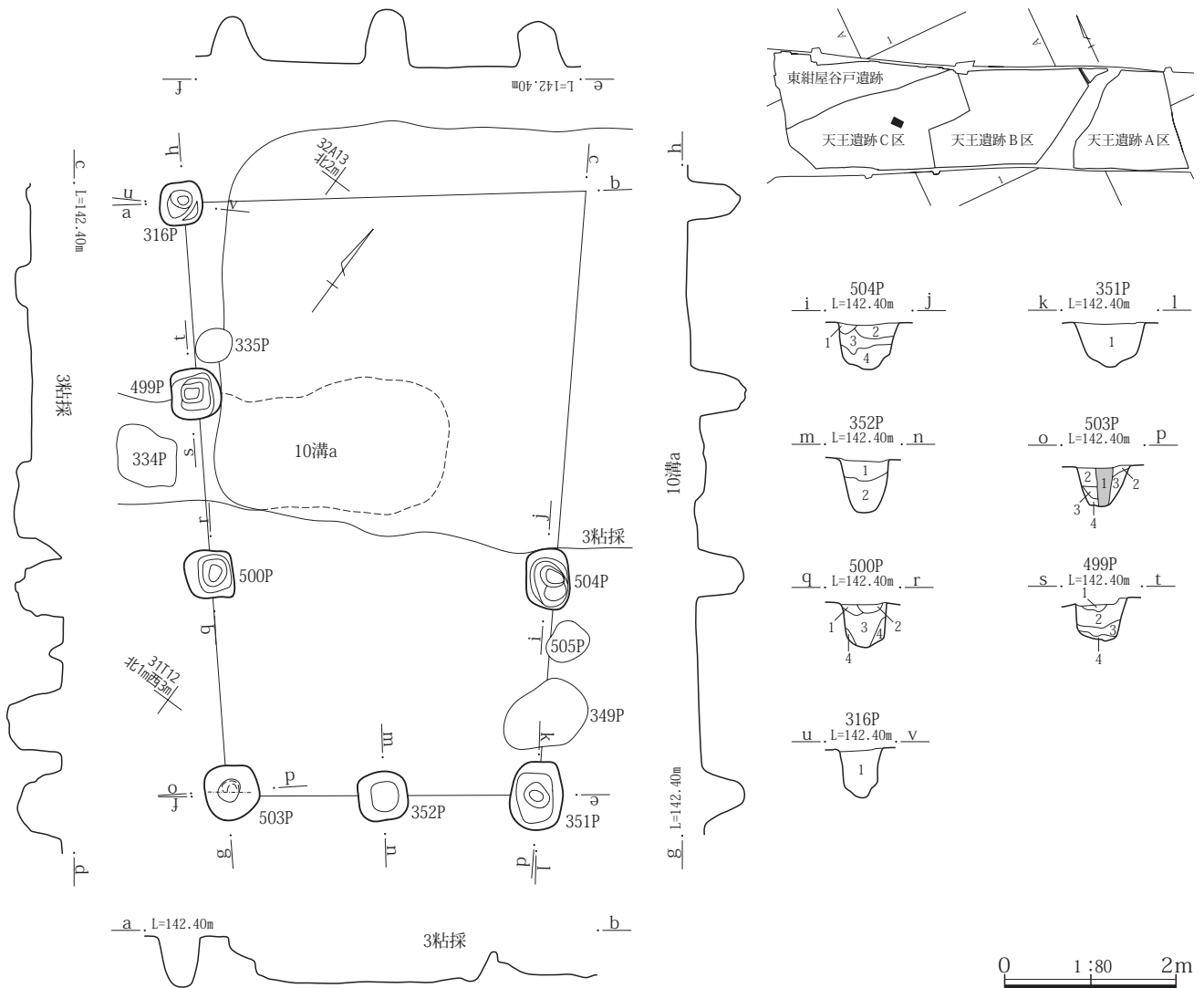
平面形 桁行cm	長方形 梁行cm	規模		長軸方位(502P-315P)		面積m ²	37.37
		3間×2間	3間×2間	N33°W	規模		
		桁行柱間	梁行柱間	番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径	深さcm
349P-314P:755	349P-501P:495	349P-3粘P1:243	349P-502P:245	349P	103×73	58×41	66
502P-315P:750	3粘P1-334P:504	3粘P1-3粘P2:253	502P-501P:250	3粘P1	89×63	46×21	22
501P-336P:778	314P-336P:519	3粘P2-314P:259	314P-315P:265	3粘P2	60×51	14×13	19
		501P-334P:280	315P-336P:255	314P	81×80	12×11	74
		334P-317P:224		502P	81×77	48×43	71
		317P-336P:274		315P	89×75	17×10	74
				501P	59×55	21×17	70
				334P	70×68	15×6	74
				317P	74×72	17×7	69
				336P	84×69	24×16	83

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

※3 粘=粘土採掘坑

第127図 天王C区7掘立柱建物(2)、350・554・555P

第4章 検出された遺構と遺物



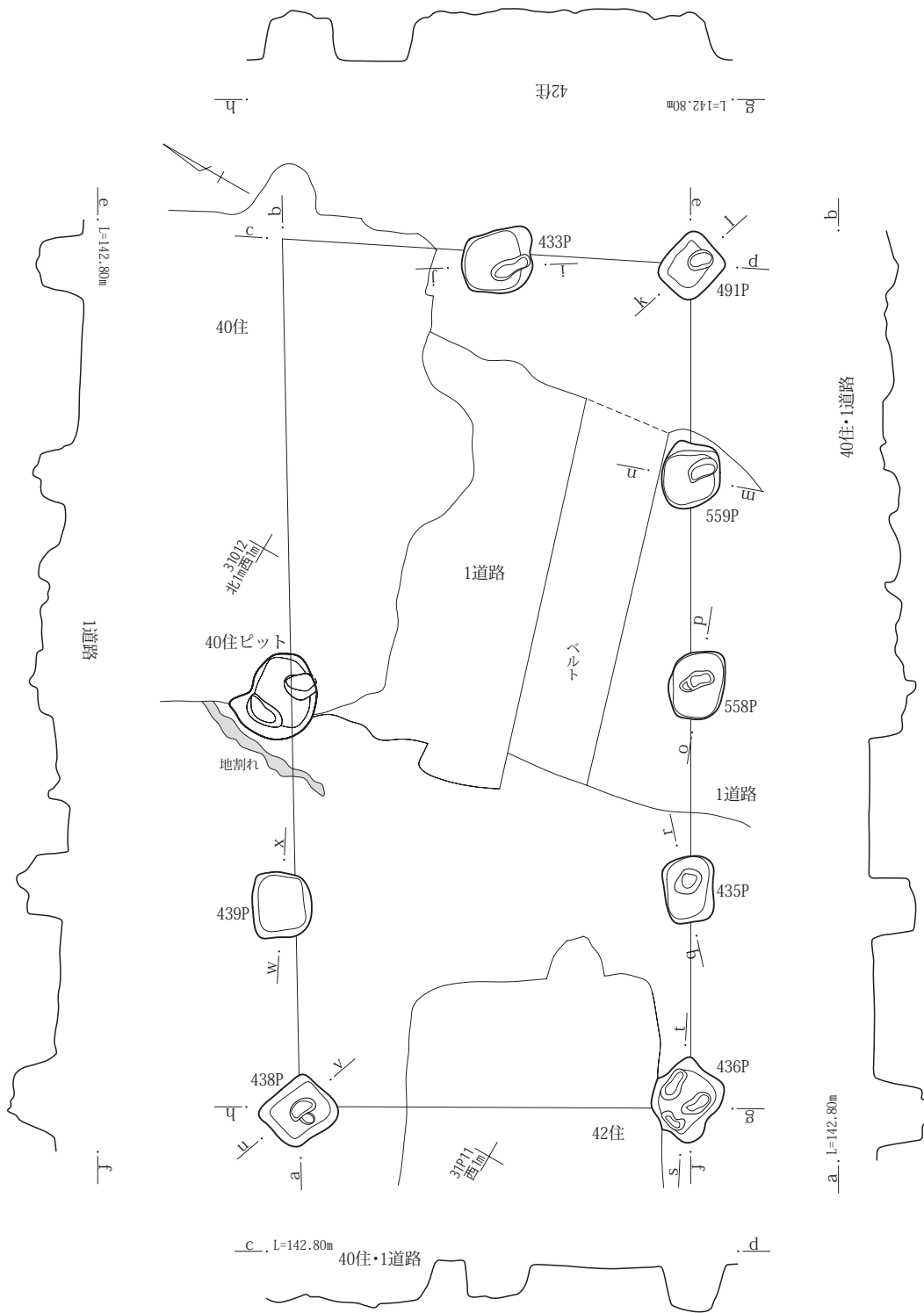
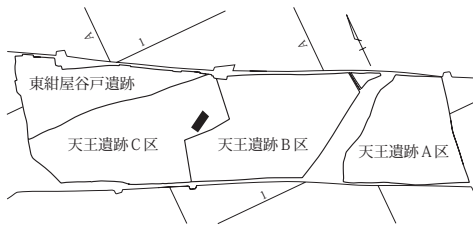
- 504P i-j 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。2 1より軽石は少ないが大きい。3 1にロームブロックを含む。軽石が少ない。4 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 351P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを多く含む。
- 352P m-n 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ロームブロックを含む。2 1より軽石が少ない。2cm大のロームブロックを含む。底部にロームブロックが入る。
- 503P o-p 1 黒褐色土10YR3/2 上位に白色軽石を含む。ロームブロックを含む。2 1とほぼ同じだが軽石なし。3 1に灰黄褐色土ブロックを含む。4 ロームブロックの混じり。
- 500P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、1cm大のロームブロックを含む。2 1に似るがロームブロックを含まない。軽石を多く含む。3 2より軽石が少ない。ローム粒子・ロームブロックを含む。4 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 499P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。軽石を多く含む。3 2より軽石が少ない。4 にぶい黄褐色土10YR5/4 ロームブロック大。
- 316P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。ローム粒子。締まりなし。

第21表 天王C区8掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		3間×2間		長軸方位(503P-316P)			N41°W		面積m ²	24.56
桁行cm	梁行cm	桁行柱間		梁行柱間		番号	規模		深さcm	備考				
							上端cm長径×短径	下端cm長径×短径						
503P-316P:688	351P-503P:357	351P-504P:256		351P-352P:178		351P	79×60	16×12	55	二段				
	504P-500P:395	503P-500P:254		352P-503P:180		504P	71×50	21×15	55	三段				
		500P-499P:210				352P	57×56	35×31	64					
		499P-316P:225				503P	65×62	27×22	51					
						500P	56×55	19×13	54	二段				
						499P	59×56	16×12	64	二段				
						316P	49×49	12×10	61	二段				

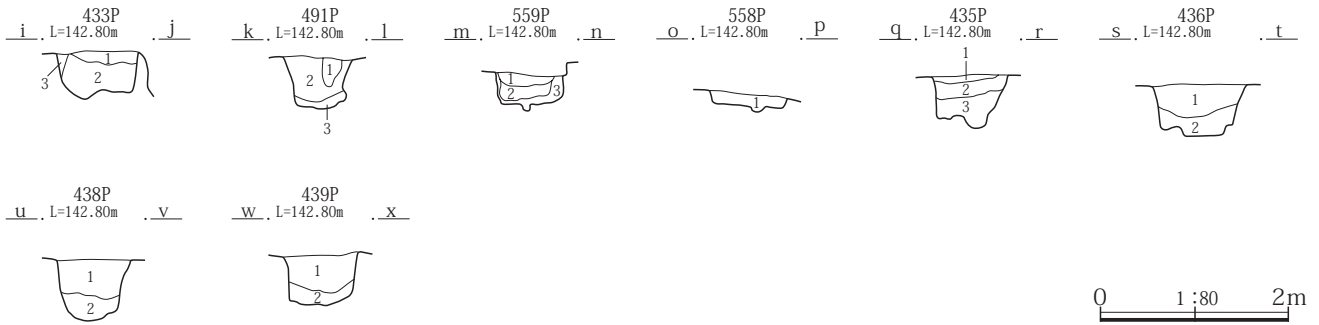
※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第128図 天王C区8掘立柱建物



第129図 天王C区9掘立柱建物(1)

第4章 検出された遺構と遺物



- 433P i-j 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。3 ロームブロック。
 491P k-l 1 褐色土10YR4/1 ローム粒子を少量含む。縮まりなし。2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、赤褐色粒子・ロームブロックを含む。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。
 559P m-n 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を含む。2 1より軽石が少なくローム粒子を多く含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
 558P o-p 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤褐色粒子を含む。
 435P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・焼土粒子を含む。鉄分沈着。3 1に似る。
 436P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。2 1にロームブロックを含む。縮まりなし。
 438P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。2 1よりも軽石が少ない。縮まりなし。
 439P w-x 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。2 1よりも軽石が少ない。縮まりなし。

第22表 天王C区9掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		長軸方位(436P-491P) N60°E			面積m ²	49.01
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考		
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径				
436P-491P:1019	436P- 438P:481 435P- 439P:493 558P-40住P:480	436P- 435P:269 435P- 558P:243 558P- 559P:251 559P- 491P:256 438P- 439P:514 439P-40住P:258	491P-433P:228	436P	87×74	27×11	59	二段		
				435P	80×58	17×16	59	二段		
				558P	82×66	23×12	18	二段		
				559P	78×70	29×13	55	二段		
				491P	71×63	26×13	57	二段		
				433P	85×77	42×14	47	二段		
				438P	79×70	26×13	63	二段		
				439P	79×71	65×54	54			
				40住P	106×80	36×20	25	二段		

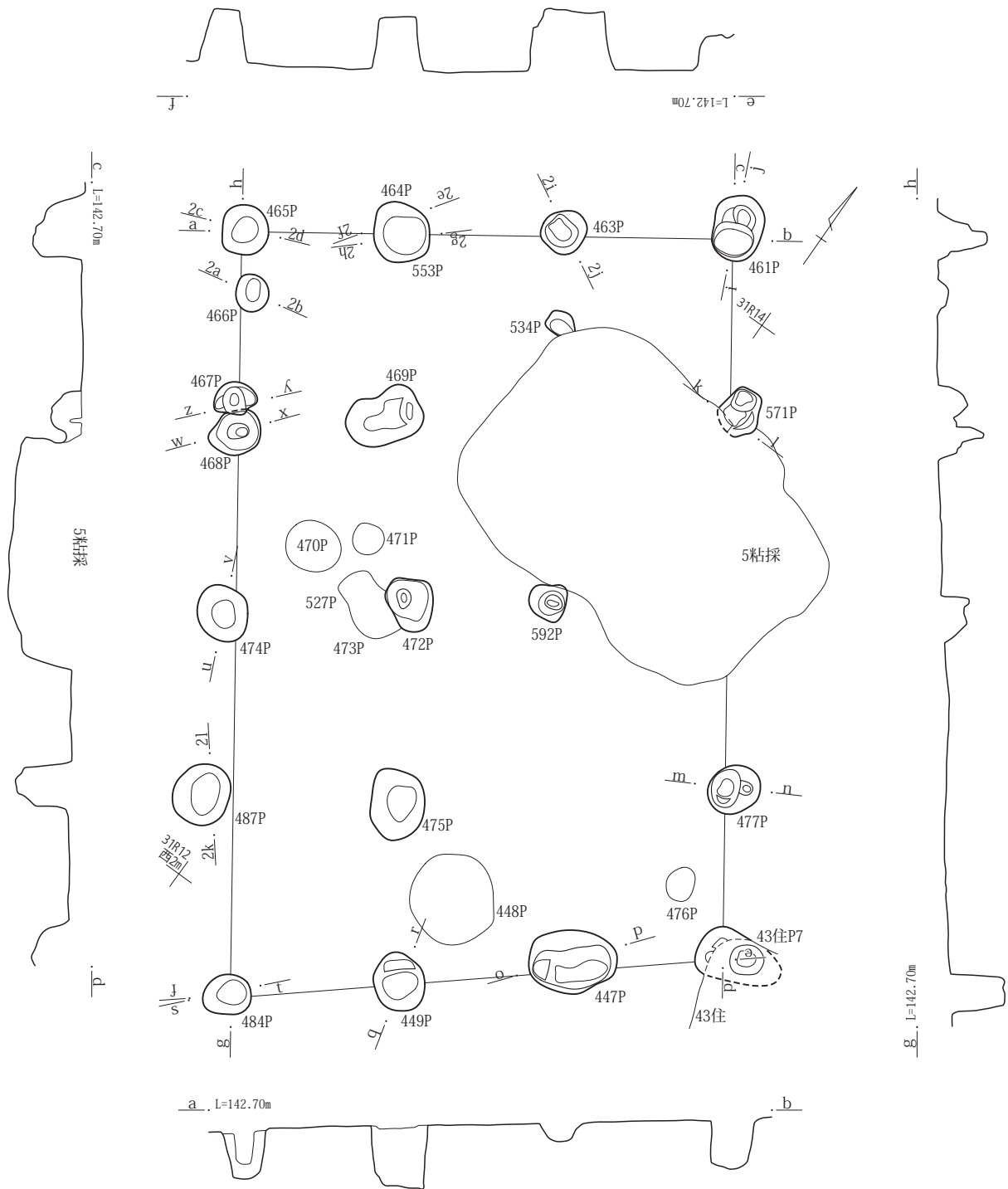
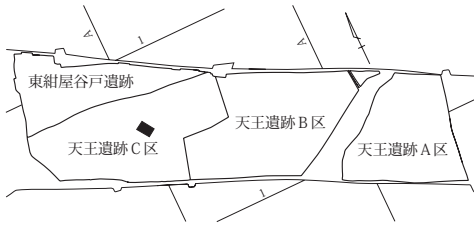
- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第23表 天王C区10掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		長軸方位(40住P7-461P) N36°W			面積m ²	59.76
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考		
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径				
43住P7-461P:911 447P -463P:944 449P -464P:954 484P -465P:968	43住P7-484P:656 477P-487P:665 571P-461P:197 461P-465P:623	43住P7-477P:219 477P-571P:496 571P-461P:197 447P-592P:472 592P-534P:352 534P-463P:122 449P-475P:233 475P-472P:260 472P-469P:234 469P-464P:227 484P-487P:255 487P-474P:229 474P-467P:272 467P-465P:215	43住P7-447P:212 447P-449P:233 449P-484P:212 477P-475P:415 475P-487P:251 592P 592P 463P 449P 475P 469P 472P 469P 464P 469P 464P 467P 465P	43住P7	42×40	23×19	52	二段		
				477P	73×60	24×17	68	二段		
				571P	62×52	20×20	42	二段		
				461P	84×62	44×33	67	二段		
				447P	113×82	66×25	74	二段		
				592P	48×47	15×7	44	二段		
				534P	33以上×31	24×18	20			
				463P	57×55	28×19				
				449P	77×64	44×33	37			
				475P	91×68	46×36	37			
				472P	68×60	12×6	75	二段		
				469P	96×67	21×7	83	二段		
				464P	78×71	54×47	83			
				484P	62×50	38×32	69			
				487P	79×71	54×35	28			
				474P	76×65	35×29				
				468P	64×58	15×11	58	二段		
				467P	55×43	15×10	40	二段		
				466P	48×41	30×18	19			
				465P	63×59	36×30	64			

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

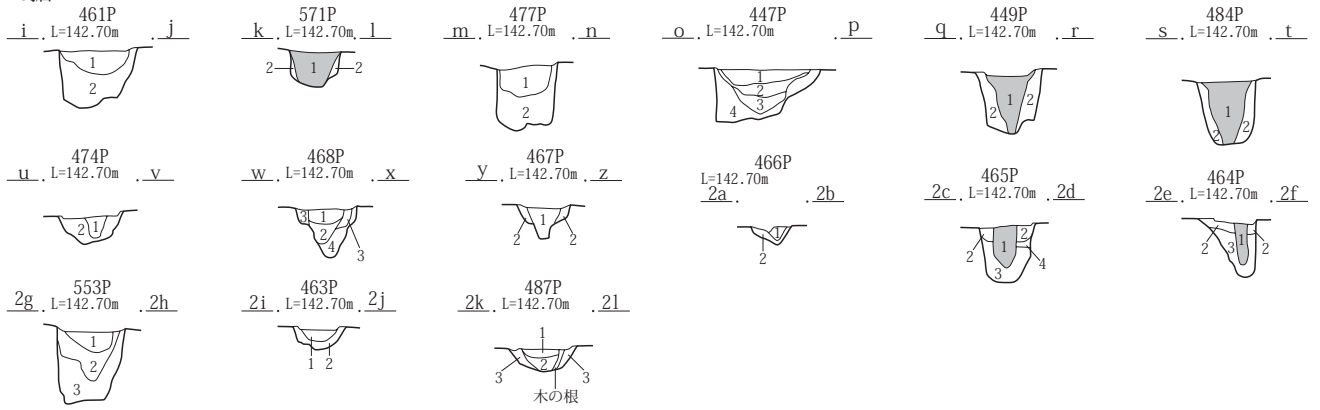
第130図 天王C区9掘立柱建物(2)、10掘立柱建物(1)



第131図 天王C区10掘立柱建物(2)

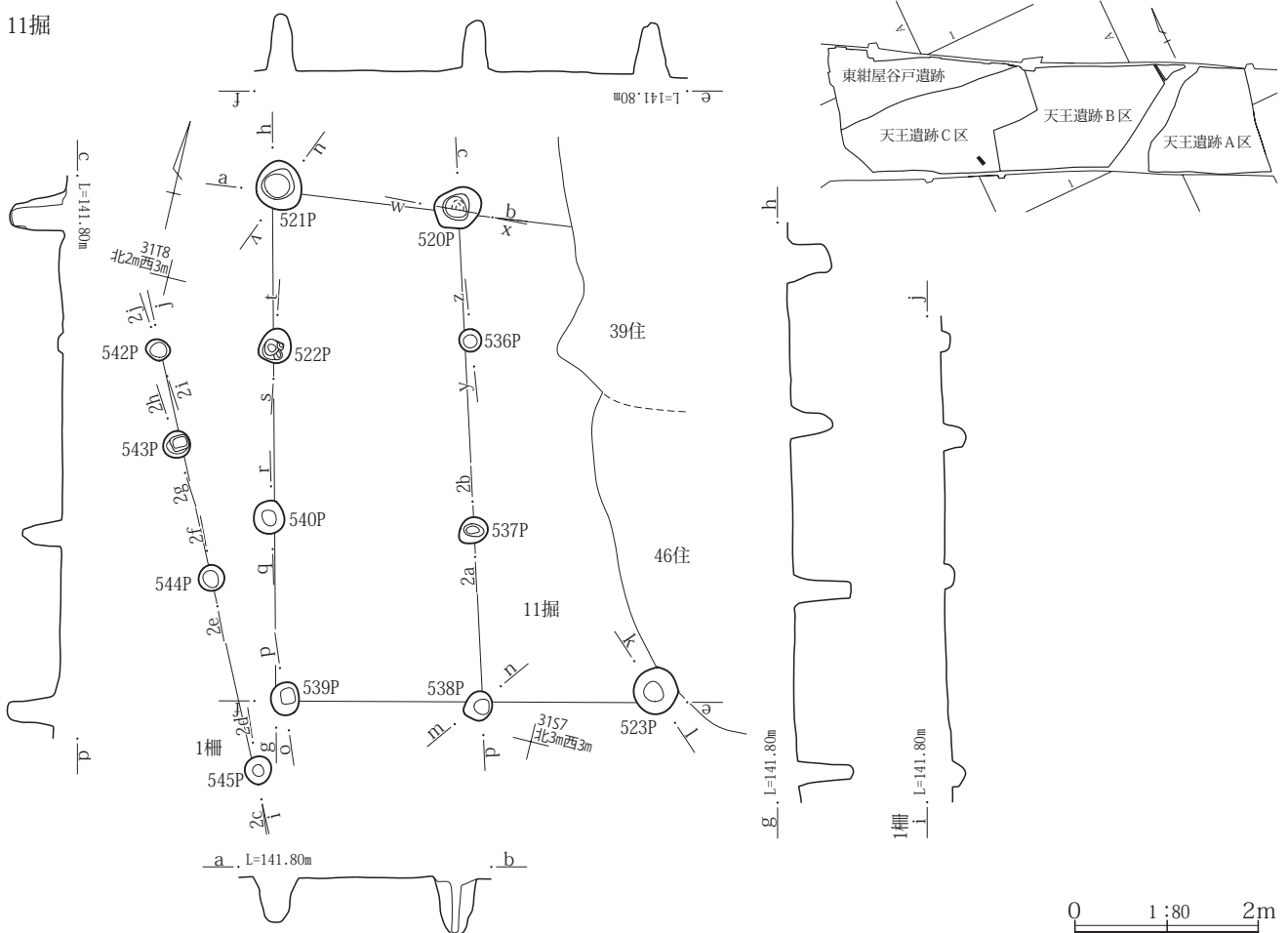
第4章 検出された遺構と遺物

10掘



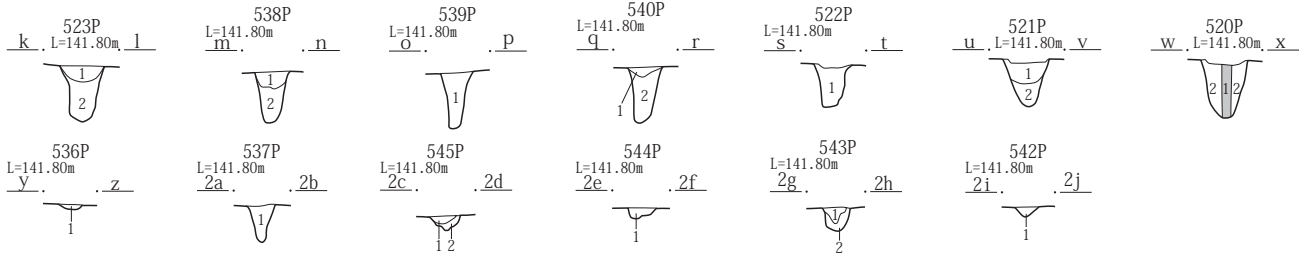
- 461P i-j 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。2 1にロームブロックを含む。
- 571P k-l 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、ロームブロックを含む。2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを少量含む。
- 477P m-n 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、赤褐色粒子・ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1にロームブロックを含む。
- 447P o-p 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く、赤褐色粒子・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1より軽石が少ない。3 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。4 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム粒子・1cm大のロームブロックを含む。締まりなし。
- 449P q-r 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・2cm大のロームブロック・灰黄褐色土ブロックを含む。2 1より軽石が少なく灰黄褐色土ブロック・ロームブロックが多い。
- 484P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤褐色粒子・ローム粒子を含む。2 1にロームブロック・灰黄褐色土ブロックを含む。
- 474P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に灰黄褐色土ブロックを含む。
- 468P w-x 1 黒褐色土10YR3/2 上位に白色軽石を含む。ローム粒子を含む。2 1にロームブロックが混じる。3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。4 3にロームブロックが混じる。
- 467P y-z 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤褐色粒子を含む。2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 466P 2a-2b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を多く、1cm大のロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR6/4 ローム粒子を含む。締まりなし。
- 465P 2c-2d 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1よりローム粒子が多い。3 1に1~3cm大のロームブロックを上位に含む。4 1とほぼ同じだが軽石を含まない。
- 464P 2e-2f 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 1に1cm大のロームブロックを含む。3 1より白色軽石を多く含む。1cm大のロームブロックを含む。
- 553P 2g-2h 1 黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロック・白色軽石を少量含む。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを多く含む。
- 463P 2i-2j 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1よりローム粒子が多い。2cm大のロームブロックを含む。
- 487P 2k-2l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。締まりなし。2 にぶい黄褐色土10YR6/4 ローム粒子を含む。締まりなし。3 2にロームブロックを含む。

11掘



第132図 天王C区10掘立柱建物(3)、11掘立柱建物・1柵(1)

11掘、1柵



- 11掘
- 523P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
2 1にロームブロックを含む。
 - 538P m-n 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。締まりなし。
2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 539P o-p 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子を含む。締まりなし。
 - 540P q-r 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒子を含む。締まりなし。
2 1にローム粒子を少量含む。締まりなし。
 - 522P s-t 1 黒褐色土10YR3/2 上位に白色軽石を含む。ローム粒子を含む。
 - 521P u-v 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
2 1より軽石が少ない。灰黄褐色土ブロックを含む。
 - 520P w-x 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
2 1よりロームブロックが大きく白色軽石を含む。
 - 536P y-z 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 537P 2a-2b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 1柵
- 545P 2c-2d 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子・ローム粒子を含む。締まりなし。
2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 544P 2e-2f 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・焼土粒子を含む。締まりなし。
 - 543P 2g-2h 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土粒子を含む。
2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 542P 2i-2j 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。

第24表 天王C区11掘立柱建物計測表

平面形		規模		長軸方位(539P-521P)			面積m ²	22.11
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径		
538P-520P:545	523P-539P:397	538P-537P:193	523P-538P:187	523P	52×48	22×19	61	
539P-521P:557		537P-536P:206	538P-539P:211	538P	32×28	17×16	54	
		536P-520P:147	537P-540P:221	537P	32×28	14×7	45	二段
		539P-540P:196	536P-522P:215	536P	25×25	14×14	5	
		540P-522P:185	520P-521P:196	520P	52×44	25×22	63	二段
		522P-521P:177		539P	36×30	17×15	62	
				540P	35×33	18×14	64	
				522P	37×34	8×7	47	二段
				521P	53×50	27×25	48	二段

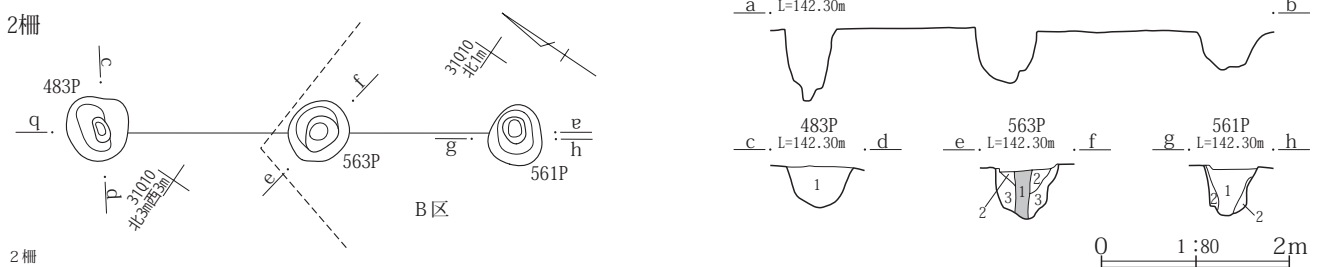
- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第25表 天王C区1柵計測表

平面形		規模		長軸方位(545P-542P)			面積m ²	-
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径		
545P-542P:471	-	545P-544P:216	-	545P	30×23	12×11	18	
		544P-543P:153		544P	28×27	19×15	11	
		543P-542P:103		543P	30×24	15×10	24	二段
				542P	25×22	16×16	12	

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

2柵



- 2柵
- 483P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、灰黄褐色土ブロックを含む。
 - 563P e-f 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1より軽石を多く含む。ロームブロックが大きい。3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土。
 - 561P g-h 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1より軽石が少ない。ローム粒子を含む。締まりなし。

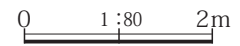
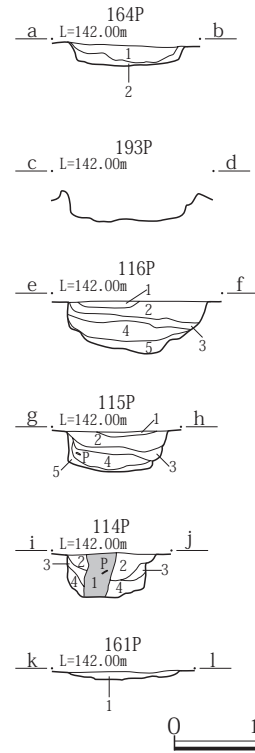
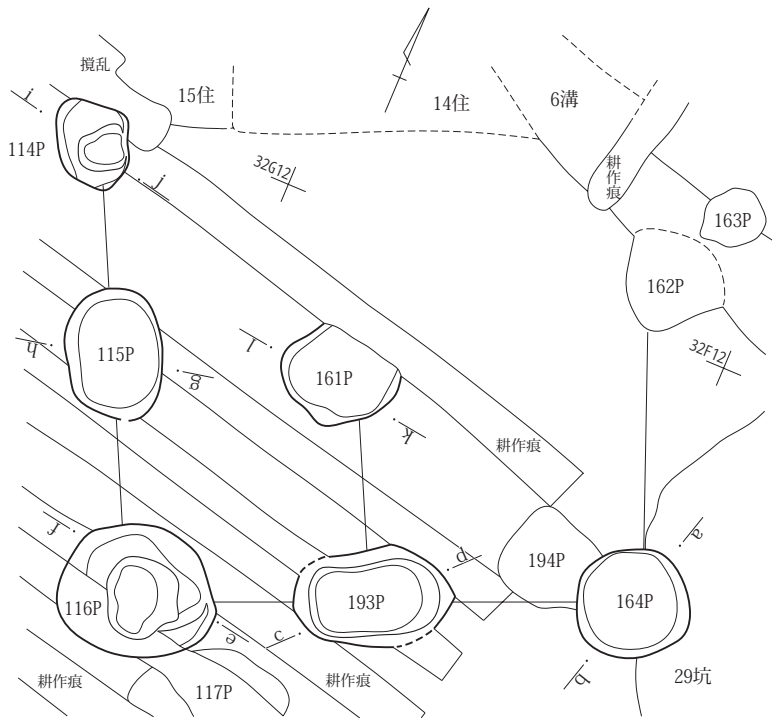
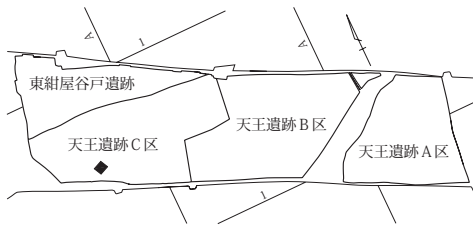
第26表 天王C区2柵計測表

平面形		規模		長軸方位(483P-561P)			面積m ²	-
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考
				番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径		
483P-561P:440	-	483P-563P:231	-	483P	72×67	14×7	41	二段
		563P-561P:209		563P	66×61	20×17	55	二段
				561P	65×57	18×13	78	二段

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第133図 天王C区11掘立柱建物・1柵(2)、2柵

第4章 検出された遺構と遺物



- 164P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。締まりなし。2 1よりロームブロックが大きい。
- 116P e-f 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石を多く、焼土・ローム粒子・2cm大のロームブロック・炭化物を含む。3 2よりロームブロックが大きくて多い。炭化物を含む。4 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・焼土・1cm大のロームブロック・炭化物を含む。5 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・粘土ブロックを含む。
- 115P g-h 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 にぶい黄褐色土10YR6/4 白色軽石・ロームブロックを含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量、白色軽石・焼土を含む。4 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ロームブロックを含む。5 4よりロームブロックが多い。
- 114P i-j 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・焼土粒・ロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ロームブロックを含む。3 2よりロームブロックの割合多い。4 にぶい黄褐色土10YR6/4 ロームブロックを含む。
- 161P k-l 1 黒褐色土10YR3/2 2cm大のロームブロックを含む。

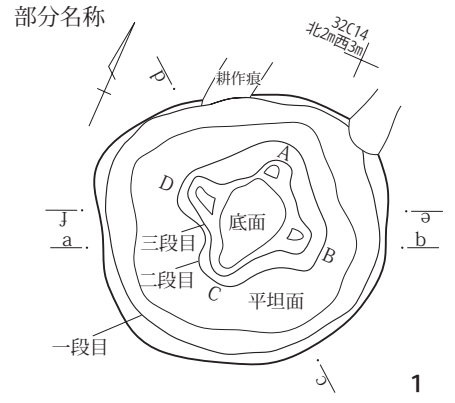
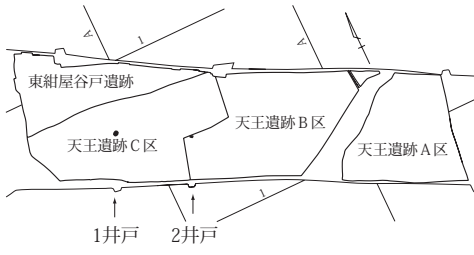
第27表 天王C区13掘立柱建物計測表

平面形	長方形	規模		長軸方位(164P-116P)			面積m ²	24.83
		2間×2間	2間×2間	規模		N68°E		
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	上端cm長径×短径	下端cm長径×短径	深さcm	備考
164P-116P:524	116P-114P:474	164P-193P:275 193P-116P:249	116P-115P:257 115P-114P:217	164P	119×115	103×97	25	
				193P	154×106	112×66	51	
				116P	167×142	67×46	57	二段
				115P	134×103	114×83	44	
				114P	104×78	40×32	47	二段
				161P	126×96以上	105×79以上	11	二段

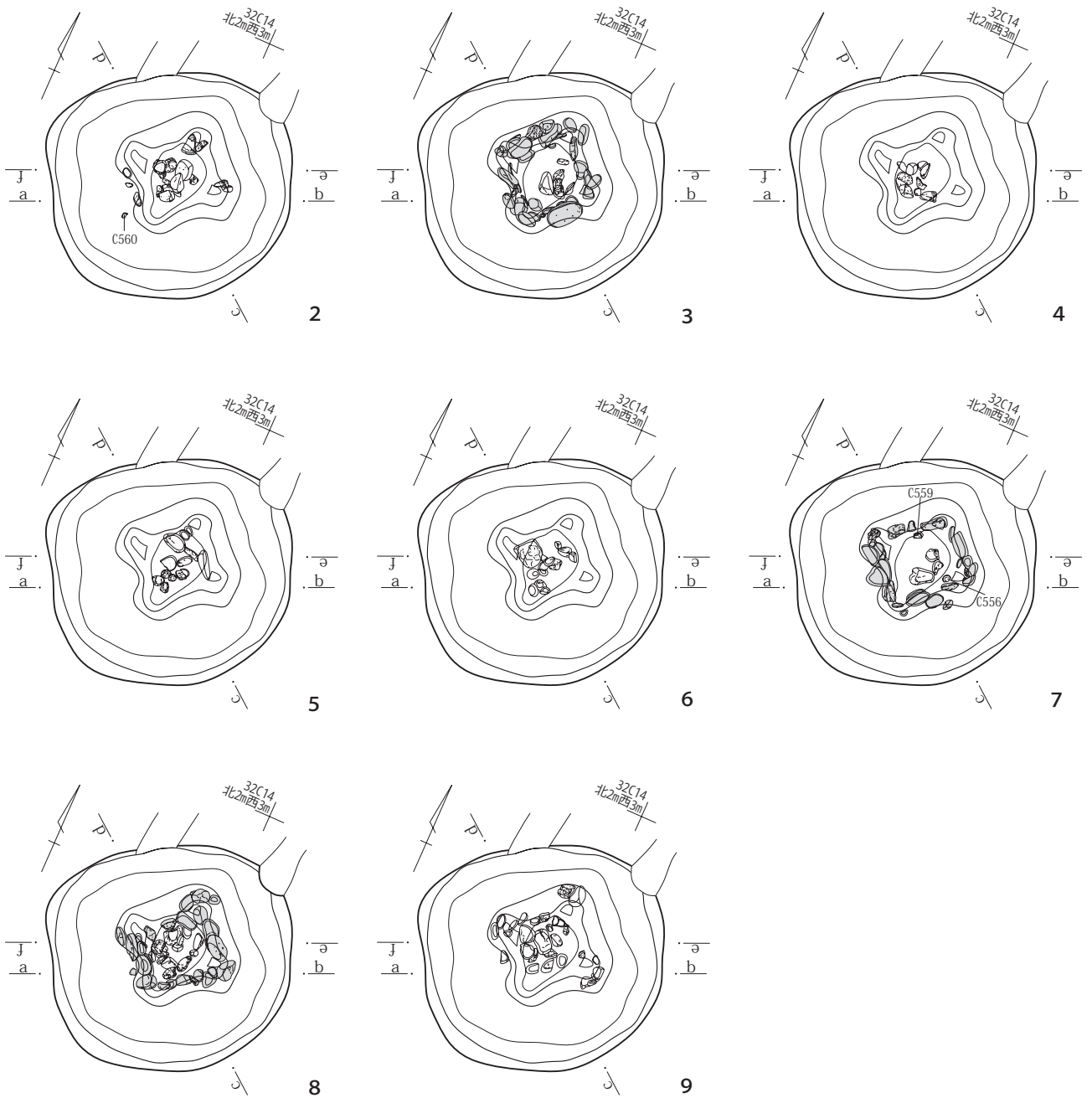
※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第134図 天王C区13掘立柱建物

遺構図(天王C区)



石積み分布状態

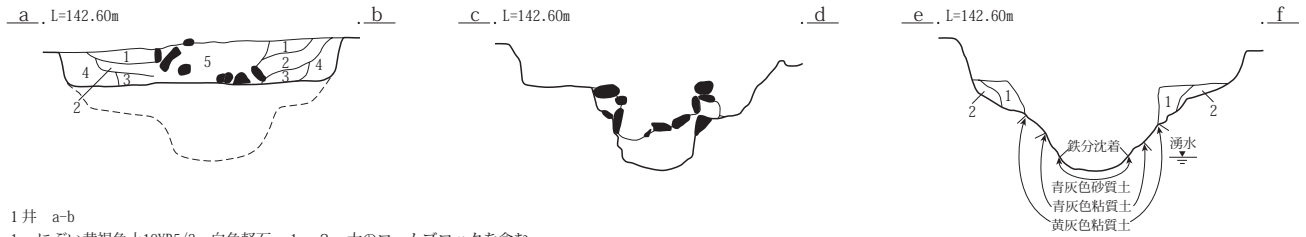


0 1:80 2m

第135図 天王C区1井戸(1)

第4章 検出された遺構と遺物

1井戸



1井 a-b

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。
- 2 1に0.5cm大の赤色粒子・10cm程のブロック1つを含む。
- 3 1よりロームブロックが大きい。
- 4 にぶい黄褐色土10YR5/4 ロームブロックを含む。下部ほどブロックが大きくなる。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・赤色粒子・2cm大のロームブロックを含む。縮まりなし。

掘り方 e-f

- 1 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・3~5cm大のロームブロックを含む。5cm大の小石が底面にある。石垣裏込め土。
- 2 ロームブロック 黄白色軽石を含む。裏込め土。



▲1井戸石除去2回目 東から



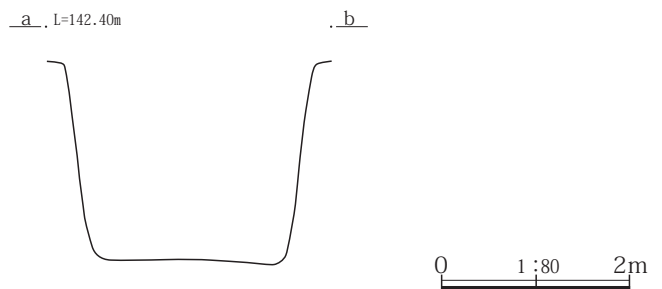
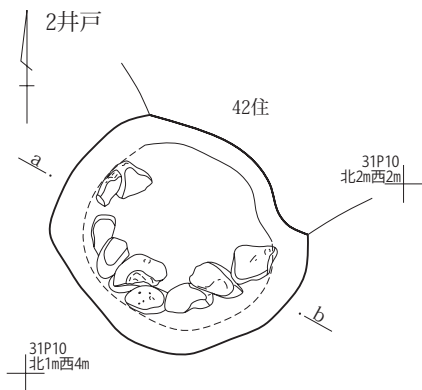
▲1井戸石除去4回目 北から



▲1井戸石除去5回目 東から

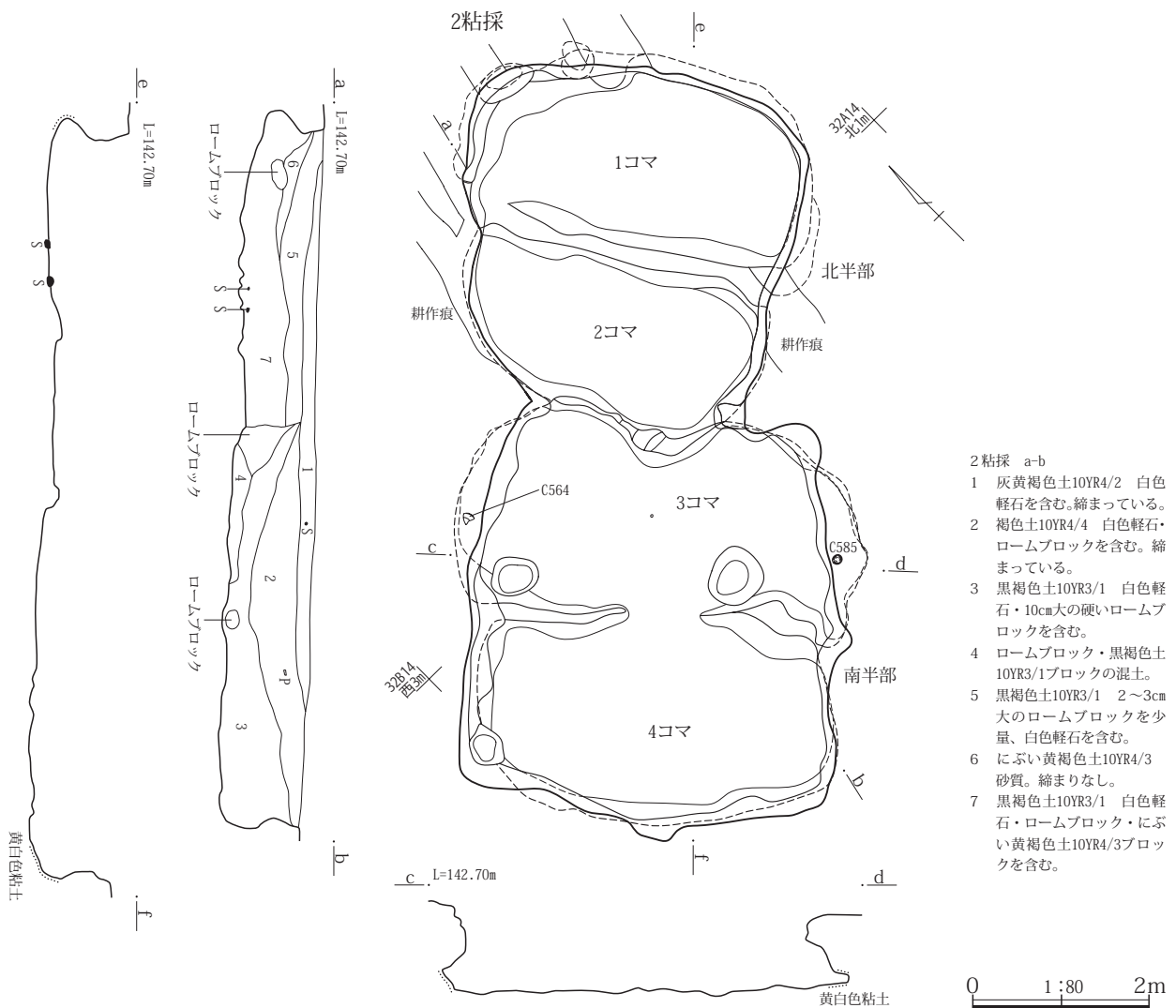
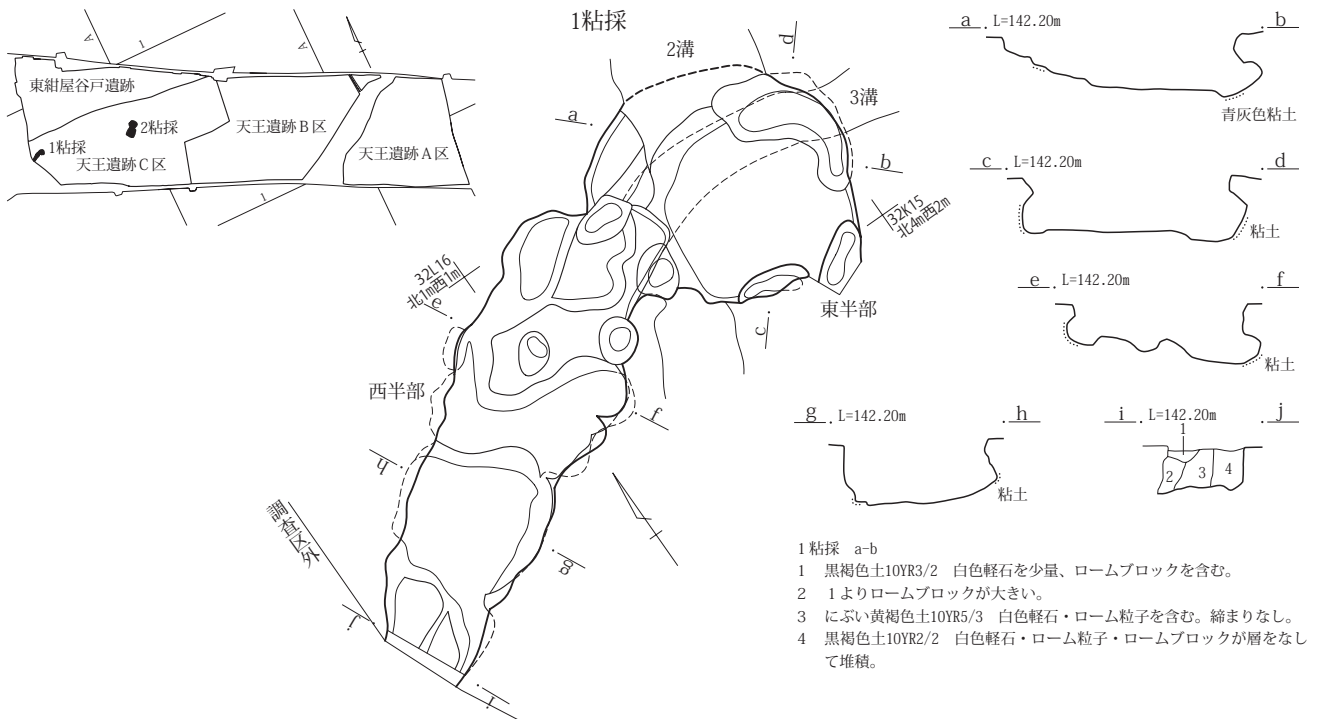


▲1井戸底面全景 東から



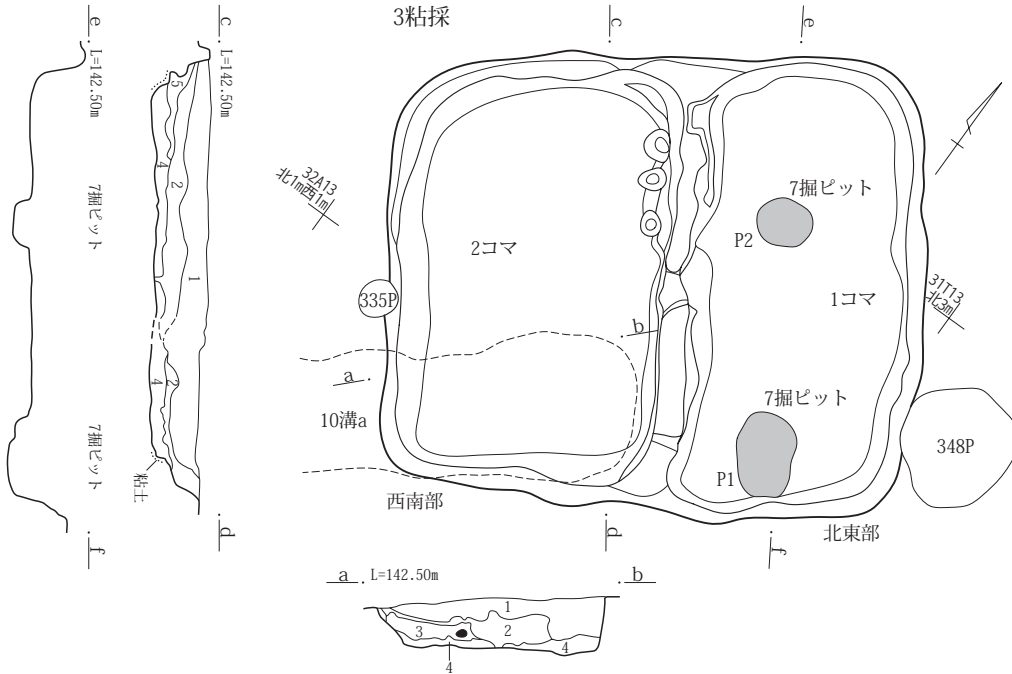
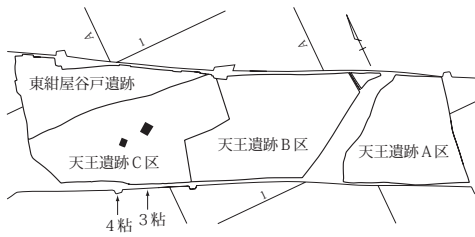
第136図 天王C区1井戸(2)、2井戸

遺構図(天王C区)



第137図 天王C区1・2粘土採掘坑

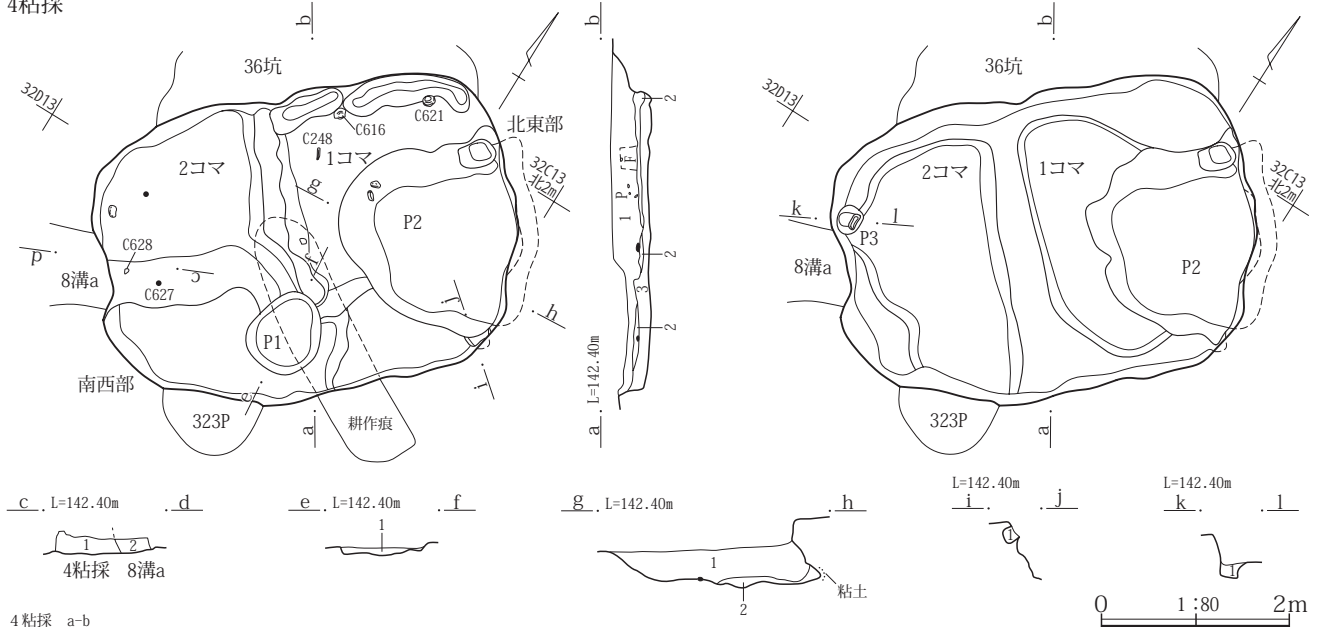
第4章 検出された遺構と遺物



3粘採 a-b,c-d

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、2~3cm大のロームブロックを含む。縮まっている。
- 2 1に似るがロームブロックが大きい。5~10cm大。縮まっている。
- 3 1に似る。縮まっている。
- 4 硬いロームブロックと汚れたロームの混土。1~3と明確に分離できるがよく混じっている。縮まっている。
- 5 黒褐色土10YR2/2 白色軽石・ロームブロックを含む。黒味強い。やや軟質。

4粘採



4粘採 a-b

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・焼土粒子を含む。縮まっている。
- 2 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石・ローム粒子を含む。軟らかい。
- 3 黒褐色土10YR3/2ブロックとロームブロックの混土。硬い。粘土採掘坑底面直上の土か。

c-d

- 1 灰黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。8溝a覆土。

P1 e-f

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。

i-j

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 焼土粒子を多く含む。

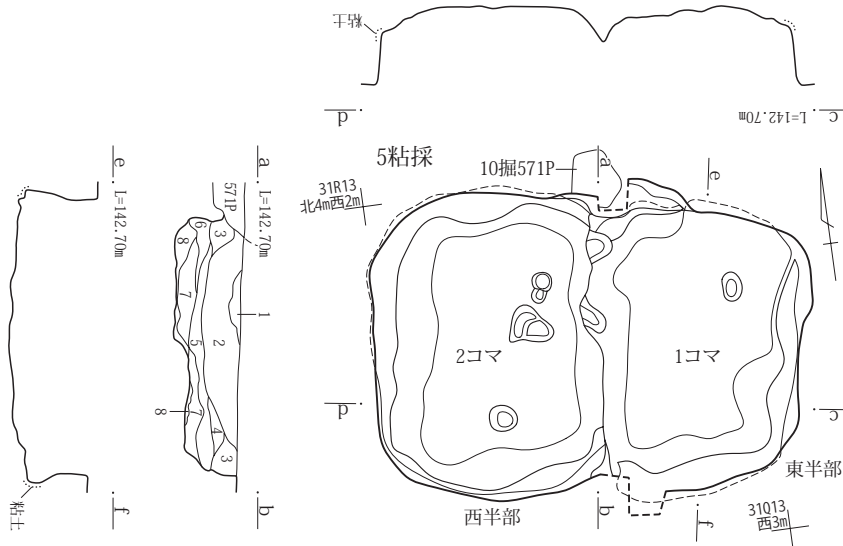
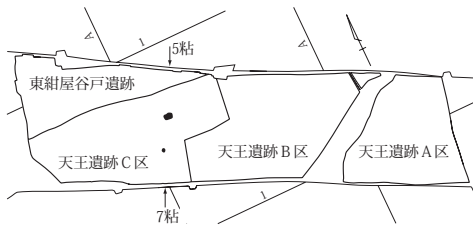
P2 g-h

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。縮まっている。
- 2 1に似るが白色軽石なし。黄色軽石を少量含む。ロームブロックを含む。

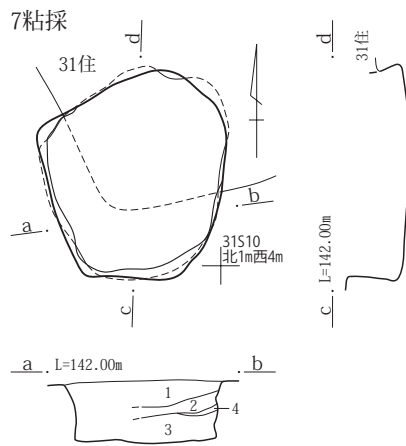
P3 k-l

- 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。

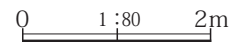
第138図 天王C区3・4粘土採掘坑



- 5粘探 a-b
- 1 暗褐色土10YR3/3 黄白色粘土ブロック・ロームブロック・焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土10YR3/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 3 2に似るがロームブロックを含まない。
 - 4 3に似るが白色軽石を含まない。
 - 5 暗褐色土10YR3/3 黄白色軽石を少量、黄白色粘土ブロック・ロームブロックを含む。
 - 6 5に似るがロームブロックが少ない。
 - 7 黒褐色土10YR3/2 黄白色軽石・黄白色粘土ブロックを含む。
 - 8 灰黄褐色土10YR6/2 砂質土+ロームブロックを少量含む。
- ※土層ベルトの下に地山の高まりがある。



- 7粘探 a-b
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 上位に白色軽石を含む。1cm大のロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。
 - 3 1よりロームブロックが大きい。
 - 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子を含む。締まりなし。

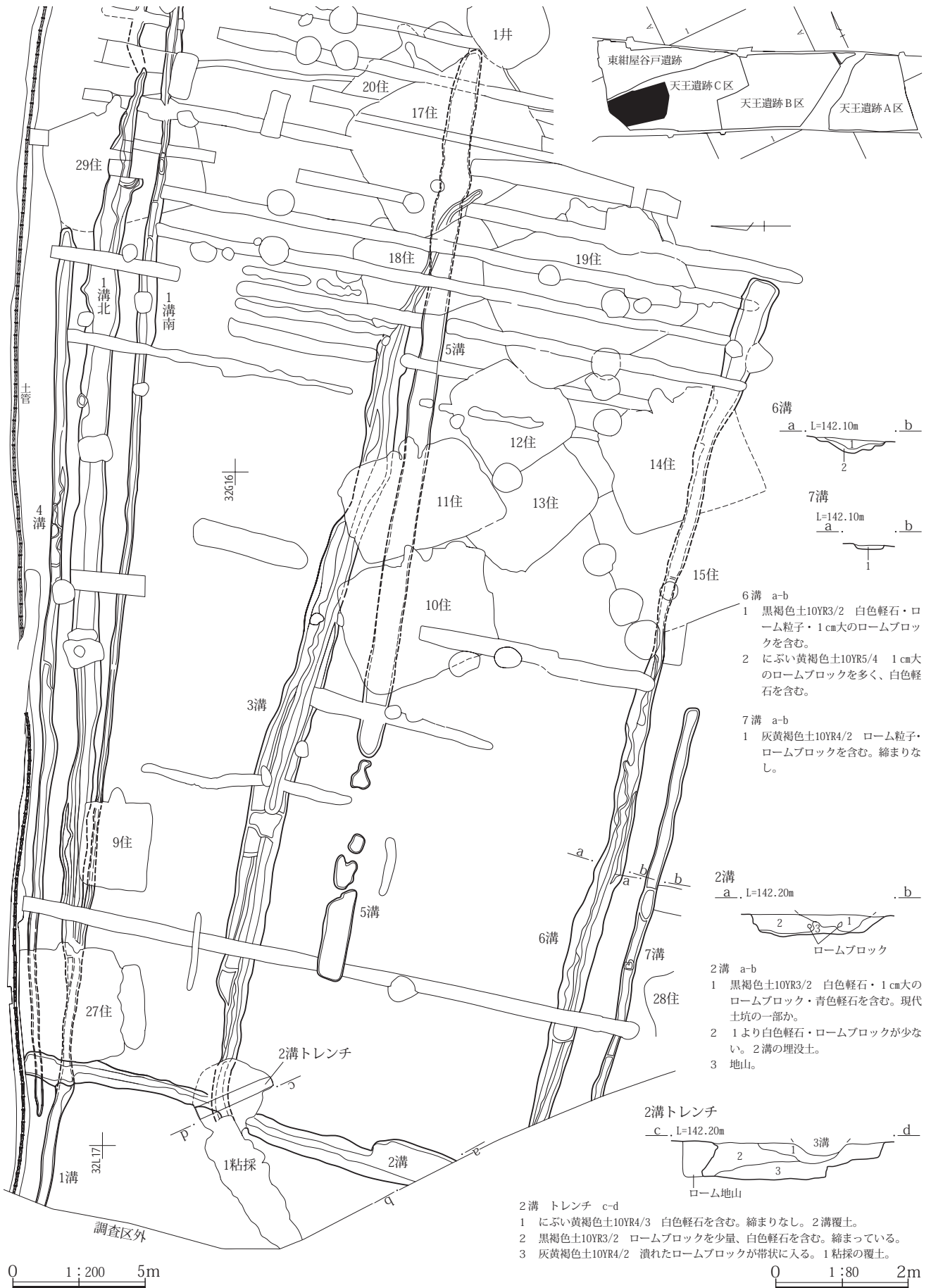


第28表 天王C区粘土採掘坑計測表

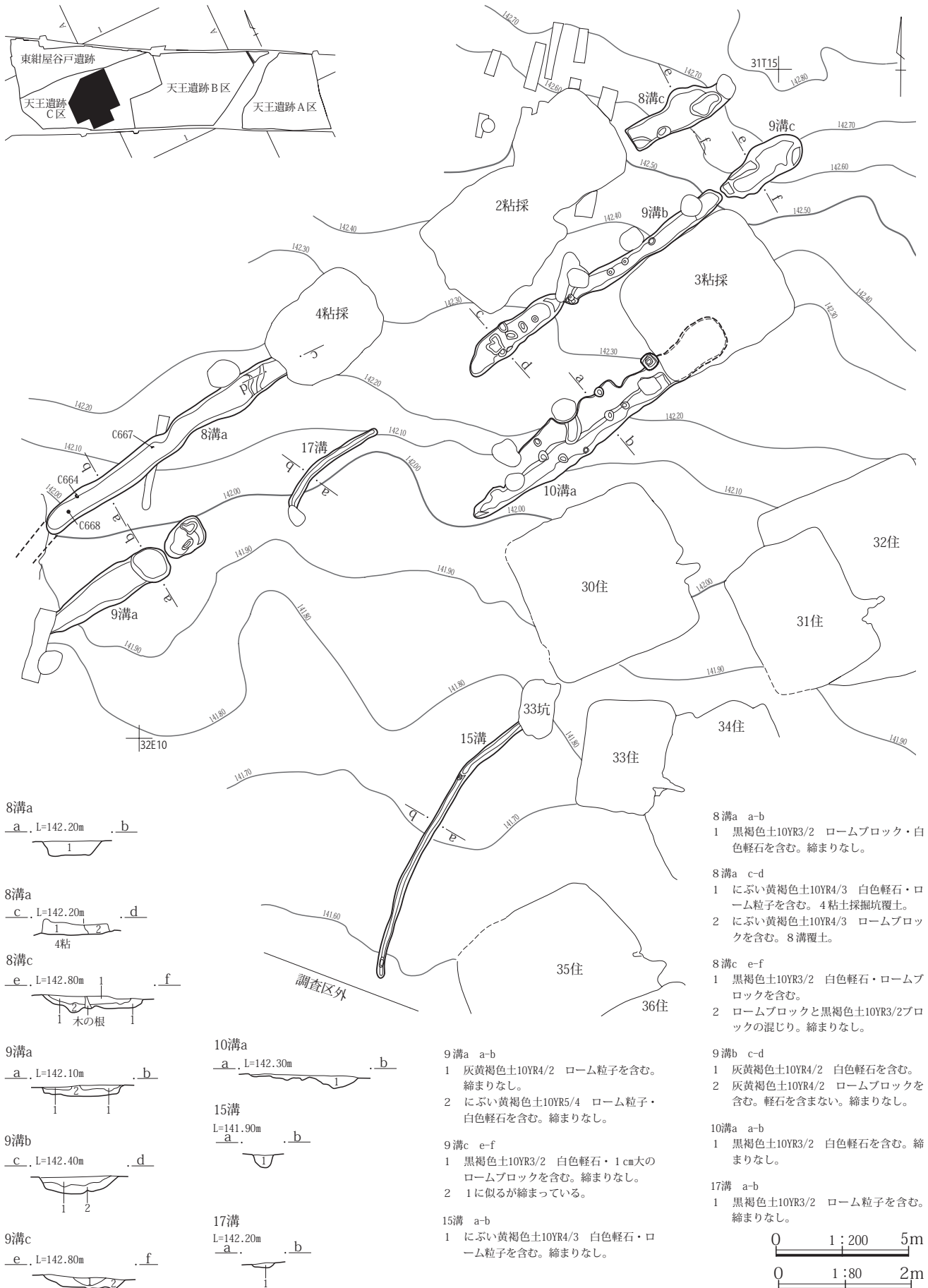
区	面	番号	時代・時期	およその年代推定	平面形	規模m	面積m ²		壁高cm	長軸方位	備考
							コマ面積	合計			
C	1	1	平安か		不整形・溝状	2×2, 1.5×5.5	東端部=3.32, 西半部=4.20	7.52	48~72	-	1粘→3溝
C	1	2	飛鳥~奈良か	7c後半~8c前半	略方形×2	8.77×3.51・4.22	1=7.32, 2=4.82 3=7.98, 4=7.80	27.92	北:73~93 南:75~105	N42°E	2粘→耕作痕
C	1	3	平安以前		略長方形	5.71×4.81	1コマ=8.21, 2コマ=8.85	17.06	37~61	N57°E	3粘→10溝a
C	1	4	平安	9c後半	略楕円形	4.36×3.18	1コマ=6.30, 2コマ=4.78	11.08	南西:29~39 北東:23~28	N48°E	4粘→8溝a・323P
C	1	5	平安	9c前半	隅丸長方形	4.50×2.97	1コマ=5.26, 2コマ=5.69	10.95	東:72~85 西:72~88	N81°W	5粘→10掘立柱
C	1	6	奈良	8c前半	不整形	4.50×5.17	18.77	18.77	23~114	-	48住居→6粘→38住居
C	1	7	平安以前	7c後半か	不整形	2.21×2.00	3.40	3.40	59~62	N1°E	7粘→31住居

※1 計測値は1/20原図から起こした数値

第139図 天王C区5・7粘土採掘坑



第140図 天王C区1~7溝



8溝a
a. L=142.20m . b.

8溝a
c. L=142.20m . d.

8溝c
e. L=142.80m . f.

9溝a
a. L=142.10m . b.

9溝b
c. L=142.40m . d.

9溝c
e. L=142.80m . f.

10溝a
a. L=142.30m . b.

15溝
L=141.90m
a. . b.

17溝
L=142.20m
a. . b.

9溝a a-b
1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。
2 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム粒子・白色軽石を含む。縮まりなし。

9溝c e-f
1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。縮まりなし。
2 1に似るが縮まっている。

15溝 a-b
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子を含む。縮まりなし。

8溝a a-b
1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・白色軽石を含む。縮まりなし。

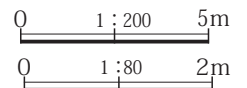
8溝a c-d
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子を含む。4粘土採掘坑覆土。
2 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。8溝覆土。

8溝c e-f
1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。
2 ロームブロックと黒褐色土10YR3/2ブロックの混じり。縮まりなし。

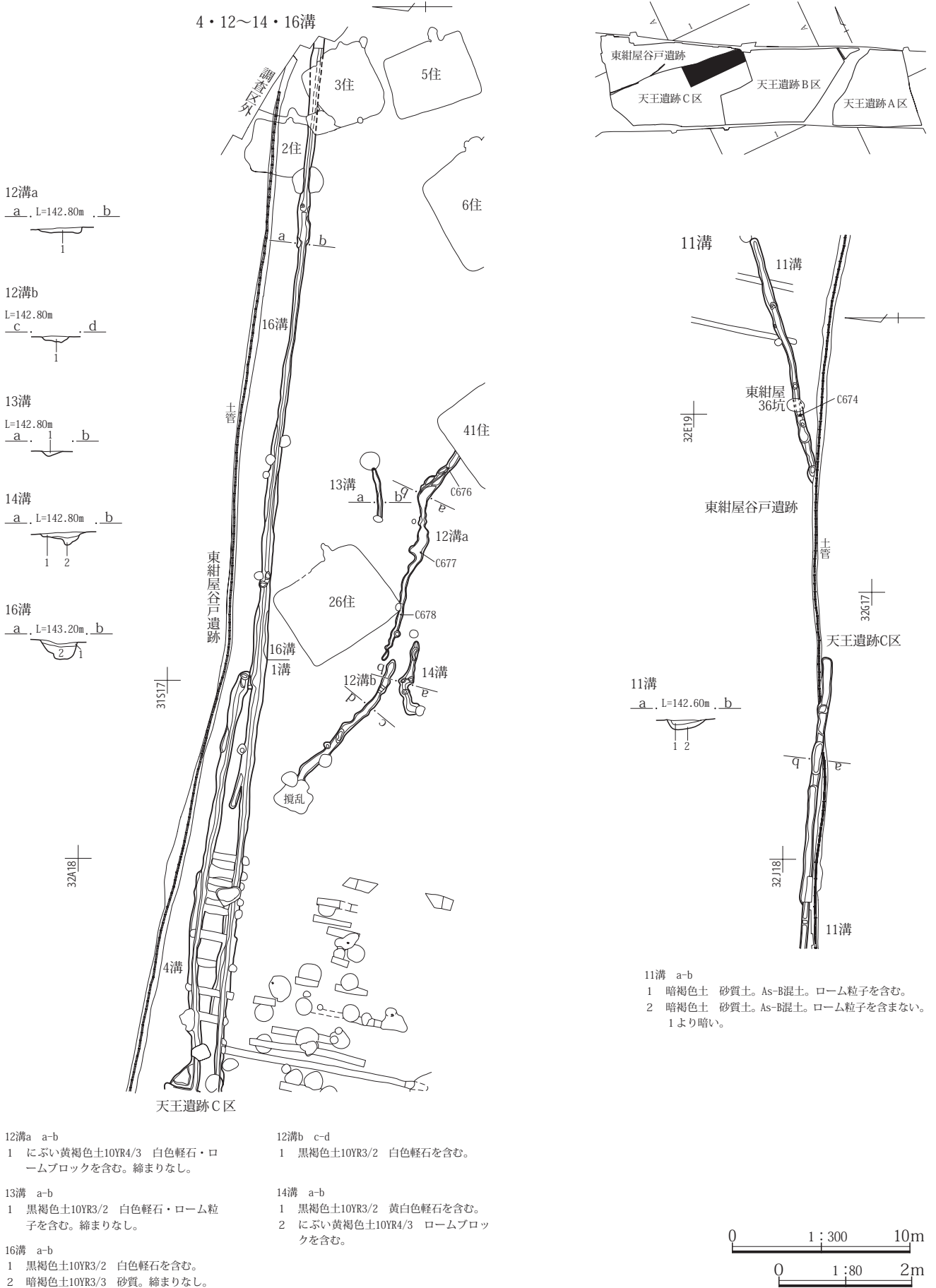
9溝b c-d
1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を含む。
2 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを含む。軽石を含まない。縮まりなし。

10溝a a-b
1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を含む。縮まりなし。

17溝 a-b
1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。

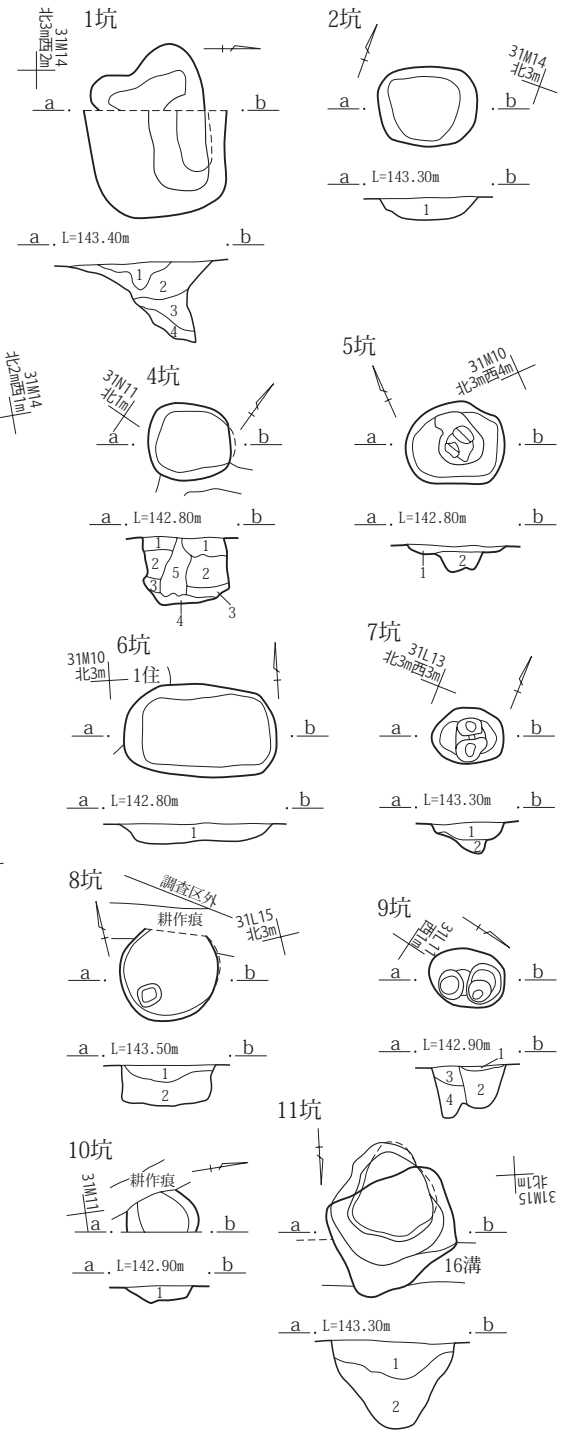
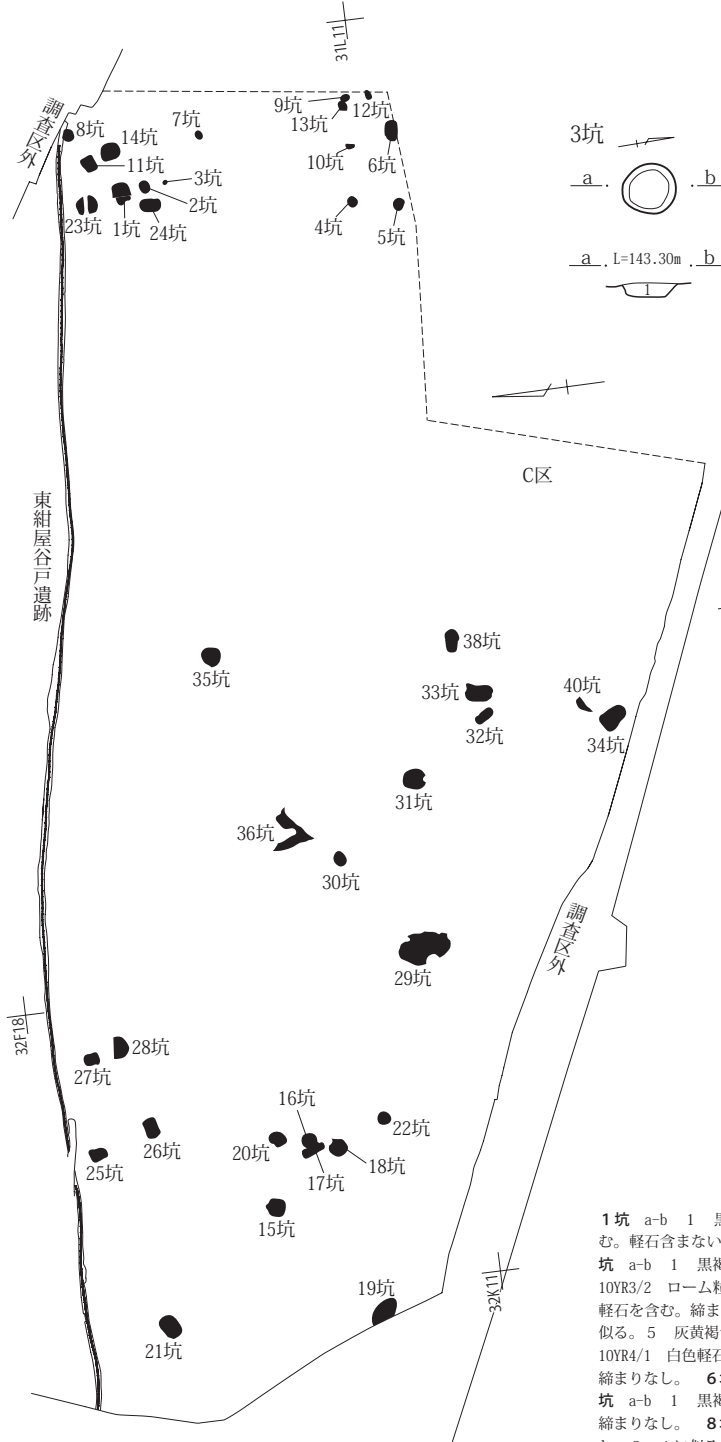
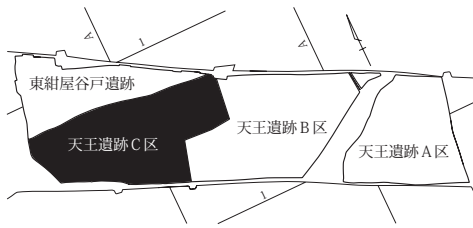


第141図 天王C区8~10・15・17溝

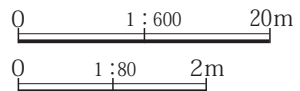


第142図 天王C区11~14・16溝

遺構図(天王C区)

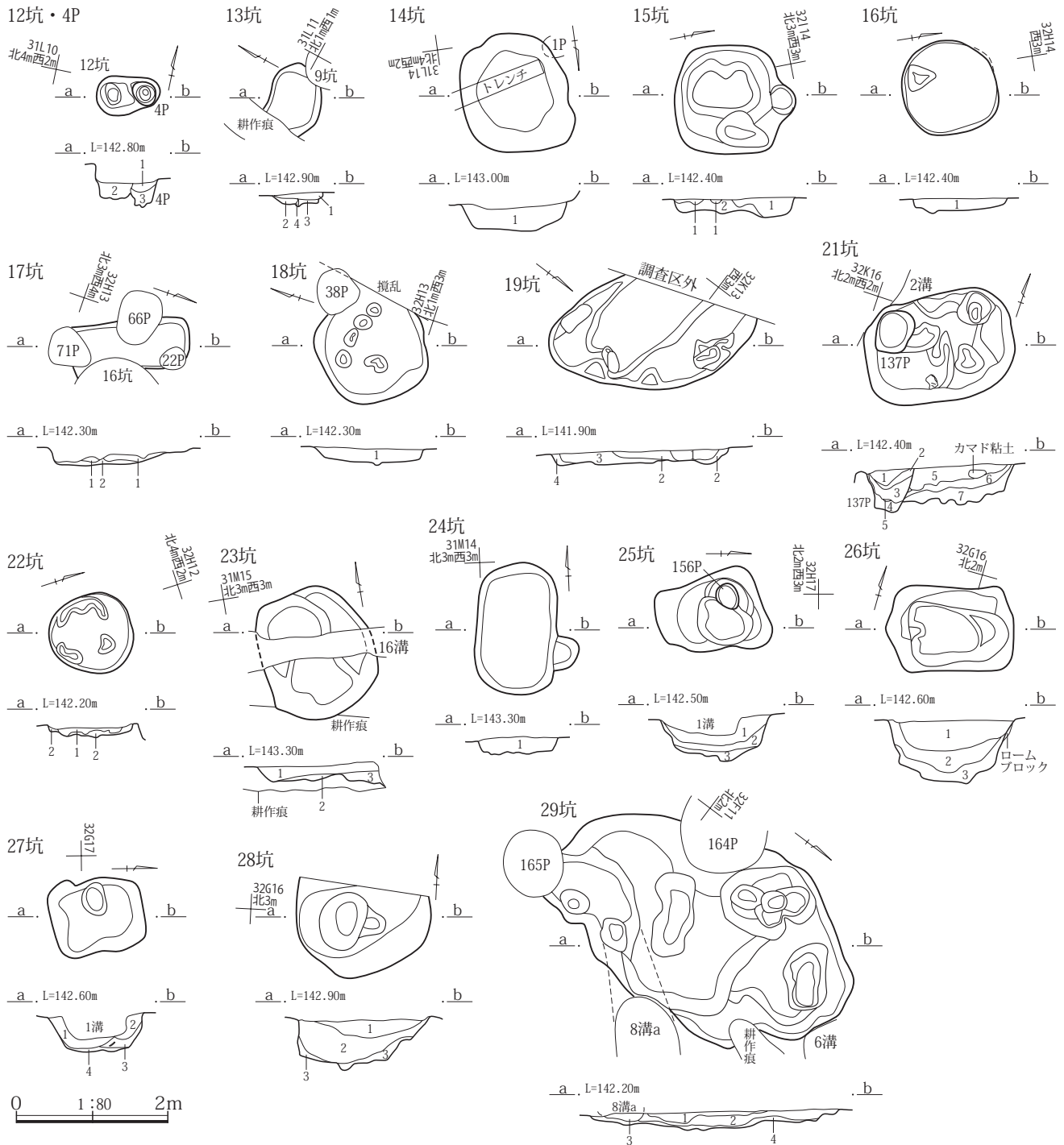


1坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く含む。2 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量含む。軽石含まない。3 2に似るがローム粒子を含まない。縮まりなし。4 3にロームを含む。 2坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、ローム粒子を少量含む。 3坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量含む。 4坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。縮まりなし。2 1に似るが軽石が少ない。3 黒褐色土10YR3/2 縮まりなし。4 2に似る。5 灰黄褐色土10YR5/2 ローム粒子・白色軽石を少量含む。柱痕か。 5坑 a-b 1 褐灰色土10YR4/1 白色軽石・ロームブロックを含む。2 灰黄褐色土10YR4/2ブロックとロームブロックの混土。縮まりなし。 6坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を多く含む。縮まりなし。 7坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。2 1に似るが軽石を含まない。縮まりなし。 8坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを多く、白色軽石を含む。縮まりなし。2 1に似るが軽石を含まない。縮まりなし。 9坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 上位に白色軽石を含む。ロームブロックを含む。3 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。4 3にロームブロックを含む。縮まりなし。 10坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。縮まりなし。 11坑 a-b 1 黒褐色土10YR2/3 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。縮まっている。2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。縮まりなし。



第143図 天王C区 1~11土坑

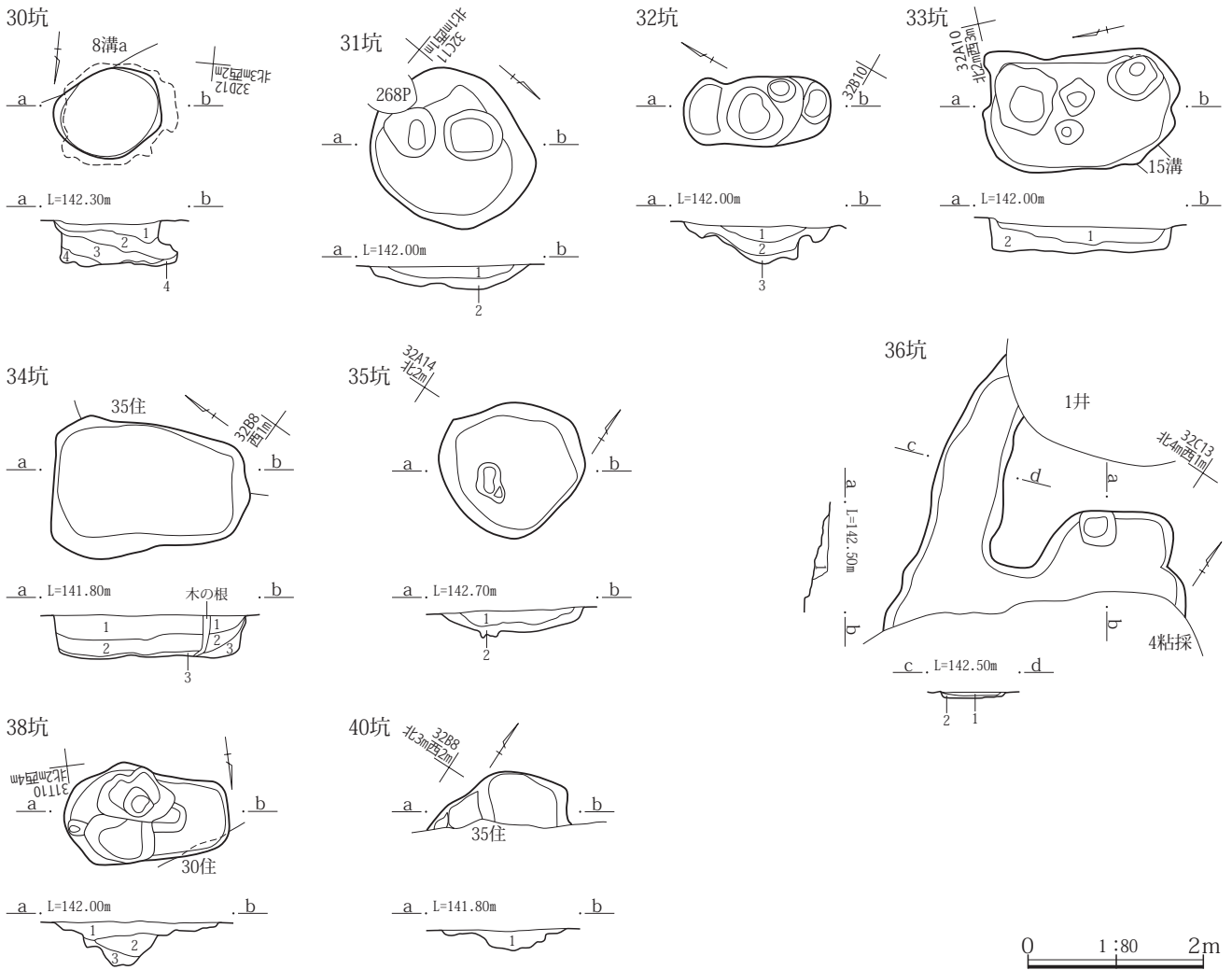
第4章 検出された遺構と遺物



12坑・4P a-b 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・赤色土を含む。2 には黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ローム粒子・赤色土を含む。3 には黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。縮まりなし。13坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤色土を含む。2 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石を含む。縮まりなし。3 2に赤色土を含む。縮まりなし。4 2に似るが白色軽石を含まない。14坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/1 灰黄褐色土10YR4/2ブロックを斑点状に含む。15坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1~5cm大のロームブロック・赤色土を含む。2 明黄褐色土10YR6/6 ローム粒子を含む。縮まりなし。16坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。17坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。縮まりなし。2 1に青灰色シルトを含む。ロームブロックを少量含む。18坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 2~3cm大のロームブロック・粘土を多く、白色軽石・焼土を含む。19坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を多く、白色軽石・5cm大のロームブロックを含む。2 1に似るが白色軽石を含まない。3 灰黄褐色土10YR4/2 1~3cm大のロームブロックを多く含む。4 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。20坑 2掘の一部。21坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・2cm大のロームブロック・焼土粒子を含む。2 1に似る。ロームブロックを含まない。3 1より焼土粒子が多い。4 1より焼土粒子が多い。ロームブロックを含まない。5 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。カマド粘土のブロックを含む。6 には黄褐色土10YR4/3 白色軽石を含む。7 6よりロームブロックが大きく多い。カマド粘土のブロックを含む。22坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。2 には黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを多く含む。23坑 a-b 1 には黄褐色土10YR4/3 黄白色軽石を含む。23坑覆土。2 1にロームブロックを含む。23坑覆土。3 暗褐色土10YR3/3 白色軽石を含む。2位覆土。24坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 縮まりなし。現代土坑。25坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが多い。3 1に青灰色シルトを含む。26坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石。2 1より軽石が少ない。ロームブロックが大きく多い。3 2に青灰色シルトを含む。4 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。27坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土。2 には黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。3 2よりロームブロックが少ない。縮まりなし。4 には黄褐色土10YR6/3 1~2cm大のロームブロックを含む。28坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・1~2cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きく多い。3 には黄褐色土10YR6/3 ローム粒子を含む。29坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。2 には黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。3 黒褐色土10YR3/2 1cm大のロームブロックを含む。8溝覆土。4 2よりロームブロックを多く含む。

第144図 天王C区12~19・21~29土坑、4P

遺構図(天王C区)



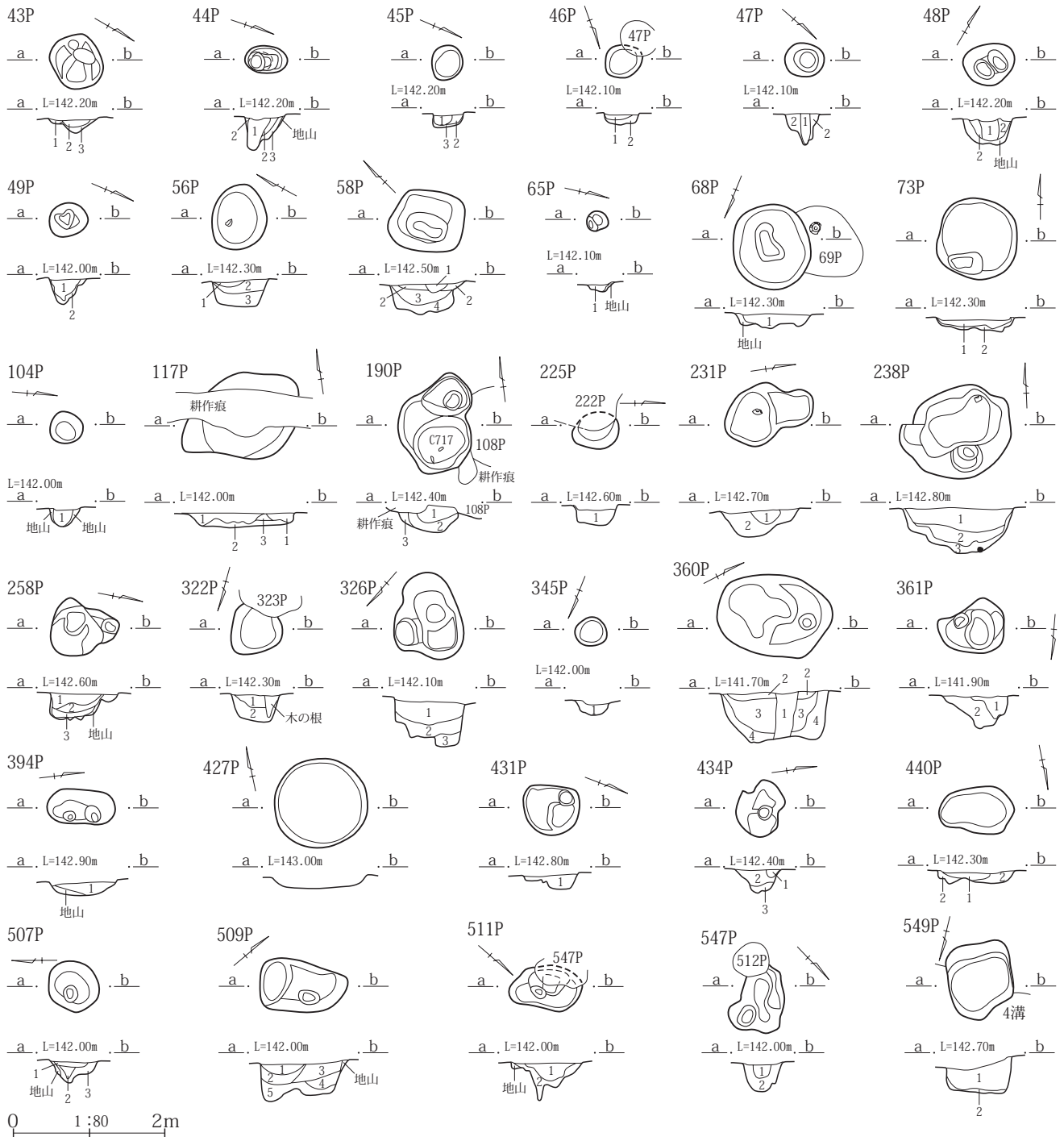
30坑 a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・赤色土・1cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックの割合は少ないが粒が大きい。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 上位に3cm大のロームブロックを含む。4 3よりローム粒子・ロームブロックを多く、白色軽石を含む。31坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石を多く、1cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きく多い。ローム粒子を含む。32坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子・赤褐色土粒を含む。2 1より白色軽石が少ない。ロームブロックを含む。3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム粒子・ロームブロックを含む。33坑 a-b 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロック・黒褐色土を含む。2 1よりロームブロックが少なく黒褐色土が多い。34坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが大きく多い。赤色土粒子を少量含む。3 にぶい黄褐色土10YR5/3 ロームブロックを含む。35坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。2 にぶい黄褐色土10YR5/3 白色軽石・ロームブロックを含む。36坑 a-b 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。36坑西側 c-d 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ロームブロックを含む。2 灰色砂。締まりなし。川砂か。38坑 a-b 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1に黒色土ブロックを含む。軽石が少ない。締まりなし。3 1とロームブロックの混土。40坑 a-b 1 黒褐色土10YR3/2+白色軽石ブロックとロームブロックの混土。締まりなし。木の根か。

第29表 天王C区土坑計測表

番号	遺構	検出位置 グリッド	形状	長×短・深cm	遺物 登録	破片 須=須恵器 土=土師器	備考
1	土坑	31M14	不整形	183×146・83			風倒木か。
2	土坑	31M14	略楕円形	103×84・26		土26g	
3	土坑	31M14	円形	57×53・17			小規模。
4	土坑	31M11	略方形	95×89・71			1住→4坑,東壁下位挟れる。
5	土坑	31M・N10	不整形	105×88・34			掘立柱の柱穴か。
6	土坑	31L10	略楕円形	161×97・23		土6g	1住→6坑
7	土坑	31L13	不整形	76×60・40		土33g	掘立柱の柱穴か。
8	土坑	31L15	略円形	105×101・33		須28g,土11g	3住→8坑→土管暗渠
9	土坑	31L11	略楕円形	81×60・64			13坑→9坑,掘立柱柱穴か。
10	土坑	31L11	円形か	76×45・16		土20g	1住→10坑→耕作痕
11	土坑	31L15	台形に近い	160×140・96			3住→11坑→16溝,南壁下位挟れる。
12	土坑	31L10	不整形	84×53・48		土69g	4Pと隣接,45P→12坑,B区2井戸関連土坑
13	土坑	31L11	不整形	83×74・16		土27g	13坑→9坑→耕作痕
14	土坑	31L14・15	不整形	175×145・30			3住→14坑→耕作痕
15	土坑	32I14	不整形	158×143・27		須4g,土76g	2掘立柱の内部,31P→15坑,底面上に凸
16	土坑	32H3	略楕円形	130×122・16		土18g	17坑→16坑
17	土坑	32H3	長方形	158×68・11		土4g	17坑→16坑,17坑→22・66・71P,耕作痕か。
18	土坑	32H3	略方形	153×141・28			18坑→38P,底面に小穴5個
19	土坑	32K12・13	略楕円形か	272×148・30		土28g	26住→19坑,粘探か。
20	土坑	32H4				須22g,土31g	2掘立柱の柱穴,第121図に相載
21	土坑	32K16	略長方形	193×142・61		須18g,土820g	2溝→21坑→137P,底面凹凸多い。
22	土坑	32H12	隅丸三角形	111×105・20		須106g,土109g	浅い。
23	土坑	31M15	不整形	175×146・35			2住→23坑→16溝
24	土坑	31M14	楕円形	172×107・21			耕作に伴う土坑か。
25	土坑	32H16・17	不整形	159×111・59		須35g,土165g	25坑→1溝・156P・157P,掘立柱の柱穴か。
26	土坑	32C・H16	長方形	166×113・81			底面さらに深い。
27	土坑	32F16・17	略長方形	120×102・55		須21g,土14g	27坑→1溝,掘立柱の柱穴か。
28	土坑	32F16	不整形	175×123・78		土42g	28坑→1溝,掘立柱の柱穴か。
29	土坑	32E11・12F11	略楕円形	421×256・58		土21,石13個	8溝→29坑→164P・165P・耕作痕,平安時代か
30	土坑	32D12	略円形	118×94・55		須72,土376g	30坑→8溝,壁下位が挟れる,粘探か。
31	土坑	32B・C11	不整形	187×166・30		土21g	6掘立柱の内部,31坑→268P
32	土坑	32B10	不整形	166×80・55		須109g,土274g	ピット4個の連結か。
33	土坑	32A10	不整形	206×136・46		須88g,土131g	15溝→33坑→419P,底面に小穴4個
34	土坑	32B7・8	不整形	225×157・46		須49g,土342g	35住→34坑
35	土坑	31T14	不整形	159×154・36		須62g,土176g	底面に小穴1
36	土坑	32C13	不整形	336×297・11		須61g,土128g	36坑→4粘探・1井戸,浅い。4粘探の一部か。
37	土坑	31S・T10					7粘探に変更
38	土坑	31T・32A10	不整形	185×116・71		須6g,土13g	30坑→38坑
39	土坑	欠番					
40	土坑	32B8	不整形	160×58・37			40坑→35住

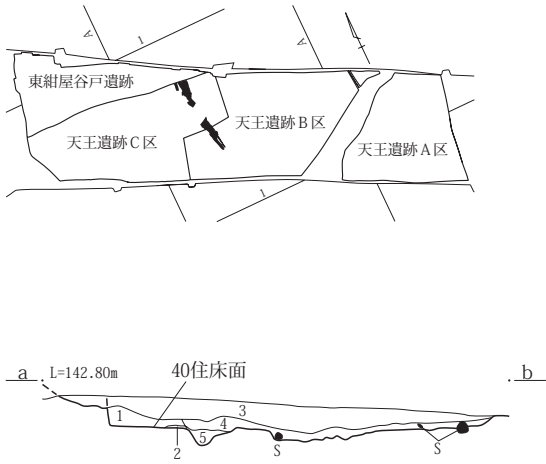
第145図 天王C区30~36・38・40土坑

第4章 検出された遺構と遺物



43P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。3 1に1~2cm大のロームブロックを含む。締まりなし。44P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックの割合が多い。3 1とほぼ同じだが軽石が少ない。45P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・赤色土粒子・ローム粒子を含む。2 1に似るが軽石を含まない。ローム粒子を多く含む。締まりなし。3 1に1~2cm大のロームブロックを含む。46P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。47P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。48P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・1~2cm大のロームブロックを含む。49P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・2cm大のロームブロックを含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。56P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・1cm大のロームブロックを含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。3 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ロームブロックを含む。4 明黄褐色土10YR6/6 ローム粒子。地山。58P a-b 1 1に1~2cm大のロームブロックを含む。締まりなし。73P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・白色軽石を含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。104P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子・3cm大のロームブロックを含む。117P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ロームブロックを含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。白色軽石が多い。190P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。225P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。231P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。白色軽石・赤色土粒子・ローム粒子を含む。238P a-b 1 1に1~2cm大のロームブロックを含む。258P a-b 1 1に1~2cm大のロームブロックを含む。2 1より軽石が少なくロームブロックが多い。3 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を含む。上位に白色軽石を少量含む。322P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックの割合が多い。326P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。360P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石・ローム粒子・ロームブロックを含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。361P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 上位に白色軽石を含む。ローム粒子を含む。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。427P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤色土粒子・ローム粒子を含む。締まりなし。431P a-b 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロックを含む。締まりなし。434P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。440P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。507P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ロームブロックを含む。2 1よりロームブロックが多い。3 1よりロームブロックが大きく多い。509P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土。2 1よりロームブロックが少ない。3 2よりロームブロックが多い。4 3よりロームブロックが少ない。5 1に1~2cm大のロームブロックを含む。白色軽石を少量含む。394P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤色土粒子を含む。締まりなし。431P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・ローム粒子を含む。締まりなし。2 1に1~2cm大のロームブロックを含む。511P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 白色軽石・赤色土粒子・ローム粒子を含む。締まりなし。547P a-b 1 黒褐色土10YR3/2 ローム粒子を多く、白色軽石を少量含む。2 1よりローム粒子・軽石が少ない。549P a-b 1 灰黄褐色土10YR4/2 ロームブロックとの混土。白色軽石を少量含む。2 1に青灰シルトを含む。締まりなし。

第146図 天王C区ピット(43P-549P)



1道路 a-b

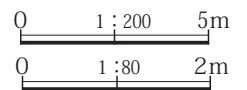
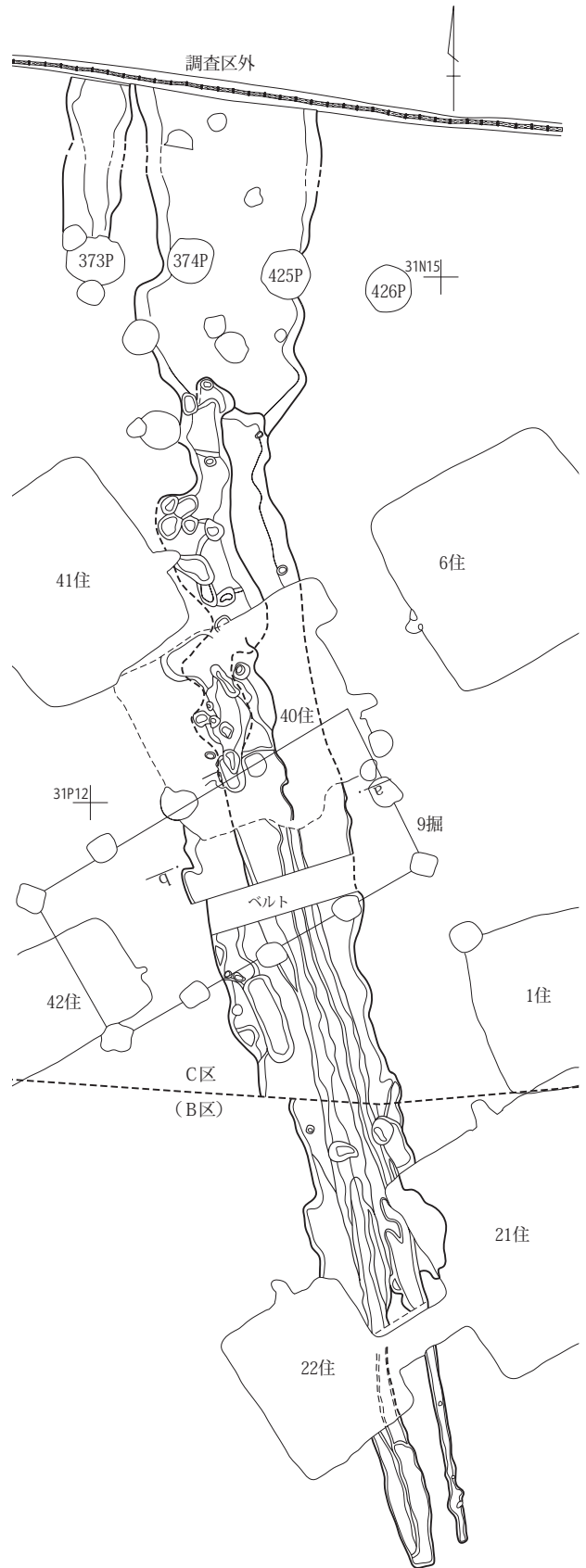
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。締まっている。40住埋没土。
- 2 つぶれたロームブロックと1のブロックの混土。40住埋没土。
- 3 暗褐色土 白色軽石を含む。道路覆土。
- 4 3の一部に明緑灰色土7.5GYを含む。砂質土。道路覆土。
- 5 3にロームブロックを含む。



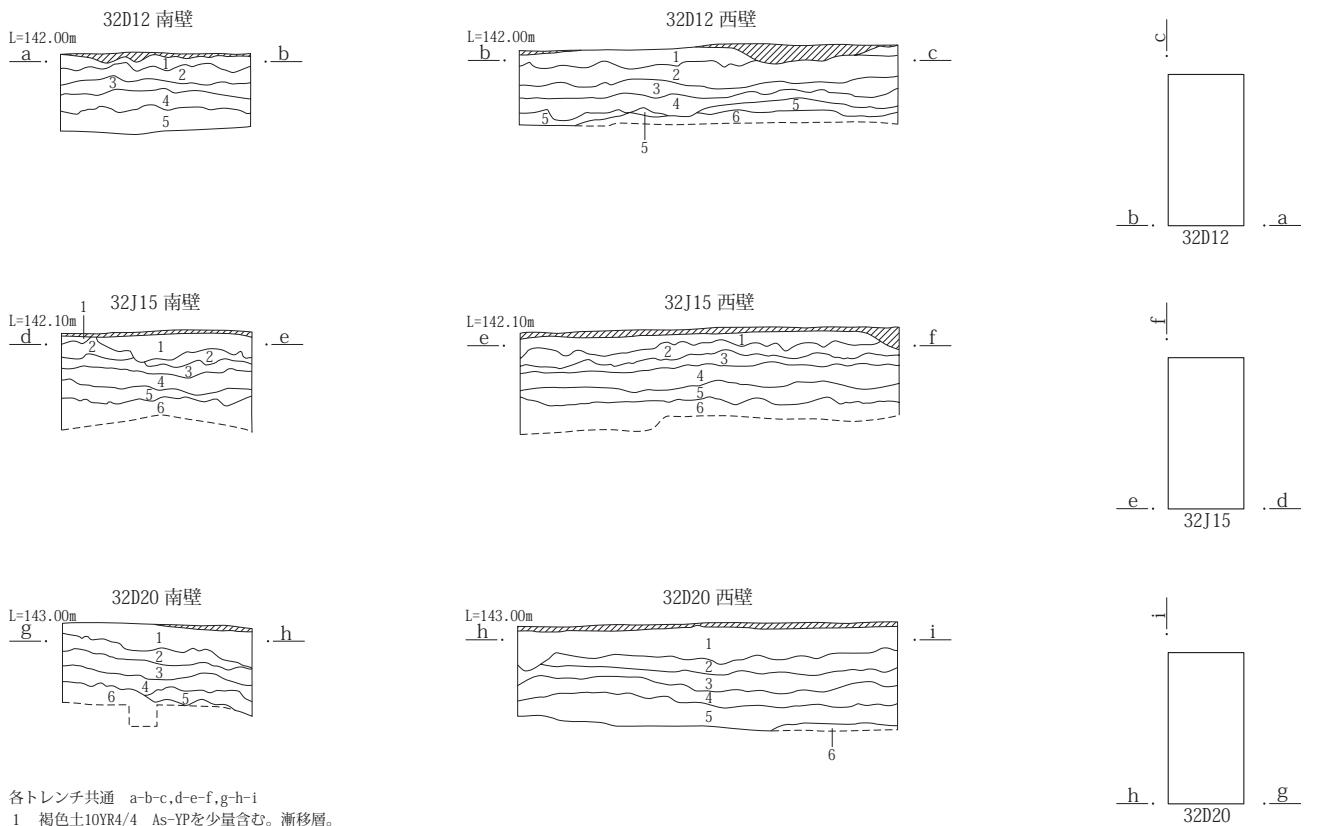
▲C区40住居付近の1道路



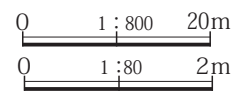
▲B区21-22住居にかかる1道路



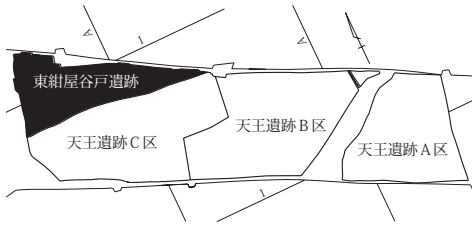
第147図 天王C区1道路



- 各トレンチ共通 a-b-c,d-e-f,g-h-i
- 1 褐色土10YR4/4 As-YPを少量含む。漸移層。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 As-YPブロックを多く含む。
 - 3 明黄褐色土10YR6/6 As-YP・As-OKをやや多く含む。粘性あり。
 - 4 明黄褐色土10YR6/6 As-OKを少量含む。粘性・縮まりあり。
 - 5 にぶい黄褐色土10YR7/4 シルト質土。粘性あり。縮まっている。
 - 6 灰オリープ5Y5/2 砂質土。縮まっている。



第148図 天王C区・東紺屋谷戸遺跡 旧石器確認トレンチ



東紺屋谷戸遺構集計

	1面	小計
住居	1~23 欠番8	17 (9a・b・c住)
竪穴	0	0
掘立柱建物	1~13	13
柵	1	1
井戸	1・2	2
溝	1	1
粘土採掘坑	1~12	12
火葬跡	1	1
土坑	1~36 欠番11	25
ピット	1~199 欠番87	112 (31A・B・C坑)
道路	1	1
その他	0	0

2, 13, 14, 16, 18, 20, 21, 22住 = 粘探土坑・ピット = 掘立柱



▲11住居カマド調査風景 北から

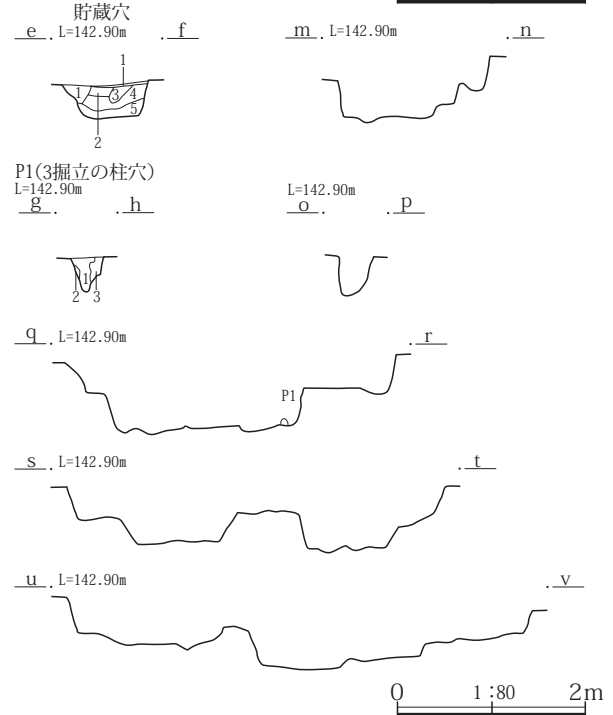
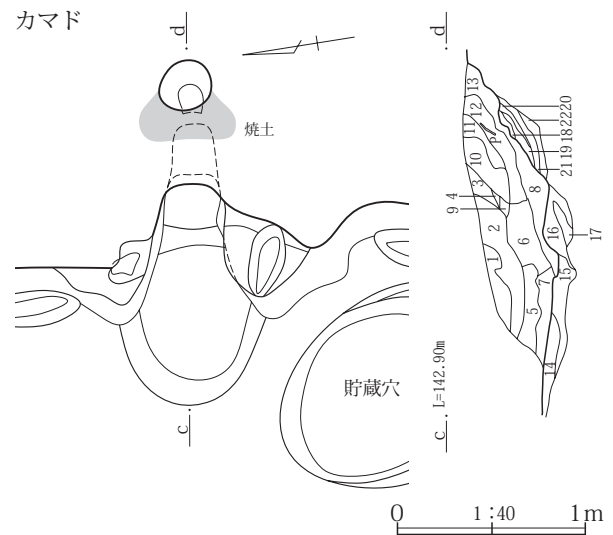
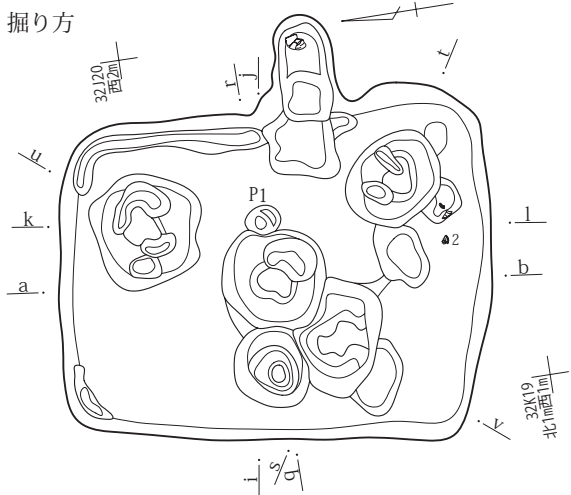
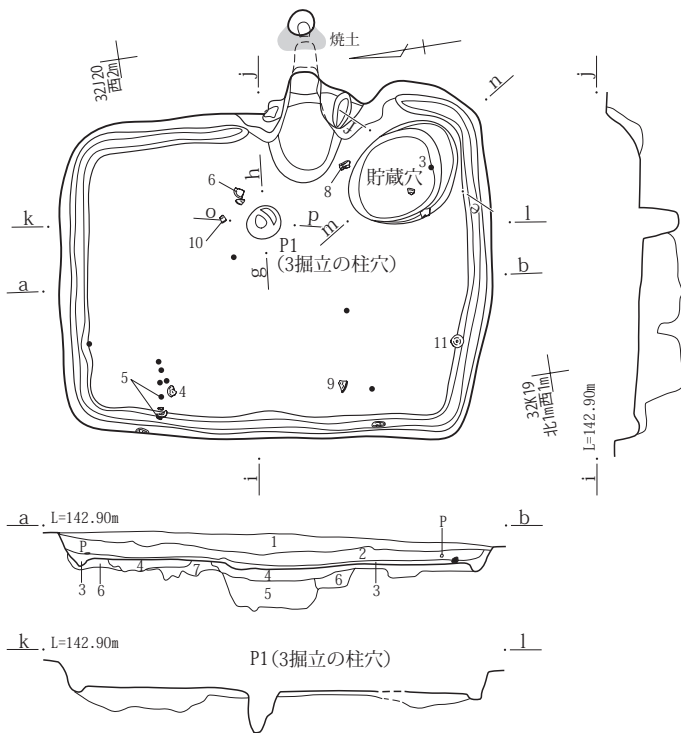


▲調査区から榛名山を望む



第149図 東紺屋全体図

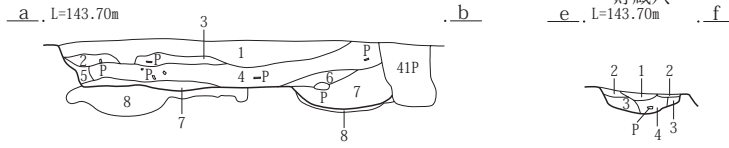
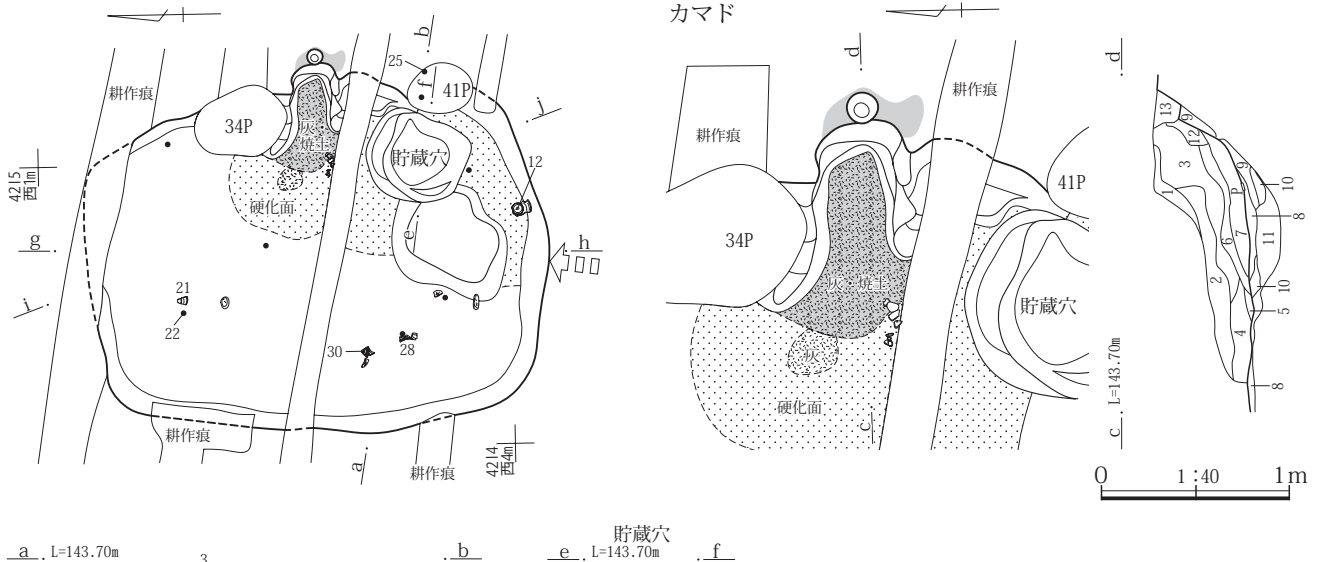
第4章 検出された遺構と遺物



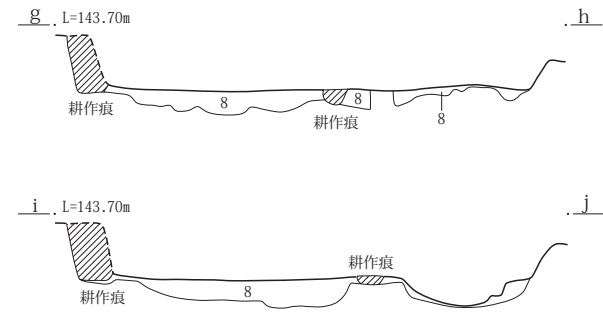
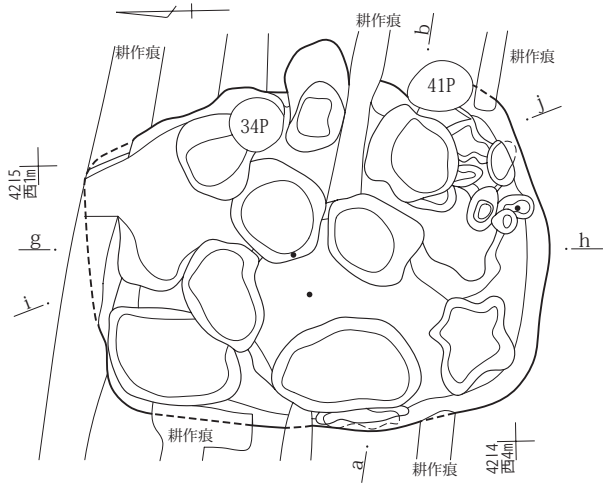
- a-b
- 1 黒色土 大粒の白色軽石を多量に含む。粘性なし。
 - 2 黒色土 1と同じく白色軽石を含むが量が少なく散在する程度。2~3cm大のロームブロックを少量含む。
 - 3 黒褐色土 白色軽石を極少量、小粒のロームブロックを含む。壁近くではロームブロックの量が多くなる。締め、粘性とも強い。床面直上の土。
 - 4 黒褐色土 黒色土・ロームブロック・焼土等が縞状を呈し、締まっている。床面を形成する土。
 - 5 黒褐色土 4に似るが縞状ではなくブロック状となっている。
 - 6 黄褐色土 ロームブロックが主体で、黒色土をブロック状に含む。
 - 7 褐色土 均一な層で砂質土。
- 貯蔵穴 e-f
- 1 黒褐色土 黒色土にロームブロックを多量、焼土を少量含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロックと褐色土ブロックの混土。焼土を含む。
 - 3 黄褐色土 5~6cm大のロームブロックと小粒の黒色土ブロックの混土。多量の焼土を含む。
 - 4 黒色土 大小のロームブロックと少量の焼土を含む。
 - 5 黄褐色土 多量のロームブロックと褐色土ブロックの混土。焼土を含む。
- P1 g-h(3掘立の柱穴)
- 1 黒色土 白色軽石を少量、1cm大のロームブロックを含む。
 - 2 黒色土。
 - 3 黒褐色土 黒色土に3cm大のロームブロックを含む。

- カマド c-d
- 1 黄褐色土 ロームと黒色土の混土。焼土を少量含む。
 - 2 黄色土 ローム。焼土を少量含む。天井部の崩落土。
 - 3 黄褐色土 1と似るが黒色土の量が多いため黒味が強い。
 - 4 黄色土 ローム。粘土質。黒色土等の混入なし。天井部の土か。
 - 5 黄褐色土 1と似る。ロームと黒色土の混土。焼土を含む。
 - 6 黒褐色土 黒色土が主体で小粒のロームブロックと多量の焼土を含む。
 - 7 黒色土 6に似る。ロームブロック・焼土とも少なくなる。
 - 8 黒灰色土 灰を多量に含む。灰色が強い。
 - 9 黒褐色土 5より黒味が強く6よりロームブロックを多く、焼土を含む。
 - 10 黄色土 ローム。天井部。
 - 11 褐色土 良好に焼けた焼土。天井部の一部か。
 - 12 黄褐色土 ローム。焼けているためやや褐色となる。
 - 13 黒褐色土 焼土を多量に含む黒色土。煙出しの土。
 - 14 黒褐色土 住居の床面を形成する土。焼土・小粒のロームブロックが混じる。硬く締まった貼床の土。
 - 15 黒色土 灰と炭化物の互層。ロームブロック・灰の入り方で2~3層に分けられるが薄いため図化できない。
 - 16 黄褐色土 ロームに焼土・黒色土が混じる。
 - 17 黒色土 黒色土に2cm大のロームブロック・少量の焼土を含む。
 - 18 褐色土 砂質で焼土を含む。
 - 19 赤褐色土 焼土・灰を含む。
 - 20 褐色土 18に似る。焼けている。
 - 21 黄色土 ローム。よく焼けて赤褐色を呈する。
 - 22 黒褐色土 焼土・灰・ロームブロックを含む。

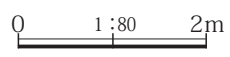
第150図 東紺屋1住居、3掘立柱建物1住P1



掘り方

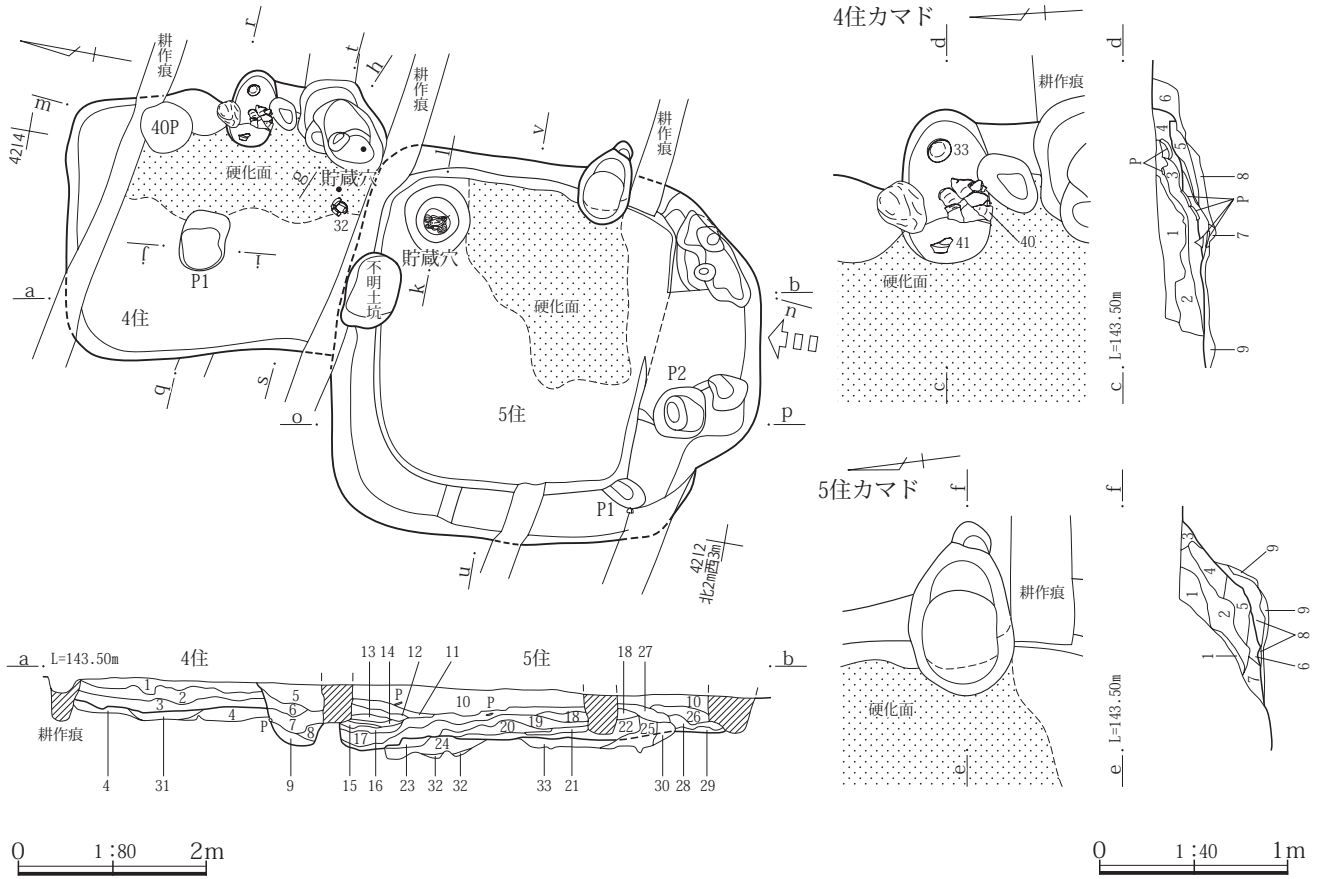


- a-b, g-h, i-j
- 1 黒色土 焼土を少量、白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 2 黒色土 1より色調が黒い。ロームブロックを含まない。
 - 3 黒褐色土 ロームブロックを含む。全体的に明るい色調。
 - 4 黒褐色土 ロームブロックを少量、小粒のロームブロックを多量に含む。上位に炭化物・焼土粒を含む。
 - 5 褐色土 白色軽石を含まない均一な土層。
 - 6 黒褐色土 4に似る。ロームブロックの量が多く色調も褐色が強い。炭化物・焼土粒を含む。
 - 7 黒色土 1cm大のロームブロックを多く、焼土粒・炭化物を含む。
 - 8 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- カマド c-d
- 1 黒色土 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロックを多量、焼土を少量含む。カマド天井部の崩落か。
 - 3 褐色土 2cm大のロームブロック・焼土を多量に含む。
 - 4 黒色土 3に似る。ロームブロック・焼土を含むが3より黒い。
 - 5 黒色土 4に炭化物を含む。
 - 6 黄色土 ローム。
 - 7 赤褐色土 焼土。焼土化したローム。奥壁寄りには灰を少量含む。
 - 8 黒灰色土 炭化物・焼土・灰をの混土。
 - 9 黒褐色土 8にロームブロックを含む。黄色味が強くなる。
 - 10 黄褐色土 ロームブロックに黒色土ブロックが混じる。焼土を少量含む。
 - 11 黒褐色土 ロームブロック・焼土・黒色土ブロックの混土。
 - 12 赤褐色土 7に似る。焼土に黒色土ブロックを含む。
 - 13 赤褐色土 12に似るが焼土が少ない。
- 貯蔵穴 e-f
- 1 黒褐色土 ロームブロック・焼土を含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。焼土は含まない。
 - 3 黒褐色土 ロームブロック・焼土を多量に含む。
 - 4 黒褐色土 3に似るがロームブロックは小粒となる。



第151図 東紺屋3住居

第4章 検出された遺構と遺物



4・5住 a-b

4住

- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。ロームブロックを含み全体的に明るい色調。
- 2 黒褐色土 1より白色軽石の量が少ない。ロームブロックは大粒となる。1に比べ黒味を増す。
- 3 黒色土 2より白色軽石の量が少ない。ロームブロックを少量含む。更に黒味を増す。
- 4 黒褐色土 白色軽石を含まない。ロームブロックを多量に含む。
- 5 黒色土 砂質で細かな軽石を少量含む。ロームブロックをほとんど含まない。
- 6 黒褐色土 5にロームブロックが混じる。
- 7 黄褐色土 ロームブロックを多量に、焼土を含む。4住の床面を形成するか。
- 8 黄色土 ローム。褐色土をブロック状に含む。
- 9 黄褐色土 7に似る。焼土を含まない。

5住

- 10 黒褐色土 白色軽石とロームブロックを多量に含む。1と似るが白色軽石は多い。
- 11 黒褐色土 白色軽石・ロームブロック・焼土を含む。
- 12 黒色土 白色軽石を含む。ロームブロックを含まない。
- 13 黒褐色土 白色軽石を少量含む。褐色味が強い。
- 14 黒褐色土 13と似る。黒味が強い。
- 15 黒褐色土 白色軽石を含まない。13に似る。褐色味が強い。
- 16 黒色土 白色軽石・小粒のロームブロックを少量含む。黒味を増す。
- 17 黒褐色土 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 18 黒褐色土 大粒のロームブロックを含む。褐色味の強い白色軽石を少量含む。
- 19 黄褐色土 白色軽石・多量のロームブロックを含む。
- 20 黒褐色土 細かい白色軽石を全体的に含む。ロームブロックを含まない。
- 21 褐色土 白色軽石を含まない。均一で砂質の褐色土。
- 22 黒色土 白色軽石・小粒のロームブロックを含む。
- 23 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。白色軽石を含まない。
- 24 褐色土 ロームブロックと黒色土をブロック状に含む。
- 25 黒褐色土 白色軽石を少量、ロームブロック・黒色土ブロックを含む。
- 26 黒褐色土 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。
- 27 黄色土 ローム。黒色土ブロックが混じる。
- 28 黒褐色土 27に黒色土が混じる。黒色土の量が多くなる。
- 29 黒褐色土 27に似る。やや黒味が強い。
- 30 黄色土 ロームブロック。
- 31 暗褐色土 ロームブロック・炭化物を含む。
- 32 黒褐色土 ロームブロック・2~4cm大の炭化物・焼土を含む。
- 33 暗茶褐色土 ロームブロックを多く含む。

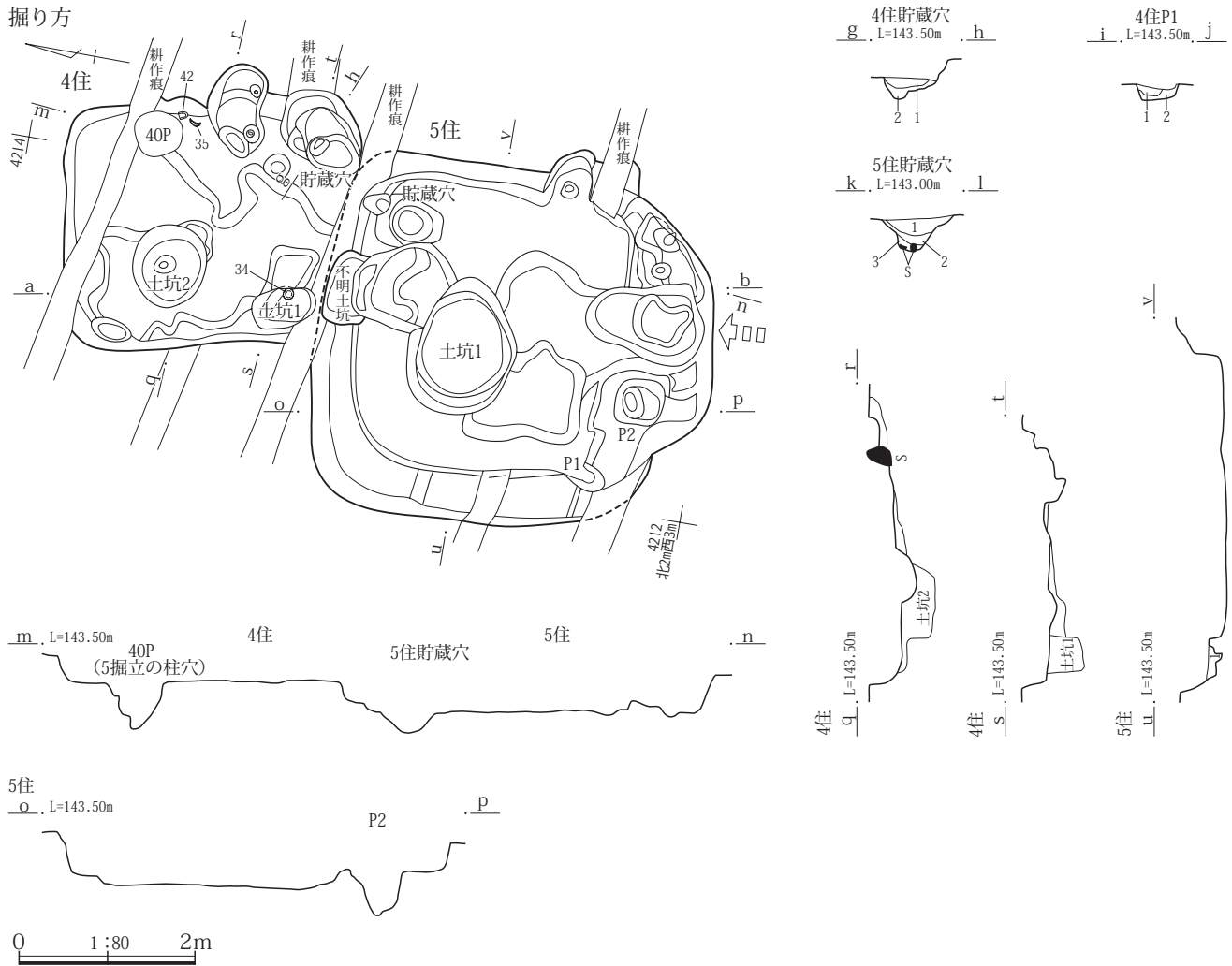
4住 カマド c-d

- 1 黒色土 ロームブロックを多量、焼土を含む。天井の崩落か。
- 2 黒色土 焼土・ロームブロックを少量、白色軽石を含む。
- 3 黒色土 2に似るがロームブロックは2より少ない。白色軽石・焼土を少量含む。やや黒味が強い。
- 4 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。煙道か。
- 5 黒色土 灰層。炭化物・焼土粒子を含む。
- 6 赤褐色土 焼土。褐色土を少量含む。
- 7 黒褐色土 炭と暗褐色土の混土。焼土粒子・炭化物を少量含む。
- 8 暗褐色土 汚れたローム。
- 9 暗褐色土 焼土粒子・白色軽石を少量含む。硬く締まる。4住の床面を形成する土。

5住 カマド e-f

- 1 黒褐色土 黒色土にロームブロック・焼土を含む。
- 2 黄褐色土 ロームに黒色土ブロック・焼土を含む。
- 3 褐色土 焼土粒を含む。締まりなし。
- 4 赤褐色土 多量の焼土を含む。全体に黄色味あり。天井部崩落か。
- 5 赤褐色土 焼土・灰・黒色土ブロックを多く含む。4より黒味強い。
- 6 灰黒色土 灰層。焼土を含む。
- 7 黒褐色土 粘土ブロック・黒色土ブロックの混土。焼土を多く含む。
- 8 灰黒色土 灰層。焼土・ロームブロック・炭化物を含む。薄い層の重なり。
- 9 赤褐色土 焼土化した粘土。炭化物を少量含む。

第152図 東紺屋4・5住居(1)



4住 貯蔵穴 g-h

- 1 黒褐色土 白色軽石を少量、下位に焼土を多く含む。
- 2 黒色土 2~4cm大のロームブロックを含む。

4住 P1 i-j

- 1 黒色土 白色軽石・ロームブロックを含まない。縮まりなし。
- 2 黒色土 1~2cm大のロームブロックを少量含む。白色軽石を含まない。1より縮まっている。

5住 貯蔵穴 k-l

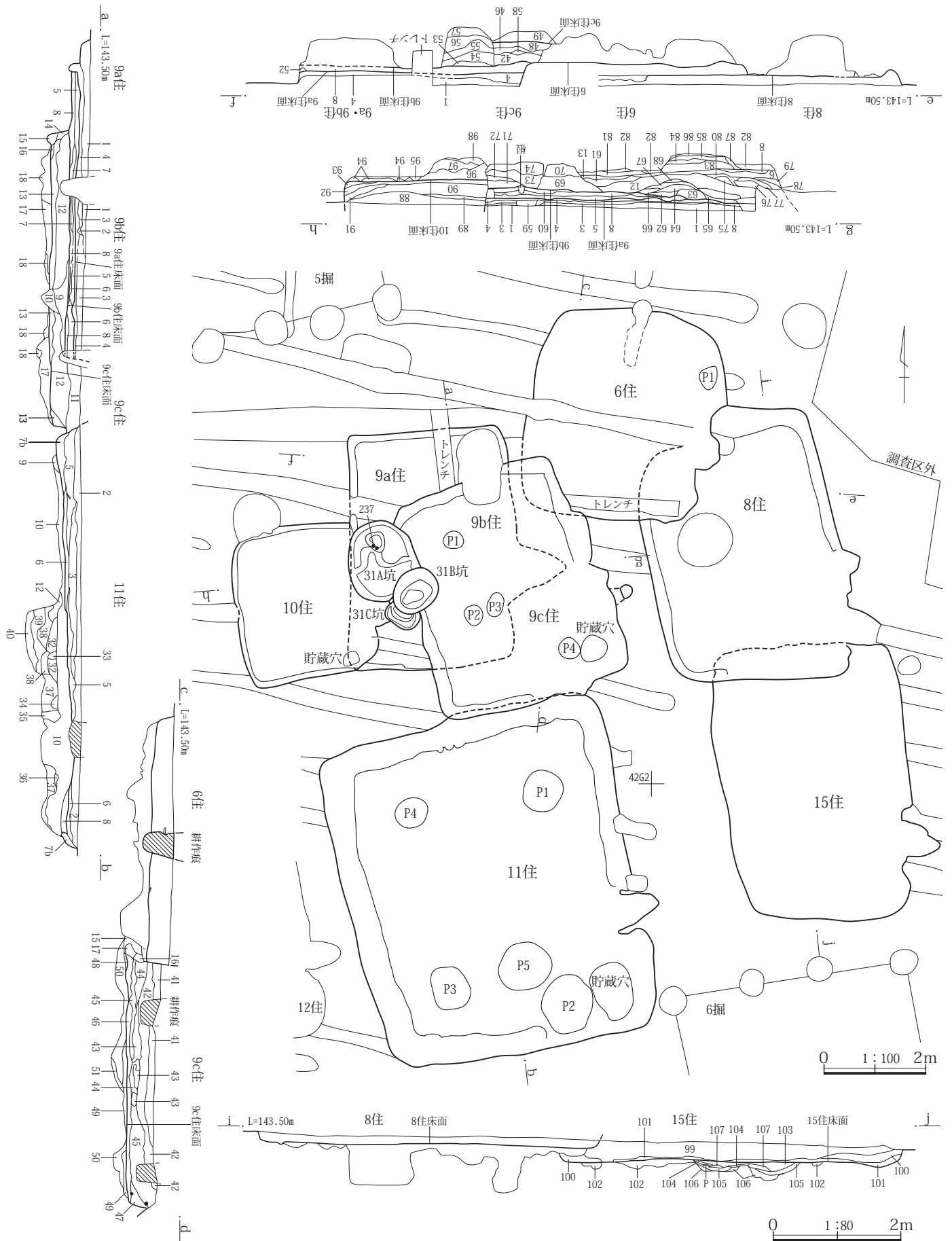
- 1 褐色土 ロームブロックを多く含む。白色軽石を含まない。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。白色軽石を含まない。1より黒味あり。
- 3 黒色土 ロームブロックを含む。白色軽石を含まない。

4・5住 u-v

- 1 暗褐色土 褐色~黄褐色軽石(As-YPか)をブロック状に含む。

第153図 東紺屋 4・5住居(2)

第4章 検出された遺構と遺物



第154図 東紺屋6・8・9a・9b・9c・10・11・15住居土層断面(1)、31A・B・C土坑

9a-9b-9c-11住 a-b

9a住

- 1 黒色土 1~5cm大のロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 黒色土とロームブロックの混土。焼土を含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロックに黒色土ブロックが混じる。焼土含む。
- 4 黒褐色土 北側は黒色土の中に5cm大のロームブロックを含む層。南寄り(11住側)ではロームと黒色土が縞状で交互に堆積する。この層の下面が9a住床面となる。

9b住

- 5 黄色土 ローム主体の層。黒色土ブロック・焼土を含む。
- 6 黄色土 5に似る。全体に白っぽい色調となる。縞状にローム・黒色土が1~2mm程度で重なっている。9a住の床面を形成する層。
- 7 黒色土 ロームブロックを含む。76図7より暗い。
- 8 黒褐色土 細長いロームブロックと焼土を含む。この層の下面が9b住床面となる。9b住掘り方覆土。
- 9 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒子を多く含む。
- 10 黒色土 ロームブロックを含む。締まりなし。

9c住

- 11 黒色土 ロームブロックを少量含む。締まりなし。
- 12 黒色土 11に似る。2~3cm大のロームブロックを含む。壁際ではロームブロックが多く焼土も含む。
- 13 黒褐色土 ロームを多く含む。全体に黄色味が強くなる。
- 14 褐色土 ロームブロックを斑状に含む。全体的に明るい色調。白色軽石を含まない。
- 15 黒色土 14に似るが色調は暗い。
- 16 赤褐色土 焼土。

9c住 掘り方覆土

- 17 褐色土 2~7cm大のロームブロックを多量に含む。
- 18 黄色土 軟質なローム層。黒色土ブロックを少量含む。

11住

- 32 黒褐色土 白色軽石を少量、ロームを含む。
 - 33 黒色土 白色軽石を少量、ロームを含む。
 - 34 褐色土 ロームを含む。砂質土。
 - 35 褐色土 黒色土を含む。砂質土。
- 土坑覆土
- 36 黒褐色土 白色軽石を少量含む。
 - 37 灰褐色土 褐色砂質土を含む。砂質。
 - 38 灰褐色土 白色軽石を少量含む。ロームを含む。
 - 39 黒褐色土 ロームブロックを含む。
 - 40 黒褐色土 3~5cm大のロームブロックを含む。炭化物を少量含む。

※19~31は欠番

6-9c住 c-d

9c住

- 41 黒色土 白色軽石を多量に含む。ロームブロックを含まない。
- 42 褐色土 1よりも白色軽石が少ない。1cm大のロームブロックを多く含む。
- 43 黄色土 ロームブロック。黒色土ブロックを少量含む。
- 44 褐色土 43に似る。ロームブロックを少量含む。
- 45 黒褐色土 1~3cm大のロームブロックを含む。
- 46 黒褐色土 5cm大のロームブロックを少量含む。黒味弱い。白色軽石を含まない。
- 47 黒褐色土 46よりもロームブロックを多く含む。
- 48 黒褐色土 多量のロームブロックを含む。
- 49 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。9c住の床面を形成する土。
- 50 黒褐色土 ロームを多量に含む。ロームブロックの径が大きい。
- 51 黄色土 黒色土ブロックを含む。

8-6-9c-9b住 e-f

9b住

- 1 黒色土 1~5cm大のロームブロックを含む。
- 4 黒褐色土 北側は黒色土の中に5cm大のロームブロックを含む層。11住側ではロームと黒色土が縞状で交互に堆積する。この層の下面が9a住床面となる。
- 52 黒色土 4層と比べると、ロームブロックの混入なし。
- 8 黒褐色土 細長いロームブロックと焼土を含む。この層の下面が9b住床面となる。

9b住 掘り方土坑覆土

- 53 褐色土 1cm大のロームブロック・白色軽石を含む。
- 54 黄褐色土 53よりロームブロックを多く含む。
- 55 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 56 黄褐色土 54に似る。ロームブロックを多量に含む。
- 57 褐色土 多量の焼土を含む。ロームブロックを含まない。

9c住

- 42 褐色土 1よりも白色軽石が少ない。1cm大のロームブロックを多く含む。
- 46 黒褐色土 5cm大のロームブロックを少量含む。黒味弱い。白色軽石を含まない。
- 48 黒褐色土 多量のロームブロックを含む。
- 49 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。9c住の床面を形成する土。
- 58 黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。

9a-9b-10住 g-h

9a住

- 1 黒色土 1~5cm大のロームブロックを含む。
- 59 黒褐色土 黒色土・ロームブロック混土。焼土を含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロックに黒色土ブロックが混じる。焼土含む。
- 4 黒褐色土 北側は黒色土の中に5cm大のロームブロックを含む層。南寄り(11住側)ではロームと黒色土が縞状で交互に堆積する。この層の下面が9a住床面となる。

9b住

- 5 黄色土 ローム主体の層。黒色土ブロック・焼土を含む。
- 6 黄色土 5に似る。全体に白っぽい色調となる。縞状にローム・黒色土が1~2mm程度で重なっている。
- 8 黒褐色土 細長いロームブロックと焼土を含む。この層の下面が9b住床面となる。

- 60 黒褐色土 焼土ブロックを含む黒色土。

9c住

- 12 黒色土 11に似る。2~3cm大のロームブロックを含む。壁際ではロームブロックが多く焼土も含む。
- 61 黒褐色土 C軽石含有。黒色土ブロック及び、ロームブロック含有。
- 13 黒褐色土 ロームを多く含む。全体に黄色味が強くなる。

9b住 カマド

- 62 黒褐色土 ロームブロック・焼土を含む。
- 63 黒褐色土 ロームブロック・焼土を62より多く含む。黒色土ブロックが混じる。
- 64 黒色土 炭化物を多く含む。焼土を少量含む。

9b住 カマド掘り方

- 65 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロックを含む。
- 66 黒色土 ロームブロック・焼土粒子を含む。
- 67 黒色土 64に似る。2~3cm大のロームブロック・少量の炭化物を含む。
- 68 黒色土 均一な黒色土。67より黒い。9c住覆土か。

9b住 床下土坑埋土

- 69 褐色土 1~5cm大のロームブロックを多量に含む。
- 70 褐色土 69と似るがロームブロックは少ない。
- 71 褐色土 ロームブロックを含む。
- 72 褐色土 砂質。ロームブロックを含まない。
- 73 褐色土 1~2cm大のロームブロックを含む。
- 74 黒褐色土 2~5cm大のロームブロックを多量に含む。黒味強い。

9c住 カマド部分 崩落土

- 75 褐色土 12に似る。ロームブロックの量が少ない。
- 76 褐色土 75に似る。ロームブロックを含む。明るい色。
- 77 黄色土 ロームに焼土粒・黒色土ブロックを含む。
- 78 褐色土 76に似る。ロームブロックを少量含む。
- 79 黒色土 ロームブロックを含まない。
- 80 褐色土 ロームブロックを含まない。

9c住 床下土坑覆土

- 81 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 82 黄色土 黒色土ブロックを含む。
- 83 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 84 黒褐色土 83よりロームブロックの量が多い。
- 85 黒褐色土 83・84よりロームブロックが少ない。黒味強い。
- 86 黄色土 ロームに黒色土を含む。
- 87 黒色土 ロームに黒色土ブロックを多く含む。

10住

- 88 黒色土 白色軽石を含む。1~2cm大のロームブロックを少量含む。

- 89 黒褐色土 白色軽石を少量、ロームブロックを多量に含む。

- 90 黒色土 白色軽石を含む。1~3cm大のロームブロックを少量含む。

- 91 黒褐色土 白色軽石・3cm大のロームブロックを少量含む。90より明るい。

- 92 黒褐色土 白色軽石・ロームブロックを含まない。
- 93 黒褐色土 ロームブロックを含む。92より明るい。
- 94 黒褐色土 ロームブロックを含む。明るい色調。

- 95 ロームブロック 黒色土ブロックを少量含む。
- 96 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 97 黒褐色土 96よりロームブロックが多い。
- 98 黒色土 ロームブロックを含まない。

8-15住土層 i-j

15住

- 99 黒色土 白色軽石を多く含む。締まりなし。砂質土。1~2cm大のロームブロックを少量含む。
- 100 黒色土 白色軽石を少量含む。締まりなし。砂質土。2~3cm大のロームブロックを含む。
- 101 黒褐色土 白色軽石を少量含む。締まりなし。砂質土。2~4cm大のロームブロックを多く、炭化物を少量含む。

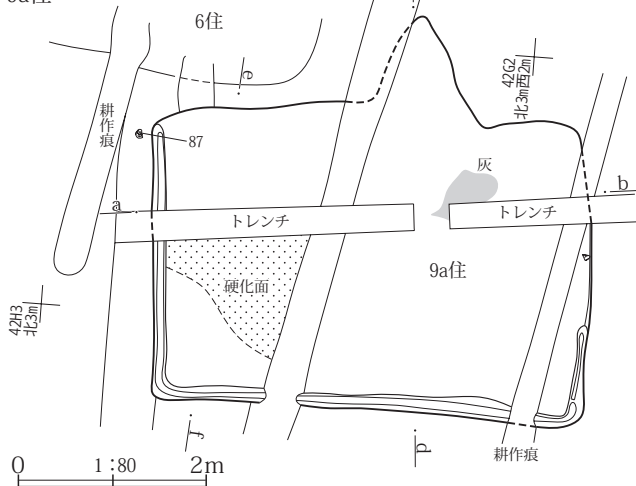
5住 掘り方 4

- 102 黒褐色土とロームの混土。褐色~黄褐色の軽石をブロック状に少量含む。

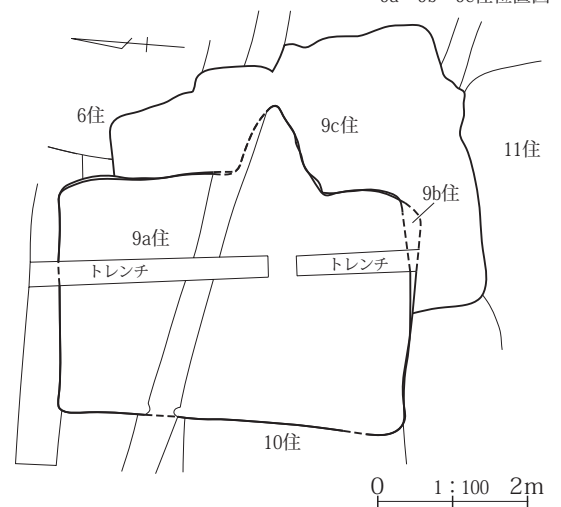
15住 床下土坑1、床下土坑2

- 103 黒色土 白色軽石を少量、ロームブロック・焼土粒子を含む。
- 104 黒色土 103に似る。焼土を多く含む。
- 105 黒色土 焼土を少量、ロームブロックを多く含む。
- 106 黒褐色土 ロームブロックに黒色土ブロックが混じる。黄色味強い。
- 107 ロームブロック

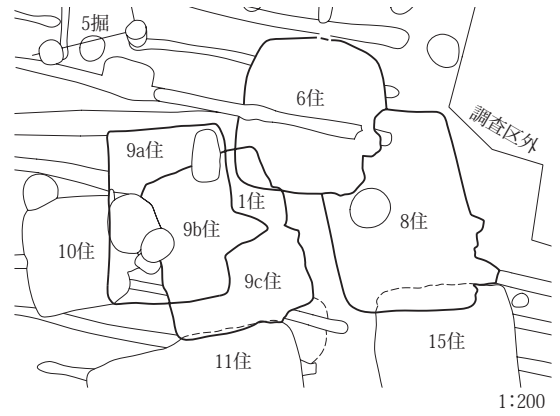
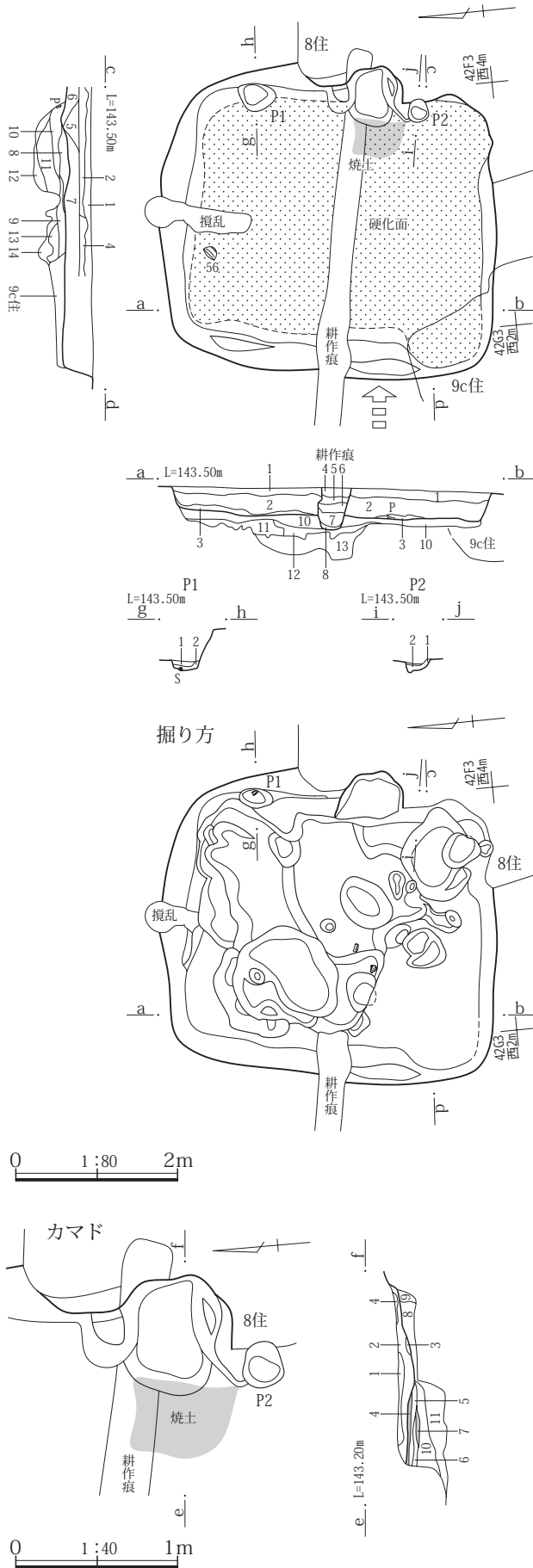
9a住



9a・9b・9c住位置図



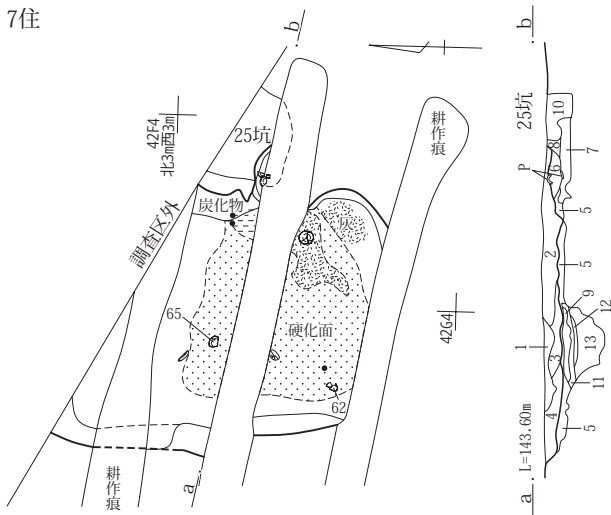
第155図 東紺屋6・8・9a・9b・9c・10・11・15住居土層断面(2)、9a住居



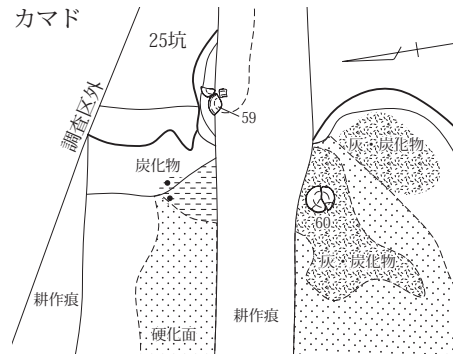
- 6・9c住 a-b
- 6住
- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。砂質土。
 - 2 黒褐色土 白色軽石を含む。0.5cm大のローム粒子を少量含む。砂質土。
 - 3 茶褐色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロック・炭化物を含む。砂質。
 - 4~8は耕作痕覆土
 - 4 茶褐色土 白色軽石を少量、1~2cm大のローム粒子を含む。砂質。
 - 5 暗褐色土 白色軽石を微量、0.5~1cm大のローム粒子・炭化物を含む。砂質。
 - 6 暗褐色土 白色軽石を微量、1~3cm大のロームブロックを含む。やや締まっている。
 - 7 茶褐色土 白色軽石を微量、1~3cm大のロームブロック・0.5cm大の炭化物を少量含む。やや締まっている。
 - 8 黒色土 2~3cm大のロームブロックを少量含む。やや締まっている。
 - 9 黒色土 やや締まっている。砂質。9c住覆土。
- 6住 掘り方覆土
- 10 黒褐色土 ロームブロックを塊状に多量に含む。床面を形成する土。
 - 11 黒色土 ロームブロックを少量含む。
 - 12 黒褐色土 10cm以下のロームブロックを多量に含む。
 - 13 黄色土 ローム主体の黄色土。軟質。
 - 14 黒褐色土 2cm大のロームブロック・白色軽石を含む。
- 8・6・9住 c-d
- 8住
- 1 黒色土 白色軽石を少量含む。6・8住を覆う。ロームブロックを少量含む。
 - 2 黒色土 1よりも白色軽石の量が多い。1cm大のロームブロックを多量に含む。
 - 3 黒色土 2よりも明るい。2に似て1cm大のロームブロックを含む。わずかに焼土を含む。
- 6住
- 4 黒褐色土 白色軽石をわずかに含む。2~5cm大のロームブロックを斑状に含む。
 - 5 黒褐色土 白色軽石・焼土粒子を少量、黄褐色土粒子を含む。やや砂質。
 - 6 黒褐色土 ローム混じり。下位にロームブロックを含む。
 - 7 黒褐色土 5に似るが焼土・ローム粒子をわずかに含む。
- 6住 掘り方覆土
- 8 黄色土 多量のロームブロックを主体とし黒色土ブロックが混じる。
 - 9 黒褐色土 5cm大のロームブロックを含む。
 - 10 黒褐色土 9に似る。ロームブロックの量が多い。
 - 11 黒褐色土 1~2cm大のロームブロックを多量に含む。
 - 12 黒色土 1~2cm大のロームブロックを少量含む。
 - 13 黒褐色土 2~5cm大のロームブロックを含む。
 - 14 黄色土 3~7cm大のロームブロックの混土。
- 6住 カマド e-f
- 1 赤褐色土 焼土化した粘土にロームブロック・黒色土ブロックが混じる。
 - 2 黒褐色土 焼土粒子とロームブロックが混じる。
 - 3 黄色土 ロームブロック。
 - 4 灰層。
 - 5 黒褐色土 褐色土に炭化物・焼土を含む。
 - 6 黄色土 焼土・褐色土ブロックを含む。
 - 7 灰層。
 - 8 黒褐色土 1~2cm大のロームブロック・黒色土ブロック・焼土を含む。
 - 9 黒褐色土 8に似るが焼土は少ない。
 - 10 黒褐色土 5~8cm大のロームブロックを多量含む。住居掘り方覆土。
 - 11 黒褐色土 2~3cm大のロームブロックを含む。10より黒味強い。
- 6住 P1 g-h
- 1 赤褐色土 炭化物・焼土を含む。
 - 2 黒褐色土 黒色土にロームブロックと炭化物を少量含む。焼土含まない。
- 6住 P2 i-j
- 1 赤褐色土 褐色土に多量の焼土と炭化物を少量含む。大粒の粘土ブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 黒色土にロームブロックを含む。焼土・炭化物を含まない。

第156図 東紺屋6住居

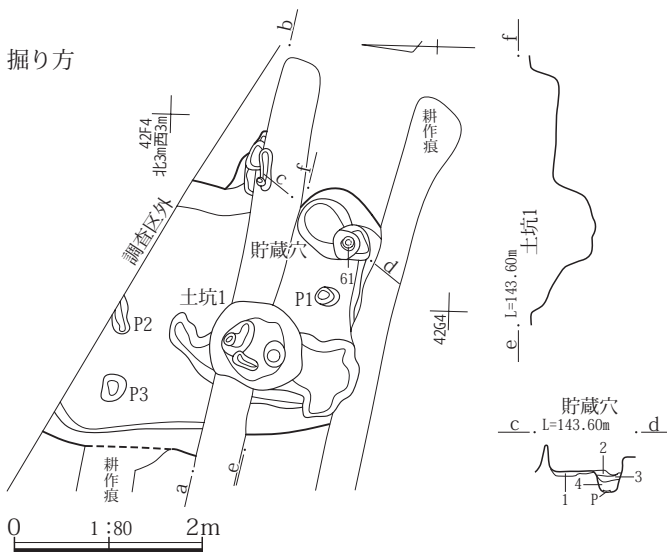
7住



カマド



掘り方



▲ 7住居遺物出土状態

7住 a-b

- 1 攪乱。
- 2 淡黒色土 ロームブロック・焼土を含む。締まりなし。
- 3 淡黒色土 1より暗い。白色軽石を少量含む。
- 4 黒色土 3より暗い。白色軽石・ロームブロックを少量含む。
- 5 黒色土 焼土粒を含む。白色軽石を含まない。床面を形成する土。
- 6 黒色土 焼土を含む。カマド内部の土。
- 7 黄色土 カマド掘り方覆土。
- 8 黄色土 粘質。カマド構築土。
- 9 黒褐色土 多量のロームブロックを含む。住居掘り方覆土。
- 10 褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。25坑覆土。
- 11 暗褐色土 細かい砂粒を多く、ローム粒子を含む。
- 12 暗灰褐色土 細かい砂粒を多く、ローム粒子を含む。締まっている。
- 13 暗茶褐色土 黒色土・ローム粒子を含む。土坑1の覆土。

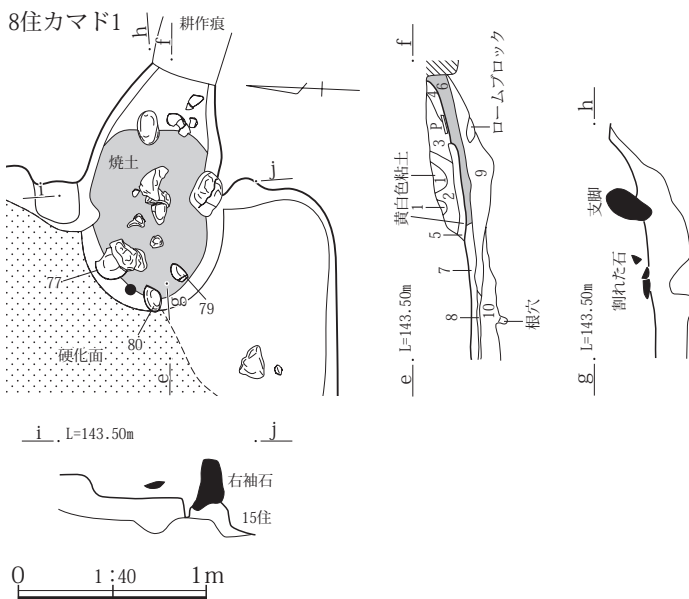
7住 貯蔵穴 c-d

- 1 暗褐色土 0.5cm大のローム粒子・炭化物を多く含む。砂質。締まり弱い。
- 2 黒色土 炭化物を多く、ローム粒子を少量含む。
- 3 黒色土 0.1~0.3cm大のローム粒子を含む。
- 4 暗茶褐色土 0.1~0.3cm大のローム粒子と炭化物を少量含む。

8住 カマド1 e-f

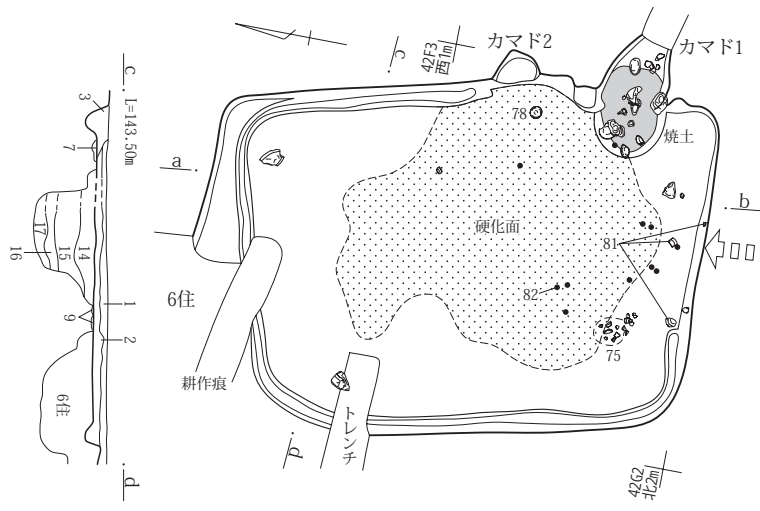
- 1 黄白色粘質土 焼土粒子を少量含む。締まっている。天井部崩落か。
- 2 暗褐色土 黄白色粘質土が混じる。焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。締まっている。
- 4 1に似るが焼土が多く混じる。
- 5 黄白色粘質土 暗褐色土が混じる。焼土粒子を含む。締まっている。
- 6 灰層。
- 7 灰色土 6に似るが灰が少ない。焼土粒子を全体的に含む。
- 8 褐灰色土 灰が混じる。締りやや弱い。
- 9 暗褐色土 白色軽石を少量、焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 10 9に似るが焼土粒・ローム粒子を多く含む。

8住カマド1

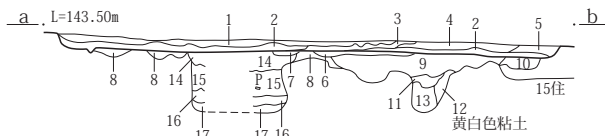


第157図 東紺屋7住居、8住居(1)

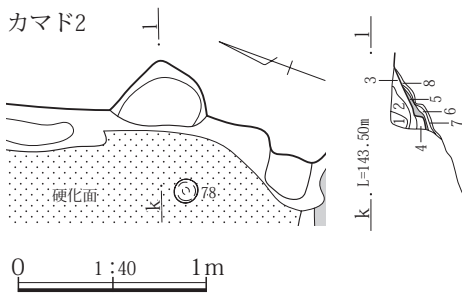
第4章 検出された遺構と遺物



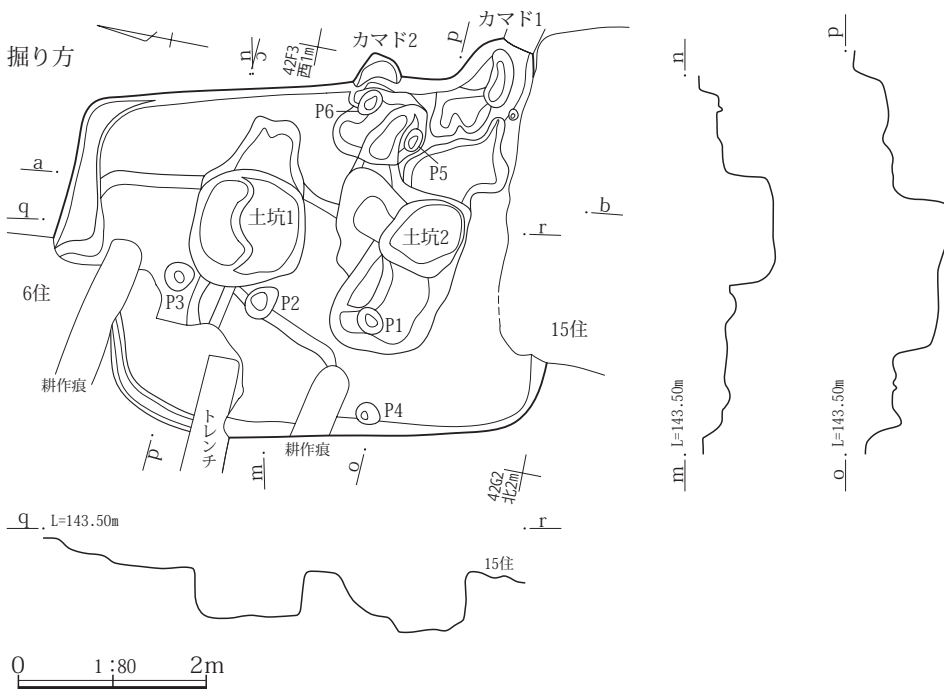
- 8・15住 a-b
- 1 黒色土 白色軽石・ロームブロックを含む。
 - 2 黒色土 ロームブロックを多量に含む。1より黒味強い。
 - 3 黒褐色土 多量のロームブロック・焼土を含む。黒色土と混じる。
 - 4 黒褐色土 3に似るがロームブロック・焼土は少ない。
 - 5 黒色土 白色軽石を少量含む。ロームブロックを含まない。
 - 6 暗黄褐色土 暗褐色土が混じる。全体に焼土粒子を含む。硬く締まる。床面を形成する土。
 - 7 黄褐色土 黄白色粘土の混土。
 - 8 暗褐色土 白色軽石を少量含む。9の黒褐色土とロームの混土。
 - 9 黒褐色土 白色軽石を少量含む。ローム粒子・ロームブロックを含む。
 - 10 黒褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。9より黒味強い。やや砂質。
- 床下土坑
- 11 暗褐色土 9に似るが黄白色粘土ブロックを多く含む。
 - 12 黄白色粘質土。
 - 13 暗褐色土とロームの混土。ロームブロックを多く含む。
- 床下土坑 a-b, c-d
- 14 暗褐色土 白色軽石を含む。ローム混じり。
 - 15 14に似るがロームの混じりが少ない。やや暗い色味を帯びる。
 - 16 暗褐色土・ロームの混土。
 - 17 暗褐色土 緻密。



- 8・6・9住 c-d
- 8住
- 1 黒色土 白色軽石を少量含む。6・8住を覆う。ロームブロックを少量含む。
 - 2 黒色土 白色軽石の量が多い。1cm大のロームブロックを多量に含む。
 - 3 黒色土 2に似る。1cm大のロームブロックを含む。わずかに焼土を含む。
 - 7 黄褐色土 黄白色粘土の混土。
 - 9 黒褐色土 白色軽石を少量含む。ローム粒子・ロームブロックを含む。

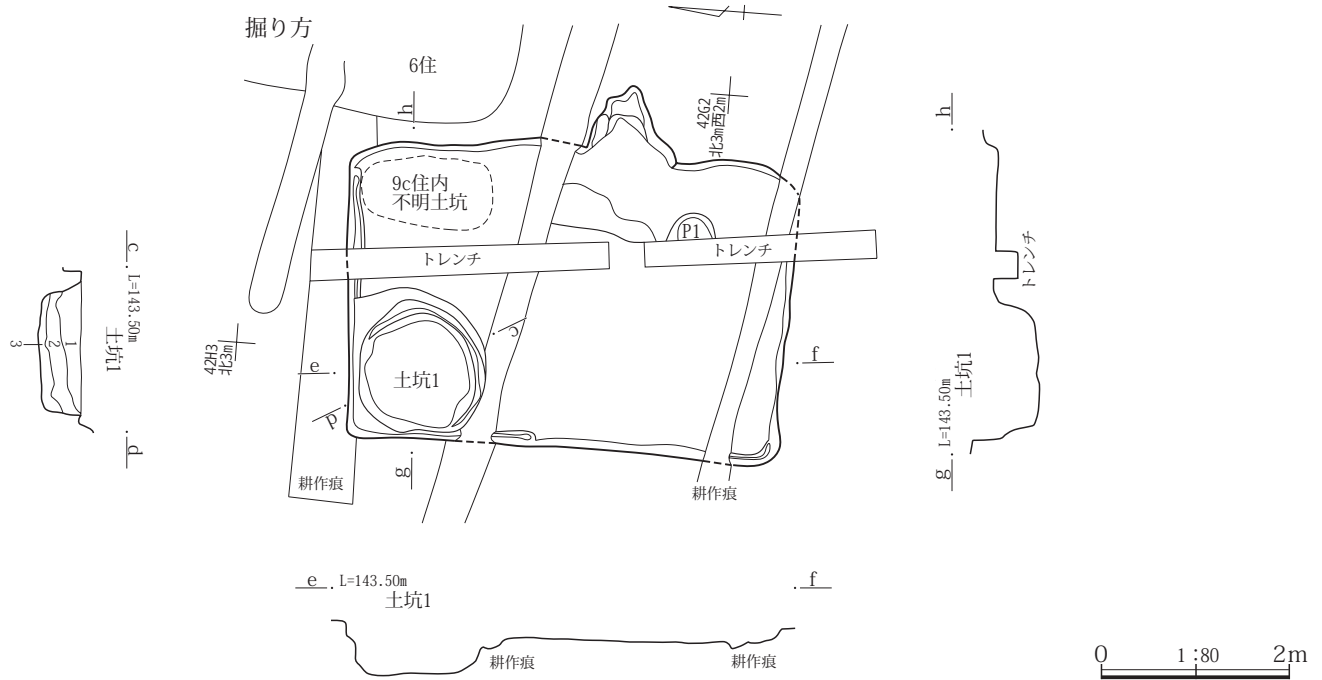
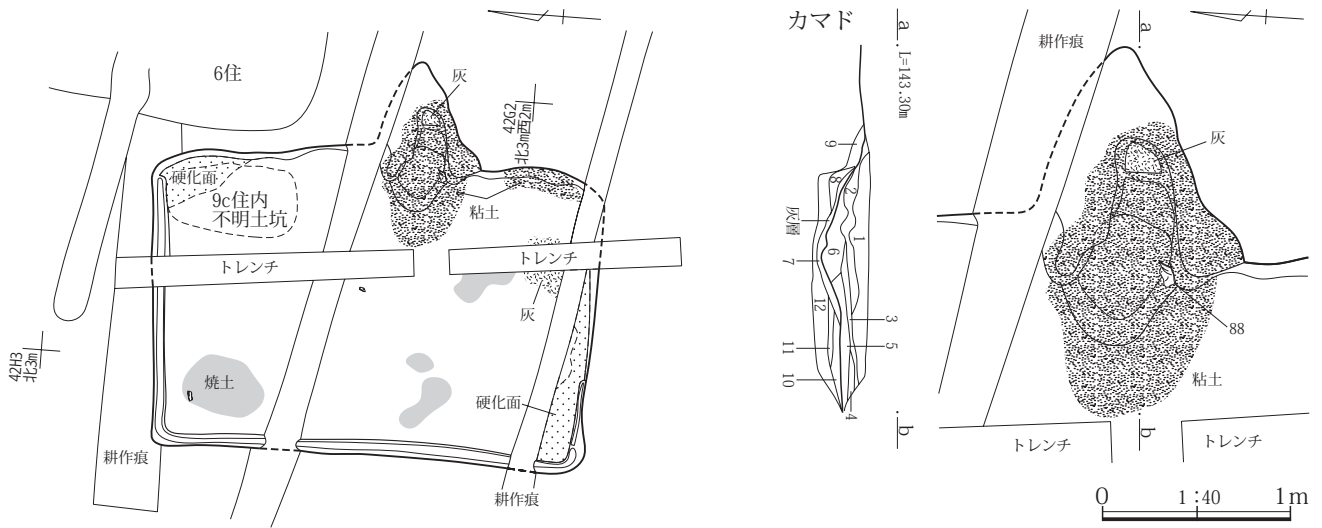


- 8住 カマド2 k-l
- 1 黒褐色土 黒色土とロームの混土。焼土粒子を少量含む。
 - 2 黄色土 黒色土ブロックを含む。下に厚さ2mmの黒色土が堆積。
 - 3 赤褐色土 ロームと焼土の混土。
 - 4 赤褐色土 焼土。ロームブロックを含む。
 - 5 灰層。
 - 6 黒褐色土 焼土粒子を含む。
 - 7 赤褐色土 焼土に炭化物・灰を含む。
 - 8 黄色土 黒色土ブロックを含む。
 - 9 赤褐色土 焼土ブロック。



第158図 東紺屋8住居(2)

遺構図(東紺屋)



カマド a-b

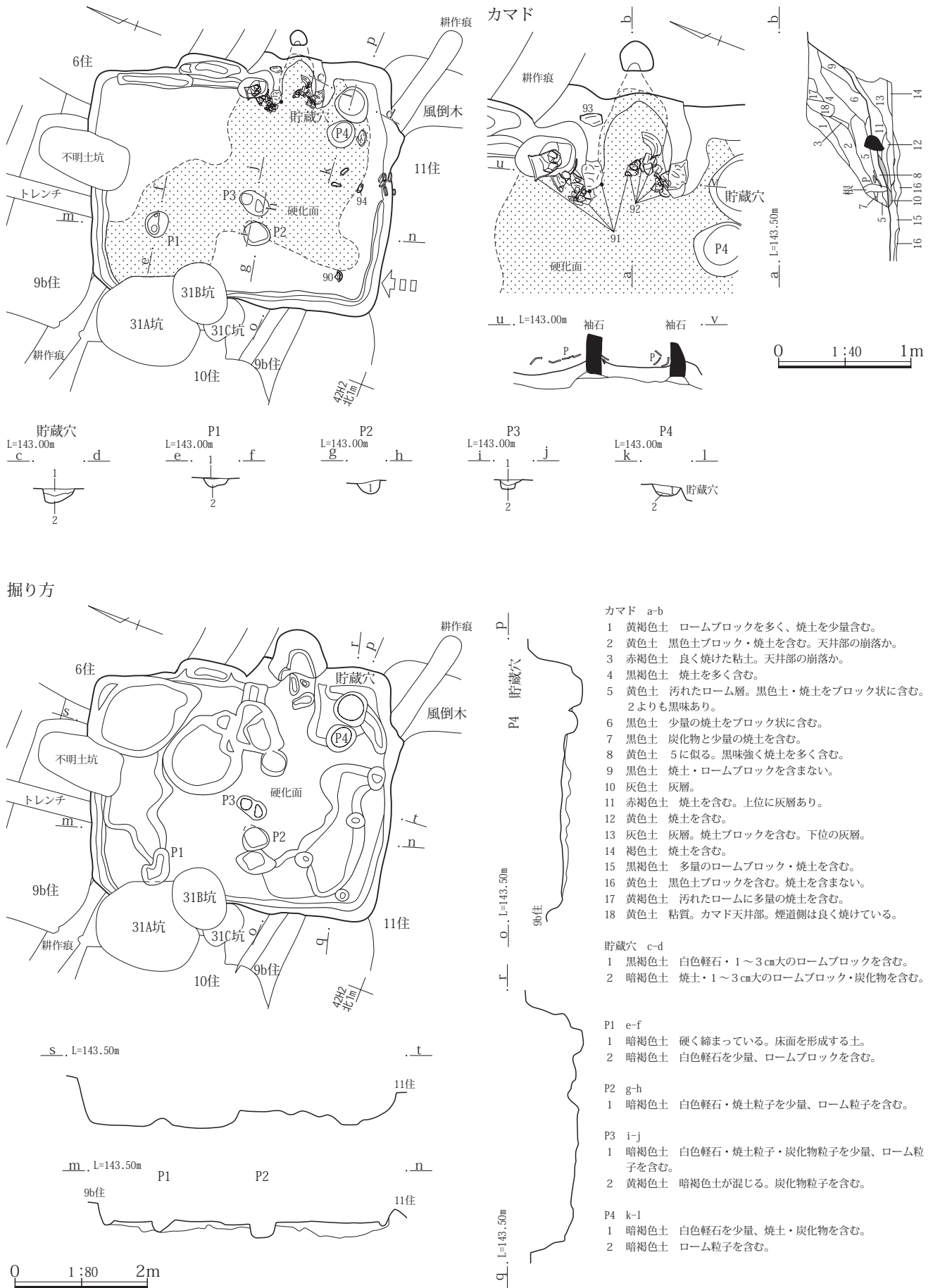
- 1 黄褐色土 ロームブロックに黒色土ブロック・焼土を含む。
- 2 黄褐色土 1に似るが焼土を多く含む。
- 3 黒色土 少量のロームブロック・焼土を含む。
- 4 黄色土 ロームブロック。焼土を含まない。
- 5 黒褐色土 1cm大のロームブロック・焼土を含む。粘性あり。
- 6 赤褐色土 2~3cm大のロームブロック・多量の焼土を含む。
- 7 黒色土 炭化物を多く、ロームブロックを含む。
- 8 黄白色粘土 6との境界付近に厚さ1cmほどの灰層が存在する。
- 9 赤褐色土 上位はロームブロックと焼土の混土。中位に厚さ0.5cm程の灰層あり。下位は焼土主体の褐色土。
- 10 黒色土 ロームブロック・焼土粒を含む。
- 11 黒色土 2~3cm大のロームブロック・少量の炭化物を含む。
- 12 黒色土 均一な黒色土。9c住覆土か。

土坑1 c-d

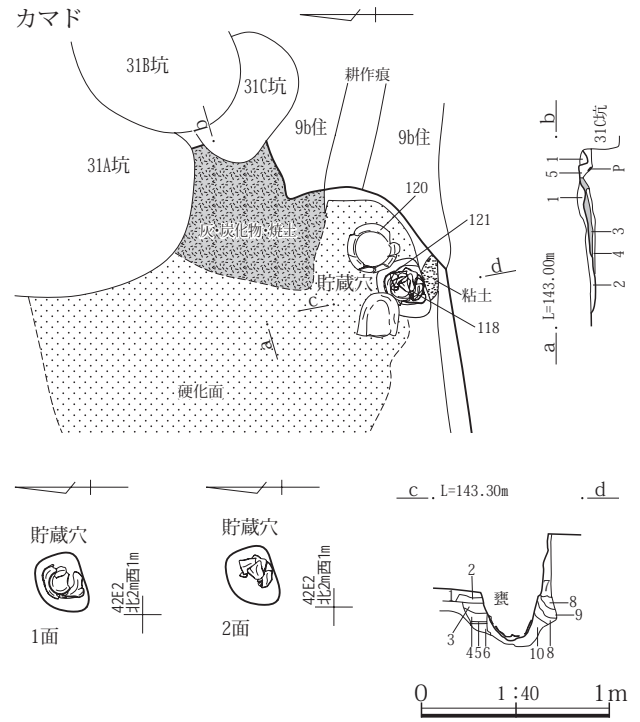
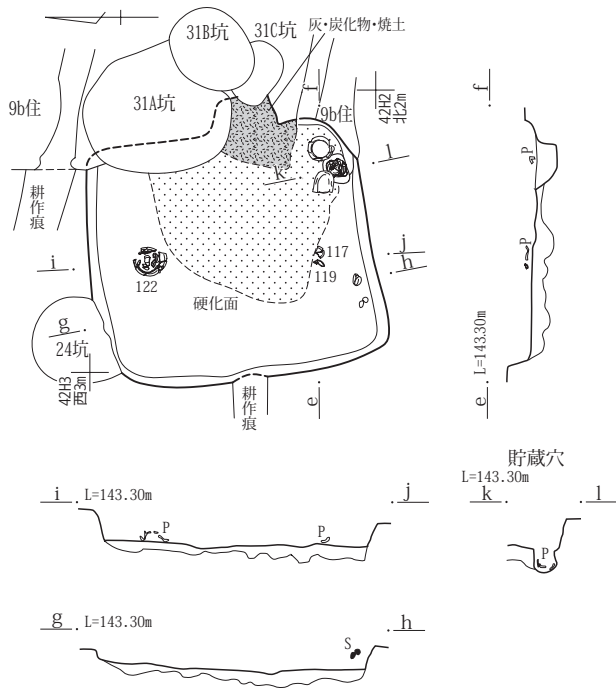
- 1 黒褐色土 2~3cm大のロームブロックを多く、焼土・灰を含む。
- 2 黒色土 白色軽石を少量含む。ロームブロックを僅かに含み均一な土。
- 3 黒色土 2に似るが軽石を含まない。ロームブロックを少量含む。粘性あり。

第159図 東紺屋9b住居

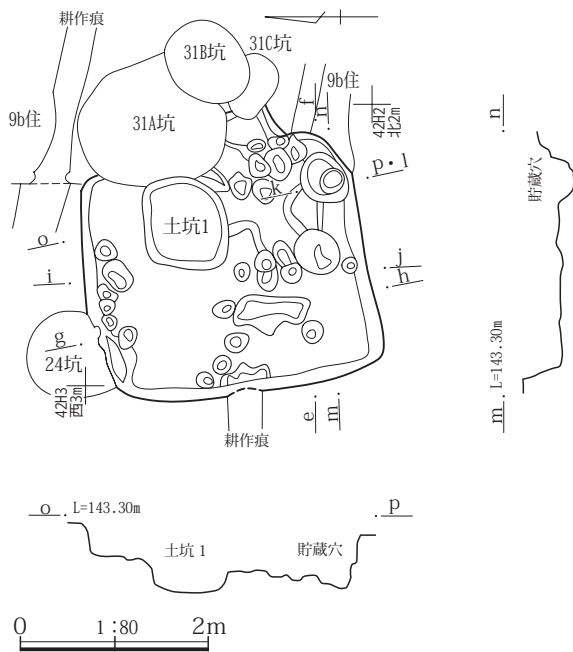
第4章 検出された遺構と遺物



第160図 東紺屋9c住居



掘り方



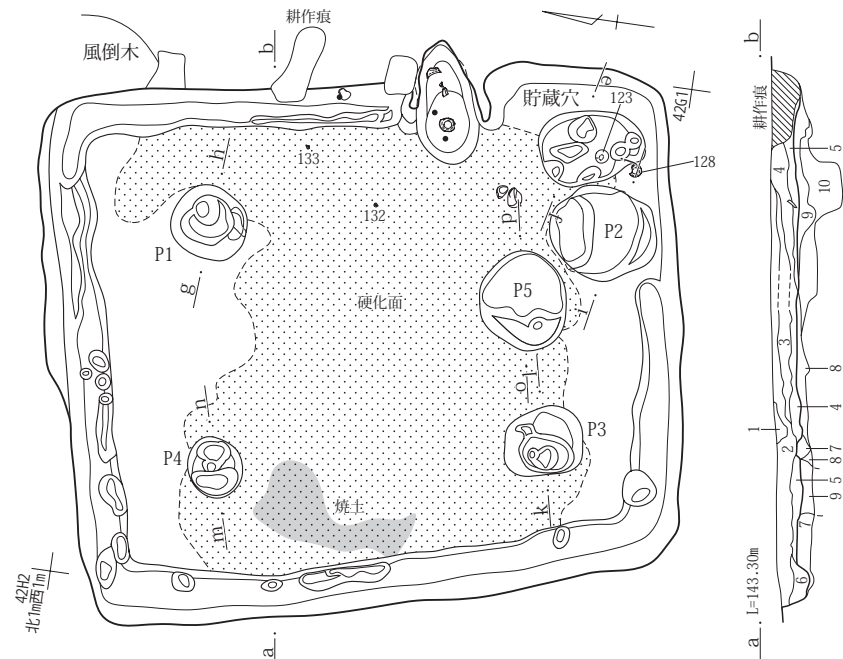
カマド a-b

- 1 赤褐色土 焼土を多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 3 灰層。
- 4 黒褐色土 焼土を少量含む。
- 5 黒色土 淡い色調の黒色土。ロームブロック等を含まない。

貯蔵穴 c-d

- 1 黒褐色土 ロームブロックを含む。10住の床面を形成する土。
- 2 黄褐色土 褐色土に1cm大のロームブロックを含む。
- 3 黒色土 5cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。
- 4 黒褐色土 5cm大のロームブロックを多量に含む。
- 5 黄色土 帯状のローム。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 7 褐色土 ロームへの漸移層か。
- 8 黄色土 ロームブロック。
- 9 黄色土 粘土。
- 10 黒色土 ロームブロックを少量含む。

第4章 検出された遺構と遺物



- a-b
- 1 暗褐色土 中～下位に黄褐色土が混じる。焼土粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土 焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
 - 3 2に似るが軽石少なく、中心部分に焼土粒子・ローム粒子を含む。炭・灰の混じる部位あり。
 - 4 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
 - 5 暗褐色土 白色軽石・焼土粒子をごく少量含む。
 - 6 暗褐色土 上位に白色軽石をごく少量含み、中～下位にロームが少量混じる。1～5より明るい色調。
 - 7 灰褐色土 0.5～3cm大のロームブロック・白色軽石を含む。
 - 8 褐色土 灰褐色の砂質土・ローム粒子を含む。砂質土。
 - 9 黒褐色土 白色軽石を少量、3～5cm大のロームブロックを含む。砂質。土坑の覆土。
 - 10 褐色土 下位に黒褐色砂質土を含む。砂質。土坑の覆土。

- 貯蔵穴 e-f
- 1 褐色土 白色軽石を少量含む。0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。
 - 2 褐色土 白色軽石を少量、1～4cm大の黒色砂質土ブロック・1～2cm大のロームブロックを含む。
 - 3 黒色土 白色軽石を少量、2～3cm大のロームブロック・0.5cm大の炭化物を含む。

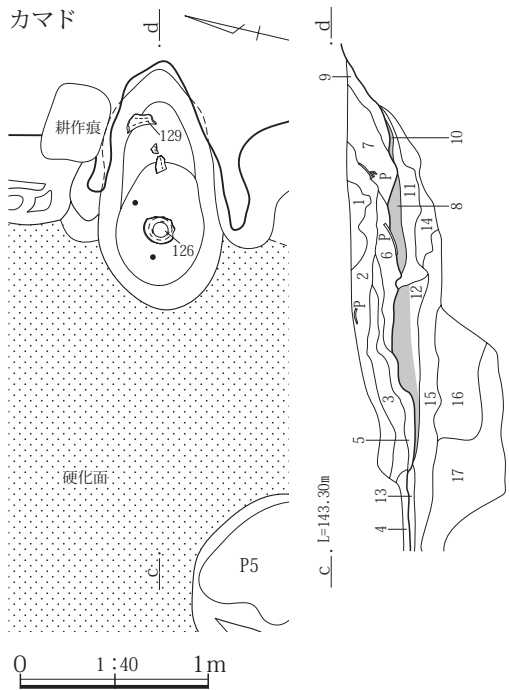
- P1 g-h
- 1 黒色土 白色軽石・0.5～1cm大のローム粒子を含む。
 - 2 黒色土 白色軽石・0.5～5cm大のロームブロック・0.5～1cm大の炭化物を含む。柱根か。
 - 3 黒褐色土 白色軽石・1～3cm大のロームブロック・0.5～1cm大の炭化物を含む。
 - 4 暗褐色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物を少量、3～5cm大のロームブロックを含む。掘り方覆土。
 - 5 灰褐色土 0.5～1cm大のローム粒子・炭化物を含む。粘性強い。

- P2 i-j
- 1 黒色土 白色軽石を少量、0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。
 - 2 灰褐色土 白色軽石を少量、1～5cm大のロームブロック・0.5～1cm大の炭化物を含む。
 - 3 暗灰褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。砂質。
 - 4 黄褐色土 白色軽石を微量、1～3cm大のロームブロック・0.5cm大の炭化物を含む。

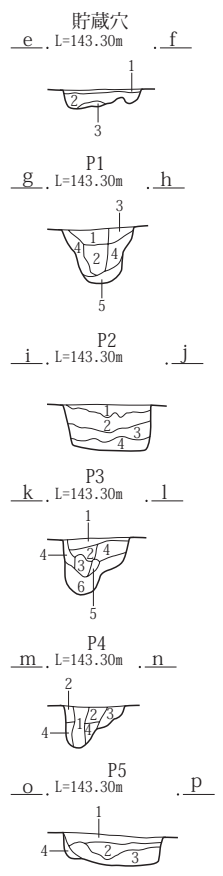
- P3 k-l
- 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。
 - 2 黒褐色土 白色軽石・0.5～1cm大のローム粒子・炭化物を含む。
 - 3 褐色土 砂質。0.5～4cm大のロームブロックを含む。
 - 4 黄褐色土 砂質。0.5～5cm大のロームブロックを含む。
 - 5 灰黄褐色土 砂質。1cm大のロームブロックを含む。
 - 6 灰黄褐色土 砂質。0.5～1cm大のローム粒子・炭化物を含む。

- P4 m-n
- 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物を少量含む。
 - 2 黒色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物を含む。
 - 3 茶褐色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物を少量含む。
 - 4 黒褐色土 白色軽石を少量、0.5～1cm大のローム粒子を含む。

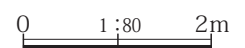
- P5 o-p
- 1 灰褐色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物を少量、1～3cm大のロームブロックを含む。
 - 2 灰褐色土 白色軽石を少量、1～3cm大のロームブロック・1cm大の炭化物を含む。
 - 3 黒色土 白色軽石を少量、1～3cm大のロームブロック・1cm大の炭化物を含む。
 - 4 黒褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。

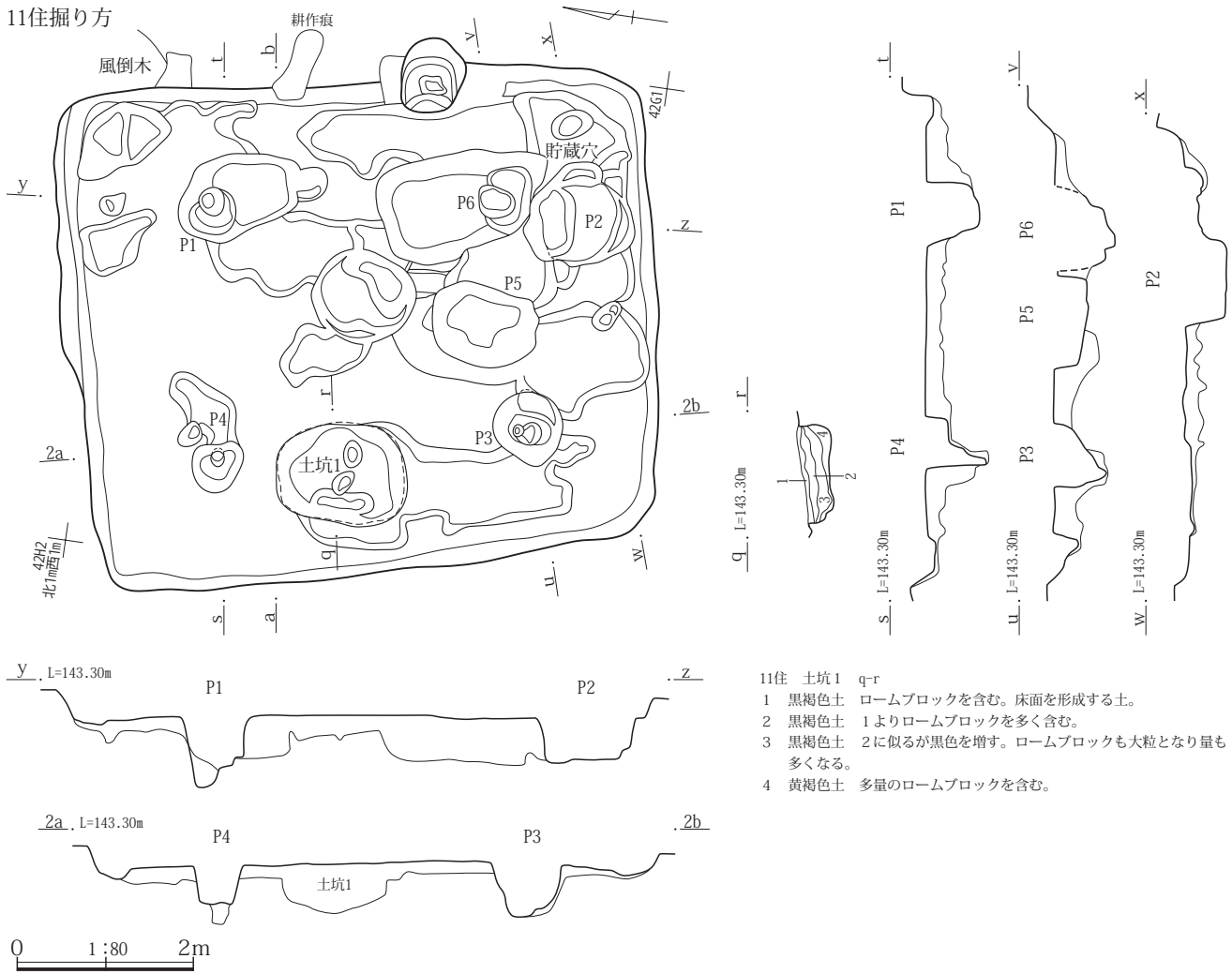


- カマド c-d
- 1 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子・焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土 1に似る。ロームとの混土。白色軽石・焼土粒子を含む。
 - 3 黄褐色土 白色軽石・ローム粒子・焼土粒子を含む。
 - 4 2に似る。
 - 5 暗褐色土 2に似るが白色軽石少ない。
 - 6 3に似るが白色軽石を含まない。
 - 7 焼土 焼土粒子にロームブロック・暗褐色土ブロックを含む。
 - 8 黒色土 灰層。焼土粒子・ローム粒子を含む。締まりなし。
 - 9 黄褐色土 6と同じ。
 - 10 黒色土 灰層。上位に焼土を含む。締まりなし。
 - 11 暗褐色土 焼土粒子を含む。やや緻密。
 - 12 黒褐色土 灰層。黄褐色土・焼土が互層となる。
 - 13 暗褐色土 白色軽石を含む。硬く締まっている。床面を形成する土。
 - 14 黒褐色土 焼土・ローム粒子を少量、灰褐色砂質土を含む。
 - 15 褐色土 砂質。白色砂粒・焼土・ローム粒子を含む。底面を形成するか。
 - 16 褐色土 砂質。0.5～5cm大のロームブロック・焼土粒子を含む。
 - 17 褐色土 0.5～2cm大のロームブロック・焼土粒子を含む。掘り方覆土。



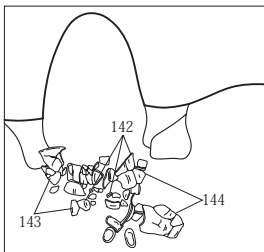
第162図 東紺屋11住居(1)



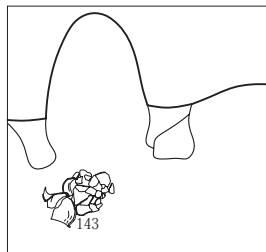


12住

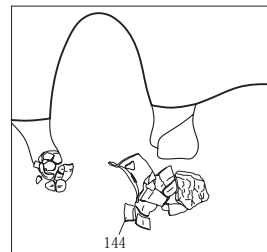
※カマド遺物出土状況詳細図 1 (No.15~17、19~23)



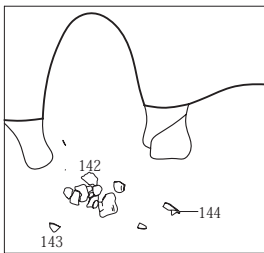
※カマド遺物出土状況詳細図 3 (No.30)



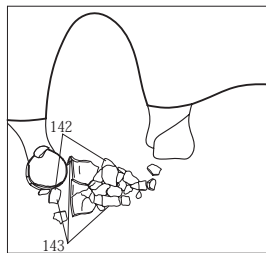
※カマド遺物出土状況詳細図 5 (No.36~38・49)



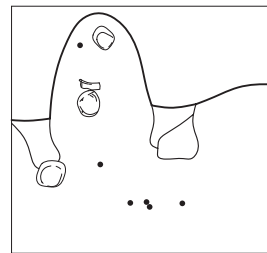
※カマド遺物出土状況詳細図 2 (No.24~29)



※カマド遺物出土状況詳細図 4 (No.31~35・48)



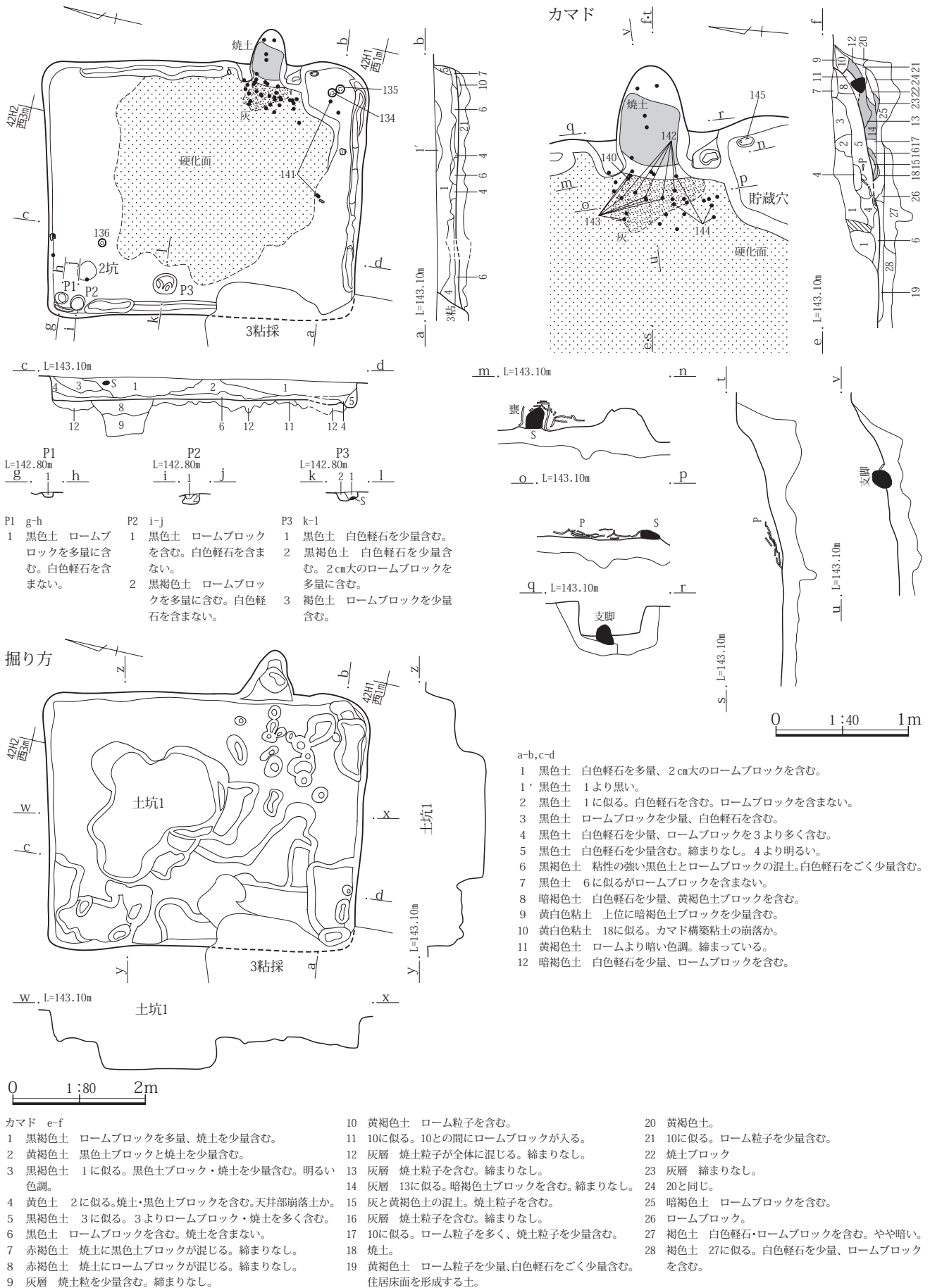
※カマド遺物出土状況詳細図 6 (No.39~47・50)



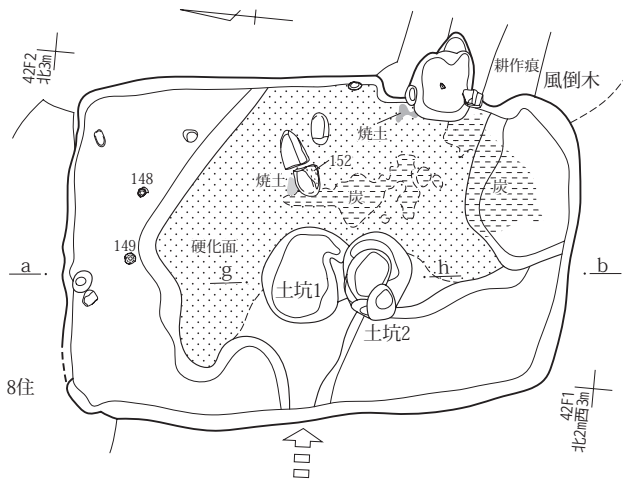
0 1:40 1m

第163図 東紺屋11住居(2)、12住居(1)

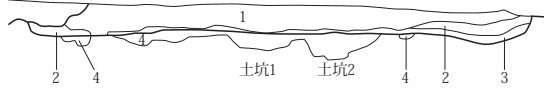
第4章 検出された遺構と遺物



第164図 東紺屋12住居(2)



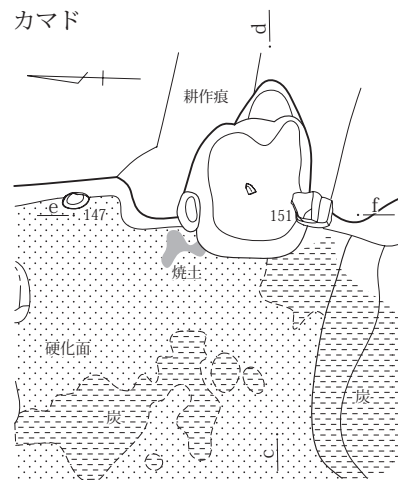
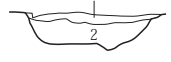
a. L=143.50m 8住 .b.



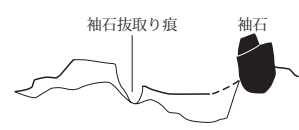
i. 土坑3 L=143.10m .j.



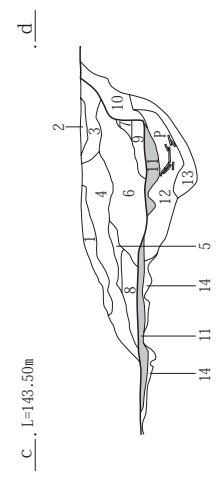
k. 土坑4 L=143.10m .l.



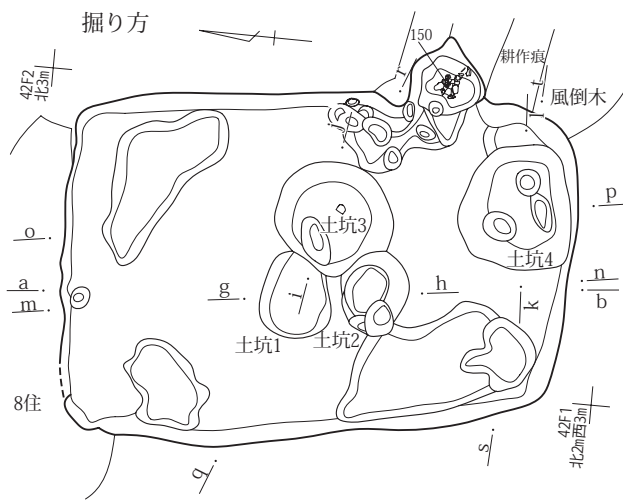
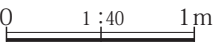
e. L=143.50m .f.



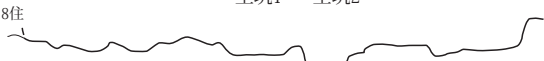
g. 土坑1 L=143.10m .h.



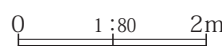
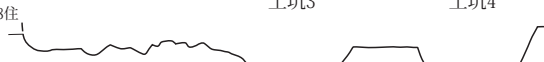
c. L=143.50m



m. L=143.50m 8住 .n.



o. L=143.50m 8住 .p.

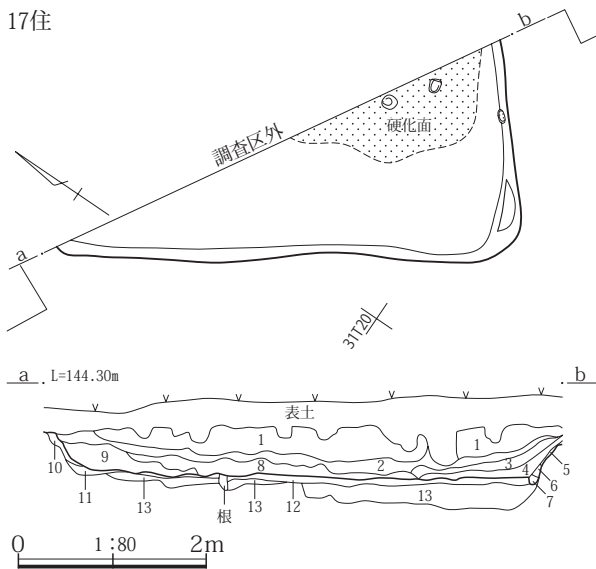


- a-b
- 1 黒色土 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 - 2 黒色土 小粒のロームブロックを多量に含む。
 - 3 黒褐色土 ロームブロックを多く、焼土を含む。黒色土と混じる。
 - 4 黒褐色土 3に似るがロームブロック・焼土は少量となる。
- カマド c-d
- 1 暗黄褐色土 2~4cm大のロームブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色土 1~2cm大の炭化物を少量含む。
 - 3 灰褐色土 0.2~3cm大の炭化物を少量含む。
 - 4 黒褐色土 白色軽石・炭化物・焼土を多く、1~2cm大のローム粒子を含む。
 - 5 黄褐色土 焼土・炭化物を多く含む。
 - 6 黄褐色土 0.5cm大の炭化物を少量、下位に褐色土を含む。
 - 7 暗褐色土 0.2~3cm大のローム粒子・炭化物を少量含む。
 - 8 黒色土 0.3~0.5cm大の炭化物・焼土・ローム粒子を多く含む。
 - 9 黒色土 0.2~0.5cm大の炭化物・焼土・ローム粒子を多く含む。
 - 10 赤褐色土 良く焼けた焼土。
 - 11 灰層 焼土を含む。
 - 12 黄褐色土 ロームブロックと黒色土ブロックの混土。炭化物・焼土・灰を含む。
 - 13 黒色土 風倒木の埋没土か。ロームブロックを含まない。
 - 14 黒褐色土 ロームブロックと黒色土の混土。
- 土坑1・2 g-h
- 1 黒色土 白色軽石を少量、ロームブロック・焼土粒子を含む。
 - 2 黒色土 1より焼土が多い。
 - 3 黒色土 ロームブロックを多く、焼土を少量含む。
 - 4 黒褐色土 黒色土ブロックを含む。
- 土坑3 i-j
- 1 黒褐色土 2~5cm大のロームブロックを含む。
 - 2 黒褐色土 1より色調が黒い。
 - 3 黒褐色土 1・2よりロームブロックの量が少ない。黒味薄い。
 - 4 褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 土坑4 k-l
- 1 黒褐色土 2~3cm大のロームブロックと黒色土ブロックの混土。焼土粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土 1に似る。ロームブロックの量が多い。

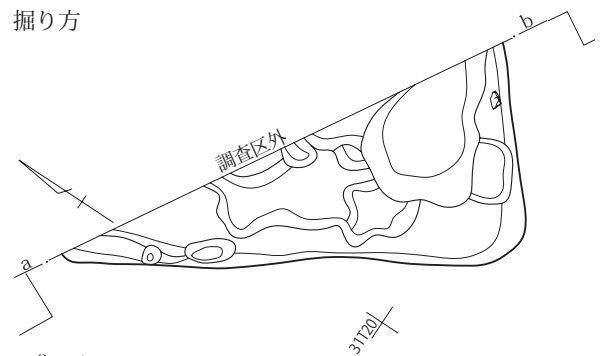
第165図 東紺屋15住居

第4章 検出された遺構と遺物

17住



掘り方

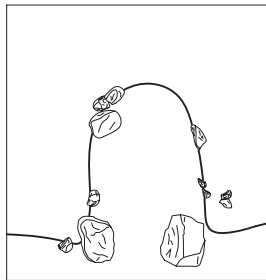


17住 a-b

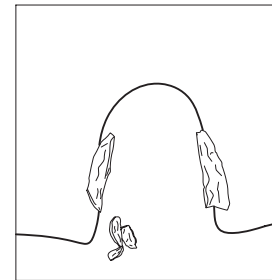
- 1 褐色土 白色軽石を多量に含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。1より暗い。
- 3 明褐色土 軽石を少量、2cm大のロームブロックを含む。
- 4 黒色土 白色軽石をごく少量、ロームブロックを少量、褐色土ブロックを斑点状に含む。
- 5 黄褐色土 ロームブロックを含む。壁の崩落か。
- 6 黒色土 ブロック状。
- 7 黄褐色土 2~3cm大のロームブロックを多量に含む。壁溝覆土。
- 8 褐色土 1に似る。1cm大のロームブロックを含む。
- 9 明褐色土 ロームブロックを含む。8より明るい。
- 10 黄褐色土 ローム漸移層に黒色土ブロックを斑点状に含む。壁崩落土か。
- 11 黒褐色土 ロームブロックを含む。壁溝覆土。
- 12 黄褐色土 ローム・黒色土等の混土。床面を形成する土。
- 13 黄色土 ロームに黒色土ブロックと焼土を含む。

19住

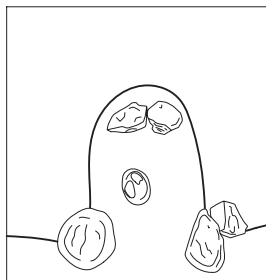
※カマド遺物出土状況詳細図1 (No.15、17、配石1)



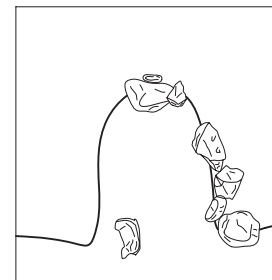
※カマド遺物出土状況詳細図2 (No.18~20、配石2)



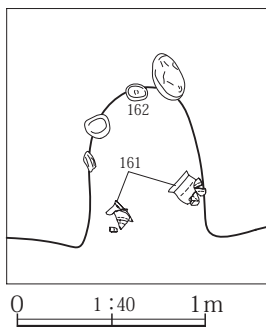
※カマド遺物出土状況詳細図3 (配石1)



※カマド遺物出土状況詳細図4 (No.16、25~31)



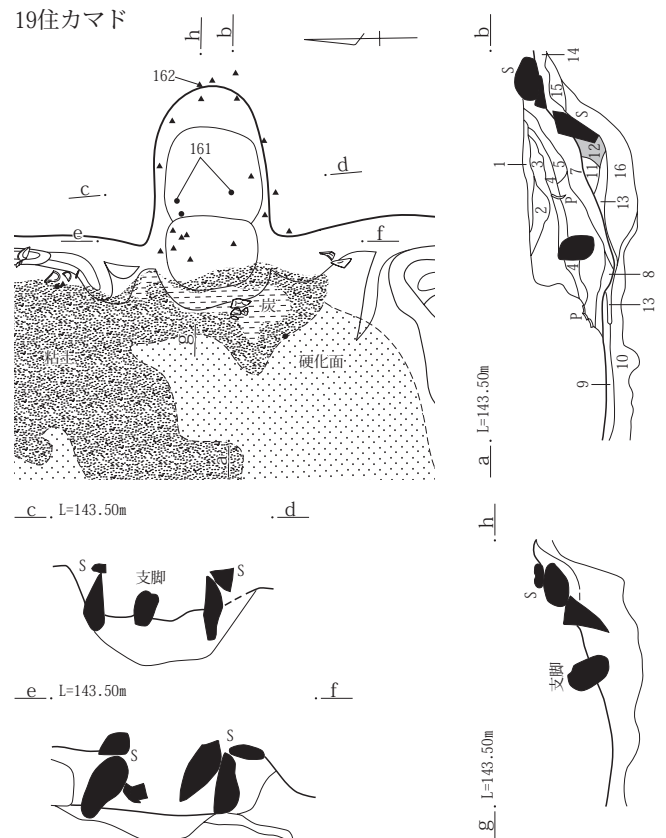
※カマド遺物出土状況詳細図5 (No. 1、2、12、21~24)



19住 カマド a-b

- 1 黒色土 白色軽石・焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く、焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
- 3 褐色土 焼土粒子を少量、白色軽石を含む。
- 4 黒褐色土 白色軽石・焼土粒を少量含む。
- 5 赤褐色土 白色軽石を少量含む。全体的に焼土粒子を含む。上位はロームブロックを含む。
- 6 黒色土 焼土粒子・白色軽石を少量含む。
- 7 赤褐色土 焼土を多量に含む。奥壁近くは黒色土ブロックを含む。
- 8 黒褐色土 焼土粒子・粘土ブロックを含む。

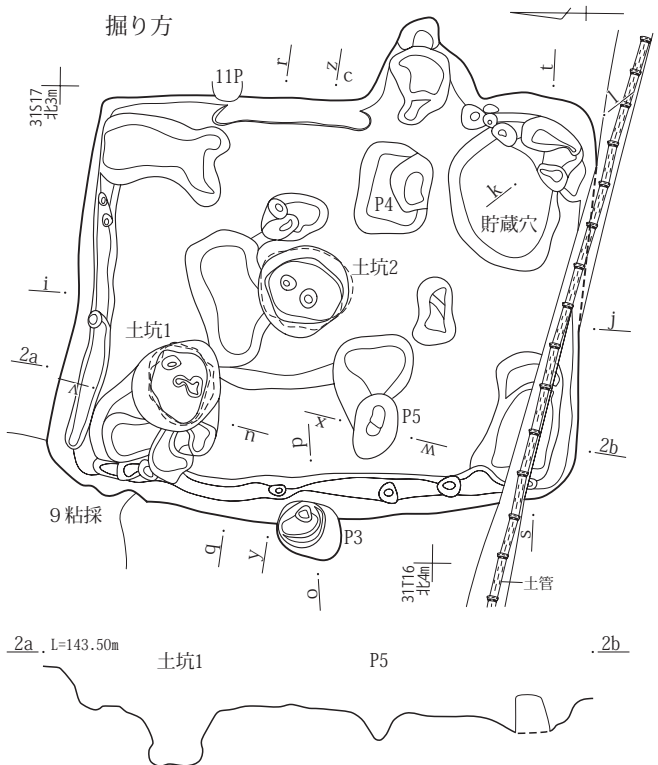
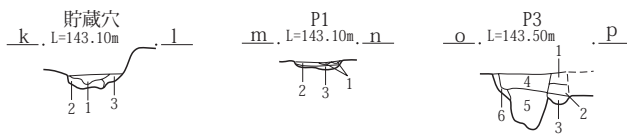
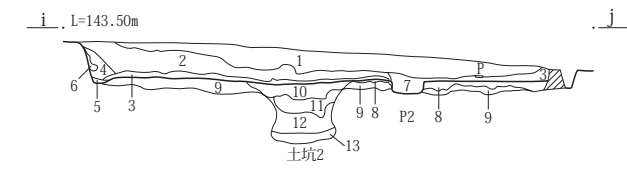
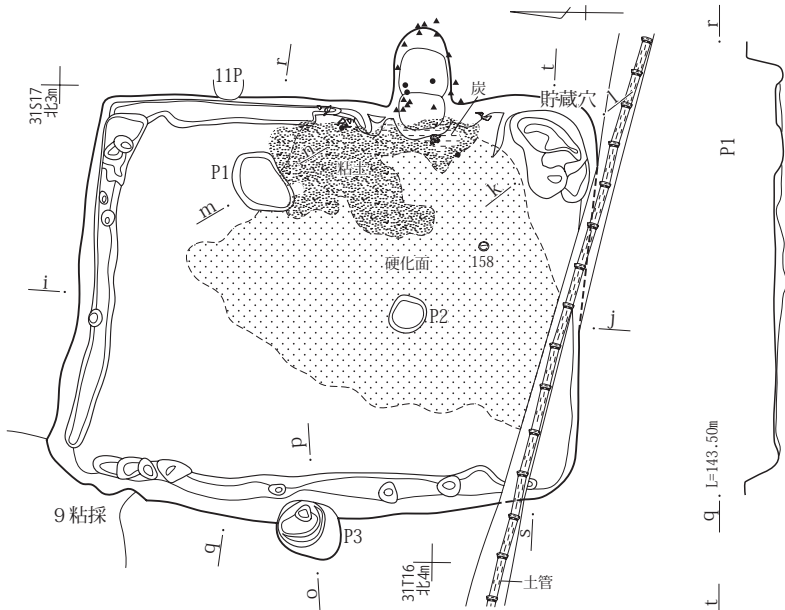
19住カマド



- 9 黄褐色土 焼土を含む。ローム・黒色土が互層をなす。住居床面を形成する土。
- 10 黒褐色土 黒色土にロームブロックを多量、焼土を含む。住居の掘り方覆土。
- 11 赤褐色土 7に似るが7との境界付近に灰が薄く堆積する。
- 12 灰層
- 13 黒褐色土 焼土を少量、ロームブロックを含む。
- 14 赤褐色土 焼土を含む。
- 15 黒色土 ロームブロック・焼土等を含まない。
- 16 黒褐色土 粘土ブロックを多く含む。

第166図 東紺屋17住居、19住居(1)

遺構図(東紺屋)



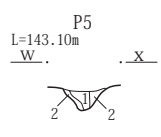
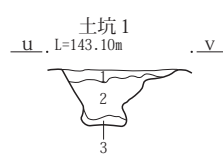
- i-j
- 1 黒褐色土 白色軽石を含む。1~5cm大のロームブロックを含む。住居中央部付近は焼土粒子を含む。
 - 2 黒色土 1cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 - 3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性あり。白色軽石を含まない。
 - 4 灰色土 白色軽石を少量含む。ロームブロックを含まない。
 - 5 黒褐色土 ロームブロックを含む。
 - 6 黄色土 汚れたローム。壁の崩落か。
 - 7 黒褐色土 2~5cm大のロームブロック・焼土粒子を含む。
 - 8 黒褐色土 ロームブロックを含む。
 - 9 黄色土 黒色土ブロックを含む。

- 10 黄色土 5~10cm大のロームブロック・黒色土ブロックを含む。
- 11 1に似るがロームブロックが大きい。黒色土ブロックを含む。
- 12 黒色土 5cm大のロームブロックを少量含む。
- 13 黄色土 軟らかいローム。黒色土ブロック・硬いロームブロックを含む。

- 貯藏穴 k-l
- 1 黒色土 焼土粒子を少量、粘土ブロックを含む。
 - 2 黒色土 2~10cm大のロームブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 1に似る。ロームブロックを含む。

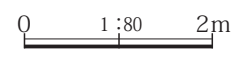
- P1 m-n
- 1 黒褐色土 黒色土と粘土ブロックの混土。
 - 2 灰白色土 白色の粘土。黒色土ブロックをごく少量含む。
 - 3 黄色土。

- P3 o-p
- 1 住居1層と同じ。
 - 2 住居2層と同じ。
 - 3 住居5層と同じ。
 - 4 黒色土 白色軽石を多く含む。締まりなし。
 - 5 黒褐色土 1cm大のロームブロックを含む。白色軽石を含まない。
 - 6 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。



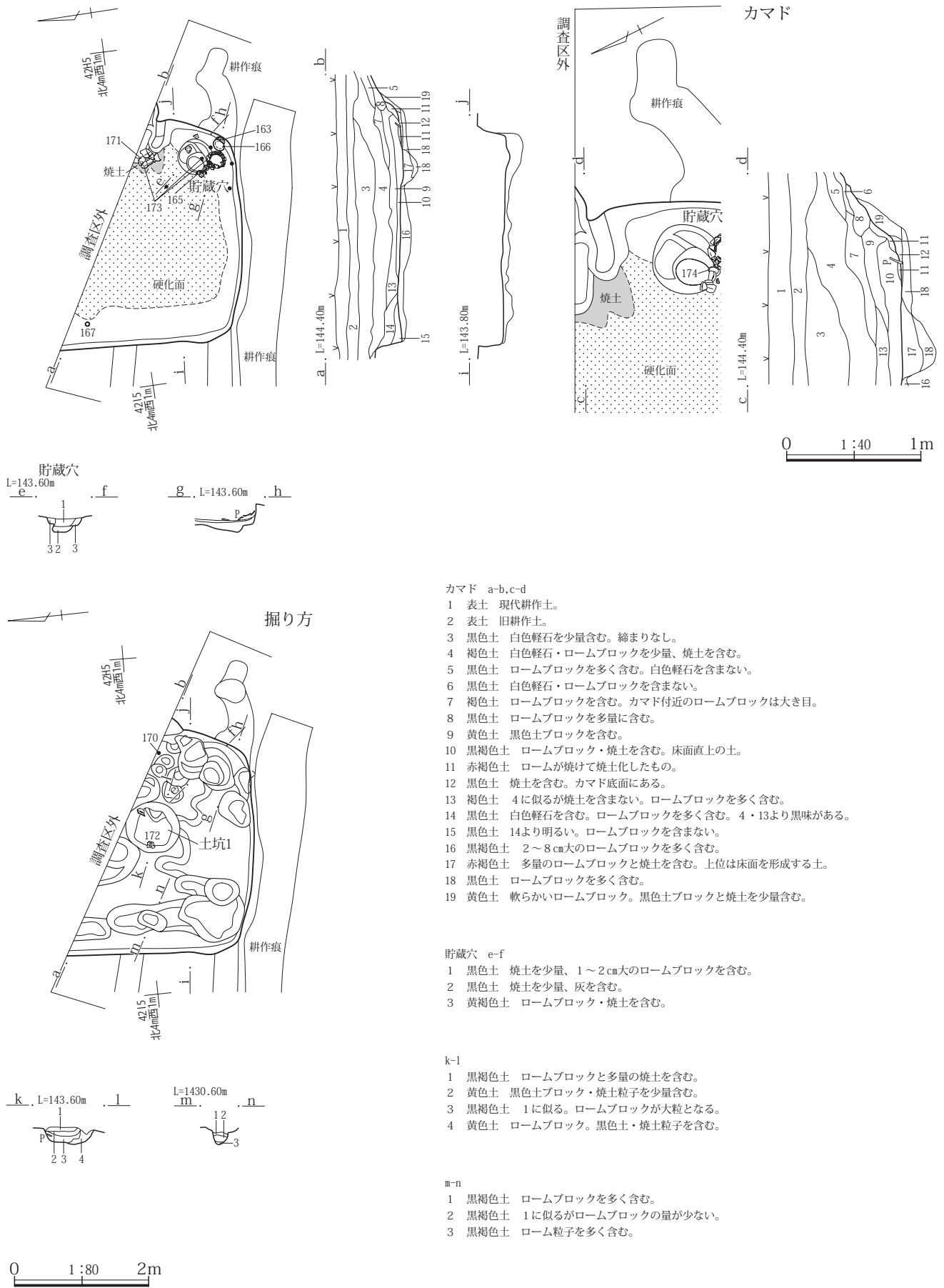
- 土坑1 u-v
- 1 黒褐色土 5cm大のロームブロックを多量に含む。
 - 2 黄色土 10~20cm大のロームブロックを多く含む。ブロック間に褐色土・黒色土が入る。締まりなし。
 - 3 黒色土 ロームブロックを少量含む。

- P5 w-x
- 1 黄褐色土 褐色土とローム層の混土。砂質。締まりなし。
 - 2 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。



第167図 東紺屋19住居(2)

第4章 検出された遺構と遺物



カマド a-b,c-d

- 1 表土 現代耕作土。
- 2 表土 旧耕作土。
- 3 黒色土 白色軽石を少量含む。締まりなし。
- 4 褐色土 白色軽石・ロームブロックを少量、焼土を含む。
- 5 黒色土 ロームブロックを多く含む。白色軽石を含まない。
- 6 黒色土 白色軽石・ロームブロックを含まない。
- 7 褐色土 ロームブロックを含む。カマド付近のロームブロックは大き目。
- 8 黒色土 ロームブロックを多量に含む。
- 9 黄色土 黒色土ブロックを含む。
- 10 黒褐色土 ロームブロック・焼土を含む。床面直上の土。
- 11 赤褐色土 ロームが焼けて焼土化したもの。
- 12 黒色土 焼土を含む。カマド底面にある。
- 13 褐色土 4に似るが焼土を含まない。ロームブロックを多く含む。
- 14 黒色土 白色軽石を含む。ロームブロックを多く含む。4・13より黒味がある。
- 15 黒色土 14より明るい。ロームブロックを含まない。
- 16 黒褐色土 2～8cm大のロームブロックを多く含む。
- 17 赤褐色土 多量のロームブロックと焼土を含む。上位は床面を形成する土。
- 18 黒色土 ロームブロックを多く含む。
- 19 黄色土 軟らかいロームブロック。黒色土ブロックと焼土を少量含む。

貯蔵穴 e-f

- 1 黒色土 焼土を少量、1～2cm大のロームブロックを含む。
- 2 黒色土 焼土を少量、灰を含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック・焼土を含む。

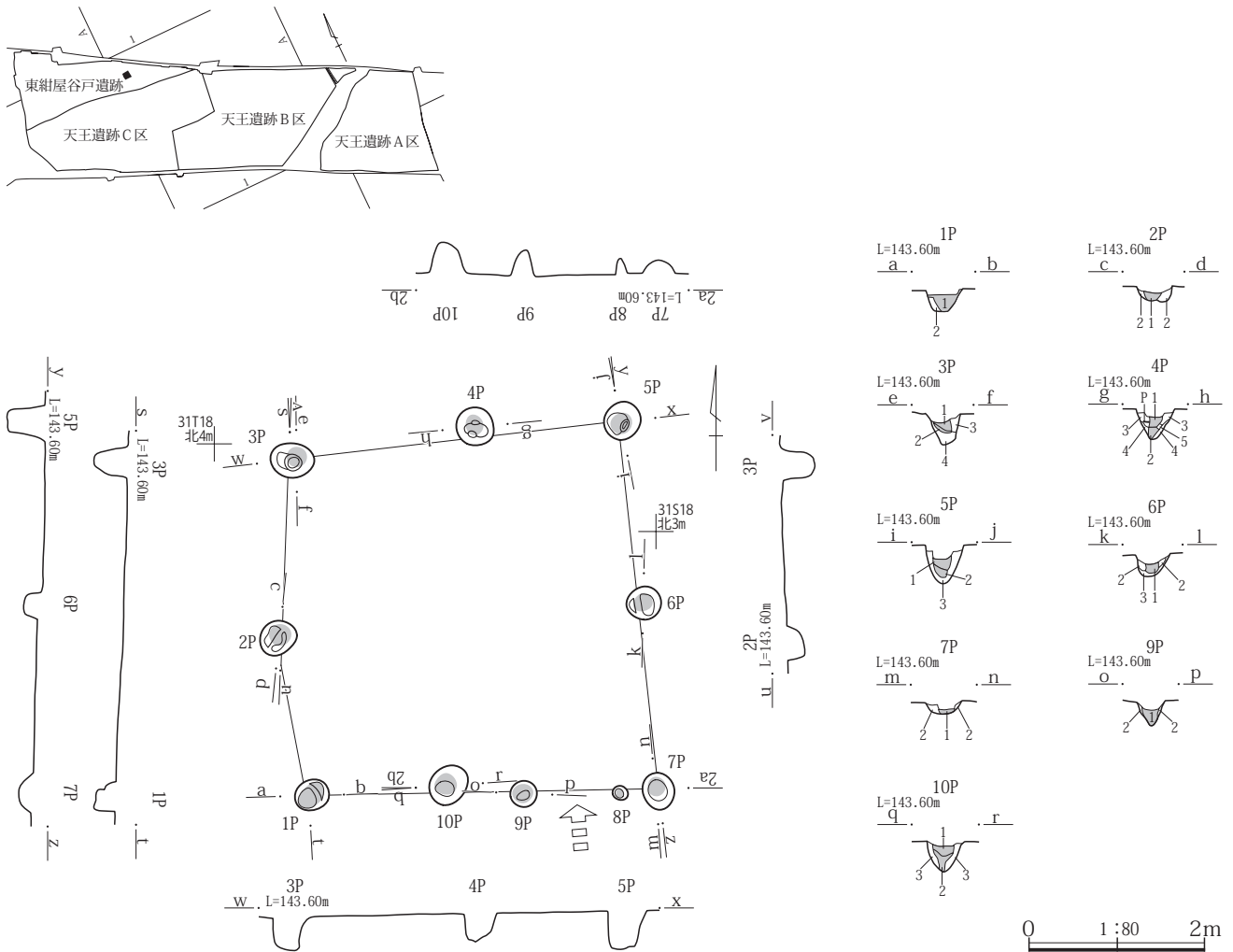
k-l

- 1 黒褐色土 ロームブロックと多量の焼土を含む。
- 2 黄色土 黒色土ブロック・焼土粒子を少量含む。
- 3 黒褐色土 1に似る。ロームブロックが大粒となる。
- 4 黄色土 ロームブロック。黒色土・焼土粒子を含む。

m-n

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 1に似るがロームブロックの量が少ない。
- 3 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。

第168図 東紺屋23住居



- 1P a-b 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物を含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量含む。締まりなし。
- 2P c-d 1 黒褐色土 白色軽石・暗褐色土を含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量、黒褐色土を含む。
- 3P e-f 1 黒色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・褐色砂質土を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。4 褐色土 ローム粒子を含む。
- 4P g-h 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量、0.5cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。4 褐色土 ローム粒子を含む。
- 5P i-j 1 黒色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。
- 6P k-l 1 黒色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。3 暗褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。
- 7P m-n 1 黒色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を微量含む。砂質。
- 9P o-p 1 黒色土 白色軽石を微量含む。砂質。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を微量含む。砂質。
- 10P q-r 1 黒色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量、0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。

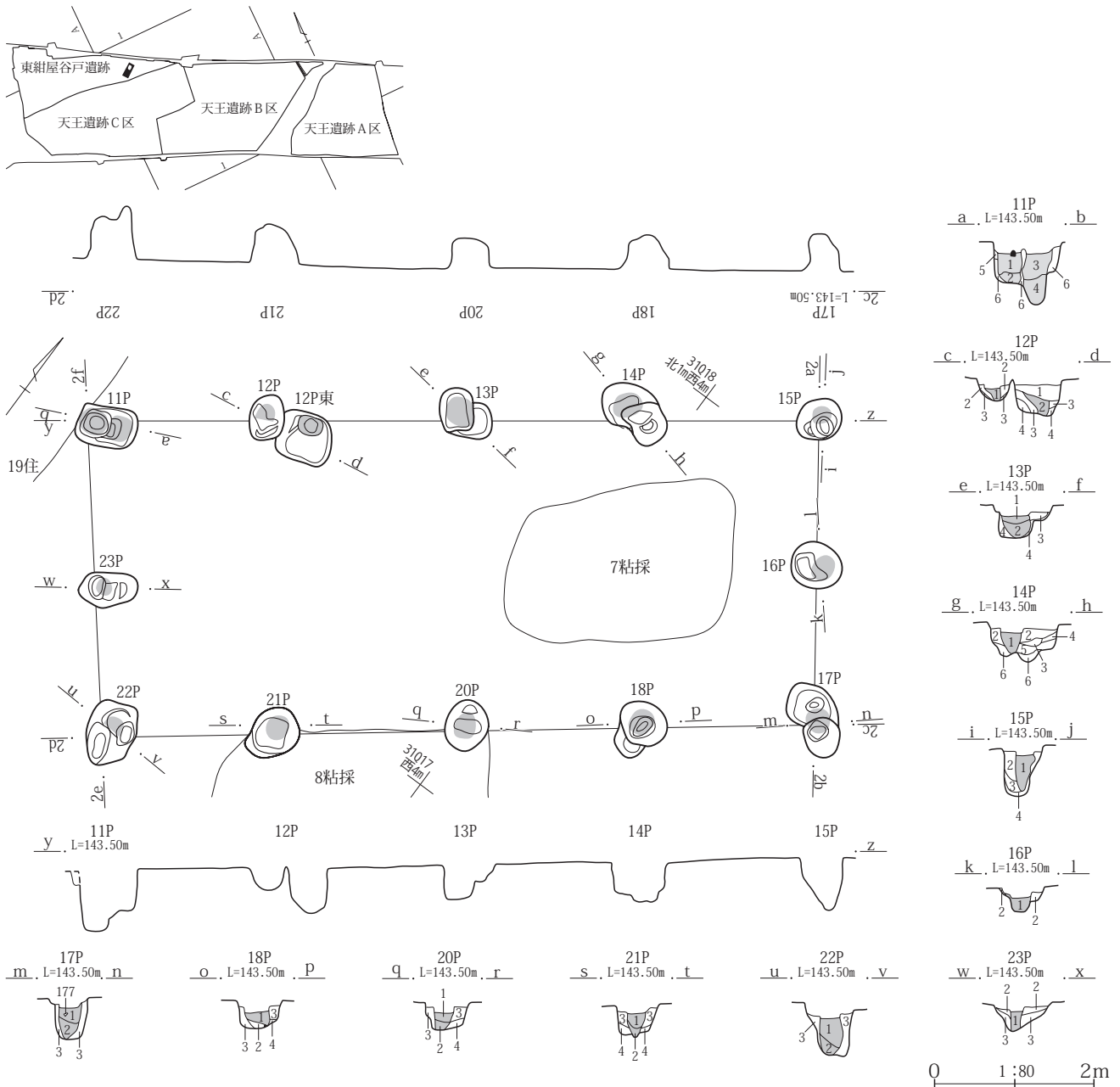
第30表 東紺屋1 掘立柱建物計測表

平面形		規模		長軸方位(2P-6P) N84° E			面積m ²	16.67
桁行cm	梁行cm	桁立柱間	梁立柱間	規模			深さcm	備考
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径		
3P-5P:369	3P- 1P:382	3P- 4P:205	3P-2P:204	1P	39×35	23×20	20	二段
2P-6P:416	4P-10P:403	4P- 5P:164	2P-1P:180	2P	43×38	25×4	19	二段,柱痕径25
1P-7P:398	5P- 7P:419	1P-10P:156	5P-6P:207	3P	49×39	13×11	39	二段,柱痕径23
		10P- 7P:242	6P-7P:213	4P	43×42	9×7	32	二段,柱痕径24
		10P- 9P: 89		5P	44×40	20×5	42	二段,柱痕径24
		9P- 8P:110		6P	38×38	24×14	25	二段,柱痕径24
		8P- 7P: 44		7P	43×36	24×21	13	柱痕径22
				8P	18×16	11×9	17	柱痕径9
				9P	30×30	15×9	31	柱痕径23
				10P	48×40	21×17	37	柱痕径24

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

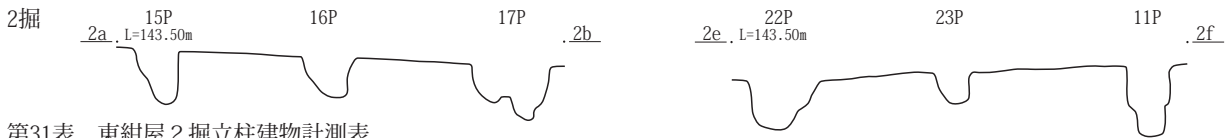
第169図 東紺屋1 掘立柱建物

第4章 検出された遺構と遺物



- 11P a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 黒色土 白色軽石・0.5~1cm大のローム粒子を含む。柱痕か。4 黒褐色土 白色軽石を少量、1cm大の砂礫を含む。柱痕か。5 暗褐色土 白色軽石を少量、0.5~2cmのロームを含む。6 暗褐色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子を少量含む。
- 12P c-d 1 黒色土 白色軽石・0.5~2cm大のロームを含む。柱痕か。2 褐色土 白色軽石を微量、黒色土・ローム粒子を含む。3 褐色土 0.2~0.3cm大の黒色土粒子を少量含む。
- 12P東 c-d 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。2 黒褐色土 褐色土・ローム粒子を含む。柱痕か。3 暗褐色土 褐色土・2~3cm大のロームブロックを含む。4 褐色土 暗褐色土粒子を含む。砂質。
- 13P e-f 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 褐色土 白色軽石を微量、黒色土・ローム粒子を含む。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石を含む。砂質。4 暗褐色土 褐色土・ローム粒子を含む。
- 14P g-h 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・黒色土・ローム粒子を含む。3 暗褐色土 白色軽石を少量、黒色土・ローム粒子を含む。4 暗褐色土 白色軽石を少量、2~4cm大のロームブロックを含む。5 褐色土 白色軽石を微量、暗褐色土・ローム粒子を含む。6 褐色土 ローム粒子を含む。
- 15P i-j 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・黒色土・ローム粒子を含む。3 暗褐色土 白色軽石を少量含む。黒色土・ローム粒子を含む。4 褐色土 暗褐色土・ローム粒子を含む。
- 16P k-l 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、黒色土粒を含む。
- 17P m-n 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量、褐色土・ローム粒子を含む。柱痕か。3 褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子を含む。
- 18P o-p 1 黒色土 白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・0.5cm大の砂礫を含む。1~2cm大のロームブロックを含む。3 褐色土 白色軽石を微量、黒褐色土粒を含む。4 褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子を少量含む。
- 20P q-r 1 黒色土 白色軽石を少量、ローム粒子と1~2cm大のブロックを含む。砂質。柱痕か。2 褐色土 白色軽石を微量、ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cmの砂礫を含む。4 褐色土 砂質。ローム粒子を含む。
- 21P s-t 1 黒色土 白色軽石を少量、ローム粒子と1~2cm大のブロックを含む。砂質。柱痕か。2 褐色土 白色軽石を微量、ローム砂粒を含む。砂質。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大の砂礫を含む。4 褐色土 砂質。ローム粒子を含む。
- 22P u-v 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.3~0.5cmのローム粒子を含む。柱痕か。3 褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子を含む。
- 23P w-x 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子を含む。砂質。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大の黒色砂質土を含む。3 暗褐色土 白色軽石を微量、3~4cm大のロームブロックを含む。

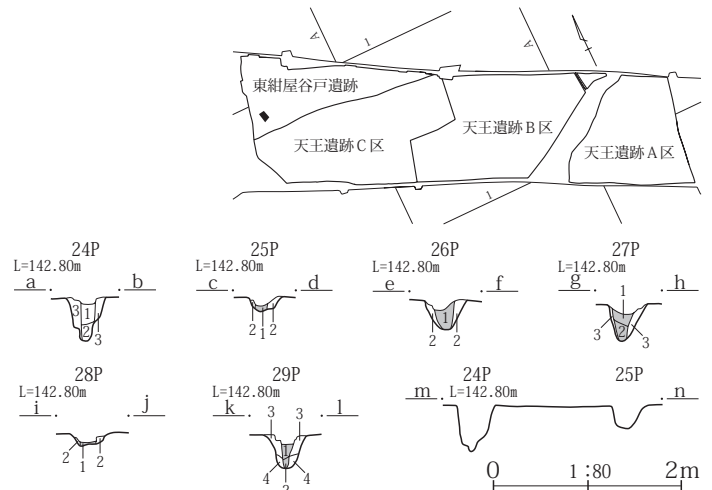
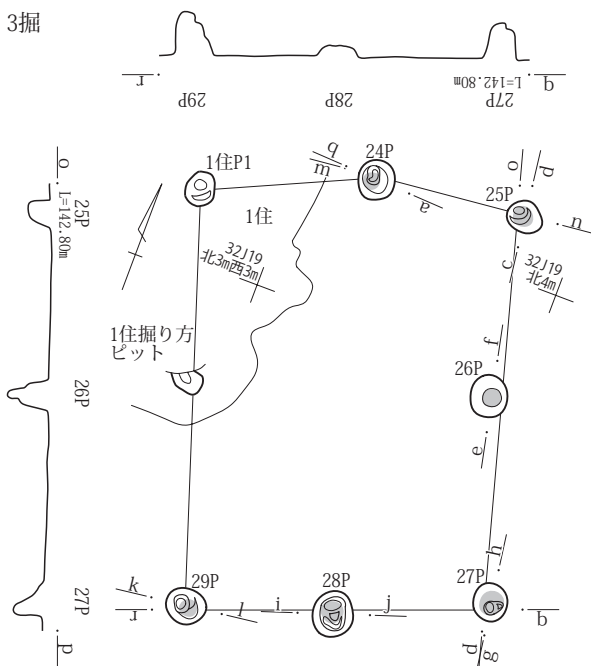
第170図 東紺屋2掘立柱建物(1)



第31表 東紺屋2掘立柱建物計測表

平面形		規模		2間×4間		長軸方位(23P-16P)		N52°E		面積m ²	34.76
桁行cm	梁行cm	桁立柱間	梁立柱間	規模				備考			
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm				
11P-15P:910	11P-22P:391	11P-12P:212	11P-23P:204	11P	75×50	18×11	77	二段,柱痕径37			
23P-16P:886	12P-21P:399	12P-13P:239	23P-22P:189	12P	55×43	37×27	27	二段,柱痕径23			
22P-17P:865	12P東-21P:386	13P-14P:230	15P-16P:179	12P東	64×62	17×17	58	二段			
	13P-20P:391	14P-15P:231	16P-17P:205	13P	53×42	42×26	44				
	14P-18P:386	22P-21P:183		14P	93×60	30×16	47	三段,柱痕径30			
	15P-17P:382	21P-20P:246		15P	60×52	17×10	65	三段,柱痕径22			
		20P-18P:217		16P	65×57	29×14	52	二段,柱痕径33			
		18P-17P:220		17P	50×45	18×15	58	二段,柱痕径30			
				18P	71×63	16×7	52	二段,柱痕径29			
				20P	65×53	34×18	41	柱痕径26			
				21P	70×58	37×36	45	柱痕径28			
				22P	82×62	21×11	65	三段,柱痕径25			
				23P	74×44	23×13	35	二段,柱痕径20			

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測



- 24P a-b 1 黒色土 白色軽石・0.2~0.3cm大の炭化物・ローム粒子を含む。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大の炭化物・ローム粒子を含む。3 暗褐色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子・黒色土を含む。
- 25P c-d 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量、0.5cm大の黒色土・ローム粒子を含む。
- 26P e-f 1 黒色土 白色軽石・3~4cm大のロームブロックを含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・0.5cm大の黒色土・ローム粒子を含む。
- 27P g-h 1 黒色土 白色軽石を少量含む。5cm大のロームブロックを含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量含む。黒色土・0.3cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 褐色土 0.2~0.3cm大の黒色土・ローム粒子を含む。砂質。
- 28P i-j 1 黒色土 白色軽石・2~3cm大のロームブロックを含む。柱痕か。2 褐色土 1~2cm大の黒色土・ロームブロックを含む。砂質。
- 29P k-l 1 黒色土 白色軽石・0.5cm大の炭化物・ローム粒子を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大の炭化物・ローム粒子を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石・黒褐色土・ローム粒子を含む。4 暗褐色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。

第32表 東紺屋3掘立柱建物計測表

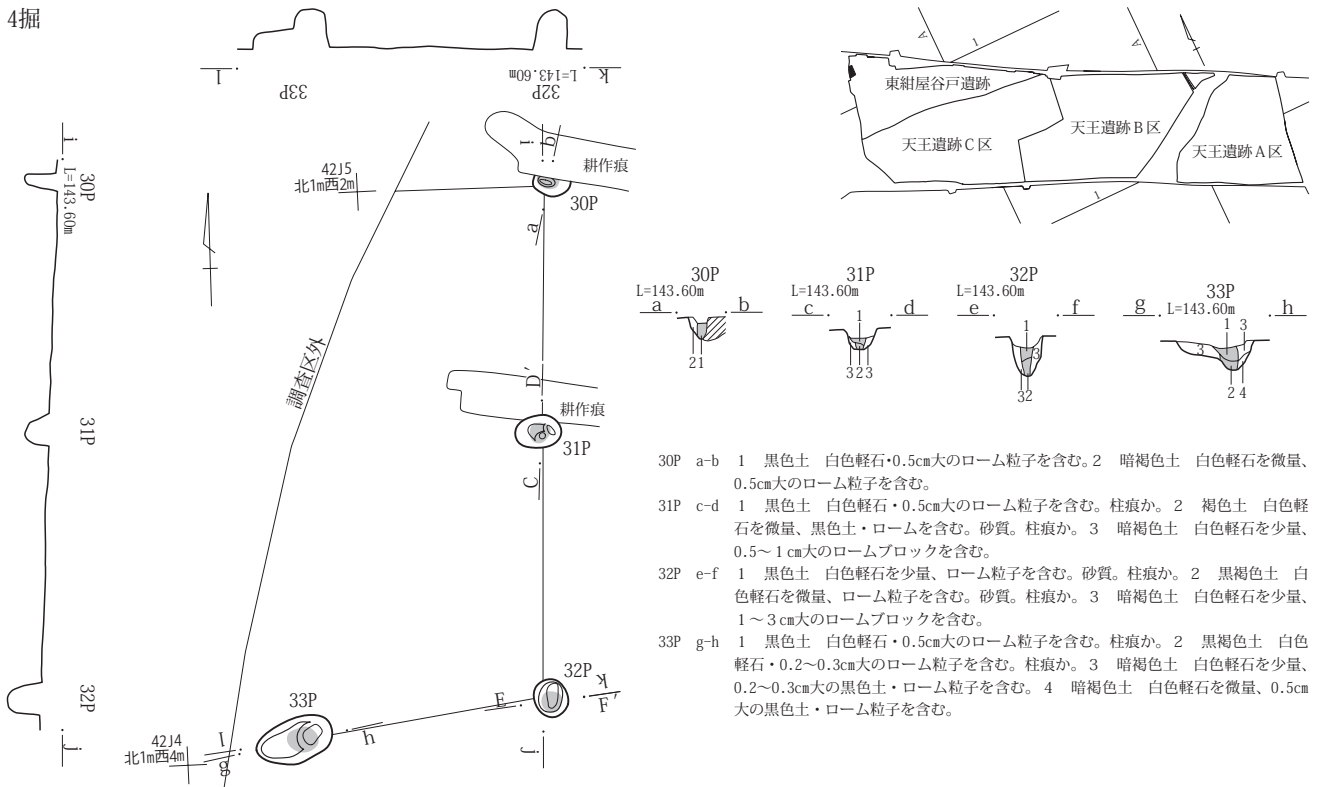
平面形		規模		2間×2間		長軸方位(24P-28P)		N15°W		面積m ²	13.80
桁行cm	梁行cm	桁立柱間	梁立柱間	規模				備考			
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm				
25P-27P:421	1住P1-25P:339	25P-26P:194	1住P1-24P:185	24P	42×39	13×5	50	二段,柱痕径18			
24P-28P:456	1住掘り方ピット-26P:323	26P-27P:229	24P-25P:158	25P	37×34	11×8	24	二段,柱痕径21			
1住P1-29P:443	29P-27P:328	1住P1-1住掘り方ピット:204	29P-28P:161	26P	45×39	15×8	48	二段,柱痕径20			
		1住掘り方ピット-29P:238	28P-27P:167	27P	41×36	11×8	37	二段,柱痕径25			
				28P	49×43	18×11	15	二段,柱痕径24			
				29P	42×38	12×10	47	二段,柱痕径20			
				1住掘り方ピット	35×24	13×9	住居外から	48			
				1住居P1	37×30	13×11	住居外から	74			

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第171図 東紺屋2掘立柱建物(2)、3掘立柱建物

第4章 検出された遺構と遺物

4掘

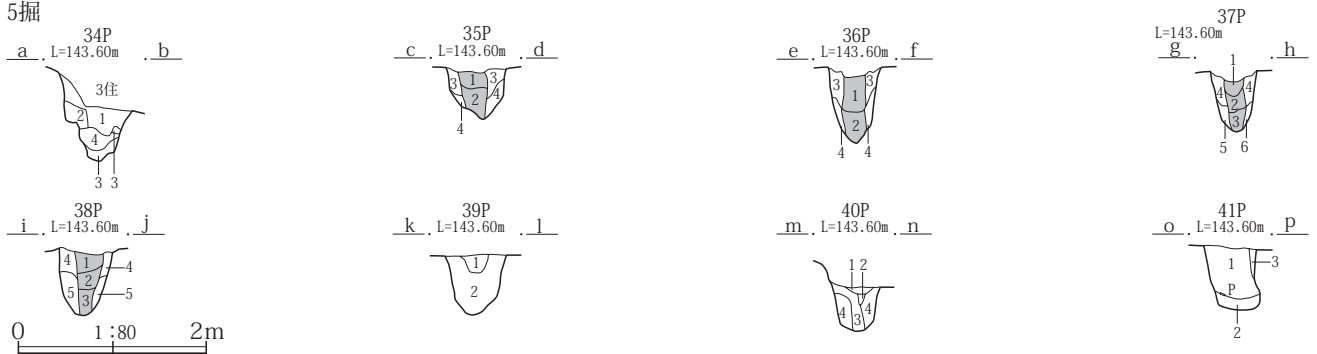


第33表 東紺屋4掘立柱建物計測表

平面形		長方形か	規模	2間×1間以上	長軸方位(30P-32P) N 1° E			面積m ²	計測不可
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考	
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径			
30P-32P:556	-	30P-31P:269 31P-32P:287	33P-32P:255	30P	39×19以上	13×5	33	二段,柱痕径24	
				31P	49×34	7×6	26	二段,柱痕径21	
				32P	40×35	6×5	45	三段,柱痕径27	
				33P	83×47	21×16	41	二段,柱痕径21	

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

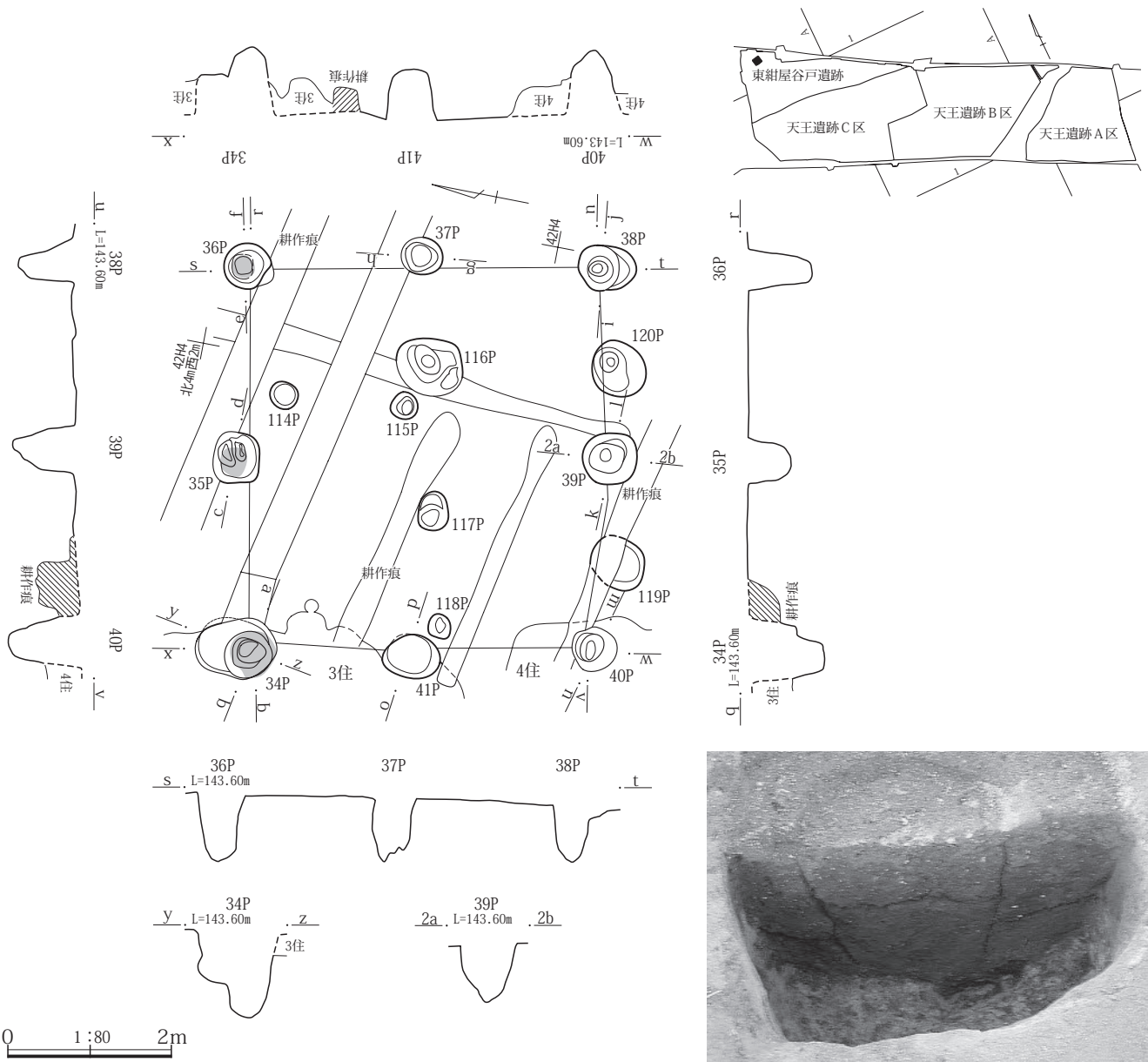
5掘



34P a-b * 3住のカマドを切る 1 黒色土 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。2 黒色土 ロームブロックを多く含む。3 黒色土 ロームブロックを少量含む。白色軽石を含まない。4 黒色土 均一な黒色土。5 黒褐色土 4に似る。粘性あり。締まっている。
 35P c-d 1 黒色土 0.5~2cm大の小石を少量、白色軽石を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を含む。4 褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.3cm大の黒色土・ローム粒子を含む。
 36P e-f 1 黒色土 白色軽石を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量、黒色砂質土を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、褐色砂質土・0.2~0.3cm大のローム粒子を含む。4 褐色土 白色軽石を微量、褐色砂質土・0.3cm大のローム粒子を含む。
 37P g-h 1 黒色土 0.3cm大のローム粒子を少量、白色軽石を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.3cm大のローム粒子を少量含む。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子を含む。柱痕か。4 暗褐色土 白色軽石・0.2~0.5cm大のローム粒子を含む。5 暗褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.5cm大のローム粒子を含む。
 38P i-j 1 黒色土 0.2~0.3cm大のローム粒子を微量、白色軽石を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石・0.2~0.5cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石を微量、0.2~0.5cm大のローム粒子を含む。柱痕か。4 暗褐色土 0.2~0.3cm大の黒色土・ローム粒子を少量、白色軽石を含む。5 暗褐色土 白色軽石を微量、ロームを含む。
 39P k-l 1 黒褐色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。2 黒色土 白色軽石・0.5cm大のローム粒子を含む。5cm大のロームブロックを少量含む。
 40P m-n * 4住を切る 1 黒色土 白色軽石・ロームブロックを少量含む。2 黒色土 1に似るがロームブロックを含まない。3 黒色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。炭化物を少量含む。4 黒色土 3に似るがロームブロックが小粒となる。
 41P o-p * 3住を切る 1 黒色土 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。2 黒色土 下にロームブロックを含む。白色軽石を含まない。3 褐色土 壁の崩落か。

第172図 東紺屋4掘立柱建物、5掘立柱建物(1)

遺構図(東紺屋)



▲P35土層断面 南から

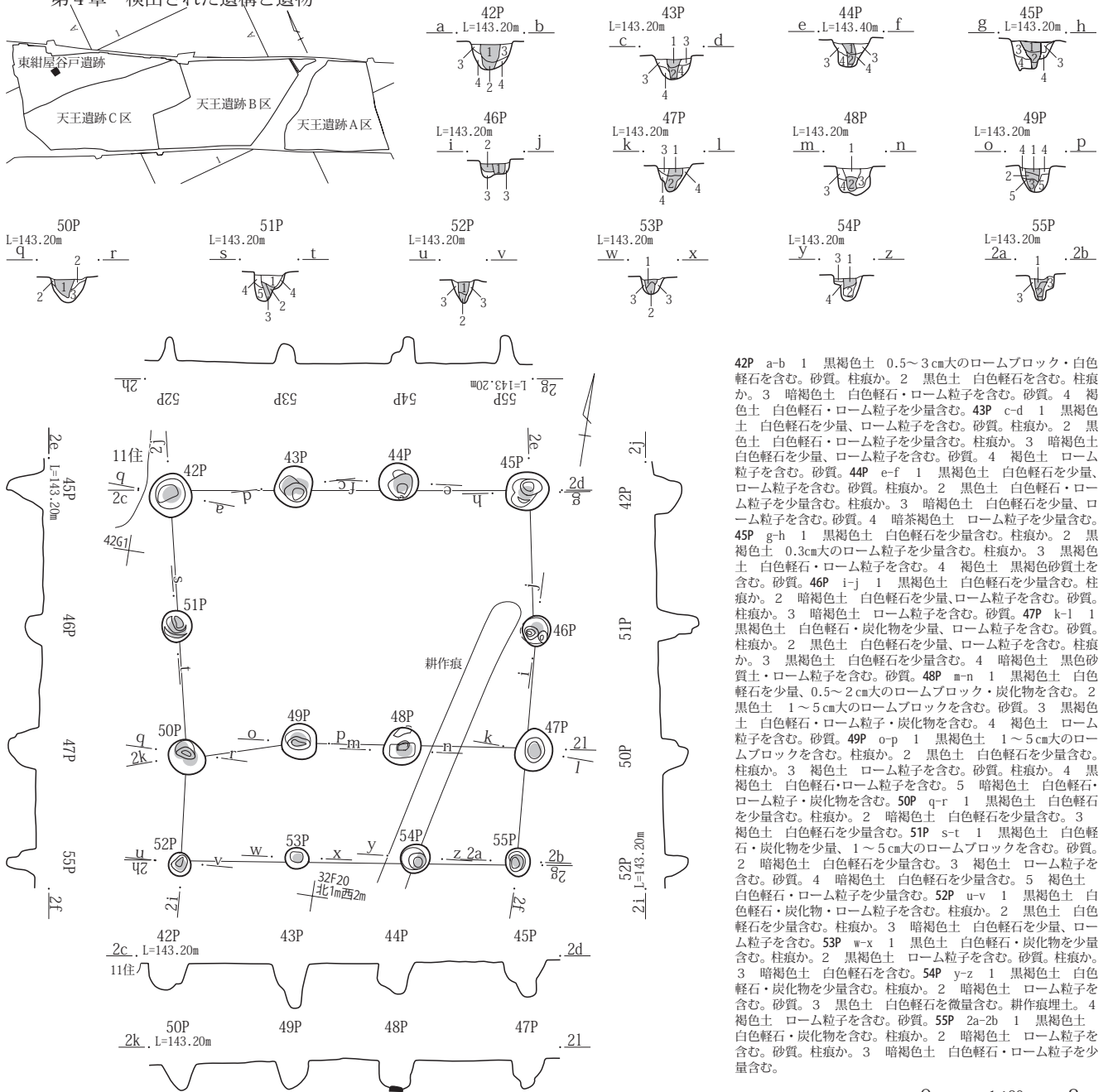
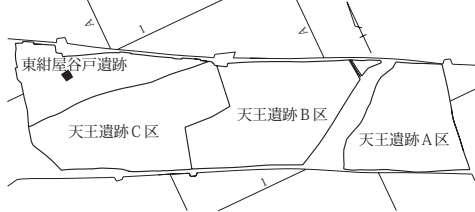
第34表 東紺屋5掘立柱建物計測表

平面形		略方形	規模	2間×2間		長軸方位(41P-37P)		N78°E	面積m ²	19.48
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模			深さcm	備考		
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径				
36P-34P:466	36P-38P:431	36P-35P:226	36P-37P:205	34P	100×75	25×15	106	三段, 3住居を切る		
37P-41P:482	35P-39P:444	35P-34P:241	37P-38P:227	35P	61×56	14×2	56	二段, 柱痕径32		
38P-40P:465	34P-40P:419	38P-39P:228	34P-41P:200	36P	58×56	21×19	80	二段, 柱痕径25		
		39P-40P:238	41P-40P:220	37P	50×46	14×13	75	三段, 柱痕径23		
				38P	71×56	12×11	67	二段, 柱痕径31		
				39P	67×62	15×13	78	二段		
				40P	55×54	23×11	77	二段, 4住居を切る		
				41P	70×54	52×45	65	3住居を切る		
				114P	35×32	25×25	33			
				115P	34×34	18×13	31	二段		
				116P	85×73	16×14	53	二段		
				117P	48×37	22×18	20	二段		
118P	28×27	19×12	26							
119P	68×60	計測不可	41							
120P	72×65	11×9	45	二段						

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第173図 東紺屋5掘立柱建物(2)

第4章 検出された遺構と遺物



42P a-b 1 黒褐色土 0.5~3cm大のロームブロック・白色軽石を含む。砂質。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を含む。砂質。4 褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。43P c-d 1 黒褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。2 黒色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。4 褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。2 黒色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。4 暗褐色土 白色軽石を少量含む。45P g-h 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 黒褐色土 0.3cm大のローム粒子を少量含む。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石・ローム粒子を含む。4 褐色土 黒褐色砂質土を含む。砂質。46P i-j 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。47P k-l 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物を含む。砂質。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。柱痕か。3 黒褐色土 白色軽石を少量含む。4 暗褐色土 黒色砂質土・ローム粒子を含む。砂質。48P m-n 1 黒褐色土 白色軽石を少量、0.5~2cm大のロームブロック・炭化物を含む。2 黒色土 1~5cm大のロームブロックを含む。砂質。3 黒褐色土 白色軽石・ローム粒子・炭化物を含む。4 褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。49P o-p 1 黒褐色土 1~5cm大のロームブロックを含む。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。4 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を含む。5 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子・炭化物を含む。50P q-r 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。3 褐色土 白色軽石を少量含む。51P s-t 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物を少量含む。2 暗褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。3 褐色土 白色軽石を少量含む。52P u-v 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物・ローム粒子を含む。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。4 暗褐色土 白色軽石を少量含む。5 褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。53P w-x 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物を少量含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を含む。54P y-z 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。3 黒色土 白色軽石を少量含む。耕作痕埋土。4 褐色土 白色軽石を含む。砂質。55P 2a-2b 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物を含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。

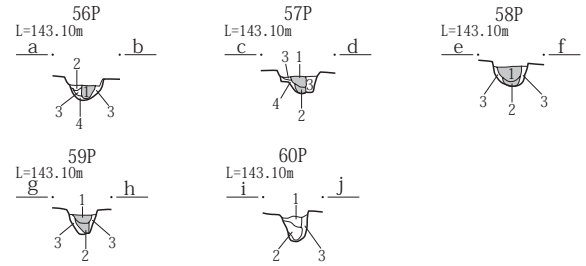
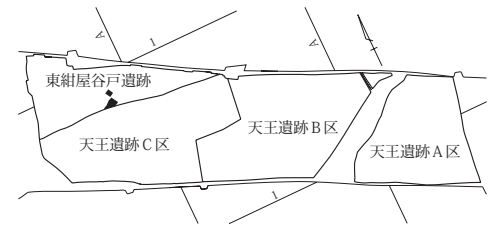
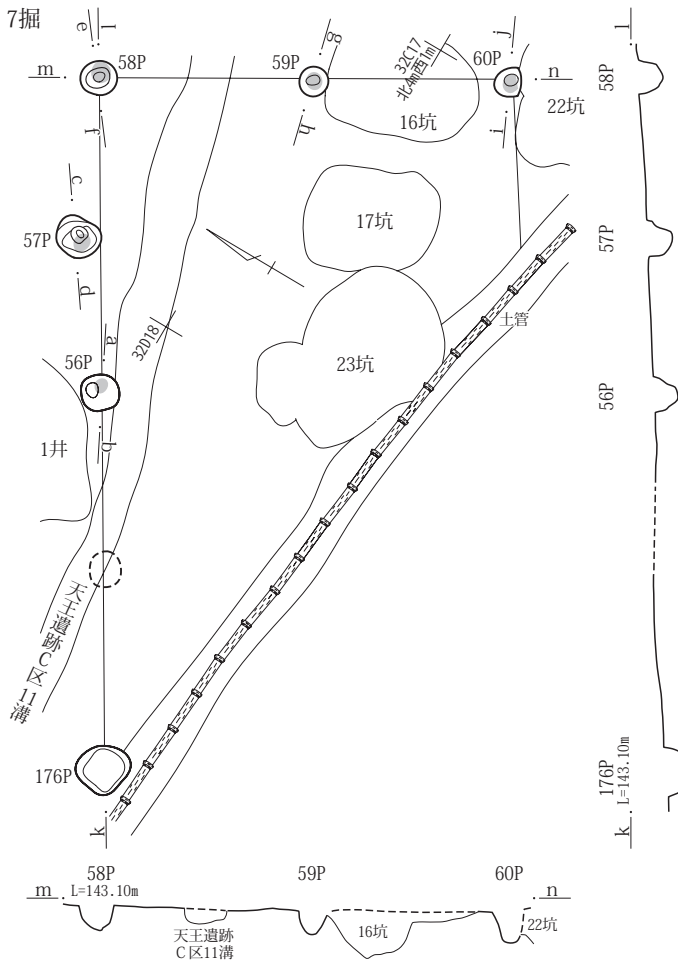
第35表 東紺屋6 掘立柱建物計測表

平面形		規模		2間×3間南面庇付き		長軸方位(51P-46P) N82°E			面積m ²	14.81
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm	備考		
45P-42P:463	45P-47P:337	45P-44P:163	45P-46P:187	42P	54×52	28×18	36	二段,柱痕径22		
46P-51P:448	44P-48P:334	44P-43P:135	46P-47P:151	43P	52×47	16×13	56	二段,柱痕径 旧24・新20		
47P-50P:445	43P-49P:317	43P-42P:165	47P-55P:147	44P	51×48	13×12	42	二段,柱痕径22		
55P-52P:430	42P-50P:333	47P-48P:169	48P-54P:144	45P	55×49	14×11	48	二段,柱痕径17		
		48P-49P:135	49P-53P:146	46P	38×37	7×4	49	二段,柱痕径15		
		49P-50P:142	42P-51P:167	47P	54×48	21×16	35	二段,柱痕径18		
		55P-54P:125	51P-50P:167	48P	50×47	32×18	39	底面に石17× 12,柱痕径21		
		54P-53P:155	50P-52P:141	49P	45×45	19×7	36	二段,柱痕径19		
		53P-52P:150		50P	49×42	12×5	32	二段,柱痕径 旧22・新21		
				51P	40×39	16×10	53	二段,柱痕径23		
				52P	30×29	13×9	32	二段,柱痕径15		
				53P	30×27	17×13	25	柱痕径13		
				54P	38×36	13×11	34	二段,柱痕径22		
				55P	36×32	13×10	36	二段,柱痕径15		

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第174図 東紺屋6 掘立柱建物

遺構図(東紺屋)

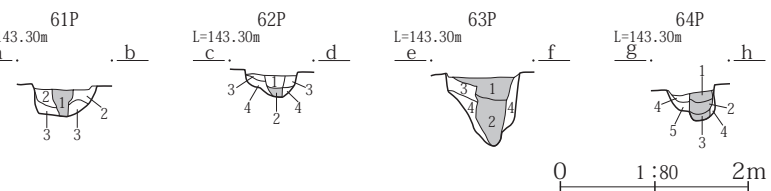
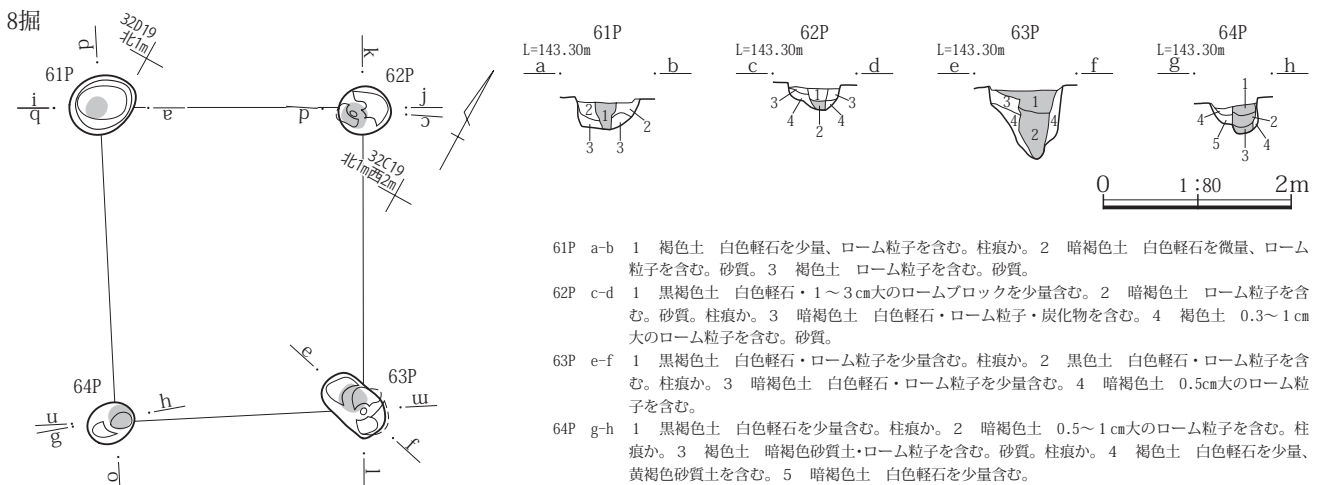


- 56P a-b 1 黒色土 白色軽石を少量、ローム・焼土粒子を含む。柱痕か。2 黒褐色土 白色軽石を少量含む。3 褐色土 黒褐色土を含む。4 暗褐色土 褐色土を含む。
- 57P c-d 1 黒褐色土 白色軽石を少量、褐色土を含む。砂質。柱痕か。2 暗褐色土 黒褐色砂質土・ロームを少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、0.5~1cm大のローム粒子・焼土粒子含む。4 褐色土 白色軽石を少量含む。
- 58P e-f 1 黒褐色土 白色軽石粒を少量、0.5~1cm大のローム粒子・焼土粒子を含む。柱痕か。2 暗褐色土 黒褐色土を少量含む。砂質。柱痕か。3 褐色土 白色軽石・0.3~1cm大のローム粒子を少量含む。
- 59P g-h 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物を含む。柱痕か。2 黒色土 0.3cm大のローム粒子・炭化物を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石・炭化物を少量含む。
- 60P i-j 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物・0.5~2cm大のロームブロックを少量含む。2 黒色土 黒褐色砂質土を少量、5cm大のロームブロックを含む。3 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量、黒色砂質土を含む。

第36表 東紺屋7掘立柱建物計測表

平面形		規模		長軸方位(60P-58P) N30°W				面積m ²
長方形		2間×2間か		規模				14.59
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm	備考
58P-60P:437	58P-56P:334	58P-59P:227	58P-57P:169	56P	40×38	16×13	24	二段、柱痕径14
		59P-60P:210	57P-56P:167	57P	48×40	9×6	27	二段、柱痕径17
				58P	39×37	12×10	25	二段、柱痕径20
				59P	31×30	14×9	27	柱痕径17
				60P	30×29	15×12	33	柱痕径18
				176P	51×50	39×36	18	

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測



- 61P a-b 1 褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を微量、ローム粒子を含む。砂質。3 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。
- 62P c-d 1 黒褐色土 白色軽石・1~3cm大のロームブロックを少量含む。2 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子・炭化物を含む。4 褐色土 0.3~1cm大のローム粒子を含む。砂質。
- 63P e-f 1 黒褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。柱痕か。2 黒色土 白色軽石・ローム粒子を含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。4 暗褐色土 0.5cm大のローム粒子を含む。
- 64P g-h 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 0.5~1cm大のローム粒子を含む。柱痕か。3 褐色土 暗褐色砂質土・ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。4 褐色土 白色軽石を少量、黄褐色砂質土を含む。5 暗褐色土 白色軽石を少量含む。

第175図 東紺屋7掘立柱建物、8掘立柱建物(1)

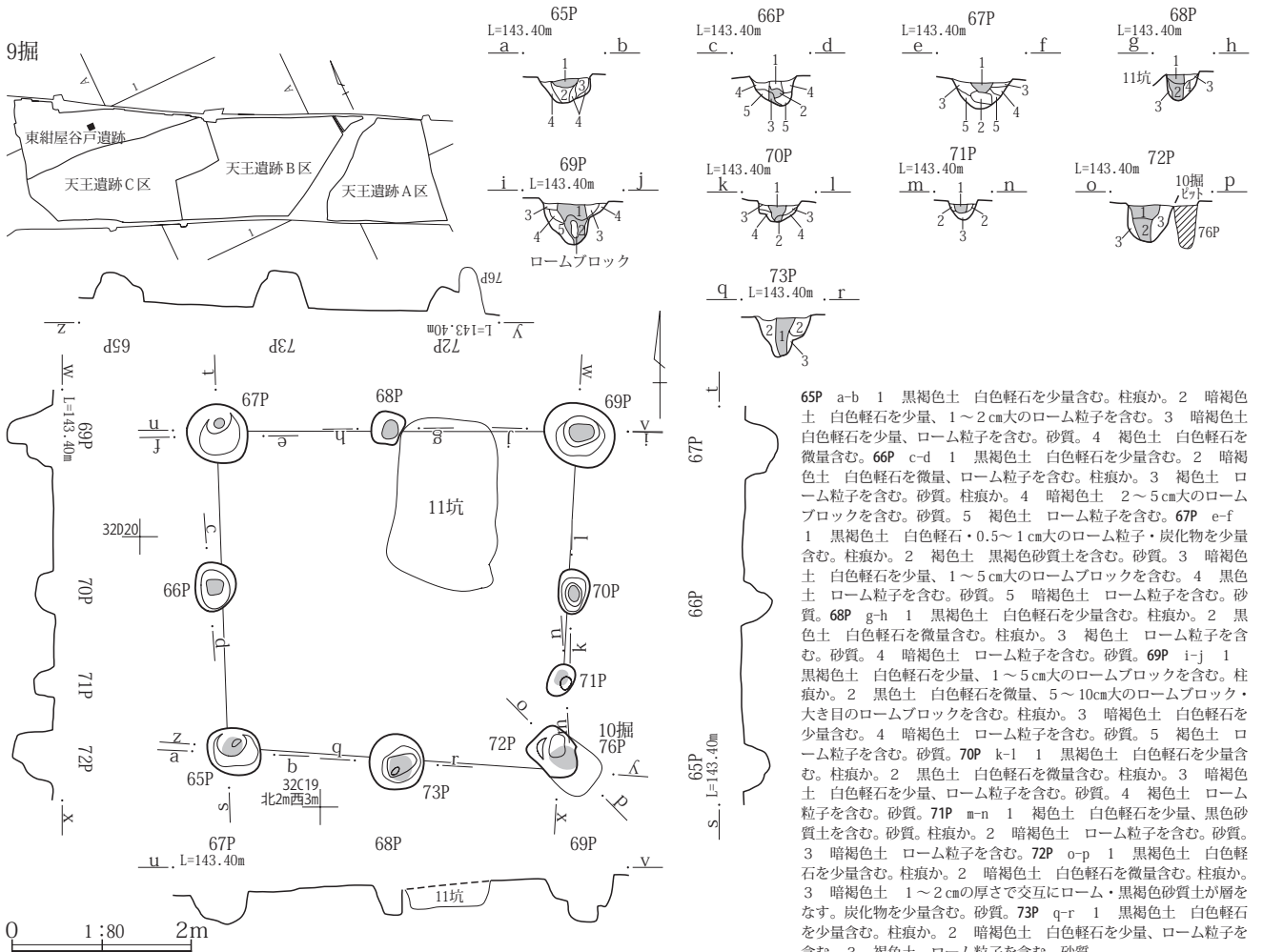
第4章 検出された遺構と遺物



第37表 東紺屋8掘立柱建物計測表

平面形		規模		1間×1間		長軸方位(62P-63P)		面積m ²		
長方形						N30°W		8.28		
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模		番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm	備考
61P-64P:338	61P-62P:264			61P	73×61	52×35	32		二段,柱痕径21	
62P-63P:314	64P-63P:257			62P	55×50	8×5	36		三段,柱痕径25	
				63P	76×44	8×6	78		三段,柱痕径27	
				64P	51×42	23×17	34		柱痕径25	

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測



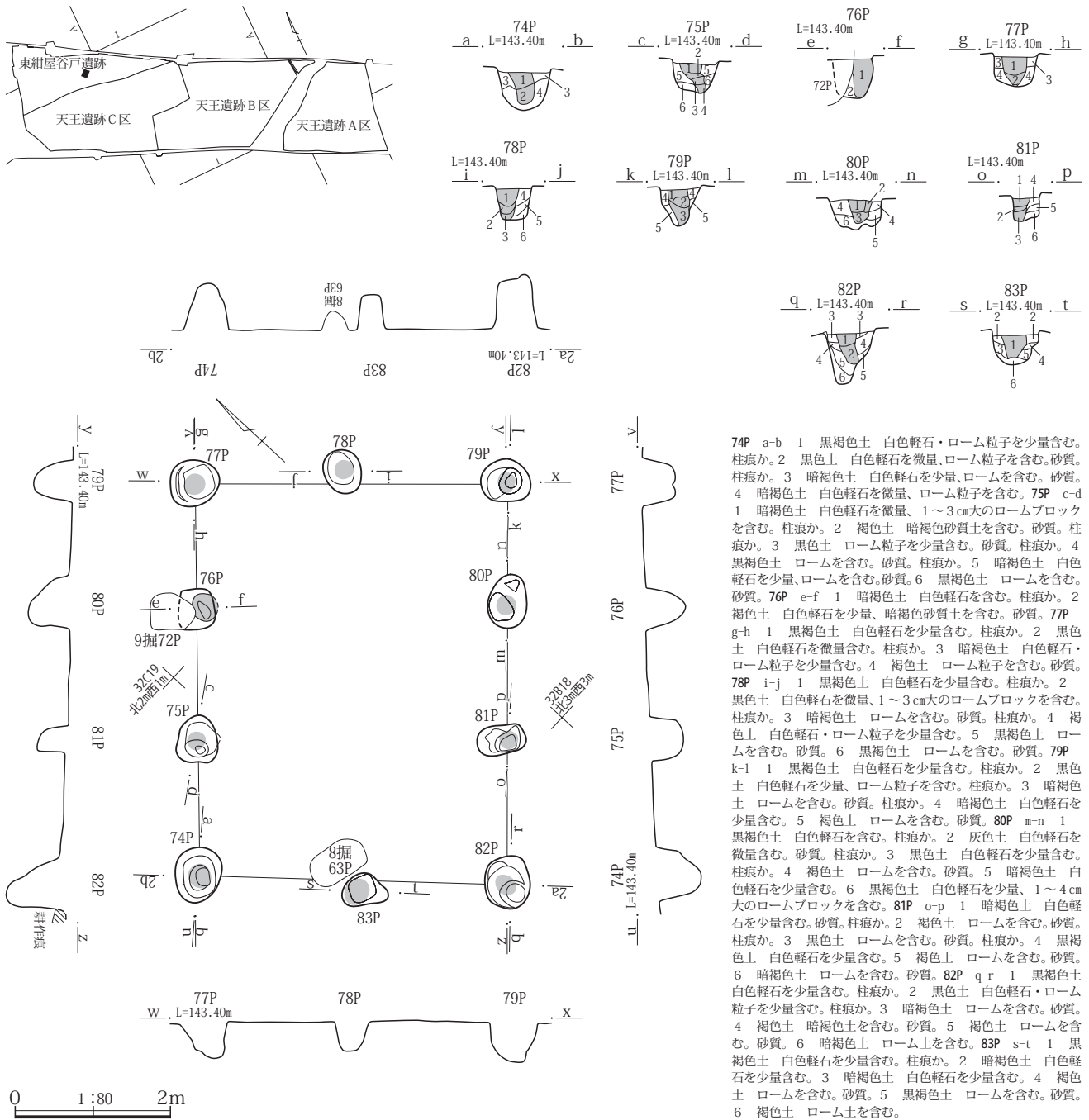
65P a-b 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量、1~2cm大のローム粒子を含む。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。4 褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。5 褐色土 ローム粒子を含む。67P e-f 1 黒褐色土 白色軽石・0.5~1cm大のローム粒子・炭化物を少量含む。柱痕か。2 褐色土 黒褐色砂質土を少量含む。砂質。3 暗褐色土 白色軽石を少量、1~5cm大のロームブロックを含む。4 黒色土 ローム粒子を含む。砂質。5 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。68P g-h 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。4 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。5 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。69P i-j 1 黒褐色土 白色軽石を少量、1~5cm大のロームブロックを含む。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を少量、5~10cm大のロームブロック・大きなロームブロックを含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量含む。4 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。5 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。70P k-l 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 黒色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。砂質。4 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。71P m-n 1 褐色土 白色軽石を少量、黒色砂質土を含む。砂質。柱痕か。2 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。3 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。72P o-p 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 1~2cmの厚さで交互にローム・黒褐色砂質土が層をなす。炭化物を少量含む。砂質。73P q-r 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を少量、ローム粒子を含む。3 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。

第38表 東紺屋9掘立柱建物計測表

平面形		規模		2間×2間		長軸方位(66P-70P)		面積m ²		
長方形						N88°W		12.45		
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模		番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm	備考
65P-72P:349	65P-67P:356	65P-73P:179	65P-66P:175	65P	58×52	12×5	41		二段	
66P-70P:398	73P-68P:379	73P-72P:174	66P-67P:182	66P	54×45	18×16	28		二段	
67P-69P:403	72P-69P:357	67P-68P:190	72P-70P:175	67P	70×66	12×10	40		二段	
		68P-69P:213	70P-69P:182	68P	36×33	8×6	32		二段	
			72P-71P: 78	69P	80×69	27×20	51		二段	
			71P-70P: 97	70P	49×34	13×4	22		二段	
				71P	37×27	14×11	23		二段,柱痕径14	
				72P	57×48	10×4	48		二段,柱痕径26	
				73P	61×60	10×5	48		二段,柱痕径25	

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第176図 東紺屋8掘立柱建物(2)、9掘立柱建物



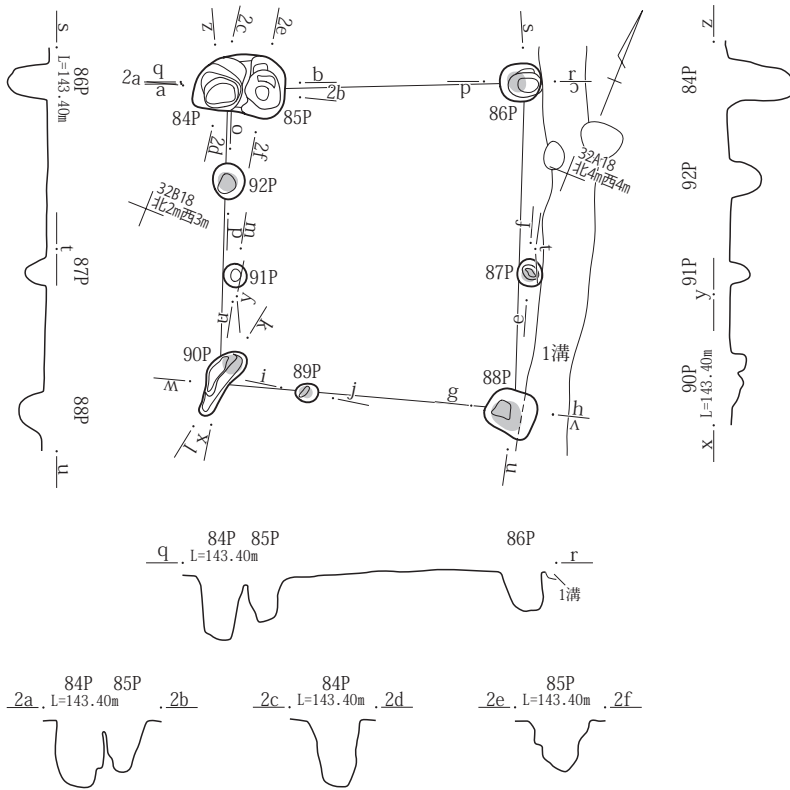
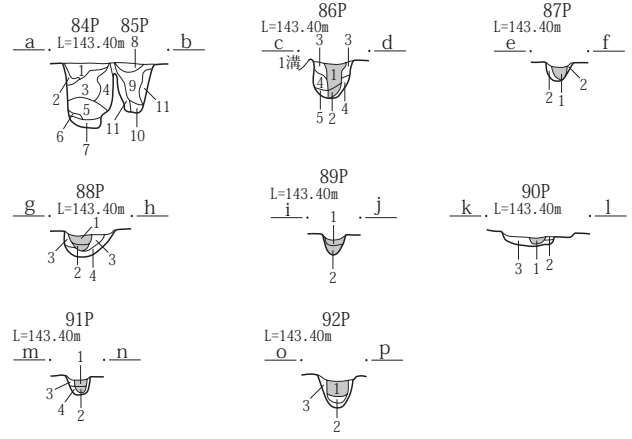
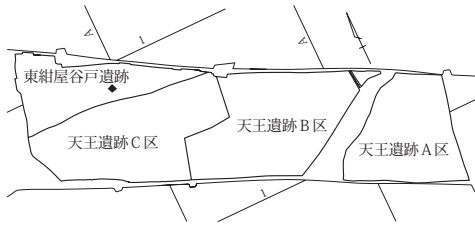
第39表 東紺屋10掘立柱建物計測表

平面形	長方形	規模	2間×3間	長軸方位(83P-78P) N40°E			面積m ²	21.31
				番号	規模	備考		
桁行cm	梁行cm	桁立柱間	梁立柱間	番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm	
77P-74P:495	77P-79P:408	77P-76P:154	77P-78P:192	74P	72×58	14×7	61	三段,柱痕径29
78P-83P:540	76P-80P:379	76P-75P:179	78P-79P:219	75P	60×51	12×10	47	二段,柱痕径24
79P-82P:529	75P-81P:394	75P-74P:162	74P-83P:205	76P	52×39以上	25×11	55	二段
		74P-82P:403	79P-80P:164	77P	64×60	13×7	39	三段,柱痕径27
		80P-81P:173		78P	57×48	43×33	44	柱痕径25
		81P-82P:193		79P	64×55	20×15	55	二段,柱痕径24
				80P	70×51	38×27	55	柱痕径26
				81P	63×38	21×17	36	二段,柱痕径23
				82P	68×58	28×23	70	二段,柱痕径24
				83P	59×40	38×36	41	柱痕径31

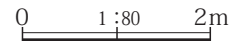
※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第177図 東紺屋10掘立柱建物

第4章 検出された遺構と遺物



- 84・85P (18・19坑を改名) a-b
- 1 黒色土 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。
 - 3 黒色土 白色軽石・ロームブロックを含まない。
 - 4 黒色土 1に似る。ロームブロックを含む。
 - 5 黒色土 3に似る。砂質。
 - 6 黄色土 ロームブロック。
 - 7 黒色土 5より淡い色調。ロームブロックを含む。
 - 8 黒色土 1に似る。ロームブロックを多く含む。
 - 9 黒褐色土 1~7cm大のロームブロックを含む。
 - 10 黒褐色土 10cm大のロームブロックを含む。黄色味が強い。
 - 11 黒褐色土 9よりロームブロックが少ない。
- 86P c-d
- 1 黒褐色土 1~3cm大のロームブロックを少量、白色軽石・ローム粒子を含む。柱痕か。
 - 2 暗褐色土ローム粒子を少量含む。砂質。柱痕か。
 - 3 褐色土白色軽石・ローム粒子を含む。
 - 4 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を含む。
 - 5 黒色土 ローム粒子を少量含む。砂質。
- 87P e-f
- 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。
 - 2 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。
- 88P g-h
- 1 黒褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。柱痕か。
 - 2 黒色土 ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。
 - 3 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。
 - 4 褐色土ローム粒子を含む。
- 89P i-j
- 1 黒褐色土 白色軽石を微量含む。柱痕か。
 - 2 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。
 - 3 褐色土ローム粒子を含む。砂質。
- 90P k-l
- 1 暗褐色土 ローム粒子を少量含む。砂質。柱痕か。
 - 2 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。
 - 3 黄褐色土 褐色砂質土を含む。砂質。
- 91P m-n
- 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。
 - 2 黄褐色土 ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。
 - 3 褐色土 ローム粒子を少量含む。砂質。
 - 4 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。
- 92P o-p
- 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。
 - 2 褐色土 ローム粒子を含む。砂質。
 - 3 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を少量含む。



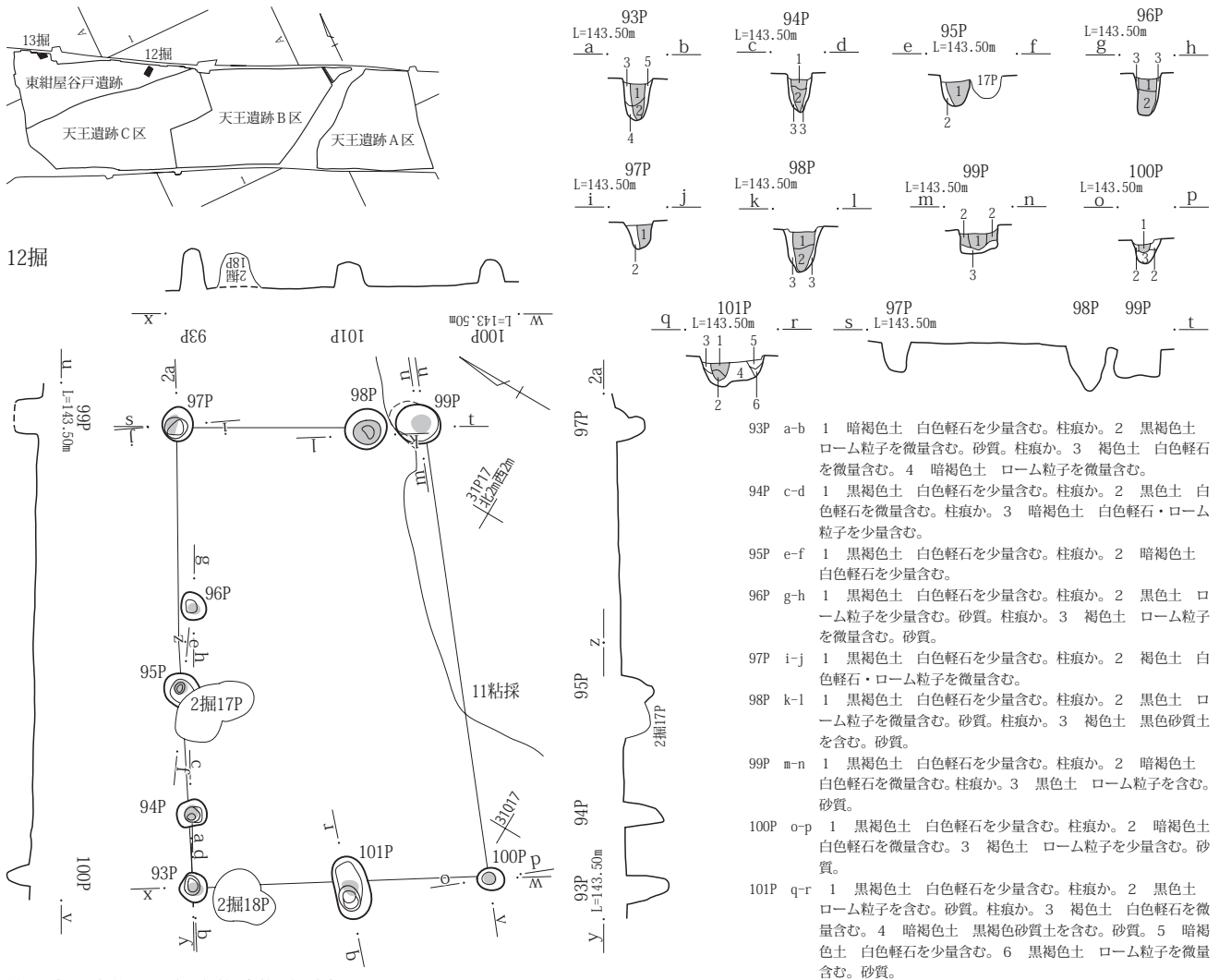
第40表 東紺屋11掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		1間×1間		長軸方位(88P-86P) N17°W		面積m ²	11.21
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模				備考			
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm				
84P-90P:295	84P-86P:327	84P-92P: 96	84P-85P: 44	84P	62×50	32×21	70	二段			
86P-88P:343	91P-87P:313	92P-91P:194	85P-84P:282	85P	65×43	16×14	54	二段			
85P-90P:299	90P-88P:305	91P-90P:103	90P-89P: 96	86P	43×40	22×15	43	二段,柱痕径19			
		92P-90P:198	89P-88P:210	87P	29×26	13× 5	23	二段,柱痕径16			
		86P-87P:198		88P	57×47	18×17	29	柱痕径29			
		87P-88P:147		89P	24×20	14× 5	22	柱痕径14			
				90P	78×29	42×10	16	二段,柱痕径21			
				91P	25×25	13×10	21				
				92P	38×34	21×17	5	柱痕径21			

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

第178図 東紺屋11掘立柱建物

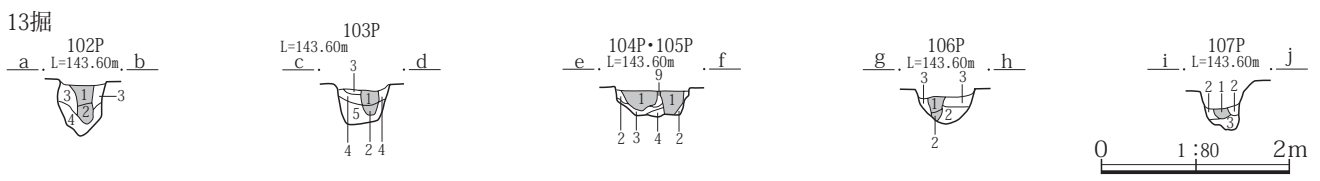
遺構図(東紺屋)



第41表 東紺屋12掘立柱建物計測表

平面形		長方形		規模		2間×4間か		長軸方位(93P-97P)		N57°E		面積m ²	17.91
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	番号	規模		深さcm	備考					
					上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径							
97P-93P:527	97P-99P:279	93P-94P:81	97P-98P:221	93P	32×32	17×12	50	二段,柱痕径16					
99P-100P:531	93P-100P:340	93P-95P:229	98P-99P:58	94P	35×30	10×7	46	二段,柱痕径17					
		94P-95P:148	93P-101P:180	95P	38×30以上	9×5	37	二段,柱痕径17					
		95P-96P:95	101P-100P:162	96P	32×29	15×12	50	柱痕径15					
		96P-97P:205		97P	40×35	20×15	38	二段,柱痕径14					
				98P	47×45	15×10	54	二段					
				99P	51×45	57×40	34	柱痕径22					
				100P	31×26	15×14	27	柱痕径15					
				101P	73×39	14×14	38	二段,柱痕径19					

※1 計測値は1/20原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

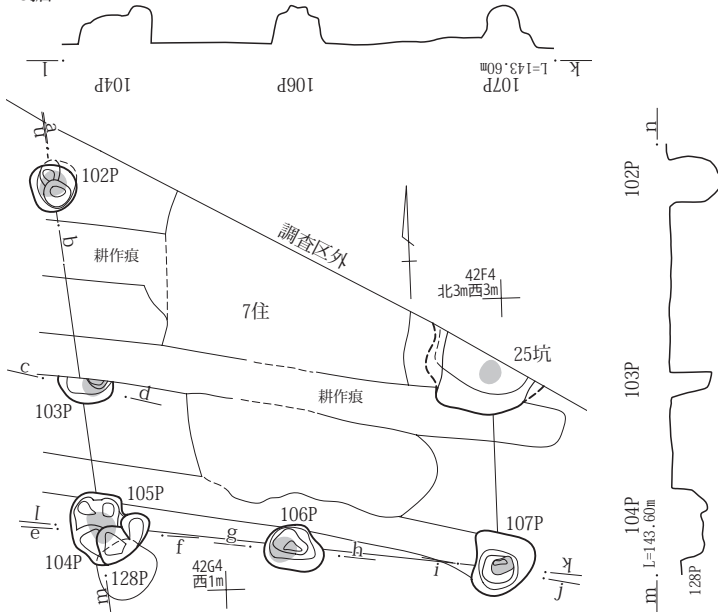


102P a-b 1 暗褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕区か。2 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。3 暗褐色土 ローム粒子・黒褐色砂質土を含む。砂質。4 暗褐色土 黒褐色土・ローム粒子を含む。砂質。103P c-d 1 黒褐色土 白色軽石を微量含む。柱痕か。2 黒色土 ローム粒子を含む。柱痕か。3 褐色土 0.3cm大のローム粒子を微量含む。4 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子を含む。5 暗褐色土 ローム粒子・炭化物を少量含む。104・105P e-f 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 暗褐色土 白色軽石を微量含む。3 褐色土 暗褐色砂質土・ローム粒子を含む。砂質。4 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。106P g-h 1 黒褐色土 白色軽石を少量含む。柱痕か。2 黒色土 ローム粒子を含む。砂質。柱痕か。3 暗褐色土 白色軽石を少量含む。ローム粒子を含む。4 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。107P i-j 1 黒褐色土 白色軽石を微量含む。柱痕か。2 黒色土 ローム粒子を少量含む。3 暗褐色土 ローム粒子を含む。砂質。

第179図 東紺屋12掘立柱建物、13掘立柱建物(1)

第4章 検出された遺構と遺物

13掘

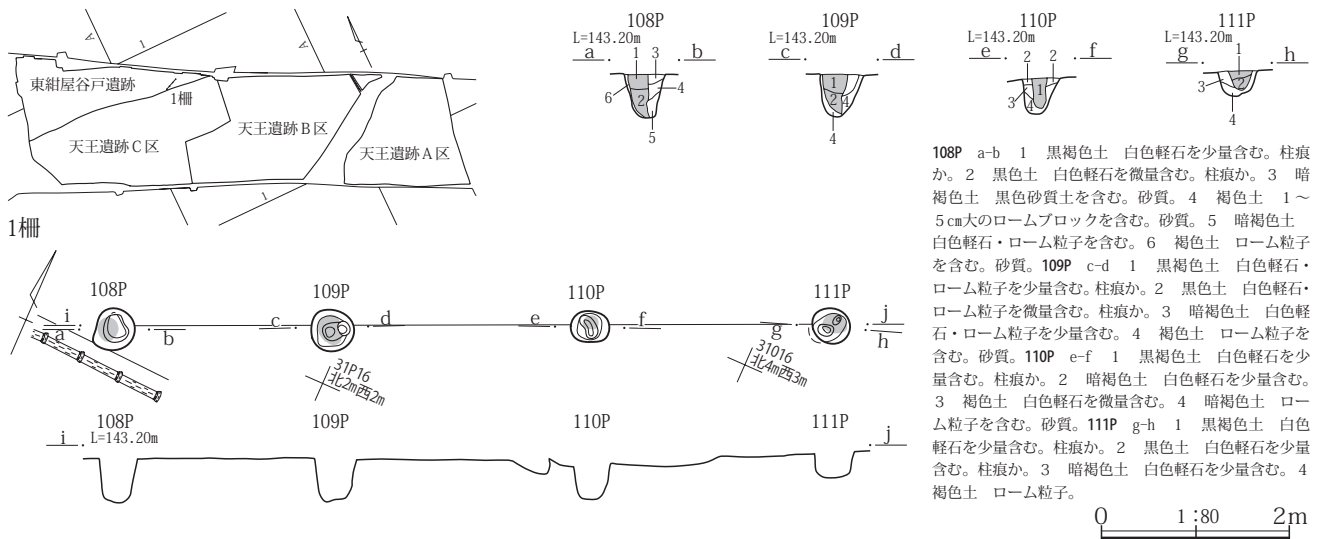


▲25土坑土層断面 南から

第42表 東紺屋13掘立柱建物計測表

平面形		規模		2間×2間以上		長軸方位(104P-102P) N 7°W			面積m ²	14.36
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模				備考		
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm			
104P-102P:342	104P-107P:420	104P-103P:139	107P-106P:221	102P	50×49	16×11	60	二段,柱痕径27		
	参考103P-25坑:417	103P-102P:204	106P-104P:200	103P	58×25以上	16×5以上	51	二段,柱痕径24		
		参考P107-25坑:201		104・105P	81×75	14×11	38	二段,柱痕径27		
				106P	62×50	17×11	40	二段,柱痕径26		
				107P	68×66	14×5	55	三段		

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

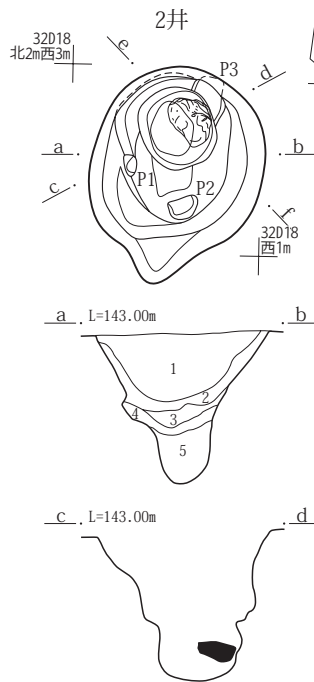
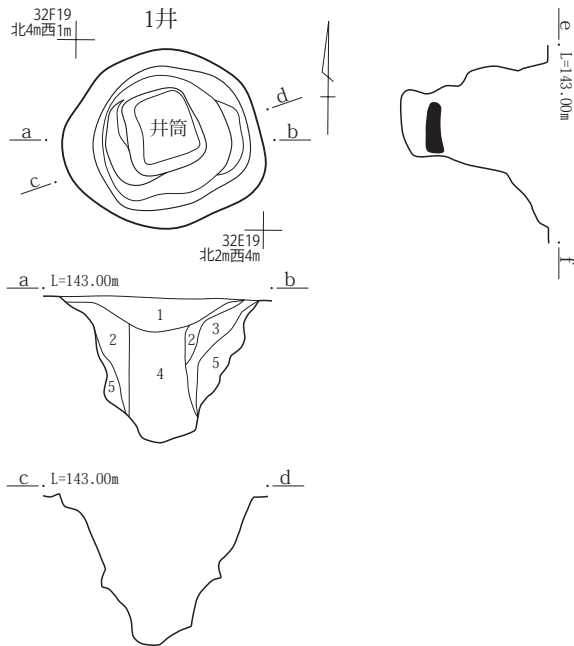
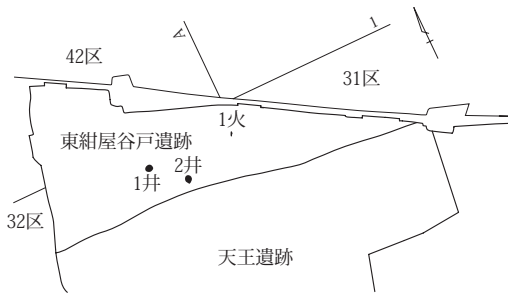


第43表 東紺屋1 柵計測表

平面形		規模		3間		長軸方位(108P-111P) N66°E			面積m ²	-
桁行cm	梁行cm	桁行柱間	梁行柱間	規模				備考		
				番号	上端cm 長径×短径	下端cm 長径×短径	深さcm			
108P-111P:756	-	108P-109P:228	-	108P	44×42	27×17	45	二段,柱痕径22		
				109P	46×44	10×9	46	二段,柱痕径25		
				110P	41×32	18×4	41	二段,柱痕径16		
				111P	42×38	9×6	31	二段,柱痕径27		

- ※1 計測値は1/20原図から起こした数値
- ※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

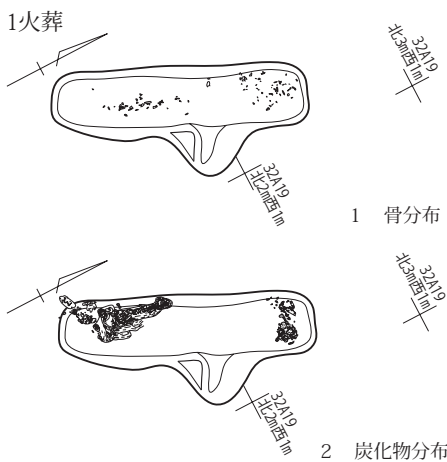
第180図 東紺屋13掘立柱建物(2)、1 柵



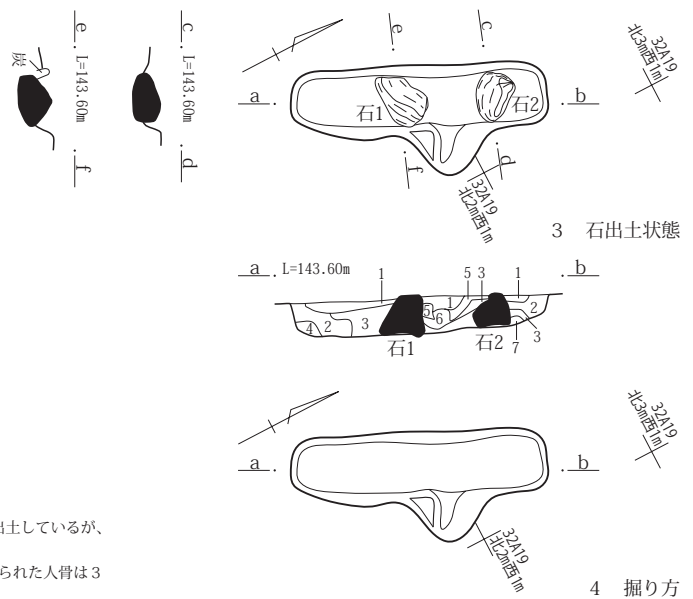
- 1井 a-b
 1 黒褐色土 白色軽石・2~3cm大のロームブロックと炭化物を含む。縮まりなし。粘性弱い。砂質。
 2 黒褐色土 2~5cm大のロームブロックと炭化物を多く、白色軽石を含む。縮まりなし。粘性弱い。砂質。
 3 暗褐色土 0.5cm大の炭化物・ローム粒子を多く、白色軽石を含む。縮まりなし。粘性弱い。砂質。
 4 暗褐色土 白色軽石を少量、0.5~1cm大の炭化物・ローム粒子を含む。縮まりなし。粘性弱い。砂質。
 5 褐色土 白色軽石を少量、1~3cm大のロームブロックを多く含む。やや縮まっている。砂質。

- 2井 a-b
 1 黒色土 白色軽石を少量、0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。縮まりなし。粘性弱い。
 2 黒褐色土 白色軽石を微量、0.5~2cm大のローム粒子を含む。
 3 黒褐色土 白色軽石を微量、0.5cm大のローム粒子・炭化物を含む。縮まっている。粘性強い。
 4 暗褐色土 白色軽石を微量、ロームを含む。縮まっている。粘性少し強い。砂質。
 5 黒褐色土 黄褐色粘質土を含む。砂質。

0 1:80 2m



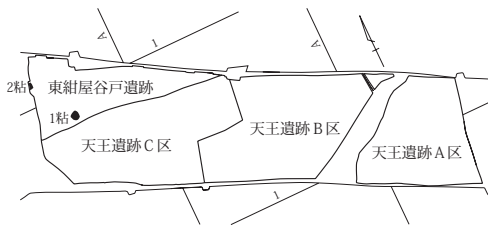
- 1火葬 a-b
 1 褐色土 ロームブロックと少量の炭化物を含む。
 2 黒色土 焼土粒子を少量含む。形のわかる炭化物を含む。1との境界付近に人骨が少量出土しているが、中~下部には含まれない。
 3 黒色土 形状を保たない炭化物を多量に含む。1との境界付近に焼土層がある。1で見られた人骨は3上部に及ぶ。中~下位にかけても小破片の状態に含まれる。
 4 黄色土 ロームと黒色土の混土。焼土粒・炭化物を含む。壁の崩落土。
 5 灰層 炭化物を少量含む。
 6 褐色土 1に似る。炭化物を少量含む。5との接点で人骨を含んでいる。
 7 暗褐色土 炭化物を少量含む。ロームブロックを含む。



0 1:40 1m

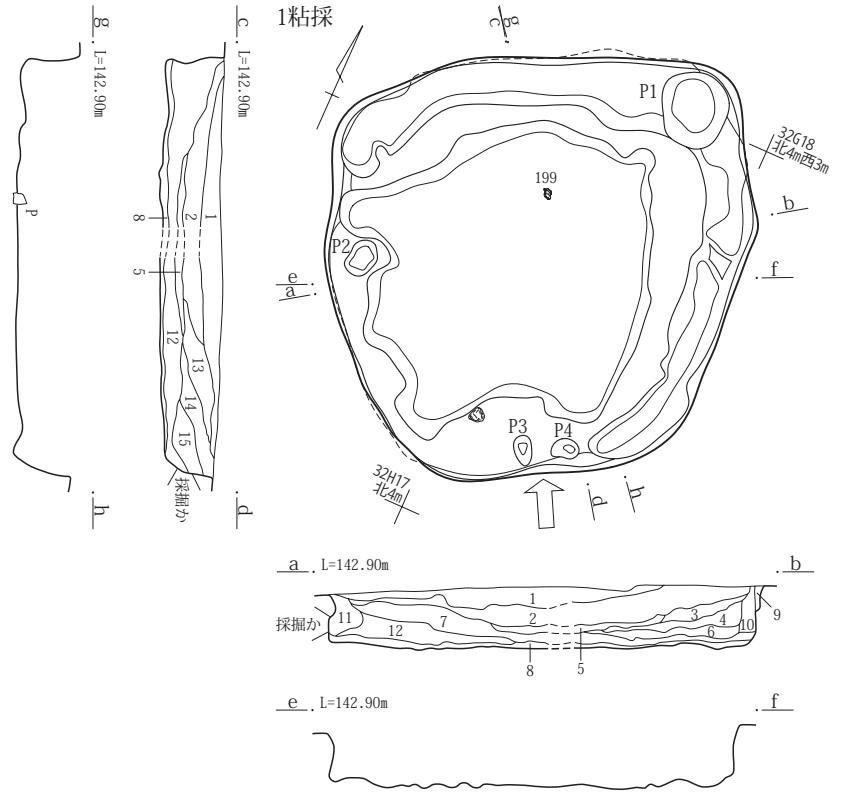
第181図 東紺屋1・2井戸、1火葬跡

第4章 検出された遺構と遺物



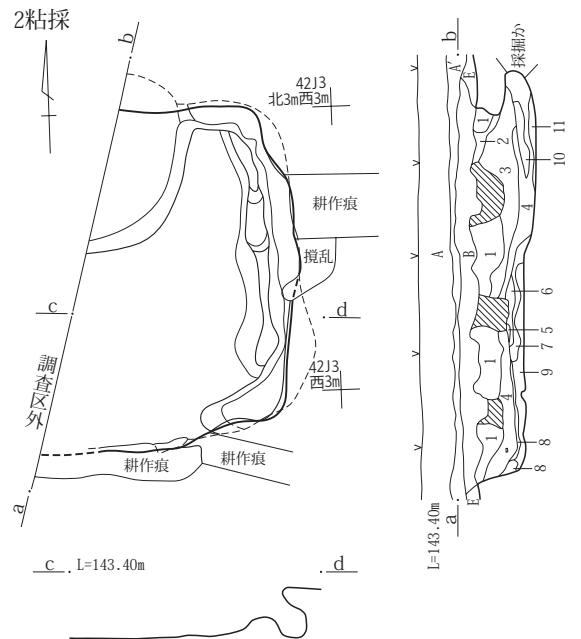
1粘採 a-b,c-d

- 1 黒色土 白色軽石を多く、2~5cm大のロームブロックを含む。
- 2 黒色土 1より白色軽石の量が多い。黒味が強い。
- 3 黒色土 1に似る。白色軽石・ロームブロックの量が少ない。
- 4 黒色土 ロームブロックを3より多く含む。色調がやや明るくなる。
- 5 黒褐色土 白色軽石を少量含む。粘性・締まりが強い。
- 6 黒褐色土 4に似る。ロームブロックを多く含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 8 黄褐色土 1~2cm大のロームブロックを含む。締まり・粘性が強い。
- 9 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。壁の崩落土か。
- 10 黒色土 白色軽石を少量、2cm大のロームブロックを含む。
- 11 黒色土 白色C軽石・ロームブロックを少量含む。
- 12 黒褐色土 7よりロームブロックを多く、白色軽石を少量含む。
- 13 黒褐色土 1・2層より軽石が少ない。5~10cm大のロームブロックを多く含む。
- 14 黒色土 13より白色軽石を多く含む。ロームブロックをほとんど含まない。
- 15 黒色土 14に似る。大粒のロームブロックを少量含む。

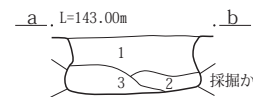
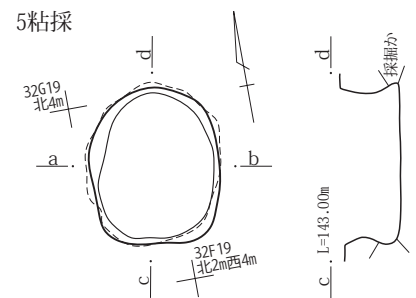
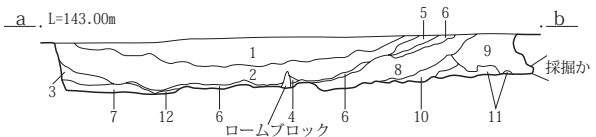
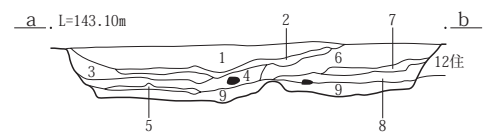
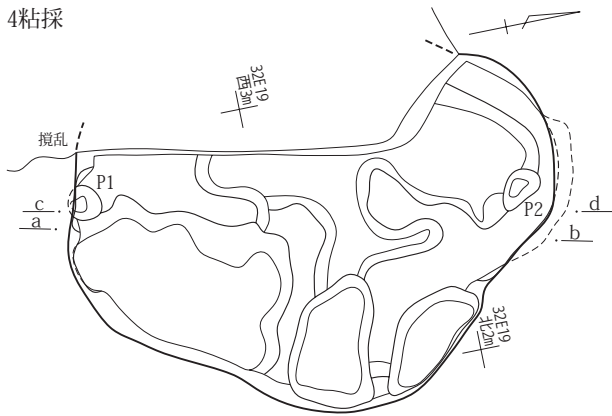
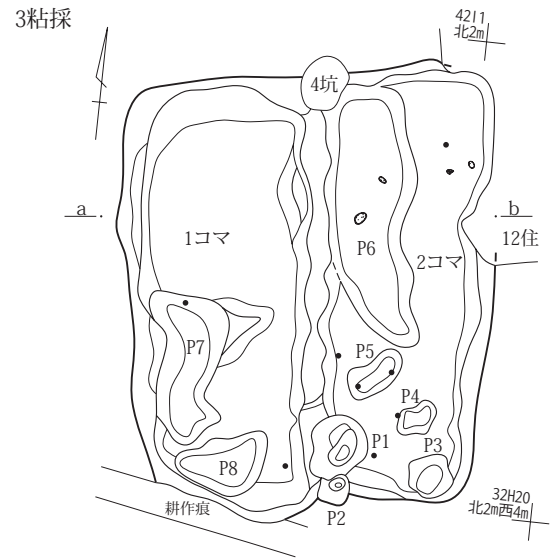
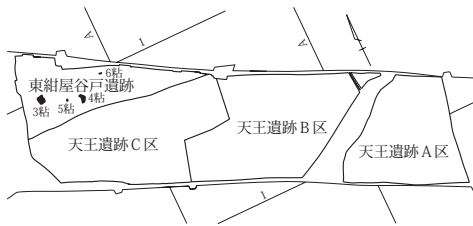


2粘採 a-b

- A 表土 耕作土。
- A' 表土 耕作土。
- B 褐色土 軽石を少量含む。砂質。
- E 黄褐色土 ローム漸移層。
- 1 褐色土 2~5cm大のロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを含む。黄色味が強い。
- 3 褐色土 1と似るがロームブロックを多く含む。より黄色味が強い。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを含む。粘土質。オーバーハング部分では白色軽石が少ない。
- 5 黄色土 帯状にローム主体の土が堆積。黒色土を含む。
- 6 黒色土 ロームブロックを含まない。
- 7 黒色土 ロームブロックを多く含む。締まっている。
- 8 褐色土 軟らかい。砂質。
- 9 黒色土 ロームブロックを少量含む。
- 10 黒色土 白色軽石を多く含む。
- 11 黒色土 ロームブロックを多く含む。



第182図 東紺屋1・2粘土採掘坑

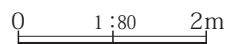
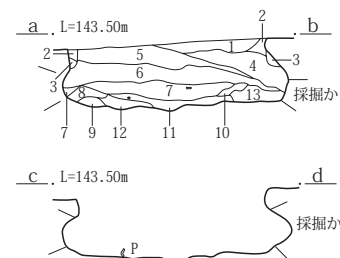
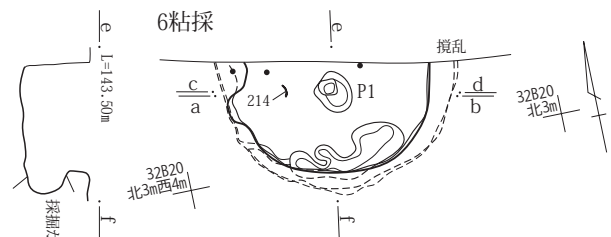


3粘採 a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。2 黒色土 白色軽石を少量含む。粘性強い。3 黒色土 ロームブロックを少量、白色軽石を含む。4 黒色土 2に似る。白色軽石を少量含む。粘性2より強い。5 黒褐色土 粘性強い。6 黒色土 1に似る。白色軽石を含む。1より軽石の量が多い。7 黒色土 白色軽石少ない。8 黒色土 斑状に褐色土ブロックを含む。粘土質。9 黄褐色土 1cm大のロームブロックを含む。砂質。締まっている。

4粘採 a-b 1 暗褐色土 焼土粒(径2~10mm)・炭化物(径5~10mm)を少量、白色軽石を含む。2 暗褐色土 1に似るが斑状の褐色土を含む。3 黒褐色土 1に似る。白色軽石を少量含む。部分的に褐色土が混じる。4 黄褐色土 暗褐色土が混じる。5 黄褐色土 1に似るが1cm大のローム粒子を含む。焼土粒子を少量含む。6 灰褐色土 灰・炭が混じる。炭化物を少量含む。締まり弱い。7 暗褐色土 白色軽石を少量、2~4cm大の黄褐色~黄白色粘質土ブロックを含む。粘性あり。8 7に似る。白色軽石を少量含む。9 8とほぼ同じ。黄褐色~黄白色粘質土ブロックを8より多く含む。10 8とほぼ同じ。下に粘質土ブロックを少量含む。11 暗褐色土 5cm大の黄褐色土ブロックを多量に含む。12 黄白色粘質土ブロック

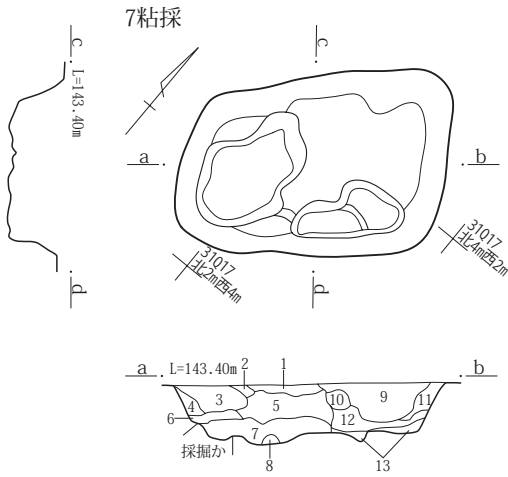
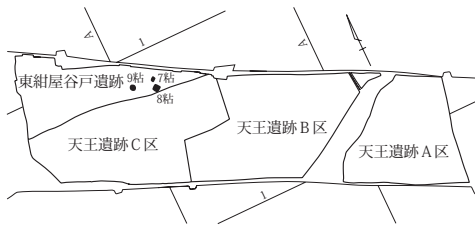
5粘採 a-b 1 黒褐色土 白色軽石・2~3cm大のロームブロックを含む。砂質。締まりなし。2 暗褐色土 2~3cm大のロームブロックを含む。砂質。締まりなし。3 褐色土 2~4cm大のロームブロックを多く含む。暗褐色のロームを含む。砂質。締まりなし。

6粘採 a-b 1 黒褐色土 1~5cm大のロームブロック・白色軽石を含む。2 褐色土 ロームブロックを少量含む。砂質。3 黄褐色土 黒色土ブロックを含む。4 黒色土 白色軽石を多量、ロームブロックを含む。5 黒褐色土 1に似るがロームブロックが多い。ロームを縞状に含む。6 黒色土 4に似る。5よりロームブロックが少ない。7 黄色土 黒色土ブロックを含む。白色軽石を含まない。8 黄色土 ロームブロック。黒色土ブロックを少量含む。9 褐色土 ロームブロックを含む。砂質。10 黒褐色土 砂質。淡い色調。11 黒褐色土 7に似る。ロームブロックの量が少ない。12 黒褐色土 11よりロームブロックが少ない。砂質。13 褐色土 ロームブロックに黒色土ブロックを含む。砂質。



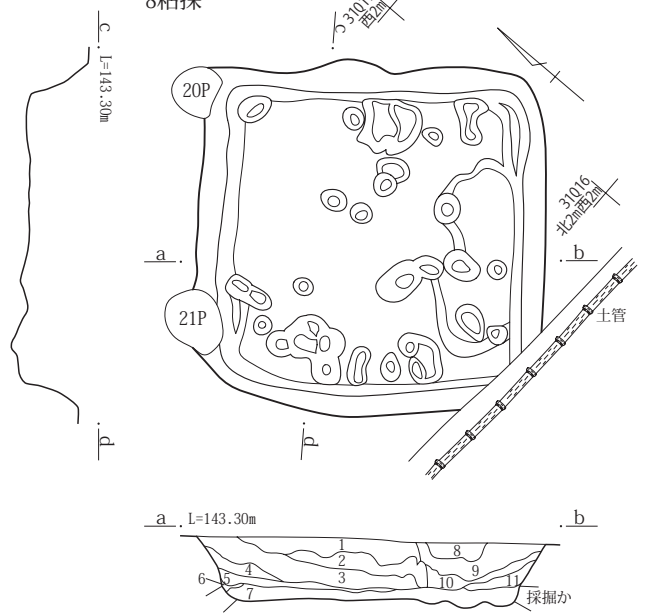
第183図 東紺屋3~6粘土採掘坑

第4章 検出された遺構と遺物

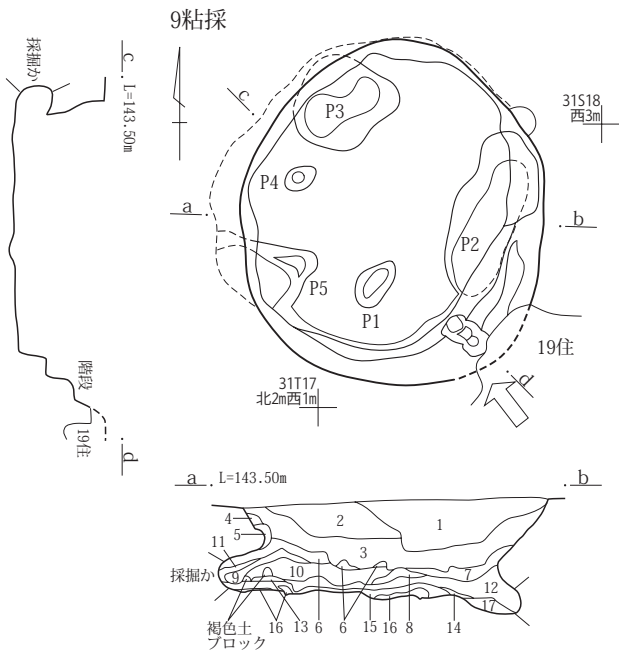


- 7粘採 a-b
- 1 褐色土 1cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。
 - 2 褐色土 1層に似るが1よりロームブロックが多い。
 - 3 黒褐色土 白色軽石を多く、1~5cm大のロームブロックを含む。
 - 4 黒褐色土 白色軽石・ロームブロックを少量含む。
 - 5 褐色土 1に似るが1よりも2~7cm大のロームブロックが多い。白色軽石をごく少量含む。
 - 6 褐色土 5に似るが1cm大のロームブロックをごく少量含む。
 - 7 褐色土 3~8cm大のロームブロックを多く含む。
 - 8 ロームブロック。
 - 9 黒色土 白色軽石を多量、2~3cm大のロームブロックを少量含む。
 - 10 褐色土 1cm大のロームブロックを少量含む。5とはロームブロックの含有度が異なる。
 - 11 黒褐色土 白色軽石をごく少量含む。ロームブロックを塊状に含む。
 - 12 黒褐色土 黒色土ブロックを多量、2~5cm大のロームブロックを含む。
 - 13 黄褐色土 1~2cm大のロームブロックを含む。

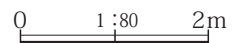
8粘採



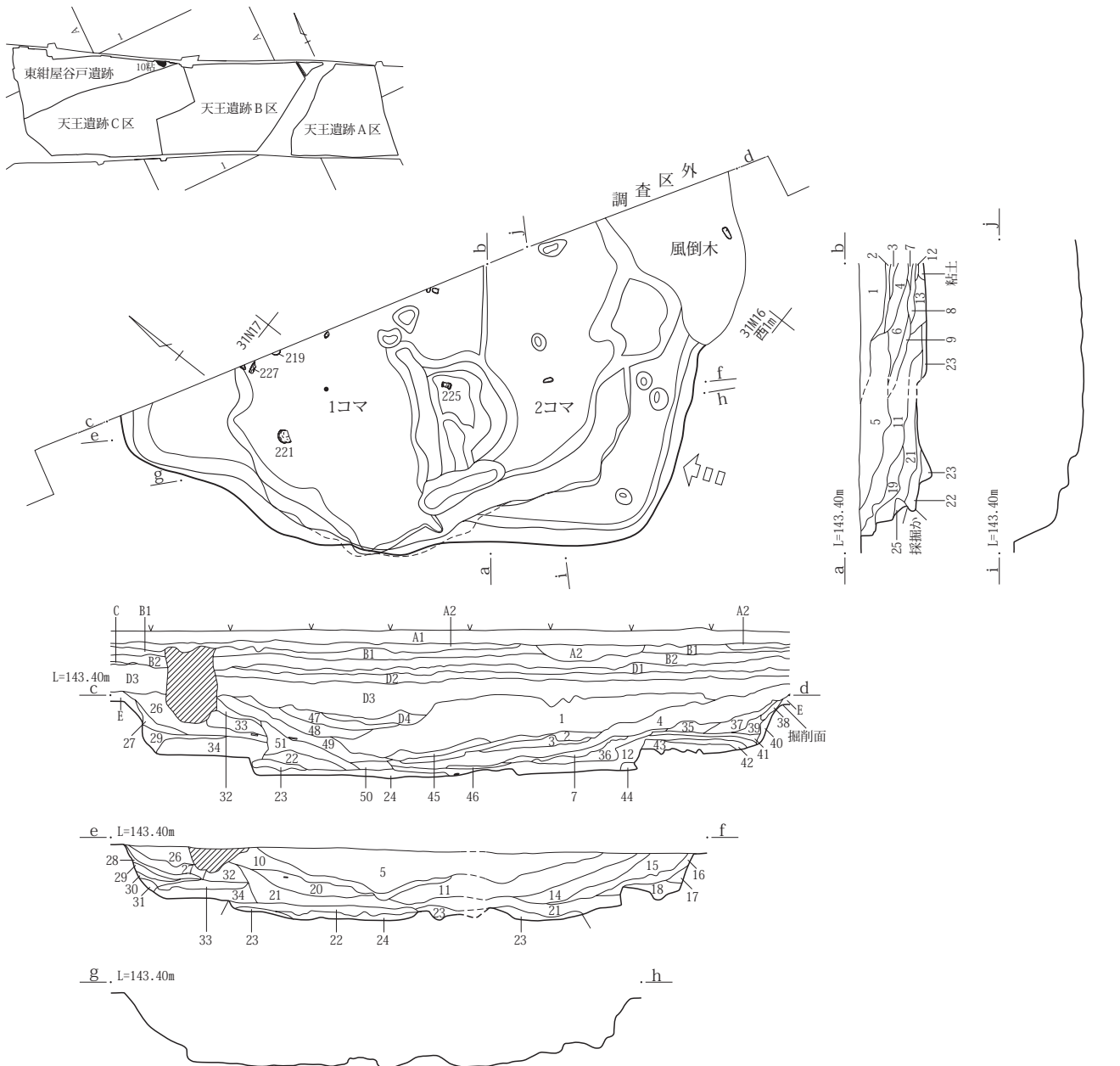
- 8粘採 a-b
- 1 黒色土 白色軽石を少量、1cm大のロームブロックを多く含む。
 - 2 黒褐色土 白色軽石・1~10cm大のロームブロックを少量含む。
 - 3 黒褐色土 2に似るがロームブロックの量が少ない。
 - 4 褐色土 1~3cm大のロームブロックを含む。
 - 5 褐色土 4より黒味強い。ロームブロックをわずかに含む。
 - 6 黒色土 ロームブロックを少量含む。
 - 7 黄色土 黒色土ブロック・硬いロームブロックを含む。
 - 8 黒褐色土 2に似るが5cm大のロームブロックが目立つ。
 - 9 黒褐色土 8に似るがロームブロックの量が少ない。
 - 10 黒色土 ロームブロックを含む。
 - 11 褐色土 4に似る。4層よりロームブロックの量が多い。



- 9粘採 a-b
- 1 黒色土 白色C軽石を多量、1cm大のロームブロックを少量含む。縮まりなし。
 - 2 黒色土 1~5cm大のロームブロックを多く含む。
 - 3 黒色土 1に似る。白色軽石の量が少ない。1~2cm大のロームブロックを含む。
 - 4 黄色土 ローム層。壁の崩落土か。
 - 5 褐色土 白色軽石を少量含む。ローム漸移層に似る。
 - 6 褐色土 白色軽石混入の黒色土が混じる。5よりも暗い。
 - 7 褐色土 2~3cm大のロームブロックを多く含む。
 - 8 褐色土 7に似る。ロームブロックを含まない。
 - 9 黄褐色土 6にロームブロックを多く含む。
 - 10 黒褐色土 白色軽石・ロームブロック・20cm大のロームブロック・褐色土ブロックを含む。9に比べて黒味が強い。
 - 11 黒色土 ロームブロックを含む。
 - 12 黒褐色土 白色軽石を少量、1~2cm大のロームブロックを含む。砂質。
 - 13 黄褐色土 ブロック状に堆積。砂質。
 - 14 青灰色土 灰層。
 - 15 黄色土 汚れたローム。黒色土を含む。
 - 16 黒色土 ロームブロックを含む。17 黒褐色土 ロームと黒色土が交互に縞状に堆積する。



第184図 東紺屋7~9粘土採掘坑



10粘採 a-b,c-d,e-f

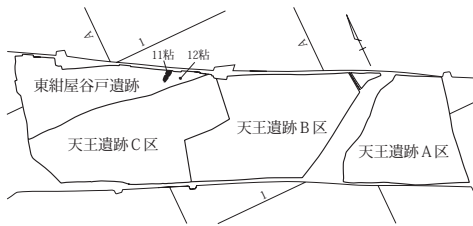
A1 表土 耕作土。A2 表土 耕作土。B1 褐色土 白色軽石を少量含む。砂質。B2 黒色土 B1に似る。白色軽石を含む。砂質。C As-Bテフラ。砂層。D1 黒色土 白色軽石を含む。B層よりも軽石多い。D2 黒色土 D1に似るがやや明るい。褐色味あり。D3 黒色土 白色軽石をD1・D2より多く含む。1~2cm大のロームブロックを少量含む。粘土採掘坑を最後に埋めた土。D4 黒褐色土 D3と比べやや褐色。ロームブロックと黒色土ブロックを含む。E 黄褐色土 ローム漸層。

1 褐色土 2~5cm大のロームブロック・5cm大の黒色土ブロックが混じる。上の土層より白色軽石の量が少ない。2 灰白色土 5cm大のロームブロック・2~3cm大の粘土ブロックを含む。全体に灰白色を呈する。3 褐色土 ロームブロックと3cm大の黒色土ブロックを少量含む。粘性あり。4 褐色土 2~5cm大のロームブロック・5~10cm大の黒色土ブロックを多量に含む。5 褐色土 1に似る。ロームブロックを含むが黒色土ブロックを含まない。6 黒褐色土 4に似る。2~5cm大のロームブロック・黒色土ブロックを含む。7 黒色土 淡い色調の黒色土。砂質。8 黒色土 7に似る。2cm大のロームブロックを含む。砂質。9 黒褐色土 6に似る。ロームブロックが大粒。10 黒色土 7に似る。淡い色調の黒色土。砂質。11 黄褐色土 1~2cm大のロームブロックを多量に含む。5より明るい。12 黒色土 8に似る。8よりロームブロックが多い。13 黄褐色土 2~15cm大のロームブロック・粘土ブロックを多量に含む。14 黄褐色土 11に似るがロームブロックは少ない。黒味がある。15 黒褐色土 1~5cm大のロームブロック・黒色土ブロックを多量に含む。14より黒味が強い。16 黒色土 5~30cm大の粘土ブロックを含む。淡い色調の黒色土。17 黒色土 10cm大のロームブロックを含む。淡い色調の黒色土。18 黒褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを多量に含む。19 黒色土 10cm大の褐色土ブロックを含む。20 黒色土 10に似るが上~中位に帯状の粘土ブロックを含む。21 黒色土 ロームブロックを僅かに含む。22 黒色土 1~2cm大のロームブロックを多く含む。21より明るい。23 黒色土 ロームブロックを含む。24 黄色土 ロームブロックに黒色土ブロック・褐色土ブロックを含む。25 黄色土 ロームブロック。黒色土ブロックが混じる。壁の崩落土。26 黒褐色土 1~3cm大のロームブロック・5~10cm大の黄色土ブロックを多量に含む。27 黒色土 ロームブロックを少量含む。28 黒色土 ロームブロックを含まない。淡い色調の黒色土。29 黒色土 28に似るがロームブロックを多く含む。30 黒褐色土 ロームブロック・黒色土ブロックを含む。黒味強い。31 黒褐色土 30に似る。黒色味を増す。32 黒褐色土 26と似る。ロームブロックの量が少ない。33 黄色土 多量のロームブロックに黒色土が混じる。34 黄色土 ロームブロック。黒色土ブロックを含む。35 黒褐色土 2~3cm大のロームブロック・焼土粒子を含む。36 褐色土 砂質。白色軽石・ロームブロックを含まない。37 褐色土 36に似る。白色軽石を含む。黒味が強い。38 褐色土 37にロームブロック・白色軽石を少量含む。39 褐色土 37に白色軽石を少量、黒色土ブロックを多く含む。40 褐色土 36に似る。白色軽石・ロームブロックを含まない。41 黄褐色土 部分的にロームブロックを多量に含むが壁際は少ない。42 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。43 黄色土 ローム主体。黒色土ブロックを多く含む。44 黒褐色土 12に似る。ロームブロックの量が多い。45 黒色土 2cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。46 灰白色土 2に似る。ロームブロックを含まない。47 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。48 黒褐色土 白色軽石・黒色土・1~2cm大のロームブロックを含む。49 褐色土 白色軽石を含む。ロームブロックを含まない。均一な土。50 褐色土 49に1cm大のロームブロックを含む。51 黄褐色土 ロームブロックを含む。47層に似るがロームブロックの量が少ない。

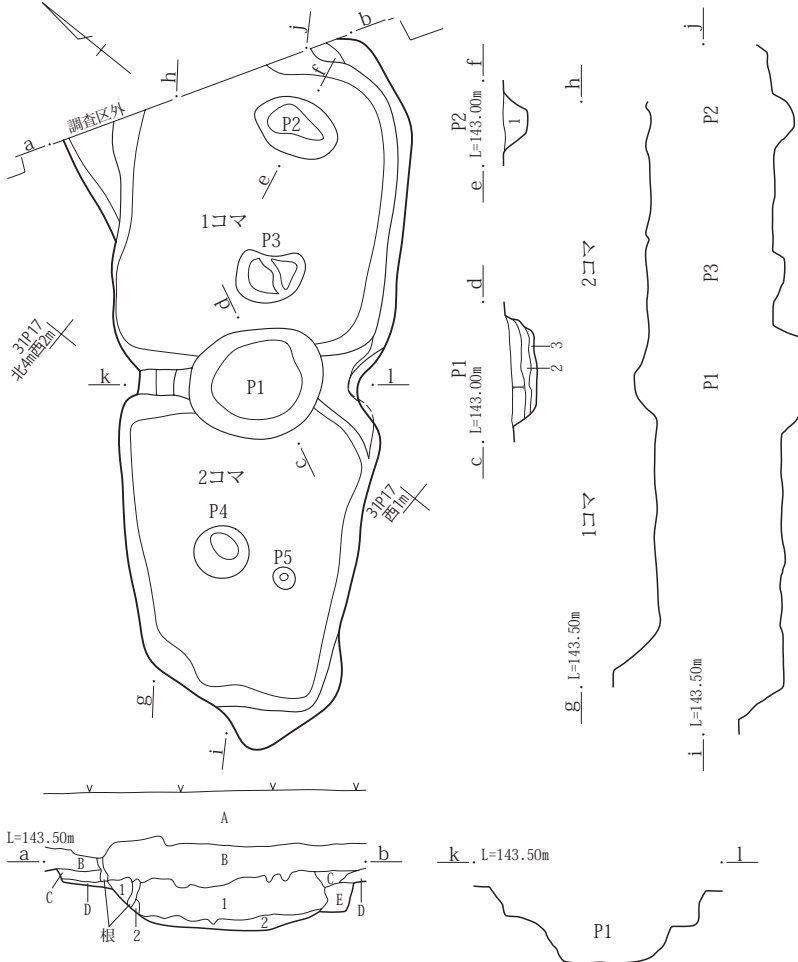
0 1:80 2m

第185図 東紺屋10粘土採掘坑

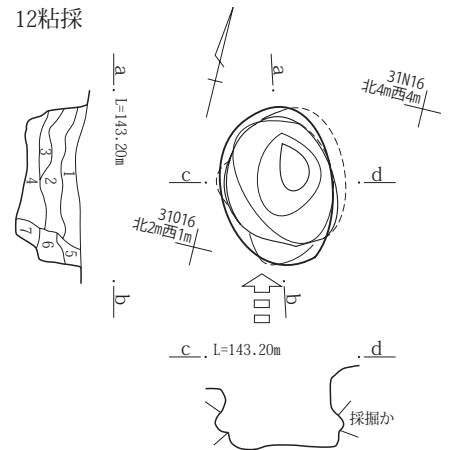
第4章 検出された遺構と遺物



11粘採



12粘採



12粘採 a-b

- 1 黒褐色土 白色軽石を少量、5～10cm大のロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ロームを含む。
- 3 褐色土 ロームを含む。砂質。
- 4 褐色土 ローム・暗褐色砂質土を含む。砂質。
- 5 黒色土 1～2cm大のロームブロックを含む。砂質。
- 6 黒褐色土 ロームを含む。砂質。
- 7 暗褐色土 黒褐色砂質土・ロームを含む。砂質。

11粘採 a-b

- A 表土 耕作土。
- B 黒褐色土 白色軽石を含む。褐色味あり。
- C 黒色土 白色軽石を少量含む。明るい色調の黒色土。
- D ローム漸移層。
- E ローム層。
- 1 黒色土 白色軽石を多量、1cm大のロームブロックを少量含む。Cより黒味が強い。
- 2 褐色土 1～3cm大のロームブロックを多量に含む。

P1 c-d

- 1 黒色土 0.5～1cm大の白色軽石を含む。
- 2 黒色土 白色軽石を微量、灰褐色砂質土を含む。
- 3 灰褐色土 灰色細砂を含む。

P2 e-f

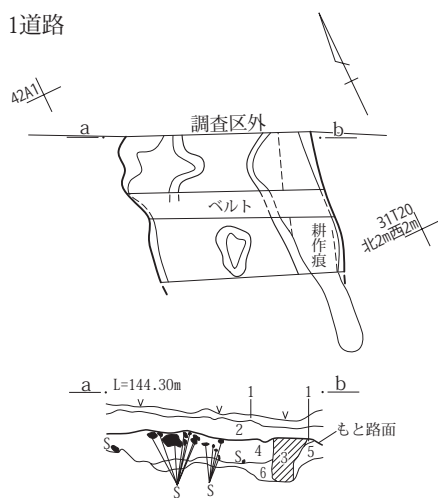
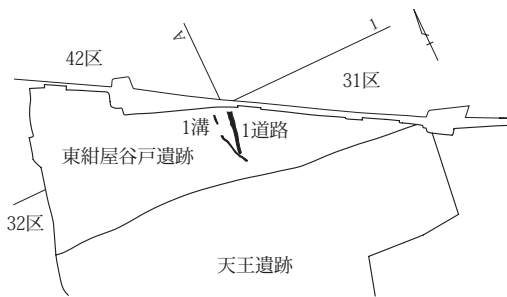
- 1 黒色土 白色軽石を含む。

第44表 東紺屋粘土採掘坑計測表

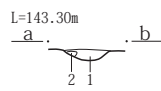
区	面	番号	時代・時期	およその年代推定	平面形	規模m	面積m ²		壁高cm	長軸方位	備考
							コマ面積	合計			
東紺屋	1	1	奈良	8c	台形	4.61×4.40	中央部=6.77 壁際=1.54,0.79	9.10	37～65	N62°E	壁に沿って高まり
東紺屋	1	2	奈良	8c前半	長方形か	3.50×2.49以上	北寄り半円形=1.00 東辺沿い=1.11	2.11	38～62	N1°W	東辺沿いに高まり
東紺屋	1	3	奈良～平安	8～9c	長方形	4.51×3.88	1コマ=4.99, 2コマ=5.56	10.55	42～58	N6°W	中央部に帯状の高まり 12住居→3粘
東紺屋	1	4	平安	9c	台形か	4.59×4.18		11.54	36～56	推定 N34°E	西半部は破壊されている
東紺屋	1	5	奈良～平安	8～9c	略楕円形	1.64×1.38		1.95	54～63	N6°E	フラスコ状断面
東紺屋	1	6	奈良～平安	8～9c	円形か	1.97×1.17		2.69	61～72	-	フラスコ状断面
東紺屋	1	7	奈良～平安か	8～9c	略長方形	2.84×1.92		3.00	38～51	N51°E	壁は斜め
東紺屋	1	8	奈良～平安か	8～9c	方形	3.74×3.69		8.36	55～64	N51°E	底面に小穴多数
東紺屋	1	9	奈良～平安	8～9c	略楕円形	3.64×3.23		8.16	82～112	N5°E	9粘→1掘立柱
東紺屋	1	10	飛鳥	7c後半	長方形か	6.42×4.64以上	1コマ=4.46, 2コマ=5.55	10.01	48～90	N30°W	北東部に風倒木痕
東紺屋	1	11	奈良～平安か	8～9c	長方形	7.33×3.01・2.49	1コマ=7.03, 2コマ=5.60	12.63	1コマ:40～55 2コマ:35～53	N55°E	中央部にくびれあり
東紺屋	1	12	奈良～平安か	8～9c	略楕円形	1.74×1.19		1.43	65～74	N23°W	底面中央に凸部

※1 計測値は1/20原図から起こした数値

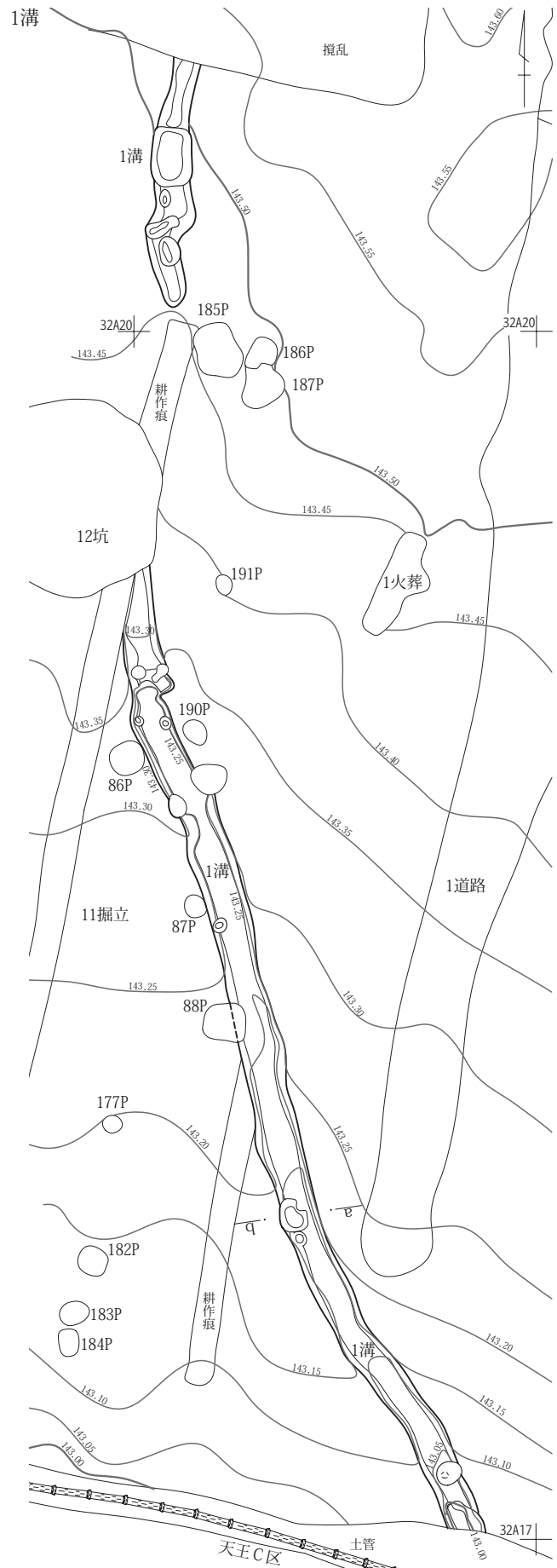
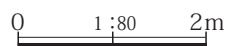
第186図 東紺屋11・12粘土採掘坑



- 1道路 a-b
- 1 碎石混じりの土 表土
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 白色軽石を多く含む。耕作土。
 - 3 にぶい黄褐色土 ロームブロックを含む。耕作痕。締まりなし。
 - 4 にぶい黄褐色土 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。石含む。
 - 5 3に似る。ロームブロックを多く含む。
 - 6 にぶい黄褐色土ブロックとロームブロックの混じり。締まりなし。

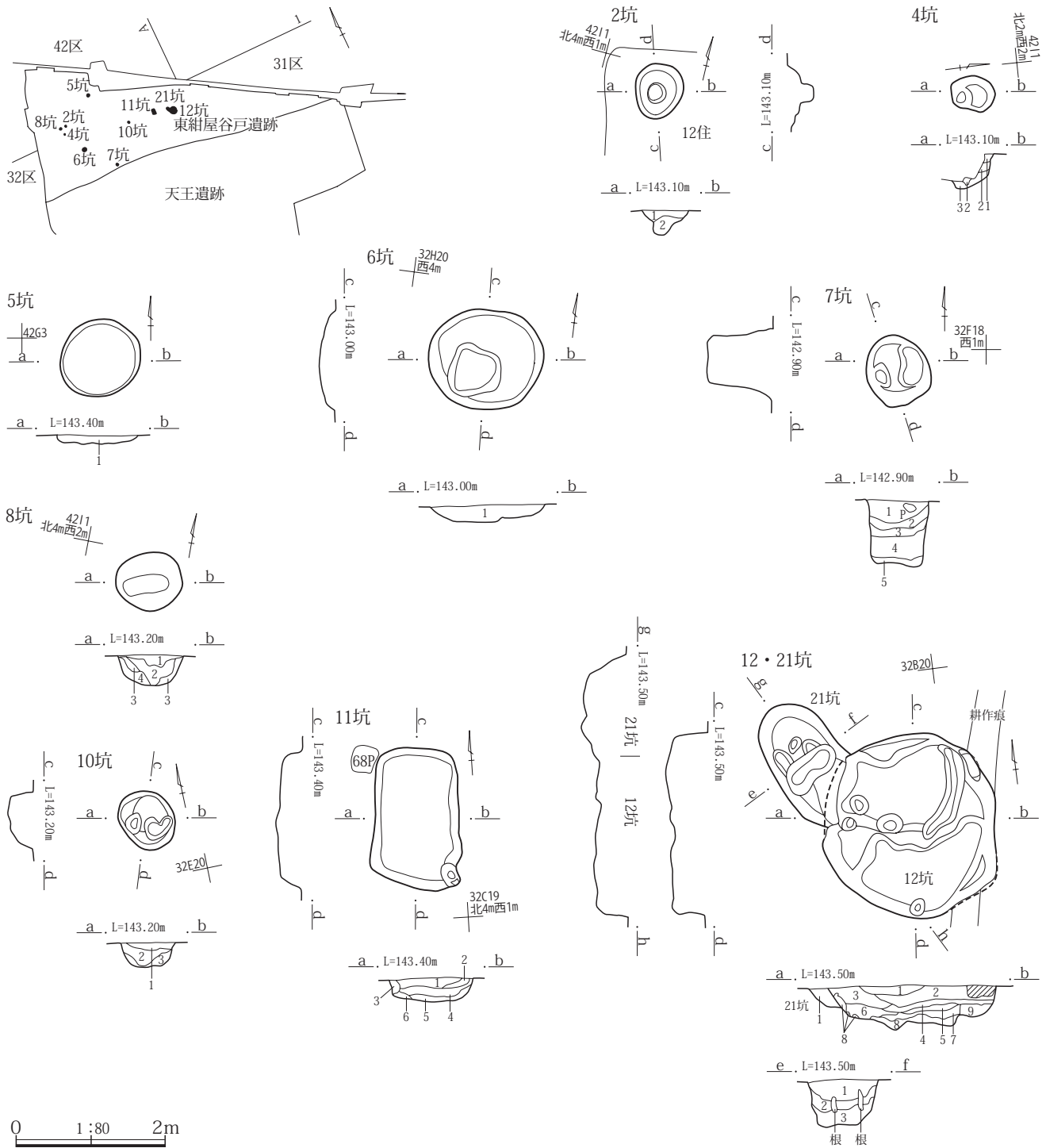


- 1溝 a-b
- 1 暗褐色土 白色軽石を含む。ロームが混じる。砂質。
 - 2 ロームブロック。



第187図 東紺屋 1溝、1道路

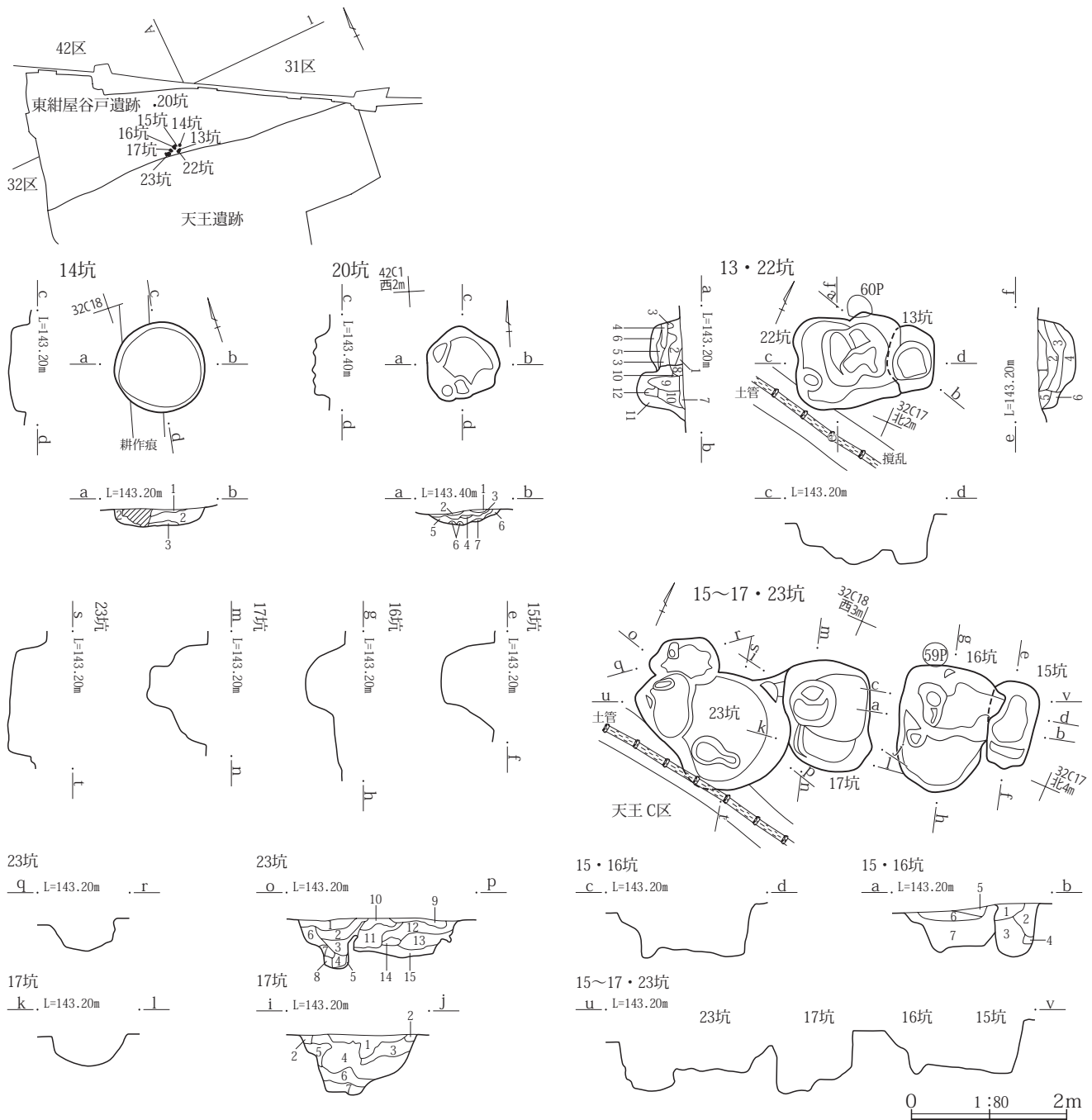
第4章 検出された遺構と遺物



2・4～8・10～12・21坑

2坑 a-b 1 黒色土 炭化物を少量、白色軽石を含む。2 黒色土 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。*12住より新しい。**4坑** a-b 1 黒褐色土 白色軽石を少量、ロームブロックを含む。2 黒褐色土 白色軽石を少量含む。3 黒褐色土 白色軽石をごく少量、ロームブロックを多量に含む。**5坑** a-b 1 黒色土 2cm大のロームブロックを少量含む。締まりなし。砂質。*現代か。**6坑** a-b 1 黒褐色土 白色軽石・炭化物・3～4cm大のロームブロックを含む。**7坑** a-b 1 黒褐色土 白色軽石を少量、0.5～1cm大の炭化物・ローム粒子を含む。締まりなし。砂質。2 黒褐色土 白色軽石を少量、2～4cm大のロームブロックを多く含む。締まりなし。砂質。3 黒色土 炭化物を少量含む。締まりなし。砂質。4 黒色土 炭化物を微量含む。締まりなし。砂質。5 黄褐色土 黒色土を含む。粘性あり。**8坑** a-b 1 黒色土 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。2 黒褐色土 白色軽石・3～5cm大のロームブロックを含む。3 褐色土 白色軽石・炭化物を少量、黒褐色砂質土を含む。4 黄褐色土 白色軽石を微量含む。砂質。**10坑** a-b 1 黒褐色土 炭化物を少量、2～3cm大のロームブロックを含む。締まりなし。砂質。2 黒色土 ローム粒子・炭化物を少量含む。締まりなし。砂質。3 黒褐色土 2～3cm大のロームブロック・0.5cm大の炭化物を少量含む。締まりなし。砂質。**11坑** a-b 1 黒色土 1～5cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。2 黒色土 1に似る。ロームブロックの量が多くなる。3 褐色土 均一な土。砂質。4 黒褐色土 2～5cm大のロームブロックを多量、黒色土ブロックを含む。5 黒褐色土 4に似る。ロームブロックを少量含む。6 黒色土 3に似る。均一な砂質土。**12坑** a-b 1 黒色土 白色軽石・ロームブロックを少量含む。2 黒色土 1に似る。1cm大のロームブロックを少量含む。1より明るい色調。3 黒褐色土 1～5cm大のロームブロックを含む。4 黒褐色土 3よりロームブロックが少ない。5 黄色土 ロームブロック。黒色土ブロックを含む。6 黒色土 ロームブロックを少量含む。7 黒褐色土 2cm大のロームブロックを含む。8 黄色土 ロームブロック。黒色土ブロックを含む。9 黄色土 ロームと褐色土が縞状に交互に堆積する。汚れたロームか。8より締まっている。**21坑** a-b 1 黒色土 白色軽石を多量、褐色土ブロックを含む。締まりなし。2 黒色土 1に似る。ロームブロックを含む。3 黄色土 ロームブロック。黒色土・褐色土ブロックを多く含む。

第188図 東紺屋2・4～8・10～12・21土坑

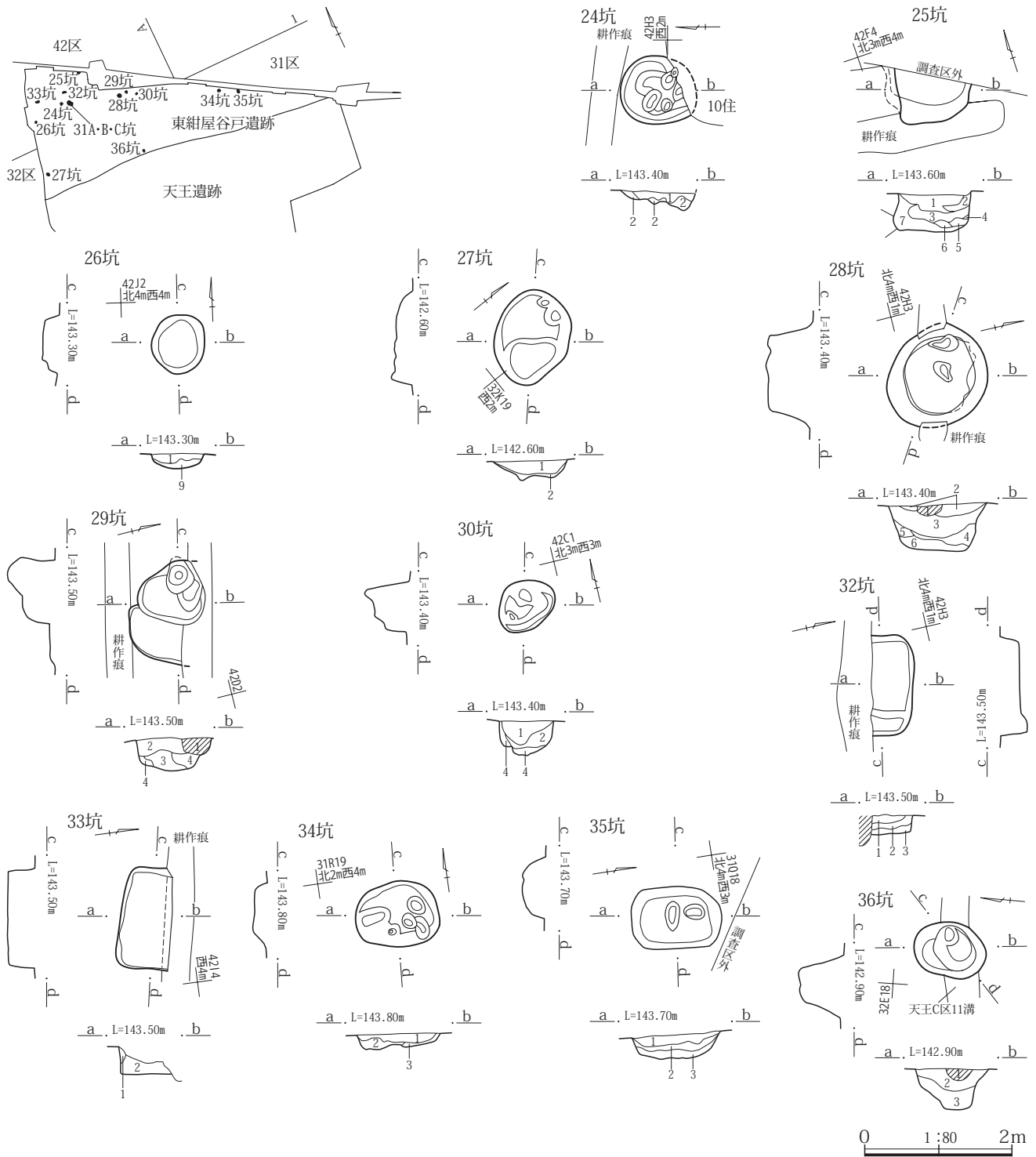


13~17・20・22・23坑

13坑 a-b 1 黄褐色土 ロームブロックを多量、白色軽石を少量含む。2 黒色土 白色軽石を多量、1cm大のロームブロックを少量含む。3 黒色土 2に似る。ロームブロックがやや大粒となる。4 黄色土 ロームブロックを含む。5 黒褐色土 ロームブロックを含む。6 黄褐色土 ロームブロック。黒色土を含む。7 黒色土 白色軽石・ロームブロックを少量含む。8 黒色土 7に似る。ロームブロックは7より多く含む。9 黒色土 白色軽石を少量含む。ロームブロックを含むが7層より少ない。10 黒色土 9に似る。ロームブロックを含む。11 黒色土 3~5cm大のロームブロックを含む。12 黒色土 10と似る。ロームブロックを多く含む。 **22坑** e-f' 1 黒褐色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。締まりなし。2 黒色土 白色軽石を含む。3 黒色土 2に似る。2~5cm大のロームブロックを含む。4 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。5 黒褐色土 22坑を切るピット。ロームブロック・白色軽石を少量含む。6 黒褐色土 5に似る。ロームブロックの量が多い。 **14坑** a-b 1 黒色土 白色軽石・1cm大のロームブロックを少量含む。2 黒褐色土 2~5cm大のロームブロックを多量に含む。3 黒色土 1~2cm大のロームブロックを少量含む。ロームブロックは2より少ない。 **15坑** a-b 1 黒色土 2~3cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。2 黒褐色土 白色軽石を少量、2~7cm大のロームブロックを多量に含む。3 黒色土 1に似る。白色軽石の量が少ない。ロームブロックを少量含む。4 褐色土 黒色土ブロックを少量含む。砂質。 **16坑** a-b 5 黒色土 白色軽石の量が少ない。4 黒褐色土 3より色調が黒くなる。5 黄色土 黒色土ブロックを少量含む。壁の崩落土か。6 黒褐色土 1~5cm大のロームブロックを多く含む。 **17坑** i-j 1 黒褐色土 白色軽石・1~3cm大のロームブロックを少量含む。2 褐色土 砂質。黒味が強い。3 黒褐色土 1~5cm大のロームブロックを含む。4 黒褐色土 2に似る。ロームブロックを含む。黄色味が強い。5 黄色土 黒色土をブロック状に含む。6 黄色土 5に似る。黒色土ブロックの量が多い。7 黒色土 2cm大のロームブロックを含む。純黒色を呈する。 **23坑** o-p 1 黒褐色土 2~5cm大のロームブロック・白色軽石を含む。2 黒褐色土 1よりロームブロックの粒が大きく多量に含む。3 黒褐色土 2よりロームブロックの量が少ない。4 黒褐色土 3より色調が黒くなる。5 黄色土 黒色土ブロックを少量含む。壁の崩落土か。6 黒褐色土 5~10cm大のロームブロックを含む。7 黄色土 ロームブロック。8 黒褐色土 ロームブロックを含む。4より量が多い。9 黒色土 白色軽石を多量に含む。10 褐色土 白色軽石を少量、ロームブロックをわずかに含む。11 褐色土 2~7cm大のロームブロックを多量に含む。12 黒色土 2~5cm大のロームブロックを少量、白色軽石を含む。13 黒褐色土 2~7cm大のロームブロックを含む。12より明るい色調。14 黄色土 ロームブロック。15 黒色土 1cm大のロームブロックを少量含む。 **20坑** a-b 1 黄色土 ロームブロック。2 赤褐色土 焼土・炭化物・ロームブロックの混土。3 黒褐色土 黒色土ブロックと焼土粒子・炭化物を含む。4 赤褐色土 ロームブロックと焼土の混土。5 黒褐色土 焼土・炭化物を含む。4より黒色味が強い。6 黄色土 黒色土とロームの混土。7 黒色土 粘性強い。

第189図 東紺屋13~17・20・22・23土坑

第4章 検出された遺構と遺物

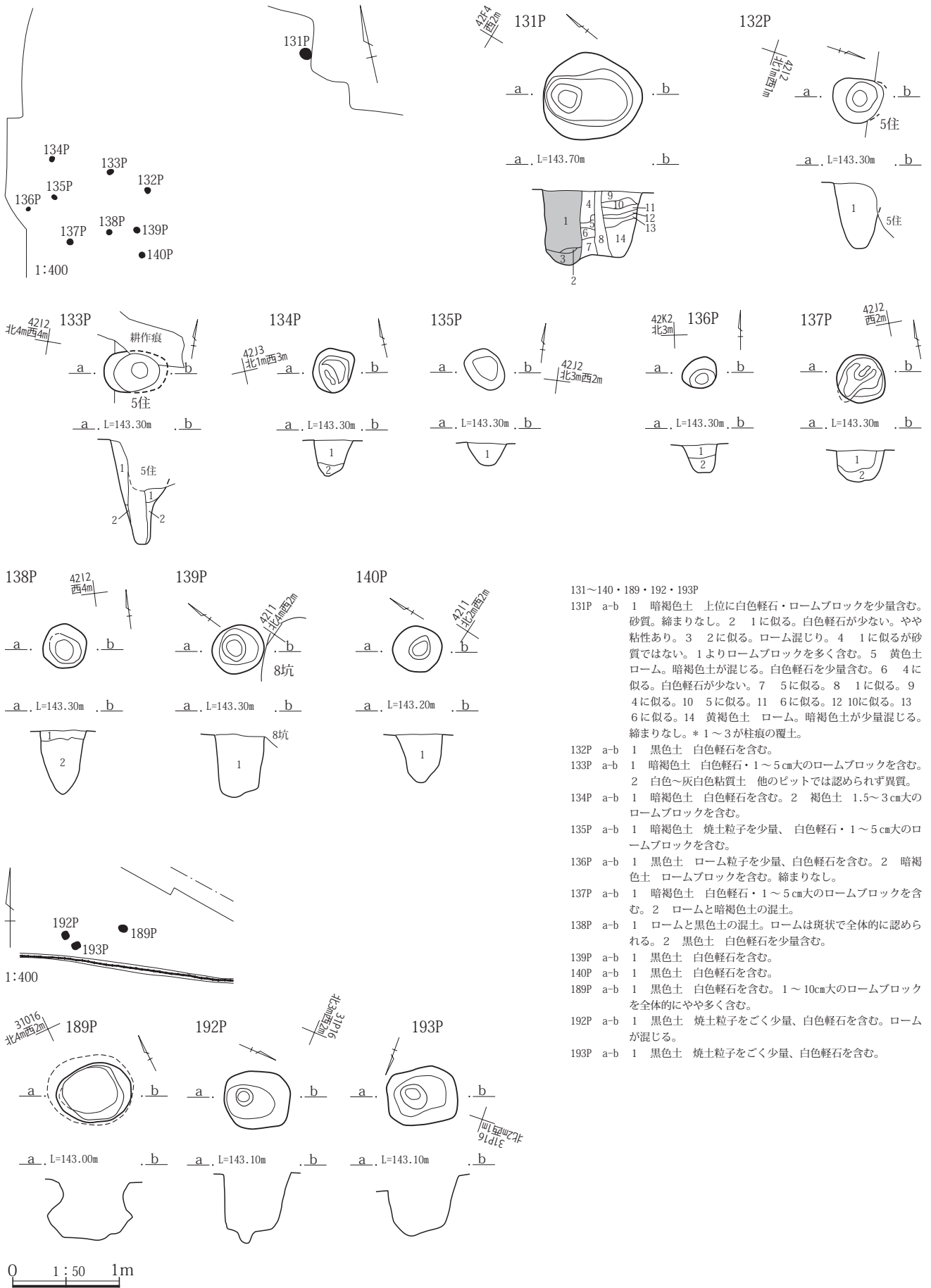


24~30・32~36坑

24坑 a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。やや褐色味あり。2 黄色土 ロームに黒色土が混じる。*10住を切る。 **25坑** a-b 1 黒色土 白色軽石を多量、1~2cm大のロームブロックを含む。2 黄色土 2~5cm大のロームブロックを多量に含む。3 黄色土 黒色土ブロックが混じる。特に東壁直下にロームブロックが多い。4 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。5 黄色土 3に似る。ロームブロックを多く含む。6 黒色土。7 黒色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを少量含む。底面付近は大粒のロームブロックとなる。*北側に続く粘土採掘坑とみられる。**26坑** a-b 1 黒色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを含む。2 黒褐色土 白色軽石を少量、ロームを含む。3 暗褐色土 白色軽石・5cm大のロームブロックを少量含む。4 暗褐色土 ロームを含む。砂質。**27坑** a-b 1 暗褐色土 2~5cm大のロームブロックを含む。溝埋土。砂質。2 黒褐色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを少量含む。一部に灰白色粘質土を含む。3 暗褐色土 白色軽石を少量、1~3cm大のロームブロックを含む。4 黒色土 白色軽石・ローム粒子を含む。5 黒褐色土 白色軽石を微量含む。6 黒色土 黒色砂質土とローム土の混じり。砂質。**28坑** a-b 1 暗褐色土 2~5cm大のロームブロックを含む。溝埋土。砂質。2 黒褐色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを少量含む。一部に灰白色粘質土を含む。3 暗褐色土 白色軽石を少量、1~3cm大のロームブロックを含む。4 黒色土 白色軽石・ローム粒子を含む。5 黒褐色土 白色軽石を微量含む。6 黒色土 黒色砂質土とローム土の混じり。砂質。**29坑** a-b 1 褐色土 黒色砂質土・ロームを含む。砂質。2 黒色土 白色軽石・炭化物を少量、1~2cm大のロームブロックを含む。3 暗褐色土 ロームを含む。砂質。4 褐色土 黒色砂質土・ロームを含む。砂質。**30坑** a-b 1 暗褐色土 白色軽石・1~2cm大のロームブロックを少量含む。2 褐色土 ロームを含む。砂質。3 褐色土 黒褐色砂質土を含む。砂質。4 黒色土 ロームを含む。砂質。**32坑** a-b 1 暗褐色土 白色軽石・植物の茎類を含む。砂質。2 1にローム粒子を含む。3 2よりもローム粒子が多い。黄色味あり。**33坑** a-b 1 黄色土 ローム。壁崩落か。2 暗褐色土 白色軽石をごく少量、0.5~3cm大のロームブロックを含む。**34坑** a-b 1 P114 1層。2 黄色土 ロームに1が混じる。3 黄色土 汚れたローム。4 黒色土 ロームを含む。砂質。**35坑** a-b 1 暗褐色土 白色軽石・0.5~2cm大のロームブロックを含む。砂質。2 1に似る。ロームブロックは1より少ない。3 暗褐色土 白色軽石を含む。下位にロームが混じる。**36坑・天王C区11溝** a-b 1 暗褐色土 白色軽石を含む。11溝覆土。砂質。2 1に1cm大のロームブロックを含む。焼土粒子を少量含む。3 2に似る。2より軽石が少ない。3cm大のロームブロックを含む。*11溝が土坑を切る。

第190図 東紺屋屋24~30・32~36土坑

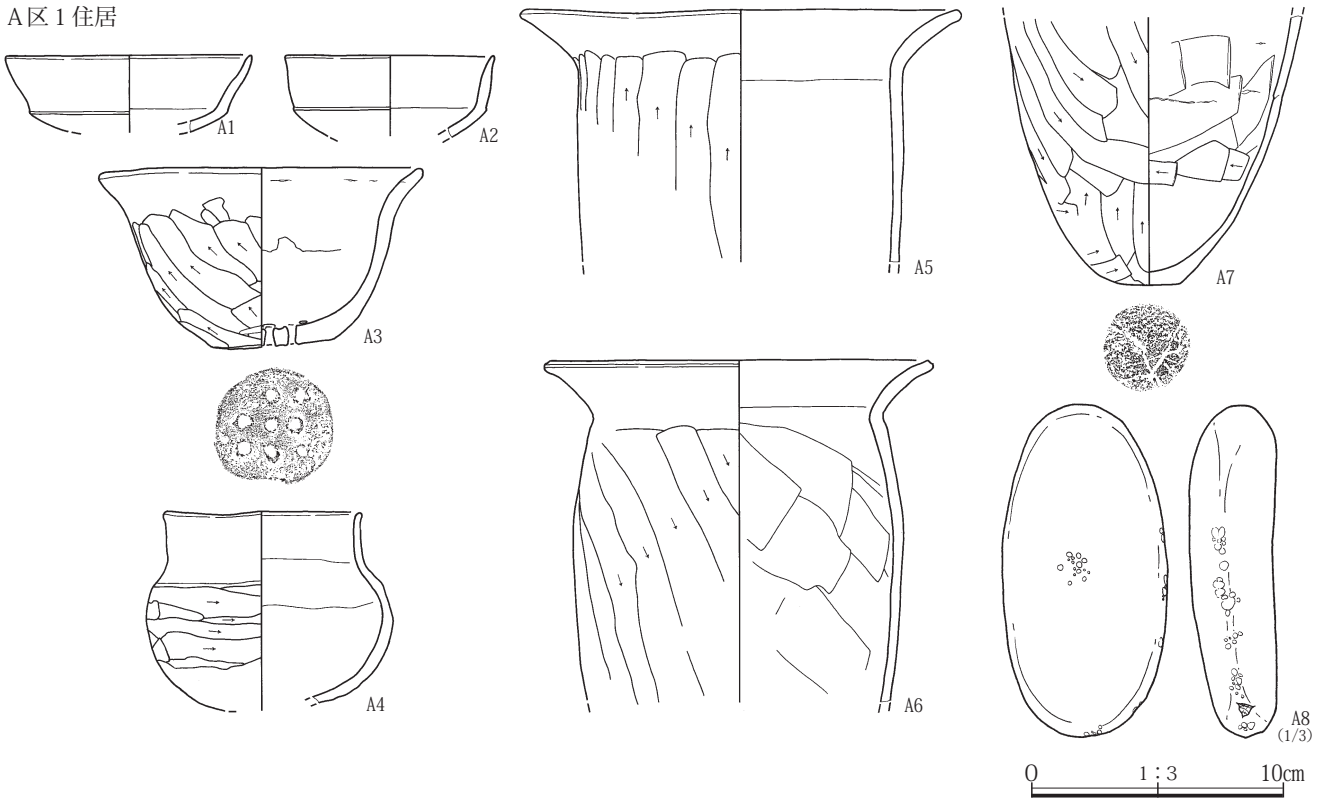
第4章 検出された遺構と遺物



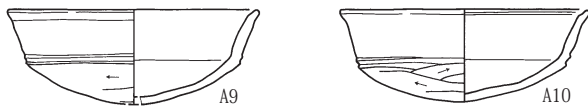
131~140・189・192・193P
 131P a-b 1 暗褐色土 上位に白色軽石・ロームブロックを少量含む。砂質。締まりなし。2 1に似る。白色軽石が少ない。やや粘性あり。3 2に似る。ローム混じり。4 1に似るが砂質ではない。1よりロームブロックを多く含む。5 黄色土ローム。暗褐色土が混じる。白色軽石を少量含む。6 4に似る。白色軽石が少ない。7 5に似る。8 1に似る。9 4に似る。10 5に似る。11 6に似る。12 10に似る。13 6に似る。14 黄褐色土 ローム。暗褐色土が少量混じる。締まりなし。* 1~3が柱痕の覆土。
 132P a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。
 133P a-b 1 暗褐色土 白色軽石・1~5cm大のロームブロックを含む。2 白色~灰白色粘質土 他のピットでは認められず異質。
 134P a-b 1 暗褐色土 白色軽石を含む。2 褐色土 1.5~3cm大のロームブロックを含む。
 135P a-b 1 暗褐色土 焼土粒子を少量、白色軽石・1~5cm大のロームブロックを含む。
 136P a-b 1 黒色土 ローム粒子を少量、白色軽石を含む。2 暗褐色土 ロームブロックを含む。締まりなし。
 137P a-b 1 暗褐色土 白色軽石・1~5cm大のロームブロックを含む。2 ロームと暗褐色土の混土。
 138P a-b 1 ロームと黒色土の混土。ロームは斑状で全体的に認められる。2 黒色土 白色軽石を少量含む。
 139P a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。
 140P a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。
 189P a-b 1 黒色土 白色軽石を含む。1~10cm大のロームブロックを全体的にやや多く含む。
 192P a-b 1 黒色土 焼土粒子をごく少量、白色軽石を含む。ロームが混じる。
 193P a-b 1 黒色土 焼土粒子をごく少量、白色軽石を含む。

第192図 東紺屋131~140・189・192・193ピット

A区1住居



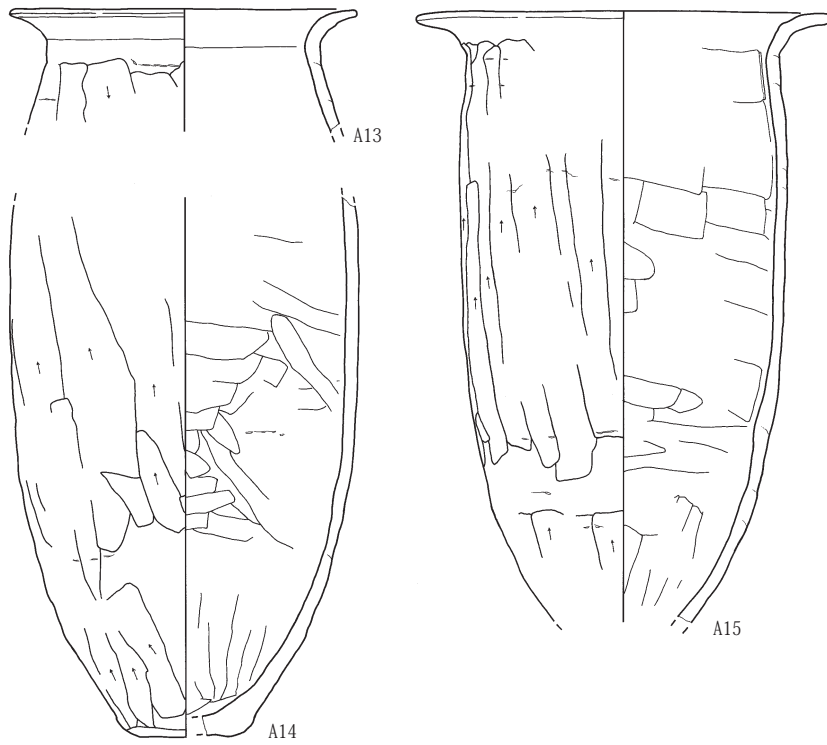
A区2住居



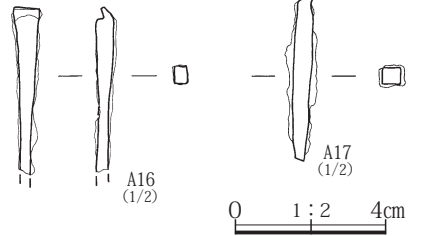
A区4住居



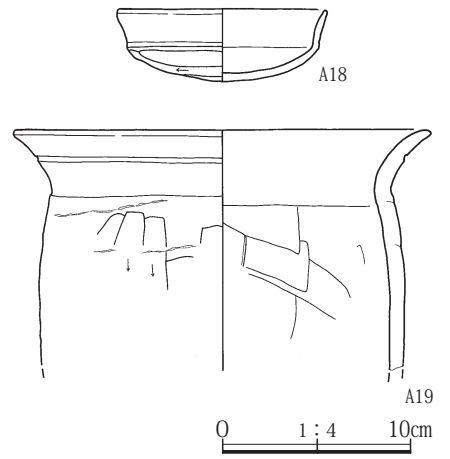
A区5住居



A区6住居



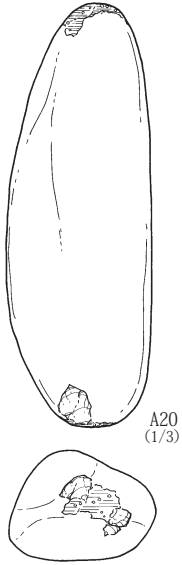
A区7住居(1)



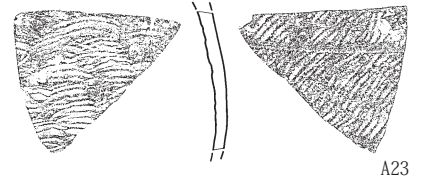
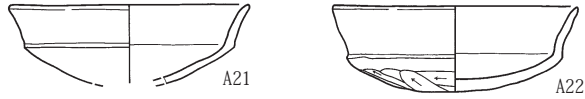
第193図 天王A区1・2・4~7住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

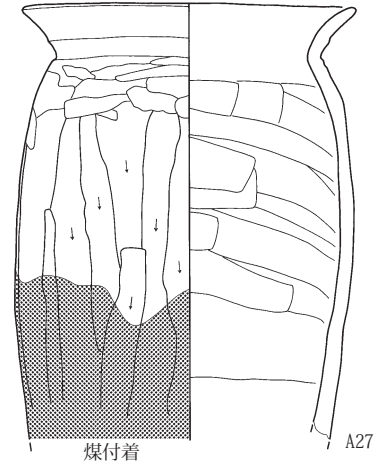
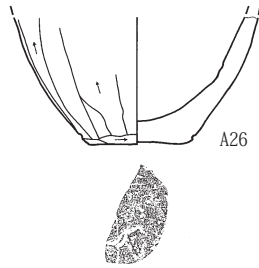
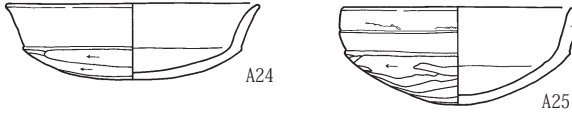
A区7住居(2)



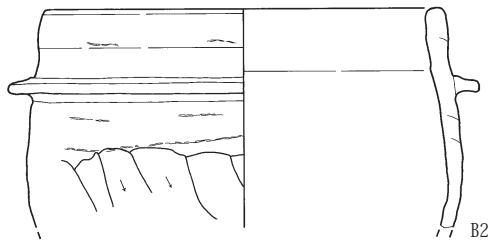
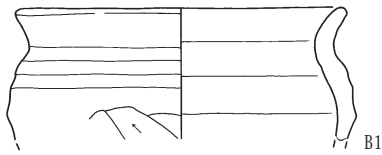
A区8住居



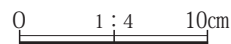
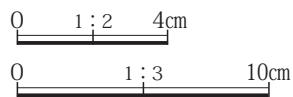
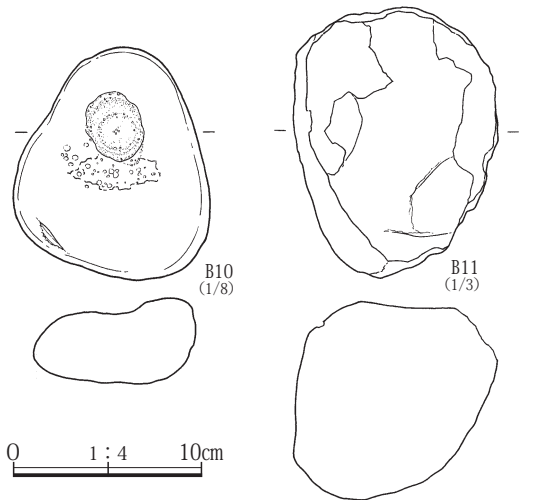
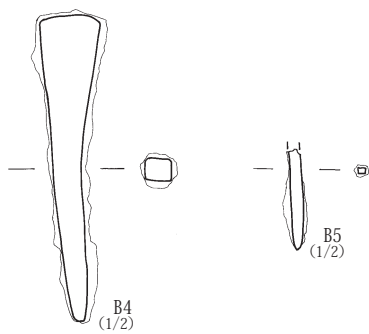
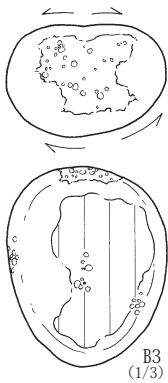
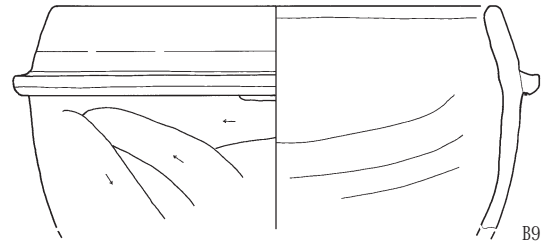
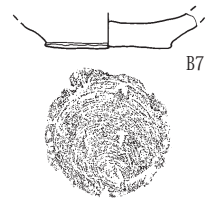
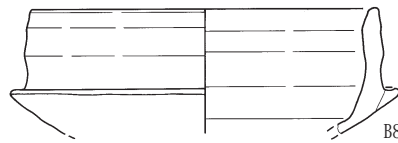
A区9住居



B区1住居

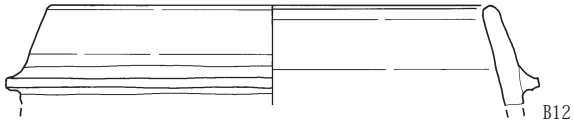


B区2住居

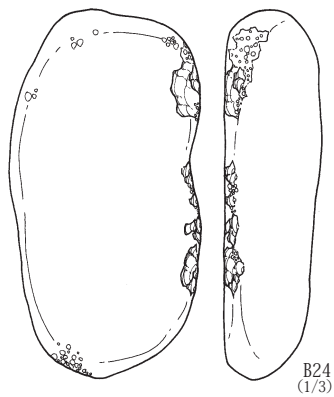
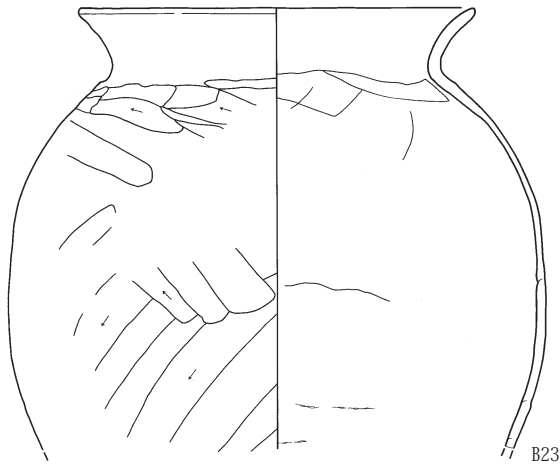
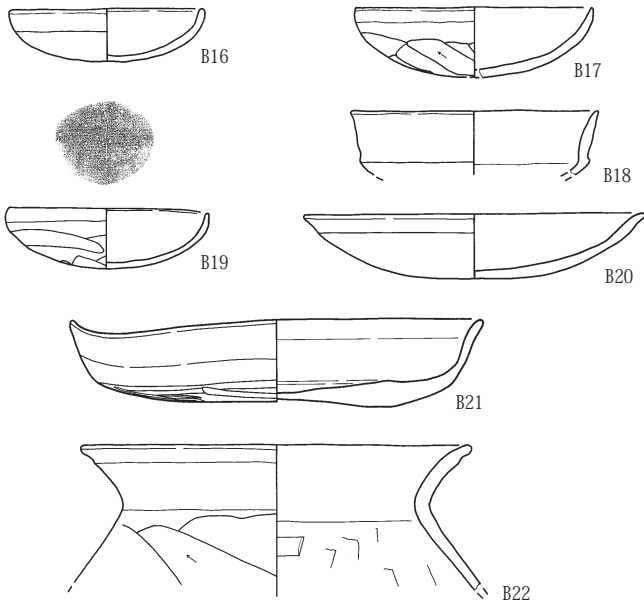


第194図 天王A区7~9住居 B区1・2住居出土遺物

B区3住居

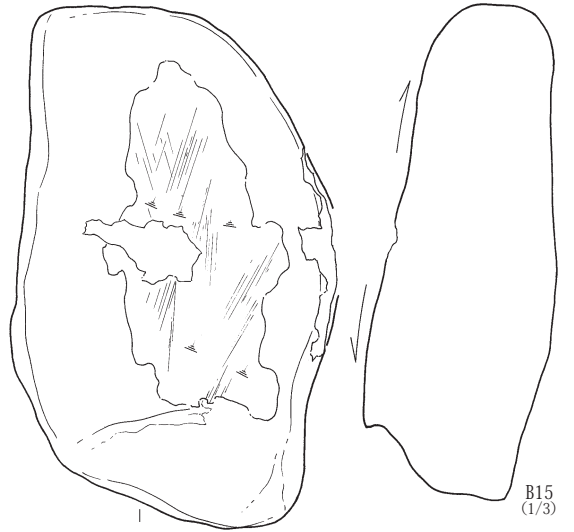
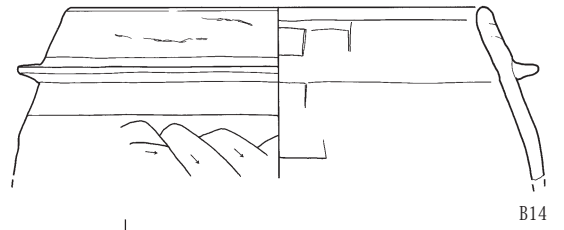
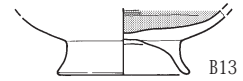


B区5住居

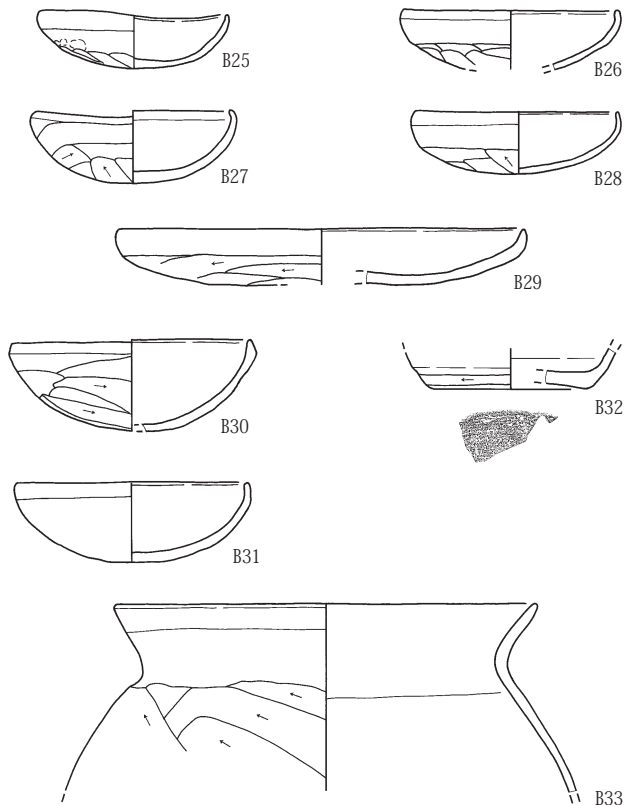


0 1:3 10cm

B区4住居



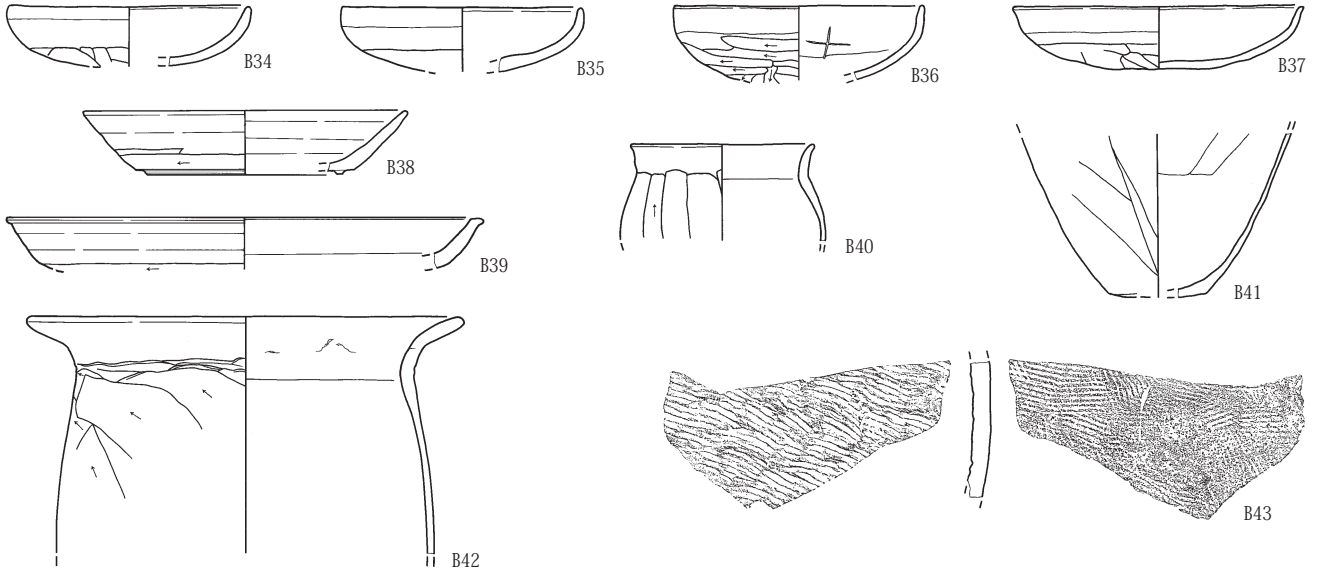
B区6住居



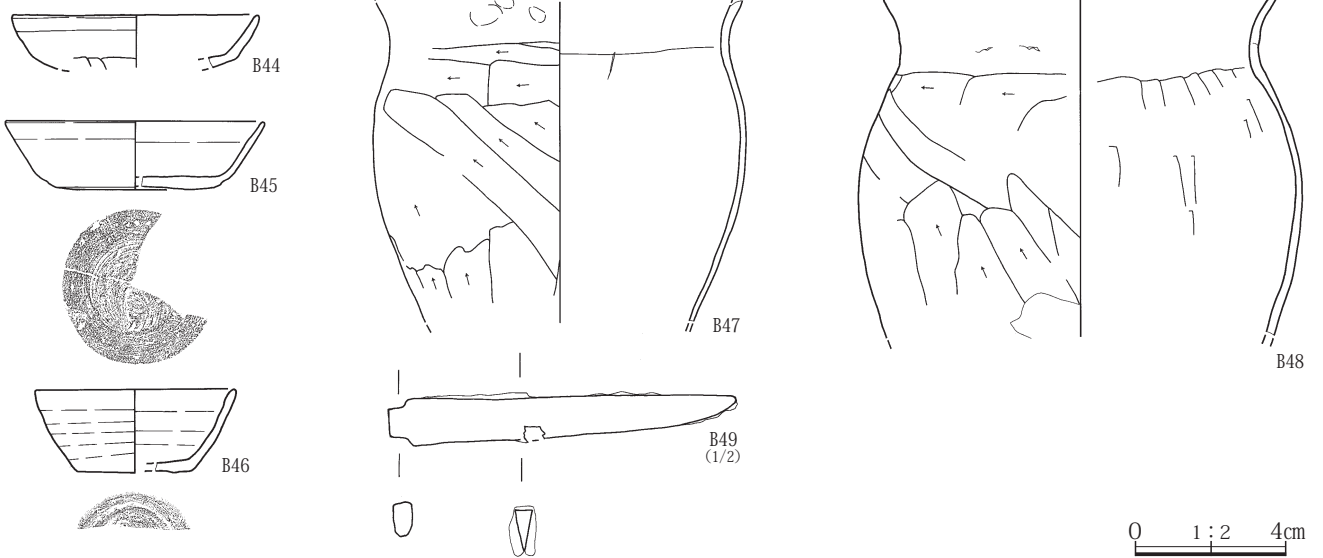
0 1:4 10cm

第195図 天王B区3~6住居出土遺物

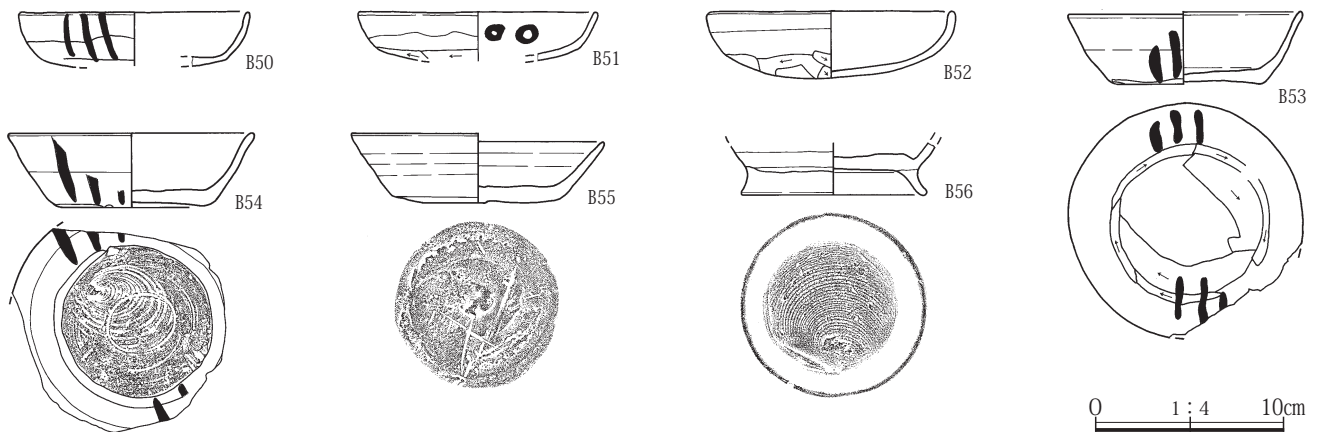
B区7住居



B区8住居

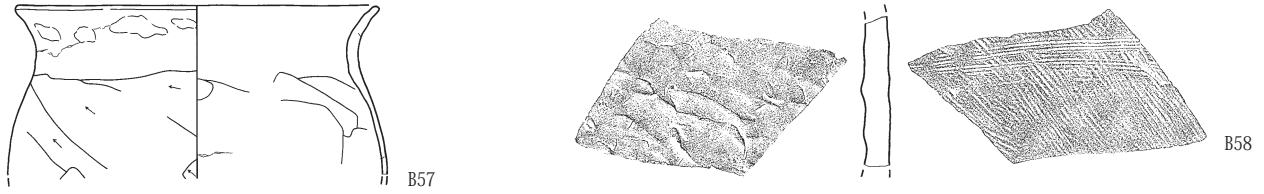


B区9住居(1)

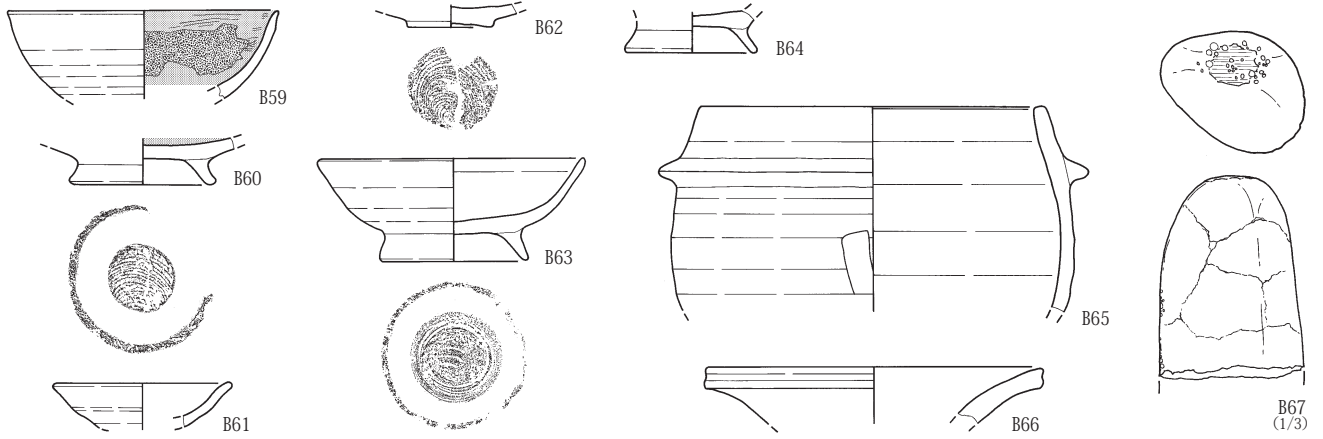


第196図 天王B区7～9住居出土遺物

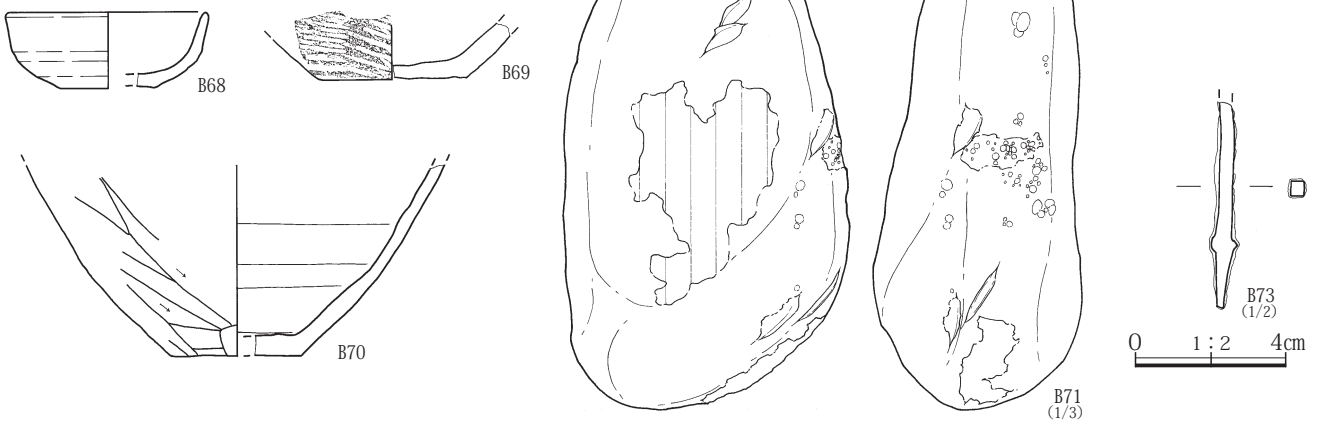
B区9住居(2)



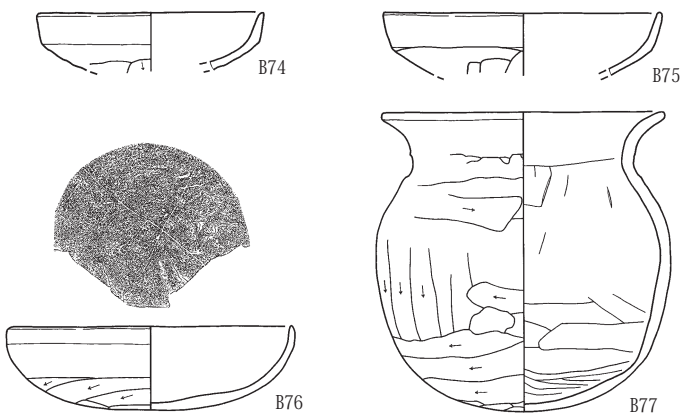
B区10住居



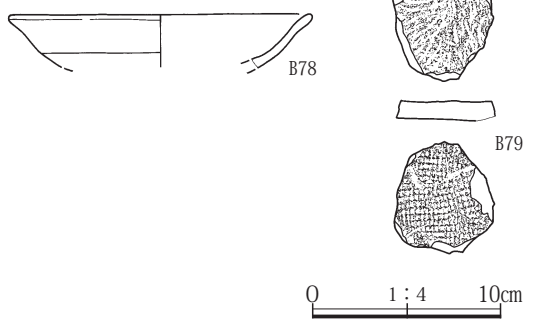
B区11住居



B区12住居

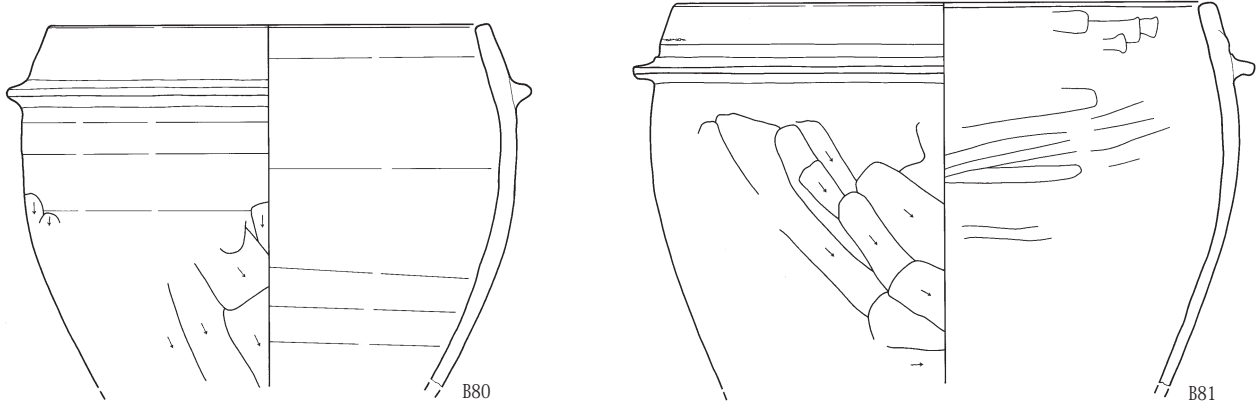


B区13住居(1)



第197図 天王B区9~13住居出土遺物

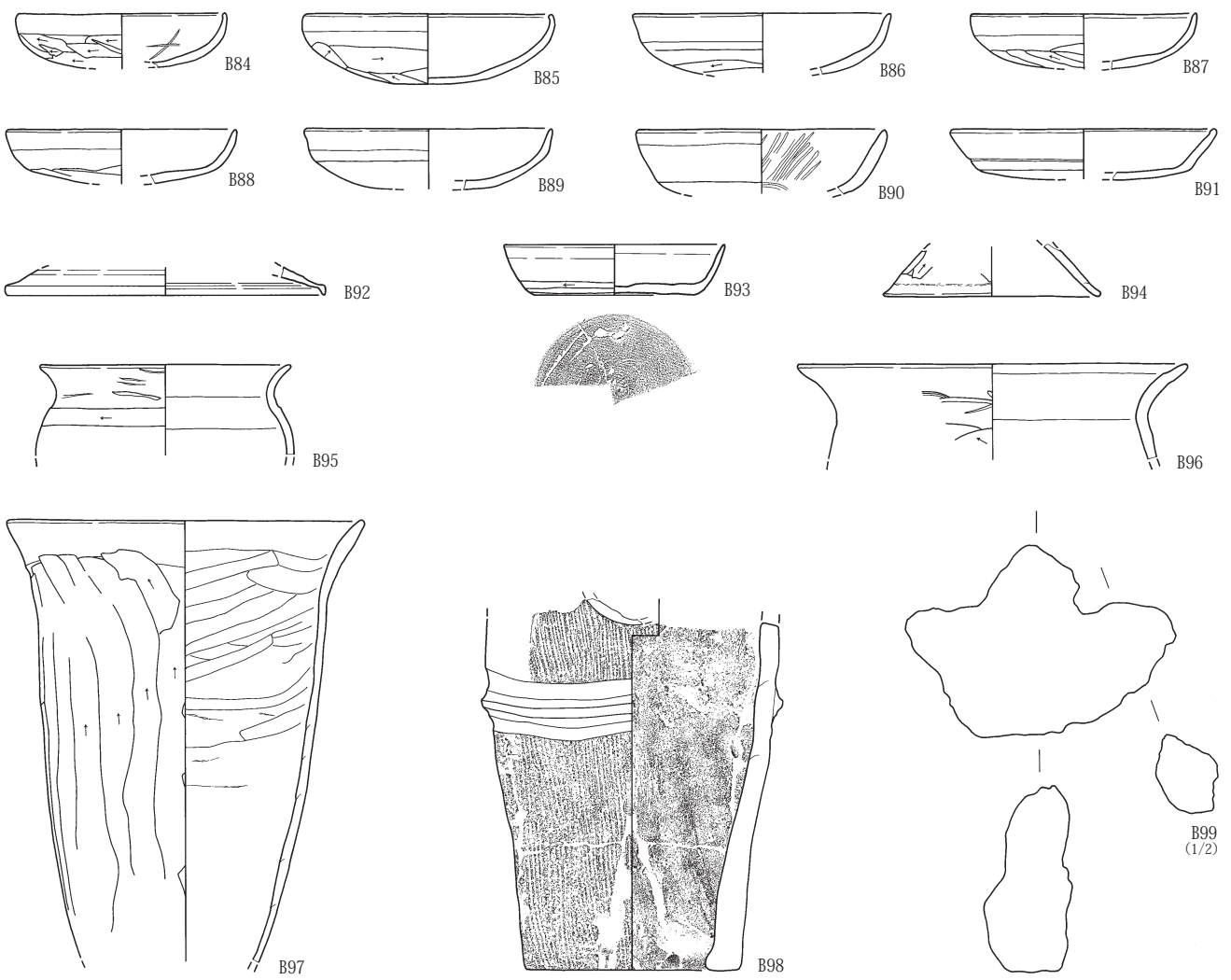
B区13住居(2)



B区14住居



B区15住居

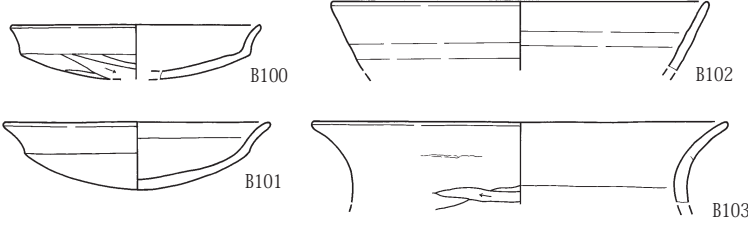


0 1:4 10cm

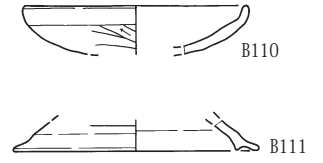
0 1:2 4cm

第198図 天王B区13~15住居出土遺物

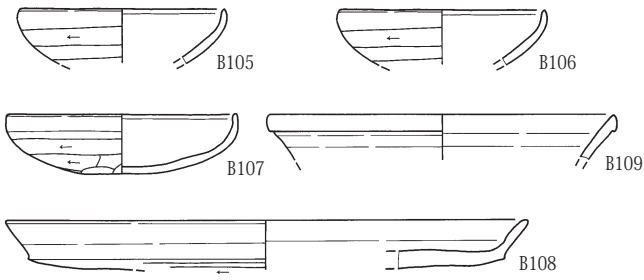
B区16住居



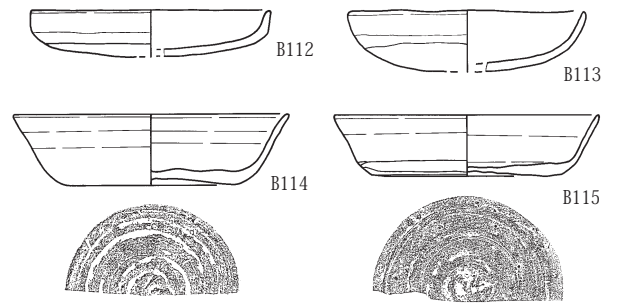
B区19住居



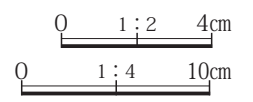
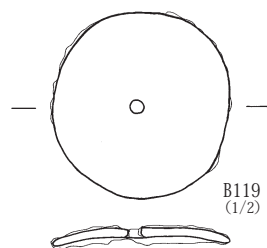
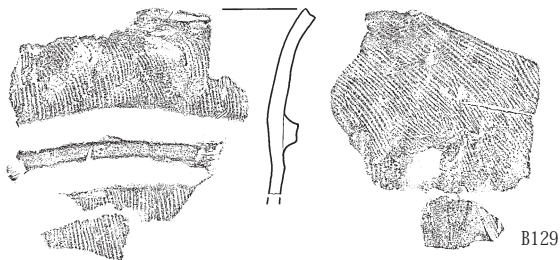
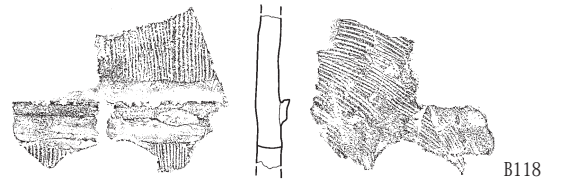
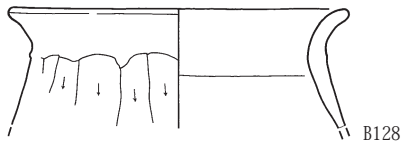
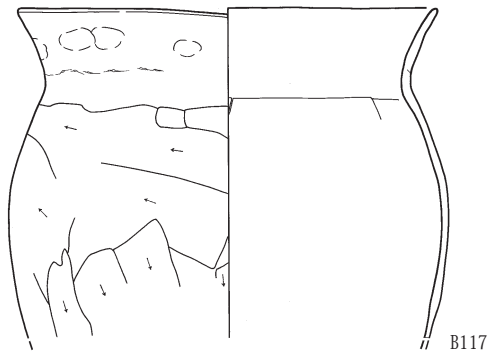
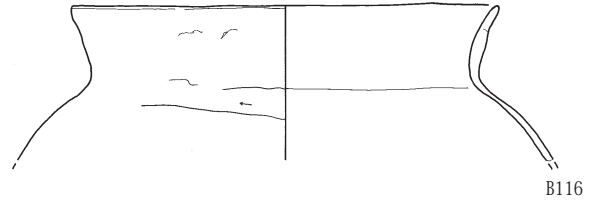
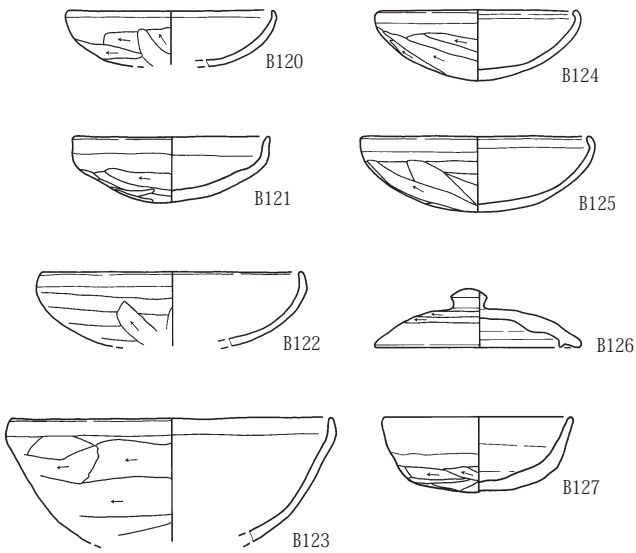
B区18住居



B区20住居

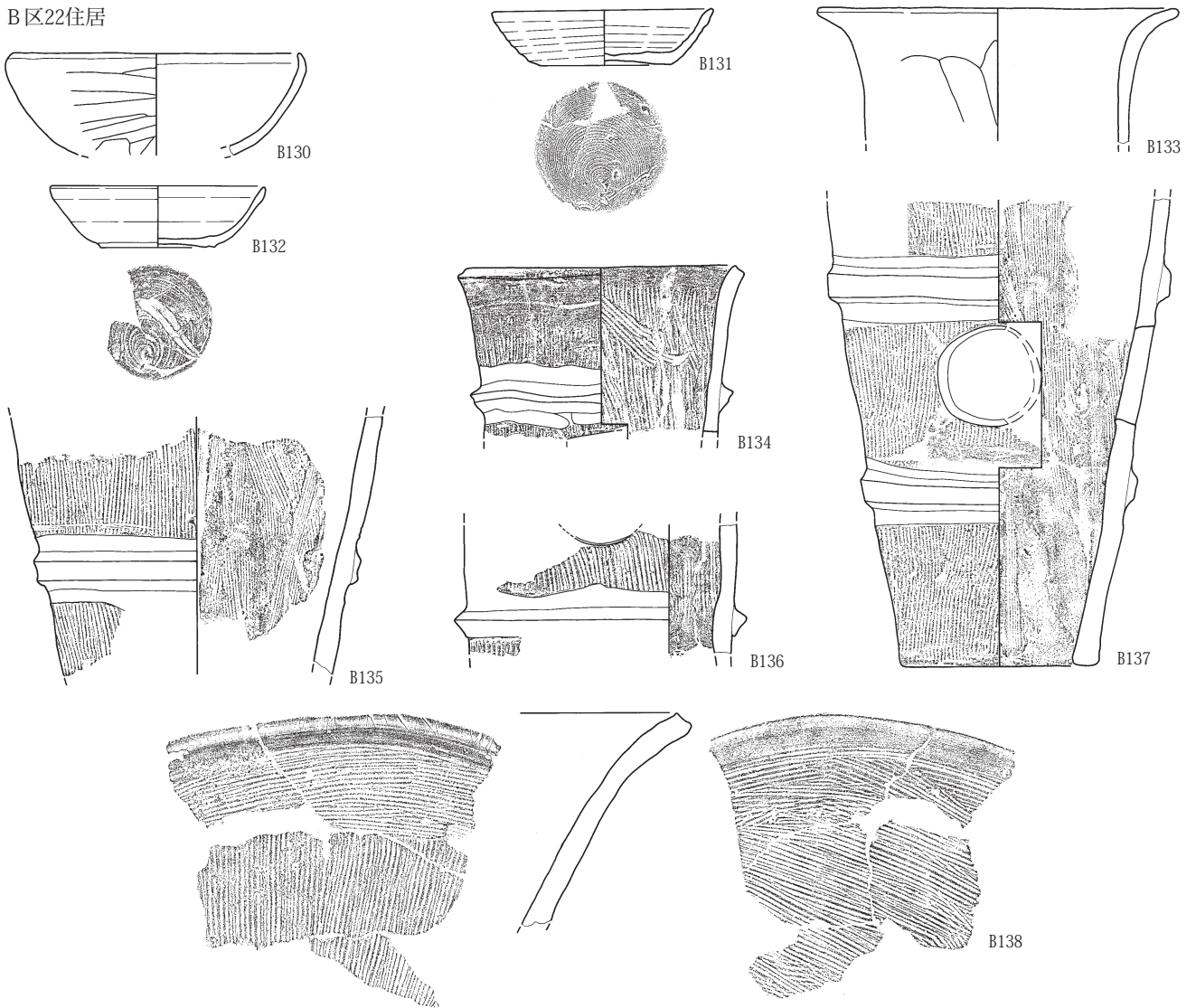


B区21住居

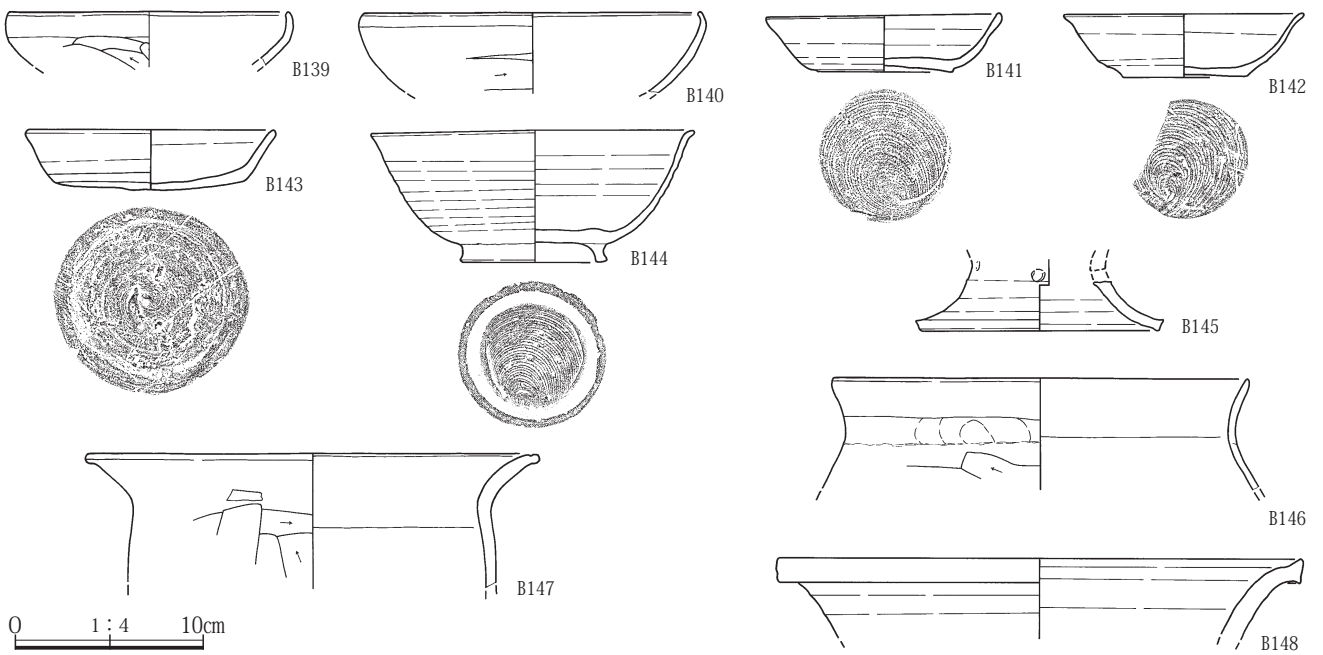


第199図 天王B区16・18~21住居出土遺物

B区22住居

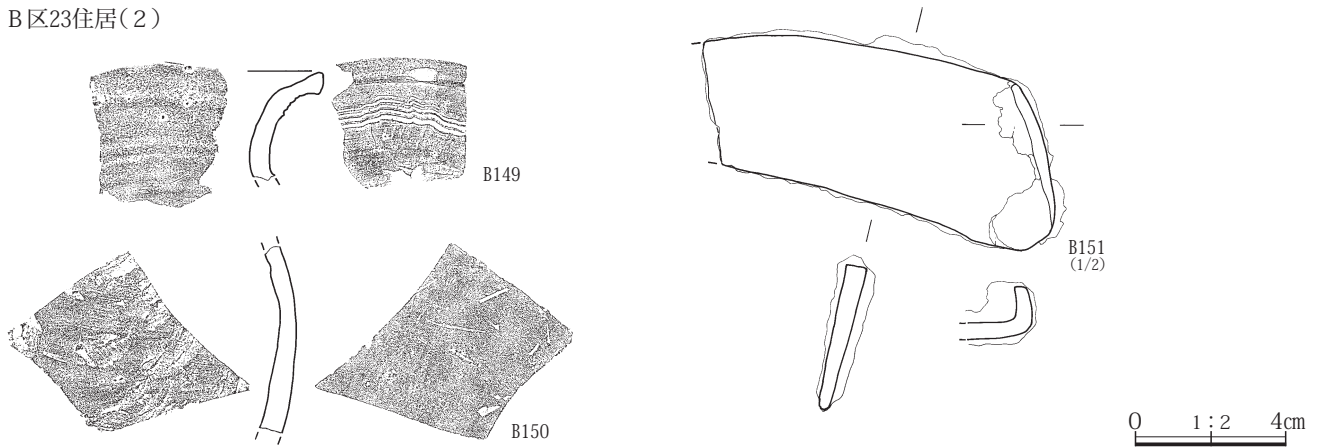


B区23住居(1)



第200図 天王B区22・23住居出土遺物

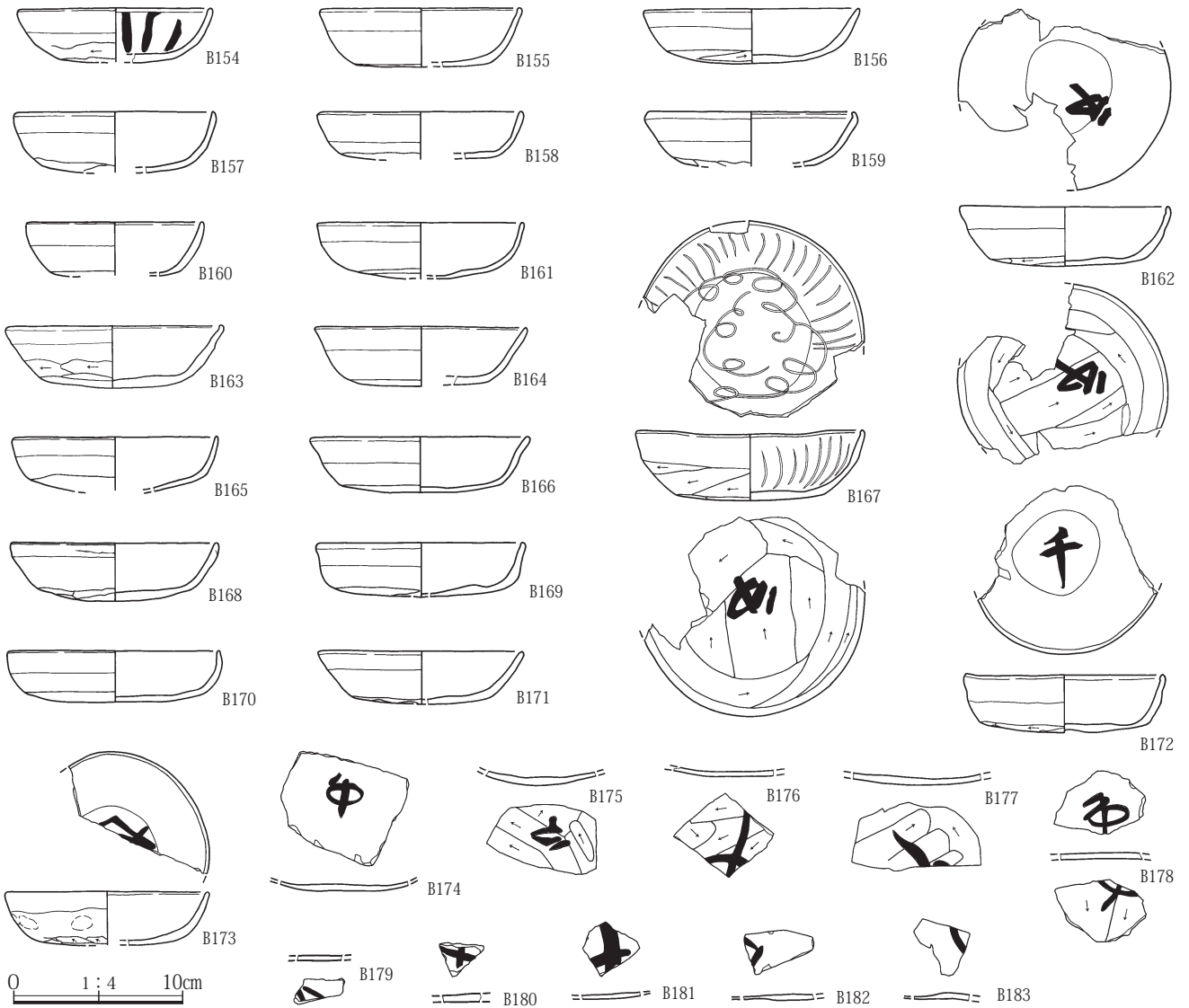
B区23住居(2)



B区27住居



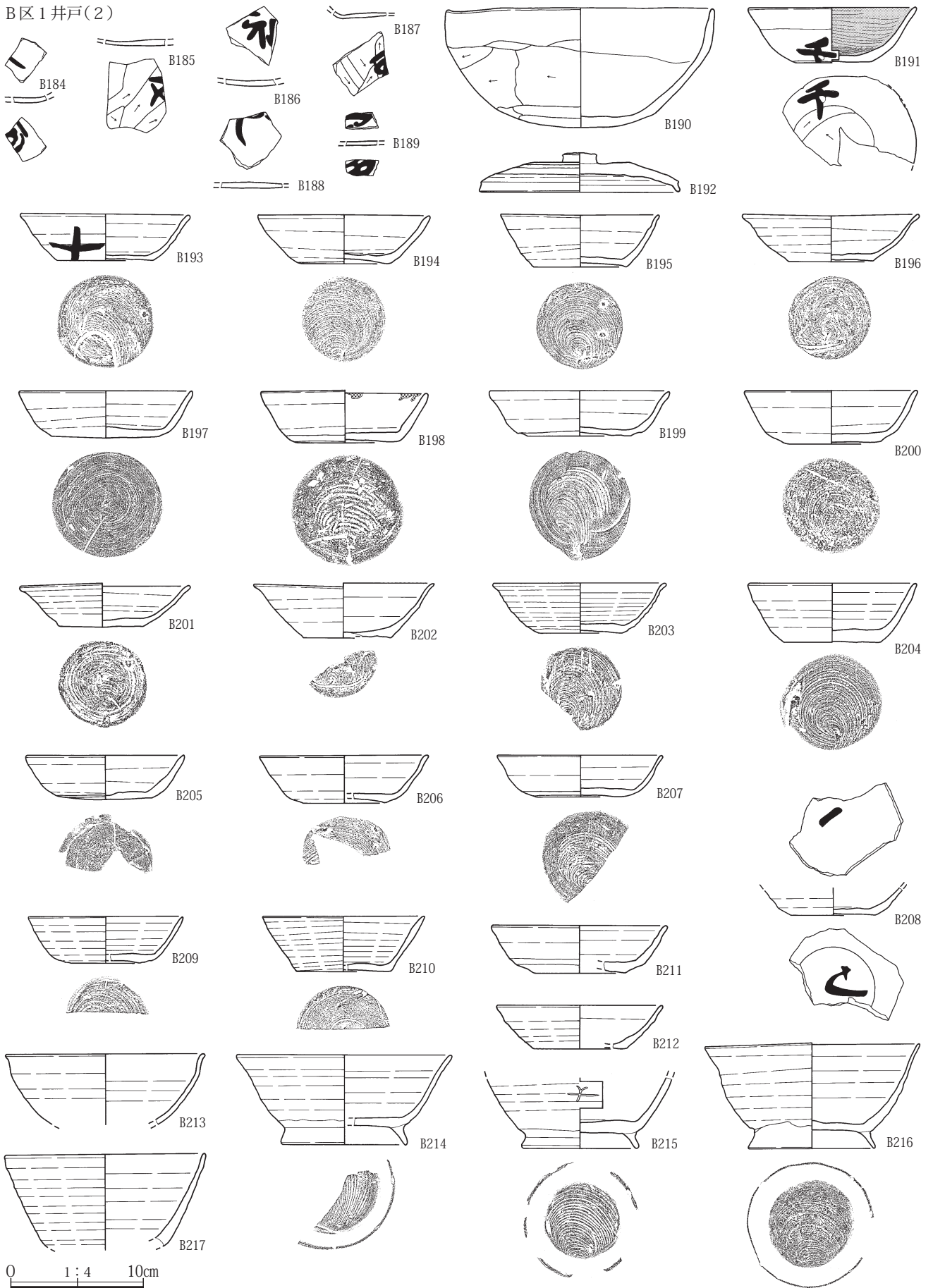
B区1井戸(1)



第201図 天王B区23・27住居、1井戸出土遺物

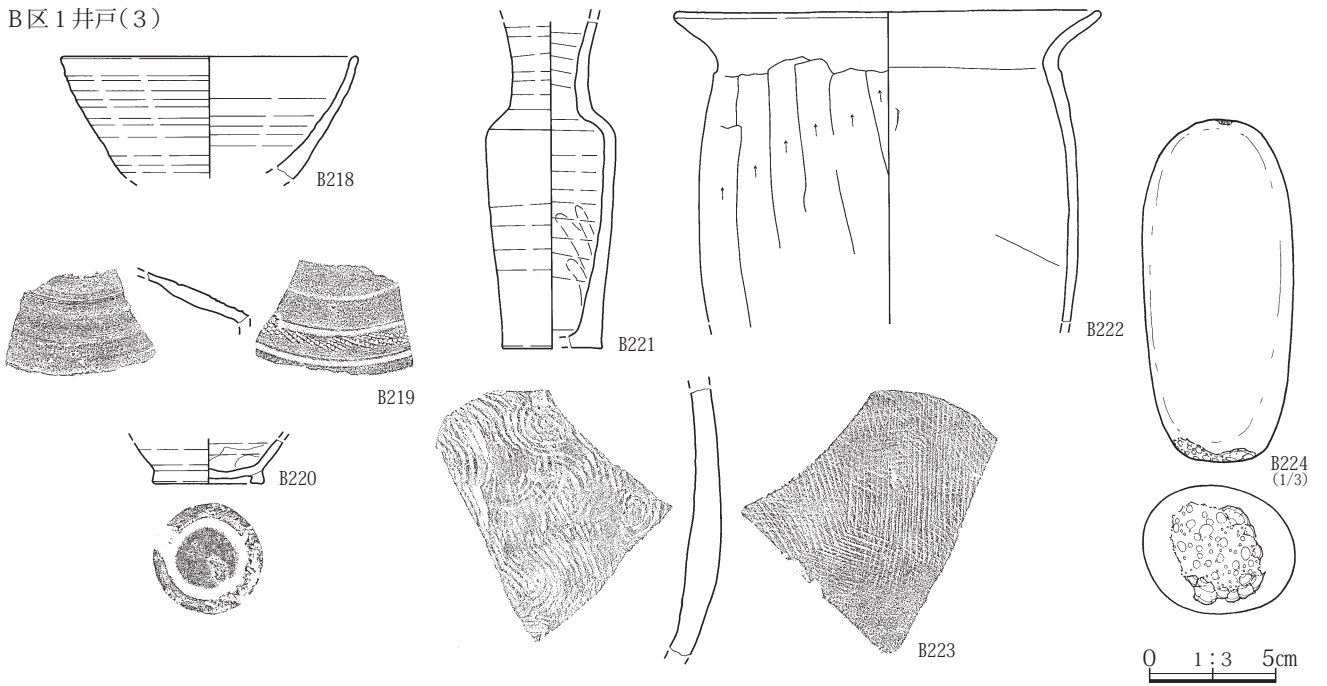
第4章 検出された遺構と遺物

B区1井戸(2)

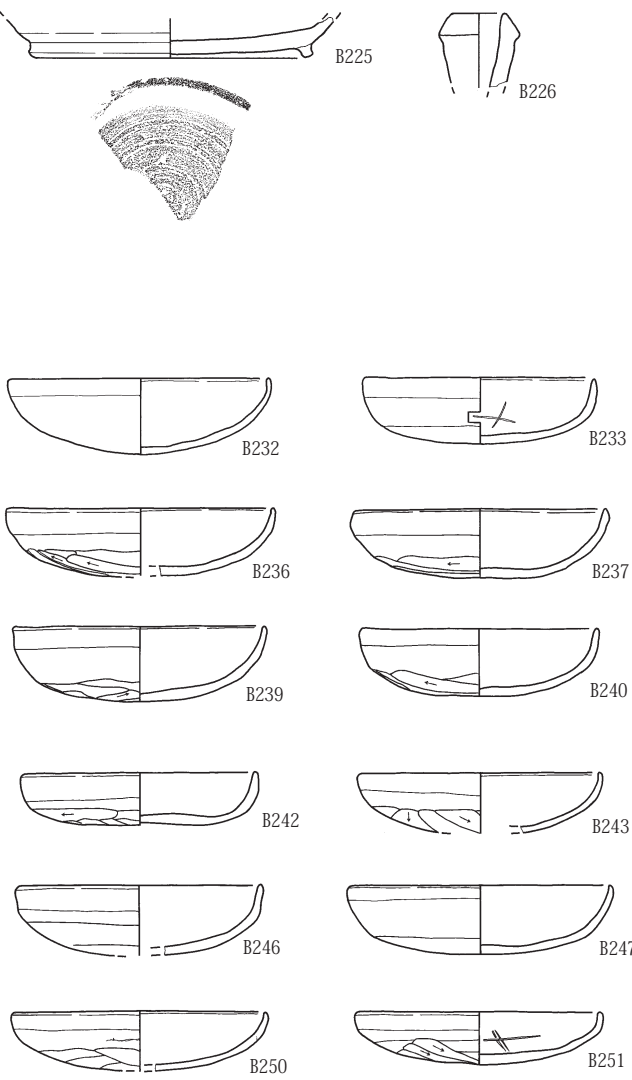


第202図 天王B区1井戸出土遺物

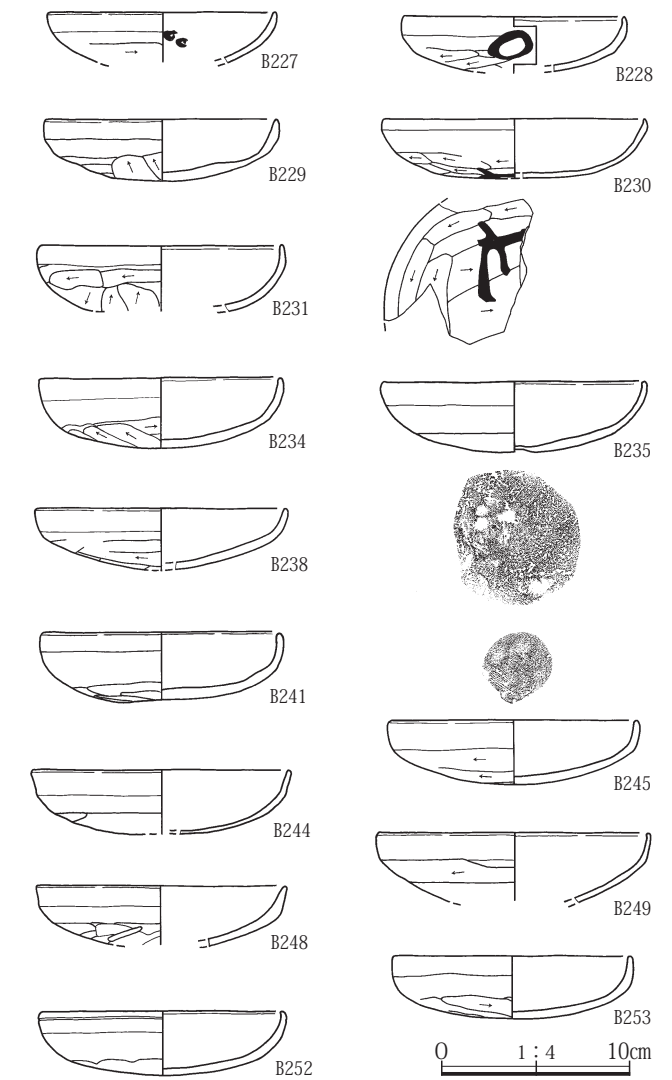
B区1井戸(3)



B区2井戸

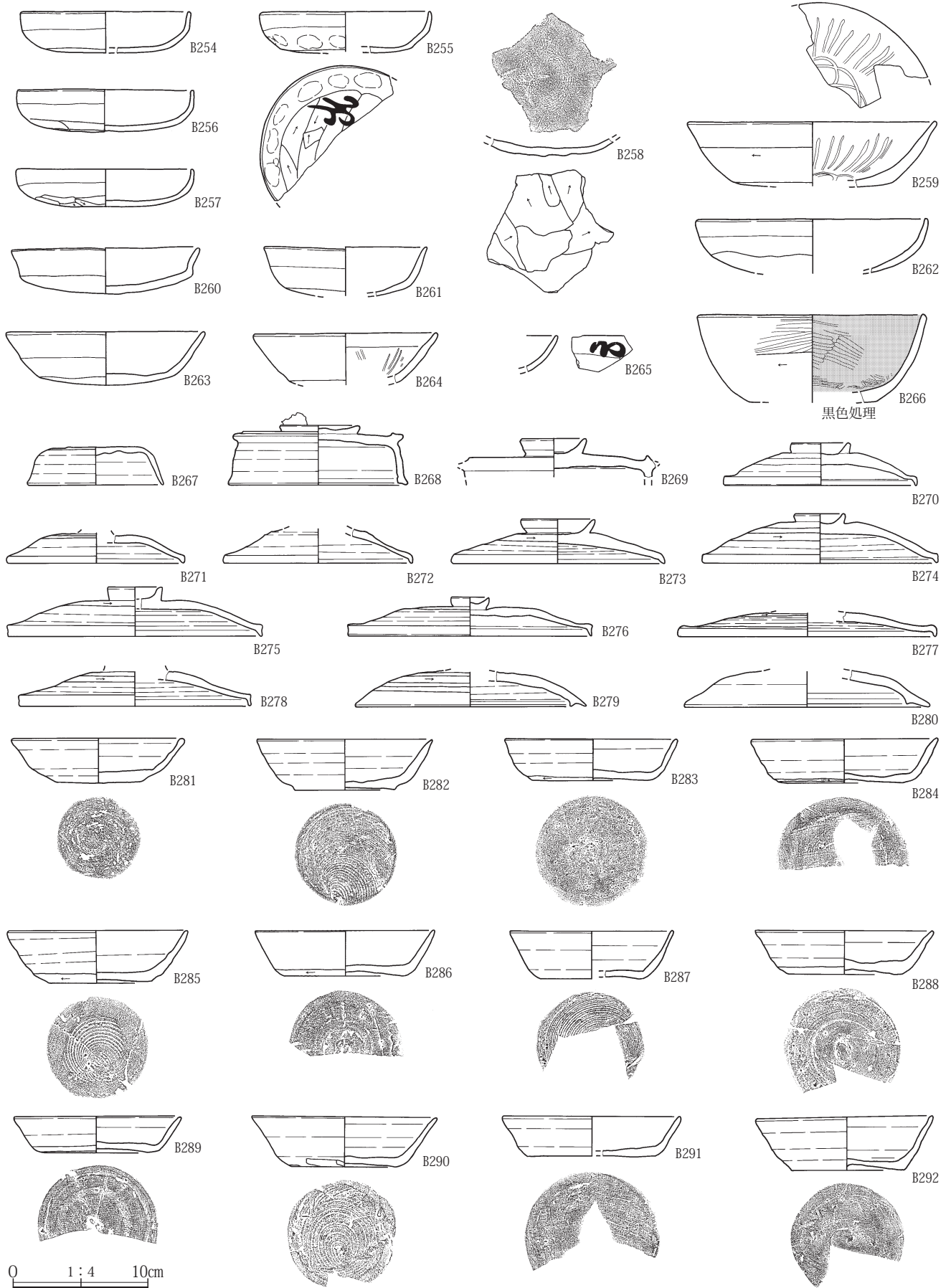


B区3井戸(1)



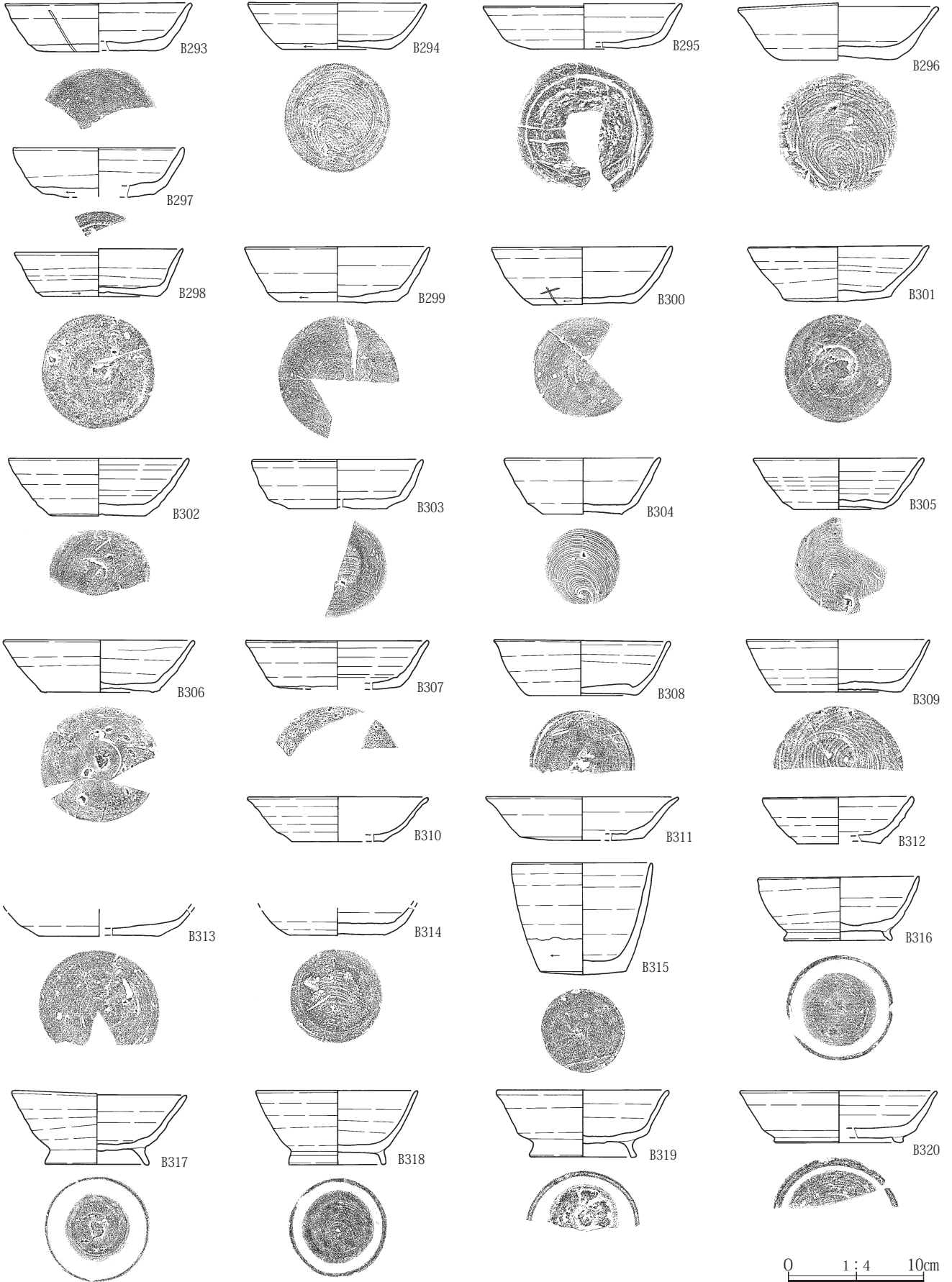
第203図 天王B区1~3井戸出土遺物

B区3井戸(2)



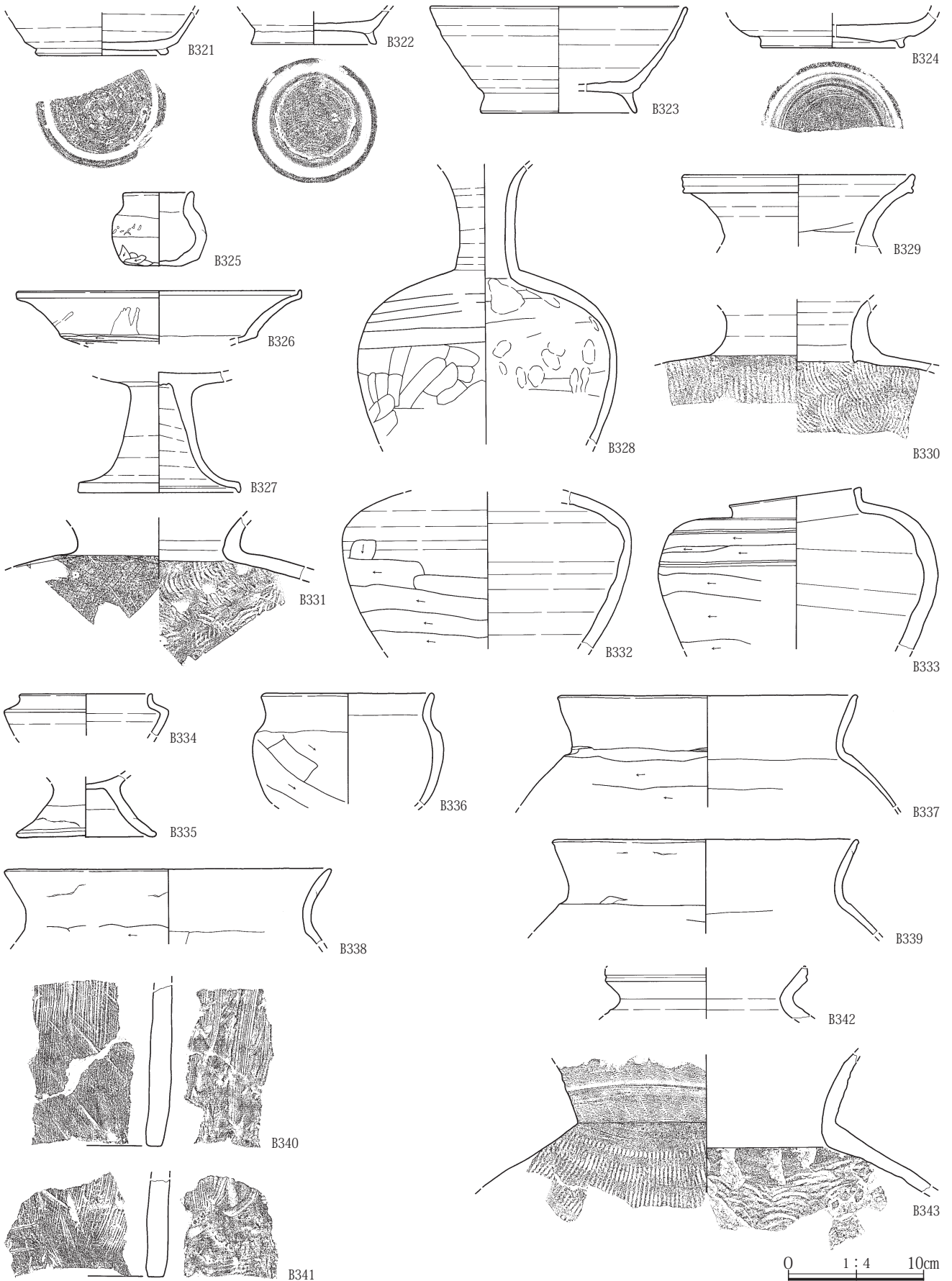
第204図 天王B区3井戸出土遺物

B区3井戸(3)



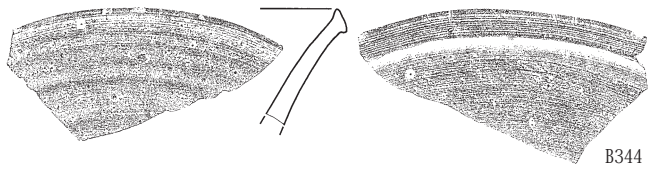
第205図 天王B区3井戸出土遺物

B区3井戸(4)

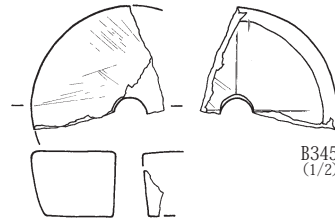


第206図 天王B区3井戸出土遺物

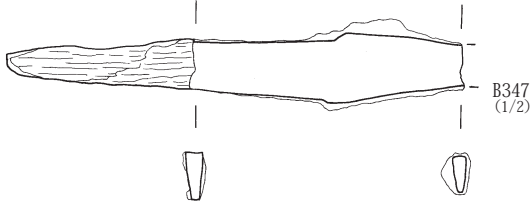
B区3井戸(5)



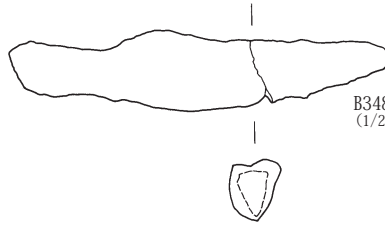
B344



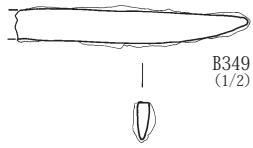
B345
(1/2)



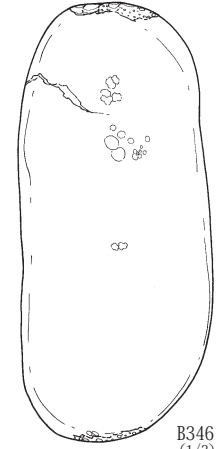
B347
(1/2)



B348
(1/2)



B349
(1/2)

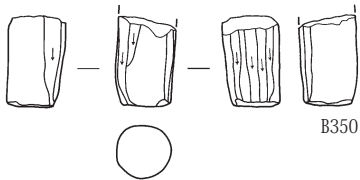


B346
(1/3)

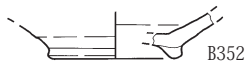
0 1:2 4cm

0 1:3 5cm

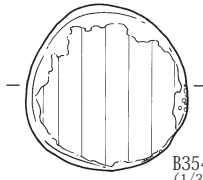
B区3溝



B350

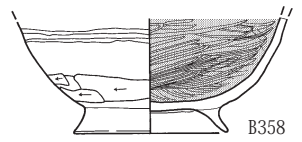


B352

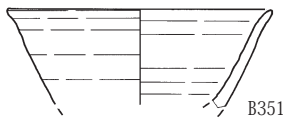


B354
(1/3)

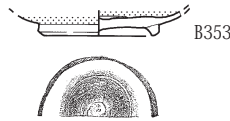
B区40土坑



B358

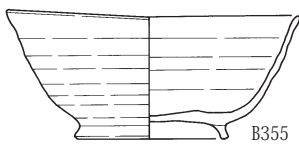


B351

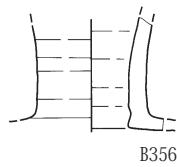


B353

B区4溝



B355

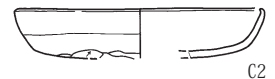


B356

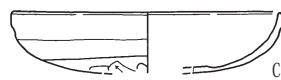
C区1住居(1)



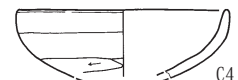
C1



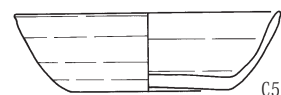
C2



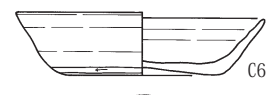
C3



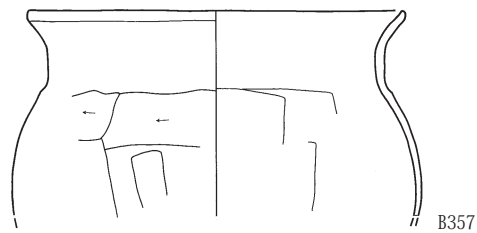
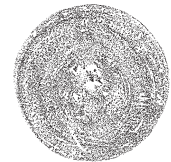
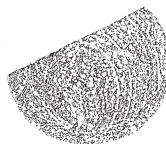
C4



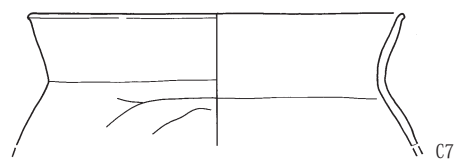
C5



C6



B357

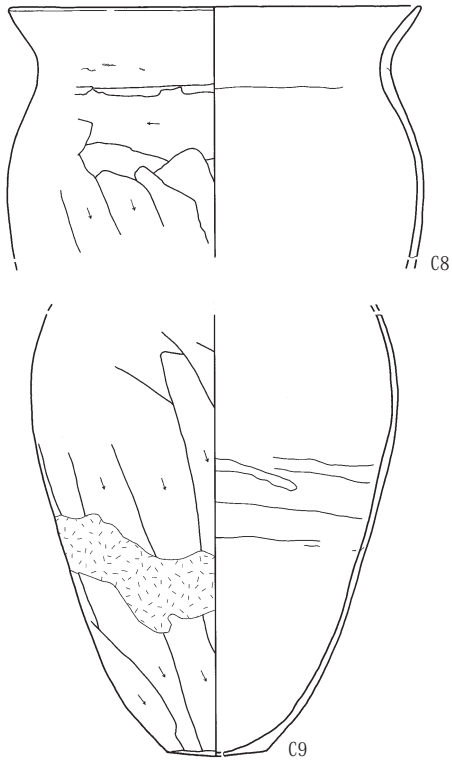


C7

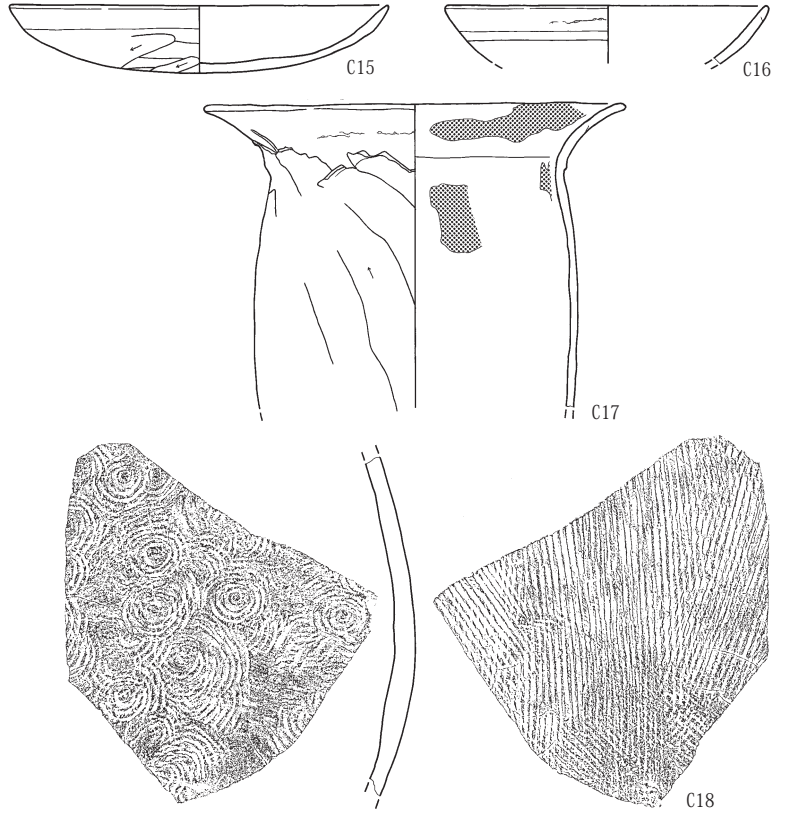
0 1:4 10cm

第207図 天王B区3井戸、3・4溝、40土坑 C区1住居出土遺物

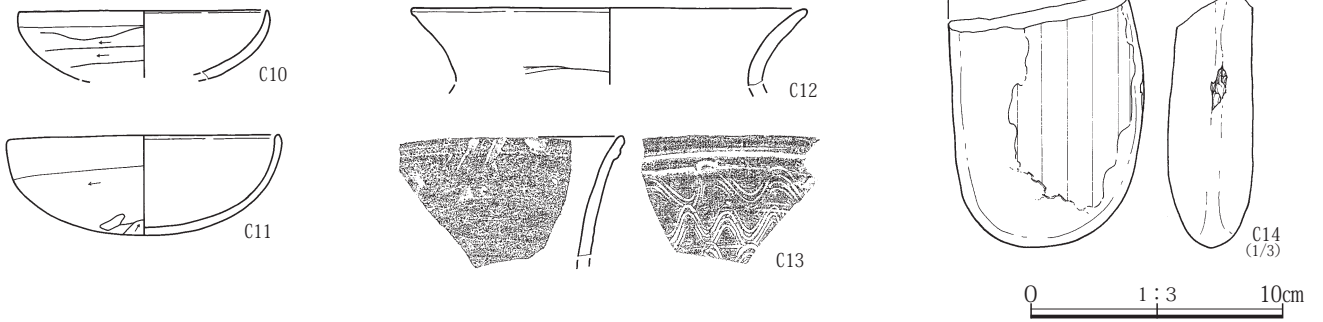
C区1住居(2)



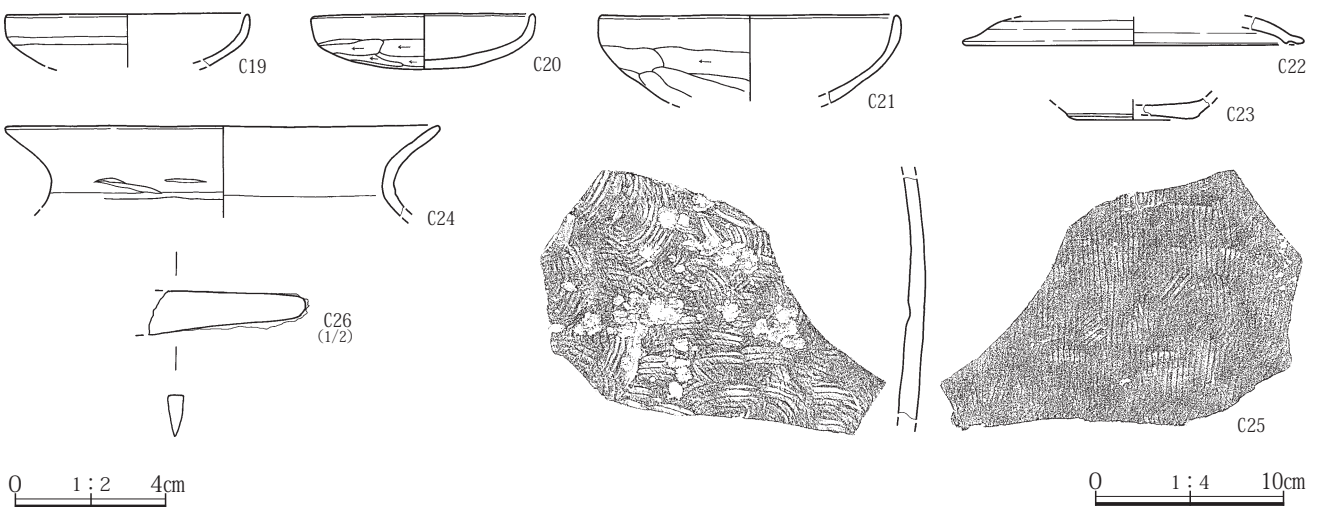
C区3住居



C区2住居

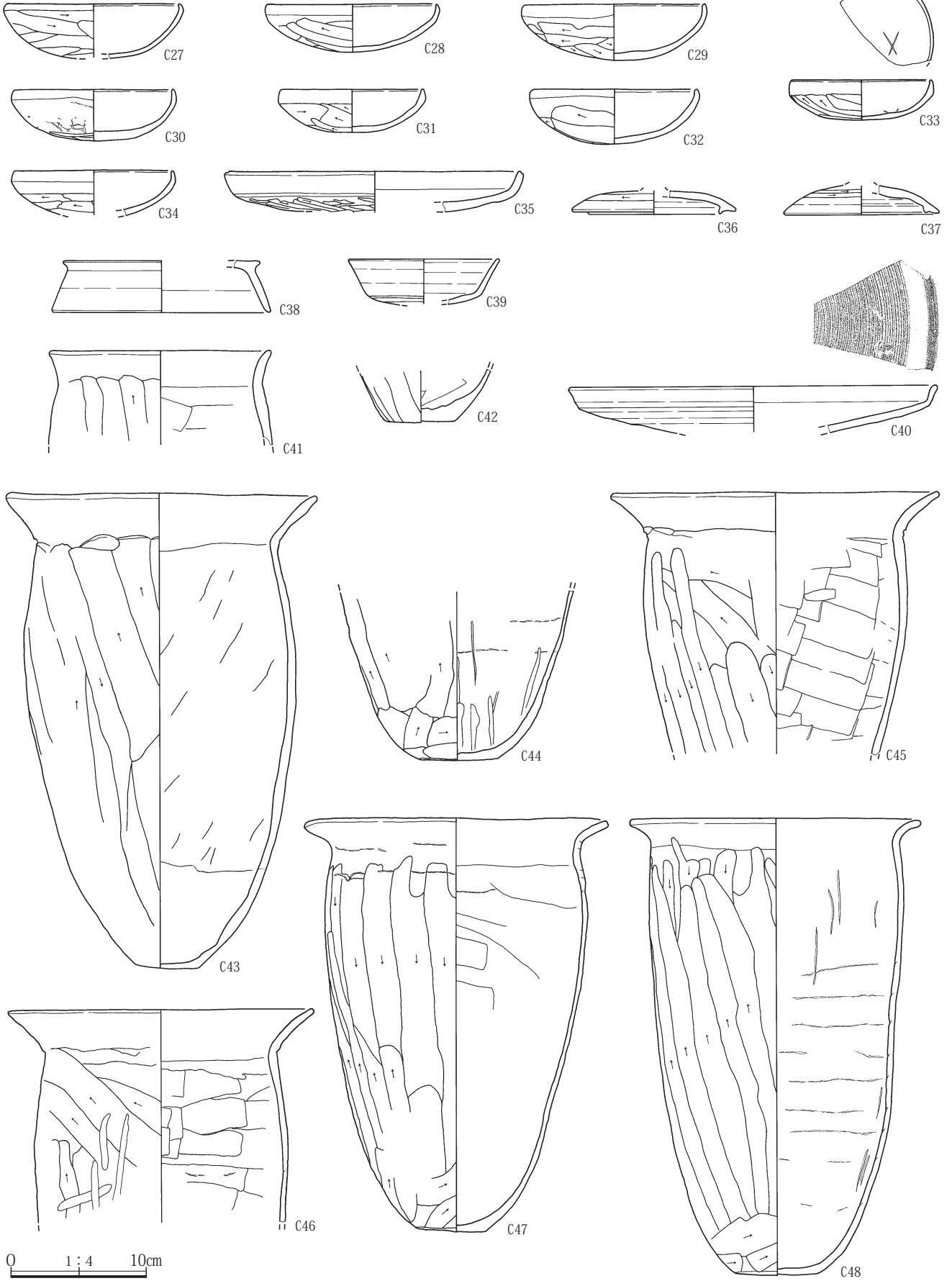


C区5住居



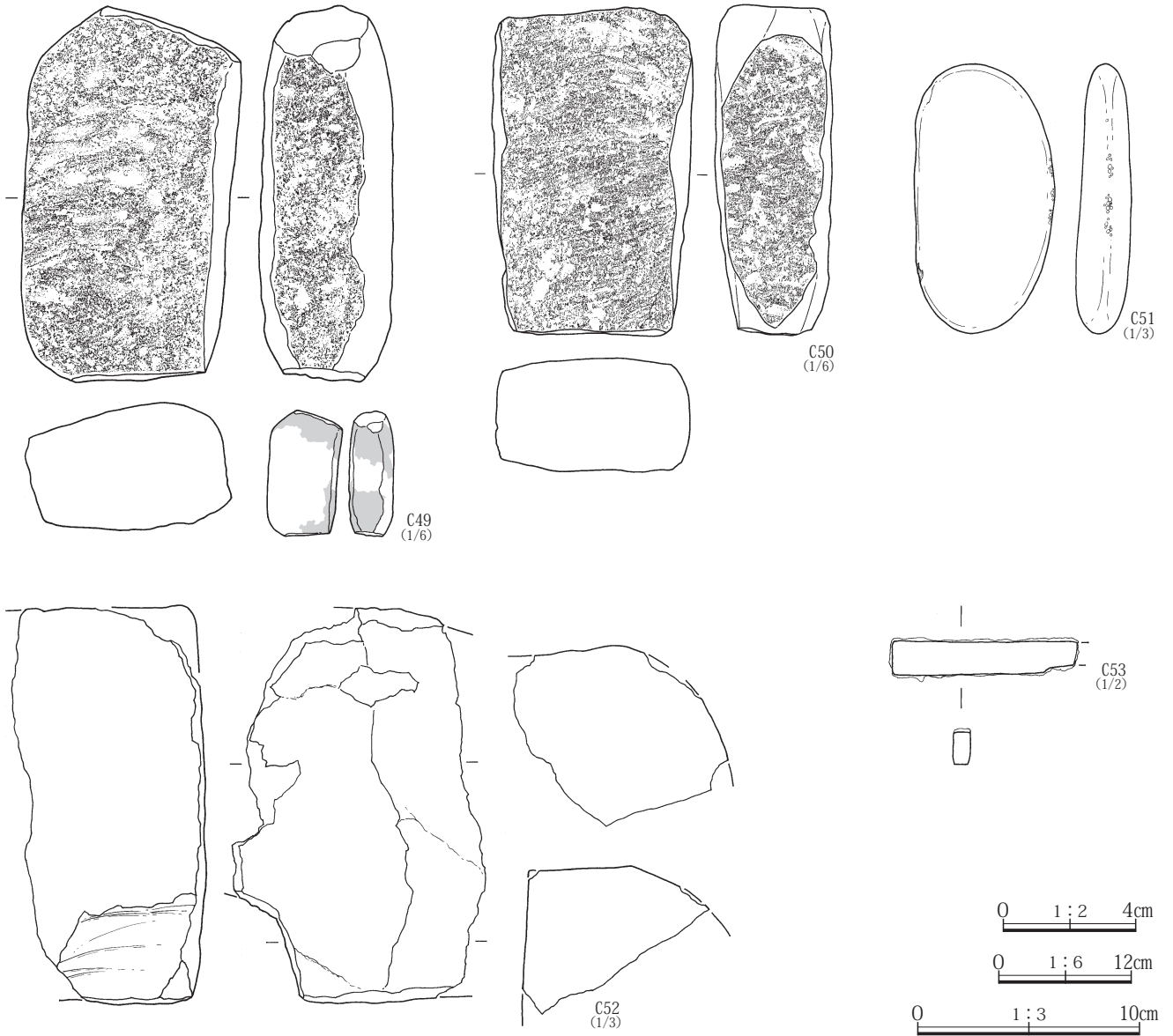
第208図 天王C区1~3・5住居出土遺物

C区6住居(1)

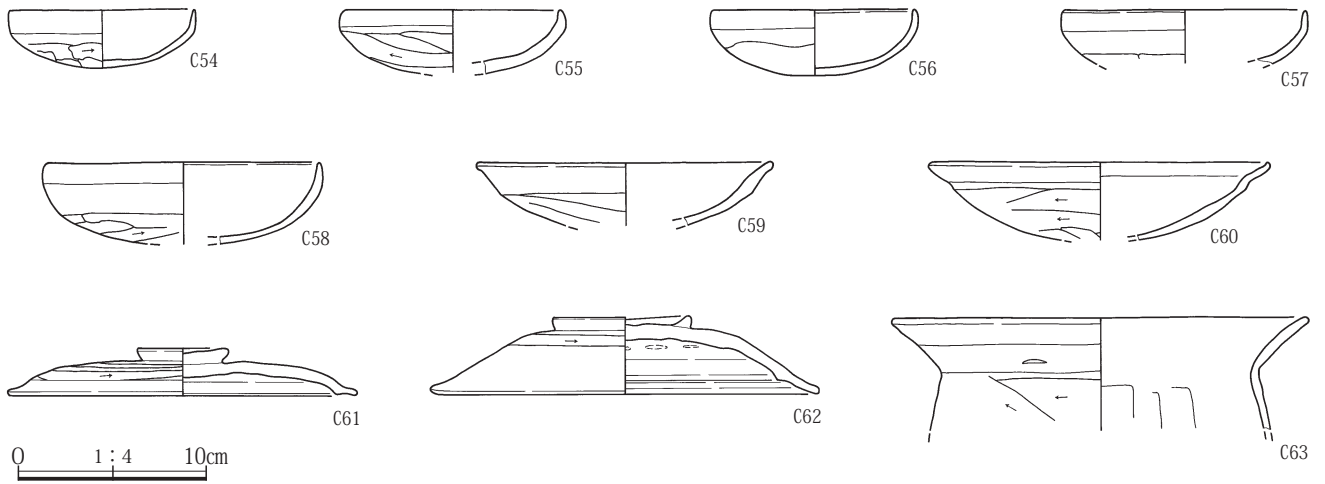


第209图 天王C区6住居出土遺物

C区6住居(2)

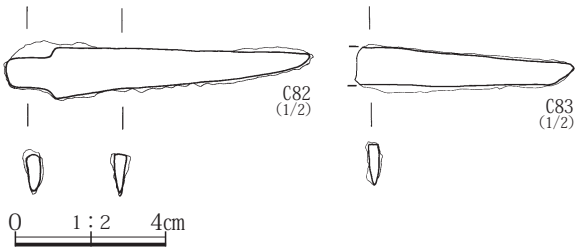
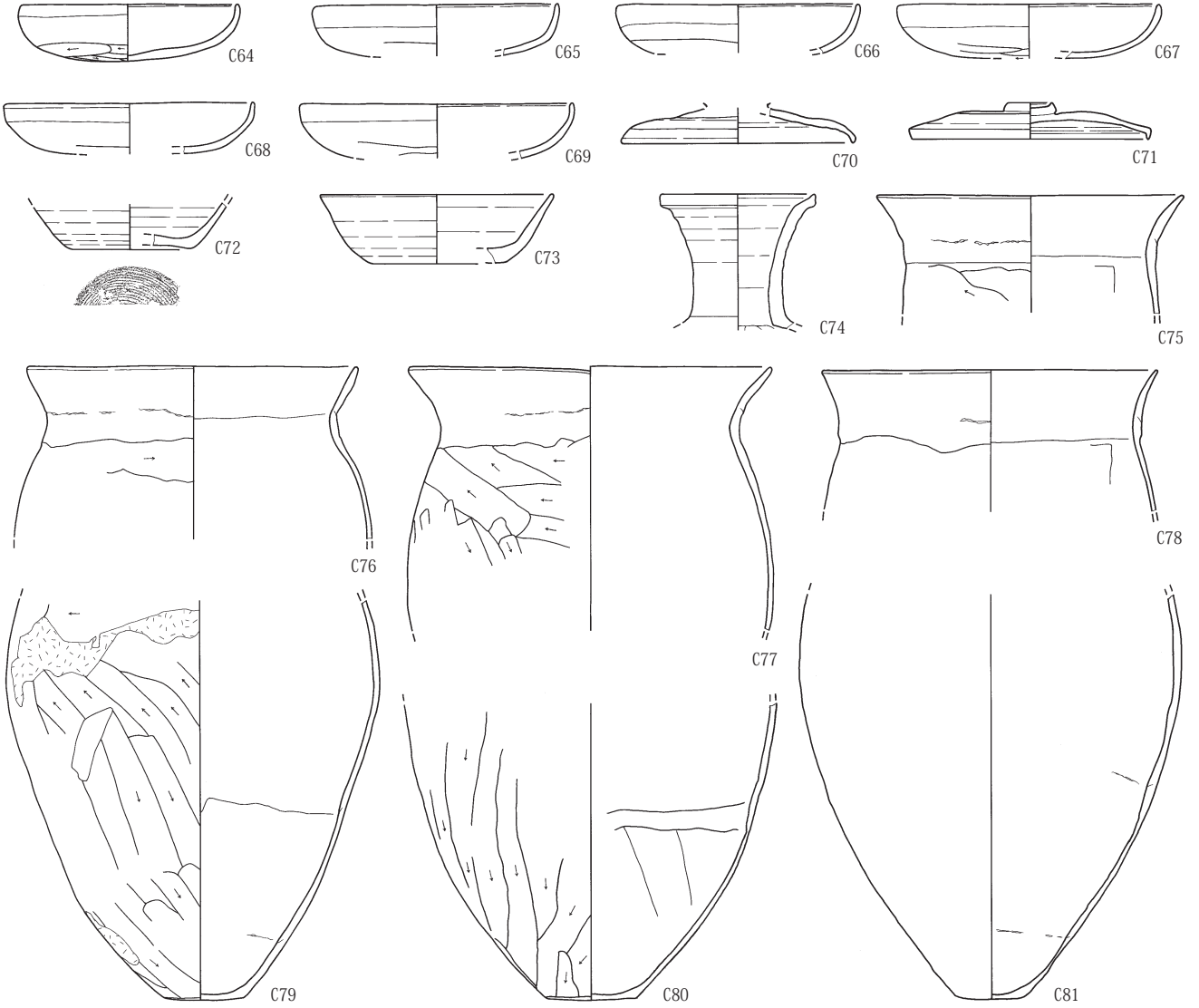


C区7住居

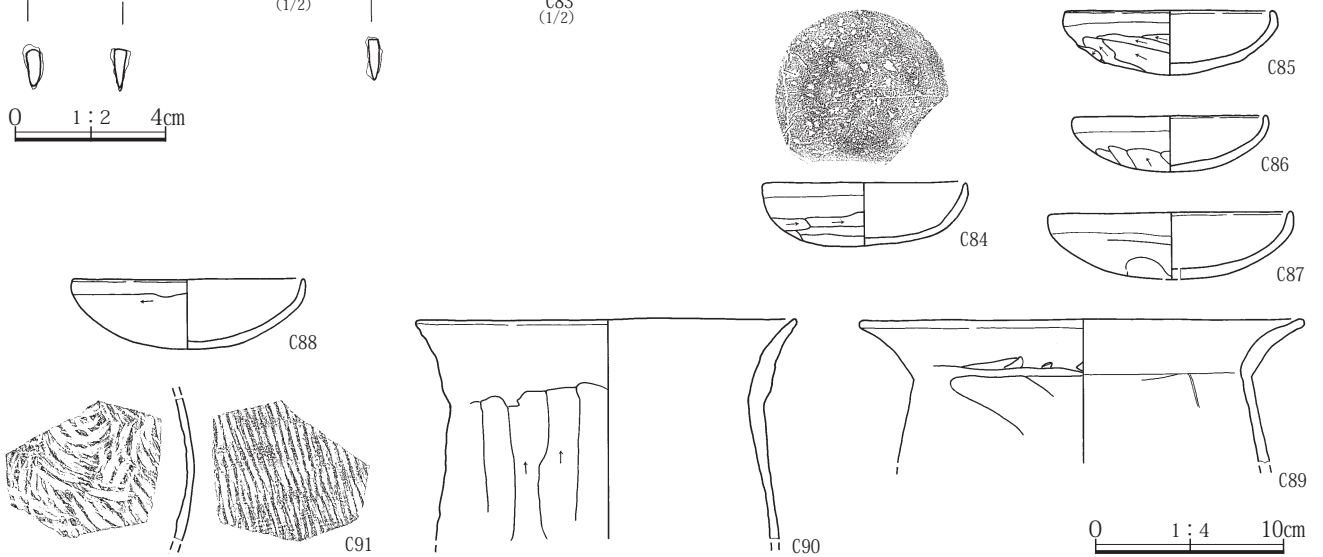


第210図 天王C区6・7住居出土遺物

C区8住居

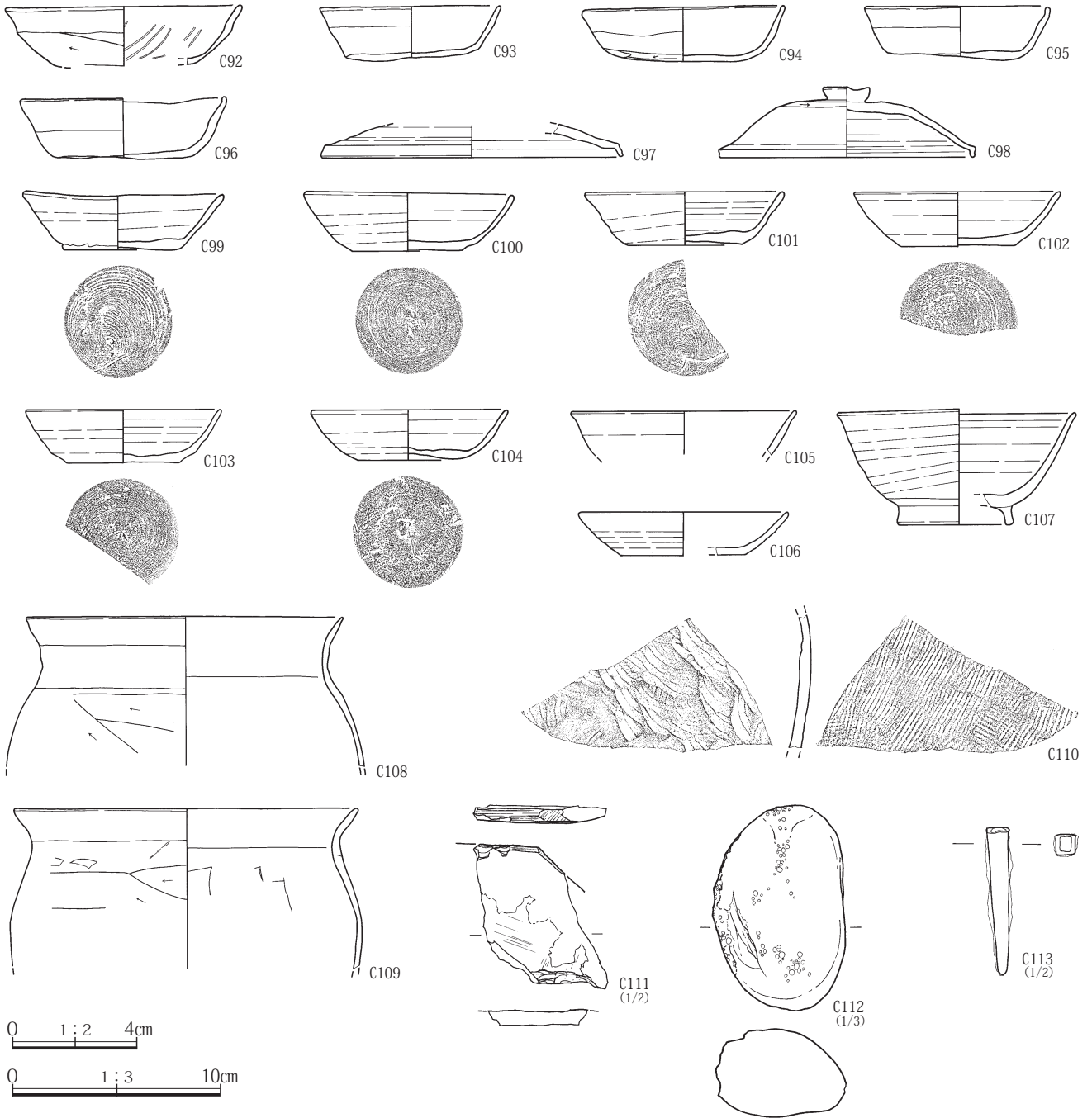


C区9住居

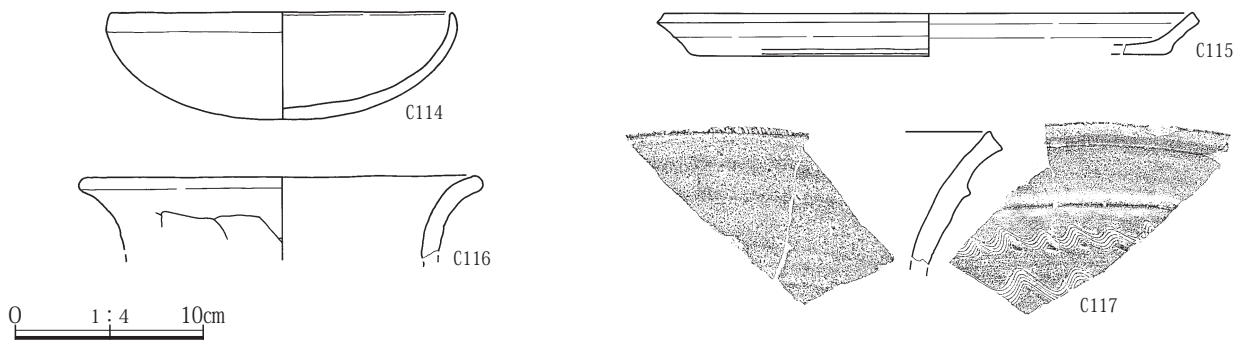


第211図 天王C区8・9住居出土遺物

C区10住居

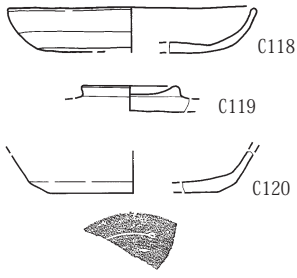


C区11住居

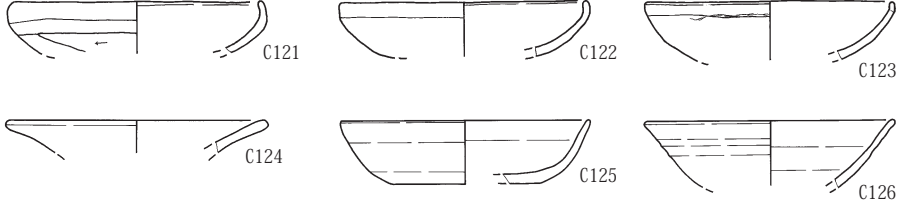


第212図 天王C区10・11住居出土遺物

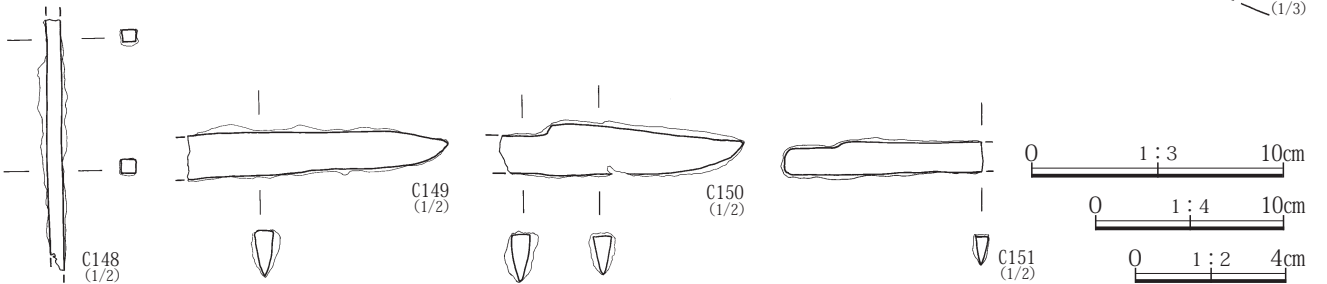
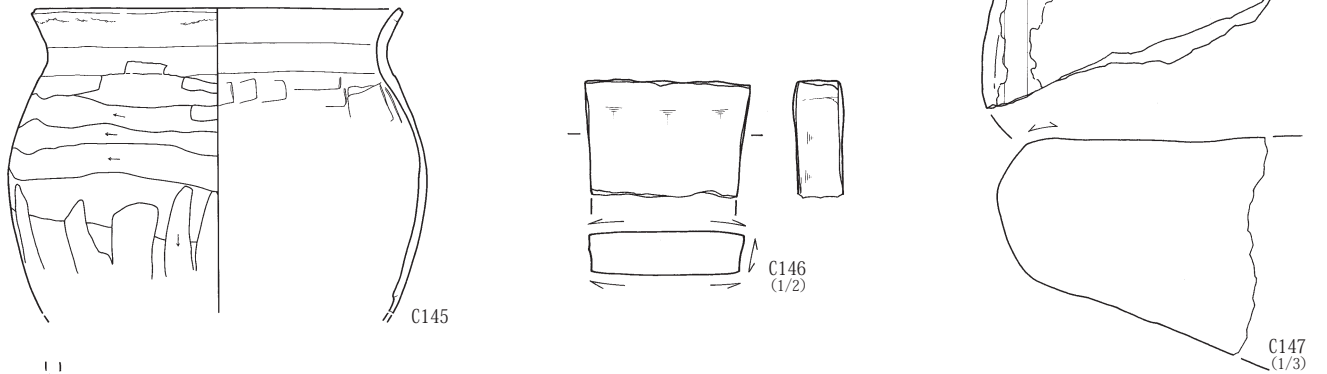
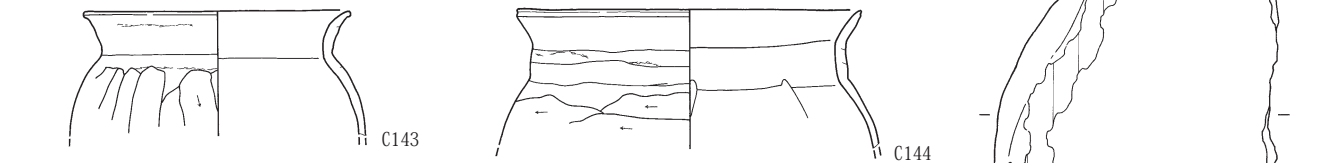
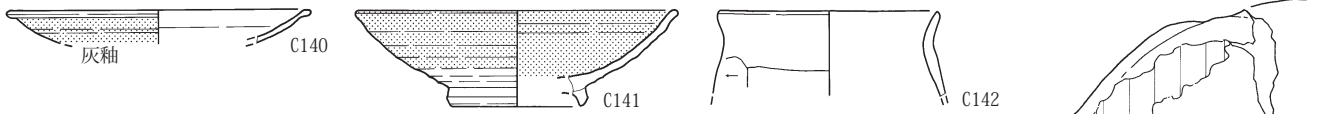
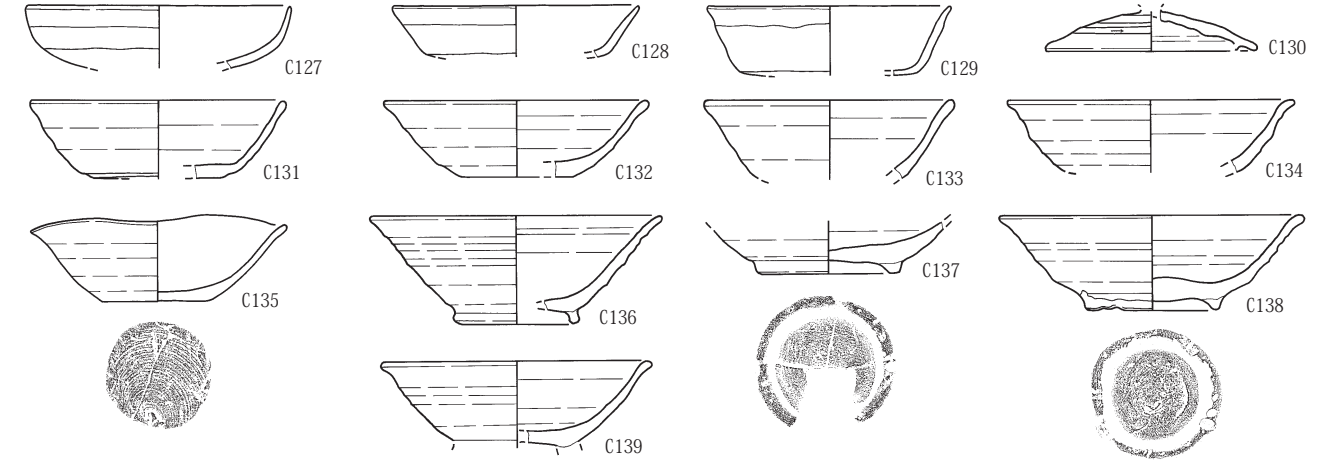
C区12住居



C区13住居

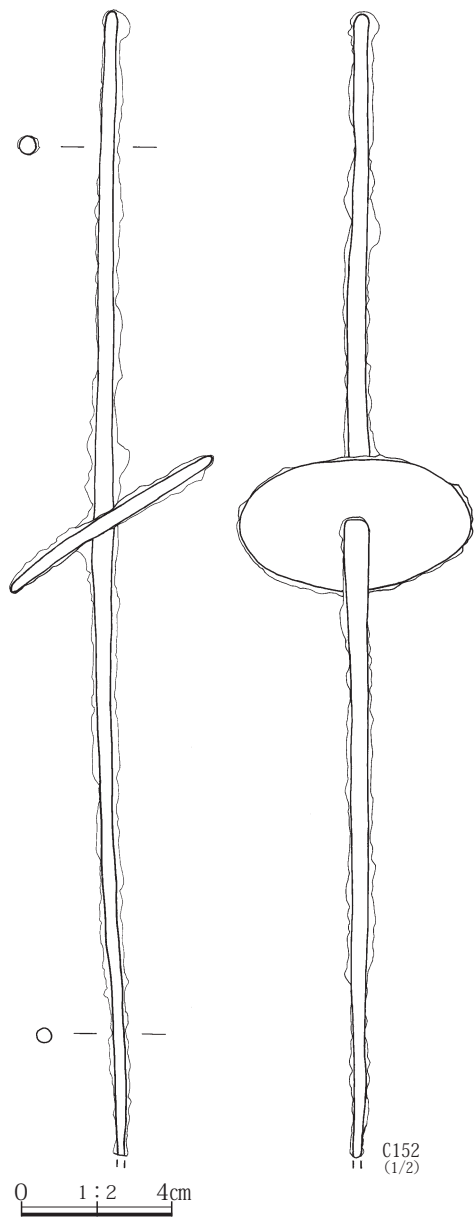


C区14住居(1)

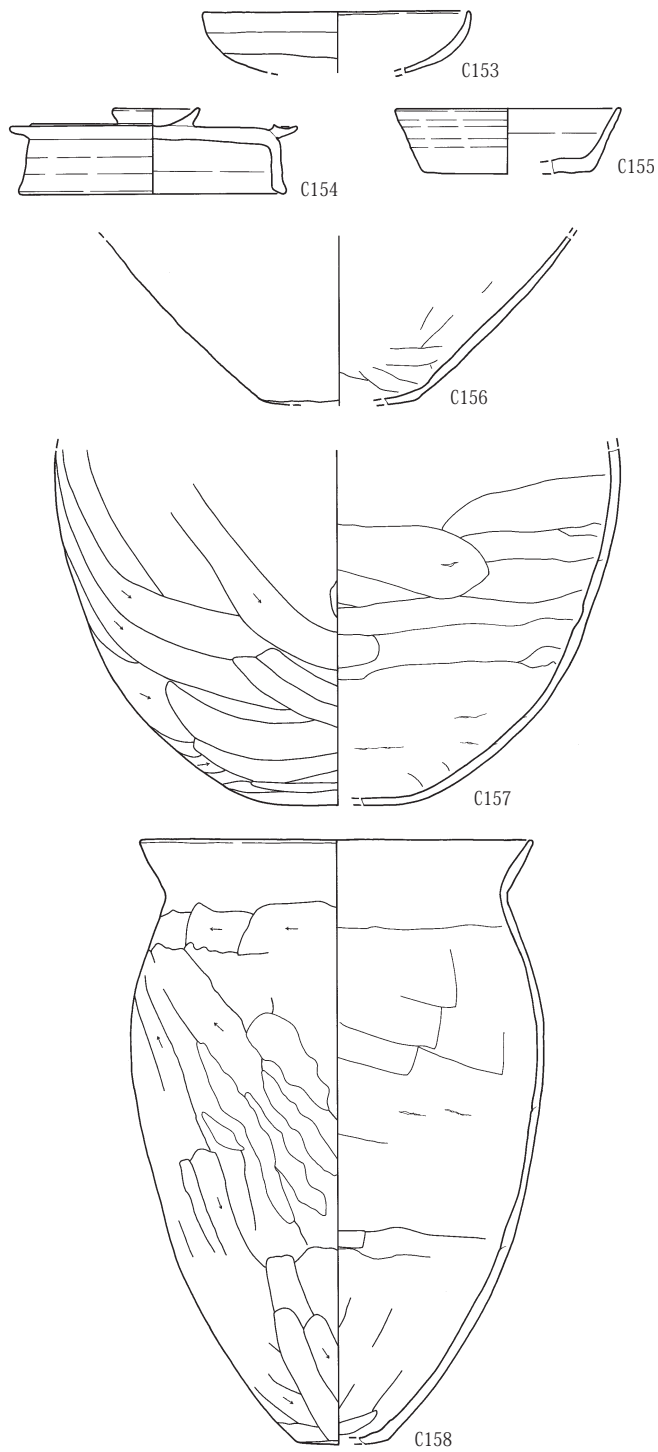


第213図 天王C区12~14住居出土遺物

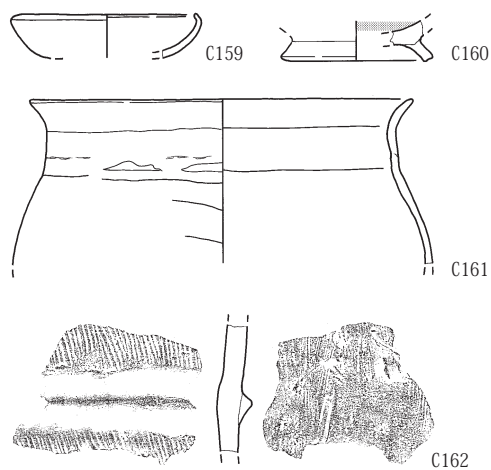
C区14住居(2)



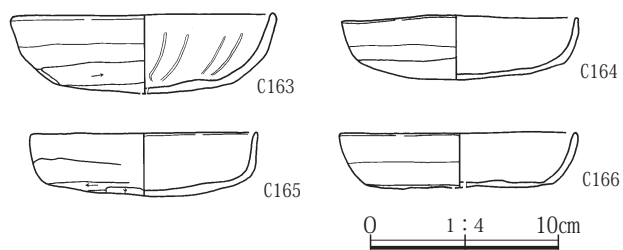
C区15住居



C区16住居

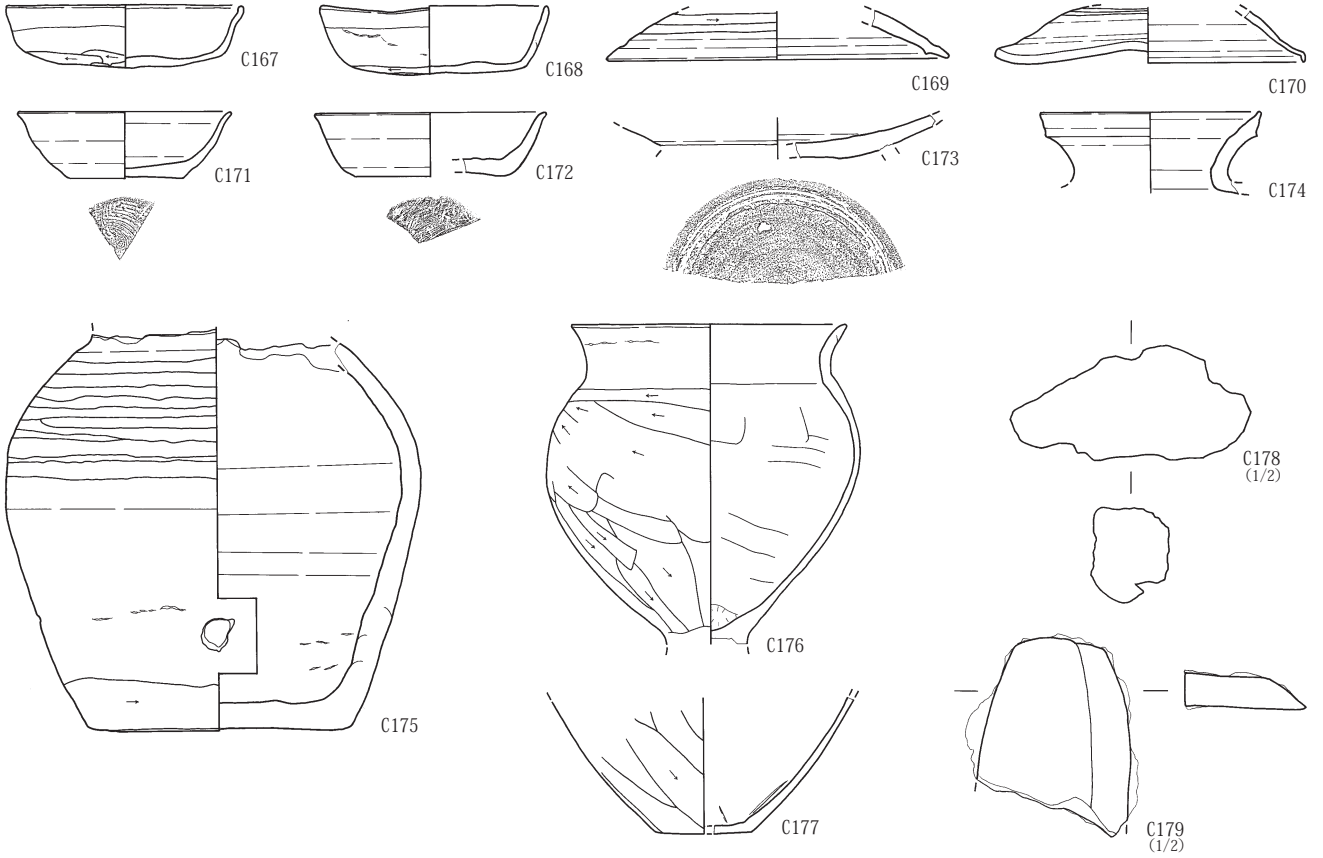


C区17住居(1)

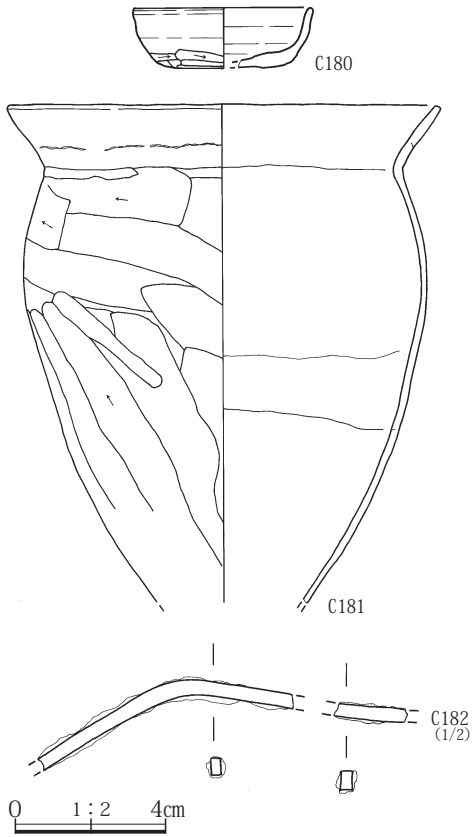


第214図 天王C区14~17住居出土遺物

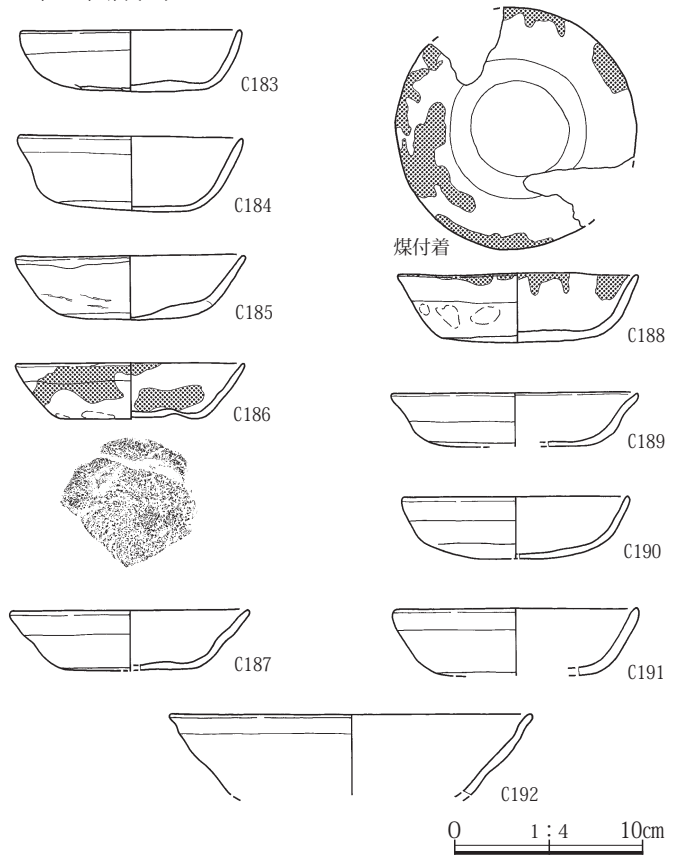
C区17住居(2)



C区18住居

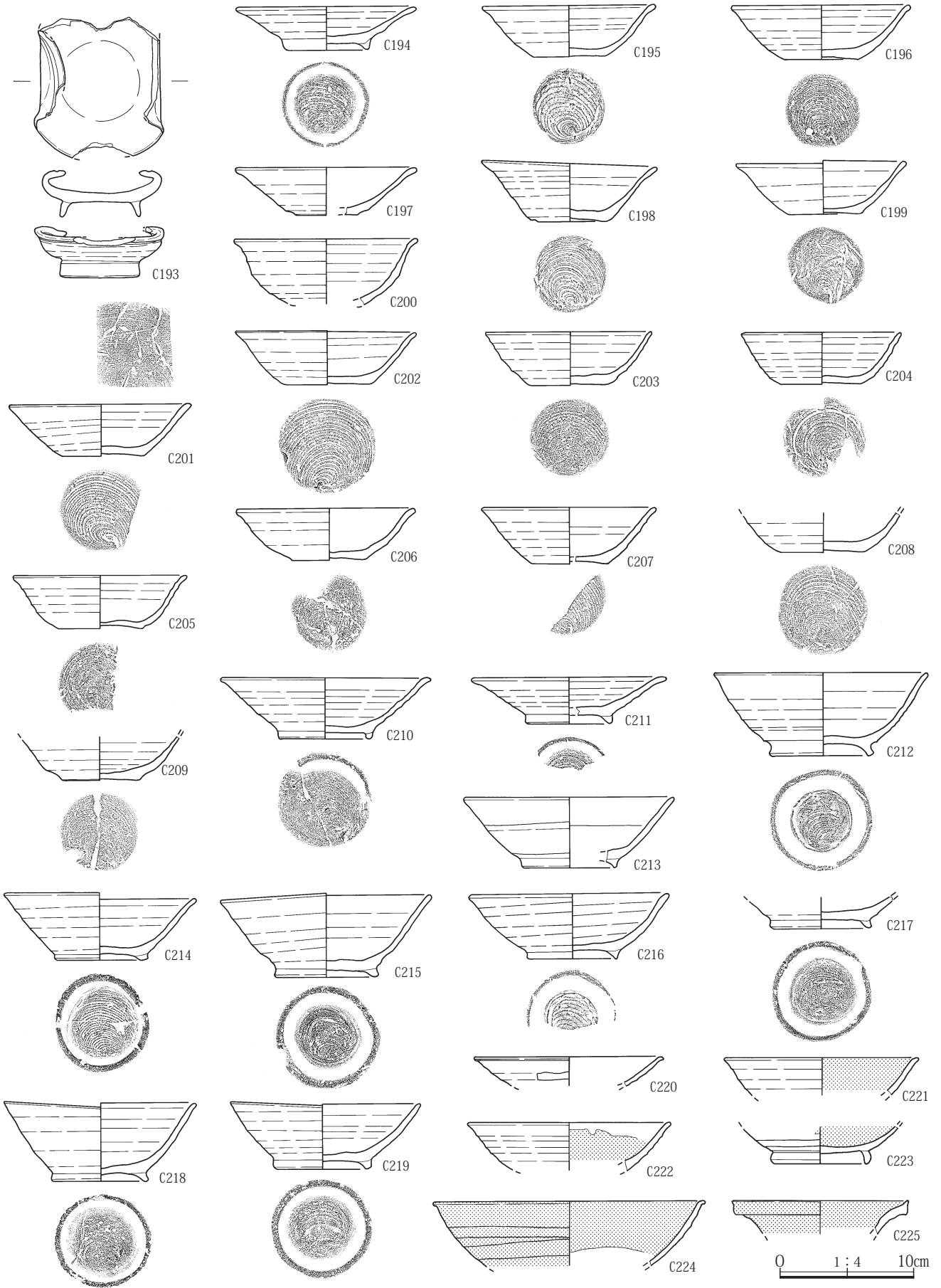


C区19住居(1)



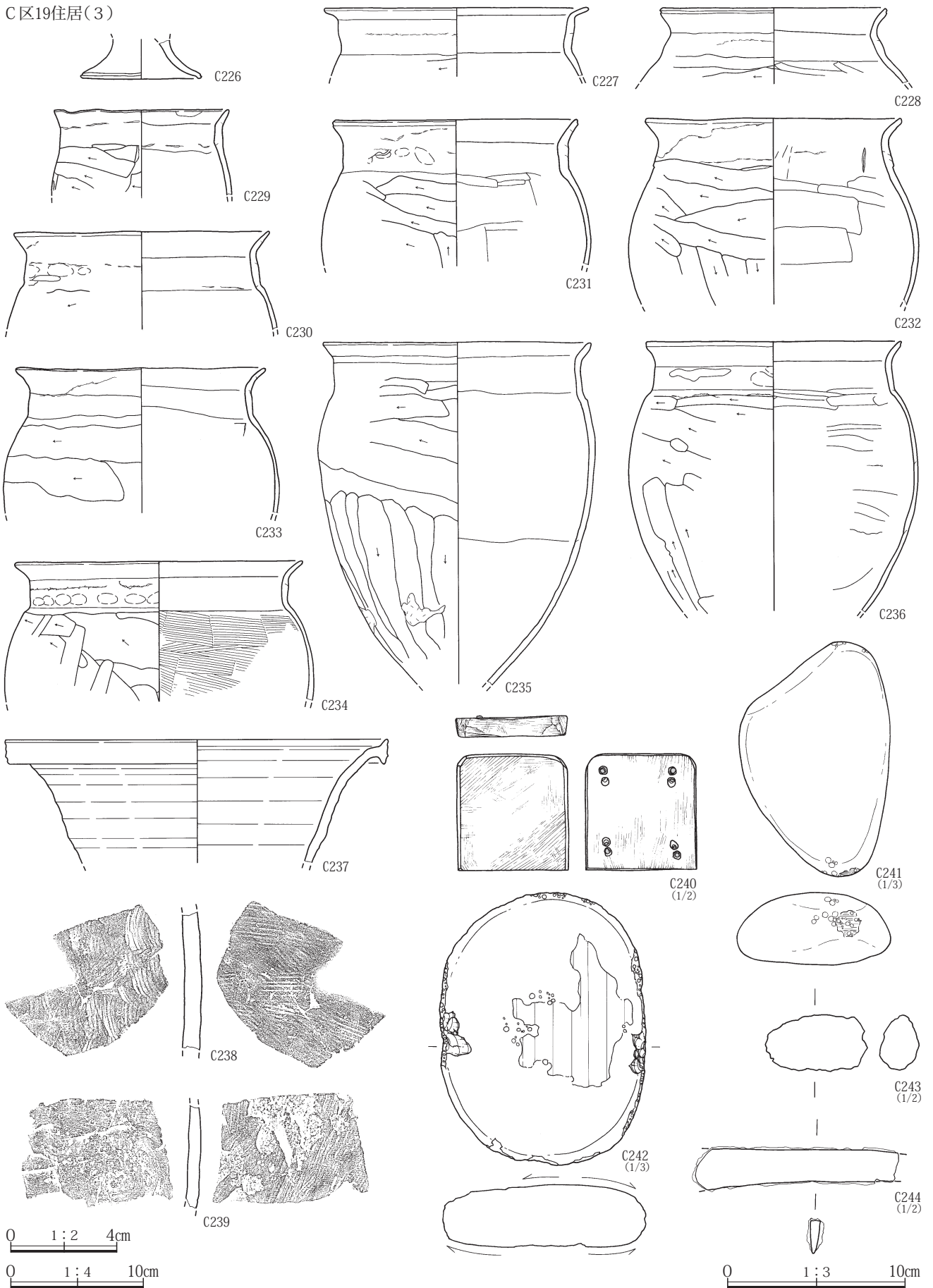
第215図 天王C区17~19住居出土遺物

C区19住居(2)



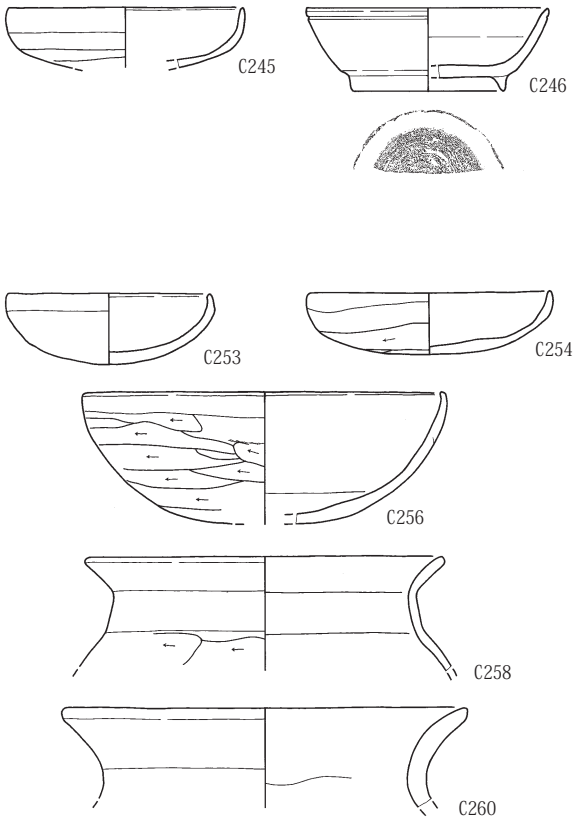
第216図 天王C区19住居出土遺物

C区19住居(3)

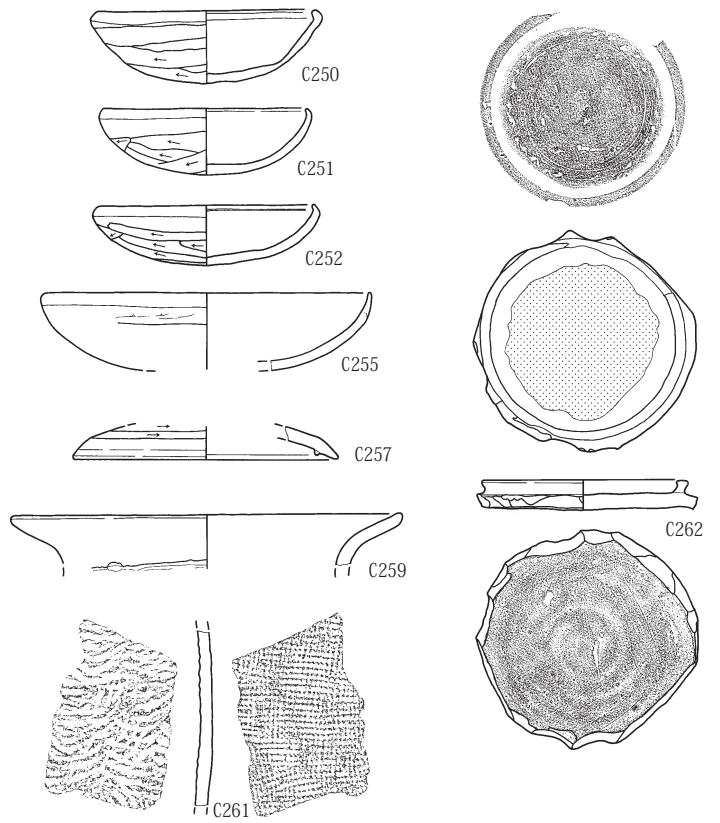


第217图 天王C区19住居出土遺物

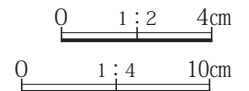
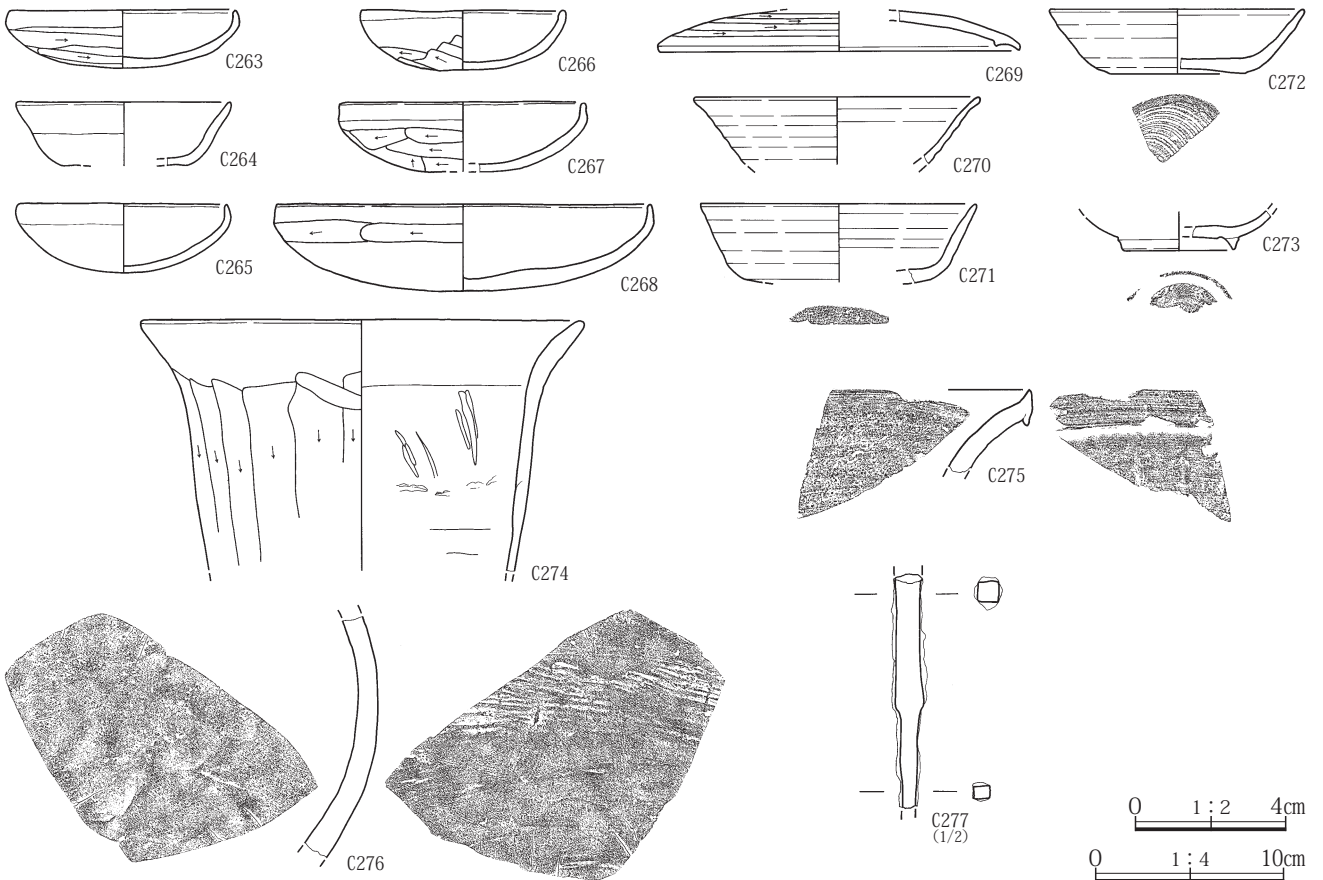
C区20住居



C区26住居

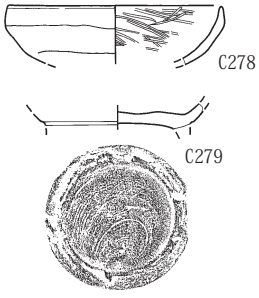


C区27住居

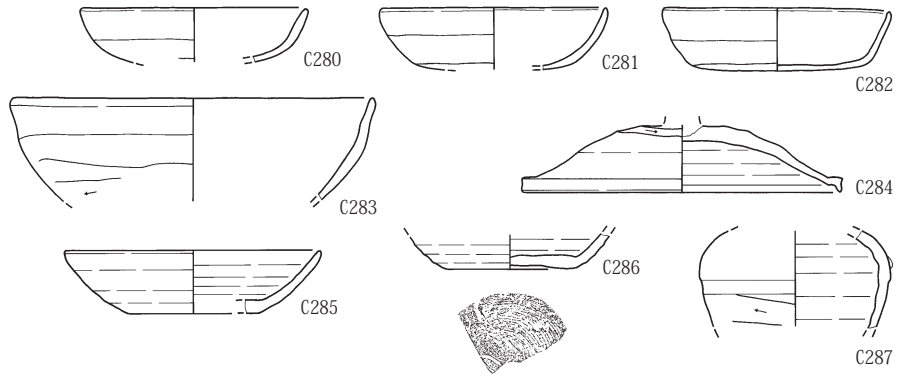


第218図 天王C区20・21・26・27住居出土遺物

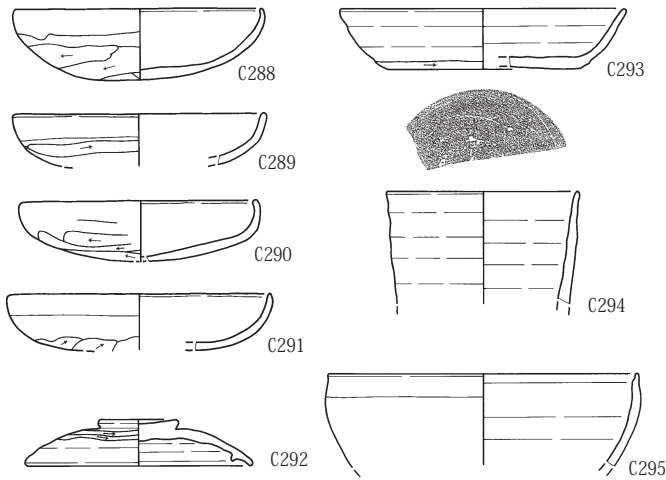
C区28住居



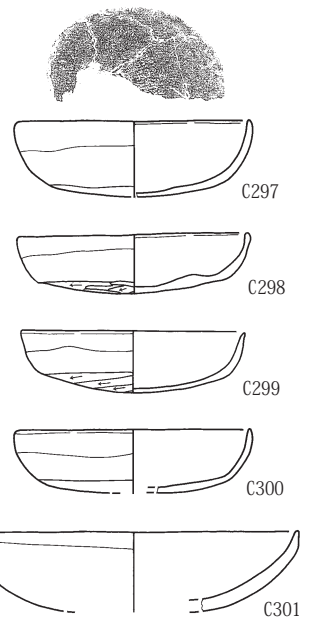
C区29住居



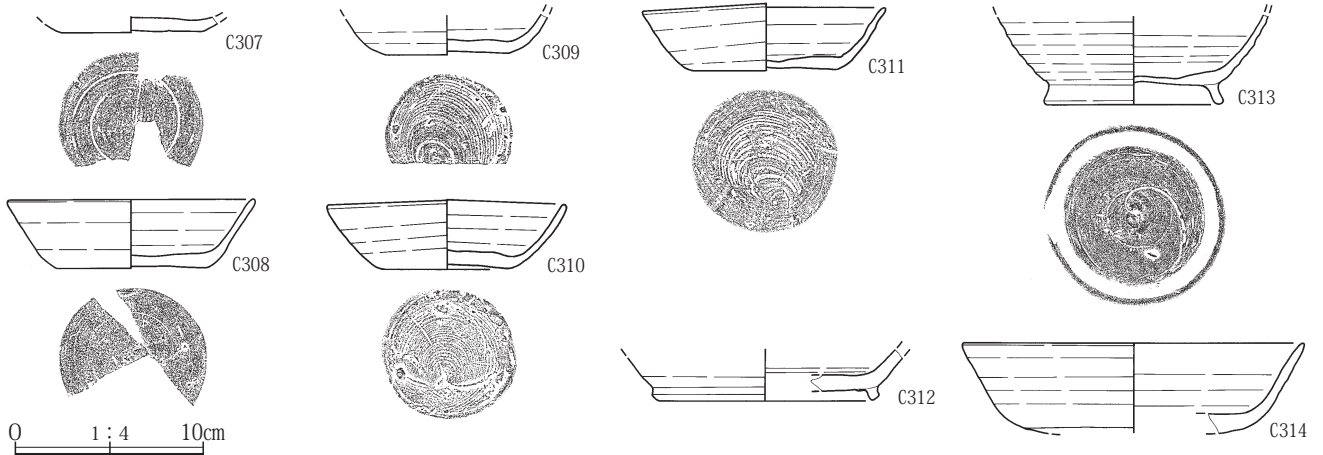
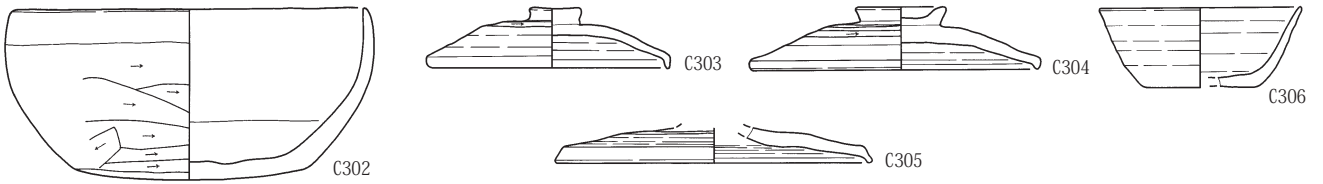
C区30住居



C区31住居(1)



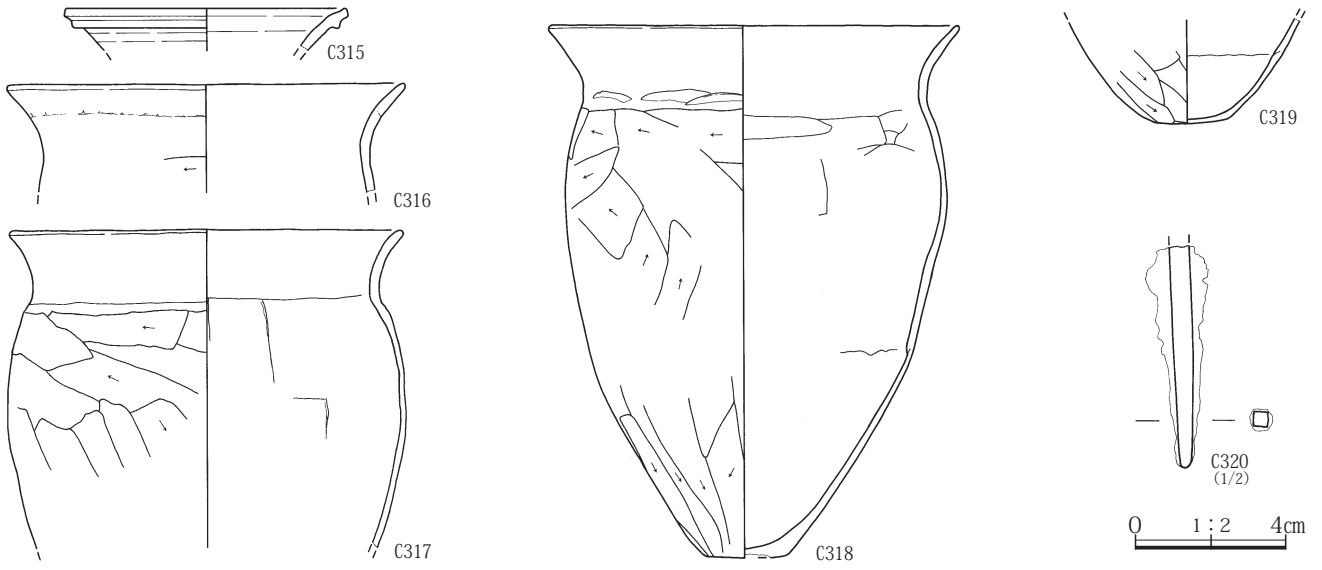
0 1:3 5cm



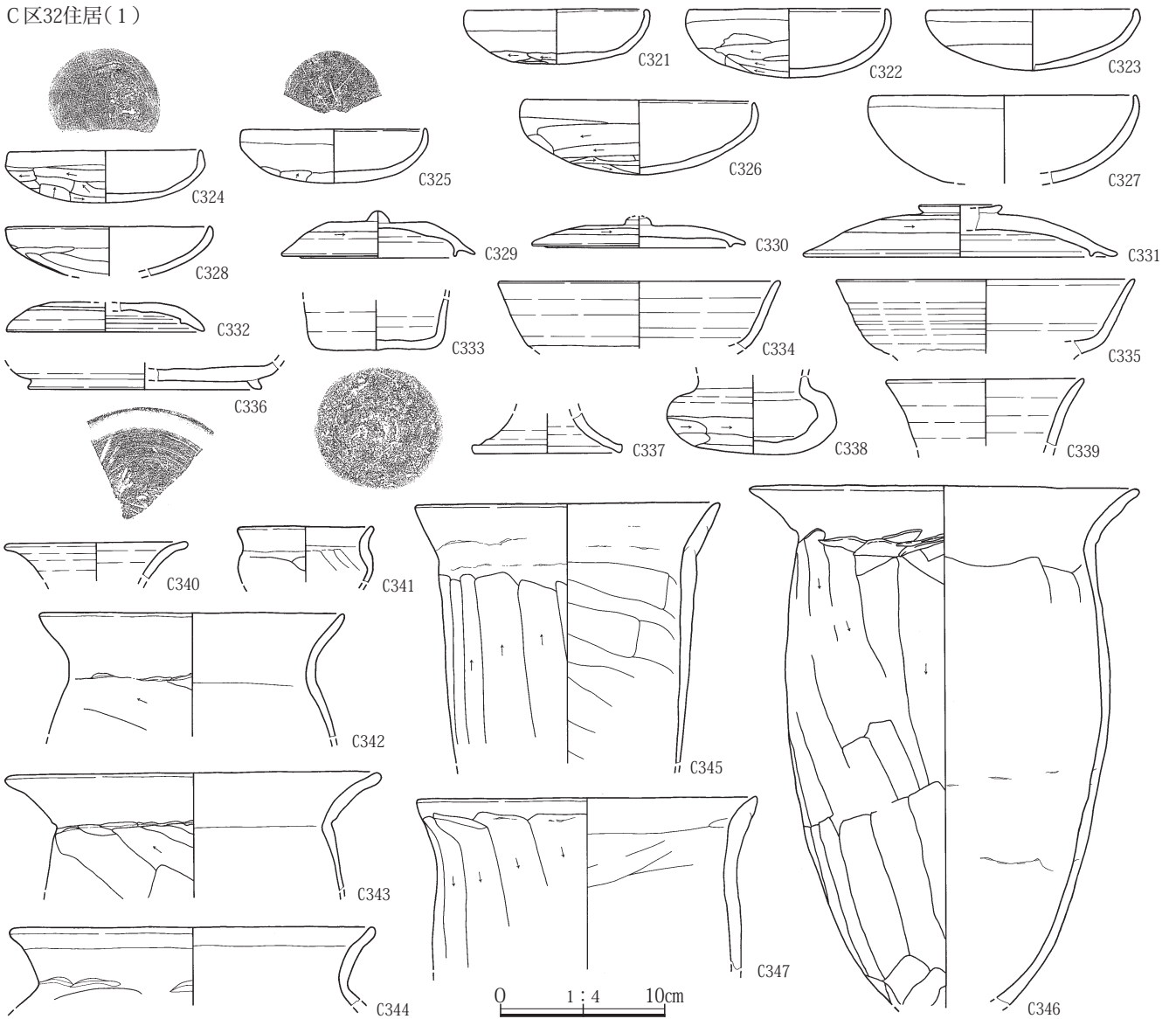
0 1:4 10cm

第219図 天王C区28~31住居出土遺物

C区31住居(2)

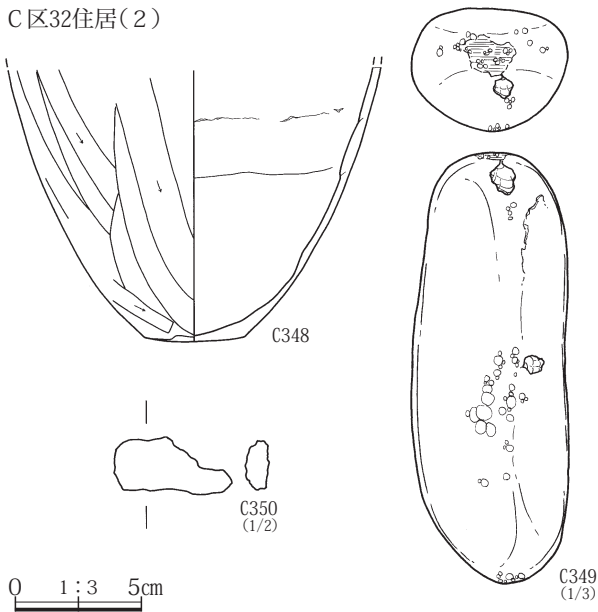


C区32住居(1)

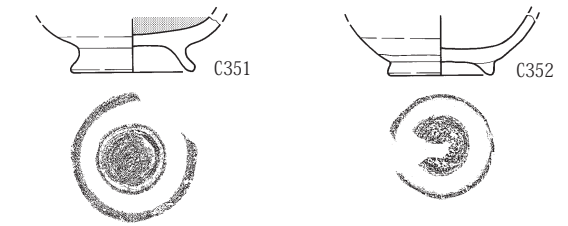


第220図 天王C区31・32住居出土遺物

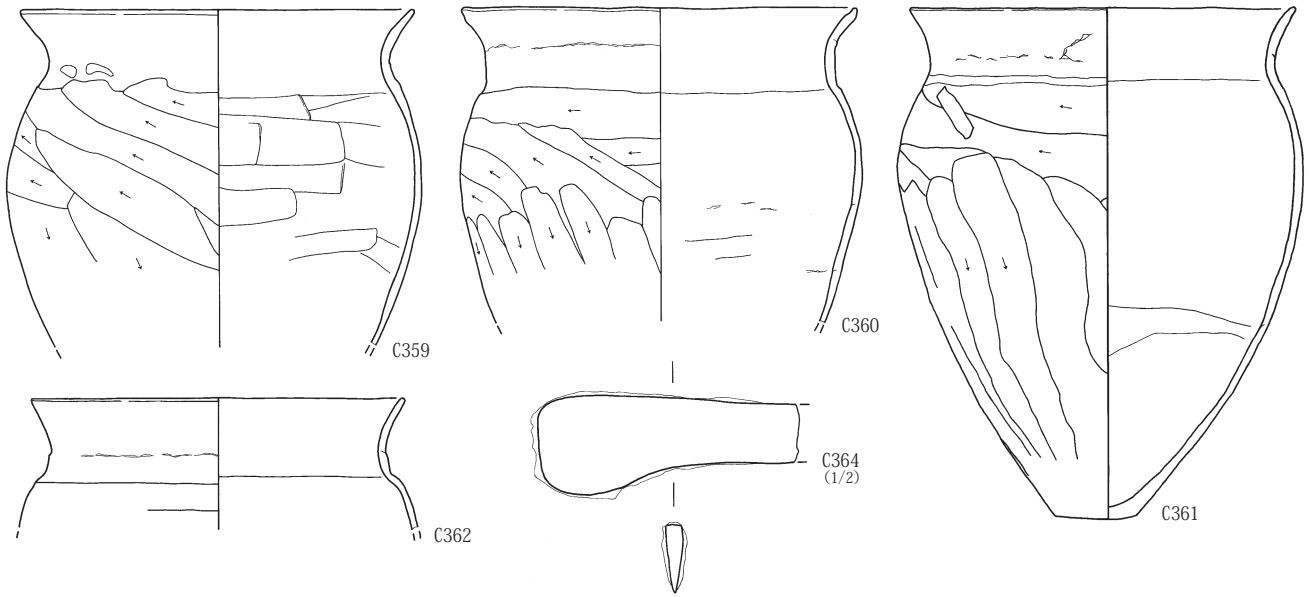
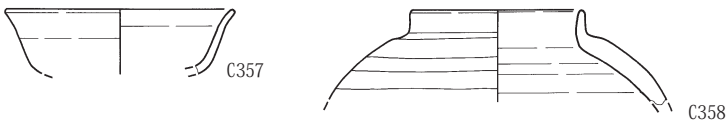
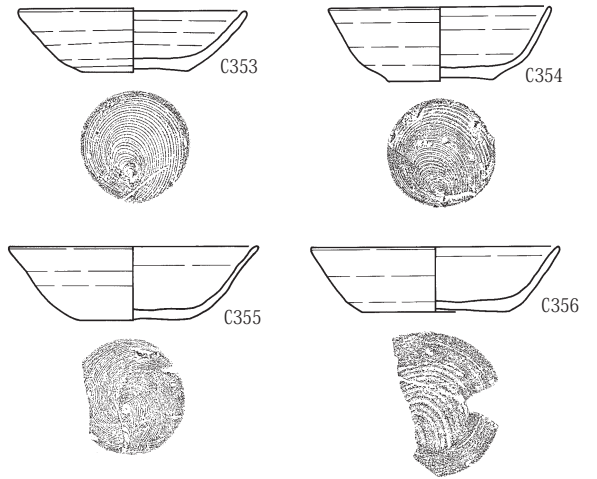
C区32住居(2)



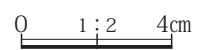
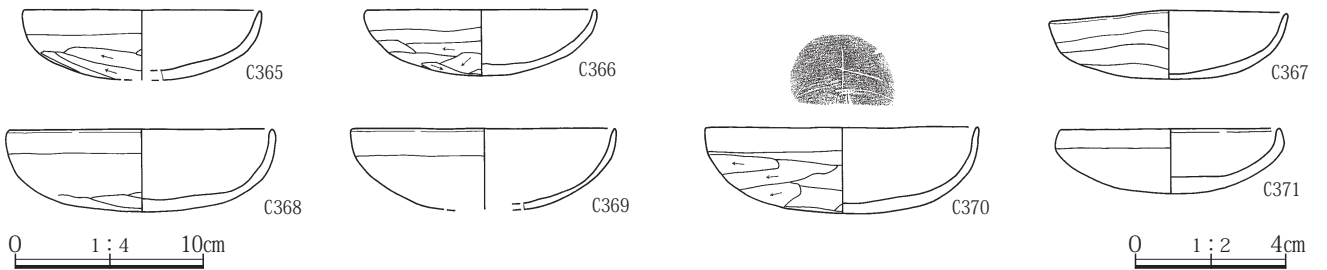
C区33住居



C区34住居

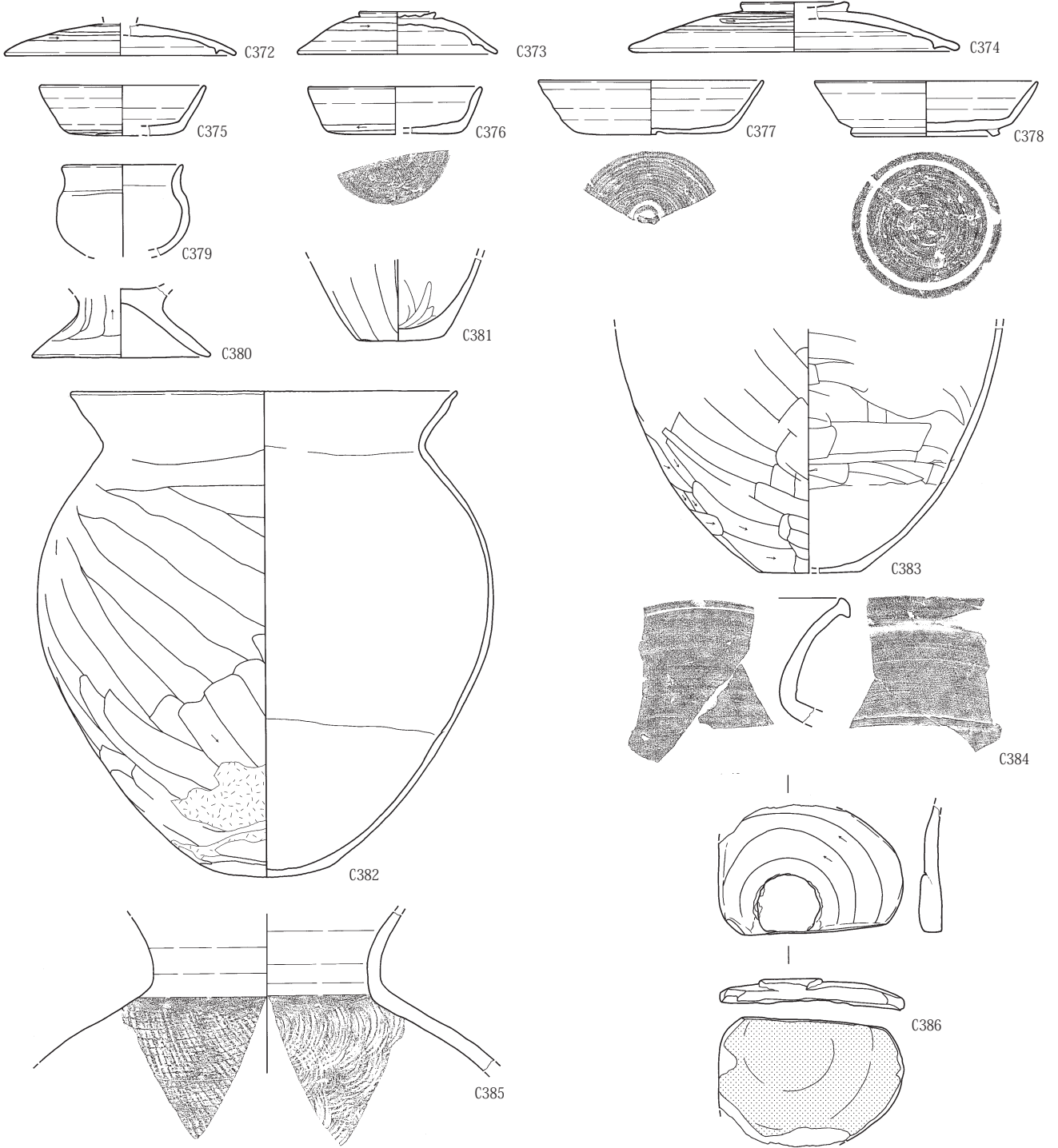


C区35住居(1)

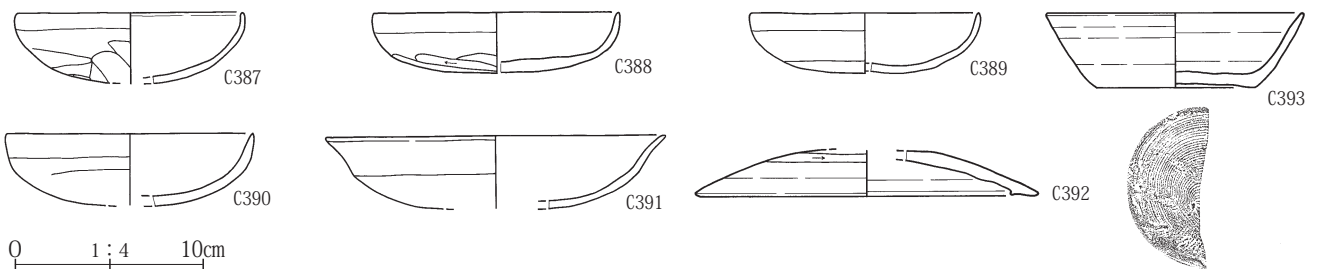


第221图 天王C区32~35住居出土遺物

C区35住居(2)

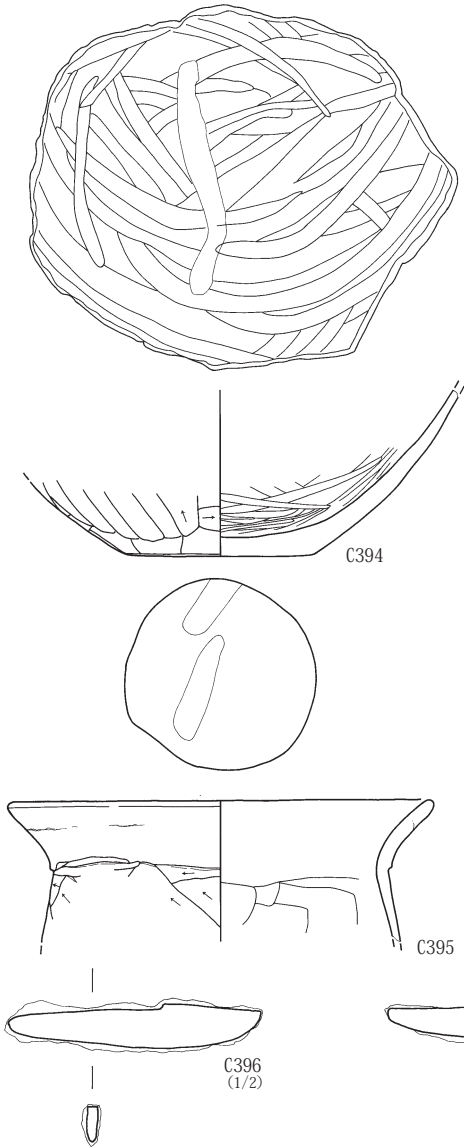


C区36住居(1)

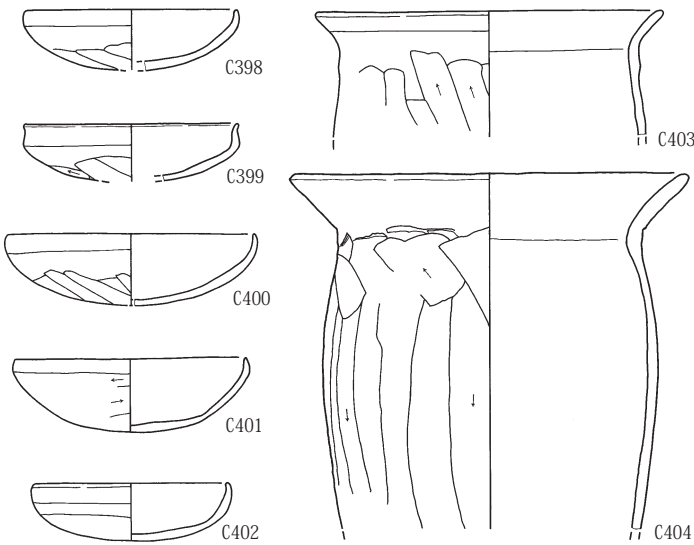


第222図 天王C区35・36住居出土遺物

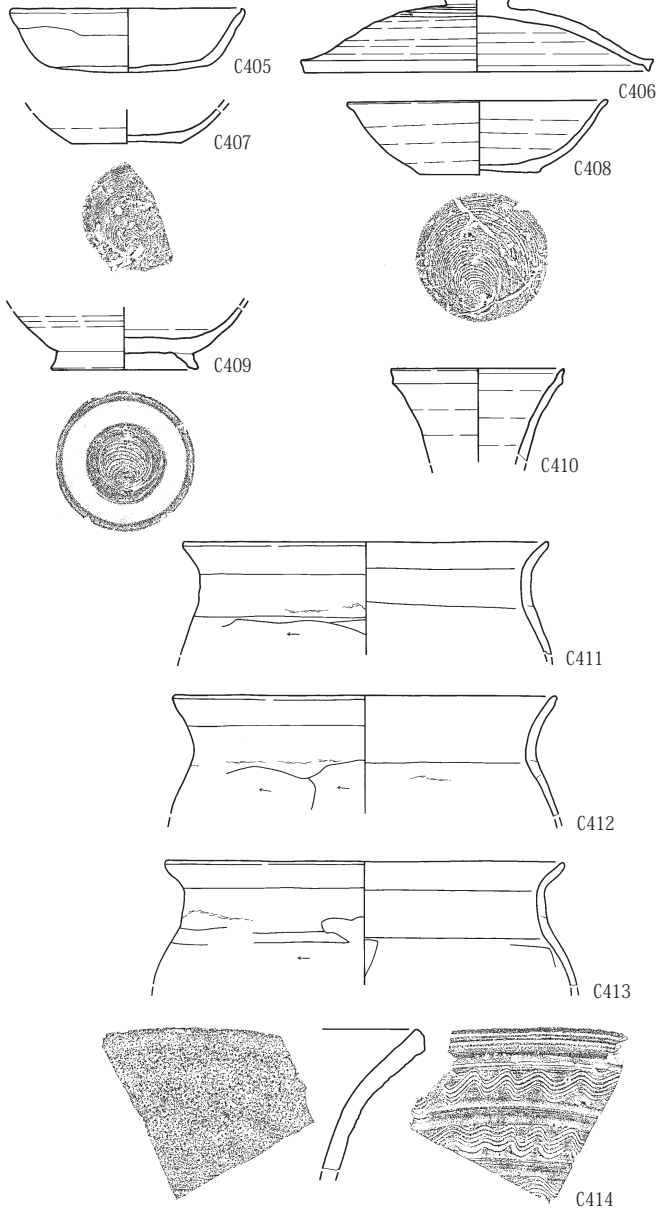
C区36住居(2)



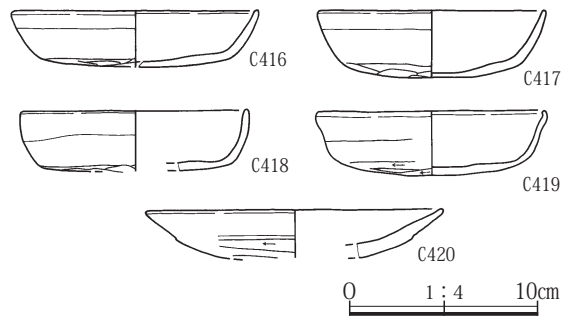
C区37住居



C区38住居

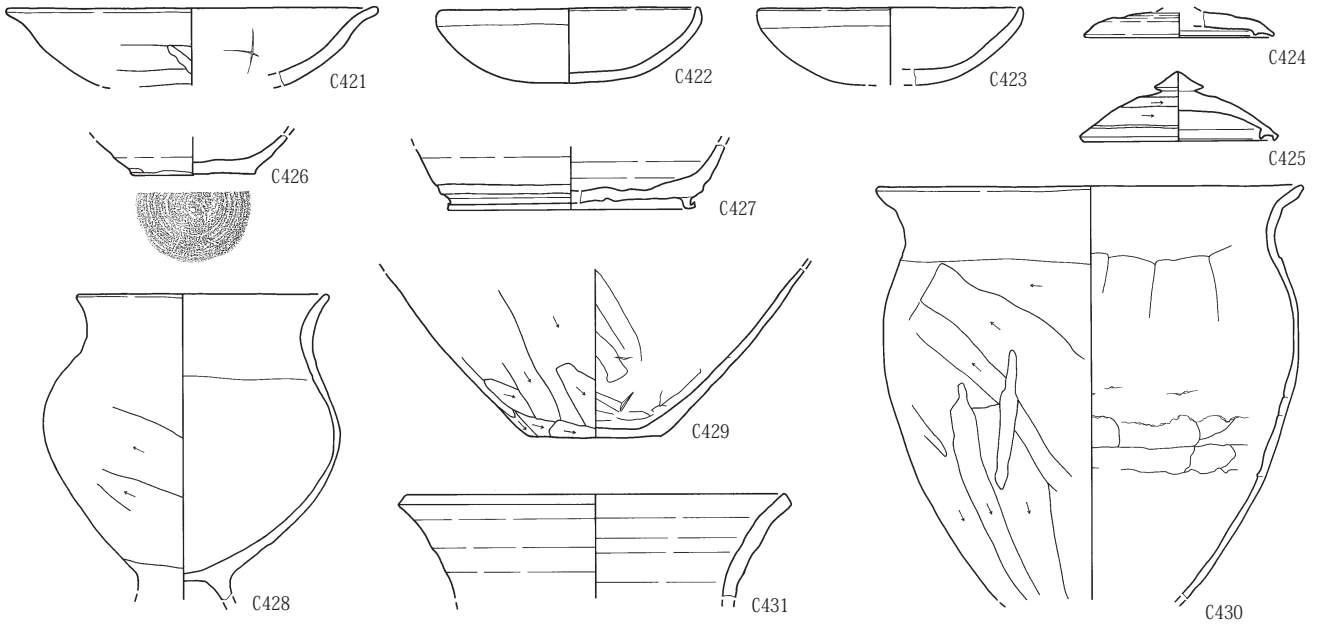


C区39住居(1)

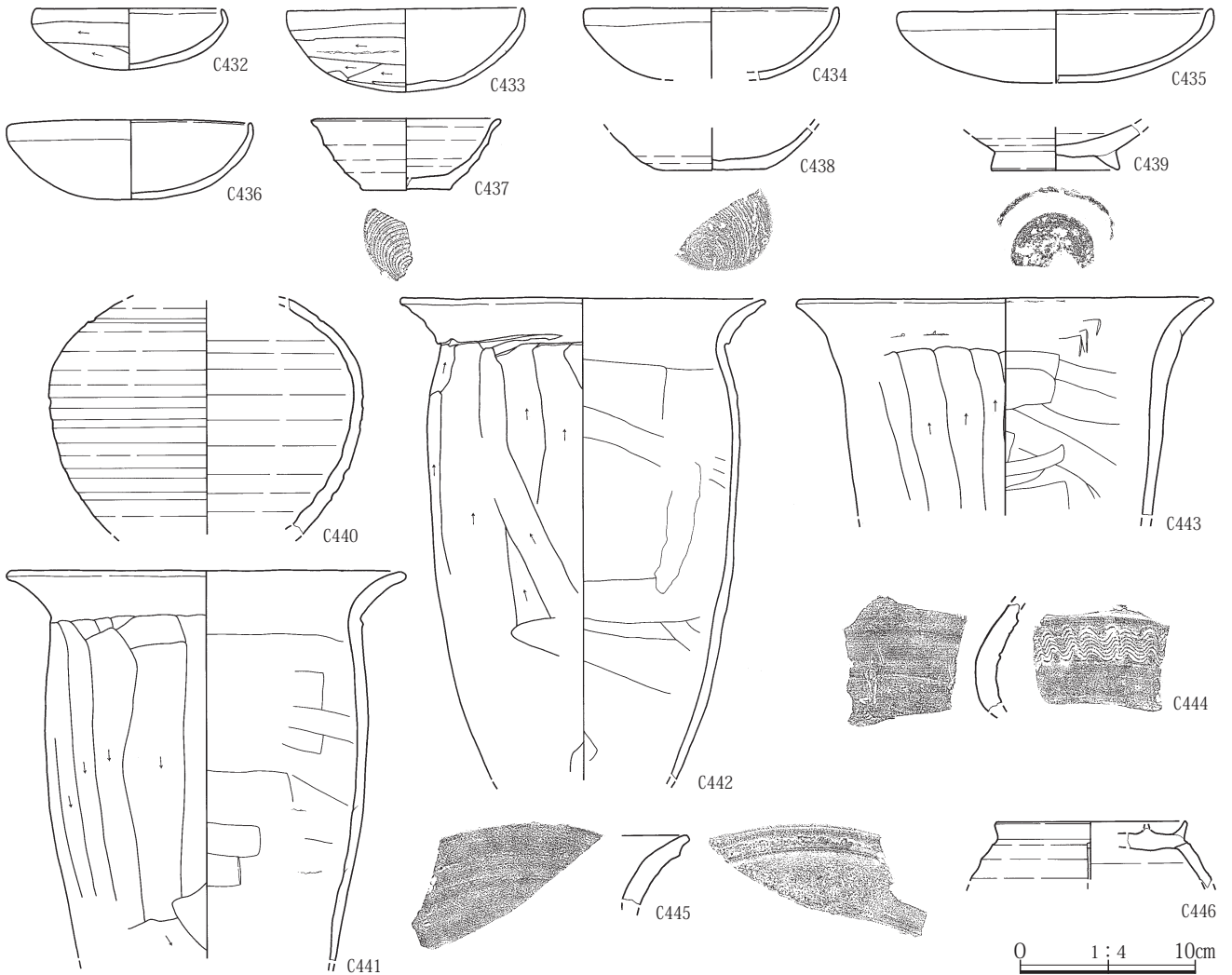


第223図 天王C区36~39住居出土遺物

C区39住居(2)

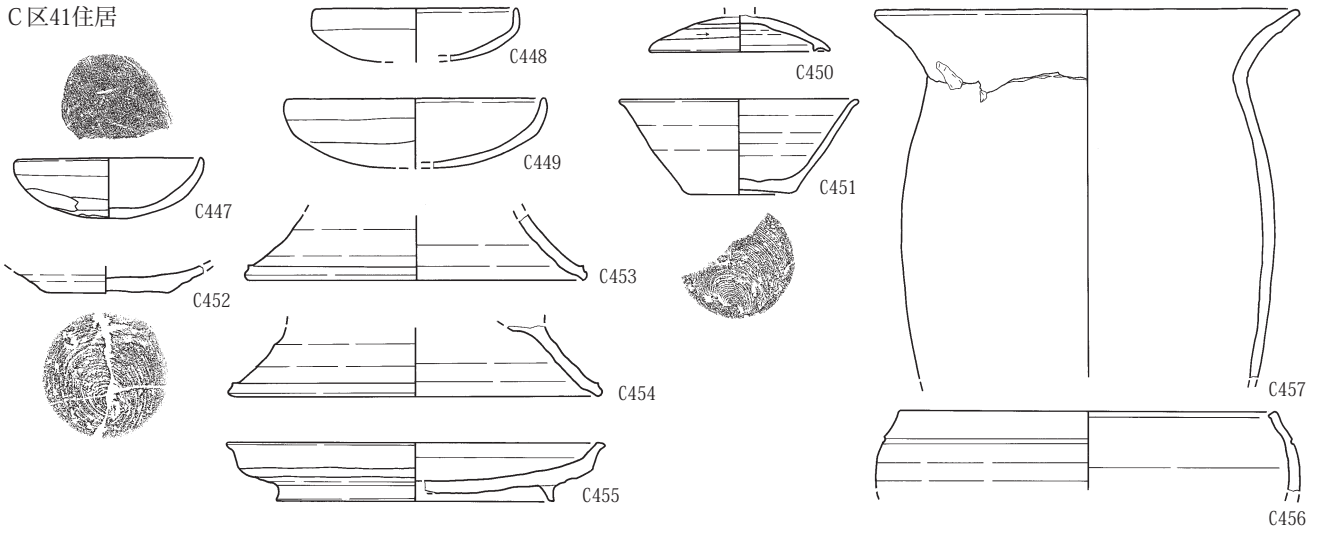


C区40住居

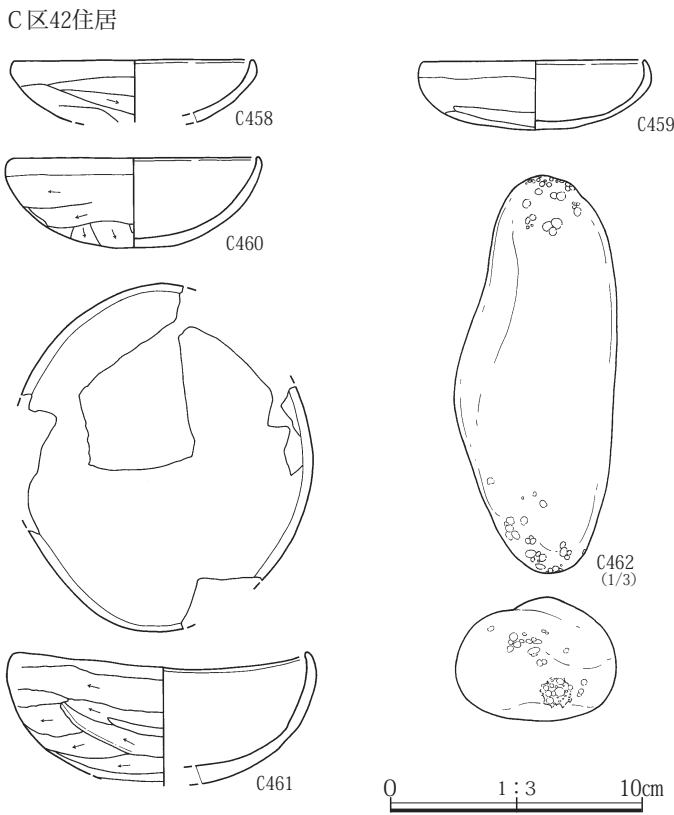


第224図 天王C区39・40住居出土遺物

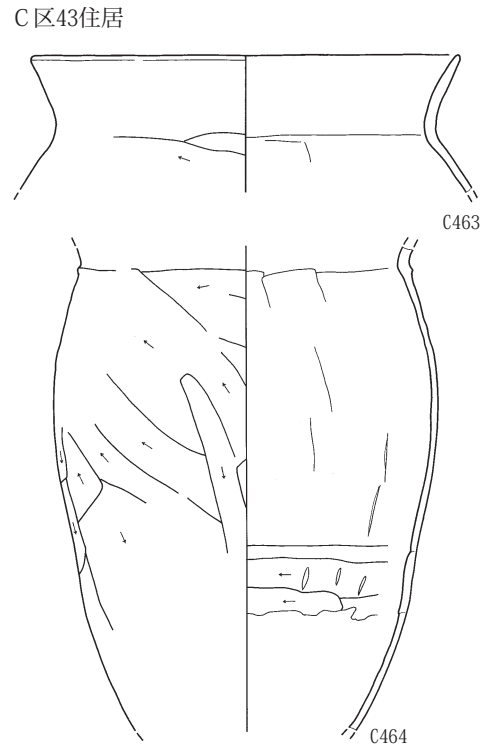
C区41住居



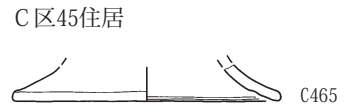
C区42住居



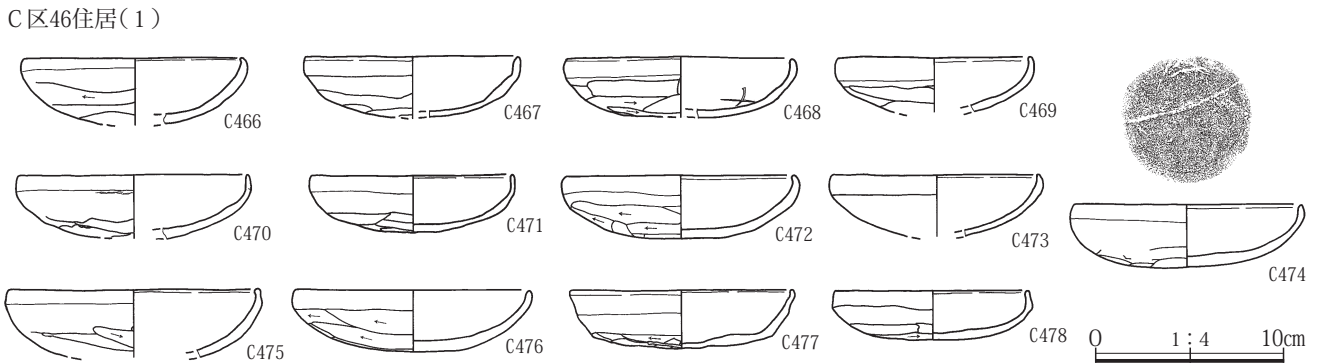
C区43住居



C区45住居

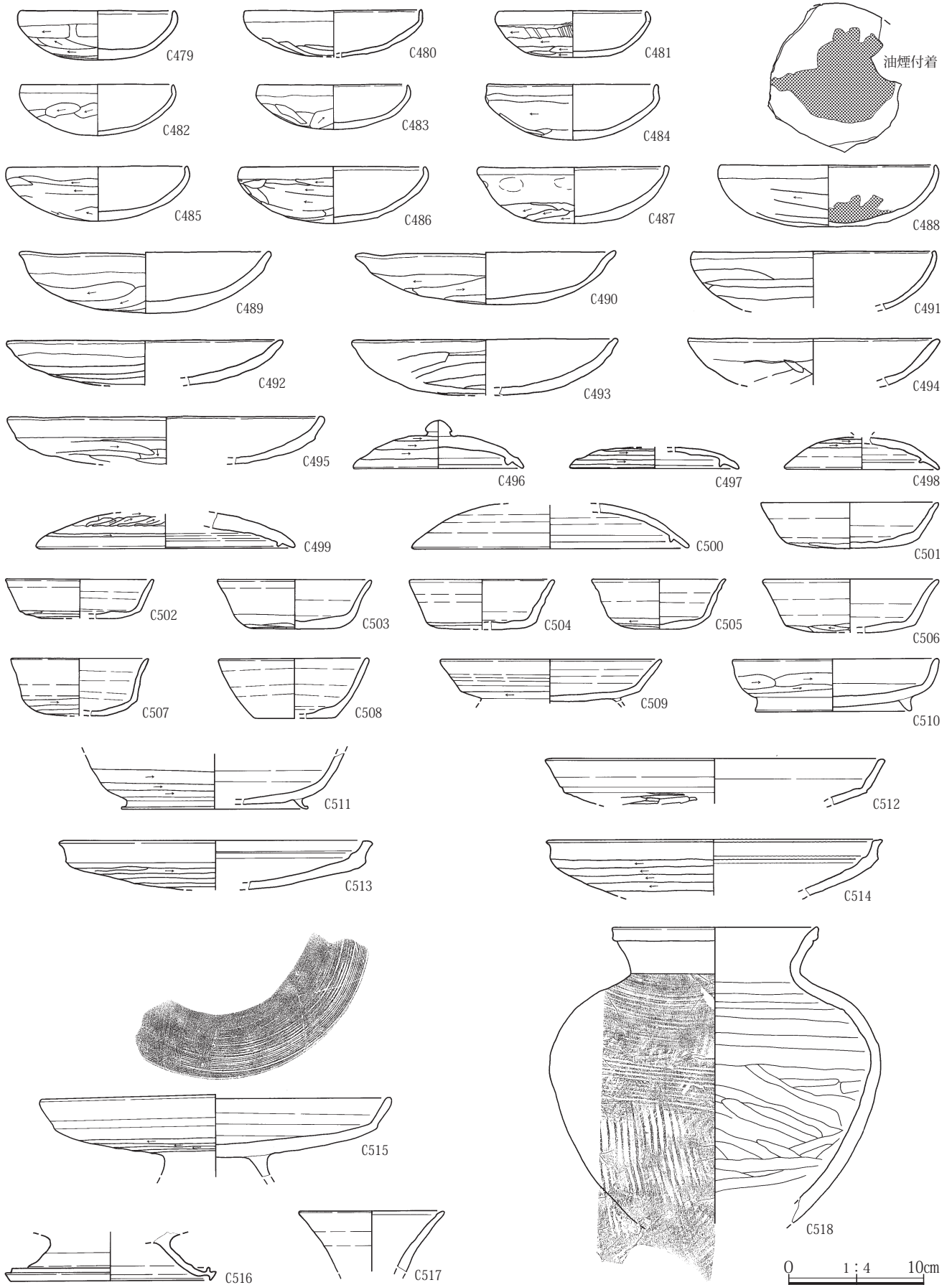


C区46住居(1)



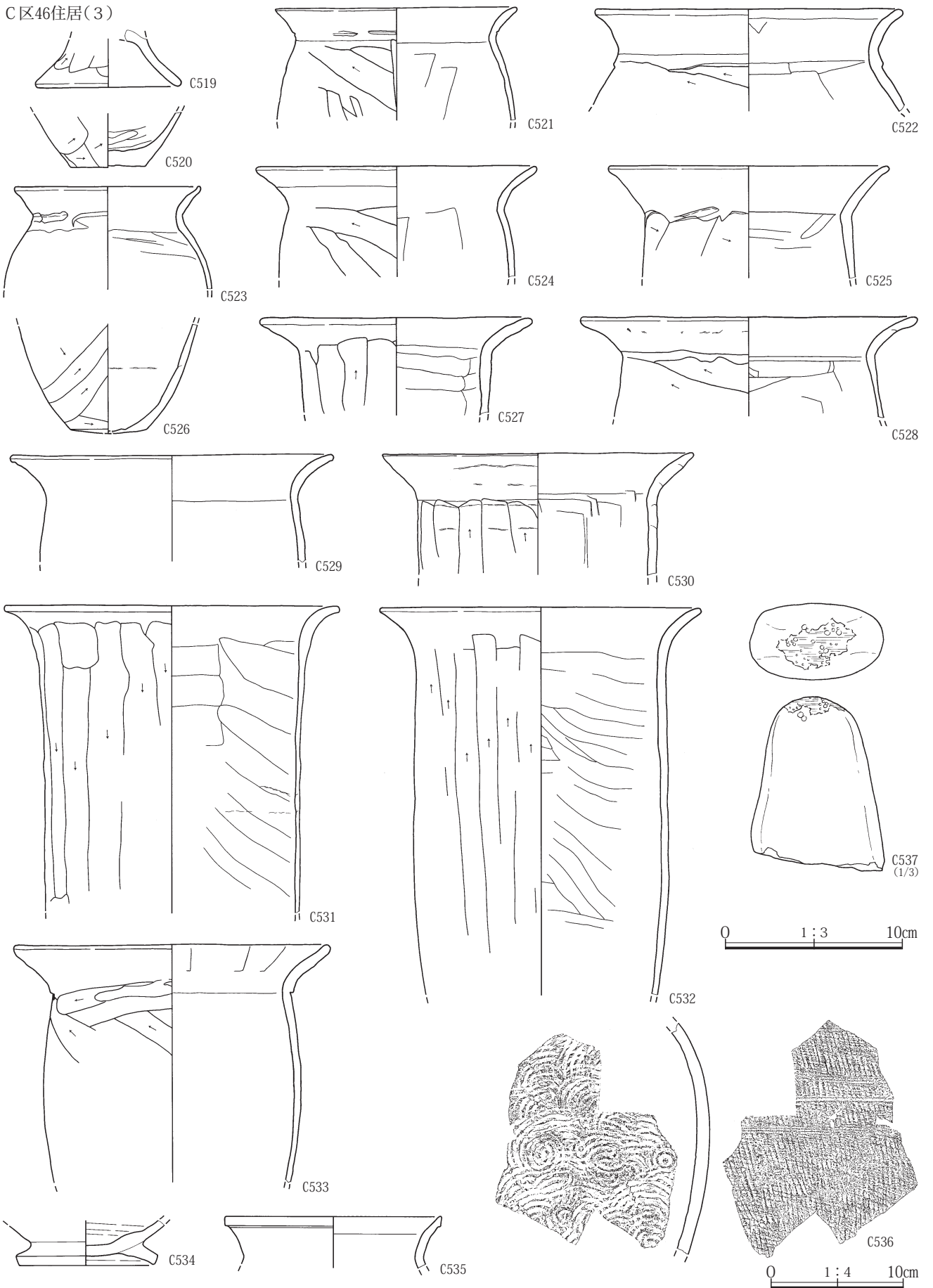
第225図 天王C区41~43・45・46住居出土遺物

C区46住居(2)



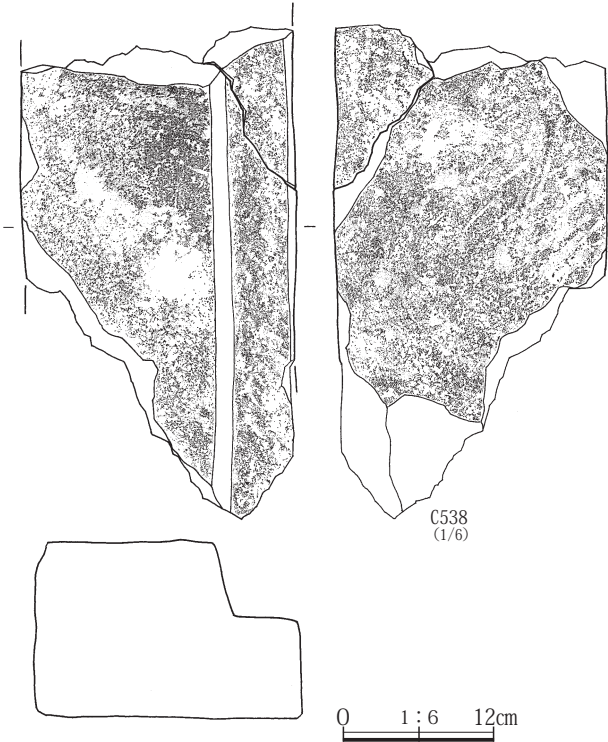
第226図 天王C区46住居出土遺物

C区46住居(3)

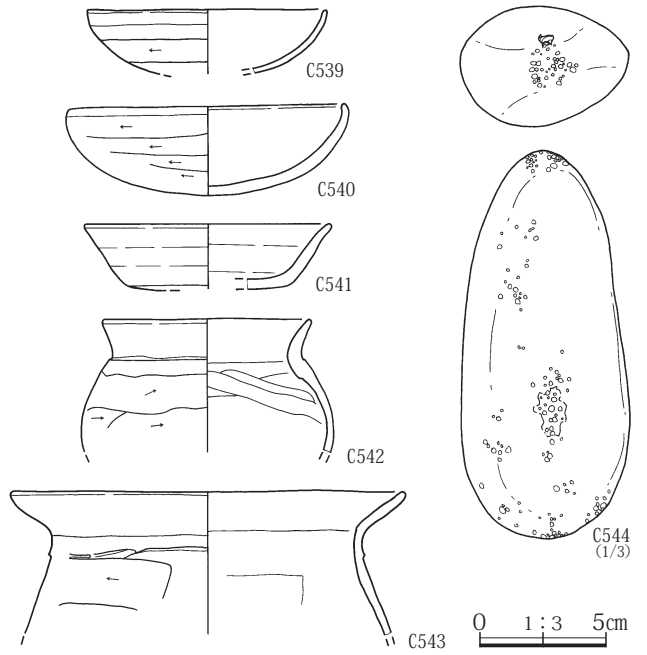


第227图 天王C区46住居出土遺物

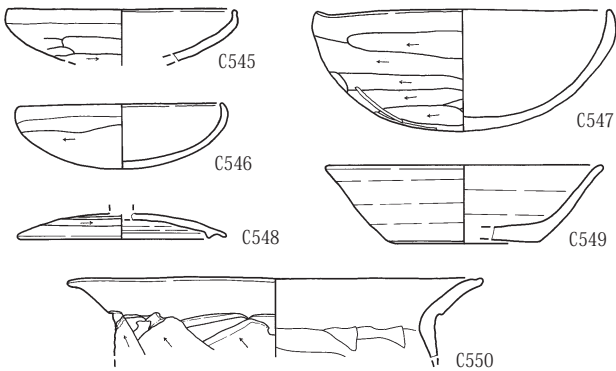
C区46住居(4)



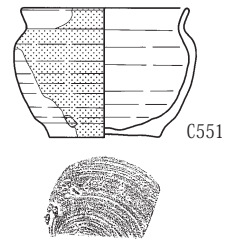
C区48住居



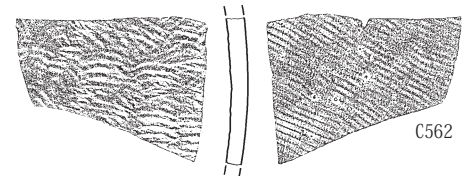
C区49住居



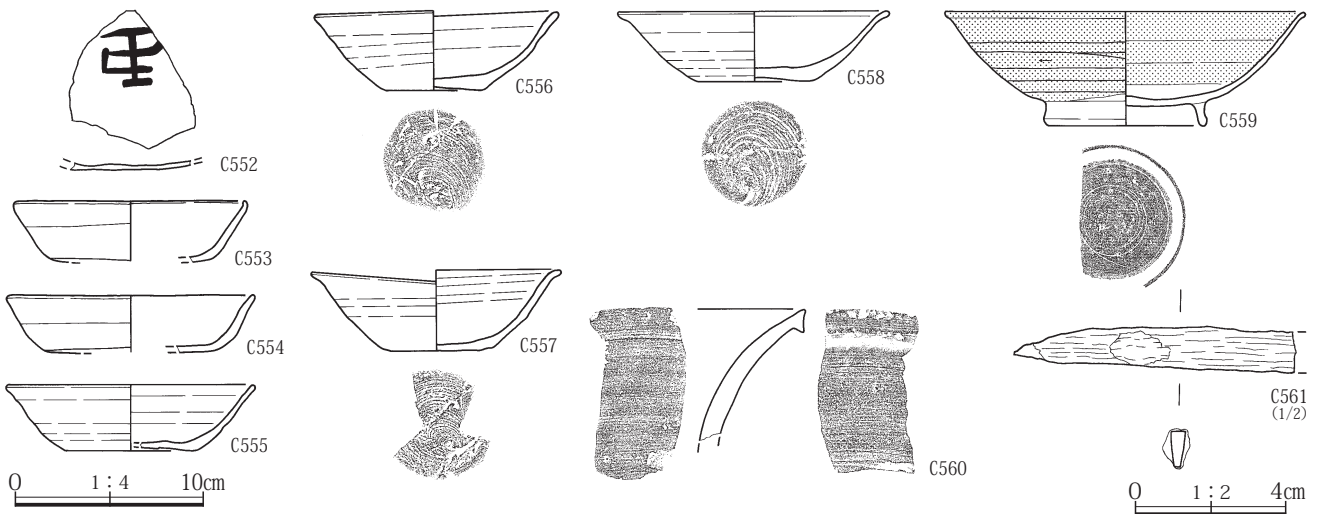
C区11掘立柱建物



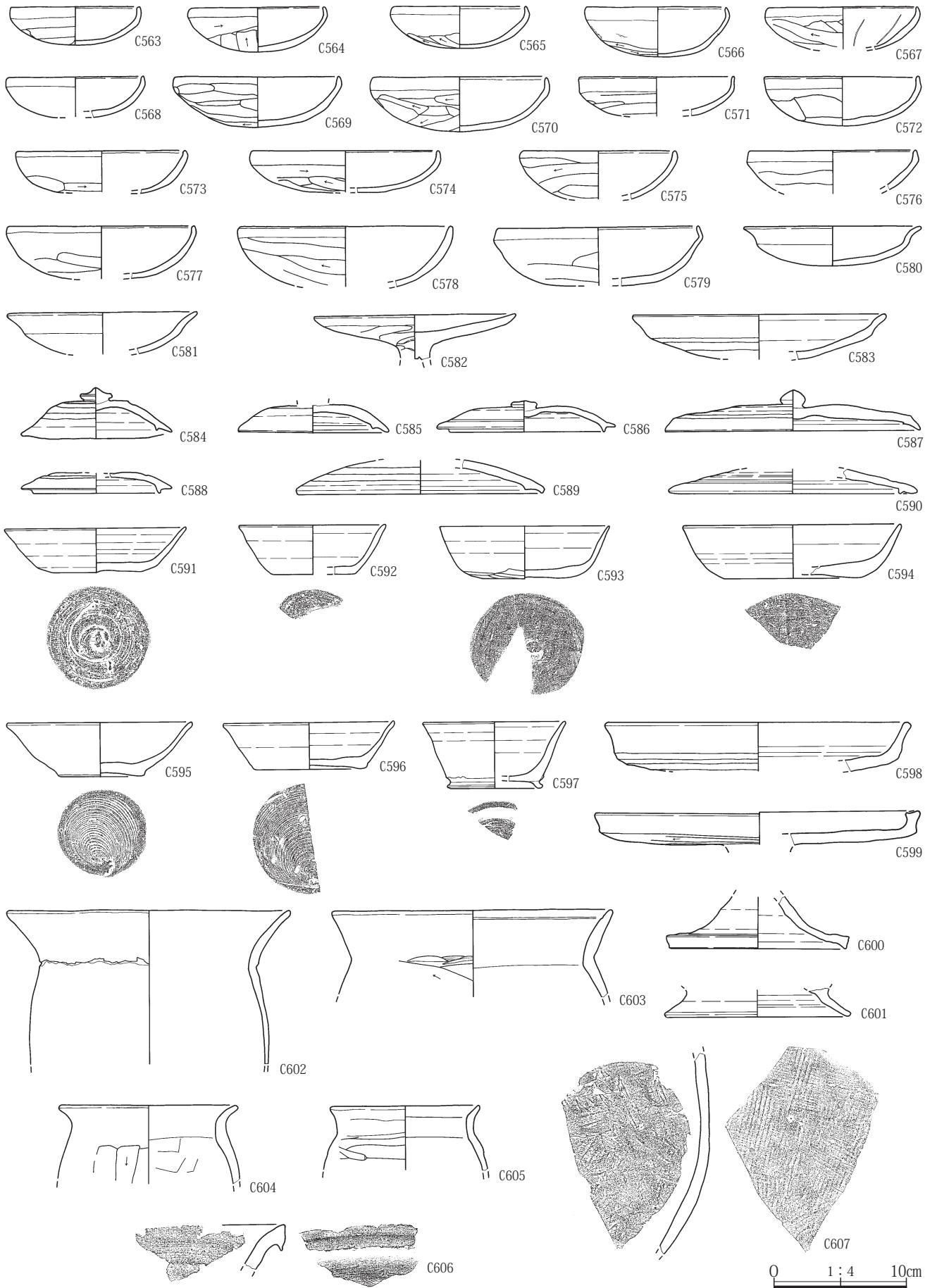
C区2井戸



C区1井戸

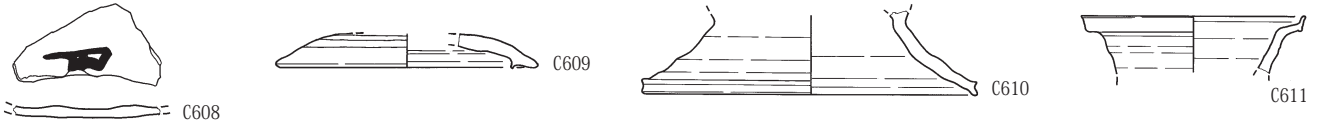


第228図 天王C区46・48・49住居、11掘立柱建物、1・2井戸出土遺物

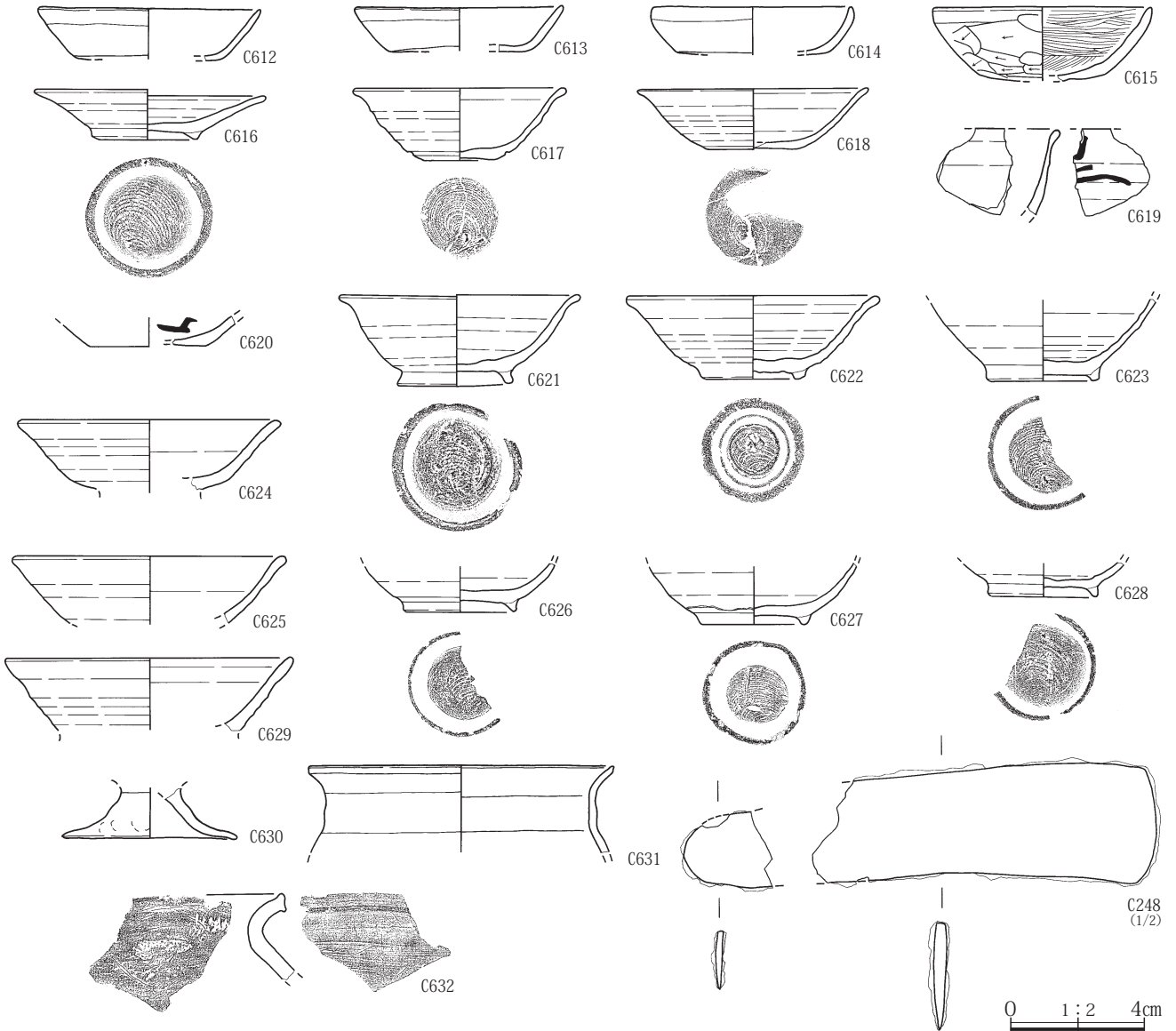


第229图 天王C区2粘土採掘坑出土遺物

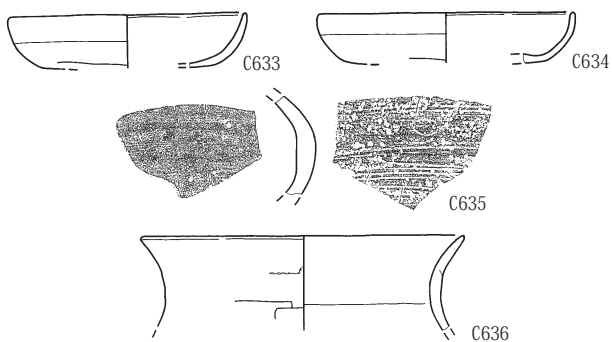
C区3粘土採掘坑



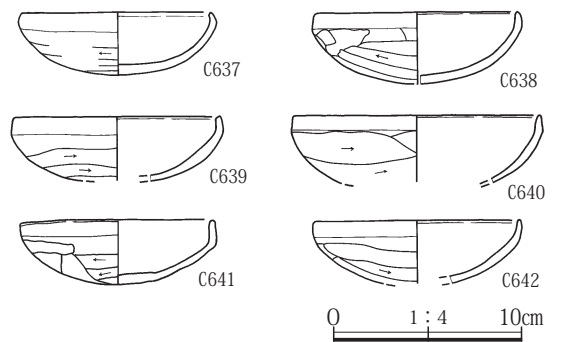
C区4粘土採掘坑



C区5粘土採掘坑

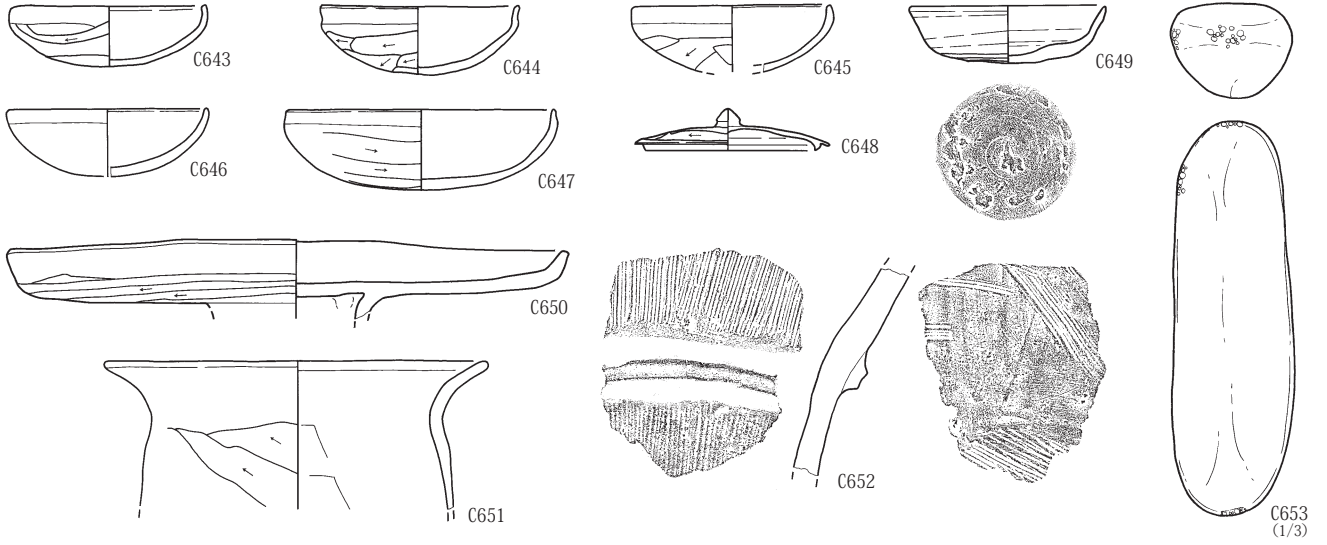


C区6粘土採掘坑(1)

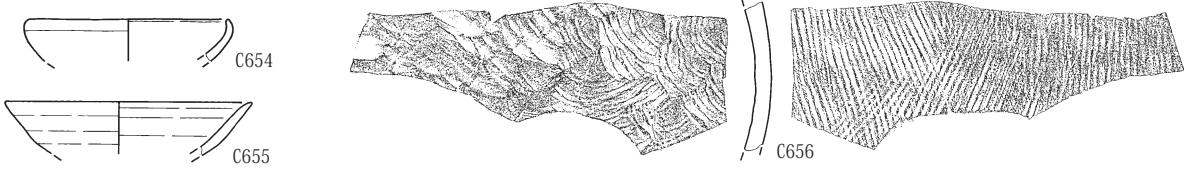


第230図 天王C区3～6粘土採掘坑出土遺物

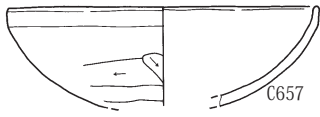
C区6粘土採掘坑(2)



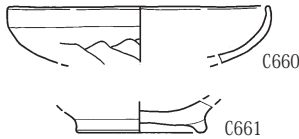
C区7粘土採掘坑



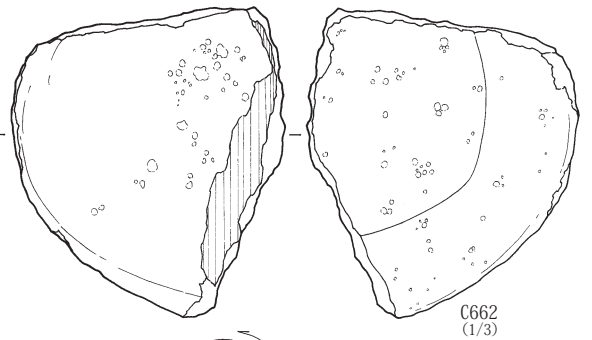
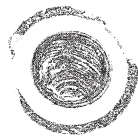
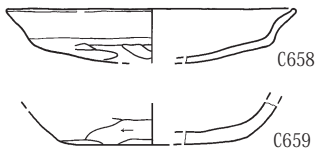
C区1溝



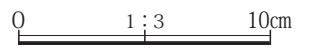
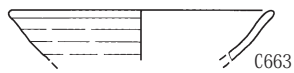
C区3溝



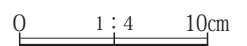
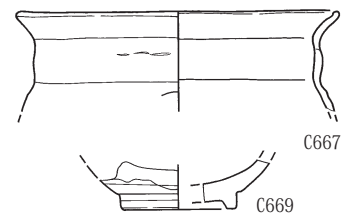
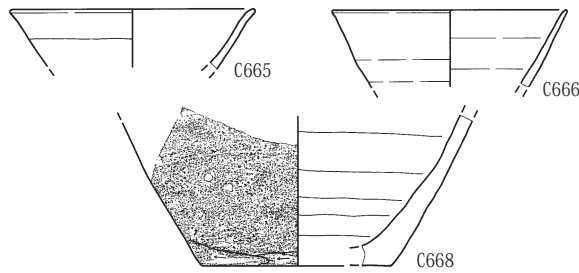
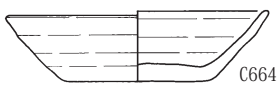
C区2溝



C区5溝



C区8溝



第231图 天王C区6・7粘土採掘坑、1~3・5・8a溝出土遺物

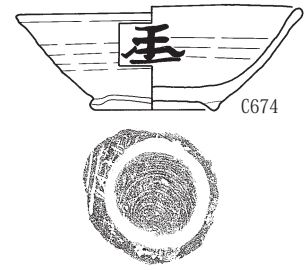
C区9溝 a



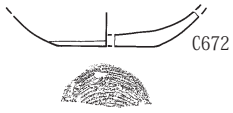
C区9溝 b



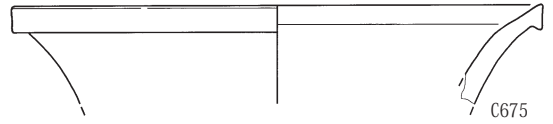
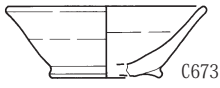
C区11溝



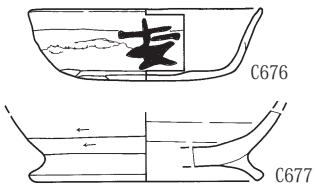
C区9溝 c



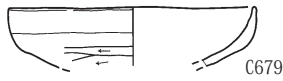
C区10溝 a



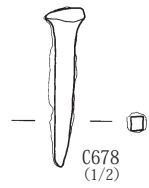
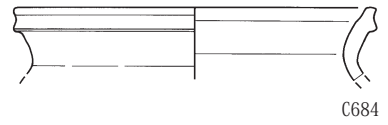
C区12溝



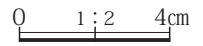
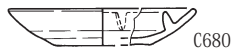
C区12土坑



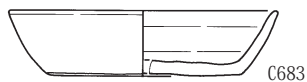
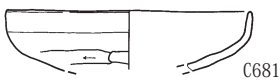
C区22土坑



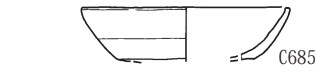
C区19土坑



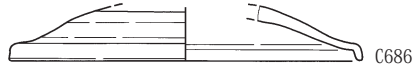
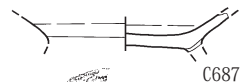
C区21土坑



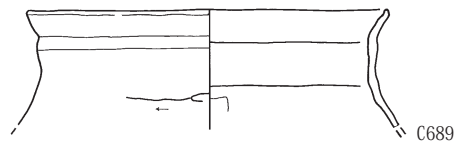
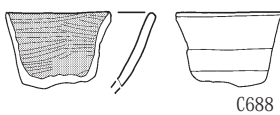
C区28土坑



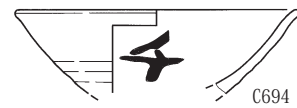
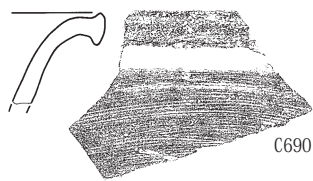
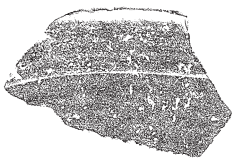
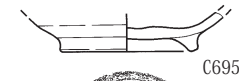
C区29土坑



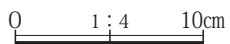
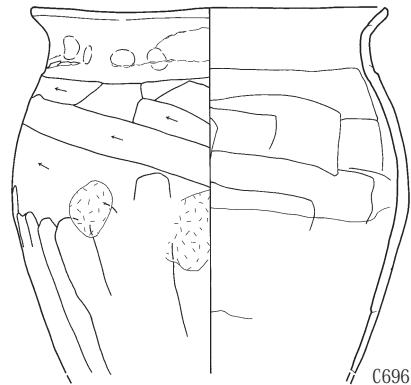
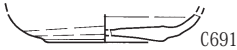
C区30土坑



C区36土坑

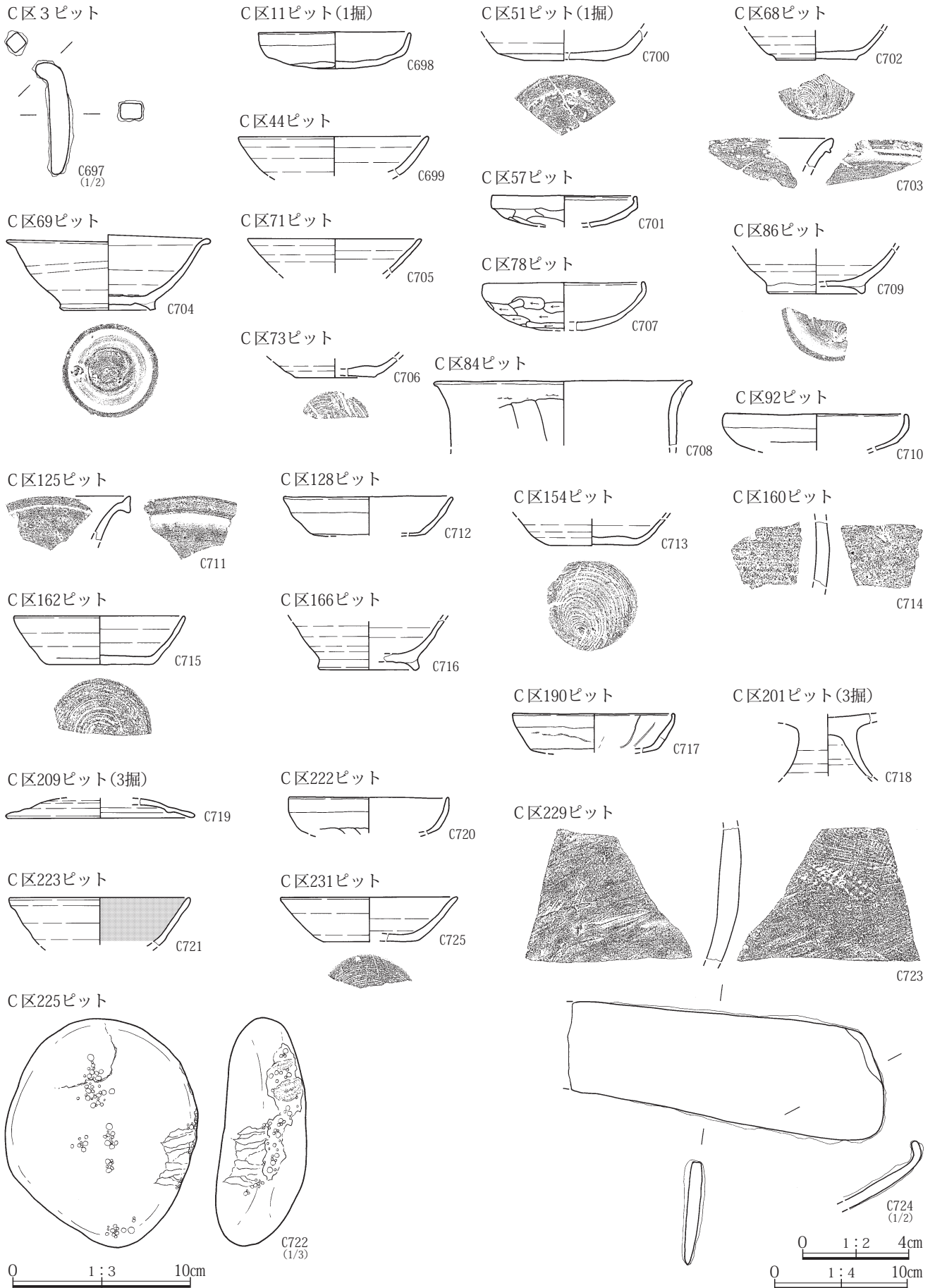


C区33土坑



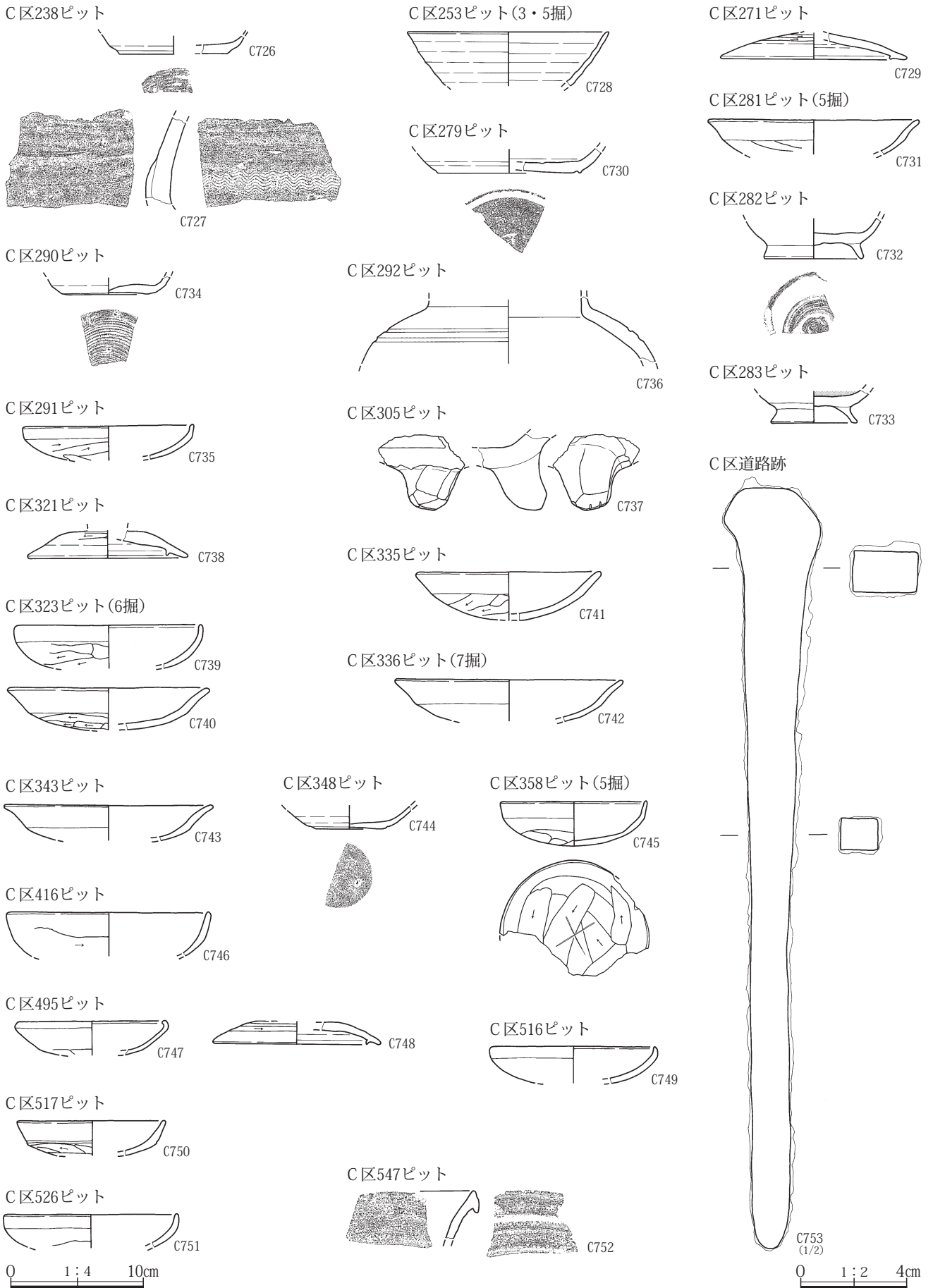
第232図 天王C区9a~9c・10a・11・12溝、12・19・21・22・28~30・33・36土坑出土遺物

遺物図(天王C区)



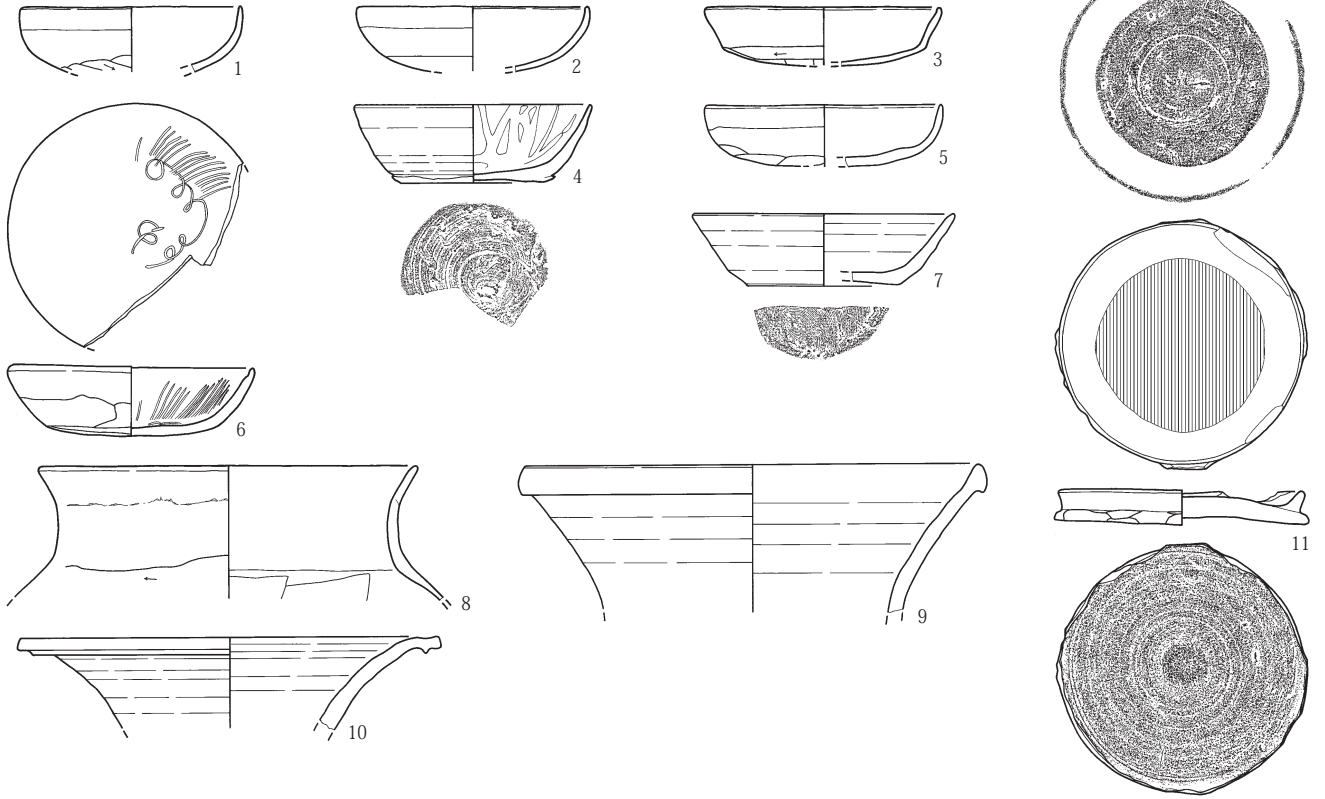
第233図 天王C区ピット出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

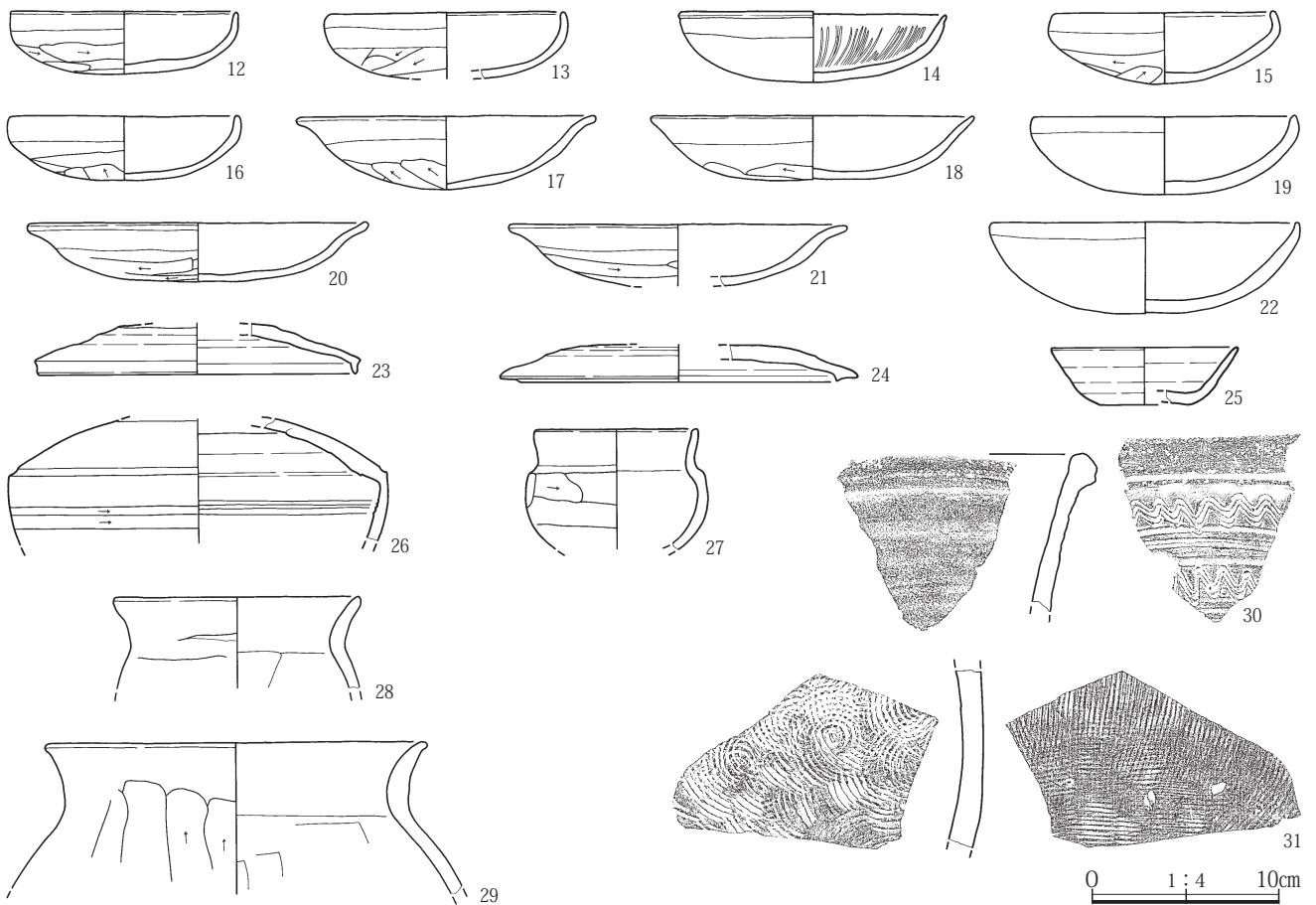


第234図 天王C区ピット出土遺物

東紺屋 1 住居

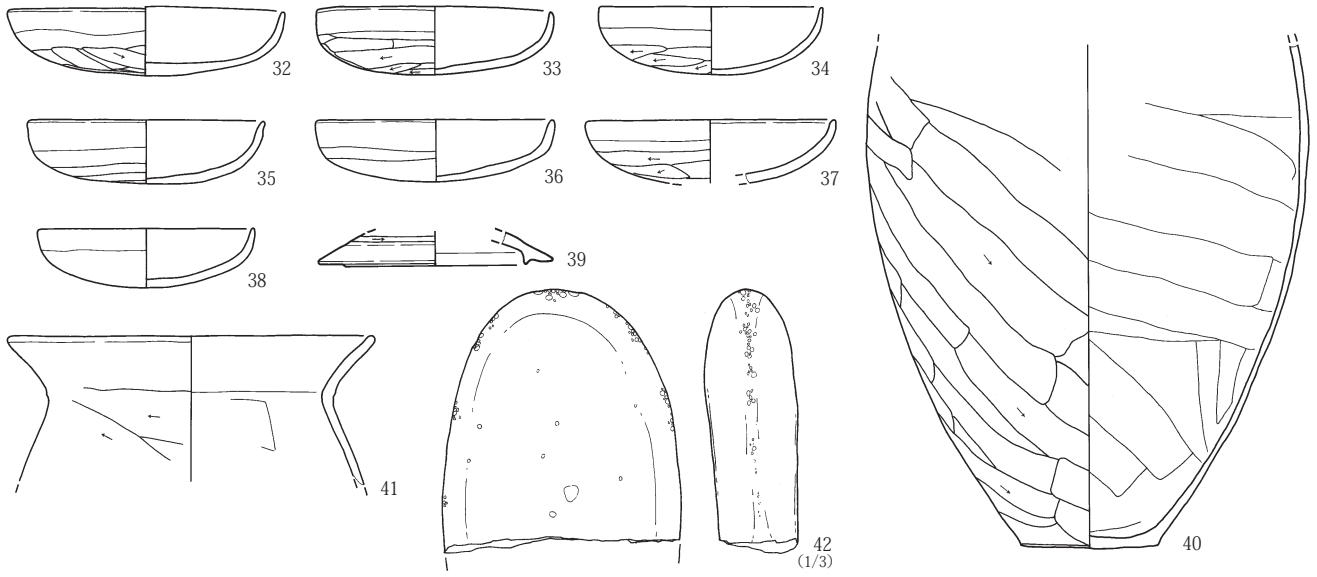


東紺屋 3 住居

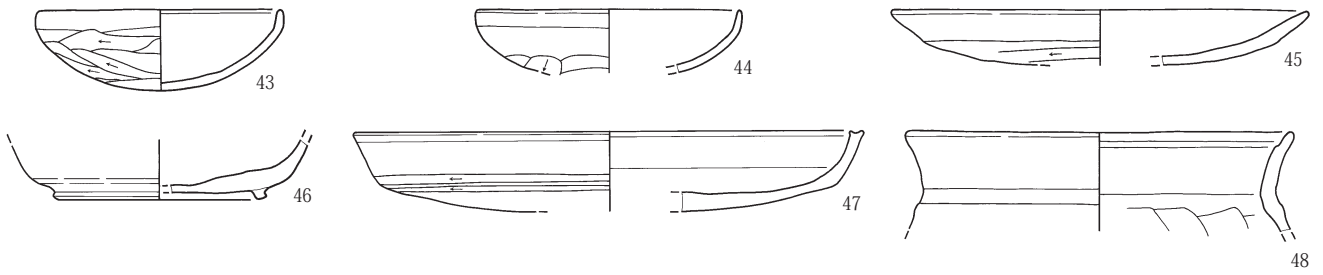


第235図 東紺屋 1・3 住居出土遺物

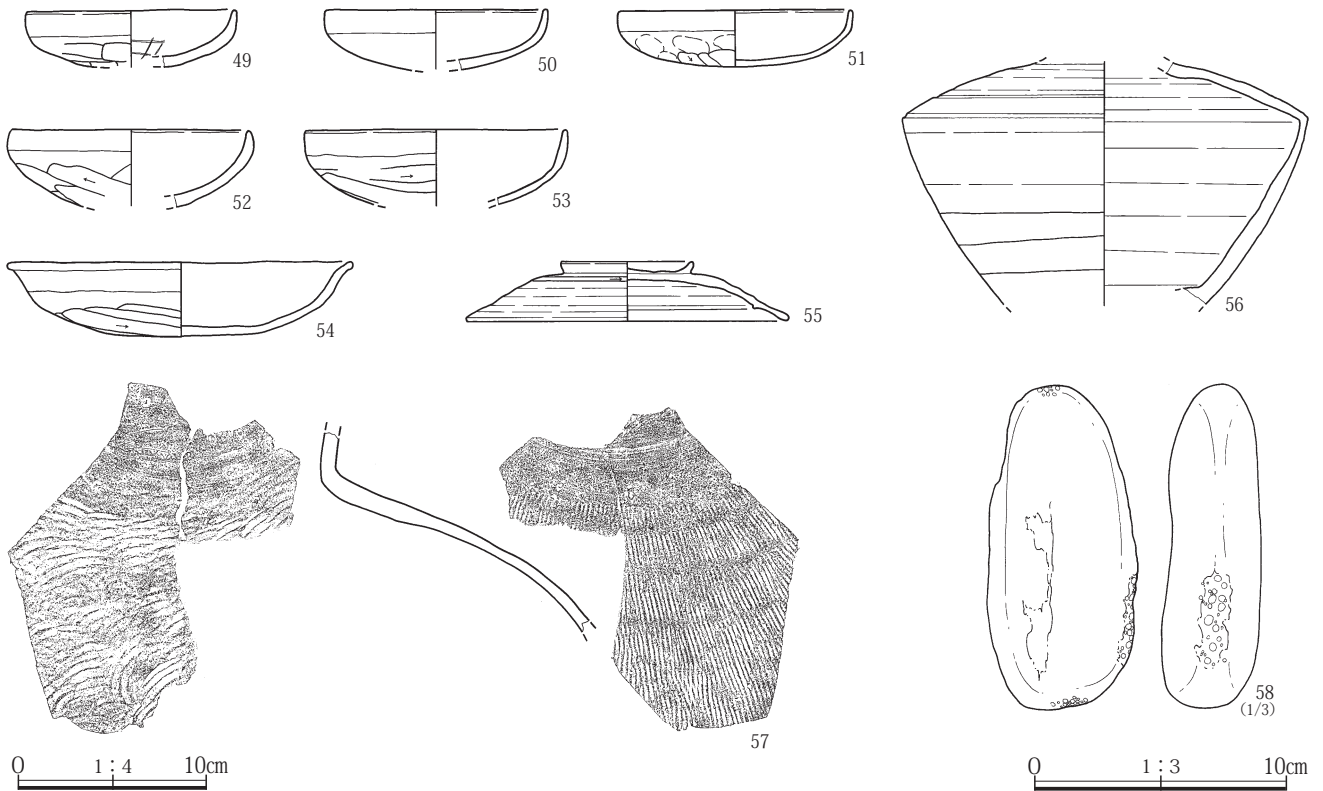
東紺屋4住居



東紺屋5住居



東紺屋6住居

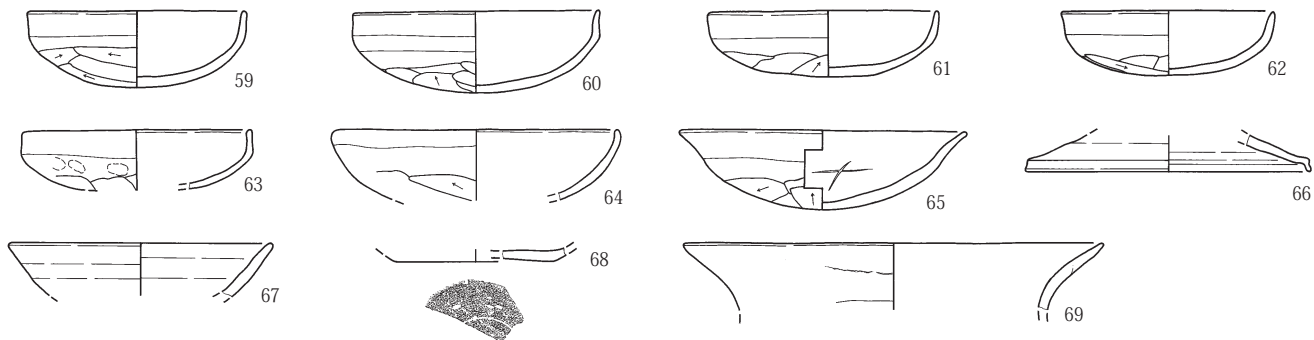


0 1:4 10cm

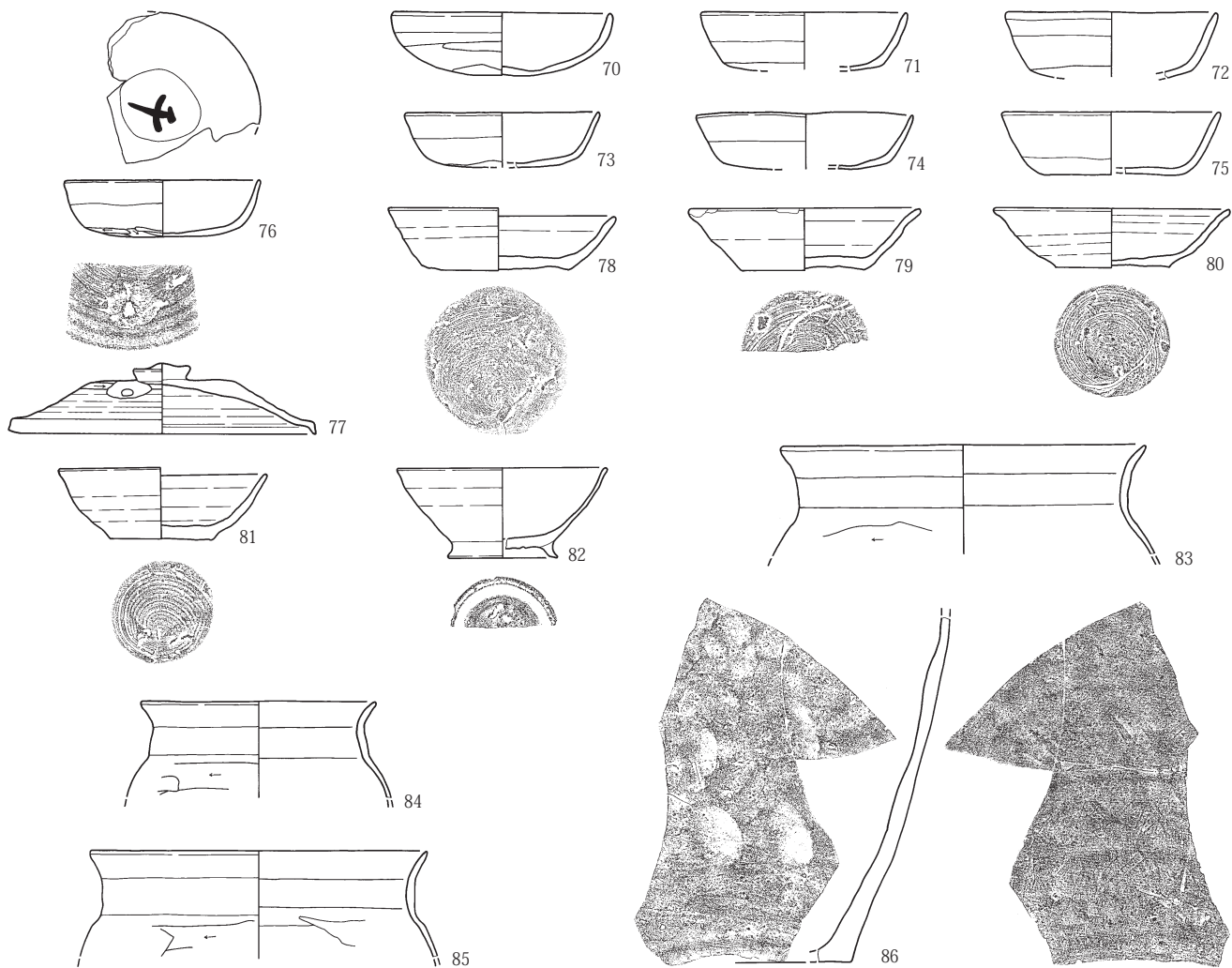
0 1:3 10cm

第236図 東紺屋4～6住居出土遺物

東紺屋7住居



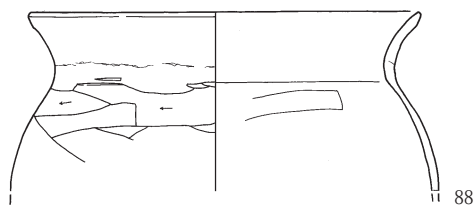
東紺屋8住居



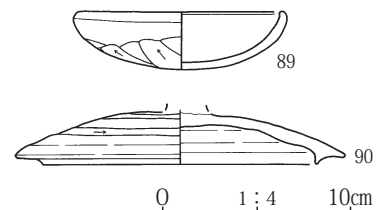
東紺屋9a住居



東紺屋9b住居

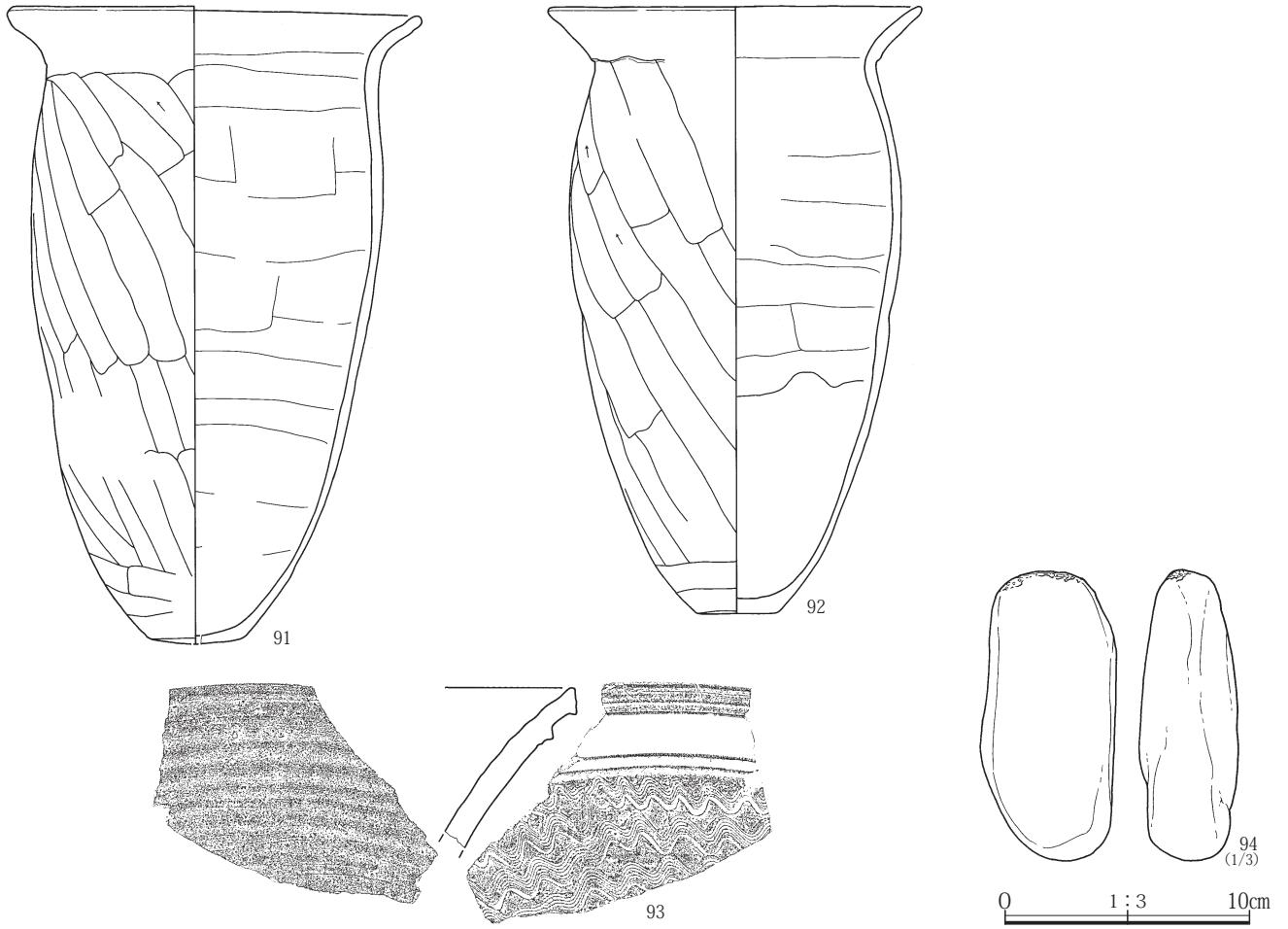


東紺屋9c住居(1)

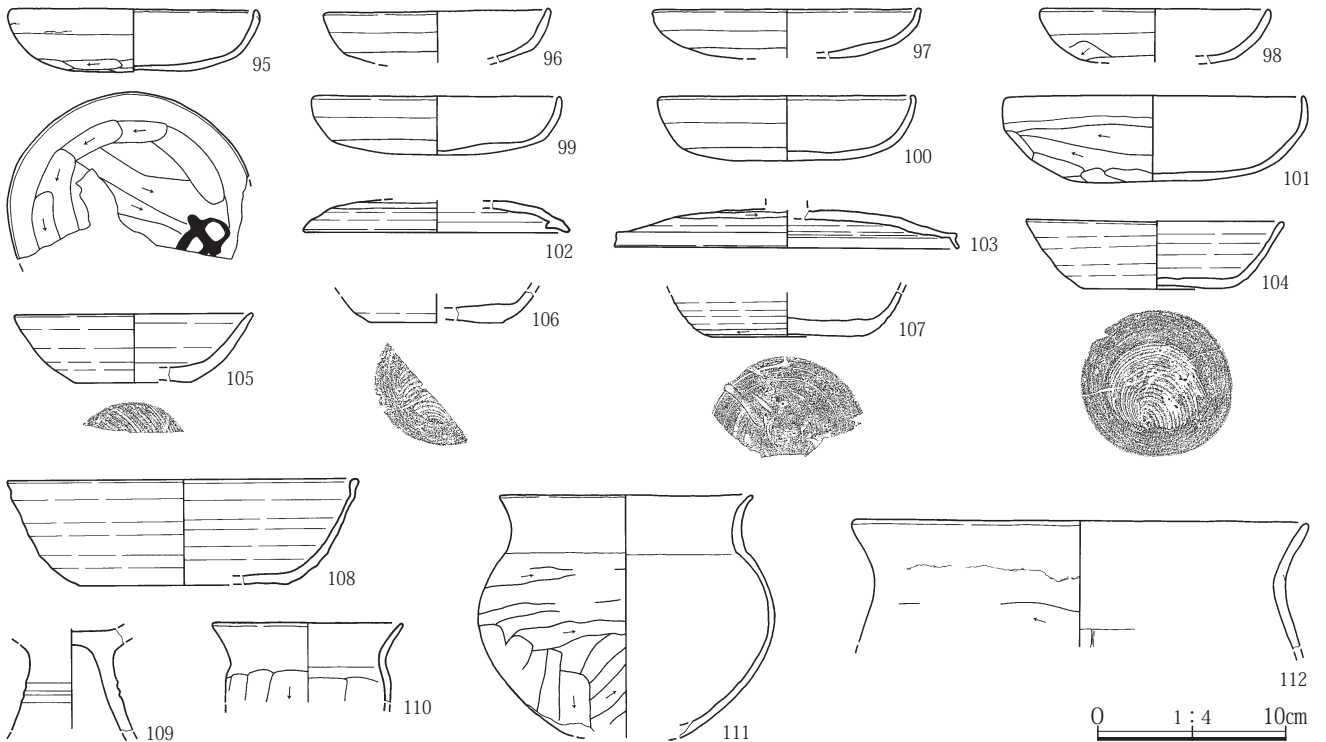


第237図 東紺屋7・8・9a~9c住居出土遺物

東紺屋9c住居(2)

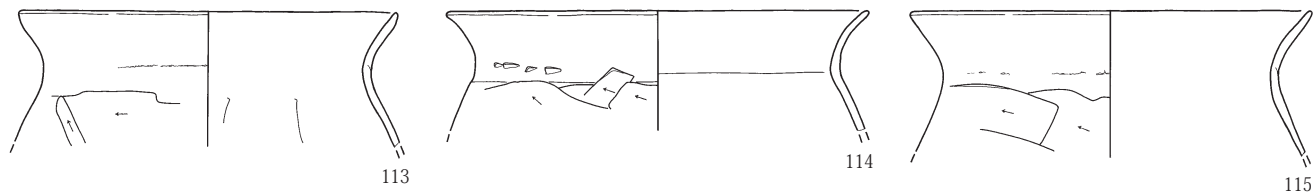


東紺屋9・11住居(1)

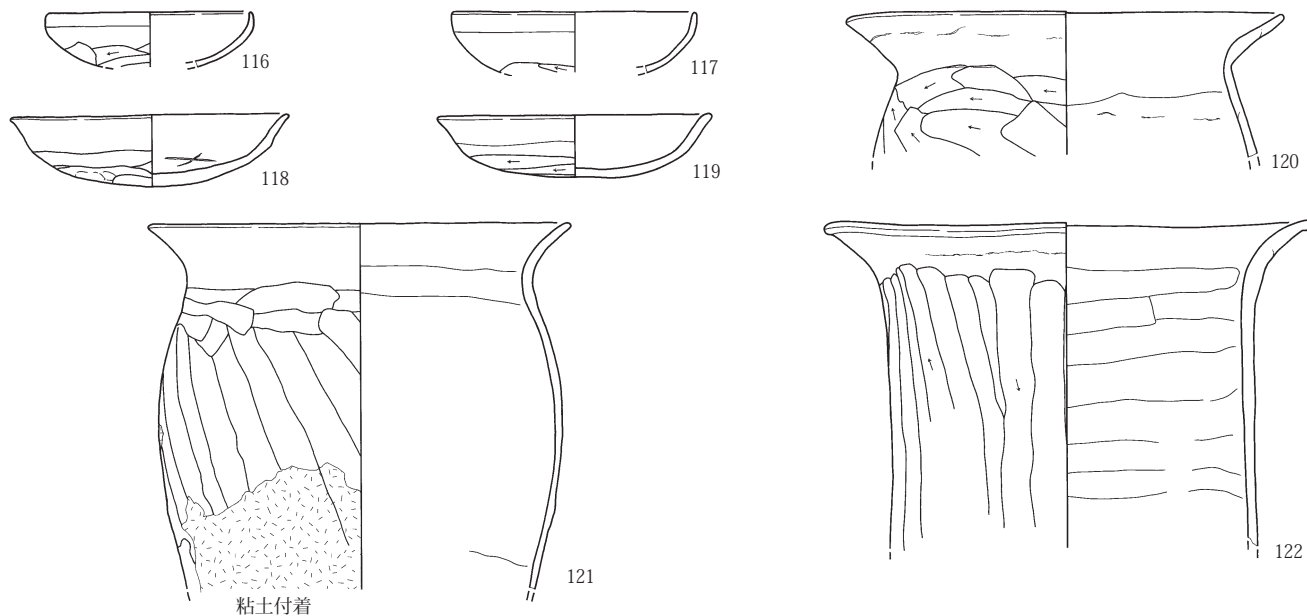


第238図 東紺屋9c・9&11住居出土遺物

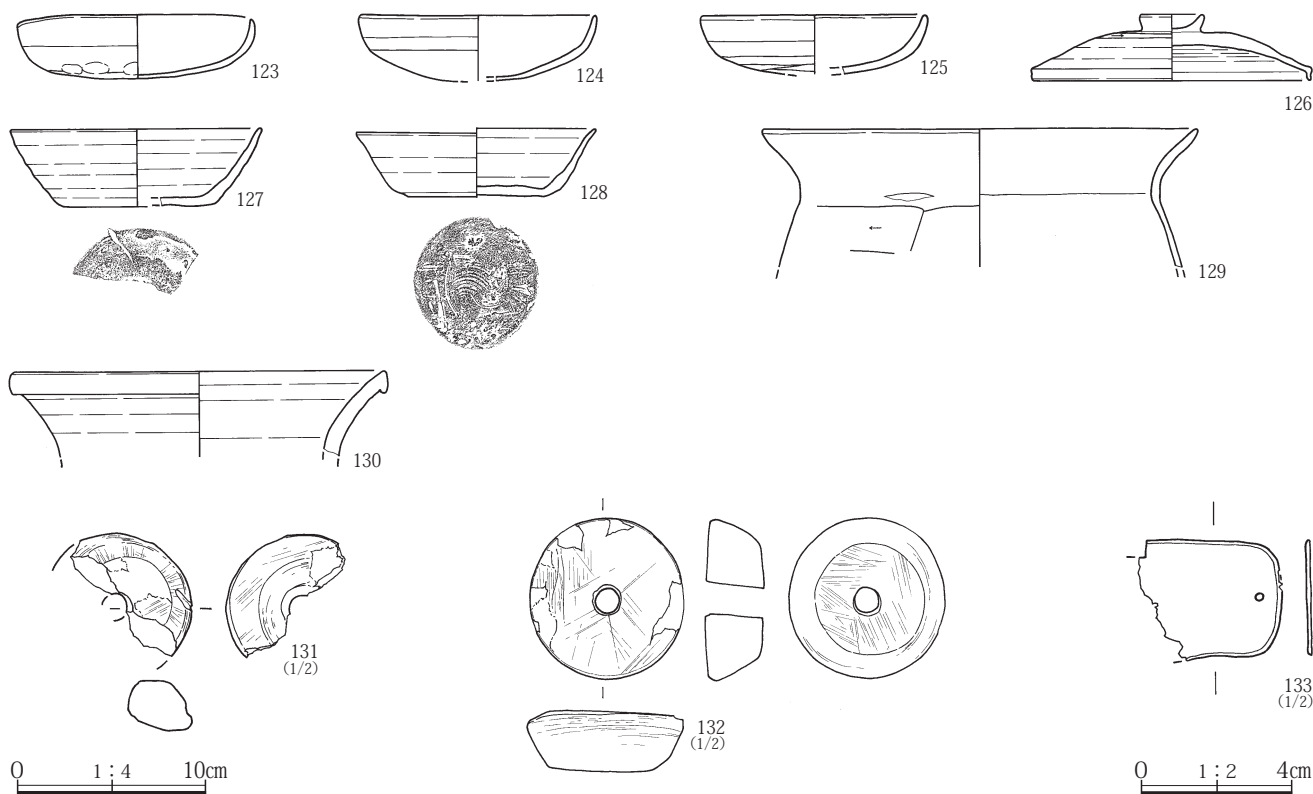
東紺屋9・11住居(2)



東紺屋10住居

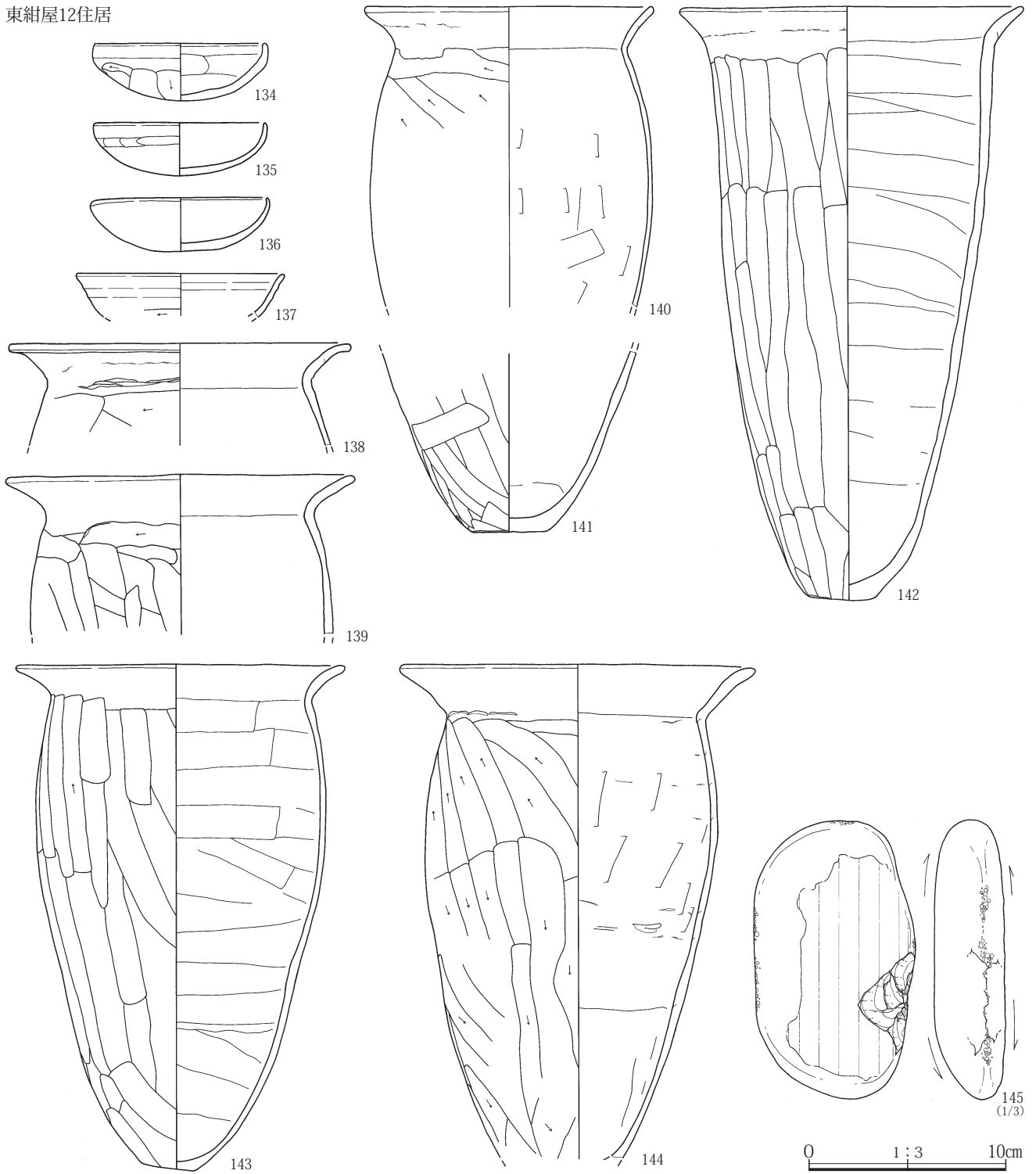


東紺屋11住居

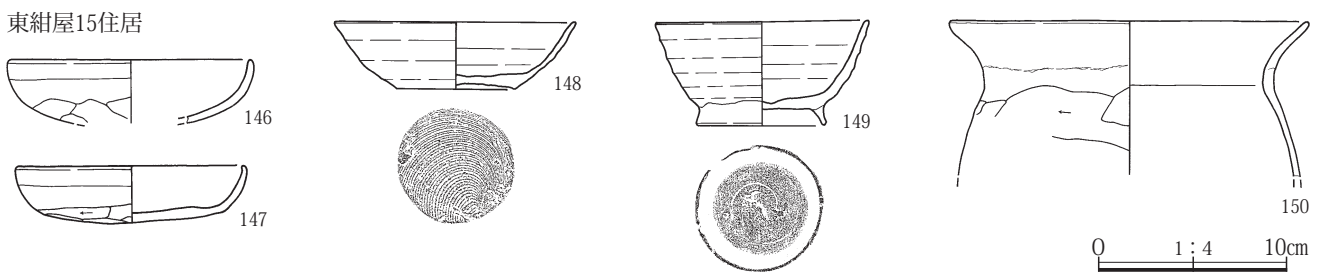


第239図 東紺屋9&11・10・11住居出土遺物

東紺屋12住居

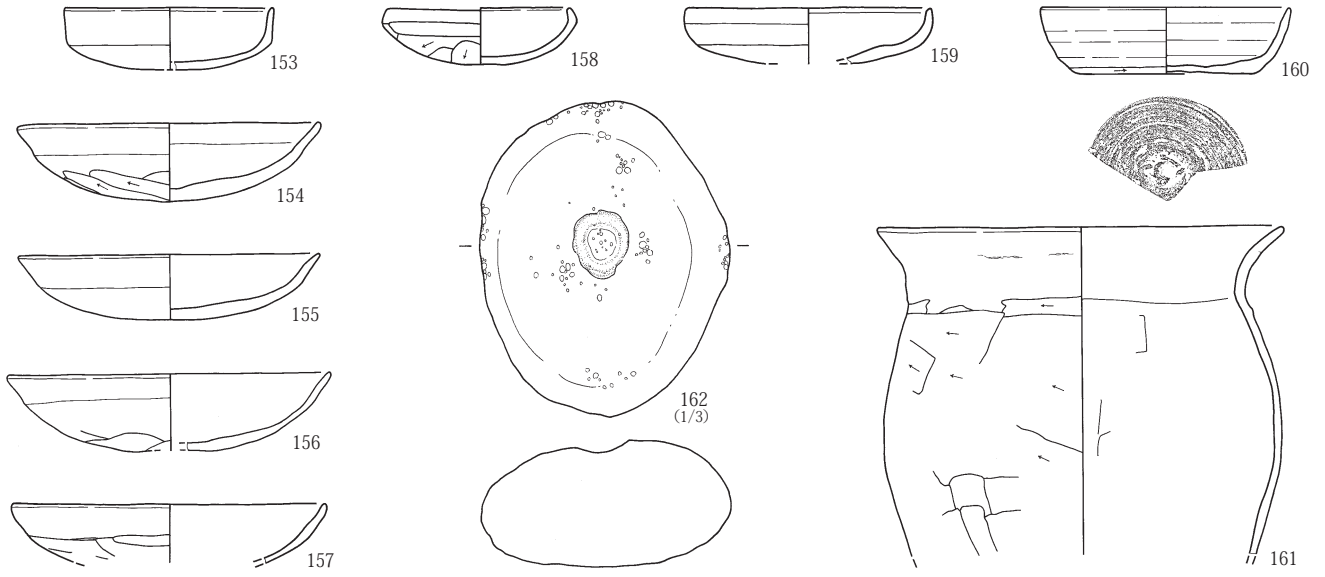


東紺屋15住居

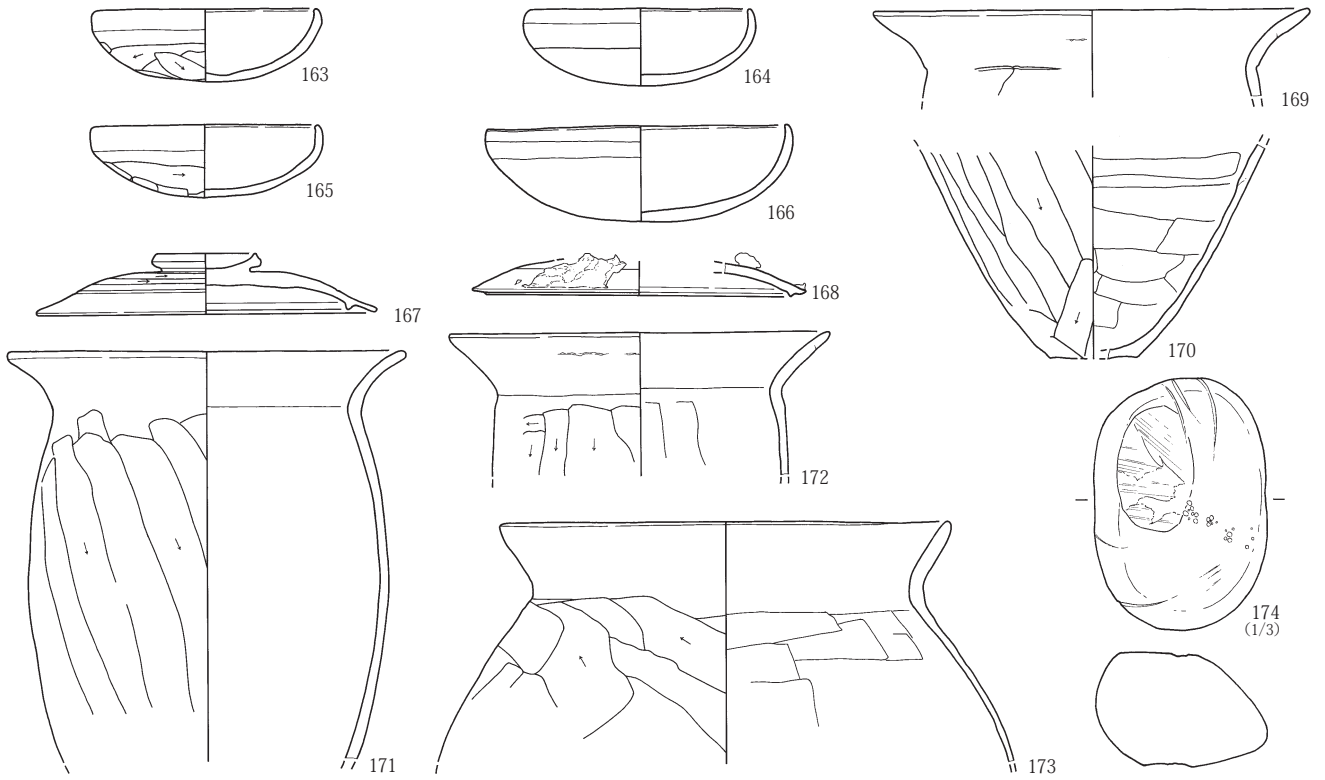


第240図 東紺屋12・15住居出土遺物

東紺屋19住居

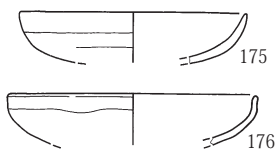


東紺屋23住居



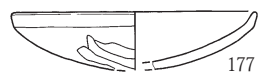
0 1:3 10cm

東紺屋 1 掘立柱建物

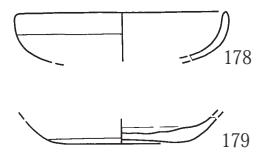


0 1:4 10cm

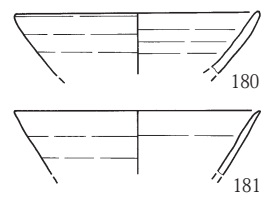
東紺屋 2 掘立柱建物



東紺屋 5 掘立柱建物



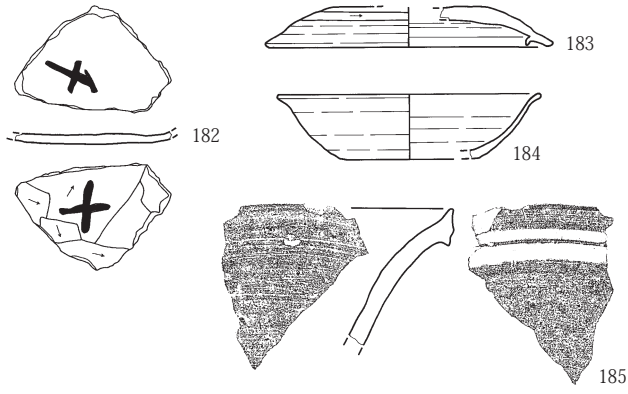
東紺屋 9 掘立柱建物



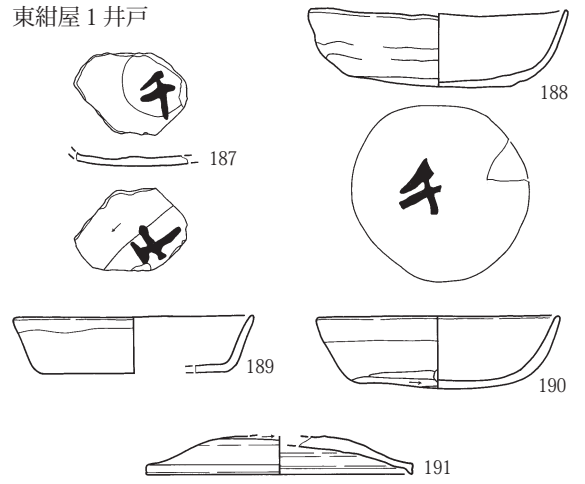
第241図 東紺屋19・23住居、1・2・5・9掘立柱建物

第4章 検出された遺構と遺物

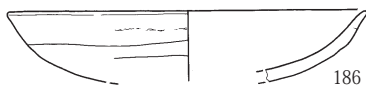
東紺屋11掘立柱建物



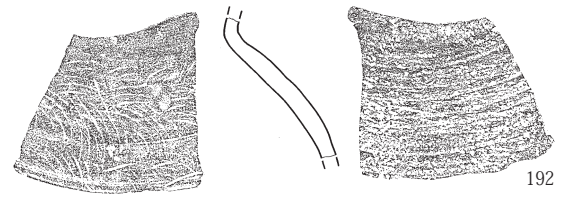
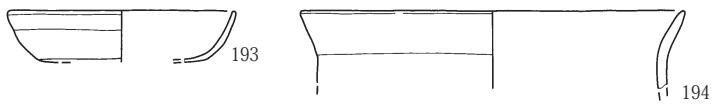
東紺屋1井戸



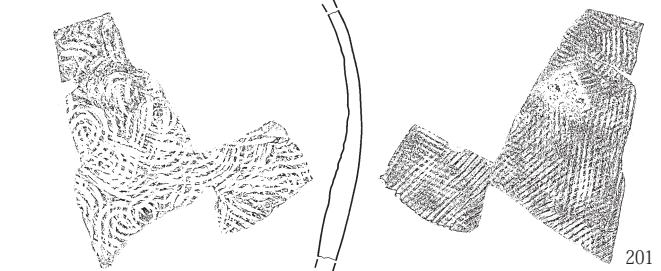
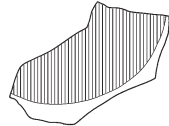
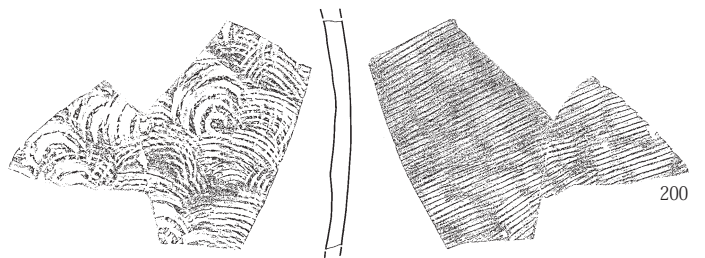
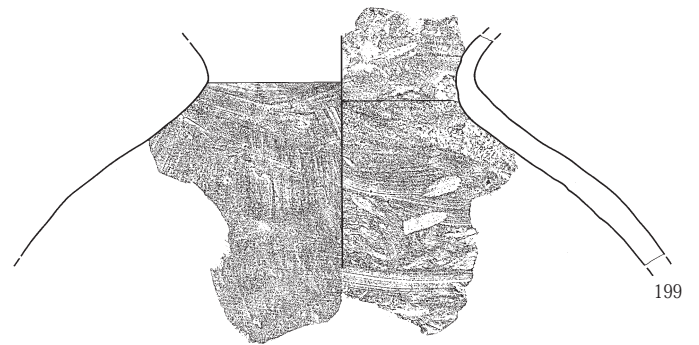
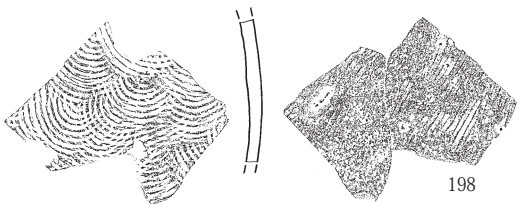
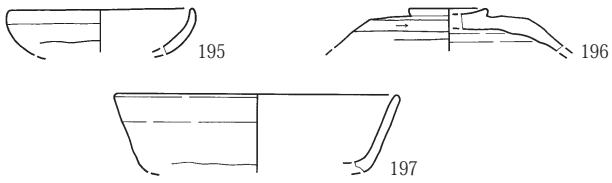
東紺屋13掘立柱建物



東紺屋2井戸



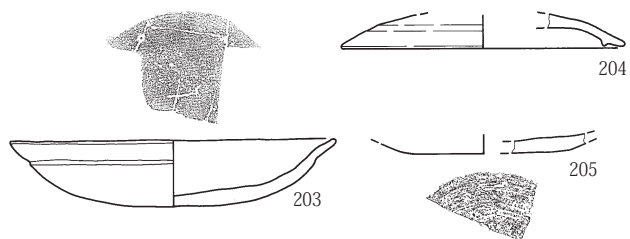
東紺屋1粘土採掘坑



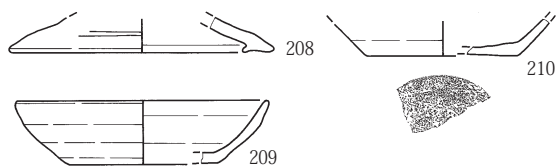
0 1:4 10cm

第242図 東紺屋11・13掘立柱建物、1・2井戸、1粘土採掘坑出土遺物

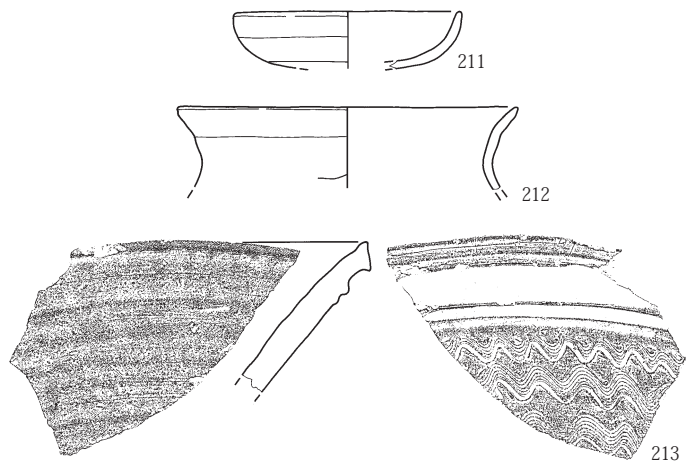
東紺屋2粘土採掘坑



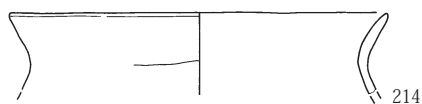
東紺屋3粘土採掘坑



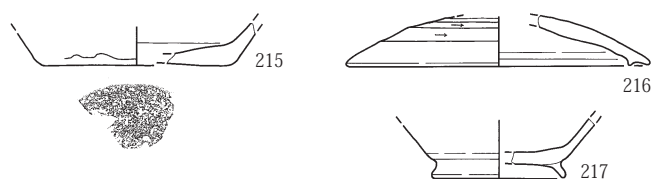
東紺屋4粘土採掘坑



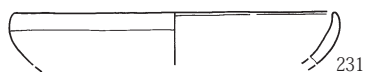
東紺屋6粘土採掘坑



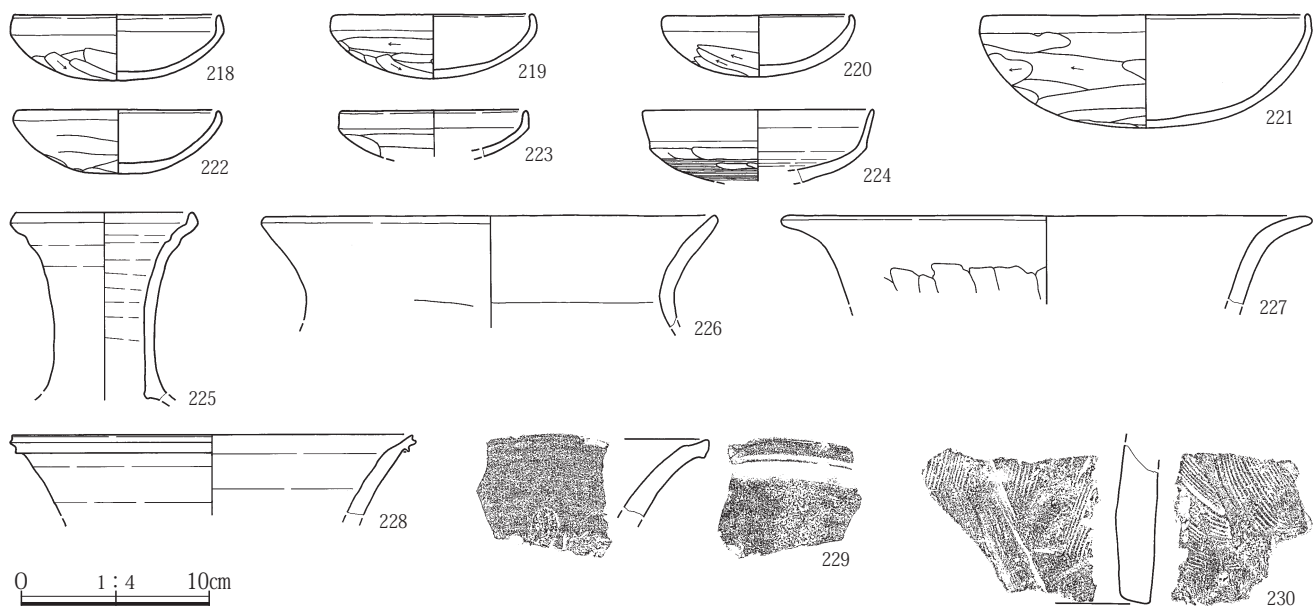
東紺屋9粘土採掘坑



東紺屋12粘土採掘坑



東紺屋10粘土採掘坑



0 1:4 10cm

第243図 東紺屋2~4・6・9・10・12粘土採掘坑

第4章 検出された遺構と遺物

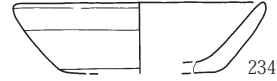
東紺屋10土坑



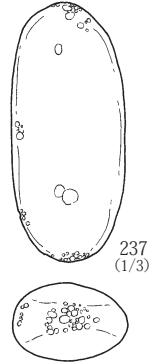
東紺屋17土坑



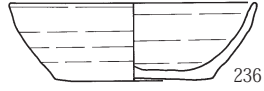
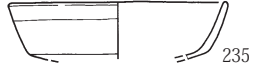
東紺屋20土坑



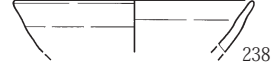
東紺屋31A土坑



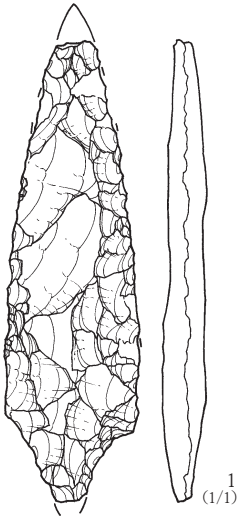
東紺屋30土坑



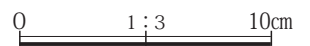
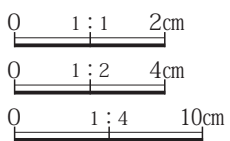
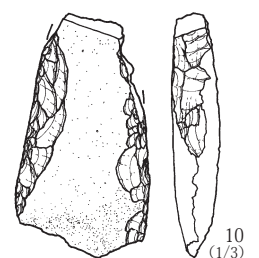
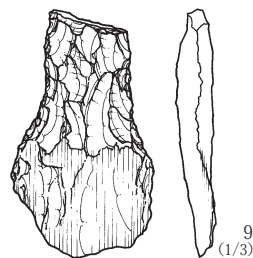
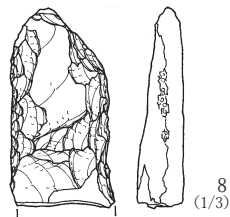
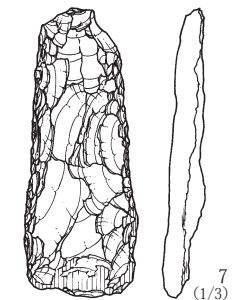
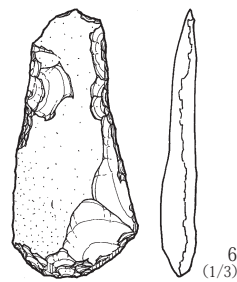
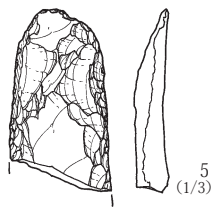
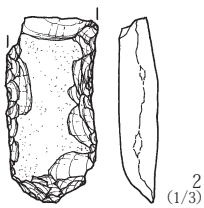
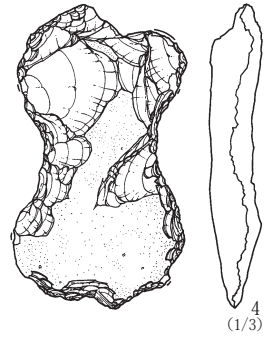
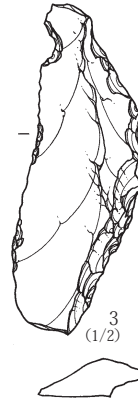
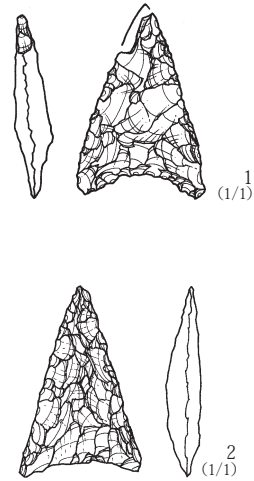
東紺屋189ピット



東紺屋遺構外石器

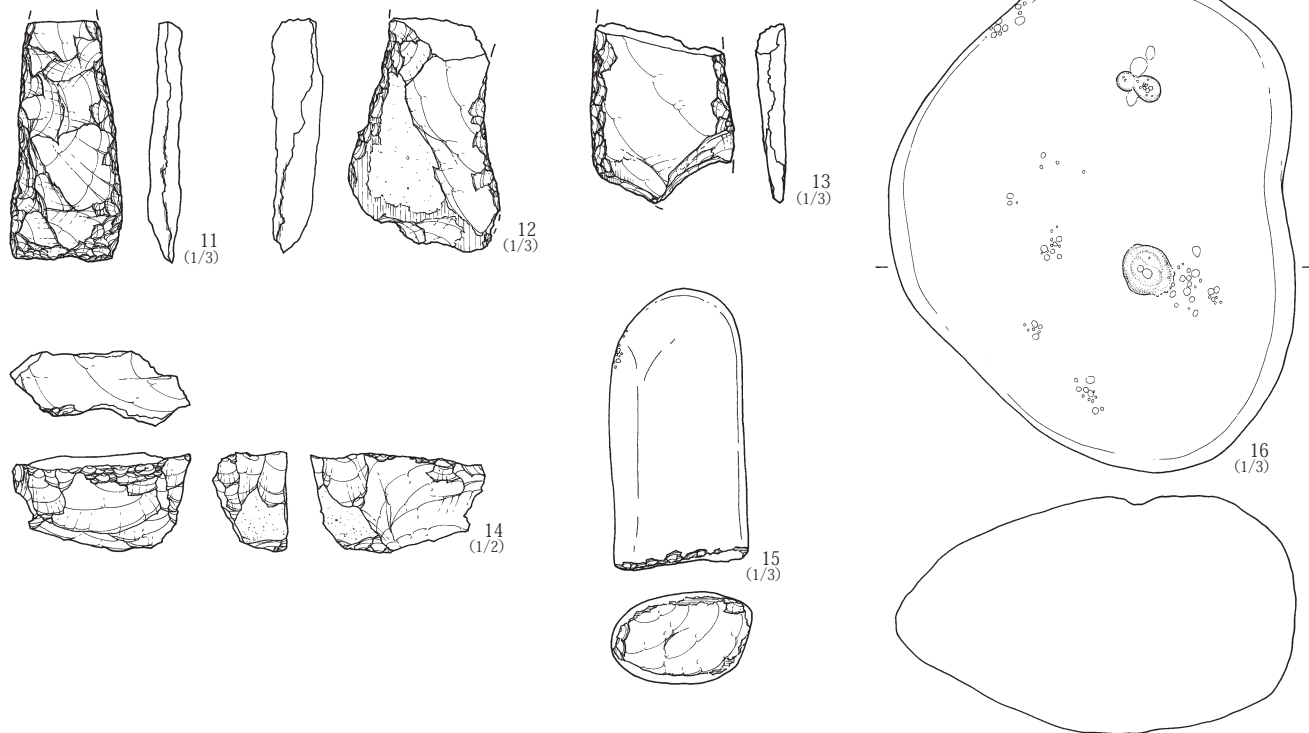


天王遺構外石器(1)

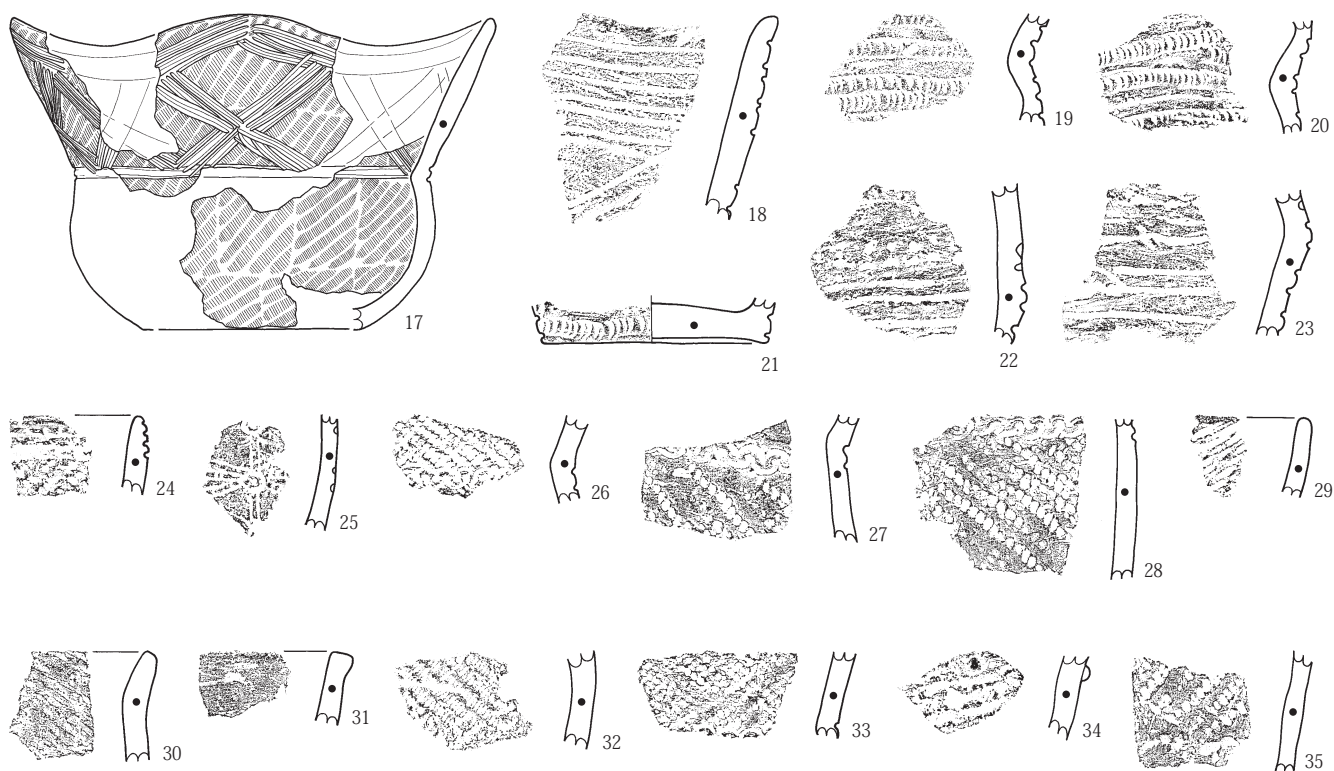


第244図 東紺屋10・17・20・30・31A土坑、189ピット出土遺物、東紺屋遺構外石器、天王遺構外石器

天王遺構外石器(2)



天王遺構外縄文土器(1)



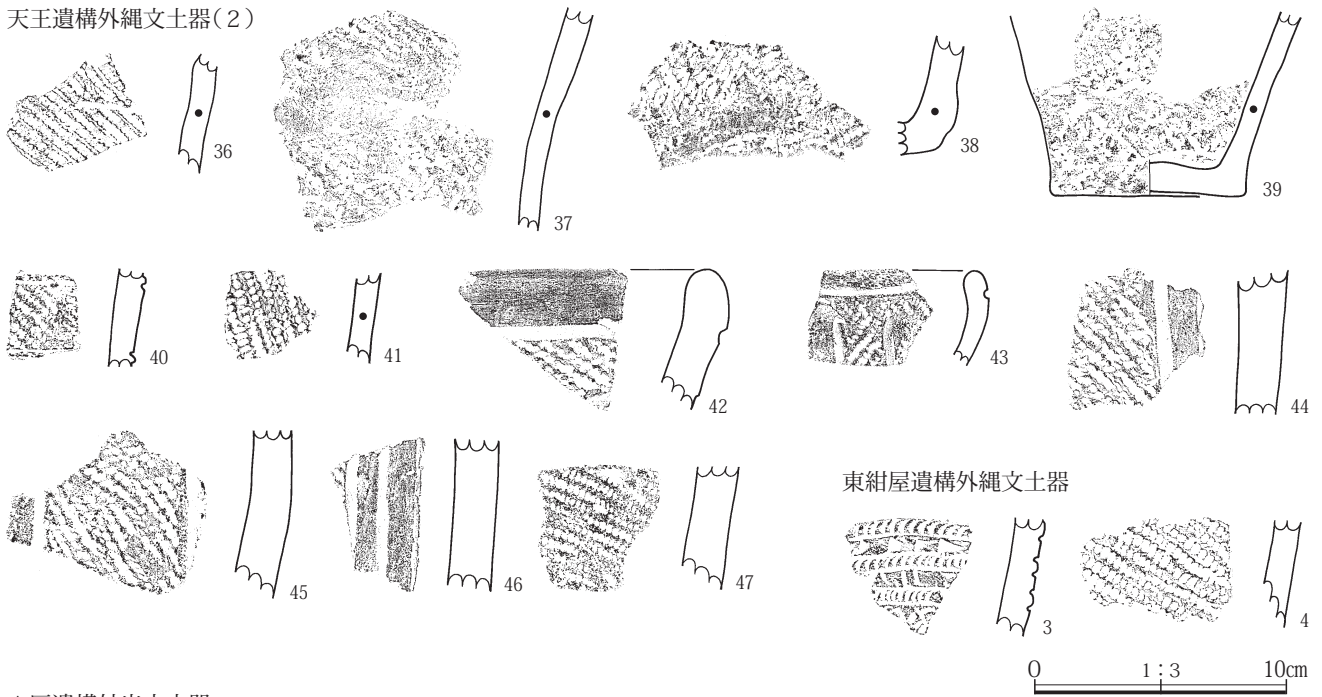
0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

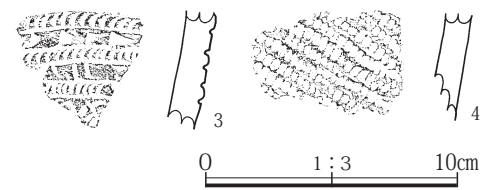
第245図 天王遺構外石器・縄文土器

第4章 検出された遺構と遺物

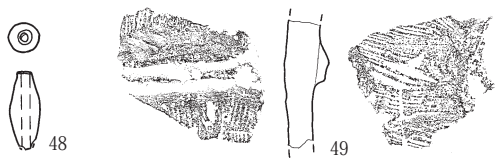
天王遺構外縄文土器(2)



東紺屋遺構外縄文土器



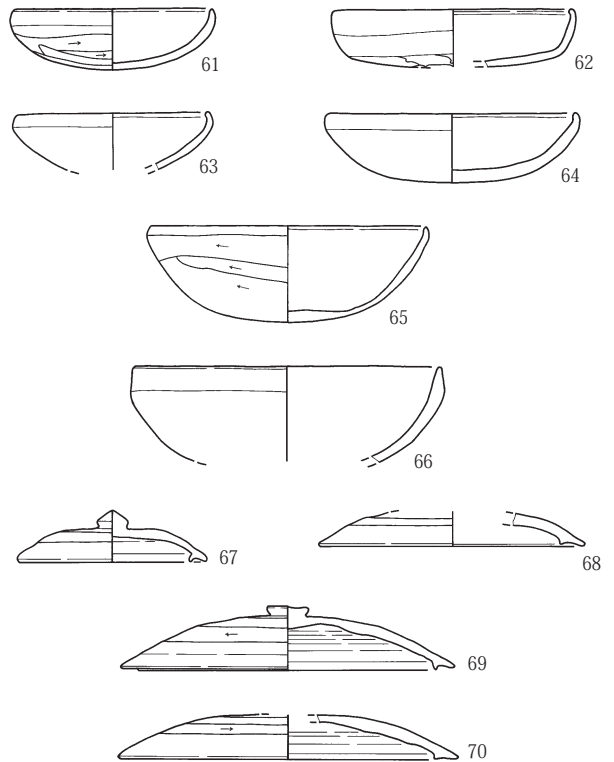
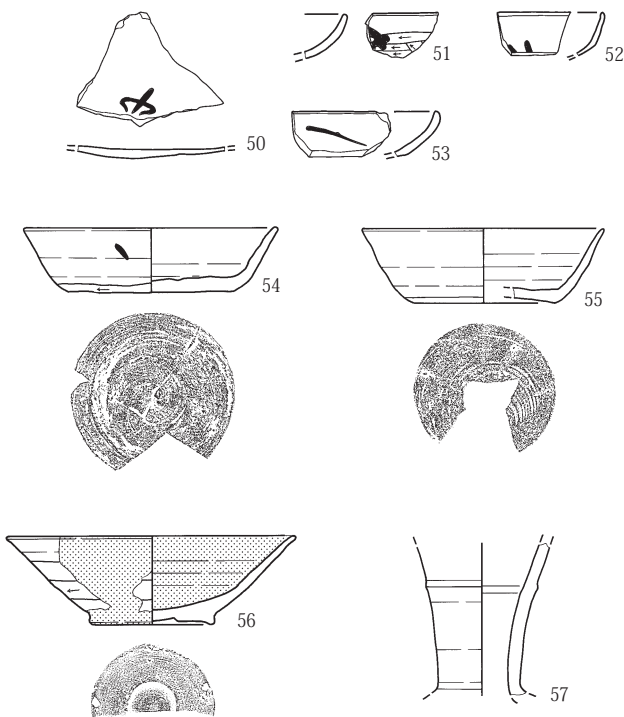
A区遺構外出土土器



C区遺構外出土土器(1)



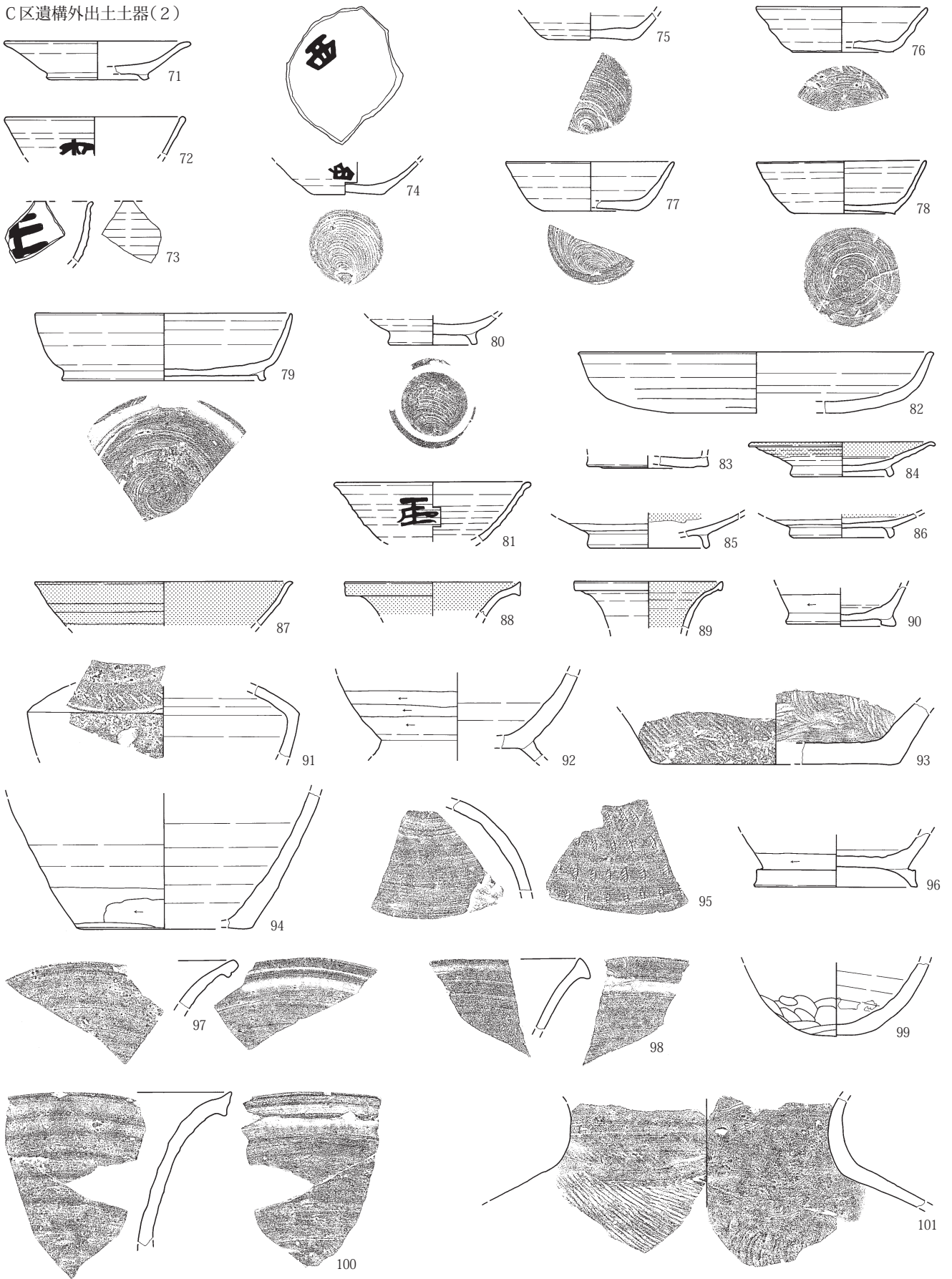
B区遺構外出土土器



0 1:4 10cm

第246図 天王遺構外縄文土器 東紺屋遺構外縄文土器、天王A・B・C区遺構外出土遺物

C区遺構外出土土器(2)

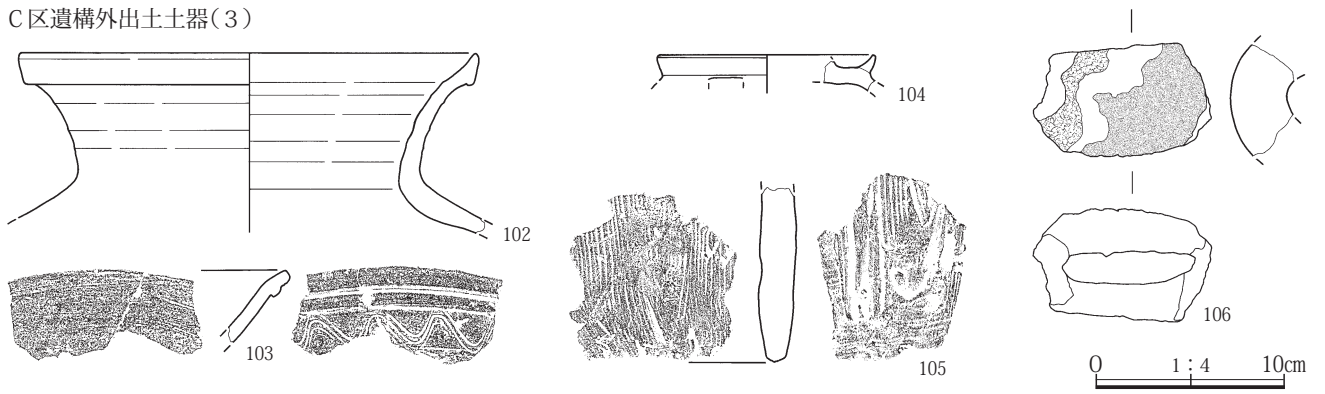


0 1:4 10cm

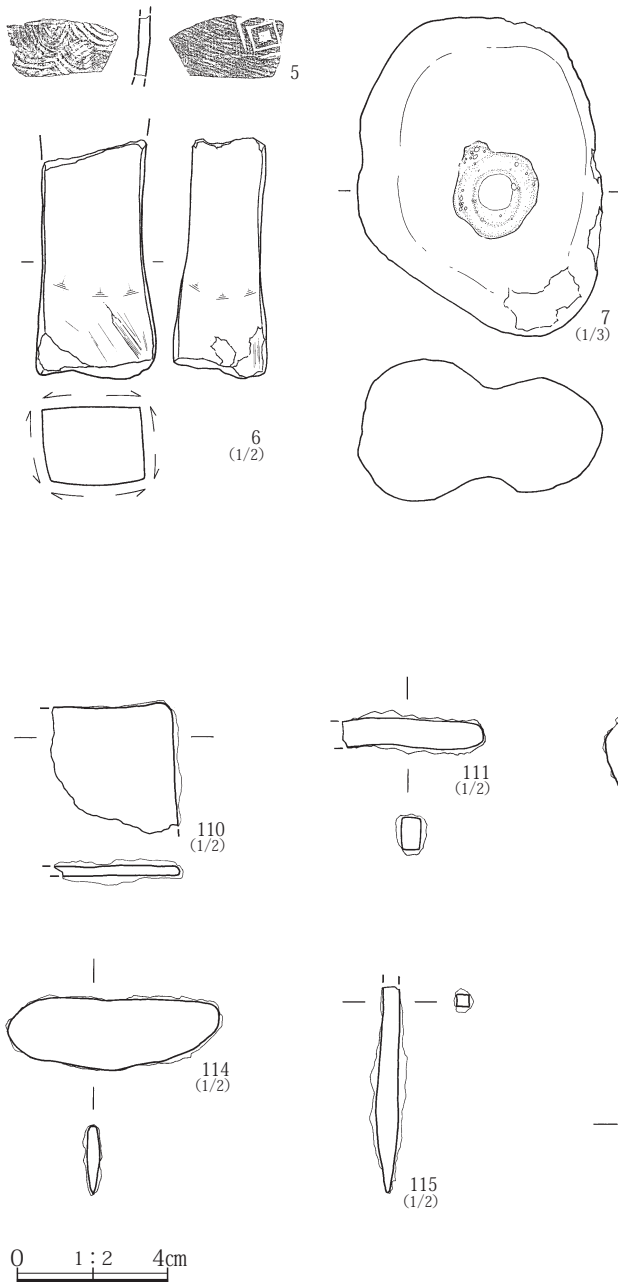
第247图 天王C区遺構外出土土器

第4章 検出された遺構と遺物

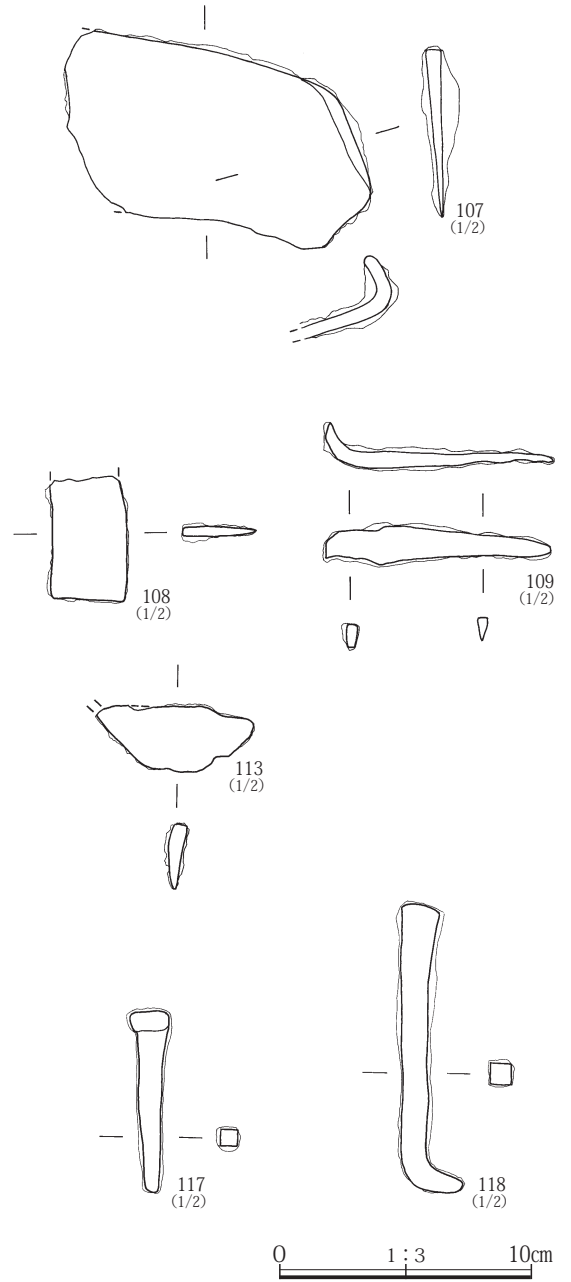
C区遺構外出土土器(3)



東紺屋遺構外遺物



天王遺構外金属



第248図 天王C区遺構外出土遺物、東紺屋遺構外出土遺物、天王遺構外金属

第5章 自然科学分析

第1節 同定・鑑定の目的

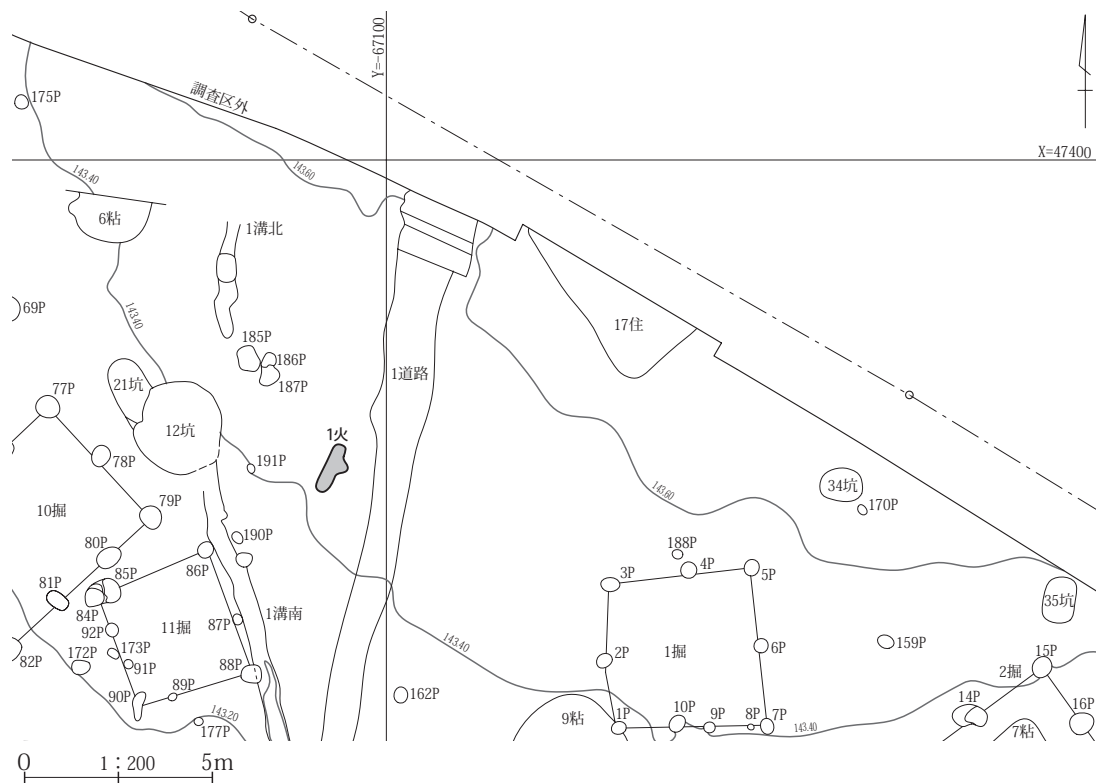
天王・東紺屋谷戸遺跡では、東紺屋谷戸遺跡で1火葬跡を発見した。当初、「火葬墓」と想定していたが、出土状態・遺物の内容から、墓ではなく、火葬跡であると判断した。火葬跡からは炭化物とともに人骨の破片が出土した。

そこで、炭化物の樹種が同定可能ならば、近隣で入手可能な樹木を燃料としているかどうかをみることができ、地元樹木を利用し、自然環境と一致していたと推定することができる。また、出土した人骨破片から男女の区別・年齢等を推定できるか、鑑定を依頼した。出土地点は東紺屋谷戸遺跡のほぼ中央部に位置する1火葬跡である。炭化材の同定は、第2節の通りである。

第2節 出土炭化材の同定

東紺屋谷戸遺跡1火葬跡出土炭化材の同定

名称	遺構	No.	樹種	備考	同定特徴
炭化木材	1火葬跡	2	マツ属	丸木中心部髓周辺に、燃烧によるタールと見られる発泡した黒色付着物が樹心に沿って存在する。炭化材の周囲に、一部未炭化の木材が残存する。また年輪の間をぬうように微小な昆虫の食痕がめぐる。炭化物は1つの容器の中に多数の破片がサンプリングされていたが、全体を見渡したところほとんどが同一材の破片とみられる。	針葉樹。垂直および水平樹脂道が多く散在する。早材部から晩材部仮道管の大きさ・壁厚の変化少ない。ただし炭化した材断面では晩材部仮道管の割れ口が光り年輪が明瞭に見える。分野壁孔は窓状。



第249図 東紺屋谷戸遺跡の1火葬跡

第3節 東紺屋谷戸遺跡出土火葬人骨

はじめに

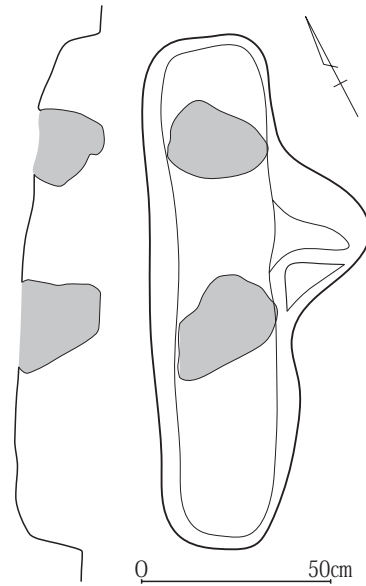
東紺屋谷戸遺跡は、群馬県前橋市(調査時は、富士見村時沢)に所在する。国道17号(上武道路)改築事業に伴い、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成20(2008)年9月～平成21(2009)年3月まで実施された。

本遺跡では、主に奈良・平安時代の住居が検出されている。本遺跡の1火葬跡より、中世の火葬人骨が出土したので以下に報告する。

1. 火葬人骨の出土状況

火葬人骨は、主体部が長軸約137cm・短軸約37cmの規模で、東側長辺の突出部が東西約20cm・南北約30cmの規模の隅丸長方形土坑から出土している。主体部の長軸方向は、ほぼ南北である。

本土坑の形状は、群馬県出土中世火葬遺構では典型的であり、長方形の主体部と主体部の長辺に突出部を持つタイプⅡに分類される(檜崎 2007)。分析された165基中、55基が認められており、全体の33.3%となる。この



第251図 東紺屋谷戸遺跡1火葬跡平断面図 (1/20)

タイプⅡの長軸方向平均は119cm [75cm～205cm]・短軸方向平均は68cm [20cm～195cm]であり、本土坑は、平均よりも長軸が長く短軸が短い傾向にある。

本土坑主体部には大礫が2点認められたが、タイプⅡの165基中、17基(10.3%)に礫が認められている。この礫は、遺体を納めた棺の燃焼効率を高めるためだと推定される。



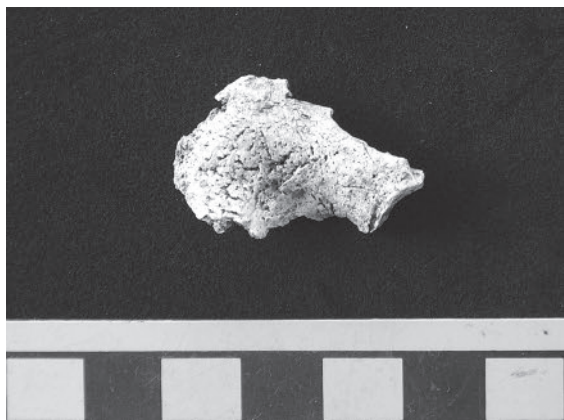
第250図 東紺屋谷戸遺跡1火葬跡全景 南から

2. 火葬人骨の出土部位

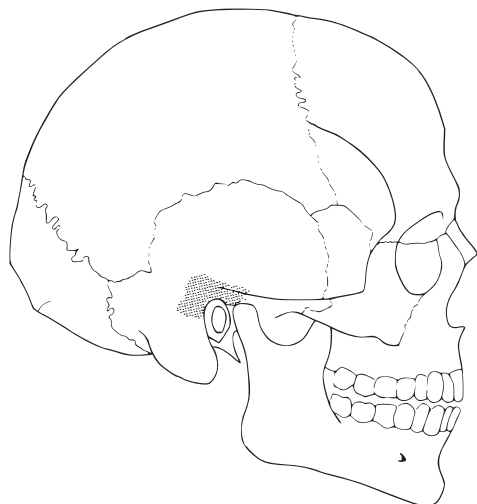
火葬人骨の残存量は、少ない。総重量は、88gである。火葬人骨の出土部位は、少しずつ頭蓋骨片から四肢骨片までの全身に及ぶ。

3. 火葬方法

火葬人骨の色は白色を呈しているため、火葬の際の温度は約900℃以上であると推定される。火葬人骨には、歪み・捻れ・亀裂が認められるため、白骨化したものを



第252図 東紺屋谷戸遺跡1 火葬跡出土人骨(右側頭骨)



第253図 東紺屋谷戸遺跡1 火葬跡出土人骨出土部位図

火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。群馬県出土中世火葬遺構出土人骨45体中、火葬人骨の残存量が少ないために判定ができなかった11体を除く34体(約76%)すべてが死体をそのまま火葬にしたと推定されている(榑崎 2008)。

4. 被火葬者の頭位・焼成状態

火葬人骨は一括して取り上げられており、出土位置が不明であるため被火葬者の頭位は不明である。しかしながら、群馬県出土火葬人骨で頭位が判明したものは土坑墓と同様に北が多いため、本被火葬者も同様である可能性が高い。群馬県出土中世火葬遺構出土人骨45体中、頭位が判明した8体はすべて北であった(榑崎 2008)。

本被火葬者は、成人女性と推定されている。土坑の規模から、伸展位では不可能であるため、屈位で焼成したと推定される。ちなみに、元北里大学の故平本嘉助による大腿骨を使用した身長推定によると、中世時代人の内、鎌倉時代人の男性平均身長は159.0cm [152.9cm～166.7cm]・同女性平均身長は144.9cm [140.3cm～148.6cm]である。また、室町時代人の男性平均身長は156.8cm [148.8cm～166.3cm]・同女性平均身長は146.6cm [137.7cm～152.9cm]である(平本 1972)。

5. 副葬品

副葬品は、検出されていない。

6. 被火葬者の個体数

火葬人骨の残存量は少ないが、明確な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨45体の分析では、45体すべてが1個体であると推定されている(榑崎 2008)。

7. 被火葬者の性別

火葬による収縮を考慮しても、頭蓋骨片の厚さが薄く四肢骨片も華奢で小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨45体の分析では、火葬人骨の残存量が少なく性別不明とされた12体を除く33体の内訳は、男性9体(27%)・女性24体(73%)と女性が多いことが報告されている(榑崎 2008)。

8. 被火葬者の死亡年齢

死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないため、被火葬者の死亡年齢は不明である。恐らく、成人で

あると推定される。群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨45体の分析では、火葬人骨の残存量が少なく死亡年齢不明とされた11体を除く34体の内訳は、約20歳代6体・約30歳代9体・壮年3体・約40歳代3体・成人13体と報告されている(榑崎 2008)。

9. 収骨(拾骨)方法

火葬人骨の残存量は少ないため、現代の東日本でも一般的に行われている丁寧に収骨(拾骨)する、全部収骨の結果であると推定される。群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨45体の分析では、全部収骨する東日本タイプの収骨方法は39基(約86.7%)、一部しか収骨しない西日本タイプの収骨方法は6基(約13.3%)と報告されている(榑崎 2008)。

10. まとめ

東紺屋谷戸遺跡の1火葬跡から、中世の火葬人骨が出土した。火葬人骨は、成人女性1体であり、屈位で火葬にしたと推定される。また、収骨方法は、全部収骨する東日本タイプであると推定される。

引用文献

榑崎修一郎2007 群馬県出土中世火葬遺構、『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』、25:101-120

榑崎修一郎2008 群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨、『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』、26:91-118

平本嘉助1972 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化、『人類学雑誌』、80: 2211-236

第6章 総括

第1節 科学分析の成果

今回の分析では、東紺屋谷戸遺跡1火葬跡で出土した骨片を鑑定した結果、900℃以上で火葬され、遺体を火葬したと推定された。火葬された人骨は成人女性一体で、屈位で火葬され、骨全部を収容する仕方であったと推定された。火葬に利用された燃料は、マツ属と同定された。近隣で入手可能な燃料を利用して、火葬したと推定したい。墓は発見されていないので、埋葬は別の場所を想定しなければならないが、調査区域のなかではないことは確実である。

第45表 天王・東紺屋谷戸遺跡 菰編石の計測値・石材の一覧表

区	遺構名	石 材	取上げNo.	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考(整理番号)
A	7住	アプライト	7	5.9	13.2	4.9	533.5	7住-1
A	7住	変質安山岩	8	5.1	12.6	4.4	432.1	7住-2
A	7住	変質安山岩	9	6.7	12.0	3.1	378.0	7住-3
A	7住	変質安山岩	10	7.6	14.2	3.6	559.7	7住-4
A	7住	変質安山岩	5	5.6	26.7	4.3	551.8	7住-5
A	7住	細粒輝石安山岩	6	6.2	11.8	3.2	471.8	7住-6
B	5住	粗粒輝石安山岩	3	7.9	15.5	5.0	719.8	5住-1
B	5住	粗粒輝石安山岩	5	6.1	11.9	3.1	318.2	5住-2
B	5住	粗粒輝石安山岩	6	5.3	13.9	5.0	463.0	5住-3
B	5住	粗粒輝石安山岩	7	7.6	14.5	3.8	628.3	5住-4
B	5住	ひん岩	9	6.0	11.8	3.4	334.8	5住-5
B	5住	変質安山岩	10	6.6	14.8	5.7	808.4	5住-6
B	5住	粗粒輝石安山岩	11	7.2	14.9	4.6	683.5	5住-7
B	5住	粗粒輝石安山岩	12	5.9	11.4	4.8	462.9	5住-8
B	5住	粗粒輝石安山岩	13	5.2	12.3	4.1	323.5	5住-9
B	5住	ホルンフェルス	14	6.0	14.3	3.8	491.0	5住-10
B	5住	変質安山岩	15	6.7	13.8	3.3	419.5	5住-11
B	5住	溶結凝灰岩	16	5.8	10.9	3.4	274.5	5住-12
B	5住	変質安山岩	17	5.5	14.6	3.2	324.0	5住-13
B	5住	ホルンフェルス	18	5.9	12.1	4.2	471.7	5住-14
B	5住	石英閃緑岩	19	6.6	13.2	3.8	466.6	5住-15
B	5住	細粒輝石安山岩	20	5.6	12.2	2.4	293.1	5住-16
B	5住	粗粒輝石安山岩	21	6.5	11.5	3.8	417.7	5住-17
B	5住	粗粒輝石安山岩	22	6.3	12.0	3.2	365.6	5住-18
B	5住	石英閃緑岩	23	5.8	13.4	4.6	496.9	5住-19
B	5住	ホルンフェルス	4+8	6.1	15.2	4.8	692.9	5住-20
B	21住	変質安山岩	33	7.8	16.6	4.5	940.7	21住-1
B	21住	粗粒輝石安山岩	床下44	6.4	18.5	3.5	654.6	21住-2
B	21住	石英閃緑岩	23	8.2	14.7	3.8	819.2	21住-3
B	21住	粗粒輝石安山岩	31	7.0	16.8	4.4	671.3	21住-4
B	21住	粗粒輝石安山岩	27	6.0	13.2	4.0	535.8	21住-5
B	21住	石英閃緑岩	34	6.0	13.2	3.6	463.2	21住-6
B	21住	粗粒輝石安山岩	30	6.6	13.5	4.0	637.1	21住-7
B	21住	変質安山岩	37	5.5	15.8	4.1	545.9	21住-8
B	21住	石英閃緑岩	32	6.4	19.5	4.6	950.4	21住-9
B	21住	粗粒輝石安山岩	43	7.8	16.0	4.3	844.3	21住-10
B	21住	溶結凝灰岩	28	6.6	14.4	4.6	638.4	21住-11
C	27住	黒色頁岩	16	5.0	14.5	4.0	497.6	27住-1
C	27住	石英閃緑岩	15	4.9	12.7	4.3	395.9	27住-2
C	27住	変質安山岩	一括	4.8	13.4	4.3	430.0	27住-3
C	27住	変質安山岩	一括	5.0	11.0	3.1	282.2	27住-4
C	27住	細粒輝石安山岩	14	6.2	12.3	3.7	405.7	27住-5
C	30住	粗粒輝石安山岩	11	5.4	12.7	5.3	498.7	30住-1
C	30住	粗粒輝石安山岩	5	5.8	10.2	4.5	273.9	30住-2
C	30住	粗粒輝石安山岩	6	4.5	11.8	4.7	405.7	30住-3
C	30住	変質安山岩	9	6.0	8.2	3.3	279.1	30住-4
C	30住	変質安山岩	一括掘り方	6.2	16.0	3.5	610.0	30住-5

第2節 遺物の特徴

1 菰編石

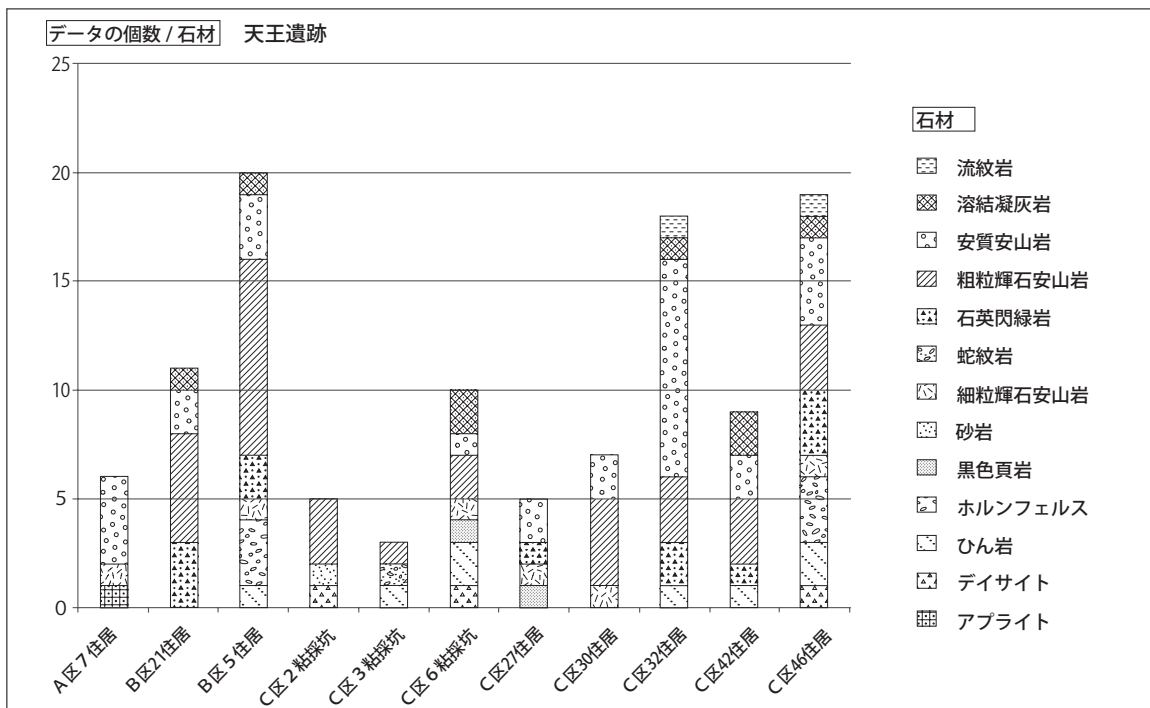
天王・東紺屋谷戸遺跡から出土した、いわゆる「菰編石」を、大きさの縦・横比、石材比率で分析した結果第254図を掲載する。石材は県内の利根川で入手可能なものであるとの同定結果を得ている。重量・大きさは、手頃な大きさ=手に持って移動でき、かつ比較的簡単に動かせるが菰の縦糸を引くに十分な重さがあると推定される(第45表)。

以下、計測値・石材の一覧表とグラフを示す。本分析は当事業団岩崎泰一の手になるものである。

第6章 総括

区	遺構名	石 材	取上げNo.	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考(整理番号)
C	30住	粗粒輝石安山岩	12	5.5	15.0	3.7	460.8	30住-6
C	30住	細粒輝石安山岩	4	3.2	11.2	3.5	192.5	30住-7
C	32住	変質安山岩	44	6.2	16.8	4.8	773.9	32住-1
C	32住	変質安山岩	43	4.4	12.2	3.5	258.9	32住-2
C	32住	石英閃緑岩	47	5.5	15.7	4.2	590.0	32住-3
C	32住	変質安山岩	32	6.4	13.4	4.2	502.9	32住-4
C	32住	ひん岩	20	5.9	13.0	4.4	427.0	32住-5
C	32住	粗粒輝石安山岩	23	4.8	12.0	4.2	314.1	32住-6
C	32住	石英閃緑岩	21	7.1	12.5	4.1	569.3	32住-7
C	32住	変質安山岩	12	5.7	14.9	4.3	519.1	32住-8
C	32住	変質安山岩	13	6.0	15.6	5.2	638.6	32住-9
C	32住	変質安山岩	19	5.7	12.7	4.6	433.6	32住-10
C	32住	変質安山岩	46	3.7	11.6	4.1	278.2	32住-11
C	32住	溶結凝灰岩	38	4.8	10.6	3.7	275.0	32住-12
C	32住	変質安山岩	10	5.7	13.7	3.8	434.1	32住-13
C	32住	変質安山岩	22	(6.2)	(11.5)	4.1	400.8	32住-14
C	32住	変質安山岩	48	4.8	(8.5)	4.0	265.4	32住-15
C	32住	流紋岩	28	5.1	(6.5)	4.5	193.1	32住-16
C	32住	粗粒輝石安山岩	40	7.1	(9.4)	3.8	369.4	32住-17
C	32住	粗粒輝石安山岩	49	(5.4)	(8.4)	4.4	241.6	32住-18
C	42住	粗粒輝石安山岩	7	5.9	13.3	5.8	710.4	42住-1
C	42住	溶結凝灰岩	8	6.7	14.3	5.0	643.9	42住-2
C	42住	ひん岩	9	6.6	13.3	3.5	508.2	42住-3
C	42住	変質安山岩	10	5.9	14.9	4.5	587.2	42住-4
C	42住	石英閃緑岩	11	7.0	13.5	5.5	760.9	42住-5
C	42住	粗粒輝石安山岩	15	6.8	14.1	4.0	531.0	42住-7
C	42住	変質安山岩	16	6.8	17.4	3.7	638.4	42住-8
C	42住	粗粒輝石安山岩	13	6.2	15.7	4.9	607.6	42住-9
C	42住	溶結凝灰岩	12	(5.9)	(11.7)	3.7	287.6	42住-6
C	46住	粗粒輝石安山岩	4	6.1	10.2	2.9	303.9	46住-1
C	46住	デイサイト	7	4.7	11.4	3.1	258.2	46住-2
C	46住	流紋岩	10	7.0	15.7	5.1	827.4	46住-3
C	46住	石英閃緑岩	12	6.2	14.7	4.8	677.0	46住-4
C	46住	ホルンフェルス	19	5.2	12.0	3.0	367.1	46住-7
C	46住	変質安山岩	28	5.0	12.5	3.4	331.2	46住-8
C	46住	石英閃緑岩	30	6.8	13.0	5.3	698.9	46住-9
C	46住	変質安山岩	32	6.8	14.4	3.9	555.6	46住-10
C	46住	変質安山岩	34	4.7	12.5	4.5	368.2	46住-11
C	46住	ひん岩	38	5.4	12.3	3.7	356.6	46住-12
C	46住	粗粒輝石安山岩	41	7.0	15.0	5.1	837.1	46住-13
C	46住	粗粒輝石安山岩	42	6.7	15.5	4.7	713.0	46住-14
C	46住	ひん岩	43	7.4	13.5	3.5	501.6	46住-15
C	46住	細粒輝石安山岩	47	4.8	12.0	3.9	305.3	46住-16
C	46住	ホルンフェルス	一括	6.2	17.6	4.7	755.1	46住-17
C	46住	ホルンフェルス	掘り方覆土	6.1	11.5	4.5	448.2	46住-18
C	46住	溶結凝灰岩	6	(7.5)	(9.8)	(4.2)	419.4	46住-19
C	46住	石英閃緑岩	13	5.0	(5.4)	3.0	123.8	46住-5
C	46住	変質安山岩	15	5.6	(8.5)	4.0	235.9	46住-6
C	2粘土採掘坑	デイサイト	一括	5.6	13.6	3.8	434.9	2粘土採掘坑-1
C	2粘土採掘坑	粗粒輝石安山岩	一括	4.7	10.0	4.5	318.3	2粘土採掘坑-2
C	2粘土採掘坑	砂岩	一括	6.0	11.3	3.3	304.7	2粘土採掘坑-3
C	2粘土採掘坑	粗粒輝石安山岩	一括	5.7	13.8	3.2	504.0	2粘土採掘坑-4
C	2粘土採掘坑	粗粒輝石安山岩	一括	6.0	12.4	4.4	541.9	2粘土採掘坑-5
C	3粘土採掘坑	粗粒輝石安山岩	一括	5.7	16.1	5.0	691.3	3粘土採掘坑-1
C	3粘土採掘坑	蛇紋岩	一括	6.4	14.7	4.4	615.9	3粘土採掘坑-2
C	3粘土採掘坑	ひん岩	一括	4.9	12.0	2.5	253.3	3粘土採掘坑-3
C	6粘土採掘坑	ひん岩	2	5.8	13.7	5.1	590.9	6粘土採掘坑-1
C	6粘土採掘坑	溶結凝灰岩	4	7.0	17.0	6.1	996.7	6粘土採掘坑-2
C	6粘土採掘坑	溶結凝灰岩	5	5.7	13.8	4.1	391.8	6粘土採掘坑-3
C	6粘土採掘坑	粗粒輝石安山岩	一括	6.5	14.2	3.6	472.7	6粘土採掘坑-4
C	6粘土採掘坑	変質安山岩	一括	5.1	15.5	3.8	392.2	6粘土採掘坑-5
C	6粘土採掘坑	黒色頁岩	一括	6.6	15.5	4.1	669.3	6粘土採掘坑-6
C	6粘土採掘坑	ひん岩	一括	7.0	13.8	5.4	702.2	6粘土採掘坑-7
C	6粘土採掘坑	デイサイト	一括	7.0	13.1	3.0	406.8	6粘土採掘坑-8
C	6粘土採掘坑	粗粒輝石安山岩	一括	6.3	14.7	3.9	487.1	6粘土採掘坑-9
C	6粘土採掘坑	細粒輝石安山岩	一括	4.8	15.4	3.7	442.9	6粘土採掘坑-10

区	遺構名	石 材	幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考(整理番号)
東紺屋谷戸	9c住居	粗粒輝石安山岩	6.2	13.9	3.6	555.7	9c住-1
	9c住居	粗粒輝石安山岩	5.5	14.0	5.4	566.2	9c住-2
	9c住居	変質安山岩	5.3	12.0	3.5	345.0	9c住-3
	9c住居	粗粒輝石安山岩	6.1	12.6	4.0	398.3	9c住-4
	9c住居	粗粒輝石安山岩	5.5	14.1	4.3	533.5	9c住-5
	9c住居	変質安山岩	5.1	12.6	3.1	283.6	9c住-6
	9c住居	石英閃緑岩	5.8	13.9	5.6	730.5	9c住-7
	9c住居	粗粒輝石安山岩	6.0	11.9	4.7	513.3	9c住-8
	9c住居	変質安山岩	5.6	11.7	4.0	513.3	9c住-9



第254図 菰編石長幅比と石材の数量グラフ

2 墨書土器・刻書土器

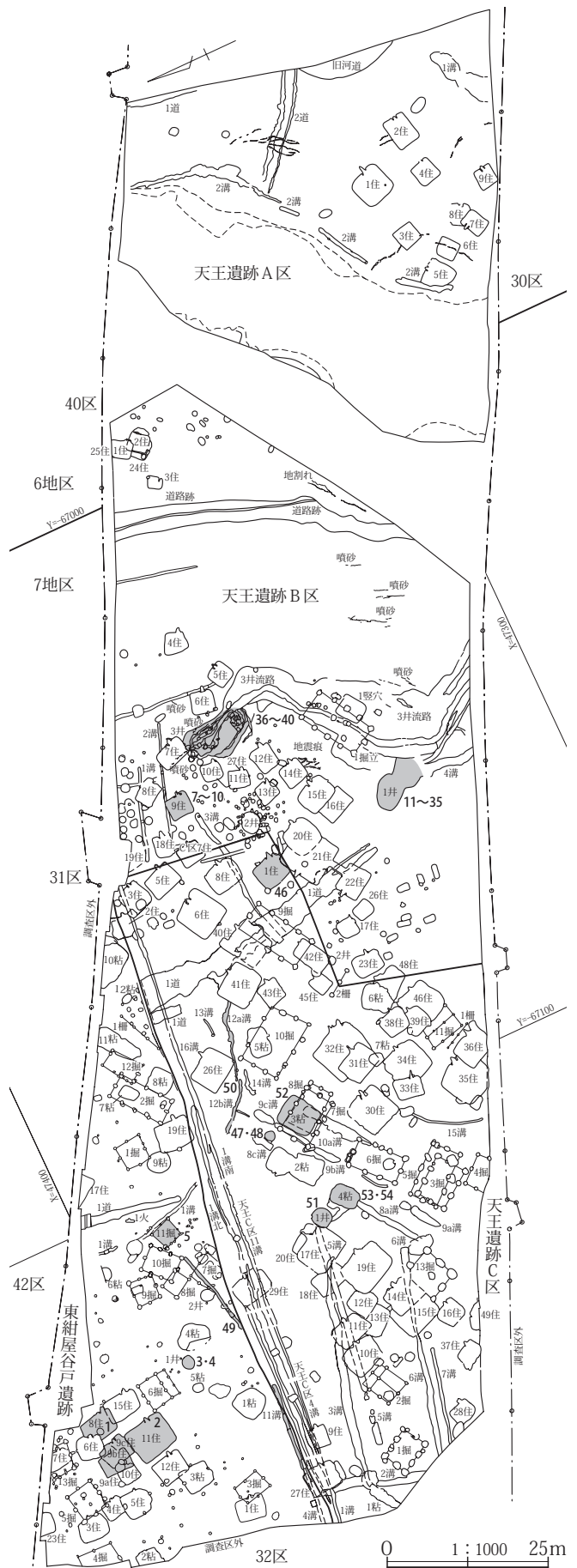
天王・東紺屋谷戸遺跡から59個体の墨書土器、1個体の刻書土器、スタンプされた土器1点が出土した。

刻書土器は「大」と判読された。この文字がどのような意味を持つかは不明である。

スタンプは二重の四角で囲まれた状態で、「同心四角」とでも呼べるような形状である。

墨書土器のうち、判読できた文字には「千」「川」「玉」「○」等がある。これらの文字がどのような意味を持つか、決め手を欠くので、資料を提示するに留める。墨書土器の一覧と、出土位置を表す図を示す。

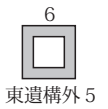
出土位置をみると、B区1井戸から24個体の墨書土器と刻書土器1点、B区3井戸から5個体の墨書土器が出土しており、比較的出土量が多いという傾向を読み取ることができる。また、これらのほかに、円面硯や土器転用硯の破片が出土していることから、この付近に文字を書ける人物がいたことは確かである。

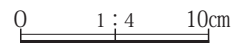
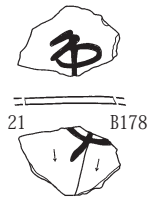
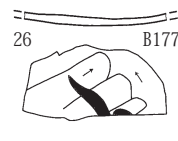
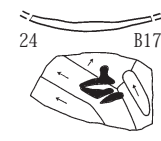
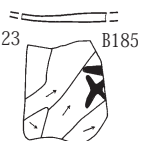
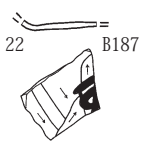
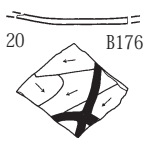
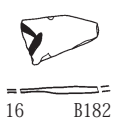
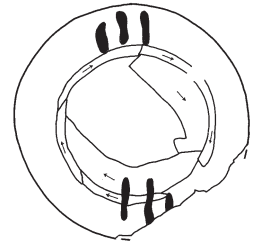
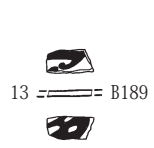
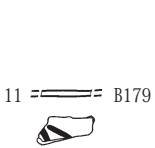
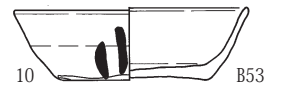
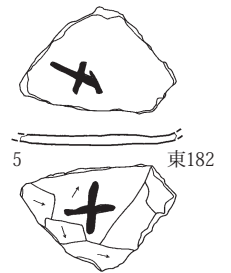
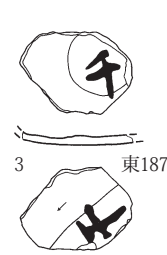
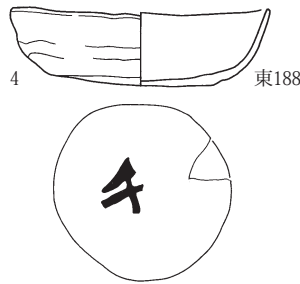
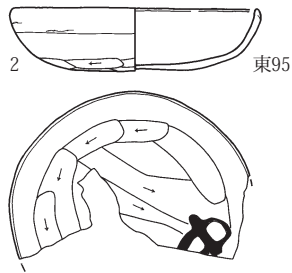
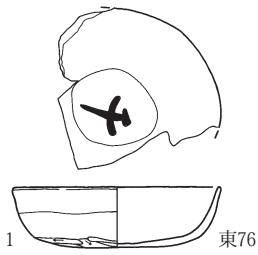
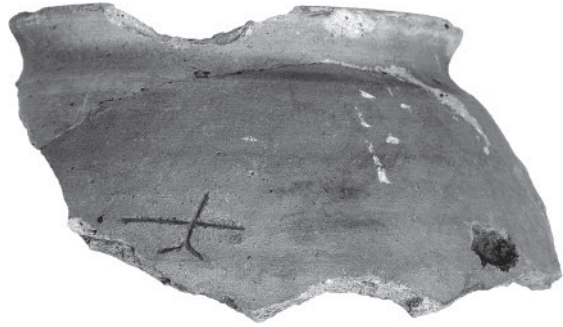
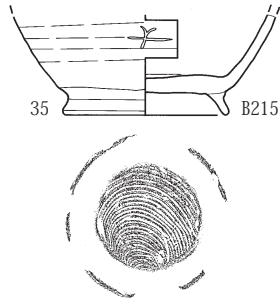
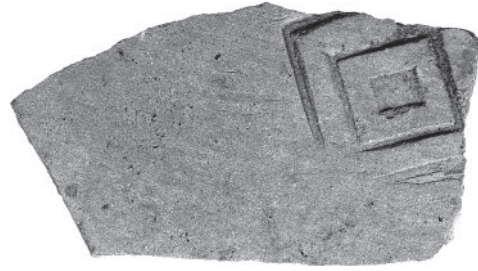


第255図 墨書土器・刻書土器の出土地点

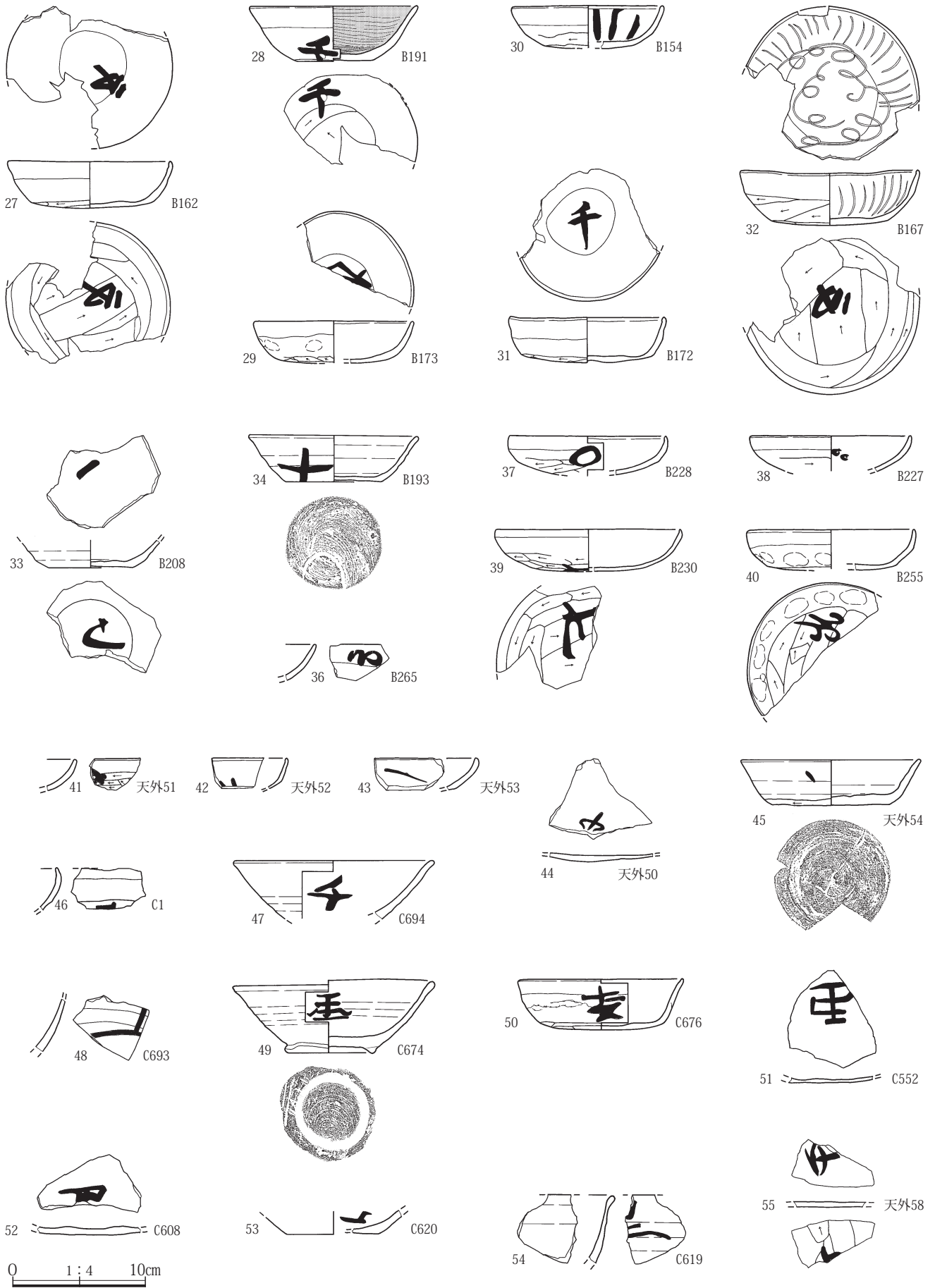
第46表 天王・東紺屋谷戸遺跡 墨書土器・刻書土器一覧表

番号	遺物図掲載番号	区	遺構番号	遺構種	種類	器種	墨書等
1	76	東	8	住居	土師器	杯	底部内面「千」
2	95	東	9・11	住居	土師器	杯	底部外面「中」
3	187	東	1	井戸	土師器	杯	底部内・外面「千」2カ所
4	188	東	1	井戸	土師器	杯	底部内面「千」
5	182	東	11	掘立	土師器	杯	底部外面「十」、底部内面「千」
6	東遺構外5	東		攪乱	須恵器	甕	体部外面焼成前押印□(記号)
7	B50	天B	9	住居	土師器	杯	体部外面正位「川」
8	B51	天B	9	住居	土師器	杯	体部内面「○○」記号か
9	B54	天B	9	住居	須恵器	杯	体部外面正位「川」, 2カ所
10	B53	天B	9	住居	須恵器	杯	体部外面正位「川」, 2カ所
11	B179	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「□」
12	B180	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「十」
13	B189	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内外面2カ所「虫」か
14	B183	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「□」
15	B184	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「□」, 底部外面「□」
16	B182	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「□」
17	B181	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「十」
18	B186	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「和」
19	B188	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「□」
20	B176	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「□」
21	B178	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「虫」, 底部外面「□」
22	B187	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「虫」
23	B185	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「千」
24	B175	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「物」
25	B174	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「中」
26	B177	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「□」
27	B162	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内外面「収」, 2カ所
28	B191	天B	1	井戸	黒色土器	杯	体部外面正位「千」
29	B173	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「□」
30	B154	天B	1	井戸	土師器	杯	体部内面正位「川」
31	B172	天B	1	井戸	土師器	杯	底部内面「千」
32	B167	天B	1	井戸	土師器	杯	底部外面「収」
33	B208	天B	1	井戸	須恵器	杯	底部内面「一」, 底部外面「中」
34	B193	天B	1	井戸	須恵器	杯	体部外面正位「十」
35	B215	天B	1	井戸	須恵器	椀	焼成前刻書, 体部外面倒位「大」
36	B265	天B	3	井戸	土師器	杯	体部外面正位「和」
37	B228	天B	3	井戸	土師器	杯	体部外面正位「○」記号か
38	B227	天B	3	井戸	土師器	杯	体部内面「○○」記号か
39	B230	天B	3	井戸	土師器	杯	底部外面「大」
40	B255	天B	3	井戸	土師器	杯	底部外面「和」
41	天B遺構外51	天B		B区	土師器	杯	体部外面「□」
42	天B遺構外52	天B		B区	土師器	杯	体部内面「□」
43	天B遺構外53	天B		B区	土師器	杯	体部内面正位「一」
44	天B遺構外50	天B	1	トレンチ	土師器	杯	底部内面「中」
45	天B遺構外54	天B	1	トレンチ	須恵器	杯	体部外面正位「八」
46	C1	天C	1	住居	土師器	杯	底部外面「□」
47	C694	天C	36	土坑	須恵器	椀	体部内面正位「千」
48	C693	天C	36	土坑	須恵器	蓋	体部外面「□」
49	C674	天C	11	溝	須恵器	椀	体部内面正位「玉」異体字
50	C676	天C	12	溝	土師器	杯	体部外面正位「壹」
51	C552	天C	1	井戸	土師器	杯	底部内面「虫」
52	C608	天C	3	粘土採掘坑	土師器	杯	底部内面「□」
53	C620	天C	4	粘土採掘坑	須恵器	杯	体部内面「□」
54	C619	天C	4	粘土採掘坑	須恵器	杯	体部外面横位「川」
55	天C遺構外58	天		表土	土師器	杯	底部内面「虫」, 底部外面「□」
56	天表土73	天		遺構外	須恵器	杯	体部内面正位「王」
57	天表土81	天		遺構外	須恵器	椀	体部外面正位「虫」
58	天表土60	天		遺跡一括	土師器	杯	底部内面「□」
59	天表土59	天		遺跡一括	土師器	杯	底部外面「□和」
60	天表土72	天		遺跡南東部	須恵器	杯	体部外面正位「□和」
61	天表土74	天		遺跡一括	須恵器	杯	底部内面「西」

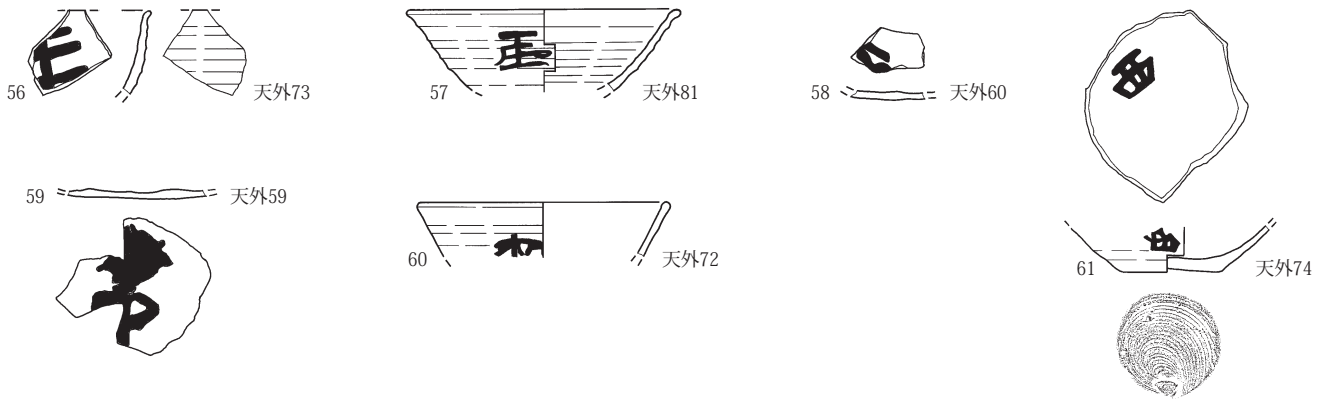




第256図 スタンプ土器、刻書土器、墨書土器(1)



第257図 墨書土器(2)



第258図 墨書土器(3)

3 山形巡方(C240)

天王C区19住居の床面下土坑からオモテ面を上にして、「山形巡方」と呼ばれる出土例の比較的少ない石製巡方が出土した。裏返してみると、一對4カ所に小穴が開いていて、鍔帯(かたい)の飾り具の巡方にみえる。しかし、よく見ると全体の形は正方形だが、二つの角が丸味を帯びていて、以前に見たことのある巡方とは様子が違っていた。出土時点では「石製鉞尾」とも考えられたが、検討の結果、「巡方」の一種であると判定された。

石製品の角が丸味を帯びる辺を天とすると、時計でいえば10時と2時の角が丸みを帯び、中央部で天地41.5mm・左右38.5mm、ウラ面では天地42mm・左右40mmで、縦横とも断面はオモテ面の短い台形である。重さは31g、石材は蛇紋岩製である。オモテ面と側面全周は磨かれて光沢があり、ウラ面は平らになっているが、磨かれていない。石材の色調は濃紺～黒で、中央部に斜めの白い筋が入っている。ウラ面の4カ所に一對の小穴が開けられ(潜り穴式と呼ばれる)、そこに緑青色の金属質の針金がみられることから、銅線を用いて革帯に装着したと推定される。

鍔帯は官位を授けられた役人が身に付けるベルトで、革帯外面に巡方と丸軛と呼ばれる飾り金具を取り付け、金具の色や数量で官位を表す。当初の飾り金具の材質は金属製だったが、8世紀末の規制によって石製のものが出現するという。

群馬県内出土例の多くは住居などから単体の巡方や丸軛が出土し、おおむね奈良～平安時代に属する。本例を

出土した住居は土器の特徴から、平安時代の9世紀後半ころに営まれたとみられる。

当事業団石田典子が集成した資料によると、群馬県内出土の鍔帯飾り具の報告数は250個を越えており、そのうち石製品は88個、石製鉞尾は8個ある。本例類似の県内出土品に、上野国分僧寺・尼寺中間地域D区1号住居出土のものがある。一對3カ所に小孔が開けられ、丸味のある辺を天とすると天地28mm・左右38mmほどのやや扁平な形状で、一對の小孔は天近くに開けられている。この種の出土品は蒲鉾形巡方・山形巡方などの名称で呼ばれ、国分寺中間地域の出土品は山形巡方の一つと考えられている。鉞尾の多くが3カ所留めで、かつ細長い形で先端を細くしたり尖った状態にするものが多いのに対し、今回の出土品は4カ所留めで全体が方形を呈しており、やはり山形巡方の一種と考えられる。

[参考文献]

石田典子「2 上西根遺跡出土の金属製品,第19表群馬県内出土腰帯具一覧」『新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡(1)』群埋文565集,2013

田中広明「律令時代の身分表象(I)」『土曜考古』15,1990

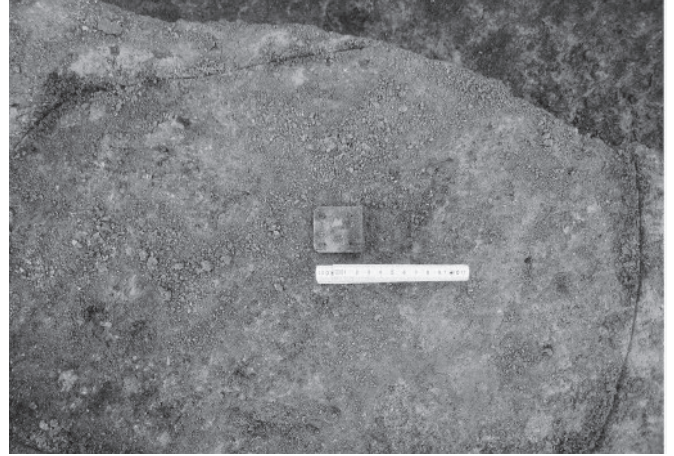
田中広明「律令時代の身分表象(II)」『土曜考古』16,1991

『鍔帯をめぐる諸問題』奈良文化財研究所,2002

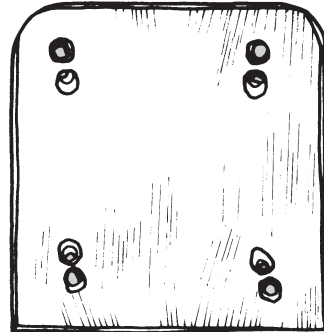
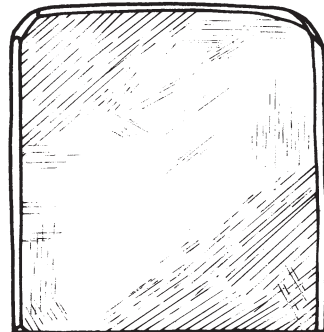
『上野国分僧寺・尼寺中間地域3』関越道新潟線24集(群埋文86集),1988



▲天王C区19住居 山形巡方(C240)出土状況



▲山形巡方(C240)裏面



C240

0 1:1 2cm

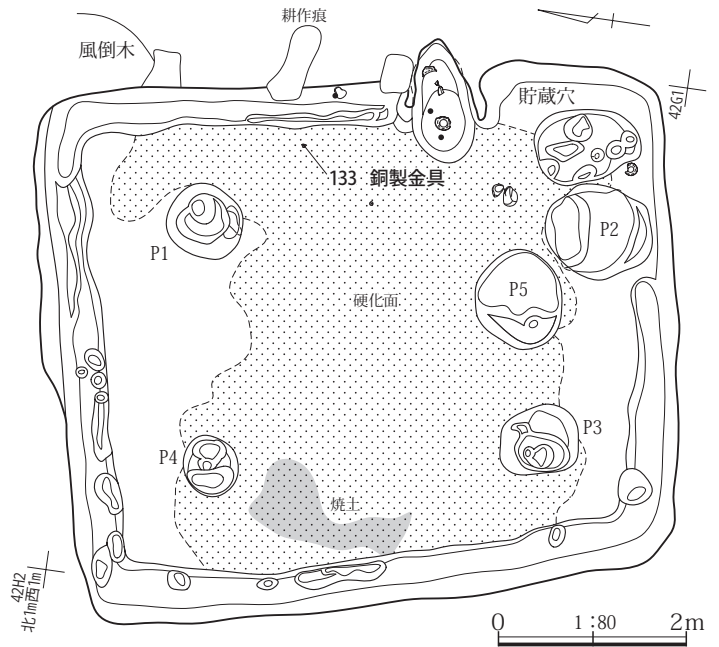
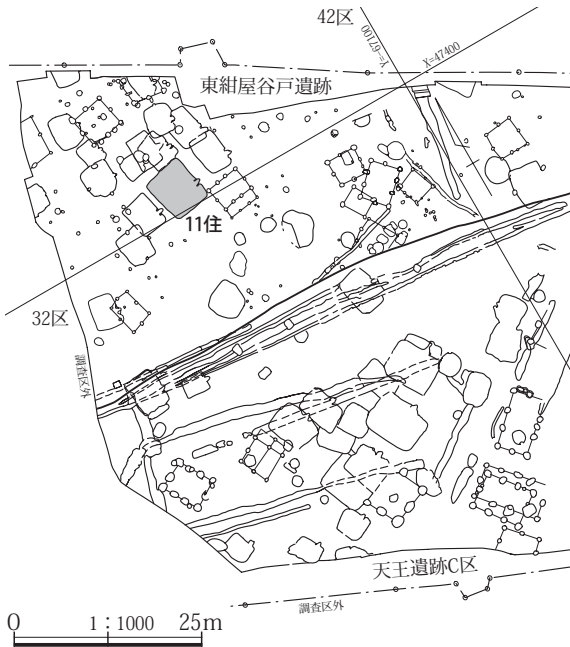
第259図 山形巡方の出土状態

4 不明銅製品(東紺屋133)

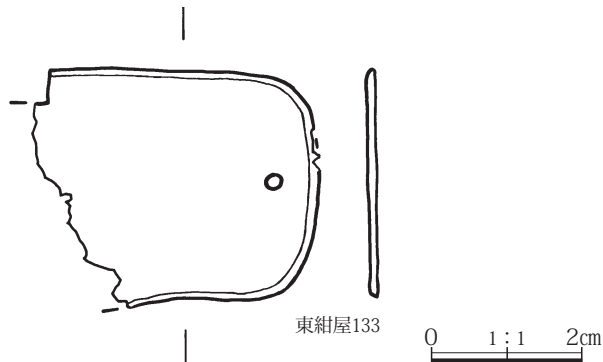
東紺屋谷戸遺跡11住居から、銅製品が出土した。出土した時点では「鉈尾」と考えられたが、錆を除去して全体の形状が判明すると、鉈尾とは異なる形状をもっている

ことが分かり、「不明銅製品」とせざるを得なかった。

掲載した図は、当座の天地を示しており、正しい図とは限らない。図中下位の部分は明らかに原形を留めており、外側へ湾曲する形状をもっている。右端に小孔が開く。鉈尾の裏金具か。



▲東紺屋11住居 銅製金具(133)出土状況



第260図 不明銅製品の出土状態

第3節 遺構の特徴

1 廊下状遺構をもつ住居

天王B区21-22住居は長さ2.3m・幅1.0mの略長方形を呈する土坑状の遺構で連結されていた。当初、長方形土坑が二つの住居に重複していると想定し、掘り下げを進めたところ、長辺沿いに壁溝のような浅い溝が検出され、この溝が二つの住居の壁溝につながる事が解り、住居と一連の遺構であることが判明した。ここでは「廊下状遺構」と仮称する。廊下状遺構の底面には小穴がいくつか認められたが、柱穴らしい掘り込みは発見できず、床面水準では南北の長辺沿いの壁溝のみである(第261図)。

21・22住居との境界部には柱穴とみられる掘り込みがあり、「木戸」状の施設が存在した可能性がある。二つの住居の屋根の葺き下ろしを想定すると、廊下状遺構の上位には両住居の屋根が覆っていたとも考えられる。この点、建築学的な考察を待ちたい。

県内の類例には、下東西遺跡SJ27例があり、この遺構は早くに注目されている(第262図1)。廊下状遺構の規模は幅1.1mで、長さが11mと長大であり、床面は硬く締まっている。時代・時期は奈良時代の8世紀前半とされている。

これに似た例として、東京都府中市の武蔵国府関連遺跡809次調査「府中宮町マンション地区」例がある(第262図2)。廊下状遺構は幅1.2~1.8m・長さ4mで、底面は硬質である。西側の住居と廊下状遺構から出土した土器により、古墳時代後期の7世紀後半とされている。近隣の調査区でも酷似した遺構が発見されており、こちらは8世紀前半の所産とされ、この付近に古墳時代後期には「官衙的施設」が置かれていたと推定されている。

天王遺跡B区21-22住居の場合、検出状況では同時に使用されたかは不明だが、同時に存在していたことは確実であろう。21住居・22住居とも、出土遺物の特徴から、7世紀後半の所産と推定され、府中市の例に近似する。官衙または居館跡と推定される遺跡、またはその近くで連結された住居が検出されたとしても、その逆の、廊下状遺構で連結された住居があるから、付近に官衙的施設

が存在するとはいえないため、今後の周辺遺跡の調査を待ちたい。

[文献]

『下東西遺跡』群埋文,1987

和田信行「古墳時代後期の特殊住居-廊下によって連結された竪穴住居-」『東京考古』東京考古談話会,1995

2 溜井

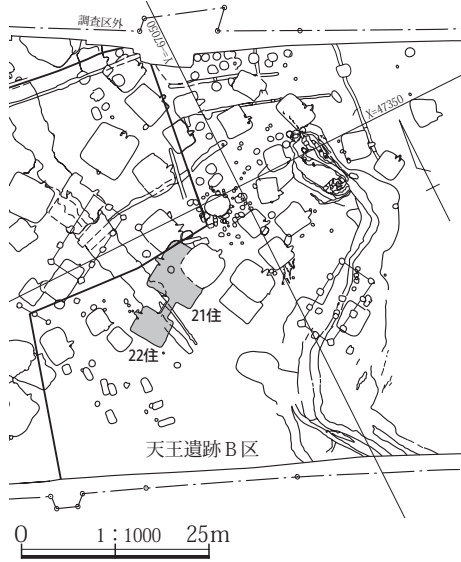
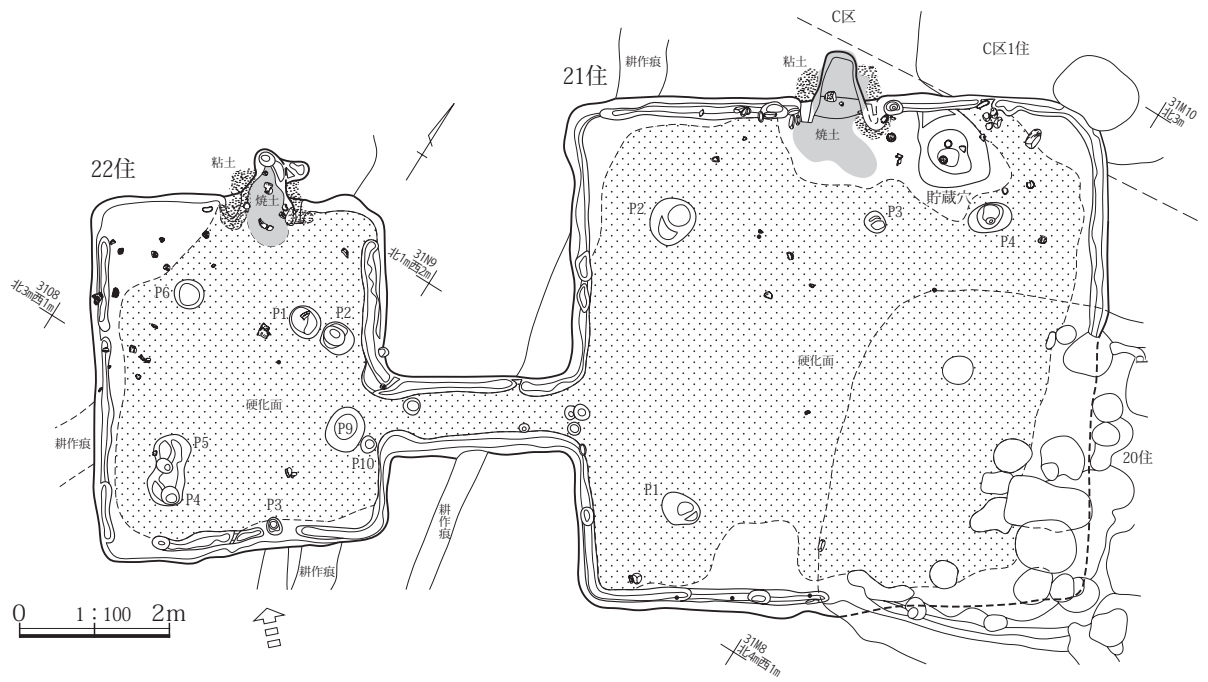
(1) 天王遺跡の溜井

天王・東紺屋谷戸遺跡では「溜井」と考えられる遺構が検出された。天王遺跡A区1溝とした遺構は、第263図1のように通常の水路の形状ではなく、内部底面に径1~2mの円形または不整形の穴が掘り込まれ、中位はオーバーハングして接続した井戸のような状態であった。南寄りの区域には高まりがあり、調査区南壁の断面では深さ1.5mまで掘り込まれていて、上位にはHr-FAとみられるテフラの自然堆積が認められた(第20図)。形状と埋没土から、A区1溝は古墳時代後期の溜井と推定される。遺構確認面の標高は140.00m付近で、湧水点標高はこれより1.5~2m下位にある。

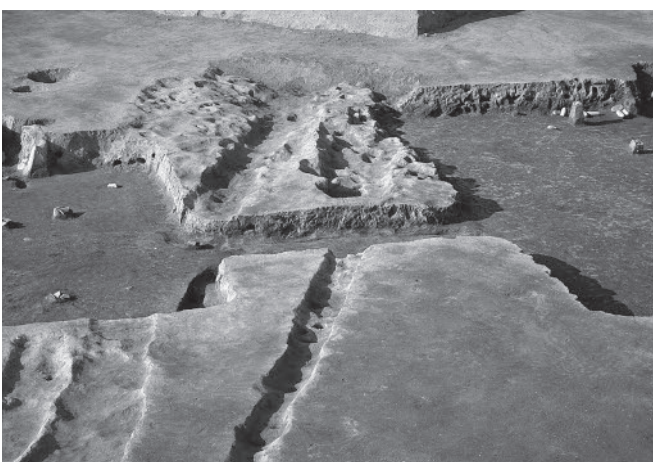
熊野堂遺跡検出の溜井がHr-FA直下と推定されているのに対して、A区1溝埋没土の上位にHr-FAが自然堆積していることから、本遺構の方がより古くなる可能性がある。

天王遺跡B区で1井戸・3井戸とした遺構は、第263図2のように汲上げ井戸ではなく、開口部を持っていた。以下、調査の経緯と遺構の構造の概略を記す。

B区1井戸は当初、汲上げ井戸と想定して調査を進めたが、進捗に伴って南東部の壁が地山ではなく埋没土であると判明し、その行方を追ったところ、水路状になることが判った。南東に向かう流路は、同時に調査が進行していた3井戸流路に並行し、最終的に3井戸流路に合流する。南へ向かう流路は当初、4溝と呼んで別の遺構と想定したが、1井戸に接続することが判明した。4溝の底面は予想に反して、北側(1井戸寄り)が低く、南側の標高ががやや高くなり、水を南側へ流し出す構造と相反し、当初その意味付けができなかった。調査の進捗に伴って、南端部の底面が再び低くなるのが分かり、4溝の一部の逆勾配は水量が多くなった場合のみ、南側



▲遺物出土状態 南西から



▲廊下状遺構 南から



▲21・22住居床面 東から

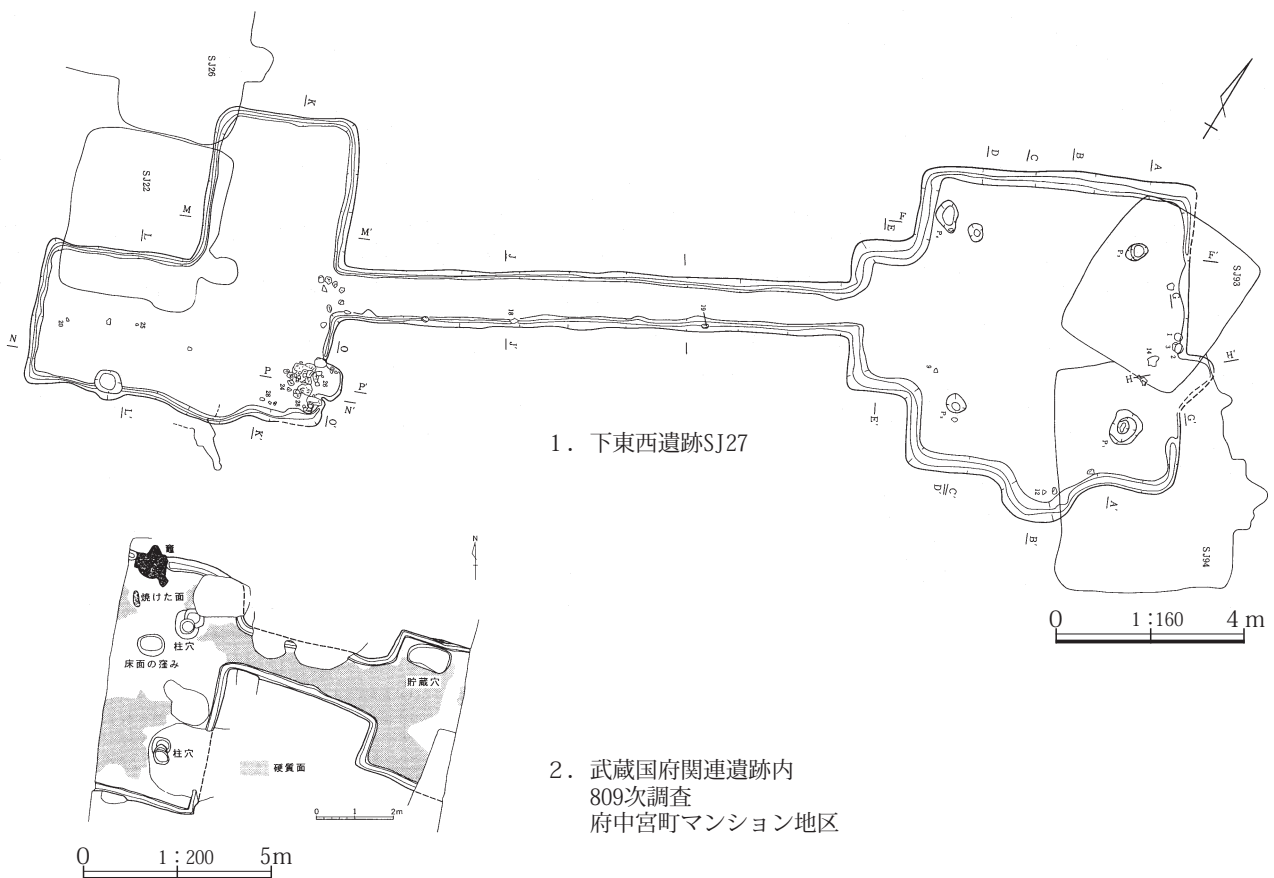
第261図 天王B区21-22住居 廊下状遺構

に水を流し出す構造であると解った。通常は南東向きに水を流し出し、水量の季節変動等に伴って南側にも流し出す巧妙な構造であると理解される。B区1井戸の確認面の標高は141.90mで、湧水点標高はこれより0.5～1.0m下位にある。

B区3井戸は当初、円形の83土坑として調査を進めたが、その南側の区域に地山とは異なる土があり、B区東端部との間にある谷地形を埋める土に酷似していたことから、B区西側の谷(地形)と想定して、さらに調査を進めた。すると、埋没土中から人頭大の石とともに土器片が多数出土し、中位からは砂質土が主要な埋没土と変化し、土坑として調査を始めた地点に向かって人頭大の石が多数埋没していることが判明した。83土坑の南側0.5mの地点には、1m大の板石が衝立のように設置され(第59図o-p, PL.43~46)中央部に残した土層の断面には、砂質土と粒子の細かい粘質土とが交互に堆積していることが分かった。南側で出土した石の位置を記録しながら底面を追ってゆくと水路が現れ、南へ向かっていることが解り、この時点で83土坑を湧水点とする3井戸は、

溜井であると判断された。衝立のように設置された石の南側には平坦な面があり、その末端は水路状を呈して南西に向かい、S字状に蛇行して南東へ向かうことが確認された。調査区域の下流では、1井戸の流路と並行し、南壁付近で合流することも確認された。衝立状の石の南側にみられた砂質土は波打って堆積し、水量が多い場合には噴出していた状態であったと推定される。衝立状の石の西側には石が立てた状態で据えられ、両者の底部には数cm大の小石が敷かれていて、大きい石を据える場合に安定を図っていたと考えられる。このL字状に囲まれた範囲は、水量が豊富な場合には滝壺状を呈していたと推定される。3井戸の確認標高は142.00m付近で、湧水点標高はこれより0.5～1.0m下位にある。

微地形復元と自然現象の様相をみると、3井戸とその流路は絶妙の位置にあるように見える。水源部は微高地に少し食い込んだ位置にあり、1mほど地山を掘り下げた水準であったが、住居群の中央部ではなく、低地を望む微高地端である。1井戸もほぼ同じ条件にあり、当時の人が湧水地点の条件を承知していたと推定される。溜



第262図 廊下状遺構をもつ住居例

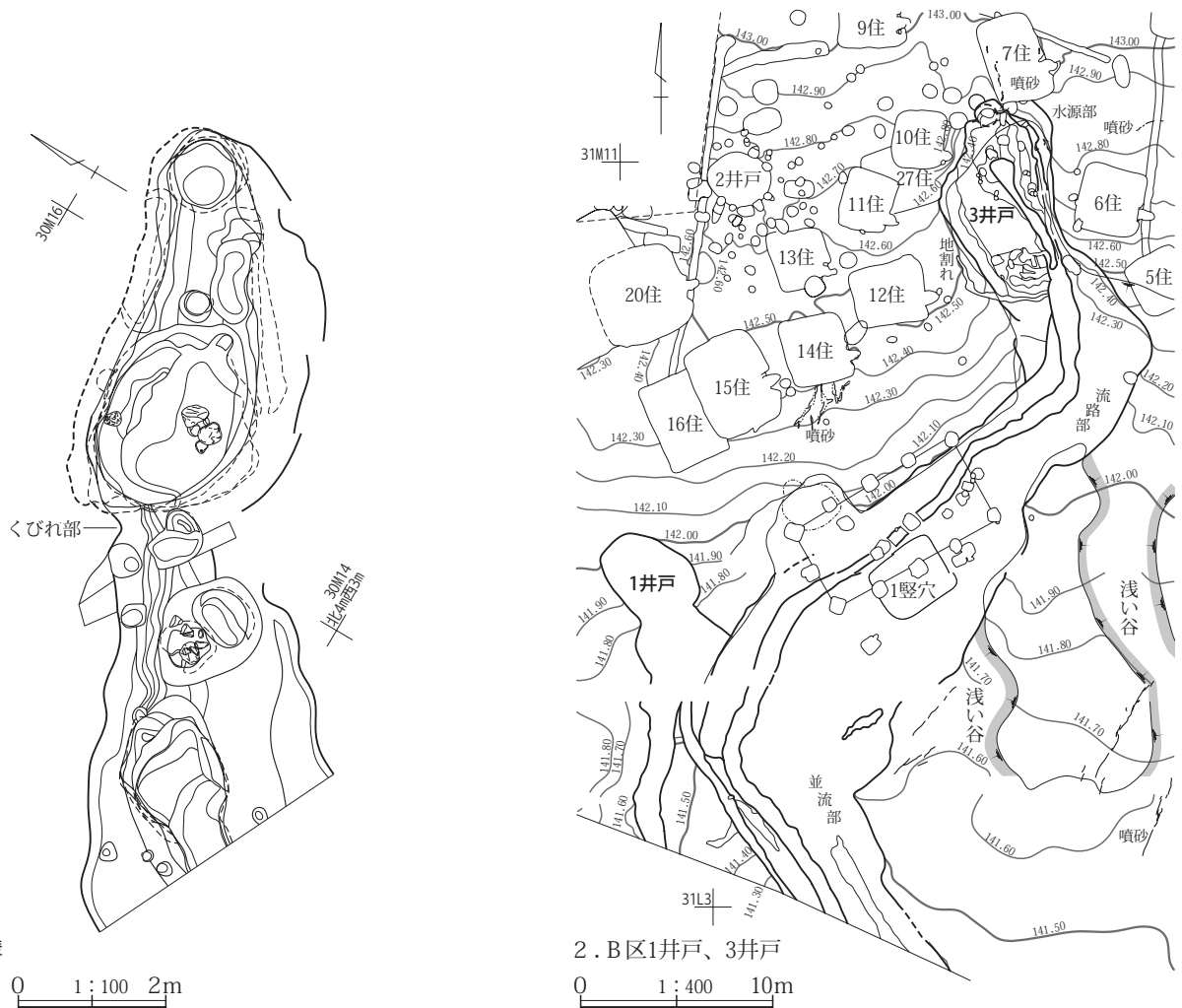
井の主たる目的は水田への温めた給水であり、湧水地点の発見が最大の課題だったと思われる。しかし、流路の設置にあたっては、水源部から直線的に南へ流し出すのではなく、一旦微高地沿いの南西部へ流し出し、さらに流路を南東に90°曲げ、流路幅を広くとって水温上昇を図っている。

B区1井戸は出土土器の特徴から奈良～平安時代の8世紀後半～9世紀後半、3井戸は奈良～平安時代の8世紀～9世紀前半に利用されたとみられる。

(2) 上町・西紺屋谷戸遺跡の溜井

第264図は上町・時沢西紺屋谷戸遺跡から東田之口遺跡までの溜井遺構と水田跡、及び推定される微地形を示した図である(明治18年の第一軍管迅速測図に加筆した)。

天王・東紺屋谷戸遺跡の西側に隣接する上町・時沢西紺屋谷戸遺跡でも溜井が検出されている。1号溜井と呼ばれた遺構は、標高142.00m付近で確認され、その底面には筒状に深く掘り込まれた1～3号湧水坑が認められた。1号湧水坑の西壁には小礫があり、2号湧水坑も小礫の石敷きが取り巻いていた。湧水坑底面の標高は1号湧水坑が140.00m、2号が139.40m付近、3号が141.20m付近である。1号溜井出土土器を検討した結果、この溜井は8世紀前半から9世紀後半まで機能していたとされている。流路は南東に向かった状態であるが、蛇行する可能性もある。調査区南側は平坦な畠が広がっていることから、「その台地面の開発に関係する可能性もある。また、溜井水路が中央の帯状低地に合流し、下流の谷内の水田用水補給に使われた可能性もある。」と推定され、さらに「南側の広瀬川低地帯内の水田用水補給の可能性も考えられる。」と指摘されている。



第263図 天王遺跡の溜井



第264図 近傍遺跡の溜井と水田

(3) 上細井五十嵐遺跡の水田

上細井五十嵐遺跡では、白川扇状地内の上武道路用地でAs-B下水田が検出された。東西約50mのA区と呼ばれる区域で水田跡が検出され、東端部に推定給水路をもち、南へ緩く傾く谷地形に営まれたAs-B直下の水田である。下層からもプラントオパールを検出したことから、古墳時代から営まれたと考えられている。B区中央部には旧河道があり、C区との間は谷地形である。A区の東側には丑子遺跡があり、落差約3mの崖が存在し、A区側が低い。A区東端部には埋没した小河川が検出され、埋没年代は近代と判明している。

(4) 丑子遺跡の水田

東側の低地部でAs-B軽石の堆積が認められたことから、古代の水田の存在が想定されたが、検出されなかった。しかし、プラントオパール分析を実施した結果、谷地形のどこかで複数の時代に水田が営まれていたことが判明した。

(5) 東田之口遺跡の溜井

本遺跡では西端に溜井が検出され、奈良～平安時代の遺構と推定されている。北西-南東が約5m、北東-南西が6.5mほどで、最深部は確認面から2.06m(標高141.34m)である。内部は不整形の掘り込みが連続しており、西に向かって流し出す構造とみられるが、西端部は調査区端に近く、未確認である。埋没土の最上位にAs-B純層が堆積する。

(6) 給水先

上町・時沢西紺屋谷戸遺跡の1号溜井は、調査区南端付近にあり、流路の一部の検出に留まったため、その給水先の想定がしにくく、「受益地について明らかにすることはできなかった」と報告されている。流路は蛇行する可能性があり、報告者の指摘するように、調査区域南側の平坦な面にかつて営まれた水田か、天王C区との境界とした谷地形に注ぎ水量不足を補ったかの二つが想定される。谷筋に集水した可能性はあるが、流路の向かう方向を推定すれば、比較的平坦な・水平面を確保しやすい範囲を水田として開発し、給水した可能性が高いのではないだろうか。

東田之口遺跡の1号溜井は調査区西端で検出しており、その流路は西側の丑子遺跡東部との境界となる崖に向かっていた可能性が高い。崖の崩落によって流路を失っていると推定されるが、南側へ導水すれば、東田之口遺跡南側の平坦な面に給水する可能性はゼロではない。

天王B区の1井戸・3井戸の流路は、調査区南壁近くで並行し、最終的に合流すると推定される。給水先の候補は、南東へ向かった場合は天王A区西半部の谷地形を経て、上細井五十嵐遺跡の旧河道に至る経路である。もう一つ想定されるのは天王B区南側の平坦な地形をなす面で、かつて営まれた水田が存在する可能性がある。

(7) 灌漑の段階

遺跡の分布と地形との関係について、当事業団岩崎泰一が示唆に富んだ分析を明らかにしている(岩崎泰一「扇状地地形と遺跡分布」『堤遺跡』2013)。天王・東紺屋谷戸遺跡は、いわゆる白川扇状地と呼ばれる地形上にあり、このような水不足地形での水田経営では給水が最大の課題である。そこで岩崎は水田経営に必要な給水の方策について、三段階の考え方を提示している。その第一段階は湧水利用、第二段階は溜井灌漑、第三段階は溜池灌漑である。また、近傍の遺跡の調査成果から、この区域の湧水点の標高は140m以下と推察されている。天王遺跡A区の1溝(溜井)の湧水標高は約140.00m、C区3井戸(溜井)の湧水標高は約142.00m付近である。

(8) 古墳時代以降の水田開発-用水確保の歴史の素描-

縄文時代晩期から弥生時代までの間、近傍の調査済み遺跡数は極端に低下する。この期間に遺跡が少ない要因として、自然的環境によるものと、人の住みにくい社会的・経済的によるものとが想定される。ひとつはこの期間に我々の認識していない自然災害があり、人が住めない環境にあったか、遺跡が流失・破壊されたかが想定される。二つ目は、当時の技術水準では給水施設の造営に限界があって、建設できなかったためと推定される。

古墳時代後期に至って、鉄器利用が広く行き渡ったことと、地下の湧水点を探る方法・技術が先進地域からもたらされ、溜井の造成が可能となったのではなかろうか。この段階では、谷筋に流れる水量では水田面積の拡大が困難であったので、湧水が豊富な地点を探し出し、溜井

から給水量を確保し、谷筋に流したのであろう。

天王B区の1井戸・3井戸は、9世紀前半の地震によって溜井の石組み構造が破壊されるとともに、湧水量が減少して一定量の水量確保が困難となり、9世紀半ばには放棄された可能性もあろう。

中近世には、水量の豊富なより上位の標高地点に溜池が設置されたが、溜池からの給水では充分ではなかったのであろうか。

この地域の水田給水は、最終的に大正用水によって安定したと考えられる。

[参考文献]

- 『熊野堂遺跡II』上越新幹線 群埋文100集,1990
 『上町・時沢西紺屋谷戸遺跡』群埋文561集,2013
 『丑子遺跡・上細井五十嵐遺跡』群埋文558集,2013
 『東田之口遺跡』群埋文523集,2011
 『堤遺跡』群埋文568集,2013

3 粘土採掘坑

(1) 粘土採掘坑の分布

天王・東紺屋谷戸遺跡では、粘土採掘坑(以下「粘採」と略記する)とみられる遺構が、確実なもので18基検出された。それらを第265図に示す(東紺屋谷戸遺跡を「東紺屋」、天王遺跡はA B C区と略記する)。

これらの遺構の様子をみると、本遺跡で共通するのはいずれも火処がなく、住居として利用していた竪穴の壁や掘り方から粘土を採掘しているのではなく、粘土を採掘する目的で掘り下げられていることである。あるいは、当初竪穴住居を作る目的で掘削を始めたが、途中から粘土の採掘に切り替えた場合も考えられるが、微地形的には浅い谷地形に沿って分布しているように見える。粘土採掘を目的として掘り下げていることを窺わせ、住居が濃密に分布する区域ではなく、その中間の浅い谷地形に粘採が分布している。このことは天王C区から東紺屋の東半部にかけての分布状態に顕著である。また、東紺屋西半部の粘採は、北西部に集中する住居群と、天王C区西半部との中間区域に分布し、住居を営む区域とは別の占地意図を思わせる。粘採は明らかに粘土を採掘する目的で場所を設定していると考えられ、地下の粘土の存在を充分承知していたことを示している。

(2) 粘土採掘坑の形状

検出した粘採は、大きく3つの形状に分けられる。

a類 土坑が連続したような状態で、結果的に不整形の溝状を呈するもの。C区1粘採が一例(面的に拡大されれば、埋没土の輪郭が不整形で、底面の凹凸著しい土坑状遺構の連続となる)。

b類 竪穴住居ほどの規模があり、方形・円形または不整形を呈するもの。これらはさらに、

b1類 底面内部にアゼ状の高まりをもつもの。C区2粘採、東紺屋3粘採を代表例とする。

b2類 底面は凹凸著しく、明確なアゼ状の高まりをもたないもの。C区6粘採、東紺屋4粘採を代表例とする。に細分できる。

c類 円形・方形・不整形の土坑状を呈するもの。C区7粘採、東紺屋6粘採を代表例とする。

天王・東紺屋谷戸遺跡で特徴的な遺構は、b1類とした形状のものである。底面のアゼ状の高まりを、C区2粘採では採掘時のコマ割りと考えたが、作業上必要な別の用途の区画であったかもしれない。

(3) 近傍の遺跡の粘土採掘坑

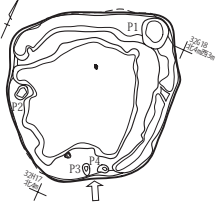
本遺跡のほか、上武道路区域で検出された粘土採掘坑がある。第266図は上町・時沢西紺屋谷戸遺跡で検出された粘土採掘坑、第267図は東田之口遺跡の粘土採掘坑である。

上町ではc類の土坑状採掘坑のほか、竪穴状遺構と呼ばれた略円形と不整形の掘り込みがあり、3号竪穴状遺構はb2類になりそうである。そのほか、住居掘り方調査で底面に粘土を採掘したとみられる掘り込みが26/49軒で認められており、粘土採掘は「生産活動の一つ」と考えられている。

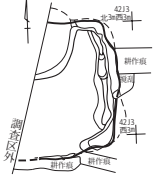
東田之口では調査区東寄りの区域で粘採が発見されており、1・3・9号粘採は単独の遺構、4・7・8号は竪穴住居の掘り込みを拡張したような状態である。1号粘採は隣接する住居とほぼ規模が同じで、ここでいうb2類になるとみられる。粘土採掘坑群と呼ばれる遺構は調査区域を略南北にわたり幅5~12mの範囲で不整形に掘り込む遺構で、2粘採はこれに連なる。ここでいうa類の拡大版とでも呼べる形状である。調査区域のなかでは低地に属する地形になり、やはり当時の人は粘土の

第6章 総括

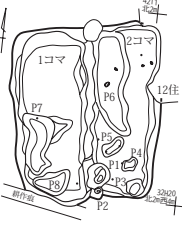
東1粘採



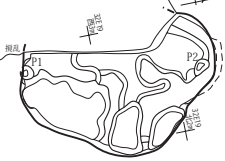
東2粘採



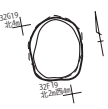
東3粘採



東4粘採



東5粘採



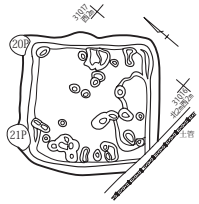
東6粘採



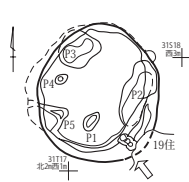
東7粘採



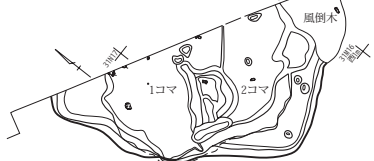
東8粘採



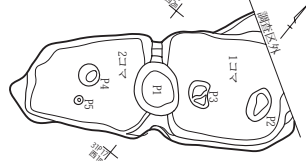
東9粘採



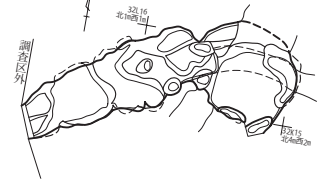
東10粘採



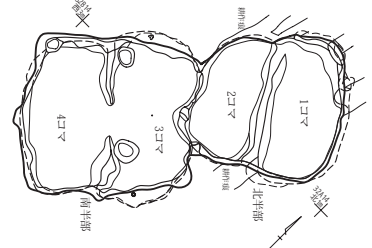
東11粘採



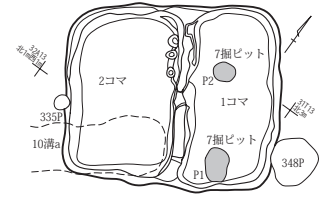
C1粘採



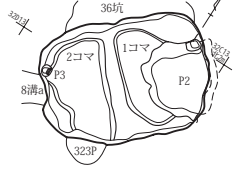
C2粘採



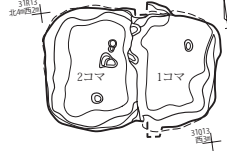
C3粘採



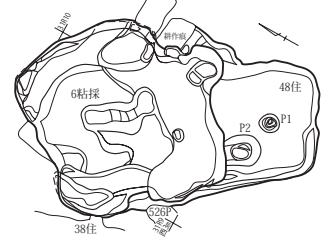
C4粘採



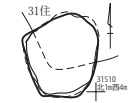
C5粘採



C6粘採



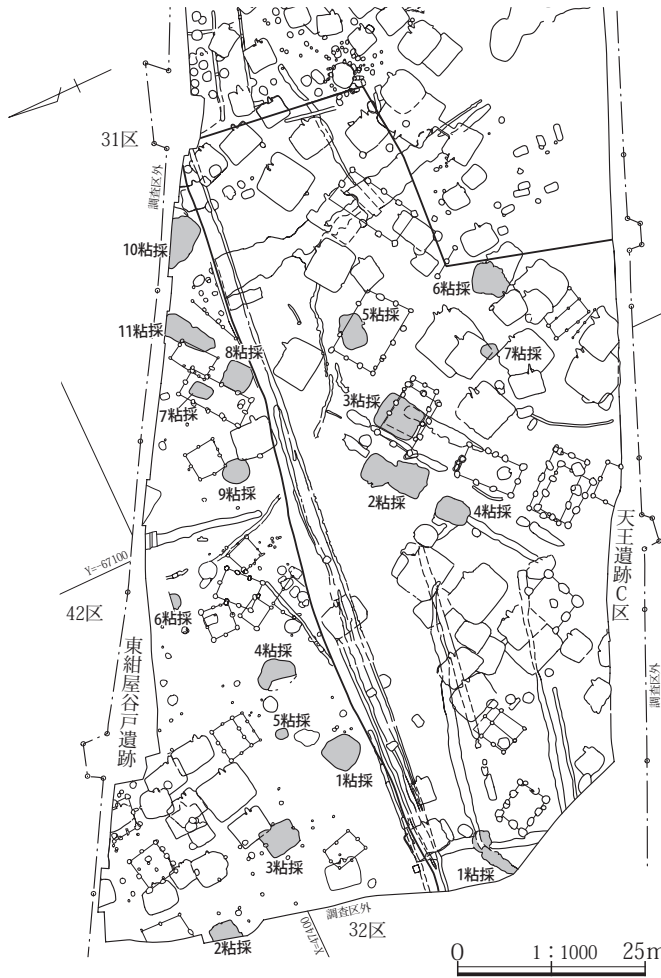
C7粘採



C = 天王遺跡C区

0 1:200 5m

東 = 東紺屋谷戸遺跡



第265図 天王・東紺屋谷戸遺跡の粘土採掘坑

存在を承知していたと推定される。

(4) 大規模な粘土採掘坑

県内の粘土採掘坑を調査した遺跡をいくつかみたところ、いずれも密集した粘土採掘坑がみられ、連続した土坑群であった。資料調査が不十分だが、以下、4遺跡の状況を概観する。

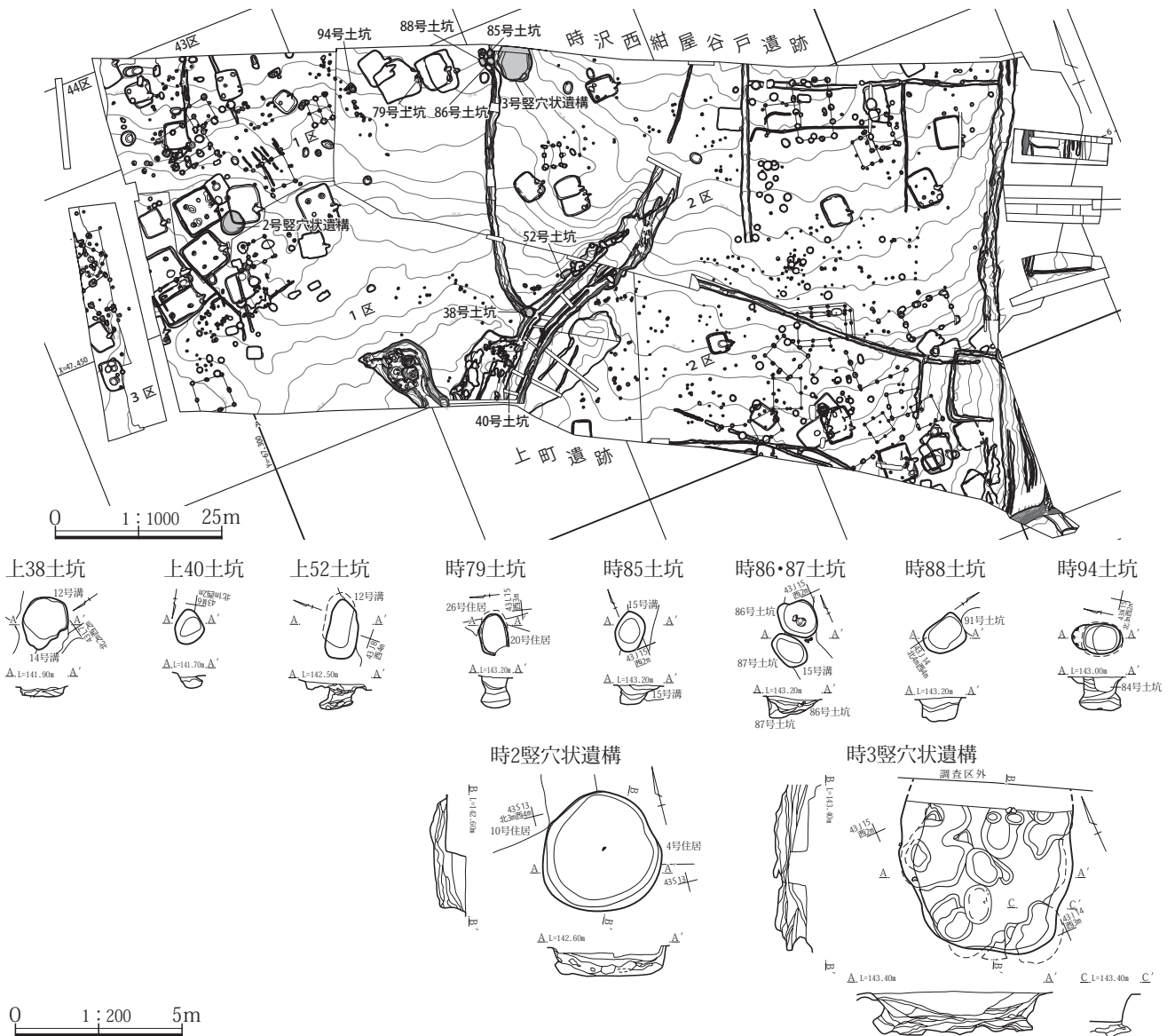
ア 藪田東(やぶたひがし)遺跡(第268図1)

本遺跡は上越新幹線建設に伴う工事で発掘調査された藪田遺跡(上毛高原駅となった)の東側にあり、駅前広場を整備する国道291号街路改良工事に伴って調査された。掘り込みと埋没が連続した結果、不整形の埋没土の輪郭を示す粘土採掘坑を、群馬県内で初めて確認した遺跡で

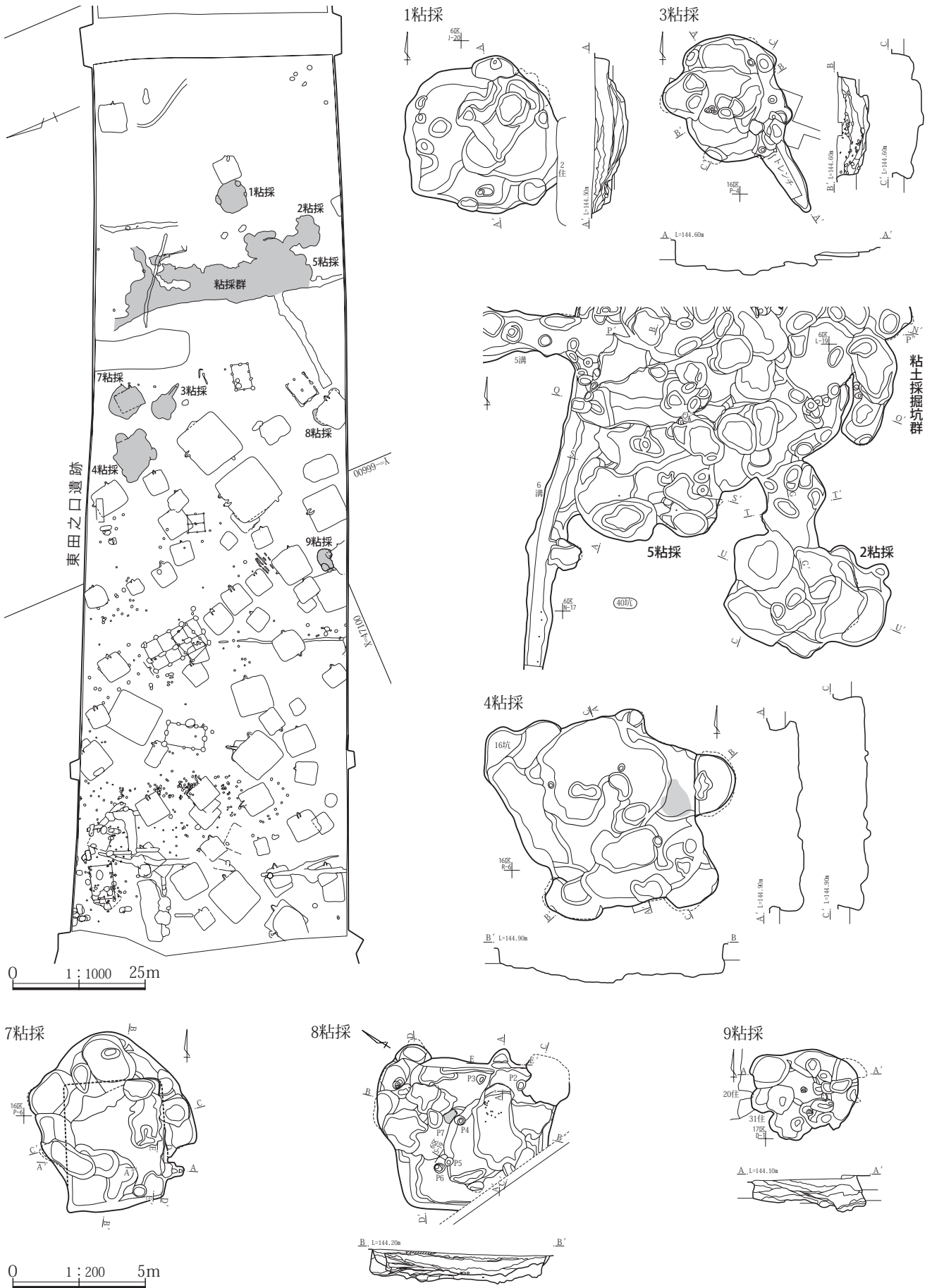
ある。本遺跡では不整形の土坑状の掘り込みが連続的に確認され、それらは調査区域の北寄りに集中して発見された。採掘されたのはローム層の下にある白色粘土層で、1平方メートル当たりの粘土採掘量は 0.5m^3 を超えないようである。採掘された粘土は、本遺跡西方の月夜野窯跡群で焼成された須恵器の原料粘土であったと考えられる。

イ 天引向原(あまびきむかい原)遺跡(第268図2)

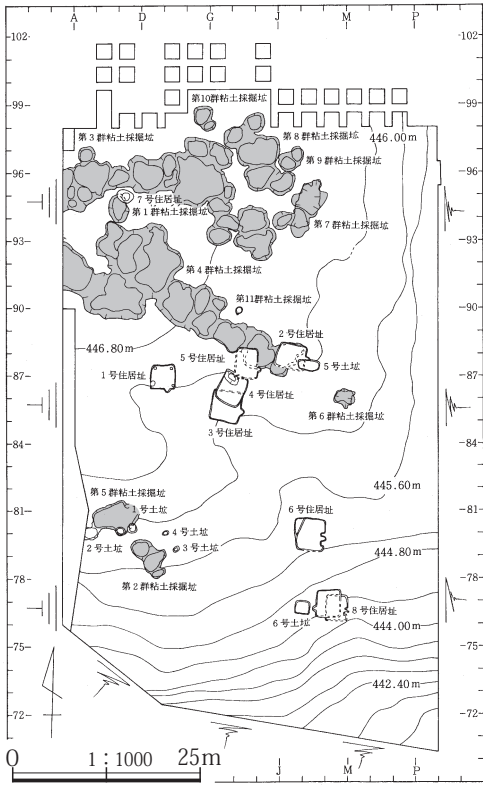
上信越自動車道甘楽パーキングエリアの建設に伴う発掘調査で、土坑群が発見された。天引C区の尾根筋斜面に66基の土坑が認められ、古墳時代後期の粘土採掘坑とされている。土坑は直径4m前後、深さ2m前後の円形を呈する。ローム層下の灰白色粘土を採掘したものと推



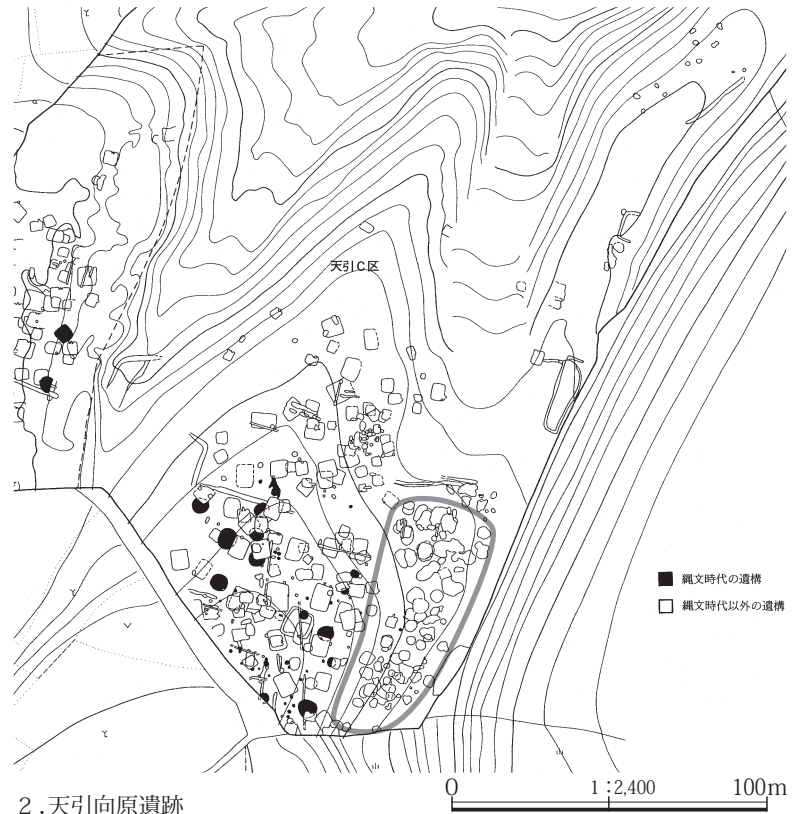
第266図 近傍の遺跡の粘土採掘坑 上町・時沢西紺屋谷戸遺跡



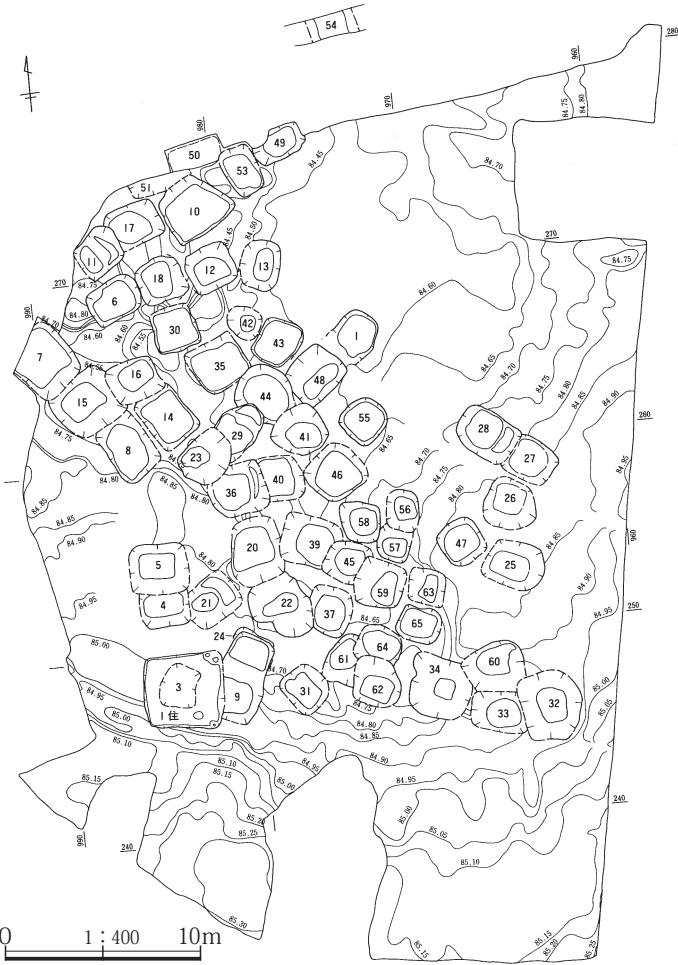
第267図 近傍の遺跡の粘土採掘坑 東田之口遺跡



1. 藪田東遺跡



2. 天引向原遺跡



3. 波志江中宿遺跡



4. 光仙房遺跡

第268図 大規模な粘土採掘坑

定され、白倉地区の住居群と併行する時期の土器のほか、木製品が多数出土した。

ウ 波志江中宿(はしえなかじゅく)遺跡(第268図3)

北関東自動車道建設に伴う発掘調査で、A区から66基の土坑が発見され、粘土採掘坑とされた。掘削時期は、人為的に埋められた埋没土中にAs-Cが含まれること、S字甕が出土土器の大半を占めることなどから、As-C降下遺構の4世紀と推定された。形状は長方形・台形方形で、円形のものがない。規模は長軸3m・短軸2m前後で、確認面から底面までの深さは1.8m前後である。隣接する土坑の間の距離は40cm以上である。採掘した粘土層は、AT下の暗色帯からHr-HP混土層のうち、上位3層と推定された。外観は黒灰色層、青灰色層、褐色層である。本遺跡では埋没土がよく観察され、作業道を復元されたり、採掘の順番・単位が推察されている。出土遺物には土器と木製品があり、土器ではS字甕が多い。木製品では鋏・鋤・斧の柄・梯子・盆・板材・掘り棒が出土し、粘土の採掘には掘り棒が使用されたと推定されている。採掘された粘土は、土器(土師器)生産に使われたと考えられる。

エ 光仙房(こうせんぼう)遺跡(第268図4)

北関東自動車道の建設に伴う光仙房遺跡の調査で、河道に挟まれた台地一杯に土坑群が広がり、粘土採掘坑と認められた。光仙房D区と呼ばれる地区では、東西20～30m・長さ60mほどのc台地と呼ばれる尾根筋に、383基の粘土採掘坑が発見された。尾根筋の東西両側は河道で、東側には舞台遺跡が広がる。c台地はローム台地で、長期間水没した影響で台地全体が粘土化したため、粘土を採掘する場となったものである。粘土採掘坑からは古墳時代後期の土器と土掘り具の木製品(スコップ状)とともに出土した。粘土採掘坑の形状は不整形で掘り込み面の規模は1.3～1.5m、北寄りでは深さ0.7m、南寄りでは0.35mで粘土層に達し、掘り込みは台地縁辺部に密集する。次の採掘坑の掘削土を前の採掘坑に入れて人

為的に埋められていた。採掘対象はAT(始良丹沢火山灰)下の暗色帯に相当する粘土及びAs-BP(浅間板鼻褐色火山灰)グループの粘土層と推定されている。粘土層の厚さは12～14cm及び5～8cmである。これらの粘土は隣接する舞台遺跡の窯で焼かれた須恵器の原材料になったと考えられる。なお、焼成実験では千度前後までの高温に耐えるようである。

(5) 集落内用途

以上のような大規模な粘土採掘坑群を検出した遺跡では、粘土の採掘を計画的・効率的に行い、原料粘土の採掘目的が須恵器生産・土師器生産のような専門的生産活動に結び付くと考えられる。これに対して、天王・東紺屋谷戸遺跡における粘土の採掘量程度では、土器生産に向けた採掘量とは考えられず、カマド構築用の粘土や、床面を形成するための粘土、土坑底面に敷き詰める粘土など、集落内の生活用途向けの採掘と推察される。

地表の谷筋に流れる水のみではなく、地下に堆積したローム層が粘土化した区域では、粘土層が不透水層となって地下深くへの水の浸透をさえぎり、不透水層の途切れた地点が湧水点となり、そのような湧水点の存在を認識した古代人が溜井の造営を始めたのであろう。したがって、溜井の存在する地点より上流には粘土採掘坑が存在する可能性が高いと推定される。溜井と粘土採掘坑とはセットであることを、当時の人々が認識していたのではないだろうか。

[参考文献]

- 『白倉下原・天引向原遺跡Ⅱ』群埋文172集,1994
- 『白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ』群埋文173集,1994
- 『波志江中宿遺跡』群埋文283集,2001
- 『光仙房遺跡』群埋文308集,2003
- 『藪田東遺跡』群埋文,1983

4 掘立柱建物

天王・東紺屋谷戸遺跡ではいくつかの掘立柱建物が確認された。天王A区にはなく、天王B区で1棟、天王C区で12棟、東紺屋谷戸遺跡で13棟を確認した(以下、天王遺跡はB区・C区、東紺屋谷戸遺跡は東紺屋と略記する)。

東紺屋谷戸遺跡は上武道路用地の調査以前に、旧富士見村教育委員会が鉄塔用地の調査で先行しており、ここでは東紺屋(旧富士見村)、および東紺屋(上武道路)と略記する。

(1) 東紺屋(旧富士見村)の位置

鉄塔用地の調査で認定された東紺屋谷戸遺跡は、第270図上のように、東紺屋(上武道路)から約50m北側に位置する。一辺約13mほどの略正方形の調査区域内で、主要な遺構として掘立柱建物が検出され、整理時の組み合わせと併せて11棟が確認されたほか、竪穴住居1軒(10世紀後半～11世紀前半)が検出されている。

東紺屋(旧富士見村)と天王・東紺屋谷戸遺跡の掘立柱建物の位置関係を示したのが第270図である。

(2) 隅の柱穴が斜めに配置される

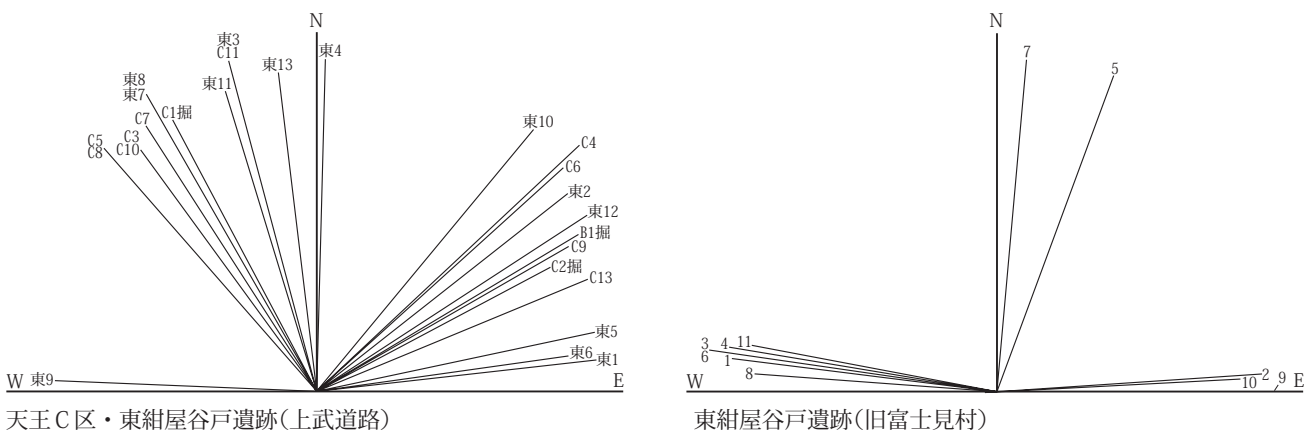
B区1掘立柱建物は、3井戸流路にまたがるように柱穴が配置された4間×2間の建物で、四隅の柱穴が柱通りに対して斜めに傾いて配置されるという特徴をもつ。

これに似た配置は、C区9掘立柱建物でもみられ、こちらも4間×2間である。C区9掘立柱建物は、北隅の柱穴を欠くが、東隅・南隅・西隅の各柱穴は柱通りに対して数十度傾いて配置され、かつB区1掘立柱建物と長軸方位が近い。また、東紺屋(上武道路)の2掘立柱建物は、4間×2間の規模で、長軸方位も前記の建物に近似する。時期差は明確にできないが、ほぼ等間隔で並んだ3棟の掘立柱建物は、4間×2間の規模をもち、隅の柱穴が斜めに配置される傾向をもつなど共通性が高く、用途は不明だが、一連の建物と考えられる。建物の用途等については、類例の増加を待ちたい。

(3) 長軸方位

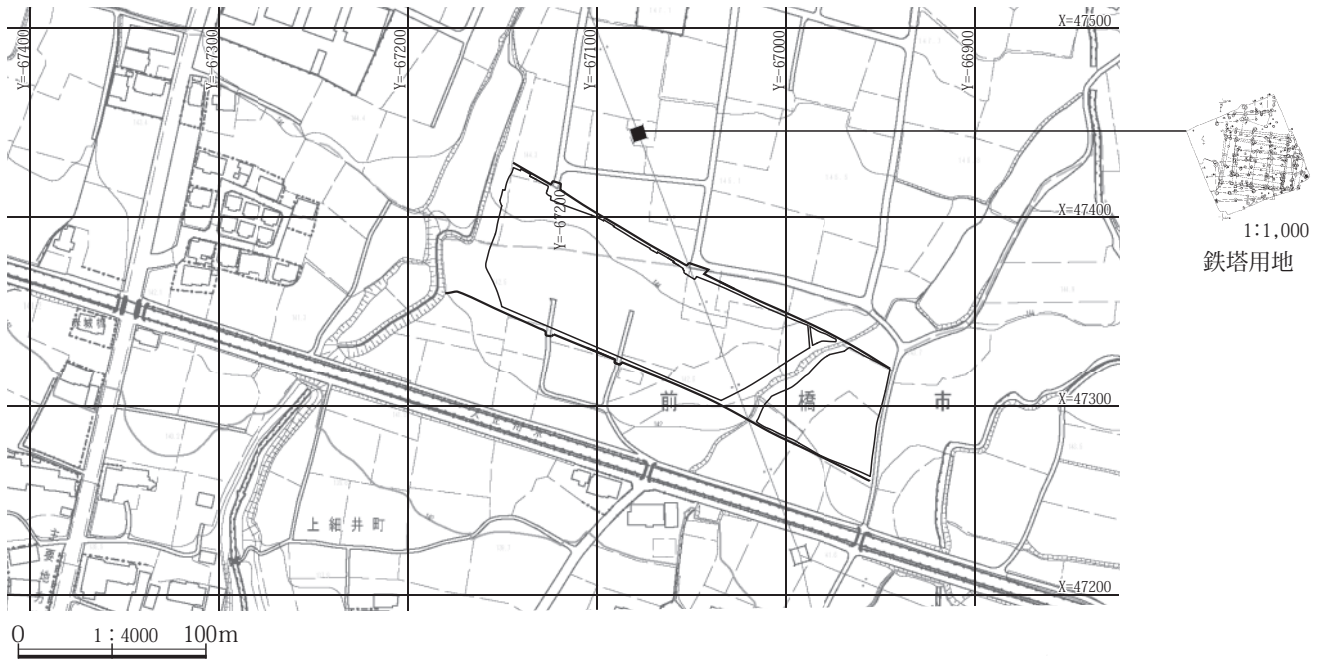
第269図左は、天王B区・C区、東紺屋(上武道路)の掘立柱建物の長軸方位を、北方位から何度振れているか示した図である。特徴的なのは、

a類 北から十数度以内のものと東西方位に近いもの、
 b類 北から数十度振れているもの、
 の二つがみられることである。a類の代表例は東紺屋9・東紺屋1・東紺屋4などの、東西南北に近い方位を示すものであり、b類の代表例は先述のB区1・C区9・東紺屋2のほか、これと直交するC区5・C区7・東紺屋10である。ただ一つの例であるが、東紺屋9掘立柱建物の柱穴と東紺屋10掘立柱建物の柱穴が重複し、10掘立柱建物→9掘立柱建物の順に新しいことが確認されている。東紺屋(上武道路)には、a類の方位をもつ建物が比



第269図 掘立柱建物の方位

第6章 総括



第270図 掘立柱建物の位置

較的多く認められる。

第269図右は、東紺屋(旧富士見村)で検出した掘立柱建物の主軸(原文のまま。以下同じ)を示したもので、5号建物を除いて、東西南北から十数度以内の傾きをもつ。

東紺屋(旧富士見村)発掘調査報告書によると、3号建物は神社跡の可能性があり、1号建物柱穴内に「多量の浅間B軽石が混入することにより、軽石降灰後の構築であり、それも余り時間を経ない時期の建立」が考えられている。

(4) 建物の時期

以上のことを勘案すると、一概に断定できないが、本遺跡付近の一つの傾向として、

ア a類はb類よりも新しい(b類→a類の順に新しい)。

イ b類は奈良～平安時代の所産で、a類は浅間As-B軽石(1108年)-12世紀以降の所産(中世)の可能性が高い。が推定される。

[参考文献]

『東紺屋谷戸遺跡』群馬県勢多郡富士見村教育委員会, 1992

5 地震跡

(1) 地震跡の分布

天王・東紺屋谷戸遺跡でいくつかの地震跡を検出した。東紺屋谷戸遺跡では顕著な例がなかったが、天王A B Cの各区では、噴砂・地割れ・陥没等が認められた。

第271図左は調査区内で検出した噴砂と地割れの分布、及び地震跡を検出した住居等の遺構の分布を示した図である。B区南東寄りの区域は浅い谷地形の低地で、ここには住居が分布せず、噴砂の検出が目立っている。B区13住居・14住居・3井戸水源部南側は、微高地の東端沿いにあり、同時に湧水点に位置する。C区の住居はなぜか、北東-南西の方位で直線的に並んでいることが注目される。この並び方は、掘立柱建物や粘土採掘坑が集中して並ぶ区域の東側に位置し、地下の埋没した地形に起因するのかもしれない。C区27住居は1軒のみ離れた位置にあるが、その南西側には1粘土採掘坑があり、やはり古い地形に関連する可能性がある。

(2) 特徴的な地震跡

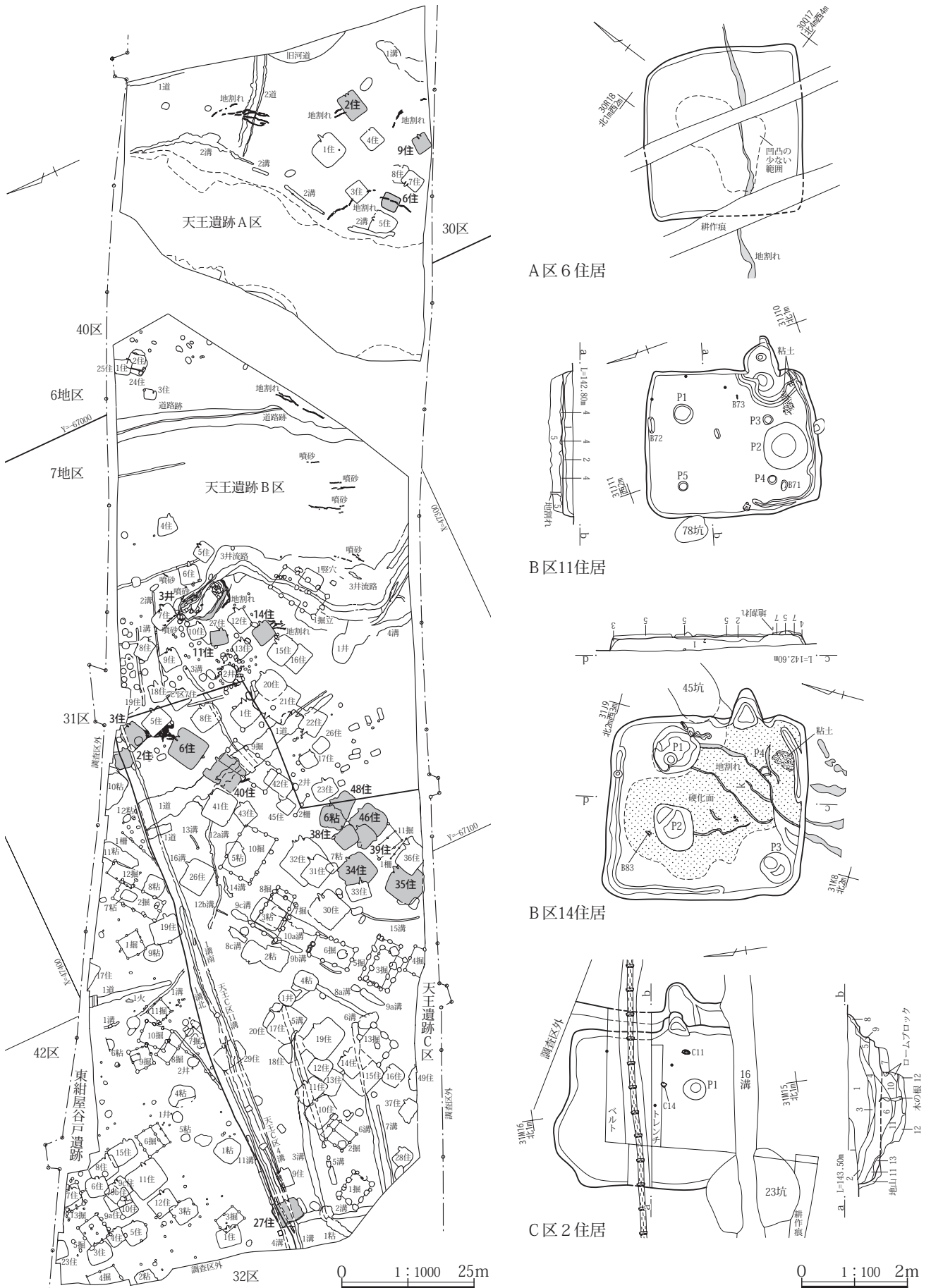
C区3住居は床面が階段状に割れて検出された遺構で、偶然土層観察用ベルトに段差を生じた様子が残り、良好な断面図(第272図)を記録することができた。C区6住居はカマド付近を地割れが走り、住居外へとつながっていたほか、住居中央部が陥没した状態で検出され、床面の一部がモザイク状に割れて落ち込んでいることが観察できた。カマドの土器がほぼ使用中のような状態で遺存しており、カマド本体も石・粘土で構築された状況が良く残っていた。C区6住居は出土土器から、7世紀後半の所産と推定され、地震発生時に半ば埋没していたと考えられる。土層断面(第81図w-x)をみると、北側から土砂が流入している様子が明らかであり、この現象は住居中央の陥没に伴って、北側から土砂が流れ込み、陥没した穴を埋めたと推定できる。

これに似た現象はC区39住居・46住居でも認められ、硬い床面がモザイク状に割れて落ち込んだ上、39住居では北西側へ、46住居では南西側へ陥没しつつ移動した状況と推定された。

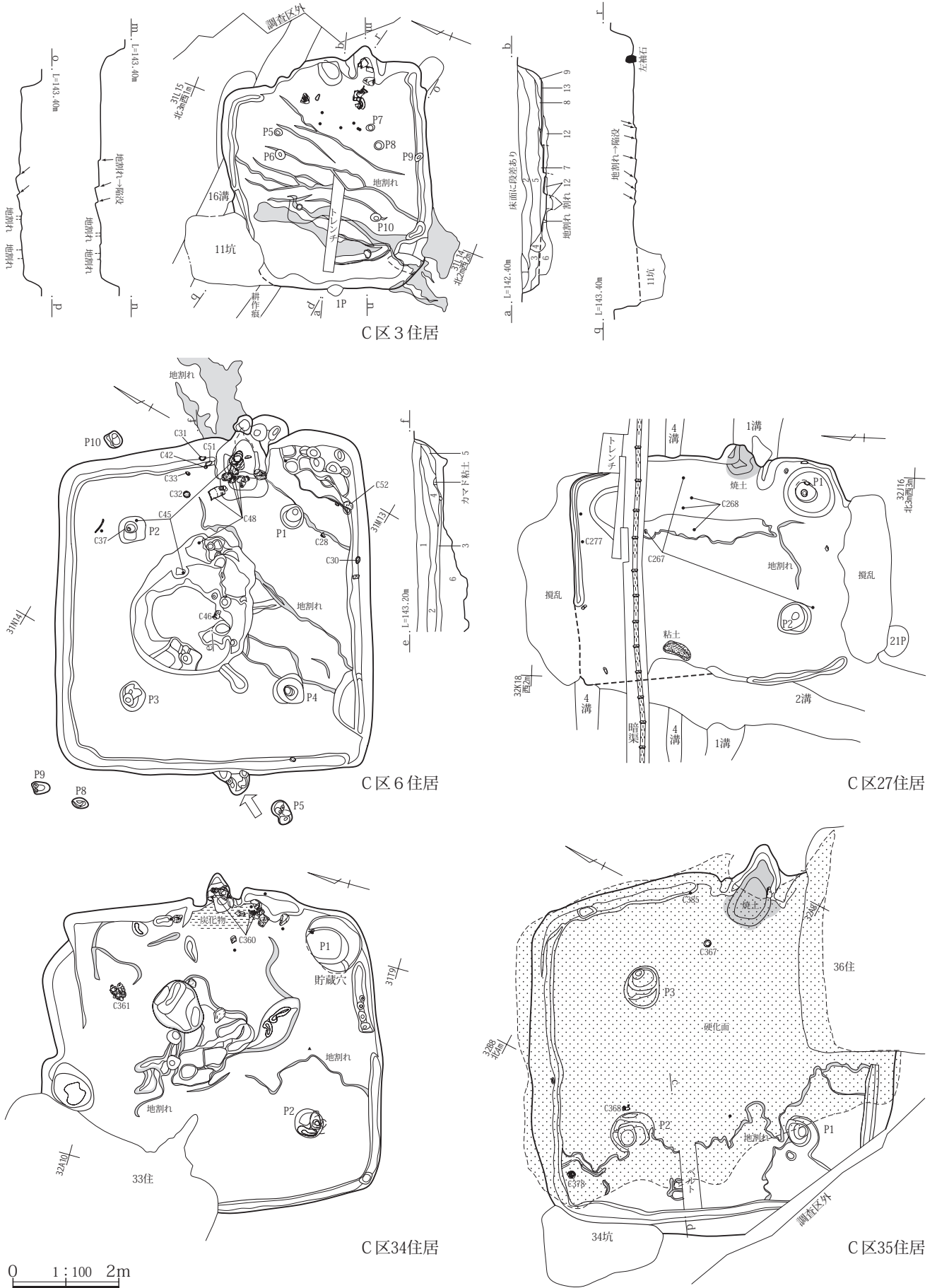
(3) B区3井戸の状況

B区3井戸(溜井)の水源部南側の平坦部分では、南辺～西辺にかけての部分と、東辺の大半で地割れが検出され、上位から地割れに土砂が流入した様子が観察できた。3井戸およびその流路から検出された遺物から、3井戸は8世紀から9世紀前半まで利用されたと推定され、地震による石組みの破損や岸辺の崩壊を契機として、機能が停止した可能性がある。最大のきっかけとして想定されるのは、湧水が少なくなったか、停止したことである。土層断面(第57図c-d)の下位では、砂層が波打つように堆積している部分が存在していたが、その上位では厚さ0.5～1.0cmほどの黒色で粒子の細かい層が認められ、それ以前の「噴出」するような湧水ではなく、水が滞留して流れがほとんどみられない状況に変化していることが観察でき、湧水量が減少したことを推定させる。地震の後に地下水の湧水量が減少することは、現代でも聞かれることである。

個別遺構の地震跡の状況は、各遺構の報告に詳述したので、ここでは以上を除き、省略したい。

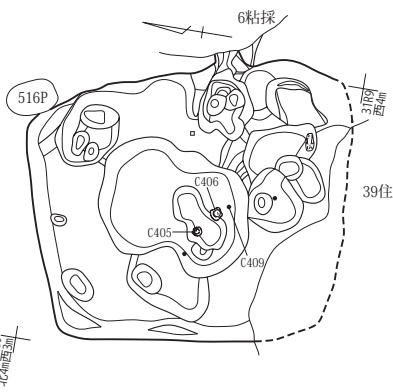


第271図 天王遺跡の地震跡(1)

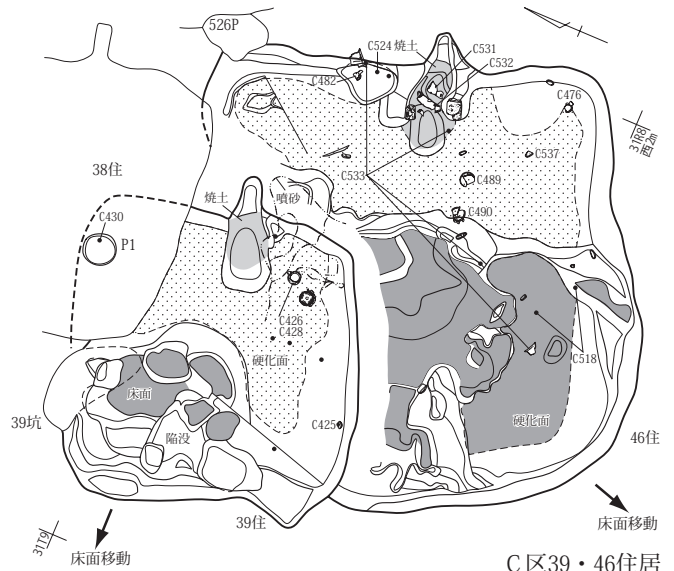


第272図 天王遺跡の地震跡(2)

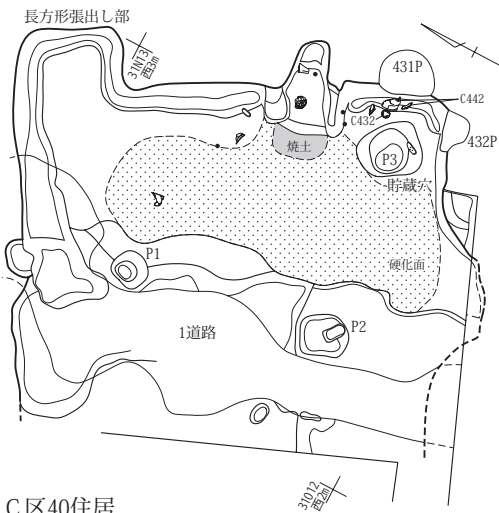
第6章 総括



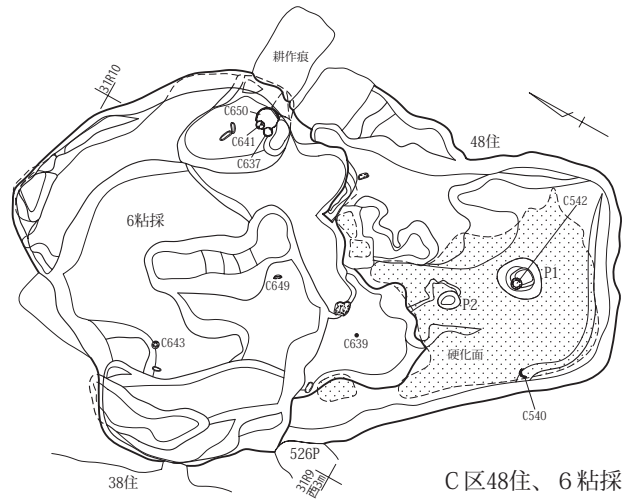
C区38住居



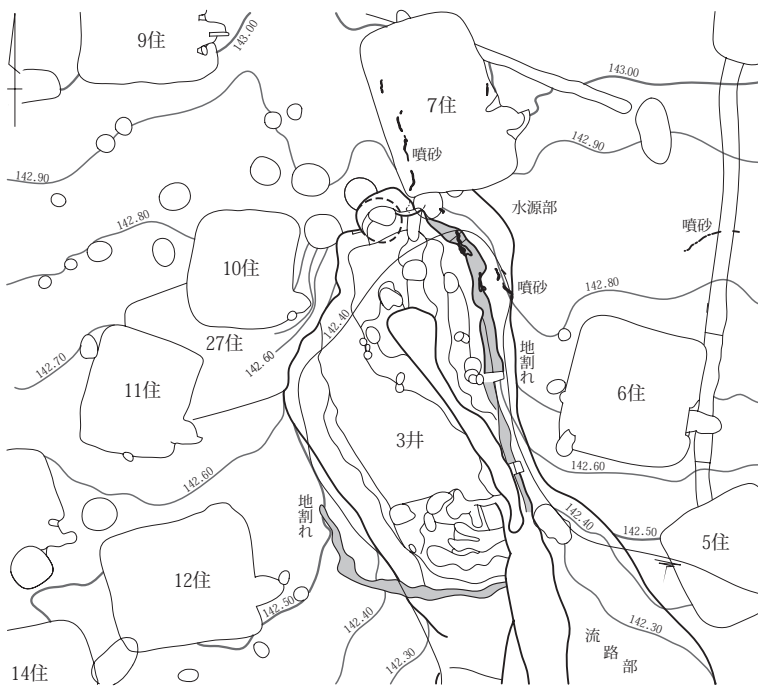
C区39・46住居



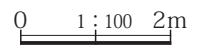
C区40住居



C区48住、6粘採



C区3井戸流路



第273図 天王遺跡の地震跡(3)

(4) 地震跡と遺構の前後関係及び年代観

各遺構で検出した地震跡と、遺構の切り合い=前後関係を第47表に示した。本遺跡で確認できた地震跡の時代・時期をみると、

- ア B区11住居では地割れ→11住居の順に新しい。
- イ 9世紀前半までの住居では、住居→地震跡の順に新しい。
- ウ 遺構に地震跡が挟まれた例が二例あり、
 - (ア) 46住居→39住居→地割れ・陥没→38住居
 - (イ) 48住居→6粘採→地割れ・陥没→38住居

以上の前後関係を時期とともに表示すると、つぎの通りである。

- (ア) 46住居→39住居→地割れ・陥没→38住居
8c前半→9c前半→□□□□□→9c後半
- (イ) 48住居→6粘採→地割れ・陥没→38住居
8c前半→8c前半→□□□□□→9c後半

すなわち、8世紀前半から9世紀後半の間に地震が発生し、より時間幅を狭くすれば、9世紀前半から9世紀後半の間に発生していることになる。出土遺物等による遺構時期の分解能が低いため、ここでは9世紀後半以前の「9世紀前半代」に地震が発生したとしておく。

(5) 古代群馬の地震跡2

第48表は、以前にまとめた古代の群馬県内で認められた地震跡の年代等をまとめた表に、本遺跡の事例を加筆したものである。この表から推定されるのは、平安時代の一つの地震が原因で生じた地震跡ならば、およそ9世紀前半の時期に発生したものであり、記録上は818年(弘仁九年)と841年(承和八年)が有力な候補と考えられることである。砂田遺跡例では、水路底面から出土した土器が9世紀始めとされ、818年地震による土石流の可能性が高いと指摘されている。841年地震は信濃地域の比較的狭い範囲に災害をもたらしたと推定されることから、群馬県での最有力候補は818年地震となろう。ただ、「上野国等境」という表現から推定すれば、渡良瀬川の東側に位置する栃木県にも地震跡が発見されてもよさそうであるが、これまでにそうした調査例を聞かないのは何故であろうか。埼玉県にはすでに昭和49年以降から噴砂の調査例があり、818年地震の可能性が昭和60年には指摘されている。

[参考文献]

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『自然災害と考古学』上毛新聞社,2013

第47表 天王・東紺屋谷戸遺跡 地震跡関連遺構

遺跡区	番号	遺構	時代	推定年代	地震跡	場所	重複関係 旧→新	備考
天王A	2	住居	古墳後期	7世紀前半	地割れ	西半部	A2住居 → 地割れ	
天王A	6	住居	平安か	不明	地割れ	掘り方	地割れ → A6住居	住居外に地割れ
天王A	9	住居	古墳後期	7世紀前半	地割れ	掘り方	A9住居 → 地割れ	
天王B	11	住居	平安	10世紀か	地割れ	住居外	地割れ → B11住居	
天王B	14	住居	奈良	8世紀前半	地割れ	土層	B14住居 → 地割れ	
天王B	3	井戸流路	奈良	8~9世紀前半	地割れ	水源部南岸・東岸	3井戸流路 → 地割れ	
天王C	2	住居	奈良	8世紀前半	陥没	中央部	C2住居 → 陥没	
天王C	3	住居	奈良	8世紀前半	地割れ	床面割れ	C3住居 → 地割れ	床面直上の土が割れ
天王C	6	住居	飛鳥か	7世紀後半	地割れ・陥没	中央~東半部	C6住居 → 地割れ・陥没	地震で被災か
天王C	27	住居	飛鳥か	7世紀後半	地割れ	中央部	C27住居 → 地割れ	床面割れ
天王C	34	住居	平安	9世紀前半	地割れ・陥没	中央部	C34住居 → 地割れ	床面地割れ,34住→33住
天王C	35	住居	奈良	8世紀前半	地割れ・陥没	南西辺沿い床面	C35住居 → 地割れ・陥没	35住→36住
天王C	38	住居	平安	9世紀後半	陥没	カマド前凹み	地割れ → C38住居	46住→39住→地割れ・陥没→38住
天王C	39	住居	平安	9世紀前半	陥没・噴砂	西半部・カマド付近	C39住居 → 陥没・噴砂	46住→39住→地割れ・陥没→38住
天王C	40	住居	飛鳥	7世紀後半	地割れ	西半部	C40住居 → 地割れ	
天王C	46	住居	奈良	8世紀前半	地割れ・陥没	西半部	C46住居 → 地割れ・陥没	46住→39住→地割れ・陥没→38住
天王C	48	住居	奈良	8世紀前半	地割れ・陥没	中央部	C48住居 → 地割れ・陥没	48住→6粘採→地割れ・陥没→38住
天王C	6	粘土採掘坑	奈良	8世紀前半	落盤か	掘り込み縁辺	C6粘採 → 落盤	48住→6粘採→地割れ・陥没→38住

第6章 総括

第48表 古代群馬の地震跡 2

火山噴出物		▼Hr-FA 6世紀初頭	▼Hr-FP 6世紀中頃									▼As-B 天仁元年 (1108年)
		古墳時代		飛鳥時代	奈良時代	平安時代			10世紀	11世紀	12世紀	
		6世紀		7世紀	8世紀	9世紀						
遺跡	地震跡											
下縄引遺跡	陥没、地割れ		←									
1988年度	M-1古墳周溝											
上諏訪山A遺跡	地割れ											
1987年度	覆土上位にAs-B											
明神山遺跡	地割れ		←									
1988年度	31住居											
柳久保遺跡	地割れ					←						
1984～86年度	37住居											
天笠南遺跡	地割れ					←						
1980年	住居・土坑											
瀬戸ヶ原遺跡	地割れ		←									
1986年	H-7住居											
砂田遺跡	地割れ、泥流						↔					
1989年度	水田、1用水路											
蕨沢遺跡	泥流、地割れ、噴砂		←									
1989年度	水田											
今井白山遺跡	地割れ、噴砂、陥没	←										
1990年度	1区9・19住居											
半田中原・南原遺跡	地割れ、噴砂						←					
1990年度	42・43・53住居											
中組遺跡	地割れ		←									
1989年度	軽石上39住居											
富田宮下遺跡	地割れ						←					
1999～2001	76・68住居											
三ツ寺Ⅱ遺跡	地割れ	←										
1981・1983年度	住居との重複関係		←									
天王・東紺屋谷戸遺跡	地割れ、陥没											
2008粘土採掘坑	住居他との重複関係						←					
歴史地震							818弘仁9 841承和8		878元慶2 887仁和3			

広域・近県の歴史地震

西暦	和暦	被害地域
818年 --	弘仁9 VII -	関東諸国
841年 --	承和8 --	信濃
878年 XI 1	元慶2 IX 29	関東諸国・相模・武蔵
887年 VII 26	仁和3 VII 30	五畿七道
887年 VII 26	仁和3 VII 30	信濃北部

※IX 29は9月29日を表す。

6 住居分布の変遷

第274図は、7～10世紀の住居の時代・時期別分布を示したものである。ただし、出土遺物の時期別分解能が低いため、各世紀の前半・後半の別と、各世紀に含まれるであろう住居も含めている。たとえば、7世紀の住居は、7世紀前半・7世紀後半・7世紀代の三つで示している。なお、天王遺跡はA B C区で示し、東紺屋谷戸遺跡は東紺屋で表す。

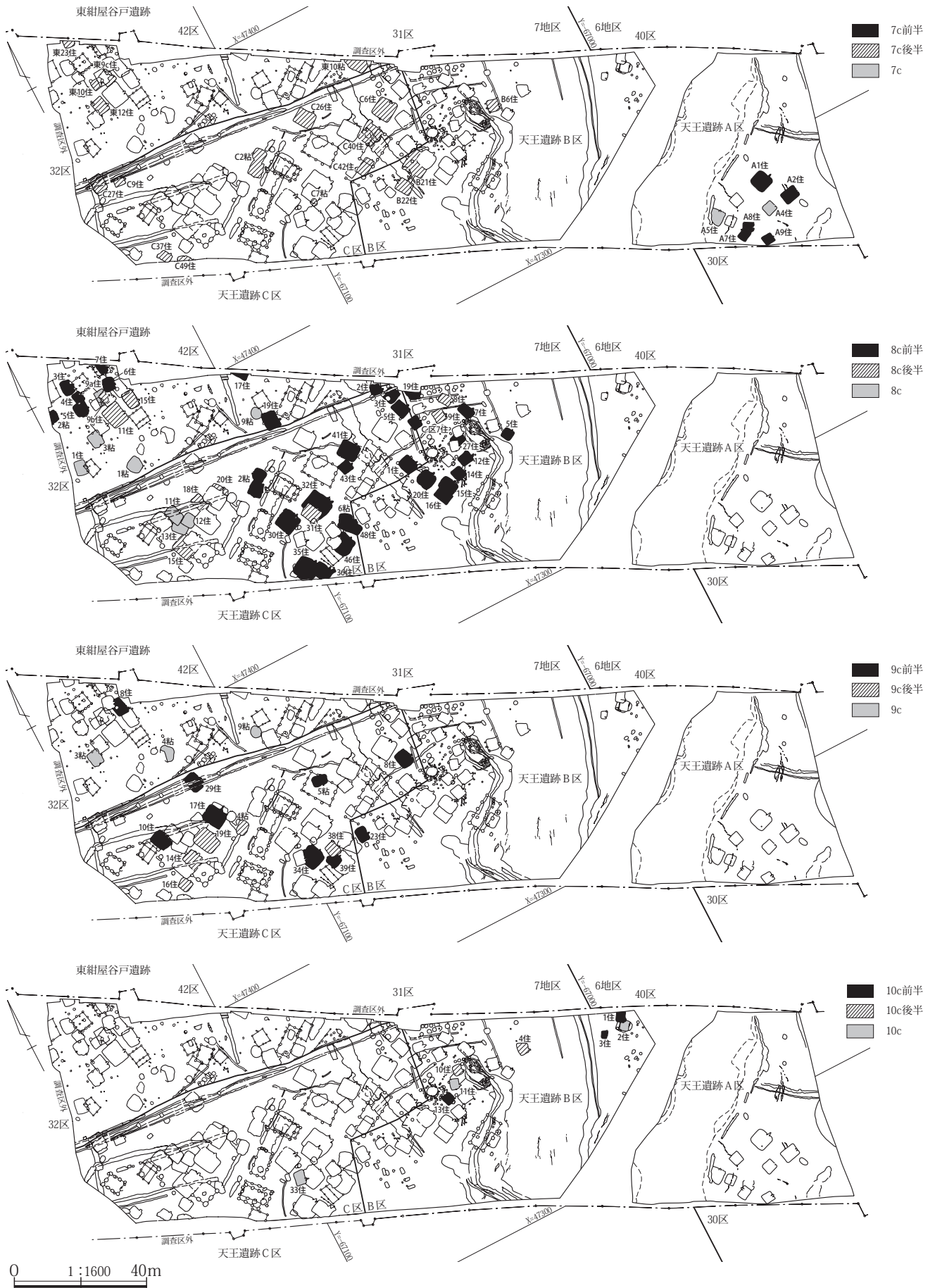
(1) 7世紀

前半に属する住居は天王A区の5軒、7世紀として2

軒であるが、7世紀後半の住居は17軒で、ほとんどB・C区と東紺屋にある。廊下状遺構をもつB区21-22住居は7世紀後半で、21住居は特大である。その他の住居は重複することなく分布する。

(2) 8世紀

8世紀前半ではB区C区東紺屋に、ほぼ均等に分布し、何かを囲むように環状に分布する。注目したいのはB区2井戸付近で、2井戸は8世紀代を通じて使われたらしく、その周囲を住居が囲んでいるように見える。8世紀前半で30軒、8世紀として2軒、後半で9軒があげられる。



第274図 天王・東紺屋谷戸遺跡住居等分布の変遷

(3) 9世紀

9世紀になると、全体の住居数が減少する。9世紀前半で7軒、後半で4軒、9世紀として1軒である。9世紀代を合せると、12軒である。

(4) 10世紀

10世紀になると住居数はさらに減少し、前半で3軒、後半で2軒、10世紀として3軒となる。10世紀代全部でも8軒と、極端に減少する。

(5) 集落のピーク

以上のような住居分布から、本遺跡のピークは8世紀代にあり、9世紀後半あたりから衰退が始まっているように見える。住居以外の粘土採掘坑や1井戸・3井戸の主要な時期が、8世紀～9世紀前半にあることと符合するかのようである。その契機として推定されるのは、9世紀前半代に発生したと考えられる地震であるが、直接被災した住居(人が住んでいて被災した住居)は、残念ながら特定されなかった。近い将来、周辺の遺跡で地震によって住民が被災した住居、集落が発見されれば、その前後における集落の盛衰が、よりはっきりと示せるであろう。

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	てんのう・ひがしこんやがいといせき
書名	天王・東紺屋谷戸遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	575
編著者名	関晴彦/谷藤保彦/岩崎泰一/徳江秀夫/関邦一
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20131212
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	てんのう・ひがしこんやがいといせき
遺跡名	天王・東紺屋谷戸遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかみほそいまち・ふじみまちときさわ
遺跡所在地	群馬県前橋市上細井町・富士見町時沢
市町村コード	10201
遺跡番号	00131・90094
北緯(日本測地系)	362516
東経(日本測地系)	1390519
北緯(世界測地系)	362527
東経(世界測地系)	1390507
調査期間	20080901-20090331
調査面積	14,673.30
調査原因	道路建設
種別	集落その他
主な時代	縄文/古墳/奈良/平安/中近世
遺跡概要	集落-縄文-土器+石器/古墳-住居7+溜井1+土器+石器/奈良・平安-住居85+竪穴1+溜井2+井戸4+粘土採掘坑19+掘立柱建物14+柵3+土器+石製品+金属製品/中近世-火葬跡1+掘立柱建物9+溝3+道路6+土坑4+火葬骨/時期不確定-住居1+溝19+土坑148+ピット787+土器+石製品+金属製品
特記事項	古墳後期～平安時代の集落/奈良～平安時代の粘土採掘坑・溜井
要約	赤城山南麓の白川扇状地上の遺跡で、古墳時代～平安時代、中近世の複合遺跡。縄文前期土器を出土したが、遺構はない。天王遺跡A区では古墳時代後期の住居7軒とその他2軒が存在し、天王B区C区・東紺屋谷戸遺跡では飛鳥～平安時代の住居85軒を検出。飛鳥時代の廊下状遺構で連結された21-22住居、奈良～平安時代の溜井2基、飛鳥～平安時代の粘土採掘坑19基・掘立柱建物26棟を検出した。住居・粘土採掘坑と地震跡の切り合い関係により、古代の地震は9世紀前半代に発生したと推定された。

